本郷鶴楽遺跡

西毛広域幹線道路（高崎西工区）社会資本総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

―第１分冊・本文編１―

2023

群馬県高崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

本郷鶴楽遺跡

西毛広域幹線道路（高崎西工区）社会資本総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

―第１分冊・本文編１―

2023

群馬県高崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

1　調査区全景（南東から）右手奥に榛名山、烏川左岸に奥原古墳群の円墳、周辺に土地改良後の整然とした区画が並ぶ。

2　３面Ｇ２区10号掘立柱建物周辺状況（北東）同掘立柱建物の西側に平行して27号溝、周りに主軸が同掘立柱建物と同じ竪穴建物群、重複する位置に主軸が斜め45°西に振れる掘立柱建物が並ぶ。

口絵２

３　経筒蓋出土状況（東から）口径9.7㎝、小形品。縁の凹凸は蓮弁文を表現したものと思われ、1/4程が欠損している。鈕は本来「相輪形」をしていたものが欠損後短く研磨整形されたものと考えられる。身の部分は出土しなかった。金鍍金や金箔は確認できなかった。３面Ｇ５区222号竪穴建物北西隅で逆向き状態で出土した。

４　小男神像出土状況（南から）全体高9.7㎝、重量221.7ｇ。県内最重量品。頭部に折烏帽子状の冠を被り、両手は胸の前で合わせているが、中央に笏状の突出物は表現されてない。顔はどちらかというと厳しい顔つきで表現され、お尻を後ろに突き出す姿勢であり、他の小神像には無い態勢を取っている。金鍍金や金箔は確認できない。３面Ｇ５区204号竪穴建物北東寄りで俯せ状態で出土した。

5　Ｇ５区222号竪穴建物出土経筒蓋

6　Ｇ５区204号竪穴建物出土小男神像

口絵４

7　Ｇ４区251号柄鏡形敷石竪穴建物全景（北東から）

8　Ｇ４区251号柄鏡形敷石竪穴建物全景（南東から）立位の自然石を用いた立体的な出入口部を呈し、この建物施設の中でも特に入念に仕上げられている。この部分は屋根があれば外からは認識できないものであり、中に入って初めて立石の並びを確認することができるものである。来客に見せることを意識して整備した施設であろうか。

序

西毛広域幹線道路は、「群馬がはばたくための７つの交通軸構想」の一つ、西毛軸として地域連携を強化・向上することを目指し前橋市、高崎市、安中市及び富岡市を結ぶ全長27.8㎞の主要幹線道路です。西毛広域幹線道路の開通は、交通渋滞の緩和と物流の効率化が果たせ、西毛地域の産業や経済、観光の発展を担う道路として、県民の期待を集めています。

発掘調査を実施しました高崎市本郷町は、北側に北陸新幹線が東西に走り、その建設工事の際に多くの遺跡が発掘調査され、既に報告書が刊行されています。また本遺跡の北西側に隣接して奥原古墳群があり、古墳の多い地域としても知られておりました。

本書で報告します本郷鶴楽遺跡は、平成29・30年度に公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施した遺跡です。遺跡の発掘調査では、縄文時代中期後～末葉の集落、古墳、古墳時代～古代の集落などが発見され、数々の貴重な遺物も出土しました。特筆されるものとしましては縄文時代中期末葉の柄鏡形敷石竪穴建物、古代の道や掘立柱建物群、多数の竪穴建物群、平安時代の小神像や経筒の蓋・石帯などがありました。これらの調査成果により、榛名山南麓の古代の人々が暮らした様子の一端が明らかになりました。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、群馬県高崎土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会をはじめ、関係機関および地元関係者の皆様には多大なるご指導とご協力を賜りました。

本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が榛名山南麓地域における歴史の解明に広く役立てられることを念じて、序といたします。

令和５年３月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理　事　長　　向　田　忠　正

例　言

1　本書は、令和3年度西毛広域幹線道路(高崎西工区)社会資本総合整備(活力・重点・補正)(５か年加速化)事業に伴う、本郷鶴楽遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地はいずれも高崎市本郷町で、地番は以下の通りである。

477、478、480-1、480-2、481、482、483、484、488、489、491、497、500、524-3、525-2

3　事業主体　群馬県高崎土木事務所

4　調査・整理主体　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5　調査期間及び調査体制は以下の通りである。

平成29年度

調査期間　平成30年１月１日～平成30年３月31日

調査担当　山本光明（主任調査研究員）　梅村唯斗（調査研究員）　関　明愛（調査研究員）
山本直哉（調査研究員）　鈴木佑太郎（専門員）　木津博明（専門調査役）　飯田陽一（専門調査役）

調査面積　2,915.0㎡

遺跡掘削工事請負　株式会社歴史の杜

委託　遺構測量　アコン測量設計株式会社

平成30年度

調査期間　平成30年８月１日～平成31年２月28日

調査担当　黒崎博樹(主任調査研究員)　宮下　寛(主任調査研究員)　山本光明(主任調査研究員)
山本直哉(調査研究員)　千明　隼(調査研究員)　齊藤利昭(専門調査役)

調査面積　8,940.0㎡

遺跡掘削工事請負　株式会社歴史の杜

委託　遺構測量　アコン測量設計株式会社

調査面積合計　11,855.0㎡

6　整理事業の期間及び体制は以下の通りである。

令和３年度

整理期間　令和３年４月１日～令和４年３月31日　　令和３年11月1日～令和４年３月31日

整理担当者　松村和男(専門調査役)　　山口逸弘(専門調査役)

令和４年度

整理期間　令和４年４月１日～令和５年３月31日

整理担当者　松村和男(専門調査役)

7　本書作成の担当者は以下の通りである。

令和３年度

編集・本文執筆：松村和男　　デジタル編集：齊田智彦(主任調査研究員・資料統括)

遺物観察　石器・石製品：岩崎泰一(専門調査役)　　縄文土器：山口逸弘(専門調査役)
土師器・須恵器・瓦：神谷佳明(専門調査役)　中近世陶磁器：大西雅広(専門調査役)
金属製品：板垣泰之(専門員(主任))

遺物写真　石器・石製品：岩崎泰一　　縄文土器：山口逸弘　　土師器・須恵器・瓦：松村和男

金属製品：板垣泰之

保存処理：板垣泰之　関邦一(専門調査役)

令和４年度

編集：松村和男

本文執筆　第５章９：山口逸弘、同10：神谷佳明、その他：松村和男　デジタル編集：齊田智彦(主任調査研究員)

遺物観察　石器・石製品：岩崎泰一　縄文土器：橋本　淳(主任調査研究員・資料統括)

土師器・須恵器・瓦：神谷佳明　金属製品・木製品：板垣泰之

遺物写真　石器・石製品：岩崎泰一　縄文土器：橋本　淳　土師器・須恵器・瓦：松村和男

金属製品：板垣泰之

保存処理：板垣泰之　関　邦一

8　石材同定は飯島静男氏(群馬地質研究会)に依頼した。

9　人骨の鑑定は、新潟医療福祉大学自然人類学研究所の辰巳晃司氏、佐伯史子氏、奈良貴史氏に依頼した。

10　記録資料及び出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

11　発掘調査及び整理事業・本報告書の作成には、下記の機関よりご指導・ご教示をいただいた。

群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会文化財保護課、安中市教育委員会文化財保護課

凡　例

1　本郷遺跡群の遺構平面図は、すべて世界測地系国家座標(平面直角座標Ⅸ系)を用いて測量した。また、遺構平面図中で使用した北方位はすべて座標北を表す。

2　遺構平面図中の等高線や遺構断面図中に示した数値は海抜標高で、単位はメートルである。

3　本書における遺構名称・番号は、原則として調査時のものをそのまま使用した。

4　遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、遺構図、遺物図、観察表、写真図版とも一致する。

5　遺構図･遺物図の縮尺は各図に示したが、以下の通りである。なお、遺物図と遺物写真は原則として同縮率とした。

遺構図　竪穴建物・礎石建物・掘立柱建物・竪穴状遺構　１：60　１：80　竪穴建物カマド　１：30

円形有段遺構・土坑・ピット　１：40　復旧坑　１：80　道　１：160　１：180

溝　１：40　１：60　１：80　１：120　１：150　１：160　集石遺構　１：40

古墳　１：40　１：60　１：100　１：200　畑　１：40　１：80　１：160

遺物図　土器　１：２　１：３　１：４　１：５　瓦　１：４　１：５　石器・石製品　４：５　１：１

１：２　１：３　１：６　金属製品　１：２　１：３

6　本書で使用したスクリーントーン及びマークは以下の通りである。

遺構図　灰　焼土　粘土　硬化面　攪乱

遺物図　灰釉・緑釉　緑釉濃い部分　油煙　赤彩・朱墨　漆

黒色処理　すす　燻　土砂付着　瓦断面

土器　●　石器　▲　鉄製品　■

7　遺構の主軸方位・走向は、長軸方向で北から90°以内とし、東に傾いた場合は、N−○°−E、西に傾いた場合はN—

○°−Wと示した。

8　竪穴建物の平面図は、原則として北を上にして配置した。

9　遺構の計測値は、縮尺1/20の遺構平面図を用いて計測し、メートル単位で表した。全体を計測できないものについては、現存値を(　)で表記した。

10　礎石建物、及び掘立柱建物の柱間寸法は、平面測量時の礎石、または柱穴底面の標高測点を中心とし、その心々距離を計測した。

11　竪穴建物の面積は、確認面ではなく床面をデジタルプラニメーターで３回計測し、その平均値を採用した。全体を計測できないものについては、現存値を(　)で表記した。

12　土層注記、及び土器・陶磁器類の色調については、小山正忠・竹原秀雄編・著1988農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所監修『新版標準土色帖８版』に準拠した。

13　土層注記における混入物の表現は、凡そ粒状構造のものは、微粒：＜1.0㎜、細粒：1.0～2.0㎜、粒：2.0～5.0㎜、粗粒：5.0～10.0㎜、塊状のものは小塊：10.0～30.0㎜、中塊：30.0～50.0㎜、粗塊：＞50.0㎜とした。

14　遺物観察表における記載方法は以下の通りである。

・計測値の単位はセンチメートルとし、重量はグラムで表記した。

・計測値の(　)は現存値、[　]は推定値を示す。

・計測値を表記する際は、口：口径、底：底径、台：高台径、高：器高、長：長さ、厚：厚さ、摘：摘み径、孔：孔径、脚：脚底部径、重：重さ、最：最大径と略記した。

・胎土観察における砂粒の表現のうち、細砂粒は2.0㎜以下、粗砂粒は：2.0㎜～ 5.0㎜のものを表す。なお、5.0㎜以上は礫とした。

15　報告書未掲載の土師器・須恵器については、破片数と重量を記載したが、杯・高坏・椀・皿・鉢、蓋などの食膳具は「杯・椀類」、甕・甑・羽釜・壺などの煮沸・貯蔵具は「甕・壺類」とまとめて表記した。なお、それ以外の特殊な遺物については、すべて実測図を掲載している。縄文土器については未掲載の遺物は箱数で、石器については総数を含め器種や点数などについて出土遺物のところに記載した。

16　テフラの名称については、主として町田洋・新井房夫2003『新編火山灰アトラス[日本列島とその周辺]』(東京大学出版会)に準拠し、必要に応じて以下のような略称で表記した。

As-A:浅間Ａテフラ(天明3（1783)年)　As-B:浅間Ｂテフラ(天仁元(1108)年)　As-Kk:浅間粕川テフラ(12世紀前半)　Hr-FP：榛名二ツ岳伊香保テフラ(6世紀中葉)　Hr-FA：榛名二ツ岳渋川テフラ(6世紀初頭)　As-C：浅間Ｃテフラ(３世紀末)　As-D：浅間Ｄテフラ　As-YP：浅間板鼻黄色テフラ　As-Ok1･2：浅間大窪沢テフラ1・2　As-Sr：浅間白糸テフラ　As-BPGroup：浅間板鼻褐色テフラ群　MP：室田軽石　AT：姶良Ｔｎテフラ　Ag-KP：赤城鹿沼テフラ　Hr-HP：榛名八崎軽石

17　本書に掲載した地図は、下記のものを編集して使用した。

第１図　国土地理院発行　20万分の１地勢図「宇都宮」「長野」(平成23年発行)

第２図　国土地理院発行　５万分の１地形図「前橋」「高崎」「榛名」(平成10年発行)「富岡」(平成７年発行)

第３図・第４図・第５図　高崎市発行　2,500分の１高崎市都市計画基本図「90」(平成24年測図)

第７図　独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター発行　５万分の１地質図「榛名」(平成24年発行)

第８図　国土地理院発行　５万分の１地形図「榛名」(平成10年発行)

目　次

口絵
序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次

第１分冊
　第１章　調査の概要 ･･･････････････････････････････････････ 1
　　第１節　調査に至る経緯 ････････････････････････････････････ 1
　　第２節　発掘調査の方法 ････････････････････････････････････ 1
　　第３節　発掘調査の経過 ････････････････････････････････････ 7
　　第４節　整理作業の経過と方法 ･･････････････････････････････ 8
　第２章　遺跡の立地と環境 ･････････････････････････････････ 11
　　第１節　地理的環境 ･･ 11
　　第２節　歴史的環境 ･･ 13
　第３章　発見された遺構と遺物 ･････････････････････････････ 30
　　第１節　１・２面（中近世～古代末） ････････････････････････ 30
　　　　各調査区概要　１面　１溝・復旧坑群　２面　２土坑墓　３溝　４畑　５土坑・ピット
　　第２節　３面（古代～古墳時代） ････････････････････････････ 35
　　　　各調査区概要　１溝　２道　３土坑墓・火葬遺構　４古墳　５竪穴建物　６掘立柱建物・ピット列　７土坑・ピット
　　第３節　４面（縄文時代） ･･････････････････････････････････ 162
　　　　１　調査概要　２　竪穴建物　３　土坑・ピット　４　集石　５　列石　６　埋設土器　７　溝
　　第４節　５面（旧石器時代） ････････････････････････････････ 174
　　　　各調査区概要
　　第５節　出土遺物について ･･････････････････････････････････ 175
　　　　１　土器・土製品　３面（古代～古墳時代）４面（縄文時代）
　　　　２　石器・石製品　３面（古代～古墳時代）４面（縄文時代）５面（旧石器時代） ･･････ 175
　　　　３　金属製品　１～３面（中近世～古墳時代） ････････････････ 179

第２分冊　（遺物図） ･･･ 523
　第４章　自然科学分析 ･････････････････････････････････････ 796
　　第１節　本郷鶴楽遺跡出土人骨分析 ･･････････････････････････ 796
第５章　調査成果のまとめ ･････････････････････････････････････ 798
　　　１　平安時代の経筒について ･･････････････････････････････ 798

2　小神像について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 799
3　火葬遺構について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 817
4　竪穴建物の変遷と社会制度変革について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 820
5　古代の遺物を伴出する土坑等について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 825
6　墨書土器について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 828
7　道について・・・ 829
8　縄文時代の竪穴建物配置について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 833
9　出土縄文土器について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 833
10　出土施釉陶器について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 837

第３分冊
写真図版

第４分冊
土坑・ピット一覧表
遺物観察表

報告書抄録

付図１　１・２面(中近世～古代末)　１/500
付図２　３面(平安～古墳時代)　１/500
付図３　４面(縄文時代)　１/500

挿図目次

第１図　遺跡位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第２図　西毛広域幹線道路計画と遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・・ 3
第３図　西毛広域幹線道路線内遺跡図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
第４図　本郷鶴楽遺跡各地調査区と路線内隣接遺跡・・・・・・・・・・・ 5
第５図　本郷鶴楽遺跡各地調査区と本郷上ノ台遺跡・・・・・・・・・・・ 6
第６図　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第７図　本郷鶴楽遺跡周辺の地質図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第８図　周辺遺跡分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
第９図　本郷鶴楽遺跡１・２面全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・182
第10図　１・２面　Ｆ区全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・183
第11図　１・２面　Ｇ１区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・184
第12図　１・２面　Ｇ２区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・185
第13図　１・２面　Ｇ３区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・186
第14図　１・２面　Ｇ４区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・187
第15図　１・２面　Ｇ５区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・188
第16図　１面　Ｈ区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・189
第17図　本郷鶴楽遺跡３面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・190
第18図　３面　Ｆ区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・191
第19図　３面　Ｇ１区全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・192
第20図　３面　Ｇ２区全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・193
第21図　３面　Ｇ３区全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・194
第22図　３面　Ｇ４区全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・195
第23図　３面　Ｇ５区全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・196
第24図　３面　Ｈ区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・197
第25図　３面　Ｆ区一部とＧ１・Ｇ２区全体図 ・・・・・・・・・・・・・198
第26図　本郷鶴楽遺跡４面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・199
第27図　４面　Ｇ１区全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・200
第28図　４面　Ｇ２区全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・201
第29図　４面　Ｇ３区全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・202
第30図　４面　Ｇ４区全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・203
第31図　４面　Ｇ５区全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・204
第32図　１面　Ｆ区１号溝(道)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・205
第33図　１面　Ｆ区１号溝(道)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・206
第34図　１面　Ｈ区13・14号溝、97・171号土坑・・・・・・・・・・・・・207
第35図　１・２面　Ｇ１区15・16号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・208
第36図　１・２面　Ｇ１区17号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・209
第37図　１・２面　Ｇ２区２号復旧坑群、Ｇ３区３号復旧坑群・・・210
第38図　１・２面　Ｇ４区４～６号復旧坑群・・・・・・・・・・・・・・211
第39図　１・２面　Ｇ４区20号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・212
第40図　１・２面　Ｇ５区20号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・213
第41図　１・２面　Ｈ区20号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・214
第42図　１・２面　Ｇ３区22号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・215
第43図　１・２面　Ｇ３区21号溝、Ｇ４区28・29号溝、
　　Ｇ２区２号畑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・216
第44図　１・２面　Ｇ２区１・３号畑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・217
第45図　１・２面　Ｇ２区１・３号畑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・218
第46図　１面　Ｆ区１～６・14号土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・219
第47図　１面　Ｆ区15・17～19・21・22・24・25号土坑 ・・・・・・220
第48図　１面　Ｆ区28～30・35～37・43号土坑、１号土坑墓・・・・221
第49図　１・２面　Ｇ１区108・112・119・120・134～136号土坑 ・222
第50図　１・２面　Ｇ１区137～139・146・148・382号土坑 ・・・・223
第51図　１・２面　Ｇ２区126・127・131・132・208・
　　271・272号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・224
第52図　１・２面　Ｇ３区202～207・209・278号土坑・・・・・・・・225
第53図　１・２面　Ｇ４区325～333号土坑・・・・・・・・・・・・・・・226
第54図　１・２面　Ｇ４区334～342号土坑・・・・・・・・・・・・・・・227
第55図　１・２面　Ｇ４区343～351号土坑・・・・・・・・・・・・・・・228
第56図　１・２面　Ｇ４区352～356・358・359号土坑・・・・・・・・229
第57図　１・２面　Ｇ４区357・361～363・369号土坑・・・・・・・・230
第58図　１・２面　Ｇ５区295・309～312・315～317号土坑 ・・・・231
第59図　１・２面　Ｇ５区318～324号土坑・・・・・・・・・・・・・・・232
第60図　３面　Ｆ区２号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・233
第61図　３面　Ｆ区３・５号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・234
第62図　３面　Ｆ区４号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・235
第63図　３面　Ｇ１区38号溝、Ｇ２区27号溝・・・・・・・・・・・・・236
第64図　３面　Ｇ３区23・24号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・237
第65図　３面　Ｇ３区１号道 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・238
第66図　３面　Ｇ５・Ｈ区２号道
　　(Ｇ５区33・34号溝、Ｈ区18・19号溝) ・・・・・・・・・・・・・239
第67図　３面　Ｇ５・Ｈ区２号道
　　(Ｇ５区33・34号溝、Ｈ区18・19号溝) ・・・・・・・・・・・・・240
第68図　３面　Ｇ４・Ｇ５区３・４号道
　　(Ｇ４区30・31・37号溝、Ｇ５区32・36号溝)・・・・・・・・・241
第69図　３面　Ｇ４・Ｇ５区３・４号道
　　(Ｇ４区30・31・37号溝、Ｇ５区32・36号溝)・・・・・・・・・242
第70図　３面　Ｇ３・Ｇ４区５号道(25・26号溝) ・・・・・・・・・・243
第71図　３面　Ｇ３・Ｇ４区５号道(25・26号溝) ・・・・・・・・・・244
第72図　３面　Ｇ４区５号道(25・26号溝)・・・・・・・・・・・・・・・245
第73図　３面　Ｇ５区６号道(35号溝) ・・・・・・・・・・・・・・・・246
第74図　３面　Ｆ区７～13・16・20・23・26号土坑・・・・・・・・・247
第75図　３面　Ｆ区27・31～34・38～42号土坑 ・・・・・・・・・・・248
第76図　３面　Ｆ区44～50・61号土坑、２号土坑墓・・・・・・・・・249
第77図　３面　Ｇ１区101～104・106・109号土坑 ・・・・・・・・・・250
第78図　３面　Ｇ１区110・111・115～118・123・124号土坑・・・・251
第79図　３面　Ｇ１区133・144・145・147・149・150・
　　156・159号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・252
第80図　３面　Ｇ１区152～154・157・158・160～163号土坑・・・・253
第81図　３面　Ｇ１区169・383・384・386・403号土坑 ・・・・・・・254
第82図　３面　Ｇ１区105・107・113・114号土坑(火葬遺構)・・・・255
第83図　３面　Ｇ２区121・122・125・128～130号土坑 ・・・・・・・256
第84図　３面　Ｇ２区140～143・201・210・283号土坑 ・・・・・・・257
第85図　３面　Ｇ２区211・235・237・238・240・246・274号土坑・258
第86図　３面　Ｇ２区242～245・248・249・266～268号土坑・・・・259
第87図　３面　Ｇ２区275・288・376～378・385・387・
　　388・390号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・260
第88図　３面　Ｇ３区100・212～218号土坑 ・・・・・・・・・・・・・261
第89図　３面　Ｇ３区219～227・273号土坑 ・・・・・・・・・・・・・262
第90図　３面　Ｇ３区228・229・231～234・236・241号土坑・・・・263
第91図　３面　Ｇ３区250～260号土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・264
第92図　３面　Ｇ３区261～265・269・270・276号土坑 ・・・・・・・265
第93図　３面　Ｇ３区277・279～282・284～286号土坑、
　　200・230号土坑(火葬遺構)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・266
第94図　３面　Ｇ４区289・290・292～294・296・
　　298・365号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・267
第95図　３面　Ｇ４区364・366～368・370～372・374号土坑・・・・268
第96図　３面　Ｇ４区392～394・401・404～409号土坑 ・・・・・・・269
第97図　３面　Ｇ４区413・414・416・418・420・421・
　　424～427・431・432号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・270
第98図　３面　Ｇ５区291・297・299・313・314・373・
　　375・379・380号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・271
第99図　３面　Ｇ５区381・389・395～400号土坑 ・・・・・・・・・・272
第100図　３面　Ｇ５区402・411・412・415・451～453・
　　476・477号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・273
第101図　３面　Ｈ区88～96号土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・274
第102図　３面　Ｈ区98・99・164～167・170・172号土坑・・・・・・275
第103図　３面　Ｈ区173～181号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・276
第104図　３面　Ｈ区183～192号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・277
第105図　３面　Ｈ区193～199・300・301号土坑・・・・・・・・・・・278
第106図　３面　Ｈ区302～306・360号土坑、
　　168号土坑墓、182号土坑(火葬遺構)・・・・・・・・・・・・・・・279
第107図　３面　Ｆ区65号墳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・280
第108図　３面　Ｆ区65号墳石室 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・281
第109図　３面　Ｆ区65号墳石室掘り方・・・・・・・・・・・・・・・・・282
第110図　３面　Ｆ区65号墳石室掘り方合成図・・・・・・・・・・・・・283
第111図　３面　Ｆ区65号墳石室断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・284
第112図　３面　Ｆ区65号墳墳丘断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・285

第113図　３面　Ｆ区65号墳石室断面図・・・・・・・・・・・・・・・・ 286
第114図　３面　Ｆ区１・２号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 287
第115図　３面　Ｆ区３～６号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 288
第116図　３面　Ｆ区７号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 289
第117図　３面　Ｆ区８号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 290
第118図　３面　Ｆ区９号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 291
第119図　３面　Ｆ区10号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 292
第120図　３面　Ｆ区11号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 293
第121図　３面　Ｆ区12・13号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 294
第122図　３面　Ｆ区13・14号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 295
第123図　３面　Ｆ区14・15号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 296
第124図　３面　Ｆ区15・16号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 297
第125図　３面　Ｆ区16号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 298
第126図　３面　Ｆ区17・18号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 299
第127図　３面　Ｆ区19号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 300
第128図　３面　Ｆ区34・43号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 301
第129図　３面　Ｇ１区66・67号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・ 302
第130図　３面　Ｇ１区68・69号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・ 303
第131図　３面　Ｇ１区70号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 304
第132図　３面　Ｇ１区71号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 305
第133図　３面　Ｇ１区219号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 306
第134図　３面　Ｇ１区220号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 307
第135図　３面　Ｇ１区228号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 308
第136図　３面　Ｇ１区228号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 309
第137図　３面　Ｇ１区234号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 310
第138図　３面　Ｇ１区234～236号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 311
第139図　３面　Ｇ１区236・250号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 312
第140図　３面　Ｇ２区100号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 313
第141図　３面　Ｇ２区101・102号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 314
第142図　３面　Ｇ２区102号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 315
第143図　３面　Ｇ２区102号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 316
第144図　３面　Ｇ２区102号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 317
第145図　３面　Ｇ２区103号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 318
第146図　３面　Ｇ２区104・105号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 319
第147図　３面　Ｇ２区105号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 320
第148図　３面　Ｇ２区106・107号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 321
第149図　３面　Ｇ２区107号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 322
第150図　３面　Ｇ２区108・109号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 323
第151図　３面　Ｇ２区109号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 324
第152図　３面　Ｇ２区110号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 325
第153図　３面　Ｇ２区110号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 326
第154図　３面　Ｇ２区111号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 327
第155図　３面　Ｇ２区112号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 328
第156図　３面　Ｇ２区113号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 329
第157図　３面　Ｇ２区113号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 330
第158図　３面　Ｇ２区113号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 331
第159図　３面　Ｇ２区113・114号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 332
第160図　３面　Ｇ２区114・115号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 333
第161図　３面　Ｇ２区116～118号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 334
第162図　３面　Ｇ２区118号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 335
第163図　３面　Ｇ２区119号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 336
第164図　３面　Ｇ２区119号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 337
第165図　３面　Ｇ２区138・139号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 338
第166図　３面　Ｇ２区140号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 339
第167図　３面　Ｇ２区140号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 340
第168図　３面　Ｇ２区159・217号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 341
第169図　３面　Ｇ２区217号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 342
第170図　３面　Ｇ２区218号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 343
第171図　３面　Ｇ２区229～233号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 344
第172図　３面　Ｇ３区120号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 345
第173図　３面　Ｇ３区121号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 346
第174図　３面　Ｇ３区122号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 347
第175図　３面　Ｇ３区122・123号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 348
第176図　３面　Ｇ３区123号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 349
第177図　３面　Ｇ３区124号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 350
第178図　３面　Ｇ３区124・125号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 351
第179図　３面　Ｇ３区126号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 352
第180図　３面　Ｇ３区126号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 353
第181図　３面　Ｇ３区127号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 354
第182図　３面　Ｇ３区127・128号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 355
第183図　３面　Ｇ３区128・129号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 356
第184図　３面　Ｇ３区129・130号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 357
第185図　３面　Ｇ３区130・131号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 358
第186図　３面　Ｇ３区131号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 359
第187図　３面　Ｇ３区132号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 360
第188図　３面　Ｇ３区132号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 361
第189図　３面　Ｇ３区133号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 362
第190図　３面　Ｇ３区134号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 363
第191図　３面　Ｇ３区134号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 364
第192図　３面　Ｇ３区135号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 365
第193図　３面　Ｇ３区136号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 366
第194図　３面　Ｇ３区136号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 367
第195図　３面　Ｇ３区141号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 368
第196図　３面　Ｇ３区141・142号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 369
第197図　３面　Ｇ３区142・143号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 370
第198図　３面　Ｇ３区143・144号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 371
第199図　３面　Ｇ３区144号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 372
第200図　３面　Ｇ３区145号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 373
第201図　３面　Ｇ３区145・146号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 374
第202図　３面　Ｇ３区146号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 375
第203図　３面　Ｇ３区147号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 376
第204図　３面　Ｇ３区148号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 377
第205図　３面　Ｇ３区149号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 378
第206図　３面　Ｇ３区149・150号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 379
第207図　３面　Ｇ３区150号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 380
第208図　３面　Ｇ３区151号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 381
第209図　３面　Ｇ３区151・152号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 382
第210図　３面　Ｇ３区153号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 383
第211図　３面　Ｇ３区154号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 384
第212図　３面　Ｇ３区155号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 385
第213図　３面　Ｇ３区155・156号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 386
第214図　３面　Ｇ３区157号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 387
第215図　３面　Ｇ３区158・160号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 388
第216図　３面　Ｇ３区161・162号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 389
第217図　３面　Ｇ３区163号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 390
第218図　３面　Ｇ３区163号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 391
第219図　３面　Ｇ３区164号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 392
第220図　３面　Ｇ３区165号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 393
第221図　３面　Ｇ３区166号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 394
第222図　３面　Ｇ３区167号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 395
第223図　３面　Ｇ３区168・169号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 396
第224図　３面　Ｇ３区169号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 397
第225図　３面　Ｇ３区169・180号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 398
第226図　３面　Ｇ４区177号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 399
第227図　３面　Ｇ４区178号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 400
第228図　３面　Ｇ４区178・179号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 401
第229図　３面　Ｇ４区179号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 402
第230図　３面　Ｇ４区179・181号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 403
第231図　３面　Ｇ４区181・182号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 404
第232図　３面　Ｇ４区185号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 405
第233図　３面　Ｇ４区187号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 406
第234図　３面　Ｇ４区188号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 407
第235図　３面　Ｇ４区189号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 408
第236図　３面　Ｇ４区189・191号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 409
第237図　３面　Ｇ４区191・192号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 410
第238図　３面　Ｇ４区192・193号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 411
第239図　３面　Ｇ４区193号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 412
第240図　３面　Ｇ４区193号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 413
第241図　３面　Ｇ４区203号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 414
第242図　３面　Ｇ４区203・205号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 415
第243図　３面　Ｇ４区205号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 416
第244図　３面　Ｇ４区206号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 417

第245図　３面　Ｇ４区206・207号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 418
第246図　３面　Ｇ４区208号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 419
第247図　３面　Ｇ４区211号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 420
第248図　３面　Ｇ４区211・212号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 421
第249図　３面　Ｇ４区212号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 422
第250図　３面　Ｇ４区213号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 423
第251図　３面　Ｇ４区213号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 424
第252図　３面　Ｇ４区214・216号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 425
第253図　３面　Ｇ４区224号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 426
第254図　３面　Ｇ４区224号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 427
第255図　３面　Ｇ４区224・237号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 428
第256図　３面　Ｇ４区238号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 429
第257図　３面　Ｇ４区240号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 430
第258図　３面　Ｇ４区263号竪穴建物、２号竪穴状遺構 ・・・・・・ 431
第259図　３面　Ｇ５区194号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 432
第260図　３面　Ｇ５区195号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 433
第261図　３面　Ｇ５区196号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 434
第262図　３面　Ｇ５区197号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 435
第263図　３面　Ｇ５区197号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 436
第264図　３面　Ｇ５区198号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 437
第265図　３面　Ｇ５区199号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 438
第266図　３面　Ｇ５区200号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 439
第267図　３面　Ｇ５区201号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 440
第268図　３面　Ｇ５区202号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 441
第269図　３面　Ｇ５区204号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 442
第270図　３面　Ｇ５区209・210号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 443
第271図　３面　Ｇ５区215・221号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 444
第272図　３面　Ｇ５区221・222号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 445
第273図　３面　Ｇ５区222・223号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 446
第274図　３面　Ｇ５区226号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 447
第275図　３面　Ｇ５区227号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 448
第276図　３面　Ｇ５区227・241号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 449
第277図　３面　Ｇ５区241号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 450
第278図　３面　Ｇ５区241号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 451
第279図　３面　Ｇ５区242・243号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 452
第280図　３面　Ｇ５区244号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 453
第281図　３面　Ｇ５区245・247・248号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・ 454
第282図　３面　Ｇ５区249・253号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 455
第283図　３面　Ｇ５区254号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 456
第284図　３面　Ｇ５区254号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 457
第285図　３面　Ｇ５区254号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 459
第286図　３面　Ｇ５区254号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 460
第287図　３面　Ｇ５区255・256号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 461
第288図　３面　Ｇ５区259号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 462
第289図　３面　Ｈ区56号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 463
第290図　３面　Ｈ区57号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 464
第291図　３面　Ｈ区58～60号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 465
第292図　３面　Ｈ区61・62号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 466
第293図　３面　Ｈ区63号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 467
第294図　３面　Ｈ区63～65号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 468
第295図　３面　Ｈ区65・72号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 469
第296図　３面　Ｈ区73・74号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 470
第297図　３面　Ｈ区74・75号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 471
第298図　３面　Ｈ区76・77号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 472
第299図　３面　Ｈ区77号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 473
第300図　３面　Ｈ区78号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 474
第301図　３面　Ｈ区78号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 475
第302図　３面　Ｈ区79号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 476
第303図　３面　Ｈ区80号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 477
第304図　３面　Ｈ区80・81号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 478
第305図　３面　Ｈ区81・82号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 479
第306図　３面　Ｈ区83・84号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 480
第307図　３面　Ｈ区84・85号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 481
第308図　３面　Ｈ区85・86号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 482
第309図　３面　Ｈ区87・88号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 483
第310図　３面　Ｈ区89号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 484
第311図　３面　Ｈ区90号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 485
第312図　３面　Ｈ区91号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 486
第313図　３面　Ｈ区92・93号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 487
第314図　３面　Ｈ区94・95号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 488
第315図　３面　Ｈ区96号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 489
第316図　３面　Ｈ区96・98号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 490
第317図　３面　Ｈ区99号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 491
第318図　３面　Ｈ区170号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 492
第319図　３面　Ｈ区171号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 493
第320図　３面　Ｈ区171・173号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・ 494
第321図　３面　Ｈ区173号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 495
第322図　３面　Ｈ区174・175号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・ 496
第323図　３面　Ｈ区175・225号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・ 497
第324図　３面　Ｈ区225・239号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・ 498
第325図　３面　Ｆ区１号掘立柱建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 499
第326図　３面　Ｇ１区２号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 500
第327図　３面　Ｇ１区３号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 502
第328図　３面　Ｇ１区３号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 503
第329図　３面　Ｇ１区４号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 504
第330図　３面　Ｇ１区５号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 505
第331図　３面　Ｇ２区８・11号掘立柱建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 506
第332図　３面　Ｇ２区８・11号掘立柱建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 507
第333図　３面　Ｇ２区10号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 508
第334図　３面　Ｇ２区10号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 509
第335図　３面　Ｇ２区10号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 510
第336図　３面　Ｇ２区12号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 511
第337図　３面　Ｇ２区12号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 512
第338図　３面　Ｇ３区９号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 513
第339図　３面　Ｇ３区13号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 514
第340図　３面　Ｇ３区14号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 515
第341図　３面　Ｈ区６号掘立柱建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 516
第342図　３面　Ｈ区７号掘立柱建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 517
第343図　３面　Ｇ１区１～３号ピット列 ・・・・・・・・・・・・・・・ 518
第344図　３面　Ｇ１区１～３号ピット列 ・・・・・・・・・・・・・・・ 519
第345図　３面　Ｇ２区４号ピット列・・・・・・・・・・・・・・・・・ 520
第346図　３面　Ｇ３区５号ピット列・・・・・・・・・・・・・・・・・ 521
第347図　３面　Ｆ区65号古墳出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・ 523
第348図　３面　Ｆ区65号古墳出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・ 524
第349図　３面　Ｆ区65号古墳出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・ 525
第350図　３面　Ｆ区１号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・・・ 526
第351図　３面　Ｆ区１号竪穴建物（２）・
２号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 527
第352図　３面　Ｆ区２号竪穴建物（２）・
３・５・６号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・ 528
第353図　３面　Ｆ区７・８号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・ 529
第354図　３面　Ｆ区９号竪穴建物、10号竪穴建物出土遺物（１）・・ 530
第355図　３面　Ｆ区10号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・・・ 531
第356図　３面　Ｆ区11号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・ 532
第357図　３面　Ｆ区12・13号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・ 533
第358図　３面　Ｆ区14・15号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・ 534
第359図　３面　Ｆ区16～18号竪穴建物、
19号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 535
第360図　３面　Ｆ区19号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・・・ 536
第361図　３面　Ｆ区34・43号竪穴建物、２号溝出土遺物（１）・・・ 537
第362図　３面　Ｆ区２号溝（２）・３号溝出土遺物 ・・・・・・・・・ 538
第363図　３面　Ｆ区４・５号溝、
１・20・30・33・45号土坑出土遺物 ・・・・・・・・・・・・ 539
第364図　３面　Ｆ区２号土抗墓、遺構外出土遺物 ・・・・・・・・・・ 540
第365図　３面　Ｇ１区66・67号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・ 541
第366図　３面　Ｇ１区68号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・ 542
第367図　３面　Ｇ１区69号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・ 543
第368図　３面　Ｇ１区70号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・ 544
第369図　３面　Ｇ１区71・219号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・ 545
第370図　３面　Ｇ１区220号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 546
第371図　３面　Ｇ１区220号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 547
第372図　３面　Ｇ１区228号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 548

第373図　３面　Ｇ１区228号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 549
第374図　３面　Ｇ１区234～236号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・ 550
第375図　３面　Ｇ１区38号溝、101・103・104・106号土坑 ・・・・ 551
第376図　３面　Ｇ１区107・115・117・149・150・
153～155号土坑・160号土坑出土遺物（１） ・・・・・・・・・ 552
第377図　３面　Ｇ１区160号土坑（２）・161・163・
384号土坑出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 553
第378図　３面　Ｇ１区遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・ 554
第379図　３面　Ｇ２区100・101号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・ 555
第380図　３面　Ｇ２区102号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 556
第381図　３面　Ｇ２区103・104号竪穴建物・
105号竪穴建物出土遺物（１） ・・・・・・・・・・・・・・・ 557
第382図　３面　Ｇ２区105号竪穴建物（２）・106号竪穴建物・
107号竪穴建物出土遺物（１） ・・・・・・・・・・・・・・・ 558
第383図　３面　Ｇ２区107号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 559
第384図　３面　Ｇ２区107号竪穴建物出土遺物（３）・・・・・・・・・ 560
第385図　３面　Ｇ２区107号竪穴建物（４）・
108号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 561
第386図　３面　Ｇ２区109号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 562
第387図　３面　Ｇ２区109号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 563
第388図　３面　Ｇ２区110号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 564
第389図　３面　Ｇ２区110号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 565
第390図　３面　Ｇ２区111号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 566
第391図　３面　Ｇ２区112号竪穴建物・
113号竪穴建物出土遺物（１） ・・・・・・・・・・・・・・・ 567
第392図　３面　Ｇ２区113号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 568
第393図　３面　Ｇ２区113号竪穴建物（３）・
114号竪穴建物・115号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・ 569
第394図　３面　Ｇ２区115号竪穴建物（２）・
116・118号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・ 570
第395図　３面　Ｇ２区119号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 571
第396図　３面　Ｇ２区119号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 572
第397図　３面　Ｇ２区138～140・217号竪穴建物出土遺物 ・・・・・ 573
第398図　３面　Ｇ２区218・229・232・233号竪穴建物出土遺物 ・・ 574
第399図　３面　Ｇ２区10号掘立柱建物、27号溝、
121号土坑出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 575
第400図　３面　Ｇ２区129・130・140・141・201・245・248・
274・275・376号土坑、５・62号ピット出土遺物・・・・・ 576
第401図　２面　Ｇ２区２号畑、遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・ 577
第402図　３面　Ｇ３区120・121号竪穴建物・
122号竪穴建物出土遺物（１） ・・・・・・・・・・・・・・・ 578
第403図　３面　Ｇ３区122号竪穴建物（２）・
123号竪穴建物出土遺物（１） ・・・・・・・・・・・・・・・ 579
第404図　３面　Ｇ３区123号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 580
第405図　３面　Ｇ３区124号竪穴建物・
125号竪穴建物出土遺物（１） ・・・・・・・・・・・・・・・ 581
第406図　３面　Ｇ３区125号竪穴建物（２）・126号竪穴建物
出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 582
第407図　３面　Ｇ３区127・128号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・ 583
第408図　３面　Ｇ３区129号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 584
第409図　３面　Ｇ３区129号竪穴建物（２）・130号竪穴建物
出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 585
第410図　３面　Ｇ３区131号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 586
第411図　３面　Ｇ３区132号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 587
第412図　３面　Ｇ３区132号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 588
第413図　３面　Ｇ３区133号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 589
第414図　３面　Ｇ３区133号竪穴建物（２）・
134・135号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・ 590
第415図　３面　Ｇ３区136号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 591
第416図　３面　Ｇ３区136号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 592
第417図　３面　Ｇ３区141号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 593
第418図　３面　Ｇ３区141号竪穴建物（２）・
142号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 594
第419図　３面　Ｇ３区143・144号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・ 595
第420図　３面　Ｇ３区145～148号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・ 596
第421図　３面　Ｇ３区149号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 597
第422図　３面　Ｇ３区149号竪穴建物（２）・
150号竪穴建物出土遺物（１） ・・・・・・・・・・・・・・・ 598
第423図　３面　Ｇ３区150号竪穴建物（２）・
151号竪穴建物出土遺物（１） ・・・・・・・・・・・・・・・ 599
第424図　３面　Ｇ３区151号竪穴建物（２）・
153・154号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・ 600
第425図　３面　Ｇ３区155号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 601
第426図　３面　Ｇ３区156～158号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・ 602
第427図　３面　Ｇ３区161・162号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・ 603
第428図　３面　Ｇ３区163号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 604
第429図　３面　Ｇ３区163号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 605
第430図　３面　Ｇ３区164号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 606
第431図　３面　Ｇ３区164号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 607
第432図　３面　Ｇ３区165号竪穴建物・
166号竪穴建物出土遺物（１） ・・・・・・・・・・・・・・・ 608
第433図　３面　Ｇ３区166号竪穴建物（２）・
167号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 609
第434図　３面　Ｇ３区168・169・180号竪穴建物出土遺物 ・・・・・ 610
第435図　３面　Ｇ３区24号溝・５号道(25号溝)出土遺物（１） ・・・ 611
第436図　３面　Ｇ３区５号道(25号溝)（２）・26号溝出土遺物 ・・・ 612
第437図　３面　Ｇ３区200・216・217・220・221・225・231・
251・252・255・258・259・262号土坑出土遺物・・・・・・ 613
第438図　３面　Ｇ３区265・273・284・286号土坑、
45・48号ピット、遺構外出土遺物（１）・・・・・・・・・・・ 614
第439図　３面　Ｇ３区遺構外出土遺物（２） ・・・・・・・・・・・・ 615
第440図　３面　Ｇ３区遺構外出土遺物（３） ・・・・・・・・・・・・ 616
第441図　３面　Ｇ４区177号竪穴建物・
178号竪穴建物出土遺物（１） ・・・・・・・・・・・・・・・ 617
第442図　３面　Ｇ４区178号竪穴建物（２）・
179号竪穴建物出土遺物（１） ・・・・・・・・・・・・・・・ 618
第443図　３面　Ｇ４区179号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 619
第444図　３面　Ｇ４区181・182号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・ 620
第445図　３面　Ｇ４区185号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 621
第446図　３面　Ｇ４区185号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 622
第447図　３面　Ｇ４区187号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 623
第448図　３面　Ｇ４区187号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 624
第449図　３面　Ｇ４区188号竪穴建物・
189号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・ 625
第450図　３面　Ｇ４区189号竪穴建物（２）・
191号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 626
第451図　３面　Ｇ４区192・193号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・ 627
第452図　３面　Ｇ４区203号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 628
第453図　３面　Ｇ４区203号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 629
第454図　３面　Ｇ４区205号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 630
第455図　３面　Ｇ４区205号竪穴建物（２）・
206号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 631
第456図　３面　Ｇ４区207号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 632
第457図　３面　Ｇ４区207号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 633
第458図　３面　Ｇ４区208号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 634
第459図　３面　Ｇ４区211号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 635
第460図　３面　Ｇ４区212号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 636
第461図　３面　Ｇ４区212号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 637
第462図　３面　Ｇ４区212号竪穴建物出土遺物（３）・・・・・・・・・ 638
第463図　３面　Ｇ４区213号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 639
第464図　３面　Ｇ４区213号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 640
第465図　３面　Ｇ４区214・216号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・ 641
第466図　３面　Ｇ４区224号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 642
第467図　３面　Ｇ４区224号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 643
第468図　３面　Ｇ４区224号竪穴建物（３）・
237号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 644
第469図　３面　Ｇ４区238号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 645
第470図　３面　Ｇ４区240・263号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・ 646
第471図　３面　Ｇ４区2号竪穴状遺構、５号道(25号溝・
26号溝)出土遺物（１） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 647
第472図　３面　Ｇ４区５号道(26号溝)（２）・
３号道(30・31号溝)出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・ 648

第473図　３面　Ｇ４区３号道(37号溝)、214・290・296・330・
343・345・353・362・370・371号土坑出土遺物・・・・・・ 649
第474図　３面　Ｇ４区374・404・406・424号土坑・
遺構外出土遺物(１)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 650
第475図　３面　Ｇ４区遺構外出土遺物(２)・・・・・・・・・・・・・ 651
第476図　３面　Ｇ５区194～196号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・ 652
第477図　３面　Ｇ５区197号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・ 653
第478図　３面　Ｇ５区198・199号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・ 654
第479図　３面　Ｇ５区200号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・ 655
第480図　３面　Ｇ５区201号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・ 656
第481図　３面　Ｇ５区202号竪穴建物・
204号竪穴建物出土遺物(１)・・・・・・・・・・・・・・・・ 657
第482図　３面　Ｇ５区204号竪穴建物(２)・
209号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 658
第483図　３面　Ｇ５区221号竪穴建物・
222号竪穴建物出土遺物(１)・・・・・・・・・・・・・・・・ 659
第484図　３面　Ｇ５区222号竪穴建物(２)・
223号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 660
第485図　３面　Ｇ５区226号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・ 661
第486図　３面　Ｇ５区227号竪穴建物・
241号竪穴建物出土遺物(１)・・・・・・・・・・・・・・・・ 662
第487図　３面　Ｇ５区241号竪穴建物(２)・
242・243号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・ 663
第488図　３面　Ｇ５区244・245・247・249号竪穴建物出土遺物・・ 664
第489図　３面　Ｇ５区254号竪穴建物出土遺物(１)・・・・・・・・・・ 665
第490図　３面　Ｇ５区254号竪穴建物出土遺物(２)・・・・・・・・・・ 666
第491図　３面　Ｇ５区255・256・259号竪穴建物出土遺物・・・・・ 667
第492図　３面　Ｇ５区２号道(33号溝・34号溝)出土遺物(１)・・・ 668
第493図　３面　Ｇ５区２号道(34号溝)(２)・６号道(35号溝)
出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 669
第494図　３面　Ｇ５区297・319・396・397・399・400・411・
412・451・453号土坑、205・248号ピット・・・・・・・・・・ 670
第495図　３面　Ｇ５区遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・ 671
第496図　３面　Ｈ区56号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・ 672
第497図　３面　Ｈ区57・59号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・ 673
第498図　３面　Ｈ区60～62号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・ 674
第499図　３面　Ｈ区63号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・・ 675
第500図　３面　Ｈ区64・65号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・ 676
第501図　３面　Ｈ区72・73号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・ 677
第502図　３面　Ｈ区74～76号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・ 678
第503図　３面　Ｈ区77号竪穴建物・78号竪穴建物
出土遺物(１)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 679
第504図　３面　Ｈ区78号竪穴建物出土遺物(２)・・・・・・・・・・・・ 680
第505図　３面　Ｈ区79号竪穴建物出土遺物(１)・・・・・・・・・・・・ 681
第506図　３面　Ｈ区79号竪穴建物(２)・
80号竪穴建物出土遺物(１)・・・・・・・・・・・・・・・・・ 682
第507図　３面　Ｈ区80号竪穴建物出土遺物(２)・・・・・・・・・・・・ 683
第508図　３面　Ｈ区81号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・・ 684
第509図　３面　Ｈ区82・83号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・ 685
第510図　３面　Ｈ区84号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・・ 686
第511図　３面　Ｈ区85号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・・ 687
第512図　３面　Ｈ区86～89号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・ 688
第513図　３面　Ｈ区90号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・・ 689
第514図　３面　Ｈ区91・92号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・ 690
第515図　３面　Ｈ区93・94号竪穴建物・
95号竪穴建物出土遺物(１)・・・・・・・・・・・・・・・・・ 691
第516図　３面　Ｈ区95号竪穴建物(２)・
96号竪穴建物出土遺物(１)・・・・・・・・・・・・・・・・・ 692
第517図　３面　Ｈ区96号竪穴建物出土遺物(２)・・・・・・・・・・・・ 693
第518図　３面　Ｈ区96号竪穴建物(３)・
98号竪穴建物出土遺物(１)・・・・・・・・・・・・・・・・・ 694
第519図　３面　Ｈ区98号竪穴建物出土遺物(２)・・・・・・・・・・・・ 695
第520図　３面　Ｈ区99号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・・ 696
第521図　３面　Ｈ区170・171号竪穴建物・
173号竪穴建物出土遺物(１)・・・・・・・・・・・・・・・・・ 697
第522図　３面　Ｈ区173号竪穴建物出土遺物(２)・・・・・・・・・・・ 698
第523図　３面　Ｈ区174・175・225号竪穴建物出土遺物・・・・・・ 699
第524図　３面　Ｈ区６号掘立柱建物、2号道(18・19号溝)
出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 700
第525図　３面　Ｈ区95・98・168・181・184・192・194・
302・303号土坑出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 701
第526図　３面　Ｈ区遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・ 702
第527図　３面　Ｆ・Ｇ１・Ｇ２区古墳時代以降出土石器・
石製品(１)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 703
第528図　３面　Ｇ３・Ｇ４区古墳時代以降出土石器・
石製品(２)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 704
第529図　３面　Ｇ５区古墳時代以降出土石器・
石製品(３)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 705
第530図　３面　Ｇ５・Ｈ区古墳時代以降出土石器・石製品(４)・・ 706
第531図　３面　Ｆ・Ｇ１・Ｇ２区平安時代竪穴建物出土
金属製品(１)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 707
第532図　３面　Ｇ2・Ｇ３区平安時代竪穴建物
出土金属製品(２)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 708
第533図　３面　Ｇ３区平安時代竪穴建物
出土金属製品(３)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 709
第534図　３面　Ｇ４区平安時代竪穴建物
出土金属製品(４)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 710
第535図　３面　Ｇ５区平安時代竪穴建物
出土金属製品(５)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 711
第536図　３面　Ｇ５区平安時代竪穴建物
出土金属製品(６)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 712
第537図　３面　Ｇ５・Ｈ区平安時代竪穴建物出土
金属製品(７)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 713
第538図　３面　Ｈ区平安時代竪穴建物出土金属製品(８)・・・・・・ 714
第539図　３面　Ｇ３・Ｇ４・Ｇ５・Ｈ区遺構外出土金属製品・・・ 715
第540図　４面　Ｇ１区435～440・443号土坑、217号ピット、
435・437・438・439号土坑出土遺物・・・・・・・・・・・・・ 716
第541図　４面　Ｇ２区176号竪穴建物遺物出土状況・・・・・・・・・・ 717
第542図　４面　Ｇ２区176号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 718
第543図　４面　Ｇ２区184号竪穴建物遺物出土状況・・・・・・・・・・ 719
第544図　４面　Ｇ２区184号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 720
第545図　４面　Ｇ２区261号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 721
第546図　４面　Ｇ２区441・442・470～474号土坑、
108・117・118・218・219号ピット・・・・・・・・・・・・・ 722
第547図　４面　Ｇ２区２号列石・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 723
第548図　４面　Ｇ２区２号列石北西部・・・・・・・・・・・・・・・・ 724
第549図　４面　Ｇ２区２号列石南東部・・・・・・・・・・・・・・・・ 725
第550図　４面　Ｇ２区４号集石・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 726
第551図　４面　Ｇ３区186号竪穴建物遺物出土状況・・・・・・・・・・ 727
第552図　４面　Ｇ３区186号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 728
第553図　４面　Ｇ３区190号竪穴建物遺物出土状況・・・・・・・・・・ 729
第554図　４面　Ｇ３区190号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 730
第555図　４面　Ｇ３区258号竪穴建物遺物出土状況・・・・・・・・・・ 731
第556図　４面　Ｇ３区258号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 732
第557図　４面　Ｇ３区287・444・446～450・454～456号土坑・・・ 733
第558図　４面　Ｇ３区221～226・239・243～247号ピット・・・・・ 734
第559図　４面　Ｇ３区３号集石、１号埋設土器、39号溝・・・・・・ 735
第560図　４面　Ｇ３区１号列石・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 736
第561図　４面　Ｇ３区１号列石東部・・・・・・・・・・・・・・・・・ 737
第562図　４面　Ｇ４区251号竪穴建物遺物出土状況・・・・・・・・・・ 738
第563図　４面　Ｇ４区251号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 739
第564図　４面　Ｇ４区251号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 740
第565図　４面　Ｇ４区251号竪穴建物・252号竪穴建物出土状況・・ 741
第566図　４面　Ｇ４区252号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 742
第567図　４面　Ｇ４区260号竪穴建物遺物出土状況・・・・・・・・・・ 743
第568図　４面　Ｇ４区260号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・ 744
第569図　４面　Ｇ４区417・419・422・423・428～430・
433・434号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 745
第570図　４面　Ｇ４区445・457・458・460～465号土坑・・・・・・ 746
第571図　４面　Ｇ４区216・235・253～260・264・265号ピット、
２号埋設土器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 747
第572図　４面　Ｇ５区257号竪穴建物遺物出土状況、出土遺物・・・ 748

第573図　４面　Ｇ４・５区262号竪穴建物遺物出土状況 ・・・・・・ 749
第574図　４面　Ｇ４・５区262号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・ 750
第575図　４面　Ｇ４・５区262号竪穴建物、391・410・
466～469・475号土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 751
第576図　４面　Ｇ５区266～268・270～276号ピット、
Ｈ区172号竪穴建物遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・ 752
第577図　４面　Ｈ区172号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・・ 753
第578図　４面　Ｈ区183号竪穴建物遺物出土状況 ・・・・・・・・・・ 754
第579図　４面　Ｈ区183号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・・ 755
第580図　４面　Ｈ区183号竪穴建物、出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 756
第581図　４面　Ｇ２区176号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 757
第582図　４面　Ｇ２区184号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 758
第583図　４面　Ｇ２区261号竪穴建物出土遺物、470・
472～474号土坑、４号集石、２号列石出土遺物（１）・・・ 759
第584図　４面　Ｇ２区２号列石（２）、
３区186号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・ 760
第585図　４面　Ｇ３区186号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 761
第586図　４面　Ｇ３区186号竪穴建物出土遺物（３）・・・・・・・・・ 762
第587図　４面　Ｇ３区190号竪穴建物出土遺物・
258号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・ 763
第588図　４面　Ｇ３区258号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・ 764
第589図　４面　Ｇ３区447号土坑、239・242・250・
264号ピット、３号集石、１号埋設土器、１号列石出土遺物 ・・ 765
第590図　４面　Ｇ４区251号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・ 766
第591図　４面　Ｇ４区251号竪穴建物出土遺物（２）・
252号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 767
第592図　４面　Ｇ４区260号竪穴建物、土坑出土遺物（１）・・・・・ 768
第593図　４面　Ｇ４区土坑出土遺物（２）、２号埋設土器
出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 769
第594図　４面　Ｇ５区257号竪穴建物・410号土坑・
Ｇ４・５区262号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・・・ 770
第595図　４面　Ｇ４・５区262号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・ 771
第596図　４面　Ｇ４・５区262号竪穴建物出土遺物（３）・
Ｈ区172号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 772
第597図　４面　Ｈ区183号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・ 773
第598図　４面　Ｇ１・Ｇ３・Ｇ４・Ｈ区遺構外出土遺物（１）・・・ 774
第599図　４面　Ｆ・Ｇ２～Ｇ５区遺構外出土遺物（２）・・・・・・・ 775
第600図　４面　Ｇ１～Ｇ５区遺構外出土遺物（３）・・・・・・・・・ 776
第601図　４面　Ｇ２～Ｇ４区遺構外出土遺物（４）・・・・・・・・・ 777
第602図　４面　Ｇ４区遺構外出土遺物（５）・・・・・・・・・・・・・ 778
第603図　４面　Ｇ２～Ｈ区遺構外出土遺物（６）・・・・・・・・・・・ 779
第604図　４面　Ｇ３～Ｇ５区遺構外出土遺物（７）・・・・・・・・・・ 780
第605図　４面　Ｇ２～Ｇ５区遺構外出土遺物（８）・・・・・・・・・・ 781
第606図　４面　Ｇ５・Ｈ区遺構外出土遺物（９）・・・・・・・・・・・ 782
第607図　４面　Ｇ２区176号竪穴建物、439号土坑、
２号列石出土石器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 783
第608図　４面　Ｇ３区186号竪穴建物出土石器 ・・・・・・・・・・・ 784
第609図　４面　Ｇ３区号190・258竪穴建物、
１号列石出土石器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 785
第610図　４面　Ｇ３区３号集石出土石器 ・・・・・・・・・・・・・・ 786
第611図　４面　Ｇ４区251号竪穴建物出土石器（１）・・・・・・・・・ 787
第612図　４面　Ｇ４区251号竪穴建物出土石器（２）・・・・・・・・・ 788
第613図　４面　Ｇ４区252号竪穴建物、417号土坑・
422号土坑出土石器（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 789
第614図　４面　Ｇ４区422号土坑（２）・433号土坑、
261号ピット出土石器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 790
第615図　４面　Ｇ５区262号竪穴建物出土石器 ・・・・・・・・・・・ 791
第616図　４面　Ｈ区172・183号竪穴建物出土石器・・・・・・・・・・ 792
第617図　４面　Ｇ２～Ｇ５・Ｈ区遺構外出土石器 ・・・・・・・・・・ 793
第618図　５面　Ｆ区旧石器出土石器（１）・・・・・・・・・・・・・・ 794
第619図　５面　Ｇ４・Ｇ５区旧石器出土石器（２）・・・・・・・・・・ 795
第620図　本郷鶴楽遺跡出土経筒蓋・小神像 ・・・・・・・・・・・・・ 805
第621図　国分寺中間地域遺跡・有馬遺跡・
有馬条里遺跡出土小神像 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 806
第622図　有馬条里遺跡出土小仏像等・・・・・・・・・・・・・・・・・ 807
第623図　剣崎稲荷塚遺跡出土小神像・・・・・・・・・・・・・・・・・ 808
第624図　宇通遺跡出土小女神像 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 809
第625図　元総社蒼海遺跡群(145)出土小仏像・・・・・・・・・・・・・ 810
第626図　元総社蒼海遺跡群(145)出土小仏像・・・・・・・・・・・・・ 811
第627図　関根細ケ沢遺跡出土小仏像・・・・・・・・・・・・・・・・・ 812
第628図　元総社蒼海遺跡群(91)出土小仏像 ・・・・・・・・・・・・・ 813
第629図　元総社蒼海遺跡群(75街区)№２出土小仏像等鋳型 ・・・・ 814
第630図　群馬県火葬遺構の土坑形態分類 ・・・・・・・・・・・・・・ 819
第631図　第３面(古代)の竪穴建物等遺構配置図（１）・・・・・・・・ 822
第632図　第３面(古代)の竪穴建物等遺構配置図（２）・・・・・・・・ 823
第633図　群馬県における東山道駅路の発掘遺跡と推定路線
（群馬町誌資料編１原始古代中世2001一部加筆修正）・・・ 830
第634図　縄文時代竪穴建物等遺構配置図 ・・・・・・・・・・・・・・ 832
第635図　本郷鶴楽遺跡中期後葉土器群・・・・・・・・・・・・・・・・ 835
第636図　本郷鶴楽遺跡中期末葉土器群・・・・・・・・・・・・・・・・ 836

表　目　次

第１分冊
第１表　周辺遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
第２分冊
第２表　群馬県内出土平安時代を中心とする小神像及び
仏像一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・815
第３表　前橋市元総社遺跡群(75街区)№２　Ｈ－７号住居跡
出土鋳型及び鋳造仏像推定法量一覧表 ・・・・・・・・・・・816
第４表　本郷鶴楽遺跡古代の遺物出土土坑・ピット一覧表・・・・・826
第５表　２～６号道計測表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・831
第６表　群馬県内の施釉陶器出土遺跡の比較 ・・・・・・・・・・・・841
第４分冊
第７表　土坑一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第８表　ピット一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
第９表　遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

第１章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

本県の中部地域(中毛)と西部地域(西毛)を結ぶ地域は、烏川、碓氷川、鏑川などの谷筋に阻まれ、従来から交通網の整備が遅れていた。既存の道路は１車線のものが多く道幅も狭いため安全性に問題があり、また、交通渋滞が激しく前橋・高崎方面とのアクセスも良好ではなかった。そこで周辺の渋滞緩和、物流の効率化、生活圏の拡大など、西毛地域の産業、経済、観光の発展を担う目的で西毛広域幹線道路の建設が計画された。

西毛広域幹線道路は、前橋市、高崎市、安中市、及び富岡市を結ぶ総延長27.8kmの主要幹線道路である。この西毛広域幹線道路のうち高崎市箕郷町下芝から同下里見町までの4.7km区間が高崎西工区に相当する。

この工事に先立ち、路線内の埋蔵文化財について県土整備部監理課より群馬県教育委員会文化財保護課(以下、県保護課)に照会があり、県保護課は当該事業地が周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、予備調査として路線内の試掘・確認調査の実施が必要であることを回答した。そのため、高崎土木事務所(以下、高崎土木)は、県保護課に対し当該地における試掘・確認調査の実施を依頼した。県保護課による試掘・確認調査は、平成27年７月に大カサ、鶴窪、萱原、及び鴫上地内、平成28年10月に鶴楽、上ノ台、満行原、広神、及び西谷津地内、平成29年９月、及び10月に満行原、広神、及び大カサ地内、平成30年５月に鶴楽地内について実施され、それぞれ遺跡の存在が確認された。この結果を受けて、県保護課は、発掘調査が必要であることを高崎土木に通知し、平成29年１月から公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下、群埋文)が発掘調査を受託し、本調査を実施することとなった。

本郷鶴楽、本郷上ノ台、本郷満行原、本郷広神、本郷西谷津、本郷大カサ、本郷鶴窪、本郷萱原、及び本郷鴫上の９遺跡(本書では、これらの遺跡の総称として「本郷遺跡群」を用いる)は、いずれも高崎市本郷町に所在する。本郷遺跡群の発掘調査は、平成29年１月から同年３月にかけて、本郷大カサ遺跡１～３区、本郷萱原遺跡１・２区、及び本郷鴫上遺跡１区を、平成30年１月から同年３月にかけて、本郷大カサ遺跡４・５区、本郷鶴窪遺跡、本郷鴫上遺跡２・３区、本郷鶴楽遺跡Ｆ区(Ａ～Ｅ区は欠番)、本郷上ノ台遺跡、本郷満行原遺跡Ａ～Ｃ区、本郷広神遺跡Ａ・Ｂ区、及び本郷西谷津遺跡を、平成30年８月から平成31年２月にかけて、本郷鶴楽遺跡Ｇ・Ｈ区を、平成31年３月から令和元年８月にかけて、本郷満行原遺跡Ｃ・Ｄ区(同書第４章では、これら２つの調査区をまとめてＣ区として報告)を、令和２年４月から同年５月にかけて、本郷満行原遺跡Ｂ区の一部、及び本郷広神遺跡Ｃ区を、いずれも西毛広域幹線道路高崎西工区の建設に伴う発掘調査として実施した。本書はこれら本郷遺跡群９遺跡のうち、本郷鶴楽遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

第２節　発掘調査の方法

第１項　遺跡・調査区の設定

本郷遺跡群の各遺跡名は、かつての大字である「本郷」と、それぞれの遺跡が所在する小字名を組み合わせたもので、高崎市教育委員会によって決定された。また、遺跡内を現道が横断しているような場合は、作業工程上の都合により調査担当者が、現道などを境界として１区・２区…、あるいはＡ区・Ｂ区…などのように、さらに細かな調査区に分割し調査した。なお、本郷鶴楽遺跡の場合は、Ｆ区・Ｇ１～Ｇ５区・Ｈ区の各調査区に分割した。

遺構は各遺跡それぞれの調査区から検出されたが、遺構番号は同一遺跡内においては通番とした。そのため作業工程上、複数の調査区を同時に調査した場合は、必ずしも通し番号ではなく、それぞれの調査区に遺構番号が前後して存在している。さらに、本郷鶴楽遺跡、本郷上ノ台遺跡、及び本郷満行原遺跡では、すべての遺構番号が３遺跡で通番となっているため、それぞれの遺跡に遺

構番号が混在している。

遺構平面図を作成する測量用のグリッドは、５×５ｍを基本とし設定した。その基準となる座標値は、世界測地系国家座標（平面直角座標Ⅸ系）を使用し、遺構図中に記載する座標については、座標値を「Ｘ軸−Ｙ軸」の順で記した。その際、座標値「Ｘ＝40940、Ｙ＝−80655」の場合であれば、「940、−655」というように下３桁のみを略記した。

第２項　基本土層

本郷遺跡群が立地するいわゆる本郷台地や十文字台地の地形は起伏に富み、さらに黒沢川や小堀川などによって開析されているため、それぞれの遺跡間の標高差が大きい。特に本郷鶴楽遺跡では、最北部のＦ区で約170m、

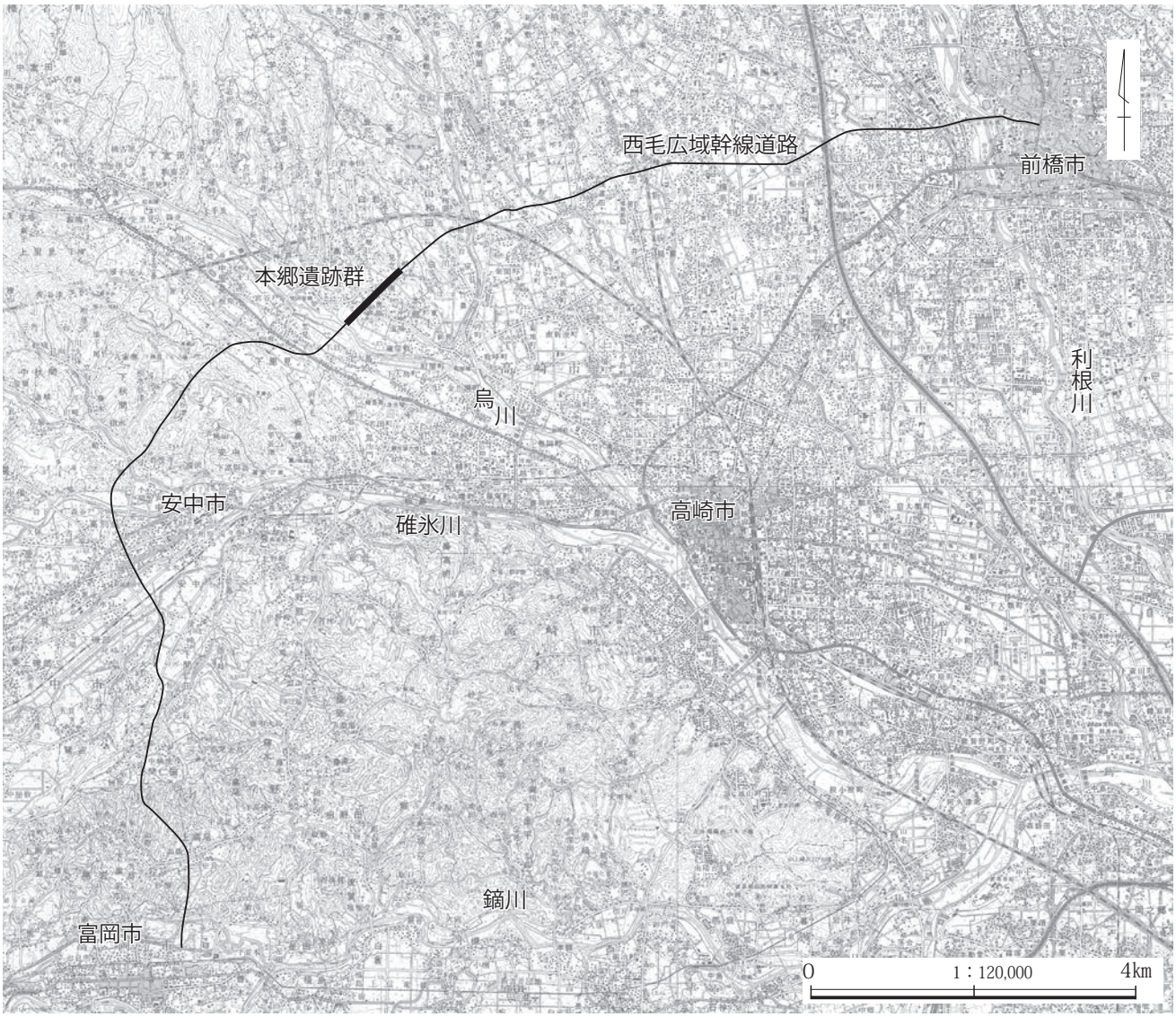
第１図　遺跡位置図（国土地理院1/200000地勢図「長野」平成24年５月「宇都宮」平成23年６月発行）

最南部のＨ区で約160ｍと同一遺跡内で約10ｍの標高差がある。

なお、本文中で使用する本郷台地、及び十文字台地の名称については、主に白川(室田)火砕流堆積物によって形成された平坦面を黒沢川以南と以北に分けて便宜的に用いるものである。

本郷鶴楽遺跡や本郷上ノ台遺跡、本郷満行原遺跡が立地する本郷台地では、昭和40年代に実施された群馬用水土地改良事業によって、土層上部が大きく改変されている箇所が見られた。本郷鶴楽遺跡の中では最も標高の高いＦ区ではかなり削平されたものと考えられ、１～３面の調査が一度に実施された。Ｇ１～Ｇ５区・Ｈ区では複数面の調査が行われたが、最も低いＨ区が削平された量は少ないものと考えられる。そのため本郷鶴楽遺跡の基本土層は、旧石器時代の遺構・遺物確認調査トレンチの断面と、それに近接する調査区壁のうち、なるべく改変を受けていないと思われるＧ４区南西隅で記録したものを基本とし、作成した(第６図)。

本郷台地では、浅間Ａテフラ(As-A)の一次堆積物は認められず、確認できたのは復旧坑に廃棄された軽石や表土中に攪拌された軽石のみであった。また、畑のサク(畝間溝)中にのみ浅間Ｂテフラ(As-B)の一次堆積物が残存していた。旧石器時代の遺構・遺物確認調査では、いずれのトレンチにおいても浅間板鼻黄色テフラ(As-YP)や浅間板鼻褐色テフラ群(As-BPGroup)が厚く堆積していることが確認できた。その中間のローム層中に認められた浅黄橙色軽石は、浅間大窪沢テフラ１・２(As-Ok1･2)、あるいは浅間白糸テフラ(As-Sr)の可能性



第２図　西毛広域幹線道路計画と遺跡位置図
(国土地理院発行　1/50000地形図「前橋」「高崎」「榛名」(平成10年発行)「富岡」(平成７年発行)一部改変)

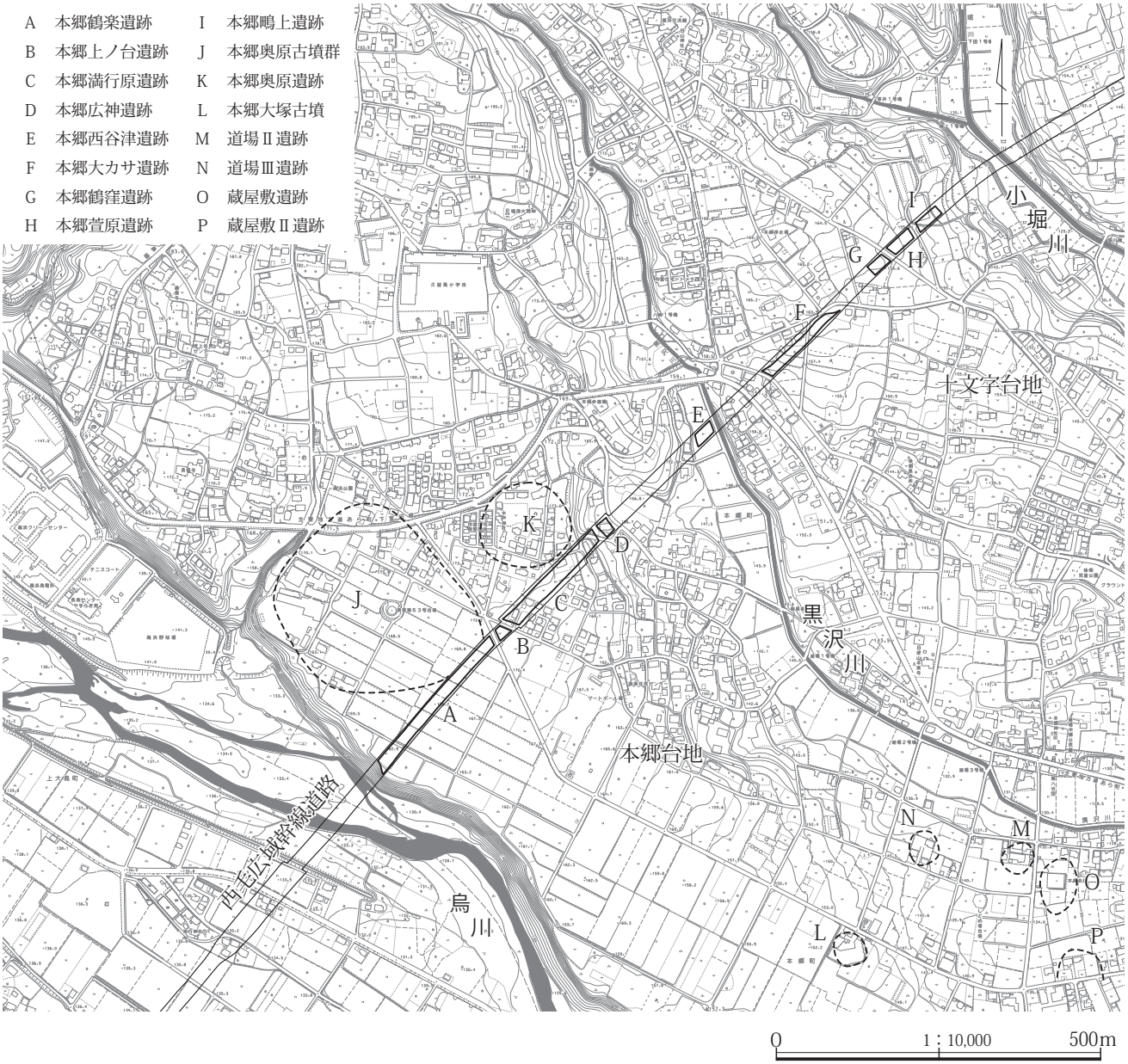
が考えられる。また、さらに下層まで掘り下げた一部のトレンチでは、As-BPGroupの下位に浅間室田軽石（MP）が厚く堆積していることが確認できた。

第３項　遺構確認と遺構調査

各遺跡・調査区とも調査に際しては、遺構確認面までの表土を重機によって掘削除去し、その後、鋤簾を用いて人力による遺構確認作業を行った。

遺構確認面は、Ｆ区や土地改良事業により削平が進んだ部分については基本的にローム層上面、残りの良い部分においては旧耕作土下のAs-B混土層下面から開始した。As-A混土層の落ち込みを１面、As-B混土層の落ち込みを２面、黒褐色土下層でAs-C混土層の落ち込みを３面、ローム漸移帯で黒褐色土の落ち込みを４面とした。しかし残りの良い部分と悪い部分があり、また上面の掘り残しを下面で調査した部分もあり、一様ではない。特に１・２面に関しては遺構数も少なく、同一の図上に表記した。

確認された遺構は、それぞれ土層観察用のベルトを設定するか、あるいは半截することによって、土層の堆積状況を写真か図面で記録しながら掘削を進めた。そして、遺構を完全に掘り上げたあと、全景写真の撮影や遺構平面図作成のための測量を行った。また、出土遺物については、必要に応じて個別写真を撮影し、遺構平面図中に



第３図　西毛広域幹線道路線内遺跡図
（高崎市発行　1/25000高崎市都市計画基本図「90」（平成24年測図）一部改変）

第４図　本郷鶴楽遺跡各地調査区と路線内隣接遺跡
（高崎市発行　1/25000高崎市都市計画基本図「90」（平成24年測図）一部改変）

第５図　本郷鶴楽遺跡各地調査区と本郷上ノ台遺跡
（高崎市発行　1/25000高崎市都市計画基本図「90」（平成24年測図）一部改変）

出土位置を記録した。

なお、遺構確認、遺構掘削の指示、土層観察、写真撮影は、本事業団の調査担当者が行った。また、各遺構の土層断面図、遺構平面図の作成、遺物出土位置の記録は、本事業団の調査担当者の指示と立ち合いのもと測量業者に委託して行った。

第４項　発掘調査の記録

発掘調査にあたっては、図面、写真、及び調査所見メモを記録した。

図面の縮尺は、土層断面図、遺構平面図とも1/20を基本とし、必要に応じて1/40と使い分けた。作成された図面類は、発掘調査終了時にＤＶＤに保存されたデジタルデータとＡ２サイズの用紙に印刷された原図で納品され、これらは調査記録として保存してある。

遺構写真は、ブローニーモノクロフィルムを用いた６×７中判カメラ､及び35㎜フルサイズデジタルカメラで、撮影対象、撮影日、撮影方向の記録を添付しながら撮影した｡遺跡や調査区の全景写真は､ラジコンヘリコプターや高所作業車を使用して撮影した｡撮影した銀塩写真は、ベタ焼きを遺構ごとに整理し、撮影対象、撮影日、撮影方向を記入したネガ検索台紙を作成した。デジタル写真は、保存用のRAW形式と、撮影内容によってリネームしたJPEG形式のデータを、ハードディスク、及びブルーレイディスクに保存してある。調査所見メモは、フィールドノートや遺構図面のコピーなどに記入し、図面類とともに保存してある。

第３節　発掘調査の経過

第１項　平成29年度の調査

平成29年度は最も北側の高い位置にあるＦ区を調査した。その経過の概略は以下の通りである。

平成29年

１月４日　仕事始め。事務手続き。
１月６日　事務所設置。
１月９日　場内整備。
１月10日　機材搬入。
１月11日　表土掘削開始。遺構確認・平面精査。
１月12日　遺構掘削開始。
１月22日　65号墳掘削開始。
２月１日　旧石器試掘トレンチ掘削。
２月15日　65号墳石室全景写真撮影。
２月16日　65号墳石室調査。
２月23日　65号墳全景写真撮影。
２月26日　65号墳石室解体調査。
２月27日　65号墳石室掘り方全景写真撮影。
２月28日　1・2号土坑墓全景写真撮影。
３月16日　全景写真撮影。
３月26日　埋め戻し。
３月27日　事務所撤収開始。
３月31日　撤収完了。

第２項　平成30年度の調査

平成30年度はＦ区南側の本郷鶴楽遺跡Ｇ１区～Ｈ区を調査した｡その発掘調査経過の概略は以下の通りである。

平成30年

８月１日　環境整備。事務手続き。
８月７日　Ｈ区表土除去開始。
８月８日　Ｇ区廃土整地。
８月16日　Ｈ区遺構確認・遺構掘削。
８月20日　Ｇ区表土除去開始。
８月27日　Ｇ１・２区１・２面遺構掘削。
８月28日　Ｇ２区３面掘削開始。
９月５日　Ｇ３・４区環境整備。
９月11日　Ｇ３・４区遺構掘削。
９月13日　Ｇ１・２区空中写真撮影。
９月20日　Ｇ１区旧石器トレンチ掘削開始。
９月27日　Ｇ３区表土除去・旧石器トレンチ掘削。
10月４日　Ｇ４区表土除去。
10月９日　Ｇ４区遺構確認。
10月11・12日　Ｇ区廃土移動。
10月17日　Ｇ区廃土整地。
10月29日　Ｇ５区表土除去。Ｈ区旧石器試掘トレンチ掘削。
11月８日　Ｇ２～５区空中写真撮影。
12月７日　Ｇ１・２区廃土整地。
12月12日　Ｇ４・５区降雨排水作業。
12月20日　空中写真撮影。

12月26日　掘削作業年内最終日。
12月28日　仕事納め。現場見廻り。事務手続き。
１月４日　仕事始め。現場見廻り。器材搬入。
１月７日　事務手続き。
１月８日　Ｇ１・２・４区掘削。
１月10日　Ｇ５区掘削。
１月11日　Ｇ１区４面遺構確認。
１月17日　Ｇ１区４面遺構掘削。
１月22日　Ｇ３区４面遺構確認。
１月25日　Ｇ３区４面遺構掘削。
１月30日　Ｇ２～５区４面空中写真撮影。
２月１日　Ｇ２～５区４面遺構確認。
２月５～８日　Ｇ２～５区旧石器試掘トレンチ掘削。
２月19日　遺構調査終了。Ｇ区埋め戻し開始。
２月20日　器材撤去開始。事務手続き。
２月22日　Ｇ区埋め戻し終了。
２月28日　撤収完了。事務手続き。

第４節　整理作業の経過と方法

第１項　整理作業の経過

本郷遺跡群の発掘調査成果と出土遺物の整理作業、及び報告書編集作業は、高崎土木事務所の委託を受けて、本事業団が令和３年４月から令和５年３月にかけて実施した。

整理作業では、遺構図の修正、遺物の分類、掲載遺物の選択・写真撮影・実測・トレース、遺物観察表の作成、遺構・遺物写真の補正、写真図版の作成、原稿執筆、報告書全体のデジタル組版などを行った。

遺構図の修正作業は、令和３年４月から開始し、主に現地で地上測量した土層断面図、遺構平面図の修正や土層観察記録の入力などを行った。そして、修正した図面類を基にデジタルトレース図を作成した。

遺物の整理作業は、令和３年４月から開始し、先ず土器の分類・接合・復元作業を行った。その後、石器なども含めて報告書掲載遺物を選択し、写真撮影を行った。写真撮影が終わった遺物は、実測図・トレース図を作成した。

遺構写真の整理作業は、令和３年10月から開始した。発掘調査時に撮影したデジタル写真から報告書掲載写真を選択し、サイズ調整や補正を行い写真図版を作成した。

令和４年12月からは、整理作業で作成した遺構図、遺物図、写真、及び各種原稿を組版し、フルデジタル印刷原稿を作成した。

第２項　遺物の整理

遺物整理の対象としたのは、土器、石器・石製品、金属器、人骨など遺物収納箱で計142箱分である。

１　土器・土製品の整理

土器類については、遺構ごとに接合作業を行った。接合作業は、遺物の出土状況を遺構平面図や遺物出土状況写真などで確認しながら実施した。また、遺構内から出土した土器は、遺構外から出土した同時期同型式の土器との接合関係も確認した。

次に、遺物の出土状況、個体数、形態差、構成比などを勘案し、報告書に掲載する土器を選択した。選択できなかった土器は、遺構ごとに分類・計数して収納した。

報告書掲載土器は、復元してから写真撮影を行った。遺物写真は、35㎜フルサイズデジタルカメラを用いて１点ずつ撮影した。

土器類の実測図は、等倍で作成した。完形に近い土器は、スリースペースシステムで測点し、その出力図を補測・製図した。破片の土器は、原体や文様、制作技法などが読み取れるように留意して採拓し、あわせて断面実測を行った。トレースはロットリングで行い、拓本とトレース図は台紙に貼付し、スキャニングしてデジタルデータとした。

土器類の観察は、一括して表形式にまとめた。色調は小山正忠・竹原秀雄1988『新版標準土色帖８版』日本色研事業株式会社発行の色名を用いて記載し、器形実測できた土器の口径・底径・高さは、実測図から計測した。胎土は特徴的な夾雑物を中心に記載し、特徴は文様や成整形技法を中心に記載した。

なお、陶磁器類については、遺構出土の遺物はほとんどなく、また特徴的な遺物もなかったので報告書に掲載するものはなかった。

２　石器・石製品の整理

石器類については、すべてを石材同定するとともに器種ごとに分類した。石器は、各器種を網羅するように留

意し、そのうち 100 点を報告書に掲載した。選択できなかった石器は、遺構ごとに計量・計数して収納した。

石器の撮影も土器と同様、35㎜フルサイズデジタルカメラを用いて１点ずつ撮影した。

石器の実測図は、最も大形のものは1/6で、小さくなるに従い1/4、1/3、1/2、等倍、そして最も小形のものは2/1で作成した。石器の実測は、基本的に石器を長焦点カメラで撮影し、その出力図を補測・製図する方法で行った。トレースはロットリングで行い、スキャニングしてデジタルデータとした。

長さ・幅・厚さ・重さ・石材などの属性は、一括して計測表にまとめた。

また、石材同定は、すべて群馬県地質研究会の飯島静男氏に依頼した。

３　金属器の整理

金属器については、現場から搬入された状態で保存処理前の写真を撮影した。また、腐食が進んだものについては、必要に応じてＸ線写真の撮影も併用した。

その後､一次クリーニングとしてサビ落としを行った。さらに掲載遺物については、二次クリーニングとしてサビを削り、金属器の輪郭を明瞭にする作業を行った。

金属器の実測は、基本的に長焦点カメラで撮影し、その出力図を補測・製図する方法で等倍の実測図を作成した。トレースは実測図をスキャニングした後、デジタルトレースを採用した。

金属器の撮影も、35㎜フルサイズデジタルカメラを用いて１点ずつ垂直方向から撮影した。

４　骨の整理

人骨等の鑑定は、その部位や年齢・性別等を特定するため新潟医療福祉大学自然人類学研究所の奈良貴史・辰巳晃司・佐伯史子各氏に依頼した。また、鑑定後の人骨及び人歯は、乾燥させた状態で薬品処理は行わずに収納した。

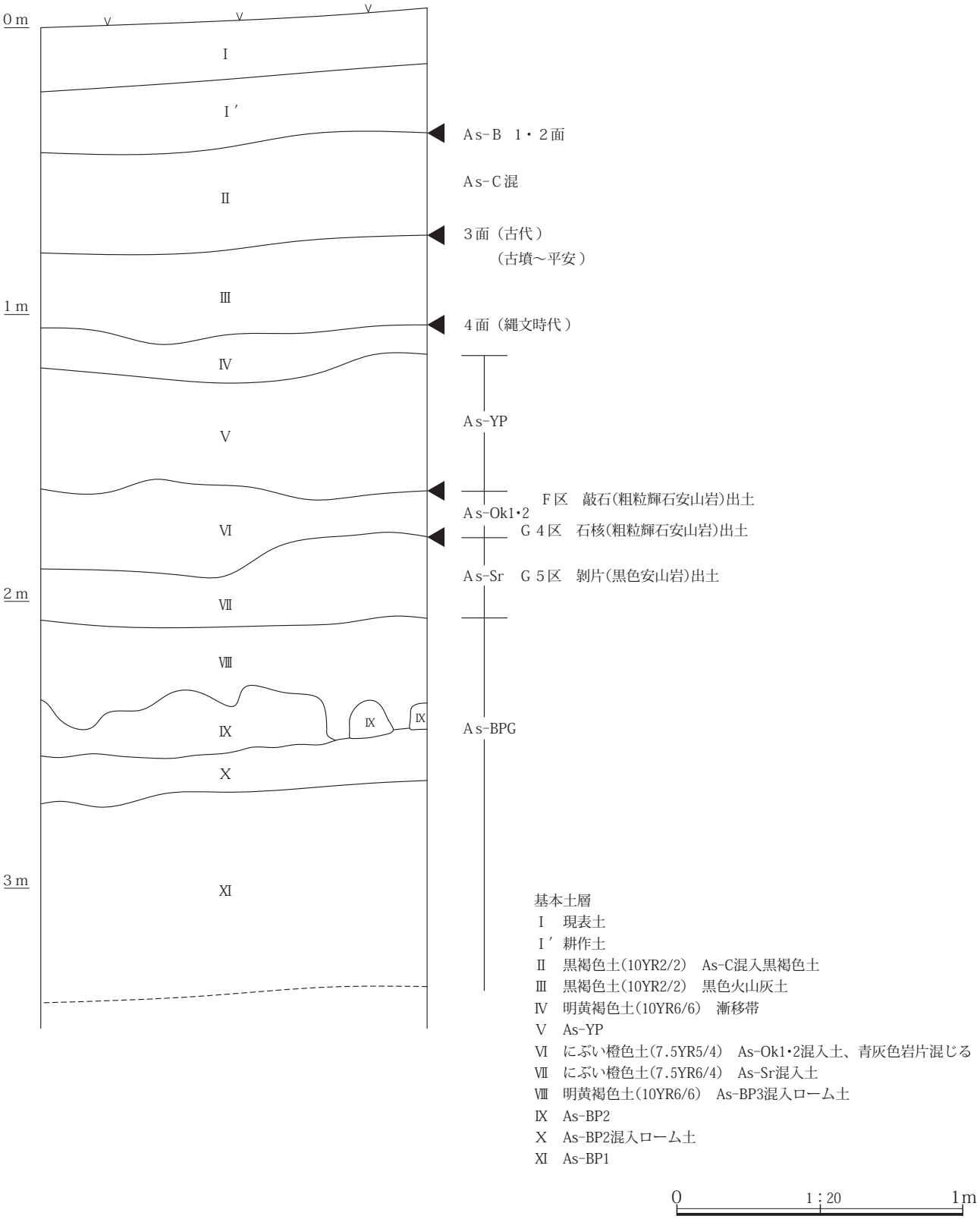
第３項　報告書の編集

遺跡の全体図や位置図、遺跡分布図などは、アドビ社のイラストレーターで作成し、EPS データとした。デジタルデータ化した地図、遺構図、遺物図、及び写真は、アドビ社のインデザインにより組版し、本文原稿、表原稿も同様に組版し、報告書全体のフルデジタル印刷原稿を作成した。

作成された原稿は、指名競争入札によって決定した業者に委託し、印刷・製本を行った。納品された報告書は完了検査を実施し、活用に資するため関係各機関へ発送した。

なお、発掘調査、及び整理作業の過程で作成された各種図面や写真などの資料は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに収納・保管されている。

烏川の対岸から見た本郷台地　南から　(台地の上は本郷鶴楽遺跡)



基本土層
Ⅰ　現表土
Ⅰ′耕作土
Ⅱ　黒褐色土(10YR2/2)　As-C混入黒褐色土
Ⅲ　黒褐色土(10YR2/2)　黒色火山灰土
Ⅳ　明黄褐色土(10YR6/6)　漸移帯
Ⅴ　As-YP
Ⅵ　にぶい橙色土(7.5YR5/4)　As-Ok1・2混入土、青灰色岩片混じる
Ⅶ　にぶい橙色土(7.5YR6/4)　As-Sr混入土
Ⅷ　明黄褐色土(10YR6/6)　As-BP3混入ローム土
Ⅸ　As-BP2
Ⅹ　As-BP2混入ローム土
Ⅺ　As-BP1

0　1：20　1m

第６図　基本土層

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

第１項　地理

本郷遺跡群が所在する高崎市は、関東平野の北西部、群馬県の中央やや南西に位置する人口約36.9万人（令和４年12月現在）を有する県内最大の地方都市である。西側は長野県北佐久郡軽井沢町、群馬県吾妻郡長野原町、安中市、富岡市、及び甘楽郡甘楽町、南側は藤岡市、東側は佐波郡玉村町、前橋市、北側は北群馬郡榛東村、渋川市、及び吾妻郡東吾妻町に隣接し、市域面積は459.16㎢である。

市域の北西部は、標高1,449ｍの榛名山掃部ヶ岳山頂を含む榛名山南麓の傾斜地で占められ、榛名山南半の大部分が市域に含まれる。 また、南東部には利根川が北から南へ流れ、その支流である烏川や碓氷川、鏑川などの河川が西から東へと流れている。高崎市の中心市街地の標高は、海岸より100㎞以上内陸に位置するにも関わらず100m前後である。一方、市域の北西端付近では標高が1,700m前後にもなり、市域内における標高差は1,600m以上と大きい。

高崎市の中心市街地は、江戸時代には高崎藩の城下町として栄え、中山道と三国街道が分岐するなど古くから交通の要衝であった。現在も国道17号と18号、関越自動車道と北関東自動車道が、それぞれ分岐している。また、鉄道も発達しており、JR高崎線、上越線、信越本線、及び上信電鉄線、さらには上越新幹線、北陸新幹線が分岐するなど、全国有数の交通拠点都市として発展している。

平成17(2005)年から平成18(2006)年にかけて、高崎市は群馬郡群馬町、同箕郷町、同榛名町、同倉渕村、多野郡新町、及び同吉井町との合併によって広大な市域を擁するようになり、群馬県内最多の人口を抱える自治体となった。その後、平成23(2011)年には、群馬県内で２番目の中核市に指定された。

平野部に展開する中心市街地とその周縁部では、商業地や住宅地が北東に位置する前橋市街地まで続く、典型的な地方中核都市の様相を呈している。一方、市域の北西部に位置する旧箕郷町、旧榛名町、及び旧倉渕村では、農山村地域が広がっている。

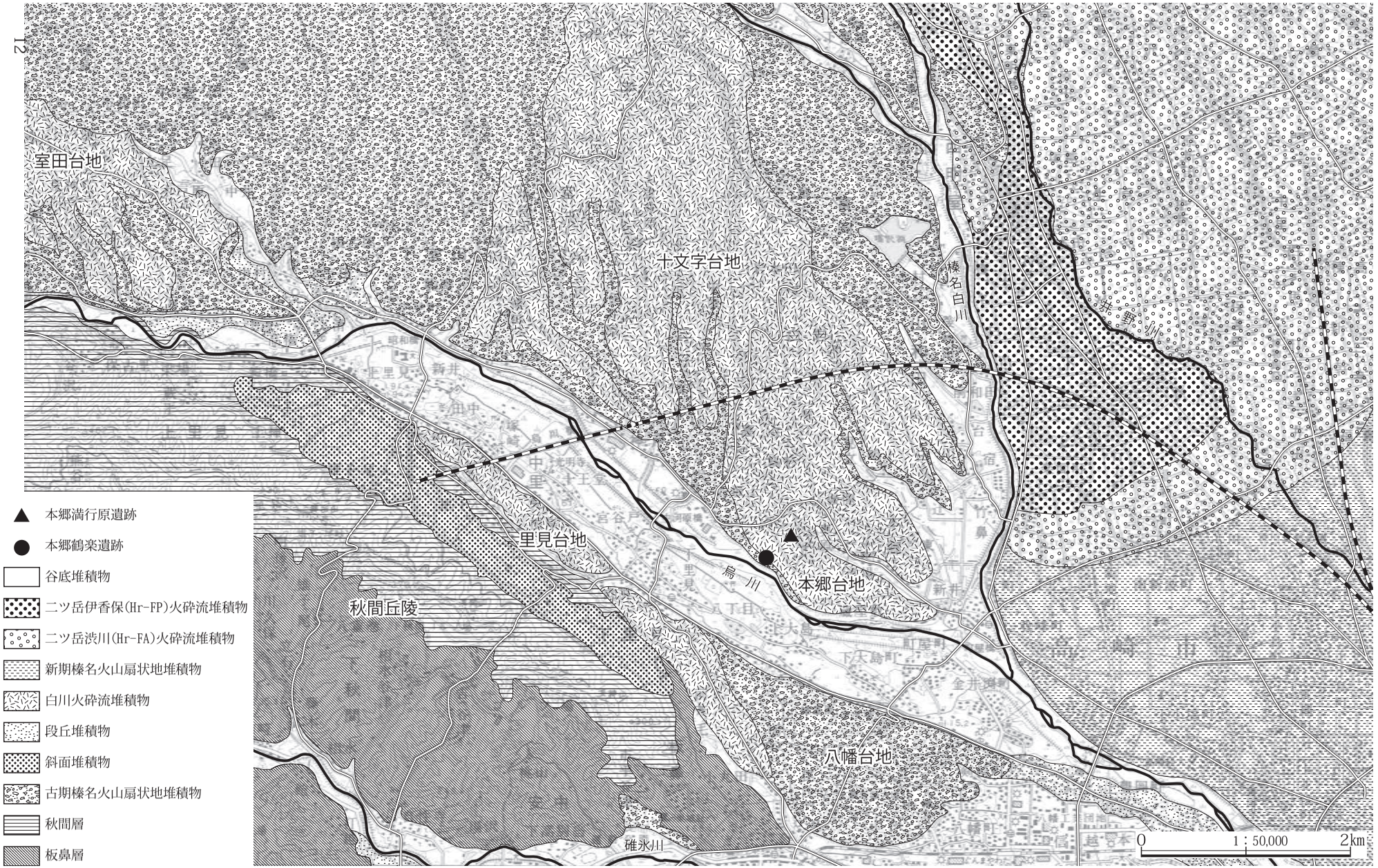
旧榛名町域は、榛名山の火口湖である榛名湖を北境として榛名山南麓の大部分を占め、烏川右岸に沿った秋間丘陵の尾根を南境とする地域である。旧榛名町は、明治22(1889)年の市町村制施行によって建制された群馬郡室田町、同久留馬村、及び碓氷郡里見村の１町２村が合併し、昭和30(1955)年に発足した。その後、平成18(2006)年10月１日、高崎市に合併され、現在に至っている。なお、本郷遺跡群が所在する高崎市本郷町は、旧久留馬村域に含まれる。

第２項　地形

群馬県のほぼ中央部に位置する榛名山は、赤城山と並び県域の地形形成の要といえる山である。約５万年前に起こったプリニー式噴火は、榛名八崎軽石(Hr-HP)を噴出し、白川(室田)火砕流が発生した。この時、大量のマグマが噴出したため、山頂は「榛名カルデラ」と呼ばれる凹地になった。白川火砕流は、榛名山南麓を流れ下り、烏川を越えて旧里見村域まで押し寄せた。この白川火砕流などによって形成された室田台地、十文字台地、本郷台地、及び里見台地の上には、その後に起こった榛名山や浅間山などの活発な火山活動によって、さらに厚く火山噴出物が堆積していった。榛名山は６世紀初頭と中葉の２回、大規模な噴火を起こしているが、６世紀中葉を最後に現在までのところ噴火は確認されていない。

なお、本文中で使用する各台地の名称については、『榛名町誌自然編』榛名町誌刊行委員会 2007 に従った（第７図参照）。

旧榛名町域の南寄りには、この地域の地形形成に大きな影響を及ぼした烏川が北西から南東へ流れ、その左岸には榛名山南麓の火山麓扇状地、及び火砕流台地が広がっている。また、右岸には河岸段丘が形成され、さらにその南側は秋間丘陵に接している。この烏川は、長野



第７図　本郷鶴楽遺跡周辺の地質図　（独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター発行　1/500001地質図「榛名」（平成24年発行）一部改変））

県との県境に位置する鼻曲山の山麓に源を発し、下流で碓氷川、鏑川などと合流し利根川へと注ぐ。旧榛名町域は、この烏川の上～中流域に当たり、本地域の西部では狭く深い谷を、東部ではやや幅広い氾濫原を形成している。古くから烏川の谷筋は、この地域の重要な交通路となっており、地域の生業や人々の交流、さらには地域社会の形成などに重要な役割を果たしてきた。

烏川左岸の旧室田町域、及び旧久留馬村域は、榛名山の南麓地形に属し、白川火砕流などによって形成された室田台地、十文字台地、及び本郷台地を多くの中小河川が開析している。烏川に接する台地の南端では、急激に落ち込む崖線となっており、本郷地区では高さ約20mの段丘崖を形成している。崖線下の一部には下位段丘面が認められる。

烏川右岸の旧里見村域では、河岸段丘が形成されている。秋間丘陵の北側には、烏川との比高が約80mの上位段丘面が認められるが、その形成年代は不明である。中位段丘面は、白川火砕流堆積物によって覆われている。下位段丘面は、白川火砕流の発生からやや時間を経て形成されたと考えられ、烏川との比高は約10mである。

榛名山南麓では、白川火砕流などによって形成された台地を､大小の河川が長い年月に亘って浸食を繰り返し、深い谷を造り出していった。その結果として形成されたのが、台地の間を縫うように谷戸が入り組んだ複雑な旧榛名町域の地形ということができる。

本郷遺跡群は、本郷台地から十文字台地の末端部付近に位置し、標高は本郷台地で170m前後、十文字台地の末端部で160m前後である。両台地の間には黒沢川が流れ、本郷西谷津遺跡は、黒沢川によって開析された谷地内に、黒沢川に続く本郷広神遺跡は狭小な谷地内に立地している。最も下位に位置する本郷西谷津遺跡の標高は150m前後で、本郷台地部と谷地部の比高は最大で約20mある。これらの遺跡群の中で最も南の烏川寄りに位置する本郷鶴楽遺跡は北側のＦ区で170m前後、南側のＨ区で160m前後と遺跡内の北と南で約10mの標高差がある。Ｆ区はＨ区に比べより多く削平されており、本来はもっと標高差があったものと考えられる。遺跡の南側の烏川の標高は約135m前後であり、Ｈ区と烏川の標高差は約25m前後とかなり高い崖となっている。

第２節　歴史的環境

第１項　旧石器時代

榛名山麓の丘陵地帯で人類が生活するようになったのは３万年以上前の氷河時代の頃からと考えられている。厳しい自然環境の中で、榛名山麓の広大な原野が、人々の活動の格好の舞台となったことは想像に難くない。

旧榛名町域の当該期を代表する遺跡としては、三ツ子沢中遺跡(23)、白岩民部遺跡(26)、白川傘松遺跡(29)、和田山天神前遺跡(30)などが挙げられる。いずれも本郷遺跡群の北側をほぼ東西方向に横断する北陸新幹線の建設に伴い財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下、群埋文)が発掘調査した遺跡である。

なお、遺跡名の後に付く（　）内の数字は、すべて第８図、及び第１表の遺跡番号と一致する。

これら旧石器時代の遺物が出土した遺跡は、いずれも十文字台地に立地している。この十文字台地は、榛名山麓を南北に流れる中小河川によって開析され、いくつかの細長い舌状台地に分かれている。

三ツ子沢中遺跡では、姶良Tnテフラ(AT)直下の暗色帯中から剥片を中心に、ナイフ形石器、ドリル、スクレイパー、局部磨製石斧、敲石、磨石、凹石など500点以上が出土し、石器が集中するブロックが10単位確認されている。

白岩民部遺跡では、石器は以下の２つの層位から出土した。まず、浅間板鼻褐色テフラ群(As-BPGroup)と室田軽石(MP)層に挟まれた厚さ約20㎝のローム層下半から黒曜石製のエンドスクレイパーが１点、さらに、このローム層の下位に堆積する暗色帯中から剥片を中心に、ナイフ形石器、彫刻刀形石器、スクレイパー、敲石など700点以上の石器が出土した。この暗色帯中から出土した石器群は、９単位のブロックが直径約30mの環状に分布する状況が認められた。

白川傘松遺跡では、AT直下の暗色帯中から剥片を中心に、ナイフ形石器、スクレイパー、クサビ形石器、敲石、磨石など600点以上の石器が出土した。これらの石器群は白岩民部遺跡の石器群と同様に、９単位のブロックを形成しており、それらが環状に分布する、いわゆる「環状ブロック群」に相当するものと考えられる。

和田山天神前遺跡では、AT下の暗色帯中から、ナイフ形石器､エンドスクレイパーなどを含む21点の石器が、大きく２つの地点から集中して出土した。また、21点のうち20点が黒曜石製であったが、これらの黒曜石は、夾雑物が少なく良質であることから長野県産の可能性が高いと考えられる。

これらの遺跡から出土した旧石器のうち、白岩民部遺跡のエンドスクレイパーは群馬県編年第Ⅱ期、その他の石器はいずれも群馬県編年第Ⅰ期に属するものである(小菅2004)。

第２項　縄文時代

旧榛名町域における縄文時代の遺跡は、概ね榛名山体に源を発し南流する榛名川、滑川、駒寄川、谷津川、頭無川、高浜川、見立川、小堀川などの中小河川に沿った台地上に立地している。本地域内全域に本確的な発掘調査が及んでいるわけではないものの、縄文時代の遺跡は前期から中期に偏る傾向が認められる。

１　草創期

旧榛名町域における縄文時代草創期の遺物出土例としては、本郷遺跡群から北約１㎞の十文字台地に立地する白岩大門下遺跡(高崎市白岩町)から爪形文土器片が１点出土しているのみである。

ただし、本地域の南側に隣接する八幡台地には、剣崎長瀞西遺跡(104)､大島原遺跡(105)､八幡中原遺跡(106)、八幡遺跡(110)など草創期の遺跡が点在する。このうち剣崎長瀞西遺跡からは爪形文土器や押圧縄文土器などの土器片と有舌尖頭器などの石器がまとまって出土した。大島原遺跡からは槍先形尖頭器が１点、八幡中原遺跡からは有舌尖頭器をはじめとする石器が数点、八幡遺跡からは有舌尖頭器が１点出土している。なお、これら八幡台地上の遺跡からも､当該期の遺構は検出されていない。

２　早期

これまでに確認された旧榛名町域における縄文時代早期の遺跡は約30と少なく、中室田岩城遺跡(42)の出土例を除いて、遺物はすべて遺構外からの出土である。いずれも集落の存在を示唆する事例とはいえない。

発掘調査により早期の土器が出土した遺跡としては、火山麓扇状地に立地する中室田岩城遺跡のほか、十文字台地に立地する中尾根遺跡(64)、三ツ子沢中遺跡(23)、白岩浦久保遺跡(27)などが挙げられる。

中室田岩城遺跡では、10号土坑内から早期中葉～後半の沈線文系土器、条痕文系土器などが出土している。また、三ツ子沢中遺跡からは早期前半の撚糸文系土器が、中尾根遺跡からは早期前半の撚糸文系土器や押型文系土器、早期中葉の沈線文系土器が、白岩浦久保遺跡からは早期後半の条痕文系土器が、それぞれ出土している。

３　前期

縄文時代早期から前期前半は、気候の温暖化がみられた時期に当たる。この気候変動によって、それまでの移動性の高い居住形態から、より定住性を指向した居住形態へと変化したと考えられている。前期中葉以降、群馬県内でも遺跡数が急増し、榛名山南麓にも小規模な集落が点在するようになる。旧榛名町域では100を超える当該期の遺跡が調査されている。

室田台地の末端部に立地する中村遺跡(45)では、竪穴建物３棟が検出された。これらの建物からは、前期中葉の羽状縄文系土器が多数出土し、当該期の良好な資料が得られた。また、三ツ子沢中遺跡(23)のほか、同じ十文字台地に立地する高浜向原遺跡(24)、子安遺跡(59)、日輪遺跡(65)などでも前期中葉の集落が調査されている。

前期後半の集落は、火山麓扇状地に立地する根古屋遺跡(50)や室田台地の末端部に立地する弁天原遺跡(44)などから検出されている。とくに弁天原遺跡で検出された８Ｔ－１号竪穴建物は、軸長約４ｍ程度と小形ながら残存状態が良く、諸磯ｂ式土器11個体が出土した。また、白岩浦久保遺跡(27)で調査された土坑からは、諸磯ｂ式土器の良好な一括資料が出土している。さらに、遺構外ながら同時期の所産と考えられる玦状耳飾りも１点出土している。

旧榛名町域では､現在までのところ中野谷松原遺跡(安中市中野谷）や糸井宮前遺跡（利根郡昭和村）のような当該期の拠点的な大集落は発見されてはいない｡しかし、尾根上の小規模集落が群在する状況のなかで、近隣の広い台地上には、ある程度の規模を保った集落が存在していた可能性が考えられる。

４　中期

縄文時代中期は､東日本各地に大形環状集落が営まれ、群馬県内でも三原田遺跡(渋川市赤城町)など縄文時代を

代表する遺跡が数多く知られている。旧榛名町域でも前期同様100を超える当該期の遺跡が調査されている。

本地域における中期前半～中葉の代表的な集落遺跡としては、十文字台地に立地する岡谷戸遺跡(51)と火山麓扇状地に立地する大和田遺跡(41)が挙げられる。両遺跡とも中期初頭から中葉末の土器が豊富に出土しており、大形の環状集落遺跡ではないものの、山麓斜面上に弧状を呈するように竪穴建物が営まれており、中期環状集落に先駆けた段階の集落と考えられる。

岡谷戸遺跡は、馬の背状の狭い台地上に立地し、斜面に展開する縄文時代中期集落の例として稀有な存在である。４棟の竪穴建物は斜面の南寄りから、貯蔵穴や墓坑など33基の土坑は斜面の北寄りからそれぞれ検出され、竪穴建物群と土坑群の占地が明確に分別されていた。出土した土器の多くは中期前半の阿玉台式土器であった。

一方、大和田遺跡は中期中葉の集落で、検出された竪穴建物１棟と土坑31基は、岡谷戸遺跡と同様、斜面に立地しているが、岡谷戸遺跡のように竪穴建物と土坑群との明瞭な占地区分は見出し難い。また、南関東の土器と北関東西部系の土器が、同一の土坑内から出土するという異系統土器の共伴例がみられた。

中期後半の遺跡としては、十文字台地に立地する三ツ子沢中遺跡(23)、高浜広神遺跡(25)、白川笹塚遺跡(28)、白川傘松遺跡(29)、室田台地に立地する又倉遺跡(43)などが挙げられる。

白川傘松遺跡では、東に向かって緩やかに傾斜する舌状台地の先端部で、加曽利Ｅ式期を中心とする竪穴建物67棟が検出されている。これらの建物群は、中央に広場状の空間を挟み、東西に偏って集まることから、環状集落であった可能性が高い。また、55号土坑内からは、長さ7.0㎝、重さ110ｇの翡翠製の大珠が出土しており、この集落は本地域の拠点的集落であったと考えられる。

三ツ子沢中遺跡でも、中期後葉以降の遺構配置から、環状を意識した集落の構造が見て取れる。また、75号土坑からは蛇紋岩製の玉斧が出土しているが、これは墓に供えられた副葬品、または遺体を飾った装飾品の可能性が高いと考えられる。

中期後葉の群馬県内には他地域に先駆けて柄鏡形敷石建物が作られたが、白川傘松遺跡、三ツ子沢中遺跡、高浜広神遺跡などにおいても、加曽利ＥⅣ式期の柄鏡形敷石建物が検出されている。

５　後・晩期

縄文時代後・晩期は、気候の冷涼化に伴い縄文人が生活した落葉広葉樹の森が徐々に衰退していったと考えられている。そのため旧榛名町域で調査された遺跡数も、前・中期に比べ減少する傾向にあり、後期で約50、晩期ではさらに６と減少する。集落の規模は小さくなり、それまでの集中形から集落間の距離を置いた分散型の集落形態に変化していった。

本地域における後期の遺跡としては、三ツ子沢中遺跡(23)や高浜広神遺跡(25)が挙げられる。両遺跡からは、後期初頭の称名寺式期の柄鏡形敷石建物が検出されている。本地域では、後続する堀之内式土器や加曽利Ｂ式土器の出土例は少なく、安行１・２式期など後期後葉段階になると土器の出土例はさらに少なくなる。

晩期の遺跡としては、大和田遺跡(41)のほか、烏川右岸の下位段丘面に立地する中通遺跡(88)、下位段丘面から低地にかけて立地する中里見根岸遺跡(19)、中里見中川遺跡(20)が挙げられる。ただし、中通遺跡においては安行３式など晩期前半の土器片が、大和田遺跡、中里見根岸遺跡、中里見中川遺跡においては、千網式や氷式など晩期終末の土器片が散見される程度である。しかし、中里見根岸遺跡や中里見中川遺跡の事例は、縄文時代晩期終末から地域集団が低地に進出していったことを如実に示している。

第３項　弥生時代

旧榛名町域における弥生時代前･中期の様相は、遺構･遺物の検出例とも乏しいことから､あまり明瞭ではない。一方、弥生時代後期になると遺跡数が増加する傾向がみられ、とくに旧久留馬村域を中心とする本地域の南東部においてその傾向が顕著である。

１　前期

烏川右岸の下位段丘面から低地にかけて立地する中里見中川遺跡 (20)からは、沖式土器片や石鏃とともに、湿地に残った人の足跡が検出されている。このことは、弥生時代前期に水田耕作が行われていた可能性を示唆している。また、３世紀末の浅間山の噴火によって降下した浅間Ｃテフラ(As-C)下からは、明瞭な畦畔を有する水田の遺構が検出されている。

烏川左岸の火山麓扇状地に立地する大和田遺跡(41)からは炉を中心として、ピットが円形に廻る状態で検出され、縄文時代晩期末から弥生時代前期にかけての土器片がわずかに出土している。縄文時代晩期末から弥生時代前期の掘り込みが浅い竪穴建物か、平地建物である可能性が指摘されている。

２　中期

烏川右岸の里見台地に立地する中里見原遺跡(18)や、烏川左岸の室田台地下の下位段丘面に立地する下室田宮谷戸遺跡(46)では、中期中葉の再葬墓が検出されている。

里見台地に立地する下里見上ノ原・中原遺跡(86)では、町道建設で掘削された崖面から中期中葉の土器を含む竪穴状の掘り込みが検出された。一部に床面らしき硬化面が見られたことから、この掘り込みは竪穴建物であった可能性が指摘されている。

このような中期前半～中葉の再葬墓や竪穴建物らしき痕跡は、いずれも烏川を臨む台地の縁辺部付近に位置している。このことから、当該期の人々は台地上に生活拠点を置きながら、台地下の低地を開発し、崖面からの涌水を利用して水田耕作を営んでいたものと考えられる。

中期後半の様相についても、これまでは資料が下室田宮谷戸遺跡から出土した栗林式の壺や、中里見中川遺跡(20)の低地の溝から出土した遺物などに限られていたことから、不明な点が多かった。しかし、近年、下里見宮谷戸遺跡(90)の発掘調査により、栗林式期の竪穴建物と、それらと同時期の可能性が考えられる再葬墓や礫床墓が検出されるなど、当該期の集落の存在が明らかになってきている。

３　後期

これまでに旧榛名町域において発掘調査された弥生時代後期の遺跡は、烏川左岸の旧久留馬村域に集中する傾向がみられる。烏川左岸の本郷台地下にわずかに形成された下位段丘面に立地する稲荷森遺跡(76)や、本郷台地の北東斜面に展開する蔵屋敷遺跡・蔵屋敷Ⅱ遺跡(73)などでは、大形の長方形竪穴建物を中心とする集落が検出されている。また、蔵屋敷遺跡に隣接する道場Ⅱ遺跡(71)で検出された９号竪穴建物は、平面規模が13.8m×8.2mと旧榛名町域における弥生時代最大の竪穴建物である。

一方、烏川右岸では近年、下里見宮谷戸遺跡(90)において、樽式土器を伴う竪穴建物と、それらと同時期のものと考えられる礫床墓群が検出されるなど、集落の存在が明らかになっている。

また、本地域の南側に隣接する八幡台地においても、剣崎長瀞西遺跡(104)、八幡遺跡(110)、四ノ市遺跡(111)、剣崎稲荷塚遺跡(113)、引間遺跡(115)などの集落遺跡が調査されている。これら八幡台地上に拡がる集落は、当該期の樽式土器文化圏における拠点的集落の一つと考えられ、古墳時代へと継続していくことが確認されている。

第４項　古墳時代

旧榛名町域における古墳の分布は、本郷遺跡群が所在する烏川左岸の旧久留馬村域と、烏川右岸の旧里見村域に集中している。昭和10(1935)年に行われた群馬県下一斉古墳所在調査の結果をまとめた『上毛古墳綜覧』では、旧久留馬村域で39基、旧里見村域では60基の古墳が登録されている。平成22(2010)年に刊行された『榛名町誌資料編１原始古代』では、現存する古墳を新たに約40基確認することができたとしている。

１　前期

古墳時代前期になると、群馬県の平野部では外来系開拓者集団によってもたらされた土木技術によって、沖積平野の開発が進められていった。高崎市域においても、弥生時代後期の遺跡がほとんど認められない井野川下流域で集落が営まれるようになり、元島名将軍塚古墳(高崎市元島名町)のような大規模な前方後方墳が築かれていく。

一方、旧榛名町域では、弥生時代後期の樽式土器の伝統を受け継ぐ在地系の土器が４世紀まで使用されており、旧来の弥生系文化が濃厚に残存していたことが知られている。

しかし、本郷台地下の下位段丘面に立地する稲荷森遺跡(76)で検出された５Ａ号竪穴建物の貯蔵穴からは、在地系の台付甕とともに、東海東部地域からの搬入品と考えられる赤色塗彩された複合口縁壺が出土している。さらに、同建物内からは、北陸地方の特徴を示す複合口縁壺も出土しており、このことから本竪穴建物の住人は、在地社会に迎え入れられた外来系の人々、あるいは彼らと接点があって新来の文化を受け入れた人々であったと考えられる。

また、烏川南岸に立地する中里見原遺跡(18)では、里見台地の縁辺部から一辺約24mの方形周溝墓である中里見原１号墓が検出されている。後世の削平により埋葬施設は存在しなかったが、周溝内からは稲荷森遺跡５Ａ号竪穴建物出土の壺と同形の赤色塗彩された複合口縁壺など、北陸系をはじめ多様な系譜の葬送用の土器が出土している。３世紀末に降下した浅間Ｃテフラ(As-C)が、周溝埋没土の下半に10～15㎝の層厚で堆積していたことから、古墳時代初頭の所産と考えられる。これは弥生時代の周溝墓が未検出の旧榛名町域において最も古い周溝墓であり、本地域を支配し新しい墓制を受容した小首長の墓であると考えられる。

前方後方墳や前方後方形周溝墓の存在が認められない旧榛名町域だが、やがて榛名白川流域に広がる広大な平野を眺望する本郷台地上に本郷大塚古墳(70)が築かれる。久留馬村第13号墳として『上毛古墳綜覧』に登録された本郷大塚古墳は、直下にAs-C層が残存しており、４世紀前半に築造された古墳であると考えられる。本地域における最初の高塚古墳である。平成16(2004)年度の墳丘確認調査により、全長約73.0m・前方部幅約32.7m・括れ部幅約21.4mの墳丘プランを有する前方後円墳であることが明らかになった。埋葬施設は長さ約4.9m・最大幅約3.3m・深さ約0.5～0.8mの規模を呈する川原石積みの竪穴式石室である。墳丘の特徴や埋葬施設の構造、副葬品の特徴から、前方後円墳としては古いタイプに属すると考えられる。このような古式前方後円墳は、北陸地方において地域の中核墳として出現したものの中に認められることから、本古墳の築造技術は北陸ルートで伝播したと推定できる。昭和45(1970)年度に実施された発掘調査では、石室内から「位至三公」銘内行花文鏡１面と管玉２点、ガラス製小玉多数が出土している。本地域の村落社会が発展的に変容するなかで共立された大首長の墳墓であると考えられる。貴重な中国鏡が被葬者の手に渡ったのも、本古墳被葬者の政治的な位置を示すものといえる。

当該期の水田遺構としては、烏川右岸の下位段丘面から低地にかけて立地する中里見中川遺跡(20)や烏川左岸の低地に立地する神戸岩下遺跡(21) などで、As-Cによって埋没した水田が検出されている。また、十文字台地を開析する高浜川によって形成された高浜向原遺跡(24)の谷地部からも、同様のAs-C下水田が検出されている。これらの場所では、遅くとも古墳時代前期までには水田耕作が営まれていたことが明らかになった。

また、本郷遺跡群から東へ４～５㎞ほど離れるが、北陸新幹線の建設に伴い群埋文が発掘調査した餅井貝戸遺跡(38)、御布呂遺跡(39)、芦田貝戸遺跡(40)など、井野川流域の低地に立地する遺跡からもAs-C下水田が広く検出されている。

２　中期

旧榛名町域では、本郷大塚古墳(70)の成立後の４世紀後半から５世紀前半にかけて、集落遺跡が不明瞭となる。

この時期、高崎市南部の倉賀野・佐野地域一帯には、当時としては東日本最大の浅間山古墳(高崎市倉賀野町)をはじめとする多くの古墳が集中し、西毛の地域力がこの一帯の開発に集中された形跡が認められる。こうした新たな地域形成に伴って在来集団が再編成され、新開地の経営に振り向けられた可能性は否定できない。

本地域で再び集落が増加するのは、５世紀後半である。本郷台地に立地する道場Ⅱ遺跡・道場Ⅲ遺跡(71)、蔵屋敷遺跡・蔵屋敷Ⅱ遺跡(73)、供養塚遺跡(74)、麻干原遺跡(79)や、下位段丘面に立地する寺内遺跡(75)などでは、検出された竪穴建物の多くが５世紀後半代に属しており、爆発的増加という言葉がふさわしい。こうした現象は榛名山東南麓で広くみられ、幅30mを超す環濠をもつ豪族居館である三ツ寺Ⅰ遺跡(146)や北谷遺跡(高崎市冷水町・引間町)が山麓部に出現するのと軌を一にして、周辺に保渡田古墳群(147)や大集落が出現するのである。これは、山麓水源地を掌握して、広域農業水利体系を構築しようとした豪族の経営戦略であると考えられる。旧榛名町域における集落の動向も、こうした社会動態と連動している可能性が高いと考えられるのである。

稲荷森遺跡(76)からは、小石槨墓群が検出されている。これらの墓の上部は失われているが、周囲に散在した川原石の多さからみて、小規模な積石塚であった可能性が高いと考えられる。埋葬施設の竪穴式小石槨は、いずれも浅い土坑状の掘り込みに扁平な川原石を立て並べて構築されている。これらの小石槨墓群は、旧久留馬村域に居住した渡来系の人々の墓と考えられる。また、蔵屋敷遺跡、麻干原遺跡、寺内遺跡などからは韓式系土器が出土している。烏川右岸においても、鉄製の金床や韓式系

土器が出土した下里見宮谷戸遺跡(90)、多くの渡来系遺物とともに積石塚群が検出された剣崎長瀞西遺跡(104)などが所在しており、烏川を挟んだ両岸に渡来系氏族が集住していた様子が窺える。

本郷台地に立地する本郷奥原古墳群(68)のうち、奥原21号墳は、５世紀後半～６世紀初頭頃の円筒埴輪が樹立された墳丘径12.8mの円墳である。７世紀代に造営された横穴式石室墳主体の本古墳群の中で、唯一、５世紀後半～６世紀初頭の竪穴式石室墳であり、墳丘の周囲にはＵ字形断面の周溝が巡り、墳丘には葺石が張られている。円筒埴輪列は、下段墳丘の上縁に巡らされていた。これらの埴輪は新たに朝鮮半島からもたらされた技術である窯で焼成されたものである。このことは、本地域が保渡田古墳群(147)の豪族を頂点とする支配機構の末端を担っていた可能性を示している。

本郷遺跡群から北東約３㎞には、６世紀初頭の榛名山噴火に伴う泥流(Hr-FA泥流)によって埋没した方墳である下芝谷ツ古墳(143)が所在する。二段に築かれた積石塚で、石室内からは金銅製飾履など朝鮮半島からの影響が強く認められる副葬品が出土している。この被葬者は、保渡田古墳群の豪族の配下にあって主要な地位を得て活躍した渡来系氏族のリーダーであったと推測できる。

本郷台地の末端部に位置する蔵屋敷遺跡(73)からは、北辺長約88m・南辺長約110m・西辺長約111mの規模をもつ５世紀後半～６世紀初頭の居館が検出されている。しかし、ここでは三ツ寺Ⅰ遺跡(146)や北谷遺跡の豪族居館にみられるような防御的機能や権威的機能は見て取れない。このことから保渡田古墳群(147)を造営した豪族の配下にあって、榛名山南麓の丘陵地域を支配した在地首長の居館とみられる。この居館の南西隅部には後にしどめ塚古墳(72)が構築されており、７世紀前半には居館としての意義は失われていたと考えられる。

３　後期・終末期

保渡田古墳群(147)が造営された後、榛名山南東麓からは大規模前方後円墳は姿を消している。その原因としては、６世紀初頭と中葉の２度に亘る榛名山の噴火や、それに伴う大規模な災害の発生による山麓一帯の荒廃が考えられる。

旧榛名町域においても、古墳時代後期の拠点的な集落は発見されていない。蔵屋敷遺跡(73)など旧久留馬村域の遺跡群でも、６世紀代になると竪穴建物数は減少傾向にある。一方、古墳造営の風習は村落社会の家族層にも広まり、旧久留馬村域や旧里見村域には帆立貝形古墳を中核とする古墳群が形成されていった。

本郷台地に立地する本郷稲荷塚古墳(70)は、『上毛古墳綜覧』に久留馬村第18号墳として登録された６世紀前半の帆立貝形古墳である。昭和44(1969)年度に行われた群馬用水土地改良事業に伴う発掘調査時には、的場Ｅ号墳として調査されている。全長は上段墳丘で33.0m、下段墳丘で38.0m、二段築成の墳丘をもち、径約29.0mの下段墳丘を幅6.2mの周溝を掘って劃出し、西側を掘り残して撥状に張り出した造り出し部としている。造り出し部の基部からは、人物埴輪片や馬形埴輪片などが出土している。埋葬施設は全長5.5m、奥壁幅1.15m、川原石積みの袖無型横穴式石室で、副葬品はほとんど失われていたが、鉄製小刀片、管玉、須恵器片などがごく少量出土した。

本郷稲荷塚古墳とほぼ同時期に築造されたとみられる里見台地に立地する下里見諏訪山古墳(89)は、『上毛古墳綜覧』に里見村第41号墳として登録され、存在は早くから知られていた。『榛名町誌』編さんに伴って実施された調査により、全長14m、墳丘径11m、西側に幅10m、奥行き３mの短冊形の張り出し部が取り付く帆立貝形古墳であることがわかった。埋葬施設は全長5.88m、奥壁幅1.07m、羨道入口幅0.68m、乱石積みの傾向を示す袖無型横穴式石室である。撥状の張り出し部からは円筒埴輪、馬形埴輪、人物埴輪で構成される埴輪群像が出土した。本古墳と同様に、帆立貝形古墳の造り出し部に埴輪群像を配置した事例としては、旧箕郷町域に所在する上芝古墳(148)が知られている。本郷稲荷塚古墳と下里見諏訪山古墳は、いずれも村落社会の首長によって造営された古墳と考えられる。

７世紀代の群集墳を構成する古墳は、大部分が径10m前後であり、大きなものでも径20m程度の、川原石を壁材とした横穴式石室を有するものである。分布も前代の古墳とほぼ同様に、旧久留馬村域を中心とする烏川左岸と、烏川右岸の旧里見村域に大別できる。

前述したように蔵屋敷遺跡(73)からは、５世紀後半～６世紀初頭頃の居館と考えられる遺構が検出されているが、７世紀中葉になると、その一角にしどめ塚古墳(72)

が築造される。しどめ塚古墳は、『上毛古墳綜覧』に久留馬村第14号墳として登録された径約20mの円墳で、二段に築かれた墳丘には葺石が葺かれているが埴輪はない。埋葬施設は全長8.6m、玄室長4.1m、奥壁幅2.19mの、南に向かって開口する両袖型横穴式石室である。副葬品としては、勾玉、切子玉、小玉、金銅製耳環、大刀、刀子、鉄鏃、轡、鉄製鞍鞍金具、鉄製壺鐙、金銅製杏葉、鉄地金銅張雲珠、金銅製帯金具などが出土している。羨道部に改修がなされていることや、前庭部から出土した土器類の中に８世紀まで下るものがあることから、家族墳墓として長期にわたって祭祀が行われていたことが窺える。

同じ本郷台地に立地する小臼塚古墳(73)は、現在は完全に削平されてしまっているが、『上毛古墳綜覧』には久留馬村第15号墳として登録され、埋葬施設は横穴式石室であったと伝えられている。昭和61(1986)年から翌62(1987)年にかけて、榛名町教育委員会が行った蔵屋敷遺跡の発掘調査では、集石列と溝が約25mの間隔を置いて南北方向に延びる様子が確認されている。このことから本古墳は、７世紀に築造された約25～30m四方の方墳であったと推定され、この時期の方墳として重要である。しどめ塚古墳と小臼塚古墳は、いずれも７世紀の村落社会内における有力家族層により造営された古墳であると考えられる。

本郷奥原古墳群(68)では、昭和40年代に実施された群馬用水土地改良事業に伴って36基の古墳が発掘調査されたが、この時の調査で存在が確認された古墳は、東西約290m・南北約320m・面積約73,600㎡の範囲から計65基を数えた。これらの中に方墳はなく、いずれも円墳の範疇で捉えられる墳丘形態であった。本古墳群では７世紀前半頃から53号墳と49号墳を中心に墳墓の造営が始まり、７世紀末まで古墳が造られ続けたと考えられる。本古墳群からは、メノウ製勾玉、水晶製切子玉、碧玉製管玉、ガラス製丸玉･小玉、琥珀製棗玉、金銅製耳環など、専業工人の手による装身具類が出土している。また、古墳群形成の最終段階になると、前庭に供えられた土器類には、秋間古窯跡群(95)で生産されたと同定できる須恵器類が目につくようになる。これらの事例は、村落社会の有力家族層も、物資の需給に必要な他地域との交流を行っていたことを示している。

烏川右岸の旧里見村域における当該期の古墳は、秋間丘陵の北東側に沿って形成された上位段丘面に造営された古墳群、里見台地に造営された古墳群、下位段丘面に造営された古墳群に大別できる。秋間丘陵の南西側に当たる安中市秋間では、７世紀後半から窯業生産が始まり、８世紀から９世紀にかけて群馬県内有数の須恵器・瓦生産地として発展していく。背景には、良質な粘土と豊かな森林資源があったと考えられる。旧里見村域にも須恵器生産に関わる工人集団の進出があり、上位段丘面に分布する古墳群はこれら工人集団によって造営された可能性も考えられる。

その一つである堂尾根２号墳(85)は、７世紀末に築造された山寄せ円墳で、墳丘は削平されていたが、埋葬施設は全長約５m、奥壁幅約１mの横穴式石室であることが確認できた。副葬品としては、金銅製耳環、碧玉製管玉、水晶製切子玉、ガラス製小玉、大刀、刀子、鉄鏃などが出土している。

旧榛名町域の南側に隣接する八幡台地に所在する観音塚古墳(108)は、全長150mを有し、県内最後の前方後円墳として知られる。その石室は全長158mと県内最大級で、天井石や壁石は大きな一枚岩を集めて構築されている。その巨石の主なものは旧里見村域で産出される溶結凝灰岩(里見石)である可能性が指摘されている。

当該期の水田遺構としては、北陸新幹線の建設に伴い群埋文が発掘調査した浜川長町遺跡(35)、浜川高田遺跡(36)、浜川館遺跡(37)、御布呂遺跡(39)、芦田貝戸遺跡(40)など井野川流域の低地から、６世紀初頭の榛名山の噴火によって降下した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)や、噴火に伴って発生した泥流(Hr-FA泥流)によって埋没した水田、６世紀中葉の噴火によって降下した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)や、噴火に伴って発生した泥流(Hr-FP泥流)によって埋没した水田が広く検出されている。また、下芝天神遺跡(32)からは、Hr-FAとHr-FA泥流によって埋没した重複する２面の畑が検出されている。

これまで旧榛名町域からは、このような集落や田畑を埋め尽くすほどの大災害の痕跡は検出されていない。しかし、これら２度の火山災害は、本地域の東側を流れる榛名白川や井野川の流れを変えるほどの規模であったことから、本地域においても大きな影響があったであろう

ことは想像できる。

第５項　古代

旧榛名町域では７・８世紀の集落は希薄であり、烏川左岸では十文字台地に立地する高浜広神遺跡(25)や日輪遺跡(65)、烏川右岸では里見台地に立地する中里見原遺跡(18)など遺跡数は少ない。蔵屋敷遺跡(73)や稲荷森遺跡(76)など、古墳時代に大きく発展した旧久留馬村域の集落の多くが７・８世紀までは継続していない。一方、烏川右岸で継続が確認できたのは、里見台地に立地する中里見原遺跡と下里見上ノ原･中原遺跡(86)のみである。

９・10世紀になると本地域の集落は再び増加するが、これは県内の他地域でもみられる傾向であり、本地域特有の現象とはいえない。一旦は台地上へ集約された集落が、９世紀以降になると再び低位段丘面に回帰するが、その背景には土地制度の改革と、それに伴う田畑の整備、集落の再編があったと考えられる。

１　古代寺院の建立

７世紀になると、古墳に代わる権威の象徴として各地に寺院が建立されるようになる。群馬県においても、７世紀中葉以降､山王廃寺(前橋市総社町)や上植木廃寺(伊勢崎市本関町)、寺井廃寺(太田市天良町)などの寺院が造られていく。

この山王廃寺の伽藍の屋根に葺かれた瓦は、秋間古窯跡群(95)で焼かれたものである。７世紀後半以降、安中市秋間には截石切組積石室をもつ古墳が造られていくが、これらの古墳群は秋間古窯跡群の分布と重なり、窯業の単位集団に呼応した群集墳が存在していたとみられる。そのうちの一つであるめおと塚古墳(98)も截石切組積石室をもつ円墳だが､その石室は複室構成をしており、山王廃寺に近い宝塔山古墳(前橋市総社町)をそのまま小形化したような構造である。山王廃寺の造営が始まった頃に築造された宝塔山古墳と、秋間一帯の要の地に築造されためおと塚古墳の類似は、山王廃寺周辺の勢力と秋間との密接な関係を示している。

本郷遺跡群に隣接する本郷奥原遺跡(67)からは、素弁四弁蓮華文軒丸瓦や三重弧文軒平瓦などが出土している｡建物については未調査であるため断定はできないが、県内でも最古級の寺院跡である可能性が考えられる。出土した素弁四弁蓮華文軒丸瓦は、山王廃寺創建期のものと胎土、焼成、色調などの特徴が類似しており、７世紀後半でも比較的早い時期に秋間古窯跡群で生産されたものである可能性が高い。本遺跡の西側には前掲の本郷奥原古墳群(68)が隣接しているが、瓦の散布範囲と墓域とは一線を画しており、両者が計画的に造営された様子が窺える。また、本遺跡の寺院建立の背景として、本遺跡の北約250ｍに所在する日輪遺跡(65)の集落の存在が考えられる。

２　律令国家の成立

やがて律令国家の体制が整えられると、全国は畿内と東海道・東山道・北陸道・山陰道・山陽道・南海道・西海道の七道地域に分けられた。古代群馬は上野国と呼ばれ東山道に属し、国司には中央の官人が派遣された。国内には碓氷、片岡、甘楽、多胡、緑野、那波、群馬、吾妻、利根、勢多、佐位、新田、山田、及び邑楽の14郡が置かれ(当初は13郡であったが、和銅４(711)年に多胡郡が設置されて14郡となった)、郡司には地方豪族が任命された。

本郷遺跡群が所在する旧久留馬村域は、律令制下には上野国府が所在した群馬郡の郡域内に入る。群馬郡は、北は現在の渋川市域、東は現在の前橋市の利根川以西、南は現在の高崎市の烏川以北の地域であり、上野国内で中核を担った郡である。

『和名類聚抄』によれば、群馬郡には長野郷、井出郷、小野郷、八木郷、上郊郷、畦切郷、島名郷、群馬郷、桃井郷、有馬郷、利刈郷、駅家郷、及び白衣郷の13郷が置かれていた。所在郷数は、甘楽郡と同数で、上野国内では最大である。

群馬郡諸郷のうち、長野郷は現在の烏川左岸一帯の高崎市北新波町から旧久留馬村域に至る範囲と考えられており、本遺跡群が所在する旧久留馬村域は、この長野郷に含まれる。

３　烏川左岸の集落

蔵屋敷遺跡(73)では、前述した古墳時代の居館の一部とみられる遺構のほかに、９世紀頃の方形の区画溝が検出されている。また、９世紀の竪穴建物から､印面が3.2㎝四方で高さが3.3㎝の銅印が出土していることが特筆される。このことから官衙などの施設の一部であった可能性が考えられるが、区画内からはそれらの施設を構成すると考えられる建物の痕跡は検出されていない。

また、高浜広神遺跡(25)では、７世紀中葉から10世紀にかけての掘立柱建物15棟、竪穴建物32棟などが検出されている。掘立柱建物群の中には、東西３間×南北２間で南側に廂が付く掘立柱建物や、東西２間×南北３間の総柱の掘立柱建物２棟が含まれ、それらの建物群を区画するようにピット列が検出されている。また、竪穴建物からは、金銅製丸鞆、鉄製のクルル鈎、「第」の印面の焼印、鋤先、鎌などが出土しており、鉄製品の加工や補修を行った工房の存在が示唆される。それぞれの掘立柱建物の規模が小さいことから、官衙などの施設とは考えにくいものの、この地域においては珍しく掘立柱建物群が検出されていることや、特異な出土遺物などから、首長居宅あるいは在地首長による農業経営の拠点、牧の管理施設などの可能性が考えられる。

それぞれの集落の規模や施設の内容、あるいは出土遺物の特徴などから、各集落の有機的なつながりが明らかになる場合もある。例えば、室田台地の末端部に立地する中村遺跡(45)では、古墳時代後期の集落が一端途切れたのち、９世紀になって再び集落が営まれるようになり、10世紀まで継続する。集落は台地全体に展開しており、調査範囲内だけでも63棟の竪穴建物が検出されている。これは平安時代の集落としては、旧榛名町域において最大規模である。一方、同じ室田台地に立地する又倉遺跡(43)は、中村遺跡の北西約1.4㎞に位置する同時期の集落遺跡であるが、平安時代の竪穴建物は密集することなく散在しており、うち１棟は鍛冶工房で、鞴の羽口や椀状鍛冶滓が出土している。これは本地域において初めて確認された本格的な古代の鍛冶工房である。このような状況から、中村遺跡は地域の中核的な集落であり、又倉遺跡は鉄器の供給や補修を担う小規模集落と捉えることができるのである。

４　烏川右岸の集落

烏川右岸の旧里見村域における当該期の大規模集落としては、中里見原遺跡(18)が挙げられる。本遺跡では、古代の集落は7世紀から始まり、８世紀末から９世紀前半にかけて規模を拡大させながら、その後10世紀まで継続している。検出された遺構は、基壇状建物１棟、掘立柱建物７棟、竪穴建物72棟などである。調査範囲内からは瓦の出土は認められなかったが、基壇状建物は台地中央の高所に立地しており、村落内寺院のような遺構である可能性が考えられる。また、台地の尾根部分には９世紀中葉と考えられる大形竪穴建物１棟と、その両側に大形掘立柱建物２棟が並立している。東側の５号掘立柱建物は、一辺約6.3m四方の３間×３間、床面積約40㎡の総柱建物で、倉庫と考えられる。西側の７号掘立柱建物は、基壇状建物を掘り込んで造られており、南北３間(約6.3m)×東西２間(約4.2m)、床面積約26.5㎡の規模の総柱建物で、やはり倉庫と考えられる。二つの大形掘立柱建物に挟まれた位置にある大形竪穴建物は、南北約７m、東西約6.1m、床面積約42.7㎡の規模であり、同時期の平均的な竪穴建物と比べ４倍ほどの床面積である。当該期の竪穴建物としては破格の規模であり特異な用途が考えられるが、出土遺物に特徴的なものはなく、そのため用途は不明である。この集落は、旧里見村域の有力者が管理する中核的集落であったと考えられる。

中里見原遺跡の南に隣接する上里見井ノ下遺跡(17)は、里見台地から上位段丘面にかけて立地し、古代の大形炭窯5基が検出されている。このうち２号炭窯は、横口付炭窯と呼ばれる朝鮮半島に技術的系譜が求められる大形の炭窯であった。また、本遺跡の東には、鉄生産が行われていたことが判明した中里見井ノ下遺跡(高崎市中里見町)がある。本格的な発掘調査は行われていないものの、『榛名町誌』編さん事業に伴う資料調査により、箱形炉の底部にできた大形の滓(炉底塊)の存在が明らかになっている。これらの事例は、律令国家形成期の本地域において、榛名山南麓の自然を生かした本格的な鉄生産が行われていた可能性が高いことを示唆している。

５　古代の耕地

天仁元(1108)年、浅間山が大噴火を起こし、大量の降灰により上野国内の田畑は大きな被害を受けた。その21年後に当たる大治４(1129)年には、亡弊を理由に租税が免除されるなど、浅間山の噴火に伴う災害の影響はなおも続いていたようである。

旧榛名町域における古代の水田遺構は、中里見根岸遺跡(19)、中里見中川遺跡(20)、神戸岩下遺跡(21) など烏川の下位段丘面、及び低地、高浜向原遺跡(24)、高浜広神遺跡(25)、白岩民部遺跡(26)など十文字台地を開析する中小河川により形成された谷地で、天仁元(1108)年の浅間山噴火に伴う浅間Ｂテフラ(As-B)によって埋没した水田が検出されている。

また、北陸新幹線の建設に伴い群埋文が発掘調査した下芝天神遺跡以南の各遺跡(32～40)、高崎市教育委員会が発掘調査した菊地遺跡群(120～125)や長野北部遺跡群(133～139)など、旧榛名町域の東側に広がる榛名白川や井野川流域の低地においても、同様のAs-B下水田が広く検出されている。

一方、十文字台地の和田山天神前遺跡(30)や里見台地下の下位段丘面に立地する中通遺跡(88)からは、As-Bによって埋没した畑が検出されている。これら旧榛名町域で検出された畑の事例は決して多くはないが、本地域が水田耕作に適した低地に乏しく、現在まで続く畑作地帯であることを考えれば、広く畑が展開していたであろうことは想像に難くない。

また、榛名山南麓の地形は、台地が中小河川によって細かく区切られ、複雑な形状をしており、このような地形は、馬の飼育や管理に適しているといわれる。河川によって狭められた台地の一部を柵や溝で閉め切れば、集落と牧とを容易に区分けすることができるためである。十文字台地の南東部でも、台地が中小河川によって開析され、いくつかの細長い舌状台地に分かれているが、集落のある台地と空白の台地がほぼ交互に存在している。この空白の台地上が牧であった可能性が考えられるのである。

第６項　中世

延久元(1069)年、摂関家を外戚としない後三条天皇によって発せられた延久の荘園整理令によって、立券不分明な荘園は公領に戻された。この荘園整理の対象は摂関家領にまで及んだが、その反面、立荘を示す証拠が確実な荘園については、不入権などの特権が保障され、国衙の干渉を受けずに地域を支配する領域支配型荘園として再編されていった。一方､荘園化されなかった公領では、国衙の在庁官人が直接、郡司・郷司・保司となって徴税を請け負い、さらに荘園化によって減少した公領を拡大するために積極的な開発を行ったことから、国衙の支配が強く及ぶ地域も現れた。

こうして荘園では荘官が、国衙領では在庁官人である郡司･郷司･保司が、徴税を請け負って農民を支配した。やがて彼らは有力な棟梁と結びついて武士化し、請け負った荘園や公領を自らの所領とするようになっていった。

国府に近い地域には公領が濃密に設定され、国衙の支配が強く及んでいた。一方、国府から遠い地域には荘園が設定され、その中間の諸郡には荘園と公領が混在する状況となった。国衙が所在した群馬郡には荘園はなく、上野諸郡の中で最も有力な国衙の基盤地域であったと考えられる。

１　中世長野郷と八幡荘

中世長野郷は、旧高崎市北部から旧箕郷町域、旧榛名町域の烏川以北、旧倉渕村域にまで及ぶ広大な郷であったと考えられる。府中の西側に接し、奥大道(古代の東山道を引き継ぐ道)から分かれて国府に向かう東道が通り、広大な面積を有する長野郷は、国衙を支える最も重要な郷であったであろう。そのため中世長野郷には在庁官人の中でも有力者が入部したと思われるが、それが郷名を苗字とする長野氏であったと考えられる。この長野氏は、室町時代の資料によると、石上氏、物部氏、在原氏などを称していたようである。また、地元に残る数種類の系図では、在原氏の子孫を称している。

一方、烏川右岸には摂関時代頃、河内源氏系の一族によって八幡荘が立荘された。以後、八幡荘は新田一族に継承され、一族の勢力基盤の一つとして維持されていった。里見は八幡荘内であるが、郷としては扱われず、院政以降に開発された村とみられる。そこに新田義重の子の義俊、孫の義成が入って里見氏を名乗った。里見義成は源頼朝の寵臣として重用され、その子孫はやがて各地に進出していった。

院政後期には知行国制が始まった。この制度は、有力な貴族に特定の国を国主として知行させるもので、国主はその国の国司を推薦でき、国務を掌握することができた。後白河院政末期の上野国主は藤原光能で、その後、国主となった日野流の藤原兼光は、国衙の武力を頼朝支持に向かわせ、鎌倉政権樹立に寄与させた可能性が考えられる。嘉禄元(1225)年頃になると、上野国主は中院流の源通方に代わり、以後、中院流が５代にわたり国主の職を受け継ぎ鎌倉幕府滅亡に至る。なお、鎌倉時代後期以降、国司の地位は献金によって官位を付与する成功(じょうごう)の対象となり、単なる名誉職になっていった。

元弘３(1333)年、鎌倉幕府滅亡後に始まった建武の親

政は長続きせず、南北朝の内乱は明徳３(1392)年まで断続的に続いた。里見一族の多くは南朝方の新田義貞に従い、その討ち死にまで仕えている。一方、北朝の足利方に従った里見氏としては、のちに安房に進出し戦国大名として活躍する安房里見氏などがいる。

南北朝の内乱の中で、上野国の守護職となった上杉憲顕は、関東管領職にも就き、以後、上野国守護職は一時期を除いて憲顕の子孫である山内上杉氏が世襲していく。中世長野郷や八幡荘は上杉氏の所領となり、上杉氏は交通の要衝であった八幡荘板鼻に守護所を置き、上野国支配の拠点とした。関東管領職に就く上杉氏の当主は鎌倉府に在ったため､根本被官である長尾氏が在国した。

２　長野氏の台頭と鷹留城

南北朝の内乱が広がる中、上野国でも国人一揆が結成された。この上州白旗一揆には、中世長野郷を拠点とする長野氏も加わっている。

永享12(1440)年、幕府・上杉氏と鎌倉府との対立から起こった結城合戦では、上州白旗一揆は幕府・上杉方に付いたが、一揆衆の中に長野因幡守、長野宮内小輔、長野左馬介の名がみえる。享徳３(1454)年、鎌倉公方足利成氏が関東管領上杉憲忠を殺害したことによって始まった享徳の乱は､文明14(1482)年まで続くが､文明８(1476)年には上杉氏の根本被官である長尾景春が上杉顕定に反逆している。翌年、長野左衛門尉為業は長尾景春に従い武蔵国針谷原で討ち死にしたが、上州一揆旗頭とあり、長野氏は一揆内の有力者に成長していたことが窺える。

旧室田町域に所在する長年寺は、明応元(1492)年または文亀元(1501)年に長野業尚が創建したとされる長野氏の菩提寺である。永正９(1512)年６月付の上杉憲房制札(長年寺文書、『群馬県史資料編７中世』所収)に「於上州群馬郡室田之内長年寺」と、大永２(1522)年３月付の平某禁制写(榛名神社文書、『群馬県史資料編７中世』所収)にも「上州群馬郡室田村長年寺之事」とあり、長年寺への濫妨狼藉を禁止している。同年10月付の長野憲業壁書(長年寺文書、『群馬県史資料編７中世』所収)には３か条に亘って長年寺内での禁止条項を定めており、菩提寺である長年寺に対して保護する姿勢を示したものといえる。現在、墓地には長野業尚、憲業、業氏、業政、業固、業茂、業続らの五輪塔が遺っている。

この長年寺の北約１㎞には、長野業尚によって15世紀末～16世紀初頭頃に築城されたと伝えられる鷹留城(48)が所在する。榛名山南麓の火山麓扇状地南端の地形を利用した並郭式山城で、範囲は南北約430m・東西約300mに及んでいる。長野氏は吾妻郡域の在地武士団とは敵対関係にあったことから、吾妻郡側への備えを堅固にする必要があったのであろう。この鷹留城は、同じ頃に築城されたと考えられる長野氏宗家の居城である箕輪城(150)と並んで、長野氏の主要な城館である。

長年寺墓地内に所在する文亀３(1503)年２月20日の年紀を有する長野氏墓碑銘(『室田村誌』所収)には「鷹留城主長野伊予守業尚」と、また、天文７(1538)年４月14日を有する長野氏墓碑銘(『室田村誌』所収)には、「鷹留城主長野三河守業氏」とあり、鷹留城を本拠とした長野氏がこの地域を実質的に支配していたことがわかる。

鷹留城の南約0.6㎞の高台には松山城(47)が、その南側に接して「堀之内」と称される方形居館が存在しており、松山城と方形居館の一体の構成であったと考えられる。松山城については､北条氏の被官であった上田氏が､天正10(1582)年頃に築城したとする伝承もあるが、鷹留城とほぼ同時期、あるいは若干後の時代のものと考えられ、平時における室田長野氏の居所であったと考えられる。なお、本地域の烏川を臨む丘陵や台地には、鷹留城の出城とみられる中世山城跡が多数存在している。

３　戦国の動乱と長野氏

戦国期のものと推測される年未詳の浦野中務少輔宛武田信玄書状(浦野文書、『群馬県史資料編７中世』所収)には、鷹留城に拠る「長野三河入道随令之者八十余人」が武田方に討ち捕られた旨が記されている。長野氏宗家の本拠である箕輪城(150)が落城した永禄９(1566)年９月(長年寺文書)に近い時期のことと推測される。箕輪城の落城により長野氏業は自害に追い込まれ、この地は武田氏の支配下に入った。天正８(1580)年８月５日付武田家定書写(浦野文書、『群馬県史資料編７中世』所収)にも、当地が武田氏被官浦野氏の知行であることが記されており、天正10(1582)年３月の武田氏滅亡まで、その支配下にあったことがわかる。

武田氏滅亡後、信濃、甲斐、西上野などの武田旧領は織田信長の支配下に入った。信長は重臣の滝川一益を関東管領に任じて厩橋城(前橋市)に配置、関東の武田旧領の支配を任せると共に北条氏への備えとしたが、天正10

(1582)年６月、信長が本能寺の変で横死すると、滝川一益は侵攻してきた北条氏との合戦に敗れ、関東一円は北条氏の領するところとなった。

北条氏の西上野支配の拠点は箕輪城であったが、信濃進出のために松井田城(安中市)が重要視され、北条氏家臣である大道寺政繁が入城した。松井田城はこの時期に大規模な改修を受け大城郭に変貌している。天正18(1590)年の豊臣秀吉による小田原攻めに際して、松井田城は豊臣方の前田利家・上杉景勝軍によって攻められ落城した。

第７項　近世

豊臣秀吉による北条氏攻略後、徳川家康の関東入封に伴い、関東一円は家康の支配するところとなった。江戸に本拠地を構えた家康は、徳川四天王の一人である井伊直政を関東防衛の要として箕輪城(150)に配置した。西上州の武将たちは北条氏滅亡によって扶持を失ったが、長野民部業実や里見内蔵允などのように井伊家に仕官した者や、長野氏の一族には幕臣になった者もみられる。一方、長野家や武田家に仕えた者の中には、武士の身分を捨て帰農した者もいた。江戸時代に名主を務めた高浜村の木暮氏、本郷村の嶋方氏、里見村の里見氏、富沢氏、広神氏などは、戦国期の長野衆に属した在地土豪といわれる。

慶長３(1598)年、井伊直政は、家康の命によって箕輪から和田に移り、和田の地を「高崎」と改めて高崎城を築城、群馬・碓氷両郡のほぼ全域を所領とした。慶長５(1600)年、井伊直政は関ヶ原の戦いにおける戦功によって加増され、かつて石田三成の居城であった佐和山城を与えられ近江国に拠点を遷したが、上野国内の領地も引き続き領有した。

慶長７(1602)年、井伊直政が没すると、嫡子直継が跡を継いで、慶長11(1606)年、新たに彦根城を築城し、井伊家の本城とした。しかし、徳川家康は、直継は病弱かつ将器に欠けるとして、弟の直孝に彦根藩井伊家の家督を継承させるとともに、兄の直継には別家を建てさせ、上野国領３万石を分知し碓氷郡安中に封じた。直継は名を直勝と改め、元和元(1615)年、中世安中城の縄張りの一部を利用して近世安中城を築城し入封した。

江戸時代の村は、幕藩体制下における行政の末端機構に位置付けられ、領主に対して年貢の上納や諸役の負担などが義務付けられた。旧榛名町域には、烏川左岸の群馬郡に上室田、中室田、下室田、神戸、三ツ子沢、宮沢、十文字、白岩、高浜、及び本郷の10か村、烏川右岸の碓氷郡に上里見、中里見、下里見、及び上大島の４か村が分布し、本郷遺跡群が所在する高崎市本郷町は、本郷村と呼ばれた。延宝６(1678)年の「安中領本郷村五人組帳」(嶋方英一氏所蔵)によれば、人数626人、男346人、女280人、84軒とある。

これらの村々は、幕府直轄地、旗本知行地、大名領などに分割され、江戸時代を通じて領主の交代が繰り返されたため、複雑な支配構造が形成されることとなった。本郷村は、天正18(1590)年の箕輪藩領に始まり、高崎藩領、近江佐和山藩領、安中藩領、幕府領、三河中島藩領、幕府領、安中藩領、幕府領、安房勝山藩領と変遷し、明治維新を迎えている。

榛名山南麓の耕地の状況を寛文８(1668)年の「寛文郷帳」から概観すると、烏川左岸では畑地が約７割を占め、右岸では同率か、やや田地が畑地を上回るといった状況であった。農作物は稲のほか、大麦、小麦、大豆、小豆、粟、稗などの雑穀や芋、木綿、煙草が栽培され、屋敷内の畑では大根、茄子、瓜、インゲンなどの野菜が作られた。

天明３(1783)年、当地一帯を含む関東平野の広い範囲は、浅間山の大噴火による甚大な被害に見舞われた。この大噴火により交通は途絶し、作物は不作となり、江戸時代の三大飢饉といわれる天明の飢饉が発生した。翌年の「天明四年二月上室田村渇人家族調査書上帳」(齋藤直躬氏所蔵)によれば、人口が1,000人に満たない上室田村で、飢え人が243人に上ると報告されている。

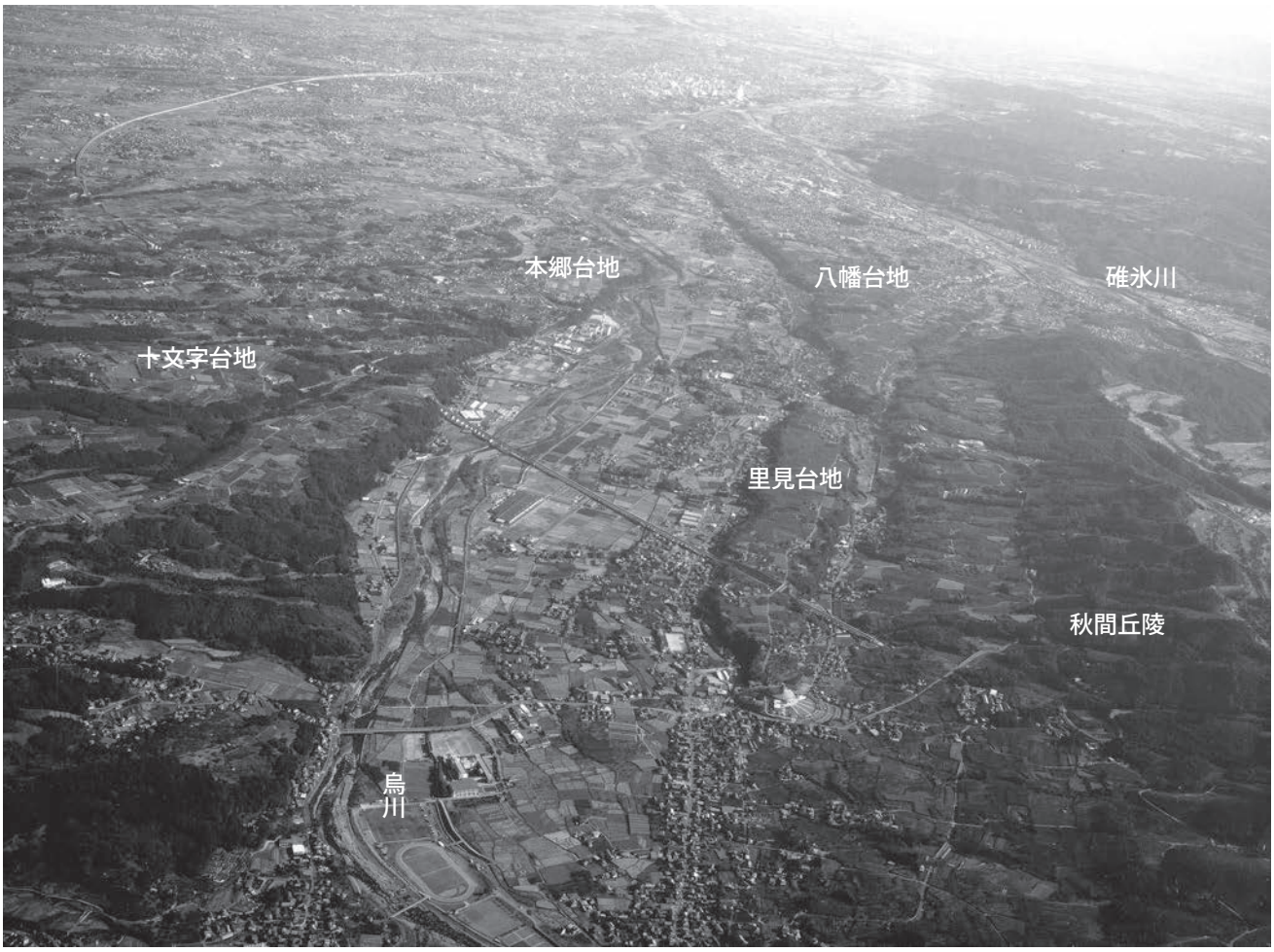
県内各地の発掘調査では、この時に降下した浅間Ａテフラ(As-A)や、噴火に伴って発生した泥流(天明泥流)によって埋没した屋敷や水田、畑、あるいは軽石や泥流堆積物を処分した復旧坑などが検出されている。しかし、旧榛名町域においては、これらAs-Aに関連する遺構は、一部の復旧坑の事例を除いてほとんど検出されていない。

本郷村を含む周辺一帯は、明治元(1868)年の廃藩置県により岩鼻県に属し、明治４(1871)年には第一次群馬県、明治６(1873)年には熊谷県、さらに明治９(1876)年以降は第２次群馬県に属し現在に至っている。

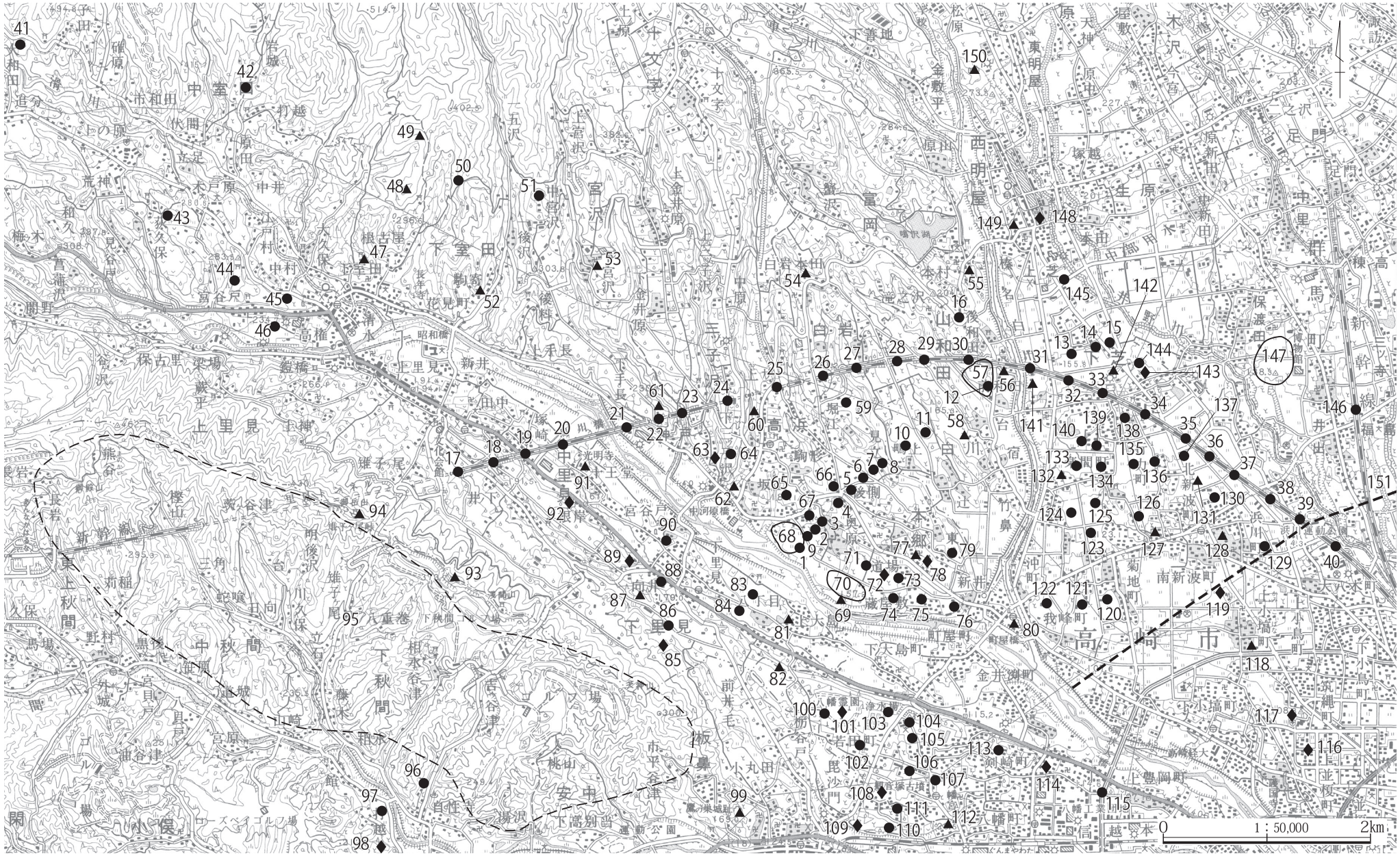
なお、上記は主に『榛名町誌自然編』、『榛名町誌資料編』１～３、『榛名町誌通史編』上巻・下巻に依った。

参考文献

新井房夫1962「関東盆地北西部地域の第四紀編年」『群馬大学紀要自然科学』10pp. 1 -79
安中市市史刊行委員会編2001『安中市史』第四巻原始古代中世資料編
群馬県編1938『上毛古墳綜覧』
群馬県編2017『群馬県古墳総覧』
群馬県教育委員会編1988『群馬県の中世城館跡』
群馬県史編さん委員会編1977-1988『群馬県史資料編』1 -10
群馬県史編さん委員会編1990『群馬県史通史編』1
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編1999『群馬県遺跡大事典』上毛新聞社
群馬町誌編纂委員会編1998『群馬町誌資料編』1
群馬町誌編纂委員会編2001『群馬町誌通史編』1
小菅将夫2004「石器群の移り変わり」『群馬の旧石器』みやま文庫pp.79-99
高崎市市史編さん委員会編1999・2000『高崎市史資料編』1 ・ 2
高崎市市史編さん委員会編2003『高崎市史通史編』1
榛名町誌編さん委員会編2007『榛名町誌自然編』
榛名町誌編さん委員会編2005-2010『榛名町誌資料編』1 - 3
榛名町誌編さん委員会編2011・2012『榛名町誌通史編』上・下
森山昭雄1971「榛名火山東・南麓の地形」『愛知教育大地理学報告』36・37pp.107-116
山崎　一1971～1978『群馬県古城累址の研究』上・下



北西上空から見た本郷遺跡周辺の地形



第８図　周辺遺跡分布図

（国土地理院発行　1/50000地形図「榛名」（平成10年発行）一部改変）

第１表　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	主な内容	主な文献
1	本郷鶴楽遺跡	○	○		○	○	○	○	○	As-YP 下層の石器、縄文時代中期の竪穴建物、７世紀の円墳、古墳時代から平安時代の竪穴建物・掘立柱建物、中世の墓壙、As-A 復旧坑道	本報告書
2	本郷満行原遺跡		○		○	○	○	○	○	縄文時代前期・古墳時代の竪穴建物、古代の寺院建物・竪穴建物・円形有段遺構、古代から中世の道・墓壙、As-A復旧坑	1
3	本郷広神遺跡						○	○		As-B下水田・畑、板碑	1
4	本郷西谷津遺跡						○			As-B下水田	1
5	本郷大カサ遺跡				○	○	○			７世紀の円墳、古墳時代から平安時代の竪穴建物・竪穴掘立柱併用建物か	1
6	本郷鶴窪遺跡						○			平安時代の竪穴建物	1
7	本郷萱原遺跡	○			○	○	○			暗色帯剝片、古墳時代から平安時代の竪穴建物、古代の円形有段遺構・粘土採掘坑	1
8	本郷鴫上遺跡						○			平安時代の竪穴建物・畑	1
9	本郷上ノ台遺跡				○		○		○	古墳時代・平安時代の竪穴建物、近世の道	1
10	鴫上Ⅰ遺跡			○	○	○	○	○	○	弥生時代から平安時代の竪穴建物、中近世の掘立柱建物	2
11	茅畑遺跡				○		○	○	○	７世紀前半の円墳、平安時代の竪穴建物、中近世の溝	2
12	和田山天神前２遺跡				○					埴輪片	3
13	薬師遺跡						○	○	○	平安時代の竪穴建物、As-B下水田、中近世の掘立柱建物・墓壙	4
14	下芝内出畑遺跡					○	○	○	○	奈良時代・平安時代の竪穴建物・製鉄遺構・鍛冶遺構、中近世の溝	3
15	萬行遺跡							○	○	中世の溝、近世の畑	4
16	富岡竹ノ内・和田山寺久保遺跡				○			○	○	古墳時代の竪穴建物、終末期の古墳群、中近世の道	5
17	上里見井ノ下遺跡		○				○		○	縄文時代前・中期の土坑、平安時代の竪穴建物・炭窯、近世の屋敷	6
18	中里見原遺跡		○	○	○	○	○			縄文時代前・中期の包含層、弥生時代の再葬墓、３世紀の周溝墓、奈良時代・平安時代の竪穴建物、平安時代の基壇建物	6
19	中里見根岸遺跡		○				○			縄文時代晩期の包含層、平安時代の竪穴建物・鍛冶遺構、As-B下水田	6
20	中里見中川遺跡		○	○			○	○	○	縄文時代晩期の包含層、弥生時代前期の土器・石器、As-C下水田、平安時代の竪穴建物・鍛冶遺構、As-B下水田	6
21	神戸岩下遺跡				○		○			As-C下水田、As-B下水田	7
22	神戸宮山遺跡						○			平安時代の竪穴建物、灰釉陶器	7
23	三ッ子沢中遺跡	○	○	○	○		○		○	AT下層の石器群、縄文時代早期の土器、縄文時代前期から後期の竪穴建物、玉斧、弥生時代後期・古墳時代後期・平安時代の竪穴建物、近世の墓壙	8
24	高浜向原遺跡		○		○		○			縄文時代前期の竪穴建物、As-C下水田、As-B下水田	7
25	高浜広神遺跡		○		○	○	○	○	○	縄文時代中・後期・古墳時代終末期から平安時代の竪穴建物、平安時代の掘立柱建物群、As-B下水田、金銅製丸鞆、「第」焼印	9
26	白岩民部遺跡	○					○			As-BP下層のエンドスクレイパー、MP下層の石器群、As-B下水田	10
27	白岩浦久保遺跡		○		○		○			縄文時代早期の土器、縄文時代前期の土坑、古墳時代後期・平安時代の竪穴建物	10
28	白川笹塚遺跡		○		○	○	○		○	縄文時代前・中期の竪穴建物、古墳時代から平安時代の土坑群、７世紀の円墳、近世の墓壙	10
29	白川傘松遺跡	○	○	○						AT下層の石器群、縄文時代前・中期の竪穴建物、翡翠大珠、弥生時代の土坑	11
30	和田山天神前遺跡	○	○		○		○	○	○	AT下層の石器群、縄文時代前期の竪穴建物、古墳時代後期の竪穴建物・古墳群、平安時代の竪穴建物、As-B下畑、中世の寺院、近世の屋敷	12
31	下芝上田屋遺跡					○	○			古代の畑・水田	13
32	下芝天神遺跡				○		○			古墳時代中期の竪穴建物・祭祀関連遺構、Hr-FA下畑、平安時代の竪穴建物、As-B下水田	13
33	下芝五反田遺跡				○	○	○	○		古墳時代中期の竪穴建物・畠、奈良時代・平安時代の竪穴建物、As-B下水田、「犬甘」銅印、八稜鏡、和同開珎	14、15
34	行力春名社遺跡				○	○	○	○	○	古墳時代中期の竪穴建物・滑石製品工房、奈良時代・平安時代の掘立柱建物、As-B下水田、中世の屋敷溝	16
35	浜川長町遺跡				○		○	○	○	古墳時代終末期の竪穴建物、Hr-FA下水田、Hr-FP下水田、As-B下水田、中近世の溝	17
36	浜川高田遺跡				○		○	○	○	Hr-FA下水田、Hr-FP下水田、As-B下水田、中世の館	17
37	浜川館遺跡				○		○		○	Hr-FA下水田、Hr-FP下水田、As-B下水田	17
38	餅井貝戸遺跡				○		○			As-C下水田、Hr-FA下水田、As-B下水田	18
39	御布呂遺跡				○		○	○		As-C下水田、Hr-FA下水田、Hr-FP下水田、As-B下水田、中世の建物	18
40	芦田貝戸遺跡				○		○			As-C下水田、Hr-FA下水田、Hr-FP下水田、As-B下水田、平安時代の竪穴建物	18
41	大和田遺跡		○	○						縄文時代中期・晩期・弥生時代前期の竪穴建物	81
42	中室田岩城遺跡		○	○						縄文時代早期の土器、縄文時代中期の竪穴建物、弥生時代前期の小形壺	19
43	又倉遺跡		○				○			縄文時代中期の竪穴建物、平安時代の竪穴建物・鍛冶遺構	81
44	弁天原遺跡		○							縄文時代前期の竪穴建物	81
45	中村遺跡		○		○		○			縄文時代前期・古墳時代後期・平安時代の竪穴建物	81
46	下室田宮谷戸遺跡			○						弥生時代中期の再葬墓	81
47	松山城(金毘羅山城)							△		16世紀	28
48	鷹留城							△		長野業尚、長野憲業、16世紀	28
49	武右衛門屋敷							△		長野氏、16世紀	28
50	根古谷遺跡		○							縄文時代前・中期の竪穴建物	81
51	岡谷戸遺跡		○							縄文時代前期から後期の竪穴建物	81
52	駒寄の砦							△		長野氏、16世紀	28
53	宮沢の内出							△		長野氏、清水貞義、16世紀	28
54	白岩の砦							△		長野氏、16世紀	28
55	富岡の砦							△		長野直業	28
56	和田山館							△		白川満勝	28
57	和田山古墳群				◇					終末期の古墳群	30
58	白川の砦							△			28
59	子安遺跡		○							縄文時代前期の竪穴建物	81
60	遠北陣城							△		武田勢、永禄年間	28
61	神戸の砦							△			28
62	高浜の砦(坂上城)							△		長野氏、鷺坂長信、永禄年間	28
63	伊勢殿山古墳				◇					７世紀の円墳、金銅製耳飾り	81
64	中尾根遺跡		○		○		○	○		縄文時代早期から前期・古墳時代後期・平安時代・中世の土器	81
65	日輪遺跡		○		○	○				縄文時代前・中期の竪穴建物、古墳時代後期から奈良時代の竪穴建物	31、81
66	高浜天狗原遺跡		○		○	○	○			縄文時代前・中期の竪穴建物、古墳時代後期から平安時代の竪穴建物	20
67	本郷奥原遺跡				○	○				素弁四弁蓮華文軒丸瓦、三重弧文軒平瓦、瓦塔	21、81
68	本郷奥原古墳群				◇					終末期を中心とする古墳群	21、81
69	七曲りの砦(日輪城)							△		16世紀	28

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	主な内容	主な文献
70	本郷的場古墳群				◇					後期から終末期の古墳群	22、81
	本郷稲荷塚古墳(的場Ｅ古墳)				◇					６世紀前半の帆立貝形古墳	22、81
	本郷大塚古墳				◇					４世紀前半の前方後円墳、内行花文鏡	81
71	道場遺跡						○			平安時代の竪穴建物、墨書土器	80、81
	道場Ⅱ遺跡			○	○		○			弥生時代後期の大形竪穴建物、古墳時代の居館跡、平安時代の竪穴建物	81
	道場Ⅲ遺跡				○		○			古墳時代・平安時代の竪穴建物	81
72	しとめ塚古墳				◇					７世紀前半の円墳、金銅製透彫飾金具、鉄地金銅装透彫花弁形杏葉	81
73	蔵屋敷遺跡			○	○		○			弥生時代後期から古墳時代の竪穴建物、古墳時代の居館跡、韓式系土器、平安時代の区画溝・銅印	81
	蔵屋敷Ⅱ遺跡			○	○		○			弥生時代後期から古墳時代の竪穴建物、５世紀後半から６世紀初頭の古墳、平安時代の竪穴建物	81
	小臼塚古墳				◇					７世紀後半の方墳か	81
74	供養塚遺跡				○		○			古墳時代中期・平安時代の竪穴建物	81
75	寺内遺跡			○	○		○			弥生時代後期・古墳時代の竪穴建物、石槨墓、韓式系土器、平安時代の竪穴建物	81
76	稲荷森遺跡			○	○		○			弥生時代後期・古墳時代の竪穴建物、中期末から後期初頭の石槨墓群、６世紀前半の方墳、平安時代の竪穴建物	81
77	御門城							△		長尾景忠	28
78	権現稜古墳				◇					５世紀頃の円墳か	81
79	麻干原遺跡				○		○			古墳時代の竪穴建物、韓式系土器、平安時代の竪穴建物	81
80	住吉城							△		清水文書、16世紀	28
81	上大島館							△		里見氏	28
82	小五郎の砦							△		里見小五郎	28
83	上大島御伊勢遺跡								○	近世の墓壙、As-A復旧坑	4
84	下里見天神前遺跡		○		○	○	○			縄文時代中期の竪穴建物、古墳時代前・後期から平安時代の竪穴建物、６世紀初頭の円墳、周堀内に置かれた埴輪群、As-B下水田	23
85	堂尾根２号墳				◇					７世紀末の円墳、金銅製耳飾り	81
86	下里見上ノ原・中原遺跡		○	○	○	○	○			縄文時代前期・弥生時代中・後期・古墳時代後期・奈良時代・平安時代の竪穴建物	81
87	里見城							△		里見氏	28
88	中通遺跡		○				○			縄文時代晩期の包含層、As-B下畑	81
89	下里見諏訪山古墳				◇					６世紀前半の帆立貝形古墳	81
90	下里見宮谷戸遺跡			○	○		○			弥生時代中・後期の竪穴建物・礫床墓、古墳時代前・中期の竪穴建物、韓式系土器、鍛冶遺構・鉄製金床、平安時代の竪穴建物、As-B下畑	32、33、34、35
91	里見館							△		里見氏	28
92	赤城山古墳				◇					６世紀の円墳	81
93	雉郷城							△		里見氏	28
94	御嶽山の砦							△			28
95	秋間古窯跡群					○	○			７世紀から９世紀の窯跡群	88
96	吉ヶ谷津遺跡(安中市0201遺跡)				○		○	○	○	古墳時代後期の竪穴建物、７世紀の円墳、平安時代の土坑、中世の耕作痕、As-A下畑	24
97	沼田遺跡								○	As-A復旧坑群	25
98	めおと塚古墳				◇					７世紀の円墳、截石切組積両袖型石室	88
99	板鼻城(鷹巣城)							△		武田信玄か、16世紀	28
100	若田原遺跡		○							縄文時代前期から後期の竪穴建物	77
101	峯林古墳				◇					7世紀後半の円墳	77
	楢ノ木塚古墳				◇					６世紀前半の円墳	77
	若田大塚古墳				◇					６世紀初頭の円墳、鉄矛、横矧板鋲留短甲	77
102	若田屋敷裏遺跡		○		○	○	○			縄文時代・古墳時代から平安時代の竪穴建物・掘立柱建物	36、78
103	若田坂上遺跡		○	○	○	○	○	○	○	縄文時代中期の竪穴建物、弥生時代後期の竪穴建物・礫床墓・鉄釧・人形土器、古墳時代前期から平安時代の竪穴建物、６世紀から７世紀の円墳、中世の畑、近世の石積遺構・As-A復旧坑	37、38
	若田金堀塚遺跡				◇				○	７世紀後半の円墳、近世の道	39
104	剣崎長瀞西遺跡		○	○	○	○				縄文時代草創期の土器・石器、弥生時代後期から奈良時代の竪穴建物、中期・終末期の古墳群、金製垂飾付耳飾、韓式系土器	40、41、77、89
	剣崎長瀞西古墳				◇					５世紀後半の円墳、三角板革綴短甲、捩文鏡	40、77
105	大島原遺跡		○		○					縄文時代草創期の槍先形尖頭器、縄文時代中期・古墳時代中期の竪穴建物、終末期の古墳群	77
106	八幡中原遺跡	○	○		○	○	○			旧石器時代から縄文時代草創期の石器、古墳時代の竪穴建物・末焼成の高坏・韓式系土器、奈良時代・平安時代の竪穴建物・掘立柱建物・礎石建物・基壇状遺構・円形有段遺構、円面硯	42、43、44、45、78
107	七五三引遺跡				○	○	○			古墳時代中・後期の竪穴建物、古代の土壇状遺構	46、78
108	観音塚古墳				◇					6世紀末の前方後円墳、銅承台付蓋碗、金銅製心葉形透彫杏葉、銀装鶏冠頭大刀など	47、77
109	平塚古墳				◇					5世紀後半の前方後円墳	77
110	八幡遺跡		○	○	○	○	○			縄文時代草創期の有舌尖頭器、弥生時代後期から平安時代の竪穴建物、４世紀の周溝墓、韓式系土器、後期から終末期の古墳群	48、77、78
	八幡二子塚古墳				◇					6世紀前半の前方後円墳	49、77
111	四ノ市遺跡			○	○	○				弥生時代後期から古墳時代の竪穴建物、奈良時代の鍛冶遺構	77
	八幡六枚遺跡			○	○	○	○			弥生時代後期から平安時代の竪穴建物、「片罡郡」刻書土器	50、79
112	八幡館							△			28
113	剣崎稲荷塚遺跡		○	○	○	○	○	○	○	縄文時代前期から後期・弥生時代後期・古墳時代中期・奈良時代・平安時代の竪穴建物、小金銅像、中近世の掘立柱建物	51、52、53、54、55、78
114	剣崎天神山古墳				◇					５世紀前半の円墳か、琴柱形石製品、石製模造品など	77
115	引間遺跡			○	○	○	○			弥生時代後期から古墳時代の竪穴建物、方形周溝墓、終末期の古墳群、奈良時代・平安時代の竪穴建物、和同開珎	56、78
116	上並榎稲荷山古墳				◇					５世紀後半の前方後円墳	77
117	筑縄小星山古墳				◇					６世紀後半の円墳、金銅製耳環	77
118	八木屋敷							△		八木氏	28
119	上小塙稲荷山古墳				◇					６世紀中葉の円墳か	77
120	菊地遺跡群(Ⅰ)						○			As-B下水田	57
121	菊地遺跡群(Ⅱ)						○			As-B下水田	58
122	当貝戸・棗原遺跡						○			平安時代の竪穴建物、As-B下水田・畑	59、78
123	上野前(Ⅰ)・大明神(Ⅰ)遺跡						○	○		As-B下水田、平安時代または中世の掘立柱建物	60

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	主な内容	主な文献
124	上野前(Ⅱ)・大明神(Ⅱ)・五反田(Ⅰ)遺跡						○			As-B下水田	61
125	石神・五反田(Ⅱ)遺跡						○			平安時代の竪穴建物、As-B下水田	62
126	北新波遺跡						○			平安時代の竪穴建物、As-B下水田	63
127	北新波の砦							△		新波新左衛門、16世紀	28
128	北爪の砦(北城)							△		北爪土佐(周防)、16世紀	28
129	寺ノ内遺跡						○	○		平安時代の掘立柱建物、As-B下水田、中世の館	64
130	矢島遺跡							○		中世の館	65
131	長町屋敷							△			28
132	井野屋敷							△		井野氏、16世紀	28
133	水口替戸・石田遺跡						○			As-B下水田	66
134	中屋敷(Ⅰ)・舞台(Ⅲ)遺跡						○			平安時代の竪穴建物、As-B下水田	67、78
135	中屋敷西(Ⅰ)・殿田・清水(Ⅰ)・舞台(Ⅰ)遺跡						○		○	平安時代の竪穴建物、As-B下水田、近世の墓壙	68、78
136	江原(Ⅰ)・中屋敷西(Ⅱ)・上屋敷(Ⅰ)遺跡						○			平安時代の竪穴建物、As-B下水田	69
137	六反田・中屋敷(Ⅱ)遺跡						○			As-B下水田	70
138	一丁田・榛名社西遺跡						○			As-B下水田	71
139	舞台(Ⅱ)・清水(Ⅱ)遺跡						○			平安時代の竪穴建物、As-B下水田	72、78
140	下芝・原遺跡						○		○	As-B下水田、近世の土坑	87
141	青柳屋敷							△		青柳治部	28
142	下芝の砦							△			28
143	下芝谷ツ古墳				◇					５世紀後半の方墳、金銅製飾履、三環鈴	82
144	下芝萬行遺跡				○		○			古墳時代の畠、平安時代の竪穴建物	73
145	上芝・西金沢遺跡						○			As-B下水田	74
146	三ツ寺Ⅰ遺跡			○	○					弥生時代後期の溝、As-C下畠、古墳時代中期の竪穴建物・環濠居館	26、82、86
147	保渡田古墳群				◇					５世紀後半から６世紀初頭の大規模前方後円墳群	75、82、83、84、86
148	上芝古墳				◇					６世紀中葉の帆立貝形古墳	29、82
149	下田屋敷(上芝の砦)							△		下田政勝	28
150	箕輪城							△		長野氏、内藤昌豊、内藤昌明、北条氏邦、滝川一益、井伊直政、16・17世紀	27、28、76
151	推定東山道駅路(国府ルート)						○				79、85

文献

1 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2023『本郷上ノ台・満行原・広神・西谷津・大カサ・鶴窪・萱原・鴫上遺跡』
2 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『茅畑遺跡・鴫上Ⅰ遺跡』
3 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019『下芝内出畑遺跡・和田山天神前２遺跡』
4 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2022『上大島御伊勢遺跡・薬師遺跡・萬行遺跡』
5 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『富岡竹ノ内・和 田山寺久保遺跡』
6 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『中里見遺跡群』
7 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『高浜向原遺跡・神戸宮山・神戸岩下』
8 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『三ッ子沢中遺跡』
9 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『高浜広神遺跡』
10 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『白川笹塚遺跡・白岩浦久保遺跡・白岩民部遺跡』
11 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1995『白川傘松遺跡』
12 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『和田山天神前遺跡』
13 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998『下芝天神遺跡・下芝上田屋遺跡』
14 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998『下芝五反田遺跡ー古墳時代編ー』
15 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『下芝五反田遺跡ー奈良平安時代以降編ー』
16 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1994『行力春名社遺跡』
17 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998『浜川遺跡群』
18 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998『芦田貝戸遺跡・御布呂遺跡・餅井貝戸遺跡・西下井出遺跡』
19 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019『中室田岩城遺跡』
20 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『高浜天狗原遺跡』
21 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1983『奥原古墳群』
22 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990『本郷的場古墳群』
23 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2022『下里見天神前遺跡』
24 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『吉ヶ谷津遺跡(安中市0201遺跡)』
25 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019『大島田Ⅱ遺跡・沼田遺跡』
26 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『三ツ寺Ⅰ遺跡』
27 群馬県教育委員会1982『箕輪城跡』
28 群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
29 群馬県史編さん委員会1990『群馬県史　通史編1』
30 高崎市教育委員会2008『和田山古墳群』
31 高崎市教育委員会2016『高浜日輪遺跡』
32 高崎市教育委員会2013『下里見宮谷戸遺跡第一次』
33 高崎市教育委員会2014『下里見宮谷戸遺跡２』
34 高崎市教育委員会2014『下里見宮谷戸遺跡３』
35 高崎市教育委員会2019『下里見宮谷戸遺跡４』
36 高崎市教育委員会1998『若田屋敷裏Ⅰ・Ⅱ遺跡』
37 高崎市教育委員会2021『若田坂上遺跡』
38 高崎市教育委員会2018『若田坂上遺跡２』
39 高崎市教育委員会2017『若田金堀塚遺跡』
40 高崎市教育委員会2001『剣崎長瀞西遺跡Ⅰ』
41 高崎市教育委員会2004『剣崎長瀞西遺跡Ⅱ』
42 高崎市教育委員会1982『八幡中原遺跡』
43 高崎市教育委員会2011『八幡中原遺跡３』
44 高崎市教育委員会2013『八幡中原遺跡４』
45 高崎市教育委員会2014『八幡中原遺跡５』
46 高崎市教育委員会1984『七五三引遺跡』
47 高崎市教育委員会1992『観音塚古墳調査報告書』
48 高崎市教育委員会1989『八幡遺跡』
49 高崎市教育委員会1998『八幡二子塚古墳』
50 高崎市教育委員会2010『八幡・六枚遺跡２』
51 高崎市教育委員会1998『剣崎稲荷塚遺跡』
52 高崎市教育委員会2009『剣崎稲荷塚遺跡２』
53 高崎市教育委員会2012『剣崎稲荷塚遺跡３』
54 高崎市教育委員会2016『剣崎稲荷塚遺跡４』
55 高崎市教育委員会2016『剣崎稲荷塚遺跡５』
56 高崎市教育委員会1979『引間遺跡』
57 高崎市教育委員会1981『菊地遺跡群(Ⅰ)』
58 高崎市教育委員会1982『菊地遺跡群(Ⅱ)』
59 高崎市教育委員会1983『菊地遺跡群(Ⅲ)当貝戸・裏原遺跡』
60 高崎市教育委員会1984『菊地遺跡群(Ⅳ)　上野前(Ⅰ)・大明神(Ⅰ)遺跡』
61 高崎市教育委員会1985『菊地遺跡群(Ⅴ)　上野前(Ⅱ)・大明神(Ⅱ)・五反田(Ⅰ)遺跡』
62 高崎市教育委員会1986『菊地遺跡群(Ⅵ)　石神・五反田(Ⅱ)遺跡』
63 高崎市教育委員会1982『北新波遺跡』
64 高崎市教育委員会1979『寺ノ内遺跡』
65 高崎市教育委員会1979『矢島・御布呂遺跡』
66 高崎市教育委員会1987『長野北部遺跡群　水口替戸・石田遺跡』
67 高崎市教育委員会1985『長野北部遺跡群　中屋敷(Ⅰ)・舞台(Ⅲ)遺跡』
68 高崎市教育委員会1983『長野北部遺跡群　中屋敷西(Ⅰ)・殿田・清水(Ⅰ)・舞台(Ⅰ)遺跡』
69 高崎市教育委員会1984『長野北部遺跡群　江原(Ⅰ)・中屋敷西(Ⅱ)・上屋敷(Ⅰ)遺跡』
70 高崎市教育委員会1986『長野北部遺跡群　六反田・中屋敷(Ⅱ)遺跡』
71 高崎市教育委員会1988『長野北部遺跡群　一丁田・榛名社西遺跡』
72 高崎市教育委員会1984『舞台(Ⅱ)・清水(Ⅱ)遺跡』
73 高崎市教育委員会2008『下芝五反田遺跡・下芝萬行遺跡』
74 高崎市教育委員会2009『上芝・西金沢遺跡』
75 高崎市教育委員会2009『井出二子山古墳』
76 高崎市教育委員会2008「史跡箕輪城跡Ⅷ」
77 高崎市市史編さん委員会1999『高崎市史　資料編１』
78 高崎市市史編さん委員会2000『高崎市史　資料編２』
79 高崎市市史編さん委員会2003『高崎市史　通史編１』
80 榛名町教育委員会1986『道場遺跡』
81 榛名町誌編さん委員会2010『榛名町誌　資料編１原始・古代』
82 榛名町誌編さん委員会2011『榛名町誌　通史編上巻原始古代・中世』
83 群馬町教育委員会1990『保渡田Ⅶ遺跡』
84 群馬町教育委員会2000『保渡田八幡塚古墳』
85 群馬町教育委員会1987『推定東山道』
86 群馬町誌編纂委員会1998『群馬町誌　資料編１』
87 箕郷町教育委員会1983『下芝・原遺跡』
88 安中市市史刊行委員会2001『安中市史　第四巻　原始古代中世資料編』
89 専修大学文学部考古学研究室2003『剣崎長瀞西５・27・35号墳』

第３章　発見された遺構と遺物

第１節　１・２面(中近世～古代末)

各調査区概要

１・２面Ｆ区概要(図10)

本郷鶴楽遺跡Ｆ区では、昭和40年代の圃場整備によると思われる削平により、調査区中央部を中心とする広い範囲で、およそ50㎝の表土を除去すると基盤のローム層が露出してしまうという状況であった。そのためローム層上面を遺構確認面として、古墳時代から中近世にかけてのすべての遺構を同時に調査したが、その内整理段階に於いて他の区と同様に中近世のものを１・２面、平安時代から古墳時代のものを３面として報告する。特徴的な遺構は長方形の土坑群と１号溝として調査した道路跡である。長方形の土坑群は３面の奥原65号墳の西側で１号掘立柱建物の北側に集中する。それ以外のところでは疎らで重複もない。土坑群の主軸は北西－南東のものと北東－南西のものがあるが、前者の方が多い。また、一部ほぼ南北を向くものもある。65号墳の東周堀内の１号土坑墓と２号土坑墓は主軸がほぼ同じであるが、土層や出土遺物の違いは明瞭では無いが、前者はやや幅広で長軸は短いので、中世でよく見られる屈葬で埋葬した墓坑ではないかと考えられる。なお、報告書ではできるだけ調査時点での遺構名称をそのまま用いて使用し、文章の中で解説を加えた。なお、本郷鶴楽遺跡Ｆ区の発掘調査時の名称は、「本郷満行原遺跡Ｆ区」である。

１・２面Ｇ１区概要(図11)

１・２面で調査した溝３条と３面で調査したが、１・２面のものと考えられる長方形の土坑群をここに記載した。溝の走向法は概ね北西→南東であり、埋没土にAs-Aが混じる近世以降のものとAs-Bが混じる古代末～中世のものがあった。前者には15・17号溝、後者には16号溝がある。15・16号溝は重複しており、15号溝が16号溝を切り込む。長方形の土坑は北西－南東のものと北東－南西のものがあるが、前者が多い。台地の変換点に地形に沿う形で巡る17号溝の走向方向に近い。17号溝は枝先が分かれる部分もある。

１・２面Ｇ２区概要(図12)

１・２面の調査に於いては２号復旧坑群と１～３号畑を確認したが、３面で調査した長方形の土坑もここに記載した。重複は１カ所だけであったが、1号畑が先行し、それを２号復旧坑群が切り込む。１号畑の埋没土にはAs-Bが多量に含まれ、２号復旧坑群の埋没土にはAs-Aが含まれるので、前者が古代～中世、後者が近世以降と考えられる。２号畑のみやや離れた位置に３条のサクが平行するが、方向性、流れは１号畑とほぼ同じであり、同じ畑の深い部分のみが残ったものか、別のものを作った畑かは検討が必要である。３面で調査された長方形土坑群は長軸が北西-南東を向くものだけであった。長方形土坑群に重複する部分や直交する部分はない。

１・２面Ｇ３区概要(図13)

１・２面で調査した３号復旧坑群と溝４条を確認した。３面で調査したが、１・２面のものと考えられる長方形の土坑群をここに記載した。３号復旧坑群は北東-南西の一群と北西-南東の一群に分けられる。その間に境目があったことは明確であるが、それが畑そのものの境なのか、作物の違いなのか、両者の可能性があるが、間が狭いので後者の可能性の方がやや高いのではないかと思われる。21号溝は北西-南東、22号溝は北東－南西であり、両溝とも直線的であり、直交もしくは直角に連続する可能性はあるが、その部分が確認できなかったので、不明である。22号溝はＧ４区の３面で確認した20号溝に連続するものと考えられる。21号溝は23号溝に後出するもので、23号溝は24号溝に後出する。23・24号溝は３面の可能性が高いと考えられる。

１・２面Ｇ４区概要(図14)

１・２面で調査した28・29号溝はサク状のものが２本平行しており、畑のサクの可能性が高いのではないかと

考えている。復旧坑群は３カ所で確認されたが、４号復旧坑群は縦に連続して、５号復旧坑群は横に並んで、６号復旧坑群はほぼ直角の位置に配置されるものであった。３面において調査した20号溝と多数の長方形土坑群は、１・２面のものと考えられるのでここに記載した。20号溝はＧ３区の22号溝に連続するものと考えられる。長方形土坑群は、北西－南東の一群と北東－南西の一群があり、北東部の直角方向に配置される一群は何らかの区画を示す可能性は考えられる。

１・２面Ｇ５区概要(図15)

１・２面で20号溝と長方形の土坑群を調査した。３面で１・２面の下部が残存していた土坑はあったものの、新たに確認された遺構はない。20号溝はＧ３区では22号溝として調査した部分もあるが、一連のものと考えられる。長方形土坑群は、北西－南東の一群と北東－南西の一群があり、圧倒的に前者が多い。平行するものは４カ所あるが、重複するものはない。その並びから何らかの区画位置を示すものはないと考えられる。

１・２面Ｈ区概要(図16)

１・２面で13・14号溝の２条の溝と３面目で長方形の土坑を調査した。３面で１・２面の下部が残存していた土坑はあったものの、新たに確認された遺構はない。20号溝はＧ３区では22号溝として調査した部分もあるが、一連のものと考えられる。長方形土坑群は、北西-南東の一群と北東-南西の一群があり、ほぼ直交もしくは直角に曲がる位置に来るものもあるが、間が開くので、不明である。重複するものはない。

長方形の土坑は畑の縁辺や畑と畑の境界に配置されるものも多くあり、その場合には廃棄坑と考えられる。礫が中に詰められていることが多く、特に遺物はないが、埋め戻したようなブロック状の塊が特徴的に入る埋没土の場合が多い。現代の畑でも長方形の坑を掘って廃棄坑として利用することがあるものである。また、長方形の坑は芋類の貯蔵用の穴として掘られることも多くある。その場合、畑の縁辺に限らず、真ん中に掘ることもある。その時に何も作物を作っていない場所に掘るので、位置は一定しない。Ｇ４区で確認されたもののように縦横90°になるように配置されるものは畑の縁辺に掘られた可能性は考えられる。

１面

１　溝・復旧坑群

ここでは、１・２面の溝と復旧坑群について取り扱う。埋没土にAs-Aを含むものを１面(近世)、埋没土にAs-Bを含むものを２面(古代末～中世)とした。開削時期は不明ではあるが、埋没時期はそれぞれの火山灰・軽石降下時期よりも新しいことから面分け、時代分けを行った。いずれの時期も遺構数が少なく、激しい重複は見られなかったので同じ図面で掲載した。なお、埋没土にAs-AやAs-Bを含まず、As-Cだけを含むものについては３面(古代～古墳時代)で掲載した。

１面Ｆ区

１号溝(道)(図32・33、PL．４)

Ｆ区の北東側の本郷上ノ台遺跡寄りで確認された。北端と南端が幅狭く、中程が幅広になる。圃場整備前は道路があったということであり、道路の基礎部分と考えられる。部分的に波板状の凹凸面があり、敷き詰められたように円礫が並ぶ状況が確認された。埋没土にAs-Aが多量に確認されたので、近世から近現代までのものと考えられる。

１面Ｇ1区

15号溝(図35、PL．５)

Ｇ１区の南側の調査区壁寄りで確認された。16号溝に後出する。北西から南東にかけて地形の等高線に沿う形で６ｍ程の短い範囲で確認された。深さ30～50㎝程あり、短い割に深い。埋没土にAs-Aが多量に確認され、17号溝に走行方向も近く、近世のものと考えられる。

17号溝(図36、PL．５)

Ｇ１区の南西側のＧ２区壁寄りで確認された。１・２面での重複はないが、３面の69号竪穴建物や149号土坑などに後出する。地形の変換点の上側の端を地形の等高線に沿う形で約40ｍに亘って確認された。深さ８～30㎝程あり、浅い部分と深い部分がある。深い部分は丸底よりもＵ字形に近い。埋没土上層にAs-AがＶ字状に多量に確認されたので、開削時期は不明であるが、完全に埋没したのは近世、As-A降下後の比較的短い時期と考えられる。

１面Ｈ区

13号溝（図34、PL．５）

Ｈ区の南側の烏川寄りで確認された。北端が幅広で南端が幅狭くなり崖の手前で消える。走行方向は地形の等高線に直交する形であり、高い所から川側の低い所に向かって排水する機能を持つものと考えられる。埋没土にAs-Aが多量に確認されたので、近世のものと考えられる。

14号溝（図34、PL．５）

Ｈ区の南側の烏川寄りで確認された。北端が幅広で南端が幅狭くなり崖の手前で消える。走行方向は地形の等高線に直交する形であり、高い所から川側の低い所に向かって排水する機能を持つものと考えられる。東端は確認できなかったので間は開くものの、13号溝の西側でほぼ直交する位置にあり、規模や掘り方も類似しており、ほぼ同時期のものと考えられる。埋没土にAs-Aが多量に確認されたので、近世のものと考えられる。

１面Ｇ2区

２号復旧坑群（図37、PL．６）

Ｇ２区の南側の調査区壁寄り１号畑の南側で確認された。１号畑に後出する。断面箱形の１号坑と２号坑の２本の坑が平行する。幅約2m×長さ約11ｍの範囲で確認された。平均値で坑の幅は50～70㎝、深さ15～45㎝、長さ11ｍで、坑間幅は北西側が約40㎝、南東側が約75㎝で広い。坑心心の間は１ｍ～1.3ｍで、中程から南東側が広い。細長い坑を掘り下の土を上げて、その代わりに邪魔な軽石や火山灰を埋めたもの、所謂天地返しをしたと考えられる。埋没土にAs-Aが多量に確認されたので、近世のものと考えられる。

１面Ｇ３区

３号復旧坑群（図37、PL．７）

Ｇ３区の南東隅の調査区壁寄りで確認された。１・２面での重複はない。深い部分は断面箱形を呈する。北東－南西を向く１～６号坑の一群と北西－南東を向く７～11号坑の一群がほぼ直交する位置に並ぶ。１号坑と２号坑の間には１坑、11坑は１つだけかなり離れており、４坑くらい入るものと思われる。切り合い関係ははないので全て同時期存在と考えられる。幅約4.5m×長さ約11ｍの範囲で確認された。平均値で坑の幅は33～40㎝、深さ11㎝、長さ2.74ｍで、坑間幅は30～40㎝、心心間が約70㎝である。２～５号坑はＧ４区側が確認できなかったので全体の長さは不明。細長い坑を掘り下の土を上げて、その代わりに邪魔な軽石や火山灰を埋めたもの、所謂天地返しをしたものと考えられる。埋没土にAs-Aが多量に確認されたので、近世のものと考えられる。

１面Ｇ４区

４号復旧坑群（図38、PL．８・９）

Ｇ４区の調査区中程で確認された。１・２面での重複はない。深い部分は断面箱形を呈するものと考えられる。北東-南西を向く１～５号坑一直線上に並ぶ。全て同時期存在と考えられる。幅約１ｍ×長さ約10.5ｍの範囲で確認された。坑の幅は36～86㎝、北東側が狭く南西側が広い。深さ27～42㎝、比較的深い。長さは1.36～3.08ｍで、長いものと短いものがある。坑間幅は６～42㎝、ほとんど無いものが多いが、やや間が開くものもある。縦並びであるので心心間は計測しなかった。細長い坑を掘り下の土を上げて、その代わりに邪魔な軽石や火山灰を埋めたもの、所謂天地返しをしたものと考えられる。埋没土にAs-Aが多量に確認されたので、近世のものと考えられる。

５号復旧坑群（図38、PL．９）

４号復旧坑群の南側で確認された。１・２面での重複はない。北西-南東を向く２坑が平行して並ぶ。同時期存在と考えられる。幅約1.30m×長さ約２ｍの狭い範囲で確認された。坑の幅は両坑とも最大で70㎝、深さ４～５㎝と浅い。底面は完全な平底ではなく、片側が深くなる。長さは0.98～1.22ｍで短い。坑間幅は62㎝、心心幅は1.16ｍである。本来は細長い坑を掘り下げたものと考えられるが、その下部だけが確認されたものと思われる。埋没土にAs-Aが多量に確認されたので、近世のものと考えられる。

６号復旧坑群（図38、PL．９）

４号復旧坑群の南側、５号復旧坑群の北西側で確認された。１・２面での重複はない。北西-南東を向く１号坑とそれにほぼ直交する２号坑がある。両者は同時期存在と考えられる。幅約2.5m×長さ約3.5ｍの狭い範囲で確認された。坑の幅は両坑とも約70㎝前後、深さ10㎝

強とやや浅い。底面は平底となる。長さは1.38～2.32mと短い。坑間幅は84㎝。直交するので心心幅は計測していない。本来は細長い坑を掘り下げたものと考えられるが、その下部だけが確認されたものと思われる。埋没土にAs-Aが多量に確認されたので、近世のものと考えられる。

２面Ｆ区

２　土坑墓

Ｆ区65号墳の周溝西側で１ｍ程の間を開けて２基ほぼ同じ方向を向いて中に礫が入るものが２基確認された。同時期と見ることもできるかもしれないが、その形態や土層・出土遺物などから総合的に１号土坑墓は中世、２号土坑墓は古代と判断した。なお、これまでの調査事例から１号土坑墓は屈葬、２号土坑墓は伸展葬と思われる。ここ２面では１号土坑墓について記載し、２号土坑墓については３面で記載する。

１号土坑墓(図48、PL.10)

Ｆ区の65号墳西側周溝で確認された。65号墳に後出する。長軸はＮ－20°－Ｅ、位置はＸ＝773～774、Ｙ＝-849～850、平面形は長方形を呈する。規模は長軸1.41ｍ、短軸0.99m、深さ0.24mである。埋没土は不明である。隣に１ｍ弱の間を置いてほぼ平行して３面の２号土坑墓がある。どちらも内部には円礫が入れられており、検出状況は類似する。平面形態を見ると南端は明確ではないが、そこまでで終わる可能性がある。しかし、平面形態は短軸の割に長軸は短く、平安時代の伸展葬ではなく、中世によく見られる屈葬であった可能性が高いと判断した。

３　溝

２面で取り扱うものは埋没土にAs-Bが多量に確認されたもので、その中には純層に近いものと土と混合されたものがあるが､古代末から中世のものとして記載した。

２面Ｇ１区

16号溝(図35、PL.５)

Ｇ１区の南側の調査区壁寄りで確認された。15号溝に後出する。15号溝と約30°程の斜めに交差する。15号溝の２倍の12m強の範囲で確認された。西側が幅広で東端が狭い。東側が高く西側が低いので水は東から西に流れたものと考えられる。深さ５～16㎝と15号溝に比べるとかなり浅い。埋没土にAs-Bが多量に確認され、古代末から中世のものと考えられる。

２面Ｇ３～Ｈ区

20号溝(Ｇ３区22号溝含む)(図39～42、PL.10・12)

Ｇ３区では調査時に22号溝と別の番号が付けられていたがＧ４区から真っ直ぐに続き、Ｇ３区からＨ区の壁まで調査区のほぼ中央を３面の古代の遺構全てを切り込んで走行する。Ｈ区までしか調査できなかったが、それよりも烏川方面に延びるものと思われる。間は途中切れる部分はあるものの、130mを超える長い範囲で確認された。Ｇ３区からＨ区にかけて地形は全体的に緩く傾斜しており、水もそれに従って烏川方面に流れたものと考えられる。深さ５～20㎝と然程深くは無い。底面は丸底で、17号溝ほどきつくはない。埋没土にAs-Bが確認されたので、古代末から中世のものと考えられる。

21号溝(図43、PL.11・12)

Ｇ３区の北東部で確認された。23号溝に後出する。23号溝の少し先の北西まででそれよりも先は確認できなかったが、そのまま延長すると20号溝(Ｇ３区22号溝)と直交することとなる。直交していたのか、直角に折れ曲がっていたのかは不明である。深さ５～６㎝と浅い。底面は浅い丸底。埋没土にAs-Bが確認されたので、古代末から中世のものと考えられる。

２面Ｇ４区

28号溝(図43、PL.13)

Ｇ４区の北西の調査区壁寄りで29号溝と平行に並んで確認された。１・２面での重複はない。長さ約５ｍとかなり短い。深さ２～６㎝とかなり浅い。調査時に溝としたが、29号溝と一定間隔で平行し、２本だけではあるが、深く入り込んだ部分だけ残された畑のサクと考えられる。埋没土にAs-Bが確認されたので、古代末から中世のものと考えられる。

29号溝(図43、PL.13)

Ｇ４区の北西の調査区壁寄りで28溝と平行に並んで確認された。１・２面での重複はない。長さ約５ｍとかなり短い。深さ２～５㎝とかなり浅い。調査時に溝とした

が、28号溝と一定間隔で平行し、２本だけではあるが、深く入り込んだ部分だけ残された畑のサクと考えられる。埋没土にAs-Bが確認されたので、古代末から中世のものと考えられる。

４　畑

畑は調査区全体の中でＧ２区だけで確認された。１号畑と３号畑は連続するものと捉えることもできる。２号畑は飛び地のように離れているが、その方向性は１号畑と合っており、１号畑の続きと見ることもできる。むしろ１号畑の中にある斜めに重複するサク２本の間に別な時期の畑の区画があった可能性が考えられる。埋没土に純層に近いほど多くのAs-Bを含み、時期も近いものと思われる。

２面Ｇ2区

１号畑(図44・45、PL.６)

Ｇ２区の南側のＧ３区寄りで確認された。２号復旧坑群に先行する。幅約7.5m×約30mの範囲で確認された。畑のサク同士の切り合いや纏まり具合から２、３のグループに分けることも可能かと思われるが、混乱を避けるため調査時の名称を用いた。畑のサク同士の切り合いから14号サクと36号サクは本来の一群よりも東に大きく傾き、平行するので別のものも考えられるが新旧関係不明。本来の一群のサクの走行方向は概ねＮ－５°－Ｅであり、全体の平均値で観るとサクの幅は25～40㎝、深さは３～６㎝、長さは4.45mである。サク全体が検出されたものは少なく、本来の長さは不明なものが多い。サクとサクの間は35～50㎝で、サクの心心の間は75～85㎝である。栽培作物の痕跡は確認できなかった。埋没土にAs-Bが含まれるので、古代末から中世のものと考えられる。

２号畑(図43、401、PL.13・14)

１号畑の約８m北でサク３本が確認された。１・２面で他の遺構との重複はない。幅約２m×約3.5mの狭い範囲で確認された。１号畑の一群のサクの走行方向は概ねＮ－５°－Ｅであり、やや東に傾くが、２号畑はＮ－１°－Ｅでありもっと南北方向を向く。全体の平均値で観るとサクの幅は30～40㎝、深さは４～９㎝、長さは3.23mである。サクとサクの間は35～50㎝で、サクの心心の間は75～85㎝であり、１号畑と全く同じであり、同一のサクの連続部分の可能性も否定できない。栽培作物の痕跡は確認できなかった。埋没土にAs-Bが含まれるので、古代末から中世のものと考えられる。

３号畑(図44・45、PL.14)

Ｇ２区の南側のＧ３区寄りで確認された。１・２面で他の遺構との重複はない。幅約5.5m×約6.5mの範囲で確認された。畑のサク同士の切り合いもない。サクとサクの間が若干広いが、その他の数値はほぼ同じであり、並びからすると１号畑の続きの可能性が高いが、混乱を避けるため調査時の名称を用いた。畑のサク同士の切り合いもない。平均値で観るとサクの幅は25～40㎝、深さは３～７㎝、長さは3.43mである。サク全体が検出されたものはなく、本来の長さは不明である。サクとサクの間は45～60㎝で、サクの心心の間は75～90㎝である。栽培作物の痕跡は確認できなかった。埋没土にAs-Bが含まれるので、古代末から中世のものと考えられる。

５　土坑・ピット(図46～59、PL.15～34)

１・２面の土坑はほとんどのものが、長方形もしくは隅丸長方形のものであり、長軸が北西を向いているものと北東を向いているものがある。埋没土に火山灰は含まれていないものが多かったが、堆積の状況からこの面のものと考えた。これらは一般的に芋穴とされることが多く、あるいは廃棄穴とされるものである。芋穴は畑の開いているところに掘るが、廃棄穴は真ん中にも掘るが、耕作の邪魔にならないように畑の端に掘ることが多く、Ｇ４区の東半部の並びのように何かしらの区画を示しているように見えるものもある。作物の違いや畑の所有者の違いなどを示している可能性が高いと考えられる。土坑の中には円形もしくは楕円形の浅いものもわずかに確認されたが、それらの埋没土にはAs-Bが含まれており、この面のものと考えた。それぞれの区毎の状況については各区の概要で記述した通りである。なお、土坑・ピットについては所属時期をできるだけ振り分けるように努力したが、判断できないものもあった。一覧表(第７・８表)を参照願いたい。

第２節　３面(古代～古墳時代)

各調査区概要

３面Ｆ区概要(図18)

本郷鶴楽遺跡Ｆ区では、昭和40年代の圃場整備によると思われる削平により、調査区中央部を中心とする広い範囲で、およそ50㎝の表土を除去すると基盤のローム層が露出してしまうという状況であった。そのため、古墳時代から中近世にかけてのすべての遺構を同時に調査したが、その内ここでは平安時代から古墳時代のものを３面として報告する。３面に属すると考えられる遺構は、竪穴建物21棟、掘立柱建物１棟、溝４条、土坑27基、古墳１基、土坑墓１基であった。

なお、本調査区の発掘調査時の名称は、「本郷満行原遺跡Ｆ区」である。

調査区は北東から南西に向かって緩やかに傾斜しており、竪穴建物は調査区北端で検出された２棟のほかは、いずれも調査区南西部から集中して検出された。これら19棟の竪穴建物の多くは10世紀代のもので、ほとんどの竪穴建物において残存壁高がきわめて浅いという傾向がみられた。これは元々掘り込みが浅かったものが、前述の圃場整備により削平されたためと考えられる。そのため確認された部分の面積が狭くなっているものがある。ただし、調査区北端で検出された２号竪穴建物では、円筒状の床下土坑が深く掘られ、それがローム塊を多量に含む土で埋められたうえ、さらに貼床が施されている状況が確認できた。これはローム層中にある粘土を、カマドの構築材などとして使用する目的で採取した痕跡であると推測できる。また、カマドが確認できた竪穴建物では、東カマドが多かったが、一部南カマドのものもあった。

１号掘立柱建物は、竪穴建物が集中する調査区南西部で検出された２間×２間の総柱建物である。９基の柱穴のうちＰ３、Ｐ７は８号竪穴建物と重複しており、いずれも10世紀前半の竪穴建物である８号竪穴建物の掘り方調査において検出されたが、確実な前後関係を示すものではない。また、建物の軸がほぼ南北を向く多くの竪穴建物と違い、やや西に傾くので、この掘立柱建物はそれらの竪穴建物と異なる時期のものである可能性は考えられる。ただし違う方向を向く竪穴建物も10世紀代のほぼ似たような時期のものであることから、その時間差は然程大きくないものと思われる。

４号溝を除く３条の溝は、いずれも調査区の中央部付近で確認された。これらの溝は、いずれも埋没土中にAs-Bを含まないことから平安時代以前の溝である可能性が高いと考えられる。ただし、いずれの溝も以前の圃場整備により削平されているため断片的で、正確な時期・性格ともに不明である。なお、２号溝と５号溝については、走向、形状、規模、埋没土の特徴などから、同一の溝である可能性が考えられる。３号溝は２号溝に平行するが、わずか５ｍ程で終わる。４号溝だけ竪穴建物が集中する部分で重複し、南北方向よりやや西に傾き、１号溝に近い走向方向であるが、埋没土から古代と想定した。いずれの溝も水の流れは地形の傾斜から北西→南東と考えられる。

３面の土坑は、埋没土中にAs-Cを含むものであり、竪穴建物が集中する調査区南西部を中心に多くのものが検出された。平面形状は円形もしくは楕円形を主体とする。土坑内部から羽釜の破片やその他土器片などが出土しているものが多く、屋外の貯蔵穴のような平安時代の竪穴建物とセットになって使用されていた可能性も考えられる。小ピット類は確認できなかった。

本遺跡は、昭和40年代に群馬県教育委員会によって調査された本郷奥原古墳群の東端部に重複する。この本郷奥原古墳群の詳細については、「奥原古墳群」(群埋文1983)を参照されたい。本調査区で検出された古墳は、この本郷奥原古墳群で調査された古墳のうち最東端に位置する第65号墳に該当すると考えられる。墳丘はほぼ削平された状態であった。トレンチ調査の実施により、墳丘の規模が直径9.6m、周堀を含めると15.6mの規模をもつ円墳であることが確認された。遺物は、横穴式石室内から土師器の杯や鉄鏃が、墳丘表面から須恵器の杯身、長頸壺、台付長頸壺、壺などが出土している。

今回の調査では、前回の調査で未確認であった石室の下部構造や周堀の完掘などに主眼を置いて調査を行った。しかし、調査を進めると、前回の調査時に比べ石室壁体の残存状況が悪化していることや、前庭部を中心に広範囲に撹乱が及んでいることなどがわかった。これは圃場整備やその後の耕作が主な原因ではないかと考えら

れる。また、今回の調査では、墳丘のおよそ1/4が調査区外であったため、墳丘全体の規模を明らかにすることはできなかった。一方、主体部の掘り方は、主軸側が6.46m、幅が4.18mの長方形であることが明らかになった。

この１号墳の西周堀内からは、周堀が埋没した後に掘られたと考えられる古代～中世の土坑墓が２基検出された。どちらも遺体の埋葬後に上面を覆うように最大径30㎝程度の礫が敷き並べられていた。このうち１号土坑墓は中世の屈葬によるものと考え、１・２面で既に記載した。ここでは10世紀代と考えられる完形の椀が３点出土した２号土坑墓について記載する。規模は、長軸がおよそ190㎝で、北寄りの底面から歯がまとまって出土したことから北枕の伸展葬であったと考えられる。

３面Ｇ１区概要（図19）

３面では溝１条、竪穴建物13棟、掘立柱建物４棟、ピット列３列、土坑54基（火葬遺構４基含む）、ピット16基を調査した。土坑として調査した中には整理段階で火葬遺構としたもの４基が含まれる。１～３号ピット列として調査されたピット列はその並びからＧ２区の12号掘立柱建物に連続するものと考えられる。38号溝は南端が西に少し曲がって終わるが、Ｇ２区の27号溝の延長線上に位置するものであり、一連のものであった可能性が考えられる。１・２面の17号溝は溝の２面目があり、それは３面の調査でも確認できるものではあるが、古代から続いていたものとは考えにくいので、ここでは扱わない。竪穴建物は66・67号竪穴建物のように６世紀代の古いものもあるが、多くのものは軸が南北を向くものであり、平安時代10世紀代のものと考えられる。それに対して掘立柱建物の一群はいずれも軸が南北よりも斜めに西または東に傾いており、異なる時期のものと考えられる。北西側に総柱の掘立柱建物が２棟あり、その並びの南西側に１～３号ピット列として調査した建物があり、さらに一定の間隔を置いた南東側に２間×３間の２号掘立柱建物と２間×４間の３号掘立柱建物の２棟が北西側の軒を並べて建つ。その２棟の隙間、北西の先には榛名山が見える。北西側に入口があったのか、あるいは道があったのか、かなりその方角を意識した建物配置となっている。３号掘立柱建物は一間の間、半間の位置にやや細い柱が立つものであり、今回調査した中には他に同様な掘立柱建物はない。唯一のものである。

土坑はこの面のものは円形もしくは楕円形のものを呈するものが多く、１・２面のような長方形のものはない。土坑の中には羽釜や灰釉陶器の破片が出土したものもあり、ほとんどのものが古代、中でも10世紀代のものではないかと考えられる。火葬遺構は隅丸方形もしくは隅丸長方形であり、袖（通風口）とされる張り出しを持つものと持たないものがある。埋没土に炭化物を多く含むことも特徴的であるが、焼骨は確認できなかった。それは、削平されたことも一因かもしれないが、おそらく東日本タイプのため、全て拾骨された結果ではないかと思われる。その一つの107号土坑では灰釉陶器の段皿破片も出土しており、一般的に多く見られる中世ではなく古代と考えた。他の火葬遺構もほぼ同様な時期のものと想定し、３面で取り扱うこととした。107号土坑や113号土坑のように掘立柱建物と重複しているものもあり、柱穴との切り合い断面から、火葬遺構の方が新しいことも判明した。

３面Ｇ２区概要（図20、PL.１・２）

３面では溝１条、竪穴建物31棟、掘立柱建物４棟、土坑46基、ピット65基を調査した。この区で唯一確認された27号溝はほぼ南北に走向するが、その東側に平行して10号掘立柱建物が位置する。さらにその南西隅を覆い隠すようにＬ字に４号ピット列が並ぶ。27号溝からは11カ所に及ぶ遺物集中箇所が確認された。また、95・105・119号竪穴建物などのように長軸が南北に向き、他のものに比べて四隅が非常に角張るものがあり、この三者はほぼ同時期のものと考えられる。27号溝の西側で10号掘立柱建物と対峙する位置にある119号竪穴建物からは朱墨で「寺□？」と書かれた灰釉陶器碗が出土している。同じ掘立柱建物でも10号掘立柱建物と北西－南東方向の軸を持ち斜めに交錯する８・11号掘立柱建物やそれに直角に延びる12号掘立柱建物は時期を異にするものと考えられる。10号掘立柱建物の南側の110号竪穴建物からは石帯が出土している。12号掘立柱建物の北東には１～３号ピット列として調査したピット列があり、一連のものと考えられる。この時期の土坑は円形のものが多く、一部楕円形のものもあり、灰釉陶器や羽釜・甕などの破片が出土したものもある。10号掘立柱建物の周りには多いが、内部には少ない。ピットは27号溝の西側と東側に

やや纏まる部分がある。

３面Ｇ３区概要(図21、PL.１・２)

３面では溝２条、道２条(25・26号溝の南北両側溝含む)、竪穴建物46棟、掘立柱建物１棟、土坑63基、火葬遺構１基、ピット47基を調査した。23・24号溝は重複しており、23号溝が24号溝を切り込むが、両溝を北に延長するとＧ２区の27号溝に続く位置にあたる。23・24号溝の南側には５号道の北側溝(26号溝)があり、続いていた可能性もある。５号道はＧ４区にも続くものである。１号道は調査時点で唯一道の名称を付して調査したものである。埋没土は確認出来ず、伴う遺物もなく明確な時期は特定できない。３面目の調査で確認したものであるので、ここに記載した。なお、残存部分から失われた部分を復元するとどうしても一直線にならず、ズレてしまうので、曲がるのか、時期の違うものが２条あったのか、など詳細は不明である。竪穴建物は長軸がほぼ南北か東西を向くものと西か東にやや傾くものと大きく傾くものとがある。カマドは多くが東カマドであるが、北カマドや南東隅のものもある。掘立柱建物は２間×２間の小形長方形のものである。長軸が南北よりも東に大きく傾くものであり、Ｇ２区の12号掘立柱建物とほぼ同じ向きである。土坑は９号掘立柱建物や１号道を除く周辺で確認されたものが多い。23・24号溝の周辺は少ない。平面形は円形もしくは楕円形のものが多いが、隅丸方形のものもある。内部から灰釉陶器の破片やその他土器片が出土したものがある。火葬遺構は200号土坑1基であるが、230号土坑も埋没土に多量の炭化物が含まれており、その可能性がある。９号掘立柱建物の南東側の120号竪穴建物北東隅で確認された。内部から灰釉陶器段皿が出土した。ピットは23溝の西側でややまとまる傾向がある。

３面Ｇ４区概要(図22、PL.１)

３面では道２条(25・26号溝、30・31・37号溝の南北両側溝含む)、竪穴建物27棟、土坑77基、ピット27基を調査した。道は３号道と５号道を確認した。３号道の北側側溝には30号溝があるが、その北側にも平行する37号溝があり、同時に２本の側溝が機能することは考え難いので掘り直している可能性が高い。３号道はＧ５区では４号道に連続するものと考えられるが、間に確認できなかった部分が入り､北側に２本あった側溝が１本となり、道全体も若干曲がるように見える。それに比べ北側の５号道はＧ３区との繋がりを見ても東西方向にかなり直線的である。３号道は北側溝を掘り直しているだけでなく、その３号道をさらに綺麗に整備し直したのが５号道ではないかと想定される。竪穴建物はほぼ南北を向くものと斜めに傾くものがあり、東カマドと北カマドの２基を持つものもある。同時に２基使用されていたものではなく造り替えと思われる。土坑は３面目で多くの長方形の土坑を調査したが、１・２面のものとして取り扱った。３面の土坑は円形または楕円形のものが多く、黒色土器や須恵器の甕・椀などの破片が出土したものもあり、調査区の西半に比べ東半の方がやや多い感じはするが、特定の場所に纏まる傾向は掴み難い。それに対しピットは北西隅に集中する。その場所の土坑内にはピットが確認された。

なお、調査区中程で確認した20号溝は埋没土にAs-Bが含まれるものであり、隣のＧ３区とＧ５区では１・２面で確認されており、上面のものとして取り扱った。

３面Ｇ５区概要(図23、PL.１)

３面では溝１条(道の側溝か)、道２条(33・34号溝、32･36号溝の側溝含む)、竪穴建物32棟、土坑24基、ピット33基を調査した。調査時の４条の溝は整理段階に於いて道の側溝と判断し、道として記載した。なお、35号溝としたものも写真を見ると間を置いた東側に飛び飛びに浅い凹みが連続することが分かり、道の可能性が出てきた。35号溝から東側部分が古い道であり、そのまま北に延長すると３号道に直交することとなる。35号溝を西側溝とした道と２号道は平走しており、前者を造り直したのが２号道(西側溝33号溝、東側溝34号溝)の可能性が想定される。２号道は４号道を越えて北に延長すると５号道と直交することになるが、南に延長するとH区にやや曲がりながら繋がる。４号道(北側溝36号溝、南側溝32号溝)は２号道との交点で消えてしまい、その東側は確認できなかった。その先にはＧ４区３号道があり、一連のものと考えられる。竪穴建物は軸がほぼ南北を向くものと西か東に斜めに傾くものがある。古墳時代のものは西に大きく傾き、カマドも北カマドのものである。ほぼ南北を向くものは東カマドが多い。カマドを持たない隅

丸長方形の竪穴建物は鉄滓や鉄製品など鉄に関わるものもあり、通常の竪穴建物ではなく、工房ではないかと考えられる。204号竪穴建物からは銅製小神像と共に坩堝が、222号竪穴建物からは経筒の蓋が出土した。10世紀代の他の竪穴建物と長軸の傾きがやや異なる。小神像は10世紀末から11世紀のものが多く、経筒は11世紀に経塚に納められることが多く、両者とも11世紀代の可能性も考えられる。土坑は円形もしくは楕円形のものが多く、隅丸長方形や方形のものはない。須恵器の甕・足高の椀などが出土したものもある。竪穴建物の周辺に若干多い傾向がある。ピットは33号溝の西側に纏まる傾向が見られる。その場所の土坑内にはピットが確認されたものもある。

３面Ｈ区概要（図24、PL.１）

３面では道１条（18・19号溝含む）、竪穴建物44棟、掘立柱建物２棟、土坑53基、土坑墓１基、ピット18基を調査した。２号道はやや蛇行しながらも東側溝の18号溝はＧ５区34号溝に、西側溝の19号溝は同区33号溝に連続する一連のものと考えられる。路面幅は北側がやや狭く、南側が広くなっているが、側溝を含めた全体の幅については然程大差ない。削平されたことにより、側溝の幅が狭くなり、路面幅も広がったように見えている可能性がある。竪穴建物は東カマドのものがほとんどであるが、南カマドのものもある。調査区の南東部に重複の激しい部分がある。10世紀代のものが多く、65号竪穴建物から「万」の墨書土器が出土した。掘立柱建物は調査区の南壁で６号掘立柱建物が、調査区中央やや東寄りの84号竪穴建物と重複する位置で７号掘立柱建物が確認された。６号掘立柱建物は３間×３間以上のやや大形の建物であるが、７号掘立柱建物は１間×２間の小形の建物である。建物の長軸は北に対して前者は西向きで、後者は東向きであり、Ｇ１・２区にある多くの掘立柱建物群とほぼ一致する。土坑は竪穴建物が少ない中央部から北寄りで多くのものを確認した。中には羽釜や甕・椀などの破片が出土したものもある。３面で確認した長方形の撹乱とされたものと土坑は１・２面で記載した。撹乱と土坑は共に埋没土は塊が入るしまりの悪い埋め戻しした土であることが多く、掘ってみないと確認しづらい。土坑墓は１基確認された。168号土坑は長方形のものであるが、その長軸は真北に対して少し西寄りに傾いており、形は似ていても新しい時期の土坑とは異なる。遺物もやや上層からではあるものの、10世紀前半頃と考えられる須恵器の椀や灰釉陶器口縁部破片が出土しており、３面のものと判断した。ピットは特に集中する場所はなく、全体にかなり疎らである。他に調査区中央で北東－南西に走向する20号溝の続きを３面で確認したが、１・２で記述した通りである。

１　溝

３面で取り扱うものは埋没土にAs-Cが確認されたのであり、古代に埋没したものと考えられるものである。なお、当初に単独の溝として番号を付して調査したものの中に２本の溝が一定の間隔を置いて平走するものは硬く締まった当時の路面は削平されてしまい確認できなかったが、道として機能していた可能性が高いと考え、道として新たな番号を付して別に記載した。

３面Ｆ区

２号溝（図60・361・362、PL.35・501）

Ｆ区のほぼ中央で北西から南東にかけて１号溝と３号溝の間で確認された。14・15号土坑に先行する。溝の掘り方の類似性や方向性、流れから５号溝に連続する可能性がある。長さ約24.3mとＦ区では１号溝に次いで長い。深さ15～58㎝と残りの良い北西部はかなり深い。地形の変換点で途切れる。埋没土にAs-C混じりの黒褐色土が確認されたので、古代のものと考えられる。遺物は７世紀後半～８世紀前半のものと10世紀後半のものが出土しているが、遺構の時期としては10世紀後半の可能性が高いのではないかと思われる。

３号溝（図61・362、PL.35）

Ｆ区のほぼ中央で北西から南東にかけて２号溝の南側で確認された。重複はない。調査区外に延びると思われるが、確認した範囲は長さ約５ｍと短い。南東側は幅も狭くなり、地形の変換点前で消える。深さも７～23㎝と浅い。埋没土にAs-C混じりの黒褐色土が確認されたので、古代のものと考えられる。遺物は８世紀中頃のものと10世紀後半のものが出土しているが、遺構の時期としては10世紀後半の可能性が高いのではないかと思われる。

４号溝（図62・363、PL.35）

Ｆ区の南部で確認された。47～49号土坑・11・15号竪

穴建物との新旧不明。11号竪穴建物南側からの確認した範囲は長さ約15.8m。上下端は幅狭で細く尖る。南端は地形の変換点前で消える。深さも４～22㎝と浅い。埋没土にAs-C混じりの黒褐色土が確認されたので、古代のものと考えられる。遺物は６世紀代のものと10世紀後半のものが出土しているが、遺構の時期としては10世紀後半の可能性が高いのではないかと思われる。

５号溝（図61・363、PL.36・501）

Ｆ区の南東部で確認された。１号溝に先行する。確認した範囲は長さ約12.3m。上端は箱形で幅広い。南端は調査区の壁まで続く。深さは25～40㎝とやや深い。掘り方の類似性と方向性、流れから２号溝に連続する可能性がある。埋没土にAs-C混じりの黒褐色土が確認されたので、古代のものと考えられる。遺物は８世紀代のものと10世紀末のものが出土しているが、遺構の時期としては10世紀後半の可能性が高いのではないかと思われる。

３面Ｇ１区

38号溝（図63・375、PL.37）

Ｇ１区の西端で南北方向に確認された。調査区外で219号竪穴建物と重複するが、不明。溝の掘り方の類似性や方向性、流れから南側はＧ２区27号溝に連続する可能性がある。Ｇ３区23号溝・Ｇ２区27号溝と合わせ、区画溝の可能性あり。長さ約7.3mと短い。深さ９～25㎝とやや深い。埋没土にAs-C混じりの黒褐色土が確認されたので、古代のものと考えられる。遺物は須恵器の羽釜や椀などが出土しているが、いずれも10世紀代のものであり、遺構の時期としても同様の10世紀代と考えられる。

３面Ｇ２区

27号溝（図63・399、PL.37）

Ｇ２区の中央部やや西側で南北方向に確認された。249号土坑・92号ピットと重複するが、新旧関係不明。溝の掘り方の類似性や方向性、流れから北側はＧ１区38号溝に、南側はＧ３区23号溝に連続する可能性がある。23号溝や38号溝に比べて直線的で整っている。長さ約25.8mと長い。深さ10～36㎝とやや深い。Ｇ３区23・Ｇ１区38号溝と合わせ、区画溝の可能性あり。10号掘立柱建物の西側を通り、４号ピット列に挟まれる位置にあり、何らかの埋没土にAs-C混じりの黒褐色土が確認されたので、古代のものと考えられる。遺物は10世紀前半～後半のものが出土しており、遺構の時期としては10世紀代と考えられる。

３面Ｇ３区

23号溝（図64、PL.39）

Ｇ３区の南東部で確認された。21号溝に先行し、24号溝・151号竪穴建物に後出する。溝は直線状ではなくやや右にカーブする。溝の掘り方の類似性や方向性、流れから北側はＧ２区27号溝に連続する可能性がある。南側は５号道の北側溝の26号溝に連続する可能性もある。Ｇ３区23号溝・Ｇ２区27号溝と合わせ、区画溝の可能性あり。長さ約17.6mである。深さ６～10㎝と浅い。埋没土にAs-C混じりの黒褐色土が確認されたので、古代のものと考えられる。時期判定できる遺物は出土しなかったが、24号溝と重複しており、遺構の時期としてもそれに近い時期の10世紀代頃ではないかと思われる。

24号溝（図64・435、PL.39・48・521）

Ｇ３区の南東部で確認された。23号溝に先行する。直線状ではあるが、南端は26号溝の手前で終わる。北側は23号溝で切られ、23号溝と一緒になるのか、それともその先もあったのか、その先は不明である。北を真っ直ぐに上がるとＧ２区27号溝があり、連続する可能性もある。Ｇ３区23号溝・Ｇ２区27号溝と合わせ、区画溝の可能性あり。長さ約６ｍである。深さ３～６㎝と浅い。埋没土にAs-C混じりの黒褐色土が確認されたので、古代のものと考えられる。遺物は10世紀代のものが出土しており、遺構の時期もほぼ同じの10世紀代と考えられる。

２　道

当初に道として調査したものは１号道のみであった。しかし、単独の溝として番号を付して調査したものの中に２本の溝が一定の間隔を置いて平走するものがあり、間に硬く締まった当時の路面は確認できなかったが、道として機能していた可能性が高いものと考え、整理段階において新たに道番号を付してここに記載した。

３面Ｇ３区

１号道（図65、PL.40）

Ｇ３区の北西半で北西－南東の走行方向で確認された。125・126竪穴建物・241号土坑と重複するが新旧関係不明。間が途切れる部分でズレが大きく、直接は繋がらないものと思われる。ズレる部分で平行するのであれば造り替えの可能性も考えられる。南東端は20号溝(旧22号溝)手前で途切れる。長さは北西部分が約7.3m、南東部分が約16.8mである。通常道の路面はわずかに下がっていて、底面に水が流れた痕跡があることが多いが、確認時には周りよりもわずか２㎝程盛り上がっており、使用時よりも周りが下がってしまった可能性が高い。確認したのは３面であるが、埋没土はなく、確実な時期は不明である。１・２面の可能性も否定できない。

３面Ｇ５～Ｈ区

２号道(Ｇ５区33・34号溝、Ｈ区19・18号溝)(図66・67・492・493・524・361・362、PL.40～44・539・547・548)

Ｇ５区の西側からＨ区の東側でほぼ南北の走行方向で確認された。Ｇ５区とＨ区の繋がりは直線ではなく、ややカーブするものと思われる。東側溝(Ｇ５区34号溝)は32・36号溝(４号道北側溝) 297号土坑・223号竪穴建物に後出する。Ｈ区18号溝に繋がるものと想定される。幅1.5～３m弱、深さ10～40㎝、長さ約31mである。西側溝(Ｇ５区33号溝)は32・36号溝(４号道)・242号竪穴建物に後出する。139･142･158号ピットとの新旧不明だが、西側溝の上場に並ぶので溝と同時期の可能性もある。幅1.7～３m弱、深さ約20～35㎝、長さ約23mである。底面形態はいずれも浅い丸底である。路面幅は約2.5～3.6mである。溝の心心幅は4.9～5.1m、概ね５m前後の規模である。当時の路面の硬化面は確認できなかった。

東側溝(Ｈ区18号溝)は95号竪穴建物・167・194号土坑に後出する。198号土坑との新旧関係不明。Ｇ５区34号溝に繋がるものと思われる。幅１～1.7m、深さ３～34㎝、長さ約10mである。西側溝(Ｈ区19号溝)は87・98号竪穴建物に後出する。302号土坑との新旧不明。幅1.5～2.4m弱、深さ約20～35㎝、長さ約18.6mである。底面形態はいずれも浅い丸底である。路面幅は約2.2～3.7mである。溝の心心幅は4.6～5.1m、概ね５m前後の規模である。Ｇ５区からＨ区までの間も入れると全体の長さは54.4mと長い。平均値で見ると溝の幅は1.4～2.5m、深さは13～36㎝、路面幅は2.3～3.6m、心心幅は4.7～5.1mである。硬化面は確認できなかったので当時の路面は削られて失われていたものと考えられる。いずれの溝も埋没土にAs-C混じりの黒褐色土が確認されたので、古代のものと考えられる。遺物は33号溝から10世紀代のものが、34号溝から10世紀後半のものが出土しており、遺構の時期は10世紀後半の可能性が高いのではないかと考えられる。

３号道(Ｇ４区30・31・37号溝、Ｇ５区32・36号溝)(図68・69・472・473、PL.45・94・533)

Ｇ４区の南東部で確認された。Ｇ５区４号道に繋がるものと思われるが、同区では確認できなかった部分が広く、また北側溝２本が平行しているので、掘り直しているものと思われる。北側溝(30号溝)は345・368号土坑に先行し、179号竪穴建物・37号溝に後出する。Ｇ５区36号溝に繋がるものと思われる。幅0.7～1.9m、深さ８～30㎝、長さ約26.5mである。南側溝(31号溝)は327・328・343号土坑に先行し、179号竪穴建物・364・365・414号土坑に後出する。幅1.2～1.6m弱、深さ約17～25㎝、長さ約11.4mである。底面形態はいずれも浅い丸底である。路面幅は約2.2～2.8mである。溝の心心幅は４～4.1m、4m前後の規模である。当時の路面の硬化面は確認できなかった。

北側溝(37号溝)は340・342・346・368・372・392号土坑・30号溝に先行し、364・365・414号土坑に後出する。Ｇ５区36号溝に繋がるものと思われる。幅１～1.7m、深さ３～34㎝、長さ約10mである。底面形態は浅い丸底である。31号溝との心心幅は5.5～5.9m、概ね６m弱の規模である。４号道と合わせた全体の長さは61.2mと長い。平均値で見ると溝の幅は１～２m、深さは11～31㎝、長さは23.5mである。路面の硬化面は確認できなかったので当時の路面は削られて失われていたものと考えられる。いずれの溝も埋没土にAs-C混じりの黒褐色土が確認されたので、古代のものと考えられる。遺物は30号溝から８世紀後半～10世紀代のものが、31号溝から７世紀後半のものが、37号溝から10世紀代のものが出土しており、古いものは混入品で遺構の時期としては10世紀代の可能性が高いのではないかと考えられる。

４号道(図241・242、PL.46・47)

Ｇ５区の西部でやや右上がりで斜めに傾いた東西方向

で確認された。同区では５号道よりも西側が確認できなかったが、その方向性からＧ４区３号道に繋がるものと思われる。Ｇ４区で平行していた北側溝(37・30号溝)２本がＧ５区では１本(36号溝)だけになっているので、恐らく37号溝が途中で消えて30号溝に繋がると思われるが、その辺りは明確ではない。北側溝(36号溝)は33・34号溝に先行する。幅0.6～2.4m、深さ５～13㎝、長さ約11ｍである。南側溝(32号溝)も33・34号溝に先行する。幅0.9～1.5m弱、深さ約６～23㎝、長さ約12.7ｍである。底面形態はいずれも浅い丸底である。路面幅は約1.9～4.2mである。溝の心心幅は４～4.1m、概ね４ｍ前後の規模である。また、平均値で見ると幅約１～２ｍ弱、深さ６～20㎝弱、長さ12m弱である。溝の深さは浅く、２号道と重複する部分よりも東側が確認できなかった。かなり削られているものと考えられる。当時の路面の硬化面も確認できなかった。いずれの溝も埋没土にAs-C混じりの黒褐色土が確認されたので、古代のものと考えられる。明確に伴うと考えられる遺物は出土していないが、３号道に連続ものである可能性が高いので、10世紀代のものと思われる。

３面Ｇ３～4区

５号道(Ｇ３・Ｇ４区25・26号溝)(図70～72・435・436、PL.48～51・533)

Ｇ３区南東部からＧ４区の北部で２°程右上がりに傾いてはいたが、ほぼ東西と言っても良い直線走行で確認された。Ｇ４区との繋がりも一直線であり、途中で曲がったりはしない。北側溝(Ｇ３・４区26号溝)は123号竪穴建物に先行し、181・208号竪穴建物に後出する。150号竪穴建物・216号土坑との新旧関係不明。幅1.6～2.5m弱、深さ９～34㎝、長さ約55.6ｍである。南側溝(Ｇ３・４区25号溝)は358・359・369号土坑に先行し、292・370・406・418号土坑に後出する。幅１～2.4m弱、深さ約10～37㎝、長さ約55.4mである。底面形態はいずれも浅い丸底である。路面幅は約2.7～4.4mである。溝の心心幅は4.7～5.7m、概ね５～６ｍ前後の規模である。Ｇ３区からＧ４区までの間も入れての全体の長さは55m以上あり今回調査範囲では最長である。平均値で見ると溝の幅は1.3～2.4m、深さは10～36㎝である。今回調査した道の中では状態は良い方ではあったが、溝も浅く当時の路面は削られて失われていたものと考えられる。いずれの溝も埋没土にAs-C混じりの黒褐色土が確認されたので、古代のものと考えられる。遺物は25号溝から10世紀後半のものが、26号溝から10世紀代のものが出土しており、また竪穴建物との新旧関係から遺構の時期としては10世紀代でも後半の可能性が高いのではないかと考えられる。

３面Ｇ５区

６号道(35号溝)(図73、PL.52)(６号道西側溝)

Ｇ５区の東部で南北方向に確認された。291号土坑に後出する。溝はかなり直線的で、南側は幅広で残りも良いが、北側は溝最深部の痕跡が残るのみで溝自体の幅は確認できていない。方向的には２号道西側溝である34号溝に平行し、４号道南側溝である32号溝、３号道南側溝である31号溝に直行する位置にある。長さ約20.8mである。深さ６～12㎝と浅い。写真で見る限りは本溝に対峙する一定の距離を置いた東側に緩やかな浅い凹みと間のわずかな高まりが連続しており、全体として道があった可能性は否定できない。そうであるとすると本溝はその道の西側溝であった可能性が考えられる。埋没土にAs-C混じりの黒褐色土が確認されたので、古代のものと考えられる。出土遺物の６世紀代の埴輪片は混入品と考えられる。これ以外の道については以下に記載した。

３　土坑墓・火葬遺構

ここでは墓と墓に関連する土坑墓と火葬遺構について記述する。土坑墓は土坑を掘って遺体を埋葬したもので、火葬遺構は火葬土坑とも報告されることもあるもので遺体を焼いてそのまま埋葬する場合と焼いた後に焼骨を拾骨して別の場所の墓に埋葬するものがある。本郷鶴楽遺跡例では焼骨はほとんど検出されず、焼いた場所ではあるが、焼骨は持ち出され、そこには埋葬されていないものと考えられる。

土坑墓はＦ区65号墳の周溝西側で約１ｍの間を開けて２基とも長軸はほぼ南北からやや東を向いて中に礫が入る状態で確認された。同時期と見ることもできるかもしれないが、その形態や土層・出土遺物などから総合的に１号土坑墓は中世、２号土坑墓は古代と判断した。なお、これまでの調査事例から２基とも土葬であり、１号土坑墓は屈葬、２号土坑墓は伸展葬と考えられる。３面では

２号土坑墓について記載し、１号土坑墓は２面に記載した。

また、火葬遺構はＧ１区で４基、Ｇ３区で１基が確認された。Ｇ１区の４基は105・107・113・114号土坑として、Ｇ３区の１基は200号土坑として番号を付して調査したものである。それ以外にやや形が卵形に歪み極めて浅いが、埋没土に多くの炭化物を含む230号土坑も火葬遺構の可能性は否定できない。概ね隅丸方形か隅丸長方形で、張り出しを持つものと持たないものがある。Ｇ１区の４基は２号掘立柱建物と３号掘立柱建物の近くで纏まっており、一部は柱穴との重複が認められた。いずれも３面で調査したものである。浅いものが多く、上部は削平されていた。埋没土の特徴としては炭化物や灰が含まれることである。しかし､焼骨片は検出されなかった。107号土坑を除く浅い３基からは陶磁器や古銭などの遺物の出土は無かったが、埋没土に極わずかにAs-Cが含まれることが分かった。火葬遺構や火葬土坑として報告されたこれまでの事例のほとんどは中世であるが、古代のもないわけではない。中世とするのが一般的かもしれないが、As-Bを含む中世の埋没土よりもAs-Cを含む古代の埋没土に近いものと見ることもできる。107号土坑からは灰釉陶器の段皿や須恵器の椀破片等が出土しているので明らかに古代でも10世紀代のものであることが分かる。そこで、敢えて４基を２面(中世)と分けずに調査時の３面(古代)で一括して記載することとした。また、Ｇ３区の200号土坑は１基だけ離れた位置にあり、長軸もほぼ南北を向く。深さも0.20mと確認された中では最も深い。中から灰釉陶器の皿が出土していることから３面(古代)のものと考えられる。Ｇ１区の４基１群とはやや軸がズレるがほぼ同時期のものと考えられる。

３面Ｆ区

２号土坑墓(図76・364、PL.126・501)

Ｆ区の65号墳西側周溝で確認された。65号墳に後出する。長軸はＮ－20°－Ｅ、位置はＸ＝771～773、Ｙ＝-848～849、平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸1.86m、短軸0.74m、深さ0.53mである。埋没土は礫層の上がAs-Cを少量含む黒褐色土で、礫層の下はAs-Cを少量、にぶい黄褐色土塊やローム塊を含む黒褐色土。隣に１m弱の間を置いてほぼ平行して２面の１号土坑墓がある。どちらも内部には円礫が入れられており、検出状況は類似する。しかし、平面形態は短軸の割に長軸は長く、伸展葬であった可能性が高い。遺物には釘はなかったが、10世紀前半と考えられる完形の椀が３点出土しており、埋没土にAs-Cが含まれていることからも古代のものと判断される。須恵器の「井」の墨書のある杯は９世紀第４四半期のもので、須恵器の椀２点は10世紀第１四半期のものと考えられ、遺構の時期も同時期と考えられる。

３面Ｇ１区

105号土坑(火葬遺構)(図82、PL.126)

Ｇ１区の２号掘立柱建物の南東側で確認された。３面で他の遺構との重複は無い。長軸はＮ－13°－Ｗ、位置はＸ＝744～745、Ｙ＝-841～842、平面形は隅丸方形で西側に張り出し(通風口)を持つタイプである。規模は長軸1.04m、短軸0.82m、深さ0.03mである。埋没土は灰褐色土を含む炭化物層である。ほとんどの部分が削平され、土坑の底面を確認したのみである。古銭や土器や陶磁器などの遺物はない。焼骨片も検出されていない。土層写真を拡大して見るとAs-Cが極わずかに入っていることが分かる。中世と考えるのが妥当かもしれないが、古代の可能性も否定できない。

107号土坑(火葬遺構)(図82、PL.126・127)

Ｇ１区の２号掘立柱建物の南東側で確認された。２号掘立柱建物Ｐ11に後出する。長軸はＮ－87°－Ｅ、位置はＸ＝745～746、Ｙ＝-843～845、平面形は隅丸方形で北側中央に張り出しはないがその部分が赤褐色に変色しており、そこが高温になっていたことが分かる。その部分に通風口があったものと考えられる。規模は長軸1.51m、短軸1.12m、深さ0.19mである。埋没土はローム塊・ローム粒・炭化物を含む黒褐色土である。下層には炭化物が非常に多く含まれる。深さ0.19mと４基の中では最も残りは良い。灰釉陶器段皿破片や須恵器椀破片などが出土した。焼骨片は検出されていない。当初は中世と想定していたが、遺物は埋没土の上面でなく、途中からの出土であり、古代とするのが妥当と思われる。遺物は10世紀代のものと同前半のものが出土しており、遺構の時期としては10世紀代と考えられる。

113号土坑(火葬遺構)(図82、PL.127)

Ｇ１区の３号掘立柱建物と重複する南東部分で確認さ

れた。同掘立柱建物柱穴１・２に後出する。長軸はＮ－46°－Ｅ、位置はＸ＝739～740、Ｙ＝-850～851、平面形は隅丸方形で張り出し(通風口)はない。規模は長軸0.86m、短軸0.74m、深さ0.06mである。埋没土は炭化物を含む褐灰色土である。ほとんどの部分が削平され、土坑の底面を確認したのみである。壁や底面に特に良く焼けた部分はなく、通風口の位置は不明である。古銭や土器や陶磁器などの遺物はない。焼骨片も検出されていない。土層写真を拡大して見るとAs-Cが極わずかに入っていることが分かる。中世と考えるのが妥当かもしれないが、古代の可能性も否定できない。

114号土坑(火葬遺構)(図82、PL.127)

Ｇ１区の３号掘立柱建物内の南東部分で確認された。112号土坑に先行する。長軸はＮ－76°－Ｗ、位置はＸ＝741～742、Ｙ＝-852～853、平面形は隅丸長方形で張り出し(通風口)はない。規模は長軸1.23m、短軸0.79m、深さ0.08mである。埋没土の上層はAs-C少量含む褐灰色土で、下層は炭化物層である。上部は削平され、土坑の下部を確認したのみである。壁や底面に特に良く焼けた部分はなく、通風口の位置は不明である。古銭や土器や陶磁器などの遺物はない。焼骨片も検出されていない。中世と考えるのが妥当だが、古代の可能性も否定できない。

３面Ｇ３区

200号土坑(火葬遺構)(図93、PL.127・128)

Ｇ３区ほぼ中央の120号竪穴建物の北東隅で確認された。120号竪穴建物に後出する。長軸はＮ－３°－Ｗ、位置はＸ＝700～701、Ｙ＝-890～891、平面形は北辺が直線的で、南辺は丸味を持つ隅丸長方形で張り出し(通風口)を持たないタイプである。規模は長軸1.31m、短軸0.96m、深さ0.20mである。埋没土は炭化物を大量に含む黒褐色土である。底面では炭化物の周りは良く焼けており、赤変していた。本郷鶴楽遺跡例の中では比較的残りは良い。遺物は灰釉陶器段皿が出土している。焼骨片は検出されていない。遺物は10世紀前半のものが出土しており、遺構の時期としては10世紀前半の可能性が高いと考えられる。

230号土坑(火葬遺構)(図93、PL.128)

Ｇ３区の北東寄りの124号竪穴建物の1.5mほど東側で確認された。重複は無い。長軸はＮ－57°－Ｗ、位置はＸ＝709～710、Ｙ＝-881～882、平面形は楕円形で張り出し(通風口)を持たないタイプである。規模は長軸1.12m、短軸0.96m、深さ0.06mである。埋没土は炭化物を大量に含む黒褐色土である。底面では良く焼けて赤変している部分は確認できなかった。比較的残りはあまり良くなく、底面のみが残存していた。出土遺物はない。焼骨片は検出されていない。本遺跡での他の類例から古代のものと考えた。短軸は200号土坑と全く同じであり、何らかの規制が働いていた可能性もある。

３面Ｈ区

168号土坑(土坑墓)(図106、PL.128)

Ｈ区の中央北寄り76号竪穴建物の北側で確認された。南側は斜めに撹乱に切られている。残存部分にかかる重複はない。長軸はＮ－12°－Ｗ、位置はＸ＝630～632、Ｙ＝-956～957、平面形は長方形を呈する。底面は平坦で、断面は鍋型よりも箱型に近い。規模は長軸(1.06)m、短軸0.62m、深さ0.34mである。埋没土はAs-Cと炭化物を少量含む茶褐色土で、下層はにぶい黄褐色土塊やローム塊を含む暗褐色土である。近隣には同様な土坑墓はなく、単独の土坑墓である。同区の18m南には182号土坑(火葬遺構)がある。遺物には釘はなかったが、10世紀前半と考えられる須恵器の椀や灰釉陶器口縁部破片が出土しており、埋没土にAs-Cが含まれていることからも古代のものと判断される。

182号土坑(火葬遺構)(図106、PL.128)

Ｈ区の南部77号竪穴建物の南壁中央手前で確認された。77号竪穴建物に後出する。長軸はＮ－14°－Ｅ、位置はＸ＝611～612、Ｙ＝-961～962、平面形は隅丸長方形で張り出し(通風口)を持たないタイプである。規模は長軸1.07m、短軸0.72m、深さ0.10mである。埋没土上層はくすんだローム土にローム塊を含むにぶい黄褐色土で、下層は炭化物を大量、焼土を含む黒色土である。底面には炭化物が堆積しており、一部焼土も確認されたことから、火葬遺構とした。Ｇ１区の浅い一群同様に残りはあまり良い方ではない。遺物は須恵器椀が出土し、焼骨片は検出されていない。出土遺物から古代のものと考えられる。

４　古墳

本遺跡は、昭和40年代に群馬県教育委員会によって調査された本郷奥原古墳群の東端部に重複する。この本郷奥原古墳群の詳細については、「奥原古墳群」（群埋文1983）を参照されたい。本調査区で検出された古墳は、この本郷奥原古墳群で調査された古墳のうち最東端に位置する第65号墳に該当すると考えられる。この第65号墳は、調査時には主体部の奥壁と考えられる立石が突出し、墳丘はほぼ削平された状態であった。しかし、トレンチ調査の実施により、墳丘の規模が直径9.6m、周堀を含めると15.6mの規模をもつ円墳であることが確認された。また、前庭施設や埴輪の樹立は認められず、石室は全長4.65mの両袖型横穴式石室であった。主体部の掘り方は、主軸側が6.0m、幅は玄室奥壁側で4.5m、羨門側で3.5mのバチ型が想定された。遺物は、石室内から土師器の杯や鉄鏃が、墳丘表面から須恵器の杯身、長頸壺、台付長頸壺、壺などが出土している。

今回の調査では、前回の調査で未確認であった石室の下部構造や周堀の完掘などに主眼を置いて調査を行った。しかし、調査を進めると、前回の調査時に比べ石室壁体の残存状況が悪化していることや、前庭部を中心に広範囲に攪乱が及んでいることなどがわかった。これは以前の調査後に行われた圃場整備やその後の耕作が主な原因ではないかと推測できる。また、今回の調査では、墳丘のおよそ1/4が調査区外であったため、あらためて墳丘規模を明らかにすることはできなかった。一方、主体部の掘り方は、主軸側が6.46m、幅が4.18mの長方形であることが明らかになった。

65号墳（図107～113・347～349、PL.129・130・496・550）
位置　768～785、-847～-862　奥原古墳群中最東端。本郷鶴楽遺跡中最北部のＦ区南西端。**主軸方位**　Ｎ－4°－Ｅ
重複　有り。34･43号竪穴建物、1・２土坑墓に先行する。
規模　墳丘径9.6m。周堀含む径15.6m。西側堀幅3.20～4.50m、深さ0.29～0.52m、東側堀幅2.80m、深さ0.08～0.13m、石室前堀幅1.60～2.30m、深さ0.06～0.07m。石室奥壁西側に堀幅最大部分及び最深部有り。『奥原古墳群』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団1983によれば当時の調査時に既に奥壁１石のみが突出し墳丘は削平されていたこと。墳丘の盛り土は10～40㎝程であったこと。前庭施設や埴輪の樹立は確認できなかったことなどが記載されている。
主体部の構造　前報告書によると全長4.65mの両袖型横穴式石室を主体部に持つ。主体部は全体の長さ６m、玄室側で幅4.5m、羨道側で幅3.5mのバチ型の「掘り方」を持ち、奥壁寄りでの掘り込みの深さは旧表土面から0.5m程であった。奥壁に立っていた1.60mの大形礫は今回の調査では確認できなかった。玄門柱には川原石が立てられていたということであるが、今回調査では確認できなかった。閉塞は羨道部の前後に主軸方向に長い石を小口積みに組んでその中に径10～20㎝大の石を充填していたということであるので、今回確認されたものは、その一部が残存していたものと考えられる。
遺物出土状態　周堀から８世紀代を中心とする須恵器の杯・椀・蓋・盤・瓶・壺・甕・瓦など多彩な破片が出土した。土坑墓の構築を始め、周堀内は埋没後に様々な利用がされたことが考えられる。石室内からは馬具と考えられる鉄製品の部分破片が出土した。
備考　所属時期　前回の報告書と今回の調査結果から７世紀代後半頃と考えられ、8世紀代まで追善供養が行われていたと思われる。

5　竪穴建物

全ての調査に於いて調査された。Ｆ区21棟、Ｇ１区13棟、Ｇ２区31棟、Ｇ３区46棟、Ｇ４区27棟、Ｇ５区32棟、Ｈ区44棟、計214棟である。Ｇ１区のように掘立柱建物が多いところではやや少ない傾向があり、居住域とそれ以外のものを分けていた可能性が高い。時期判定できたものは201棟であり、６世紀１棟、７世紀７棟、８世紀４棟、９世紀４棟、10世紀175棟、11世紀10棟の内訳である。圧倒的に10世紀代のものが多い。建物の軸は南北よりもやや西に振れるものは６～７世紀の古いものが多く、より小規模のものに11世紀代の新しいものが多いような傾向がある。それまでのわずかな棟数が10世紀中頃から後半になると爆発的に増大し、11世紀代になると急速に減少し、それ以後集落は消滅する。10世紀代に別の場所から移転してきた人々がまたどこかへ行ってしまうことが想定される。出土遺物から時期判定した年代観と、断面図などから想定した前後関係が逆転する場合もあったが、図面を優先し、文章で補足説明することにした。

１号竪穴建物（図114・350・351、PL.131・497）
位置　819～822、-815～-818　**主軸方位**　Ｎ－67°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積(7.15) ㎡、長軸(2.97)ｍ×短軸2.63ｍ×深さ0.22m

形状　隅丸長方形。東西方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土であり、上層はAs-C・ローム小塊を含む。下層はAs-Cやや多量､ローム小塊少量含む。

掘り方　底面からの深さ0.13m　有り。全体的に凹凸はあったが、土坑・ピット類は確認されなかった。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　建物南半で大形甕の破片、南壁際で蓋・盤、中央やや東寄りで須恵器杯が出土した。

カマド　位置　不明。東壁か。

規模　全長不明ｍ・最大幅不明ｍ・焚き口幅不明ｍ

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から８世紀第２～第３四半期頃と考えられる。

２号竪穴建物(図114・351・352、PL.132・497)

位置　815～819､-813～-816　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｗ

重複　無し。

規模　面積(6.76)　㎡、長軸(3.74)ｍ×短軸(2.14)ｍ×深さ0.27ｍ

形状　隅丸長方形で東西方向に長いか。

埋没土　全体に黒褐色土であり、上層はAs-C・ローム粒やや多量、ローム塊・焼土粒少量含む。下層はAs-C少量、炭化物粒・焼土粒やや多量、床上はローム塊を多量に含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。特に目立った掘り方はないが、中央で床下土坑１(Ｐ１)が確認された。その規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径120㎝×短径120㎝×深さ82㎝、多少凹凸はあるがほぼ円形。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。床面調査時にＰ１を確認したが、大きさと深さもあり生活面の土坑としての可能性は少ないものと判断し、床下土坑１とした。南東部はやや傾斜する部分あり。

貯蔵穴　不明。調査区外の可能性あり。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅12～14㎝×深さ４～13㎝で、調査範囲内では北壁から南壁まで反時計回りに全周する。

遺物出土状態　建物南壁寄りで大形甕・土師器と須恵器の杯、中央やや北寄りで須恵器杯２点が間を置いて出土した。

カマド　位置　不明。東壁か。

規模　全長不明ｍ・最大幅不明ｍ・焚き口幅不明ｍ

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から８世紀第２～第３四半期頃と考えられる。

３号竪穴建物(図115・352、PL.133・498)

位置　792～793､-836～-838　**主軸方位**　Ｎ－69°－Ｗ

重複　無し。

規模　面積(1.77)　㎡、長軸(2.31)ｍ×短軸(0.97)ｍ×深さ(0.11)ｍ

形状　隅丸長方形で南北方向に長いか。南側が削平され不明。

埋没土　全体に黒褐色土であり、As-C微量・焼土粒少量含む。壁際はAs-C・ローム粒少量含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。床面調査時に北東部でＰ１を確認した。その規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径41㎝×短径38㎝×深さ38㎝。円形。須恵器椀破片出土。

貯蔵穴　不明。Ｐ１の可能性も否定できない。

柱穴　不明。

周溝　無し。

遺物出土状態　多くの土師器の甕や須恵器の羽釜破片等が床直上から出土した。

カマド　位置　不明。東壁か。

規模　全長不明ｍ・最大幅不明ｍ・焚き口幅不明ｍ

袖　不明。

煙道　不明。
遺存状態　不明。
遺物出土状態　不明。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

４号竪穴建物（図115、PL.134）
位置　787～789、-828～-830　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｅ
重複　有り。38号土坑に先行する。
規模　面積(1.33)㎡、長軸(2.19)ｍ×短軸(1.40)ｍ×深さ(0.09)ｍ
形状　隅丸長方形で南北方向に長いか。南側が削平され不明。
埋没土　全体に黒褐色土であり、上層はAs-C少量・ローム粒やや多量含む。下層はAs-C・ローム粒少量含む。壁際はAs-C微量、ローム塊やや多量含む。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　特に硬化した面は確認されなかった。
貯蔵穴　不明。
柱穴　不明。
周溝　有り。幅７～10㎝×深さ３㎝で、北壁のみ巡る。
遺物出土状態　実測に堪えるような遺物は出土しなかった。
カマド　位置　不明。東壁か。
規模　全長不明ｍ・最大幅不明ｍ・焚き口幅不明m
袖　不明。
煙道　不明。
遺存状態　不明。
遺物出土状態　不明。
備考　所属時期　出土遺物から明確な時期は不明である。

５号竪穴建物（図115・352、PL.134・498）
位置　781～785、-830～-834　**主軸方位**　Ｎ－72°－Ｗ
重複　無し。
規模　面積(5.38) ㎡、長軸(2.70)ｍ×短軸(2.65)ｍ×深さ(0.03)ｍ
形状　隅丸長方形で南北方向に長いか。
埋没土　不明。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　特に硬化した面は確認されなかった。南西部のみを確認したが、南西隅に向かう傾斜と落ち込みが確認された。
貯蔵穴　不明。南西隅の落ち込みがその可能性がある。
柱穴　不明。
周溝　有り。幅５～13㎝×深さ１～８㎝で、西壁でのみ確認された。
遺物出土状態　南西隅で大形円礫３点と須恵器の椀や土師器甕体部破片等４点が確認された。
カマド　位置　東壁やや南寄りで確認された。
規模　全長0.77m・最大幅0.65m・焚き口幅0.55m
袖　無し。
煙道　建物壁外に0.68m出る。
遺存状態　不良。状態は極めて悪い。燃焼部底面の焼土のみ確認された。
遺物出土状態　遺物の出土は無い。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

６号竪穴建物（図115・352、PL.134）
位置　783～785、-838～-841　**主軸方位**　Ｎ－90°－Ｅ
重複　無し。
規模　面積(3.43)㎡、長軸(2.53)ｍ×短軸(2.50)ｍ×深さ(0.07)ｍ
形状　隅丸長方形で南北方向に長いか。
埋没土　黒褐色土で、As-C多量、焼土粒少量含む。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　特に硬化した面は確認されなかった。南東部のみを調査したが、南西隅でＰ１が確認された。その規模は下記の通りである。
　Ｐ１は長径79㎝×短径57㎝×深さ19㎝。楕円形。内部から円礫２点、角礫１点、計３点が出土した。
貯蔵穴　不明。南西隅のＰ１がその可能性がある。
柱穴　不明。
周溝　有り。幅８～10㎝×深さ１～３㎝で、東壁カマド北側でのみ確認された。
遺物出土状態　Ｐ１以外に埋没土中から須恵器杯の小破片が出土した。
カマド　位置　東壁やや南寄りで確認された。
規模　全長0.43m・最大幅0.65m・焚き口幅0.33m
袖　無し。
煙道　建物壁外に0.35m出る。
遺存状態　不良。状態は極めて悪い。燃焼部の焼土のみ

確認された。掘り方では燃焼部左脇に長径19㎝×短径15㎝×深さ８㎝、右脇に長径28㎝×短径19㎝×深さ13㎝、奥壁部分で長径25㎝×短径20㎝×深さ11㎝小ピット３基が確認された。

遺物出土状態　遺物の出土はほとんど無い。

備考　所属時期　埋没土や竪穴建物の形状などから９世紀前半頃と考えられる。

７号竪穴建物（図116・353、PL.134）

位置　776～779、-835～-838　**主軸方位**　Ｎ－84°－Ｗ

重複　有り。１号倒木に後出する。

規模　面積5.33㎡、長軸2.72m×短軸2.37m×深さ0.15m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、As-Cやや多量、ローム粒微量含む。壁周辺は、As-C少量若しくは微量、As-YP少量含む部分あり。

掘り方　底面からの深さ0.04m　有り。南西隅で西から東へ長径80㎝×短径67㎝×深さ17㎝、楕円形、長径38㎝×短径36㎝×深さ17㎝、円形、長径38㎝×短径26㎝×深さ６㎝、楕円形の落ち込みが３基切り合う形で連続して確認された。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。北西隅でＰ１が確認された。その規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径72㎝×短径59㎝×深さ37㎝。楕円形。深くしっかりした掘り方となっている。

貯蔵穴　不明。北西隅のＰ１若しくは南西隅の落ち込みがその可能性がある。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅５～12㎝×深さ１～６㎝で、東壁中央から北西隅で確認された。

遺物出土状態　カマド周辺以外では南壁西部で角礫と共に土師器甕破片が確認された。

カマド　位置　東壁南隅で確認された。

規模　全長0.75m・最大幅1.07m・焚き口幅0.37m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.32m入り、右袖は0.20m入る。

煙道　建物壁外に0.53m出る。

遺存状態　やや不良。焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。両袖の先端には礫が使用されていた。掘り方はやや幅広になり、燃焼部右壁に長径17㎝×短径12㎝×深さ11㎝、楕円形の小ピットが確認された。

遺物出土状態　左袖側では土師器と須恵器の甕体部破片、右袖側では甕もしくは羽釜の体部破片、煙道部で土師器甕破片が出土した。掘り方では燃焼部から土師器甕体部破片や須恵器椀等の破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

８号竪穴建物（図117・353、PL.136・498）

位置　761～764、-841～-844　**主軸方位**　Ｎ－6°－Ｗ

重複　有り。１号掘立柱建物に後出する。

規模　面積7.22㎡、長軸3.25m×短軸2.66m×深さ0.29m

形状　隅丸長方形。東西方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C・ローム粗粒少量、ローム塊やや多量含む。下層はAs-C・ローム粒微量含む。壁周辺は、As-C少量若しくは微量、ローム粒微量含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。カマド右手前でＰ２を確認した。その規模は下記の通りである。

Ｐ２は長径68㎝×短径64㎝×深さ20㎝、円形。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。北東隅でＰ１が確認された。その規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径68㎝×短径54㎝×深さ15㎝。楕円形。内部から円礫と共に高台付椀等破片が出土した。

貯蔵穴　不明。北東隅のＰ１がその可能性がある。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅11～17㎝×深さ２～６㎝で、北壁中央から反時計回りにカマド右手前まで確認された。

遺物出土状態　Ｐ１やカマド周辺以外では建物中央南寄りで円礫と共に須恵器の杯や椀、灰釉陶器の椀破片等が出土した。

カマド　位置　南壁東寄りで確認された。

規模　全長0.57m・最大幅0.95m・焚き口幅0.35m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.15m入り、右袖は不明。

煙道　建物壁外に0.44m出る。

遺存状態　不良。カマドの構築材には円礫が使用されていたものと考えられるが、手前のものは動いているものと思われる。掘り方は幅広になり、燃焼部右手前壁に長径21㎝×短径18㎝×深さ３㎝、楕円形の小ピットが確認された。

遺物出土状態　焚き口手前から燃焼部にかけて須恵器羽釜の体部破片が出土した。掘り方では燃焼部奥壁から須

恵器杯体部破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

９号竪穴建物（図118・354、PL.136・498・553）

位置　758～760、-838～-841　**主軸方位**　Ｎ－80°－Ｅ

重複　有り。10号竪穴建物に後出する。

規模　面積(4.52)㎡、長軸(3.02)ｍ×短軸2.73ｍ×深さ0.33m

形状　隅丸長方形で南北方向に長いか。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C・ローム粒少量含む。下層はAs-C微量、ローム粒少量含む。壁周辺は、As-C少量含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。

貯蔵穴　不明。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅４～15㎝×深さ１～４㎝で、カマド左壁から北東隅を除き反時計回りに西壁まで確認された。

遺物出土状態　建物東半で円礫や須恵器羽釜破片等、カマド左壁手前で須恵器の羽釜や杯口縁部破片等が出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.64m・最大幅(0.65)ｍ・焚き口幅(0.22)ｍ

袖　有り。左袖は建物壁内に0.29ｍ入り、右袖は不明。

煙道　建物壁外に0.37ｍ出る。

遺存状態　不良。カマド左袖は粘性土により構築されており、礫は使用されていなかったものと考えられる。掘り方は幅広になり、焚き口手前から燃焼部にかけて緩く凹む。焚き口手前に長径29㎝×短径23㎝の楕円形の範囲に焼土が確認された。燃焼部と煙道部の境目に長径25㎝×短径18㎝×深さ６㎝、楕円形の小ピットが開く。

遺物出土状態　遺物はほとんど出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

10号竪穴建物（図119・354・355、PL.137･138・498･499）

位置　759～762、-836～-839　**主軸方位**　Ｎ－74°－Ｗ

重複　有り。９号竪穴建物に先行する。

規模　面積(4.73) ㎡、長軸2.78ｍ×短軸2.46ｍ×深さ0.37m

形状　隅丸長方形で南北方向に長いか。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C・ローム粒やや多量含む。下層はAs-C微量、ローム粒少量含む。壁周辺は、As-C・ローム粒少量含む。

掘り方　底面からの深さ0.07m　有り。南側のＰ１を中心としてその周り浅く凹む。

床面　南側の凹み以外は比較的硬化した面が確認された。南壁中央部手前でＰ１が確認された。その規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径46㎝×短径44㎝×深さ12㎝、円形。

貯蔵穴　不明。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅７～15㎝×深さ２～３㎝で、東壁カマド左袖手前から北壁中央まで反時計回りに確認された。

遺物出土状態　カマド周辺を主体に建物東半で須恵器羽釜の破片や灰釉陶器椀の大形破片等が大量に確認された。

カマド　位置　東壁中央やや南寄りで確認された。

規模　全長1.13m・最大幅0.90m・焚き口幅0.28m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.14ｍ入り、右袖は0.23ｍ入る。

煙道　建物壁外に0.65ｍ出る。

遺存状態　良好。天井は無かった。カマド両袖先端には円礫が使用されており、焚き口に割られて落ちていた大形の円礫は袖の上に載っていたものと考えられる。燃焼部の両壁にも円礫が立てられていた。支脚には棒状の円礫が使用されていた。煙道部出口の上には比較的偏平な大形礫が載せられていた。焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。掘り方は幅広になり、燃焼部両壁には長径20～25㎝×短径15～18㎝前後の浅い楕円形の小ピットが左右２基ずつ、計４基開く。円礫を据えるためのものと考えられる。焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。焚き口手前に長径28㎝×短径28㎝×深さ12㎝の円形の小ピットが確認された。燃焼部中央の支脚用小ピットは長径23㎝×短径13㎝×深さ16㎝、楕円形で燃焼部では一番深いものであった。

遺物出土状態　左袖手前や右袖脇から須恵器や灰釉陶器の高台付椀、南東隅で須恵器羽釜の破片、左袖から燃焼部で多くの羽釜の破片が出土した。燃焼部の羽釜はカマドに掛けられていたものか。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期頃と考えられる。

11号竪穴建物(図120・356、PL.138・499)

位置　767～772、-826～-829　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｗ

重複　有り。12・18号竪穴建物に後出する。４号溝との新旧関係不明。

規模　面積12.15㎡、長軸4.10m×短軸3.47m×深さ0.19m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C・ローム塊やや多量含む。下層はAs-C少量、ローム小塊・同粒少量含む。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。床面よりも多少下がるが、土坑・ピット類は無かった。

床面　他の竪穴建物と重複部分の下に土坑・ピットがあるところ以外ではやや硬化した面が確認された。南西部でＰ１・Ｐ２、南東隅でＰ３(貯蔵穴)、中央やや北壁寄りでＰ４・Ｐ５が確認された。その規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径41㎝×短径33㎝×深さ10㎝、楕円形。

Ｐ２は長径45㎝×短径45㎝×深さ27㎝、隅丸方形。底部から円形礫が出土した。

Ｐ３は長径55㎝×短径47㎝×深さ13㎝、楕円形。貯蔵穴と考えられる。羽釜や高台付椀等破片が出土した。

Ｐ４は長径36㎝×短径35㎝×深さ31㎝、円形。須恵器小破片出土。

Ｐ５は長径38㎝×短径32㎝×深さ24㎝、楕円形。

貯蔵穴　遺物が出土し、カマドの右脇であり、位置的にもＰ３が該当するものと考えられる。

柱穴　不明。Ｐ１・Ｐ４・Ｐ５がその可能性がある。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマドやＰ３(貯蔵穴)周辺を除くと礫や破片が数点出土したが、床面よりも高い位置のものが多かった。

カマド　位置　東壁南隅寄りで確認された。

規模　全長0.90m・最大幅0.98m・焚き口幅0.48m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.31m入り、右袖は0.28m入る。

煙道　建物壁外に0.38m出る。

遺存状態　良好。天井は無かった。カマド左袖先端には円礫が使用されていたので、右袖にも本来はあったものと考えられる。燃焼部は良く焼けており、焼土が残っていた。支脚は不明。焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。掘り方は幅広になり、燃焼部左壁には長径34㎝×短径34㎝×深さ12㎝のハート形、右壁には長径38㎝×短径20㎝×深さ８㎝の楕円形の小ピットが開く。円礫を据えるためのものと考えられる。焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。

遺物出土状態　左袖手前で円礫や須恵器羽釜の破片が、燃焼部から多くの羽釜破片が出土した。燃焼部の羽釜は構築材として使用されていたものではなく、カマドに掛けられていたものか。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期頃と考えられる。

12号竪穴建物(図121・357、PL.139・499)

位置　769～773、-827～-830　**主軸方位**　Ｎ－81°－Ｅ

重複　有り。11・13・18号竪穴建物に先行する。

規模　面積(7.87)㎡、長軸(3.47)m×短軸2.70m×深さ0.22m

形状　隅丸長方形。南北方向に若干長い。

埋没土　不明。重複する11・18号竪穴建物に類似するものと考えられる。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　他の竪穴建物と重複している部分が多く硬化した面は確認されなかった。カマド右手前でＰ１・Ｐ３、南西部でＰ２が確認された。その規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径61㎝×短径47㎝×深さ38㎝、楕円形。須恵器小形甕破片出土。

Ｐ２は長径43㎝×短径39㎝×深さ38㎝、楕円形。須恵器椀破片出土。

Ｐ３は長径54㎝×短径45㎝×深さ23㎝、楕円形。

Ｐ１・Ｐ３は位置的に貯蔵穴の可能性も否定できない。

貯蔵穴　カマドの右脇にあるＰ１・Ｐ３はその可能性がある。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　北西部で円礫や土師器の甕や須恵器の椀が出土したが、床面よりもやや高い位置であった。

カマド　位置　東壁南隅寄りで確認された。

規模　全長0.52m・最大幅0.85m・焚き口幅0.33m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.33m出る。

遺存状態　不良。天井は無かった。燃焼部は良く焼けており、焼土が６㎝程残っていた。支脚は不明。燃焼部左壁には長径19㎝×短径17㎝×深さ16㎝、楕円形の小ピットが開く。円礫を据えるためのものと考えられる。

遺物出土状態　カマドに伴う遺物は出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

13号竪穴建物（図121・122・357、PL.139･140・499・550）

位置　771～774､-830～-833　**主軸方位**　Ｎ－82°－Ｅ

重複　有り。12号竪穴建物に後出する。

規模　面積6.44㎡、長軸2.91m×短軸2.77m×深さ0.25m

形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-Cをやや多量、南側はローム塊・同粒をやや多量に含む部分あり。下層はAs-C･ローム塊･同粒を少量含む。壁際は、As-C少量、ローム塊をやや多量に含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。南西隅で長径42㎝×短径26㎝×深さ11㎝と長径45㎝×短径45㎝×深さ16㎝のピットが２基確認された。また、カマド北側から北壁際に通常の溝のみの周溝では無く､小ピット列が並ぶ。小さい杭状の枝木等を立てた土留めの痕跡か。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。北西部でＰ１が確認された。その規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径42㎝×短径40㎝×深さ24㎝、円形。

貯蔵穴　不明。

柱穴　無し。

周溝　無し。掘り方調査時にカマド北側から北壁際に小ピット列が確認された。

遺物出土状態　カマド周辺以外では北西部で須恵器の椀底部と須恵器羽釜口縁部破片が、南壁手前で数点の円礫や角礫と須恵器の椀底部破片が出土した。

カマド　位置　東壁中央南寄りで確認された。

規模　全長0.70m・最大幅0.56m・焚き口幅0.22m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.19m入り、右袖は不明。

煙道　建物壁外に0.38m出る。

遺存状態　やや良。焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。焚き口の両脇には円礫が使用されていた。支脚は不明。燃焼部と煙道部との境目には左右に２点の円礫が使用されていた。掘り方は幅広になり、燃焼部には底面に焼土が残っていた。焚き口の左側に長径25㎝×短径17㎝×深さ７㎝、右側に長径20㎝×短径11㎝×深さ６㎝、左壁に長径24㎝×短径18㎝×深さ２㎝、長径(13)㎝×短径10㎝×深さ４㎝の小ピットが確認された。奥壁には20㎝程の角礫が出土した。

遺物出土状態　左袖上から高台付椀が、左袖手前から燃焼部底面で甕もしくは羽釜の体部破片が出土した。掘り方調査時には奥壁の角礫以外出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

14号竪穴建物（図122・123・358、PL.140）

位置　765～768､-823～-826　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積5.77㎡、長軸2.69m×短軸2.44m×深さ0.15m

形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-Cやや多量、北側はローム粒をやや多量に含む部分あり。下層はAs-C・ローム粗粒を少量、ローム粒やや多量に含む。壁際の周溝部分は、As-C少量、ローム塊をやや多量に含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。貼り床は無かったが、中央南壁手前で床下土坑１が確認された。その規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径99㎝×短径87㎝×深さ25㎝､楕円形。土師器羽釜の口縁部及び体部破片出土。

床面　北半でやや硬化した面が確認された。南西隅でＰ１、南東隅でＰ２が確認された。Ｐ２の西側で焼土が確認された。Ｐ２の内部から甕もしくは羽釜の体部破片が出土した。Ｐ２は貯蔵穴と考えられるものである。その規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径50㎝×短径32㎝×深さ45㎝、楕円形。

Ｐ２は長径60㎝×短径51㎝×深さ13㎝、楕円形。

貯蔵穴　有り。Ｐ２が相当するものと考えられる。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅10～20㎝×深さ１～４㎝で、カマド左手前から反時計回りに南西隅手前まで巡る。

遺物出土状態　カマド及び土坑・ピット類以外ではほとんど出土しなかった。

カマド　位置　東壁中央南寄りで確認された。
規模　全長0.49m・最大幅0.47m・焚き口幅0.33m
袖　有り。左袖は建物壁内に0.08m入り、右袖は無し。
煙道　建物壁外に0.35m出る。
遺存状態　やや良。焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。焚き口手前から燃焼部にかけて焼土が残存していた。掘り方は幅広になり、焚き口の左側に長径19㎝×短径14㎝×深さ１㎝、右側に長径25㎝×短径18㎝×深さ２㎝の小ピットが確認された。礫を据えた痕跡と考えられる。
遺物出土状態　燃焼部左壁寄りから甕口縁部破片が出土した。掘り方調査時に遺物は出土しなかった。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

15号竪穴建物（図123・124・358、PL.141・499・553）
位置　760～764､-826～-830　**主軸方位**　Ｎ－88°－Ｅ
重複　有り。48号土坑・４号溝との新旧不明。
規模　面積9.46㎡、長軸3.62m×短軸3.07m×深さ0.31m
形状　隅丸長方形。南北方向に若干長い。
埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C少量、ローム塊やや多量に含む。中心に灰黄褐色土粒少量含む部分あり。下層はAs-Cを少量、灰黄褐色土粗粒少量含む。壁際は、As-C微量含む。
掘り方　底面からの深さ0.14m　有り。西半部は不規則に凹凸を持ち凹む。東壁手前でＰ２その西側でＰ３、Ｐ１の西側でＰ４、その西側で床下土坑１さらにその西側でＰ５が確認された。その規模は下記の通りである。
床下土坑１は長径78㎝×短径76㎝×深さ11㎝、楕円形。一部突出する。
Ｐ２は長径29㎝×短径22㎝×深さ29㎝、楕円形。
Ｐ３は長径25㎝×短径22㎝×深さ15㎝、楕円形。
Ｐ４は長径46㎝×短径40㎝×深さ13㎝、楕円形。
Ｐ５は長径54㎝×短径40㎝×深さ11㎝、不整形。所々突出する。
床面　南東半で下に土坑・ピット類が無い部分でやや硬化した面が確認された。南東隅でＰ１が確認された。Ｐ１は貯蔵穴と考えられるものである。その規模は下記の通りである。
Ｐ１は長径52㎝×短径43㎝×深さ17㎝、楕円形。
貯蔵穴　有り。Ｐ１が相当するものと考えられる。
柱穴　不明。掘り方調査時に確認されたＰ２・Ｐ３がその可能性は否定できない。
周溝　有り。幅７～15㎝×深さ１～５㎝で、カマド左手前から反時計回りに南壁中央まで巡る。床面調査時にはカマド左手から来た壁中央やや西寄りまででであったが、掘り方調査時に多くの部分が確認された。
遺物出土状態　東半部で須恵器の羽釜や杯・椀の破片等が多く出土した。位置的には床直上のものだけでなく高いものもあった。
カマド　位置　東壁中央南寄りで確認された。
規模　全長0.50m・最大幅0.81m・焚き口幅0.48m
袖　有り。左袖は建物壁内に0.23m入り、右袖は0.16m入る。
煙道　建物壁外に0.38m出る。
遺存状態　やや良。焚き口手前から燃焼部にかけて若干赤味を帯びていた。両袖先には割られた円礫が用いられていた。掘り方は幅広になり、焚き口から燃焼部にかけて凹む。焚き口の左側に長径18㎝×短径17㎝×深さ５㎝、右側に長径25㎝×短径15㎝×深さ１㎝の小ピットが確認された。礫を据えた痕跡と考えられる。
遺物出土状態　左袖北側から羽釜口縁部破片、同袖前から須恵器椀、燃焼部から羽釜破片等が出土した。掘り方調査時に遺物は出土しなかった。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

16号竪穴建物（図124・125・359、PL.142・500）
位置　759～630､-827～-825　**主軸方位**　Ｎ－65°－Ｅ
重複　無し。
規模　面積（8.78）㎡、長軸3.55m×短軸2.98m×深さ0.29m
形状　隅丸長方形。南北方向に長い。南西隅が撹乱とトレンチによって欠失。
埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-Cやや多量、ローム粒微量に含む。下層はAs-Cやや多量、ローム粒少量含む。壁際は、As-C少量、ローム粒やや多量に含む。
掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。北壁より内側に仕切り溝が東西に入り、その南側は緩やかに凹む。北西部でＰ３・Ｐ４、東壁中央でＰ５が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

Ｐ３は長径80㎝×短径57㎝×深さ24㎝、楕円形。

Ｐ４は長径46㎝×短径35㎝×深さ50㎝、楕円形。

Ｐ５は長径27㎝×短径23㎝×深さ30㎝、楕円形。

床面　下に土坑・ピット類などの凹みが無い部分でやや硬化した面が確認された。南東隅でＰ１、北西隅でＰ２が確認された。Ｐ１はやや小規模ではあるが、貯蔵穴と考えられるものである。それらの規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径35㎝×短径27㎝×深さ22㎝、楕円形。高台付椀破片出土。

Ｐ２は長径75㎝×短径60㎝×深さ35㎝、楕円形。

貯蔵穴　有り。Ｐ１が相当するものと考えられる。

柱穴　不明。掘り方調査時に確認されたＰ４・Ｐ５が深くその可能性が考えられる。

周溝　有り。幅７～15㎝×深さ１～７㎝で、カマド左袖手前から反時計回りに西壁まで巡る。掘り方調査時に幅と深さは同規模のものが北壁と平行して60㎝内側に確認された。

遺物出土状態　カマドやピット類以外では全体から須恵器甕破片等が散漫に出土した。位置的には床直上のものだけでなく高いものが多かった。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.89m・最大幅0.85m・焚き口幅0.27m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.20m入り、右袖は不明。

煙道　建物壁外に0.62m出る。

遺存状態　やや良。焚き口手前から燃焼部左壁にかけて焼土が残存していた。左袖先には円礫が、燃焼部左右及び奥壁には亜角礫が用いられていた。支脚は残っていなかった。掘り方はかなり幅広になる。焚き口の左側に長径30㎝×短径20㎝×深さ７㎝、右側に長径22㎝×短径20㎝×深さ５㎝の小ピットが確認された。燃焼部左寄りで長径16㎝×短径13㎝×深さ５㎝の凹みがあり、礫を据えた痕跡と考えられる。カマド右手前に長径23㎝×短径22㎝×深さ８㎝の凹みが確認された。

遺物出土状態　燃焼部の両壁の礫の手前から須恵器羽釜口縁部破片、燃焼部中央から須恵器甕破片が出土した。礫と共に羽釜や甕の破片も構築材として使用されていた可能性がある。掘り方調査時には礫のみで土器等の遺物は出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から時期判定はできなかった。

17号竪穴建物（図126・359、PL.143・500）

位置　755～758、-828～-830　**主軸方位**　Ｎ－89°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積(3.59) ㎡、長軸2.61m×短軸(2.01)m×深さ0.15m

形状　隅丸長方形で南北方向に長いか。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C微量に含む。下層はAs-C少量含む。壁際は、As-C少量、ローム粒少量含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。中央やや南側でＰ１が確認された。その規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径63㎝×短径56㎝×深さ４㎝、楕円形。

床面　硬化した面は確認されず、土坑・ピット類も確認されなかった。

貯蔵穴　不明。掘り方調査時に確認したＰ１はその可能性は低い。低地側の南にあった可能性が考えられる。

柱穴　不明。

周溝　無し。

遺物出土状態　石片が出土したが、土器類はほとんど目立ったものは無かった。

カマド　位置　東壁で確認された。

規模　全長0.58m・最大幅0.77m・焚き口幅0.45m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.22m入り、右袖は不明。

煙道　建物壁外に0.40m出る。

遺存状態　不良。左袖には焼土が残っていた。支脚は残っていなかった。掘り方はやや幅広になり、焚き口手前から燃焼部にかけて緩やかに凹む。礫を据えた痕跡と考えられるような凹みは確認されなかった。

遺物出土状態　土器の出土は無く、煙道部に細長い円礫が確認された。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期頃と考えられる。

18号竪穴建物（図126・359、PL.139）

位置　769～773、-826～-830　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｅ

重複　有り。11号竪穴建物に先行し、12号竪穴建物に後出する。

規模　面積10.47㎡、長軸4.09m×短軸2.86m×深さ0.23m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-Cをやや多量、下層はAs-Cを少量含む。壁際はAs-YP粒少量、ローム塊やや多量に含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　他の竪穴建物と重複している部分が多く硬化した面は確認されなかった。カマド右手南東隅でＰ１、南西部でＰ２・Ｐ３、カマド左手前でＰ４が確認された。その規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径88㎝×短径73㎝×深さ18㎝、楕円形。

Ｐ２は長径(88)㎝×短径80㎝×深さ25㎝、不整形。

Ｐ３は長径70㎝×短径60㎝×深さ38㎝、不整形。

Ｐ４は長径88㎝×短径55㎝×深さ12㎝、不整形。

貯蔵穴　カマドの右脇にあるＰ１はその可能性がある。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅10～25㎝×深さ１～６㎝で、東壁北半から12号竪穴建物と重複するまでの間の北壁と西壁の12号竪穴建物と重複しない南側の一部のみで確認された。

遺物出土状態　12号竪穴建物と重複する西壁手前で須恵器の杯が、その東側で礫片が出土した。

カマド　位置　東壁中央南寄りで確認された。

規模　全長0.56m・最大幅0.78m・焚き口幅0.35m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.53m出る。

遺存状態　不良。11号竪穴建物の内部で燃焼部の焼土部分(長径53㎝×短径30㎝)の範囲を確認した。支脚は不明。

遺物出土状態　燃焼部の焼土部分から須恵器椀等の小破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

19号竪穴建物(図127・359・360、PL.143・144・500)

位置　754～757、-816～-819　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積4.82㎡、長軸2.88m×短軸2.19m×深さ0.13m

形状　隅丸長方形。南北方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-Cやや多量、ローム塊・暗褐色土塊少量含む。下層はAs-C少量、ローム塊微量含む。

掘り方　底面からの深さ0.07m　有り。南西隅が不整形に凹む。土坑・ピット類は確認されなかった。

床面　硬化した面は確認されなかった。南東隅で土塁状の高まりが残るＰ１が確認された。その規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径100㎝×短径56㎝×深さ12㎝、長楕円形。通常のものより規模は大きい。内部から灰釉陶器の高台付椀、土師器杯底部破片出土。

貯蔵穴　有り。Ｐ１が相当するものと考えられる。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド周辺以外では西壁南寄りで瓦片が出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.74m・最大幅0.93m・焚き口幅0.35m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.25m入り、右袖は0.18m入る。

煙道　建物壁外に0.42m出る。

遺存状態　やや良。左袖先には焼土が残っていた。燃焼部の左右の壁には円礫が使用されていた。手前の大形の円礫は中央から割れており、本来は上に載っていたものと考えられる。燃焼部中央の大形礫は奥から手前に倒れたものか。掘り方はやや幅広になり、焚き口手前から燃焼部にかけて緩やかに凹む。燃焼部左右に深さ５㎝程度の小形の凹みを確認した。

遺物出土状態　左袖上で瓦破片、右袖前で須恵器の杯、燃焼部奥で須恵器甕体部破片、焚き口の細長い大形円礫の上で瓦の破片等が確認された。掘り方調査では遺物は確認されなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期と考えられる。

34号竪穴建物(図128・361、PL.144・500)

位置　781～785、-850～-853　**主軸方位**　Ｎ－54°－Ｅ

重複　有り。43号竪穴建物に先行し、65号墳に後出する。

規模　面積(7.53)㎡、長軸(3.28)m×短軸2.65m×深さ0.43m

形状　隅丸長方形で南北方向に長いか。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-Cやや多量含む。下層はAs-C少量、ローム塊微量含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　硬化した面は確認されなかった。緩やかに底面は凹むが、一般の竪穴建物のような壁の立ち上がりはない。

貯蔵穴　無し。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　カマド周辺以外では出土しなかった。
カマド　位置　西壁で確認された。
規模　全長0.93m・最大幅0.78m・焚き口幅0.40m
袖　無し。
煙道　建物壁外に0.47m出る。
遺存状態　不良。焼土が残存し、遺物も確認されたので、カマドと想定した。焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。焼土は43号竪穴建物側に流れていた。
遺物出土状態　燃焼部底面で須恵器羽釜・土師器甕体部破片が確認された。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

43号竪穴建物（図128・361、PL.144・500）
位置　781～783、-852～-854　**主軸方位**　Ｎ－17°－Ｅ
重複　有り。34号竪穴建物・65号墳に後出する。
規模　面積(0.88)㎡、長軸(1.90)ｍ×短軸(0.87)ｍ×深さ0.38m
形状　隅丸長方形か。
埋没土　全体に黒褐色土で、上層中心部はAs-C少量、ローム粒を少量含む。下層周辺部はAs-Cやや多量含む。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　硬化した面は確認されなかった。南西隅でＰ１を確認した。その規模は下記の通りである。
Ｐ１は長径54㎝×短径51㎝×深さ９㎝、円形。
貯蔵穴　不明。Ｐ１がその可能性は否定できないが、調査区外に存在する可能性も考えられる。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　埋没土中から須恵器椀破片が出土した。
カマド　位置　不明。
規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m
袖　不明。
煙道　不明。
遺存状態　不明。
遺物出土状態　不明。
備考　所属時期　出土遺物や埋没土から10世紀後半頃と考えられる。

Ｇ１区3面

１　竪穴建物

66号竪穴建物（図129・365、PL.145・501）
位置　739～742、-830～-832　**主軸方位**　Ｎ－18°－Ｗ
重複　無し。
規模　面積(5.15) ㎡、長軸(3.00)ｍ×短軸(2.55)ｍ×深さ0.19m
形状　隅丸長方形か。北東隅は角張る。
埋没土　灰黄褐色土であり、As-C・ローム小塊を含む。炭化物粒・焼土粒若干含む。周辺壁際はにぶい黄褐色土中にローム塊を斑に含む。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　ほぼ全体的に硬化した面は確認されなかった。西壁のトレンチと調査区外の狭間で長径35㎝×短径33㎝×深さ14㎝のピットが１基確認された。
貯蔵穴　無し。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　建物中央やや東寄りで大形円礫が、南西の調査区際で須恵器椀が出土した。その他に埋没土中から須恵器杯破片が出土した。
カマド　位置　不明。東壁南寄りか。
規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m
袖　不明。
煙道　不明。
遺存状態　不明。
遺物出土状態　不明。
備考　所属時期　出土遺物から９世紀第３～第４四半期かと考えられる。

67号竪穴建物（図129・365、PL.145・146・501・550）
位置　740～744、-834～-837　**主軸方位**　Ｎ－78°－Ｅ
重複　無し。
規模　面積9.05㎡、長軸4.06m×短軸2.76m×深さ0.35m
形状　隅丸長方形。南北方向に長い。
埋没土　上層は黒褐色土であり、小礫多く、As-C・炭化物わずかに、ローム小塊極わずかに含む。下層は暗褐色土で、小礫・ローム粒を多く、As-Cわずかに、炭化物粒極わずかに含む。周辺壁際は暗褐色土でローム土やローム塊を含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。多少の凹凸はあったが、土坑・ピットはカマド左横で確認された床下土坑１のみである。その規模は下記の通りである。
床下土坑１は長径65㎝×短径65㎝×深さ55㎝。円形。
床面　特に硬化した面は確認されなかった。灰や焼土が散る部分は確認されなかった。
貯蔵穴　掘り方調査時に確認された床下土坑１がその可能性があるものと考えられる。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　建物中央に北から南にかけて円礫が出土した。須恵器の甕や杯蓋、土師器の杯等が床下土坑１の東西から出土した。
カマド　位置　東壁中央やや南寄りで確認された。
規模　全長0.76m・最大幅0.96m・焚き口幅0.30m
袖　有り。左袖は建物壁内に0.41m入り、右袖は0.55m入る。
煙道　建物壁外に0.25m出る。
遺存状態　やや良好。天井は無かった。袖に礫は使用されていなかった。焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。焚き口から燃焼部底面には約５㎝の灰層が確認された。
遺物出土状態　左袖上から須恵器の甕体部破片が1点出土した。他に遺物はほとんど出土しなかった。
備考　所属時期　出土遺物から７世紀前半と考えられる。

68号竪穴建物(図130・366、PL.147・148・501・553)
位置　741～744､-844～-847　**主軸方位**　Ｎ－89°－Ｗ
重複　有り。109・110号土坑に先行する。
規模　面積6.93㎡、長軸3.04m×短軸2.81m×深さ0.28m
形状　隅丸方形。東西方向に若干長い。
埋没土　黒褐色土であり、小礫・As-C・ローム粒多く、ローム塊極わずかに、炭化物粒わずかに含む。周辺壁際は黒褐色土で、ローム土・ローム塊を含み、炭化物粒極わずかに含む。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。多少の凹凸はあったが、土坑・ピット類は確認されなかった。
床面　特に硬化した面は確認されなかった。灰や焼土が散る部分は確認されなかった。
貯蔵穴　南東隅で確認された。その規模は、長径65㎝×短径46㎝×深さ12㎝。楕円形。大形の円礫出土。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　建物東半で須恵器甕胴部や底部破片などが出土した。西部南壁から鉄製の紡錘車の紡輪が１点出土した。埋没土中から灰釉陶器の椀口縁部破片出土。
カマド　位置　東壁中央やや南寄りで確認された。
規模　全長0.66m・最大幅0.95m・焚き口幅0.42m
袖　有り。左袖は建物壁内に0.30m入り、右袖は0.30m入る。
煙道　建物壁外に0.21m出る。外に長く延びない。
遺存状態　やや良好。天井は無かった。両袖先端に２個ずつの円礫が､燃焼部にも一回り円礫が使用されていた。焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。手前の大きい円礫は焼けてヒビ割れが入るが、焚き口の上に載っていたものと考えられる。支脚には円礫が立てられていた。
遺物出土状態　燃焼部では円礫の間から須恵器の羽釜胴部破片が出土した。
備考　所属時期　出土遺物から10世第４四半期頃と考えられる。

69号竪穴建物(図130・367、PL.148・149・501・502)
位置　741～745､-857～-860　**主軸方位**　Ｎ－73°－Ｗ
重複　有り。17号溝・144号土坑に先行する。３号掘立柱建物との関係は不明。
規模　面積(7.38)㎡、長軸3.29m×短軸2.75m×深さ0.33m
形状　隅丸長方形。南北方向に長い。
埋没土　全体に暗褐色土であり、上層はAs-C多量、わずかにローム塊含む。下層及び周辺壁際は、ローム土・ローム小塊を含む。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。多少の凹凸はあったが、土坑・ピット類は確認されなかった。
床面　特に硬化した面は確認されなかった。灰や焼土が散る部分は確認されなかった。
貯蔵穴　不明。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　建物北半やカマド周辺で須恵器羽釜胴部破片などが出土した。埋没土中から灰釉陶器の椀と壺破片出土。

カマド　位置　東壁ほぼ中央で確認された。
規模　全長0.79m・最大幅0.86m・焚き口幅0.27m
袖　有り。左袖は建物壁内に0.30m入り、右袖は0.37m入る。
煙道　建物壁外に0.41m出る。
遺存状態　やや良好。天井は無かった。両袖先端に円礫が使用されていた。焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。手前の横長の大きい円礫は、焚き口の上に載っていたものと考えられる。支脚には円礫が立てられていた。
遺物出土状態　燃焼部から須恵器の羽釜や甕の破片等が出土した。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期と考えられる。

70号竪穴建物（図131・368、PL.149・150・502・550）
位置　741～744、-862～-866　**主軸方位**　Ｎ－81°－Ｗ
重複　有り。106・145号土坑に先行する。153号土坑との関係は不明。
規模　面積8.74㎡、長軸3.65m×短軸2.77m×深さ0.28m
形状　隅丸長方形。東西方向に長い。
埋没土　全体に黒褐色土であり、上層は１～２㎜の礫・As-C多く、わずかにローム土・ローム塊含む。下層及び周辺壁際は、ローム土・ローム小塊を含む。
掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。106号土坑南側で床下土坑１が確認された。その規模は長径(66)㎝×短径(50)㎝×深さ14㎝。楕円形。
床面　特に硬化した面は確認されなかった。106号土坑の西側でＰ１が確認された。その規模は、長径23㎝×短径21㎝×深さ31㎝。楕円形。西側が深い。
貯蔵穴　有り。北東隅で確認された。その規模は長径66㎝×短径52㎝×深さ73㎝。楕円形。かなり深い。高台付椀等が出土した。
柱穴　不明。Ｐ１は深さもあり、その可能性は否定できない。
周溝　有り。幅10～14㎝×深さ１～５㎝で、北壁貯蔵穴西側から南西隅まで反時計回りに巡る。
遺物出土状態　西壁中央や南壁中央手前等で灰釉陶器の椀が出土した。建物西部や東部で須恵器の羽釜破片が出土した。埋没土中から灰釉陶器の壺破片出土。
カマド　位置　145号土坑内の焼土部分はカマド燃焼部の底面と考えられるので、東壁中央やや南寄りか。
規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m
袖　有り。左袖は建物壁内に0.23m入り、右袖は不明。
煙道　不明。
遺存状態　不良。左袖と燃焼部底面の焼土部分のみ確認された。
遺物出土状態　燃焼部から須恵器の羽釜や杯の破片等が出土した。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

71号竪穴建物（図132・369、PL.151・152・502）
位置　754～757、-861～-865　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｗ
重複　有り。150・155・156・159号土坑に先行する。
規模　面積7.77㎡、長軸3.56m×短軸2.65m×深さ0.35m
形状　隅丸長方形。東西方向に長い。
埋没土　全体に黒色土であり、上層はAs-C多量、わずかにローム小塊含む。しまり強い。下層は、炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　東半の方が西半に比べてやや硬化していた。西壁でＰ１・Ｐ２、その東側でＰ３～Ｐ７が確認された。それぞれの規模は、下記の通りである。
Ｐ１は長径24㎝×短径20㎝×深さ25㎝。円形。
Ｐ２は長径19㎝×短径17㎝×深さ14㎝。円形。
Ｐ３は長径26㎝×短径24㎝×深さ22㎝。楕円形。
Ｐ４は長径20㎝×短径18㎝×深さ23㎝。円形。
Ｐ５は長径29㎝×短径25㎝×深さ33㎝。楕円形。底面は北側が深く、建物壁内側に斜めに柱が立つ。
Ｐ６は長径27㎝×短径17㎝×深さ23㎝。楕円形。
Ｐ７は長径20㎝×短径16㎝×深さ13㎝。楕円形。底面は瓢形。
Ｐ１とＰ２は西壁際で２本が並び入口の梯子の柱穴の可能性あり。
貯蔵穴　有り。南東隅で確認された。その規模は長径44㎝×短径34㎝×深さ12㎝。楕円形。浅い。須恵器の高台付椀等が出土した。
柱穴　不明。建物西部で南北に並ぶＰ３～７はある程度の深さもあり、その可能性は否定できない。
周溝　無し。

遺物出土状態　カマド周辺以外では北壁寄りで須恵器の長頸壺や甕などの破片が出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.54m・最大幅0.90m・焚き口幅0.45m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.26m入り、右袖は不明。

煙道　建物壁外に0.31m出る。

遺存状態　不良。155号土坑と重複しており、多くの部分が壊されていた。焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。焚き口手前から燃焼部にかけて焼土も確認された。右袖部分で炭化材が検出された。

遺物出土状態　燃焼部から甕体部破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から９世紀第４四半期～10世紀第１四半期頃と考えられる。

219号竪穴建物(図133・369、PL.153・154・502・550)

位置　752～752､-876～-879　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｗ

重複　無し。

規模　面積(3.50)㎡、長軸(3.38)ｍ×短軸(2.54)ｍ×深さ0.53m

形状　隅丸方形か。

埋没土　全体に黒褐色土であり、上層はAs-C微量、しまり弱く、粘性あり。下層は、ローム小塊少量含む。しまり弱く、粘性あり。南壁際は焼土粒少量、下層よりも小さめのローム小塊少量含む。しまり弱く、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　調査した範囲では土坑・ピット類がある部分を除きほぼ全面が硬化していた。南壁沿いでＰ１～Ｐ３が確認された。それぞれの規模は、下記の通りである。

Ｐ１は長径48㎝×短径25㎝×深さ西29㎝、東27㎝。楕円形。２カ所の底あり。

Ｐ２は長径22㎝×短径15㎝×深さ24㎝。楕円形。

Ｐ３は長径(30)㎝×短径(28)㎝×深さ34㎝。楕円形。

貯蔵穴　有り。南東隅で確認された。その規模は長径49㎝×短径40㎝×深さ21㎝。楕円形。

柱穴　不明。南壁際に並ぶＰ１～３は､主柱穴ではなく、入口の梯子穴の可能性がある。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド手前やＰ１の周辺などで須恵器の甕や椀等の破片が出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長1.27m・最大幅0.88m・焚き口幅0.31m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.37m入り、右袖は0.36m入る。

煙道　建物壁外に0.77m出る。

遺存状態　やや良。天井は無かった。焚き口手前から燃焼部にかけて焼土を含む灰層が８㎝程確認された。両袖の芯と燃焼部の壁の所々に円礫が使用されていた。掘り方では焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。燃焼部と煙道部の境目は段になる。焚き口手前にＰ４がある。その規模は長径33㎝×短径28㎝×深さ30㎝、円形、深い。

遺物出土状態　燃焼部から須恵器の椀や甕の破片等が出土した。左袖前から大形の亜角礫が出土した。掘り方調査では遺物は出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期頃と考えられる。

220号竪穴建物(図134・370・371、PL.155・156・502・503・553)

位置　755～758､-873～-876　**主軸方位**　Ｎ－84°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積(4.88)㎡、長軸(3.15)ｍ×短軸(2.81)ｍ×深さ0.39m

形状　隅丸長方形か。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土であり、上層はAs-C多量、しまり弱く、粘性あり。下層は、褐色土小塊多量に含む。しまりややあり、粘性あり。南壁際は暗褐色土で、黒褐色土を含み、しまり弱く、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。南壁中央で床下土坑１が確認された。西側が深い。規模は長径89㎝×短径61㎝×深さ９㎝。浅い。楕円形。

床面　調査した範囲では床下に土坑・ピット類がある部分を除きほぼ全面が硬化していた。

貯蔵穴　無し。南東隅で大形の甕破片が出土した。穴を掘らずに甕を置いていたものと考えられる。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド周辺や南壁寄りで須恵器の甕の底部や体部破片が出土した。

カマド　位置　東壁ほぼ中央で確認された。

規模　全長0.97m・最大幅0.80m・焚き口幅0.41m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.21m入り、右袖は本来入り込んでいたものと考えられるが残存していなかった。

煙道　建物壁外に0.73m出る。

遺存状態　良好。天井は無かった。燃焼部に焼土粒を多量に含む層が16㎝程確認された。燃焼部の壁には円礫が使用されていた。燃焼部と煙道部の境目には細長い礫が置かれ区切られていた。煙道部出口は偏平な円礫が置かれていた。掘り方では焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。燃焼部の左右の壁には円礫が立てられていた。

遺物出土状態　燃焼部から須恵器の甕の破片等が多量に出土した。掘り方調査では甕の体部破片がわずかに出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

228号竪穴建物（図135・136・372・373、PL.156～158・503・553）

位置　757～761、-864～-869　**主軸方位**　Ｎ－12°－Ｅ

重複　有り。250号竪穴建物に後出する。

規模　面積13.86㎡、長軸4.75m×短軸3.52m×深さ0.36m

形状　隅丸長方形か。南北方向に長い。北壁と東壁の2辺でズレが認められる。

埋没土　全体に黒褐色土であり、上層はAs-C多量、焼土粒含む。しまり強く、粘性あり。下層は、As-C・ローム小塊少量、炭化物含む。しまり弱く、粘性あり。南壁際はにぶい黄褐色土で、ローム小塊を含み、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。建物中央で床下土坑３～５、その北側で床下土坑６・７が、１号カマド前ではＰ１が確認された。

床下土坑３は長径80㎝×短径67㎝×深さ7㎝。楕円形。床下土坑４に後出する。

床下土坑４は長径（107）㎝×短径93㎝×深さ17㎝。楕円形。床下土坑３・５に先行する。

床下土坑５は長径45㎝×短径43㎝×深さ20㎝。楕円形。床下土坑３・４に後出する。

床下土坑６は長径52㎝×短径45㎝×深さ11㎝。楕円形。

床下土坑７は長径55㎝×短径55㎝×深さ15㎝。楕円形。

Ｐ１は長径38㎝×短径35㎝×深さ45㎝。楕円形。かなり深い。

床面　下に床下土坑・ピット類があったところ以外は比較的硬化した面が確認された。南東隅で土坑１、２号カマド右手前では土坑２が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑１は長径50㎝×短径41㎝×深さ33㎝。楕円形。

土坑２は長径60㎝×短径57㎝×深さ42㎝。円形。

貯蔵穴　不明。土坑１・２共にその可能性は否定できない。

柱穴　不明。掘り方調査時のＰ１は深くその可能性は否定できない。

周溝　有り。幅８～17㎝×深さ１～８㎝で、１号カマド西側から東壁北東隅手前まで巡るが、東壁では中程から二重になり、ズレが確認された。

遺物出土状態　１号カマド左手前で須恵器の椀や鉄製品等が出土した。その他は高低様々な所から散在的に出土した。

カマド　位置　１号カマド　北壁中央やや西寄りで確認された。

２号カマド　北壁中央やや東寄りで確認された。

規模　１号カマド　全長1.47m・最大幅1.37m・焚き口幅0.38m

２号カマド　全長1.14m・最大幅0.94m・焚き口幅0.40m

袖　１号カマド　有り。左袖は建物壁内に0.70m入り、右袖は0.91m入る。

２号カマド　無し。

煙道　１号カマド　建物壁外に0.56m出る。

２号カマド　建物壁外に0.58m出る。

遺存状態　１号カマド　良好。天井は無かった。焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。燃焼部と煙道部の境目には細長い礫が横に置かれ、煙道部出口が仕切られていた。右袖には円礫が上に載っていた。燃焼部右壁には円礫が４点使用されていたが、北壁には１点のみであった。掘り方では燃焼部と煙道部の境目は段になる。燃焼部には小ピットが４基開く。

２号カマド　不良。天井は無かった。焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。煙道部先端は段になる。燃焼部から煙道にかけて焼土が確認された。支脚には円礫が使用されていた。掘り方は焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。燃焼部奥壁には２基の長径12㎝×短径９㎝×深さ10㎝の小ピットが並んで確認された。

遺物出土状態　１号カマド　燃焼部から須恵器の羽釜の破片等が多く出土した。掘り方調査では羽釜体部小破片がわずかに出土した。２号カマドに後出する。

２号カマド　煙道部から須恵器の体部破片が出土した。掘り方調査では遺物は出土しなかった。１号カマドに先行する。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

234号竪穴建物(図137・138・374、PL.159～161・504・553)

位置　763～767､-864～-867　**主軸方位**　Ｎ－81°－Ｗ

重複　有り。386号土坑・236号竪穴建物に先行し、235号竪穴建物に後出する。

規模　面積6.48㎡、長軸3.36m×短軸2.40m×深さ0.44m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　上層は黒褐色土で、黄褐色粒少量、As-Cを含み、しまり･粘性共にあり。下層は、黒褐色土で、砂質、ローム小塊・同粒少量含み、しまり弱く、粘性あり。壁際は黒褐色土で、As-C少量、黄褐色土少量、しまり弱く、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。北西部で床下土坑１、南西隅でＰ２が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径122㎝×短径91㎝×深さ58㎝。隅丸長方形。

Ｐ２は長径38㎝×短径29㎝×深さ７㎝。浅い。楕円形。

床面　床下に土坑・ピット類がある部分を除きほぼ全面が硬化していた。カマド左袖前でＰ１､南西隅で土坑１、北東隅で土坑２が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径30㎝×短径30㎝×深さ15㎝。円形。

土坑１は長径60㎝×短径47㎝×深さ45㎝。楕円形。数点の遺物出土位置は床面よりも高い。

土坑２は長径78㎝×短径64㎝×深さ14㎝。楕円形。

貯蔵穴　有り。南東隅で確認した。規模は長径55㎝×短径33㎝×深さ58㎝。楕円形。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅７～13㎝×深さ１～３㎝で、カマド左袖から西壁南西隅手前まで巡る。ただし、北東部386号土坑と北西隅は未確認。

遺物出土状態　建物中央で極小片が数点、土坑１の周りで大形の円礫と土器小片が数点出土したが、床面よりもかなり高いものが多かった。貯蔵穴手前で須恵器の蓋摘まみ部分の破片が出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長1.09m・最大幅0.83m・焚き口幅0.20m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.41m入り、右袖は0.43m入る。

煙道　建物壁外に0.74m出る。

遺存状態　良好。天井は無かった。焚き口から燃焼部にかけて焼土小塊・粒を含む層が７㎝程確認された。燃焼部の壁も若干焼けていた。左袖手前にはＰ１が開く。掘り方では幅広になり、焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。

遺物出土状態　使用面では遺物の出土は無かった。掘り方調査では燃焼部で須恵器の甕体部破片が２点出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。８世紀代の遺物は混入品か。

235号竪穴建物(図138・374、PL.159・161)

位置　763～766､-866～-868　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｗ

重複　有り。234号竪穴建物に先行する。

規模　面積(1.97) ㎡、長軸(2.07)m×短軸(2.18)m×深さ0.35m

形状　西側が調査区外、東側が234号竪穴建物で不明。隅丸長方形か。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はローム小塊を含み、にぶい黄橙色粒少量、しまり・粘性共にあり。下層は、As-C多量、黄褐色土塊を含み、しまり強く、粘性あり。壁際は黒褐色土で、しまりややあり、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。土坑・ピット類は確認されなかった。

床面　ほぼ全面が比較的良く硬化していた。床面でも土坑・ピット類は確認されなかった。

貯蔵穴　不明。調査範囲内では確認されなかった。

柱穴　不明。

周溝　無し。

遺物出土状態　須恵器羽釜体部破片１点と須恵器の壺破片１点の計２点が出土したが、いずれも床面よりもかなり高い位置からであった。

カマド　位置　不明。

規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀代と考えられる。８世紀代の遺物は混入品か。

236号竪穴建物（図138・139・374、PL.161～163）

位置　766～768、-862～-865　**主軸方位**　Ｎ－77°－Ｗ

重複　有り。386号土坑に先行し、234号竪穴建物に後出する。

規模　面積(3.96)㎡、長軸2.43m×短軸(2.32)m×深さ0.36m

形状　隅丸長方形で南北方向に長いか。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-C多量、明褐色粗粒・ローム塊・焼土粒少量含み、しまり・粘性共にあり。下層は、暗褐色土で、褐色土小塊少量含み、しまりややあり、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。建物中央で土坑２が確認された。その規模は下記の通りである。

土坑２は長径(90)㎝×短径75㎝×深さ21㎝。楕円形。

床面　床下に土坑・ピット類がある部分を除き硬化していた。南西隅で土坑１が確認された。その規模は下記の通りである。

土坑１は長径70㎝×短径60㎝×深さ17㎝。浅い。楕円形。内部には大形の円礫が詰められていた。

貯蔵穴　不明。南西隅で確認された土坑１はその可能性が否定できない。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　建物中央で須恵器壺小破片が出土したが、その他のものも含め床面よりも高い位置からのものが多い。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.94m・最大幅0.85m・焚き口幅0.50m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.72m出る。

遺存状態　不良。天井は無かった。焚き口から燃焼部にかけて焼土粒を含む灰層が13㎝程確認された。燃焼部から煙道部の壁も若干焼けていた。燃焼部と煙道部の境目は段になる。カマド左手前には長径43㎝×短径25㎝の焼土範囲が確認された。掘り方ではやや幅広になり、焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。

遺物出土状態　燃焼部入口左側で土師器甕底部破片が１点出土した。それ以外に須恵器の甕破片が埋没土中から出土した。燃焼部左壁側で２点の礫があり、構築材として使用されたものと考えられる。掘り方調査では遺物は出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀代と考えられる。８世紀前半代の遺物は混入品か。

250号竪穴建物（図139、PL.163）

位置　761～762、-864～-867　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｗ

重複　有り。228号竪穴建物に先行する。

規模　面積(3.16)㎡、長軸(2.95)m×短軸(0.97)m×深さ0.19m

形状　南側は228号竪穴建物で不明。隅丸長方形か。北西隅は北東隅に比べて角張っている。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-Cを多量、にぶい黄橙色粒少量含み、しまり・粘性共にあり。下層は、灰黄褐色土で褐色土小～中塊多量、にぶい黄橙色粒少量含み、しまり強く、粘性あり。壁際は黒褐色土で、小礫・黄褐色土少量含み、しまり弱く、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。土坑・ピット類は確認されなかった。

床面　確認された部分では比較的良く硬化していた。北壁中央やや東寄りでＰ１が確認された。その規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径23㎝×短径15㎝×深さ26㎝、楕円形。東側が深い。

貯蔵穴　不明。確認されなかった。

柱穴　不明。

周溝　有り。幅７～16㎝×深さ１～３㎝で、北東隅を除き巡る。

遺物出土状態　228号竪穴建物１号カマド左手で出土した須恵器甕破片２点は同竪穴建物のものと考えられる。他に目立った遺物は出土しなかった。

カマド　位置　不明。

規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から時期判定はできなかった。

Ｇ２区３面

１　竪穴建物

100号竪穴建物(図140・379、PL.164・504)

位置　722～725､-887～-890　**主軸方位**　Ｎ－81°－Ｗ

重複　有り。119号竪穴建物に後出する。

規模　面積(7.71) ㎡、長軸3.05m×短軸3.04m×深さ0.20m

形状　隅丸方形。北東部一部不明瞭。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含むしまりの無い土。

掘り方　底面からの深さ0.00m　南西隅で長径59㎝×短径44㎝×深さ35㎝の土坑が確認されたが、貯蔵穴の可能性がある。

床面　ほぼ全体的に硬化しており、灰や焼土が散る部分は確認されなかった。

貯蔵穴　掘り方調査時に南西隅で確認された床下土坑がその可能性があるものと考えられる。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド内およびその周辺や南壁付近から出土したものが多い。建物中央や西壁中央からも瓦の破片などの若干の遺物が出土した。

カマド　位置　東壁南東隅で確認された。

規模　全長1.12m・最大幅0.96m・焚き口幅0.72m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.40m入る。右袖は不明。

煙道　建物壁外に0.60m出る。

遺存状態　天井は無かった。周辺に散っていた礫はカマドで使用されていたものと考えられる。カマド手前の細長い礫は調査図面を見る限り地山から突き出しているようにも見えるが、焚口の上に載っていた可能性がある。左袖には粘土と一部円礫を、右袖も同様に構築されていた可能性は考えられる。掘り方不明。

遺物出土状態　燃焼部から煙道に近い位置で須恵器の羽釜破片等が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

101号竪穴建物(図141・379、PL.165・553)

位置　708～712､-858～-862　**主軸方位**　Ｎ－68°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積(9.06) ㎡、長軸3.62m×短軸(3.34)m×深さ0.28m

形状　隅丸長方形か。南側未調査のため不明。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含むが、下層はローム土を多く含み、As-Cの量は少なくなる。

掘り方　無し。

床面　ほぼ全体的に硬化しており、灰や焼土が散る部分は確認されなかった。

貯蔵穴　無し。

柱穴　西壁手前で長径23㎝×短径20㎝×深さ27㎝のＰ１が確認された

周溝　西壁沿いに幅0.18m×深さ0.03m×長さ2.6mの範囲で検出された。

遺物出土状態　中央ベルト付近から須恵器の椀底部破片等の若干の遺物が出土した。埋没土中から須恵器の甕・灰釉陶器の皿や段皿の破片が出土した。

カマド　位置　調査範囲からは確認できなかったが、他の例から東壁の南寄りにあるものと思われる。

規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m。

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

102号竪穴建物(図141～144・380、PL.166～170・504・552)

位置　718～722､-851～-857　**主軸方位**　Ｎ－６°－Ｗ

重複　有り。103号竪穴建物および283号土坑に先行する。

規模　面積(18.51) ㎡、長軸4.75m×短軸4.75m×深さ0.56m

形状　隅丸方形。南東隅一部調査範囲外。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含む。上層に比べ下層はローム土を多く含む。

掘り方　底面からの深さ0.05～0.35m　カマド手前から建物中央部にかけて１m以上の床下土坑や不定形の凹みが連続する部分がある。カマド右手から北東隅付近で調査時に床下土坑１が確認されたが、位置的にも貯蔵穴の可能性が高い。それ以前の貯蔵穴の掘り直しと考えられ

る土坑確認された。北西隅でもやや隅丸方形に近い床下土坑４が確認された。

床下土坑１は長径54㎝×短径50㎝×深さ63㎝。

床下土坑２は長径47㎝×短径40㎝×深さ33㎝。

床下土坑３は長径49㎝×短径34㎝×深さ41㎝。

床下土坑４は長径61㎝×短径60㎝×深さ34㎝。

なお、掘り方調査時に現行のカマドの北側でほぼ同規模の一段階古いと考えられるカマドを確認した。

床面　掘り方が30㎝以上ある部分も広く、100号竪穴建物や101号竪穴建物に比べ然程硬化してはいなかった。カマド手前に若干焼土や炭化物が散る範囲が確認された。

貯蔵穴　調査時に北東隅で確認された床下土坑1がその可能性があるものと考えられる。

柱穴　主柱穴４本と南側主柱穴２本の間に１本、南西隅寄りに１本の計６本が確認された。主柱穴４本の内、Ｐ１はやや浅いが他の３本は70㎝前後とかなりの深さがありしっかりとした柱が立っていたことが分かる。Ｐ３とＰ４の間のＰ６は浅く間仕切り等の補助的な柱であったことが分かる。

Ｐ１は長径37㎝×短径35㎝×深さ36㎝。

Ｐ２は長径40㎝×短径32㎝×深さ69㎝。

Ｐ３は長径28㎝×短径27㎝×深さ76㎝。

Ｐ４は長径44㎝×短径43㎝×深さ70㎝。

Ｐ５は長径30㎝×短径23㎝×深さ26㎝。

Ｐ６は長径28㎝×短径24㎝×深さ21㎝。

周溝　幅10～13㎝、深さ５～10㎝で、北壁のカマド左袖から70㎝からスタートし右袖脇まで巡る。

遺物出土状態　遺物はカマド周辺以外からも全体的に多量に出土した。円礫の他に土師器の甕や杯の破片、須恵器の蓋や杯等が出土した。床直上よりも高い位置のものが多い。

カマド　位置　北壁東寄りで確認された。その北側に並んで一段階古いものが確認された。

規模　全長1.10m・最大幅0.85m・焚き口幅0.55m、旧カマド残存長0.59m・残存幅0.85m・燃焼部幅0.30m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.40m、右袖は0.55m入る。粘土質の土による構築であり、礫は使用されていない。古カマド不明。

煙道　建物壁外に0.37m出る。古カマド0.50m外に出る。

遺存状態　天井は無かった。燃焼部と煙道部の境目が段になっていた。カマドの構築材として礫は使用されていなかったものと考えられる。掘り方は手前部分が土坑等で深く抉れる。古カマドも燃焼部と煙道部の境目がやや段になっていた。

遺物出土状態　須恵器の壺体部破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から７世紀前半と考えられる。

103号竪穴建物（図145・381、PL.170・505）

位置　716～720、-856～-859　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｗ

重複　有り。105号竪穴建物および283号土坑に先行し、102号竪穴建物に後出する。

規模　面積(9.81)㎡、長軸3.26m×短軸3.24m×深さ0.28m

形状　隅丸方形。南東隅はより丸みを持つ。

埋没土　暗褐色～黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含む。上層に比べ下層は黒みが強い。

掘り方　底面からの深さ0.00m　調査時に掘り方らしい落ち込みは無かったが、南西隅で隅丸方形の土坑を確認した。これは貯蔵穴の可能性が高いものと考えられる。

土坑は長径82㎝×短径80㎝×深さ35㎝。

床面　ほぼ全体的に硬化していた。カマド手前に若干焼土や炭化物が散る範囲が確認された。

貯蔵穴　調査時に南西隅で確認された床下土坑がその可能性があるものと考えられる。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　遺物はカマド周辺および南壁寄りで出土した。須恵器の羽釜や椀、灰釉陶器の椀・皿・壺等の小片が出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長1.03m・最大幅0.80m・焚き口幅0.50m

袖　有り。右袖は0.50㎝入る。粘土質の土による構築であり、礫は使用されていない。左袖不明。

煙道　建物壁外に0.46m出る。

遺存状態　天井は無かった。袖とほぼ同じ部分に焼けて赤変した部分があり、かなり手前の焚口部分に燃焼部があった可能性がある。カマドの構築材として礫は使用されていなかったものの甕の破片等が利用されていた可能性が考えられる。

遺物出土状態　煙道の壁寄り部分から土師器や須恵器の小破片等が若干出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀中頃と考えられる。

104号竪穴建物(図146・381、PL.171)

位置　729～732、-855～-887　**主軸方位**　Ｎ－70°－Ｗ

重複　有り。118号竪穴建物に後出する。

規模　面積(5.69)㎡、長軸2.62m×短軸2.50m×深さ0.31m

形状　隅丸方形。深さが無く南壁は不明瞭。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム粒子・As-C・ローム土を含む。下層は上層に比べローム粒子・As-Cが少なく、ローム土を多く含む。

掘り方　無し。

床面　ほぼ全体的にあまり硬化しておらず、灰や焼土が散る部分も確認されなかった。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド手前から須恵器羽釜の破片等が出土した。それ以外に建物中央部から極わずかに小破片が出土したが、位置が高く床面直のものではない。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.82m・最大幅0.72m・焚き口幅0.50m

袖　不明。左右の壁には円礫が配されており、両袖には円礫が使用されていたものと考えられる。どの程度建物壁内部に入っていたかは不明。

煙道　建物壁外に0.57m出る。

遺存状態　浅く残りは悪い。焚口の被熱で割れた礫片はカマドで使用されていたものと考えられるが、どの部分で使用されていたか確定できない。掘り方無し。

遺物出土状態　燃焼部手前で甕の小破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物等から10世紀代と考えられる。

105号竪穴建物(図146・147・381・382、PL.172・173・505・553)

位置　719～724、-858～-862　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｅ

重複　有り。103号竪穴建物に後出する。

規模　面積15.27㎡、長軸4.78m×短軸3.53m×深さ0.35m

形状　長方形。南東隅が若干丸みを持つものの、それ以外はかなり角張っている。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含む。下層には炭化物や焼土粒を含む部分もある。

掘り方　底面からの深さ0.00m　南西隅で調査時に土坑１が確認されたが、貯蔵穴の可能性が高い。土坑２は北東隅で確認されたが、こちらもその可能性があるものである。

土坑１は長径80㎝×短径70㎝×深さ68㎝。

土坑２は長径58㎝×短径55㎝×深さ32㎝。

床面　ほぼ全面的に硬化していた。

貯蔵穴　調査時に南西隅で確認された床下土坑１と床下土坑２がその可能性があるものと考えられる。

柱穴　カマド焚口の前に１本確認された。カマドを使用する際にはかなり邪魔になるものと思われるが、他には無い。

Ｐ１は長径35㎝×短径34㎝×深さ36㎝。

周溝　幅10～15㎝、深さ６～13㎝で、東壁中央から南西隅床下土坑１まで巡る。

遺物出土状態　遺物は建物全体から須恵器の羽釜・甕や杯等の破片が出土した。炭化材がまとまる部分もあり、建物が焼けている可能性がある。その近くから鉄製品の破片も出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.82m・最大幅0.81m・焚き口幅0.70m

袖　不明。袖は建物壁内に入る部分は確認出来なかったが、粘土質の土による構築と考えられる。

煙道　建物壁外に0.67m出る。

遺存状態　天井は無かった。燃焼部と煙道部の境目が段になっており、両側に円礫が立てられていた。

遺物出土状態　燃焼部と煙道部の境目から須恵器の羽釜破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。

106号竪穴建物(図148・382、PL.174・553)

位置　719～722、-863～-866　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｅ

重複　有り。105号竪穴建物と111号竪穴建物に先行する。

規模　面積(6.60)㎡、長軸3.56m×短軸(2.10)m×深さ0.21m

形状　隅丸長方形か。東半が105号竪穴建物で壊されており不明。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム土・同粒子・As-Cを含む。下層にはローム土が多く含まれる。

掘り方　底面からの深さ0.00m　南西隅で調査時に床下土坑が確認されたが、同位置にある他の建物のものに比べ浅く底面も一定していないが貯蔵穴の可能性も完全には否定出来ない。

床下土坑は長径115㎝×短径101㎝×深さ15㎝。

床面　ほぼ全面的にやや硬化していた。南壁際で長径54㎝×短径50㎝×深さ８㎝の浅い窪みが確認された。

貯蔵穴　調査時に南西隅で確認された床下土坑がその可能性があるものと考えられる。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　遺物は西壁北半の高い位置からと南西隅床下土坑内から土師器甕の口縁部破片等が出土した。

カマド　位置　不明。東壁か。

規模　不明。

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

107号竪穴建物(図148・149・382～385、PL.175～177・505・506・553)

位置　714～718､-864～-867　**主軸方位**　Ｎ－88°－Ｗ

重複　有り。111号竪穴建物に後出し、110・150号竪穴建物に先行する。調査時には137号竪穴建物との重複と想定されたが、東壁のラインが一致し、カマドも南北に綺麗に並び、埋没土にも明確な差が無いため２軒では無く、１軒の中でカマドを作り直したものと考えた。

規模　面積8.57㎡、長軸4.23m×短軸2.88m×深さ0.40m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含む。下層には一部しまり無い部分やローム塊が目立つ部分あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　北東隅で調査時に床下土坑１が確認されたが、貯蔵穴の可能性が高いものと考えられる。

土坑１は長径83㎝×短径53㎝×深さ22㎝。

なお、現行のカマドの北側でほぼ同規模の一段階古いと考えられるカマドを確認した。

床面　掘り方はないので比較的良く硬化していた。カマド手前に若干炭化物が散っていた。

貯蔵穴　調査時に北東隅で確認された土坑１がその可能性があるものと考えられる。

柱穴　無し。

周溝　西壁から約20㎝内側で幅10～20㎝、深さ５㎝で、長さ約1.90mの範囲で確認された。

遺物出土状態　遺物はカマドを主体に全面から出土した。須恵器の羽釜破片などに目立つものが多い。埋没土中より灰釉陶器の皿、緑釉陶器の破片等が出土した。

カマド　位置　東壁南隅で１号カマドが、その北側で一段階古い２号カマドが確認された。

規模　全長0.92m・最大幅0.91m・焚き口幅0.50m、２号カマド残存長1.12m・最大幅0.72m・燃焼部幅0.58m

袖　無し｡建物壁内部に長く入るタイプのものでは無い。２号カマド無し。建物壁内部に長く入るタイプのものでは無い。

煙道　建物壁外に0.64m出る。２号カマド0.98m外に出る。

遺存状態　天井は無かった。カマドの構築材として円礫や羽釜や甕等の破片が使用されていた。掘り方は平面よりも一回り大きく深くなるものであり、あまり大きい差はない。２号カマドは石組みカマドであり他に粘土や若干の羽釜等の破片なども使用していた。焚口から燃焼部が良く焼けていた。支脚にも円礫が使用されていた。掘り方には円礫を据えるための凹みが認められた。

遺物出土状態　１・２号カマドとも焚口・燃焼部・煙道部にかけて極多量の土器破片が出土した。特に須恵器の羽釜破片が目立つ。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

108号竪穴建物(図150・385、PL.178･506)

位置　709～712､-866～-868　**主軸方位**　Ｎ－80°－Ｗ

重複　有り。109号竪穴建物に先行する。

規模　面積(4.09) ㎡、長軸2.73m×短軸(2.13)m×深さ0.32m

形状　隅丸長方形か。109号竪穴建物により西壁が確認出来ず不明。

埋没土　断面図は無いが、他の建物と同様に黒褐色土でローム塊・同粒子・As-Cを含むものと考えられる。

掘り方　底面からの深さ0.00m　床下土坑やピットは無い。

床面　掘り方はないので比較的良く硬化していた。

貯蔵穴　不明。残存床範囲内には無い。

柱穴　無し。

周溝　幅10～15㎝、深さ３㎝で、東壁から北壁にかけて確認された。

遺物出土状態　遺物は全面から出土した。大形の円礫や被熱した礫破片が多く、須恵器の羽釜破片などが目立つ。

カマド　位置　不明。西壁もしくは南壁か。

規模　不明。

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期～第３四半期頃と考えられる。

109号竪穴建物(図150・151・386・387、PL.179・180・507)

位置　709～712、-867～-872　**主軸方位**　Ｎ－80°－Ｗ

重複　有り。108号竪穴建物に後出する。

規模　面積(21.84) ㎡、長軸5.27m×短軸4.32m×深さ0.45m

形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含む。中・下層には焼土塊・同粒子がわずかに含まれる。

掘り方　底面からの深さ0.00m　北東隅で調査時に床下土坑１が確認されたが、貯蔵穴の可能性が高いものと考えられる。北西隅には長径72㎝×短径64㎝×深さ８㎝の浅い落ち込みがあった。

床下土坑１は長径74㎝×短径71㎝×深さ55㎝。

床面　土坑や凹み部分を除き比較的良く硬化していた。カマド手前の広い範囲には焼土や炭化物が散っていた。

貯蔵穴　調査時に北東隅で確認された床下土坑１がその可能性があるものと考えられる。

柱穴　中央部で長径34㎝×短径28㎝×深さ25㎝のピットが１基確認された。

周溝　無し。

遺物出土状態　遺物はカマド以外に全面から出土した。礫破片以外では須恵器羽釜の破片が目立つ。

カマド　位置　東壁中央で確認された。

規模　全長2.13m・最大幅(0.53)m・焚き口幅(0.15)m

袖　無し。建物壁内部に長く入るタイプのものでは無い。

煙道　建物壁外に1.09m出る。

遺存状態　天井は無かった。カマドの構築材として左袖元には円礫が使用されていた。掘り方はあまり大きい差はない。

遺物出土状態　左壁から煙道部にかけて多くの土器破片が出土した。輪積み痕の明瞭な土師器甕出土。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

110号竪穴建物(図152・153・388・389、PL.181・182・507・550･553)

位置　717～720、-866～-870　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｗ

重複　有り。107号竪穴建物及び159号竪穴建物に後出する。

規模　面積10.10㎡、長軸4.00m×短軸3.28m×深さ0.60m

形状　隅丸長方形。東西方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含む。中層にはローム塊が目立つ部分あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　掘り方調査時にカマド右脇で貯蔵穴と考えられる小ピットが確認された。

床面　全面的に比較的良く硬化していた。

貯蔵穴　調査時に南東隅で確認された長径35㎝×短径32㎝×深さ18㎝のピットが相当する。

柱穴　無し。

周溝　幅15㎝前後、深さ５～８㎝で、東壁中央から南東隅手前までの範囲で確認された。

遺物出土状態　遺物はカマドや貯蔵穴周辺を主体に全面から出土した。須恵器の羽釜や椀、灰釉陶器の椀などに目立つものが多い。中でも北東部では古代のベルトの飾りである石製の蛇尾が床直上から出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.70m・最大幅0.75m・焚き口幅0.60m

袖　無し。建物壁内部に長く入るタイプのものでは無い。

煙道　建物壁外に0.58m出る。

遺存状態　天井は無かった。カマドは基本的に粘土により構築されていたが、煙道との境目に円礫が使用されていた。掘り方は煙道部分が平面よりも一回り外に延びるものである。

遺物出土状態　焚口から燃焼部にかけて多くの土器破片が出土した。特に須恵器羽釜の破片が目立つ。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期～第３四半期頃と考えられる。６世紀代の遺物は混入品か。

111号竪穴建物（図154・390、PL.183・184・508・553）

位置　716～720、-862～-865　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｅ

重複　有り。107号竪穴建物に先行し、106号竪穴建物に後出する。

規模　面積（10.57）㎡、長軸4.00m×短軸3.28m×深さ0.28m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含む。下層には焼土粒子を含む部分あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　掘り方無し。土坑・ピット類は検出されなかった。

床面　他の建物と重複する部分以外は比較的良く硬化していた。カマド左手前には粘土が確認された部分がある。

貯蔵穴　カマド右手の南東隅で確認された。長径89㎝×短径56㎝×深さ11㎝。

柱穴　無し。

周溝　幅10～18㎝、深さ２～４㎝で、北東壁隅から西壁中央までの範囲で確認された。

遺物出土状態　遺物はカマドが多いが、建物の北半の東寄りで確認された。床直よりも浮いたものが多い。須恵器の羽釜破片や灰釉陶器の椀などに目立つものが多い。埋没土中から灰釉陶器の壺破片出土。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.71m・最大幅0.80m・焚き口幅0.43m

袖　両袖には円礫が使用されていた。建物壁内部に長く入るタイプのものでは無い。

煙道　建物壁外に0.37m出る。

遺存状態　天井は無かった。石組みカマドであり、壁は燃焼部まで円礫が使用されていた。燃焼部右壁は二重に円礫が立てられていた。掘り方は円礫を据えるため平面よりも若干深め、煙道部分はやや長めに掘られていた。

遺物出土状態　燃焼部で須恵器の羽釜破片や土師器甕の破片等が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

112号竪穴建物（図155・391、PL.185・186・508）

位置　723～726、-864～-867　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｗ

重複　有り。113号竪穴建物に先行し、10号掘立柱建物に後出する。

規模　面積7.75㎡、長軸3.33m×短軸2.66m×深さ0.25m

形状　長方形。南北方向に長い。北西隅以外は丸みを持たない。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含む。下層にはローム塊・同粒子を多く含む部分あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　掘り方無し。掘り方調査時に南西隅で床下土坑が検出されたが、貯蔵穴の可能性が高いと考えられる。

床面　全体的に良く硬化していた。

貯蔵穴　南西隅で確認された床下土坑がその可能性が高いものと考えられる。長径53㎝×短径49㎝×深さ27㎝。

柱穴　無し。

周溝　幅７～15㎝、深さ２～５㎝で、東壁カマド左袖手前から南壁中央やや東寄りまでの範囲で確認された。

遺物出土状態　遺物はカマド及びその手前が多いが、それ以外に西壁南寄りや建物中央の北寄りで確認された。床よりも浮いたものが多い中で、建物中央出土の須恵器椀の底部は床直のものである。

カマド　位置　東壁南隅近くで確認された。

規模　全長1.09m・最大幅0.98m・焚き口幅0.70m

袖　有り。建物壁内に0.25m入る。左袖突端には円礫が使用されていた。右袖は不明。

煙道　建物壁外に0.73m出る。

遺存状態　天井は無かった。燃焼部と煙道の境目は段になっていた。掘り方は平面よりも若干幅広に掘られていた。

遺物出土状態　焚口から燃焼部で灰釉陶器の底部破片等が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期頃と考えられる。

113号竪穴建物（図156～159・391～393、PL.187～190・508・553）

位置　723～727､-868～-871　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｅ
重複　有り。11号掘立柱建物及び112号竪穴建物に後出する。
規模　面積13.71㎡､長軸4.40m×短軸4.03m×深さ0.63m
形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。東壁北半が丸みを持ち外側に張り出す。
埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含む。
掘り方　底面からの深さ0.15m　掘り方有り。掘り方の下に多くの床下土坑や粘土採掘坑が検出され、粘土採掘坑の底部までは床から深いもので1.10mある。
床下土坑１は長径96㎝×短径76㎝×深さ59㎝。
床下土坑２は長径88㎝×短径83㎝×深さ39㎝。
１号粘土採掘坑は長径145㎝×短径140㎝×深さ105㎝。
２号粘土採掘坑は長径(90)㎝×短径89㎝×深さ39㎝。
３号粘土採掘坑は長径(115)㎝×短径(100)㎝×深さ60㎝。
４号粘土採掘坑は長径152㎝×短径110㎝×深さ84㎝。
床面　床下土坑や粘土採掘坑がある部分はあまり硬化していなかった。
貯蔵穴　南壁付近で確認された床下土坑がその可能性もあるが、坑が多く明確ではない。
柱穴　無し。坑は沢山あるが、柱穴に成りそうなものは無い。
周溝　幅７～13㎝、深さ４～12㎝で、東壁南隅から北壁中央までの範囲で確認された。
遺物出土状態　遺物はほぼ全面から多量に出土したが、西半の方がやや多い。カマド手前は円礫が多く、本来カマドで使用されていたものが多いと考えられる。床よりも浮いたものが多いが、床直に近いものもあった。須恵器の羽釜や灰釉陶器の破片が目立つ。
カマド　位置　東壁南寄りで確認された。
規模　全長1.22m・最大幅1.07m・焚き口幅0.95m
袖　有り。建物壁内に0.10m入る。手前に４号粘土採掘坑があり詳細は不明であるが、あまり中に延びないものと考えられる。
煙道　建物壁外に0.81m出る。
遺存状態　天井は無かった。石組みのカマドであり、煙道出口も亜角礫で囲まれていた。焚口から燃焼部は焼けて赤変していた。燃焼部と煙道部の境目は段になっていた。掘り方は平面よりも一回り大きく掘られており、煙道先端部は112号竪穴建物壁内部に延びる。
遺物出土状態　燃焼部で須恵器の羽釜や灰釉陶器の破片等が出土した。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

114号竪穴建物(図159・160・393、PL.191・508)
位置　732～735､-873～-876　**主軸方位**　Ｎ－82°－Ｗ
重複　有り。8･12号掘立柱建物に後出し、239･240･246号土坑に先行する。
規模　面積7.88㎡、長軸3.68m×短軸2.75m×深さ0.14m
形状　隅丸長方形。南北方向に長い。
埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含む。下層には炭化物をわずかに含む部分あり。
掘り方　底面からの深さ0.00m　掘り方無し。
床面　土坑・ピット類と重複していない部分は良く硬化していた。
貯蔵穴　無し。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　遺物はカマド以外には壁際で若干出土した。東壁中央で須恵器の椀が、埋没土中から須恵器椀や灰釉陶器の椀が出土した。
カマド　位置　東壁北隅近くで確認された。
規模　全長0.68m・最大幅0.70m・焚き口幅0.60m
袖　無し。建物壁内には延びない。
煙道　建物壁外に0.60m出る。
遺存状態　残りは悪く、深さもなかった。燃焼部両脇には円礫が使用されていた。燃焼部底面には焼土が残存していた。
遺物出土状態　燃焼部で須恵器の羽釜破片等が出土した。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

115号竪穴建物(図160・393・394、PL.192・508・553)
位置　716～719､-882～-885　**主軸方位**　Ｎ－88°－Ｗ
重複　有り。116号掘立柱建物に後出する。
規模　面積(6.29)㎡、長軸3.56m×短軸(2.90)m×深さ

0.35m

形状　隅丸方形か。南側が未確認のため不明。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含む。中層には炭化物をわずかに含む部分あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　掘り方調査時に２基の床下土坑が確認された。床下土坑１は東壁南端、床下土坑２は北西隅である。規模は下記通りである。

床下土坑１は長径71㎝×短径(46)㎝×深さ29㎝。

床下土坑２は長径124㎝×短径118㎝×深さ17㎝。

床面　床下土坑と重複していない部分は比較的良く硬化していた。南側中央部には被熱して赤変した部分とその上に炭化物粒が散っていた部分があった。

貯蔵穴　不明。床下土坑の内どちらかが貯蔵穴の可能性もある。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅10～15㎝、深さ３～４㎝で、床下土坑１の手前を除き巡る。

遺物出土状態　遺物はほぼ全体から散漫に出土した。北東隅付近にややまとまる部分があったが、床よりも高い位置のものが多い。灰釉陶器や須恵器の羽釜・椀の破片などの他に金属器も出土した。

カマド　位置　不明。北壁以外。

規模　不明。

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

116号竪穴建物(図161・394、PL.192・193・508)

位置　715～719､-880～-882　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｅ

重複　有り。115号竪穴建物に先行する。

規模　面積(2.78)㎡、長軸(2.85)ｍ×短軸(1.40)ｍ×深さ0.27m

形状　不明。隅丸長方形か。西側は115号竪穴建物に切られ、南側は調査範囲外。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　床面は然程硬化してはいなかった。北東隅に長径65㎝×短径55㎝×深さ９㎝の浅い土坑がある。

貯蔵穴　有り。カマド左手前。長径52㎝×短径40㎝×深さ13㎝。灰釉陶器の破片出土。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅８～12㎝、深さ約１㎝で東壁中央から北壁に巡る。

遺物出土状態　遺物はカマド以外には115号竪穴建物際で灰釉陶器の皿底部破片が出土した。

カマド　位置　東壁南隅で確認された。

規模　全長0.96m・最大幅(0.45)ｍ・焚き口幅(0.10)ｍ

袖　無し。建物壁内には延びない。

煙道　建物壁外に0.55m出る。

遺存状態　北側半分のみ調査。燃焼部壁には粘土と共に要所要所に円礫が使用されていた。燃焼部底面には焼土が残存していた。

遺物出土状態　燃焼部で焼け礫片等が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

117号竪穴建物(図161、PL.193)

位置　714～716、-854～-856　**主軸方位**　Ｎ－82°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積(1.50)㎡、長軸(2.18)ｍ×短軸(1.74)ｍ×深さ0.21m

形状　隅丸長方形か。

埋没土　暗褐色土であり、As-Cを多量に含む。下層はローム土が多く含まれる部分がある。

掘り方　底面からの深さ0.03m　有り。薄く貼り床を確認したが、土坑・ピット類は確認されなかった。

床面　調査した部分は概ね硬化していた。

貯蔵穴　不明。

柱穴　不明。

周溝　有り。幅10～15㎝×深さ２㎝で、北壁のみで確認された。

遺物出土状態　ほとんど出土しなかった。

カマド　位置　不明。

規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から時期判定はできなかった。

118号竪穴建物(図161・162・394、PL.194・195・553)

位置　726～730､-882～-885　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｗ

重複　有り。104号竪穴建物に先行し、119・139・140号竪穴建物に後出する。

規模　面積(8.84)㎡、長軸(3.92)ｍ×短軸3.02ｍ×深さ0.38m

形状　隅丸長方形。南側は重複が激しいが、土層断面で南壁を確認した。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含む。下層はローム土が多く含まれる部分がある。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。掘り方調査時に南西隅で床下土坑を確認したが、貯蔵穴になる可能性が高いものと考えられる。

床下土坑は長径65㎝×短径52㎝×深さ21㎝。

床面　斜めに試掘トレンチで切られていたが、北側は概ね硬化していたが、南側の重複部分はあまり硬化していなかった。

貯蔵穴　有り。南西隅で掘り方調査時に確認した床下土坑が貯蔵穴になる可能性が高いものと考えられる。長径65㎝×短径52㎝×深さ21㎝。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　遺物は大形の焼けた円礫の他に椀や須恵器の羽釜の破片など床直上のものもあるが、南側の重複が激しい部分からの出土であり、本来どの竪穴建物に帰属するものか不明である。円礫には焼けた痕跡があることからカマドで使用されていたものと思われるが、３棟のカマドが近接していることから他の竪穴建物で使用されていた可能性は完全には否定出来ない。

カマド　位置　東壁南隅寄りで確認された。

規模　全長1.20m・最大幅0.82m・焚き口幅0.56m

袖　有り。両袖とも建物壁内0.10m程度入る。

煙道　建物壁外に0.80m出る。

遺存状態　天井は無かったが、煙道は辛うじて残存していた。燃焼部と煙道部の境目にはやや大形の円礫が据えられていた。燃焼部底面には焼土や炭化物はほとんど残存していなかった。掘り方では、燃焼部と煙道部の境目の左右に小ピットが検出され、礫が据えられていた痕跡と考えられる。

遺物出土状態　燃焼部で須恵器の羽釜や高台付椀の破片等が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

119号竪穴建物(図163・164・395・396、PL.196～198・508・509)

位置　721～726､-884～-888　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｅ

重複　有り。100号竪穴建物に先行し、118・139・140号竪穴建物に後出する。

規模　面積19.51㎡､長軸5.76ｍ×短軸4.25ｍ×深さ0.48ｍ

形状　長方形。南北方向に長い。南西と南東の隅が若干丸みを持つ。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含む。下層はローム塊が多く含まれる。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。掘り方調査時に床下土坑を4基確認したが、カマド右前の床下土坑３、南西隅の床下土坑１は貯蔵穴になる可能性が高いものと考えられる。

床下土坑１は長径87㎝×短径75㎝×深さ53㎝。

床下土坑２は長径(127)㎝×短径55㎝×深さ15㎝。灰釉陶器の段皿出土。

床下土坑３は長径45㎝×短径43㎝×深さ25㎝。

床下土坑４は長径55㎝×短径47㎝×深さ18㎝。

床面　北側の重複部分はあまり硬化していなかったが、南側の重複や床下土坑の無い部分は硬化していた。

貯蔵穴　有り。南西隅で掘り方調査時に確認したカマド右前の床下土坑３や南西隅の床下土坑１が貯蔵穴になる可能性が高いものと考えられる。規模や造りなどから床下土坑１が主たるもので､床下土坑３が副次的なものか。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅６～11㎝、深さ２～６㎝で北壁中央やや東寄りから南壁中央東寄りまで巡る。

遺物出土状態　遺物はカマド周辺や南西隅の床下土坑１などの他にも全体的に多く出土した。円礫の他に灰釉陶器や須恵器の椀や羽釜破片などがあった。北側の重複が激しい部分からの出土遺物は本来どの竪穴建物に帰属するものか判別が難しいものである。

カマド　位置　東壁南隅寄りで確認された。
規模　全長1.38m・最大幅1.07m・焚き口幅0.51m
袖　有り。左袖は建物壁内0.51m程度入る。右袖は手前に床下土坑３があり、内側に0.05㎝と非常に短い。袖にはローム質の粘性土が使用されていた。
煙道　建物壁外に0.70m出る。
遺存状態　燃焼部と煙道部の境目は段になっており、その部分には両側にやや大形の円礫が据えられていた。燃焼部の右手壁には円礫が使用されており、左壁には残っていなかった。燃焼部の底面及び北壁、煙道出口の壁は焼けて赤変していた。支脚には円礫が立てられていた。焼土や炭化物はあまり多くは残存していなかった。掘り方は、一回り大きくなったが、ピットは検出されなかった。
遺物出土状態　燃焼部で須恵器の羽釜や椀の破片等が多く出土した。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期半頃と考えられる。灰釉陶器の椀に朱墨で「寺□？」須恵器の杯に「田」の墨書あり。

138号竪穴建物（図165・397、PL.199）
位置　732～735、-868～-870　**主軸方位**　Ｎ－84°－Ｗ
重複　有り。127・129号土坑に先行する。
規模　面積(6.41)㎡、長軸(2.95)m×短軸(2.53)m×深さ0.01m
形状　隅丸長方形か。南北方向に若干長い。
埋没土　ほとんど深さは無く不明。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。掘り方調査時に北西部で床下土坑を1基確認した。
床下土坑は長径58㎝×短径58㎝×深さ11㎝。
床面　ほぼ全体的に硬化していた。深さが無く、痕跡のみを確認した。
貯蔵穴　有り。南東隅で確認した。上層にやや径20㎝を超える円礫が出土したが、元々穴の上に重石として載せていたものか。椀や羽釜の破片が出土した。
規模は長径38㎝×短径38㎝×深さ19㎝。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　遺物はカマド内及び南東隅の貯蔵穴内で出土しただけであり、他に目立ったものは無い。
カマド　位置　東壁南寄りで確認された。
規模　全長0.55m・最大幅0.56m・焚き口幅0.41m
袖　無し。
煙道　建物壁外に0.38m出る。煙道の出口は不明。調査時既に削平されたものと考えられる。
遺存状態　極めて悪い。燃焼部の焼けた痕跡や焼土・炭化物がわずかに残っていた。掘り方は燃焼部が若干凹んだ程度であった。
遺物出土状態　燃焼部で須恵器の羽釜破片や灰釉陶器の椀破片が若干出土した。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

139号竪穴建物（図165・397、PL.199・509・550）
位置　726～729、-882～-885　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｅ
重複　有り。118・119号竪穴建物に先行し、140号竪穴建物に後出する。
規模　面積(6.75)㎡、長軸(3.07)m×短軸(2.83)m×深さ0.01m
形状　隅丸方形か。南北方向に若干長い。
埋没土　ほとんど深さは無く不明。ほぼ他の建物と同様か。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　下に別の竪穴建物が無い部分は硬化していた。深さが無く、痕跡のみを確認した。
貯蔵穴　無し。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　遺物はカマド右手前南壁寄りで焼け礫が出土した。
カマド　位置　東壁南寄りで確認された。
規模　全長0.68m・最大幅0.53m・焚き口幅0.32m
袖　有り。左袖は118号竪穴建物のカマドで壊されていた。右袖は建物壁内に0.25m入る。粘性土が使用されていた。
煙道　建物壁外に0.48m出る。
遺存状態　焚口から燃焼部にかけて焼けた痕跡や焼土・炭化物がわずかに残っていた。建物の床が痕跡程度であったのに比べると比較的良い方か。
遺物出土状態　焚口手前で土器片がわずかに出土した。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

140号竪穴建物（図166・167・397、PL.200・201・509・550）

位置　723～726、-82～-886　**主軸方位**　Ｎ－35°－Ｅ

重複　有り。119・139号竪穴建物に先行する。

規模　面積6.28㎡、長軸3.41ｍ×短軸2.73ｍ×深さ0.73ｍ

形状　長方形。南西－北東方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含む。壁に近い周辺部はローム塊が多く含まれる。

掘り方　底面からの深さ0.00ｍ　無し。南西隅手前南壁寄りで床下土坑を確認したが、貯蔵穴になる可能性か高いものと考えられる。

床下土坑は長径51㎝×短径39㎝×深さ12㎝。

床面　As-YP層が露出している部分が多く、全般的あまり硬化していなかったが、カマド焚口からカマド左前には粘土が貼られ固められた部分があった。

貯蔵穴　有り。南西隅手前南壁寄りで確認した床下土坑がその可能性か高いものと考えられる。規模は長径51㎝×短径39㎝×深さ12㎝。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　遺物は床下土坑手前で須恵器の壺の深い蓋が出土した。

カマド　位置　東壁南隅手前で確認された。

規模　全長0.90ｍ・最大幅1.11ｍ・焚き口幅0.28ｍ

袖　有り。左袖は建物壁内に0.53ｍ、右袖は0.50ｍ入る。建物壁内に深く入り込むタイプのもので粘性土が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.12ｍ出る。外に出る部分は短い。

遺存状態　焚口から燃焼部にかけて焼けて若干赤変した痕跡や焼土・炭化物がわずかに残っていた。袖が内側に長く残っており、他建物のカマドに比べ残りは良い方であった。なお、カマド掘り方調査時に灰を掻き込んだと考えられる焼土粒が含まれる長径50㎝×短径33㎝×深さ20㎝の凹みが確認された。

遺物出土状態　底面よりもかなり高い位置から焼けた円礫と角礫が出土した。

備考　所属時期　出土遺物は少ないが、この一連の重複関係の中では最も古いことや建物の方向性などから７世紀前半頃と考えられる。10世紀後半の遺物は混入品か。

159号竪穴建物（図168、PL.202）

位置　716～867、-717～-869　**主軸方位**　Ｎ－89°－Ｅ

重複　有り。107・110号竪穴建物に先行する。

規模　面積（1.78）㎡、長軸（2.66）ｍ×短軸（0.83）ｍ×深さ0.25ｍ

形状　隅丸長方形か。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-C多量、ローム土・同塊を含む。下層は暗褐色土で、ローム土・同塊を多量、As-Cをわずかに含む。

掘り方　底面からの深さ0.00ｍ　有り。南西隅で床下土坑１を確認した。その規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径90㎝×短径54㎝×深さ23㎝。

床面　土坑等と重複する部分を除き全般的に良く硬化していた。

貯蔵穴　不明。

柱穴　不明。

周溝　無し。

遺物出土状態　小破片がわずかに出土した。

カマド　位置　不明。

規模　全長不明ｍ・最大幅不明ｍ・焚き口幅不明ｍ

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から時期判定はできなかった。

217号竪穴建物（図168・169・397、PL.203・204・509・553）

位置　725～728、-893～-896　**主軸方位**　Ｎ－81°－Ｗ

重複　有り。376・388・390号土坑に先行する。

規模　面積7.92㎡、長軸3.45ｍ×短軸3.03ｍ×深さ0.17ｍ

形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム小塊・同粒子・As-Cを含む。壁に近い周辺部は黄褐色土で焼土粒子が含まれる。

掘り方　底面からの深さ0.00ｍ　無し。建物中央部やや南寄りで床下土坑１を確認した。掘り方調査時にカマド右側の南東隅に近い部分でＰ２を確認した。

床下土坑１は長径93㎝×短径63㎝×深さ20㎝。

床面　土坑等と重複する部分を除き全般的に良く硬化し

ていた。

貯蔵穴　有り。南西隅で確認した。ほぼ円形に近く深くしっかりした作りで、規模は長径66㎝×短径59㎝×深さ46㎝。

それ以外にカマド右手の南東隅で確認したＰ２がその可能性が考えられる。

柱穴　有り。東壁手前のカマド左袖からやや離れた北側にＰ１、同右袖の南東隅に近い部分でＰ２を確認した。Ｐ１の内部から甕胴部の大形破片が出土した。Ｐ２は他のものに比べ浅いので柱穴としてはやや違和感があり、位置的にも貯蔵穴の可能性を考えた。さらにカマドの焚口左袖側で前二者よりも小形のＰ３を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径47㎝×短径36㎝×深さ32㎝。

Ｐ２は長径48㎝×短径28㎝×深さ12㎝。

Ｐ３は長径24㎝×短径20㎝×深さ23㎝。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド以外では右手前で瓦の大形破片が出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.98m・最大幅0.94m・焚き口幅0.40m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.50m、右袖は0.40m入る。建物壁内に比較的深く入り込むタイプのもので粘性土に一部に礫と土器片が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.45m出る。

遺存状態　燃焼部には灰や焼土・炭化物が残っていた。袖が内側に良く残っていたが、天井は無かった。なお、掘り方は平面よりも一回り大きく、燃焼部には径18㎝×深さ６㎝と小形の浅い凹みが確認された。

遺物出土状態　焚口から燃焼部にかけて須恵器の椀や羽釜など多くの土器片が出土した。それ以外に焼けた円礫と角礫の破片等も出土した。

備考　所属時期　出土遺物などから10世紀前半頃と考えられる。

218号竪穴建物（図170・398、PL.205・509）

位置　739～743、-884～-886　**主軸方位**　Ｎ－89°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積6.86㎡、長軸3.35m×短軸2.70m×深さ0.23m

形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。貯蔵穴のある南東隅がやや丸みを持つ。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム粒子・As-Cを含む。壁に近い周辺部はにぶい黄褐色土でローム塊が含まれる。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。カマドの掘り方調査において焚口で使用面よりも下で径28㎝×深さ22㎝の円形を呈するＰ１が確認された。

床面　重複や床下土坑も無く、全体的に良く硬化していた。

貯蔵穴　有り。南東隅で確認した。隅丸長方形に近い楕円形で、規模は長径59㎝×短径43㎝×深さ29㎝。甕の破片等が出土した。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅９～15㎝×深さ２～６㎝で、東壁中央から南壁まで、貯蔵穴とカマド周辺以外を巡る。

遺物出土状態　カマド貯蔵穴周辺以外では中央南北ベルト沿いに大形焼け礫片が床面直上より出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.88m・最大幅0.63m・焚き口幅0.38m

袖　有り。左袖は明確ではないが、写真を見る限り右袖同様にあったものと考えられる。右袖は建物壁内に0.25m入る。建物壁内に比較的深く入り込むタイプのもので粘性土と共に一部に礫や土器片が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.55m出る。

遺存状態　焚口から燃焼部には灰や焼土・炭化物が残っていた。燃焼部の底面や壁は良く焼けていた。燃焼部と煙道部の境目は段になる。なお、掘り方は平面よりも幅広で大きく、焚口には径28㎝×深さ22㎝の円形を呈するＰ１が確認された。

遺物出土状態　焚口から燃焼部にかけて須恵器椀や羽釜などの土器片が出土した。左袖先端と想定される部分には焼けた礫片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物などから10世紀第２四半期～第３四半期頃と考えられる。

229号竪穴建物（図171・398、PL.206）

位置　721～722、-891～-893　**主軸方位**　Ｎ－３°－Ｗ

重複　無し。230号竪穴建物と重複する可能性が高いが、調査区外のため不明。

規模　面積(0.47)㎡、長軸(2.12)m×短軸(0.87)m×深さ(0.54)m

形状　隅丸長方形か。
埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム粒子・As-Cを含む。上層にはAs-Bを多く含む。壁に近い周辺部は暗褐色土でローム粒子多量・同塊が含まれる。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　確認された部分では良く硬化していた。
貯蔵穴　不明。北東隅で確認した隅丸方形の浅い土坑がその可能性が考えられる。土坑の規模は長径70㎝×短径35㎝×深さ８㎝。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　カマド及びその周辺以外では無い。
カマド　位置　北壁中央で確認されたか。
規模　全長(0.48)ｍ・最大幅(0.40)ｍ・焚き口幅不明。全体が調査出来ていない。
袖　不明。
煙道　建物壁外に0.46m出る。
遺存状態　燃焼部の途中から煙道部にかけて部分的に調査したものであり、全体の状況は不明である。にぶい黄褐色の粘性土と円礫が使用されていた。一部土器片も使用されていた可能性がある。
遺物出土状態　燃焼部で須恵器の椀や羽釜等の土器片や焼けた円礫が出土した。
備考　所属時期　出土遺物などから10世紀後半頃と考えられる。

230号竪穴建物(図171、PL.206)
位置　723～724､-893～-896　**主軸方位**　Ｎ－77°－Ｗ
重複　有り。388号土坑に後出する。
規模　面積(2.05)㎡、長軸2.75m×短軸(1.53)ｍ×深さ(0.34)ｍ
形状　隅丸長方形か。
埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊及び同粒子・As-Cを微量に含む。壁に近い周辺部は暗褐色土でローム粒子多量・同塊を含み粘性有り。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　確認された部分では良く硬化していた。
貯蔵穴　不明。調査範囲内では確認できなかった。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　出土位置を確認できたものは無い。
カマド　位置　東壁か。北壁では確認できなかった。
規模　全長不明・最大幅不明・焚き口幅不明。
袖　不明。
煙道　不明。
遺存状態　不明。
遺物出土状態　不明。
備考　所属時期　埋没土の状況などから他の竪穴建物とほぼ同時期と考えられるので10世紀前半頃か。

231号竪穴建物(図171、PL.206)
位置　725～727､-898～-900　**主軸方位**　Ｎ－70°－Ｗ
重複　有り。233号竪穴建物に先行し、232号竪穴建物に後出する。
規模　面積(0.69)㎡、長軸(2.45)ｍ×短軸(0.70)ｍ×深さ0.55m
形状　隅丸長方形か。
埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊及び同粒子・As-Cを含む。上層にAs-Cを多量に含む。壁に近い周辺部は灰褐色土でローム同塊を多量に含み粘性有り。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　確認された部分では良く硬化していた。
貯蔵穴　不明。調査範囲内では確認できなかった。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　出土位置を確認できたものは無い。
カマド　位置　東壁か。北壁では確認できなかった。
規模　全長不明・最大幅不明・焚き口幅不明。
袖　不明。
煙道　不明。
遺存状態　不明。
遺物出土状態　不明。
備考　所属時期　出土遺物から時期判定はできなかった。

232号竪穴建物(図171・398、PL.206)
位置　726～727､-898～-900　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｗ
重複　有り。231・233号竪穴建物に先行する。
規模　面積(0.74)㎡、長軸(2.03)ｍ×短軸(0.73)ｍ×深さ0.43m
形状　隅丸長方形か。
埋没土　全体に黒褐色土であり、焼土小塊及び同粒子を含む。近くにカマドが位置していたか。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　確認された部分では良く硬化していた。
貯蔵穴　不明。調査範囲内では確認できなかった。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　出土位置を確認できたものは無いが、埋没土中から須恵器の杯や甕の破片が出土した。
カマド　位置　東壁か。北壁では確認できなかった。
規模　全長不明・最大幅不明・焚き口幅不明。
袖　不明。
煙道　不明。
遺存状態　不明。
遺物出土状態　不明。
備考　所属時期　８世紀代の遺物も出土しているが、埋没土の状況などから10世紀後半頃か。

233号竪穴建物(図171・398、PL.206･509)
位置　726～728､-900～-901　**主軸方位**　Ｎ－1°－Ｅ
重複　有り。231・232号竪穴建物に後出する。
規模　面積(1.30)㎡、長軸(2.24)ｍ×短軸(1.43)ｍ×深さ0.29m
形状　不明。東壁の一部のみ確認。
埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊及び同粒子を含む。壁に近い周辺部はにぶい黄褐色土を含む。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　確認された部分では良く硬化していた。
貯蔵穴　不明。調査範囲内では確認できなかった。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　床直で須恵器の羽釜破片が1点、３棟の竪穴建物が交差する部分で亜角礫が出土した。埋没土中から灰釉陶器の椀破片が出土した。
カマド　位置　不明。
規模　全長不明・最大幅不明・焚き口幅不明。
袖　不明。
煙道　不明。
遺存状態　不明。
遺物出土状態　不明。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

Ｇ３区３面

１　竪穴建物

120号竪穴建物(図172・402、PL.207・208)
位置　698～700､-890～-892　**主軸方位**　Ｎ－72°－Ｅ
重複　有り。200号土坑に先行する。
規模　面積5.38㎡、長軸2.85m×短軸2.25m×深さ0.14m
形状　長方形。南北方向に若干長い。
埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含む。上層はAs-Cを多く含み、下層はローム小塊を含み粘性がある。
掘り方　底面からの深さ0.05m　掘り方調査時に建物南半より土坑１及びＰ１～４が確認された(ただしＰ３は200号土坑と重複)。いずれも小さい割には深い。それぞれの規模は下記の通りである。
土坑１は長径51㎝×短径56㎝×深さ17㎝。
Ｐ１は長径35㎝×短径25㎝×深さ28㎝。
Ｐ２は長径26㎝×短径25㎝×深さ37㎝。
Ｐ３は長径33㎝×短径20㎝×深さ31㎝。
Ｐ４は長径30㎝×短径25㎝×深さ37㎝。
床面　南半が良く硬化していた。灰や焼土が散る部分は確認されなかった。
貯蔵穴　無し。
柱穴　有り。掘り方調査時に確認されたＰ１～４がその可能性があるものと考えられる。しかし、建物壁外のピットと共に別の並びを形成する可能性も否定できない。
周溝　有り。掘り方調査時に幅10～20㎝×深さ２～５㎝で北壁の西半から西壁の北半で確認された。
遺物出土状態　建物中央で床直上から亜角礫が出土した。
カマド　位置　東壁南寄りで確認された。
規模　全長0.59m・最大幅0.40m・焚き口幅0.33m
袖　有り。右袖は建物壁内に0.23m、左袖は0.17m入る。
煙道　建物壁外に0.29m出る。
遺存状態　天井は無かった。燃焼部には焼土を含む暗灰褐色～にぶい黄褐色土が堆積していた。両袖とも粘土で構築されていたものと考えられる。掘り方は平面よりも二回り程大きく、焚口から燃焼部が凹む。
遺物出土状態　燃焼部左壁手前から須恵器椀の破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。

121号竪穴建物（図173・402、PL.209・210・510・554）

位置　701～704、-868～-871　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積9.02㎡、長軸3.71ｍ×短軸2.72ｍ×深さ0.12ｍ

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土であり、褐色土小塊・同粒子・As-Cを含みしまりは良い。下層はにぶい黄褐色土を含み粘性がある。

掘り方　底面からの深さ0.05ｍ　掘り方調査時にＰ１～５が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径41㎝×短径39㎝×深さ13㎝。

Ｐ２は長径31㎝×短径27㎝×深さ20㎝。

Ｐ３は長径42㎝×短径32㎝×深さ４㎝。

Ｐ４は長径31㎝×短径27㎝×深さ５㎝。

Ｐ５は長径30㎝×短径26㎝×深さ28㎝。

床面　東壁北半から半時計回りに南壁西半まであまり硬化していない部分もあったが、多くの部分が良く硬化していた。カマド手前には焼土が散る部分が確認された。

貯蔵穴　不明。掘り方調査時に北東隅で確認されたＰ１がその可能性があるものと考えられる。

柱穴　有り。掘り方調査時に確認されたＰ２～5がその可能性があるものと考えられる。建物周辺には同様なピットは無いので、この建物に伴うものと考えられる。

周溝　無し。写真では壁に沿ってわずかに凹むようにも見えるが、明確なものではない。

遺物出土状態　建物中央で床直上から亜角礫が出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.93ｍ・最大幅0.77ｍ・焚き口幅0.65ｍ

袖　無し。建物壁内には延びない。

煙道　建物壁外に0.77ｍ出る。

遺存状態　天井は無かった。燃焼部には炭化物を含む灰層とその手前に焼土が散る部分があった。燃焼部左壁に長径28㎝×短径22㎝×深さ３㎝程の凹みを有する。掘り方は平面よりも二回り程大きく、焚口の下部は緩やかに凹む。燃焼部と煙道部の境目は段になり、燃焼部に径30㎝×深さ５㎝程の凹みを有する。

遺物出土状態　燃焼部入口左壁寄りに逆位の甕が、煙道部から須恵器椀の破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。

122号竪穴建物（図174・175・402・403、PL.211・212・510・554）

位置　694～697、-894～-896　**主軸方位**　Ｎ－69°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積6.12㎡、長軸3.81ｍ×短軸2.75ｍ×深さ0.33ｍ

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含み粘性有り。下層はローム塊を多く含む。壁際は暗褐色土。

掘り方　底面からの深さ0.05ｍ　掘り方調査時に建物中央で隅丸方形の床下土坑１が、南東隅で円形のＰ１が確認された。Ｐ１はやや小形ではあるが、カマドの右脇であり、位置的に見て貯蔵穴の可能性が高いと考えられる。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径63㎝×短径62㎝×深さ8㎝。

Ｐ１は長径40㎝×短径34㎝×深さ9㎝。

床面　壁際を除き多くの部分が硬化していたが、カマド手前から建物中央部は特に固くやや光沢を帯びていた。写真を見るとカマド右手前には若干焼土が散る部分があったことが分かる。

貯蔵穴　有り。掘り方調査時に南東隅で確認されたＰ１が相当するものと考えられる。羽釜の破片出土。

柱穴　無し。

周溝　無し。写真では壁に沿ってわずかに凹むようにも見えるが、明確なものではない。

遺物出土状態　カマド及びその周辺以外では北東部壁寄りと南東部壁寄りで須恵器の羽釜破片や椀などが出土したが、床面よりかなり高い位置であった。南東部には大形の焼けた円礫が纏まっていた。カマドに使用されていたものか。

カマド　位置　東壁やや南寄りで確認された。

規模　全長1.01ｍ・最大幅0.81ｍ・焚き口幅0.50ｍ

袖　有り。左袖は建物壁内に0.06ｍ入る。右袖は大形円礫の手前まで延びていたものか。本来は両袖ともわずかに延びていたものと思われる。

煙道　建物壁外に0.60ｍ出る。

遺存状態　天井は無かった。焚口がわずかに凹む。燃焼部の左右の壁には円礫が使用されていた。燃焼部と煙道部の境目は段になる。わずかに入る両袖は粘土で構築されていたものと考えられる。掘り方は平面よりも一回り程大きく、煙道部右壁側にわずかな凹みが２基連続する。礫を抜いた痕跡か。

遺物出土状態　燃焼部左右両から須恵器羽釜や椀の破片が多く出土した。煙道部出口の上に羽釜の破片があり、蓋をしていたものか。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期頃と考えられる。

123号竪穴建物（図175・176・403・404、PL.213・214・510・511・554）

位置　689～692、-882～-884　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｅ

重複　有り。26号溝に後出する。

規模　面積4.82㎡、長軸3.15m×短軸2.33m×深さ0.44m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土であり、ローム塊・同粒子・As-Cを含み粘性有り。下層の壁際には炭化物を少量含む部分あり。

掘り方　底面からの深さ0.05m　掘り方調査時に建物中央やや北寄りで楕円形の床下土坑１が、南西隅で円形のＰ１が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径101㎝×短径89㎝×深さ８㎝。

Ｐ１は長径36㎝×短径33㎝×深さ30㎝。

床面　壁際を除きほぼ全面が硬化していた。

貯蔵穴　有り。南東隅で確認された。高台付椀などが出土した。

柱穴　有り。掘り方調査時に確認されたＰ１が深くしっかりした作りになっており、その可能性がある。

周溝　無し。平面調査時には確認できなかった。掘り方調査時に幅５～15㎝×深さ１～５㎝でカマド左手の東壁中央から西壁のＰ１の手前まで巡ることを確認した。最初に掘ったが、埋め戻して使用していたということか。

遺物出土状態　カマド及びその周辺以外では北東隅壁寄りで須恵器の壺、東壁中央で羽釜の破片などが出土したが、いずれも比較的床面に近い位置であった。カマド手前の大形の焼けた円礫はカマドに使用されていたものと考えられる。

カマド　位置　東壁やや南寄りで確認された。

規模　全長0.91m・最大幅0.85m・焚き口幅0.50m

袖　有り。左袖は建物壁内にわずかに入る。右袖は0.33m入る。本来は両袖とももう少し延びていたものと思われる。

煙道　建物壁外に0.59m出る。

遺存状態　天井は落ちていたが、比較的残りは良かった。燃焼部には焼土混じりの灰が厚く堆積していた。石組みのカマドであり、燃焼部の壁や煙道部の出口の上などに円礫が多用されていた。手前に落ちていた礫は天井などに使用されていたものと考えられる。燃焼部と煙道部の境目は段になる。掘り方は平面よりも一回り程大きく、礫が据えられていた部分には小ピットが開く。

遺物出土状態　燃焼部から須恵器の羽釜破片や椀の破片が多く出土した。円礫の支脚の上には椀が伏せられていた。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期頃と考えられる。

124号竪穴建物（図177・178・405、PL.215・554）

位置　709～711、-884～-887　**主軸方位**　Ｎ－82°－Ｅ

重複　有り。207号土坑・63号ピットに先行する。

規模　面積6.92㎡、長軸3.04m×短軸2.52m×深さ0.08m

形状　隅丸長方形。南北方向に若干長い。

埋没土　上層は黒褐色土であり、As-Cを含みしまりのある粘性土。下層はしまりの強いにぶい黄褐色の粘性土。

掘り方　底面からの深さ0.03m　掘り方調査時に建物中央やや南壁寄りで円形の床下土坑１が、その北側で隅丸長方形のＰ１が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径66㎝×短径66㎝×深さ13㎝。

Ｐ１は長径25㎝×短径20㎝×深さ58㎝。

床面　建物南半、カマド手前から西側で特に硬化している部分が確認された。

貯蔵穴　有り。カマド右の南東隅で確認された。羽釜や高台付椀の破片や炭化材片などが出土した。

柱穴　有り。掘り方調査時に確認されたＰ１が深くしっかりした作りになっており、その可能性が考えられる。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド及びその周辺以外では北半でまば

らに須恵器の羽釜の破片などが出土した。

カマド　位置　東壁やや南寄りで確認された。

規模　全長0.69m・最大幅1.06m・焚き口幅0.81m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.43m､右袖は0.44m入る。

煙道　建物壁外に0.26m出る。

遺存状態　あまり残っていなかった。燃焼部は良く焼けて赤変していた。掘り方は平面よりも一回り程大きく、礫が据えられていたと考えられるような小ピットは無かったので、礫はほとんど使用されていなかったものと考えられる。

遺物出土状態　燃焼部から須恵器羽釜の破片などが出土した。掘り方調査時に土器小片が１点出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

125号竪穴建物(図178・405・406、PL.216・511)

位置　702～705､-897～-900　**主軸方位**　Ｎ－84°－Ｅ

重複　有り。126号竪穴建物に後出する。

規模　面積(6.30) ㎡、長軸3.65m×短軸2.09m×深さ0.34m

形状　隅丸長方形。南北方向にかなり長い。

埋没土　全体に黒褐色土であり、As-C・ローム小塊を含みしまりのある粘性土。下層の方がローム小塊を多く含み、炭化物も含まれる。

掘り方　底面からの深さ0.05m　掘り方より下に落ち込みはあるが、126号竪穴建物に全体が入ってしまうため、本来どちらのものであるか判然としない。しかし、調査時の見解を尊重し、126号竪穴建物のところで掲載することとした。

床面　写真からカマド手前から北側でやや硬化している部分があるように見える。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド及びその周辺以外では若干の須恵器の椀や羽釜の破片などが出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長1.24m・最大幅0.85m・焚き口幅0.43m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.22m､右袖は0.20m入る。両袖とも先端に円礫が据えられていた。

煙道　建物壁外に0.51m出る。

遺存状態　比較的良好。焚口手前から凹む。手前にあったやや大形の細長い円礫は焚口の上に載っていたものと考えられる｡両袖端部と支脚には円礫が据えられていた。焚口から燃焼部、煙道部まで良く焼けて赤変していた。燃焼部と煙道部の境目は段になる。燃焼部には５㎝程焼土層が堆積していた。掘り方は平面よりも一回り以上大きく、礫が据えられていたところには小ピットも見られた。

遺物出土状態　燃焼部から須恵器の椀や羽釜の破片など多く出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀代頃と考えられる。

126号竪穴建物(図179・180・406、PL.216～218・512・550)

位置　701～705､-896～-900　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｅ

重複　有り。125号竪穴建物に先行する。

規模　面積15.42㎡､長軸4.89m×短軸3.70m×深さ0.25m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。南東隅は角張る。

埋没土　全体に黒褐色～暗褐色土であり、As-Cを含みしまりのある粘性土。壁近くには褐色土を含む。

掘り方　底面からの深さ0.09m　掘り方より下に落ち込みはあるが、125号竪穴建物と重複する部分も多く、床下土坑１・Ｐ１・３・５は本来どちらのものであるか判然としない。しかし、調査時の見解を尊重し、この竪穴建物のところで掲載することとした。Ｐ２は他のものに比べてやや大きく浅く、土器片等の遺物も出土していることから副の貯蔵穴の可能性も否定できない。

床下土坑１は長径70㎝×短径45㎝×深さ11㎝。楕円形。

Ｐ１は長径31㎝×短径25㎝×深さ44㎝。楕円形。

Ｐ２は長径45㎝×短径43㎝×深さ13㎝。楕円形。

Ｐ３は長径43㎝×短径34㎝×深さ18㎝。楕円形で中段有り。

Ｐ４は長径38㎝×短径30㎝×深さ13㎝。やや楕円形。

Ｐ５は長径25㎝×短径(13)㎝×深さ31㎝。Ｐ１と重複する。

床面　斜めに二分した南東半分がほぼ硬化していた。南壁沿いは遺物も多く浅く凹み硬化面は見られなかった。北西部分には125号竪穴建物との重複があり、それ以外に硬化している部分が残っていたとも考えられる。カマド右前には炭化物混じりの灰が散っている部分があっ

た。

貯蔵穴　有り。南西隅で確認された。やや高い位置で土師器椀底部が出土した。

規模は長径79㎝×短径68㎝×深さ23㎝。楕円形。

掘り方調査時に確認されたＰ２もその可能性は否定できない。

柱穴　有り。掘り方調査時に確認したＰ１・Ｐ３～５がその可能性がある。

周溝　有り。掘り方調査時に幅10～20㎝×深さ１～６㎝で東壁北東隅寄りから反時計回りに西壁沿いまで確認した。西壁中央で一部間が切れる。断面図を見る限りでは最初に掘ったものの埋め戻して使用していたと考えることができる。

遺物出土状態　カマド及びその周辺以外では南壁手前で多くの遺物が出土した。その遺物には須恵器や灰釉陶器の椀や羽釜の破片などがあった。南東隅では焼けた凝灰岩の切石があり、カマドで使用されていたものと考えられるものもあった。カマド手前から北側は小破片がまばらに出土した。

カマド　位置　東壁中央やや南寄りで確認された。

規模　全長1.10m・最大幅1.42m・焚き口幅0.52m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.34m､右袖は0.19m入る。残存部位には礫が使用されていた痕跡は確認できなかった。

煙道　建物壁外に0.77m出る。

遺存状態　焚口手前から燃焼部にかけて極わずかに凹む。燃焼部壁には円礫が使用されていた。焚口から燃焼部、煙道部まで焼けて赤変していた。燃焼部と煙道部の境目は段になる｡掘り方は平面よりも一回り以上大きく、小ピットが数基開く。

遺物出土状態　燃焼部から須恵器の羽釜破片などが出土した。掘り方では数点の土器小片が出土したが、構築材の一部に使用されていたものか。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第１四半期頃と考えられる。

127号竪穴建物(図181・182・407、PL.219・220・512・550)

位置　710～715､-898～-901　**主軸方位**　Ｎ－88°－Ｅ

重複　有り。212号土坑に先行する。

規模　面積9.63㎡、長軸3.84m×短軸2.90m×深さ0.25m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色～暗褐色土であり、As-Cを含みややしまりのある粘性土。下層の壁近くではローム小塊を多く含む。

掘り方　底面からの深さ0.05m　建物中央から南西隅にかけて土坑やピットが確認された。

床下土坑１は長径57㎝×短径48㎝×深さ15㎝｡楕円形。南西隅。

床下土坑２は長径53㎝×短径53㎝×深さ８㎝。隅丸方形。床下土坑３の西隣。

床下土坑３は長径80㎝×短径73㎝×深さ17㎝｡楕円形。段が有り。西側が深くなる。位置はほぼ中央。

Ｐ１は長径35㎝×短径27㎝×深さ12㎝。隅丸三角形。床下土坑２の南側。

Ｐ２は長径24㎝×短径21㎝×深さ24㎝。底部が隅丸方形。中央やや北側。

Ｐ３は長径31㎝×短径30㎝×深さ46㎝｡東壁ほぼ中央。

Ｐ４は長径21㎝×短径20㎝×深さ28㎝。西壁中央よりやや南側。

床面　他の遺構との重複が無いので、ほぼ全面的に硬化していたが、光沢を持つ程ではなかった。カマド前には炭化物混じりの灰が散っていた。

貯蔵穴　有り。北東隅で確認された。黒褐色～暗褐色土で埋没していたが、ややしまりの弱い土であった。角礫が出土した。

規模は長径74㎝×短径60㎝×深さ34㎝。楕円形。

柱穴　有り。掘り方調査時に確認したＰ１～４がその可能性がある。特にＰ２～４は深さも深く、配置も良い。

周溝　有り。幅７～15㎝×深さ３～５㎝で東壁北東隅手前から反時計回りに西壁南西隅手前まで確認した。

遺物出土状態　カマド及びその周辺以外では建物中央部で散漫に出土した。その中には焼けた円礫や礫片の他に須恵器の杯や椀の底部破片などがあった。

カマド　位置　東壁やや南寄りで確認された。

規模　全長1.05m・最大幅0.80m・焚き口幅0.55m

袖　無し。建物壁内に延びるものではない。

煙道　建物壁外に(0.75)m出る。212号土坑に壊されており、煙道出口は不明。

遺存状態　天井は無かったが、焚口左壁には円礫が残っていた。燃焼部には炭化物混じりの灰が10㎝程度堆積し

ていた。掘り方は平面よりも一回り大きく、焚口から燃焼部にかけて楕円形に凹む。

遺物出土状態　燃焼部から羽釜や杯の破片などが出土した。カマド右手前から灰釉陶器の破片や炭化材の破片などが出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

128号竪穴建物(図182・183・407、PL.221・222・512・554)

位置　694～696、-883～-886　**主軸方位**　Ｎ－89°－Ｅ

重複　有り。131号竪穴建物に後出する。

規模　面積6.24㎡、長軸3.12m×短軸2.50m×深さ0.33m

形状　隅丸長方形。東西方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土であり、As-C及びローム塊・同粒子を含みややしまりの弱い粘性土。下層の壁近くではにぶい黄褐色の粘性土。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　比較的全面的に硬化傾向は見られたが、特に東半が硬化しやや光沢があった。南壁中央で長径62㎝×短径53㎝×深さ11㎝の隅丸三角形の土坑１を確認した。

貯蔵穴　有り。北東隅手前で確認された。灰褐色～にぶい黄褐色土で埋没していたが、ややしまりの弱い土であった。中から角礫が出土した。

規模は長径72㎝×短径48㎝×深さ20㎝。卵形。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド及びその周辺以外では建物全体から散漫に須恵器の小破片及び灰釉陶器の破片が出土した。

カマド　位置　東壁やや南隅寄りで確認された。

規模　全長0.88m・最大幅0.72m・焚き口幅0.42m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.51m、右袖は0.05m入る。右袖ももう少し長かったものと考えられる。袖の構築材の一部に羽釜の破片が使用されていた可能性がある。

煙道　建物壁外に0.56m出る。

遺存状態　天井は無かった。燃焼部から煙道にかけて焼けて赤変していた。燃焼部と煙道部の境目は段になる。掘り方は平面よりも一回り大きく、袖が無くなり、焚口から燃焼部にかけてやや大きめのピットが３基、煙道部との境目に小さいピットが２基開く。

遺物出土状態　左袖から焚口・燃焼部にかけて須恵器の羽釜や灰釉陶器の皿破片などが出土した。カマド右手前には灰釉陶器の破片などもあった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。

129号竪穴建物(図183・184・408・409、PL.221・223・224・512)

位置　697～699、-881～-885　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｅ

重複　有り。135号竪穴建物に先行し、130・131号竪穴建物に後出する。

規模　面積(5.06) ㎡、長軸3.93m×短軸2.71m×深さ0.22m

形状　隅丸長方形。東西方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土であり、As-Cを含みしまりのある粘性土。下層はやや明るい。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　他の竪穴建物と重複する部分が多く、あまり硬化している部分はなかった。床面に土坑・ピット類は無い。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド及びその周辺以外でも建物全体から須恵器の椀や灰釉陶器の皿破片などが出土した。

カマド　位置　東壁やや南隅寄りで確認された。

規模　全長1.15m・最大幅0.67m・焚き口幅0.42m

袖　有り。左袖は無し。右袖は建物壁内に0.15m入る。建物壁内に延びるものではない。

煙道　建物壁外に0.60m出る。

遺存状態　やや崩れていたが、比較的良好。天井は無かった。支脚には円礫が使用されていた。燃焼部は焼けてやや赤変していた。燃焼部と煙道部の境目は段になり、円礫を横に立てることにより仕切られていた。カマド右前には焼土が散っていた。焚口から手前には大形の焼けた円礫があり、カマドで使用されていたものと考えられる。掘り方は平面よりもやや大きく、焚口の両側に円礫を置いた時の小ピットが開く。

遺物出土状態　右袖脇から灰釉陶器の皿破片が、焚口・燃焼部にかけて多くの須恵器の羽釜破片が出土した。破片の一部はカマドの構築材として使用されていたものも含まれると考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

130号竪穴建物(図184・185・409、PL.221・225・226・513)

位置　699～702、-880～-884　**主軸方位**　Ｎ－65°－Ｅ

重複　有り。129・135号竪穴建物に先行する。

規模　面積(6.55)㎡、長軸2.92m×短軸2.85m×深さ0.35m

形状　隅丸方形。東西方向にわずかに長い。北東と南東の隅がより角張る。

埋没土　全体に黒褐色土であり、As-Cを含みしまりと粘性のある土。下層には炭化物片を含む。

掘り方　底面からの深さ0.03m　有り。底面からわずかに下がる部分もあるが、特徴的な凹凸は無く床下土坑やピットもない。

床面　他の竪穴建物と重複する西側以外はやや硬化していた。カマド焚口より手前に焼土を含む灰が、貯蔵穴周りには粘土があった。

貯蔵穴　有り。南東隅。北側に粘土分布。ロームを多く含むにぶい黄褐色土、その下に焼土粒を少量含む灰黄褐色土により埋没していた。両層ともしまりは弱い。須恵器の椀や灰釉陶器などの大形破片が出土した。
規模は長径5.1㎝×短径4.0㎝×深さ15㎝。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド及びその周辺以外では他の建物と重複していない東側を中心に須恵器の羽釜や椀・灰釉陶器の破片などが出土した。

カマド　位置　東壁ほぼ中央、わずかに南寄りで確認された。

規模　全長0.83m・最大幅0.85m・焚き口幅0.32m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.20m、右袖は0.26m入る。建物壁内に長く延びるものではない。左袖には礫片が、右袖には羽釜の破片が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.60m出る。

遺存状態　崩れており、天井は無かった。焚口から燃焼部およびその手前には掻き出した焼土があった。その右手前には灰層があった。燃焼部と煙道部の境目は緩やかに段気味になっていた。掘り方は平面よりもやや幅広く、焚口の左側に１基、燃焼部右壁側に２基の小ピットが開く。

遺物出土状態　左袖手前から須恵器椀や羽釜の破片が、燃焼部から煙道部にかけてほぼ完形の椀や羽釜破片などが出土した。その一部はカマドの構築材として使用されていたものと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期頃と考えられる。

131号竪穴建物(図185・186・410、PL.221・227・228・513・554)

位置　695～698、-881～-885　**主軸方位**　Ｎ－82°－Ｅ

重複　有り。128・129・135号竪穴建物に先行する。

規模　面積(6.46)㎡、長軸3.35m×短軸2.98m×深さ0.40m

形状　隅丸長方形。東西方向に長い。北東と南東の隅がやや角張る。

埋没土　上層は黒褐色土であり、As-Cを多量、ローム小塊を含みしまりが弱く粘性のある土。下層はローム塊を多量、炭化物を含むにぶい黄褐色土でややしまりのある粘性土。

掘り方　底面からの深さ0.03m　有り。底面からわずかに下がり、カマド手前の128号竪穴建物の北東隅との重複部分に長径(115)㎝×短径85㎝×深さ14㎝の不定形の凹みと西壁手前中央やや北寄りにほぼ円形の床下土坑１がある。その規模は長径56㎝×短径55㎝×深さ17㎝。

床面　下に凹みがある部分や他の建物と重複する部分以外のカマド左前から建物北東部にやや硬化した部分が確認された。

貯蔵穴　不明。北東隅やカマド右側には確認できなかったので、128号竪穴建物と重複する南西隅の可能性はあるのではないかと考えられる。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　北壁中央手前の床に近い位置から刀子が１点出土した。南壁カマド寄りでは底部径の小さい椀が、南壁128号竪穴建物寄りでは円礫の敲石と椀の口縁部破片が出土した。

カマド　位置　東壁南隅寄りで確認された。

規模　全長0.92m・最大幅0.93m・焚き口幅0.50m

袖　無し。建物壁内に延びるものではない。

煙道　建物壁外に0.83m出る。

遺存状態　崩れており、天井は無かった。燃焼部は焼けており焼土混じりの土が７㎝程残っていた。燃焼部と煙道部の境目には礫片が使用されていた。底面は緩やかに

上がる。掘り方は平面よりもやや幅広くなるが、ピット等は開かなかった。

遺物出土状態　燃焼部を主体に羽釜破片などが多数出土した。その一部はカマドの構築材として使用されていたものと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

132号竪穴建物（図187・188・411・412、PL.229～231・513・514）

位置　702～705、-889～-894　**主軸方位**　Ｎ－71°－Ｅ

重複　有り。22号溝に先行する。

規模　面積10.85㎡、長軸4.60m×短軸3.00m×深さ0.30m

形状　隅丸長方形。東西方向に長い。北東と南東の隅が丸みを有する。

埋没土　全体は黒褐色土であり、上層はAs-Cを多量、炭化物粒を若干含む。下層はAs-Cを少量、黄褐色土を若干、焼土粒をわずかに含む。

掘り方　底面からの深さ0.02m　有り。底面からわずかに下がり、建物中央を南北に４基の床下土坑と１基のピットが開く。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１（土坑２）は長径64㎝×短径64㎝×深さ10㎝。中段のある楕円形。

床下土坑２（土坑３）は長径83㎝×短径60㎝×深さ11㎝。卵形。

床下土坑３は長径83㎝×短径61㎝×深さ７㎝。卵形で浅い。

床下土坑４は長径82㎝×短径53㎝×深さ17㎝。楕円形。

Ｐ１は長径50㎝×短径32㎝×深さ47㎝。楕円形。底部は径25㎝のほぼ円形。

床面　下に土坑などの凹みがある部分が多く、硬化した部分はほとんど確認されなかった。南西隅で土坑１を確認した。規模は長径83㎝×短径61㎝×深さ22㎝。楕円形。中段を有する。また、北東隅では径25㎝前後×深さ18・12・8㎝の小ピットが一列に並らび、その北側に接して焼土が確認された。

貯蔵穴　北西隅で確認した。埋没土は黒褐色土で、若干のAs-Cと少量のローム塊・炭化物粒を含む。遺物は須恵器の高台付椀の破片が出土した。規模は長径67㎝×短径65㎝×深さ22㎝。楕円形。中段を有する。

柱穴　有り。掘り方調査時に確認されたＰ１が47㎝とかなり深く相当するものと思われる。

周溝　有り。掘り方調査時に北東隅で幅15㎝×深さ２㎝で1.35mの極限られた範囲で確認された。写真を見る限りでは対峙する側にも壁沿いにあるようにも見える。

遺物出土状態　全体的に焼けた大形の円礫が多いが、北壁東寄りで須恵器の大甕の口縁部破片が出土した。それ以外には羽釜の破片が多く、椀の破片なども散在的に出土した。

カマド　位置　北壁西隅寄りで確認された。東壁の不自然な出っ張りはカマドと両袖のようにも見える。北東隅には焼土も残っており、総じて古いカマドの痕跡（２号カマド）の可能性も否定出来ない。

規模　全長1.18m・最大幅0.47m・焚き口幅0.35m

袖　無し。建物壁内に延びるものではない。

煙道　建物壁外に0.73m出る。

遺存状態　崩れており、天井は無かった。焚口は７～８㎝程凹む。燃焼部は焼けており焼土混じりの土が10㎝程残っていた。燃焼部と煙道部の境目には円礫が横向きに置かれていた。掘り方は平面よりもやや幅広くなるが、礫を据えたようなピット等は無かった。焚口が15㎝程凹み、埋没土は焼土塊及び黄褐色土塊を少量含むしまりの無い黒褐色土であった。

遺物出土状態　焚口には正位に３枚重ねられた杯があり、燃焼部左壁には比較的大形の羽釜破片があった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第１四半期頃と考えられる。

133号竪穴建物（図189・413・414、PL.232～234・514・550）

位置　694～697、-994～-997　**主軸方位**　Ｎ－78°－Ｗ

重複　無し。

規模　面積（6.29）㎡、長軸3.15m×短軸2.65m×深さ0.38m

形状　隅丸方形。東西方向に若干長い。

埋没土　全体は黒褐色土であり、上層はAs-Cを多量、炭化物粒を若干含む。下層はAs-Cを少量含み、特に壁際はローム土を30～40％程度含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。底面からほとんど下がらないが、北壁沿い貯蔵穴の西側で土坑１の東側で床下土坑１を確認した。規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径94㎝×短径61㎝×深さ31㎝。楕円形。

床面　南側2/3程度は比較的良く硬化していた。北西隅寄りで土坑１を確認した。規模は長径55㎝×短径40㎝×深さ17㎝。楕円形。中段を有し、北西側に底部が来る。

貯蔵穴　掘り方調査時に北東隅で確認した。埋没土は黒褐色土で、若干のAs-Cと若干のローム塊・若干の焼土粒を含む。平面的には重複する位置から羽釜の破片等の遺物が出土したが､穴よりもかなり高い位置からであり、穴の内部からではない。規模は長径41㎝×短径34㎝×深さ12㎝。楕円形。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅５～18㎝×深さ１～５㎝でカマドを除きほぼ全周で確認された。

遺物出土状態　北西部を除きほぼ全面的に確認された。建物中央や北東部では土器破片以外に焼けた大形の円礫が多く出土した。土器は須恵器の羽釜破片が多く、椀の破片なども散在的に確認された。

カマド　位置　南東隅で斜めに確認された。

規模　全長0.78m・最大幅0.63m・焚き口幅0.31m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.33m､右袖は0.35m入る。両袖には円礫が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.73m出る。

遺存状態　崩れており､天井は無かったが､比較的良好。一定間隔で円礫が配され間を粘性土で埋めて構造体が作られていた。焚口から燃焼部にかけて若干凹む。支脚は細長い円礫が使用されていた。焚口から燃焼部にかけては焼けており焼土が残っていた。燃焼部と煙道部の境目には扁平な大形円礫が置かれていた。さらに煙道部の出口には細長い円礫が置かれていた。掘り方は平面よりもやや幅広くなり、円礫を据えた場所には小ピットが規則的に確認された。埋没土の上層はAs-Cを多く含み、炭化物粒と黄褐色土粒を若干含むややしまりのある黒褐色土であった。下層は炭化物粒や焼土粒を若干含む暗褐色からにぶい黄褐色土であった。

遺物出土状態　焚口手前やカマド左側には須恵器の椀があったが、右袖や燃焼部には多くの羽釜破片があった。カマドに掛けられていたものでは無く、その一部はカマドの構築材として使用されていたものと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。

134号竪穴建物（図190・191・414、PL.235～237・514）

位置　692～697､-897～-902　**主軸方位**　Ｎ－44°－Ｗ

重複　有り。236号土坑に先行する。

規模　面積12.98㎡､長軸4.15m×短軸4.00m×深さ0.79m

形状　隅丸方形。北東－南西方向に極わずかに長い。

埋没土　全体は黒褐色～暗褐色土であり、上層はAs-Cを多量に含む。下層はローム塊を多量に含む。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。底面からわずかに下がり、建物中央で床下土坑１、その南側で床下土坑２を確認した。規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径113㎝×短径100㎝×深さ29㎝。隅丸方形。

床下土坑２は長径160㎝×短径128㎝×深さ24㎝。楕円形。

床面　下に土坑・ピット等があるところ以外は比較的良く硬化していた。特に貯蔵穴周りは良く硬化し光沢を有していた。幅55㎝×深さ２㎝で南西壁中央から北西方向に建物中央まで伸びる溝状の凹みがある。

貯蔵穴　北隅で確認した。埋没土はローム塊・同粒を多量に含むしまりの悪い黒褐色土であった。穴の周りは掘り返した土で盛り上がり、良くしまり光沢があった。遺物の出土は無い。穴の規模は長径63㎝×短径60㎝×深さ34㎝。隅丸方形。盛土の外側の径は110㎝×95㎝。

柱穴　有り。掘り方調査時に４本確認した。いずれもかなり深いが、特に南西側の2本が深い。規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径43㎝×短径41㎝×深さ67㎝。円形。

Ｐ２は長径38㎝×短径34㎝×深さ56㎝。楕円形。

Ｐ３は長径31㎝×短径29㎝×深さ44㎝。円形。

Ｐ４は長径36㎝×短径34㎝×深さ41㎝。円形。

周溝　有り。幅８～23㎝×深さ２～８㎝でカマド左袖から貯蔵穴右脇まで反時計回りに巡る。

遺物出土状態　遺物量としては少ない。カマド右手前で１個の円礫と共に甕の破片が纏まって出土したが、それ以外は散在的に確認された。全体として土器は甕の破片が多く、土師器の杯の破片などもわずかに見られた。

カマド　位置　西壁中央やや北寄りで確認された。

規模　全長1.08m・最大幅1.42m・焚き口幅0.55m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.62m､右袖は0.65m入る。両袖は黄褐色の粘性土が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.23m出る。あまり長く延びない。

遺存状態　崩れており、天井は無かったが、両袖は残っており比較的良好。基本的に粘性土で構造体が作られており、円礫は使用されていなかった。焚口から燃焼部にかけて若干凹む。焚口手前から燃焼部にかけて焼土が残存していた。支脚は残存していなかった。焚口から燃焼部にかけては焼けており焼土が残っていた。掘り方は両袖が無くなり、煙道部の先端がやや幅広くなる。

遺物出土状態　遺物は少なく、燃焼部から煙道部手前で若干の土師器の甕破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から６世紀後半頃と考えられる。

135号竪穴建物（図192・414、PL.221・238・239・514・554）

位置　697～700、-883～-886　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｅ

重複　有り。129～131号竪穴建物に後出する。

規模　面積7.46㎡、長軸3.47m×短軸2.63m×深さ0.47m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　全体は暗褐色土であり、しまりはやや弱く粘性あり。上層はAs-Cを多く、ローム小塊及び炭化物粒を含む。下層はAs-Cを少量含み、ローム小塊を多量に含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　カマド手前は良く硬化していた。南西隅で土坑１を、カマド手前で土坑２を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑１は長径62㎝×短径50㎝×深さ24㎝。楕円形。位置的にも貯蔵穴の可能性が高いものと考えられる。

土坑２は長径78㎝×短径68㎝×深さ15㎝。ほぼ円形。床面で調査したが、カマド焚口の直ぐ前であり、床下土坑の可能性がある。

貯蔵穴　南西隅で確認した土坑１がその可能性が高いと考えられる。埋没土は灰黄褐色～にぶい黄褐色土で、粘性はあるがしまりは弱い。下層の方がローム小塊を多く含む。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　全体からまばらに出土した。北東隅手前で床面よりもやや高い位置で焼けた大形の円礫片が出土した。土器は須恵器の椀の底部破片などが確認された。北西部から火打ち石と考えられる石英片が1点出土した。

カマド　位置　東壁中央南寄りで確認された。

規模　全長0.91m・最大幅1.05m・焚き口幅0.30m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.29m、右袖は0.31m入る。右袖上には円礫片が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.45m出る。

遺存状態　崩れており、天井は無かったが、両袖は残っていた。カマドは基本的に粘性土で作られていたが、一部に礫片や土器片も使用されていた。焚口から燃焼部にかけて若干凹む。支脚は残っていなかった。燃焼部は焼けており底面や壁面に焼土が残っていた。掘り方は平面よりもやや幅広くなるが、小ピット等は開かなかった。

遺物出土状態　燃焼部には灰釉陶器の底部破片や土器小破片等が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

136号竪穴建物（図193・194・415・416、PL.240～242・271・514・515・554）

位置　711～715、-890～-894　**主軸方位**　Ｎ－77°－Ｗ

重複　有り。157・165号竪穴建物に後出する。

規模　面積9.06㎡、長軸3.65m×短軸3.38m×深さ0.33m

形状　隅丸方形。東西方向に若干長い。北壁と西壁が長く台形に近い。

埋没土　全体は黒褐色土で、しまりはややあり。上層はAs-Cを多量、ローム小塊及び炭化物粒を若干含む。下層はAs-Cを少量含み、黄褐色粒・ローム粒を若干含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。建物壁内西半に３基の床下土坑を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径88㎝×短径75㎝×深さ20㎝。楕円形。

床下土坑２は長径55㎝×短径44㎝×深さ24㎝。楕円形。

床下土坑３は長径48㎝×短径44㎝×深さ31㎝。円形。

床面　建物中央に1.55m×1.20mの範囲に焼土・灰・粘土の混合土が分布する部分が確認された。また、カマド手前には1.33m×0.6mの範囲に炭化物が散る部分が確認された。

貯蔵穴　南西隅で確認した。埋没土は黒褐色土で、しまりはあまりない。上層は焼土粒を若干含むが、下層はローム塊を含む。規模は長径63㎝×短径58㎝×深さ56㎝。楕円形。深い。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅約10㎝×深さ１～６㎝で、北東隅から反

時計回りに南西隅の貯蔵穴まで巡る。

遺物出土状態　全体から多量に出土した。床面よりもかなり高い位置から床直まで見られる。焼けた円礫片も出土した。土器は須恵器の羽釜破片や灰釉陶器の破片が目立つが古墳時代６世紀代の完形の杯なども確認された。古墳時代の遺物は165号竪穴建物から混入したものと考えられる。

カマド　位置　東壁南東隅近くで確認された。

規模　全長0.80m・最大幅1.05m・焚き口幅0.62m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.60m、右袖は0.40m入る。右袖先端には円礫が使用されていた。両袖には多くの粘性土が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.21m出る。

遺存状態　崩れており、天井は無かったが、両袖は残っていた。カマドは要所要所に円礫を使用し、間を粘性土で埋めていた。焚口手前から燃焼部にかけて焼けており、焼土が残っていた。支脚には細長い礫が使用されていた。燃焼部と煙道部との境目は段になる。掘り方は平面よりも幅広くなるが、小ピット等は開かなかった。

遺物出土状態　焚口から燃焼部には須恵器の羽釜破片や灰釉陶器の破片が多く出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

141号竪穴建物（図195・196・417・418、PL.243 ～ 245・515・516・550）

位置　696～699、-900～-903　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｗ

重複　有り。142・143号竪穴建物に後出する。

規模　面積7.13㎡、長軸3.00m×短軸2.81m×深さ0.25m

形状　隅丸方形。南北方向にわずかに長い。

埋没土　全体は黒褐色土で、しまりはあり。上層はAs-Cを小量、ローム小塊少量、灰白色軽石微量含む。下層はAs-Cを少量、直径１～３㎝のローム塊・同粒を少量含む。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。カマド右前に床下土坑１、南壁中央寄りに床下土坑２とＰ１を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径72㎝×短径61㎝×深さ19㎝。卵形。

床下土坑２は長径43㎝×短径29㎝×深さ59㎝。楕円形。北側が深い。

Ｐ１は長径30㎝×短径29㎝×深さ28㎝。有段、楕円形。南西が深い。

床面　土坑・ピット類が下にない部分は比較的良く硬化しており、光沢を持っていた。焼土や炭化物が散る範囲は確認されなかった。貯蔵穴の北隣に長径44㎝×短径35㎝×深さ6㎝、楕円形で浅い土坑有り。

貯蔵穴　南東隅で確認した。埋没土は黒褐色土で、As-C少量・ローム塊を含み、同粒若干含む。規模は長径47㎝×短径42㎝×深さ23㎝。円形。

柱穴　有り。掘り方調査時に確認されたＰ１がその可能性がある。

周溝　有り。幅５～15㎝×深さ１～６㎝で、北東隅手前から反時計回りに南東隅の貯蔵穴手前まで巡る。

遺物出土状態　東半から多くの遺物が出土した。床面よりもかなり高い位置から床直まで見られる。大形の焼けた円礫は東壁中央や南壁西隅寄りで出土した。土器は須恵器の羽釜破片が多く目立つが、須恵器の椀や灰釉陶器の破片等もある。

カマド　位置　東壁中央北寄りで確認された。

規模　全長0.82m・最大幅0.67m・焚き口幅0.60m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.21m出る。

遺存状態　崩れており、天井は無かった。焚口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。燃焼部壁の一部に円礫を使用し、間を粘性土で埋めていた。焚口から燃焼部にかけて焼けており、焼土が厚いところで10㎝以上残っていた。支脚は残っていなかったが礫が使用されていた可能性は否定できない。煙道部はあまり長く延びない。掘り方は平面よりも若干幅広くなり、焚口中央に長径25㎝×短径18㎝×深さ５㎝の凹みが開く。

遺物出土状態　焚口から燃焼部から須恵器の羽釜破片が多く出土した。また、焚口手前で須恵器の椀が、カマド左手の北東隅で焼けた大形円礫片と羽釜の破片が出土した。大形円礫片はカマドで使用されていたものと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。

142号竪穴建物（図196・197・418、PL.243・246・247・516）

位置　699～702、-900～-903　**主軸方位**　Ｎ－88°－Ｗ

重複　有り。141号竪穴建物に先行し、143号竪穴建物に後出する。

規模　面積(8.41)㎡、長軸3.35m×短軸2.92m×深さ0.11m

形状　隅丸方形。南北方向にわずかに長い。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-C少量・ローム粒少量含み、しまりはやや弱いが粘性あり。壁寄りの部分はにぶい黄褐色土で、As-C微量、ローム小塊・同粒を多量に含み、しまりはやや弱いが粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。カマド手前に床下土坑(土坑２)を確認した。規模は長径111㎝×短径79㎝×深さ18㎝。楕円形。ローム塊や同粒を多く含むにぶい黄褐色土により埋没していた。

床面　写真を見る限りでは建物中央に一部硬化している部分はあったようだが、それ以外は特に硬化している部分はなかった。焼土や炭化物が散る範囲も確認されなかった。南西隅に土坑１があったが、規模は長径75㎝×短径69㎝×深さ6㎝、楕円形で浅い。

貯蔵穴　南西隅で確認した土坑１がその可能性が考えられる。埋没土は灰黄褐色土で、焼土粒微量・灰白色粒を少量含み、しまり・粘性共にあり。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　南半からまばらに土器片が出土した。遺物量としては多くなかった。須恵器の羽釜破片や椀の破片等もあった。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.96m・最大幅0.60m・焚き口幅0.31m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.20m入る。わずかにであり、右袖は無い。

煙道　建物壁外に0.51m出る。

遺存状態　崩れており、天井は無かった。焚口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。基本的に粘性土により構築されていたものと考えられるが、燃焼部と煙道部の境目に大形の礫片が使用されていた。煙道の上に載っていたものが落ちたものか。焚口から燃焼部にかけて焼けており、焼土混じりの土が５㎝以上残っていた。支脚は残っていなかった。掘り方は平面よりも若干幅広くなり、燃焼部が緩やかに凹む。

遺物出土状態　焚口から燃焼部にかけて須恵器羽釜の破片が多く出土した。煙道部右壁から大形の羽釜破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

143号竪穴建物(図197・198・419、PL.243・246・248・249・516)

位置　698～701、-899～-901　**主軸方位**　Ｎ－84°－Ｅ

重複　有り。141・142号竪穴建物に先行する。

規模　面積(3.33)㎡、長軸2.86m×短軸(1.61)m×深さ0.18m

形状　隅丸方形か。東西方向不明。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-C少量･焼土粒少量含み、しまり・粘性共にあり。下層は灰黄褐色土で、ローム塊を多量、焼土塊・炭化物を含み、しまりはやや弱いが粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.02～0.07m　有り。カマド右手前に床下土坑(土坑１)とその東側に土坑１に切られる半円形の浅い落ち込み(土坑２)を確認した。また、建物北半でＰ１・Ｐ２の２基のピットを確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑１は長径78㎝×短径64㎝×深さ15㎝。円形。埋没土は黒褐色土で、ローム小塊を多量、黄褐色土を含む。

土坑２は長径(67)㎝×短径58㎝×深さ11㎝。楕円形。

Ｐ１は長径26㎝×短径26㎝×深さ10㎝。円形。

Ｐ２は長径28㎝×短径19㎝×深さ21㎝。円形。

床面　カマド手前に硬化面があった。焼土や炭化物が散る範囲も確認されなかった。

貯蔵穴　掘り方調査時にカマド右手前で確認した土坑１もしくは土坑２がその可能性が考えられる。

柱穴　有り。掘り方調査時に確認したＰ１とＰ２がその可能性がある。

周溝　無し。

遺物出土状態　南東部から南壁寄りで須恵器の羽釜破片等が数点出土した。遺物量としては多くはない。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長1.11m・最大幅1.05m・焚き口幅0.60m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.47m入る。右袖は0.18m入る。右袖はかなり短いが本来左袖と同程度あったものか。

煙道　建物壁外に0.60m出る。

遺存状態　崩れており、天井は無かった。焚口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。燃焼部からかなり大形の礫片が出土したが、本来はもっと上にあったものか。掘り方

調査時に左袖内に礫と羽釜の破片が検出され、粘性土だけでなく礫も使用されていたことが判明した。燃焼部と煙道部出口の境目に円礫が使用されていた。焚口から燃焼部・煙道部にかけて焼けており、燃焼部には焼土混じりの土が７㎝以上残っていた。支脚は残っていなかった。掘り方は平面よりも幅広くなり、燃焼部が緩やかに凹む。煙道には長径22㎝×短径17㎝×深さ11㎝のピットが開く。燃焼部右手奥の壁では円礫も立てられており、礫を配した間を粘土で埋めて構築されていたことが分かる。

遺物出土状態　焚口から燃焼部にかけて多くの焼け礫が出土したが、その他に須恵器の羽釜破片が数点出土した。掘り方調査時にも構築材の一部として使用されていたものと考えられる羽釜の破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

144号竪穴建物（図198・199・419、PL.249～251・516・554）

位置　705～709、-904～-908　**主軸方位**　Ｎ－84°－Ｅ

重複　有り。206・209・213号土坑に先行し、147号竪穴建物に後出する。

規模　面積12.73㎡、長軸4.15m×短軸3.50m×深さ0.31m

形状　隅丸長方形。南北方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、しまりやや弱く、粘性あり。上層はAs-C少量、小礫を含み、下層はローム粒を多量、同塊を含み、壁際はローム小塊を多量に含み、しまり・粘性共にあり。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。建物西半は５～10㎝程下がる。カマド西側でその境目で土坑１とＰ１を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径85㎝×短径80㎝×深さ10㎝。円形。埋没土は黒褐色土で、ローム小塊・同粒を多量に含み、粘性あり。

Ｐ１は長径42㎝×短径41㎝×深さ9㎝。円形。埋没土は床下土坑１とほぼ同じ。

床面　東半の方がややしまっていたが、特別に硬化している部分は無かった。焼土や炭化物が散る範囲も確認されなかった。

貯蔵穴　南東隅で確認した。規模は長径60㎝×短径60㎝×深さ35㎝。円形。黒色から黒褐色土で、ローム小塊・同粒を含み、しまり弱く粘性のあり。下層には炭化物を含む。高台付椀の破片が出土した。

柱穴　有り。掘り方調査時に確認したＰ１がその可能性がある。

周溝　有り。掘り方調査時に幅10～15㎝×深さ１～６㎝で、東壁北寄りから北壁中央、南壁西半で確認された。

遺物出土状態　焼けた礫や礫片の他に東半で須恵器の椀破片等が数点出土した。遺物量としては多くはない。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長1.15m・最大幅0.75m・焚き口幅0.49m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.83m出る。

遺存状態　崩れており、天井は無かった。焚口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。焚口から燃焼部には焼けた小礫があった。煙道部出口は焼けて赤変していた。支脚は残っていなかった。掘り方は平面よりもやや不定形に広がり、燃焼部では焼けた甕の破片が多く検出された。燃焼部左手の壁では円礫も立てられており、礫も構築材として使用されていたことが分かる。

遺物出土状態　焚口から燃焼部にかけて数点の焼け礫が、また燃焼部左壁の礫の上で須恵器の甕破片が出土した。掘り方調査時にも燃焼部で甕の破片が多く出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第１四半期頃と考えられる。

145号竪穴建物（図200・201・420、PL.249･252・253・516）

位置　700～703、-906～-910　**主軸方位**　Ｎ－80°－Ｅ

重複　有り。214号土坑に先行し、146・147・148号竪穴建物に後出する。

規模　面積（7.81）㎡、長軸3.18m×短軸3.15m×深さ0.27m

形状　隅丸方形。西壁がやや長いがほぼ正方形。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C少量、小礫を含み、しまりは強いが、粘性は弱い。下層はにぶい黄橙色粒を含み、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.03m　有り。南西隅で床下土坑１とそれに切られる床下土坑２を確認した。また、カマド手前でＰ１を検出したが、148号竪穴建物の南東隅にも当たり、そちらの貯蔵穴の可能性も否定出来ない。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径55㎝×短径51㎝×深さ13㎝。円形。埋没土は黒褐色土で、小礫と遺物を含み、粘性あり。床

下土坑２寄りの部分は灰黄褐色土でローム塊を含み、１よりもややしまりあり。底面に円礫あり。

床下土坑２は長径55㎝×短径49㎝×深さ24㎝。やや楕円形。埋没土は黒褐色土で、にぶい黄橙色粒を含み、しまり弱く粘性あり。底面にはローム粒を多量に含み、しまり・粘性共にある灰黄褐色土あり。底面に円礫あり。

Ｐ１は長径37㎝×短径32㎝×深さ22㎝。円形。埋没土は黒褐色土で、焼土粒を少量、ローム粒を含み、しまりややあり粘性あり。

床面　他の建物と重複している部分が多く、特別に硬化している部分は無かった。焼土や炭化物が散る範囲も確認されなかった。

貯蔵穴　掘り方調査時に南西隅で確認した床下土坑１・２がその可能性があるものと考えられる。

柱穴　不明。掘り方調査時に確認したＰ１はその可能性があるものと思われる。

周溝　無し。

遺物出土状態　147号竪穴建物と重複する北壁中央手前で須恵器の椀底部破片等が出土した。カマド周辺を除けば遺物量は多くない。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.92m・最大幅0.65m・焚き口幅0.35m

袖　有り。左袖はトレンチで切られ、ほとんど残っていなかったが、右袖は建物壁内に0.32m入る。

煙道　建物壁外に0.60m出る。

遺存状態　崩れており、天井は無かった。焚口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。燃焼部右壁から煙道部出口は焼けて赤変していた。支脚は残っていなかった。掘り方は平面よりも不定形にかなり広がり、焚口には長径45㎝×短径30㎝×深さ16㎝の凹みが開く。

遺物出土状態　焚口手前から須恵器の椀底部破片、右袖内側や煙道部から甕の破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

146号竪穴建物(図201・202・420、PL.249・252・254・255・516)

位置　699～700、-906～-908　**主軸方位**　Ｎ－80°－Ｅ

重複　有り。145号竪穴建物に先行する。

規模　面積(1.38)㎡、長軸(2.35)m×短軸(1.20)m×深さ0.24m

形状　隅丸方形か。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-C少量、ローム粒を含み、しまり・粘性共にあり。下層は暗褐色土で焼土粒を含み、絞まりは弱いが粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.03m　有り。カマド手前で緩やかな凹み、左手側でＰ１を確認した。

Ｐ１は長径24㎝×短形23㎝×深さ35㎝。楕円形。

床面　他の建物と重複している部分が多く、特別に硬化している部分は無かった。焼土や炭化物が散る範囲も確認されなかった。

貯蔵穴　掘り方調査時に南東隅で確認した。規模は長径49㎝×短径45㎝×深さ12㎝。隅丸方形。

柱穴　不明。掘り方調査時に確認したＰ１はその可能性があるものと思われる。しかし、145号竪穴建物とも重複している位置であり、確定はできない。

周溝　無し。

遺物出土状態　南壁寄りで土師器の破片等が出土した。カマド周辺を除けば遺物量は多くはない。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.92m・最大幅0.58m・焚き口幅0.39m

袖　有り。左袖はほとんど残っていなかったが、右袖は建物壁内に0.55m入る。先端部には焼け礫片が３点出土した。

煙道　建物壁外に0.23m出る。

遺存状態　崩れており、天井は無かった。焚口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。燃焼部左壁から煙道部出口は焼けて赤変していた。燃焼部には８㎝前後の灰層が確認できた。支脚は残っていなかった。掘り方は平面よりも広がり、煙道との境目は段になる。焚口には長径78㎝×短径40㎝×深さ10㎝の凹みが開く。

遺物出土状態　燃焼部から椀の破片や甕の大形破片等が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

147号竪穴建物(図203・420、PL.249・252・256・516・550)

位置　702～706、-907～-911　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｅ

重複　有り。145・148号竪穴建物に先行する。

規模　面積(12.97)㎡、長軸4.04m×短軸3.42m×深さ0.21m

形状　隅丸長方形。南北方向にやや長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C少量、ローム

粒を含み、しまり・粘性共にあり。下層はローム塊を多く含み、しまりは弱いが粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。全体にやや凹凸があるが、四隅に凹みを有する。

床面　写真を見るとカマド手前の左手に硬化している部分があった。カマド手前の遺物の範囲外で焼土粒や炭化物が散る範囲は確認されなかった。北壁中央手前やや西寄りで土坑１を確認した。規模は、長径91㎝×短形71㎝×深さ４㎝。かなり浅い。楕円形。

貯蔵穴　不明。床下の北東隅または南西隅の凹みがその可能性が考えられる。

柱穴　無し。掘り方調査時にカマド左手前で確認した凹みは深さ8㎝とその可能性は低いと思われる。

周溝　有り。幅10～18㎝×深さ２～７㎝で、カマド左手前から反時計回りに145号竪穴建物に切られる南壁途中まで巡る。

遺物出土状態　東半で土器の小破片が少量出土した。カマド手前に同一個体と考えられる土器片が数点あったが、そこを除けば遺物量はかなり少ない。

カマド　位置　東壁南東隅で痕跡を確認した。

規模　全長不明・最大幅不明・焚き口幅不明。

袖　無し。

煙道　不明。145号竪穴建物に削平され残存していなかった。

遺存状態　焚き口手前に焼けた円礫があったが、カマド本体は残っていなかった。礫の下に焼土が少量あった。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

148号竪穴建物（図204・420、PL.249･252・256・257）

位置　700～703､-907～-909　**主軸方位**　Ｎ－７°－Ｗ

重複　有り。145号竪穴建物に先行する。

規模　面積7.15㎡、長軸3.37m×短軸2.53m×深さ0.08m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。北西隅は丸味を持つ。

埋没土　全体は灰黄褐色土で、ローム小塊・同粒を多量に含み、しまり・粘性共にあり。周溝はほぼ同じであるが、しまりはやや弱い。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。建物東半中央に大形の床下土坑（土坑２）を確認した。

規模は長径124㎝×短径121㎝×深さ70㎝。円形。かなり深くしっかりした掘り方となっており、竪穴建物よりも古い段階の別の土坑の可能性も考えられる。内部から円礫がまとまって出土した。

床面　他の建物と重複している部分が多く、硬化している面の確認はできなかった。カマド左袖前と右前に焼土や炭化物が散る範囲が確認された。カマド左手前で土坑１を確認した。規模は長径57㎝×短径49㎝×深さ６㎝。楕円形。真下に床下土坑（土坑２）があり、土圧による凹みの可能性も考えられる。

貯蔵穴　無し。

柱穴　有り。北西部で確認されたＰ１は長径24㎝×短径22㎝×深さ35㎝。円形。

周溝　有り。幅10～18㎝×深さ１～４㎝で、若干切れる部分もあるが、カマド左手前から反時計回りに南西隅まで巡る。

遺物出土状態　土坑１の北側とその西で土器の破片等が若干出土した。

カマド　位置　東壁中央やや南寄りで確認された。

規模　全長0.35m・最大幅0.60m・焚き口幅0.37m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.13m入る。左袖は焼けており、先端部にかけて焼土が残存していた。右袖不明。

煙道　建物壁外に0.22m出る。

遺存状態　不良。わずかに凹む程度でほとんど残っていなかった。

遺物出土状態　遺物は出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

149号竪穴建物（図205・206・421・422、PL.249･258・259・516）

位置　700～702､-910～-913　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｅ

重複　有り。217号土坑に先行し、218・219号土坑に後出する。

規模　面積6.89㎡、長軸3.01m×短軸2.78m×深さ0.33m

形状　隅丸方形。東西方向に長い。北西隅はやや丸味を持つ。

埋没土　全体は黒褐色土で、As-Cを多量、ローム小塊・炭化物粒を含み、しまりはややあり。下層は上層に比べてAs-Cを少量、ローム小塊をやや多く、炭化物粒を若

干含む。

掘り方　底面からの深さ0.03m　有り。建物中央に大形の床下土坑を確認した。

規模は長径112㎝×短径100㎝×深さ88㎝。かなり深い。楕円形。

床面　写真から建物中央の床下土坑以外の部分でやや硬化している面が確認された。カマド右手前の南壁中央東寄りで粘土の長径68㎝×短径53㎝×高さ13㎝の範囲が確認された。

貯蔵穴　南西隅で確認した。規模は長径63㎝×短径56㎝×深さ42㎝。かなり深い。楕円形。

柱穴　有り。掘り方調査時に南壁で確認されたＰ１とＰ２が相当するものと考えられる。それぞれの規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径28㎝×短径25㎝×深さ56㎝。円形。

Ｐ２は長径33㎝×短径25㎝×深さ18㎝。円形。

周溝　有り。幅10～15㎝×深さ１～４㎝で、カマド左手前から反時計回りに南壁カマド右手前まで巡る。

遺物出土状態　建物中心よりも壁の近くからが多く、土師器の杯や甕破片等が出土した。

カマド　位置　東壁南東隅寄りで確認された。

規模　全長1.12m・最大幅0.59m・焚き口幅0.58m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.59m出る。

遺存状態　焚き口から燃焼部は緩く凹み、焼けて赤変しており、底部に焼土が10～15㎝程残存していた。支脚には大形の礫片が使用されていた。掘り方は平面よりもやや幅広くなり、燃焼部壁には円礫を据えた際の径10～15㎝程度の小ピットが左右の奥壁、焚き口の左右、支脚の下などに開く。

遺物出土状態　燃焼部奥壁寄りで羽釜の破片などが出土している。壁に食い込むようにして出土したものはカマドの構築材として使用されていた可能性が高いと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

150号竪穴建物(図206・207・422・423、PL.260･261・517)

位置　688～690､-891～-896　**主軸方位**　Ｎ－72°－Ｅ

重複　有り。216号土坑に先行する。

規模　面積(7.50) ㎡、長軸3.80m×短軸3.30m×深さ0.28m

形状　隅丸方形。東西方向にやや長い。

埋没土　全体は黒褐色土で、上層はAs-Cを多量、黄褐色粒と焼土粒を若干含み、しまりはややあり。下層は黄褐色土を多量､焼土粒少量､As-Cと炭化物粒を若干含み、しまりはややあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。底面からの深さは無い。建物中央に床下土坑１、カマド左手前にＰ１を確認した。

床下土坑１は長径92㎝×短径85㎝×深さ26㎝。楕円形。

Ｐ１は長径30㎝×短径29㎝×深さ14㎝。楕円形。

床面　カマド手前を中心に下に土坑・ピットがある部分以外では硬化している面が確認された。216号土坑の西側で土坑１が確認された。その規模は長径60㎝×短径47㎝×深さ16㎝。楕円形。

貯蔵穴　216号土坑の西側で確認した土坑１がその可能性が考えられる。

柱穴　有り。掘り方調査時にカマド左手前で確認されたＰ１がその可能性があると考えられる。

周溝　無し。

遺物出土状態　東半部から多く、須恵器の杯や羽釜や灰釉陶器の破片等が出土した。

カマド　位置　東壁南東隅寄りで確認された。

規模　全長1.18m・最大幅0.56m・焚き口幅0.37m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.78m出る。

遺存状態　焚き口から燃焼部は緩く凹む。焚き口から煙道部にかけては焼けて赤変しており、底部に焼土が７㎝程残存していた。支脚には円礫が使用されていたものと考えられる。掘り方は平面よりも幅広くなり、焚き口手前は緩く凹む。燃焼部と煙道部の境目は段になる。円礫を据えた際の小ピットは確認できなかった。

遺物出土状態　カマド手前から燃焼部で須恵器の羽釜、灰釉陶器の破片及び焼け礫などが出土している。燃焼部右壁で出土した破片はカマドの構築材として使用されていた可能性があるものと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

151号竪穴建物(図208・209・423・424、PL.262～264・517・550)

位置　702～705､-876～-879　**主軸方位**　Ｎ－79°－Ｅ

重複　有り。24号溝に先行する。

規模　面積5.68㎡、長軸3.17m×短軸2.43m×深さ0.33m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　黒褐色土で、As-Cを多量、黄褐色粒少量、焼土粒とローム塊を若干含み、しまりはややあり。壁寄りの部分はしまりがあまり無かった。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。底面からの深さは無い。建物中央に床下土坑１、北側に床下土坑２、西側に床下土坑３を確認した。その規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径70㎝×短径57㎝×深さ19㎝。楕円形。

床下土坑２は長径59㎝×短径39㎝×深さ8㎝。楕円形。

床下土坑３は長径70㎝×短径53㎝×深さ15㎝。楕円形。

床面　北西隅付近と床下に土坑・ピットがある部分以外では硬化している面が確認された。

貯蔵穴　カマド右手建物南東隅で確認された。規模は長径63㎝×短径53㎝×深さ37㎝。楕円形。底面はかなりオーバーハングする。やや大形の円礫が２点出土した。埋没土は黒褐色土で、As-Cと黄橙色粒を若干含み、しまりのあまり無い。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅５～15㎝×深さ２～５㎝で、カマド左手から反時計回りに南西隅手前まで巡る。

遺物出土状態　カマド左手前と南西隅寄りで、須恵器の椀底部や甕・灰釉陶器の破片等が出土した。

カマド　位置　東壁南東隅寄りで確認された。

規模　全長1.13m・最大幅0.90m・焚き口幅0.60m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.60m出る。

遺存状態　焚き口から燃焼部は緩く凹む。燃焼部には焼土が７㎝程残存していた。燃焼部の壁外には両側にカマドを構築した際の粘土が残存していた。掘り方は粘土が除去された部分がさらに飛び出し、全体としてさらに幅広となり、焚き口手前は緩く凹む。平面にあった凹みがより明確となった。

遺物出土状態　カマド手前から燃焼部で須恵器の羽釜、灰釉陶器の破片及び焼け礫などが多量に出土した。焼け礫やその破片、土器片はカマドの構築材として使用されていた可能性があるものも含まれると考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期頃と考えられる。

152号竪穴建物（図209、PL.81・265）

位置　694～697、-888～-889　**主軸方位**　Ｎ－80°－Ｗ

重複　有り。226・227・270号土坑に先行する。

規模　面積(1.67)㎡、長軸(2.50)m×短軸(1.04)m×深さ0.03m

形状　隅丸長方形か。

埋没土　不明。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　特に硬化している面は確認されなかった。

貯蔵穴　不明。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド以外遺物は出土しなかった。

カマド　位置　東壁で確認された。

規模　全長(0.71)m・最大幅(0.66)m・焚き口幅(0.24)m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.64m出る。

遺存状態　浅く残りは悪い。手前は226号土坑に壊されていた。燃焼部から煙道部は焼けており、若干焼土が残存していた。掘り方は若干幅広となっていたが、大きな変化はない。

遺物出土状態　煙道部先端で須恵器の羽釜もしくは甕の破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀代頃と考えられる。

153号竪穴建物（図210・424、PL.266・517）

位置　715～717、-886～-888　**主軸方位**　Ｎ－70°－Ｅ

重複　有り。154号竪穴建物に後出する。

規模　面積(2.39)㎡、長軸(2.41)m×短軸(1.35)m×深さ0.10m

形状　不明。西壁が台形状に開く。

埋没土　にぶい黄褐色土で、As-Cを少量、ローム塊少量含み、しまりと粘性共にあり。

掘り方　底面からの深さ0.03m　有り。底面からの深さはほとんど無い。建物中央に床下土坑１を確認した。その規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径(112)㎝×短径(29)㎝×深さ(13)㎝。楕円形。

床面　床下に土坑・ピットがある部分以外でやや硬化している面が確認された。

貯蔵穴　建物南東隅で確認された。規模は長径62㎝×短径49㎝×深さ19㎝。楕円形。やや大形の円礫が２点出土した。埋没土上層はにぶい黄褐色土で焼土粒を含み、しまり粘性共にあり。同下層は灰黄褐色土で、ローム粒・円礫を含み、しまりは弱く粘性あり。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　床下土坑の南側で、灰釉陶器皿の破片等が出土した。

カマド　位置　東壁で確認された。

規模　全長(0.45)ｍ・最大幅(0.30)ｍ・焚き口幅(0.25)ｍ

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.33m出る。

遺存状態　浅く残りは悪い。燃焼部から煙道部は焼けており、焼土が残存していた。掘り方は焼土が除去された分一回り幅広となっていた。焚き口右手側に長径26㎝×短径23㎝×深さ６㎝の浅い凹みが開く。

遺物出土状態　燃焼部で甕の破片が若干出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期頃と考えられる。

154号竪穴建物(図211・424、PL.266・267・517)

位置　713～716､-886～-889　**主軸方位**　Ｎ－66°－Ｗ

重複　有り。154号竪穴建物に先行し、165号竪穴建物に後出する。

規模　面積(6.41)㎡、長軸2.90m×短軸2.56m×深さ0.05m

形状　歪んだ長方形。北西隅が突出する。

埋没土　黒褐色土で、As-Cを少量、ローム粒を含み、しまり粘性共にあり。

掘り方　底面からの深さ0.04m　有り。底面からの深さはほとんど無い。南壁中央に床下土坑１、南東隅に床下土坑２、カマド手前で床下土坑１の北側にＰ１、カマド左手前にＰ２を確認した。床下土坑２はその位置から、Ｐ２はその位置と遺物が出土していることなどから貯蔵穴の可能性が否定できない。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径83㎝×短径80㎝×深さ10㎝。円形。

床下土坑２は長径67㎝×短径37㎝×深さ21㎝。楕円形。有段、東側が深い。

Ｐ１は長径24㎝×短径22㎝×深さ54㎝。円形。

Ｐ２は長径42㎝×短径34㎝×深さ21㎝。楕円形。

床面　床下に土坑・ピットがある部分以外でやや硬化している面が確認された。しかし､光沢を持つ程では無い。床下で確認された土坑・ピットは床面(生活面)のものの可能性も考えられる

貯蔵穴　建物南東隅で確認された床下土坑２はその可能性が高い。カマド左手のＰ２も遺物が出土しており、その可能性が否定できない。埋没土は黒褐色土で、にぶい黄橙色粒少量、ローム粒を含み、しまりややあり、粘性あり。

柱穴　有り。カマド前で床下土坑１の北側で掘り方調査時に確認されたＰ１が深さ54㎝とかなり深くしっかりした作りとなっている。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド以外では建物中央やや南側で、焼け礫が纏まって、南壁寄りとカマド左前で須恵器の羽釜破片等が出土した。

カマド　位置　東壁ほぼ中央で確認された。

規模　全長0.78m・最大幅0.53m・焚き口幅0.25m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.45m出る。

遺存状態　浅く残りは悪い。焚き口から煙道部は焼けており、燃焼部と煙道部の境目は段になる。燃焼部に炭化物を含む焼土が５㎝程残存していた。掘り方は焼土が除去されかなり幅広となり、焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。

遺物出土状態　焚き口及び煙道部で須恵器の羽釜破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀代頃と考えられる。

155号竪穴建物(図212・213・425、PL.268・269・517・518)

位置　687～689､-884～-888　**主軸方位**　Ｎ－66°－Ｅ

重複　有り。25号溝に先行する。

規模　面積7.63㎡、長軸3.50m×短軸2.83m×深さ0.67m

形状　長方形。東西方向に長い。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-Cを少量、ローム粒を多量に含み、しまり粘性共にあり。下層はにぶい黒褐色土でローム小塊少量、ローム粒多量に含み、しまり弱く、

粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.04m　有り。底面からの深さはほとんど無い。建物西側に床下土坑１と同２が南北に並び、カマド手前に長軸78㎝×短軸70㎝×深さ10㎝の浅い凹みを確認した。それぞれの土坑の規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径106㎝×短径103㎝×深さ52㎝。円形。

床下土坑２は長径120㎝×短径106㎝×深さ53㎝。楕円形。

床面　硬化面は確認できなかった。

貯蔵穴　南壁中央で確認された土坑１はその可能性があるが、浅い。

規模は長径45㎝×短径38㎝×深さ８㎝。楕円形。埋没土は灰黄褐色土で、ローム小塊・同粒を多量に含み、しまり弱く、粘性強い。

柱穴　無し。柱穴に相当する深くしっかりした作りとなっているものは無い。

周溝　有り。幅５～15㎝×深さ１～12㎝で、カマド左袖脇から反時計回りに南東隅手前まで巡る。

遺物出土状態　カマド焚き口手前で多量の土師器の甕破片と須恵器の蓋１点が纏まって、カマド右袖脇では焼けた大形礫が出土した。土坑１の東上では円礫が出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.99m・最大幅0.85m・焚き口幅0.20m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.56m入る。右袖は建物壁内に0.49m入る。両袖とも袖先に円礫が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.35m出る。

遺存状態　比較的残りは良い。焚き口から燃焼部は焼けており、燃焼部と煙道部の境目は段になる。燃焼部に焼土が10㎝程残存していた。カマド右袖手前の大形礫は袖先の円礫の上に載っていたものか。掘り方は袖の粘土が除去され、かなり幅広となり、焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。その手前に10㎝程の浅い凹みが開く。

遺物出土状態　焚き口手前では多くの遺物が出土したが、カマド内からは目立ったものはほとんど出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から７世紀第１四半期頃と考えられる。

156号竪穴建物（図213・426、PL.270）

位置　714～715、-882～-885　**主軸方位**　Ｎ－89°－Ｗ

重複　無し。

規模　面積(2.81) ㎡、長軸(3.15)ｍ×短軸(1.58)ｍ×深さ0.10m

形状　長方形か。

埋没土　上層は黒褐色土で、にぶい黄橙色粒を少量、ローム粒を含み、しまり粘性共にあり。下層はにぶい黄褐色～灰黄褐色土でローム大小塊多量、炭化物、焼土粒を含み、しまり強く、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　硬化面は確認できなかった。東側に土坑１、南東隅で土坑２を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑１は長径(65)㎝×短径(43)㎝×深さ14㎝。楕円形。

土坑２は長径97㎝×短径81㎝×深さ66㎝。外形は楕円形、段になり内部に長径65㎝×短径65㎝の坑が開く。周りに掘り返した際の土の痕跡が残る。

貯蔵穴　不明。北西部で確認した土坑２がその可能性が考えられる。埋没土は灰黄褐色土で、ローム小塊を含み、しまり弱く、粘性あり。

柱穴　無し。

周溝　無し。明確なものではないが、やや壁沿いが凹んでいた可能性は否定できない。

遺物出土状態　土坑１の上端に絡む位置から灰釉陶器の破片とその東側で土師器の破片1点が、土坑２の内部から礫片と甕の破片が出土した。

カマド　位置　不明。

規模　全長不明・最大幅不明・焚き口幅不明。

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

157号竪穴建物（図214・426、PL.240・271・518・554）

位置　713～716、-890～-893　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｗ

重複　有り。136号竪穴建物に先行する。

規模　面積(7.02) ㎡、長軸(2.88)ｍ×短軸(2.86)ｍ×深さ0.15m

形状　長方形で南北方向に長いか。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-Cを多量、黄褐色粒少量、

炭化物粒を若干含み、しまりややあり。下層は黒褐色土でAs-Cを少量、炭化物粒を若干含み、しまりあまり無し。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。底面からの深さは下がらない。建物北西隅に床下土坑１を確認した。規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径56㎝×短径46㎝×深さ10㎝。楕円形。

床面　硬化面は確認できなかった。

貯蔵穴　不明。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　東壁136号竪穴建物に近い部分から須恵器の杯や甕などの破片が出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.56m・最大幅0.29m・焚き口幅0.21m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.55m出る。

遺存状態　残りは悪い。煙道部の一部に焼土が残っていた。燃焼部左壁に礫片が残存していた。

遺物出土状態　燃焼部左壁の礫片の他に壁左上に土器片が１点出土した。カマド内からは出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

158号竪穴建物(図215・426、PL.272・518)

位置　715～718、-900～-903　**主軸方位**　Ｎ－79°－Ｗ

重複　有り。269号土坑に先行する。

規模　面積5.73㎡、長軸2.93m×短軸2.25m×深さ0.04m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-Cを多量、炭化物粒少量、黄褐色粒若干含む。下層も黒褐色土で、黄褐色塊多量、As-Cを少量含み、しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.04m　有り。底面からの深さはほとんど無い。床下土坑やピット等は確認できなかった。

床面　硬化面は確認できなかった。

貯蔵穴　南東隅で確認された土坑１はその可能性が高い。規模は長径43㎝×短径35㎝×深さ18㎝。楕円形。埋没土は黒褐色土で、黄褐色塊土多量、As-C少量、炭化物粒若干含み、しまりややあり。

柱穴　無し。柱穴に相当する深くしっかりした作りとなっているものは無い。

周溝　無し。

遺物出土状態　北西隅付近で須恵器の椀や杯などがまとまって出土した。カマド左手前では緑釉陶器片が出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.47m・最大幅0.62m・焚き口幅0.48m

袖　無し。袖は建物壁内には伸びない。

煙道　建物壁外に0.43m出る。

遺存状態　残りは悪い。燃焼部は焼けており、焼土が残存していた。掘り方は凹凸を持って全体が凹むがピット等は開かない。

遺物出土状態　燃焼部で土器小片が数点出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

160号竪穴建物(図215、PL.273・274・554)

位置　719～722、-859～-896　**主軸方位**　Ｎ－69°－Ｗ

重複　有り。161・162号竪穴建物に先行する。

規模　面積(3.50)㎡、長軸(2.36)m×短軸(1.92)m×深さ0.03m

形状　不明。

埋没土　黒褐色土で、にぶい黄褐色粒少量、ローム粒含む。しまり弱く、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.03m　有り。底面からの深さはほとんど無い。カマド手前の凹み以外に床下土坑やピット等は確認できなかった。

床面　硬化面は確認できなかった。

貯蔵穴　不明。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　遺物無し。

カマド　位置　東壁で確認された。

規模　全長0.83m・最大幅0.80m・焚き口幅0.80m

袖　無し。袖は建物壁内には伸びない。

煙道　建物壁外に0.56m出る。

遺存状態　残りは悪い。燃焼部に被熱した円礫が纏まって出土した。燃焼部は焼けており、焼土を含む土が５㎝程残存していた。掘り方は焚き口手前、焚き口から燃焼部に凹凸のある不定形の凹みが開く。

遺物出土状態　燃焼部で土器片が数点出土した。

備考　所属時期　出土遺物から時期判定はできなかった。

161号竪穴建物(図216・427、PL.274・275)

位置　722～723、-897～-899　**主軸方位**　Ｎ－75°－Ｗ

重複　有り。**160号竪穴建物**に後出する。

規模　面積(2.24)㎡、長軸(1.99)ｍ×短軸(1.66)ｍ×深さ0.02m

形状　不明。

埋没土　黒褐色土で、にぶい黄橙色粒少量、ローム小塊少量含み、しまりややあり、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。底面からの深さはほとんど無い。カマド左手前に土坑１があるが、土層断面から床下土坑と考えられる。規模は長径105㎝×短径81㎝×深さ14㎝。楕円形。埋没土はにぶい黄褐色土で、ローム塊多量、焼土粒少量含み、しまりややあり、粘性あり。

床面　カマド手前で土坑１の周りで硬化面が確認された。貯蔵穴と土坑１の間で25㎝×18㎝の焼土範囲を確認した。

貯蔵穴　有り。カマド右前で確認した。規模は長径49㎝×短径49㎝×深さ38㎝。円形。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド手前から須恵器の羽釜破片や椀の破片等が出土した。

カマド　位置　東壁で確認された。

規模　全長0.68m・最大幅(0.50)ｍ・焚き口幅(0.42)ｍ

袖　無し。袖は建物壁内には伸びない。

煙道　建物壁外に0.40m出る。

遺存状態　残りは悪い。カマド燃焼部左壁は調査区外で確認できていない。燃焼部は焼けており、焼土を含む土が３～８㎝程残存していた。掘り方は焚き口から燃焼部に凹凸のある不定形の凹みが開く。

遺物出土状態　燃焼部で須恵器の椀や羽釜の破片等がまとまって出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

162号竪穴建物(図216・427、PL.274・275)

位置　719～720、-897～-899　**主軸方位**　Ｎ－72°－Ｗ

重複　有り。160号竪穴建物に後出する。

規模　面積(2.75)㎡、長軸(2.03)ｍ×短軸(1.48)ｍ×深さ0.01m

形状　隅丸長方形か。

埋没土　極めて浅く表面に斑に黒褐色土が貼り付いている程度。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。床下土坑やピットも無い。

床面　カマド寄りの東側の一部には黒褐色土が貼り付いていたが西側は床面が削られ残存していなかった。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　確認範囲の西側で須恵器の椀破片や円礫が、南壁寄りでも椀破片が出土した。

カマド　位置　東壁中央で確認された。

規模　全長0.57m・最大幅0.55m・焚き口幅0.45m

袖　無し。袖は建物壁内には伸びない。

煙道　建物壁外に0.39m出る。

遺存状態　残りは悪い。焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。燃焼部は焼けており、焼土が２㎝程残存していた。

遺物出土状態　カマドから遺物はほとんど出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

163号竪穴建物(図217・218・428・429、PL.276～278・518・519)

位置　720～724、-903～-907　**主軸方位**　Ｎ－81°－Ｗ

重複　無し。

規模　面積(7.39)㎡、長軸(3.90)ｍ×短軸(3.03)ｍ×深さ0.23m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土でしまり粘性共にあり。上層はにぶい黄橙色粒少量、炭化物を含み、下層はローム小塊少量、にぶい黄橙色粒微量、焼土粒少量含む。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。掘り方調査において貯蔵穴の東側、カマド前で土坑２が、土坑２の西側でＰ１・４、カマド前でＰ２・３が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑２は長径97㎝×短径85㎝×深さ7㎝。隅丸長方形。浅い。

Ｐ１は長径35㎝×短径29㎝×深さ42㎝。円形。
Ｐ２は長径28㎝×短径23㎝×深さ16㎝。円形。
Ｐ３は長径20㎝×短径20㎝×深さ15㎝。円形。
Ｐ４は長径26㎝×短径15㎝×深さ14㎝。円形。
Ｐ５は長径23㎝×短径20㎝×深さ8㎝。円形。

床面　床下に土坑・ピット等がある部分以外は比較的よく硬化していた。床面では貯蔵穴１・２の他に東壁中央北寄りの前で土坑１が確認された。その規模は長径63㎝×短径49㎝×深さ17㎝。楕円形。

貯蔵穴　有り。南西隅で貯蔵穴１、南東隅で貯蔵穴２が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

貯蔵穴１は長径83㎝×短径75㎝×深さ48㎝。楕円形。段を有し、南西隅が深い。

貯蔵穴２は長径42㎝×短径40㎝×深さ12㎝。円形。中央から礫出土。

柱穴　有り。掘り方調査時に確認したＰ１～５がある。特にＰ１は極めて深くしっかりした作りとなっている。

周溝　有り。幅８～18㎝×深さ２～５㎝でカマド左袖脇から北東隅まで反時計回りに確認された。

遺物出土状態　ほぼ全体から多量の遺物が出土した。須恵器の椀破片や灰釉陶器破片、羽釜の破片、円礫などがあった。円礫はカマド手前から建物中央部まで多く出土したが、床よりも高い位置からのものが多い。貯蔵穴２のプランと重ねるとその上から多くの土器片が出土したことが分かる。

カマド　位置　東壁南東隅寄りで確認された。

規模　全長1.12m・最大幅1.05m・焚き口幅0.58m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.30m入る。右袖も0.30m入る。袖先には円礫が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.65m出る。

遺存状態　比較的良好。焚き口から燃焼部にかけて凹む。燃焼部は焼けており、焼土が６㎝程残存していた。燃焼部の壁は円礫が立てられて構築されていた。支脚には棒状礫が使用されていた。掘り方は燃焼部と煙道部の境目は段になり、左手側に長径26㎝×短径18㎝×深さ８㎝の楕円形の凹みが開く。

遺物出土状態　カマドから極めて多量の土器や円礫が出土した。土器は須恵器の羽釜破片が多く、カマドに掛けられていたものだけでなく、構築材として使用されていたものも含まれているものと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

164号 竪 穴 建 物（図219・430・431、PL.279 ～ 281・519・520・554）

位置　702～705、-917～-920　**主軸方位**　Ｎ－80°－Ｗ

重複　有り。276号土坑に先行する。

規模　面積7.70㎡、長軸3.68m×短軸2.90m×深さ0.28m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土でしまり弱く粘性あり。上層はAs-C少量、焼土粒少量含む。下層はローム粒多量、炭化物少量含む。周辺壁際は暗褐色土でローム粒を多量に含み、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。掘り方調査においてカマドの西側で床下土坑１が確認された。その規模は長径140㎝×短径128㎝×深さ26㎝。楕円形。

床面　特によく硬化している部分はなかった。

貯蔵穴　有り。南東隅で貯蔵穴が確認された。規模は長径38㎝×短径31㎝×深さ11㎝。楕円形。埋没土は黒褐色土で、As-C少量、黄橙色粒と炭化物粒を若干含む。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅９～15㎝×深さ１～４㎝で東壁中央から南壁中央まで反時計回りに確認された。

遺物出土状態　ほぼ全体から多量の遺物が出土した。須恵器の椀破片や灰釉陶器破片、羽釜の破片、円礫などがあった。北西隅付近では円礫と共に鉄製品も出土した。

カマド　位置　東壁南東隅寄りで確認された。

規模　全長1.03m・最大幅0.90m・焚き口幅0.30m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.23m入る。右袖も0.20m入る。袖先には円礫と粘土が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.63m出る。

遺存状態　燃焼部から煙道部の境目の右壁が276号土坑に切られていたが比較的良好。焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。燃焼部は焼けており、焼土が5㎝程残存していた。燃焼部の壁は円礫が立てられて構築されていた。支脚には棒状礫が使用されていた。掘り方は燃焼部と煙道部の境目は段になる。燃焼部を囲むように円礫を抜いた後の４基の径20㎝前後の浅いピットが並ぶ。

遺物出土状態　カマドから極めて多量の土器や円礫が出土した。土器は須恵器の杯や椀の他羽釜の破片が多くあり、カマドに掛けられていたものだけでなく、構築材と

して使用されていたものも含まれているものと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

165号竪穴建物（図220・432、PL.282・283・520）

位置　711～713、-889～-892　**主軸方位**　Ｎ－35°－Ｅ

重複　有り。136・154・157号竪穴建物に先行する。

規模　面積5.79㎡、長軸3.27m×短軸2.30m×深さ0.47m

形状　隅丸長方形。南西北東方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土でしまりややあり。上層はAs-C多量、黄褐色粒少量含む。下層は黄褐色塊土多量、As-C多量含む。周辺壁際は黒褐色～暗褐色土で焼土粒少量、炭化物粒を少量含み、しまりのあまりない部分あり。

掘り方　底面からの深さ0.08m　有り。掘り方調査において北西隅で床下土坑１が確認された。その規模は長径90㎝×短径71㎝×深さ50㎝。楕円形。

床面　建物中央にやや硬化している部分が確認された。

貯蔵穴　有り。南東隅で貯蔵穴が確認された。規模は長径53㎝×短径42㎝×深さ61㎝。楕円形。

柱穴　不明。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド左袖手前から土師器小形台付き甕、カマド焚き口前から須恵器の蓋、西壁中央から土師器の甕破片などの遺物が出土した。そこからカマドに向かって一定間隔で円礫が出土した。

カマド　位置　東壁中央南東寄りで確認された。

規模　全長0.79m・最大幅0.90m・焚き口幅0.22m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.53m入る。右袖も0.62m入る。袖には粘土が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.15m出る。

遺存状態　天井はなかったが、比較的良好。焚き口から燃焼部にかけて焼けており、焼土が10㎝程残存していた。掘り方は両袖が無くなり、煙道部も幅が広がる。燃焼部と煙道部の境目は段になる。焚き口から燃焼部は緩く凹む。

遺物出土状態　右袖内壁から土師器の杯やその他破片類が出土した。右袖上の土師器の甕破片は直接袖に貼り付いているものでは無く、浮いている。それ以外にカマド内ではないが、焚き口手前から須恵器の蓋、左袖前から台付小形鉢等が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から７世紀前半頃と考えられる。

166号竪穴建物（図221・432・433、PL.284・520・550）

位置　709～711、-874～-877　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｅ

重複　有り。24号溝に先行する。

規模　面積(3.60)㎡、長軸(3.07)m×短軸(1.90)m×深さ0.50m

形状　隅丸長方形か。東西方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色～暗褐色土で、しまり粘性共にあり。上層はローム塊が多く、下層の方はAs-C多い。床面上から周辺壁際は黒褐色土で、黒色土を含み、黒味が強い。

掘り方　底面からの深さ0.04m　有り。掘り方調査において南西隅で床下土坑１が確認された。その規模は長径64㎝×短径49㎝×深さ24㎝。楕円形。底面は凹凸があり、西側が深い。

床面　特によく硬化している部分はなかった。

貯蔵穴　有り。掘り方調査時に南西隅で確認された床下土坑１がその可能性が高い。楕円形。

柱穴　不明。

周溝　有り。幅10～15㎝×深さ２～４㎝で、西壁のみで確認された。

遺物出土状態　カマド手前から須恵器の椀や杯、甕の破片などの遺物が出土した。

カマド　位置　東壁南東隅で確認された。

規模　全長(0.56)m・最大幅(0.38)m・焚き口幅(0.13)m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.35m入る。右袖不明。袖には粘土が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.23m出る。

遺存状態　南側半分調査。天井はなく崩落していた。焚き口から燃焼部にかけて灰と炭が多量に含まれる土が３㎝程残存していた。掘り方は両袖が無くなり、焚き口も緩く凹み、煙道部も幅が広がる。

遺物出土状態　それ以外にカマド内ではないが、焚き口手前から須恵器の杯や甕の破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

167号竪穴建物(図222・433、PL.87・285・286・521)

位置　698～702､-913～-917　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｗ

重複　有り。273・276号土坑に先行する。

規模　面積(8.10)㎡、長軸(3.65)ｍ×短軸(3.33)ｍ×深さ0.40m

形状　隅丸長方形か。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、しまりややあり。上層はAs-Cを多量に、下層の方As-C少量含む。周辺壁際は黒褐色土で、暗褐色土を40％程含み、明るい。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　カマド手前から貯蔵穴の東側はよく硬化していた。

貯蔵穴　有り。北東隅で確認された。その規模は長径46㎝×短径41㎝×深さ24㎝。楕円形。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅10～15㎝×深さ２～５㎝で、東壁カマド左袖から西壁で反時計回りに確認された。

遺物出土状態　建物東半から須恵器の椀や羽釜の破片などの遺物や被熱した円礫が出土した。

カマド　位置　東壁南東隅寄りで確認された。

規模　全長1.06m・最大幅0.65m・焚き口幅0.25m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.35m入る。右袖無し。袖には粘土が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.63m出る。

遺存状態　天井はなく崩落していた。燃焼部と煙道部の境目は段になる。燃焼部に灰交じりで若干の焼土が含まれる暗褐色土が５㎝程残存していた。掘り方は左袖が無くなり、燃焼部底面に長径14㎝×短径12㎝×深さ８㎝の小さい凹みが開く。

遺物出土状態　カマド燃焼部奥壁から煙道部では須恵器の椀や甕の破片等が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

168号竪穴建物(図223・434、PL.287)

位置　705～705､-919～-920　**主軸方位**　Ｎ－68°－Ｗ

重複　無し。

規模　面積(0.46)㎡、長軸(1.47)ｍ×短軸(0.50)ｍ×深さ0.34m

形状　隅丸長方形で東西方向に長いか。

埋没土　上層は黒色土で、As-C多量、黄褐色粒少量、にぶい黄褐色塊土若干含み、下層はAs-C少量、黄褐色粒少量含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　カマド手前から貯蔵穴の間はよく硬化していた。

貯蔵穴　有り。南西隅で確認された。その規模は長径45㎝×短径40㎝×深さ30㎝。隅丸方形。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド周辺を除けば遺物はほとんど出土しなかった。

カマド　位置　東壁で確認された。

規模　全長(0.38)ｍ・最大幅(0.38)ｍ・焚き口幅(0.13)ｍ

袖　有り。左袖は不明。右袖は建物壁内に0.33m入る。右袖先には円礫が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.15m出る。

遺存状態　良好。天井は残存していた。構築材には円礫や土器片が使用されていた。支脚はなかった。掘り方はかなり幅広になる。右袖が無くなり、焚き口から燃焼部が緩やかに凹む。燃焼部の左右に円礫を設置した時のものと考えられる２基ずつ計４基の楕円形と円形の小ピットが開く。燃焼部と煙道部の境目は段になる。

遺物出土状態　カマド燃焼部から円礫の他に内黒須恵器の椀や須恵器大甕の破片等が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期頃と考えられる。

169号竪穴建物(図223～254・434、PL.298～291・521)

位置　685～689、-880～-884　**主軸方位**　Ｎ－80°－Ｅ

重複　有り。25溝に先行する。

規模　面積7.05㎡、長軸3.22m×短軸2.85m×深さ0.35m

形状　隅丸方形。わずかに東西方向に長い。

埋没土　上層は黒色土で、As-C多量、焼土小塊・同粒を含み、しまり粘性共にあり。下層はAs-C少量、ローム小塊含み、しまりややあり、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.04m　有り。建物の南東半に５基の床下土坑及び１基のピット､浅い凹みを確認した。床土坑の規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径(65)㎝×短径60㎝×深さ７㎝。隅丸方形。

床下土坑２は長径80㎝×短径70㎝×深さ13㎝。楕円形。

土器片出土。

床下土坑３は長径(118)㎝×短径88㎝×深さ15㎝。楕円形。底部瓠形。土器片出土。

床下土坑４は長径65㎝×短径60㎝×深さ９㎝。楕円形。土器片出土。

床下土坑５は長径40㎝×短径37㎝×深さ17㎝。円形。土器片出土。位置的に2号カマド使用時の貯蔵穴の可能性も否定できない。

Ｐ１は長径24㎝×短径21㎝×深さ19㎝。隅丸方形。

床面　特によく硬化している部分は確認できなかった。南東半は床下土坑が多く、床下土坑のない北西半も硬化していなかった。

貯蔵穴　有り。掘り方調査時に２号カマド右手で確認された床下土坑５がその可能性が考えられる。南西隅の浅い凹みは長径58㎝×短径55㎝×深さ７㎝、歪んだ楕円形であり、浅すぎるので可能性は低い。

柱穴　有り。掘り方調査時に確認したＰ１がその可能性が考えられる。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド内及びカマド手前を除けば遺物は南西隅の高い位置から灰釉陶器の底部破片が出土したのみである。

カマド　位置　東壁南隅寄りで１号カマドが、北壁ほぼ中央で２号カマドが確認された。２号が古く１号が新しいものと考えられる。

規模　１号カマド　全長0.73m・最大幅0.66m・焚き口幅0.36m

２号カマド　全長0.87m・最大幅0.65m・焚き口幅0.49m

袖　両カマドとも無し。

煙道　１号はカマド建物壁外に0.48m出る。2号カマドはカマド建物壁外に0.60m出る

遺存状態　両カマドとも不良。天井は残存していなかった。１号カマドは焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹み、よく焼けており、底面には焼土粒を多く含む層が８㎝程残存していた。構築材に円礫や土器片が使用されていた痕跡はなかった。支脚も確認できていない。２号カマドも燃焼部は焼けており、焼土粒を多量に含む層が15㎝程残存していた。掘り方では１号カマドは幅広になり燃焼部と煙道部の境目は段になるが、小ピット状の凹み等は開かない。それに対して２号カマドは燃焼部に径20㎝強の円形のもの２基、径12㎝の楕円形のもの１基の径３基の小ピットが開く。燃焼部と煙道部出口の境目は段になる。

遺物出土状態　１号カマド燃焼部の焼土の上から多くの須恵器の羽釜破片と杯や鉢などが出土した。掘り方調査では燃焼部奥壁から煙道部分で土器の小破片が出土した。２号カマド燃焼部奥壁から土器の小破片が３点出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

180号竪穴建物(図225・434、PL.291・521)

位置　696～697、-871～-873　**主軸方位**　Ｎ－89°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積(0.88) ㎡、長軸(0.87)ｍ×短軸(0.75)ｍ×深さ0.38m

形状　隅丸長方形か。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-C多量、炭化物粒少量、焼土粒と黄褐色粒を若干含み、しまりあり。下層はAs-C少量、黄褐色粒若干含み、しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.06m　有り。床下土坑１が確認された。規模は長径(72) ㎝×短径(65) ㎝×深さ20㎝。楕円形。

床面　特に硬化している面は確認できなかった。

貯蔵穴　不明。

柱穴　有り。西壁下で確認した。規模は長径23㎝×短径16㎝×深さ20㎝。楕円形。

周溝　有り。掘り方調査時に幅５～10㎝×深さ２㎝で、北西隅前後で部分的に確認された。

遺物出土状態　北西隅付近で須恵器の羽釜破片、建物やや内側で灰釉陶器の破片と須恵器椀の破片が出土した。椀以外は床よりもかなり高い位置からの出土であった。

カマド　位置　不明。

規模　全長不明・最大幅不明・焚き口幅不明

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀中頃と考えられる。

Ｇ４区３面

竪穴建物

177号竪穴建物(図226・441、PL.292・522)

位置　682～684､-893～-896　**主軸方位**　Ｎ－88°－Ｅ

重複　有り。363号土坑に先行する。

規模　面積5.58㎡、長軸2.72m×短軸2.35m×深さ0.12m

形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。

埋没土　黒褐色土で、As-C多量、ローム小塊わずかに含む。上に水田の床土が載る。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。多少の凹凸は認められるが、床下土坑やピットはなかった。

床面　カマド手前よりも建物北半の方が比較的よく硬化していた。

貯蔵穴　有り。南西隅で確認された。高い位置から焼けて砕けた礫が出土した。規模は長径42㎝×短径35㎝×深さ33㎝。ほぼ円形。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　中央北寄りで須恵器の杯、カマド左手前で須恵器の杯破片などが出土した。

カマド　位置　南東隅で確認された。

規模　全長0.83m・最大幅0.66m・焚き口幅0.51m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.50m出る。

遺存状態　不良。天井は残存していなかった。焼け礫が多く出土しているので、構築材には角礫や円礫が使用されていたものと考えられる。焚き口には25㎝×20㎝程の焼土範囲が確認された。支脚には細長い円礫が立てられていた。掘り方はやや幅広になり煙道の先も若干延びる。焚き口の左右に径20㎝前後の浅い凹みが各１基ずつ、燃焼部には径15㎝程の小ピットが開く。

遺物出土状態　カマド燃焼部から煙道部壁で土器小片が出土した。掘り方調査時にも燃焼部から１点小片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。

178号竪穴建物(図227・228・441・442、PL.293・294・522・551・554)

位置　679～684､-89～-901　**主軸方位**　Ｎ－88°－Ｅ

重複　有り。329号・330号土坑に先行し、211号竪穴建物に後出する。

規模　面積13.55㎡､長軸4.62m×短軸3.40m×深さ0.15m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　黒褐色土で、As-C多量、ローム小塊わずかに含む。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。貼り床はない部分も多いが、床下土坑４基・ピット１基及び浅い凹みがカマド手前や南西隅で確認された。床下土坑・ピットの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径165㎝×短径115㎝×深さ17㎝。大形、不整形。北西隅。

床下土坑２は長径96㎝×短径75㎝×深さ10㎝。台形。建物中央やや南西。

床下土坑３は長径81㎝×短径73㎝×深さ18㎝。楕円形。底面隅丸長方形。

床下土坑４は長径47㎝×短径44㎝×深さ７㎝。円形。北東隅。

Ｐ１は長径54㎝×短径50㎝×深さ51㎝。円形。底部袋状。

床面　カマド手前の2.3m×1.5mの範囲に硬化面が確認された。

貯蔵穴　有り。南西隅で確認された。完形に近い須恵器の杯や甕の破片等がまとまって出土した。規模は長径70㎝×短径62㎝×深さ62㎝。ほぼ円形、深い。

柱穴　無し。掘り方調査時に確認したＰ１は断面袋状であり、相当しないものと考えられる。

周溝　有り。幅10～15㎝×深さ１～６㎝で、カマド左側から反時計回りで西壁の211号竪穴建物との重複部分の手前まで巡るが、北東隅手前で少し切れる。重複のため確認できなかったものか。

遺物出土状態　ほぼ全体的に破片が出土したが、東壁中央で須恵器の杯や瓦の破片など、南壁で甕や椀の破片などが出土した。

カマド　位置　東壁南東隅寄りで確認された。

規模　全長0.75m・最大幅0.73m・焚き口幅0.60m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.56m出る。

遺存状態　不良。天井は残存していなかった。焼け礫が多く出土しているので、構築材には円礫が使用されていたものと考えられる。燃焼部には焼土が確認された。支

脚にも礫が使用されていたものと考えられる。掘り方はやや幅広になり、多くの浅い凹みが開く。礫を立てた際の凹みと考えられる。カマド手前にも浅い凹みが開く。

遺物出土状態　カマド燃焼部から煙道部壁で須恵器の羽釜破片等が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。

179号竪穴建物（図228・230・442・443、PL.295・522・523・551・554）

位置　664～670、-907～-912　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｗ

重複　有り。30・31号溝に後出する。

規模　面積20.05㎡、長軸5.10m×短軸4.60m×深さ0.28m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。南壁が長くやや台形ぎみ。

埋没土　暗褐色土で、As-C多量、ローム小塊わずかに含む。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。貼り床はない部分も多いが、床下土坑１基は北東隅付近で、もう１基とピット８基は建物ほぼ中央で確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径97㎝×短径76㎝×深さ21㎝。楕円形。底面に凹凸有り。

床下土坑２は長径56㎝×短径40㎝×深さ41㎝。楕円形。北西側が深い。

Ｐ１は長径60㎝×短径52㎝×深さ43㎝。楕円形。

Ｐ２は長径36㎝×短径33㎝×深さ31㎝。円形。北側が深い。

Ｐ３は長径50㎝×短径50㎝×深さ47㎝。円形。西側が深い。内面に焼土あり。

Ｐ４は長径34㎝×短径31㎝×深さ57㎝。円形。

Ｐ５は長径23㎝×短径20㎝×深さ35㎝。円形。

Ｐ６は長径27㎝×短径（18）㎝×深さ22㎝。楕円形か。

Ｐ７は長径43㎝×短径40㎝×深さ60㎝。円形。

Ｐ８は長径20㎝×短径16㎝×深さ27㎝。円形。

床面　特に硬化している面は確認されなかったが、Ｐ２の南側と北側で焼土が確認された。貯蔵穴以外に掘り方調査時に土坑が４基確認された。小鍛治など何らかの工房の可能性が考えられる。

土坑１は長径87㎝×短径85㎝×深さ17㎝。隅丸三角形。

土坑２は長径82㎝×短径80㎝×深さ10㎝。円形。

土坑３は長径73㎝×短径65㎝×深さ10㎝。隅丸方形。底面中央に焼土有り。

土坑４は長径57㎝×短径52㎝×深さ７㎝。楕円形。

貯蔵穴　有り。南西隅で確認された。完形に近い杯や甕の破片が纏まって出土した。規模は長径70㎝×短径68㎝×深さ55㎝。ほぼ円形。深い。

柱穴　有り。掘り方調査時に確認した建物中央のピットはいずれも深く、柱穴の可能世はあると考えられる。

周溝　有り。幅10～20㎝×深さ１～５㎝で、カマド左側から反時計回りで南壁の中央まで巡るが、南西隅で少し切れる。

遺物出土状態　ほぼ全体的に破片が出土したが、南半で須恵器の羽釜や甕・椀の破片等が出土した。埋没土中から瓦や円筒埴輪片等も出土した。

カマド　位置　南東隅で確認された。

規模　全長1.04m・最大幅0.80m・焚き口幅0.50m

袖　有り。左袖無し。右袖は建物壁内に0.36m入る。

煙道　建物壁外に0.65m出る。

遺存状態　比較的良好。天井は残存していなかった。焼け礫が多く出土しているので、構築材には円礫が使用されていたものと考えられる。燃焼部には焼土が3㎝程確認された。支脚にも礫が使用されていたものと考えられる。掘り方はやや幅広になり、焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。燃焼部左右の壁には礫を立てた際のものと考えられる長径20～30㎝×短径13㎝の浅い凹みが開く。燃焼部と煙道部の境目は段になる。

遺物出土状態　カマド燃焼部で須恵器の羽釜等の破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

181号竪穴建物（図230・231・444、PL.296・523）

位置　688～692、-910～-913　**主軸方位**　Ｎ－80°－Ｗ

重複　有り。26号溝に先行する。

規模　面積7.86㎡、長軸3.63m×短軸2.38m×深さ0.14m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　暗褐色土で、As-C多量、ローム小塊わずかに含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。貼り床はない。床下に新たな土坑・ピットはない。

床面　カマド前にやや硬化している面が確認された。西壁中央で土坑１と土坑２が南北に並んで確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑１は長径69㎝×短径41㎝×深さ20㎝。楕円形。底部から大形礫片が出土した。

土坑２は長径70㎝×短径(45)㎝×深さ21㎝。楕円形。底部隅丸方形。

貯蔵穴　有り。南東隅で確認された。底部から大形の円礫が出土した。穴の規模は長径45㎝×短径40㎝×深さ20㎝。ほぼ円形。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅15～17㎝×深さ１～５㎝で、カマド左側から反時計回りで西壁南西隅の少し手前まで巡る。

遺物出土状態　ほぼ全体から散漫に土器片や焼け礫が出土した。

カマド　位置　東壁中央で確認された。

規模　全長0.95m・最大幅1.20m・焚き口幅0.63m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.10m、右袖は0.24m入る。

煙道　建物壁外に0.60m出る。

遺存状態　比較的良好。天井は残存していなかった。焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。焼け礫片が出土しているので、構築材には円礫が使用されていたものと考えられる。燃焼部は良く焼けており、底面には焼土が３㎝程確認された。支脚は残っていなかった。掘り方はかなり幅広になり、焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹み、右袖前にＰ１が開く。Ｐ１の規模は長径33㎝×短径29㎝×深さ24㎝。円形。左袖側には長径22㎝×短径21㎝×深さ13㎝の浅い凹みが開く。いずれも礫を立てた際の凹みかと考えられる。

遺物出土状態　カマド燃焼部で須恵器の羽釜などの小片が出土した。掘り方調査時にも燃焼部奥壁手前で同様な破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

182号竪穴建物（図231・444、PL.297・523）

位置　692～696、-917～-921　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｗ

重複　有り。208号竪穴建物に後出する。

規模　面積8.59㎡、長軸3.26m×短軸3.07m×深さ0.17m

形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。

埋没土　暗褐色土で、As-C多量、ローム粒をわずかに含む。

掘り方　底面からの深さ0.08m　有り。貼り床はあるが、床下に新たな土坑・ピットはない。南壁中央手前で確認された土坑１は床下土坑の可能性が高い。規模は長径70㎝×短径60㎝×深さ15㎝。楕円形。

床面　特に硬化している面は確認されなかった。土坑１は床面で確認されたものであるが、床下土坑の可能性が高い。

貯蔵穴　有り。南西隅で確認された。その規模は長径63㎝×短径55㎝×深さ26㎝。ほぼ円形。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　南半から多くの土器片や焼け礫が出土した。北壁中央で須恵器の椀が出土した。

カマド　位置　東壁南東隅寄りで確認された。

規模　全長0.79m・最大幅0.80m・焚き口幅0.40m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.40m入る。右袖無し。

煙道　建物壁外に0.43m出る。

遺存状態　不良。天井は残存していなかった。焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。燃焼部は良く焼けており、底面には焼土が８㎝程確認された。支脚は残っていなかった。

遺物出土状態　カマド燃焼部で土師器の甕などの土器片が数点出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。

185号竪穴建物（図232・445・446、PL.298～300・523）

位置　682～685、-912～-916　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｗ

重複　有り。20号溝に後出する。

規模　面積7.15㎡、長軸3.01m×短軸2.76m×深さ0.33m

形状　隅丸方形。東西方向に長い。

埋没土　全体に暗褐色土で、上層はAs-C多量、下層はローム小塊多く含み、やや茶色味が強い。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。貼り床は確認できなかったが、床下土坑３基が確認された。
それらの規模と位置は下記の通りである。

床下土坑１は長径185㎝×短径86㎝×深さ35㎝。隅丸長方形。西壁際で確認した。

床下土坑２は長径68㎝×短径54㎝×深さ19㎝。楕円形。中央やや南側で確認した。土師器の甕破片出土。

床下土坑３は長径72㎝×短径58㎝×深さ25㎝。楕円形。西側が深い。東壁中央で確認した。須恵器椀底部及び甕胴部破片出土。

床面　特に硬化している面は確認されなかった。北西隅手前で土坑１が確認された。その規模は長径77㎝×短径53㎝×深さ21㎝。楕円形。小形杯が出土した。

貯蔵穴　有り。北東隅で確認された。その規模は長径67㎝×短径50㎝×深さ55㎝。楕円形。かなり深い。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅10～15㎝×深さ1～6㎝で、北壁貯蔵穴手前から反時計回りで北西隅の少し先までで一旦切れて南西隅手前からカマド手前まで巡る。

遺物出土状態　建物北西部から完形品もしくは完形に近い須恵器の杯が多く出土した。南壁中央から灰釉陶器の皿の完形品が出土した。

カマド　位置　東壁南東隅で確認された。

規模　全長0.89m・最大幅0.74m・焚き口幅0.43m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.21m、右袖は0.21m入る。極わずかに延びる。

煙道　建物壁外に0.61m出る。

遺存状態　比較的良好。天井は残存していなかった。焼け礫が出土しているので、構築材には円礫が使用されていたものと考えられる。横長の棒状礫は両袖の上に載っていたものと考えられる。袖先には円礫や土器片が使用されていた。燃焼部は良く焼けており、底面には焼土が６㎝程確認された。支脚には大形の円礫が使用されていた。掘り方はかなり幅広になり、焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹み、煙道部との境目は段になる。煙道部右壁には長径20㎝×短径10㎝×深さ３～６㎝程度の浅い楕円形の凹みが開く。いずれも礫を立てた際の凹みかと考えられる。

遺物出土状態　カマド燃焼部から煙道部で須恵器の羽釜等の破片が多量に出土した。カマドの構築材として使用されていたものも含まれると考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。

187号竪穴建物（図233・447・448、PL.301～303・524）

位置　693～696、-923～-926　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｗ

重複　有り。362号・371号土坑に先行する。

規模　面積6.59㎡、長軸3.20m×短軸2.66m×深さ0.29m

形状　隅丸長方形。南北方向に若干長い。

埋没土　全体に暗褐色土で、上層はAs-C多量、わずかにローム小塊を含み、下層はローム塊を多く含む。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。床下土坑は確認されなかった。

床面　特に硬化している面は確認されなかった。北西隅手前で土坑１が確認された。その規模は長径72㎝×短径62㎝×深さ10㎝。楕円形。中央から杯が出土した。

貯蔵穴　無し。

柱穴　有り。カマド左前でＰ１、南壁中央でＰ２が確認された。規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径23㎝×短径21㎝×深さ36㎝。楕円形。

Ｐ２は長径19㎝×短径15㎝×深さ23㎝。楕円形。

周溝　無し。

遺物出土状態　ほぼ全体から多量の遺物が出土した。完形品もしくは完形に近い須恵器の椀が北西隅や東壁・南壁近くから、西壁や南壁で須恵器の羽釜破片が多量に出土した。カマド左側壁東寄りで小形甕が正位の状態で出土した。左袖前で刀子と思われる物が出土した。

カマド　位置　南東隅寄りで確認された。

規模　全長0.63m・最大幅1.00m・焚き口幅0.50m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.19m、右袖は0.26m入る。右袖先端に土器片、左袖先端に円礫が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.38m出る。

遺存状態　不良。天井は残存していなかった。焼け礫がほとんど出土していないので、構築材には円礫は使用されていなかったものと考えられる。袖先には円礫や土器片が使用されていた。燃焼部の奥壁は良く焼けており、焼土が残っていた。掘り方はかなり幅広になるが、焚き口から燃焼部にかけての凹みはない。

遺物出土状態　カマド燃焼部で須恵器の羽釜破片や杯が出土した。燃焼部中央のものはカマドで使用されていたものの可能性があるが、壁寄りのものは構築材として使用されていたものと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

188号竪穴建物（図234・449、PL.301・304・525）

位置　696～699､-922～-926　**主軸方位**　Ｎ－88°－Ｅ
重複　有り。187号竪穴建物・361号・362号土坑に先行する。
規模　面積(7.94) ㎡、長軸3.55m×短軸2.95m×深さ0.24m
形状　隅丸長方形か。南北方向に長い。
埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、黄褐色粒少量、炭化物粒・焼土粒若干含み、しまりあり。下層はAs-C若干含み、しまりあまりなし。
掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。床下土坑は確認されなかった。
床面　特に硬化している面は確認されなかった。北西部で土坑１が確認された。その規模は長径63㎝×短径60㎝×深さ27㎝。楕円形。西側から杯の底部破片が出土した。
貯蔵穴　不明。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　ほぼ全体から遺物が出土したが、円礫や礫片が多く、土器片の方が少ない。北半やカマド北側東壁で底部破片が出土した。
カマド　位置　東壁南寄りで確認された。
規模　全長1.58m・最大幅0.98m・焚き口幅0.65m
袖　無し。
煙道　建物壁外に1.35m出る。
遺存状態　良好。天井は残存していなかった。焼け礫が多量に出土しているので、構築材には円礫は使用されていたものと考えられる。焚き口から燃焼部は良く焼けており、焼土が残っていた。掘り方はやや幅広になるが、焚き口から燃焼部にかけて浅く凹む。焚き口の両側には長径30㎝×短径20㎝×深さ8㎝の浅い凹みが開く。
遺物出土状態　カマド燃焼部から煙道部で多くの焼け礫が出土した。石組みカマドで構築材として使用されていたものと考えられる。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

189号竪穴建物(図235・236・449・450、PL.305・306・525)
位置　696～698､-919～-923　**主軸方位**　Ｎ－78°－Ｅ
重複　無し。
規模　面積(4.48)㎡、長軸(3.56)m×短軸(1.75)m×深さ0.45m
形状　隅丸長方形か。
埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、黄褐色粒・炭化物粒少量、にぶい黄褐色塊土若干含み、しまりあり。下層はAs-C・黄褐色粒・炭化物粒少量、焼土粒若干含み、しまりややあり。
掘り方　底面からの深さ0.08m　有り。床下土坑やピットが多く確認された。規模は下記の通りである。
床下土坑１は長径75㎝×短径(70)㎝×深さ10㎝。楕円形。
床下土坑２は長径(91)㎝×短径85㎝×深さ14㎝。楕円形。
床下土坑３は長径(62)㎝×短径(73)㎝×深さ９㎝。楕円形。
床下土坑４は長径(65)㎝×短径(72)㎝×深さ13㎝。楕円形。
床下土坑５は長径58㎝×短径46㎝×深さ21㎝。楕円形。
Ｐ１は長径33㎝×短径33㎝×深さ15㎝。円形。
床面　特に硬化している面は確認されなかったが、カマド右前に1.70m×0.90mの不定形の範囲に焼土が散る範囲が確認された。
貯蔵穴　有り。南西隅で確認された。長径57㎝×短径38㎝×深さ16㎝。楕円形。南側が深い。
柱穴　不明。掘り方調査時にＰ１が確認されたが､浅く、あまりしっかりしたものではない。しかし、調査できなかった範囲外にある可能性も否定できない。
周溝　無し。
遺物出土状態　ほぼ全体から多量の遺物が出土した。カマド右前で凝灰岩の切石、多量の須恵器の羽釜破片や椀等が出土した。
カマド　位置　東壁南寄りで確認された。
規模　全長0.85m・最大幅(0.55)m・焚き口幅(0.30)m
袖　有り。左袖は調査区外。右袖は建物壁内に0.38m入る。
煙道　建物壁外に0.43m出る。
遺存状態　良好。南側のみ調査で確認した。カマド内及びその手前から焼け礫が多量に出土しているので、構築材には主に円礫が、一部切石が使用されていたものと考えられる。粘土部分に羽釜などの土器片も確認されており、構築材の一部として使用されていたものと考えられる。掘り方は右袖が無くなり、やや幅広になるが、焚き

口は浅く凹む。右袖部分には長径28㎝×短径23㎝×深さ６㎝の浅い凹みが開く。

遺物出土状態　カマド燃焼部から煙道部で多くの焼け礫が出土した。須恵器の羽釜破片も少量ではあるが、出土した。礫や土器片もカマドの構築材として使用されていたものと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

191号竪穴建物（図236・237・450、PL.307・308・525）

位置　680～682、-931～-934　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｅ

重複　有り。192・237号竪穴建物・404号土坑に後出する。

規模　面積5.86㎡、長軸2.89m×短軸2.42m×深さ0.20m

形状　隅丸方形。若干南北方向に長い。

埋没土　全体に暗褐色土で、As-C多量に含み、均一的。

掘り方　底面からの深さ0.13m　有り。凹凸があり、浅いところではほとんどない部分もある。床下土坑やピットは確認されなかった。

床面　土坑ピット類がない部分は比較的硬化していた。南西隅に土坑１が、北東隅にＰ１が確認された。両者とも貯蔵穴の可能性も否定できない。

土坑１は長径80㎝×短径70㎝×深さ22㎝。楕円形。土器片３点が出土した。

Ｐ１は長径40㎝×短径38㎝×深さ52㎝。楕円形。

貯蔵穴　有り。南西隅で確認された。長径66㎝×短径56㎝×深さ29㎝。隅丸方形。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅４～17㎝×深さ１～７㎝で、カマド左手から南西隅まで反時計回りで巡る。

遺物出土状態　ほぼ全体から散漫に出土した。北東隅で須恵器の椀底部が、カマド左前と東壁から同様なものが出土した。

カマド　位置　東壁南東隅寄りで確認された。

規模　全長0.65m・最大幅0.65m・焚き口幅0.36m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.55m出る。

遺存状態　比較的良好。燃焼部左右壁は良く焼けて焼土化しており、底面にも焼土が残存していた。支脚と燃焼部奥壁の左右には円礫が使用されていた。若干の土器片も確認されており、構築材の一部として使用されていたものと考えられる。掘り方は、やや幅広になり、焚き口から燃焼部は浅く凹む。燃焼部奥壁と北壁に径10㎝×深さ２～４㎝の浅い凹みが開く。礫を設置した際の凹みかと考えられる。

遺物出土状態　カマド手前から燃焼部にかけて須恵器の羽釜破片等が出土した。カマドに掛けられていただけでなくその構築材として使用されていたものも含まれると考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

192号竪穴建物（図237・238・451、PL.308・525・551）

位置　682～684、-930～-933　**主軸方位**　Ｎ－81°－Ｅ

重複　有り。191号竪穴建物に先行する。

規模　面積(4.15)㎡、長軸2.62m×短軸2.27m×深さ0.19m

形状　隅丸長方形。若干東西方向に長い。

埋没土　全体ににぶい黄褐色土で、As-C多量、As-YP交じりのローム塊をわずかに含む。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。凹凸があり、浅いところではほとんどない部分もある。床下土坑やピットは確認されなかった。

床面　土坑ピット類がない部分は比較的硬化していた。建物中央やや南側に土坑１が確認された。

規模は長径80㎝×短径70㎝×深さ22㎝。円形。上層にAs-YPが入っていた。

貯蔵穴　有り。北東隅で確認された。長径59㎝×短径57㎝×深さ50㎝。円形。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅10～15㎝×深さ２～７㎝で、カマド左手から反時計回りで北西隅手前までとカマド右手から南壁まで巡る。

遺物出土状態　東半を中心に小破片が出土した。カマド手前で須恵器の羽釜破片が出土した。

カマド　位置　東壁南東隅寄りでやや斜めに確認された。

規模　全長0.70m・最大幅0.98m・焚き口幅0.43m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.67m出る。

遺存状態　比較的良好。燃焼部底面には焼土が残存していた。煙道部の上には礫が置かれていた。若干の土器片

も確認された。掘り方は、やや幅広になり、焚き口から燃焼部は浅く凹む。燃焼部奥壁に長径28㎝×短径19㎝×深さ12㎝と北壁に長径18㎝×短径13㎝×深さ２㎝の浅い凹みが開く。礫を設置した際の凹みかと考えられる。

遺物出土状態　カマド手前では須恵器の羽釜等の破片がまとまって出土したが、燃焼部では破片わずかに出土した。カマドに掛けられていたものが崩れ出たものか。

備考　所属時期　出土遺物から11世紀初頭頃と考えられる。

193号竪穴建物(図238～240・451、PL.309～311・525・526・551・554)

位置　671～676､-915～-920　**主軸方位**　Ｎ－65°－Ｅ

重複　有り。20号溝に先行する。

規模　面積10.14㎡､長軸3.47ｍ×短軸3.38ｍ×深さ0.71ｍ

形状　隅丸方形。わずかに東西方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、黄橙色粒少量含み、しまりややあり。下層はAs-C少量、As-YP粒多量含み、しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.20ｍ　有り。凹凸があり、通常よりかなり深い。西壁側で床下土坑２基、中央で南北にピット７基が確認された。

床下土坑１は長径140㎝×短径117㎝×深さ29㎝。楕円形。

床下土坑２は長径60㎝×短径53㎝×深さ16㎝。楕円形。

Ｐ１は長径51㎝×短径38㎝×深さ33㎝。楕円形。

Ｐ２は長径33㎝×短径25㎝×深さ38㎝。楕円形。

Ｐ３は長径38㎝×短径26㎝×深さ46㎝。楕円形。

Ｐ４は長径27㎝×短径23㎝×深さ40㎝。楕円形。

Ｐ５は長径25㎝×短径20㎝×深さ55㎝。楕円形。

Ｐ６は長径23㎝×短径18㎝×深さ20㎝。楕円形。土坑の上場からの深さ45㎝。

Ｐ７は長径35㎝×短径29㎝×深さ50㎝。楕円形。西側が深い。

床面　下に土坑・ピットが多く、特に硬化した面は確認できなかった。

貯蔵穴　無し。カマド右手で穴は確認できなかったが、遺物の纏まりから貯蔵用の用途が推定される。

柱穴　有り。掘り方調査時に確認されたＰ１～Ｐ７はいずれも深く、その可能性は否定できない。壁面に黒褐色土で埋没した斜めのピットが11本確認された。東壁・西壁・北壁に２本ずつ、南壁は５本確認された。

周溝　無し。

遺物出土状態　西壁寄りで土師器杯破片等が、カマド左手前で凝灰岩の切石が出土した。カマド右手南東隅で土師器の杯が３点出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.82ｍ・最大幅0.98ｍ・焚き口幅0.30ｍ

袖　有り。左袖は建物壁内に0.60ｍ入り、一部には切石が使用されていた。右袖は0.51ｍ入る。

煙道　建物壁外に0.22ｍ出る。外にわずかに延びる。

遺存状態　比較的良好。燃焼部底面には焼土が残存していた。袖は粘土で構築され、内側に入り込み、支脚には棒状の円礫が立てられていた。掘り方は、やや幅広になり、燃焼部奥壁に長径25㎝×短径22㎝×深さ15㎝の浅い凹みが開く。

遺物出土状態　カマド左手前で凝灰岩の切石が出土したが、カマドで使用されていたものと考えられる。焚き口左手で長胴甕の破片などが纏まって出土した。

備考　所属時期　出土遺物から８世紀第２四半期～第３四半期頃と考えられる。

203号竪穴建物(図241・242・452・453、PL.312～314・526・554)

位置　679～683､-904～-908　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｗ

重複　有り。289・290・338・339号土坑に先行し、213号竪穴建物に後出する。

規模　面積(9.25)㎡、長軸3.95ｍ×短軸2.92ｍ×深さ0.23ｍ

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、黄褐色粒・炭化物粒・焼土粒若干含み、しまりあり。下層はAs-C少量、黄褐色粒少量、にぶい黄褐色塊土若干含み、しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.02ｍ　有り。北東隅で床下土坑１、南東隅で床下土坑２、中央より東側でピット４基が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径61㎝×短径56㎝×深さ31㎝。楕円形。円礫出土。

床下土坑２は長径145㎝×短径140㎝×深さ12㎝。隅丸方形。大形。

Ｐ１は長径20㎝×短径16㎝×深さ32㎝。楕円形。

Ｐ２は長径32㎝×短径20㎝×深さ47㎝。楕円形。

Ｐ３は長径22㎝×短径20㎝×深さ45㎝。円形。

Ｐ４は長径25㎝×短径23㎝×深さ34㎝。円形。

床面　土坑・ピットが多く、それ以外ではやや硬化した面が確認できた。

貯蔵穴　有り。南西隅で確認された。規模は長径96㎝×短径54㎝×深さ37㎝。長楕円形。須恵器の杯が数点、礫などがまとまって出土した。やや大形の鉢に近いようなものも確認された。

柱穴　有り。掘り方調査時に確認されたＰ１～Ｐ４はいずれも深く、その可能性はある。

周溝　有り。幅10～16㎝×深さ２～５㎝で、東壁中央から北東隅まで巡る。長さ1.56ｍとその範囲は短い。土坑との斬り合いで確認しづらかった可能性がある。

遺物出土状態　西壁や北壁寄りで須恵器の杯等が、カマド手前で杯の破片等が出土した。底径の小さい杯が目立つ。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.78ｍ・最大幅0.76ｍ・焚き口幅0.63ｍ

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.60ｍ出る。

遺存状態　焚き口から燃焼部には底面に焼土が残存していた。燃焼部の左右両壁には小ピットが確認された。掘り方は、やや幅広になり、焚き口左側と燃焼部左壁に長径20㎝×短径15㎝×深さ３㎝の浅い凹みが開く。

遺物出土状態　カマド焚き口左右で礫片１点ずつ出土した。燃焼部で須恵器の杯や羽釜の破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

205号竪穴建物（図242・243・454・455、PL.315・316・527）

位置　676～681、-925～-928　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｗ

重複　有り。２号竪穴状遺構に後出する。

規模　面積12.42㎡、長軸4.30ｍ×短軸3.43ｍ×深さ0.28ｍ

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、黄褐色粒少量含み、しまりややあり。下層はAs-C少量、黄褐色塊土少量、黄橙色粒若干、焼土粒若干含み、しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.06ｍ　有り。カマド手前で床下土坑１が確認された。規模は長径88㎝×短径80㎝×深さ９㎝。楕円形。浅い。

床面　カマド手前では貼り床があり、硬化した面が確認できた。北壁手前1/3のところで幅15㎝×深さ６㎝の溝で東西に区切られ、その北側がベッド状に一段高くなる。区切りの周溝は本来東壁から西壁まで続いていた可能性がある。西壁中央手前で土坑１が確認された。規模は長径79㎝×短径73㎝×深さ25㎝。楕円形。貯蔵穴の可能性は否定できない。土師器の小破片が２点出土した。

貯蔵穴　不明。西壁中央手前で確認された土坑１がその可能性が否定できないものである。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅６～８㎝×深さ１～３㎝で、北壁だけで確認された。長さ1.93ｍとその範囲は短い。しかし、写真を見る限りほぼ全周していた可能性は否定できない。

遺物出土状態　カマド手前で須恵器の杯破片等が、土坑１の北側で区切り溝の南側で須恵器の羽釜の破片が出土した。完形に近いようなものはなく、小破片が目立つ。

カマド　位置　東壁中央やや南寄りで確認された。

規模　全長0.90ｍ・最大幅1.12ｍ・焚き口幅0.37ｍ

袖　有り。左袖は建物壁内に0.36ｍ、右袖は0.21ｍ入る。

煙道　建物壁外に0.52ｍ出る。

遺存状態　比較的良好。燃焼部と煙道部出口の境目は段になる。焚き口から燃焼部には底面に焼土が残存していた。カマド内及びその手前で多くの焼けた円礫が出土しており、礫が多用されていたものと考えられる。掘り方は、幅広になり、焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。焚き口手前に長径28㎝×短径24㎝×深さ19㎝の小ピットが、燃焼部右壁に長径27㎝×短径21㎝×深さ５㎝、長径23㎝×短径15㎝×深さ２㎝、長径18㎝×短径12㎝×深さ３㎝の浅い凹みが３基開く。円礫を設置した痕跡と考えられる。

遺物出土状態　カマド手前から内部にかけて多量の焼け礫が出土した。カマドの構築材として使用されていたものと考えられる。燃焼部奥壁で須恵器の羽釜の破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

206号竪穴建物（図244・245・455、PL.317～320・527）

位置　678～683、-919～-923　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｅ

重複　有り。207号竪穴建物に後出する。

規模　面積13.83㎡、長軸5.15ｍ×短軸3.34ｍ×深さ0.30ｍ

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。南壁の東半がやや南側に張り出す。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、黄橙色粒少量、炭化物粒若干含み、しまりあり。下層はAs-C少量、黄褐色塊土及び同粒少量、炭化物粒若干、焼土粒若干含み、しまりあり。

掘り方　底面からの深さ0.00ｍ　無し。床面より一段下げて確認したが、新たな土坑・ピットは検出できなかった。

床面　土坑部分と南東部以外でやや硬化した面が確認された。北壁手前1/4のところで幅26㎝×深さ７㎝の溝で東西に区切られ、その北側はやや高くなる。西壁手前で土坑１・２が、カマド手前で土坑３・４が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑１は長径89㎝×短径71㎝×深さ13㎝。楕円形。西側で土器の小破片が１点出土した。

土坑２は長径94㎝×短径45㎝×深さ37㎝。長楕円形。東側で土師器の小破片が１点出土した。

土坑３は長径72㎝×短径（57）㎝×深さ15㎝。楕円形。土器の小破片が数点出土した。

土坑４は長径101㎝×短径68㎝×深さ19㎝。楕円形。土器の小破片が数点出土した。

貯蔵穴　有り。南西隅で確認された。規模は長径81㎝×短径65㎝×深さ25㎝。楕円形。椀や甕、羽釜の破片などが数点出土した。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅７～15㎝×深さ１～３㎝で、北壁から南東隅で反時計回りに確認されたが、北西隅からやや西壁の南西隅から西壁中央の間で切れている。

遺物出土状態　ほぼ全体から多くの土器片や円礫が出土した。土器では須恵器の杯や椀、灰釉陶器の皿や椀、須恵器の羽釜等の破片が目立つ。カマド手前で焼け礫が数点まとまって出土した。

カマド　位置　東壁中央やや南寄りで確認された。

規模　全長0.83ｍ・最大幅0.71ｍ・焚き口幅0.30ｍ

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.68ｍ出る。

遺存状態　比較的良好。焚き口の左側に長径16㎝×短径12㎝×深さ３㎝、右側に長径24㎝×短径24㎝×深さ３㎝の浅い凹みが開く。焚き口から燃焼部には底面に焼土が5㎝程残存していた。カマド内及びその手前で多くの焼けた円礫が出土しており、礫が多用されていたものと考えられる。掘り方は、幅広になり、焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。焚き口手前に長径37㎝×短径37㎝×深さ35㎝の小ピットが開き、内部から角礫が出土した。燃焼部左右の壁に２基ずつ、計４基の浅い凹みが開く。礫を設置した痕跡と考えられる。

遺物出土状態　カマド手前から内部にかけて多量の焼け礫が出土した。カマドの構築材として使用されていたものと考えられる。燃焼部で須恵器の羽釜の大形破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

207号竪穴建物（図245・456・457、PL.320・321・527・528）

位置　678～681、-918～-920　**主軸方位**　Ｎ－77°－Ｅ

重複　有り。206号竪穴建物・405号土坑に先行する。

規模　面積（2.88）㎡、長軸（1.25）ｍ×短軸（2.92）ｍ×深さ0.30ｍ

形状　隅丸長方形で東西方向に長いか。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、黄褐色粒若干含み、しまりあり。下層はAs-C少量、黄橙色粒少量、焼土粒少量含み、しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.03ｍ　有り。床面より一段下げて確認したが、新たな土坑・ピットは検出できなかった。

床面　西側は206号竪穴建物に切られており、北壁手前には土坑１とピットがあり、カマド手前でやや硬化した面が確認された。土坑・ピットの規模は下記の通りである。

土坑１は長径39㎝×短径34㎝×深さ10㎝。楕円形。

Ｐ１は長径28㎝×短径24㎝×深さ22㎝。楕円形。

貯蔵穴　不明。北東隅で確認された土坑１が可能性はあるが、207号竪穴建物側にあった可能性も否定できない。

柱穴　不明。北壁手前で確認されたピット１はその可能性はあるが、位置的に北壁寄りであり、この建物に伴うかどうかも確定できない。

周溝　無し。

遺物出土状態　Ｐ１の南側から須恵器の杯や羽釜等の破

片が数点出土したが、やや高い位置であった。206号竪穴建物のカマドと重複する部分から須恵器の甕の破片が床面に近い低い位置から出土した。

カマド　位置　南東隅で斜めに確認された。

規模　全長0.75m・最大幅0.70m・焚き口幅0.58m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.32m出る。

遺存状態　比較的良好。焚き口から燃焼部の壁には円礫が立っていたが、天井は無かった。焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。カマド内で出土した高台付椀や羽釜等の土器類は、カマドに掛かっていたものだけではなく、構築材の一部として礫と併用して使用されていたものも含まれるのではないかと考えられる。掘り方は、幅広になり、焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。燃焼部右壁に長径32㎝×短径22㎝、奥壁に長径25㎝×短径18㎝、左壁に長径26㎝×短径16㎝で深さ２～３㎝の計３基の浅い凹みが開く。礫を設置した痕跡と考えられる。

遺物出土状態　カマド手前から内部にかけて多量の須恵器の椀や杯、羽釜の破片や焼け礫が出土した。礫はカマドの構築材として使用されていたものと考えられるが、椀や杯類の一部もその可能性が考えられる。掘り方調査では燃焼部左手壁で須恵器の椀や杯、甕破片等が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

208号竪穴建物（図246・458、PL.322～324・528）

位置　690～693、-915～-919　**主軸方位**　Ｎ－81°－Ｗ

重複　有り。26号溝・182号竪穴建物に先行する。

規模　面積10.31㎡、長軸(3.55)ｍ×短軸(3.33)ｍ×深さ0.25m

形状　隅丸長方形。やや菱形。南北方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、黄褐色粒・炭化物粒・焼土粒若干含み、しまりややあり。下層はAs-C少量、黄褐色塊土若干含み、しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.06m　有り。床面より一段下げて確認したが、新たな土坑・ピットは検出できなかった。

床面　北側は182号竪穴建物に、南側は26号溝に切られており、硬化した面は確認されなかった。北東隅で土坑１、カマド右手壁際で土坑２、その西側で土坑３、カマド手前建物中央寄りで土坑４が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑１は長径68㎝×短径60㎝×深さ33㎝。楕円形。土器の破片が数点と割れた大形礫が出土した。

土坑２は長径44㎝×短径34㎝×深さ６㎝。楕円形。高台付椀や灰釉陶器の破片が出土した。

土坑３は長径49㎝×短径40㎝×深さ19㎝。楕円形。椀か杯の底部破片が出土した。

土坑４は長径80㎝×短径70㎝×深さ18㎝。楕円形。北側が深い。小破片が出土した。

貯蔵穴　不明。北東隅で確認された土坑１とカマド右手の土坑２がその可能性が高いと考えられる。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　182号竪穴建物と重複する部分以外から須恵器の杯や羽釜等の破片が出土したが、やや高い位置からのものが多かった。その他に縄文土器や石器の破片等が出土した。

カマド　位置　東壁中央南寄りで確認された。

規模　全長0.90m・最大幅0.70m・焚き口幅0.27m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.53m出る。

遺存状態　不良。天井は無かった。焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。燃焼部に焼土を含む灰層が８㎝程確認された。カマド内で出土した土器片は、カマドに掛かっていたものだけではなく、構築材の一部として使用されていたものも含まれるのではないかと考えられる。掘り方は、やや幅広になり、焚き口手前から燃焼部にかけて緩く凹む。燃焼部と煙道部の境目は段になる。燃焼部右側に長径25㎝×短径18㎝×深さ３㎝と長径21㎝×短径16㎝×深さ１㎝、左側に長径22㎝×短径17㎝×深さ１㎝、計３基の浅い凹みが開く。焼け礫の出土は決して多くはなく礫を据えた痕跡とは必ずしも断定できない。

遺物出土状態　カマド焚き口左壁から奥壁に掛けて須恵器の羽釜破片等が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

211号竪穴建物（図247・248・459、PL.325 ～ 327・528）

位置　677～681、-900～-903　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｗ

重複　有り。296号土坑・178号竪穴建物に先行し、212

号竪穴建物に後出する。

規模　面積9.28㎡、長軸3.25m×短軸3.01m×深さ0.22m

形状　隅丸長方形。北西隅が丸く、北東隅が角張る。南北方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C少量、しまり・粘性共にあり。下層はにぶい黄褐色～黒黄褐色土でAs-C少量、しまり・粘性共にあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。床下土坑・ピットは検出できなかった。

床面　南西隅で土坑１～３・Ｐ１が確認され、それらの遺構が集中する部分以外ではやや硬化した面が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑１は長径82㎝×短径67㎝×深さ35㎝。楕円形。高台付椀の底部破片が出土した。

土坑２は長径48㎝×短径(30)㎝×深さ17㎝。楕円形。

土坑３は長径48㎝×短径48㎝×深さ24㎝。楕円形。椀の底部破片が出土した。

Ｐ１は長径38㎝×短径32㎝×深さ35㎝。楕円形。

貯蔵穴　不明。南東隅で確認された土坑１～3がその可能性が高いと考えられる。

柱穴　不明。Ｐ１は南西隅であり柱穴としては端過ぎるか。

周溝　有り。幅９～15㎝×深さ２～７㎝で、カマド左手から西壁中央よりやや南まで巡る。しかし、北東隅のみ切れる。

遺物出土状態　ほぼ全体から須恵器の椀や杯、甕・羽釜などの小破片が出土したが、やや高い位置からのものが多かった。

カマド　位置　南東隅で確認された。

規模　全長1.08m・最大幅0.77m・焚き口幅0.38m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.53m､右袖は0.55m入る。

煙道　建物壁外に0.54m出る。

遺存状態　比較的良好。天井は無かった。燃焼部に焼土を含む灰層が５㎝程確認された。極めて多量の円礫がカマド内及びその手前から出土しており、構築材として使用されていたものと考えられる。支脚は円礫の破片が立てられていた。掘り方は、やや幅広になり、焚き口手前から燃焼部にかけて緩く凹む。燃焼部と煙道部の境目は段になる。焚き口に長径54㎝×短径33㎝×深さ11㎝、燃焼部右側入口に長径30㎝×短径23㎝×深さ５㎝、左側に長径29㎝×短径22㎝×深さ４㎝、計３基の浅い凹みが開く。円礫を立てた痕跡と考えられる。

遺物出土状態　カマド燃焼部で須恵器の甕もしくは羽釜の胴部破片や杯等が出土した。掘り方でも燃焼部奥側で小破片が数点出土した。

備考　所属時期　出土遺物から11世紀前半頃と考えられる。

212号竪穴建物(図248・249・460～462、PL.325・328～330・528～530・551・554)

位置　675～678、-900～-904　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｅ

重複　有り。211号竪穴建物・421号土坑に先行する。

規模　面積(7.39)㎡、長軸3.83m×短軸3.38m×深さ0.34m

形状　隅丸長方形。南北方向に若干長い。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-C多量、しまり・粘性共にあり。下層は暗褐色土でローム塊・小礫を含み、しまり・粘性共にあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。床下土坑・ピットは検出できなかった。

床面　硬化した面は確認されなかった｡南東隅で土坑１、そこから斜め北側に土坑２・３、土坑２の西側でＰ１、211号竪穴建物の西側で周溝の内側でＰ２が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑１は長径66㎝×短径58㎝×深さ12㎝。楕円形。

土坑２は長径67㎝×短径53㎝×深さ14㎝。楕円形。

土坑３は長径89㎝×短径64㎝×深さ17㎝。楕円形。羽釜の破片等が出土した。

Ｐ１は長径35㎝×短径34㎝×深さ23㎝。円形。

Ｐ２は長径32㎝×短径26㎝×深さ13㎝。楕円形。

貯蔵穴　不明。南東隅で確認された土坑１がその可能性が高いと考えられる。

柱穴　不明。Ｐ１、Ｐ２がその可能性がある。

周溝　有り。幅10～18㎝×深さ２～５㎝で、１号土坑から時計回りに西壁Ｐ２寄りまで巡る。北西隅付近から内側に入り込む。

遺物出土状態　カマド手前を中心として灰釉陶器の皿や椀、須恵器の椀や杯、甕・羽釜など極めて多量の遺物が出土した。調査ではあまりの多さに３面に分けて順次取り上げた。重なっているものが多く、高い位置から床直

まで様々なものがあった。

カマド　位置　東壁中央南寄りで確認された。

規模　全長1.11m・最大幅1.03m・焚き口幅0.40m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.37m入る。右袖は不明。

煙道　建物壁外に0.62m出る。

遺存状態　比較的良好。天井は無かった。焚き口左壁から燃焼部にかけて焼土を含む層が８㎝程確認された。多くの円礫がカマド内及びその手前から出土しており、構築材として使用されていたものと考えられる。支脚は円礫が立てられていた。掘り方は、やや幅広になり、焚き口手前から燃焼部にかけて緩く凹む。燃焼部と煙道部の境目は段になる。燃焼部右側入口に長径21㎝×短径16㎝×深さ６㎝の浅い凹みが開く。

遺物出土状態　カマド燃焼部で須恵器の甕や羽釜の破片や杯等が出土した。掘り方でも燃焼部で羽釜破片や椀が数点出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

213号竪穴建物(図250・251・463・464、PL.312・331～334・530・531)

位置　682～685､-902～-906　**主軸方位**　Ｎ－89°－Ｅ

重複　有り。289・358号土坑・203号竪穴建物に先行し、214号竪穴建物に後出する。

規模　面積(10.85)㎡、長軸4.22m×短軸3.27m×深さ0.22m

形状　隅丸長方形。東西方向に若干長い。北西隅はかなり角張るが、北東隅と南東隅は丸味を持つ。

埋没土　全体的に黒褐色土で、上層はAs-C多量、しまりあり。下層はAs-C・As-YPを少量、炭化物粒を若干含み、しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。中央やや北寄りで土坑１、南東隅で土坑２、ピットは中央南壁寄りでＰ２・３、中央やや東寄りでＰ４、北東部でＰ５を確認した。規模は下記の通りである。

土坑１は長径100㎝×短径62㎝×深さ６㎝。楕円形。
土坑２は長径43㎝×短径36㎝×深さ24㎝。楕円形。
Ｐ２は長径25㎝×短径25㎝×深さ35㎝。円形。
Ｐ３は長径30㎝×短径28㎝×深さ16㎝。円形。
Ｐ４は長径24㎝×短径18㎝×深さ22㎝。楕円形。
Ｐ５は長径42㎝×短径34㎝×深さ28㎝。楕円形。

床面　硬化した面は確認されなかった。カマド右袖横でＰ１が確認された。規模は長径45㎝×短径36㎝×深さ52㎝。楕円形。高台付椀出土。

貯蔵穴　有り。カマド右手前で確認された。規模は長径85㎝×短径76㎝×深さ19㎝。楕円形。

柱穴　有り。Ｐ１は深くてしっかりしているが、貯蔵穴を切り込んでおり、位置的にも柱穴とするには疑問が残る。掘り方調査時に確認されたＰ２～５もその可能性は否定できない。

周溝　有り。幅６～10㎝×深さ２～３㎝で、南壁のみで確認された。

遺物出土状態　北西部を除きほぼ全体的に須恵器大形甕の破片が多量に出土した。南壁中央寄りやカマド右手前で高台付椀も出土した。南西部では焼けた円礫も数点出土した。

カマド　位置　東壁中央やや北寄りで確認された。

規模　全長1.06m・最大幅1.01m・焚き口幅0.35m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.25m､右袖は0.26m入る。

煙道　建物壁外に0.21m出る。

遺存状態　比較的良好。天井は無かった。焚き口手前から燃焼部にかけて広く緩く凹む。燃焼部底面は被熱し焼土化していた。多くの円礫がカマド内及びその手前から出土しており、構築材として使用されていたものと考えられる。支脚は円礫が立てられていた。掘り方は、不定形に幅広になり、焚き口手前から燃焼部にかけて緩く凹む。

遺物出土状態　カマド燃焼部左壁で杯底部破片等が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

214号竪穴建物(図252・465、PL.312・331・334・335・531)

位置　681～683､-901～-904　**主軸方位**　Ｎ－76°－Ｅ

重複　有り。213号竪穴建物に先行する。

規模　面積(2.96)㎡、長軸2.83m×短軸(1.33)m×深さ0.19m

形状　隅丸長方形か。南東隅はかなり丸味を持つ。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-C多量、黄褐色粒・炭化物少量含み、しまりあり。壁際は黄褐色粒少量、白色粒を若干含み、しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。中央で床下土坑１、カマド手前で床下土坑２、Ｐ２を確認した。規模は

下記の通りである。

床下土坑１は長径105㎝×短径90㎝×深さ17㎝。隅丸長方形。

床下土坑２は長径43㎝×短径36㎝×深さ24㎝。楕円形。

Ｐ２は長径30㎝×短径25㎝×深さ16㎝。楕円形。

床面　硬化した面は確認されなかった。カマド右横でＰ１が確認された。規模は長径50㎝×短径40㎝×深さ53㎝。楕円形、やや西側が直線的。土器片出土。

貯蔵穴　有り。カマド右横で確認されたＰ１がその可能性が高いものと考えられる。

柱穴　不明。床面や掘り方調査時に確認されたピット・土坑があるが、建物の柱穴に相当するようなものはない。

周溝　無し。

遺物出土状態　建物南中央で須恵器の椀や杯の破片がわずかに出土した。

カマド　位置　東壁で確認された。

規模　全長0.43m・最大幅(0.65)m・焚き口幅0.52m

袖　有り。左袖不明。右袖は0.09m入る。

煙道　建物壁外に0.35m出る。

遺存状態　不良。天井は無かった。燃焼部底面は極一部焼土化していた。支脚はなかった。掘り方は、幅広になり、燃焼部の左右の壁に一つずつ浅い凹みが開く。左長径21㎝×短径15㎝×２㎝。楕円形。右21㎝×15㎝×３㎝。楕円形。礫を設置した際の凹みか。

遺物出土状態　カマド燃焼部左壁で須恵器の羽釜の破片等が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から９世紀第４四半期～10世紀第１四半期頃と考えられる。

216号竪穴建物(図252・465、PL.336・531)

位置　659～661、-902～-904　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｅ

重複　有り。224号竪穴建物に後出する。

規模　面積(2.42)㎡、長軸(2.15)m×短軸(2.05)m×深さ0.42m

形状　隅丸長方形か。

埋没土　上層は黒褐色土で、ローム塊多量、炭化物多量、にぶい黄橙色粒少量含む。壁際は黒褐色土で、ローム塊・粒多量に含み、しまり弱く、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　硬化した面は確認されなかった。

貯蔵穴　不明。

柱穴　不明。

周溝　有り。幅７～17㎝×深さ３～９㎝で、確認された北壁から西壁まで二重に巡る。

遺物出土状態　建物中央東側調査区寄りで須恵器の底径の小さい杯が出土した。

カマド　位置　不明。

規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。

224号竪穴建物(図253～255・466～468、PL.337～339・554)

位置　659～663、-903～-908　**主軸方位**　Ｎ－18°－Ｗ

重複　有り。374号土坑・216号竪穴建物に先行し、413号土坑に後出する。

規模　面積(10.08)㎡、長軸(4.07)m×短軸(3.92)m×深さ0.78m

形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。

埋没土　上層は黒褐色～灰黄褐色土で、As-C多量、ローム小塊・同粒を多量に含み、しまりあり。下層は黒褐色～にぶい黄褐色土でAs-Cを少量、ローム小塊・粒少量含み、しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。カマド前で床下土坑５、床下土坑２・３、南壁２号カマド手前で床下土坑４を確認した。規模は下記の通りである。

床下土坑２は長径66㎝×短径50㎝×深さ19㎝。楕円形。

床下土坑３は長径98㎝×短径82㎝×深さ41㎝。楕円形。

床下土坑４は長径90㎝×短径60㎝×深さ９㎝。楕円形。

床下土坑５は長径84㎝×短径64㎝×深さ39㎝。楕円形。

床面　硬化した面は確認されなかった。北西部で土坑１が確認された。規模は長径100㎝×短径97㎝×深さ24㎝。円形。

貯蔵穴　不明。床面で確認された土坑１があるが、その可能性は否定出来ない。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　南側の調査区壁寄りに須恵器の大形甕の破片が纏まって出土した。土坑１とカマドとの間で１点、

南壁中央で１点の杯が出土した。

カマド　位置　１号カマドは北壁中央で、２号カマドは東壁中央やや南寄りで確認された。

規模　１号カマド　全長1.24m・最大幅1.12m・焚き口幅0.35m　２号カマド　全長0.91m・最大幅0.47m・焚き口幅0.30m

袖　１号カマドは袖有り。左袖は建物壁内に0.71m、右袖は0.81m入る。両袖とも粘土により構築されており、右袖先に円礫が使用されていた。２号カマドは袖無し。廃棄前は使用されていなかったものと考えられる。

煙道　１号カマドは建物壁外に0.50m出る。２号カマドは建物壁外に0.72m出る。

遺存状態　１号カマドは比較的良好。天井は無かった。焚き口手前から燃焼部にかけて広く緩く凹む。燃焼部底面は被熱し焼土化していた。右袖先に円礫が使用されていた。支脚は残っていなかった。燃焼部と煙道部の境目は段になる。掘り方は、やや幅広になるが、両袖が無くなるだけであまり大きな変化はない。２号カマドは不良。袖は無く封鎖されていたので、１号カマドよりも古いものと考えられる。燃焼部底面は被熱し一部焼土化していた。支脚は残っていなかった。掘り方は、あまり大きな変化はない。手前に67㎝×33㎝の焼土が散る範囲が確認された。

遺物出土状態　カマド燃焼部で土師器の甕破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から７世紀第３四半期頃と考えられる。

237号竪穴建物（図255・468、PL.340・532・554）

位置　679～682、-934～-936　**主軸方位**　Ｎ－89°－Ｅ

重複　有り。191号竪穴建物に先行する。

規模　面積(1.93)㎡、長軸(2.85)ｍ×短軸(1.38)ｍ×深さ0.28m

形状　隅丸方形で南北方向に長いか。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、黄褐色粒を少量含み、炭化物粒・焼土粒若干含み、しまりややあり。下層はAs-Cを少量、黄褐色粒若干含み、しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.10m　有り。カマド左手前でＰ１を確認した。規模は長径27㎝×短径25㎝×深さ16㎝。楕円形。

床面　硬化した面は確認されなかった。床面で土坑・ピットは確認されなかった。

貯蔵穴　不明。南東隅では確認できなかったが、調査区外にある可能性は否定できない。

柱穴　不明。カマド手前のＰ１はカマド左袖の下であり、位置的にも柱穴としては適切なものではない。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド周辺と南壁側で須恵器の杯や羽釜の破片が出土した。

カマド　位置　東壁中央南寄りで確認された。

規模　全長(0.88)ｍ・最大幅1.02m・焚き口幅0.41m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.53m、右袖は0.55m入る。

煙道　建物壁外に(0.33)ｍ出る。

遺存状態　比較的良好。天井は無かった。焚き口手前から燃焼部にかけて緩く凹む。両袖とも粘土により構築されており、左袖先に羽釜や杯・甕などの破片が検出されたが、構築材の一部と考えられる。支脚は残っていなかった。燃焼部奥壁には礫が使用されていた。燃焼部と煙道部の境目は段になる。掘り方は、かなり幅広になり、両袖が無くなり、左袖下からＰ１が確認された。

遺物出土状態　カマド左袖から燃焼部にかけて須恵器の羽釜や甕・杯等の破片が出土した。掘り方では燃焼部左側から土器片が３点、右袖下から須恵器の杯が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第3四半期頃と考えられる。

238号竪穴建物（図256・469、PL.341・342・532・554）

位置　669～671、-923～-926　**主軸方位**　Ｎ－88°－Ｗ

重複　有り。20号溝・401号土坑に先行する。

規模　面積(4.73)㎡、長軸(2.77)ｍ×短軸2.65m×深さ0.23m

形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、黄橙色粒少量、炭化物粒若干含み、しまりややあり。下層はAs-Cを少量、黄橙色粒少量、黄褐色土塊若干・焼土粒若干含み、しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.07m　有り。カマド手前で土坑１を確認した。規模は長径52㎝×短径51㎝×深さ20㎝。円形。カマド右手では長径(65)㎝×短径(34)㎝×深さ７㎝の浅い凹みを確認した。

床下土坑１は長径73㎝×短径57㎝×深さ32㎝。楕円形。

床面　建物東側でやや硬化した面を確認した。北東隅でＰ１を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径27㎝×短径23㎝×深さ18㎝。楕円形。

貯蔵穴　不明。掘り方調査時に確認された南東隅の凹みは浅く、位置的には離れているものの、掘り方調査時に確認した床下土坑１がその可能性は否定できない。

柱穴　不明。北東隅のＰ１は、その可能性はある。

周溝　無し。

遺物出土状態　土坑１の東側で大形の円礫と灰釉陶器の破片が、南側では棒状の鉄器片が、カマド右手側で須恵器の羽釜破片がまとまって出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.84m・最大幅0.47m・焚き口幅0.35m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.52m出る。

遺存状態　比較的良好。天井は無かった。焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。燃焼部壁と底面は焼けておりやや赤く変色していた。燃焼部両壁には円礫や角礫が用いられていた。支脚にも円礫が使用されていた。石組みのカマドと考えられる。燃焼部の天井には礫が置かれ、煙道部出口との境をなしていたものと考えられる。掘り方は、かなり幅広になり、燃焼部と煙道部の境目は段になる。燃焼部左壁には長径17㎝×短径13㎝×深さ７㎝の楕円形の凹み、煙道部右手側には長径24㎝×短径13㎝×深さ５㎝の長楕円形の凹みがある。

遺物出土状態　カマド燃焼部及び右手脇には大量の須恵器の羽釜破片が出土した。壁側の小破片はカマドに直接掛かっていたものではなく、構築材の一部として礫と共に使用されていたものと考えられる。掘り方では遺物は出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

240号竪穴建物(図257・470、PL.343・344・532)

位置　661～664､-909～-912　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積(4.03)㎡、長軸(3.32)m×短軸(2.23)m×深さ0.46m

形状　隅丸長方形で南北方向に長いか。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、黄褐色粒多量、黄褐色土塊若干、炭化物粒若干含み、しまりややあり。下層は黄橙色粒少量、As-Cを若干、炭化物粒若干含み、しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。カマド手前以外に床面よりも下がる部分はない。

床面　カマド左前でやや硬化した面を確認した。北西部で土坑１、その東側で土坑２を、北東部で土坑３とＰ１を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑１は長径65㎝×短径63㎝×深さ43㎝。楕円形。貯蔵穴の可能性は否定できない。

土坑２は長径44㎝×短径34㎝×深さ22㎝。楕円形。壁が焼けており内部から焼土塊・粒子が出土しており、何らかの作業のための炉の可能性も否定できない。

土坑３は長径39㎝×短径32㎝×深さ54㎝。楕円形。他のものに比べてかなり深く柱穴の可能性も否定できない。

Ｐ１は長径32㎝×短径27㎝×深さ33㎝。楕円形。北壁際に寄っているが、柱穴の可能性も否定できない。

貯蔵穴　不明。調査区外の南東部に隠れている可能性はあるが、床面調査時に確認された土坑１もその可能性は否定できない。

柱穴　不明。北東部のＰ１は、その可能性は否定できない。

周溝　有り。幅８～13㎝×深さ３㎝で、北東部から北西部まで反時計回りに巡る。北壁を中心とする一部のみである。

遺物出土状態　Ｐ１のかなり上から完形の杯が出土した。土坑３の上から大形の円礫が出土した。北東部で灰釉陶器の破片、カマド右手側で杯の底部や羽釜の破片などが出土した。

カマド　位置　東壁で確認された。

規模　全長(0.67)m・最大幅(0.27)m・焚き口幅(0.10)m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.51m出る。

遺存状態　比較的良好。天井には円礫が南北に並べられ載っていた。燃焼部北壁には円礫が使用されていた。石組みのカマドと考えられる。掘り方は､若干幅広になり、燃焼部と煙道部の境目は段になる。燃焼部左壁には長径17㎝×短径10㎝×深さ２㎝の楕円形の凹みが開く。煙道部下には長径23㎝×短径(８)㎝×深さ48㎝の楕円形の

ピットが開く。カマドにより上部が切られており、建物よりも古いものと考えられる。

遺物出土状態　燃焼部及び煙道部から羽釜の大形破片が出土した。掘り方では煙道部から亜角礫が出土したが、土器類は出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

263号竪穴建物(図258・470、PL.344・532)

位置　681～683､-886～-889　**主軸方位**　Ｎ－66°－Ｗ

重複　無し。

規模　面積(2.91)㎡、長軸(3.39)ｍ×短軸(0.95)ｍ×深さ0.35m

形状　不明。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、黄褐色粒少量、炭化物粒若干含み、しまりあり。下層はAs-C少量、炭化物粒若干、焼土粒若干含み、しまりあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　中央部調査区壁寄りでやや堅くしまった平坦部分が確認された。Ｐ１と土坑１を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑１は長径81㎝×短径62㎝×深さ32㎝。楕円形。須恵器の椀が逆位で出土。

Ｐ１は長径22㎝×短径22㎝×深さ15㎝。円形。土器片出土。

貯蔵穴　不明。調査区外の南東部に隠れている可能性はあるが、床面調査時に確認された土坑１もその可能性は否定できない。

柱穴　不明。北東部のＰ１は、その可能性は否定できない。

周溝　無し。

遺物出土状態　土坑１及びＰ１の周辺から土師器の破片が出土した。土坑１の南東側から杯破片が出土した。

カマド　位置　不明。

規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

２号竪穴状遺構(図258・471)

位置　676～679､-923～-925　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｗ

重複　有り。205号竪穴建物に先行し、352号土坑に後出する。

規模　面積(3.85)㎡、長軸(2.32)ｍ×短軸2.24m×深さ0.17m

形状　東西に長い長方形と想定されるが、東壁がやや不整形。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-C少量、にぶい黄褐色土塊多量に含む。下層はにぶい黄褐色土で、ややしまりあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　全体的に堅くしまった平坦部分が確認された。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　北壁寄りで羽釜の口縁部破片と椀底部破片が出土した。

カマド　位置　不明。

規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　竪穴建物に比べて規模が小さく、不整形のため竪穴状遺構とした。出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

Ｇ５区３面

１　竪穴建物

194号竪穴建物(図259・476、PL.345・346・534)

位置　655～657､-930～-933　**主軸方位**　Ｎ－76°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積5.66㎡、長軸2.66m×短軸2.65m×深さ0.19m

形状　隅丸方形。北東隅は角張るが、南東隅は丸味を持つ。北壁は低い。

埋没土　黒褐色土で、As-C多量、黄褐色粒多量、黄褐色土塊少量､灰白･黄褐色軽石少量含み､しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。建物中央で床下

土坑１、南西隅で床下土坑２、南東隅でＰ１、南壁中央でＰ２を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径97㎝×短径97㎝×深さ17㎝。円形。

床下土坑２は長径98㎝×短径56㎝×深さ14㎝。長楕円形。

Ｐ１は長径32㎝×短径28㎝×深さ18㎝。楕円形。

Ｐ２は長径19㎝×短径27㎝×深さ16㎝。楕円形。

床面　北側1/3はベッド状に一段高くなり、やや硬化していた。南側2/3は一段下がり硬化面も確認できなかった。

貯蔵穴　不明。南東隅のＰ１は小さ過ぎるので可能性はかなり低いと思われるが、やや形は悪いが、南西隅の床下土坑２の可能性も否定できない。

柱穴　不明。北東部のＰ１は、その可能性は否定できない。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド右手の南東隅付近からまとまって円礫と共に土器類も出土した。須恵器の杯やほぼ完形の大形の蓋などが出土した。大形礫は焼けているものであり、カマドで使用されていた可能性がある。

カマド　位置　東壁ほぼ中央で確認された。

規模　全長1.17m・最大幅1.05m・焚き口幅0.41m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.50m出る。

遺存状態　不良。天井は残っていなかった。手前から燃焼部にかけて緩く凹む。燃焼部には焼土が残っていた。焚き口の右側に長径21㎝×短径18㎝×深さ３㎝の円形の凹み、左側に長径17㎝×短径13㎝×深さ３㎝の楕円形の凹みと長径15㎝×短径12㎝×深さ５㎝の凹みが開く。掘り方は、若干幅広になり、焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。

遺物出土状態　焚き口から燃焼部にかけて須恵器の羽釜破片や灰釉陶器の破片等が出土した。掘り方では遺物は出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

195号竪穴建物（図260・476、PL.347・348・534・551・555）

位置　658～661、-929～-933　**主軸方位**　Ｎ－80°－Ｅ

重複　有り。249・253号竪穴建物に後出する。

規模　面積8.41㎡、長軸3.06m×短軸2.80m×深さ0.10m

形状　長方形。四隅ともかなり角張る。東西方向に長い。

埋没土　黒褐色土で、As-C多量、黄褐色粒多量、黄褐色土塊少量、灰白・黄褐色軽石少量含み、しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。カマド手前から南東隅で床下土坑２・３を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑２は長径103㎝×短径75㎝×深さ65㎝。隅丸方形。東側が浅い段になり、西側が深い。中央部で亜角礫が出土した。

床下土坑３は長径125㎝×短径89㎝×深さ14㎝。隅丸長方形。浅い。

床面　床下に土坑がある部分以外では、やや硬化していた。南西隅で土坑１を、その東側でＰ１を確認した。

土坑１は長径90㎝×短径58㎝×深さ49㎝。隅丸長方形。深くしっかりした掘り方であり、貯蔵穴の可能性も考えられる。

Ｐ１は長径30㎝×短径25㎝×深さ19㎝。楕円形。

貯蔵穴　不明。南西隅の土坑１や南東隅の床下土坑２の可能性も否定できない。

柱穴　不明。土坑１の東側のＰ１は、その可能性は低いのではないかと考えられる。

周溝　有り。幅10㎝×深さ３～７㎝で、隅部分を除き北壁と西壁で確認された。

遺物出土状態　全体的に散漫に小破片が出土したが、土坑１の東側からＰ１の南側で須恵器のほぼ完形の椀等が確認された。カマド手前でやや大形の偏平礫が、西側で欠けた大形の礫が出土した。

カマド　位置　東壁ほぼ中央で確認された。

規模　全長0.68m・最大幅0.50m・焚き口幅0.35m

袖　有り。左袖無し。右袖は建物壁内に0.21m入る。

煙道　建物壁外に0.35m出る。

遺存状態　不良。天井は残っていなかった。焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。燃焼部から煙道部には焼土が残っていた。掘り方は、若干幅広になり、焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。燃焼部の右壁に長径29㎝×短径21㎝×深さ６㎝の楕円形の凹み、左壁に長径23㎝×短径16㎝×深さ１㎝の楕円形の凹みが開く。円礫を立てた痕跡か。

遺物出土状態　焚き口から須恵器の羽釜口縁部破片が１

点出土した。掘り方では遺物は出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

196号竪穴建物（図261・476、PL.349・350・534）

位置　655～659、-923～-927　**主軸方位**　Ｎ－79°－Ｗ

重複　有り。204号竪穴建物に先行し、411・412号土坑に後出する。

規模　面積(8.24)㎡、長軸3.78m×短軸3.34m×深さ0.04m

形状　隅丸長方形。東西方向に長い。

埋没土　黒褐色土で、焼土粒少量、にぶい黄橙色粒少量、しまり強く粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.15m　有り。床下は深い。北壁中央で床下土坑２を、南東部で床下土坑１確認した。規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径65㎝×短径60㎝×深さ80㎝。楕円形。底部は袋状に膨らむ。

床下土坑２は長径90㎝×短径68㎝×深さ20㎝。楕円形。杯の底部や甕の破片が出土した。

床面　床下に土坑がある部分が多く、硬化面は確認できなかった。

貯蔵穴　不明。南東部の床下土坑１の可能性も否定できない。しっかりした掘り方であるが、この時期の通常の貯蔵穴よりもかなり深く断面形状も違いが認められる。土坑２は浅く上位から遺物は出土しているが、浅い。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　建物東半部から散漫に須恵器の椀・杯や甕等の破片が出土した。

カマド　位置　東壁中央やや北寄りで確認された。

規模　全長0.90m・最大幅0.73m・焚き口幅0.65m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.56m出る。

遺存状態　不良。天井は残っていなかった。焚き口から燃焼部にかけて焼土８㎝程残っていた。掘り方は、若干幅広になる。円礫を据えたような凹みは確認できなかった。

遺物出土状態　焚き口から燃焼部で須恵器の甕口縁部破片や椀の底部が出土した。掘り方では遺物は出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

197号竪穴建物（図262・263・477、PL.351・352・534・551・555）

位置　648～652、-922～-926　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｗ

重複　有り。198・199・243号竪穴建物に後出する。

規模　面積14.86㎡、長軸4.24m×短軸4.00m×深さ0.28m

形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、中心はにぶい黄橙粒少量、ローム塊を含み、しまり粘性共にあり。壁に近い周辺はAs-Cを多量、ローム粒を含み、しまり粘性共にあり。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。南西部で床下土坑４を、建物中央でＰ１、北西部壁寄りでＰ３、北東隅近くでＰ４・Ｐ５を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑４は長径145㎝×短径128㎝×深さ40㎝。楕円形。南北に長く、規模が大きい。多くの小形杯の底部や甕の破片などが出土した。その北西側に重複する形で243号竪穴建物の長径65㎝×短径60㎝×深さ20㎝の隅丸方形の焼土部分がある。

Ｐ１は長径59㎝×短径53㎝×深さ39㎝。楕円形。南側が深い。

Ｐ３は長径22㎝×短径20㎝×深さ13㎝。円形。

Ｐ４は長径42㎝×短径40㎝×深さ22㎝。円形。

Ｐ５は長径22㎝×短径19㎝×深さ15㎝。円形。

床面　床下に土坑がある部分以外でやや硬化した面が確認された。北西部で土坑１、北東部で土坑２、南東部で土坑３を、カマド手前でＰ２を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑１は長径70㎝×短径65㎝×深さ50㎝。隅丸方形。小破片出土。

土坑２は長径64㎝×短径61㎝×深さ23㎝。円形。上面から内黒の皿出土。

土坑３は長径73㎝×短径65㎝×深さ30㎝。楕円形。高台付椀出土。

Ｐ２は長径33㎝×短径29㎝×深さ10㎝。楕円形。羽釜口縁部破片出土。

貯蔵穴　不明。南東部の土坑３は可能性が高いと思われるが、ほぼ同規模の土坑１・土坑２もその可能性は否定できない。

柱穴　不明。床面や掘り方調査で確認されたＰ１～Ｐ５はその可能性がある。

周溝　有り。幅７～17㎝×深さ１～７㎝で北東隅から北壁中央西寄り、北西隅と中央南寄りを除く西壁、南東隅を除く東壁カマド右手前まで巡る。

遺物出土状態　ほぼ全体から多量の須恵器の羽釜・甕や椀・杯等の破片が出土した。

カマド　位置　東壁ほぼ中央で確認された。

規模　全長(0.75)ｍ・最大幅(0.75)ｍ・焚き口幅0.48m

袖　無し。

煙道　建物壁外に(0.25)ｍ出る。

遺存状態　不良。天井は残っていなかった。焚き口から燃焼部にかけてやや凹む。煙道部は試掘トレンチで切られ残っていなかった。掘り方は、若干幅広になり、凹みは燃焼部のみで煙道部までは延びない。円礫を据えたような凹みは確認できなかった。

遺物出土状態　焚き口で須恵器の杯破片が出土した。掘り方では遺物は出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

198号竪穴建物(図264・478、PL.353)

位置　649～653､-921～-925　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｗ

重複　有り。197号竪穴建物に先行する。

規模　面積(4.54)㎡、長軸(3.93)ｍ×短軸(3.04)ｍ×深さ0.18m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　にぶい黄褐色土で、中心はAs-Cを多量、ローム小塊を含み、しまり粘性共にあり。壁に近い周辺は、ローム小塊主体、しまり粘性共にあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　北東部のＰ１がある部分以外でやや硬化した面が確認された。Ｐ１は長径53㎝×短径45㎝×深さ30㎝。楕円形。

貯蔵穴　不明。北東隅のＰ１は可能性が高いと思われるが、南東隅にある可能性も否定できない。

柱穴　不明。

周溝　有り。幅７～13㎝×深さ３㎝で北東隅と南西隅を除く北壁に巡る。

遺物出土状態　197号竪穴建物に近い部分から須恵器の羽釜・甕の破片や椀などが出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長(0.75)ｍ・最大幅(0.58)ｍ・焚き口幅(0.37)ｍ

袖　無し。

煙道　建物壁外に(0.49)ｍ出る。

遺存状態　不良。天井は残っていなかった。焚き口から燃焼部の一部は試掘トレンチで切られ残っていなかった。掘り方は、若干幅広になり、焚き口から燃焼部は緩く凹む。円礫を据えたような凹みは確認できなかった。

遺物出土状態　煙道部で須恵器の羽釜または甕の胴部破片が出土した。掘り方では遺物は出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

199号竪穴建物(図265・478、PL.354･355・534・551・555)

位置　645～650､-922～-926　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｗ

重複　有り。451号土坑・P248・197･245号竪穴建物に先行する。

規模　面積(16.02)㎡、長軸(4.54)ｍ×短軸(3.95)ｍ×深さ0.20m

形状　隅丸長方形。南北方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層は焼土粒少量、にぶい黄橙色粒少量、しまり弱く、粘性あり。下層は、灰白色粒少量、焼土粒少量、しまりややあり、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　硬化した面は確認されなかった。土坑１はカマド右脇で確認された。貯蔵穴の可能性あり。その規模は、長径76㎝×短径65㎝×深さ16㎝。楕円形。

貯蔵穴　不明。カマド右脇で確認された土坑１は規模的にも位置的にもその可能性が高いと考えられる。

柱穴　不明。掘り方調査時にカマド焚き口手前でＰ１が確認されたがカマドの使用面よりも下であり、建物の柱穴に該当するものではない。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド及びその周辺を除けば西側から甕類の小破片や椀の破片、鉄滓等が多量に出土した。いずれも床面よりやや高い位置からのものが多かった。

カマド　位置　東壁ほぼ中央で確認された。

規模　全長1.05m・最大幅1.05m・焚き口幅0.85m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.66m出る。

遺存状態　不良。天井は残っていなかった。焚き口から燃焼部にかけて底面は焼けて焼土化していた。支脚は残っていなかった。掘り方は、若干幅広になり、焚き口から燃焼部は緩く凹む。焚き口手前に長径47㎝×短径36㎝×深さ16㎝のＰ１が確認された。

遺物出土状態　焚き口から燃焼部で須恵器の椀の破片や礫などが出土したが、壁に入り込んでいる破片もあり、構築材として使用されていたものもあると考えられる。掘り方では遺物は出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

200号竪穴建物（図266・479、PL.356・357・534・551）

位置　650～654、-929～-933　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｅ

重複　有り。255号竪穴建物に後出する。

規模　面積9.46㎡、長軸3.61m×短軸2.90m×深さ0.18m

形状　隅丸長方形。南北方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C少量、ローム小塊少量、しまり粘性共にあり。下層は、ローム小～大塊、にぶい黄褐色土塊含み、しまり粘性共にあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。貼り床は無かったが、カマド手前でＰ１、西側で床下土坑１、北東部で床下土坑２を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径36㎝×短径35㎝×深さ6㎝。楕円形。

床下土坑１は長径105㎝×短径98㎝×深さ41㎝。楕円形。東側が深い。

床下土坑２は長径75㎝×短径54㎝×深さ11㎝。楕円形。

床面　硬化した面は確認されなかった。土坑・ピットも確認されなかった。

貯蔵穴　不明。掘り方調査時に床下土坑１と同２を確認したが、その可能性は否定できない。

柱穴　不明。掘り方調査時にカマド左手前でＰ１が確認されたがかなり浅く、建物の柱穴に該当するものではない。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド手前で被熱した大形礫や須恵器の椀が、西側では円礫と礫破片が出土した。北東部で灰釉陶器の椀破片が出土した。

カマド　位置　東壁やや南寄りで確認された。

規模　全長0.83m・最大幅0.72m・焚き口幅0.50m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.77m出る。

遺存状態　不良。天井は残っていなかった。支脚には細長い円礫が用いられていた。燃焼部の左右両側に円礫が用いられていた。掘り方は、若干幅広になり、焚き口から燃焼部は緩く凹む。燃焼部北壁に長径22㎝×短径15㎝、南壁に長径16㎝×短径10㎝の凹みが確認された。焚き口手前で掘り方調査時にＰ１が確認された。

遺物出土状態　焚き口から燃焼部で須恵器の甕破片が、北壁上場に椀破片が出土した。掘り方では遺物は出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

201号竪穴建物（図267・480、PL.358・359・534・535・551）

位置　640～633、-922～-925　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｅ

重複　有り。202号竪穴建物に先行し、241・245号竪穴建物に後出する。

規模　面積（5.51）㎡、長軸2.92m×短軸2.45m×深さ0.20m

形状　隅丸長方形。南北方向に若干長い。南東隅は角張る。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、灰白色軽石少量、しまりはやや弱く、粘性あり。周辺部は、As-C少量やローム小塊含み、しまり粘性共にあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。貼り床は無かったが、カマド手前でＰ３とＰ４を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

Ｐ３は長径38㎝×短径32㎝×深さ21㎝。楕円形。

Ｐ４は長径45㎝×短径40㎝×深さ14㎝。楕円形。礫を設置するためのもので浅い。

床面　土坑・ピット以外の部分ではやや硬化した面を確認した。北東隅で土坑１、西側で土坑２、北西隅付近でＰ１とＰ２を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑１は長径47㎝×短径45㎝×深さ30㎝。円形。

土坑２は長径97㎝×短径80㎝×深さ22㎝。楕円形。

Ｐ１は長径34㎝×短径25㎝×深さ８㎝。楕円形。

Ｐ２は長径24㎝×短径20㎝×深さ14㎝。円形。

貯蔵穴　不明。北東隅の土坑１がその可能性がある。

柱穴　不明。床面のＰ２及び掘り方調査時にカマド左手前で確認されたＰ３がやや深さがあるが、カマド左前の大形礫を設置するためのＰ４も柱穴の可能性は否定できない。

周溝　無し。

遺物出土状態　ほぼ全体的に散漫に須恵器の椀や甕等の破片や礫・礫片が出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長1.07m・最大幅0.81m・焚き口幅0.66m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.60m出る。

遺存状態　やや不良。天井は残っていなかった。支脚には礫が重ねられて用いられていた。燃焼部の左右両側に円礫が用いられていた。焚き口から燃焼部にかけて焼土が残存していた。掘り方は、かなり幅広になり、焚き口から燃焼部は緩く凹む。

遺物出土状態　燃焼部北壁で須恵器の完形杯が、中央で椀破片が出土した。掘り方では燃焼部で杯の底部破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期～11世紀初頭と考えられる。

202号竪穴建物(図268・481、PL.360・361・535)

位置　639～643､-925～-927　**主軸方位**　Ｎ－53°－Ｅ

重複　有り。201・241号竪穴建物に後出する。227号竪穴建物との新旧関係は不明。

規模　面積(5.86)㎡、長軸2.65m×短軸2.65m×深さ0.14m

形状　隅丸長方形。南北方向に若干長い。南東隅は角張る。

埋没土　不明。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。土坑・ピットは確認できなかった。

床面　硬化面は確認できなかった。土坑・ピットも確認できなかった。

貯蔵穴　不明。該当するものは確認できなかった。

柱穴　不明。該当するものは確認できなかった。

周溝　無し。

遺物出土状態　南壁上場で黒笹14号窯式期の灰釉陶器の耳皿が逆位の状態で、東壁南東隅寄り上場付近で須恵器の小形杯が出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長0.73m・最大幅0.42m・焚き口幅0.25m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.63m出る。

遺存状態　不良。下部が極わずかに残っていた。周りに散乱していた亜角礫がカマドのものと考えられる。掘り方は、かなり幅広になり、焚き口から燃焼部は緩く凹む。

遺物出土状態　煙道部北壁で小破片が出土した。煙道部から亜角礫、その周りからも多くの礫が出土したが、カマドの構築材として使用されていたものと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。９世紀第３四半期の遺物は混入品か。

204号竪穴建物(図269・481・482、PL.362～364・535・555)

位置　656～658、-925～-929　**主軸方位**　Ｎ－77°－Ｗ

重複　有り。196号竪穴建物に後出する。

規模　面積6.45㎡、長軸2.93m×短軸2.85m×深さ0.23m

形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。北西隅と南西隅は丸味を持つ。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-Cを多量、As-YPやや多く、橙色粒少量、焼土粒少量、ローム小塊・粒少量、炭化物少量含み、しまりややあり。壁周辺はロームと焼土粒がやや多く含み、しまりはややあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。東壁中央でＰ１、南東隅でＰ２、建物中央で床下土坑１、カマド左前で床下土坑２を確認した。Ｐ２は貯蔵穴の可能性あり。それぞれの規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径27㎝×短径23㎝×深さ39㎝。円形。

Ｐ２は長径67㎝×短径36㎝×深さ9㎝。楕円形。

床下土坑１は長径81㎝×短径75㎝×深さ61㎝。楕円形。円礫と甕破片出土。

床下土坑２は長径73㎝×短径63㎝×深さ17㎝。楕円形。

床面　床下土坑・ピット以外の部分では硬化した面が確認された。

貯蔵穴　不明。Ｐ２はカマド右脇に位置し、貯蔵穴の可能性がある。

柱穴　不明。東壁中央で確認されたＰ１がその可能性がある。

周溝　無し。

遺物出土状態　北壁中央やや東寄りで金銅製小神像、そ

の隣で砥石が出土した。神像は背を上にして顔を下に向けた俯せに近い状態で確認された。西壁で須恵器の椀もしくは杯が、東壁カマド北側で大形甕の胴部下半が出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認された。

規模　全長1.28m・最大幅1.18m・焚き口幅0.46m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.39m、右袖は0.44m入る。

煙道　建物壁外に0.74m出る。

遺存状態　不良。礫が多く確認されたが、本来の位置から動いているものと考えられる。焚き口から燃焼部にかけて焼土が確認された。焚き口から燃焼部は緩く凹む。掘り方は、かなり幅広になり、ピットなどの凹みは確認されなかった。

遺物出土状態　煙道部北壁で須恵器椀の破片が、燃焼部で甕破片が出土した。両袖から煙道部まで多くの亜角礫や円礫が出土したが、カマドの構築材として使用されていたものと考えられる。

備考　所属時期　小形の杯や金銅製小神像などの出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

209号竪穴建物（図270・482、PL.365・535・555）

位置　658～661、-909～-912　**主軸方位**　Ｎ－1°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積(5.90)㎡、長軸(3.07)ｍ×短軸(2.93)ｍ×深さ0.20m

形状　隅丸方形で南北方向に若干長いか。北東部分が調査区外、南西部分は削平され残存していない。

埋没土　全体に暗褐色土で、As-Cを多量、ローム小塊少量、炭化物少量含み、しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.04m　有り。西壁付近で床下土坑１を確認した。その規模は長径82㎝×短径68㎝×深さ11㎝。楕円形。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。

貯蔵穴　不明。掘り方調査時に確認された床下土坑１があるが、調査区外の北東部にある可能性は考えられる。

柱穴　不明。

周溝　無し。

遺物出土状態　西半部で須恵器の椀や甕破片等が出土した。

カマド　位置　不明。

規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

210号竪穴建物（図270、PL.365）

位置　654～657、-905～-907　**主軸方位**　Ｎ－3°－Ｗ

重複　有り。375号土坑に先行する。

規模　面積(2.82)㎡、長軸(2.56)ｍ×短軸(1.85)ｍ×深さ(0.30)ｍ

形状　隅丸長方形で南北方向に長いか。南側が調査区外であり不明。

埋没土　全体に黒色～黒褐色土で、上層はローム小塊・粒を多く、As-Cわずか、焼土粒わずかに含み、しまりあまり無し。下層は、As-YP多量、ローム塊多く、炭化物わずかに含み、しまりあまり無し。

掘り方　底面からの深さ0.13m　有り。375号土坑重複付近で床下土坑１を確認した。その規模は長径(86)㎝×短径(38)㎝×深さ13㎝。楕円形。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。中央部でＰ１が確認された。その規模は長径35㎝×短径30㎝×深さ35㎝。楕円形。

貯蔵穴　不明。掘り方調査時に確認された床下土坑１があるが、調査区外の北東部にある可能性は否定できない。

柱穴　不明。

周溝　無し。

遺物出土状態　北半部で土師器小破片と円礫が出土した。

カマド　位置　不明。カマドを有しない可能性もある。

規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から時期判定はできなかった。

215号竪穴建物（図271、PL.366）

位置　651～654、-912～-915　**主軸方位**　Ｎ－8°－Ｗ

重複　無し。

規模　面積(4.01)㎡、長軸(2.65)ｍ×短軸(2.19)ｍ×深さ(0.06)ｍ

形状　隅丸長方形か。南北方向に若干長いが東側が削平され不明。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多く、炭化物わずかに含み、しまりややあり。下層は、As-C少量、ローム塊少量、硬くしまっている。

掘り方　底面からの深さ0.08ｍ　有り。多少の凹凸はあるものの、床下土坑等は確認されなかった。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。

貯蔵穴　不明。削平された南東部に存在した可能性は否定できない。

柱穴　有り。北側で３基、南側で２基、中央西寄りで１基の計６基確認されたが、いずれも浅い。

Ｐ１は長径29㎝×短径20㎝×深さ24㎝。楕円形。

Ｐ２は長径20㎝×短径16㎝×深さ16㎝。円形。

Ｐ３は長径22㎝×短径20㎝×深さ15㎝。円形。

Ｐ４は長径28㎝×短径26㎝×深さ11㎝。隅丸三角形。

Ｐ５は長径41㎝×短径30㎝×深さ16㎝。楕円形。

Ｐ６は長径29㎝×短径28㎝×深さ９㎝。不定形。

周溝　有り。幅７～17㎝×深さ２～６㎝で、北壁から西壁まで反時計回りに巡る。削平されていた東壁や南壁も巡っていた可能性がある。

遺物出土状態　遺構そのものの遺存状態も悪く、遺物はほとんど出土しなかった。

カマド　位置　不明。東壁か。

規模　全長不明ｍ・最大幅不明ｍ・焚き口幅不明ｍ

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から時期判定はできなかった。

221号竪穴建物(図271・272・483、PL.367・368・535・551・555)

位置　641～644、-930～-934　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｗ

重複　有り。321号土坑に先行し、222・226・254号竪穴建物に後出する。395号土坑との関係は不明。

規模　面積10.19㎡、長軸3.75ｍ×短軸3.50ｍ×深さ0.45ｍ

形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、しまり強く、粘性あり。南壁側は、As-C少量、ローム小塊少量、しまり弱く、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.06ｍ　有り。建物中央で床下土坑１、カマド手前で床下土坑２が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径49㎝×短径47㎝×深さ6㎝。楕円形。

床下土坑２は長径56㎝×短径54㎝×深さ10㎝。楕円形。

床面　土坑・ピット以外の部分ではやや硬化した面が確認された。南西隅でＰ１・Ｐ２が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径46㎝×短径44㎝×深さ46㎝。円形。

Ｐ２は長径42㎝×短径(23)㎝×深さ19㎝。楕円形。

貯蔵穴　不明。南西隅で確認したＰ１がその可能性はある。

柱穴　不明。Ｐ１以外土坑・ピット類はいずれも浅く、相当するものはない。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド以外では北東部から円礫や須恵器の杯・甕・羽釜の胴部破片等が、南西部から南壁手前で灰釉陶器の椀破片等が出土した。

カマド　位置　東壁南東隅寄りで確認された。

規模　全長0.71ｍ・最大幅0.86ｍ・焚き口幅0.45ｍ

袖　有り。左袖は建物壁内に0.37ｍ、右袖は0.20ｍ入る。袖には礫は使用されていなかった。

煙道　建物壁外に0.35ｍ出る。

遺存状態　不良。礫が多く確認されたが、本来の位置から動いているものと考えられる。燃焼部壁には円礫が使用されていた。支脚には円礫が使用されていた。掘り方は、幅広になり、焚き口手前から燃焼部にかけて緩く凹む。燃焼部左側に長径18㎝×短径11㎝×深さ９㎝、右側に長径18㎝×短径11㎝×深さ５㎝の凹みがあり、円礫を設置した痕跡か。

遺物出土状態　燃焼部で円礫と共に須恵器の甕もしくは羽釜の胴部破片が、左袖脇で灰釉陶器の底部高台破片が出土した。燃焼部を中心に多くの亜角礫や円礫が出土したが、カマドの構築材として使用されていたものと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から11世紀初頭頃と考えられ

る。８世紀・９世紀代の遺物は混入品か。

222号竪穴建物（図272・273・483・484、PL.369・370・535・536・556）

位置　638～641、-928～-931　**主軸方位**　Ｎ－68°－Ｗ

重複　有り。221号竪穴建物に先行し、227号竪穴建物に後出する。

規模　面積7.01㎡、長軸3.00m×短軸3.00m×深さ0.31m

形状　隅丸方形。

埋没土　全体に黒褐色～暗褐色土で、As-Cやや多く、ローム塊を少量、As-Cやや多く、炭化物少量含む。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。カマド手前で床下土坑１を確認した。その規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径70㎝×短径61㎝×深さ21㎝。楕円形。北側が深い。

床面　土坑・ピット以外の部分ではやや硬化した面が確認された。南西部でＰ１が確認された。その規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径47㎝×短径38㎝×深さ38㎝。楕円形。

貯蔵穴　不明。南西隅で確認したＰ１がその可能性はある。

柱穴　不明。Ｐ１以外土坑・ピット類はいずれも浅く、相当するものはない。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド以外では北壁東寄りから須恵器の小形杯、東壁寄り中央から杯が出土した。大形の礫や杯が北西部周辺から出土した。北西部からは他に鋳造の金銅製経筒の蓋が内面を上、外面を下に向けて逆位で出土した。高さは比較的床に近い低い位置からであった。

カマド　位置　東壁南東隅寄りで確認された。

規模　全長1.03m・最大幅0.70m・焚き口幅0.38m

袖　有り。左袖無し。右袖は建物壁内に0.39m入る。右袖には礫が使用されていた。

煙道　建物壁外に0.70m出る。

遺存状態　不良。焚き口の両側で礫が確認された。焚き口部分に焼土が確認された。燃焼部と煙道部の境目の両側にやや大形の礫片が使用されていた。掘り方は、かなり幅広になり、焚き口手前から燃焼部にかけて緩く凹む。礫を設置した凹みはない。

遺物出土状態　焚き口及び燃焼部で鉢の破片がわずかに出土した。

備考　所属時期　出土土器などから11世紀初頭頃と考えられる。県内では中世になると経筒の発見例は増えるが、平安時代のものは少なく、県内２遺跡目の報告事例であり、注目されるべきものである。本例は12世紀代のものと考えられ、竪穴建物の時期より１世紀ほど新しくなる。経筒の蓋が入れられた別の土坑・ピットが掘り込まれていた可能性も否定できない。

223号竪穴建物（図273・484、PL.371・536）

位置　649～652、-937～-938　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｅ

重複　有り。Ｐ234・34号溝に先行する。

規模　面積(9.32)㎡、長軸3.95m×短軸(3.10)m×深さ0.14m

形状　隅丸方形。

埋没土　全体に黒褐色土で、As-C多量、黄褐色粒少量、炭化物粒若干含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　硬化した面は確認されなかった。南東部で土坑１、建物中央やや北で土坑２、カマド手前でＰ１が確認された。建物中央土坑２の周りで粘土が貼られた長径95㎝×60㎝の範囲が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑１は長径132㎝×短径116㎝×深さ25㎝。楕円形。やや不整形。高台付椀や甕等の破片出土。

土坑２は長径(39)㎝×短径39㎝×深さ13㎝。楕円形。トレンチに切られる。

Ｐ１は長径32㎝×短径28㎝×深さ41㎝。楕円形。深い。高台付椀破片出土。

貯蔵穴　不明。南西隅で確認した土坑１はやや大きいがその可能性は否定できない。

柱穴　不明。カマド手前で確認されたＰ１は深く、その可能性は否定できない。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド以外は土坑・ピットからであり、中央粘土部分から須恵器の杯底部破片が１点出土した。

カマド　位置　東壁中央で確認された。。

規模　全長(0.50)m・最大幅(0.96)m・焚き口幅(0.50)m

袖　不明。トレンチで切られている。

煙道　建物壁外に0.50m出る。

遺存状態　不良。燃焼部左壁は焼土化しており、円礫が

立てられていた。煙道部右奥壁にも円礫が使用されていた。
遺物出土状態　燃焼部左壁焼土部分で須恵器の杯破片が１点出土した。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。７世紀後半～８世紀前半の須恵器高盤は混入品か。

226号竪穴建物(図274・485、PL.372・536・555)
位置　644～648､-929～-934　**主軸方位**　Ｎ－41°－Ｅ
重複　有り。221号竪穴建物に先行し、254・259号竪穴建物に後出する。
規模　面積(8.57)㎡、長軸3.55m×短軸3.00m×深さ0.30m
形状　隅丸方形。南北方向に長い。北西隅が角張る。
埋没土　全体に黒褐色土で､As-C少量､ローム小塊少量､明褐色粒少量含み、しまり粘性共にあり。周辺の壁際はAs-C微量、ローム粒少量含み、しまり粘性共にあり。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　硬化した面は確認されなかった｡確認された土坑･ピットは無い。
貯蔵穴　不明。該当するものは確認できなかった。
柱穴　不明。該当するものは確認できなかった。
周溝　無し。
遺物出土状態　中央部やや北から灰釉陶器の皿・須恵器の杯破片、高台付椀等が出土した。259号竪穴建物と重複する部分からも比較的多くの杯や椀等の破片が出土した。
カマド　位置　南壁東寄りで確認された。
規模　全長0.66m・最大幅(0.65)m・焚き口幅(0.58)m
袖　無し。
煙道　建物壁外に0.67m出る。
遺存状態　不良。燃焼部左壁から煙道部にかけて円礫が一定間隔に立てられていた。支脚には途中で打ち欠いた円礫が使用されていた。掘り方はかなり幅広になり、焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。
遺物出土状態　燃焼部で須恵器の椀や羽釜破片等が多く出土した。掘り方でも奥壁手前で礫と共に完形の椀が出土した。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

227号竪穴建物(図275・276・486、PL.373・374・536・551)
位置　640～644､-926～-930　**主軸方位**　Ｎ－55°－Ｅ
重複　有り。452号土坑・202・222号竪穴建物に先行し、245・254号竪穴建物に後出する。
規模　面積(12.57)㎡、長軸4.07m×短軸3.80m×深さ0.35m
形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。
埋没土　上層は黒褐色土で、As-C、ローム大塊、同小塊を含み、粘性あり。しまりは弱い部分とそうでない部分あり。下層は灰黄褐色土でローム中塊、灰白色粒少量含み、しまり弱く粘性あり。
掘り方　底面からの深さ0.09m　有り。カマド手前で床下土坑１、その北側で床下土坑２が、南壁寄り東側でＰ３、その西側でＰ４が確認された。床下土坑はいずれも浅い。ピットは入口の梯子の痕跡か。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径135㎝×短径120㎝×深さ９㎝。楕円形。

床下土坑２は長径117㎝×短径98㎝×深さ11㎝。楕円形。

Ｐ３は長径28㎝×短径25㎝×深さ37㎝。円形。

Ｐ４は長径30㎝×短径29㎝×深さ30㎝。円形。
床面　硬化した面は確認されなかった。やや南東隅寄りでＰ１、その西側でＰ２を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径53㎝×短径48㎝×深さ46㎝。円形。

Ｐ２は長径32㎝×短径31㎝×深さ12㎝。円形。
貯蔵穴　不明。位置的にはややズレてはいるが、Ｐ１がその可能性はあると思われる。
柱穴　不明。Ｐ３・４は南壁寄り手前で２つが並んでいるが、建物そのものの柱穴とは考えにくいものであり、他に該当するものは確認できなかった。
周溝　有り。幅15㎝×深さ２～７㎝で、北西隅から反時計回りに南東隅まで巡る。
遺物出土状態　須恵器の羽釜破片や椀の底部等が数点出土した。
カマド　位置　東壁南寄りで確認された。
規模　全長0.52m・最大幅0.42m・焚き口幅0.35m
袖　左袖無し。右袖は建物壁内に0.11m入る。
煙道　建物壁外に0.36m出る。
遺存状態　不良。焚き口に20㎝×18㎝の焼土範囲が確認された。掘り方は手前に細長く延びる形になり、焚き口

から燃焼部にかけて緩く凹む。

遺物出土状態　掘り方調査時に極小破片がわずかに出土した。

備考　所属時期　出土遺物から９世紀第３四半期頃と考えられる。須恵器羽釜は混入品か。

241号竪穴建物（図276～278・486・487、PL.375～378・536・537・551・555）

位置　634～641、-921～-928　**主軸方位**　Ｎ－55°－Ｗ

重複　有り。373号土坑・202・202号竪穴建物に先行する。

規模　面積22.05㎡、長軸5.27ｍ×短軸4.65ｍ×深さ0.56ｍ

形状　正方形。東西方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-Cを多量に含み、しまり・粘性あり。上層中心部はAs-C少量含み、しまりは弱い。下層はロームブ大塊多量に含み、しまり粘性共にあり。床直上はにぶい黄褐色土でAs-YP及びローム小塊・同粒を多量に含み、しまりややあり、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.08ｍ　有り。南壁から西壁南半にかけて凹む。建物中央東から床下土坑１、床下土坑２、床下土坑３、その北側で床下土坑４、その西側で床下土坑５が確認された。床下土坑４と５の間でＰ５が、西壁でＰ６が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径116㎝×短径103㎝×深さ36㎝。楕円形。

床下土坑２は長径113㎝×短径95㎝×深さ47㎝。楕円形。

床下土坑３は長径118㎝×短径82㎝×深さ50㎝。楕円形。

床下土坑４は長径(80)㎝×短径82㎝×深さ39㎝。楕円形。

床下土坑５は長径171㎝×短径84㎝×深さ46㎝。楕円形。

Ｐ５は長径20㎝×短径19㎝×深さ15㎝。円形。

Ｐ６は長径28㎝×短径25㎝×深さ20㎝。楕円形。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。カマド右手側北東隅で土坑１を確認したが、貯蔵穴と考えられる。Ｐ１～４、計４本のピットを確認したが、柱穴と考えられる。

貯蔵穴　有り。土坑１が相当するものと考えられる。規模は長径89㎝×短径70㎝×深さ47㎝。楕円形。甕破片・杯出土。

柱穴　有り。４本の柱穴が確認された。

Ｐ１は長径50㎝×短径46㎝×深さ36㎝。円形。

Ｐ２は長径55㎝×短径47㎝×深さ27㎝。円形。

Ｐ３は長径50㎝×短径40㎝×深さ50㎝。円形。

Ｐ４は長径59㎝×短径54㎝×深さ39㎝。円形。

周溝　有り。幅８～18㎝×深さ１～７㎝で、左袖から右袖まで反時計回りにほぼ一周巡る。

遺物出土状態　土師器の甕や杯の破片が全体から散漫に出土した。床面よりもかなり高いものが多かった。カマド及び土坑１周辺での遺物が多く、カマド前では砥石が出土した。

カマド　位置　北壁中央やや東寄りで確認された。

規模　全長1.39ｍ・最大幅1.17ｍ・焚き口幅0.40ｍ

袖　有り。左袖は建物壁内に0.78ｍ入り、右袖は0.65ｍ入る。袖には礫は使用されていない。

煙道　建物壁外に0.34ｍ出る。

遺存状態　やや良。焚き口から燃焼部にかけてほぼ全体に焼土が確認された。燃焼部と煙道部の境目は段になる。支脚は確認されなかった。カマドの右袖脇には59㎝×55㎝の灰が散る範囲が確認された。掘り方は幅広になり、焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。

遺物出土状態　有り。左袖前で土師器の甕破片がまとまって、手前からは砥石が、燃焼部からは甕の破片が出土した。掘り方では２点の小破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から７世紀後半頃と考えられる。９世紀後半～11世紀初頭の遺物は混入品か。

242号竪穴建物（図279・487、PL.379・536・551）

位置　646～649、-943～-945　**主軸方位**　Ｎ－78°－Ｗ

重複　有り。33号溝に先行する。

規模　面積(5.24)㎡、長軸2.85ｍ×短軸2.20ｍ×深さ0.13ｍ

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-Cを少量、炭化物と焼土粒微量含み、しまり・粘性あり。下層はAs-C多量、ロームブ小塊少量含み、しまり・粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00ｍ　無し。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。土坑・ピット類は検出されなかった。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅12㎝×深さ３㎝で、北西隅から西壁中央まで反時計回りに一部確認した。

遺物出土状態　建物東側で大形円礫が、西半で須恵器の羽釜の破片等が出土した。

カマド　位置　東壁ほぼ中央で確認された。

規模　全長(0.34)ｍ・最大幅(0.30)ｍ・焚き口幅(0.35)ｍ

袖　不明。

煙道　建物壁外に0.31ｍ出る。

遺存状態　不良。燃焼部から煙道部にかけてほぼ全体に薄く焼土が確認された。支脚は確認されなかった。

遺物出土状態　カマド手前で２点の小破片が出土した。掘り方では何も出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

243号竪穴建物(図279・487、PL.380・551・556)

位置　649～653､-926～-928　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｅ

重複　有り。476号土坑に先行する。197・199号竪穴建物との関係は不明。

規模　面積(4.23)㎡、長軸3.60ｍ×短軸(2.04)ｍ×深さ0.30m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　上層は黒褐色土で､As-Cを多量､炭化物を含み､しまり・粘性あり。下層は灰黄褐色土で、ロームブ小塊少量、炭化物含み、しまり・粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00ｍ　無し。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。西壁手前でＰ１、その北東でＰ２、北壁手前でＰ３が確認された。

Ｐ１は長径52㎝×短径49㎝×深さ41㎝。円形。

Ｐ２は長径72㎝×短径61㎝×深さ17㎝。楕円形。

Ｐ３は長径65㎝×短径56㎝×深さ９㎝。楕円形。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅７～16㎝×深さ１～14㎝で、北壁中央から南壁まで反時計回りに巡る。一部北西隅で切れる。

遺物出土状態　476号土坑と共に鉄滓が出ており、関連性はあるものと思われる。Ｐ２の西側から西壁の間で須恵器の椀破片等が出土した。

カマド　位置　南東隅で確認された。

規模　全長(0.53)ｍ・最大幅(0.58)ｍ・焚き口幅(0.35)ｍ

袖　不明。

煙道　建物壁外に0.23m出る。

遺存状態　不良。197号竪穴建物壁内で焼土部分が確認された。支脚は確認されなかった。掘り方では浅い凹みが確認された。カマドではなく工房の炉の可能性も考えられる。

遺物出土状態　無し。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀末～11世紀初頭頃と考えられる。

244号竪穴建物(図280・488、PL.381・536・551・556)

位置　639～643､-918～-922　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｅ

重複　有り。201号竪穴建物に先行し、248号竪穴建物に後出する。

規模　面積(11.80)㎡、長軸4.45ｍ×短軸3.35ｍ×深さ0.23m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　上層は黒褐色土で、ローム小塊少量、にぶい黄橙色粒少量含み､しまり･粘性あり。下層は灰黄褐色土で、ローム粒多量、ローム小塊少量含み、しまり･粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00ｍ　有り。南西隅で床下土坑１、その東側で床下土坑２、西壁手前で床下土坑３、北東部で床下土坑４、床下土坑３と床下土坑４の間で床下土坑５が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径80㎝×短径67㎝×深さ43㎝。楕円形。

床下土坑２は長径85㎝×短径83㎝×深さ25㎝。円形。

床下土坑３は長径130㎝×短径68㎝×深さ28㎝。長楕円形。

床下土坑４は長径43㎝×短径39㎝×深さ43㎝。円形。

床下土坑５は長径103㎝×短径100㎝×深さ7㎝。円形。浅い凹み。

建物中央部で長径49㎝×短径25㎝と長径38㎝×短径25㎝の２カ所の焼土範囲が確認された。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。土坑・ピット類は確認されなかった。

貯蔵穴　不明。南側で確認された床下土坑１や床下土坑２はその可能性は否定できない。

柱穴　不明。北東部で確認された床下土坑４は深さもあ

り、可能性は否定できない。

周溝　有り。幅10～15㎝×深さ１～４㎝で、東壁から南壁まで反時計回りに巡る。北東隅と北西隅から西壁中央は一部切れる。

遺物出土状態　北東隅で大形円礫が２点あったが、その間で須恵器の椀が出土した。その他は円礫と小破片がわずかに散在的に出土した。

カマド　位置　不明。調査区外の東壁南寄りか。

規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から11世紀前半頃と考えられる。

245号竪穴建物(図281・488、PL.382・537)

位置　643～646､-922～-927　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｗ

重複　有り。201・202・227号竪穴建物に先行し、199号竪穴建物に後出する。

規模　面積(11.93)㎡、長軸4.53m×短軸3.31m×深さ0.23m

形状　隅丸方形か。南北方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はローム小塊少量、にぶい黄橙色粒少量、炭化物含み、しまり・粘性あり。下層はにぶい黄橙色粒多量で、ローム小塊･同粒少量含み、しまり・粘性あり。壁際はローム中～大塊・礫を含み、しまりややあり、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　ほぼ全面で硬化した面が確認された。南壁側で土坑１・２が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑１は長径82㎝×短径60㎝×深さ27㎝。楕円形。

土坑２は長径62㎝×短径44㎝×深さ23㎝。楕円形。

土坑２の北西側で炭化物を含む灰の散る長径48㎝×短径30㎝の範囲が確認された。

貯蔵穴　不明。南壁で確認された床下土坑１や床下土坑２はその可能性は否定できない。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅８～13㎝×深さ１～４㎝で、南壁から東壁までと西壁中央から南まで反時計回りに巡る。北壁中央はトレンチ手前で一部切れる。同規模の仕切り溝が建物中程に西から東2/3まで延びる。

遺物出土状態　北東部で、須恵器の杯や灰釉陶器の椀・緑釉陶器の破片等が、中央部で椀等が出土した。

カマド　位置　不明。他の竪穴建物と重複する南西部か。

規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半と考えられる。

247号竪穴建物(図281・488、PL.383)

位置　653～656､-936～-937　**主軸方位**　Ｎ－1°－Ｅ

重複　有り。34号溝に先行する。399号土坑との関係は不明。

規模　面積(2.16)㎡、長軸(2.70)ｍ×短軸(1.18)ｍ×深さ0.13m

形状　隅丸長方形か。

埋没土　黒褐色土で、As-C少量、黄橙色粒少量、焼土粒少量を含む。しまりややあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。北東隅で土坑１が確認された。その規模は下記の通りである。

土坑１は長径55㎝×短径45㎝×深さ23㎝。楕円形。大形の円礫及び土師器底部破片出土。

貯蔵穴　不明。土坑１はその可能性もある。

柱穴　不明。

周溝　無し。

遺物出土状態　土坑１内以外からわずかに須恵器の椀破片等が出土した。

カマド　位置　不明。

規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

248号竪穴建物(図281、PL.381・384)

位置　641～643､-918～-919　**主軸方位**　Ｎ－57°－Ｗ
重複　有り｡244号竪穴建物に先行し､35号溝に後出する｡
規模　面積(0.88)㎡、長軸(1.60)ｍ×短軸(1.18)ｍ×深さ0.10m
形状　不明。
埋没土　黒褐色土で、As-C少量、ローム小塊・同粒少量含む。しまり粘性共にあり。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　特に硬化した面は確認されなかった。南側でＰ１が確認された。その規模は下記の通りである。
Ｐ１は長径(47)㎝×短径(30)㎝×深さ５㎝。楕円形。
貯蔵穴　不明。
柱穴　不明。
周溝　無し。
遺物出土状態　無し。
カマド　位置　不明。
規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m
袖　不明。
煙道　不明。
遺存状態　不明。
遺物出土状態　不明。
備考　所属時期　出土遺物から時期判定はできなかったが、埋没土や重複から244号竪穴建物よりもやや古い段階の10世紀後半頃と考えられる。

249号竪穴建物(図282・488、PL.384・536)
位置　661～930､-662～-934　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｅ
重複　有り。195号竪穴建物に先行し、253号竪穴建物に後出する。
規模　面積(2.68)㎡、長軸(3.75)ｍ×短軸(0.95)ｍ×深さ0.08m
形状　隅丸長方形か
埋没土　黒褐色土で、As-YP多量、As-Cやや多く、ローム小塊・同粒少量含む。しまりややあり。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　特に硬化した面は確認されなかった。土坑・ピット類は確認されなかった。
貯蔵穴　不明。
柱穴　不明。
周溝　無し。
遺物出土状態　有り。焼け礫と東半部で須恵器の甕もしくは羽釜の破片と椀の底部が床直上から出土した。
カマド　位置　不明。
規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m
袖　不明。
煙道　不明。
遺存状態　不明。
遺物出土状態　不明。
備考　所属時期　埋没土や重複から195号竪穴建物よりもやや古い段階の10世紀後半頃と考えられる。

253号竪穴建物(図282、PL.384)
位置　658～661､-933～-935　**主軸方位**　Ｎ－82°－Ｅ
重複　有り。195・249号竪穴建物に先行する。
規模　面積(3.33)㎡、長軸(3.43)ｍ×短軸(1.21)ｍ×深さ0.11m
形状　隅丸長方形か。南西隅は一部不明瞭。
埋没土　黒褐色土で、As-C多量、にぶい黄褐色土・黒色土含む。しまり粘性共にあり。周辺部はローム粒多量、黄褐色土塊を含む。しまりやや弱く、粘性あり。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　東側1/3程でやや硬化した面が確認された。東側の北壁でＰ１を確認した。その規模は下記の通りである。
Ｐ１は長径55㎝×短径42㎝×深さ14㎝、楕円形。
貯蔵穴　不明。
柱穴　不明。
周溝　無し。
遺物出土状態　有り。西側で２点、東側のＰ１の南側で１点、須恵器の甕もしくは羽釜の破片が出土した。
カマド　位置　不明。
規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m
袖　不明。
煙道　不明。
遺存状態　不明。
遺物出土状態　不明。
備考　所属時期　出土遺物から時期判定はできなかった。埋没土や重複から195号竪穴建物よりもやや古い段階の10世紀後半頃と考えられる。

254号竪穴建物(図283・286・489・490、PL.385～390・537・538・551・556)
位置　642～649､-926～-934　**主軸方位**　Ｎ－38°－Ｗ
重複　有り。452・453号土坑・226・227・255・259号竪

穴建物に先行する。

規模　面積26.60㎡、長軸5.70m×短軸5.42m×深さ0.60m

形状　ほぼ正方形。東西方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はローム粒多量、As-YP少量含み、しまりややあり、粘性あり。下層はローム粒多量、As-YP多量に含み、しまり弱く粘性あり。壁際はにぶい黄褐色土で、ローム粒多量、焼土粒少量含み、しまり粘性共にあり。周溝埋没土は黒褐色土でAs-YP多量、炭化物少量含み、しまり弱く粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.18m　有り。ほぼ全面に無数の土坑・ピットが開き、南西隅と南東隅の極一部を除き凹む。カマドやや手前に土坑３、西壁手前南寄りで土坑４、その南に土坑５、東壁手前で床下土坑６、カマド右手前で床下土坑７、カマド直ぐ手前で土坑８、その西側で土坑９、その南側で土坑10、南壁手前土坑６の南側で土坑11、その西側で土坑12、その南側南壁手前で土坑13、その西側で土坑14、貯蔵穴南側で土坑15、土坑10の西側で土坑16～18、その北側で土坑19が確認された。床面のＰ１～３と共に北西部で確認されたＰ６が４本柱の柱穴の一つを成すものと考えられる。カマド右手前でＰ７、Ｐ２の西側で切り合う形でＰ８が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑３は長径100㎝×短径100㎝×深さ３㎝。円形。土坑10に先行し、土坑8に後出する。

土坑４は長径158㎝×短径104㎝×深さ35㎝。楕円形。Ｐ３に先行し、土坑５に後出する。

土坑５は長径163㎝×短径102㎝×深さ46㎝。楕円形。土坑４に先行する。

土坑６は長径140㎝×短径133㎝×深さ41㎝。楕円形。土坑11に先行し、土坑15に後出する。

土坑７は長径96㎝×短径58㎝×深さ49㎝。楕円形。Ｐ７に先行し、土坑8に後出する。

土坑８は長径130㎝×短径90㎝×深さ27㎝。楕円形。土師器小破片出土。

土坑９は長径(92) ㎝×短径79㎝×深さ17㎝。楕円形。

土坑10は長径115㎝×短径109㎝×深さ19㎝。円形。土坑３に後出する。

土坑11は長径142㎝×短径102㎝×深さ32㎝。隅丸方形、底面三角形。Ｐ２に先行し、土坑６に後出する。

土坑12は長径77㎝×短径71㎝×深さ26㎝。円形。土坑13・14に後出する。

土坑13は長径152㎝×短径110㎝×深さ31㎝。楕円形。Ｐ8・土坑12に先行し、土坑14に後出する。

土坑14は長径(131)㎝×短径85㎝×深さ35㎝。楕円形。土坑12・13に先行する。

土坑15は長径171㎝×短径84㎝×深さ46㎝。楕円形。Ｐ１・土坑２(貯蔵穴)・土坑６に先行する。

土坑16は長径(94)㎝×短径76㎝×深さ18㎝。楕円形。土坑10に先行し、土坑17･18に後出する。甕の小破片出土。

土坑17は長径145㎝×短径78㎝×深さ44㎝。楕円形。土坑４・10・16・18に先行する。

土坑18は長径(103)㎝×短径(75)㎝×深さ33㎝。楕円形。土坑16・17に先行する。

土坑19は長径98㎝×短径97㎝×深さ37㎝。隅丸方形。Ｐ６に先行する。甕の小破片等出土。

Ｐ６(柱穴)は長径55㎝×短径43㎝×深さ45㎝。楕円形。土坑９・10・19に先行する。

Ｐ７は長径38㎝×短径32㎝×深さ70㎝。楕円形。土坑７に後出する。主柱穴の底面よりもかなり深い。

Ｐ８は長径(35)㎝×短径(21)㎝×深さ６㎝。楕円形。Ｐ２に先行し、土坑13に後出する。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。南壁中央手前で長径62㎝×短径38㎝の焼土範囲が確認された。北西隅で土坑１及びＰ４・５、カマド右手側北東隅で土坑２を確認したが、土坑２は規模や構造、位置的にも貯蔵穴と考えられる。それぞれの規模は下記の通りである。

土坑１は長径98㎝×短径88㎝×深さ11㎝。円形。浅い。

土坑２は貯蔵穴欄に記す。

Ｐ４は長径69㎝×短径(60)㎝×深さ46㎝。楕円形か。甕の小破片出土。Ｐ５との新旧関係は不明。

Ｐ５は長径55㎝×短径(48) ㎝×深さ47㎝。楕円形か。Ｐ４との新旧関係は不明。

貯蔵穴　有り。土坑２が相当するものと考えられる。規模は長径72㎝×短径55㎝×深さ41㎝。楕円形。杯破片出土。

柱穴　有り。Ｐ１～３と掘り方調査時に確認したＰ６の計４本が、主柱穴と考えられる。掘り方調査時にカマド右手で確認したＰ７はそれらよりも底面はかなり深い。それぞれの規模は下記の通りである。Ｐ７は掘り方に記載した。

Ｐ１は長径34㎝×短径26㎝×深さ55㎝。楕円形。断面に柱痕あり。掘り方は一回り大きく、長径57㎝×短径46㎝。

Ｐ２は長径36㎝×短径35㎝×深さ53㎝。円形。　断面に柱痕あり。掘り方は一回り大きく、長径58㎝×短径46㎝。

Ｐ３は長径37㎝×短径37㎝×深さ52㎝。楕円形。断面に柱痕あり。掘り方は一回り大きく、長径57㎝×短径48㎝。

Ｐ６は掘り方調査時の長径55㎝×短径43㎝×深さ45㎝。楕円形。

周溝　有り。幅12～22㎝×深さ6～20㎝で、左袖から右袖まで反時計回りにほぼ一周巡る。

遺物出土状態　土師器の甕や杯の破片が楕円形の円礫と共に全体から散漫に出土した。出土位置も高いところから床直上まで幅広い。南壁中央と北西部のＰ６手前では円礫が数点纏まって出土した。カマド右袖東側では杯の破片が出土した。

カマド　位置　北壁ほぼ中央で確認された。

規模　全長1.56m・最大幅1.30m・焚き口幅0.24m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.90m入り、右袖は0.93m入る。袖には礫は使用されていない。

煙道　建物壁外に0.61m出る。

遺存状態　良好。燃焼部はよく焼けており、焚き口手前から煙道部にかけてほぼ全体に焼土が確認された。焚き口手前の焼土は掻き出されたものか、流れ出たもの。燃焼部と煙道部の境目は段になる。支脚は確認されなかった。カマドの右袖脇で杯が出土した。掘り方は袖が無くなり煙道部が幅広になり、燃焼部と煙道部の境目が段になる。

遺物出土状態　有り。燃焼部で土師器の甕や杯の破片が少量、焚き口手前で左袖に付いた状態で甕の大形破片が出土した。掘り方では遺物は出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から７世紀第３四半期頃と考えられる。

255号竪穴建物(図287・491、PL.356・391・538)

位置　648～651､-928～-932　**主軸方位**　Ｎ－76°－Ｗ

重複　有り。200号竪穴建物に先行し、254号竪穴建物に後出する。

規模　面積(8.19)㎡、長軸3.83m×短軸3.46m×深さ0.37m

形状　隅丸方形。東西方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はにぶい黄橙色粒少量、明褐色粒少量含み、しまり弱く、粘性あり。下層はAs-C少量含み、しまり・粘性共にあり。壁際はローム小塊少量、ローム粒多量、As-C少量含み、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　全体的に比較的良く硬化していた。建物中央やや西側でＰ１が確認された。その規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径35㎝×短径30㎝×深さ42㎝。円形。

貯蔵穴　不明。

柱穴　不明。Ｐ１はその可能性がある。

周溝　有り。幅６～15㎝×深さ２～５㎝で、北壁と西壁から南壁に巡る。一部北西隅で切れる。

遺物出土状態　北半部を主体に須恵器の大形の杯や甕の破片等が出土した。出土位置は床直上のものからかなり高い位置のものまである。円礫も多く混じる。

カマド　位置　東壁中央斜めに確認された。

規模　全長(0.77)m・最大幅(0.40)m・焚き口幅(0.40)m

袖　不明。

煙道　建物壁外に0.61m出る。

遺存状態　不良。254号竪穴建物壁内で焼土部分が確認された。焚き口から燃焼部にかけては緩く凹む。254号竪穴建物の調査により壊されてしまった部分が多く、建物壁に対して斜めにカマドが延びるような形になっているが、隅で無い限りはこのように斜めにはならないものと考えられる。支脚は確認されなかった。掘り方では焼土部分を取り除くと浅い凹みが確認された。

遺物出土状態　無し。

備考　所属時期　出土遺物から11世紀初頭頃と考えられるが、重複関係から10世紀後半の可能性もある。

256号竪穴建物(図287・491、PL.392・538・556)

位置　669～672､-933～-935　**主軸方位**　Ｎ－４°－Ｗ

重複　無し。

規模　面積4.94㎡、長軸3.17m×短軸1.97m×深さ0.24m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い小判形。カマドを持たず、通常の竪穴建物ではなく、竪穴状遺構に分類されることが多いもので工房の可能性がある。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、ローム小～大塊多量、焼土粒少量含む。しまり強く、粘性あり。下層はAs-C少量、ローム小塊少量含み、しまり・粘性共に有り。壁際はローム小塊少量、しまりやや弱く、粘性あり。北側1/3床上に厚さ10㎝程度の焼土あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　特に硬化している面は確認されなかった。北側1/3に焼土が分布する範囲があった。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅10～20㎝×深さ数㎝程度で、ほぼ全周巡る。

遺物出土状態　南半部を主体に小形の杯や羽釜の破片等が出土した。東壁寄り大形円礫の西側で鉄器が出土した。遺物の出土位置は床直上のものからかなり高い位置のものまで様々である。円礫も多く混じる。

カマド　位置　無し。

規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m

袖　無し。

煙道　無し。

遺存状態　無し。

遺物出土状態　無し。

備考　所属時期　カマドが無く、一般的に竪穴状遺構に分類されるもので工房の可能性がある。出土遺物からは10世紀後半頃と考えられるものであり、カマドが無いこと以外、他の竪穴建物とあまり大きい差はない。

259号竪穴建物（図288・491、PL.393・538・556）

位置　645～649、-928～-931　**主軸方位**　Ｎ－71°－Ｗ

重複　有り。226号竪穴建物に先行し、254号竪穴建物に後出する。

規模　面積(9.50)㎡、長軸(3.50)m×短軸(3.20)m×深さ0.20m

形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、As-C多量、明褐色粒少量含み、しまり・粘性共にあり。壁際底面はAs-C少量、ローム小塊・同粒少量含む部分あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　特に硬化している面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。

貯蔵穴　不明。

柱穴　不明。

周溝　無し。

遺物出土状態　北西部で大形の円礫が纏まって出土した。建物中央から東側で須恵器の羽釜破片や鉄滓等が出土した。出土位置は床直上のものからかなり高い位置のものまである。須恵器の羽釜大形破片は床直上から出土した。

カマド　位置　東壁南東隅寄りで確認された。

規模　全長(0.56)m・最大幅(0.61)m・焚き口幅(0.53)m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.24m、右袖は0.12m入る。

煙道　建物壁外に0.38m出る。外に長く延びない。

遺存状態　やや不良。両袖の先端部と燃焼部奥壁に円礫が使用されていた。支脚には円礫が確認されたが、右手側であり、対になるものがあったか、本来の位置から動いているものと考えられる。掘り方では幅広になり、焚き口から燃焼部が浅く凹む。

遺物出土状態　有り。燃焼部奥壁から須恵質の瓦破片が１点出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

Ｈ区３面

１　竪穴建物

56号竪穴建物（図289・496、PL.394・539・540・556）

位置　634～637、-972～-975　**主軸方位**　Ｎ－89°－Ｅ

重複　有り。89号土坑に先行する。

規模　面積(15.57)㎡、長軸(2.85)m×短軸(2.61)m×深さ0.20m

形状　隅丸方形で南北方向に若干長いか。

埋没土　上層は暗褐色土で、As-C多量に含み、しまり弱い。下層は黒褐色土でAs-Cわずかに含み、しまりあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。カマド手前で床下土坑１が確認された。その規模は下記の通りである。床下土坑１は長径102㎝×短径52㎝×深さ15㎝。楕円形。

床面　特に硬化している面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。

貯蔵穴　有り。南東隅で確認された。その規模は長径72㎝×短径61㎝×深さ15㎝。楕円形。内部から高台付椀破片出土。

柱穴　不明。
周溝　無し。
遺物出土状態　カマド左袖手前で須恵器の椀出土。
カマド　位置　東壁中央やや南寄りで確認した。
規模　全長(0.58)ｍ・最大幅(0.50)ｍ・焚き口幅(0.32)ｍ
袖　無し。
煙道　建物壁外に0.42m出る。
遺存状態　不良。煙道部は撹乱により壊されていた。燃焼部壁には角礫が一部残存しており、要所要所に礫が使用されていた可能性はある。支脚は不明。
遺物出土状態　有り。焚き口から須恵器の甕もしくは瓦破片が１点出土した。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

57号竪穴建物(図290・497、PL.395・540)
位置　629～633､-971～-972　**主軸方位**　Ｎ－80°－Ｗ
重複　無し。
規模　面積(12.16)㎡、長軸(3.78)ｍ×短軸(3.70)ｍ×深さ0.12m
形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。
埋没土　上層はにぶい黄褐色土で、くすんだローム塊を含み、淡いAs-C混土含み、しまり弱い。下層は黄褐色土でくすんだAs-C混土含む。
掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。カマド手前で床下土坑１、南壁中央で床下土坑２が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径90㎝×短径83㎝×深さ19㎝。隅丸方形。

床下土坑２は長径80㎝×短径48㎝×深さ29㎝。楕円形。
床面　特に硬化している面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。
貯蔵穴　不明。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　建物中央で須恵器の羽釜破片出土。
カマド　位置　東壁南寄りで確認した。
規模　全長(0.60)ｍ・最大幅(0.48)ｍ・焚き口幅(0.37)ｍ
袖　無し。
煙道　建物壁外に0.51m出る。
遺存状態　不良。燃焼部南半から煙道部は撹乱により壊されていた。支脚は不明。
遺物出土状態　有り。焚き口左手前から須恵器の椀の高台が出土した。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

58号竪穴建物(図291 、PL.396・556)
位置　636～639､-965～-966　**主軸方位**　Ｎ－88°－Ｗ
重複　無し。
規模　面積(3.60)㎡、長軸(3.00)ｍ×短軸(2.53)ｍ×深さ0.38m
形状　隅丸方形で東西方向に長いか。
埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、ローム塊を含む。下層はややローム塊を多く含む。壁際は暗褐色土でローム塊を多く含む。
掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。内側が浅く凹み、西壁寄りで床下土坑１が確認された。その規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径105㎝×短径37㎝×深さ25㎝。隅丸長方形。南壁寄りで雁又の鉄鏃が出土した。
床面　特に硬化している面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。しかし、東側の撹乱内で確認したＰ22は竪穴建物に伴う可能性も否定できない。
貯蔵穴　不明。
柱穴　不明。
周溝　有り。幅８～14㎝×深さ１～６㎝で、床下土坑１の西側を除き巡る。
遺物出土状態　西壁寄りで大形礫、極わずかに土器小破片が出土した。掘り方調査時には床下土坑１のすぐ東側から小破片が１点出土した。
カマド　位置　不明。
規模　全長不明ｍ・最大幅不明ｍ・焚き口幅不明ｍ
袖　不明。
煙道　不明。
遺存状態　不明。
遺物出土状態　不明。
備考　所属時期　出土遺物や建物の主軸方位等から10世紀後半頃と考えられる。

59号竪穴建物(図291・497、PL.397・540)

位置　627～629、-965～-967　**主軸方位**　Ｎ－24°－Ｗ
重複　有り。95号土坑に先行する。
規模　面積(1.76)㎡、長軸(2.45)ｍ×短軸(2.25)ｍ×深さ0.57m
形状　楕円形か。撹乱で確認できなかった部分が多いが、隅丸長方形や方形になる可能性は低く、通常の竪穴建物でない可能性がある。
埋没土　上層は暗褐色土で、As-C多量、くすんだローム塊を含む。途中に灰褐色土で変色したローム塊が厚さ５㎝程度敷き詰められていた。壁際は暗褐色土でローム塊を多く含む。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　特に硬化している面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。
貯蔵穴　無し。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　南壁寄りで棒状礫が、東壁手前で灰釉陶器の椀や須恵器の椀が数点出土した。
カマド　位置　不明。
規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m
袖　不明。
煙道　不明。
遺存状態　不明。
遺物出土状態　不明。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。

60号竪穴建物(図291・498、PL.398・540)
位置　629～631、-964　**主軸方位**　Ｎ－77°－Ｗ
重複　無し。
規模　面積(0.50)㎡、長軸(2.30)ｍ×短軸(0.65)ｍ×深さ0.30m
形状　隅丸長方形か。
埋没土　暗褐色土で、As-C多量、くすんだローム塊を含む。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　特に硬化している面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。
貯蔵穴　有り。南東隅で確認した。長径(48)㎝×短径(24)㎝×深さ(22)㎝、楕円形か。上層から土師器杯破片出土。
柱穴　不明。
周溝　不明。
遺物出土状態　南壁寄りで棒状礫が、東壁手前で灰釉陶器の椀や須恵器の椀が数点出土した。
カマド　位置　東壁南寄りで確認された。
規模　全長0.74m・最大幅0.95m・焚き口幅0.45m
袖　有り。左袖は建物壁内に0.26m入り、右袖は0.32m入る。
煙道　建物壁外に0.33m出る。
遺存状態　比較的良好。天井は円礫と共に落ちて燃焼部に残存していた。燃焼部壁には大形の円礫が使用されていた。調査時点には倒れていたが、支脚にも棒状礫が立てられていたと考えられる。
遺物出土状態　燃焼部から多くの須恵器の羽釜破片が出土した。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

61号竪穴建物(図292・498、PL.399)
位置　607～610、-951～-954　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｗ
重複　有り。６号掘立柱建物・17号ピットとの前後関係不明。
規模　面積(5.13)㎡、長軸(3.50)ｍ×短軸(2.56)ｍ×深さ0.22m
形状　隅丸長方形か。
埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、土器片含む。下層はAs-C少量含む。
掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。
床面　特に硬化している面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。
貯蔵穴　不明。
柱穴　不明。
周溝　無し。
遺物出土状態　北壁寄りで須恵器の椀底部出土。土器小破片が数点出土した。
カマド　位置　不明。
規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m
袖　不明。
煙道　不明。
遺存状態　不明。
遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

62号竪穴建物(図292・498、PL.399・540)

位置　635～637､-960～-962　**主軸方位**　Ｎ－78°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積(2.97)㎡、長軸(2.66)ｍ×短軸(2.23)ｍ×深さ0.33m

形状　隅丸長方形か。やや歪む。

埋没土　全体に黒褐色土で、小礫・As-C多量、ローム塊をわずかに含む。壁際はAs-Cの量が少ない。

掘り方　底面からの深さ0.13m　有り。西側で床下土坑１・２が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径74㎝×短径72㎝×深さ22㎝。円形。羽釜の口縁部破片や瓦破片が出土した。

床下土坑２は長径56㎝×短径52㎝×深さ13㎝。円形。須恵器の杯や椀破片が出土した。

床面　特に硬化している面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。

貯蔵穴　不明。

柱穴　不明。

周溝　不明。

遺物出土状態　須恵器の椀や椀底部・体部小破片等が数点出土した。

カマド　位置　東壁中央寄りで確認された。

規模　全長(0.82)ｍ・最大幅(0.94)ｍ・焚き口幅(0.30)ｍ

袖　不明。

煙道　建物壁外に0.67m出る。

遺存状態　不良。西側が撹乱で失われ、極一部分残存していた。燃焼部両壁には円礫が１点ずつ残存していた。

遺物出土状態　遺物はほとんど出土しなかった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期頃と考えられる。

63号竪穴建物(図293・294・499、PL.400・401・540・541・555)

位置　623～627､-969～-972　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｅ

重複　有り。36号土坑に後出する。

規模　面積(7.72)㎡、長軸(3.80)ｍ×短軸(2.90)ｍ×深さ0.38m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　全体に黒褐色土で、上層はAs-C多量、ローム中小塊を斑に含む。下層はローム塊を多く、焼土・炭化物粒わずかに含む。

掘り方　底面からの深さ0.12m　有り。南西隅で床下土坑１、カマド前で床下土坑２、その西側で床下土坑３が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径86㎝×短径79㎝×深さ28㎝。円形。内部から円礫と３点と高台付椀底部が出土した。

床下土坑２は長径72㎝×短径54㎝×深さ9㎝。楕円形。

床下土坑３は長径89㎝×短径72㎝×深さ16㎝。楕円形。

床面　特に硬化している面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。

貯蔵穴　不明。掘り方調査時に南西隅で確認された床下土坑１がその可能性は否定できない。

柱穴　不明。

周溝　無し。

遺物出土状態　中央部やや東側で須恵器の羽釜口縁部破片が出土した。北西部でやや大形の円礫も出土した。

カマド　位置　東壁南隅で確認された。

規模　全長(1.08)ｍ・最大幅(0.85)ｍ・焚き口幅(0.62)ｍ

袖　有り。左袖は建物壁内に0.30m入る。右袖は無い。

煙道　建物壁外に0.52m出る。

遺存状態　不良。焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。焚き口で２つに割れていた大形円礫は上に載っていたものか。燃焼部と煙道部との境目は段になる。燃焼部壁には円礫が残存していた部分もあり、構築材として使用されていたものと考えられる。掘り方では焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。焚き口南側で長径35㎝×短径31㎝×深さ11㎝の凹みが確認された。

遺物出土状態　燃焼部から煙道部にかけて多くの須恵器の羽釜破片が出土した。燃焼部壁に貼り付いたような羽釜口縁部破片もあり、カマドの構築材の一部として使用されていた可能性がある。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

64号竪穴建物(図294・500、PL.402・541)

位置　610～613､-965～-968　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｗ

重複　無し。

規模　面積(4.92)㎡、長軸(3.56)ｍ×短軸(2.65)ｍ×深

さ0.33m

形状　隅丸長方形か。

埋没土　上層はにぶい黄褐色土で、As-C多量、くすんだローム塊混じる。下層は黒色土とくずんだローム塊の混土またはその互層。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　特に硬化している面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。

貯蔵穴　有り。南西部で確認された。その規模は、長径59㎝×短径55㎝×深さ44㎝。楕円形。深い。カマドの位置が不明であるが、周りの他の竪穴建物の状況からカマドから離れている可能性もある。中央に柱痕状の堆積も認められるので柱穴の可能性も否定できない。

柱穴　不明。

周溝　無し。

遺物出土状態　北西部で灰釉陶器椀が出土した。撹乱寄りで須恵器の杯底部破片が出土した。

カマド　位置　不明。

規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

65号竪穴建物（図294・295・500、PL.403・556）

位置　614～618、-965～-969　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｗ

重複　有り。181・183号土坑に先行する。

規模　面積(10.73)㎡、長軸(3.82)ｍ×短軸(3.75)ｍ×深さ0.16m

形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。

埋没土　上層は暗褐色土で、As-C多量、褐色土と黒褐色土が斑に混じる。下層は褐色土で、As-Cをわずかに含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。南壁寄りで床下土坑１が確認された。その規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径76㎝×短径71㎝×深さ18㎝。楕円形。

床面　特に硬化している面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。

貯蔵穴　有り。南東隅で確認された。その規模は、長径68㎝×短径52㎝×深さ８㎝。楕円形。深い。内部から灰釉陶器の皿や須恵器の椀、羽釜口縁部破片等が出土した。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　中央部で刀子、中央部やや北寄りで緑釉陶器片が出土した。その他小破片が全体から散漫に出土した。

カマド　位置　東壁中央やや南寄りで確認した。

規模　全長1.11m・最大幅0.75m・焚き口幅0.35m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.10m入り、右袖は0.17m入る。

煙道　建物壁外に0.53m出る。

遺存状態　不良。焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。燃焼部には焼土層が残存しており、天井の崩落したものか。支脚は不明。

遺物出土状態　右袖内壁には円礫と瓦片が残存しており構築材として使用されていたものと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期～第３四半期頃と考えられる。

72号竪穴建物（図295・501、PL.404・541）

位置　608～610、-962～-965　**主軸方位**　Ｎ－84°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積(2.97)㎡、長軸(2.35)ｍ×短軸2.03m×深さ0.43m

形状　隅丸方形。東西方向に長い。

埋没土　上層は暗褐色土で、As-C多量、褐色土と黒褐色土が斑に混じる。下層は暗褐色土で、As-Cをわずかに含み、粘性あり。壁際は褐色土の混土。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。建物中央で床下土坑１が確認された。掘り方調査時に確認したものであるが、炭化物や鉄滓などの遺物も多く工房の作業用ピットの可能性も考えられる。その規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径54㎝×短径52㎝×深さ９㎝。円形。内部からではないが、周りのやや高い位置から須恵器杯もしくは椀破片や鉄滓などが多く出土した。

床面　特に硬化している面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。

貯蔵穴　無し。調査範囲内からは確認できなかった。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　中央部北寄りの床下土坑１の東周りや西側の炭化物散布範囲内から鉄滓や須恵器の小破片など、南東部から須恵器大甕の破片と鞴の羽口などが出土した。カマド左手側から東壁沿いに大形円礫が並列して出土した。

カマド　位置　東壁中央で確認した。

規模　全長0.65m・最大幅0.80m・焚き口幅0.25m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.36m出る。

遺存状態　不良。燃焼部には若干の炭化物はあったものの焼土がほとんど無く、カマドとしての使用期間は長くないのではないかと考えられる。支脚は不明。

遺物出土状態　焚き口左壁入口や燃焼部や煙道部の出口付近で土師器の甕破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から９世紀第２四半期頃と考えられる。鉄器や鉄滓や鞴の羽口など小鍛冶関連の遺物が特徴的であった。灰釉陶器は混入品か。

73号竪穴建物（図296・501、PL.405・541）

位置　604～607、-957～-961　**主軸方位**　Ｎ－71°－Ｗ

重複　有り。90号竪穴建物に後出する。

規模　面積9.23㎡、長軸3.63m×短軸3.05m×深さ0.33m

形状　隅丸長方形。南北方向に若干長い。南壁に比べ北壁は丸味を持つ。

埋没土　上層は暗褐色土で、As-C多量、褐色土と黒褐色土が斑に混じる。下層は暗褐色土で、As-Cを少量含み、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　特に硬化している面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　北東部でやや大形の円礫、その南側で内黒の高台付椀、そのやや西側で須恵器の羽釜口縁部破片が出土した。南西部で須恵器甕の小破片、須恵器羽釜口縁部破片、中央部南寄りで逆位の須恵器の杯、南壁手前で灰釉陶器の椀破片等が出土した。

カマド　位置　東壁中央で確認した。

規模　全長1.00m・最大幅1.15m・焚き口幅0.45m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.33m入り、右袖は0.52m入る。

煙道　建物壁外に0.55m出る。

遺存状態　やや良。左右袖の先端には角礫が使用されていた。支脚には円礫が据えられていた。燃焼部と煙道部の境目は段になる。

遺物出土状態　燃焼部から須恵器の羽釜破片が出土したが、他は角礫だけであった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

74号竪穴建物（図296・297・502、PL.406）

位置　626～628、-978～-980　**主軸方位**　Ｎ－80°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積（5.80）㎡、長軸2.58m×短軸2.62m×深さ0.11m

形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。

埋没土　上層は暗褐色土で、As-C多量、ローム小塊わずかに含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　北東部と南西部の一部を除きほぼ全面硬化していた。土坑・ピット類は確認されなかった。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド周辺以外では北東部で須恵器の杯もしくは椀の破片が出土した。

カマド　位置　東壁南隅で確認した。

規模　全長0.40m・最大幅0.50m・焚き口幅0.45m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.37m出る。

遺存状態　不良。ほとんど深さもなく焼土の残存からカマドと判断された。カマド左手前や燃焼部から焼けて割れた礫が出土したが、構築材として使用されていたものと考えられる。

遺物出土状態　燃焼部から須恵器の羽釜もしくは甕の胴部破片、煙道部から羽釜口縁部破片が出土したが、他は割れた焼け礫だけであった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

75号竪穴建物（図297・502、PL.406・407・542）

位置　624～628､-958～-961　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｗ
重複　有り。76号竪穴建物に先行し、172号土坑に後出する。
規模　面積(7.09)㎡、長軸(3.62)ｍ×短軸(2.37)ｍ×深さ0.37m
形状　隅丸長方形か。
埋没土　上層は黒褐色土で、As-C多量に含む。しまりは強い。下層は褐色土でAs-Cやや多量、くすんだローム塊混じる。
掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。やや凹凸はあったもののカマド状遺構の掘り方以外は土坑・ピット類は無かった。
床面　特に硬化している面は確認されなかった。中央部でカマド状遺構が確認された｡両側に大形の円礫を配し、中央に棒状の円礫を立てて支脚状にしている。周りからも多くの被熱した礫と甕胴部破片等が出土した。その規模は全長0.88m・最大幅0.70m・焚き口幅0.28m、深さ22㎝。中段径60㎝×42㎝、楕円形。内部から甕胴部破片が数点出土した。両側の円礫の配置や支脚の在り方などから重複する他の竪穴建物のカマドの可能性もある。掘り方調査時に中心部で確認した甕口縁部破片は縄文土器か。
貯蔵穴　無し。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　カマド状遺構以外では円礫が全体から散漫に出土したが、須恵器甕の小破片が１点出土しただけであった。
カマド　位置　不明。
規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m
袖　不明。
煙道　不明。
遺存状態　不明。
遺物出土状態　不明。
備考　所属時期　出土遺物から11世紀前半頃と考えられる。

76号竪穴建物(図298・502、PL.406 ～ 408・542)
位置　627～630､-955～-959　**主軸方位**　Ｎ－84°－Ｗ
重複　有り。Ｐ19に先行し、75号竪穴建物に後出する。82・93・94号竪穴建物に後出すると考えられるが、撹乱で失われており直接の切り合いは確認できなかった。。
規模　面積(10.86)㎡、長軸3.55m×短軸(2.90)ｍ×深さ0.11m
形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。
埋没土　黒褐色土で、As-C多量、１～２㎜の赤色軽石を含む。しまりは強い。
掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。わずかに凹凸はあったものの土坑・ピット類は確認されなかった。
床面　残りの良い西部はやや硬化していた。土坑・ピット類は確認されなかった。
貯蔵穴　不明。
柱穴　不明。
周溝　無し。
遺物出土状態　西部で須恵器の羽釜や甕等の小破片が数点出土した。
カマド　位置　東壁南隅で確認した。
規模　全長0.55m・最大幅0.71m・焚き口幅0.35m
袖　不明。
煙道　建物壁外に0.44m出る。
遺存状態　不良。燃焼部に焼土が残存していた。手前は撹乱で失われていた。
遺物出土状態　燃焼部から土師器破片が出土した。燃焼部北壁から出土した埴輪破片は構築材として使用されていたものと考えられる。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。８世紀第４四半期の遺物は混入品か。

77号竪穴建物(図298・299・503、PL.409・410・542・556)
位置　610～614､-959～-963　**主軸方位**　Ｎ－64°－Ｗ
重複　有り。182号土坑に先行し、91号竪穴建物に後出する。
規模　面積(9.07)㎡、長軸(3.50)ｍ×短軸2.85m×深さ0.18m
形状　隅丸長方形。東西方向に長い。
埋没土　黒褐色土で、As-C多量、褐色土と黒褐色土を斑に含む。壁際はAs-C少量含む。
掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。南東部で床下土坑１が確認された。位置的には貯蔵穴の可能性はあるものの、貼り床の下であり床下土坑とした。その規模は下記の通りである。

長径73㎝×短径65㎝×深さ24㎝、楕円形。灰釉陶器皿

破片と瓦破片が出土した。

床面　特に硬化している面は確認できなかった。床面調査時に土坑・ピット類は確認されなかった。

貯蔵穴　不明。床下土坑１はその可能性も否定できない。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド周辺以外では北東部で鉄器が、中央部で須恵器の羽釜口縁部破片や須恵器甕胴部破片が数点出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認した。

規模　全長1.03m・最大幅0.68m・焚き口幅0.45m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.65m出る。

遺存状態　不良。焚き口から燃焼部にかけて緩く凹む。燃焼部の壁や底には焼土が残存していた。燃焼部の両側や煙道部先端には縦長の円礫が据えられていた。

遺物出土状態　燃焼部から須恵器の羽釜破片が数点、他に同部北壁よりで須恵器の椀底部が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

78号竪穴建物(図300・301・503・504、PL.411・412・542・552)

位置　613～617、-948～-952　**主軸方位**　Ｎ－82°－Ｗ

重複　有り。96・99号竪穴建物に後出する。

規模　面積(8.78)㎡、長軸3.66m×短軸3.18m×深さ0.35m

形状　隅丸長方形。南北方向に若干長い。

埋没土　黒褐色土で、As-C多量、ローム小塊含む。しまりあり。壁際はローム塊やや多く、褐色土混じる。As-C少量含む。しまり粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.18m　有り。南西部で床下土坑１、カマド左手前で床下土坑２が確認された。それらの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径88㎝×短径82㎝×深さ59㎝、円形。亜角礫と共に土師器や須恵器の椀の大形破片が出土した。穴の周りには周堤帯状に掘った時の土が盛り上がっていた。深さも深くしっかりと掘られており、貼り床はしてあったものの貯蔵穴の可能性は否定できない。

床下土坑２は長径65㎝×短径61㎝×深さ11㎝、円形。浅い。遺物は出土しなかった。

床面　特に硬化している面は確認できなかった。床面調査時に土坑・ピット類は確認されなかった。

貯蔵穴　不明。床下土坑１はその可能性も否定できない。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド周辺以外では須恵器の羽釜口縁部破片や須恵器椀破片が西壁を除き数点出土した。位置的には床直よりも高いものが多かった。角礫が出土した。

カマド　位置　南東隅で確認した。

規模　全長0.80m・最大幅0.85m・焚き口幅0.37m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.12m入り、右袖は無い。

煙道　建物壁外に0.68m出る。

遺存状態　不良。天井は無かった。燃焼部底面に10～15㎝の焼土層が確認された。燃焼部の途中から円礫が出土した。

遺物出土状態　左袖前から須恵器の椀底部が逆位で、右手前では須恵器の椀が出土した。袖先に使用されていた可能性も考えられる。燃焼部北壁から須恵器の羽釜もしくは甕破片が数点出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

79号竪穴建物(図302・505・506、PL.413・542・543・556)

位置　610～614、-954～-958　**主軸方位**　Ｎ－56°－Ｗ

重複　有り。305号土坑・80・170号竪穴建物に後出する。

規模　面積(7.53)㎡、長軸3.50m×短軸2.57m×深さ0.33m

形状　隅丸長方形。東西方向に長い。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-C多量に含む。下層はAs-C少量、ローム小塊含む。しまり粘性あり。壁際は褐色土。ローム漸移層崩落土。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　特に硬化している面は確認できなかった。建物中央170号竪穴建物と重複する部分で長径(78)㎝×短径80㎝×深さ９㎝、楕円形の浅い凹みが確認された。

貯蔵穴　有り。北東隅で確認された。その規模は下記の通りである。長径46㎝×短径40㎝×深さ35㎝、楕円形。角礫が上から１点、中から２点、計３点出土した。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド以外では170号竪穴建物と重複す

る部分から須恵器羽釜口縁部や胴部破片、杯底部、鉄製品などが出土した。重複しない部分は礫が多かったが、土器は灰釉陶器皿１点と須恵器の羽釜破片１点のみであった。位置的には床直ではなく高いものが多い。

カマド　位置　南東隅寄りで確認した。

規模　全長(0.59)ｍ・最大幅1.00ｍ・焚き口幅0.52ｍ

袖　有り。左袖は建物壁内に0.20ｍ入り、右袖は0.21入る。

煙道　建物壁外に0.37ｍ出る。

遺存状態　不良。天井は無かった。燃焼部両壁には粘性土だけでなく円礫や角礫が一緒に使用されていた。支脚には棒状の円礫が据えられていた。焚き口やその手前の大形礫はカマドで使用されていたものと考えられる。礫と礫の間の粘土もカマドから流れ出たものか。

遺物出土状態　燃焼部から割れた礫の他に燃焼部から須恵器の羽釜破片が数点纏まって出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

80号竪穴建物(図303・304・506・507、PL.414・415・543・552・556)

位置　614～619､-957～-961　**主軸方位**　Ｎ－74°－Ｗ

重複　有り。79号竪穴建物に先行し、91・170号竪穴建物に後出する。

規模　面積(13.47)㎡、長軸5.39ｍ×短軸(3.59)ｍ×深さ0.48ｍ

形状　隅丸長方形か。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-C多量、褐色土塊斑に含む。下層は暗褐色土で、As-C少量、ローム塊わずかに含む。

掘り方　底面からの深さ0.05ｍ　有り。中央やや南側で床下土坑１を確認した。その規模は下記の通りである。長径130㎝×短径115㎝×深さ20㎝、楕円形。円礫や角礫出土。ローム塊を多量、灰白色粘土小塊を含む褐色土により埋められていた。

床面　特に硬化している面は確認できなかった。貯蔵穴の北側で45㎝×40㎝の焼土範囲、貯蔵穴の南西で長径47㎝×短径40㎝×深さ７㎝、不定形の焼土遺構が確認された。焼土小塊とローム小塊を含む明黄褐色土により埋められていた。

貯蔵穴　有り。南東隅で確認された。その規模は下記の通りである。長径95㎝×短径81㎝×深さ43㎝、隅丸長方形。北側の縁から円礫と須恵器の剥がれた高台が出土した。

柱穴　不明。

周溝　有り。幅８～15㎝×深さ４～６㎝で、南壁のみで確認された。

遺物出土状態　カマド以外では79・170号竪穴建物と重複する部分から灰釉陶器の椀破片・須恵器の羽釜口縁部や胴部破片、杯や椀底部破片などが出土した。南半からも須恵器の杯や椀の破片が出土した。南壁貯蔵穴西側で灰釉陶器の椀口縁部破片が出土した。いずれも床直ではなく高い位置からのものが多い。中央部西側の撹乱に切られる境目から緑釉陶器小破片が１点出土した。

カマド　位置　東壁南寄りで確認した。

規模　全長0.81ｍ・最大幅(0.84)ｍ・焚き口幅(0.33)ｍ

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.57ｍ出る。

遺存状態　やや不良。焚き口左側が撹乱により失われていた。天井は無かった。焚き口からその手前には焼土が分布する範囲が確認され、カマドから流れ出たものと考えられる。燃焼部には８㎝程焼土が堆積していた。煙道部には大形の円礫が横方向に置かれていた。その他にも円礫や角礫が多数残存しており、構築材として礫が多用されていたことが分かる。支脚は残存していなかったが、逆位の土師器椀が出土しており、構築材の一部として使用されていた可能性も考えられる。カマドの西側や北側の離れた位置から焼けた礫が出土したが、カマドで使用されていた可能性が考えられる。

遺物出土状態　燃焼部から割れた礫の他に燃焼部から須恵器の椀や杯破片が数点出土したが、正位のものと逆位のものがあった。位置は燃焼部のものは低い位置、壁に近いものは高い位置からであった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

81号竪穴建物(図304・305・508、PL.416・543)

位置　623～625､-949～-952　**主軸方位**　Ｎ－82°－Ｅ

重複　有り。13・14号ピットに先行する。

規模　面積(4.86)㎡、長軸2.79ｍ×短軸2.22ｍ×深さ0.29ｍ

形状　隅丸長方形。北西隅が一部撹乱により失われていた。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-C多量、くすんだロー

ム塊含む。下層は暗褐色土で、As-C少量、ローム小塊わずかに含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。南壁中央で床下土坑１を確認した。その規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径69㎝×短径68㎝×深さ13㎝、円形。

床面　カマド手前の下に土坑・ピット類が無い部分で硬化して光沢を持つ面が確認された。

貯蔵穴　有り。南東隅で確認された。その規模は下記の通りである。長径48㎝×短径35㎝×深さ12㎝、楕円形。

柱穴　不明。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド以外では北側で須恵器の杯または椀の破片が出土した。南西部から須恵器椀口縁部破片や須恵器の甕もしくは羽釜体部破片が出土した。貯蔵穴の北側では瓦破片が出土したが、カマドの構築材として使用されていたものか。

カマド　位置　東壁南寄りで確認した。

規模　全長0.99m・最大幅0.71m・焚き口幅0.45m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.47m出る。

遺存状態　不良。焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。燃焼部底には炭化物を含む灰層が６㎝程堆積していた。小形礫片がわずかに出土したが、礫はほとんど構築材として使用されていなかったものと思われる。支脚は残存していなかった。

遺物出土状態　燃焼部底面から須恵器の羽釜破片が、南壁から瓦破片が出土した。カマドの南側貯蔵穴手前でも瓦破片が出土しており、カマドで使用されていたものが南側に流れ出たものか。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

82号竪穴建物(図305・509、PL.408・417・544)

位置　627～631､-953～-955　**主軸方位**　Ｎ－84°－Ｅ

重複　有り。93・94号竪穴建物に後出する。

規模　面積(1.50)㎡、長軸(2.46)ｍ×短軸(1.40)ｍ×深さ0.28m

形状　隅丸長方形か。

埋没土　黒褐色土で、As-C多量、ややしまり粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　特に硬化している面は確認されなかった。

貯蔵穴　無し。

柱穴　不明。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド以外では南東隅で須恵器の羽釜口縁部破片が出土した。その西側で須恵器の甕もしくは羽釜体部破片が出土した。

カマド　位置　東壁で確認した。

規模　全長1.17m・最大幅0.78m・焚き口幅0.45m

袖　無し。

煙道　建物壁外に1.04m出る。

遺存状態　良好。燃焼部底には焼土塊を含む灰層が５㎝程堆積していた。燃焼部の両壁には４点ずつ計８点の楕円形円礫が立てられていた。煙道部出口付近にも１点円礫が据えられており、円礫によってカマドが構築されていた。支脚にも棒状の円礫が立てられ、石が剥き出しのままではなく、その上に逆位の土師器の椀が置かれていた。

遺物出土状態　燃焼部から須恵器の羽釜もしくは甕破片が多く出土した。埋没土の途中からのものであり、カマドに掛けられていたものの可能性も考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。

83号竪穴建物(図306・509、PL.418・544)

位置　623～627､-952～-955　**主軸方位**　Ｎ－77°－Ｗ

重複　無し。

規模　面積(9.52)㎡、長軸3.80m×短軸(2.92)ｍ×深さ0.48m

形状　隅丸長方形か。南北方向に長い。

埋没土　黒色土で、As-C多量、しまりあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　撹乱以外の所はほぼ全面硬化している面が確認された。土坑・ピット類は確認されなかった。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅５～15㎝×深さ２～５㎝で、撹乱部分を除きほぼ全周巡るものと考えられる。

遺物出土状態　カマド以外では北東隅で須恵器の椀もしくは杯破片が出土した。南側で須恵器の羽釜口縁部を含む大形破片が出土した。

カマド　位置　南東隅で確認した。

規模　全長0.64m・最大幅0.80m・焚き口幅0.42m
袖　無し。
煙道　建物壁外に0.38m出る。
遺存状態　不良。手前が撹乱により失われていた。燃焼部底には35㎝×30㎝のやや不定形の範囲に焼土塊を含む灰層が８㎝程堆積していた。燃焼部の奥壁と煙道部先端には角礫や円礫が確認された。支脚は確認できなかった。カマドの一部には円礫が使用されていたものの、どの程度礫が使用されていたのかは不明。
遺物出土状態　燃焼部から須恵器の羽釜もしくは甕小破片がわずかに出土した。燃焼部の埋没土の途中からのものであり、流れ込みの可能性が高いのではないかと考えられる。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期頃と考えられる。

84号竪穴建物（図306・307・510、PL.419・544・552）
位置　619～623、-954～-957　**主軸方位**　Ｎ－70°－Ｗ
重複　有り。179・184号土坑に先行し、７号掘立柱建物に後出する。
規模　面積(7.38)㎡、長軸3.17m×短軸(2.60)m×深さ0.36m
形状　隅丸長方形。南北方向に長い。
埋没土　暗褐色土で、As-C多量、くすんだ褐色土塊含む。
掘り方　底面からの深さ0.03m　有り。カマド前で床下土坑１を確認した。その規模は長径83㎝×短径(50)㎝×深さ17㎝、楕円形。
床面　撹乱や床下に土坑・ピット類がない南西部に硬化している面が確認された。床面では土坑・ピット類は確認されなかった。
貯蔵穴　無し。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　カマド以外では北壁で須恵器甕破片、西壁中央で内黒底部破片が各１点出土した。南西部で円形の磨石が１点出土した。それ以外には角礫や亜角礫が散漫に出土した。
カマド　位置　南東隅寄りで確認した。
規模　全長0.66m・最大幅(0.80)m・焚き口幅0.46m
袖　無し。
煙道　建物壁外に0.53m出る。
遺存状態　やや良。左手前が撹乱により失われていた。燃焼部の両壁には円礫が立てられており、支脚にも棒状の円礫が使用され上に逆位の須恵器の高台付椀が載せらていた。右手前に散っていた礫もカマドの構築材として使用されていたものと考えられる。
遺物出土状態　燃焼部から須恵器の椀と羽釜もしくは甕破片が出土した。それらの多くは構築材の一部として使用されていたものと考えられる。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期～11世紀初頭と考えられる。

85号竪穴建物（図307・308・511、PL.420・544・556）
位置　619～622、-948～-952　**主軸方位**　Ｎ－89°－Ｗ
重複　有り。92・97・98号竪穴建物に後出する。
規模　面積(8.27)㎡、長軸3.53m×短軸3.11m×深さ0.30m
形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。東辺が長くやや不整形。
埋没土　黒褐色土で、As-C多量、しまり・粘性共にあり。
掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。カマド左前で貯蔵穴を確認したが、埋没土の上層にしまりの強い暗褐色土があり、床下土坑の可能性も考えられる。
床面　建物中央にやや光沢を持つ硬化面が確認された。貯蔵穴以外に土坑・ピット類は確認されなかった。
貯蔵穴　有り。カマド左手前で確認した。その規模は下記の通りである。長径110㎝×短径72㎝×深さ28㎝、楕円形。最深部は北東隅である。埋没土上層に貼り床状のしまりの強い層があり、床下土坑の可能性も考えられる。
柱穴　無し。
周溝　有り。幅７～18㎝×深さ２～10㎝で、カマド両脇と西壁北部を除きほぼ全周する。
遺物出土状態　カマドや貯蔵穴以外では北東部で須恵器の甕破片やスラグ、中央部で須恵器の椀や羽釜破片・須恵器甕破片、南壁で須恵器や須恵器の椀破片が出土した。南東隅で胴部破片が出土した。
カマド　位置　東壁ほぼ中央で確認した。
規模　全長0.90m・最大幅0.68m・焚き口幅0.47m
袖　無し。
煙道　建物壁外に0.54m出る。
遺存状態　不良。燃焼部に焼土が８㎝程堆積していた。燃焼部奥の両壁には円礫が立てられており、その北壁の

礫には須恵器の高台の取れた椀が逆位に、南壁の礫の上には甕破片が載せられていた。支脚は確認できなかった。

遺物出土状態　燃焼部から須恵器の椀と甕破片等が出土した。礫と組み合わせて構築材として使用されていたものと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半、第３四半期頃と考えられる。

86号竪穴建物(図308・512、PL.421)

位置　638～641、-955～-958　**主軸方位**　Ｎ－66°－Ｗ

重複　有り。Ｐ21・24、173・174・176・185号土坑に先行する。

規模　面積(6.10)㎡、長軸(3.56)ｍ×短軸(2.20)ｍ×深さ0.35m

形状　隅丸長方形か。

埋没土　黒褐色土で、As-C多量、わずかにローム小塊含む。南壁寄りはややAs-Cが少なく、しまりあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　南壁中央手前に長径44㎝×短径37㎝、楕円形の焼土範囲が確認された。焼土範囲の周りにやや光沢を持つ硬化面が確認された。土坑・ピット類は確認されなかった。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　カマド以外では円礫や角礫が重複遺構部分以外から出土したが、床面よりも高い位置のものが多かった。須恵器の椀や甕の胴部破片がごくわずかに出土した。

カマド　位置　南東隅近くで確認した。

規模　全長0.50m・最大幅0.70m・焚き口幅0.33m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.38m出る。

遺存状態　不良。185号土坑と撹乱により焚き口から燃焼部北半は壊されていた。支脚は確認できなかった。建物壁内部から円礫や角礫が出土しているが、カマドで使用されていたか否かは不明である。

遺物出土状態　燃焼部から須恵器の椀破片が１点出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第２四半期頃と考えられる。

87号竪穴建物(図309・512、PL.422・544)

位置　625～628、-945～-948　**主軸方位**　Ｎ－86°－Ｗ

重複　有り。12号ピット・19号溝に先行する。

規模　面積(6.28)㎡、長軸(2.85)ｍ×短軸(2.56)ｍ×深さ0.18m

形状　隅丸方形か。東西方向に若干長い。

埋没土　黒褐色土で、As-C多量に含む。単一的。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　建物中央やや北寄りで黄灰色粘性土が散る範囲が円形に確認された。土坑・ピット類は確認されなかった。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　北壁中央で灰釉陶器の椀や須恵器の胴部破片、中央部やや東で須恵器の椀底部破片、南西部で灰釉陶器の椀底部破片が出土した。南西部で縄文土器片が出土した。円礫や角礫は撹乱より北側から出土したが、大形のものは床面に近く、小形のものは床面よりも高い位置のものが多かった。

カマド　位置　南東隅近くで確認した。

規模　全長(0.30)ｍ・最大幅(0.65)ｍ・焚き口幅0.30m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.25m入る。右袖は不明。

煙道　不明。

遺存状態　不良。燃焼部から煙道部は19号溝に壊されていた。支脚は確認できなかった。建物壁内部からも複数の円礫や角礫が出土しているが、カマドで使用されていたか否かは不明である。

遺物出土状態　燃焼部から須恵器の椀底部破片が1点出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

88号竪穴建物(図309・512、PL.423・544)

位置　632～635、-959～-962　**主軸方位**　Ｎ－81°－Ｗ

重複　有り。98号土坑・62号竪穴建物に先行する。

規模　面積(7.59)㎡、長軸3.16m×短軸(2.91)ｍ×深さ0.35m

形状　隅丸方形か。南北方向に若干長い。

埋没土　黒褐色土で、As-C多量に含む。しまりあり。As-Cは大粒のものが目立つ。

掘り方　底面からの深さ0.08m　有り。多少の凹凸は

あったものの、土坑・ピット類は確認されなかった。

床面　特に硬化した面は確認されず、土坑・ピット類も確認されなかった。

貯蔵穴　有り。南西部で確認された。長径(63)㎝×短径52㎝×深さ17㎝、楕円形。北西部は撹乱により失われていた。中央部で大形扁平円礫が出土した。土器片は縄文土器。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　円礫や亜角礫が出土したが、竪穴建物に伴うと考えられるものはほとんど確認されなかった。

カマド　位置　南東隅で確認した。

規模　全長(0.88)ｍ・最大幅(0.55)ｍ・焚き口幅0.35m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.21m出る。

遺存状態　不良。焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。支脚は確認できなかった。建物壁内部からも複数の円礫や角礫が出土しているが、カマドで使用されていたか否かは不明である。

遺物出土状態　カマド手前から燃焼部にかけて多くの円礫や亜角礫が出土したが、焼けているものが多く構築材として使用されていたものと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

89号竪穴建物(図310・512、PL.424・544・552・556)

位置　634～637､-956～-959　**主軸方位**　Ｎ－85°－Ｗ

重複　有り。Ｐ20・180号土坑に先行する。

規模　面積(8.06)㎡、長軸3.32m×短軸(3.06)ｍ×深さ0.25m

形状　隅丸方形。南北方向に若干長い。

埋没土　黒褐色土で、As-C多量に含む。底直上に薄いローム漸移層とAs-C混土の暗褐色土あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。南西隅で床下土坑１が確認された。その規模は長径57㎝×短径47㎝×深さ30㎝、楕円形。内部から大形の割れた礫が出土した。位置的にも貯蔵穴の可能性も否定できない。

床面　建物中央で長径28㎝×短径23㎝の不定形の範囲に焼土が確認された。その周りの長径95㎝×短径75㎝、楕円形の範囲とその南に長径73㎝×短径65㎝楕円形の範囲にロームが混じる部分が確認された。中央部を中心に周辺部を除きやや硬化した面が確認された。

貯蔵穴　不明。掘り方調査時に南西部で確認された床下土坑１はその可能性が否定できない。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　北壁中央手前で砥石、東壁中央で鉄器刀子、南壁中央で須恵器の甕底部破片が出土した。

カマド　位置　南東隅で確認した。

規模　全長(0.68)ｍ・最大幅(0.52)ｍ・焚き口幅0.37m

袖　無し。

煙道　建物壁外に(0.12)ｍ出る。

遺存状態　不良。煙道部は20号溝により壊されていた。焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。支脚は確認できなかった。大形の棒状礫は割られた円礫の上に載っていたものか。

遺物出土状態　カマド左側から大形土器片が出土したが、カマドの構築材として使用されていたものと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

90号竪穴建物(図311・513、PL.425・545)

位置　602～605､-957～-960　**主軸方位**　Ｎ－60°－Ｗ

重複　有り。73号竪穴建物に先行する。

規模　面積6.87㎡、長軸2.93m×短軸2.82m×深さ0.42m

形状　隅丸方形。東西方向に若干長い。

埋没土　上層は暗褐色土で、褐色土塊を斑に含む。下層はくすんだロームと褐色土の混土、しまり弱い。

掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。カマド右前で床下土坑１、左前で床下土坑２が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径74㎝×短径50㎝×深さ13㎝､楕円形。

床下土坑２は長径50㎝×短径38㎝×深さ21㎝､楕円形。

床面　特に硬化した面は確認されなかった。土坑・ピット類は確認されなかった。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　北壁中央で甕底部破片、北東隅で須恵器椀、南壁中央手前で須恵器椀、カマド手前で内黒の椀等

が出土した。いずれも床面よりも高い位置のものが多かった。

カマド　位置　東壁南寄りで確認した。

規模　全長(0.38)m・最大幅(0.63)m・焚き口幅0.40m

袖　無し。

煙道　建物壁外に(0.32)m出る。

遺存状態　不良。煙道部は調査区外で確認できなかった。燃焼部には灰を含む焼土塊が５㎝程残存していた。燃焼部の両壁には円礫が立てられていた。支脚は確認できなかった。

遺物出土状態　右手前で須恵器椀が正位で出土した。燃焼部左壁側から多数の須恵器の羽釜破片、右壁側からは須恵器の椀が複数出土した。須恵器の羽釜はカマドに掛けられていたものの可能性がある。正位の椀の上に逆位の椀が載っていたものもあり、カマドの構築材として使用されていた可能性が考えられる。

備考　所属時期　椀の小形化、出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

91号竪穴建物(図312・514、PL.409・414・426・545)

位置　612～615､-958～-961　**主軸方位**　Ｎ－70°－Ｅ

重複　有り。189号土坑・77・80号竪穴建物に先行する。

規模　面積(7.29)㎡、長軸(3.75)m×短軸2.41m×深さ0.41m

形状　隅丸長方形。南北方向に長い。

埋没土　上層は暗褐色土で、As-C多量、変色褐色土塊を斑に含む。下層は黒褐色土で、As-C多量、変色褐色土塊をわずかに含む。周辺部壁寄りは暗褐色土で、As-C及び褐色土塊の量も少ない。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　カマド手前で建物南半に南北2.10m×東西1.45mの範囲に硬化した面が確認された。土坑・ピット類は確認されなかった。

貯蔵穴　有り。南西隅に貯蔵穴１、南東隅で貯蔵穴２が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

貯蔵穴１は長径68㎝×短径51㎝×深さ18㎝、楕円形。南壁側で須恵器甕破片が出土した。

貯蔵穴２は長径52㎝×短径37㎝×深さ12㎝、楕円形。土器小破片出土。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅10～15㎝×深さ３～６㎝で、東壁と西壁で確認された。

遺物出土状態　南壁中央で須恵器椀・甕破片等、西壁中央手前で須恵器甕破片が出土した。いずれも床面よりも高い位置のものが多かった。

カマド　位置　東壁南寄りで確認した。

規模　全長0.69m・最大幅0.60m・焚き口幅0.36m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.60m出る。

遺存状態　やや良好。燃焼部の壁と底面は焼けて薄く赤味を帯びていた。燃焼部の壁には円礫が立てられていた。燃焼部中央で倒れた棒状の円礫が確認された。支脚の可能性が考えられる。

遺物出土状態　燃焼部からその南側にかけて多数の須恵器の羽釜や甕破片が複数出土した。カマドに掛けられていたものの可能性がある。カマドの構築材として使用されていた可能性は少ないのではないかと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

92号竪穴建物(図313・514、PL.427・545・552)

位置　618～620､-948～-952　**主軸方位**　Ｎ－89°－Ｗ

重複　有り。85号竪穴建物に先行し、96・98号竪穴建物に後出する。

規模　面積(1.86)㎡、長軸(2.95)m×短軸(1.60)m×深さ0.30m

形状　隅丸方形か。南北方向に長い。

埋没土　黒褐色土で、As-C多量に含む。しまりあり。

掘り方　底面からの深さ0.02m　有り。残存部分で土坑・ピット類は確認されなかった。

床面　残存部分で特に硬化した面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。

貯蔵穴　有り。南東隅で貯蔵穴が確認された。その規模は下記の通りである。

長径56㎝×短径54㎝×深さ26㎝、楕円形。須恵器と灰釉陶器の高台付椀が出土した。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　南壁中央で須恵器甕破片、貯蔵穴西側で須恵器杯が逆位で出土した。貯蔵穴北側東壁で小形の丸石が出土した。

カマド　位置　東壁で確認した。

規模　全長(0.64)ｍ・最大幅(0.90)ｍ・焚き口幅(0.55)ｍ

袖　有り。左袖は不明。右袖は建物壁内に0.12ｍ入る。

煙道　建物壁外に0.59ｍ出る。

遺存状態　不良。手前は85号竪穴建物に壊されており、確認できなかった。燃焼部と煙道部の境目は段になる。

遺物出土状態　燃焼部で須恵器の甕もしくは羽釜の破片が複数出土した。カマドの構築材の一部として使用されていた可能性はあると考えられる。

備考　**所属時期**　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

93号竪穴建物(図313・515、PL.428・545・556)

位置　627～629､-953～-955　**主軸方位**　Ｎ－71°－Ｅ

重複　有り。76・82号竪穴建物に先行する。

規模　面積(1.20)㎡、長軸(2.19)ｍ×短軸(1.41)ｍ×深さ0.18ｍ

形状　隅丸方形か。

埋没土　暗褐色土で、As-C多量、焼土粒含む。しまりあり。

掘り方　底面からの深さ0.00ｍ　無し。

床面　残存部分で特に硬化した面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。

貯蔵穴　有り。南東部で貯蔵穴が確認された。その規模は下記の通りである。

長径61㎝×短径57㎝×深さ12㎝、円形。土師器の甕破片が出土した。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　貯蔵穴の西側で小破片がわずかに出土した。

カマド　**位置**　東壁南寄りで確認した。

規模　全長0.62ｍ・最大幅0.65ｍ・焚き口幅0.43ｍ

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.51ｍ出る。

遺存状態　不良。手前は82号竪穴建物に壊されていたが、カマドは残存していた。燃焼部は良く焼けており、底面には焼土が10㎝程残存していた。煙道部の出口には大形の割れた円礫が置かれていた。

遺物出土状態　燃焼部北壁で須恵器の椀、甕もしくは羽釜の破片が複数出土した。壁に貼り付いたように出土したものは、カマドの構築材の一部として使用されていた可能性はあると考えられる。

備考　**所属時期**　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。

94号竪穴建物(図314・515、PL.429・545)

位置　629～630､-954～-955　**主軸方位**　Ｎ－82°－Ｅ

重複　有り。76・82号竪穴建物に先行する。

規模　面積(0.48)㎡、長軸(1.26)ｍ×短軸(0.76)ｍ×深さ0.14ｍ

形状　隅丸方形か。

埋没土　暗褐色土で、As-C多量、焼土粒わずかに含む。しまりあり。

掘り方　底面からの深さ0.00ｍ　無し。

床面　残存部分で特に硬化した面は確認されなかった。

貯蔵穴　有り。南東隅で貯蔵穴が確認された。その規模は下記の通りである。

長径93㎝×短径73㎝×深さ26㎝、楕円形。土師器の甕胴部破片が出土した。

柱穴　不明。

周溝　不明。

遺物出土状態　カマド及び貯蔵穴以外遺物は出土しなかった。

カマド　**位置**　東壁南寄りで確認した。

規模　全長(0.79)ｍ・最大幅(0.61)ｍ・焚き口幅(0.34)ｍ

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.69ｍ出る。

遺存状態　不良。手前は撹乱及び76号竪穴建物に壊されていた。燃焼部は良く焼けており、底面には焼土小塊を含む土が７㎝程残存していた。燃焼部と煙道部の境目は段になる。

遺物出土状態　燃焼部から土師器の甕胴部破片が複数出土した。南壁に貼り付いたように出土したものは、カマドの構築材の一部として使用されていた可能性はあると考えられる。

備考　**所属時期**　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

95号竪穴建物(図314・515・516、PL.429・430・545・556)

位置　630～632､-937～-939　**主軸方位**　Ｎ－84°－Ｅ

重複　有り。18号溝に先行する。

規模　面積(5.04)㎡、長軸(2.95)ｍ×短軸(2.80)ｍ×深さ0.35m

形状　隅丸長方形か。

埋没土　上層は暗褐色土で、As-C多量、焼土粒わずかに含む。しまり弱い。下層は黒褐色土で、ローム小塊を斑に含む。ややしまりあり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　東側の調査区外寄りで長径97㎝×短径97㎝の粘土散布範囲が、貯蔵穴北側で長径(38)㎝×短径(29)㎝の灰が散る範囲が確認された。残存部分で特に硬化した面は確認されなかった。

貯蔵穴　有り。南東隅で貯蔵穴が確認された。その規模は下記の通りである。

長径78㎝×短径74㎝×深さ23㎝、円形。角礫及び須恵器椀と杯、瓦、刀子が出土した。

柱穴　不明。

周溝　無し。

遺物出土状態　建物中央で灰釉陶器の高台付椀底部が出土した。

カマド　位置　東壁灰層奥の調査区外にあるものと想定される。

規模　全長不明ｍ・最大幅不明ｍ・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第2四半期頃と考えられる。

96号竪穴建物(図315・316・516～518、PL.431・432・546・552)

位置　613～620、-947～-952　**主軸方位**　Ｎ－71°－Ｗ

重複　有り。302号土坑、78・85・92・98・99号竪穴建物に先行する。

規模　面積(20.84)㎡、長軸5.66m×短軸4.52m×深さ0.58m

形状　隅丸長方形。大形。北辺が長く、南辺が短い。若干歪む。

埋没土　上層は暗褐色～褐色土で、As-C多量、ローム小塊を含む。下半の方がローム塊を含む割合は多く、ややしまりあり。下層は灰黄褐色土で灰白色粘性土塊を含む。

掘り方　底面からの深さ0.08m　有り。建物中央南壁寄りで床下土坑１、その北側で床下土坑２、更にその北側で床下土坑３を確認した。床下土坑１は床下土坑２に後出し、床下土坑３は床下土坑２に先行する。

床面　残存部分で特に硬化した面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　有り。幅９～23㎝×深さ１～５㎝で、東壁から西壁まで巡る。南壁は推定線であり、本来あったものが削平されて残存していない可能性は考えられる。

遺物出土状態　北東部で須恵器椀、中央部で須恵器杯・灰釉陶器の高台付椀、北西部で須恵器杯･灰釉陶器の皿･スラグ、中央南壁寄りで須恵器杯等多数の遺物が出土した。出土位置は高いものが多い。

カマド　位置　東壁南寄りで確認した。

規模　全長(0.52)ｍ・最大幅(1.86)ｍ・焚き口幅(0.90)ｍ

袖　有り。左袖は建物壁内に0.40m入り、右袖は0.35m入る。

煙道　建物壁外に0.48m出る。

遺存状態　不良。燃焼部左半は良く焼けており、底面には焼土が10㎝程残存していた。煙道部は調査区外。

遺物出土状態　燃焼部から須恵器高台付椀の底部破片及び瓦が出土した。燃焼部両壁に円礫が顔を出しており、瓦と共にカマドの構築材として使用されていたものと考えられる。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。

98号竪穴建物(図316・518・519、PL.431・433・434・546)

位置　617～620、-946～-949　**主軸方位**　Ｎ－2°－Ｗ

重複　有り。302号土坑・19号溝・85・92・97号竪穴建物に先行する。

規模　面積(3.11)㎡、長軸(2.66)ｍ×短軸(2.92)ｍ×深さ0.32m

形状　隅丸長方形か。東西方向に若干長い。

埋没土　上層は黒色土で、As-C多量に含む。下層は暗褐色土でローム小塊をわずかに含み、やや硬くしまる。壁際は暗褐色土でAs-C少なく、ローム小塊をわずかに

含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　残存部分で特に硬化した面は確認されなかった。土坑・ピット類も確認されなかった。

貯蔵穴　不明。

柱穴　不明。

周溝　無し。

遺物出土状態　残存部の北西部で灰釉陶器皿、中央部で須恵器甕口縁部破片・須恵器の椀・羽釜破片、東壁寄りで須恵器の椀・羽釜破片等多数の遺物が出土した。出土位置は高いものが少なく床面直上のものが多かった。

カマド　位置　南東隅で確認した。

規模　全長(0.70)ｍ・最大幅(1.20)ｍ・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　建物壁外に0.60m出る。

遺存状態　不良。焚き口から燃焼部にかけて302号土坑及び96号竪穴建物により壊されていた。カマドの向きも不明瞭である。残存部分右手側で長径47㎝×短径38㎝×深さ８㎝、楕円形の凹み、左手側で長径42㎝×短径29㎝×深さ３㎝、楕円形の凹みが確認された。

遺物出土状態　燃焼部から須恵器の椀･多数の羽釜破片･灰釉陶器皿等が出土した。椀や皿は正位のものであり、羽釜は割れて散っている感じであった。椀や皿は置かれたもので、羽釜はカマドに掛けられていたものが割れて散ったものか。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

99号竪穴建物(図317・520、PL.435・547)

位置　612～620､-947～-950　**主軸方位**　Ｎ－73°－Ｅ

重複　有り。78・96号竪穴建物に後出する。

規模　面積(4.05)㎡、長軸(3.62)ｍ×短軸(2.56)ｍ×深さ0.70m

形状　隅丸長方形か。

埋没土　上層は黒褐色～暗褐色土で、As-C多量に含む。下層は暗褐色土でAs-Cをわずかに含む。断面に見える立てられた円礫と焼土範囲は別の竪穴建物のカマドの可能性が考えられる。

掘り方　底面からの深さ0.08m　有り。貼り床の下に東から床下土坑１・床下土坑２が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径(150)㎝×短径(120)㎝×深さ58㎝、楕円形。

床下土坑２は長径104㎝×短径94㎝×深さ70㎝、楕円形。

床面　残存部分で貼り床が認められた。北壁中央で焼土部分が確認された。断面にＰ１が確認された。その規模は長径48㎝×短径(28)㎝×深さ32㎝、楕円形か。手前1/2のみ調査のため全体の形は不明。須恵器椀が２点逆位で出土した。

貯蔵穴　不明。

柱穴　不明。

周溝　無し。

遺物出土状態　北壁焼土部分から須恵器甕破片、西壁78号竪穴建物との境目で須恵器甕破片、土層断面中央部手前で鉄片とやや大形の円礫が出土した。Ｐ１の西側で須恵器の杯・椀底部破片等が出土した。その位置は床面よりも高いものが多かった。

カマド　位置　不明。

規模　全長不明ｍ・最大幅不明ｍ・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

170号竪穴建物(図318・521、PL.436・547)

位置　616～620､-956～-960　**主軸方位**　Ｎ－80°－Ｗ

重複　有り。79・80号竪穴建物に先行する。７号掘立柱建物との前後関係は不明。

規模　面積(7.99)㎡、長軸(4.01)ｍ×短軸(2.86)ｍ×深さ0.40m

形状　隅丸長方形か。

埋没土　上層は黒褐色土で、As-C･褐色土塊多量に含む。下層は暗褐色土でAs-Cを多量に含む。

掘り方　底面からの深さ0.08m　有り。東壁中央手前で粘性土を含む土により埋められていた床下土坑１、貯蔵穴2の西側かつ南壁手前で床下土坑２が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径78㎝×短径69㎝×深さ20㎝､楕円形。南側で小形角礫１点出土。

床下土坑２は長径106㎝×短径105㎝×深さ19㎝、楕円形。東側で須恵器甕口縁部破片出土。

床面　残存部分でわずかに貼り床が認められた。建物中央でＰ１・Ｐ２・Ｐ３が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径40㎝×短径33㎝×深さ20㎝、楕円形。中央部から鉄滓出土。

Ｐ２は長径67㎝×短径53㎝×深さ31㎝、楕円形。

Ｐ３は長径26㎝×短径25㎝×深さ57㎝、円形。かなり深い。柱穴の可能性あり。

貯蔵穴　有り。北東隅で貯蔵穴１、南東隅で貯蔵穴２を確認した。それぞれの規模は下記の通りである。

貯蔵穴１は長径92㎝×短径63㎝×深さ60㎝、隅丸長方形。土器小破片と円礫出土。

貯蔵穴２は長径90㎝×短径67㎝×深さ64㎝、楕円形。底面は隅丸長方形。須恵器杯・高台のみ・底部破片及びやや大形の円礫出土。

柱穴　不明。床面で確認したＰ３が掘り方もしっかりしており深く、その可能性がある。

周溝　有り。幅９～15㎝×深さ２～４㎝で、東壁から北壁まで反時計回りに巡る。

遺物出土状態　貯蔵穴１の西側から小形の鉄片が出土した。それ以外は散漫に土器小破片がわずかに出土したのみであった。

カマド　位置　不明。西側の撹乱部分か。

規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀第４四半期頃と考えられる。

171号竪穴建物（図319・320・521、PL.437・547）

位置　631～635、-946～-951　**主軸方位**　Ｎ－78°－Ｗ

重複　有り。197号土坑に先行し、173・175号竪穴建物に後出する。

規模　面積(14.74)㎡、長軸(4.35)m×短軸(4.26)m×深さ0.58m

形状　隅丸方形か。

埋没土　上層は暗褐色土で、As-C多量に含む。しまりあり。壁際は暗褐色土でやや黒味が強く、As-Cを少量含む。

掘り方　底面からの深さ0.08m　有り。中央部が不定形に凹む。

床面　残存部分でわずかに貼り床が認められた。南西部でＰ１が確認された。その規模は長径58㎝×短径56㎝×深さ20㎝、円形。須恵器杯もしくは椀が正位で出土。

貯蔵穴　有り。南西部でＰ１の北側で貯蔵穴を確認した。その規模は長径66㎝×短径56㎝×深さ38㎝、楕円形。須恵器椀底部破片と円礫２点出土。

柱穴　不明。

周溝　有り。幅９～13㎝×深さ２～３㎝で、東壁中央の一部のみで確認した。

遺物出土状態　東側で須恵器甕体部破片、北西隅で須恵器小形杯・体部破片、中央部で須恵器甕破片・杯底部破片、小形杯・杯底部破片・須恵器椀破片、南西部で須恵器杯破片等が出土した。東側よりも西側が多く、いずれも床面よりもかなり高いものが多かった。

カマド　位置　東壁南寄りで確認した。

規模　全長1.36m・最大幅0.62m・焚き口幅0.30m

袖　無し。

煙道　建物壁外に0.85m出る。

遺存状態　やや良好。焚き口から燃焼部にかけて緩やかに凹む。焚き口には焼土粒を多く含む灰層が５㎝前後堆積していた。支脚は残存していなかったが、多くの礫が確認された。燃焼部両壁には円礫や角礫が使用された石組みカマドと考えられる。

遺物出土状態　燃焼部から土器小片が出土したのみであった。

備考　所属時期　出土遺物から11世紀前半頃と考えられる。

173号竪穴建物（図320・321・521・522、PL.438・439・547）

位置　632～636、-948～-952　**主軸方位**　Ｎ－82°－Ｗ

重複　有り。171号竪穴建物に先行し、175号竪穴建物に後出する。

規模　面積(14.65) ㎡、長軸(4.22)m×短軸3.96m×深さ0.35m

形状　隅丸長方形。東西方向に長い。

埋没土　黒褐色土で、As-C多量に含む。わずかにローム小塊を含む。壁際は暗褐色土で、ローム小塊を多量、

As-Cをわずかに含む。

掘り方　底面からの深さ0.05m　有り。南西部で床下土坑１～３及びＰ７～10が確認された。他に径20～30cmで深さ10cm程度の小ピットが７基程ある。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径88cm×短径(73)cm×深さ50cm、楕円形。床下土坑２・３に後出する。

床下土坑２は長径56cm×短径(43)cm×深さ35cm､円形。床下土坑１に先行し、床下土坑３に後出する。

床下土坑３は長径(93)cm×短径72cm×深さ８cm、隅丸長方形。極浅い。床下土坑１・２に先行する。

Ｐ３は長径26cm×短径25cm×深さ12cm、円形。

Ｐ４は長径(31)cm×短径28cm×深さ31cm､円形。深い。Ｐ１に先行する。

Ｐ５は長径30cm×短径22cm×深さ31cm､楕円形。深い。Ｐ２に先行する。

Ｐ６は長径29cm×短径22cm×深さ45cm、楕円形。底部最深部は東寄り。深い。

Ｐ７は長径42cm×短径38cm×深さ19cm、円形。床下土坑２・Ｐ８に後出する。

Ｐ８は長径(22)cm×短径19cm×深さ17cm、円形。Ｐ７に先行する。

Ｐ９は長径23cm×短径20cm×深さ24cm、楕円形。Ｐ10に先行する。

Ｐ10は長径33cm×短径28cm×深さ54cm、楕円形。かなり深い。Ｐ９に後出する。

それ以外に西壁北西隅から1/3程のところから東に幅17～25cm×深さ８～14cm、長さ1.75mと0.63mの溝、北壁中央から南へ幅約20cm×深さ約６cm､長さ0.85mの溝、西壁と床下土坑３との間に幅13cm×深さ４～８cm、長さ0.57mの溝が確認された。前２者は仕切り溝、後者は内側の周溝かと考えられる。

床面　床下に土坑・ピット類が無い部分では比較的良く硬化していた。北半部で約1.30mの間を開けてＰ１及びＰ２が確認された｡それぞれの規模は下記の通りである。

Ｐ１は長径42cm×短径36cm×深さ37cm、楕円形。

Ｐ２は長径41cm×短径34cm×深さ47cm、楕円形。最深部は東寄り。北側で小形円形磨石出土。

貯蔵穴　有り。カマド右脇で確認した。その規模は長径86cm×短径80cm×深さ24cm、楕円形。須恵器椀底部破片と円礫２点出土。

柱穴　不明。床面で確認したＰ１・Ｐ２がその可能性が高いが、南側に対応するものが無い。掘り方調査時に確認したＰ４・５・６・10も深く、柱穴の可能性は否定できない。

周溝　有り。幅８～20cm×深さ１～10cmで、北東隅から南壁中央まで反時計回りに巡る。

遺物出土状態　北東隅で須恵器底部破片、カマド左手前で須恵器底部破片、西壁寄りで須恵器甕破片、南壁寄りで須恵器甕や杯等の破片が出土した。東側よりも西側が多く、いずれも床面に近いものが多かった。

カマド　位置　東壁中央やや北寄りで確認した。

規模　全長0.60m・最大幅0.88m・焚き口幅0.12m

袖　有り。左袖は建物壁内に0.58m入り、右袖は0.62m入る。

煙道　建物壁外にほとんど出ない。

遺存状態　やや良好。焚き口から燃焼部にかけて焼土粒はわずかに残存していた。支脚は残存していなかった。両袖は粘土により構成されており、袖の残りは良好であったが、壁や底面の焼土の残存状況からあまり長期間使用されていないものと考えられる。

遺物出土状態　焚き口手前須恵器杯底部破片が出土したが、燃焼部からの出土は無かった。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

174号竪穴建物(図322・523、PL.440・547)

位置　631～633､-980～-981　**主軸方位**　Ｎ－80°－Ｗ

重複　無し。

規模　面積(0.90)㎡、長軸(1.80)ｍ×短軸(0.93)ｍ×深さ0.13m

形状　隅丸方形か。全体の形状は不明。

埋没土　暗褐色土で、As-C少量含む。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。

床面　カマド周辺のみの調査で硬化した面や土坑・ピット類は確認されなかった。

貯蔵穴　不明。

柱穴　不明。

周溝　不明。

遺物出土状態　カマド右手東壁手前で数点の土器小片が出土した。

カマド　位置　東壁で確認した。

規模　全長0.42m・最大幅0.80m・焚き口幅0.55m
袖　有り。左袖は不明。右袖は建物壁内に0.16m入る。
煙道　建物壁外に0.25m出る。
遺存状態　不良。両側が撹乱により壊されていた。天井は残存していなかった。燃焼部の壁は焼けていたが、底面には焼土や灰はほとんど残存していなかった。燃焼部右手の礫は支脚の可能性がある。燃焼部奥壁及びカマド手前で円礫や亜角礫が確認され、石組みカマドと考えられる。
遺物出土状態　焚き口から燃焼部にかけて須恵器の羽釜破片が複数出土した。構築材というよりもカマドに掛けられていた可能性が考えられる。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

175号竪穴建物（図322・323・523、PL.440・441・548）
位置　631～636、-946～-949　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｅ
重複　有り。171・173号竪穴建物に先行する。
規模　面積（5.20）㎡、長軸（4.50）m×短軸（1.55）m×深さ0.35m
形状　隅丸長方形か。全体の形状は不明。
埋没土　黒褐色土で、As-C多量に含む。壁際は暗褐色土でAs-C少量、ローム小塊を多く含む。
掘り方　底面からの深さ0.00m　有り。南側で床下土坑１・２が確認された。それぞれの規模は下記の通りである。

床下土坑１は長径85㎝×短径70㎝×深さ25㎝、楕円形。床下土坑２に先行する。

床下土坑２は長径93㎝×短径88㎝×深さ25㎝、円形。須恵器小破片出土。床下土坑１に後出する。

床面　171・173号竪穴建物と重複していない部分は北壁寄りの極一部のみであり、硬化した面や土坑・ピット類は確認されなかった。
貯蔵穴　有り。南東隅で確認した。その規模は、長径68㎝×短径65㎝×深さ60㎝、円形。中段あり。
柱穴　不明。173号竪穴建物との重複部分にはピットが多数あったが、171号竪穴建物との重複については確認できなかった。
周溝　無し。
遺物出土状態　北東部の撹乱の西側で椀底部破片等が出土した。
カマド　位置　東壁ほぼ中央で確認した。
規模　全長0.74m・最大幅0.48m・焚き口幅0.35m
袖　無し。
煙道　建物壁外に0.60m出る。
遺存状態　不良。171号竪穴建物により壊されていた。天井は残存していなかった。燃焼部の壁は焼けていなかった。底面にも焼土や灰はほとんど残存していなかった。燃焼部右手の礫は支脚の可能性がある。焚き口左手入口に焼けた円礫が立てられており、他にも円礫が使用されていた可能性はあるが、不明。掘り方はやや幅広になり、建物壁内側は段になって下がる。礫を設置したような小ピットも確認されなかった。
遺物出土状態　燃焼部で須恵器大甕の破片及び羽釜の破片が出土した。構築材というよりもカマドに掛けられていた可能性が考えられる。
備考　所属時期　出土遺物から10世紀第３四半期頃と考えられる。

225号竪穴建物（図323・324・523、PL.442・443・548）
位置　636～638、-950～-952　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｗ
重複　有り。239号竪穴建物に後出する。
規模　面積（3.21）㎡、長軸（2.21）m×短軸1.97m×深さ0.20m
形状　隅丸長方形。南北方向に長い。
埋没土　中心部は黒褐色土で、ローム粒多量に含む。しまり弱く、粘性あり。周辺部はにぶい黄褐色土でAs-C少量、しまり強く、粘性あり。
掘り方　底面からの深さ0.15m　有り。ローム塊や黒色土を含む灰黄褐色土により埋められていたが、土坑・ピット類は確認されなかった。
床面　ほぼ全面やや硬化していた。土坑・ピット類は確認されなかった。
貯蔵穴　無し。
柱穴　無し。
周溝　無し。
遺物出土状態　カマド及びその周辺以外遺物は出土しなかった。
カマド　位置　東壁南寄りで確認した。
規模　全長0.69m・最大幅0.60m・焚き口幅0.35m
袖　有り。左袖無し。右袖は建物壁内に0.31m入る。
煙道　建物壁外に0.42m出る。

遺存状態　不良。天井は残存していなかった。燃焼部右寄り底面には焼土を含む褐色土が８㎝程残存していた。掘り方は一回り大きくなる。礫を設置したような小ピットは確認されず､使用していなかったものと考えられる。

遺物出土状態　燃焼部で土師器甕胴部破片が出土した。掘り方調査時に亜角礫と土師器の甕大形破片が出土した。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半以降と考えられる。

239号竪穴建物（図324、PL.443）

位置　636～638､-950～-952　**主軸方位**　Ｎ－73°－Ｗ

重複　有り。235号竪穴建物に先行する。

規模　面積(2.83) ㎡、長軸(3.18)ｍ×短軸(1.20)ｍ×深さ0.28m

形状　隅丸長方形か。

埋没土　上層は黒褐色土で、ローム小塊・As-C少量に含む。しまり強く、粘性あり。下層はにぶい黄褐色土でローム塊少量、焼土小塊微量含む。しまり弱く、粘性あり。壁際周辺部はにぶい黄褐色土でローム塊多量、しまり弱く、粘性あり。

掘り方　底面からの深さ0.00m　無し。土坑・ピット類は確認されなかった。

床面　ほぼ全面やや硬化していた。南西部で長径35㎝×短径34㎝の粘土範囲が確認された。土坑・ピット類は確認されなかった。

貯蔵穴　無し。

柱穴　無し。

周溝　無し。

遺物出土状態　南西部の粘土範囲の上で円礫１点、北側で２点、南側壁で１点の計３点の土師器甕胴部破片等が確認された。

カマド　位置　土層断面から東壁南寄りに存在するものと考えられる。

規模　全長不明m・最大幅不明m・焚き口幅不明m

袖　不明。

煙道　不明。

遺存状態　不明。

遺物出土状態　不明。

備考　所属時期　出土遺物から10世紀後半頃と考えられる。

６　掘立柱建物・ピット列

掘立柱建物は12棟確認されたが、主軸向きの違うものが重複している部分があるので、大きく分けて２時期あるものと考えられる。一つは主軸が北東もしくは北西を向く一群であり、数も多い。かなり離れた位置にも主軸方向を同じくして建つものもある。複数の掘立柱建物が纏まるのが、Ｆ区中央南部からＧ２区にかけてである。Ｇ１区では軒を並べて建つ２号掘立柱建物と３号掘立柱建物があり、その北側から北西側には２間×２間の総柱の掘立柱建物２棟、北側に１棟が建つ。その南西側には12号掘立柱建物と１～３号柵列とされたピット列が並ぶ。12号掘立柱建物から南東側に直角に折れ曲がるように８号掘立柱建物と11号掘立柱建物が並ぶ。その南側にも道があり、その道に面していた可能性が考えられる。ほぼ一直線に並ぶ２棟の建物の間がやや広めに開いているのはそこに入口があったからと考えられないであろうか。これらの建物の配置は細長い建物や倉庫によって囲まれた何らかの特別な空間を意識するものとなっているようにも見える。12号掘立柱建物から南西側に離れた９・14号掘立柱建物やさらにその先に離れた７号掘立柱建物も軸を北東に向けて建っている。これは何を意味しているか。もしかしたら時期が同じということだけでなく、その西側に道があったからと考えられないであろうか。一直線の通りに面するように建物を建てたからとすれば綺麗に向きを同じくして建っているのは納得できる。道の反対側に同じように建ち並ぶものはなく、道幅は特定できない。その推定される道がＦ区で曲げざるを得ないのは直線だと65号墳に当たってしまうからではないかと思われる。古墳の脇を通るのであれば問題ない。古墳のある場所が昔の貴人の墓、聖域であるという認識があったから敢えて壊すことを避けたのではないかと考えられる。そもそも古墳が現在まで残っていること自体がその場所は手を付けてはいけないところ、聖域だという認識があったからではないだろうか。９号掘立柱建物を中心として北東側に165号竪穴建物、南西側に14号掘立柱建物があり、これらの建物は一定の間隔を保ち、軸を同じくしており、この３棟で１軒をなしていた可能性も考えられる。165号竪穴建物と13号掘立柱建物は軸が異なり、13号掘立柱建物の北西隅の柱は165号竪穴建物に近過ぎ

る位置にあるので、全く同時に存在した可能性は低いのではないかと考えられる。

また、Ｇ２区10号掘立柱建物は８・11号掘立柱建物と重複する。主軸は若干西側に傾くものの、ほぼ東西南北の軸を合わせて建っている。もしかしたら当時の磁北に合っているのではなかろうか。Ｇ３区からＧ４区にかけて東西に走る５号道やそれに直交するであろう南北に走る２号道と軸を同じくするものであり、５号道から北上し、23・24・27・38号と連続する溝が建物の西側を通る。10号掘立柱建物の向きはこの27号溝と一定の幅を保って平行するように建っている。建物の南西コーナーにはその部分を覆い隠すように「Ｌ」字に４号ピット列が並ぶ。建物との間は南側が狭く、西側が広くなっているので、本体と一緒に同時に屋根を掛けることはできない。西側の列は本体の柱と並ばないものが多いが、南側のものは綺麗に並ぶ。西側のものは部分的な庇よりも目隠し、柵状のピット列と考えられないであろうか。南側も同じものの可能性はあるが、本体の柱の外側に綺麗に並ぶので部分的な庇の可能性も否定できない。両側溝が付属する道が東西南北に整備されたのとほぼ同時のものと考えられる。他にこの掘立柱建物と主軸を同じくする掘立柱建物はなく、軸を同じくするのは、四隅がかなり角張る特徴的な竪穴建物が周辺に数棟あり、それらとセットとなり機能していた可能性も考えられる。

Ｆ区

１号掘立柱建物（図325、PL.444）

位置　762～767、-841～-846　**主軸方位**　Ｎ－17°－Ｗ

重複　有り。８号竪穴建物に先行する。

規模　面積9.06㎡、2間2.98m×2間2.99m

形状　ほぼ正方形。総柱建物。

柱穴　埋没土は黒褐色土で、As-C及びローム粒を少量含むものが多い。柱痕はＰ１～４・６・８・９で確認されたが、Ｐ５・７・10では痕跡は確認できなかった。柱痕部分はその脇に比べてしまりは弱い。柱穴と柱穴の心心の間を計測した。

Ｐ１　長径70㎝×短径64㎝×深さ53㎝、円形。柱痕幅12～20㎝。柱痕先端丸味を持ち、底面まで至る。Ｐ２との間158㎝。

Ｐ２　長径60㎝×短径55㎝×深さ42㎝、円形。柱痕幅18～25㎝。先端丸味を持ち、途中までで止まる。Ｐ３との間150㎝。

Ｐ３　長径70㎝×短径53㎝×深さ55㎝、楕円形。中段有り。南側に最深部。柱痕幅25㎝。底面まで至る。Ｐ７との間151㎝。

Ｐ４　長径67㎝×短径52㎝×深さ36㎝、楕円形。中段有り。中央部の最深部は円形。柱痕幅22～５㎝。先端が尖る。Ｐ１との間147㎝。Ｐ５との間154㎝。Ｐ６との間141㎝。Ｐ８との間149㎝。

Ｐ５　長径35㎝×短径32㎝×深さ15㎝、円形。Ｐ２との間148㎝。Ｐ６との間30㎝。Ｐ７との間152㎝。Ｐ９との間149㎝。

Ｐ６　長径30㎝×短径27㎝×深さ22㎝、隅丸方形。柱痕幅17㎝。先端尖る。Ｐ２との間168㎝。Ｐ７との間167㎝。Ｐ９との間140㎝。

Ｐ７　長径59㎝×短径44㎝×深さ20㎝、楕円形。中央部円形。Ｐ３との間151㎝。Ｐ10との間148㎝。

Ｐ８　長径60㎝×短径58㎝×深さ51㎝、円形。柱痕幅28～8㎝。先端尖る。途中まで止まる。Ｐ９との間149㎝。

Ｐ９　長径59㎝×短径52㎝×深さ42㎝、円形。柱痕幅24～15㎝。先端平坦。Ｐ10との間149㎝。

Ｐ10　長径80㎝×短径59㎝×深さ23㎝、楕円形。中段有り。北側に最深部。柱痕無し。

柱痕は先端が尖っているものがあるだけでなく、縦横の幅の違うものもあり、丸木の先端を削っただけでなく、割材などを用いて長方形に加工した角柱を立てた可能性も考えられる。

柱は心心を通るものであり、建物は梁や桁などの材がかなり正確に組まれていた可能性が高いものであり、総柱の建物であった。中心のＰ５とＰ６は他の柱穴に比べると規模は小さく浅いものであった。Ｐ７とＰ10は地形が下がっており、８号竪穴建物とも重複していることもあり、判然としないが、それ以外のものは側柱が太く大きいものが使用されていた可能性が考えられる。

備考　**所属時期**　時期判定できる出土遺物は無いが遺構の切り合いや埋没土から古代と考えられる。

Ｇ１区

２号掘立柱建物（図326、PL.446）

位置　744～752、-842～-850　**主軸方位**　Ｎ－60°－Ｅ

重複　有り。107号土坑に先行する。

規模　面積29.94㎡、２間4.86m×３間6.16m

形状　長方形。東西方向に長い。

柱穴　埋没土は中心部が黄褐色～黒褐色土で、ローム土を多量に含む。しまり弱く、粘性あり。周辺部は黒褐色土で、ローム土をわずかに含み、しまり強く、粘性あり。柱がそのまま腐った痕跡というよりも柱を抜き取った後に埋め戻した可能性があり、抜き取り痕と考えた方が良いのかもしれない。

Ｐ１　長径44cm×短径42cm×深さ57cm、円形。柱痕はない。Ｐ２との間246cm。Ｐ11(旧151号土坑)との間166cm。

Ｐ２　長径30cm×短径30cm×深さ39cm、円形。柱痕幅16cm。先端は尖り、底面まで行かず途中までで止まる。Ｐ３との間196cm。Ｐ11との間82cm。

Ｐ３　長径48cm×短径45cm×深さ28cm、円形。柱痕幅24cm。先端は尖り、底面まで至る。Ｐ４との間153cm。Ｐ７との間470cm。

Ｐ４　長径52cm×短径48cm×深さ83cm、楕円形。中段有り。中央部の最深部は西側で円形。柱痕幅36cm。先端が尖り､底面まで行かず途中で止まる。Ｐ５との間235cm。

Ｐ５　長径61cm×短径56cm×深さ44cm、楕円形。柱痕幅22cm。先端は丸く、底面まで至る。Ｐ６との間223cm。

Ｐ６　長径54cm×短径43cm×深さ76cm、楕円形。柱痕はない。Ｐ７との間180cm。

Ｐ７　長径60cm×短径50cm×深さ64cm、楕円形。柱痕幅20cm。先端は尖り、底面まで行かず途中で止まる。Ｐ８との間272cm。

Ｐ８　長径48cm×短径43cm×深さ61cm、円形。柱痕幅16cm。先端尖り､底面まで至る。Ｐ９との間169cm。Ｐ11との間483cm。

Ｐ９　長径59cm×短径53cm×深さ76cm、楕円形。柱痕無し。Ｐ10との間227cm。

Ｐ10　長径42cm×短径30cm×深さ49cm、円形。柱痕無し。

Ｐ11　長径48cm×短径38cm×深さ72cm、円形。柱痕幅20cm。先端は尖り、底面まで行かず途中で止まる。

柱痕は先端が尖っているものがあり、先端を削って加工したであろうことは分かるが、縦横双方向の断面が無く、幅が同じかどうかの判断はできない。

柱は心心を通っておらず、両側の棟持柱が外側にズレた位置に配置されていた。桁柱もＰ８のように外側に柱１本分外側にズレるものもあった。直線で囲まれた内側に柱位置が来ない側柱の建物であった。規模的には約５m×約６mの、面積約30㎡の広い建物であった。

備考　**所属時期**　時期判定できる出土遺物は無いが遺構の切り合いや埋没土から古代と考えられる。

３号掘立柱建物(図327・328、PL.447・448)

位置　737～747､-849～-858　**主軸方位**　Ｎ－33°－Ｗ

重複　有り。112・113号土坑に先行する。

規模　面積37.52㎡、２間4.97m×４間7.55m

形状　長方形。南北方向に長い。

柱穴　埋没土は中心部がにぶい黄褐色土で、ローム塊を多量に含む。しまり弱く､粘性あり。周辺部は黒褐色土で、ローム土をわずかに含み、しまり強く、粘性あり。柱がそのまま腐った痕跡というよりも柱を抜き取った後に埋め戻した可能性があり、抜き取り痕と考えた方が良いのかもしれない。

Ｐ１　長径68cm×短径60cm×深さ83cm、楕円形。柱痕幅18cm。先は細くなるが、先端は平坦。底面まで行かず７層上までで止まる。Ｐ２との間101cm。柱を立ててから周りに土が詰められたことが断面から確認された。

Ｐ２　長径40cm×短径38cm×深さ42cm、円形。柱痕幅12cm。先端は丸く、底面まで行かず途中までで止まる。Ｐ３との間99cm。Ｐ12との間760cm。

Ｐ３　長径34cm×短径34cm×深さ18cm、円形。柱痕無し。Ｐ４との間125cm。Ｐ11との間760cm。

Ｐ４　長径44cm×短径44cm×深さ20cm、楕円形。柱痕無し。Ｐ５との間175cm。Ｐ10との間770cm。

Ｐ５　長径52cm×短径50cm×深さ10cm、楕円形。柱痕無し。Ｐ６との間210cm。Ｐ17との間40cm。

Ｐ６　長径63cm×短径60cm×深さ43cm、円形。柱痕はない。Ｐ７との間193cm。Ｐ18との間56cm。

Ｐ７　長径69cm×短径66cm×深さ38cm、円形。柱痕幅12cm。先端は丸く、底面まで行く。Ｐ８との間170cm。Ｐ19との間84cm。

Ｐ８　長径64cm×短径58cm×深さ81cm、円形。柱痕幅14cm。先端は丸く、底面まで行かず、少し上で止まる。Ｐ９との間190cm。Ｐ20との間90cm。

Ｐ９　長径70cm×短径66cm×深さ66cm、楕円形。柱痕幅30cm。先端は丸く、底面まで行かず、少し上で止まる。

Ｐ10との間118㎝。Ｐ11との間232㎝。

Ｐ10　長径58㎝×短径46㎝×深さ57㎝、瓢形。柱痕幅13㎝。先端は丸く、底面まで行かず、上で止まる。Ｐ11との間122㎝。Ｐ12との間244㎝。

Ｐ11　長径58㎝×短径54㎝×深さ49㎝、円形。柱痕幅20㎝。先端はやや尖り､底面まで至る。Ｐ12との間240㎝。

Ｐ12　長径44㎝×短径38㎝×深さ62㎝、円形。柱痕幅22㎝。先端は丸く、底面まで行かず、上で止まる。Ｐ13との間120㎝。

Ｐ13　長径50㎝×短径50㎝×深さ52㎝、円形。柱痕幅16㎝。先端は丸く、底面まで至る。Ｐ21との間104㎝。Ｐ14との間195㎝。

Ｐ14　長径66㎝×短径65㎝×深さ81㎝、円形。柱痕幅22㎝。先端は丸く、底面まで行かず、途中で止まる。Ｐ22との間84㎝。Ｐ15との間180㎝。

Ｐ15　長径58㎝×短径52㎝×深さ82㎝、円形。柱痕幅18㎝。先端は丸く、底面まで行かず、途中で止まる。Ｐ22との間90㎝。Ｐ16との間173㎝。

Ｐ16　長径70㎝×短径63㎝×深さ75㎝、楕円形。柱痕幅22㎝。先端は尖り、底面まで行かず、途中で止まる。Ｐ24との間100㎝。Ｐ17との間201㎝。

Ｐ17　長径56㎝×短径34㎝×深さ19㎝、楕円形。柱痕無し。Ｐ６との間176㎝。Ｐ18との間224㎝。

Ｐ18　長径34㎝×短径30㎝×深さ23㎝、円形。柱痕幅10㎝。先端はやや細くなるが平坦で、底面まで至る。Ｐ７との間142㎝。Ｐ19との間215㎝。

Ｐ19　長径34㎝×短径32㎝×深さ24㎝、円形。柱痕幅10㎝。先端は平坦で、底面まで至る。Ｐ８との間100㎝。Ｐ20との間183㎝。

Ｐ20　長径54㎝×短径40㎝×深さ39㎝、楕円形。柱痕幅14㎝。先端はやや丸く、底面まで行かず、直上で止まる。Ｐ９との間100㎝。

Ｐ21　長径48㎝×短径44㎝×深さ44㎝、円形。柱痕幅10㎝。先端はやや細くなるが平坦で、底面まで至る。Ｐ14との間82㎝。Ｐ22との間163㎝。

Ｐ22　長径48㎝×短径43㎝×深さ48㎝、円形。柱痕幅16㎝。先端はやや丸く、底面まで行かず、上で止まる。Ｐ15との間82㎝。Ｐ23との間187㎝。

Ｐ23　長径46㎝×短径44㎝×深さ58㎝、円形。柱痕幅16㎝。先端はやや細くなるが平坦で、底面まで至る。Ｐ16との間96㎝。Ｐ24との間193㎝。

Ｐ24　長径66㎝×短径60㎝×深さ49㎝、円形。柱痕幅18㎝。中段あり。先端はやや細くなるがやや丸く、底面まで至る。Ｐ１との間102㎝。

柱痕は先端がやや細くなっているものの尖っているものは少なく、平坦なものが多い。縦横双方向の断面が無く、幅が同じかどうかの判断はできない。

柱は心心を通っておらず、両側の棟持柱がわずかに外側にズレた位置に配置されていた。桁柱は大きめの柱はやや外側に、小さめの柱はやや内側にズレるものもあった。直線で囲まれた内側に棟持ち柱がない側柱の建物であった。規模的には約５ｍ×約7.5ｍの、面積約37.5㎡のかなり広い建物であった。Ｐ４とＰ５の間が175㎝、Ｐ17とＰ６の間が176㎝で他の100～125㎝の柱間に比べると広いので入口があった可能性が高い。

備考　**所属時期**　時期判定できる出土遺物は無いが遺構の切り合いや埋没土から古代と考えられる。

４号掘立柱建物(図329、PL.448・449)

位置　756～761､-853～-859　**主軸方位**　Ｎ－56°－Ｅ

重複　無し。

規模　面積10.88㎡、2間3.10ｍ×2間3.50ｍ

形状　ほぼ正方形。南北方向に若干長い。

柱穴　埋没土は中心部が黒褐色土で、As-C・ローム小塊を多く含む。しまり弱い。周辺部は黒色土や灰黄褐色土で、ローム小塊をわずかに含む。

Ｐ１　長径42㎝×短径38㎝×深さ42㎝、円形。柱痕幅16㎝。先は細くなるが、先端は平坦で、底面まで至る。Ｐ２との間150㎝。

Ｐ２　長径43㎝×短径42㎝×深さ23㎝、円形。柱痕無し。Ｐ３との間157㎝。Ｐ８との間178㎝。

Ｐ３　長径52㎝×短径42㎝×深さ45㎝、円形。柱痕無し。Ｐ４との間170㎝。

Ｐ４　長径36㎝×短径32㎝×深さ30㎝、円形。柱痕無し。Ｐ５との間181㎝。Ｐ８との間146㎝。

Ｐ５　長径45㎝×短径42㎝×深さ36㎝、楕円形。柱痕幅18㎝。先端は丸くなり、底面まで行かず、途中で止まる。Ｐ６との間152㎝。

Ｐ６　長径45㎝×短径43㎝×深さ28㎝、円形。柱痕はない。Ｐ７との間158㎝。Ｐ８との間170㎝。

Ｐ７　長径48㎝×短径45㎝×深さ41㎝、円形。柱痕幅

16㎝。先端は丸く、底面まで至る。Ｐ１との間350㎝。

Ｐ８　長径31㎝×短径24㎝×深さ27㎝、楕円形。柱痕幅10㎝。先端はやや細いが丸く、底面まで行かず、途中で止まる。Ｐ１・Ｐ７ラインとの間156㎝。

柱痕は先端がやや細くなっているものの尖っているものはなく、丸いものが多い。縦横双方向の断面が無く、幅が同じかどうかの判断はできない。

柱はほぼ心心を通っており、棟持柱はＰ１とＰ７の間には無い。直線で囲まれた内側には棟持ち柱が１本入る建物であった。規模的には約3.1ｍ×約3.5ｍの、面積約10.88㎡の狭い建物であった。

備考　所属時期　時期判定できる出土遺物は無いが遺構の切り合いや埋没土から古代と考えられる。

５号掘立柱建物（図330、PL.449）

位置　751～755､857～861　**主軸方位**　Ｎ－47°－Ｅ

重複　有り。133・162号土坑に先行する。

規模　面積6.20㎡、2間2.48ｍ×2間2.50ｍ

形状　ほぼ正方形。

柱穴　埋没土は中心部が灰黄褐色土で、As-C・ローム塊を含む。しまり弱い。柱痕と考えられる。周辺部は黒色土やにぶい黄褐色土で、ローム塊やローム土を含む。柱痕に比べてしまりは良い。

Ｐ１　長径79㎝×短径70㎝×深さ75㎝、楕円形。底面には四角柱の痕跡が残る。柱痕幅18㎝。先端は平坦で、底面まで至る。Ｐ２との間126㎝。

Ｐ２　長径70㎝×短径63㎝×深さ38㎝、楕円形。柱痕無し。Ｐ３との間118㎝。Ｐ６との間285㎝。

Ｐ３　長径70㎝×短径60㎝×深さ70㎝、楕円形。中段有り。北側に最深部あり。柱痕無し。Ｐ４との間123㎝。

Ｐ４　長径59㎝×短径56㎝×深さ42㎝、楕円形。柱痕無し。Ｐ５との間121㎝。Ｐ８との間270㎝。

Ｐ５　長径62㎝×短径60㎝×深さ61㎝、楕円形。中段有り。東側に最深部有り。柱痕幅20㎝。先端はやや丸くなり、底面まで至る。Ｐ６との間130㎝。

Ｐ６　長径48㎝×短径48㎝×深さ19㎝、円形。柱痕はない。Ｐ７との間121㎝。

Ｐ７　長径60㎝×短径55㎝×深さ69㎝、楕円形。中段有り。ほぼ中央に最深部有り。柱痕幅12㎝。先端は丸く、底面まで行かず、途中で止まる。Ｐ８との間128㎝。

Ｐ８　長径56㎝×短径54㎝×深さ61㎝、円形。中段有り。やや西側に最深部有り。柱痕無し。Ｐ１との間124㎝。

柱痕は先端がやや細くなっているものの尖っているものはなく、丸いか平坦なものだけである。縦横双方向の断面が無く、幅が同じかどうかの判断はできないが、Ｐ１の底面近くの柱痕を見ると方形であることが分かる。

柱位置については中間のものは外側に外れるものが多く、特にＰ２と対峙するＰ６は柱１本分ズレる。Ｐ４とＰ８の最深部もわずかに外側にズレている。直線で囲まれた中心には柱は無いが、やや東側にズレた位置に径約66㎝の163号土坑がある。この土坑内には径約22㎝×深さ約22㎝の最深部がある。この土坑が床面を支える柱穴だとすれば、重い荷物を入れる倉庫の可能性も否定できない。規模的には約2.5ｍ×約2.5ｍの、面積約6.2㎡の狭いほぼ正方形建物であった。

備考　所属時期　時期判定できる出土遺物は無いが遺構の切り合いや埋没土から古代と考えられる。

Ｇ２区

８号掘立柱建物（図331・332、PL.68・69・450）

位置　729～734､872～877　**主軸方位**　Ｎ－43°－Ｅ

重複　有り。141・142号土坑に先行する。

規模　面積11.94㎡、1間3.42ｍ×2間3.49ｍ

形状　ほぼ正方形。

柱穴　埋没土は全般に上部が黒褐色土で、As-Cを多く、ローム土を含む。柱痕は無い。下部は黒褐色土で、As-C・ローム塊をごくわずかに含む。

Ｐ１　長径41㎝×短径38㎝×深さ71㎝、円形。柱痕無し。１層が柱痕の可能性も否定できない。Ｐ２との間342㎝。

Ｐ２　長径42㎝×短径40㎝×深さ61㎝、円形。Ｐ３との間205㎝。他の柱間に比べて広い。

Ｐ３　長径52㎝×短径48㎝×深さ55㎝、楕円形。やや北側に最深部有り。Ｐ４との間144㎝。Ｐ６との間343㎝。

Ｐ４　長径65㎝×短径63㎝×深さ87㎝、円形。柱痕無し。Ｐ５との間330㎝。

Ｐ５　長径41㎝×短径35㎝×深さ72㎝、円形。柱痕なし。Ｐ６との間163㎝。

Ｐ６　長径49㎝×短径46㎝×深さ58㎝、楕円形。柱痕

なし。Ｐ１との間175㎝。

Ｐ１の１層が柱痕の可能性はあるものの、明確なものは確認できなかった。

柱位置については北東のＰ１がやや内側に入るので、反対側のＰ２・３・４列に比べて10㎝程狭い。直線で囲まれた内側に柱は無い。側柱の建物である。規模的には約3.42ｍ×約3.49ｍの、面積12㎡弱の正方形の建物である。棟持ち柱が確認されていないので、梁を渡してその上に棟束を立てて屋根を支えたものと考えられる。棟持ち柱の無い部分に出入口があったと考えるのが普通であるが、Ｐ２とＰ３の間は205㎝と他の柱間よりも広くその部分にも出入口があった可能性も否定できない。

備考　所属時期　時期判定できる出土遺物は無いが遺構の切り合いや埋没土から古代と考えられる。また、165号竪穴建物と軸が同じであることから古墳時代の可能性も考えられる。

10号掘立柱建物（図333～335・399、PL.67・68・72・452～454）

位置　722～732、865～879　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｅ

重複　有り。122・131・140・141号土坑、112・113竪穴建物に先行する。

規模　面積119.97㎡、４間9.38ｍ×５間12.79ｍ

形状　長方形。東西方向に長い。

柱穴　埋没土は中心部が黒褐色土で、As-C多量、ローム土を含む。しまり弱い。周辺部は黒褐色土で、As-C・ローム塊をわずかに含む。しまり強い。柱穴内部の痕跡は基本的に正方形に近いものが多い。

Ｐ１　長径60㎝×短径53㎝×深さ61㎝、隅丸方形。柱痕は無い。Ｐ２との間252㎝。穴の周りに光沢を持つしまりの良い部分が写真で確認された。

Ｐ２　長径35㎝×短径33㎝×深さ66㎝、隅丸方形。１層が柱痕か。幅20㎝。先端は丸く、底面まで行かず途中までで止まる。Ｐ３との間256㎝。Ｐ14との間965㎝。穴の周りに光沢を持つしまりの良い部分が写真で確認された。

Ｐ３　長径48㎝×短径35㎝×深さ72㎝、隅丸方形。１・２層が柱痕か。幅20㎝。先端はやや丸く、底面まで行かず途中までで止まる。Ｐ４との間221㎝。Ｐ20との間270㎝。Ｐ13との間966㎝。穴の周りに光沢を持つしまりの良い部分が写真で確認された。

Ｐ４　長径34㎝×短径31㎝×深さ54㎝、隅丸方形。柱痕無し。Ｐ５との間257㎝。Ｐ12との間976㎝。穴の周りに若干光沢を持つ部分が写真で確認された。

Ｐ５　長径40㎝×短径33㎝×深さ41㎝、楕円形。１・２層が柱痕か。幅20㎝。先端はやや丸く、底面まで行かず途中までで止まる。Ｐ６との間260㎝。Ｐ11との間972㎝。穴の周りに若干光沢を持つ部分が写真で確認された。

Ｐ６　長径43㎝×短径40㎝×深さ42㎝、隅丸方形。柱痕はない。Ｐ７との間246㎝。穴の周りに光沢を持つしまりの良い部分が写真で確認された。

Ｐ７　長径47㎝×短径38㎝×深さ78㎝、隅丸方形。柱痕不明。Ｐ８との間209㎝。Ｐ20との間736㎝。122号土坑底面に長方形に光沢を持つしまりの良い部分が確認された。基本的には光沢のある部分は同じものと想定されるので、122号土坑は重複ではなく柱穴と一体のものと考えることができないであろうか。他のものよりも掘り方が深いので残っただけではなかろうか。

Ｐ８　長径56㎝×短径52㎝×深さ82㎝、外形は円形、内形は隅丸方形。柱痕無し。Ｐ９との間268㎝。Ｐ19との間746㎝。穴の周りに光沢を持つ部分は確認されなかった。

Ｐ９　長径47㎝×短径40㎝×深さ44㎝、隅丸方形。柱痕無し。Ｐ10との間217㎝。Ｐ16との間1284㎝。穴の周りに光沢を持つしまりの良い部分が写真で確認された。

Ｐ10　長径45㎝×短径41㎝×深さ57㎝、外形は円形、内形は隅丸方形。１・２層が柱痕か。幅20㎝。先端はやや丸く、底面まで行かず途中までで止まる。Ｐ11との間248㎝。穴の周りに光沢を持つしまりの良い部分が写真で確認された。

Ｐ11　長径38㎝×短径38㎝×深さ77㎝、隅丸方形。柱痕無し。Ｐ12との間231㎝。穴の周りにやや光沢を持つ部分が写真で確認された。

Ｐ12　長径54㎝×短径50㎝×深さ60㎝、外形は円形、内形は隅丸方形。柱痕無し。Ｐ13との間285㎝。穴の周りに光沢を持つしまりの良い部分が写真で確認された。

Ｐ13　長径47㎝×短径41㎝×深さ71㎝、隅丸方形。1・２層が柱痕か。幅36㎝。先端は丸く、底面の少し上で止まる。Ｐ19との間490㎝。Ｐ14との間253㎝。穴の周りに光沢を持つしまりの良い部分が写真で確認された。

Ｐ14　長径44㎝×短径43㎝×深さ67㎝、隅丸方形。柱

痕幅20㎝。先端は丸く、底面まで行かず、途中で止まる。Ｐ15との間262㎝。穴の周りに光沢を持つしまりの良い部分が写真で確認された。

Ｐ15　長径42㎝×短径42㎝×深さ71㎝、隅丸方形。柱痕幅20㎝。先端はやや丸く、底面まで行かず、途中で止まる。Ｐ16との間207㎝。247号土坑と重複するが、柱穴は北側にズレるが一体のものの可能性も否定できない。

Ｐ16　長径54㎝×短径52㎝×深さ63㎝、外形は円形、内形は隅丸方形。１・２層が柱痕。幅38㎝。先端はやや丸く、底面まで行かず、途中で止まる。Ｐ17との間246㎝。穴の周りに光沢を持つ部分が写真で確認された。

Ｐ17　長径47㎝×短径47㎝×深さ48㎝、隅丸方形。柱痕無し。Ｐ18との間221㎝。Ｐ19との間546㎝。穴の周りに光沢を持つしまりの良い部分が写真で確認された。

Ｐ18　長径46㎝×短径43㎝×深さ52㎝、隅丸方形。柱痕無し。Ｐ１との間257㎝。Ｐ20との間521㎝。穴の周りに光沢を持つしまりの良い部分が写真で確認された。

Ｐ19　長径25㎝×短径21㎝×深さ39㎝、楕円形。小形。柱痕無し。穴そのものが柱の太さか。先端はかなり細くなるが、平坦。Ｐ20との間202㎝。穴の周りに光沢を持つしまりの良い部分は確認されなかった。

Ｐ20　長径28㎝×短径22㎝×深さ88㎝、楕円形。小形。柱痕無し。穴そのものが柱の太さか。先端はやや細くなるが、平坦。穴の周りに光沢を持つしまりの良い部分は確認されなかった。

埋没土の中心部が柱痕と考えられることが多いが、10号掘立柱建物の場合、掘り方そのものが柱の太さに近い可能性がある。縦横双方向の断面が無く、幅が同じかどうか確定できないが、穴の内形を見ると隅丸方形であり、柱自体も四角柱であった可能性がある。

多くの柱は心心を通っておらず、Ｐ８・Ｐ19・Ｐ17の棟持柱がわずかに外側にズレた位置に配置されていた。調査では側柱の建物とされ内側には柱が１本もなかったが、Ｐ19とＰ20を柱として追加した。Ｐ19は深さ約40㎝、Ｐ20は深さ90㎝弱とかなり深く柱として考えて良いものである。そこに柱があることで中が仕切られると同時に屋根が下がらずに支えることができる。

桁柱の最深部は角角の柱の最深部を結ぶとやや外側にズレるものが多い。規模的には約9.4ｍ×約12.8ｍの、面積約120㎡のかなり広大な建物であった。今回の報告の中でも最大の掘立柱建物である。南辺では中央のＰ12とＰ13の間が285㎝、西辺では北角寄のＰ18とＰ１の間が257㎝、北辺では南角寄のＰ５とＰ６の間が260㎝、東辺では中央西寄りのＰ８とＰ９の間が268㎝と広い。中でも南辺中央のＰ12とＰ13の間が285㎝と他の柱間に比べるとかなり広いのでメインの出入口があった可能性が高い。これだけ大きな建物であるのでメインの出入口の他にもいくつかの出入口があった可能性もあり、それぞれがその可能性があるのではないかと考えられる。

備考　所属時期　時期判定できる出土遺物は無いが遺構の切り合いや埋没土から古代かと考えられる。

なお、関連のある建物として105・115・119号竪穴建物などこの掘立柱建物と軸が合う角がほぼ直角の竪穴建物が同時存在の可能性があるものと考えられる。

11号掘立柱建物（図331・332、PL.451）

位置　725～730、-868～-873　**主軸方位**　Ｎ－49°－Ｗ

重複　有り。238・239号土坑に先行する。

規模　面積11.66㎡、1間3.45ｍ×2間3.38ｍ

形状　ほぼ正方形。

柱穴　埋没土は全般に上部が黒褐色土で、As-Cを多く含む。柱痕は無い。下部は黒褐色土で、As-C・ローム塊を含む。

Ｐ１　長径53㎝×短径52㎝×深さ54㎝、円形。柱痕無し。Ｐ２との間180㎝。

Ｐ２　長径59㎝×短径54㎝×深さ64㎝、ほぼ円形。Ｐ３との間158㎝。

Ｐ３　長径42㎝×短径38㎝×深さ80㎝、円形。柱痕なし。Ｐ４との間322㎝。

Ｐ４　不明。Ｐ５との間156㎝か。

Ｐ５　長径50㎝×短径44㎝×深さ66㎝、円形。柱痕なし。Ｐ６との間162㎝。

Ｐ６　長径50㎝×短径49㎝×深さ50㎝、円形。柱痕なし。Ｐ１との間345㎝。

いずれの柱穴にも柱痕は確認できなかった。

柱位置についてはＰ４がやや内側に入る可能性があるが、113号竪穴建物と重複し、確認できなかった。直線で囲まれた内側に柱は無い。側柱の建物である。規模的には約3.45ｍ×約3.38ｍの、面積12㎡弱のほぼ正方形の建物である。棟持ち柱が確認されていないので、梁を渡してその上に棟束を立てて屋根を支えたものと考えられ

る。棟持ち柱の無い部分に出入口があったと考えるのが普通であるが、Ｐ１とＰ２の間は180㎝と他の柱間よりも広くその部分にも出入口があった可能性も否定できない。

備考　所属時期　時期判定できる出土遺物は無いが遺構の切り合いや埋没土から古代かと考えられる。

なお、８号掘立柱建物と11号掘立柱建物は一列に並び規模もほぼ同じであり、同時存在の建築物であったと考えられる。両者の間は西辺232㎝と東辺234㎝で、それ以外の間よりも広く、その部分が通路を兼ねるような出入口であった可能性がある。柱穴は綺麗に並ぶので可能性としては一連の屋根が掛かる一つの建物の可能性も否定できない。古代においては寺院の中門あるいは近世の長屋門のような出入口の左右に使用人の住まいや納屋・物置などの施設があった可能性も否定できない。

12号掘立柱建物（図336・337、PL.70・455・456）

位置　731～739、-872～-880　**主軸方位**　Ｎ－38°－Ｅ

重複　有り。238・239号土坑・114号竪穴建物に先行する。

規模　面積29.4㎡、2間3.50ｍ×4間8.40ｍ

形状　長方形。

柱穴　埋没土は全般に上部や中心部が黒色土で、As-Cを多く含む。Ｐ８以外柱痕は無い。下部又は周辺部は暗褐色土で、ローム小塊を含む。

Ｐ１　長径52㎝×短径43㎝×深さ29㎝、外形は楕円形、内形は方形。柱痕無し。Ｐ２との間181㎝。

Ｐ２　長径53㎝×短径51㎝×深さ37㎝、外形は円形、内形は方形。Ｐ３との間212㎝。Ｐ10との間378㎝。

Ｐ３　長径52㎝×短径50㎝×深さ35㎝、外形は円形、内形は方形。柱痕なし。Ｐ４との間217㎝。Ｐ９との間386㎝。

Ｐ４　長径58㎝×短径48㎝×深さ70㎝、外形は楕円形、内形は方形。柱痕なし。Ｐ５との間235㎝。Ｐ８との間393㎝。

Ｐ５　長径51㎝×短径46㎝×深さ57㎝、外形は方形、内形は円形。柱痕なし。Ｐ６との間176㎝。

Ｐ６　長径46㎝×短径44㎝×深さ33㎝、外形は円形、内形は方形。柱痕なし。Ｐ７との間174㎝。

Ｐ７　長径35㎝×短径34㎝×深さ42㎝、外形は方形、内形も方形。柱痕なし。Ｐ８との間225㎝。

Ｐ８　長径49㎝×短径47㎝×深さ61㎝、外形は円形、内形は方形。柱痕幅14㎝。先端は丸く、底面まで至る。Ｐ９との間255㎝。

Ｐ９　長径45㎝×短径41㎝×深さ30㎝、外形は方形、内形は円形。柱痕なし。Ｐ10との間187㎝。

Ｐ10　長径39㎝×短径34㎝×深さ38㎝、外形は円形、内形は方形。柱痕なし。Ｐ11との間182㎝か。

Ｐ11　位置、規模、形不明。調査区内では確認できなかった。元々無かったもしくは浅かった可能性も否定できない。

Ｐ８以外の柱穴には柱痕は確認できなかった。

柱位置については、東列のＰ３・Ｐ４、西列のＰ８・Ｐ９はやや外側にズレる。直線で囲まれた内側に柱は無い。側柱の建物である。Ｐ１とＰ２の柱間は181㎝と他の柱間に比べ狭くなっている。規模的には3.5ｍ×8.4ｍの、面積30㎡弱の長方形の建物である。棟持ち柱は南側のＰ６、１本だけ確認された。北側は梁を渡してその上に棟束を立てて屋根を支えたものと考えられる。棟持ち柱の無い部分に出入口があったと考えるのが普通であるが、Ｐ８とＰ９の間は255㎝と他の柱間よりも広くその部分にも出入口があった可能性も否定できない。

備考　所属時期　時期判定できる出土遺物は無いが遺構の切り合いや埋没土から古代かと考えられる。

Ｇ３区

９号掘立柱建物（図338、PL.457）

位置　704～710、-893～-898　**主軸方位**　Ｎ－35°－Ｅ

重複　有り。231号土坑に先行する。位置的には重複するが、柱穴との切り合いはない。

規模　面積13.41㎡、2間2.98ｍ×2間4.50ｍ

形状　長方形。

柱穴　埋没土は中心部が黒褐色土でローム塊を含む。しまりはやや弱い。柱痕は無い。下部又は周辺部は黒褐色土で、ローム小塊・ローム粒を含む。中心部に比べてしまりあり。

Ｐ１　長径40㎝×短径34㎝×深さ46㎝、円形。柱痕有り。柱痕幅12㎝。先端は丸く、底面まで行かず、かなり上で止まる。Ｐ２との間226㎝。Ｐ８との間298㎝。Ｐ９との間110㎝。

Ｐ２　長径43㎝×短径40㎝×深さ53㎝、楕円形。中段あり。北側に最深部有り。柱痕幅16㎝。先端はやや細く

なるが、平坦で底面まで行かず、やや上で止まる。Ｐ３との間233㎝。Ｐ４との間226㎝。

Ｐ３　長径30㎝×短径22㎝×深さ44㎝、楕円形。柱痕なし。Ｐ４との間29㎝。Ｐ５との間140㎝。Ｐ10との間136㎝。

Ｐ４　長径34㎝×短径(30)㎝×深さ39㎝、円形。柱痕なし。Ｐ５との間113㎝。Ｐ６との間286㎝。Ｐ10との間108㎝。

Ｐ５　長径38㎝×短径28㎝×深さ25㎝、楕円形。柱痕なし。Ｐ６との間170㎝。Ｐ10との間52㎝。

Ｐ６　長径38㎝×短径37㎝×深さ29㎝、円形。柱痕なし。Ｐ７との間206㎝。Ｐ10との間190㎝。

Ｐ７　長径40㎝×短径38㎝×深さ39㎝、円形。柱痕有り。先端はやや尖り気味であるが、丸く底面まで行かず途中で止まる。Ｐ８との間223㎝。

Ｐ８　長径43㎝×短径33㎝×深さ47㎝、瓢形。柱痕なし。Ｐ９との間196㎝。

Ｐ９　長径26㎝×短径24㎝×深さ31㎝、円形。柱痕なし。Ｐ10との間426㎝。

Ｐ10　長径24㎝×短径22㎝×深さ32㎝、円形。柱痕なし。

Ｐ８以外の柱穴には柱痕は確認できなかった。

柱位置については、棟持柱と考えられるＰ９は外側に、Ｐ10は内側にズレる。さらにその２穴を結んだ線は中心線よりも柱１本分東側に平行してズレる。途中に棟持柱は無い。基本的に側柱の建物である。Ｐ７は柱半分、Ｐ２はわずかに外側にズレる。南側の梁の真ん中にはＰ５があるが、北側のＰ１とＰ８のライン上には柱穴が無いので、その間が入口であった可能性が考えられる。規模的には約３ｍ×4.5ｍの、面積13.4㎡強の長方形の小形の建物である。単独で生活していたとは考えにくいので、４面(縄文時代)から探したところ近くに掘立柱建物になる可能性のあるピットが検出され、13・14号掘立柱建物と５号ピット列を新たな遺構として認定した。13号掘立柱建物の柱間は９号掘立柱建物とほぼ同じで、14号掘立柱建物は軸方向が９号掘立柱建物とほぼ同じであり、３棟でセットになる可能性は考えられる。また、５号ピット列は軸方向が違うものの、９・13・14号掘立柱建物の直ぐ南側に配置されるもので、目隠しなど関連のある施設の一部の可能性も否定できない。

備考　所属時期　時期判定できる出土遺物は無いが遺構の切り合いや埋没土から古代かと考えられる。

13号掘立柱建物(図339、PL.458)

位置　706～711、-887～-890　**主軸方位**　Ｎ－15°－Ｅ

重複　有り。220・286号土坑に先行する。南東隅の柱穴は286号土坑に壊されているものと考えられる。

規模　面積10.51㎡、1間2.31ｍ×2間4.55ｍ

形状　長方形。

柱穴　埋没土は上層が黒褐色土でAs-YP・ローム塊や同粒を含む。しまりは良く粘性あり。柱痕は無い。灰白色粒を含む部分があるが、灰白色粒はAs-Cの可能性あり。下層は灰黄褐色土やにぶい黄褐色土で、ローム小塊・ローム粒を多量に含む。しまりは良い。

Ｐ１(Ｐ228)　長径40㎝×短径38㎝×深さ34㎝、円形。中段があり、北側が細く深い。深さ51㎝。Ｐ２(Ｐ231)との間227㎝。Ｐ４(Ｐ229)との間231㎝。Ｐ６(推定)との間232㎝。

Ｐ２(Ｐ231)　長径28㎝×短径26㎝×深さ34㎝、円形。中段あり。Ｐ３(Ｐ232)との間226㎝。

Ｐ３(Ｐ232)　長径31㎝×短径26㎝×深さ42㎝、楕円形。中段あり。東部に最深部あり。Ｐ４(Ｐ229)との間224㎝。

Ｐ４(Ｐ229)　長径32㎝×短径26㎝×深さ33㎝、楕円形。Ｐ５(Ｐ230)との間231㎝。

Ｐ５(Ｐ230)　長径38㎝×短径30㎝×深さ34㎝、楕円形。Ｐ６(推定)との間232㎝。

９号掘立柱建物の東側に位置し、軸方向は違うものの、柱間はほぼ同じであり、同時期の関連のあるものと考えられる。

備考　所属時期　時期判定できる出土遺物は無いが遺構の切り合いや埋没土から古代かと考えられる。

14号掘立柱建物(図340、PL.458)

位置　701～706、-895～-899　**主軸方位**　Ｎ－37°－Ｅ

重複　有り。125・126号竪穴建物に先行する。450号土坑が中心に位置するが、ピットとの重複はなく新旧は不明である。

規模　面積8.72㎡、1間2.86ｍ×1間3.05ｍ

形状　方形。

柱穴　埋没土は黒褐色土でAs-YP・白色粒を多量に含む。しまりは良い。白色粒はAs-Cの可能性あり。

Ｐ１(Ｐ236)　長径45㎝×短径26㎝×深さ29㎝、隅丸長方形。Ｐ２(Ｐ240)との間286㎝。Ｐ５(Ｐ237)との間284㎝。Ｐ４(Ｐ238)との間304㎝。

Ｐ２(Ｐ240)　長径46㎝×短径28㎝×深さ35㎝。Ｐ３(Ｐ241)との間305㎝。

Ｐ３(Ｐ241)　長径50㎝×短径44㎝×深さ25㎝、楕円形。Ｐ４(Ｐ238)との間284㎝。

Ｐ４(Ｐ238)　長径58㎝×短径48㎝×深さ36㎝、隅丸長方形。Ｐ５(Ｐ237)との間20㎝。

Ｐ５(Ｐ237)　長径(24) ㎝×短径30㎝×深さ26㎝、円形。

９号掘立柱建物の南西側に位置し、軒はズレるが軸方向はほぼ同じで間も一定に保たれるので、同時期の関連のあるものと考えられる。

備考　所属時期　時期判定できる出土遺物は無いが遺構の切り合いや埋没土から古代かと考えられる。また、９号掘立柱建物と軸が同じであることから古墳時代の可能性も考えられる。

Ｈ区

６号掘立柱建物(図341・524、PL.459・460・547・552)

位置　606～613､-952～-957　主軸方位　Ｎ－31°－Ｗ

重複　有り。61号竪穴建物に先行する。

規模　面積(20.19)㎡、３間4.12ｍ×(３)間(4.90)ｍ

形状　長方形。南北方向に長い。さらに南側に延びる可能性有り。

柱穴　埋没土は中心部が黒褐色土でAs-Cを多量に含む。しまりは弱い。周辺部は暗褐色～褐色土で、ローム塊を含む。中心部に比べてしまり有り。

Ｐ１　長径35㎝×短径28㎝×深さ53㎝、円形。柱痕無し。Ｐ２との間179㎝。

Ｐ２　長径45㎝×短径35㎝×深さ45㎝､外形は楕円形、内形は隅丸長方形。北側に最深部有り。柱痕幅12㎝。先端は丸く、底面まで至る。Ｐ３との間152㎝。Ｐ９との間421㎝。

Ｐ３　長径35㎝×短径30㎝×深さ65㎝､外形は楕円形、内形は方形。最深部は東側。柱痕なし。Ｐ４との間160㎝。Ｐ８との間421㎝。上層から紡錘車の石製紡輪出土。

Ｐ４　長径47㎝×短径38㎝×深さ46㎝、楕円形。柱痕なし。Ｐ５との間153㎝。

Ｐ５　長径41㎝×短径41㎝×深さ59㎝、外形は円形、内形は長方形。中段有り。東側に最深部有り。柱痕幅14㎝。先端はやや細く丸味を持ち、底面まで至る。Ｐ６との間121㎝。

Ｐ６　長径45㎝×短径39㎝×深さ69㎝、外形は円形、内形は方形。柱痕幅14㎝。先端は平坦で、底面まで行かず、途中で止まる。Ｐ７との間135㎝。

Ｐ７　長径51㎝×短径40㎝×深さ58㎝、楕円形。柱痕無し。Ｐ８との間171㎝。

Ｐ８　長径50㎝×短径42㎝×深さ68㎝､外形は楕円形、内形は長方形。柱痕幅15㎝。先端はやや丸く、底面まで至る。Ｐ９との間153㎝。上層から軒平瓦の破片出土。

Ｐ９　長径40㎝×短径39㎝×深さ36㎝、円形。柱痕幅20㎝。先端は平坦で、底面まで行かず、途中で止まる。

柱痕はＰ２・５・６・８・９で確認された。Ｐ８の底面で確認された最深部が長方形であり、四角柱の柱ではなく、断面長方形の柱が使用されていた可能性も考えられる。

柱位置については、Ｐ５・６は最深部が外側にズレるが、角のＰ７はやや内側に入る。Ｐ３とＰ８は最深部が内側にズレる。囲まれた内側に柱は無く、棟持柱は確認できなかったので、側柱の建物と考えられる。入口は調査できなかった南側にあるものと想定されるが、Ｐ１とＰ２の柱間が179㎝と他のところに比べ広いので、その可能性も否定できない。規模的には約4.1ｍ×(4.9)ｍの、面積20.19㎡以上の長方形の建物である。単独で生活していたとは考えにくいが、Ｈ区には他に７号掘立柱建物があるが、建物の方向性が違うので同時期のセットになる可能性は低いものと考えられる。

備考　所属時期　Ｐ３上層から紡錘車の石製紡輪、Ｐ８上層から軒平瓦の破片が出土した。遺構の切り合いや埋没土などからも古代と考えられる。

７号掘立柱建物(図342、PL.460)

位置　619～622､-954～-958　主軸方位　Ｎ－26°－Ｅ

重複　有り。184号土坑・84・170号竪穴建物に先行する。

規模　面積6.18㎡、１間2.16ｍ×２間2.86ｍ

形状　長方形。

柱穴　埋没土は中心部が黒褐色土でAs-Cを多量に、ローム小塊含む。しまりは弱い。周辺部はくすんだ褐色土で、ローム塊を含む。

Ｐ１　長径52㎝×短径44㎝×深さ20㎝、楕円形。中段有り。北側に最深部有り。柱痕無し。Ｐ２との間138㎝。

Ｐ２　長径62㎝×短径44㎝×深さ26㎝、楕円形。中段有り。東側に最深部有り。柱痕なし。Ｐ３との間138㎝。Ｐ５との間219㎝。

Ｐ３　長径48㎝×短径44㎝×深さ24㎝、楕円形。中段有り。最深部は東側。柱痕なし。Ｐ４との間210㎝。

Ｐ４　長径48㎝×短径38㎝×深さ５㎝､楕円形。浅い。柱痕なし。Ｐ５との間160㎝。

Ｐ５　長径56㎝×短径44㎝×深さ25㎝、楕円形。中段有り。西側に最深部有り。柱痕なし。Ｐ６との間126㎝。

Ｐ６　長径47㎝×短径45㎝×深さ17㎝、楕円形。北東部が184号土坑に切られる。柱痕なし。Ｐ１との間216㎝。柱痕はいずれの柱穴からも確認されなかった。中段はＰ１・２・３・５で確認された。

柱位置については、Ｐ２･５は最深部が外側にズレる。囲まれた内側に柱は無く、棟持柱は確認できなかったので、側柱の建物と考えられる。入口は北か南の梁側にあるものと想定されるが、Ｐ４とＰ５の柱間が160㎝と他のところに比べやや広いので、その可能性も否定できない。規模的には約2.2ｍ×約2.9ｍの、面積約6.2㎡以上の長方形の建物である。単独で生活していたとは考えにくいが、Ｈ区には他に６号掘立柱建物があるが、建物の方向性が違うので同時期のセットになる可能性は低いものと考えられる。

備考　所属時期　Ｐ３上層から紡錘車の石製紡輪、Ｐ８上層から軒平瓦の破片が出土した。遺構の切り合いや埋没土などからも古代と考えられる。また、９号掘立柱建物と軸が同じであることから古墳時代の可能性も考えられる。

Ｇ１区

１～３号ピット列(図343・344、PL.461)

１～３の３列の柵列として調査したものであるが、それぞれ平行し、柱間もほぼ等間隔であること、Ｇ２区の12号掘立柱建物にほぼ連続する位置にあることなどから同時期の一連の建物の可能性があり、旧Ｐ２を１号ピット列のＰ９とし、３列まとめて掘立柱建物に準じるものとしてここで記述する。

位置　740～753､-862～-873　**主軸方位**　Ｎ－43°－Ｅ、計測の仕方によって１～２°のズレはあるものの、一番柱穴の数の多い１号柵列の方位で代表した。

重複　有り。17号溝、124・138号土坑に先行する。

規模　面積44.49㎡、２間3.33ｍ×７間13.36ｍ

形状　長方形。

埋没土　上層または中心部が黒褐色土でローム塊・同粒をわずかに含む。ややしまりは弱い。下層または周辺部は黒褐色土で、ローム土・ローム塊を含む。ややしまり有り。

１号ピット列(図343・344、PL.461・462)

Ｐ１　長径52㎝×短径49㎝×深さ64㎝､方形。中段有り。北東部に最深部有り。柱痕無し。Ｐ２との間228㎝。

Ｐ２　長径54㎝×短径46㎝×深さ54㎝、楕円形。柱痕無し。Ｐ３との間197㎝。3号柵列Ｐ１との間354㎝。

Ｐ３　長径43㎝×短径40㎝×深さ28㎝､方形。中段有り。最深部は南側。柱痕なし。Ｐ４との間156㎝。３号柵列Ｐ２との間372㎝。

Ｐ４　長径29㎝×短径25㎝×深さ34㎝､円形。柱痕なし。Ｐ５との間193㎝。３号柵列Ｐ３との間384㎝。２号柵列Ｐ２との間360㎝。

Ｐ５　長径51㎝×短径42㎝×深さ41㎝、楕円形。柱痕なし。３号柵列Ｐ４との間370㎝。２号柵列Ｐ２との間356㎝。

Ｐ６　長径46㎝×短径40㎝×深さ42㎝、楕円形。中段有り。最深部は南側。柱痕なし。Ｐ７との間193㎝。３号柵列Ｐ５との間366㎝。

Ｐ７　長径51㎝×短径48㎝×深さ29㎝、楕円形。中段有り。最深部は南側。柱痕無し。Ｐ８との間188㎝。３号柵列Ｐ６との間366㎝。２号柵列Ｐ３との間350㎝。

Ｐ８　長径44㎝×短径38㎝×深さ17㎝、楕円形。柱痕なし。２号柵列Ｐ４との間333㎝。

Ｐ９(旧Ｐ－2)　長径49㎝×短径46㎝×深さ46㎝、外形は円形、内形は隅丸長方形。柱痕なし。３号柵列Ｐ１との間164㎝。

２号ピット列(図343・344、PL.462)

Ｐ１　長径50㎝×短径46㎝×深さ63㎝、楕円形。底面は細く深い。柱痕無し。Ｐ２との間659㎝。３号柵列Ｐ１との間159㎝。

Ｐ２　長径38㎝×短径35㎝×深さ37㎝､円形。柱痕無し。Ｐ３との間408㎝。３号柵列Ｐ３との間106㎝。

Ｐ３　長径39㎝×短径26㎝×深さ17㎝、楕円形。最深部は東側。Ｐ４との間231㎝。３号柵列Ｐ５との間144㎝。3号柵列Ｐ６との間47㎝。

Ｐ４　長径32㎝×短径30㎝×深さ12㎝、円形。柱痕なし。

３号ピット列（図343・344、PL.463）

Ｐ１　長径58㎝×短径46㎝×深さ73㎝、楕円形。中段有り。最深部は北側。柱痕無し。Ｐ２との間210㎝。

Ｐ２　長径52㎝×短径（50）㎝×深さ70㎝、隅丸方形。124号土坑に切られ、1/2程度しか確認できなかった。柱痕なし。Ｐ３との間196㎝。

Ｐ３　長径48㎝×短径44㎝×深さ36㎝、楕円形。最深部は西側。柱痕なし。Ｐ４との間171㎝。

Ｐ４　長径28㎝×短径25㎝×深さ21㎝、円形。中段有り。最深部は西側。柱痕なし。Ｐ５との間195㎝。

Ｐ５　長径28㎝×短径28㎝×深さ33㎝、円形。柱痕なし。Ｐ６との間184㎝。

Ｐ６　長径35㎝×短径（16）㎝×深さ12㎝、楕円形か138号土坑に切られ、1/2程しか確認できなかった。柱痕なし。２号柵列Ｐ４との間189㎝。

柱痕はいずれの柱穴にも柱痕は確認されなかった。１号柵列Ｐ３のように隅丸方形のものもあり、四角柱の柱が使用されていた可能性が考えられる。

柱位置については、３号柵列が２号柵列の西側に連続して並びやや外側にズレるが、位置的には数も距離も１号柵列と対になるものと考えて良いものと思われる。間に柱があるのは北列と12号掘立柱建物の南列だけであり、そこまで含めて一連の建物と考えた方が良いかもしれない。12号掘立柱建物も含めて囲まれた内側に柱は無く、側柱の建物もしくは建築物と考えられる。築地塀のような建物であれば入口はない可能性もある。規模的には約3.3m×13.36mの、面積44.5㎡以上の長方形の建物である。12号掘立柱建物も含めて一連のものであればさらに大きく長く80㎡を超える建築物である可能性もある。

また、８・11号掘立柱建物は直角に曲がる位置にあり、幅はほぼ同じであり、続く建築物である可能性がある。少なくとも８・11号掘立柱建物は一直線上に並ぶ位置にあり、一続きの屋根が掛かっていたか否かを別としても同時期に存在した可能性は高いものである。ほぼ方形の１・４・５号掘立柱建物と２・３号掘立柱建物は別の機能を備えた建築物であった可能性は高いと考えられる。例えば２間×２間の方形の一群は正倉、２間×３間と２間×４間の建物は金堂と講堂に相当するとかと考えることができる。

備考　**所属時期**　明確な時期を示す出土遺物は無いが、遺構の切り合いや埋没土などから古代かと考えられる。

Ｇ２区

４号ピット列（図345、PL.464）

ピット56・83・84・88・89・90・92の７基についてそれぞれ単独の遺構として調査したものである。56～84は10号掘立柱建物の南列にほぼ平行する位置に並ぶものであり、柱間もほぼ等間隔であること、また、88～92は10号掘立柱建物西辺南半の27号溝脇に並ぶ位置にあることなどから一連のピット列の可能性があり、それぞれの列は10号掘立柱建物を囲むようにほぼ直角に曲がるものである。

位置　720～725、-872～-880　**主軸方位**　東西列Ｎ－88°－Ｅ、南北列Ｎ－2°－Ｗ

重複　有り。131号土坑に先行する。27号溝に後出するように平面図に表現されているが、同時期の可能性が考えられる。

規模　東西３間7.50m×南北３間5.00m

形状　Ｌ字形。

埋没土　上層または中心部が黒褐色土でローム塊・同粒・As-Cをわずかに含む。ややしまりは弱い。下層または周辺部は暗褐色土で、ローム土・ローム塊を含む。ややしまりあり。

Ｐ56　長径28㎝×短径28㎝×深さ29㎝、円形。最深部はやや西側に有り。柱痕なし。Ｐ83との間245㎝。10号掘立柱建物Ｐ13との間1.16㎝。

Ｐ83　長径30㎝×短径18㎝×深さ24㎝、楕円形。柱痕無し。Ｐ84との間254㎝。10号掘立柱建物Ｐ14との間1.08㎝。

Ｐ84　長径28㎝×短径23㎝×深さ22㎝、楕円形。最深部はやや西側に有り。柱痕なし。Ｐ88との間244㎝。10号掘立柱建物Ｐ15との間1.20㎝。

Ｐ88　長径30㎝×短径26㎝×深さ22㎝、楕円形。最深部はやや北側に有り。柱痕なし。Ｐ89との間174㎝。

Ｐ89　長径35㎝×短径30㎝×深さ18㎝、楕円形。最深部はやや北西側に有り。柱痕なし。Ｐ90との間165㎝。

Ｐ90　長径32㎝×短径32㎝×深さ８㎝、楕円形。最深部はほぼ中央。柱痕なし。Ｐ92との間170㎝。10号掘立柱建物Ｐ16との間214㎝。

Ｐ92　長径26㎝×短径26㎝×深さ47㎝、円形。最深部は北側。柱痕無し。

備考　所属時期　明確な時期を示す出土遺物は無いが、遺構の埋没土や配置状況から古代かと考えられる。

Ｇ３区

５号ピット列(図346、PL.464)

ピット233・227・220の３基についてそれぞれ単独の遺構として調査したものである。９号掘立柱建物の南側で13号掘立柱建物と14号掘立柱建物の間に位置に並ぶものであり、軸方向は違うものの、同時期の一連のものの可能性も考えられる。

位置　703～704､-889～-894　**主軸方位**　Ｎ－77°－Ｗ

重複　有り。132号竪穴建物に先行する。

規模　4.72m

形状　一直線形。

埋没土　上層が黒褐色土でローム粒多量・As-YPを少量含む。下層は灰黄褐色土またはにぶい黄褐色土で、As-YPを多量に含む。

Ｐ１(Ｐ233)　長径40㎝×短径30㎝×深さ27㎝、楕円形。柱痕なし。Ｐ227との間2.52㎝。

Ｐ２(Ｐ227)　長径38㎝×短径38㎝×深さ12㎝、円形。柱痕無し。Ｐ３(Ｐ220)との間220㎝。

Ｐ３(Ｐ220)　長径26㎝×短径24㎝×深さ39㎝、円形。柱痕なし。

備考　所属時期　明確な時期を示す出土遺物は無いが、遺構の埋没土や配置状況から古代かと考えられる。

７　土坑・ピット(PL.53～125・206･207)

１・２面の土坑はほとんどのものが、長方形もしくは隅丸長方形のものであったが、３面目のものは円形もしくは楕円形の形態のものが多い。埋没土にはAs-Cを含むものが多く、１・２面のものよりも色味が黒くしまりも強い。遺物は平安時代の灰釉陶器や緑釉陶器、須恵器などの破片が出土したものもあり、これらのことから古代のものと考えた。これらの土坑は竪穴建物の近くに位置するものが多く、セットで使用されていた可能性も考えられる。Ｇ１・２区では掘立柱建物の周りに多く、Ｇ３区では調査区の中心部が薄く周りが多いようにも見えるが、具体的に何かしらの区画を示しているようなものではないと思われる。そこに当時の人々の空間利用の仕方を具体的に捉えることはできなかった。ピット類についてもＧ２区では27号溝の西側、Ｇ４区では南西部、Ｇ５区では32号溝と33号溝囲まれた南西部にややまとまる傾向はあるが、同規模のピットが一定の間隔で並ぶものはなく、建物等にはならないものと考えられる。それぞれの区毎の状況については各区の概要で記述した通りである。なお、土坑・ピットについては所属時期をできるだけ振り分けるように努力したが、判断できないものもあった。一覧表(表７・８)を参照願いたい。

第３節　４面(縄文時代)

１　調査概要(図26)

本遺跡の調査区は緩やかな南東から南へ下る緩傾斜地形に立地しており、縄文時代の各遺構はほぼ平坦面で調査された。遺構確認面は第４面としたローム漸移層からローム層上層で色調差を主な根拠として平面形を確認していった。また、第２面、第３面で検出された古墳時代～中世に至る各遺構調査では遺構下部で縄文時代遺構の存在が窺われる例もあった。

縄文時代の遺構は、竪穴建物、列石遺構、屋外埋設土器、集石、土坑、ピット等からなる。竪穴建物は13棟が調査された。分布はＧ２区～Ｇ５区に11棟がまとまり、距離を置いたＨ区に２棟が立地する。竪穴建物の密度は高くなく、重複する竪穴建物は186号竪穴建物と258号竪穴建物のみで、他は単独の検出となっている。251号竪穴建物は敷石住居で掘り込みも検出され、住居部から出入り口部を中心にした敷石が顕著で良好な遺存度を誇る。

列石遺構は２条がＧ２区とＧ３区で確認された。いずれも東西の走向を見せる。屋外埋設土器はＧ３区とＧ４区で１基ずつ見ることができる。２個体とも体部下半を埋置する。時期はＧ３区が中期後葉、Ｇ４区が末葉である。集石としてＧ２区とＧ３区に各１基が調査された。Ｇ２区では小礫が集まる４号集石、Ｇ３区では多孔石や磨石を配した３号集石がある。いずれも顕著な掘り込み

を持たない。

土坑は各区で調査され50基を数える。Ｇ３区で10基、Ｇ４区で19基が集まり、竪穴建物の分布と重なる傾向が見られる。径１ｍ前後の不整円形の平面形が多く、１ｍを超える深さの例は無かった。断面形は円筒形や袋状を呈する例が見られたが、墓坑や貯蔵穴を示唆する遺物の出土例は無く、性格は不明としたい。時期は中期後葉から末葉で竪穴建物の時期幅に収まる。

遺構外出土遺物では前期土器が数点みられるが、中期後葉から後期初頭の資料が主体を占める。鼓状の臼型耳飾２点の出土を見るが、縄文時代遺構からの出土ではなく、遺構外出土と判断した。

Ｆ区

Ｆ区では明確に縄文時代と考えられる遺構は確認できなかった。

Ｇ１区(図27、PL.２)

Ｇ１区では南西隅で土坑７基、北西部でピット１基を確認した。土坑は纏まるが、ピットは散漫な印象を受ける。

Ｇ２区(図28、PL.２)

Ｇ２区では竪穴建物３棟・土坑７基・集石１基・列石１列・ピット５基を確認した。調査中央を南東から北西に縦断する位置に２号列石を確認した。その列石の北東側に遺構が多い傾向が認められる。竪穴建物は調査区東部で176・184の２棟、さらにそれらの東側で261号竪穴建物が確認された。184号竪穴建物と重複する部分で４号集石、土坑は184号竪穴建物と261号竪穴建物との間で470～475の５基、北西部で441･442の２基が確認された。ピットは２号列石の南西側で108・219号の２基、北西隅で１基、２号列石中央で列石と平行する位置に117・118号の２基、176号竪穴建物と重複する位置に212号１基である。117と118は軸が２号列石とほぼ一致するので、両者は関連がある可能性があるものと思われる。なお、212号ピットは176号竪穴建物と重複する位置にあり、この竪穴建物に付属する可能性があるものと考えられる。

Ｇ３区(図29、PL.２)

Ｇ３区では竪穴建物３棟・土坑10基・集石１基・列石１列・埋甕(埋設土器)１基・ピット16基・溝１基を確認した。竪穴建物は南東部で３棟が確認された。190号竪穴建物は単独で、186号竪穴建物と258号竪穴建物は南北に重複する位置にある。１号列石東側は礫が纏まるが、西側はやや疎らになり、間も切れる部分がある。地形の変換点で並びも良く纏まる傾向が見られる。３号集石と１号埋甕(埋設土器)は調査区の北東部に位置する。１号埋甕(埋設土器)は体部下半から底部までの残存であった。側線は沈線で間を縦位矢羽状短沈線を充填する。土坑は190号竪穴建物内やその周りに３基が位置するが、あまり纏まる部分は無く、散る傾向がある。ピットは調査区中央やや東に小さいものが、258号竪穴建物の周辺にやや大きいものが纏まる傾向が認められる。39号溝は448土坑と449号土坑の間で長さ６ｍ程の長さで、「へ」の字状に曲がって確認された。なお、228～231の５基(13号掘立柱建物)、236～238・240・241の５基(14号掘立柱建物)、220・227・233（５号ピット列)は４面に於いて調査したものであるが、掘立柱建物やピット列と考えられ、尚且つ14号掘立柱建物は３面の９号掘立柱建物と軸を同じくして並ぶのでこれらは３面の遺構の可能性が高いものと判断した。

Ｇ４区(図30、PL.２・３)

Ｇ４区では竪穴建物４棟・土坑19基・埋甕(埋設土器)１基・ピット24基を確認した。竪穴建物は円形プランが想定されるものが多いが、251号竪穴建物のように南東部が張り出す柄鏡形敷石竪穴建物の形態を呈するものもある。同竪穴建物は調査区の北西部で他の竪穴建物からやや離れた位置で確認された。260号竪穴建物は多くの土坑・ピットと重複し、外の南側にも土坑・ピットが存在する。252・262号竪穴建物は調査区中央南側で確認されたものであり、ギリギリ重複しない。262号竪穴建物の南側半分はＧ５区にまで及ぶものである。その東側に土坑・ピットが集中する部分がある。２号埋甕(埋設土器)は458号土坑と462号土坑との間で確認されたものであり、体部～底部までのもので口縁部は無い。沈線区画の中に縄文が充填されている。

Ｇ５区(図31、PL.２)

Ｇ５区では竪穴建物２棟・土坑７基・ピット10基を確

認した。257号竪穴建物は3面の291号土坑に切られており、262号竪穴建物はＧ４区で北側半分を調査し、間に調査できなかった部分はあるが、Ｇ５区では南側半分弱を調査し、ほぼ全体の形を確認することができた。土坑とピットは調査区の北西側に疎らに分布し、重複するものはない。

Ｈ区

Ｈ区では竪穴建物を２棟確認した。172号竪穴建物は調査区の北部で半分弱を、183号竪穴建物は北西部で全体を調査した。両者は南北に８m程離れており、同時期に存在していた可能性も考えられる。172号竪穴建物の炉には南東側に礫が用いられていたが、北西側の確認できなかった部分にも本来はあった可能性も否定できない。建物内部に土坑・ピット類が開く。183号竪穴建物は柱穴が６基、中央に石囲い炉が有り、炉の中央には深鉢の口縁～体部上半部が埋設されていた。口縁部文様帯は横位連弧状区画文７単位が配され、区画内は縦位短沈線が充填されていた。体部は垂下沈線による懸垂文を中心軸に相向う斜位短沈線による矢羽状文を配す。内面は被熱のため器面磨滅が著しい。

２　竪穴建物

竪穴建物は13棟が調査された。Ｇ２区に３棟、Ｇ３区に３棟、Ｇ４区に３棟、Ｇ４・５区に１棟、Ｇ５区に１棟、Ｈ区に２棟が分布する。各区の地形に沿った配置を示しており、特に偏在する様相ではなく、全体に散漫な分布である。全体的な分布は特徴的な形状を呈さず、いわゆる環状集落は形成していないように見える。これはおそらく地形全体に沿った配置で、調査区北を頂部とした台地縁辺を弧状に竪穴建物が分布するものと考える見方もできる。しかし、Ｇ３・４・５区の最も集中している部分だけで考えるとほぼ一定の間隔を置いて直径80～90m前後の環状に並んでいるようにも見える。調査区域外の北西側から南東側への竪穴建物分布が予想されよう。以下、各区の竪穴建物の説明を加える。

Ｇ２区

176号竪穴建物（図541・542・581・607、PL.３・465・558・559・576）

位置　Ｇ２区やや南東側で調査された。周辺は西南西への緩斜面地形が広がる中、ほぼ平坦地形で検出された。座標位置はX=722～725、Y=-862～-865に位置する。西約1.8mに184号竪穴建物が近接するが、周辺は古墳時代～平安時代の遺構が密集する地点で、そのため、縄文時代遺構の遺構密度は判然としない。

経過　調査第３面であるローム漸移層で確認された。遺構検出作業の際に、石囲い炉の一部と炉周辺に遺物が集中したため竪穴建物と位置付け、周辺の精査を重ねたが良好な壁の検出には至らず、石囲い炉を中心とした５m前後の範囲を竪穴建物範囲として位置付けた。

重複遺構　縄文時代遺構としては212号ピットが床面中央やや南東寄りに重なるが、竪穴建物内の施設として判断した。その他では古墳時代～平安時代の竪穴建物や10号掘立柱建物が西側に重複する。当初10号掘立柱建物Ｐ９を本竪穴建物柱穴として考えたが、整理作業の検討結果、10号掘立柱建物に帰属する柱穴とした。

規模　当初、10号掘立柱建物Ｐ９や176号竪穴建物Ｐ１を柱穴として位置付け、径５m程の円形平面形を推定した。しかし前述のように10号掘立柱建物Ｐ９は10号掘立柱建物柱穴に確定し、さらに土層の観察で得られた壁立ち上がりを優先した結果、径約３mの小形円形を推定範囲とした。深さは断面観察から約４cmを導いた。

竪穴建物自体の遺存度は良くない。なお、竪穴建物主軸は石囲い炉主軸に近く北東を向くように推定した。

重複　前述のように、古墳時代～平安時代竪穴建物や掘立柱建物が西側に大きく重なる。その他ではＰ212を見るが、本竪穴建物施設として位置付けた。

床面　軟質ロームを地床とし平坦面を築くが凹凸が顕著である。硬化面は石囲い炉周辺にわずかに見られたが全体に軟弱である。

施設　石囲い炉を床面中央に設ける。柱穴としてはＰ２及び212号ピットに可能性を求めたが、両ピットとも規模に妥当性はあるが、配置上は良好ではない。Ｐ１を含めて柱穴としての可能性に止めておきたい。

炉　床面中央に位置するが、推定平面形のため確定性に乏しい。石囲い炉で大形の円礫４石からなる。規模は約67×42cmの長方形を平面形とする。主軸はN-34°-Eである。深さは約10cmを測り、少量の焼土粒や炭化物を含む黒褐色土や暗褐色土を埋土としていた。また西辺と南辺

の炉石が被熱のため破砕していた。南辺の炉石は石皿の転用である。炉内より大形深鉢の体部破片が出土しているが、これは炉周辺に集中して出土した深鉢破片と同一個体であり一括廃棄に伴う出土状態と判断できた。炉掘り方は軸長約60㎝の方形を平面形とし浅く上面に焼土のまとまりを見た。また、炉西辺に近接して扁平な大形円礫が出土していた。台石状でありおそらく炉周辺の居住に伴う所産であろう。

遺物　炉周辺に大形の深鉢(２)が破片状態でまとまって出土している。いずれも床直～床直上に集中しており、炉周辺の一括廃棄の所産と判断できる。前述のように石皿(S2)は炉南辺の炉石である。軽石製品(S1)は埋土中の出土である。

所見　遺存度は悪く竪穴建物範囲や平面形、柱穴範囲など不確定な要素が多い。土層断面から小径の小形竪穴建物を推定したが確定性に乏しい。４石からなる石囲い炉の様相は比較的良好で床面中央の位置を推定した。炉周辺の出土遺物はまとまっており、竪穴建物廃絶直後の時期が与えられよう。時期は出土土器の大半が加曽利ＥⅣ式に集まる様相から中期末葉に求めておきたい。

184号竪穴建物(図543・544・582、PL.３・466・559)

位置　Ｇ２区南東側で検出された。周辺は西南西への緩斜面地形が広がりほぼ平坦面といえよう。座標位置はX=714～719、Y=-860～-865に位置する。東約1.8mに176号竪穴建物、南西約3.8mに261号竪穴建物が近接する。また、471～474号土坑も南西に近接する。また本竪穴建物推定西壁周辺に４号集石遺構が重なるように、縄文時代の遺構密度は高い傾向を示す。

経過　調査第３面であるローム漸移層で確認された。周辺は古墳時代～平安時代竪穴建物などが群在しており、本竪穴建物も平安時代竪穴建物の調査中にその存在が推定された遺構である。遺物の集中が見られ、竪穴建物を推定し土層ベルトを設定して精査を重ねたところ、石囲い炉の一部と床面の検出に至った。ただ周辺遺構との重複が多くまたローム漸移層の堆積も薄い箇所のため、壁の検出には至らず、石囲い炉と柱穴配置を元に、径約５mの円形平面形を推定した。

重複遺構　西壁周辺に４号集石遺構が重複する。土層による新旧の観察は果たせず、出土土器の時期差も大きく無いことから、新旧関係は不明としたい。

規模　主軸を東北東に向けた推定円形の平面形を呈し、径約５mを測る。前述のように壁の検出が果たせず、遺存度は悪い。

床面　軟質ロームを地床とする。細かな凹凸が顕著だが全体に平坦面を築く。硬化面は見られず全体に軟弱である。

施設　床面中央に石囲い炉を設ける。柱穴はＰ１～Ｐ４が規模・配置からも確定的である。いずれも、径50㎝前後、深さ約60～70㎝で四本柱穴として配置も良好である。柱穴間も260㎝前後で統一性が見られ整った配置といえよう。

炉　床面中央に推定した石囲い炉である。主軸を東北東に向けた軸長約45㎝の方形を平面形とする。深さは約12㎝を測り、少量の焼土粒や炭化物を含む黒褐色土を埋土としていた。南辺と東辺に大形の楕円形円礫２石を設け、２石とも被熱のため破砕していた。北辺と西辺には石囲いはされていないが周辺及び炉内から出土した亜角礫などが被熱破砕後に散乱した可能性もある。炉底面西側には炉石抜き取り穴が掘り方調査で得られている。炉掘り方は平面形が判然としなかったため、土層軸に沿って断ち割り調査を行った結果、浅い不整形の掘り方を確認した。

遺物　多くの遺物が床面よりやや浮いた状態で出土している。おそらく流入による所産で居住に伴う出土状態ではないと考えた。その中で、炉南西側のＰ１とＰ２間に扁平な大形円礫数点が床直より出土している。柱穴であるＰ１上部に乗る円礫も見られる。あるいは出入口施設などに伴う例と考えられるが規則性に乏しく確証はない。有縁の石皿片と大形円礫が伴に床直より出土している。出土土器は全て破片状態で13点を図示した。個体図示できる例は無いが、時期は加曽利ＥⅢ式～ＥⅣ式に比定した。

所見　176号竪穴建物と同様に遺存度も悪く、壁が特定できず規模・平面形は推定である。その中で石囲い炉と柱穴規模・配置は良好で主軸を東北東に向けた円形の平面形を推定した。出土遺物はやや少量ながら、加曽利ＥⅢ式～ＥⅣ式に集中することから、中期後葉新段階～中期末葉に時期が求められよう

261号竪穴建物(図545・583、PL.467・559・560)

位置　Ｇ２区調査区南東壁にかかり検出された敷石住居である。周辺は西南西への緩斜面地形の中、ほぼ平坦面

が広がる。先に述べた184号竪穴建物や471～474号土坑が北北東に近接する。縄文時代の遺構密度は高い。座標位置はX=711～714、Y=-856～-858である。

経過　調査第３面であるローム漸移層で確認された。竪穴建物埋土は黒褐色土であり、471～474号土坑などと伴に明瞭に遺構として検出され、精査を加えて敷石が露出するに至り敷石住居として位置付けられた。

重複遺構　古墳時代～平安時代遺構である101号竪穴建物や208号土坑が重複するように、新しい時期の遺構に壊されている。また土層図では208号土坑下からは470号土坑が位置する。土層観察では470号土坑が本竪穴建物の床下になり出土遺物の様相からも本竪穴建物が新しい。

規模　南東側を大きく調査区域外に延長するため、全容は把握出来ない。土層より深さは約９㎝が観察された。

床面　敷石住居である。中央を大きく208号土坑で壊されているため確定できないが全面敷石の可能性はある。扁平な板石と扁平な大形円礫で構成され、南西側と北東側が板石、中央部分が大形円礫に偏る傾向が見られた。意図的な配置と把握できよう。敷石下は黒褐色土を埋土とし底面は軟質ロームが平坦に築かれていた。

施設　炉は未検出である。おそらく調査区域外に存在するものと思われる。壁周溝が敷石外縁を沿うように設けられていた。幅約30㎝、深さ約10㎝を測り、一部敷石に重なる配置である。柱穴は壁周溝に沿ってＰ１～Ｐ３を及び１号土坑を検出した。壁柱穴といえよう。いずれも平面形は不整円形～不整形だが深さは45～70㎝を測り良好な規模である。

遺物　出土遺物は少なく、土器片７点を図示できた。個体は無くＰ１とＰ３からの破片出土を見るが、全体に散漫な分布だった。おそらく流入による所産であろう。時期は加曽利ＥⅣ式を主に加曽利ＥⅢ式が混在する組成である。

所見　敷石住居である。炉や南東側が調査区域外のため全容は把握できないが敷石の様相から全面敷石の可能性もある。柱穴は壁柱穴の配置を示し、壁周溝を付帯する。時期は、出土土器が加曽利ＥⅣ式を主体とすることから、中期末葉として位置付けておきたい。

Ｇ３区

186号竪穴建物（図551・552・584～586・608、PL.468・560～562・576）

位置　Ｇ３区南東端の調査区境で検出された。周辺は南への緩斜面地形が広がる中ほぼ平坦地での調査となった。周辺は258号竪穴建物や１号列石遺構が北側に近接するように縄文時代遺構密度は高い。座標位置はX=689～694、Y=-874～-879である。

経過　第３面調査で得られた26号溝に切られた様相で確認された。26号溝終了後調査面を第４面に下げ、本竪穴建物の検出に努めた。確認面はローム漸移層上位で調査区南東壁にかかり平面形を確認した。竪穴建物埋土は焼土塊を含む黒褐色土を主体としており、地山との色調差は明瞭で遺物の出土と共に軟質ロームによる床面と壁が確認できた。

重複遺構　上層で古代の道路状遺構である25・26号溝が調査されており、26号溝が本竪穴建物を東西に切る。縄文時代遺構としては北側に258号竪穴建物が重なるが、土層軸による新旧の観察は果たせず、両竪穴建物の重複範囲も少ないため、新旧関係は確定性に乏しい。出土遺物も中期後葉の範囲に収まるため、新旧は不明と言わざるを得ない。

規模　南東側が調査区域外に延びるため全容は把握できない。残存する箇所の計測では径約5.7ｍの不整円形を平面形とする。深さは約32㎝を測る。壁は残存部では全周するため、良好な比較的遺存度といえよう。

床面　軟質ローム上面を地床とする。凹凸もわずかで平坦面を保つが緩やかに南西側に傾斜する。硬化面は中央部分を中心に地点的に見られたが広がりを持たない。

施設　床面調査範囲内では炉は未検出である。壁周溝も見られなかった。柱穴としては、南西壁に重複するＰ３・Ｐ６、北西壁際のＰ４、及び調査区壁で検出したＰ１が規模・配置とも良好である。

炉　明瞭な炉は確認できなかった。しかしながら、埋土中より焼土塊が多く確認され、床面中央北寄りに焼土がまとまって検出されている。地床炉としての可能性もあったが、掘り込みを持たず床面上に集中するのみであり炉としての積極性は持たない。また、調査区壁の北東寄りで調査されたＰ５は浅く規模も妥当であり位置的にも炉としての可能性を示唆したが確定的ではない。

遺物　検出範囲が限られる中、比較的まとまった出土量を示す。22点の土器資料が掲載できた。各個体は１個体

分がまとまった出土状態だったがいずれも床面から浮いた埋土中での出土層位であり、このことから竪穴建物廃絶後の一括廃棄と判断できた。石器は台石(S7・S5)、磨石(S3)、打製石斧(S1)等が出土した。

所見　北西半のみの調査で炉も調査区域外と思われるが、柱穴として３カ所のピットを該当させた。出土遺物も豊富で大量の遺物が一括廃棄されたと考えられ、同時性は高い。時期は出土遺物が加曽利ＥⅢ式を主とすることから、中期後葉以降と位置付けたい。重複する258号竪穴建物との新旧は不明であり検討課題となる。

190号竪穴建物(図553・554・587・609、PL.469・562・577)

位置　Ｇ３区南側に位置する。周辺は南への緩斜面地形が広がる中ほぼ平坦地での調査となった。重複・近接する縄文時代竪穴建物は無く、前述のＧ２区186号竪穴建物や258号竪穴建物が東約14mに距離を置く。土坑は287号土坑や444号土坑が南側調査範囲で重なるが遺構密度は高くない。座標位置はX=693･694､Y=-893･-894である。

経過　確認面はローム漸移層である。第３面調査において、５号道北側溝である26号溝が南側を大きく壊し、また122号竪穴建物が北側に重なるように、壁の多くは逸失しており東壁と西壁の一部の検出に止まった。遺存度は良くない。

重複遺構　縄文時代遺構としては287号土坑と444号土坑が南側で重複するが、上層を26号溝によって切られているため土層による新旧の観察はできなかった。また土坑出土遺物も見られないため､新旧関係は不明と判断した。

規模　東西軸長は約4.5m、柱穴配置からの推定南北長が約4.8mの推定平面形が不整五角形を呈す。深さは遺存度の比較的良好な西壁付近で約13㎝である。主軸はＰ３を奥壁柱穴として位置付けた数値でＮ－11°－Ｗである。

床面　遺存度が悪く、全容は把握できない。軟質ロームを地床とし平坦面を保つようだ。硬化面は観察できなかったが炉周辺もやや軟弱な印象を得る。

施設　床面中央に石囲い炉、壁際にＰ１～Ｐ５が配されさらに287号土坑と重なる91号ピットや整理作業で抽出した古代122号竪穴建物のＰ１を加えると７基のピットが良好な配置を示す。規模は若干浅い例もあり検討を要するが、配置を優先し、この７基のピットを柱穴として位置付けたい。壁周溝は見られなかった。

炉　床面ほぼ中央に石囲い炉を設ける。主軸をほぼ北に向けた平面規模は約87×78㎝の方形を平面形とし、深さは約11㎝を測る。南辺を除く３辺に大形礫が設けられる。北辺と西辺は被熱のため破砕されるが大形円礫２石からなり、東辺は破砕された状態の角礫からなる。また炉内中央に北辺の炉石と同一個体が出土している。おそらく炉廃絶に伴う所産と考えた。またやや北寄りに炉内土器(１)が正位で埋置されていた。体部下半は意図的に欠損され、口縁部は被熱のため器面磨滅していた。他には磨石(S2)他が炉内及び東辺より出土している。掘り方調査では、不整円形の土坑が得られ、底面には南辺の炉石抜き取り穴が確認できた

遺物　出土量は多く無く、土器資料は５点、石器は４点の図示に止まる。炉内土器以外は破片出土であり、いずれも埋土下位出土で、廃棄あるいは流入に伴う出土と捉えた。炉内土器は居住に伴う例で、曽利式の影響を受けた加曽利ＥⅢ式段階の土器であろうか。

所見　古代遺構のため遺存度の悪い竪穴建物となった。壁の立ち上がりも数箇所が確認されたのみだが、７基のピットを柱穴として位置付け、五角形の平面形を推定するに至った。出土遺物は少なく、炉内土器も異系統土器の影響を受けているため、確定できないが、伴出する破片類が加曽利ＥⅢ式に比定できた。中期後葉に時期を求めたい。

258号竪穴建物(図555・556・587・588・609、PL.470・562・563・577)

位置　Ｇ３区南東で前述の186号竪穴建物と重複して調査された。周辺は南への緩斜面地形が広がり、北側に１号列石遺構が東西に連なり186号竪穴建物とともに縄文時代遺構の一隅を占める。座標位置はX=693～697、Y=-874～-879である。

経過　第３面調査の５号道北側溝である26号溝に切られた様相で確認された。確認面はローム漸移上層で186号竪穴建物検出後の調査となった。埋土は黒褐色土を基調とするため、平面形や壁の確認は比較的容易だったが南東側は186号竪穴建物との重複のため、平面形・壁・床面は判然としなかった。

規模　主軸を北に向けた五角形を推定平面形とした。平面規模は推定値で約4.5×4.3mで深さは約26㎝である。比較的良好な遺存度といえよう。

重複遺構　南に186号竪穴建物が重複するが新旧は不明

である。本竪穴建物炉が186号竪穴建物の北壁部と重なるが重複範囲が狭く、炉石が残存するとはいえ新旧の判断材料にはならなかった。

床面　軟質ローム下層を地床とする。わずかな凹凸や傾斜は見られるもののほぼ平坦面を築き硬化面も中央部を中心に広く見られた。

施設　炉は床面中央南寄りに著しく偏る。柱穴は主軸線上の奥壁際にＰ１・Ｐ２を調査し、さらに整理作業において東壁上に249号ピット・250号ピット、西壁上に242号ピットを抽出した。いずれも規模、配置とも柱穴として妥当だと思われる。

炉　床面南側に偏って検出された石囲い炉である。平面形は主軸を北に向けた方形を呈し、平面規模は約97×71㎝、深さは13㎝を測る。炉石は北辺と南辺のみに数個の円礫や亜角礫が集まり、炉周囲を整然と囲む様相は示していなかった。南辺の炉石はわずかながら186号竪穴建物範囲にかかり、このことから本竪穴建物が186号竪穴建物を切る重複関係が想定される。炉掘り方は楕円形の土坑が検出された。炉石の抜き取り痕は見られなかった。

遺物　埋土中より多くの出土遺物が見られた。土器資料は破片資料が主で床面より浮いた状態の出土を示すことから、居住に伴う例は少なく流入による所産と判断できた。加曽利ＥⅢ式の大形深鉢体部(6)は北東隅で他の破片資料と伴にまとまった状態で出土している。石器は打製石斧(S2)、磨石(S3)等の出土を見た。

所見　南側に偏った炉の配置を示す竪穴建物である。平面形は五角形が推定され、３カ所の柱穴配置が示唆された。出土遺物は埋土下位に集まり、竪穴建物廃絶後の流入と判断した。時期は出土土器が加曽利ＥⅢ式に集まるため、中期後葉以降であろう。186号竪穴建物との重複は南辺の炉石の在り方から、本竪穴建物を新しく捉えられるが、重複部分が狭く出土土器の時間差も見られないことから確定的ではない。

Ｇ４区

251号竪穴建物(図562～565・590・591・611・612、PL.471～473・564・565・577・578)

位置　Ｇ４区北西隅に位置する敷石住居である。周辺は平坦地が広がるが、巨視的には南側への緩傾斜地形に立地する。他の竪穴建物との重複は無く南東約9.5mに260号竪穴建物が占地する。土坑、ピットなどとも距離を置き、縄文時代の遺構密度は低いといえよう。座標位置はX=690～695、Y=-913～-918である。

経過　調査第４面であるローム漸移層で確認された。平面形確認時当初は、出入口部東端部の組石上端部のみが出土したが主軸方向に黒褐色土を基調とした埋土の広がりが確認できたため、敷石住居として判断できた。その後、埋土中より加曽利ＥⅢ式やＥⅣ式土器を中心に出土土器が集中し、床面では敷石が広がりを見せた。掘り込みはローム層を深く掘り込むため、壁及び床面の検出は極めて容易だった。また、重複遺構も無く敷石住居として極めて良好な様相が把握できた。

規模　主軸方位を北西に設け、主軸長約６ｍ、短軸長約４ｍを測る。住居部の平面形は六角形を基調とした円形で径約４ｍ、深さ約50㎝で極めて良好な遺存度を誇る。東端部の出入口部は約180×175㎝、深さ約55㎝を測り不整円形を平面形とする。

床面　敷石は円礫を中心に板石が混じり住居部縁辺を並ぶ。住居部の南半を中心に敷石が平坦に集中する。一方、炉北側は敷石がなされずローム層上層を地床としわずかながら硬化面も見られた。また、床面北東部も敷石がなされず、縁辺に並ぶ敷石が途切れる箇所がある。

出入口部にかけても出入口部石囲い施設及び框石が東へ連続し、円形の出入口部底面は大形の円礫が敷きつめられ周縁壁も立位の円礫を主として壁体としていた。堅牢な印象を得る。

施設　住居部中央に石囲い炉を設け、出入口部に向かい石囲い施設と框石が設けられる。石囲い施設は軸長30×25㎝程のやや小形の例で、浅く扁平な小形円礫が底面に置かれていた。石囲い施設東端に框石状に大形自然石が立位に設けられ、出入口部境の框石に至る間を大形円礫が連続していた。

床下調査においては、床面中央部が隅丸方形状に凹み壁との間に30基以上のピットを検出した。いずれも柱穴として位置付けられ主柱穴としては、配置及び規模からＰ13、Ｐ20、Ｐ24、Ｐ５、Ｐ９を充てたい。その他は壁柱穴として判断したが、主柱穴との差が無いピットもあり特定はできなかった。また、土坑１、土坑２は対ピットとして位置付けられよう。

炉　住居部ほぼ中央に石囲い炉が設けられる。大形円礫

４石からなる方形を平面形とする。平面規模は約70×60㎝で東西に長軸を持つ。深さは約20㎝を測る。炉内土器など主たる出土遺物は見られず、上層に焼土塊の堆積を見た。床下調査で得られた掘り方形状は方形の土坑であり、炉石埋置痕跡が顕著に見られた。

遺物　良好な遺存度の割には出土量が少ない。また、埋設土器や炉内土器、出入口埋甕など土器施設は見られなかったため、図示し得た土器は14点のみで、個体図示した土器は大形深鉢体部下半(14)の１点のみである。埋土下層出土であり、居住に伴う例では無く、他の土器片と同様に一括廃棄あるいは流入による所産と判断した。石器としては打製石斧(S1)、磨石(S3・S6)、砥石(S9・S10)、多孔石(S11)の他に軽石製品(S13)の出土を見る。

所見　遺存状態の良好な敷石住居である。全面敷石ではないが、間取りを想起させる住居部の敷石配置、出入口部の全面敷石や壁補強の様相など、当地域の敷石住居でも屈指の在り方を示す。時期は出土土器の様相から、中期末葉から～後期初頭に比定され、Ｇ２区で検出された敷石住居である261号竪穴建物より若干新しく時期を求めた。

252号竪穴建物(図565・566・591・613、PL.474・565・578)

位置　Ｇ４区南端で後述する262号竪穴建物北壁と接して調査された。座標位置はX=670～674、Y=-916～-921で周辺は南側への緩斜面が連続する地形である。遺構密度は比較的高く262号竪穴建物の他428号土坑が本竪穴建物南側に重なり、465号土坑が北東に近接する。また、本竪穴建物北東側は古代竪穴建物である193号竪穴建物が大きく重複しているため、全容の把握は果たせなかった。

経過　ローム漸移層で調査を進めたが、その存在は調査第３面で得た193号竪穴建物調査時に、石囲い炉の一部が見られたため、縄文時代遺構としてローム漸移層上層から検出が果たせた。しかしながら、壁の検出ができたのは北西壁と南東壁の一部のみで、さらに南側は撹乱坑があるため検出は適わず、竪穴建物南側の範囲は推定線にとどまった。

規模　北東部を193号竪穴建物に重複され、また南側も推定平面形のため全容は不明であるが北西壁と南東壁の距離が約4.8mを測ることから、平面形は径５m前後の不整円形が推定された。深さは約23㎝で浅く遺存度は良くない。

重複遺構　428号土坑が南壁で重なる。壁の遺存度も良くない箇所で、土層による観察が果たせなかったため、新旧は不明である。

床面　重複遺構や撹乱のため床面は大きく逸失する。残存する北東部と南西部の様相はローム漸移層下位を地床とし、わずかな凹凸をみるもののほぼ平坦面を築く。硬化面は炉周辺に認められた。

施設　石囲い炉及び柱穴数基を見る。床面調査で検出されたＰ１～Ｐ４及び４面調査で得られた261～263号ピット、さらに重複する193号竪穴建物Ｐ１、Ｐ２を加えて柱穴の可能性のあるピットとしたい。いずれも規模、配置ともに柱穴としての妥当性が求められよう。

炉　床面ほぼ中央部に石囲い炉が設けられる。193号竪穴建物が重なるため東辺を逸失しているが、四辺を大形円礫で囲んだ方形を基調とした平面形が推定できよう。推定規模は軸長約75㎝で深さは約10㎝を測る。炉中央には炉体土器として体部下半を打ち欠いた深鉢(１)が正位で埋設されていた。被熱の影響で口縁部周辺の器面は磨滅が見られた。埋土には少量の焼土粒や炭化物を含む黒褐色土が堆積する。掘り方調査では土坑状の掘り方底面に焼土の広がりを見た。他に炉石設置痕跡を検出した。

遺物　残存する北東部に出土が偏る。居住に伴う土器は前述の炉内土器のみで他は埋土中位～下位の出土である。出土土器は加曽利ＥⅢ式が主体でおそらく一括廃棄に近い様相と思われる。石器としては台石(S1)と(S2)が床面北東部で床面に接して出土している。これも居住に伴う遺物と判断できよう。

所見　古代竪穴建物と撹乱により多くを逸失した竪穴建物である。径５m程の不整円形を平面形とする竪穴建物で、辛うじて石囲い炉が残存し炉体土器を得ることができた。時期は炉体土器から中期後葉としたい。

260号竪穴建物(図567・568・592、PL.475・566)

位置　Ｇ４区中央やや北寄りに位置する。周辺は平坦地が広がるが､巨視的には南側への緩傾斜地形に立地する。竪穴建物との重複は無いが、422号土坑や、433号、457号土坑などが本竪穴建物範囲内に重なるように遺構密度は高い地点である。座標位置はX=682～687、Y=-907～-912である。

経過　平面形の確認はローム漸移層下位で行った。周辺の土坑群の調査過程で石囲い炉の検出に至り、竪穴建物

として精査を重ねたが、北側は古代溝により撹乱され、また周辺の土坑との重複により壁の把握には至らず、炉周辺の床面とピットの検出に止まった。

重複遺構　290・292・422・432・433・457坑などの土坑群との重複である。竪穴建物の埋土は薄く残存状態が悪いためこれら土坑群との新旧は不明である。

規模　検出されたピットを柱穴として位置付け、残存する床面の範囲から、推定平面形を径５ｍ程の円形と判断した。遺存度が悪いため深さは測れなかった。

床面　残存部分のみの判断だが、ローム漸移層下位による地床である。ほぼ平坦面が広がるが硬化面は見られなかった。

施設　石囲い炉と６基のピットを床面上で確認した。ピットは２基１対の重複状態で検出された、建替えなどによる重複と考えられる。配置・規模とも柱穴として可能性の高いピットである。

炉　石囲い炉である。北北東に主軸を向けた方形を平面形とし、軸長約80㎝を測る。北辺は小形礫で囲われるが、他の３辺は大形礫が設けられる。各辺とも数個の礫で構成されるが、被熱により破砕されたものと判断した。炉内中央に炉体土器を設ける。加曽利ＥⅢ式深鉢体部中位を正位で埋置していた。被熱のため器面や破断面は磨滅していた。炉掘り方では不整方形状の土坑を得た。北辺には炉設置痕跡を見ないため、意図的な炉石配置と捉えられよう。

遺物　少量の出土量である。居住に伴う炉体土器以外は炉周辺の埋土中の出土で廃棄の可能性が強い。特徴的な石器の出土は見なかった。

所見　遺存度の悪い竪穴建物である。径５ｍ程の平面形を推定したが、重複するピットを柱穴と捉えれば平面規模は近い数値と思われる。炉は石囲い炉で、炉体土器を付設する。竪穴建物の時期は炉体土器から中期後葉と判断できる。

Ｇ５区

257号竪穴建物（図572・594、PL.476・567）

位置　Ｇ５区南東側で調査された。周辺は南西への緩斜面地形が広がり、ほぼ平坦地形が保たれる。縄文時代の遺構との重複は無く単独の検出となった。上層で調査された遺構としては246号竪穴建物や291・299号土坑が重なる。座標位置はX=646～650、Y=-915～-919である。

経過　調査第４面であるローム漸移層で調査を進めたが、当地点は上層の第３面において古代竪穴建物や溝などの遺構が密集しており、そのため下層の遺構遺存度は極めて悪い。しかしながら、辛うじて壁が遺存しており全周したため、平面形や遺構規模は把握できた。

規模　平面形は整っておらず、北北東に主軸を設けた楕円形に近い不整形とした。平面規模は約4.6×4.1m、深さは約10㎝で浅く遺存状態は良くない。

床面　ローム漸移層を地床とする。重複遺構も多く床面の残存状態は悪く凹凸も顕著だったが、ほぼ平坦面が広がり硬化面も石囲い炉周辺で観察された。

施設　石囲い炉とピット５基を検出した。ピットは壁際あるいは壁に重なっており、等間隔の配置ではないが、柱穴としての規模である。特にＰ１とＰ４は深さが30㎝以下だが炉主軸線上にも一致した配置で柱穴としての可能性は極めて高い。

炉　床面中央に石囲い炉を設ける。主軸を北北東に向けた方形を平面形とし、平面規模は約60×50㎝、深さは約20㎝を測る。南辺を除き他辺に円礫及び破砕礫５個により囲われる。北辺と東辺は大形円礫を使用し、西辺は破砕礫を充てる。南辺は土器片が混在する様相を示す。炉体土器を持たず炉内は焼土小塊を含む黒褐色土を埋土としていた。

遺物　極めて貧弱な出土量で、土器は炉出土の口縁部片１点を図示したのみである。加曽利ＥⅢ式である。炉出土であり居住に伴う遺物と判断できよう。

所見　遺存度が不良ながら、壁は全周するため平面規模も把握でき、石囲い炉や柱穴も確認できた竪穴建物である。上層の古代遺構の影響で多くは逸失しており、そのため図示した遺物も１点にとどまった。帰属時期は出土遺物から中期後葉としたい。

Ｇ４・５区

262号竪穴建物（図573～575・594～596・615、PL.477・478・567・579）

位置　Ｇ５区北東の調査区境で検出された。発掘調査では竪穴建物の北側はＧ４区に延びる解釈をしている。周辺は南西への緩斜面地形である。Ｇ４区には252号竪穴建物や428号土坑が近接するが、Ｇ５区では竪穴建物

は重複、近接していない。座標位置はX=662～668、Y=-914～-921である。

経過　ローム漸移層下位で確認した。遺構確認作業中に集石土坑を検出し、この土坑とＧ４区で検出した集石炉との関連性を重視し、1棟の竪穴建物として位置付けた。また、Ｇ４区とＧ５区の間は東西に塩ビ管が埋設され、そのため全体像の把握に困難が生じた。土層の観察では、浅い壁と平坦な床面を確認できたが、壁による平面形は把握できず、４区と５区を跨る竪穴建物として判断した。

規模　長軸を北北東に向けた楕円形を平面形とし、平面規模は約6.3×6.1ｍを測る。大形の平面形を推定した。深さは土層の観察からでも10㎝前後で極めて浅い。

床面　判然とせず、Ｇ４区とＧ５区では標高差が著しく、平坦ではない。硬化面はＧ４区の炉周辺で見られた。

施設　Ｇ４区に炉、Ｇ５区に集石土坑を見る。ピットはＧ４区に１基、Ｇ５区に５基を検出した。Ｐ６以外は壁際に設けられており、配置上、柱穴としての可能性はある。土坑１とした集石土坑は調査区境に北側がかかり全容は把握できないが、埋土中より下位にかけて拳大の礫が集中する。顕著な被熱痕跡は見られなかったが埋土中に焼土小塊を含む。

炉　Ｇ４区側の調査区境に径約60㎝の円形の掘り込みで、中位より底面にかけて円礫が多く集中した。礫は若干被熱痕跡を見る。埋土中からも焼土粒を見ることから、集石炉としての可能性はある。

遺物　Ｇ４区からは出土を見ず、Ｇ５区側に集中する。特に土坑１からの出土が顕著である。完形の出土は無いが加曽利ＥⅢ式の大形深鉢を主体としており、Ｇ５区部分への一括廃棄の可能性が高い。なお、器台破片の出土も見る。石器は打製石斧(S3)や石錐(S2)などが出土している。

所見　調査区に跨る竪穴建物で、平面規模、床面の標高差、炉の在り方など問題が多い。柱穴や遺物の集中がＧ５区に偏る様相から、土坑１を中心とした径５ｍ程の平面形が妥当であろう。検討を要する。時期は中期後葉としたい。

Ｈ区

172号竪穴建物(図576・577・596・616、PL.478・479・568・569)

位置　Ｈ区の北端で調査区西壁にかかり検出された。周辺は南への緩斜面地形でほぼ平坦面での調査となった。周辺の遺構密度は低く、古代遺構との重複も見られなかった。座標位置はX=644～647、Y=-966～-970である。

経過　調査地点は表土より確認面であるローム漸移層までが約20㎝と浅く、遺構の遺存度も極めて低かった。遺構確認時に石囲い炉と縄文土器の散布が見られたため、竪穴建物と判断し精査を重ねた。その結果、竪穴建物東半の浅い壁や床面、ピットの検出に至った。

規模　西半を調査区域外に延ばすため全容は把握できない。残存部から平面形は南北軸長約3.5ｍの小形の不整円形を推定したい。

床面　軟質ローム上層を地床とする。わずかに東南へ傾くがほぼ平坦面を検出した。硬化面は確認できなかった。

施設　石囲い炉及びピット10基を確認した。ピットは東側に偏る傾向があり、規模もＰ１以外は深さ20㎝以下のため柱穴としての可能性は低い。Ｐ１も炉に近接しており配置上は柱穴には相当しないと判断した。

炉　石囲い炉を設ける。主軸を北西に向けた長方形を平面形とする。平面規模は約70×50㎝で、深さは約15㎝を測る。炉石は西辺に大形円礫を設け、北辺は小形礫２個、南辺は１個が置かれる。東辺の炉石は設けていない。炉体土器は無く、炉上層に土器片がまとまる。おそらく竪穴建物廃絶後の廃棄、流入による所産と考えられる。掘り方は方形の土坑が充てられる。平面規模は100×95㎝、深さは約17㎝である。

遺物　埋土下位より、数個体がまとまって出土するが、居住に伴う出土状態ではない。加曽利ＥⅡ式の鉢(１)は炉上層より大形深鉢の(２)は炉西側にまとまる。時期差は少なく、一括廃棄によるものと判断している。尚石器は打製石斧(S1・S2)や磨石(S3)が出土している

所見　東半のみの検出で浅く遺存後も良くないため、全容は判然としない。石囲い炉を持つ小形の竪穴建物と位置付けたい。時期は出土土器から中期後葉古段階としたい。

183号竪穴建物(図578～580・597・616、PL.479～481・569)

位置　Ｈ区中央やや北西寄りに位置する。周辺は南西への緩斜面地形でほぼ平坦面が広がるが、西側は急斜面地形が展開する。周辺に縄文時代の遺構は無く、前述の172号竪穴建物が北９ｍに距離を置く。古代の遺構密度

は高く、本竪穴建物北西部も56号竪穴建物が重複する。座標位置はX=629～635、Y=-968～-973である。

経過　ローム漸移層下位で平面形を確認した。埋土との色調差は明瞭で、床面、壁の検出は比較的容易だった。重複遺構は前述の56号竪穴建物のみで、ほぼ単独の検出といえよう。縄文時代の遺構との重複は無かった。

規模　主軸長軸を北北東に設けた不整六角形を平面形とする。規模は約6.0×5.2ｍで深さは約25㎝を測る。比較的良好な遺存度といえよう。

床面　ローム漸移層下位を地床とする。わずかな凹凸が見られるが、ほぼ平坦面が構築され硬化面も床面中央の石囲い炉を中心に各柱穴周辺にまで及ぶ。

施設　床面中央に石囲い炉、壁から20～100㎝の距離に６基のピットを検出した。ピットは２ｍ前後の距離をあけほぼ等間隔に配置されていた。規模は径40～50㎝、深さ60～80㎝を測る。配置、規模からも良好な６本柱穴といえよう。

炉　床面ほぼ中央に石囲い炉を設ける。方形を平面形とし、辺長約75㎝、深さ約15㎝を測る。南辺と西辺に大形円礫を充て、北辺と東辺は西側と南側に炉石が偏り北東隅が開く炉石配置となっていた。炉石は被熱による破砕が著しかった。炉体土器を炉中央に設ける。平縁の深鉢体部下半を打ち欠いて正位に埋置する。被熱の影響で内面が強く磨滅していた。掘り方は不整楕円形の土坑である。平面規模は約104×90㎝、深さは約27㎝を測る。中央が凹むが炉体土器埋置によるものである。

遺物　出土量は多い。居住に伴う遺物としては前述の炉体土器(３)、床直遺物としては床面南東側のＰ２西に浅鉢(１)、床面南西側のＰ４西に(２)などが見られる。石器では床面南東部に多孔石(S6)や台石(S7)が出土している。いずれも居住に伴う例あるいは廃絶時直後の遺物と考えたい。炉体土器は「郷土式」、(２)は加曽利ＥⅢ式と判断した。その他の土器もほぼ同時期と捉えられ、埋土中の遺物も一括廃棄による例と判断した。

所見　本遺跡最南端の縄文時代竪穴建物である。単独の検出で他の縄文遺構との重複も無く、比較的良好な遺存度を誇る。炉体土器を付設する石囲い炉を設け、６基の柱穴を配す。当該期の典型的な竪穴建物の様相と評価できよう。時期は出土土器から中期後葉と判断した。

３　土坑・ピット

Ｇ１区からＧ５区までで50基の土坑と56基のピットが確認された。土坑はＧ４区が19基と最も多く、同様にピットも同区が24基と最も多い。260号竪穴建物の南側と262号竪穴建物の東側に集中する。

Ｇ１区で土器が伴うものは435・437・438・439号土坑の４基があるが、いずれも口縁部から体部破片であるが、あまり大形の破片はない。比較的まとまっていたのは439号土坑であり、同土坑からは10点程の破片が出土し、６点を図示した。いずれの土坑出土土器も加曽利ＥⅢ式と考えられるものであり、中期後葉とするのが妥当と考えられる。ピットは217号ピット１基のみであるが、時期判定できるような遺物は出土しなかった。

Ｇ２区で土器が伴うものは470・472・473・474号土坑の４基があるが、いずれも口縁部から体部破片であるが、あまり大形の破片はない。比較的まとまっていたのは473号土坑であり、同土坑からは７点程の破片が出土し、接合したものもあり、２点を図示した。いずれの土坑出土土器も加曽利ＥⅢ～ＥⅣ式と考えられるものであり、全体としては中期後葉～末葉とするのが妥当と考えられる。詳細に見ると470・474号土坑が加曽利ＥⅢ式、473・474号土坑がやや新しい加曽利ＥⅣ式と捉えることができる。ピットは５基確認されたが、時期判定できるような遺物は出土しなかった。

Ｇ３区で土器が伴うものは447号土坑の１基であり、図示した口縁部突起破片と他に１点の計２点が出土した。遺物が確認されたのは北側の一段深い部分であり、上層にはAs-C?を含む黒褐色土があり、３面の土坑と重複している可能性も考えられる。出土した土器片は加曽利ＥⅢ式と考えられるものであり、土坑の時期としては中期後葉とするのが妥当と考えられる。他の９基は遺物の出土はなかった。ピットは16基確認された。239号ピットから加曽利ＥⅢ式と考えられる体部破片が出土したが、他のピットから時期判定できるような遺物は出土しなかった。

Ｇ４区で土器が伴うものは417・419・422・423・429・430・433・434・445・460・463号土坑の10基であり、土器を伴わないものは９基であった。ほぼ半数の土坑から遺物が確認された。出土した土器片はほぼすべて加曽

利ＥⅢ式と考えられるものであり、土坑の時期としては中期後葉とするのが妥当と考えられる。423・434号土坑はいわゆる袋状土坑と称されるものであり、下半部が横に広がるタイプのものである。434号土坑からは大形の破片が出土し、４単位の波状突起を付す深鉢に復元することができた。深鉢の下半部は無いが、土坑出土の遺物としては残りの良い方である。この土器は口縁部に細隆線による渦巻文と楕円状区画文を配し、体部は垂下沈線２条に画された磨消部懸垂文を施す。口縁～体部は7・8条単位の密接条線が縦位・斜位充填されるものである。434号土坑では遺物は主に下半部にまとまっており、422号土坑のように上半部に集中するものと遺物の出方を異にする。下半部に集中するものは土坑本来の使用に伴うもので、上半部に集中するものは土坑が半分程埋まったか埋められた段階で別の目的に転用されたものと考えられる。ピットは24基確認された。253・264号ピットから加曽利ＥⅢ式と考えられる体部破片が出土したが、他の22基のピットから時期判定できるような遺物は出土しなかった。

Ｇ５区で土器が伴うものは410号土坑の１基のみであり、土器を伴わないものは６基であった。出土した土器片は曽利３式と加曽利ＥⅢ式と考えられるものであり、土坑の時期としては中期後葉とするのが妥当と考えられる。曽利３式の土器片は体部破片であり、垂下隆線を設け、沈線による横位長楕円状意匠を多段に配し縦位短沈線を充填するものである。他に底面から礫破片が出土した。底面近くはやや横に広がるが、Ｇ４区434号土坑ほどではない。遺物は下位の出土であり、土坑本来の目的で使用された時のものと考えられる。475号土坑を除き、浅いものが多い。ピットは10基確認された。266・267号ピットは断面形を見ると70㎝程の深さがあり、柱穴の可能性も考えられる。埋没土にAs-Cは含まれないが、３面の掘り残しの可能性も否定できない。10基いずれのピットからも時期判定できるような遺物は出土しなかった。

Ｆ区とＨ区では土坑・ピットは確認できなかった。

４　集石(図550・559・589・610、PL.484・560・564・577)

Ｇ２区で１基、Ｇ３区で１基の計２基が確認されたが、他の調査区では確認できなかった。

Ｇ２区の４号集積石は184号竪穴建物と重複する南部分で確認したものであり、径20～30㎝程の円礫や楕円形礫を主体とし、50㎝程の円礫や北側周辺には１ｍ程の大形の円礫や亜角礫も認められる。３ｍ×３ｍ程の範囲で確認されたものである。礫の下に明確な掘り込みは無く、浅く窪んだ場所にほぼ円形に寄せ集められたものと考えられる。南側が散漫になっているのは後に流れたものであり、北側がやや直線的に見えるのは竪穴建物に壊されているからと考えられる。一部の礫は被熱し、やや赤変しているように見えるものもあるが、多くのものは変色しておらず、焼けて割れているものもほとんどないこと、炭化物もほとんど確認できなかったことからするとそこで調理をしたり、別の場所で利用した焼け礫を集積したものとは考え難い。184号竪穴建物の上に乗っているように見えることから後出する可能性は高いと考えられる。184号竪穴建物の時期が加曽利ＥⅢ式～ＥⅣ式のものと考えられること、加曽利ＥⅢ式の土器片が出土していることなどから概ね中期後葉以降と考えられる。

Ｇ3区北東部１号埋設土器の北西隣で確認された３号集石は様相が異なり、多孔石を伴うものであるが礫の数量は10数点とかなり少ない。その範囲は80㎝×70㎝の範囲と狭い。礫の下に明確な掘り込みは無くやや窪む程度である。加曽利ＥⅢ式の土器片が出土していることから中期後葉のものと考えられる。

５　列石

(図547～549・560・561・589・607・609、PL.482・483・560・564・576・577)

Ｇ２区で１列、Ｇ３区で１列の計２列が確認されたが、他の調査区では確認されなかった。

Ｇ２区で確認された２号列石はX=719～740、Y=-871～-890の範囲で確認された。主軸方位はN-43°-Wであり、北西-南東に延びる。長さは約26.7ｍ×短軸幅約0.90ｍで、浅い掘り込みがある。楕円形礫が１石または２石で並ぶものである。117・118号ピットが重複するものと考えられるが、礫と重複しているものではなく、同時性や新旧関係は不明である。遺物は深鉢の破片・打製石斧・磨石・多孔石などがある。土器片は複数確認されたが、加曽利ＥⅢ式～ＥⅣ式のものが伴うことから遺構の時期としては中期後葉～末葉と考えられる。

Ｇ３区で確認された１号列石はX=697～701、Y=-871～-886の範囲で確認された。主軸方位はN-71～76°-Wであり、東側がやや西北西、西側がほぼ東西方向に延びる。長さは約15.3m×短軸幅約0.40mで、浅い掘り込みがある。東側のように大小の礫がやや乱れたように見える部分もあるが、楕円形礫が２石で綺麗に並ぶ部分もある。454・456号ピットが重複するものと考えられるが、礫と重複しているものではなく、同時性や新旧関係は明確ではない。遺物は深鉢や壺の破片・磨石・多孔石などがある。土器片は複数確認されたが、加曽利ＥⅢ式～ＥⅣ式のものが伴うことから遺構の時期としては中期後葉～末葉と考えられる。時期的にも礫の配置の在り方なども２号列石に類似しているものと捉えることができる。

６　埋設土器(図559・571・589・593、PL.481・564・567)

Ｇ３区で１基、Ｇ４区で１基の計２基が確認されたが、他の調査区では確認されなかった。

Ｇ３区で確認された１号埋設土器はX=706、Y=-870～-871の範囲で確認された。主軸方位はN-51°-Wであり、掘り方は卵形に近い楕円形を呈する。長軸は約0.46m×短軸幅約0.35m×深さ0.19mである。重複関係は無い。土器は大形の深鉢形土器であり、文様は押圧を重ねる垂下隆線による懸垂文構成、11単位を数える。側線は沈線で縦位矢羽状短沈線を充填する。中位は被熱のため器面磨滅している。土器は短沈線を充填するが、加曽利ＥⅢ式期のものと思われるので、遺構の時期も中期後葉と考えられる。

Ｇ４区で確認された２号埋設土器はX=677、Y=-908の範囲で確認された。手前側が切られており、南北に長い可能性はあるが、主軸方位及び掘り方の平面形状は不明である。長軸は約(0.48)m×短軸幅約(0.28)m×深さ(0.27) mである。重複関係は無い。土器は大形の深鉢形土器であり、体部上半は隆線によるＵ字状意匠。下半は細沈線による施文部分岐懸垂文、７単位を数える。縄文はＲＬ斜位充填施文。下半は被熱のため若干変色し器面磨滅する。加曽利ＥⅣ式期のものと思われるので、遺構の時期も中期末葉と考えられる。

７　溝(図559、PL.491)

Ｇ３区で１条が確認されたが、他の調査区では確認されなかった。

Ｇ３区で確認された39号溝はX=703～706、Y=-899～-904の範囲で確認された。主軸方位は東半がN-71°-W、西半がN-51°-Eである。長さは約5.6m×短軸幅約0.44m×深さ0.23mである。重複関係は無い。As-YPを含む黒褐色土により埋没していたが、出土遺物は無く詳細な時期は不明である。

第４節　５面(旧石器時代)

各調査区概要

Ｆ区(図618、PL.582)

試掘トレンチを２×４mの規模で11カ所に設定し旧石器の有無について確認した。その結果、８号竪穴建物に掛かる１カ所のトレンチで敲石３点を検出した。１点は半分程に欠けたものであり、もう２点は上下にズレて出土したものであり、節理面から剥がれたもので接合すると考えられる。遺物の出土位置はAs-YP下のAs-OK混入土からである。周りを拡張したが、他には検出できなかった。

Ｇ１区

試掘トレンチを３×４mの規模で３カ所、３×３ｍ１か所の計４カ所に設定し旧石器の有無について確認した。その結果、旧石器は検出できなかった。

Ｇ２区

試掘トレンチを４×４mの規模で２カ所に設定し旧石器の有無について確認した。その結果、旧石器は検出できなかった。

Ｇ３区

試掘トレンチを４×４mの規模で２カ所に設定し旧石器の有無について確認した。その結果、旧石器は検出できなかった。

Ｇ４区(図619、PL.582)

試掘トレンチを４×４mの規模で２カ所に設定し旧石器の有無について確認した。その結果、１カ所で粗粒輝石安山岩製の石核を１点確認したので、その場所を４×５mに拡張したが、他には検出できなかった。遺物の出

土位置はAs-YPの下のAs-OK混入土からである。

Ｇ５区(図619、PL.582)

試掘トレンチを４×４ｍの規模で２カ所に設定し旧石器の有無について確認した。その結果、１カ所で黒色安山岩製の剥片を１点確認した。遺物の出土位置はAs-OK混入土下のAs-Sr混入土からである。

Ｈ区

試掘トレンチを３×４ｍの規模で１カ所に設定し旧石器の有無について確認した。その結果、旧石器は検出できなかった。

石器は単品もしくは２、３点と１カ所当たりの出土点数は少なく、小剥片や砕片等の小形の遺物は無く、その場所で石器の製作を行ったものでは無いと考えるのが妥当と思われる。また、調査したのは主に浅間板鼻褐色軽石層(As-YP)までであり、深いところでも姶良丹沢火山灰層(AT)までは抜くことができなかった。

第５節　出土遺物について

１　土器・土製品

土器・土製品については、３面(平安時代～古墳時代)のものと４面(縄文時代)のものに分類し、それぞれについて見て行きたい。

３面(古代～古墳時代)（図347～526、PL.496～549）

土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器などがあるが、他に瓦・埴輪片などもわずかではあるが認められた。その中で時間の許す限り多くのものを実測し写真を撮影し、2,300点以上のものを掲載した。緑釉陶器については整理段階で把握できたすべてのものについて実測、もしくは写真を掲載した。

土師器・須恵器・灰釉陶器などについては実測や写真が掲載できなかったものが50,005点(100％)、589,092g(100％)あった。これらの遺物については点数と重量を計測して数値化し、傾向を把握するように努めた。土師器と須恵器の総点数とその割合であるが、総点数44,348点(100％)のうち、土師器は25,414点(57.3％)、須恵器18,934点(42.7％)である。土師器の方が点数的にはやや多い。ところが、重量433,082g（100％)のうち土師器は211,295g（48.8％)、須恵器は221,787g（51.2％)とやや須恵器の方が重くなっている。土師器は細かく割れ易く須恵器の方が丈夫で割れ難いことに一因があると考えられる。わずかな差でほぼ同じくらいで使用されていたと捉えることもできるのではなかろうか。次に杯・椀で見ていきたい。総点数は21,473点(100％)のうち土師器は5,454点(25.4％)に対して須恵器は16,019点(74.6％)と杯・椀全体の3/4を占め、圧倒的に多くなる。さらに、重量で見てみると総重量170,821g（100％)のうち土師器は25,286g（14.8％)に対して須恵器は145,535g(85.2％)となり、さらに圧倒的に須恵器が多いことが分かる。10世紀から11世紀代の竪穴建物が多いという時期的なことも要因の一つと考えられる。甕・壺などの大形品について見てみると総点数22,670点(100％)のうち土師器は19,960点(88％)、須恵器2,710点(12.0％)と土師器が圧倒的に多いことが分かる。重量は総重量259,816g(100％)のうち土師器は186,009g（71.6％)、須恵器は73,807g（28.4％)とやはり土師器が重いことが分かる。大形品に於いては土師器が点数も重量も圧倒的になることが分かる。なお、小破片では甕と羽釜と区別が難しいものもあり、甕の破片としてカウントされたものも含まれている可能性は否定できない。なおかつ、羽釜に関しては須恵器が多いものと思われるが小破片では判定が難しいものが多く、土師器と須恵器の区別は行わなかった。羽釜の多くが須恵器だとすると総重量の中の割合が五分五分よりも須恵器が６割５分近くとさらに多くなる。灰釉陶器はかなり高い割合で図化し写真を撮影したが､いずれもできなかったものが240点(総点数の0.5％)、1,501g(総重量の0.3％)ある。灰釉陶器については全体の中では少ないかもしれないが、時期的なこともあり、多く目立つ存在であることは否めない。黒色土器やその他のものは点数も重量も全体の1％にも満たない極少数･少量である。

総点数では土師器がやや多く、総重量では須恵器が重いもののあまり差はないものと考えられた。しかし､杯･椀などの小形品は点数も重量も土師器より須恵器が多く、甕・壺などの大形品は反対に須恵器よりも土師器が多いことが分かった。これは実測したものも含めた遺跡全体の傾向も表しているものと思われる。また、灰釉陶

器が目立つのも遺跡の特徴と言えようか。灰釉陶器程多くはないが、緑釉陶器も多く見られた。その他の遺物は別の場所から本遺跡に持ち込まれた瓦や古墳の埴輪が多くを占めていた。未掲載遺物の総点数と総重量を把握することである程度遺跡全体の傾向を知ることができたのではなかろうかと考えられる。

４面（縄文時代）（図540～606、PL.558～575）

縄文土器の時期については前期から後期まで確認されたが、主体となるのは中期後葉の加曽利ＥⅢ～ＥⅣ式期のものである。未掲載のものは15箱ある。図化した土器では前期中葉のものが２点、前期後葉のものが５点である。遺構外出土の土器では中期前葉のものは１点、中期中葉古段階のものが２点である。完全には抽出しきれていない可能性はあるものの、前期から中期前葉のものは全体の割合としては極めて少ないものと考えられる。縄文土器の時期は竪穴建物や土坑の多い時期とほぼ一致している。器種別で見ると深鉢が多く、全体の９割以上を占める。中期後半でも古段階の深鉢形土器の文様帯は、口縁部・頸部・体部の横に分割される３つの部分によって構成されると考えられる。中期後半でも時期が下がると頸部文様帯や無文帯が無くなり、口縁部文様帯と体部文様帯が直接接続するようになる。文様帯も隆帯で区画するものから沈線で区画するものに変化する。さらに中期末葉となると口縁部文様帯も喪失し、体部文様帯が口縁部まで施されるようになる。この遺跡では隆帯で華やかに飾る土器は影を潜め、頸部文様帯や無文帯が無いものがほとんどであり、さらに口縁部文様帯も無いものも相当数あった。このように土器は型式名を当てはめると加曽利ＥⅢ～Ⅳ式期のものが主体を占めていることが分かる。竪穴建物はやや古手のＥⅡ式期も１棟あるものの、主体を占めるのはＥⅢ～Ⅳ式期のものであり、特にＥⅢ式期のものは間隔が17～18ｍで配置され、直径90～100ｍの円形もしくは弧状をなす可能性が考えられる。ＥⅢ～Ⅳ式期のものは柄鏡形敷石竪穴建物となるものもあり、その外側に位置しており、さらに大きな円形もしくは弧状をなす可能性も否定できない。深鉢以外の器種は台付深鉢・鉢・浅鉢・壺・両耳壺・器台・注口土器?・ミニチュア土器・耳栓タイプの耳飾り・土製円板など多種・多様のものがある。耳飾りは２点が確認されたが、いずれも遺構外出土品である。１点は細い半裁竹管による円形縦位２列と横位数列・縦位の半円形（爪形）の刺突文が施される。同文様が施される表面の径は約３㎝、背面の径は約２㎝とやや小さくなっている。背面中央はやや窪む。装着して見せる方が大きく裏側が小さくなっている。また、柱中央が内彎し両端面に比べて1.9㎝とわずかではあるが細くなっているのは耳に装着した時に外れ難くしているものと考えられる。もう１点は沈線による渦巻き文であり、周辺から左周りに中央にかけて沈線が巡るものである。表面も背面も径は約２㎝でほとんど差はない。柱中央が内彎し両端面に比べて1.9㎝とわずかではあるが細くなっている。背面中央はやや窪む。これらの２点は文様がやや違うものの大きさ・径、その他の造りなど類似している点が認められる。土製円板も２点確認されたが、２点とも深鉢の体部破片を素材としたもので、周囲を打ち欠いて形を作り研磨して円形に整えているものであり、中期後葉～後期のものと考えられる。いずれも径は４～５㎝未満で厚みは１㎝程である。中期の土製円板としてはやや薄手のものと考えられる。器台は６点出土しており、いずれも中期後葉のものであり、内彎するものと直線的もしくは外反するものがある。前者は小形で、後者は大形のものである。中程の円孔部が明確に確認できなかったものもあるが、いずれも円孔が設けられるものと考えられる。横撫のみで無文のものと沈線とその中に縄文を充填するものがあるが、前者は小形品に、後者は大形品に多い特徴が認められる。瓢形注口土器の可能性のある口縁部破片が１点確認された。口縁部隆線に小形の横位橋状把手を付し、両端部より隆線が分岐懸垂し、隆線による弧状意匠を配するものである。ミニチュア土器は１点が確認された。口縁部突起１単位部分が欠損している。口径４㎝弱で高さ5.7㎝の筒形を呈するものであり、２条一組の縦位沈線による懸垂文構成で５単位施文される。掌に収まるほどの小形品である。

なお、加曽利Ｅ式土器以外にＨ区183号竪穴建物では炉体土器として使用されていた深鉢形土器が郷土式土器とされた。同竪穴建物の他の土器は加曽利ＥⅢ式土器と考えられるものであり、この土器は併行期のものと考えられる。この土器の口縁は平縁で口縁部は横位連弧文で７単位に区画され、その中に縦位短沈線を充填する。体部は沈線による懸垂文を中心にして相向かうように斜位短沈線を施し全体として矢羽状文を形成している。炉体

土器のため体部下半は欠損して無い。

２　石器・石製品

石器・石製品については、３面(古代～古墳時代)のものと４面(縄文時代)のものについて分類し、それぞれについて見て行きたい。

３面(古代～古墳時代)（図527～530、PL.550～552）

器種分類できたものは79点(100％)、13種類である。調査区毎に見て行くとＦ区は臼玉１点(1.3％)のみ、Ｇ１区は敲石２点、砥石１点、磨石２点、臼玉１点、計６点(7.6％)、Ｇ２区は敲石３点、砥石１点、磨石１点、カマド天井石１点、紡錘車紡輪１点、銙帯鉈尾１点、計８点(10.1％)、Ｇ３区は敲石１点、砥石５点、カマド天井石１点、礫１点、凹石１点、計９点(11.4％)、Ｇ４区は敲石５点、砥石１点、石製品２点、磨石１点、カマド天井石１点、計10点(12.7％)、Ｇ５区は敲石５点、砥石９点、石製品７点、磨石２点、剥片５点、臼玉２点、礫１点、火打ち石？１点、台石１点、計33点(41.8％)、Ｈ区は敲石５点、砥石２点、石製品１点、磨石３点、紡錘車紡輪１点、計12点(15.2％)であった。Ｇ５区が最も多かったが、その前後のＧ４区とＨ区がやや多く、Ｇ１～３区がそれに次ぎ、Ｆ区はかなり少ないという結果であった。この時期の石器・石製品も遺構数量の多さやその密集度に関連している可能性が考えられる。

種別毎に数の多いものから順に敲石21点(26.6％)、砥石19点(24.1％)、石製品10点(12.7％)、磨石９点(11.4％)、剥片５点(6.3％)、臼玉４点(5.1％)、カマド天井石３点(3.8％)、紡錘車紡輪２点(2.5％)、礫２点(2.5％)、凹石１点(1.3％)、火打ち石? １点(1.3％)、銙帯鉈尾１点(1.3％)、台石１点(1.3％)である。敲石・砥石・磨石など金属加工や研磨に関係する可能性のあるものがやや多い傾向が見られた。敲石は21点出土したが、その内18点が粗粒輝石安山岩であり、雲母石英片岩２点、他１点である。握り易さ、重量感、硬さなどが適した素材が選ばれたということであろうか。砥石は19点出土したが、その内17点(砥石の89％)を図示した。石材は砥沢石が11点と最多で、次いで粗粒輝石安山岩が７点、変質デイサイトが１点である。砥沢石の売買に関わる文献は1577(天正５)年が初出ということである(『角川日本地名大辞典』群馬県1988発行、砥沢の項)が、群馬県における発掘調査ではそれよりも遥か昔の古代、少なくとも平安時代には多くの遺跡で砥沢石の砥石が出土している。群馬県内では戦国時代や江戸時代などの文献に登場する遥か以前からかなりの量が流通していたものと思われ、砥石と言えば砥沢石というくらい有名であった可能性も考えられる。石製品は10点出土したが、２点を図示した。石材はチャート３点、珪質頁岩２点、二ッ岳軽石１点、軽石１点、砂岩１点、滑石１点、蛇紋岩１点とかなりバラバラで特定の石材に集中する傾向は見られない。Ｇ５区２-J- ６の鰹節形のものは上端部に研磨痕が見られ、表裏両面と側面がほぼ直角になるように全体の形態と縁を整えている。縁辺部の敲打痕は形が整えられた後に加えられていることが分かる。石材が蛇紋岩であることや擦れ具合などからもっと時間が経過している可能性も否定できない。磨石は９点とも全て粗粒輝石安山岩である。剥片は５点とも滑石製であり、玉類の加工の際に剥がれたものや素材が含まれているものと考えられる。臼玉は４点出土したが、３点を図示した。石材は４点とも滑石製である。臼玉には65号墳出土品のように管玉状のものをカットしたと考えられるものや剥片素材から製作したと考えられる直径が２㎝、重さ６ｇを越えるものや直径1.6㎝、重さ1.9ｇの通常サイズのものもあった。大形のものは有孔円板にしては径に対して厚みがあり過ぎ、６世紀後半以降大形化した臼玉と推定される。カマドの構築材、天井石と考えられるものも３点あったが、図示はしなかった。未固結凝灰岩２点、二ッ岳軽石１点であり、カマドに使用するために切り出したり、加工したものと考えられる。紡錘車紡輪は２点出土したが、１点はやや黒味がかる緑色の蛇紋岩であり、もう１点はやや白っぽい滑石である。含まれる滑石の割合が多いか少ないかの差はあるが、同一の岩脈で採取可能な石材と考えられる。礫は２点出土した。加工が加えられていなかったので、図示はしなかったが、２点とも石英の塊であり、火打石などに利用するために遺跡内に持ち込んだものと考えられる。火打ち石?と考えられるものが１点出土したが、チャート製である。銙帯鉈尾は１点出土したが、石材は碧玉であり、暗緑色を呈するものである。裏面には３か所に帯に取り付けた際の孔が２個１組のものが各所２組ずつある。凹石１点出土したが、粗粒輝石安山岩製

である。台石１点も同じく粗粒輝石安山岩製である。全体としては石材は粗粒輝石安山岩製のものが多いが、ものによっては砥石のように砥沢石が多いものもある。石製品のように多種多様な石材が用いられているものもあり、一口に石製品と言ってもかなり違う物であった可能性が高い。

４面（縄文時代）（図607～617、PL.576～581）

器種分類できたものは212点（100％）、23種類である。調査区毎に見て行くとＦ区は打製石斧２点、二次加工のある剥片１点、石鏃１点、石核１点、凹石１点、計６点（2.8％）、Ｇ１区は打製石斧５点、磨石３点、二次加工のある剥片１点、石鏃１点、敲石１点、石製研磨具か１点、計12点（5.7％）、Ｇ２区は打製石斧７点、磨石３点、二次加工のある剥片３点、石鏃２点、多孔石２点、石核５点、凹石１点、石皿２点、砥石１点、磨製石斧１点、石製品１点、石棒１点、礫１点、石匙１点、削器１点、楔形石器１点、原石１点、計34点（16.0％）、Ｇ３区は打製石斧21点、磨石10点、二次加工のある剥片11点、石鏃１点、多孔石４点、石核１点、凹石１点、台石３点、石皿１点、砥石１点、礫１点、丸石１点、計56点（26.4％）、Ｇ４区は打製石斧10点、磨石16点、二次加工のある剥片５点、石鏃５点、多孔石５点、石核２点、凹石５点、台石５点、敲石４点、石皿１点、砥石３点、磨製石斧３点、石製品１点、礫１点、丸石１点、柱状礫１点、計68点（32.1％）、Ｇ５区は打製石斧３点、磨石２点、二次加工のある剥片３点、石鏃３点、凹石１点、石皿１点、石棒１点、石匙１点、石錐１点、計16点（7.5％）、Ｈ区は打製石斧７点、磨石１点、二次加工のある剥片３点、石鏃１点、多孔石１点、石核１点、台石１点、敲石２点、石製品１点、石棒１点、削器１点、計20点（9.4％）であった。Ｇ４区が最も多かったが、Ｇ３区と合わせると124点（58.5％）となり、６割近くになる。さらにＧ２区を加えると158点（74.5％）となり７割を越え、８割近くになる。Ｆ区やＧ１区はかなり少なく、次いでＧ５区、Ｈ区も少ないという結果であった。この時期の石器・石製品も遺構数量の多少だけでなく、土地改良事業などに関連している可能性も考えられる。

種別毎に数の多いものから順に打製石斧55点（25.9％）、磨石35点（16.5％）、二次加工のある剥片27点（12.7％）、石鏃14点（6.6％）、多孔石12点（5.7％）、石核10点（4.7％）、凹石９点（4.2％）、台石９点（4.2％）、敲石７点（3.3％）、石皿５点（2.4％）、砥石５点（2.4％）、磨製石斧４点（1.9％）、石製品３点（1.4％）、石棒３点（1.4％）、礫３点（1.4％）、石匙２点（0.9％）、削器２点（0.9％）、丸石２点（0.9％）、石錐１点（0.5％）、楔形石器１点（0.5％）、石製研磨具か１点（0.5％）、原石１点（0.5％）、柱状礫１点（0.5％）である。212点（100％）の内、図示したものは72点（34.0％）、全体の約３割強である。打製石斧は55点の内、13点（24％）であるが、磨石のように35点（100％）の内、17点（49％）ほぼ半分を実測したものもある。石皿のように５点（100％）の内、４点（80％）を実測・図示したものもある。丸石２点や石錐１点など全て実測・図示したものもあり、出土点数の少ないものはほぼ全て実測・図示したものもあり、その割合は高くなっている。

石材は212点（100％）の内94点（44.3％）が粗粒輝石安山岩であり、全体の半分弱に相当する圧倒的多さである。打製石斧でも55点（100％）の内14点（25.5％）、1/4が粗粒輝石安山岩であり、細粒輝石安山岩33点（60.0％）に次いで多い石材となっている。反対に黒色頁岩６点（10.9％）、ホルンフェルス２点（3.6％）と一般的に多い石材が少なくなっている。烏川の流域ということで黒色頁岩は入手し難かったということであろうか。磨石は35点（100％）の内、１点のみ細粒輝石安山岩であったが、34点（97.1％）は粗粒輝石安山岩であった。多孔石・凹石・台石・敲石・石皿などは全てもしくはその多くが粗粒輝石安山岩であった。烏川の流域で入手し易い石材が多用されているものと考えられる。磨製石斧は４点出土したが、変はんれい岩・珪質頁岩・蛇紋岩・変質蛇紋岩と全て違う石材が使用されていた。砥石は５点出土したが、２点が牛伏砂岩、１点が緑色片岩、残り２点が粗粒輝石安山岩である。砥石にも粗粒輝石安山岩が使用されていると共に牛伏砂岩や緑色片岩などの県南部旧吉井町周辺で採取可能な石材も来ていることが分かる。砥石に平安時代以降頻出する砥沢石は認められず、少なくとも縄文時代には本遺跡まで流通していなかったものと思われる。石製品は３点出土したが、２点は軽石製、他の１点は粗粒輝石安山岩製である。研磨されているものの何かを模ったようなものではない。石鏃など小形の石器類には黒曜石・黒色安山岩・細粒輝石安山岩・チャート・

珪質頁岩などの肌理の細かい硬く割れ易い石材が使用されていた。中でも黒曜石は石鏃14点(100％)の内、８点(57.1％)で使用され一般的な遺跡と同様に最も好まれた石材であることが分かる。局部磨製石鏃も２点あるが、２点とも黒曜石である。剥片は27点出土したが、細粒輝石安山岩12点、黒色頁岩８点、珪質頁岩３点、黒曜石２点、変質安山岩１点、ホルンフェルス１点である。肌理の細かく硬いという共通点はあるものの、多様な石材が用いられていることが分かる。他に赤碧玉の原石が１点出土している。打製石斧で細粒輝石安山岩や粗粒輝石安山岩が多く、反対に黒色頁岩が少ないこと。全体として粗粒輝石安山岩が最も多く用いられていることなど、烏川流域に於ける地域的な特徴と言えるのではなかろうか。

５面(旧石器時代)（図618・619、PL.582）

旧石器時代の遺物は石器と考えられる４点を図化した。１点はＧ４区から出土した石核であり、もう１点はＧ５区から出土した剥片である。Ｆ区から出土した片刃礫器状のものが２点ある。Ｇ４区出土品はAs-YP下のAs-OK混じりのローム土から、Ｇ５区出土品はその下のAs-Sr混じりのローム土から出土したものである。前者は隅丸方形のやや偏平な礫の上面中央から２回ほど打撃を加えた痕跡を残すものであり、自然面をそのまま打面としており、特に調整剥離はなされていない。石材は粗粒輝石安山岩であり、取れた剥片に然程鋭さは無かったものと思われる。打ち取った剥片を使うことよりもむしろ本体に刃部を付けるための剥離のようにも見える。片刃礫器の可能性も否定できない。後者は貝殻状の形態の横長剥片であり、打面には連続した調整剥離が施されている。自然面は全く残っていない。石材は黒色安山岩であり、かなり鋭さがあり、縁辺部に一部細かい剥離も２、３見られるが、剥離時などに当たって欠けたものと思われ明確な使用の痕跡は無い。いずれも単独の出土であり、周辺からの同様な剥片等は出土していないので、調査区外から持ち込まれたものであり、この場所で剥離を行っていない可能性も考えられる。

３　金属製品

１～３面(中近世～古墳時代)（図531～539、PL.553～557）

金属製品類は、概ね平安時代から古墳時代のものと考えられる。古墳時代のものは65号墳から出土した馬具１点のみであり、他は出土位置やその造りから平安時代のものが多いと考えられる。最後に江戸時代の古銭を追加で掲載した。古銭を除く内訳は鉄釘31点(23.8％)、鉄滓28点(21.5％)、刀子23点(17.7％)、鉄鏃17点(13.1％)、紡錘車、紡輪だけのものと紡軸だけのものを合わせて10点(7.7％)、鞴の羽口６点(4.6％)、鉄鎌５点(3.8％)、鉄斧１点(0.8％)、鉄管１点(0.8％)、馬具(壺鐙吊金具)１点(0.8％)、火打金１点(0.8％)、経筒蓋１点(0.8％)、小神像１点(0.8％)、耳環状鉄製品１点(0.8％)、鉄鐸か１点(0.8％)、ピンセット状のもの１点(0.8％)、計130点(100％)を図示した。出土遺構は竪穴建物106点(81.5％)、土坑３点(2.3％)、ピット１点(0.8％)、溝９点(6.9％)、グリッド他11点(8.5％)である。竪穴建物出土品が最も多いが、24～26号溝出土品が次いで多い。区毎に見て行くとＦ区３点(2.3％)、Ｇ１区12点(9.2％)、Ｇ２区19点(14.6％)、Ｇ３区17点(13.1％)、Ｇ３・４区４点(3.1％)、Ｇ４区18点(13.8％)、Ｇ５区33点(25.4％)、Ｈ区18点(13.8％)、その他一括６点(4.6％)、計130点(100％)である。遺構数、特に竪穴建物が多いＧ５区出土のものが33点(25.4％)と最も多く全体の1/4程を占める。その他Ｇ２～Ｇ４区は20点弱(13～15％程度)でほぼ同数である。それに比べるとＧ１区は竪穴建物が少ないせいか、12点(9.2％)とやや少ない。なお、古銭など一部追加したものもあるが、全体の傾向には大きな変化はない。

鉄滓はいずれも破片が多いが、28点(21.5％)あり、目立つものである。出土位置もＦ区を除き、ほぼ全体から出ている。また、鞴の羽口も６点(4.6％)あるが、台石や鍛造剥片の出土は皆無であり、調査した範囲内には小鍛治関連の遺構を有する竪穴建物はないが、近くに存在するものと考えられる。

鉄釘は31点(23.8％)あり最も多い。欠けているものが多く、中には木質部が残っているものもあり、使用されていたものと考えられる。頭は平坦に潰され曲げられているものが多い。角柱状の鉄棒の一端を敲き広げたものと考えられる。鉄釘としたものは頭部が欠けているものが多く、断面形状や長さなどから判断したが、鉄鏃の破片や刀子の基部端部や紡錘車の軸の破片などと判別が難しいものもある。

刀子は23点あるが、欠損しているものばかりであり、

完形品は１点も無い。刀身は細身で痩せていることから、かなり使い込まれているものと考えられる。187号竪穴建物出土のものは幅広で薄手であり、刀子としたが、包丁とした方が適切かもしれない。刃は通常盛り上がる側に付けることが多いが、反対の直線的な側に付いている。平面的には凸刃ではなく直刃であり、逆刃刀に近い形態のものである。通常の刀子や刀と比べるとかなり薄い。研いで薄くなったものではなく、最初から用途に合わせて薄く作ったものと考えられる。具体的な用途は不明である。

鉄鏃は可能性のあるものも含めて17点(100％)あり、その内、先端の形態の分かるものは12点(70.6％)あり、12点を100％とすると雁又形３点(25％)、長三角形９点(75％)のものが確認できた。長三角形９点(100％)の内、両側に逆刺が有るもの２点(22.2％)、逆刺の無いもの５点(55.6％)で、不明のもの２点(22.2％)であった。関は欠損しており確認できないものもあったが、基本的に茎側がスカート状に開く台形関であった。

紡錘車は紡輪だけのものと紡軸だけのものを合わせて10点出土したが、紡輪の径が確認できたものは２点に留まる。その他は紡軸のみであり、必ずしも紡錘車の紡軸でないものも含まれる可能性もある。紡錘車の紡軸は横断面方形であるが、釘や鏃の茎に比べてやや丸味があり、隅丸方形や円形に近いものが認められる。釘や鏃ではほとんど丸いものはなく、丸味のあるものは紡錘車の紡軸に分類した。紡輪は径5.2～5.6㎝程でほぼ同じである。68号竪穴建物出土の紡輪中央の孔は径0.4㎝でやや丸味があるが、110号竪穴建物出土の紡輪中央の孔の径は0.5㎝で方形に近い。中に通してあった紡軸の形を反映しているものと考えられ、片方は細く丸味があり、もう一方はやや太く四角いという違いが認められる。四角い方が回転した時に軸の空回りを防ぐ事ができる。なお、今回の報告では時期的なこともあり、紡輪は鉄製のみで、石製のものはなかった。

鉄鎌は５点出土したが、いずれの破片にも刃部がなく、鎌だとすれば基部破片と考えられる。刀子などに比べ、かなり幅広で厚みがあり、同時に面にやや反りがあるものが多い。基部に折返部分があるものは56号竪穴建物出土の１点のみである。他の４点は素材の幅や厚み・反りなどから確定はできないが鎌の基部破片の可能性があるものと考えた。

鉄斧は１点出土したが、袋部から刃部まである完形品である。柄を挿入する袋部と刃部の境界部分で明瞭な肩を持つ有肩袋状鉄斧もあるが、本遺跡のものは刃部と袋部が一体で製作された無肩袋状鉄斧と考えられる。有肩袋状鉄斧は刃部と袋部を鍛接して別造りしたものであり、関東地方まで点在するものの、無肩袋状鉄斧に比べ極めて数が少ない。斧には柄と刃を平行にして付ける縦斧(axe、アックス)、柄と刃を直角に付ける横斧(adze、アッズ)がある。前者の大きいものが木の伐採などに使用する鉞(まさかり)であり、後者の代表的なものが木材加工に使用する釿(ちょうな、手斧)である。さて、本遺跡出土の鉄斧であるが、柄の付け方によってどちらとしても使用できるものではあるが、形態的に見ると縦斧ではないかと考えられる。

馬具は１点出土したが、鉸具頭から鉸板部分まで残存しているが、その下は欠損している。この金具の下に足先を置く鐙が付くものと想定され、鐙吊金具と考えられる。

火打ち金は１点出土したが、山形の上の頂点部分は欠損しているものと考えられる。刃部の断面は通常下端部が厚くなるが、使い込まれ、縦断面では端部やや幅狭くなっている。

耳環状の鉄製品は１点出土したが、竪穴建物からの出土品であり、鉄製であり、古墳から拾ってきた耳環とは考えにくい。何か他のものと連続するものの一部と考えるのが妥当ではないか。

ピンセット状の鉄製品は１点出土したが、下部が欠損しており、ピンセット、毛抜き、あるいは握り鋏の握り部なのか判別できない。

鉄鐸は１点出土したが、欠損していない方の下側に目釘孔が１つ開いている。鉄鐸であれば中に舌が下がるはずだが、舌部分は無い。中に木の柄を差し込んで釘で止めた可能性も考えられる。鐸であれば欠けている側がもう少し開くものと思われる。しかし、そこから先が急に開くとは考えられない。いずれにしてもこれだけで完結するものではないと思われる。

鉄管は１点出土したが、径2.0㎝で長さ3.3㎝、厚さ0.4㎝のものである。用途不明のものであり、３面グリッド出土遺物であるが、遺構の重複が激しく、所属する遺構は判然としない。平安時代のものではない可能性も否定

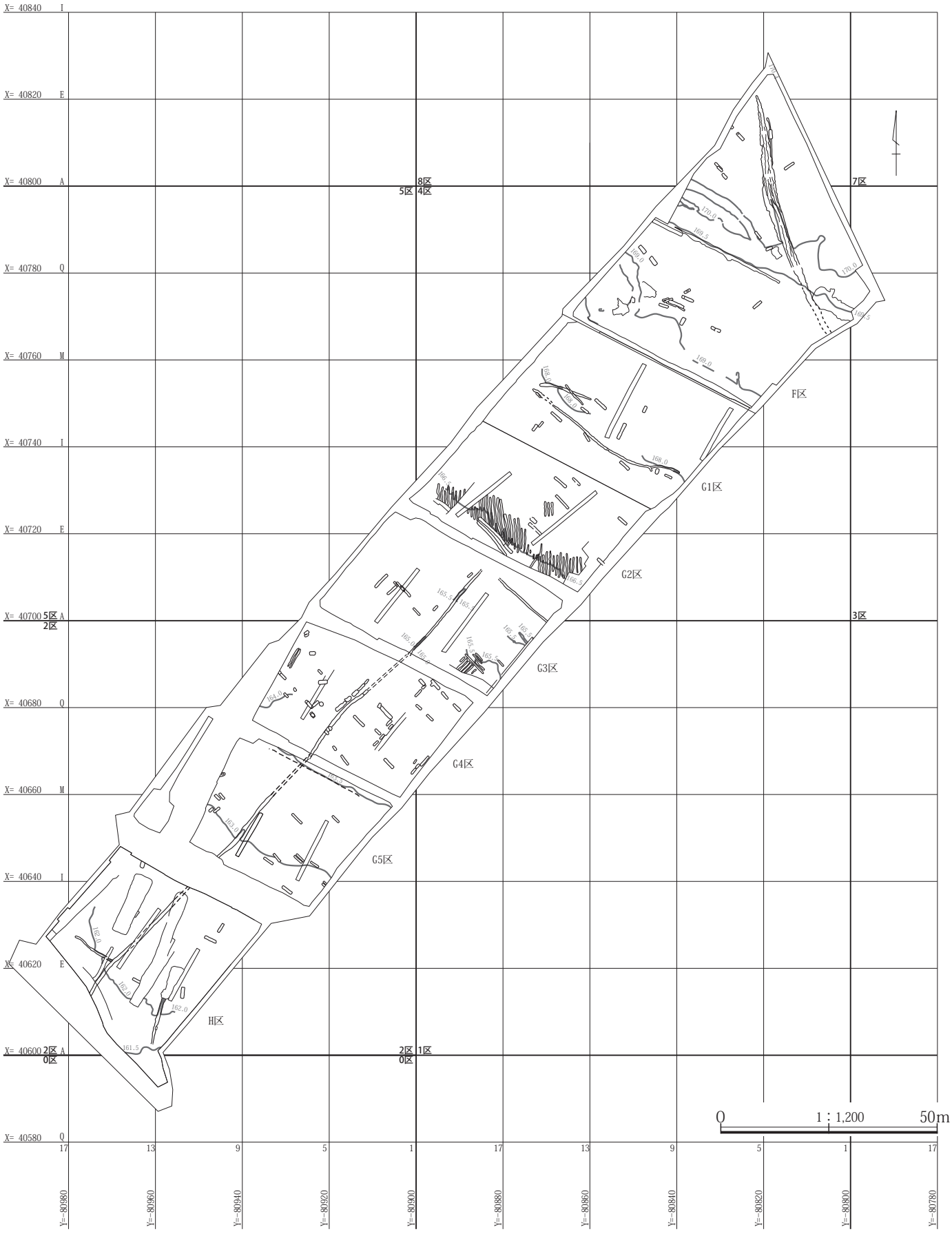
できない。

本遺跡では特徴的なものとしては、平安時代では県内２遺跡目となる経筒とこれまで５遺跡、７例しか検出例のない小神像であろう。

222号竪穴建物出土の経筒に筒身はなく、蓋のみである。蓋の縁の凹凸はかなり数が多いものの蓮弁文をなしているものと思われる。これだけ弁数の多い蓋は11世紀代では見たことがなく、類例がないのではないかと思われる。しかし、こうした多弁の文様は中国・宋時代の青白磁合子に見られるもので、花皿などにも見受けられる。この蓋は外縁が1/4程欠損しているが、欠口を見るとかなり新鮮なものであり、極最近のものであることが分かる。蓋の中心の鈕の部分も欠けているものと思われる。しかし、その上面はやや丸味を持ち滑らかになっているので、欠けた後に研磨されたものと考えられる。鈕の形態には「宝珠形」「乳頭形」「塔形」「相輪形」などがあるが、欠ける以前は残存部分から推定すると「相輪形」をしていたものと思われる。欠けた部分を研磨することで短くして「宝珠形」の代用としていた可能性も考えられる。経筒は単に写経した経典を収める入れ物というだけでなく、鈕の形や銘文に「宝塔」の文字が見られることなどから塔を意識して作られたものと考えられる。その経筒を納めた経塚は末法思想の影響を受けて起こったものであることは広く知られている。最古の経塚の例は藤原道長が大和国吉野山の金峯山(現・山上ヶ岳)に埋めた金峯山経塚であり、寛弘４(1007)年のことである。これが経塚の造営の最初で、それが切っ掛けとなり同様な事が行われたと考えられる。京の都で経塚が多く造営されるようになったのは道長の埋納から100年以上経た12世紀代である。藤原道長の金銅経筒は高さ35.8㎝、口径15.7㎝と大きいものである。それに比べ本郷鶴楽遺跡の蓋は口径9.7㎝とかなり小さい。蓋の縁は花弁状の凹凸があり、さらに鈕部分が相輪になっていたと考えられ、装飾性が認められる。道長の経筒や藤岡市本郷の別所の経塚の経筒は平蓋であり、筒は円筒形で形そのものに装飾性はない。古い形態のものにあまり装飾性はなく、本遺跡例のように縁や鈕に装飾性のあるものは新しい要素と捉えることができるのではなかろうか。京の都で経塚の造営が盛んになるのが12世紀代だとすれば京から遠く離れた上野国でも同様なことが行われたのはやはり12世紀代以降と考えるが妥当ではないかと思われる。

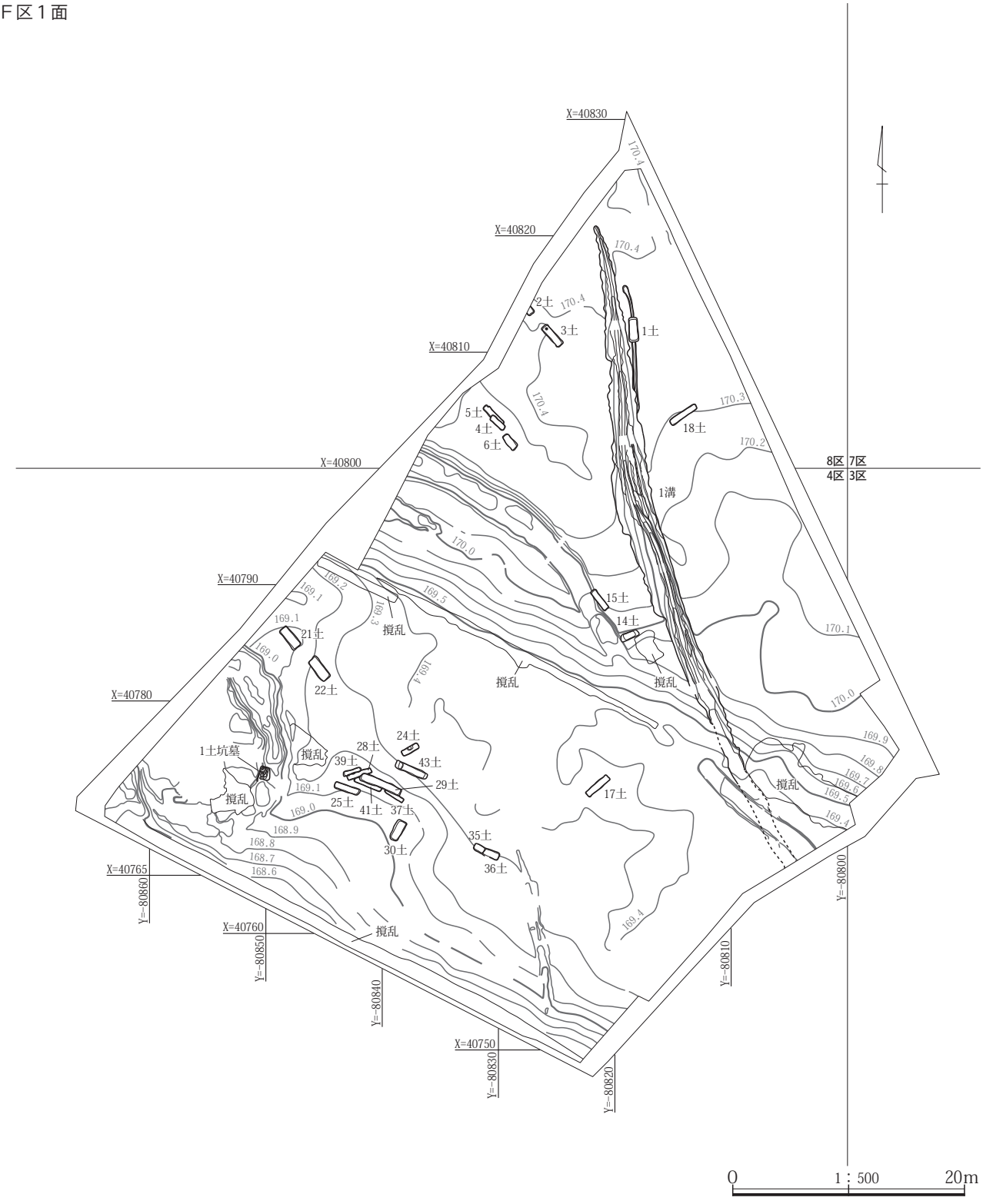
本郷鶴楽遺跡ではＧ５区204号竪穴建物から小男神像が１点(躯)出土した。本遺跡のものは銅製で全体高が9.7㎝、重量221.7ｇと県内出土例では最大級のものである。国分寺中間地域遺跡例の全体高が5.3㎝、31.6ｇであるので、高さは２倍弱、重量は７倍になる。頭部に折烏帽子状の冠を被り、両手は臂を曲げ胸の前で合わせているが、胸の前の中央に笏状の突出物は表現されていない。左肩から右腰にかけて条帛を掛けている。顔は全体的に厳しい印象となっている。眉はかなり吊り上がり、眼尻も上がっている。耳は大きく、肩はいかり肩で、衣の袖に襞状の表現はない。お尻を外側に突き出しており、県内の他の神像にはない姿勢となっている。腰から足下にかけて前掛け状の布が垂れ下がっている。足元は２つに割れており、袴を着けているものと思われる。足そのものは袴に隠れて明確には表現されていないが、沓を履いているものと思われる。台座は正面側がやや丸く背面側は直線的の隅丸方形を呈する。そのほぼ中央に湯口の痕跡が残る。製作時期は同一竪穴建物から出土した土器等から10世紀後半頃と考えられる。

古銭は文久永宝１点と銭小破片１点がある。文久永宝は文久３(1863)年～慶応３(1867)年に鋳造されたものであり、文の字に真文と草文、寶の字に寶と宝がある。真文には寶しかないが、草文には寶と宝がある。従って分類では「真文」「草文」「略宝」・「玉宝」の３種類となる。「略宝」・「玉宝」の場合には当然文の字は草文となる。銀座指導監督の下で寛永通宝真鎰四文銭が鋳造されてきたこともあり、銀座監督の下で江戸深川千田新田(大工町)の銭座で鋳造されたものが「真文」であり、金座指導監督の下で浅草橋場(小菅)の銭座で鋳造されたものが「草文」「略宝」・「玉宝」であることも知られている。寛永通宝の精鉄四文銭が不評であり、銅銭に戻すことにしたが、産出量不足から量目を減じた軽く薄い銭が鋳造されたのである。Ｇ５区で出土したのは松平春嶽の筆による「略宝」・「玉宝」であり、浅草橋場(小菅)で鋳造された完形品である。もう１点はＦ区で出土した小破片ではあるが、貝の下の２点が離れており、新寛永通宝の寶の字の可能性があるものである。



第９図　本郷鶴楽遺跡１・２面全体図

F区1面

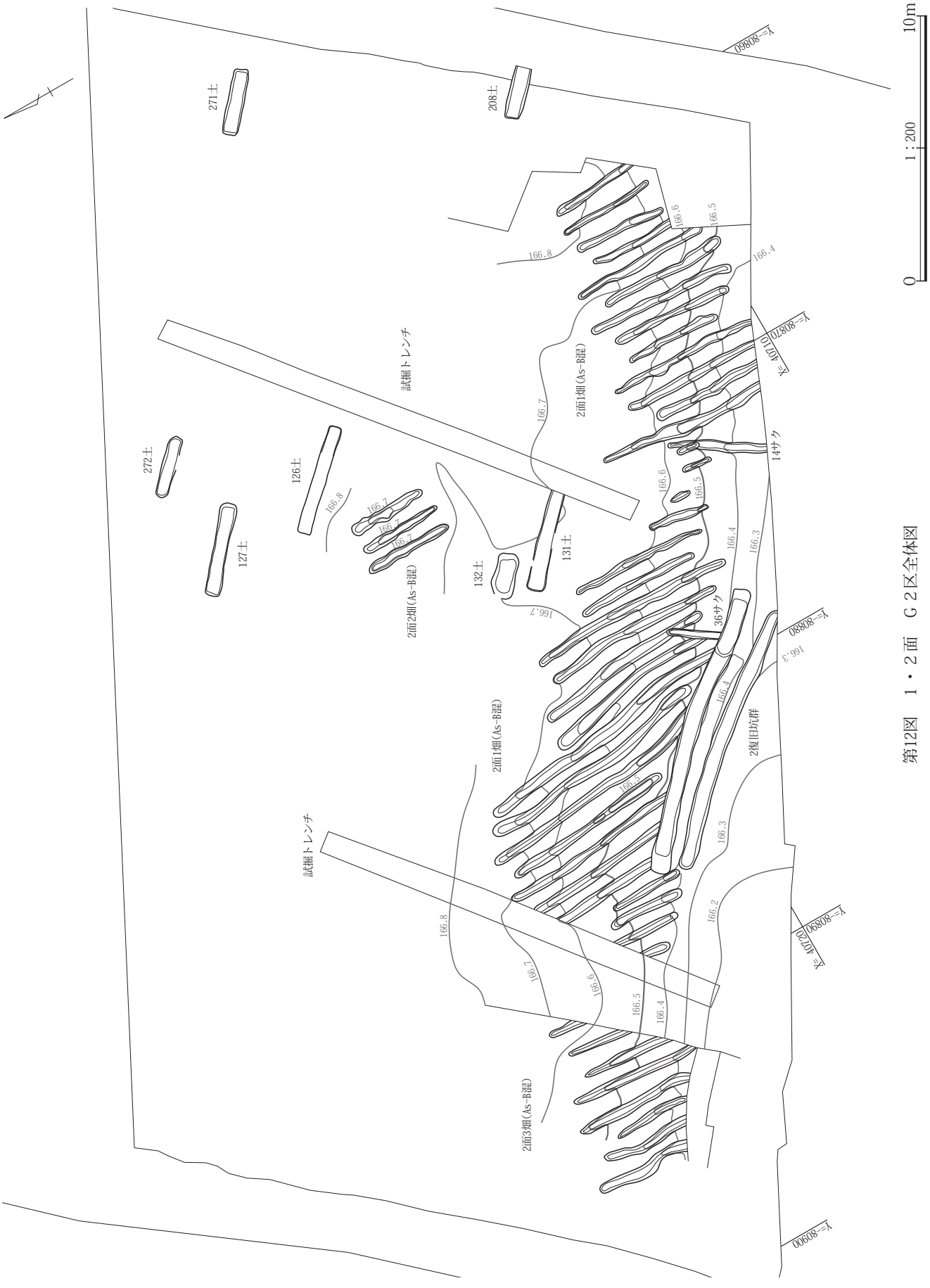


第10図　1・2面　F区全体図

G１区１・２面

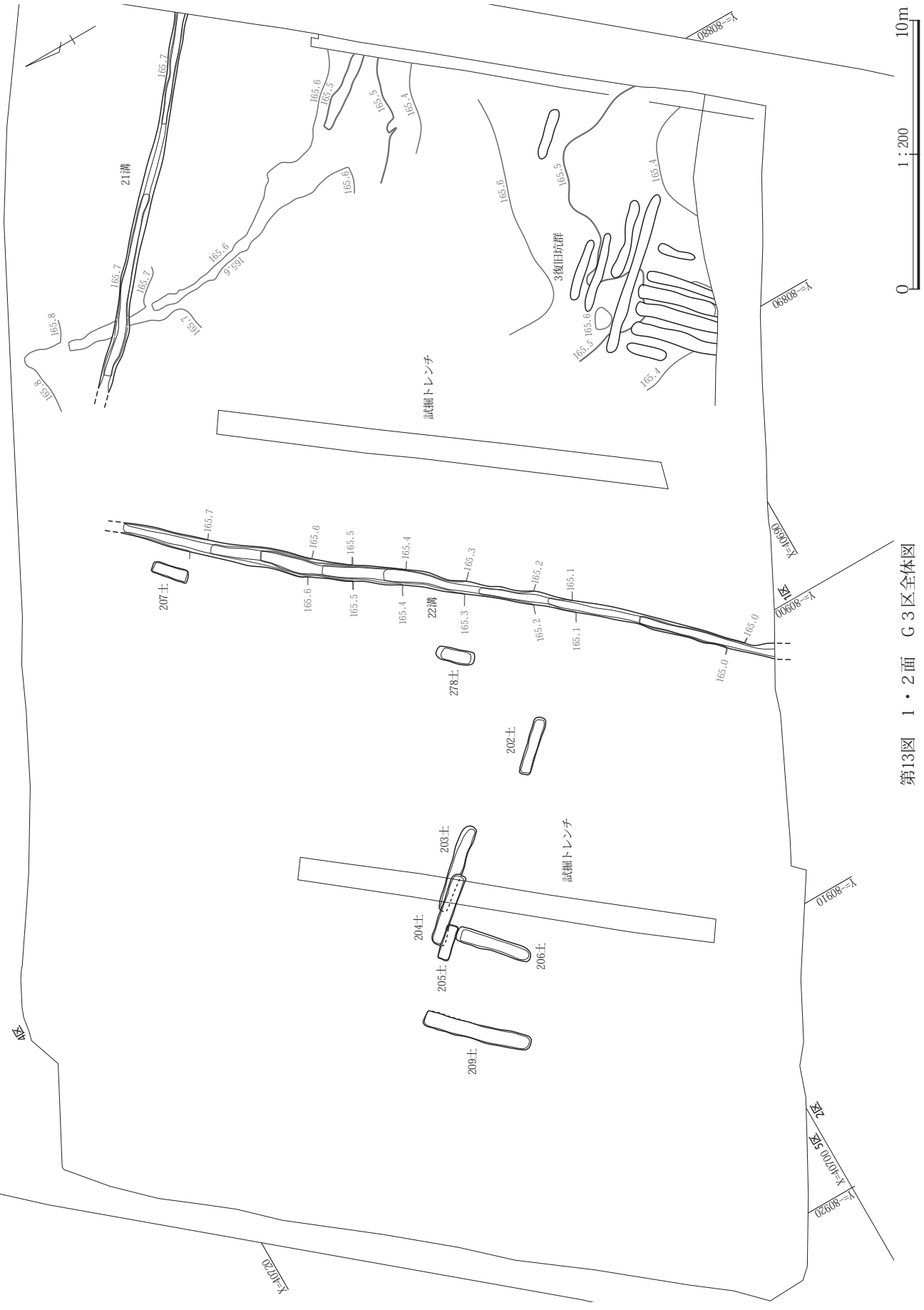
第11図　１・２面　Ｇ１区全体図

0　1：200　10m



第12図　1・2面　G2区全体図

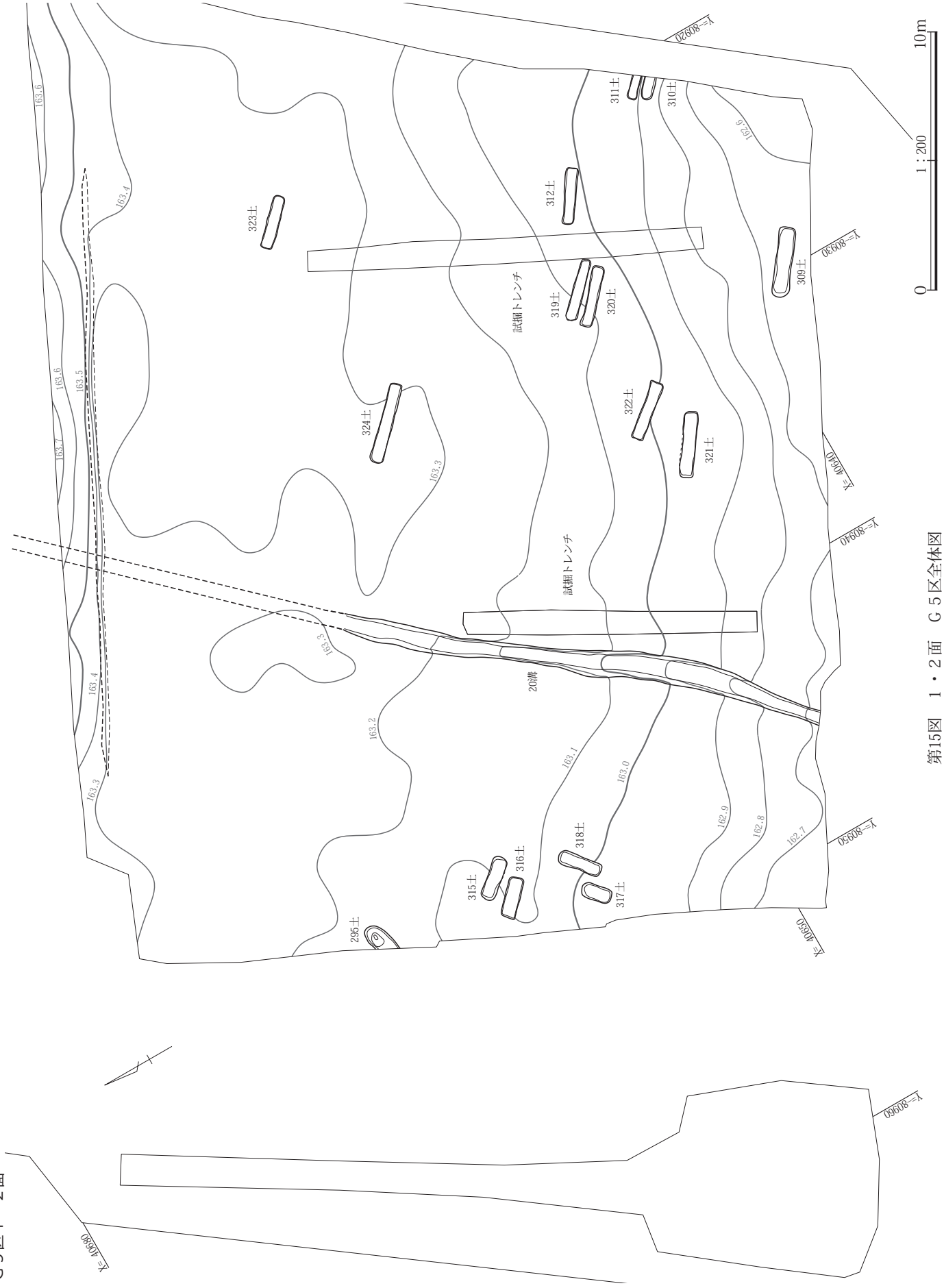
G2区2面



第13図　１・２面　Ｇ３区全体図

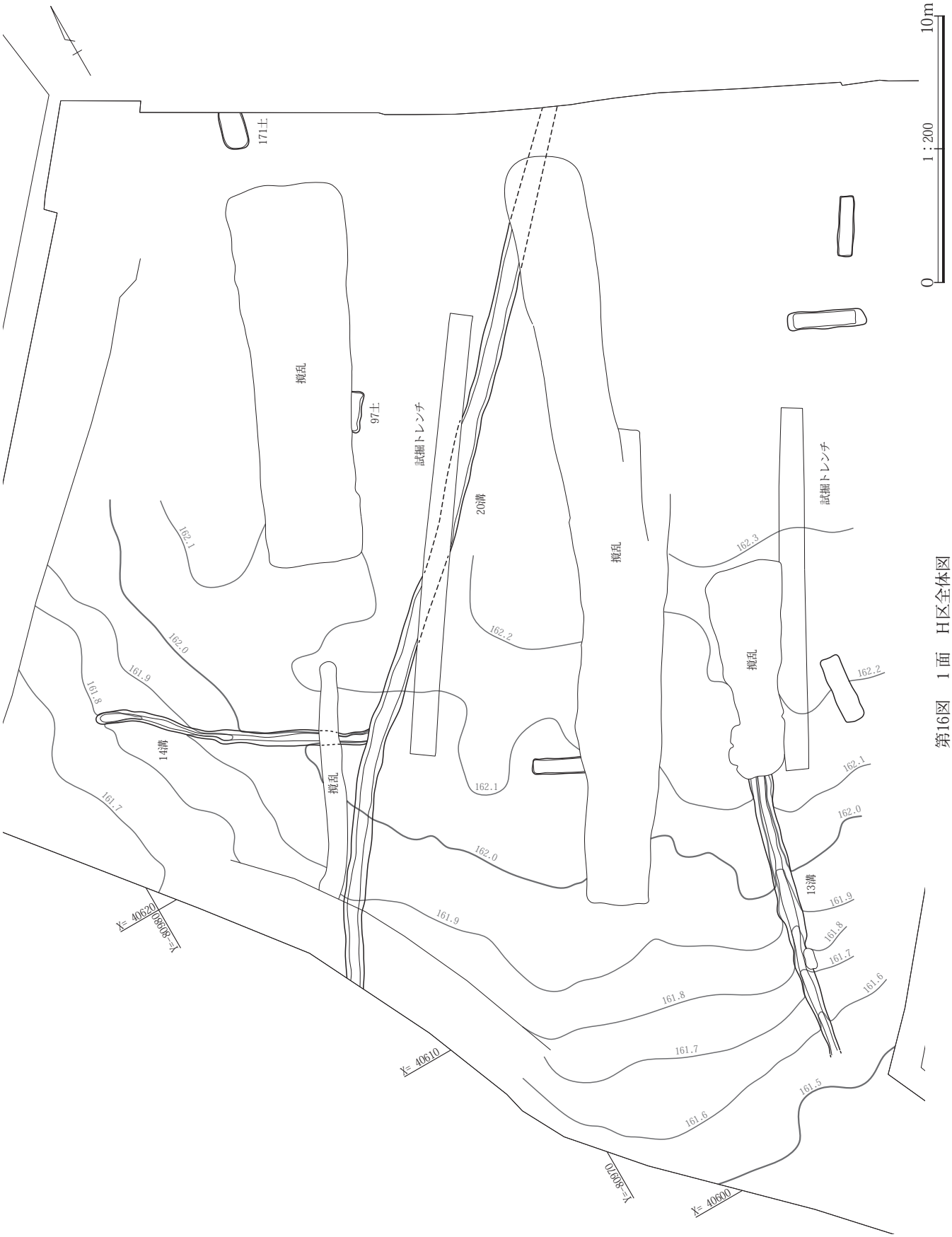
Ｇ３区１・２面

G４区１・２面
第14図　１・２面　Ｇ４区全体図
0
1:200
10m
X=-80890
X=-80900
X=-80910
X=-80920
X=-80930
X=-80940
X=-80950
X=-80960
X=-80970
332土
333土
331土
363土
335土
330土
329土
334土
364土
325土
327土
326土
328土
試掘トレンチ
336土
337土
338土
339土
341土
340土
342土
345土
344土
347土
346土
4復旧坑
164.4
20溝
5復旧坑
355土
6復旧坑
352土
369土
164.2
試掘トレンチ
348土
353土
164.6
357土
356土
349土
164.0
164.4
29溝
164.2
361土
362土
28溝
351土
350土



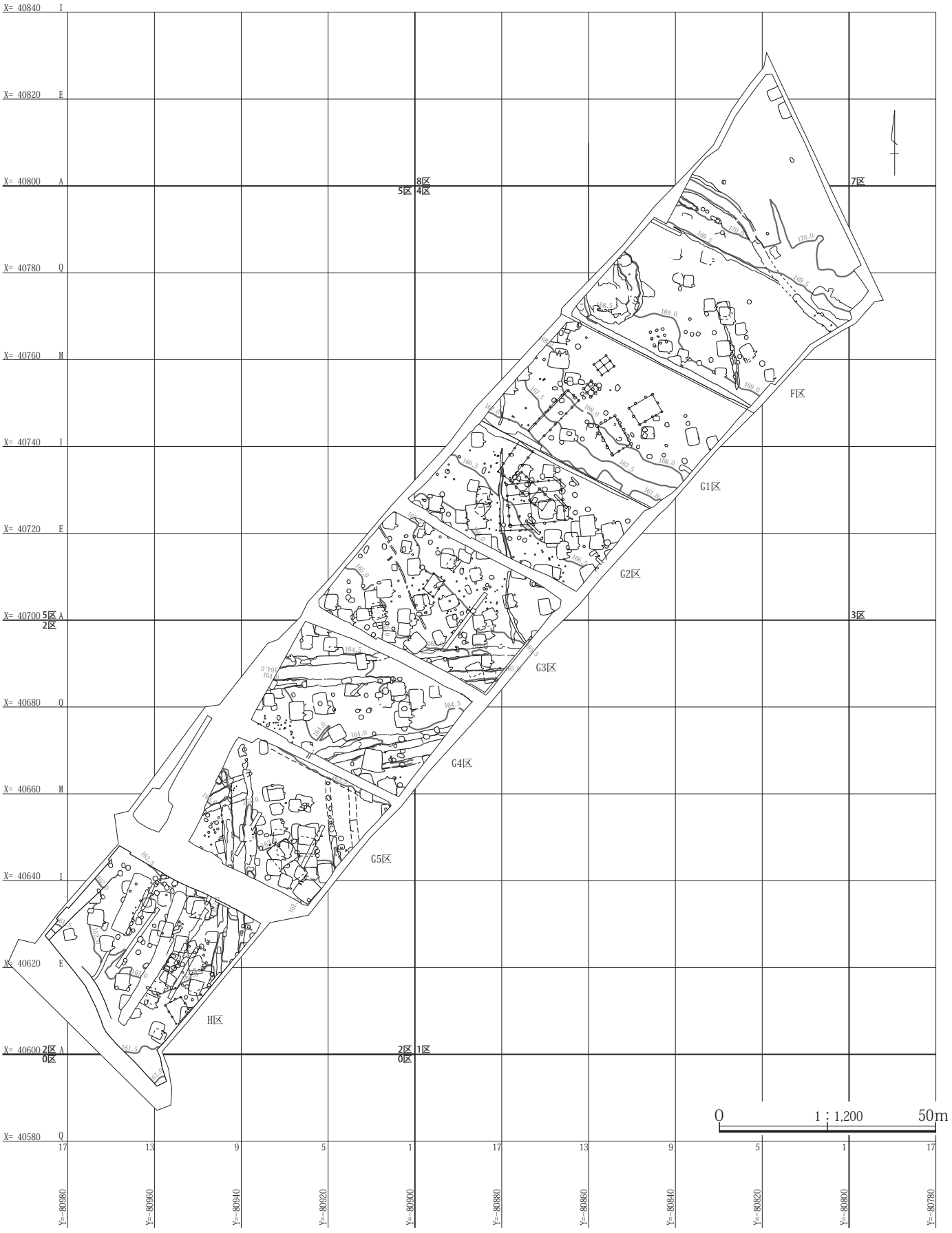
第15図　１・２面　Ｇ５区全体図

Ｇ５区１・２面



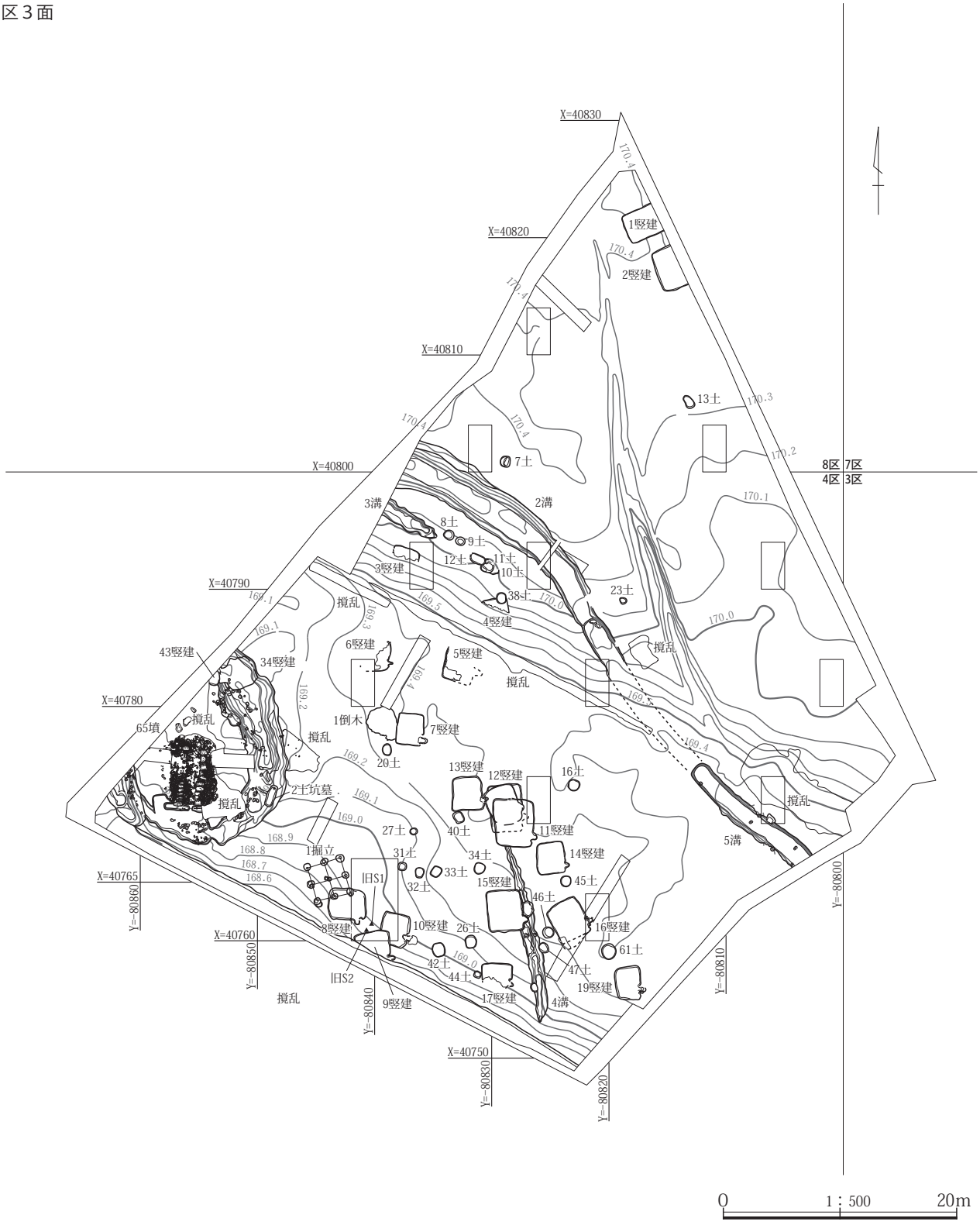
第16図　1面　H区全体図

H区1面

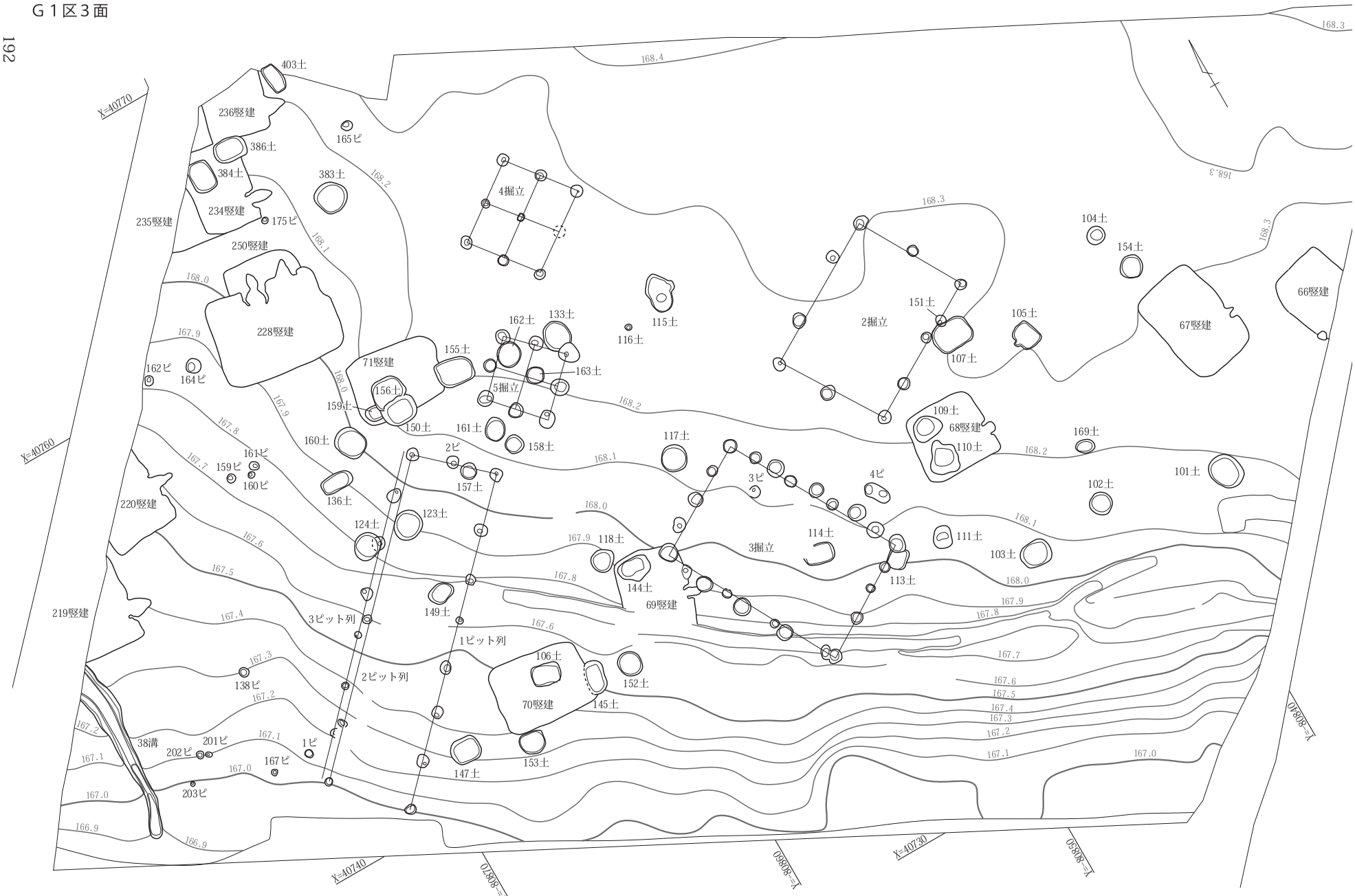


第17図　本郷鶴楽遺跡３面全体図

Ｆ区３面



第18図　３面　Ｆ区全体図



第19図　３面　Ｇ１区全体図

0　1：200　10m

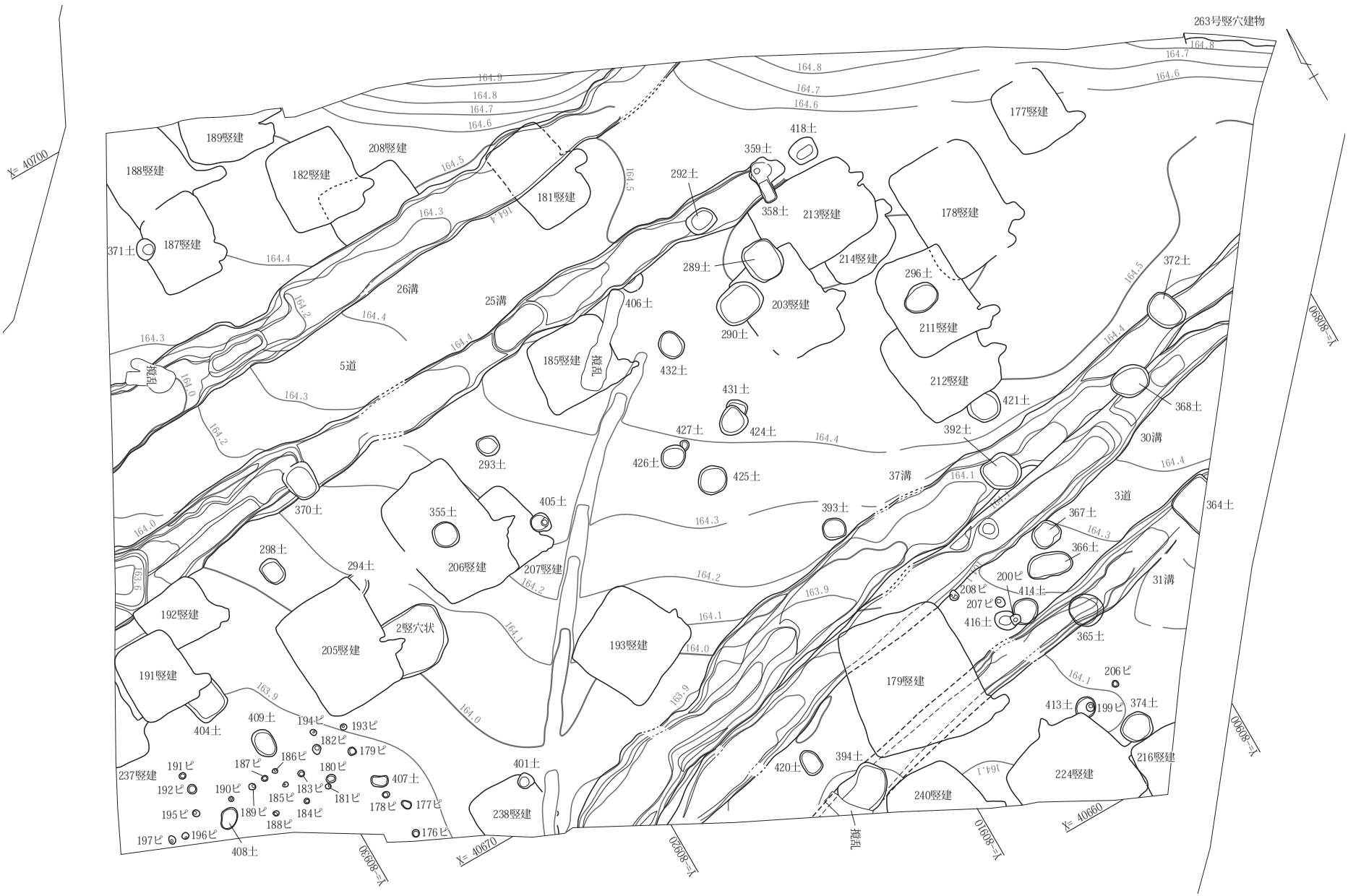
Ｇ２区３面

第20図　３面　Ｇ２区全体図

G３区３面

第21図　３面　Ｇ３区全体図

0　1：200　10m



第22図　３面　Ｇ４区全体図

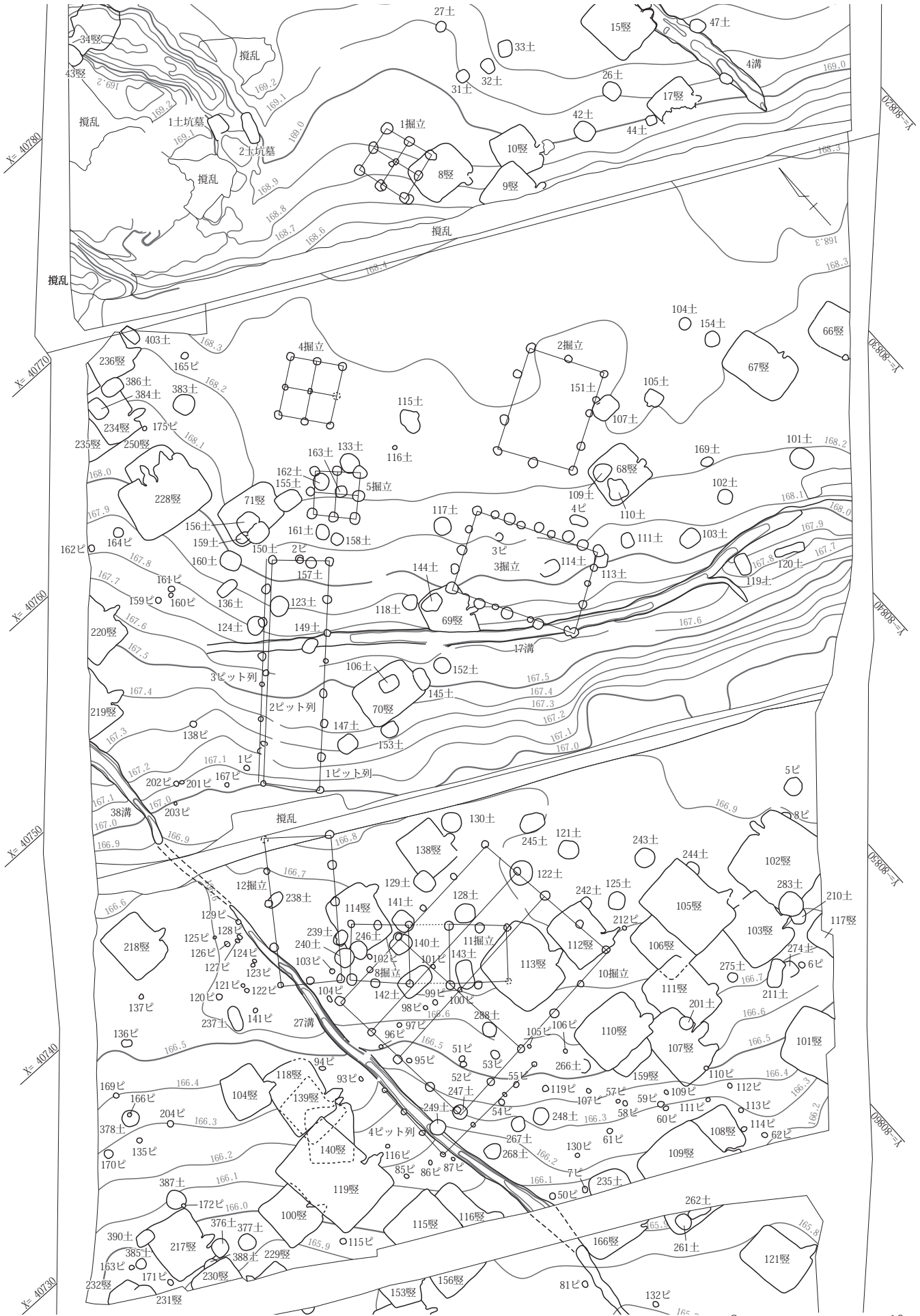
0　1：200　10m

G５区３面

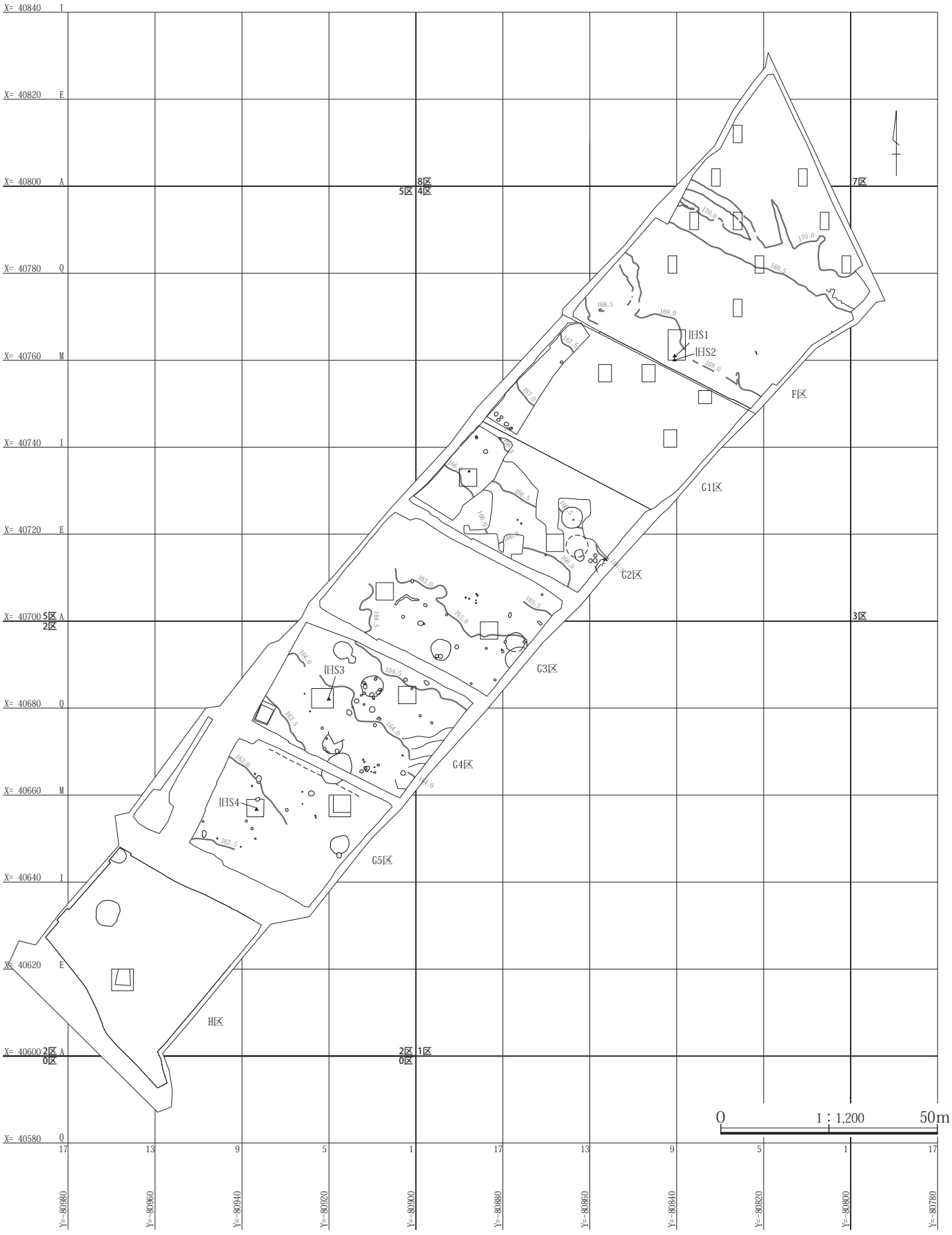
第23図　３面　Ｇ５区全体図

0　1：200　10m

H区３面
第24図　３面　H区全体図
0
1：200
10m
X=40620
Y=80980
X=40610
Y=80970
X=40600
239竪建
19溝
18溝
225竪建
175竪建
173竪建
171竪建
95竪建
2道
攪乱
87竪建
82竪建
94竪建
93竪建
76竪建
75竪建
83竪建
81竪建
85竪建
98竪建
96竪建
78竪建
99竪建
92竪建
84竪建
7掘立
170竪建
79竪建
80竪建
91竪建
77竪建
72竪建
64竪建
65竪建
63竪建
74竪建
57竪建
56竪建
58竪建
60竪建
62竪建
59竪建
88竪建
89竪建
86竪建
6掘立
61竪建
73竪建
90竪建
182土（火葬遺構）
168土（土坑墓）
92土
91土
93土
96土
170土
89土
88土
90土
177土
175土
174土
176土
178土
173土
185土
196土
180土
98土
304土
303土
195土
199土
300土
172土
164土
306土
360土
95土
94土
165土
99土
189土
181土
183土
184土
186土
179土
305土
188土
190土
187土
197土
191土
166土
167土
194土
192土
198土
193土
302土
301土
162.5
162.4
162.3
162.2
162.1
162.0
161.9
161.8
161.7
161.6
161.5
161.4
161.3
161.2
161.1
161.0



第25図　３面　Ｆ区一部とＧ１・Ｇ２区全体図

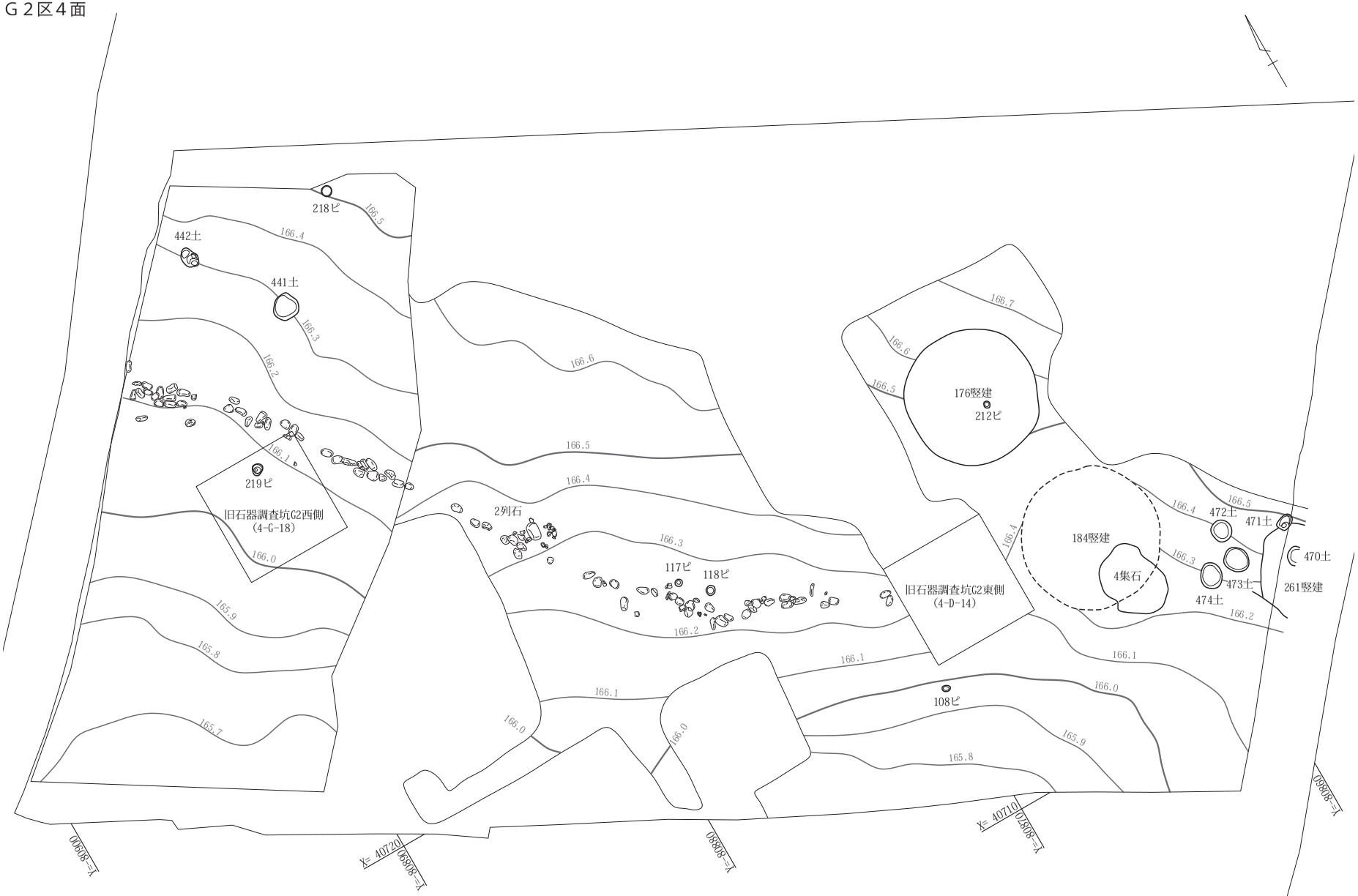


第26図　本郷鶴楽遺跡 4 面全体図

Ｇ１区４面

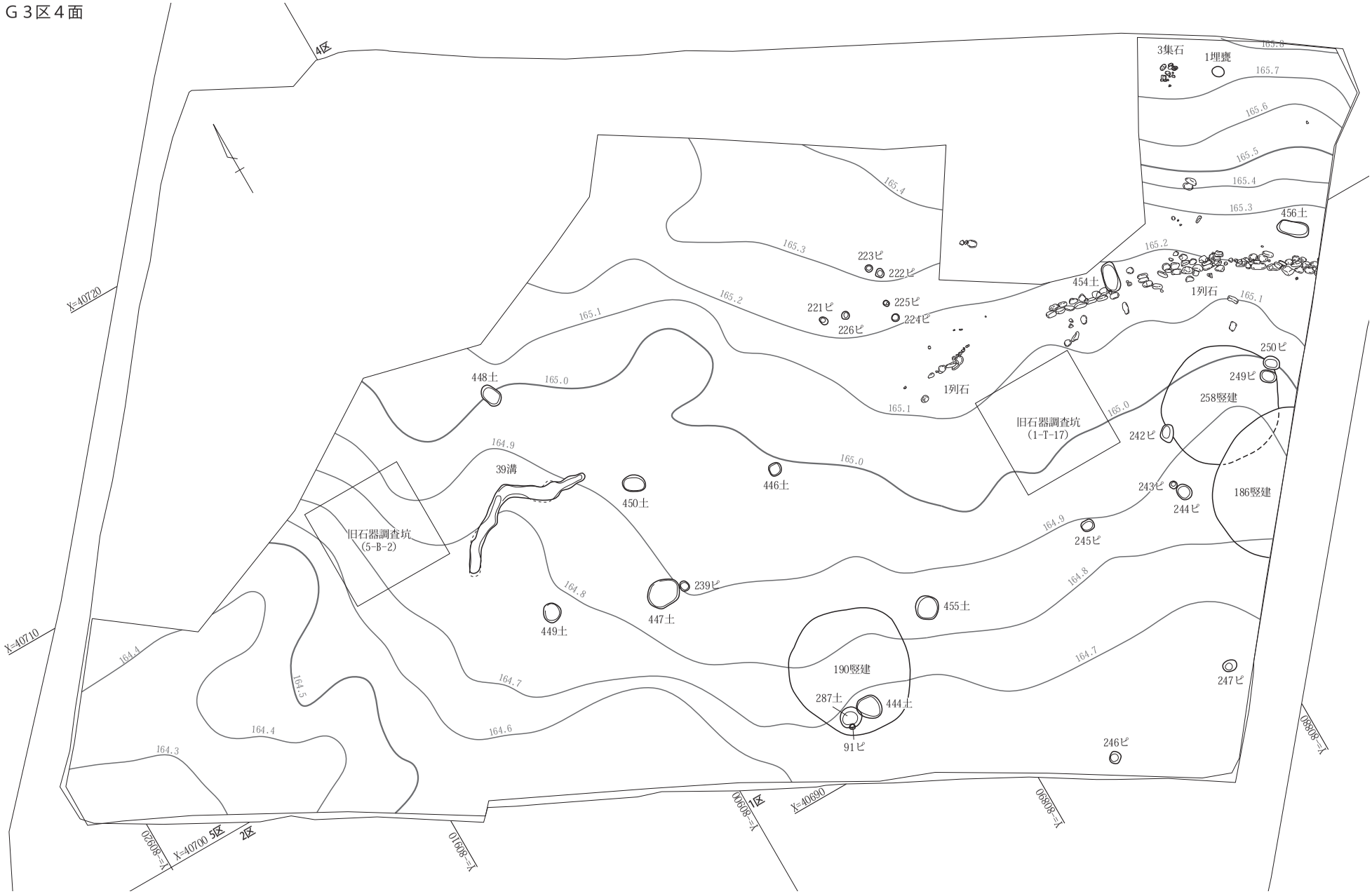
200

第27図　４面　Ｇ１区全体図



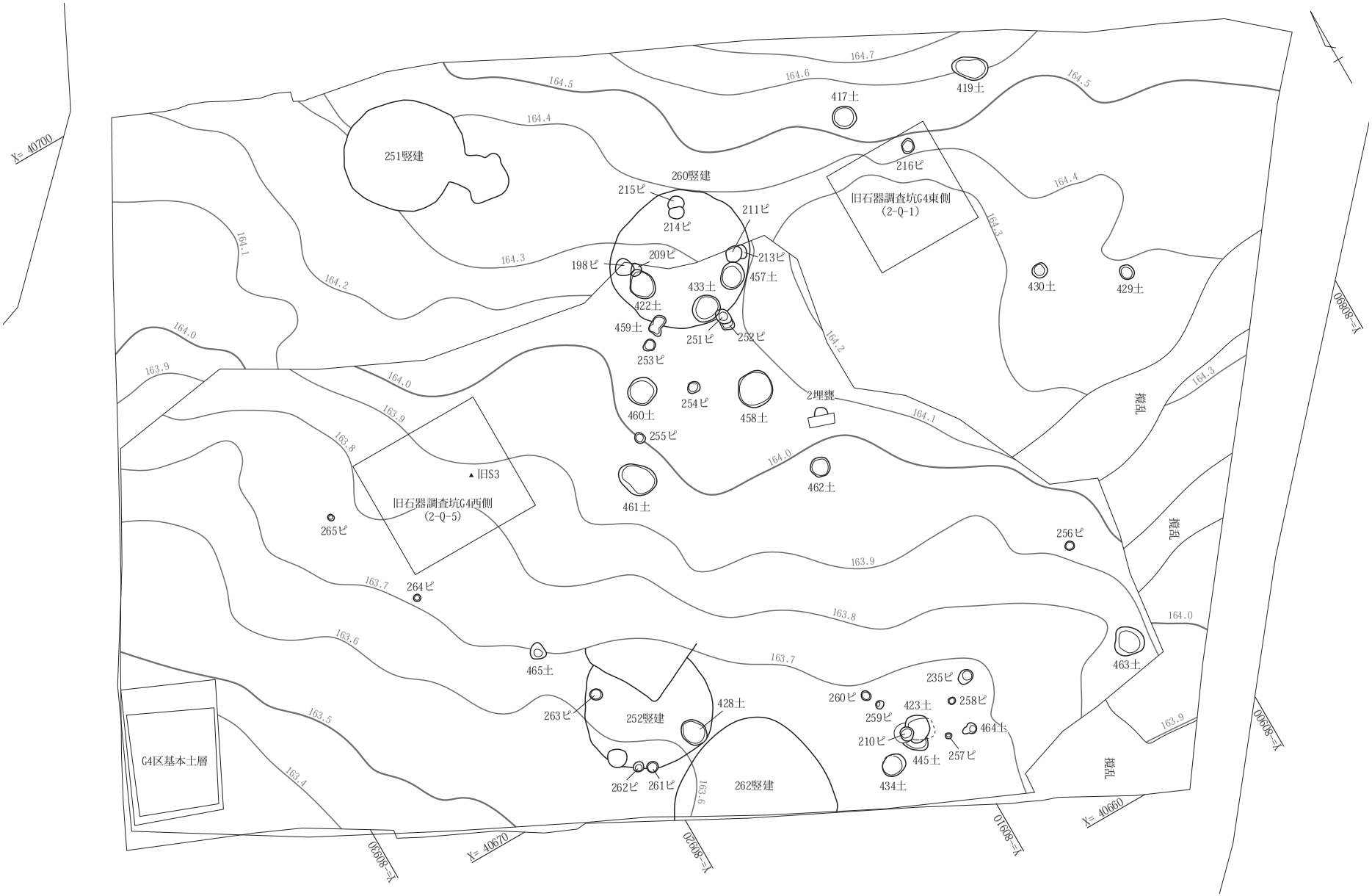
第28図　４面　Ｇ２区全体図

0　1：200　10m

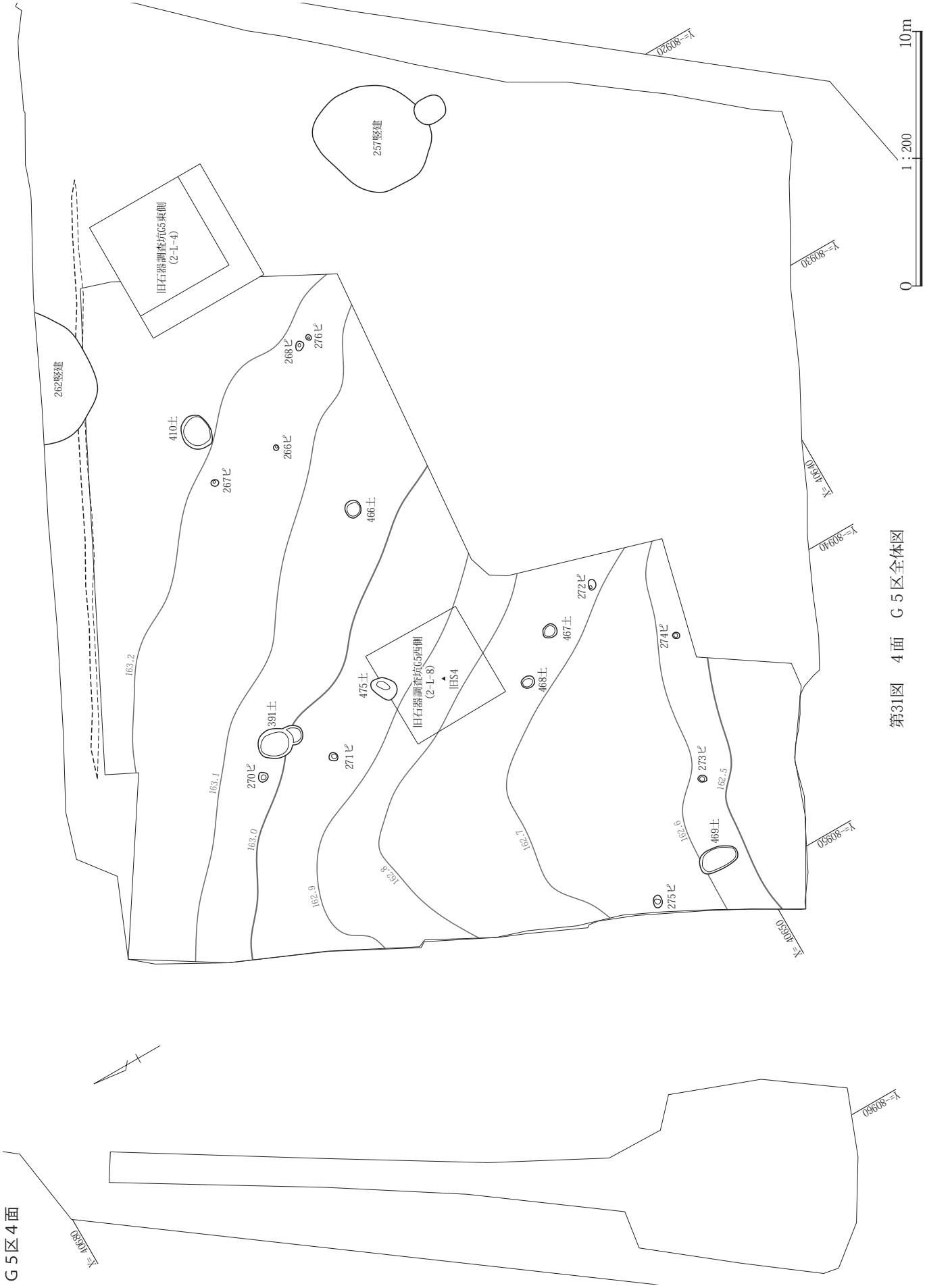


第29図　４面　Ｇ３区全体図

0　1：200　10m



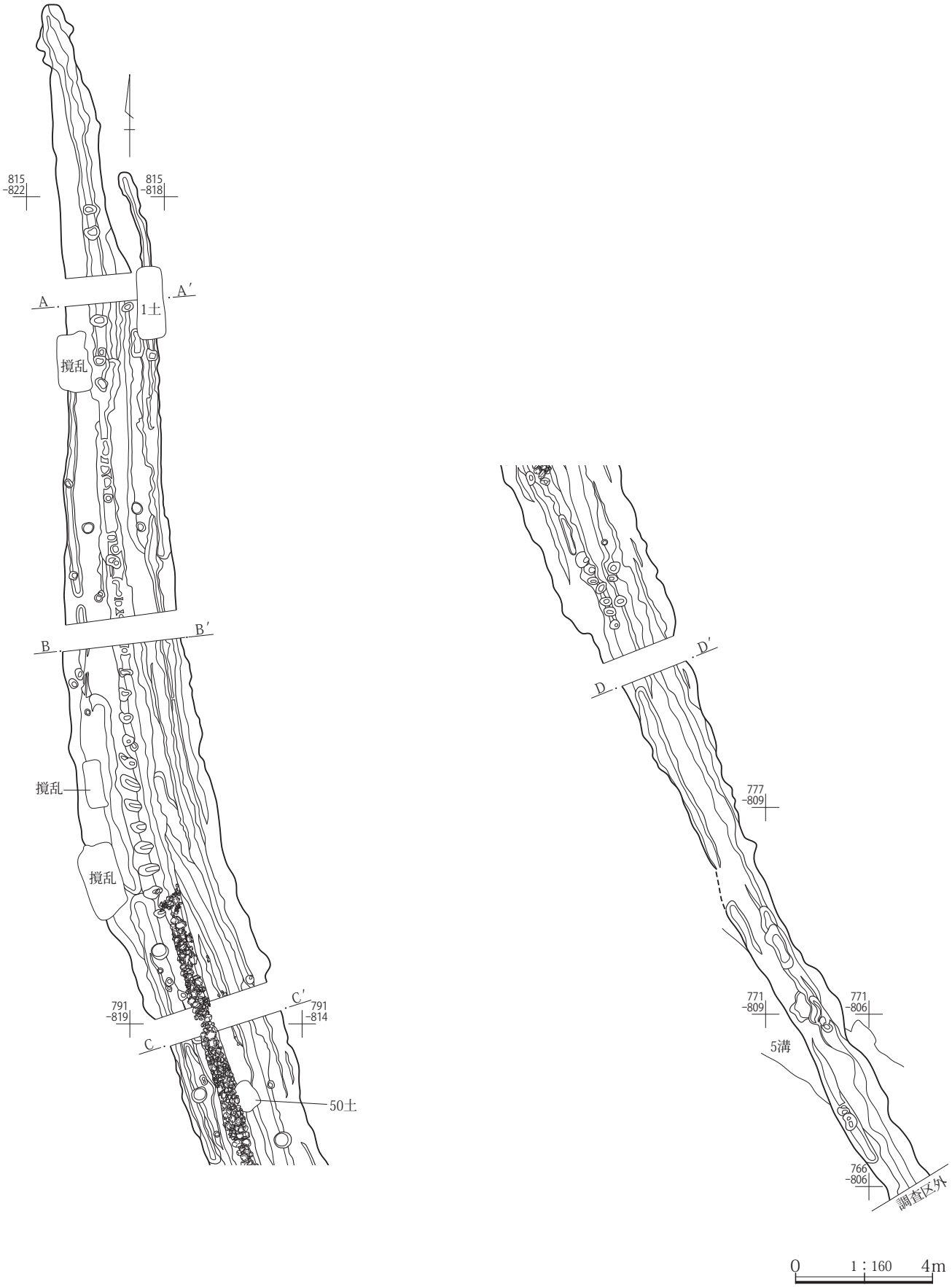
第30図　４面　Ｇ４区全体図



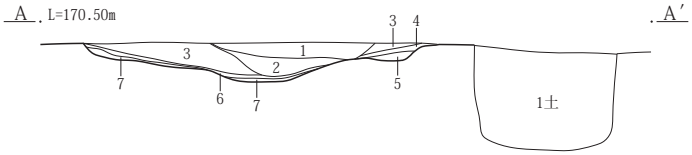
第31図　４面　Ｇ５区全体図

Ｇ５区４面

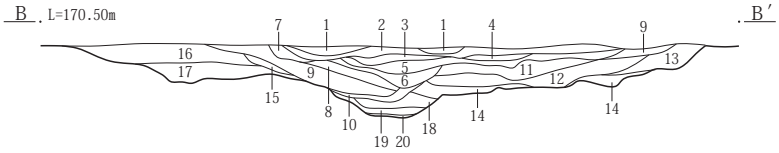
1号溝(道)



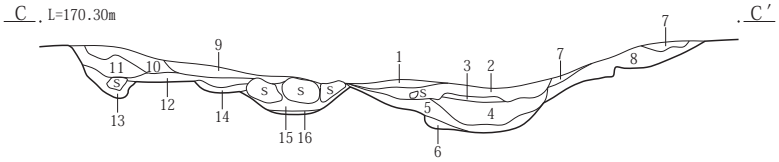
第32図　1面　F区1号溝(道)



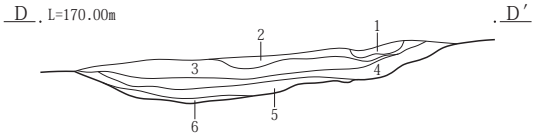
1号溝A-A′
1　細粒砂と粗粒砂の互層。
2　As-A細粒と中粒砂の互層。
3　As-A
4　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-A粒を少量含む。シルト質。
5　黒褐色土(7.5YR3/1)　夾雑物を含まない。硬化している。
6　黒褐色土(2.5Y3/1)　ローム粒を少量含む。硬化している。
7　黒褐色土(2.5Y3/1)　細砂をやや多量含む。シルト質。



1号溝B-B′
1　細粒砂。
2　黒褐色土(2.5Y3/1)　As-A細粒を微量含む。硬化している。
3　黒褐色土(2.5Y3/1)　夾雑物を含まない。シルト質。
4　黒褐色土(2.5Y3/1)　As-A細粒をやや多量含む。シルト質。
5　細粒砂と粗粒砂の互層。
6　As-A細粒と中粒砂の互層。
7　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-A粗粒をやや多量含む。
8　細粒砂を主体とし、As-A細粒を少量含む。
9　As-A
10　黒褐色土(7.5YR3/1)　夾雑物を含まない。硬化している。
11　黒褐色土(2.5Y3/1)　As-A粒を少量含む。シルト質。
12　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-A細粒を少量含む。シルト質。
13　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-A粒を少量含む。シルト質。
14　黒褐色土(7.5YR3/1)　夾雑物を含まない。硬化している。
15　黒褐色土(2.5Y3/1)　As-A粒を少量含む。鉄分沈着。シルト質。
16　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-A粒を少量含む。シルト質。
17　黒褐色土(7.5YR3/1)　白色微粒を少量含む。
18　黒褐色土(2.5Y3/1)　ローム塊をやや多量含む。シルト質。
19　黒褐色土(2.5Y3/1)　鉄分沈着。シルト質。
20　黒褐色土(2.5Y3/1)　夾雑物を含まない。硬化している。



1号溝C-C′
1　細粒砂と粗粒砂の互層。
2　細粒砂を主体とし、As-A細粒を少量含む。
3　細粒砂。
4　As-A
5　黒褐色土(2.5Y3/1)　夾雑物を含まない。硬化している。
6　黒褐色土(2.5Y3/1)　鉄分沈着。シルト質。
7　細粒砂と粗粒砂の互層。
8　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-A細粒、ローム粗粒を少量含む。シルト質。
9　黒褐色土(2.5Y3/1)　As-A粒を少量含む。鉄分沈着。シルト質。
10　黒褐色土(2.5Y3/1)　ローム粒を微量含む。シルト質。
11　黒褐色土(2.5Y3/1)　ローム粒を少量含む。シルト質。
12　黒褐色土(2.5Y3/1)　ローム粗粒を少量含む。シルト質。
13　黒褐色土(7.5YR3/1)　夾雑物を含まない。シルト質。
14　黒褐色土(7.5YR3/1)　夾雑物を含まない。硬化している。
15　黒褐色土(2.5Y3/1)　鉄分沈着。シルト質。
16　黒褐色土(2.5Y3/1)　夾雑物を含まない。硬化している。

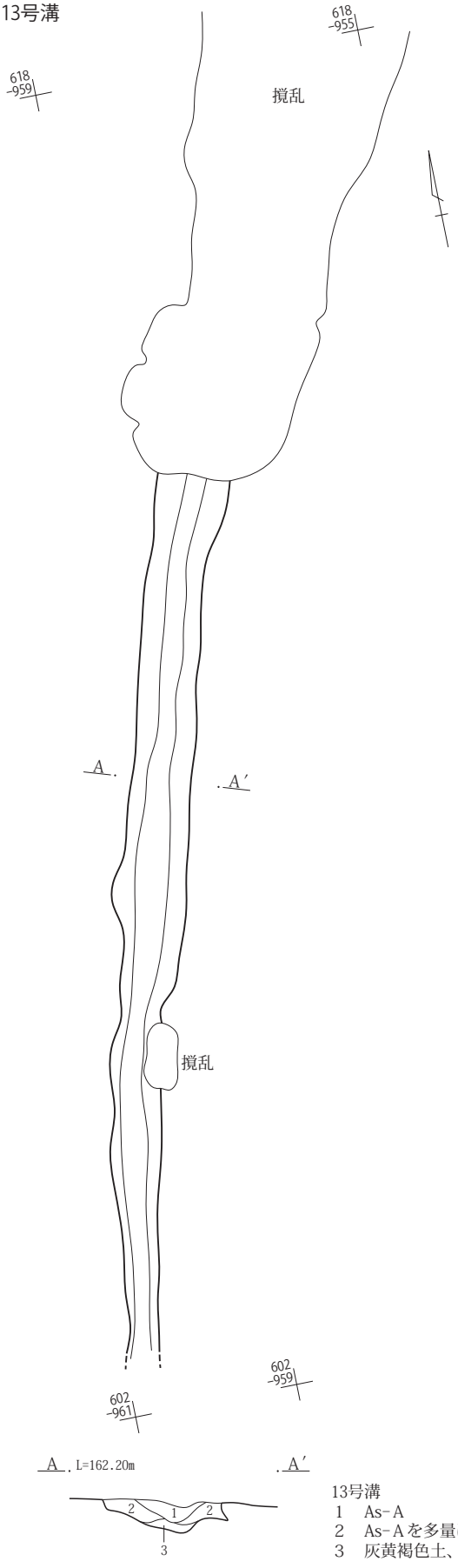


1号溝D-D′
1　細粒砂と粗粒砂の互層。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-A粒を少量含む。シルト質。
3　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊を主体とし、As-YP粒をやや多量含む。
4　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-A粗粒を少量含む。鉄分沈着。シルト質。
5　黒褐色土(2.5Y3/1)　夾雑物を含まない。シルト質。
6　黒褐色土(7.5YR3/1)　ローム粗粒を少量含む。硬化している。

0　1：40　1m

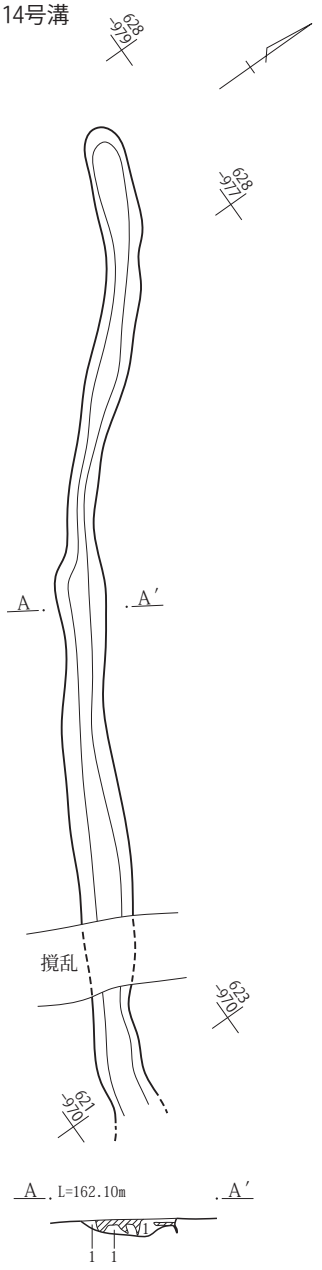
第33図　1面　F区1号溝(道)

13号溝



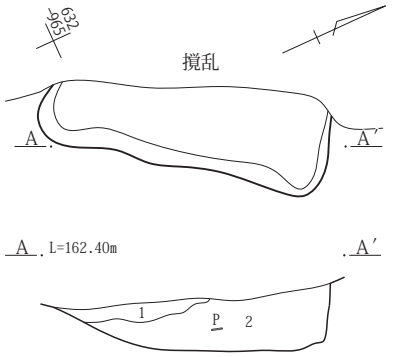
13号溝
1　As-A
2　As-Aを多量に含む。
3　灰黄褐色土、小石含む。シルト質土。

14号溝



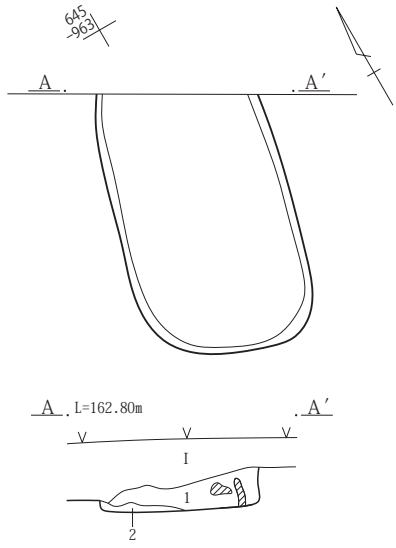
14号溝
1　As-Aを多量に含む。

97号土坑



97号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-A混土？やや大粒の軽石・くすんだローム塊含む。しまり弱。
2　灰黄褐色土(10YR5/2)　軽石を多量に含む。ローム中・小塊混じる。しまり弱く、ざらついた層。(As-A混土)

171号土坑

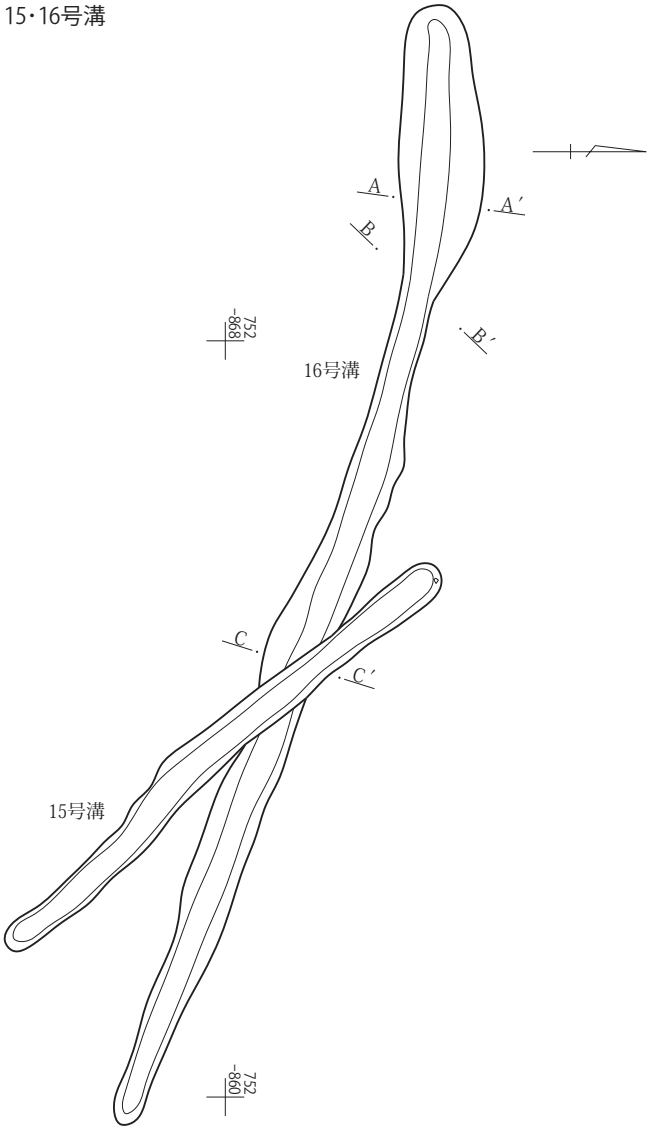


171号土坑
I　As-A混土
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　夾雑物少ない。
2　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊主体。

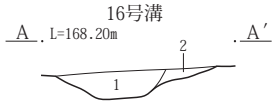
0　1：40　1m
0　1：80　2m

第34図　1 面　H区13・14号溝、97・171号土坑

15･16号溝

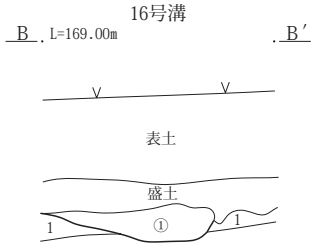


16号溝



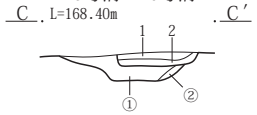
16号溝A-A′
1　As-B、しまり弱、粘性なし。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-Bを含む。しまりあり、粘性弱。

16号溝



16号溝B-B′
①　As-A混土。As-A多量に含む。
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-B・As-C混土。

15号溝・16号溝

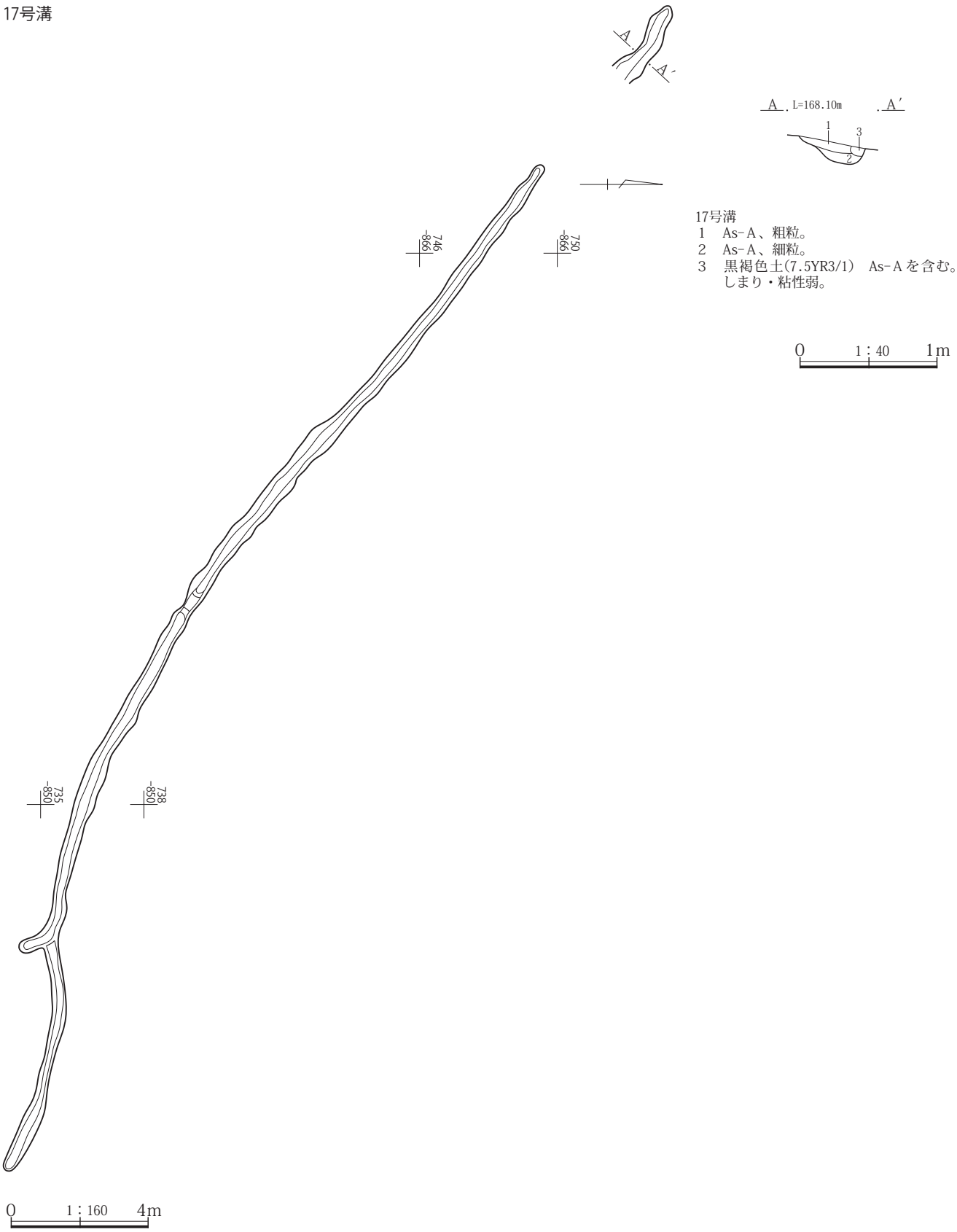


15･16号溝C-C′
1　As-A混土。ザラついた層。
2　As-A主体の層。
①　褐灰色土(10YR10/1)　As-B混土。
②　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-Bを含む。しまりあり、粘性弱い。

0　1：40　1m

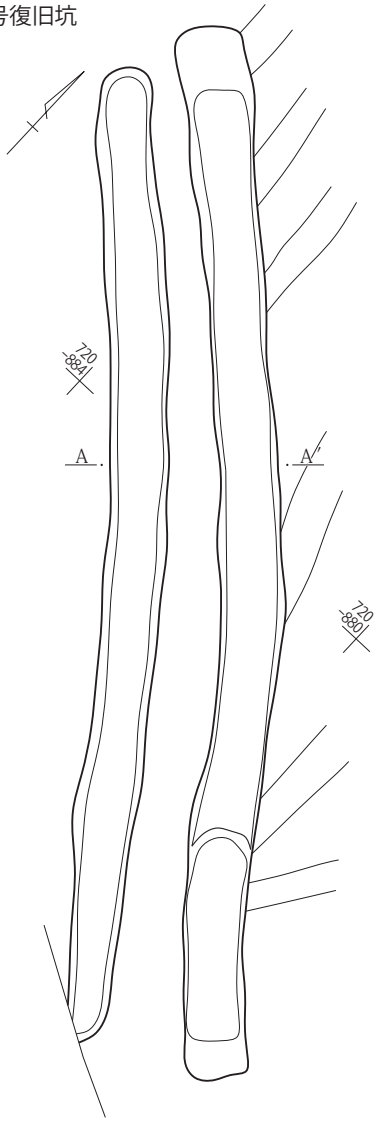
第35図　１・２面　Ｇ１区15・16号溝

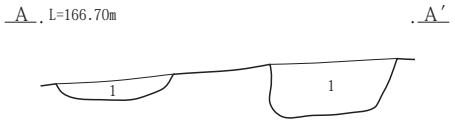
17号溝



第36図　1・2面　G 1区17号溝

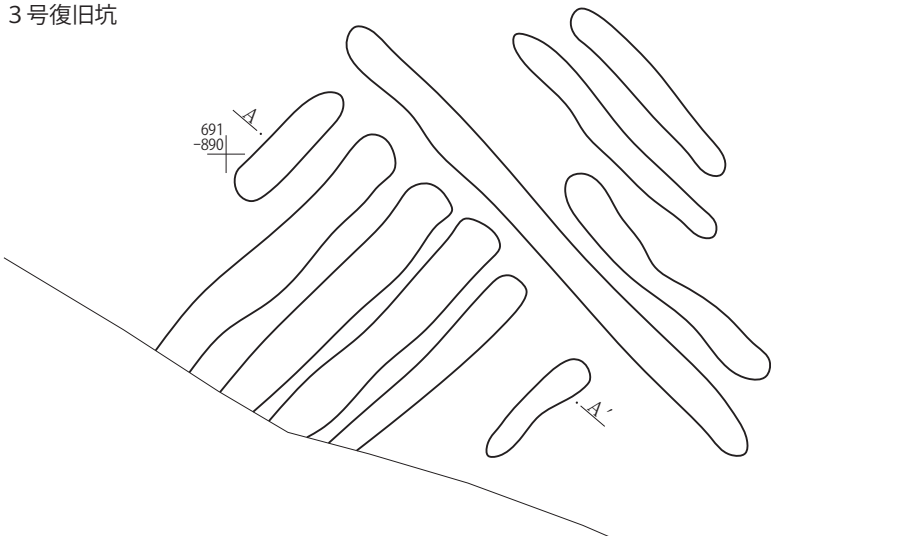
２号復旧坑

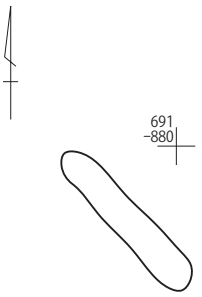


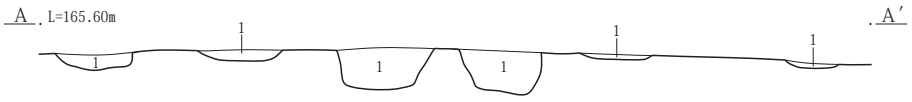


２号復旧坑
1　As-A混土。

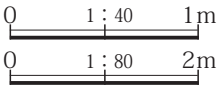
３号復旧坑





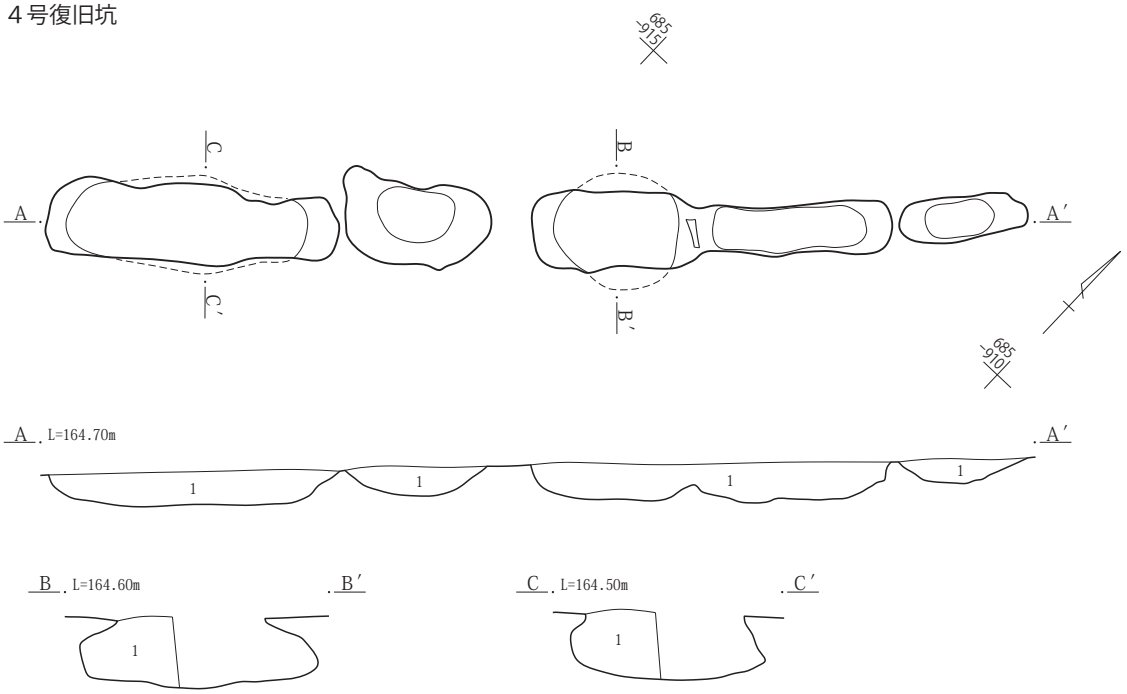


３号復旧坑
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　φ１～５㎜程のAs-A大量含む。



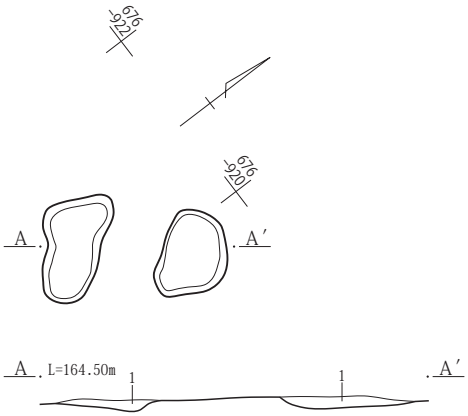
第37図　１・２面　Ｇ２区２号復旧坑群、Ｇ３区３号復旧坑群

４号復旧坑



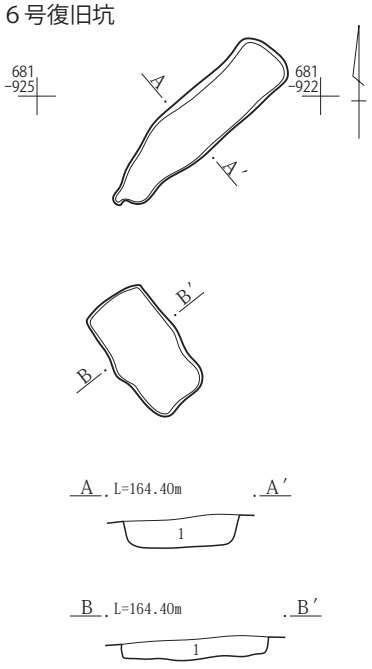
４号復旧坑A－A′・B－B′・C－C′
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　φ１～５㎜程のAs－A大量含む。

５号復旧坑



５号復旧坑
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　φ１～５㎜程のAs－A大量含む。

６号復旧坑

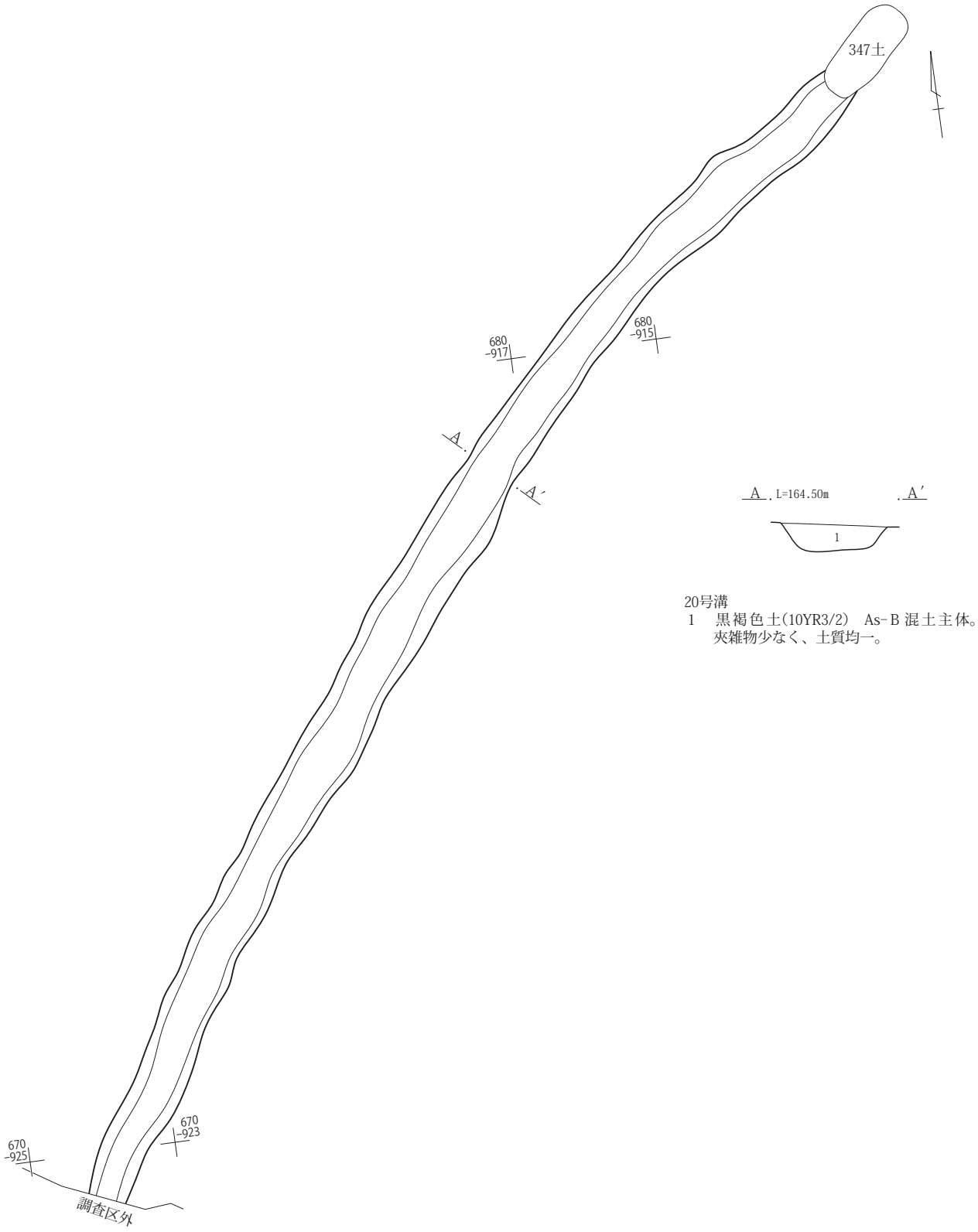


６号復旧坑A－A′・B－B′
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　黒褐色土30％程、φ３～５㎝の礫若干含む。

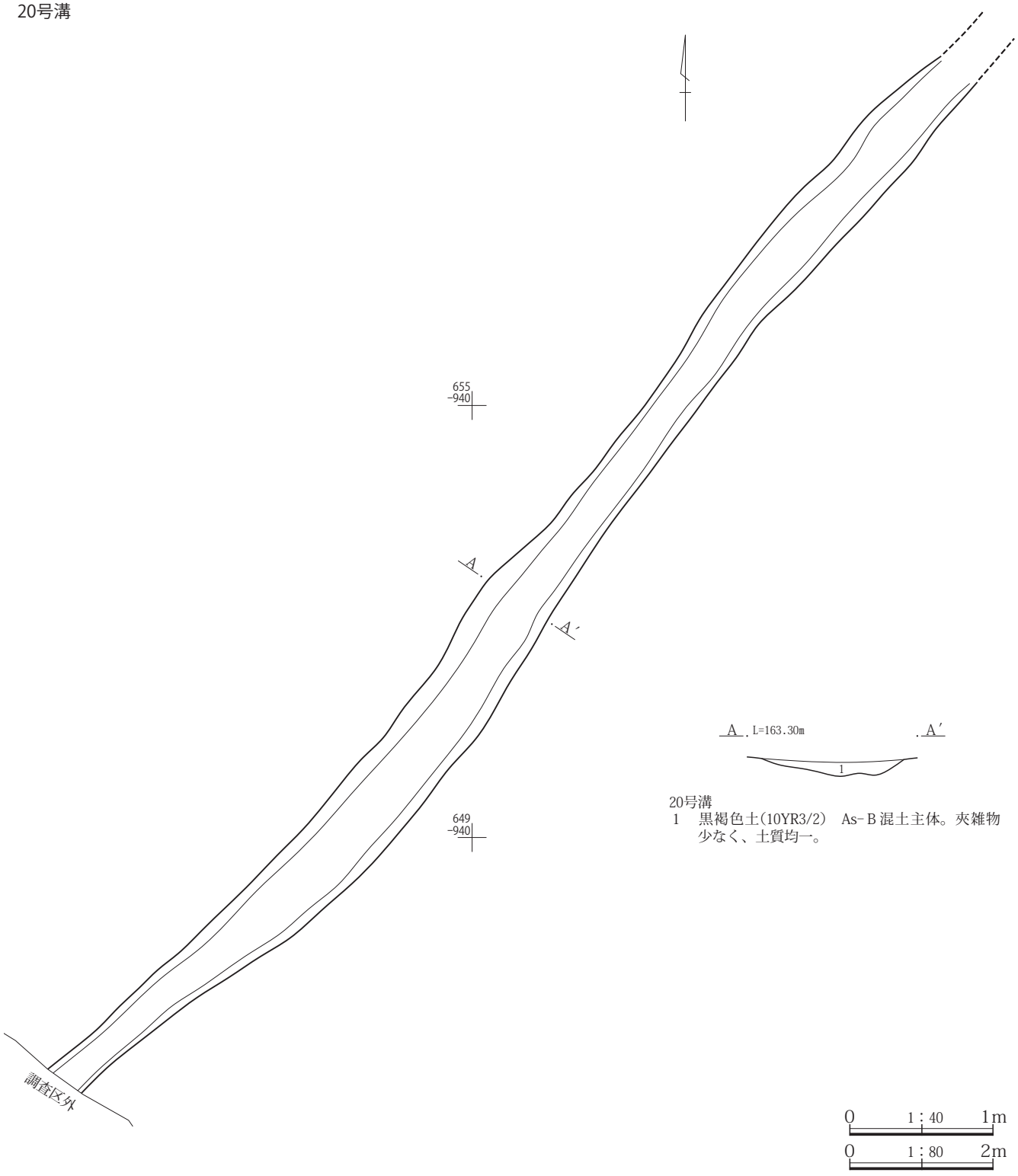
0　1：40　1m
0　1：80　2m

第38図　１・２面　Ｇ４区４～６号復旧坑群

20号溝

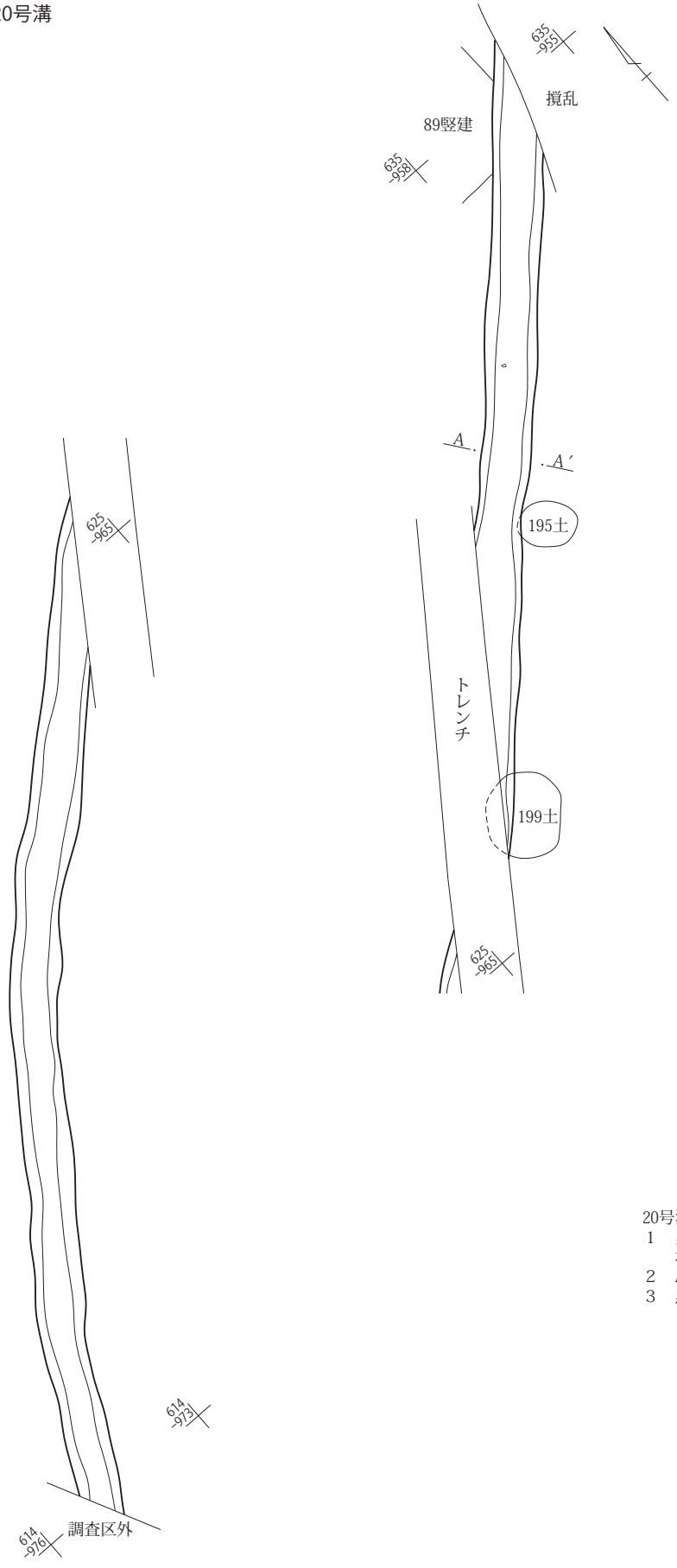


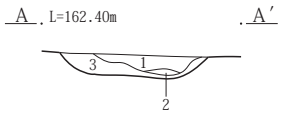
第39図　１・２面　Ｇ４区20号溝



第40図　1・2面　G 5区20号溝

20号溝



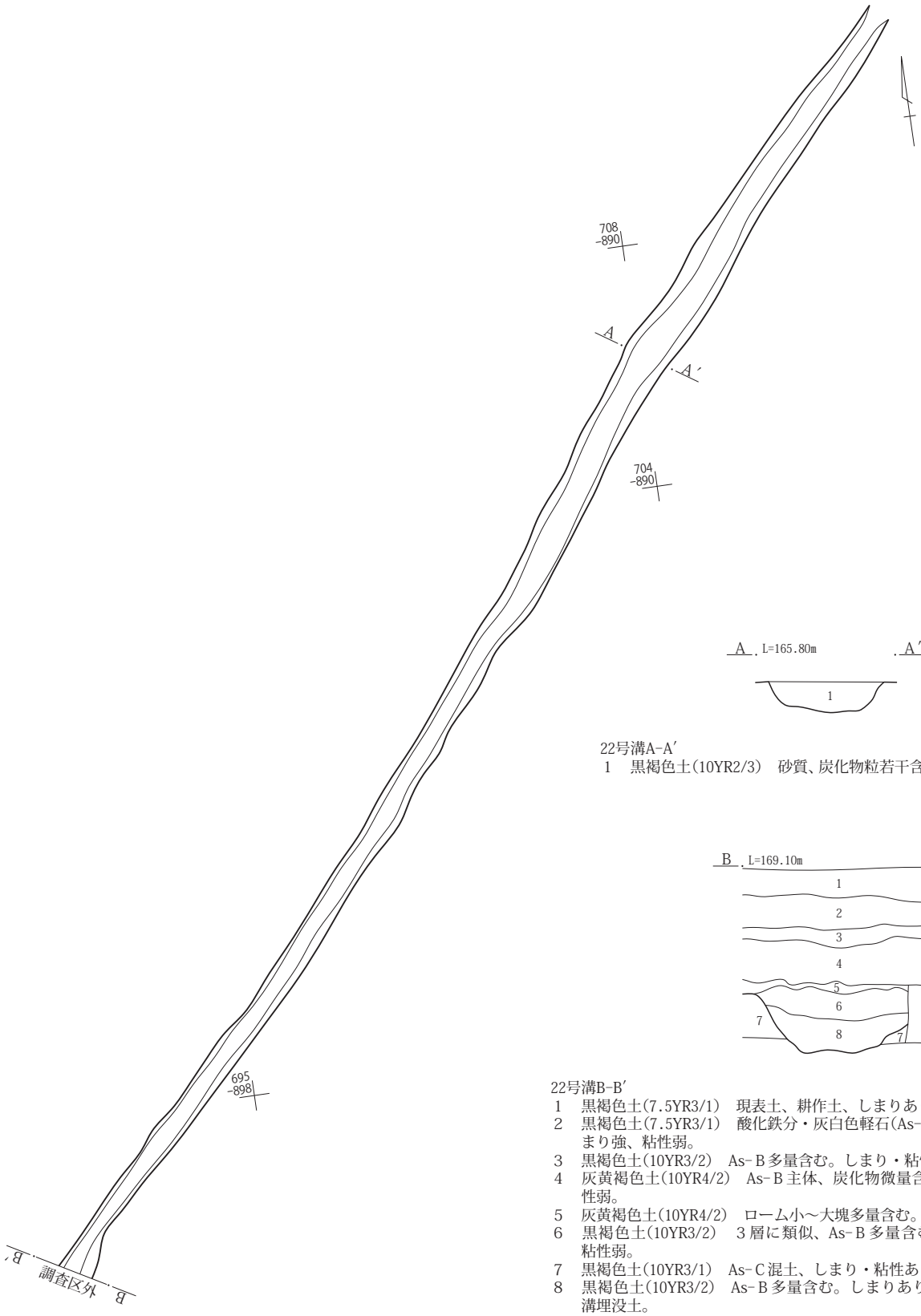


20号溝
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｂ混土主体。夾雑物少なく、土質均一。
2　As-Ｂ層
3　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土。土器片わずかに含む。

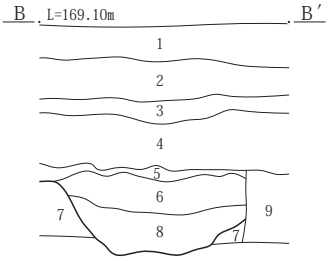
0　1：40　1m
0　1：100　3m

第41図　１・２面　H区20号溝

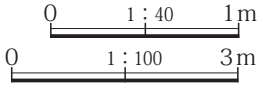
22号溝



22号溝A-A′
1　黒褐色土(10YR2/3)　砂質、炭化物粒若干含む。(As-B混土)

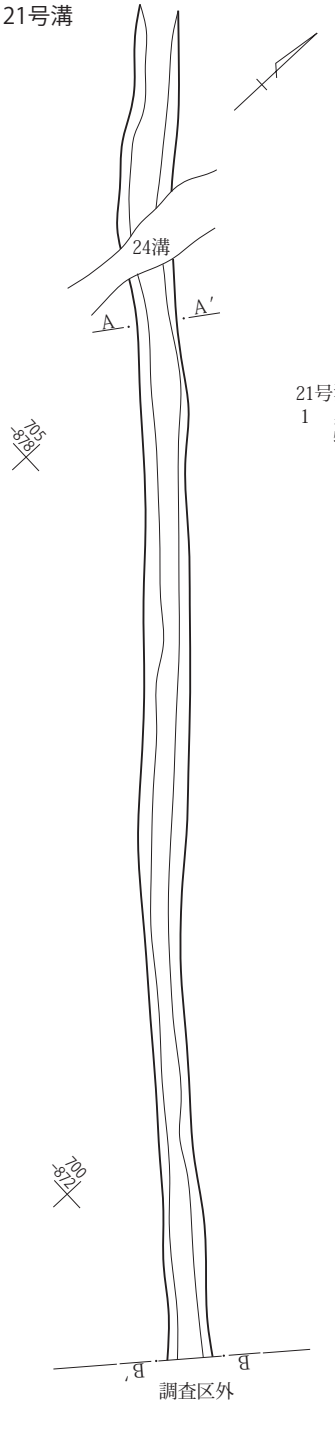


22号溝B-B′
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　現表土、耕作土、しまりあり、粘性弱。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　酸化鉄分・灰白色軽石(As-Aか)を含む。しまり強、粘性弱。
3　黒褐色土(10YR3/2)　As-B多量含む。しまり・粘性弱。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-B主体、炭化物微量含む。しまり・粘性弱。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小～大塊多量含む。しまり・粘性弱。
6　黒褐色土(10YR3/2)　3層に類似、As-B多量含む。しまりあり、粘性弱。
7　黒褐色土(10YR3/1)　As-C混土、しまり・粘性あり。
8　黒褐色土(10YR3/2)　As-B多量含む。しまりあり、粘性弱。22号溝埋没土。
9　近現代撹乱。

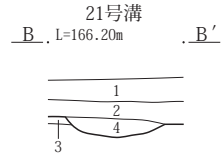


第42図　1・2面　G3区22号溝

21号溝

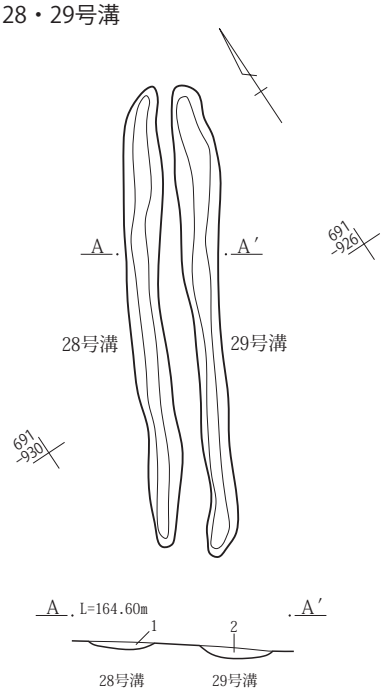


21号溝A-A′
1　黒褐色土(10YR2/3)　砂質、炭化物粒若干含む。(As-Ｂ混土)



21号溝B-B′
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　現表土、耕作土、しまりあり、粘性弱。
2　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄褐色土・約５㎜～１㎝軽石を含む。しまりあり、粘性弱。
3　黒色土(10YR3/1)　As-Ｃ混土、しまりあり、粘性弱。
4　暗褐色土(10YR3/3)　砂質土、As-Ｂ混土、褐色土小塊を含む。流水の痕跡なし、しまりあり、粘性弱。21号溝埋没土。

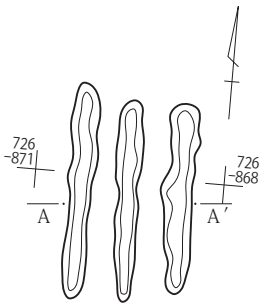
28・29号溝

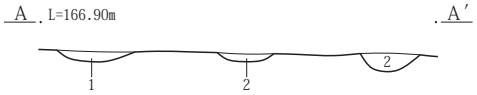


28・29号溝A-A′
1　As-Ｂ混土、しまりあり、粘性なし。
2　As-Ｂ混土、黒褐色土を含む。しまりあり、粘性なし。

0　1：40　1m
0　1：80　2m

２号畑





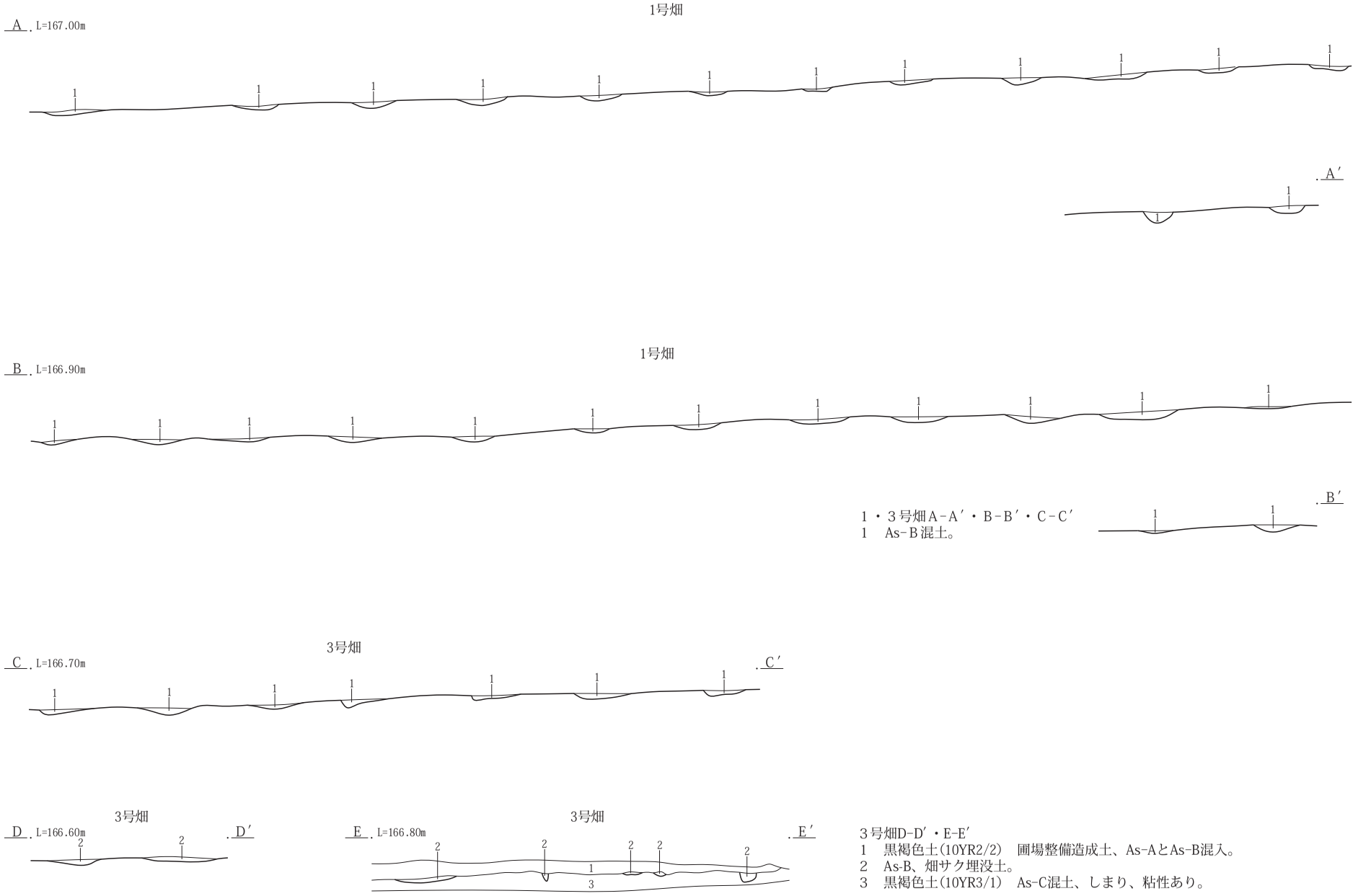
２号畑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｂ粒を非常に多く含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｂ粒をわずか含む。

0　1：40　1m
0　1：120　5m

0　1：40　1m
0　1：80　2m

第43図　１・２面　Ｇ３区21号溝、Ｇ４区28・29号溝、Ｇ２区２号畑

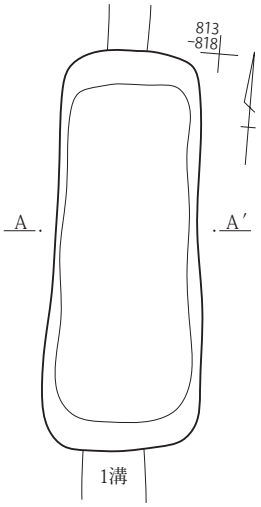
第44図　１・２面　Ｇ２区１・３号畑

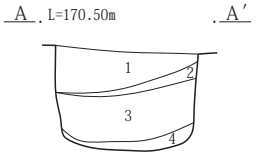


第45図　１・２面　Ｇ２区１・３号畑

F区1面

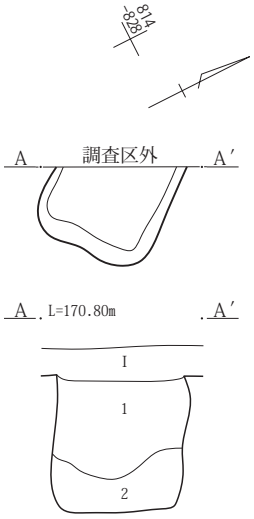
1号土坑





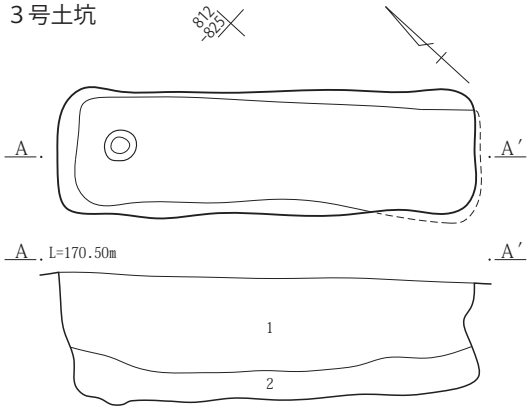
1号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-A粒・黄色粒を多量、ローム小塊をやや多量含む。砂質。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-A粒・黄色粒を少量含む。砂質。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-A粒・黄色粒をやや多量、ローム塊を少量含む。砂質。
4　黒褐色土(10YR3/1)　黄色粒を微量含む。砂質。

2号土坑



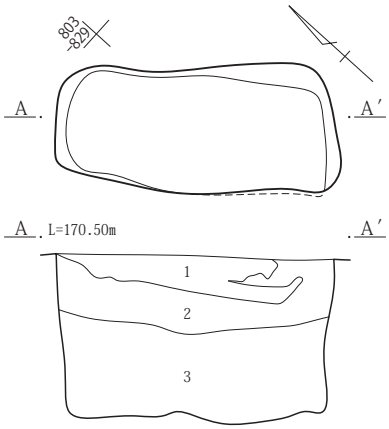
2号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-A細粒・黄色粒を多量、黄色小塊をやや多量含む。砂質。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-A細粒・黄色粒をやや多量含む。砂質。

3号土坑



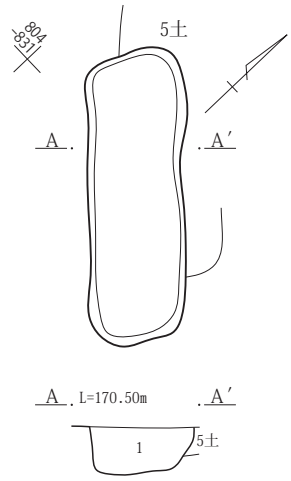
3号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-A細粒・黄色粒を多量、黄色小塊をやや多量含む。砂質。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-A細粒・黄色粒をやや多量含む。砂質。

6号土坑



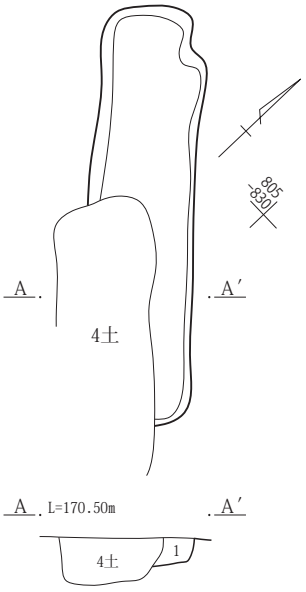
6号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色細粒をやや多量、黄色粒を少量含む。砂質。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-A細粒・黄色粒・ローム粗塊を多量、黄色小塊をやや多量含む。砂質。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-A細粒・黄色粒・黄色小塊をやや多量、ローム粗塊を多量含む。砂質。

4号土坑



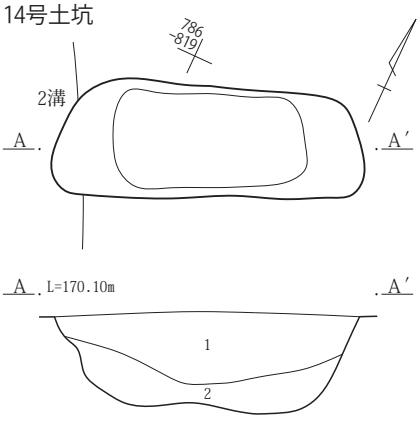
4号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-A細粒、ローム粗塊をやや多量含む。砂質。

5号土坑



5号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-A細粒をやや多量含む。砂質。

14号土坑

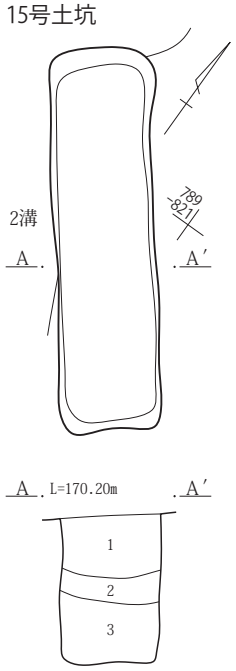


14号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-A細粒・ローム粗塊をやや多量含む。砂質。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-A細粒・黄色粗粒を少量含む。砂質。

0　1：40　1m

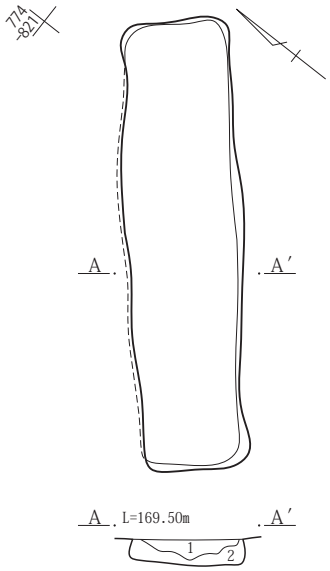
第46図　1面　F区1～6・14号土坑

15号土坑



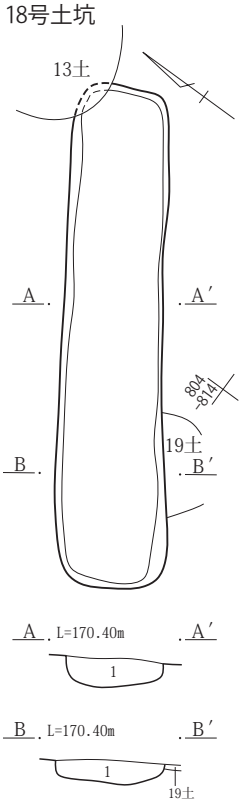
15号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-A粒・ローム粗塊をやや多量含む。砂質。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-A細粒・黄色粒をやや多量含む。砂質。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-A粒・ローム粗塊をやや多量含む。砂質。

17号土坑

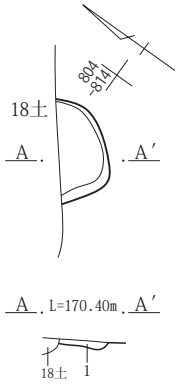


17号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粗塊をやや多量、As-A粒を少量含む。砂質。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-A細粒を微量含む。砂質。

18号土坑



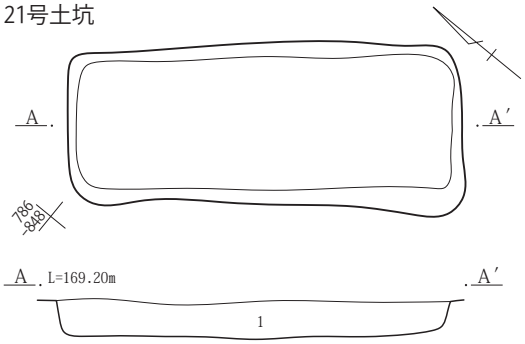
19号土坑



19号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-A細粒をやや多量含む。砂質。

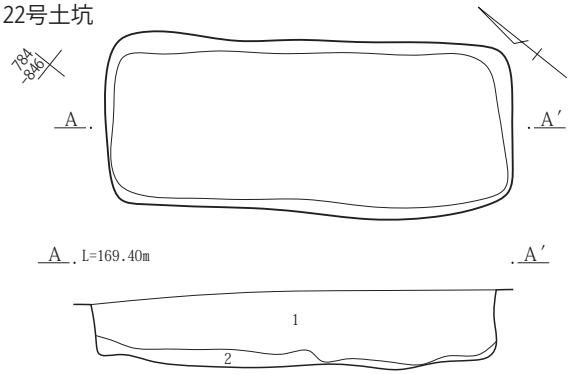
18号土坑A－A′・B－B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-A細粒をやや多量、黄色粒を少量含む。砂質。

21号土坑



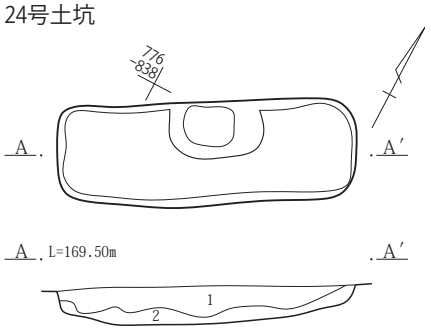
21号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-A細粒・ローム小塊を少量、赤色粒を微量含む。砂質。

22号土坑



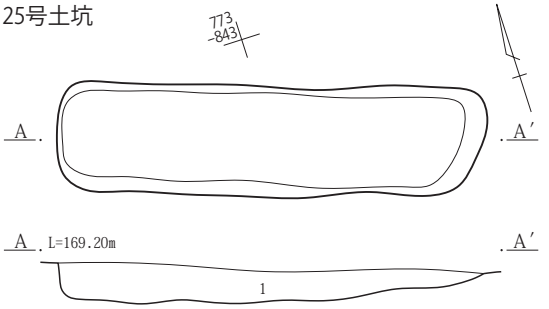
22号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・ローム細粒をやや多量含む。砂質。
2　黒褐色土10YR3/1)　As-A細粒・黄色粒を少量含む。砂質。

24号土坑



24号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-A粒・ローム細粒をやや多量含む。砂質。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-A粒を少量、ローム細粒を微量含む。砂質。

25号土坑

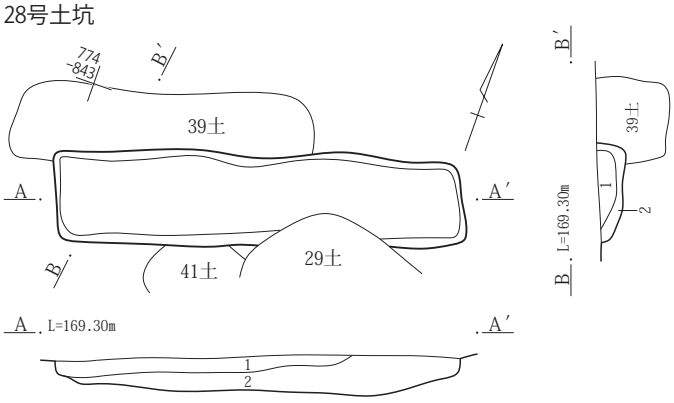


25号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色粒・黄色細粒・ローム粗塊をやや多量含む。砂質。

0　1：40　1m

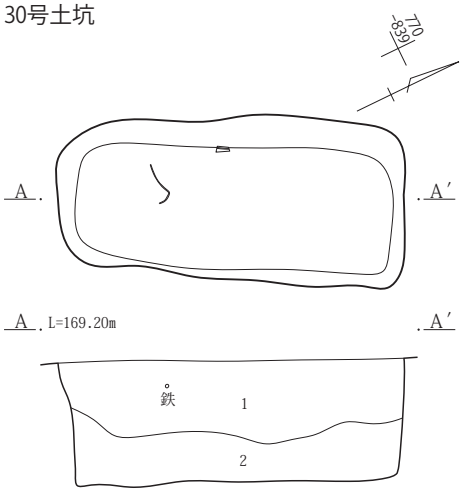
第47図　１面　F区15・17～19・21・22・24・25号土坑

28号土坑



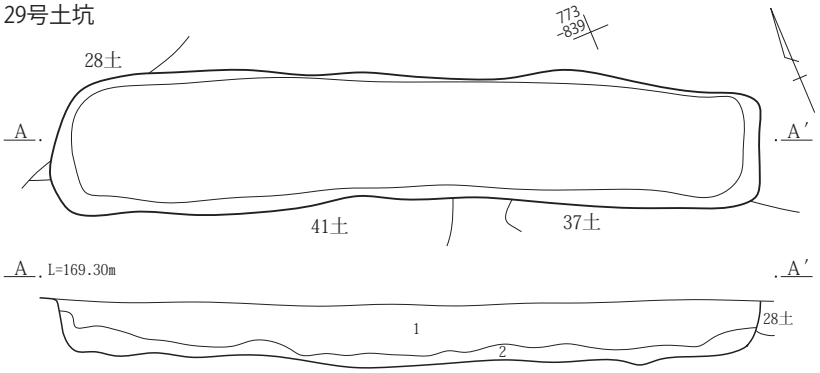
28号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色細粒・黄色細粒をやや多量、ローム塊を少量含む。砂質。
2　黒褐色土(10YR3/1)　白色細粒・黄色細粒をやや多量、ローム粗塊を少量含む。砂質。

30号土坑



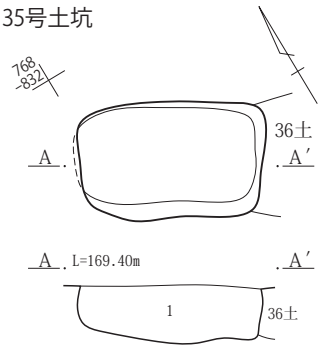
30号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-A粗粒・ローム細粒をやや多量含む。砂質。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-A粗粒・炭化物粒を少量、ローム細粒を微量含む。砂質。

29号土坑



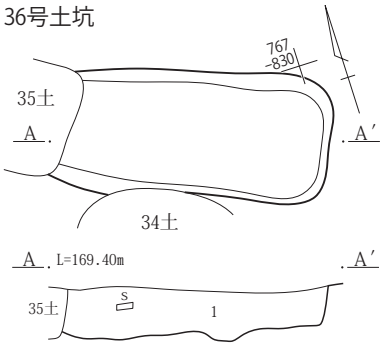
29号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-A粗粒・ローム細粒をやや多量、白色粒を少量含む。砂質。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-A粗粒・白色粒・炭化物粒を少量、ローム細粒を微量含む。砂質。

35号土坑



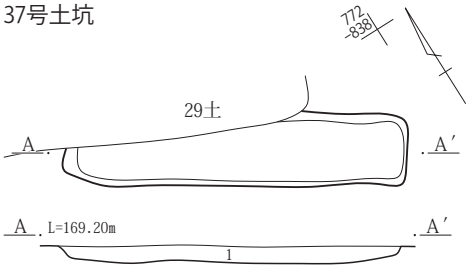
35号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-A粗粒・黄色粒をやや多量、白色細粒・ローム塊を少量含む。砂質。

36号土坑



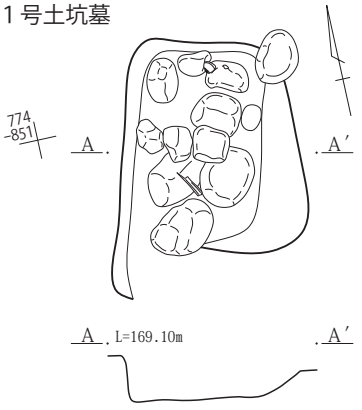
36号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-A粗粒を少量、白色粒・黄色粒・ローム塊をやや多量含む。砂質。

37号土坑

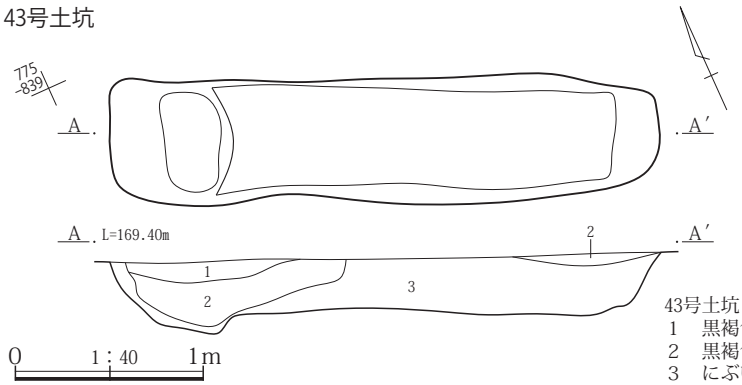


37号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　白色粒・黄色粒・ローム塊をやや多量、As-A粗粒を少量含む。砂質。しまりあり。

1号土坑墓



43号土坑

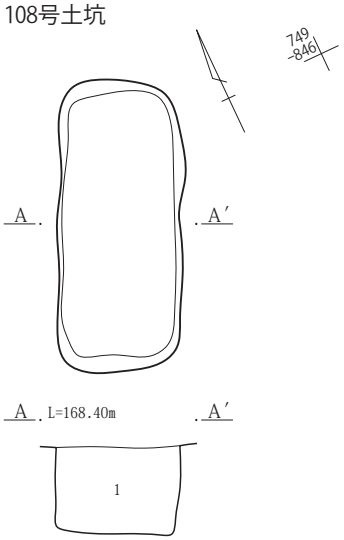


43号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-A粒をやや多量、ローム小塊を少量含む。砂質。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-A粒・黄色粒をやや多量含む。砂質。粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム塊を多量、黄色粒を少量含む。砂質。

第48図　1面　F区28～30・35～37・43号土坑、1号土坑墓

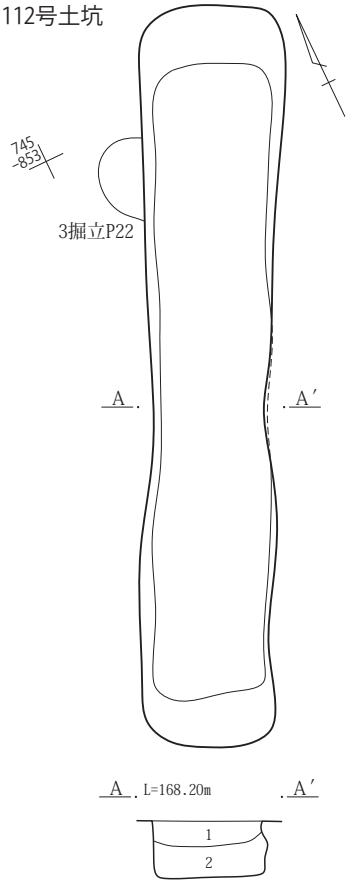
Ｇ１区１・２面

108号土坑



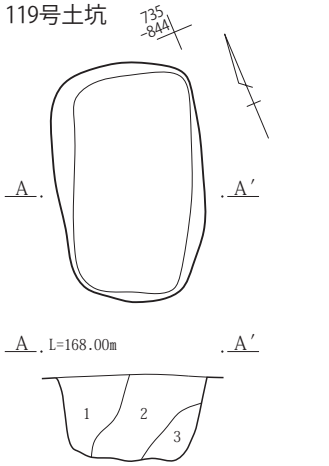
108号土坑
1　As-Ｃ混、ローム小塊、黒色塊混土。

112号土坑



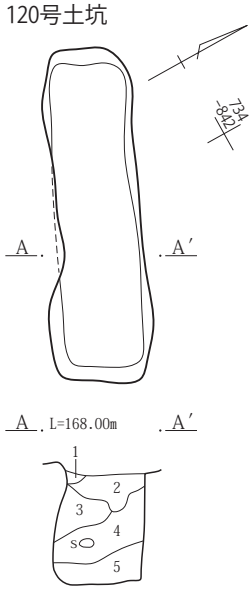
112号土坑
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-A混。ローム塊まじり。
2　褐灰色土(10YR4/3)　As-Ｂ混主体。

119号土坑



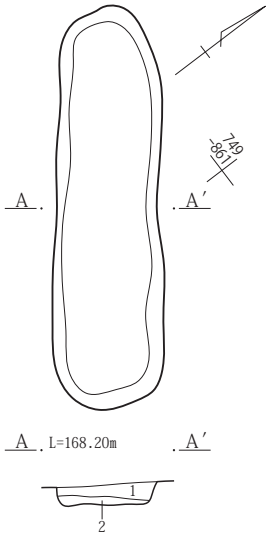
119号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　30～50㎜程のローム塊多く、ローム塊・ローム粒含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒わずか含む。

120号土坑



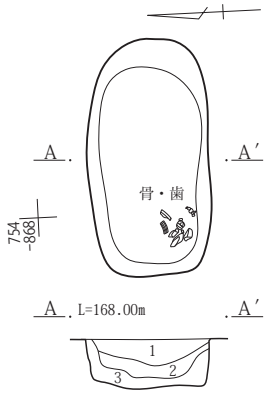
120号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　5㎝程のローム塊含む。ローム粒わずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒多く、ローム粒わずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒多く、As-Ｃ粒塊５㎝程の塊状で含む。ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒・ローム粒わずか、６㎝程のローム塊含む。しまりなくもろい部分あり。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒ごくわずか含む。しまりなくもろい部分あり。

135号土坑



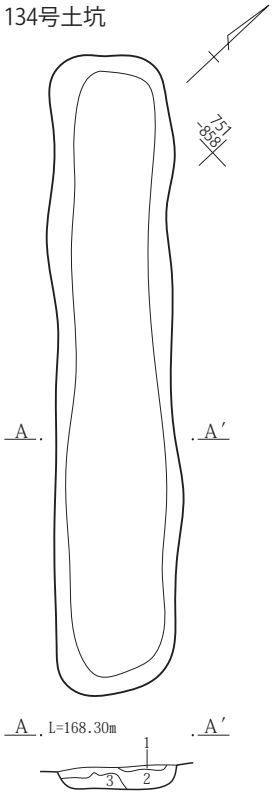
135号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒非常に多く含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒ごくわずか含む。

136号土坑



136号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　１～３㎜程の礫わずか、ローム粒ごくわずか含む。動物の骨片・歯出土。
2　黒褐色土(10YR2/3)　粒の細かい土多く、ローム塊ごくわずか含む。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　１～２㎜程の礫・ローム塊・ローム粒ごくわずか含む。一部ややしまりなし。

134号土坑

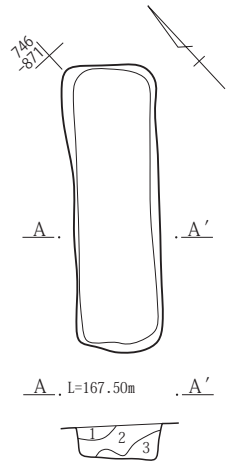


134号土坑
1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土多く、ローム塊・ローム粒わずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　１～２㎜程の礫多く、ローム粒・As-Ｃ粒わずか含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・As-Ｃ粒わずか含む。

0　1：40　1m

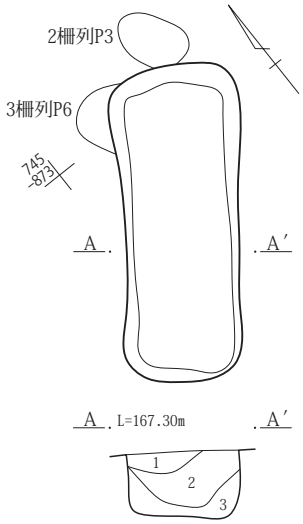
第49図　１・２面　Ｇ１区108・112・119・120・134～136号土坑

137号土坑



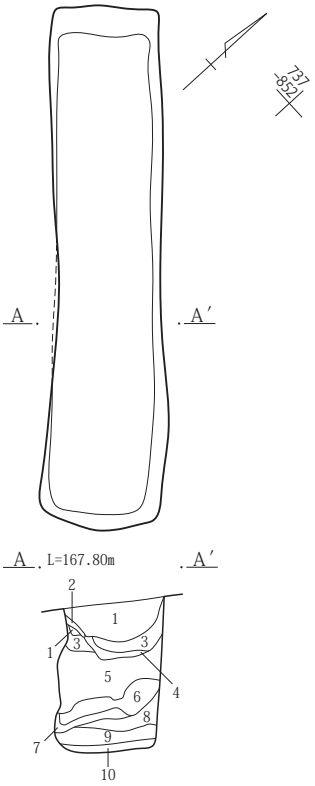
137号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒ごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。ローム粒・As-C粒ごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒ごくわずか含む。

138号土坑



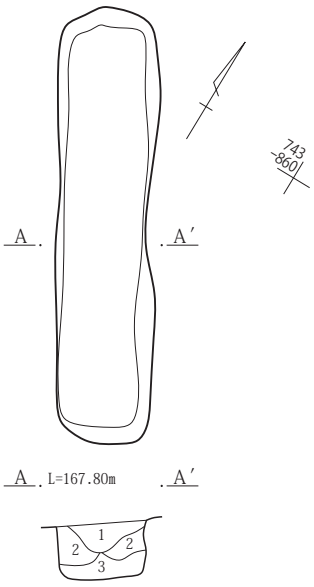
138号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土わずか、ローム塊・ローム粒含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒多く、1～3㎝程のローム塊含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒ごくわずか含む。ややしまりなし。

139号土坑



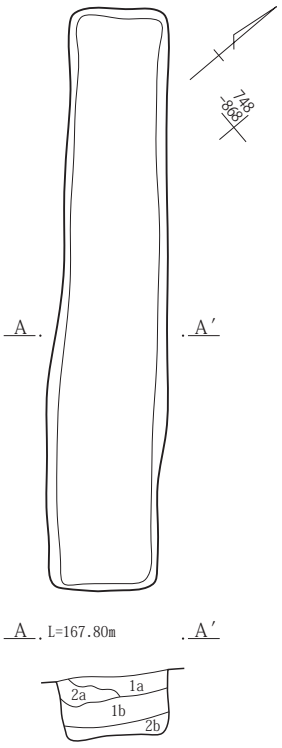
139号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒多く、褐色土(10YR4/6)・明黄褐色土(10YR6/8)塊状で含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ややしまりなし。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム塊・ローム粒・As-C粒非常に多く含む。もろく崩れやすい。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒多く含む。しまり弱い。
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム塊・ローム粒・As-C粒非常に多く、褐色(10YR4/6)　ローム土塊状で含む。しまり弱い。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒・As-C粒多く含む。しまり弱い。
7　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒・As-C粒わずか含む。しまり弱い。
8　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・As-C粒含む。
9　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・As-C粒多く、明黄褐色(10YR6/8)　ローム土塊状で含む。もろく崩れやすい。
10　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒・As-C粒わずか含む。しまり弱い。粘性あり。

146号土坑



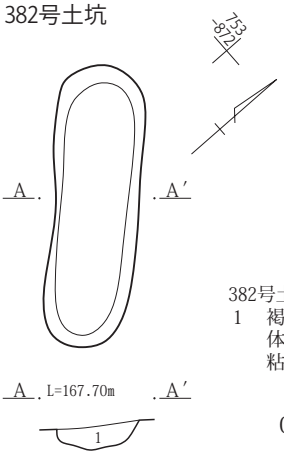
146号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊わずか、ローム粒ごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊多く、ローム土・ローム粒含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒ごくわずか含む。ややしまりない。

148号土坑



148号土坑
1a　くすんだロームにローム塊多く混じる。
1b　1a層にローム塊・As-C混・As-B混混じり。
2a　黒褐色土(10YR3/2)　As-B混。ローム小塊混じる。しまり弱い。
2b　As-B混主体。わずかにローム粒含む。

382号土坑



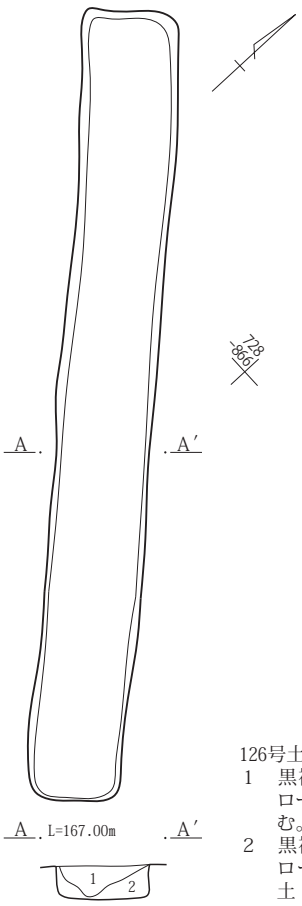
382号土坑
1　褐灰色土(10YR4/1)　As-B主体、As-Cを含む。しまり・粘性あり。17号溝の一部か

0　1：40　1m

第50図　1・2面　G1区137～139・146・148・382号土坑

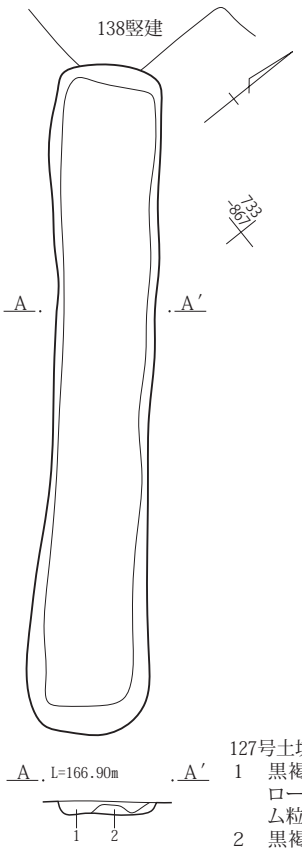
Ｇ２区１・２面

126号土坑



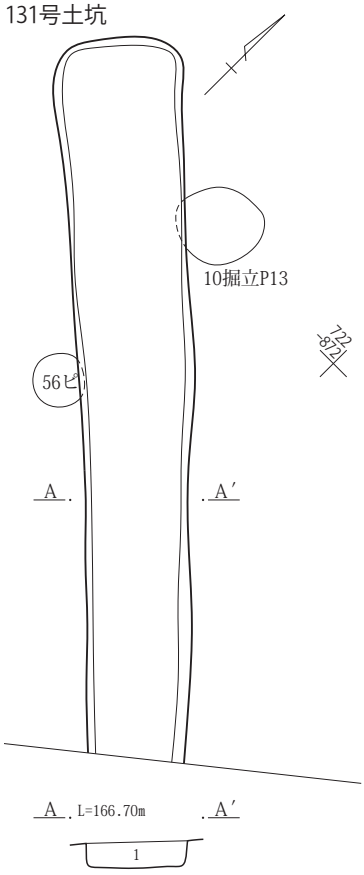
126号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・塊・粒含む。小礫わずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・粒多く、土・大塊含む。

127号土坑



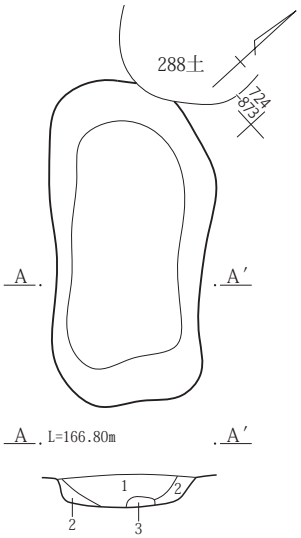
127号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊含む。ローム粒わずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒わずか含む。

131号土坑



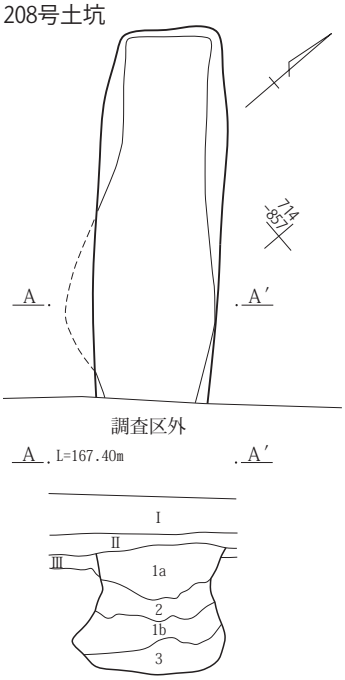
131号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　砂礫含む。ややしまりなし。

132号土坑



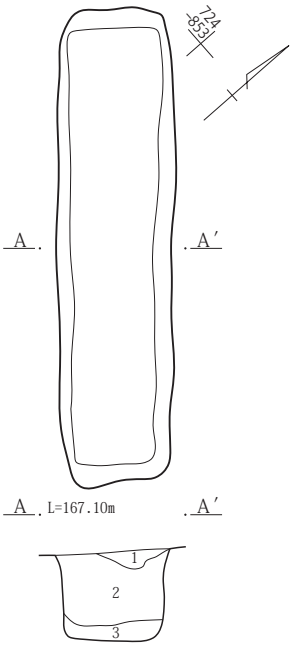
132号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土わずか、ローム粒ごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。ローム塊･粒ごくわずか含む。ややしまりなし。
3　暗褐色土(10YR3/4)

208号土坑



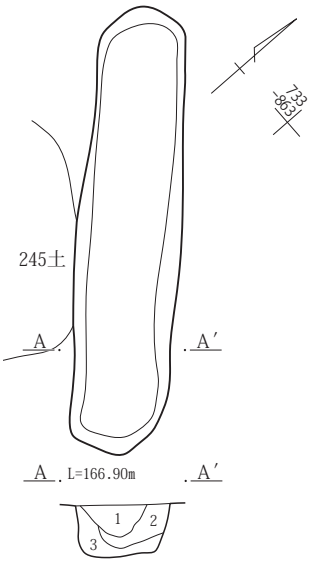
208号土坑
1a　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-A・As-B・As-C混土にローム小塊含む。しまり弱い。
1b　1a層に黒色土小塊含む。
2　1a層にローム塊多量に混じる。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム塊含む。しまり・やや粘性あり。

271号土坑



271号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒含む。炭化粒ごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒多く、ローム塊わずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土わずか含む。

272号土坑



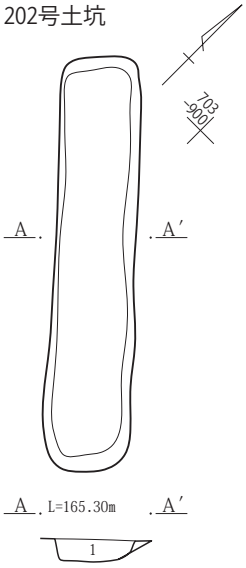
272号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒非常に多く、ローム粒多く、ローム塊ごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・粒多く含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・粒多く、ローム土わずか、As-C粒ごくわずか含む。

0　1：40　1m

第51図　１・２面　Ｇ２区126・127・131・132・208・271・272号土坑

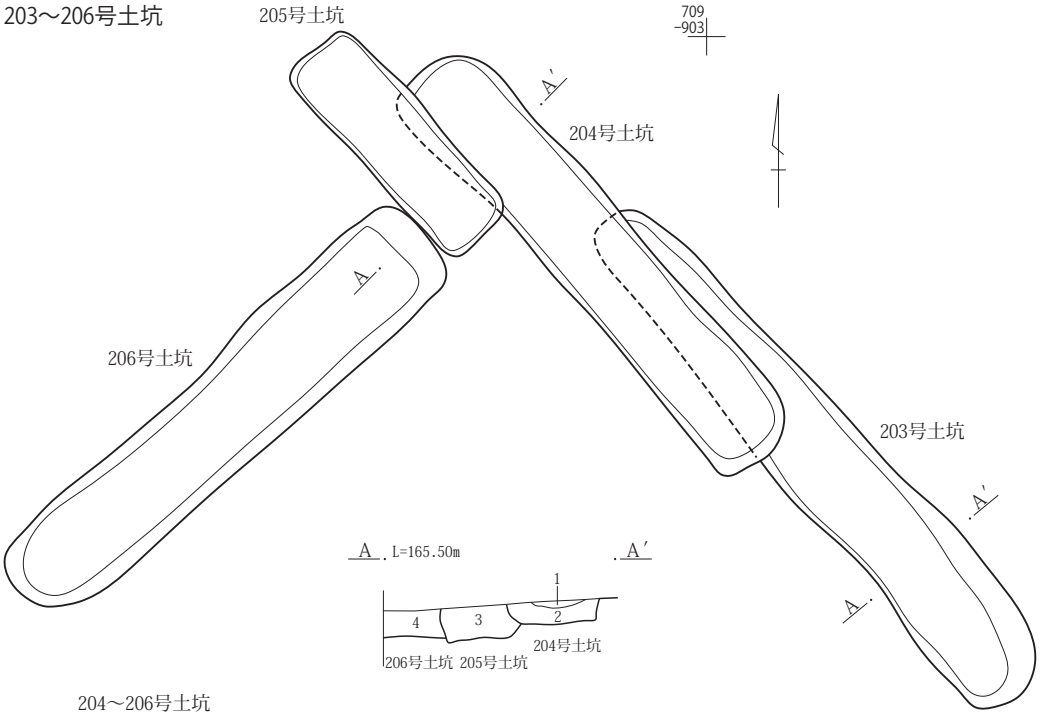
Ｇ３区１・２面

202号土坑

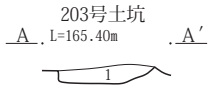


202号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-Ｂ混土、しまりあり、粘性なし。

203～206号土坑

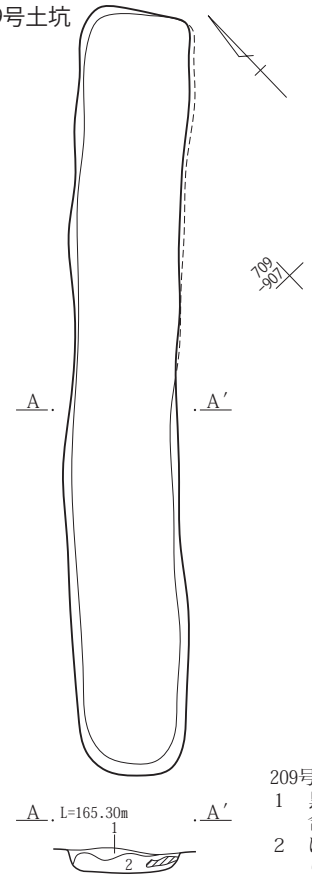


204～206号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-Ｂ混土、しまりややあり、粘性なし。
2　褐灰色土(10YR4/1)　As-Ｂ主体、しまりあり、粘性なし。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-Ｂ多量、にぶい黄褐色土・小礫を含む。しまり・粘性弱。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　３層に類似、As-Ｂ少量、ローム小～大塊を含む。しまりあり、粘性ややあり。



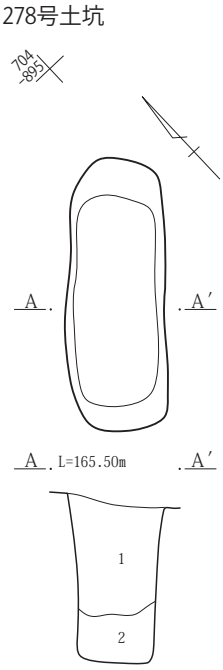
203号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-Ｂ混土、小礫を含む。しまりややあり、粘性なし。

209号土坑



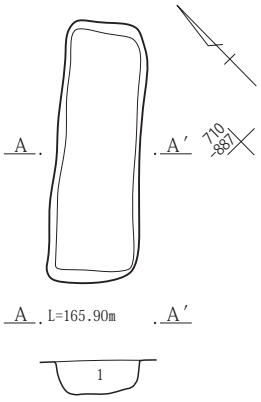
209号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ少量、黄橙色粒若干含む。しまりあまりなし。
2　にぶい黄褐色土(10YR3/4)　砂質土。しまりあまりなし。

278号土坑



278号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・粒多量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒・As-YP少量含む。しまりややあり、粘性あり。

207号土坑



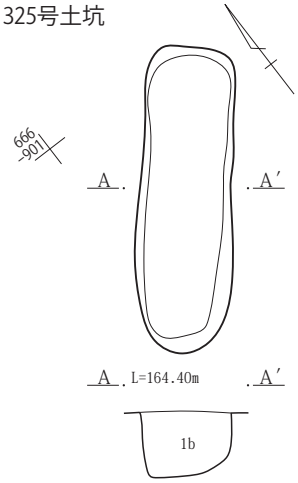
207号土坑
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-Ｂ多量、にぶい黄橙色粒約５㎝を含む。しまり強、粘性なし。

0　1：40　1m

第52図　１・２面　Ｇ３区202～207・209・278号土坑

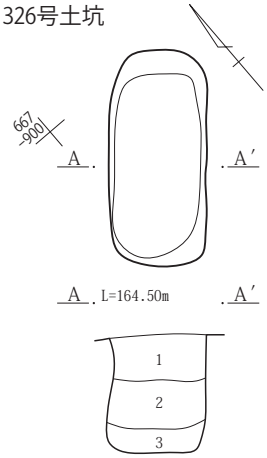
Ｇ４区１・２面

325号土坑



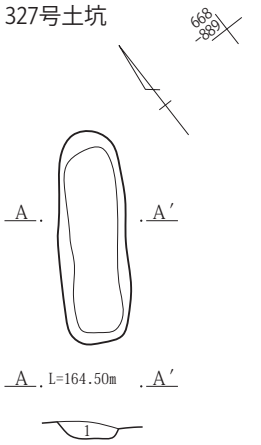
325号土坑
1b　As-Ｂ混土にローム小塊混じり。砂壌土。

326号土坑



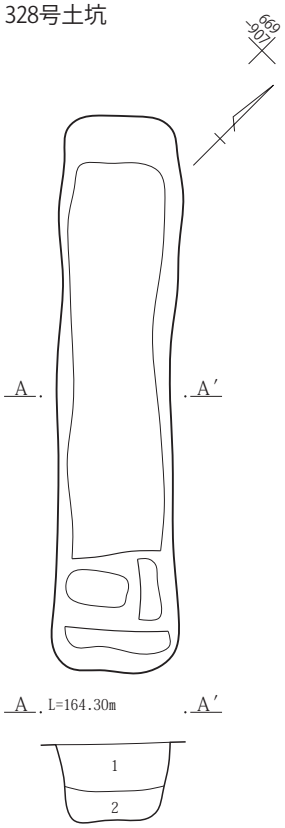
326号土坑
1　As-Ｂ混土にローム小塊混じり。砂壌土。
2　1b層よりやや大きいローム塊混じる。
3　暗褐色土塊。As-Ｂ混土。ローム塊混土。

327号土坑



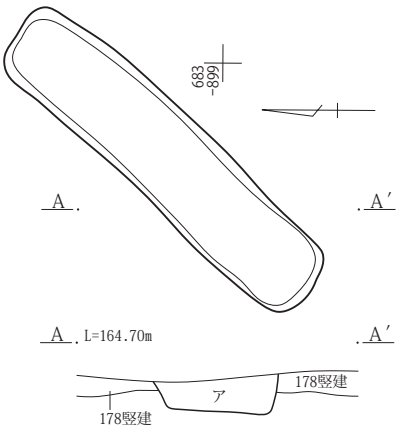
327号土坑
1　As-Ｂ混土にわずかにローム小塊含む砂壌土。

328号土坑



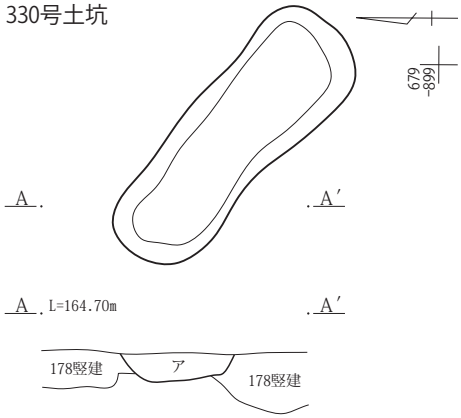
328号土坑
1　２層よりやや大きいローム塊混じる。
2　As-Ｂ混土にローム小塊混じり。砂壌土。

329号土坑



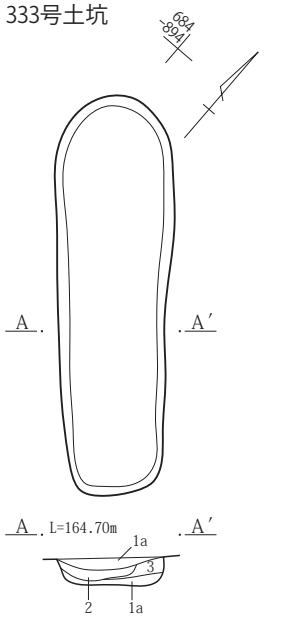
329号土坑
ア　As-Ｂ混土にローム小塊褐色土小塊混じり砂壌土。

330号土坑



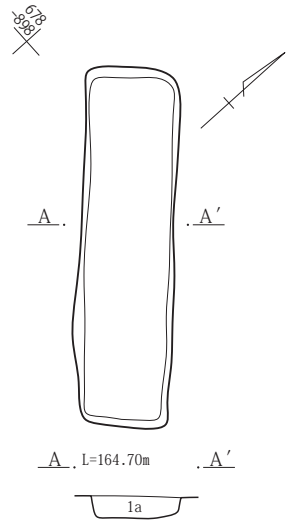
330号土坑
ア　As-Ｂ混土にローム小塊褐色土小塊混じり砂壌土。

333号土坑



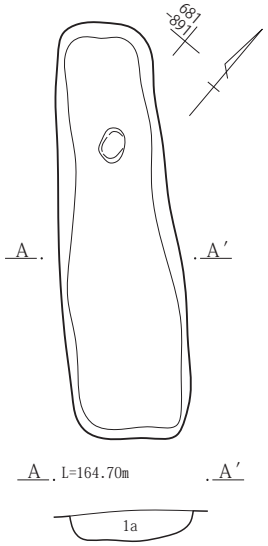
333号土坑
1a　As-Ｂ混土にわずかにローム小塊含む砂壌土。
2　ローム塊。漸移層土の混土。
3　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ混土。

331号土坑

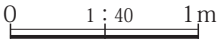


331号土坑
1a　As-Ｂ混土にわずかにローム小塊含む砂壌土。

332号土坑

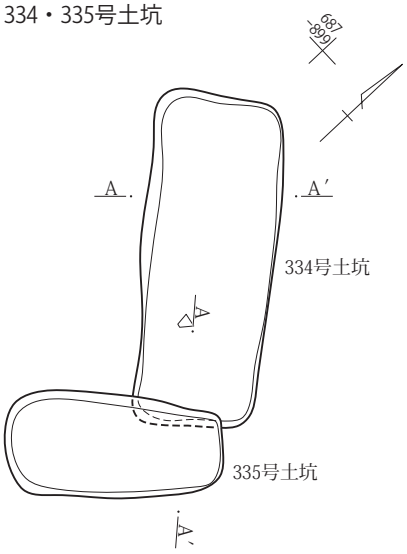


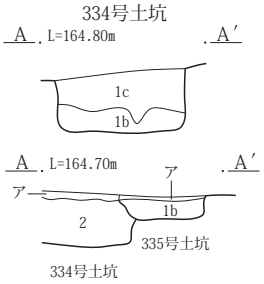
332号土坑
1a　As-Ｂ混土にわずかにローム小塊含む砂壌土。



第53図　１・２面　Ｇ４区325～333号土坑

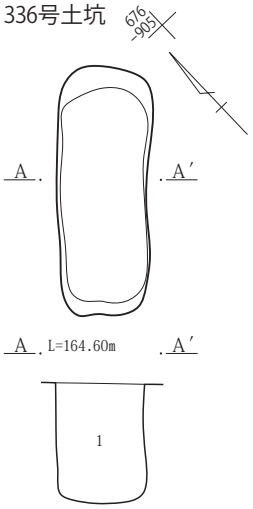
334・335号土坑





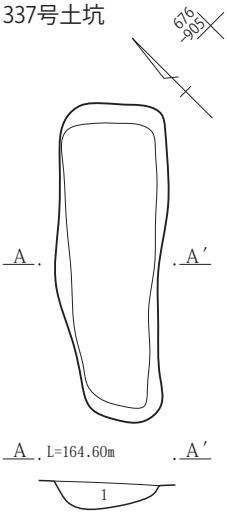
334・335号土坑
1c　1b層よりやや大きいローム塊混じる。
1b　As-B混土にローム小塊混じり。砂壌土。
ア　鉄分凝縮。(水田床上)
2　暗褐色土塊。As-B混土。ローム塊混土。

336号土坑



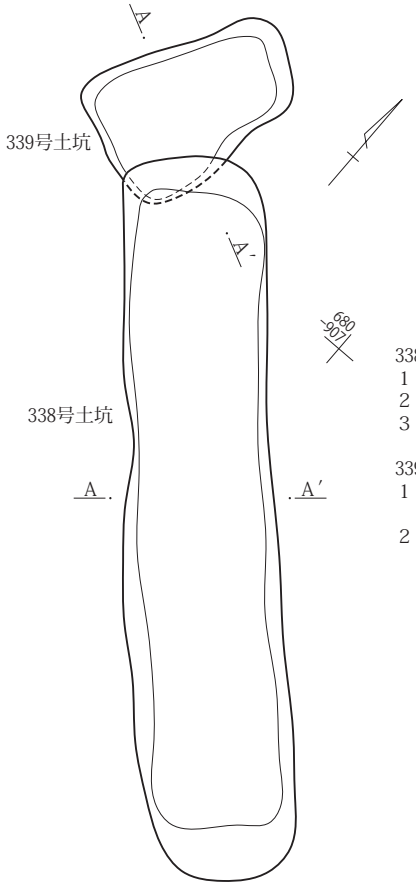
336号土坑
1　やや大きいローム塊混じる。

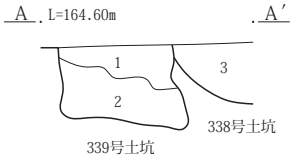
337号土坑



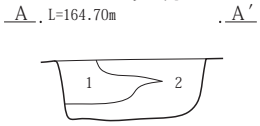
337号土坑
1　As-B混土にわずかにローム小塊含む砂壌土。

338・339号土坑





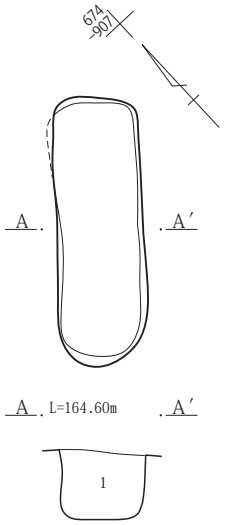
338号土坑



338号土坑
1　暗褐色土塊。As-B混土。ローム塊混土。
2　As-B混土にローム小塊混じり。砂壌土。
3　2層よりやや大きいローム塊混じる。

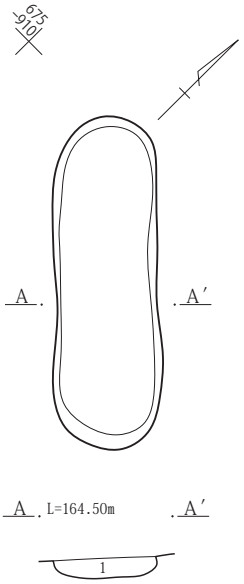
339号土坑
1　As-B混土にわずかにローム小塊含む。砂壌土。
2　As-B混土。ローム塊・As-YP混土。互層に入る。

340号土坑



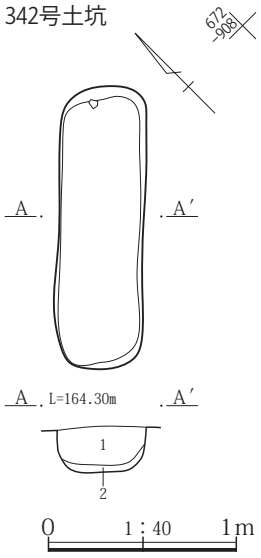
340号土坑
1　As-B混土にローム小塊混じり。砂壌土。

341号土坑



341号土坑
1　As-B混土にわずかにローム小塊含む砂壌土。

342号土坑

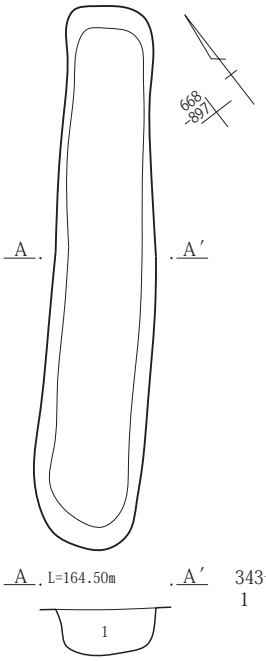


342号土坑
1　暗褐色土塊。As-B混土。ローム塊混土。
2　灰白色のシルト状の薄層あり。灰か。

0　1:40　1m

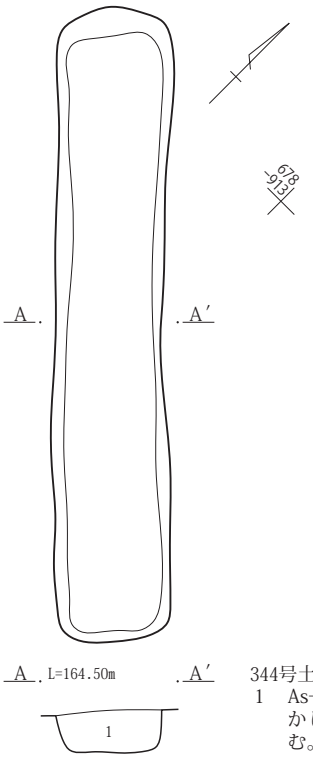
第54図　1・2面　G 4区334～342号土坑

343号土坑



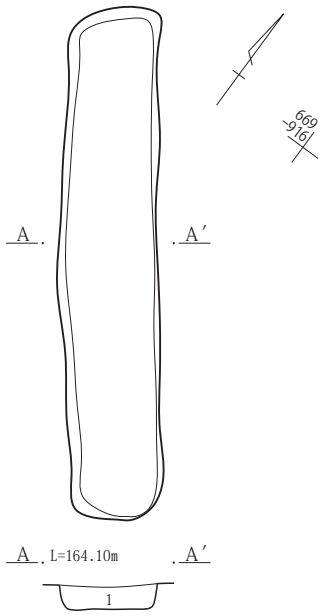
343号土坑
1　As-B混土にわずかにローム塊含む。砂壌土。

344号土坑



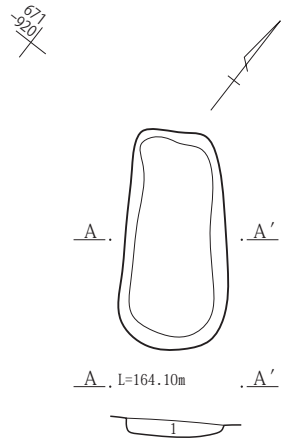
344号土坑
1　As-B混土にわずかにローム塊含む。砂壌土。

345号土坑



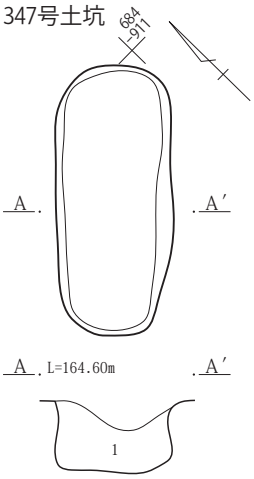
345号土坑
1　As-B混土に褐色土塊混じる。

346号土坑



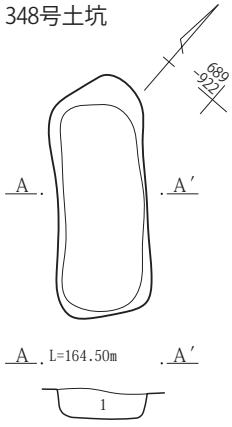
346号土坑
1　As-B混土に褐色土塊混じる。

347号土坑



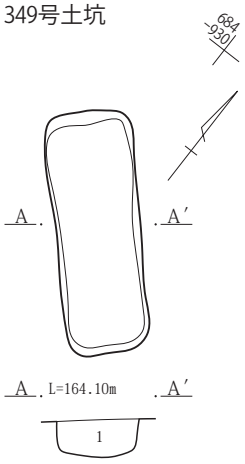
347号土坑
1　As-B混土にわずかにローム塊含む。砂壌土。

348号土坑



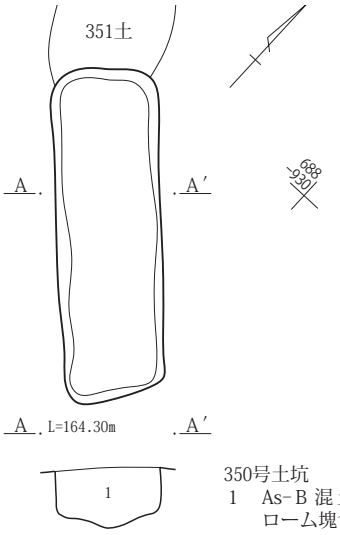
348号土坑
1　As-B混土にわずかにローム塊含む。砂壌土。

349号土坑



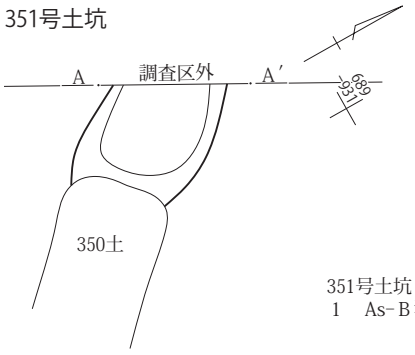
349号土坑
1　As-B混土にわずかにローム塊含む。砂壌土。

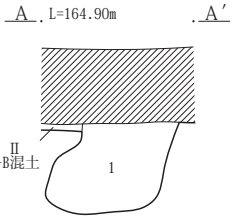
350号土坑



350号土坑
1　As-B混土にわずかにローム塊含む。砂壌土。

351号土坑



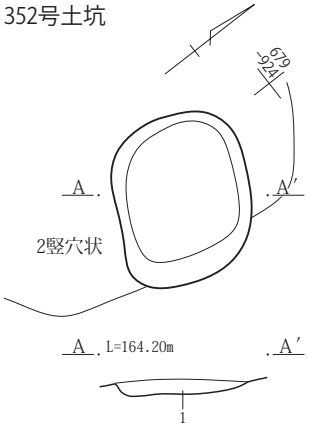


351号土坑
1　As-B混土にわずかにローム塊含む。砂壌土。

0　1：40　1m

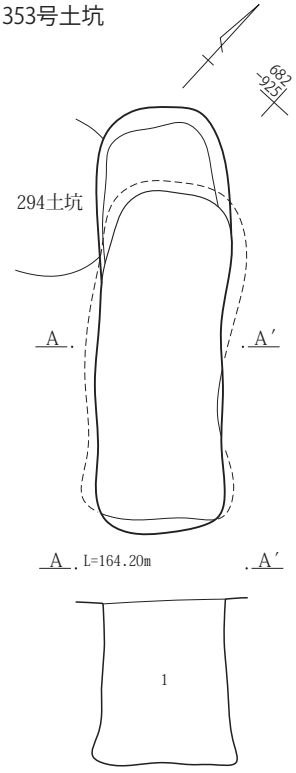
第55図　１・２面　Ｇ４区343～351号土坑

352号土坑



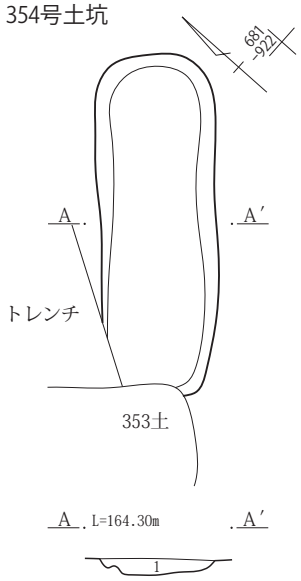
352号土坑
1　As-B混土に褐色土塊混じる。

353号土坑



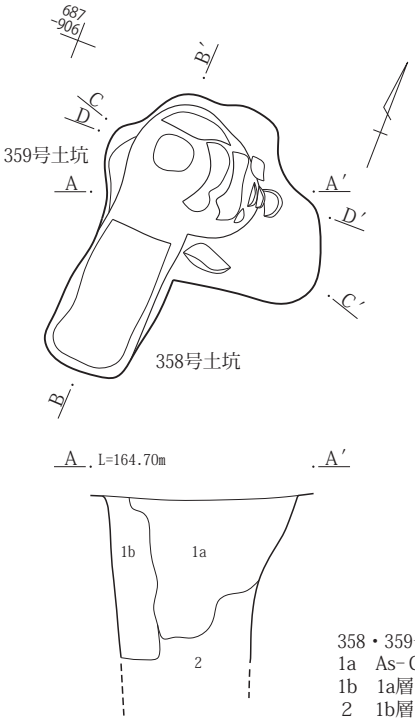
353号土坑
1　暗褐色土塊、ローム塊・硬質塊が入り乱れて入る。一括埋土。

354号土坑



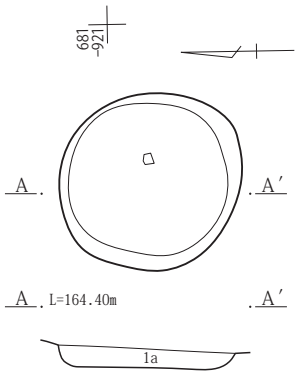
354号土坑
1　As-B混土に褐色土塊混じる。

358・359号土坑



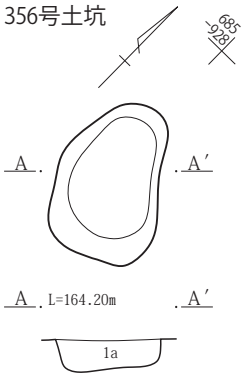
358・359号土坑
1a　As-C混土の暗褐色塊と、ローム中・小塊、褐色土塊が入り乱れ投入。
1b　1a層に褐色土の大塊入る。一括埋土。
2　1b層よりローム塊少なく、暗褐色土・褐色土塊・多く混じる。

355号土坑

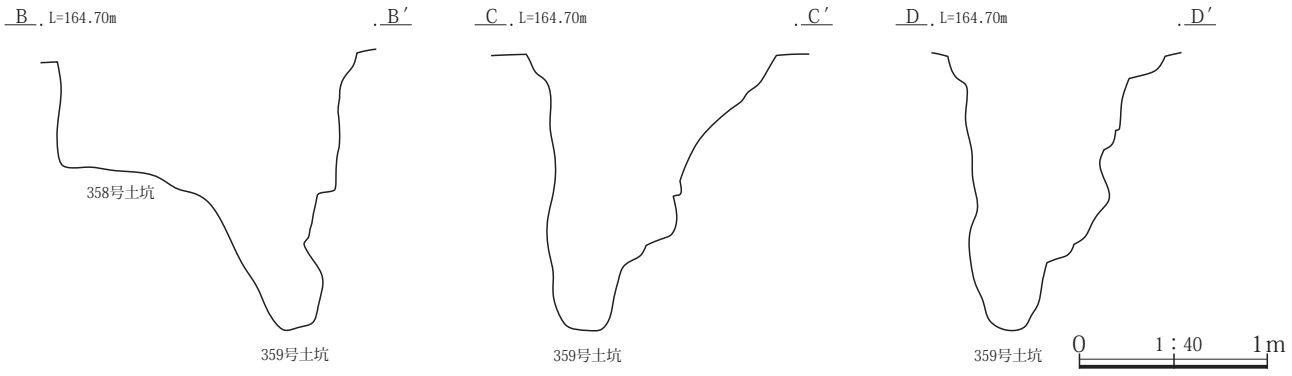


355号土坑
1a　As-B混土にわずかにローム塊含む。砂壌土。

356号土坑

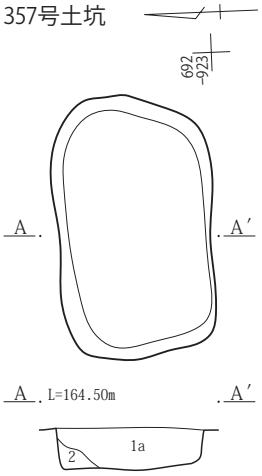


356号土坑
1a　As-B混土にわずかにローム塊含む。砂壌土。



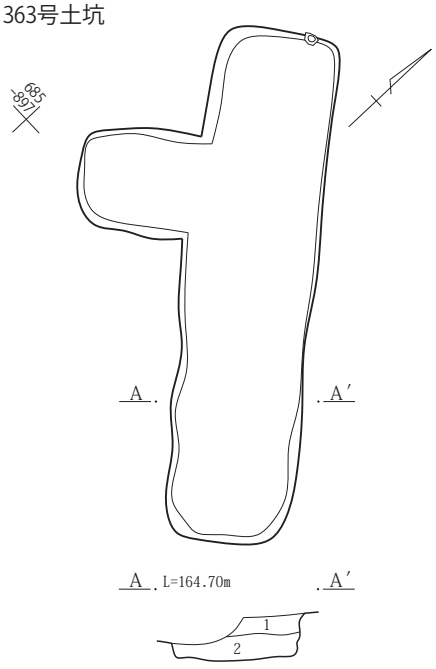
第56図　1・2面　G 4区352～356・358・359号土坑

357号土坑



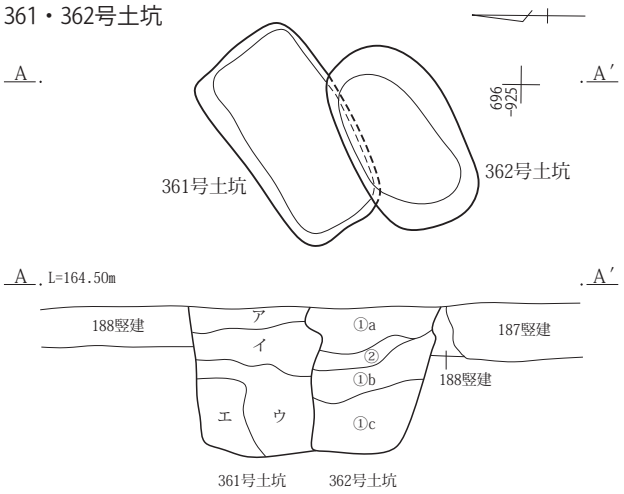
357号土坑
1a　As-Ｂ混土にわずかにローム塊含む。砂壌土。
２　暗褐色土(10YR3/3)　わずかにAs-Ｂ含む。

363号土坑



363号土坑
１　As-Ｂ混土にローム小塊混じり。砂壌土。
２　１層よりやや大きいローム塊混じる。

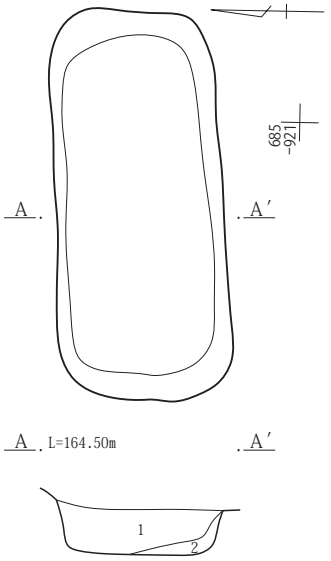
361・362号土坑



361号土坑
ア　黒色土塊。As-Ｂ混塊混土。
イ　硬質塊多量に含む。黒色土塊・As-Ｂ混塊混じり。
ウ　As-Ｂ混土主体。硬質ローム中・小塊混じり。砂壌土
エ　As-Ｂ混土主体。硬質ローム塊少量、As-YP粒塊含む。砂壌土

362号土坑
①a　As-Ｂ混土の灰黄褐色土にAs-Ｃ混土の暗褐色土塊混じり。
①b　①ａ層の暗褐色土塊含まない。
①c　①ｂ層にローム小塊入る。
②　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ混土塊主体、As-Ｂ混土含む。

369号土坑



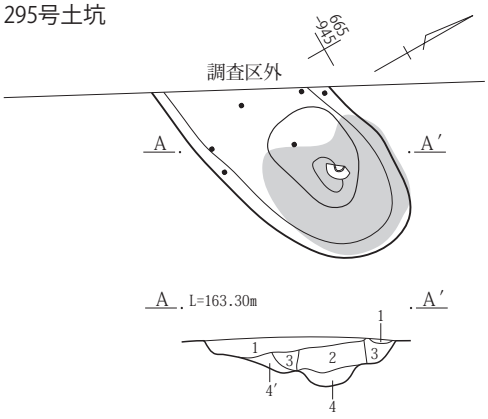
369号土坑
１　黒褐色土(10YR3/2)　φ1～5㎝程のにぶい黄褐色塊土多量、As-Ｃ少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
２　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色粒・As-Ｃ若干含む。しまりややあり。

0　1：40　1m

第57図　１・２面　Ｇ４区357・361～363・369号土坑

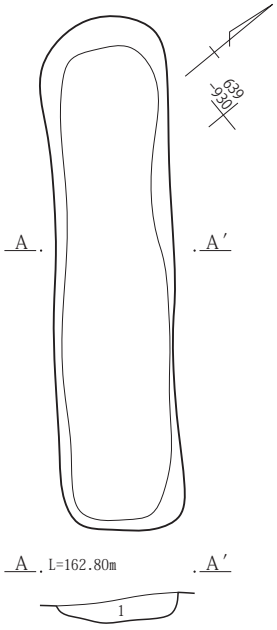
Ｇ５区１・２面

295号土坑



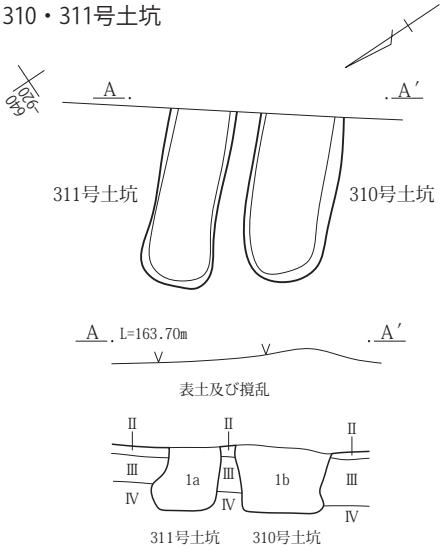
295号土坑
1　黒色土(10YR2/1)　As-Ｃ軽石・炭化物・ローム塊・焼土粒少し含む。As-YPわずか、橙色粒子ごくわずか含む。しまりあまりなし。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　径30～50㎜程の明赤褐色(2.5YR5/6)　焼土粒・塊目立つ(両脇に大きな塊)。As-Ｃ・炭化物少し含む。ローム・灰白色灰混入。しまりあまりなし。
3　黒褐色土(10YR3/2)径10㎜以上の炭化物少し。灰白色灰目立つ(やや多い)。As-Ｃわずかに入る。焼土混入。ややしまりあり。
4　黒色土(10YR2/2)　As-Ｃ・焼土・ロームの粒ごくわずか含む。しまりあり。
4′黒褐色土(10YR3/1)　混入物等は４層と同じだが焼土・粘土がやや多く含む。しまりあり。

309号土坑



309号土坑
1　As-Ｂ混土主体。砂壌土。

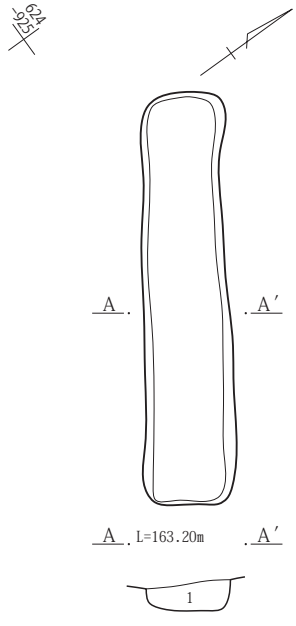
310・311号土坑



310号土坑
1b　1a層にローム塊混じる。

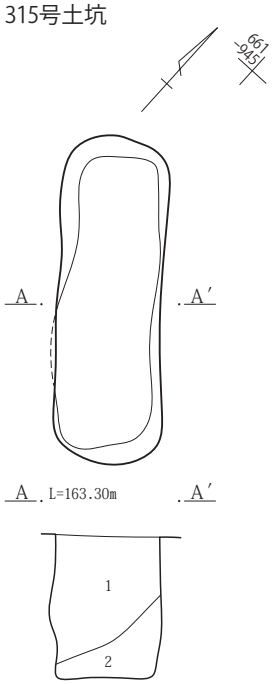
311号土坑
1a　As-Ｂ混土主体。砂壌土。

312号土坑



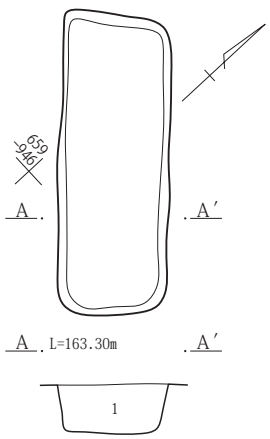
312号土坑
1　As-Ｂ混土主体。砂壌土。

315号土坑



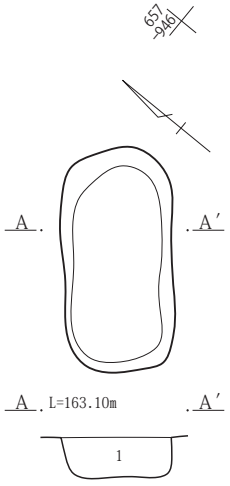
315号土坑
1　As-Ｂ混土。ローム塊混土が互層に埋め戻される。
2　As-Ｂ混土とローム塊の混土が一括埋土となる。

316号土坑



316号土坑
1　As-Ｂ混土主体。砂壌土。

317号土坑

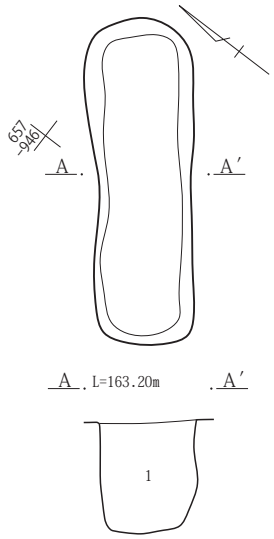


317号土坑
1　As-Ｂ混土主体。砂壌土。

0　1：40　1m

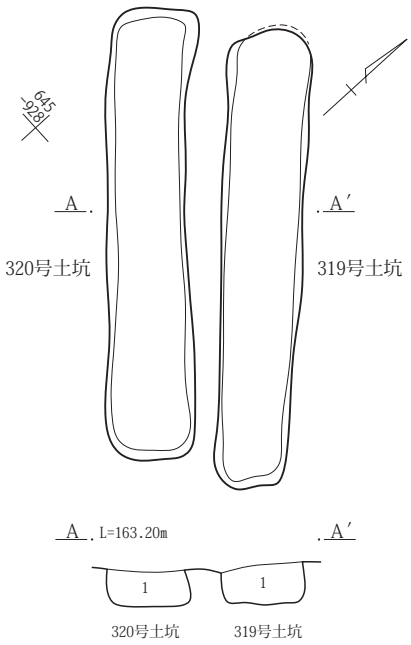
第58図　１・２面　Ｇ５区295・309～312・315～317号土坑

318号土坑



318号土坑
1　As-Ｂ混土とローム塊の混土が一括埋土となる。

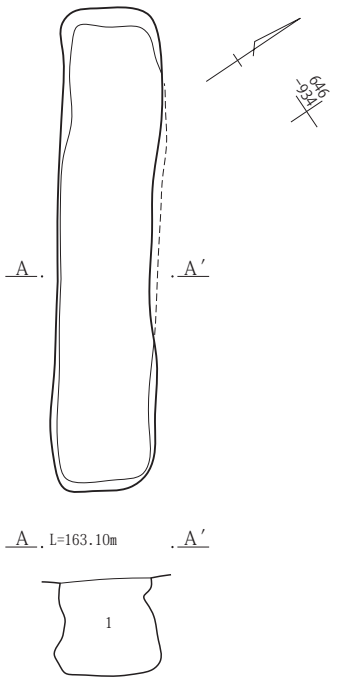
319・320号土坑



319号土坑
1　As-Ｂ混土主体。砂壌土。

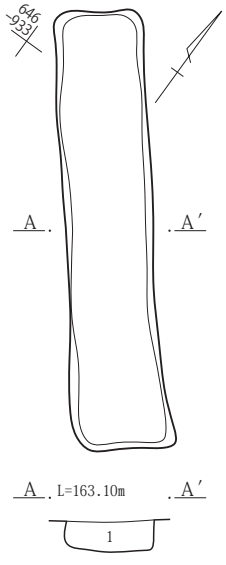
320号土坑
1　As-Ｂ混土主体。砂壌土。

321号土坑



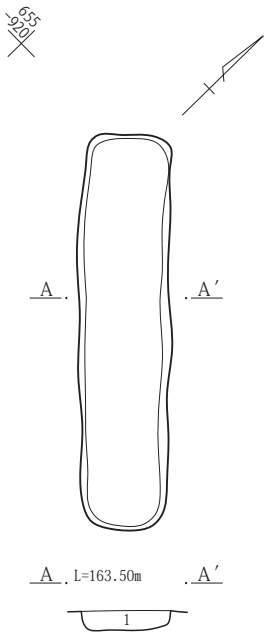
321号土坑
1　As-Ｂ混土とローム塊の混土が一括埋土となる。

322号土坑



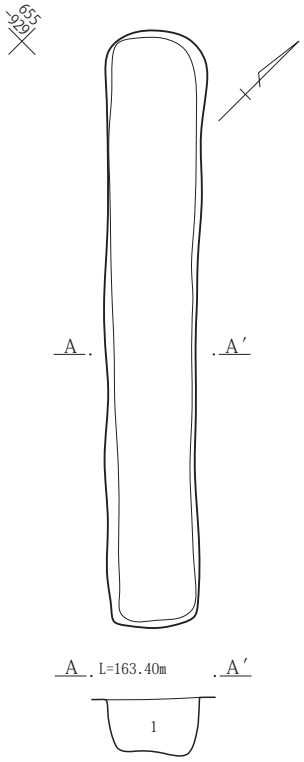
322号土坑
1　As-Ｂ混土主体。砂壌土。

323号土坑



323号土坑
1　ローム塊混じる。

324号土坑



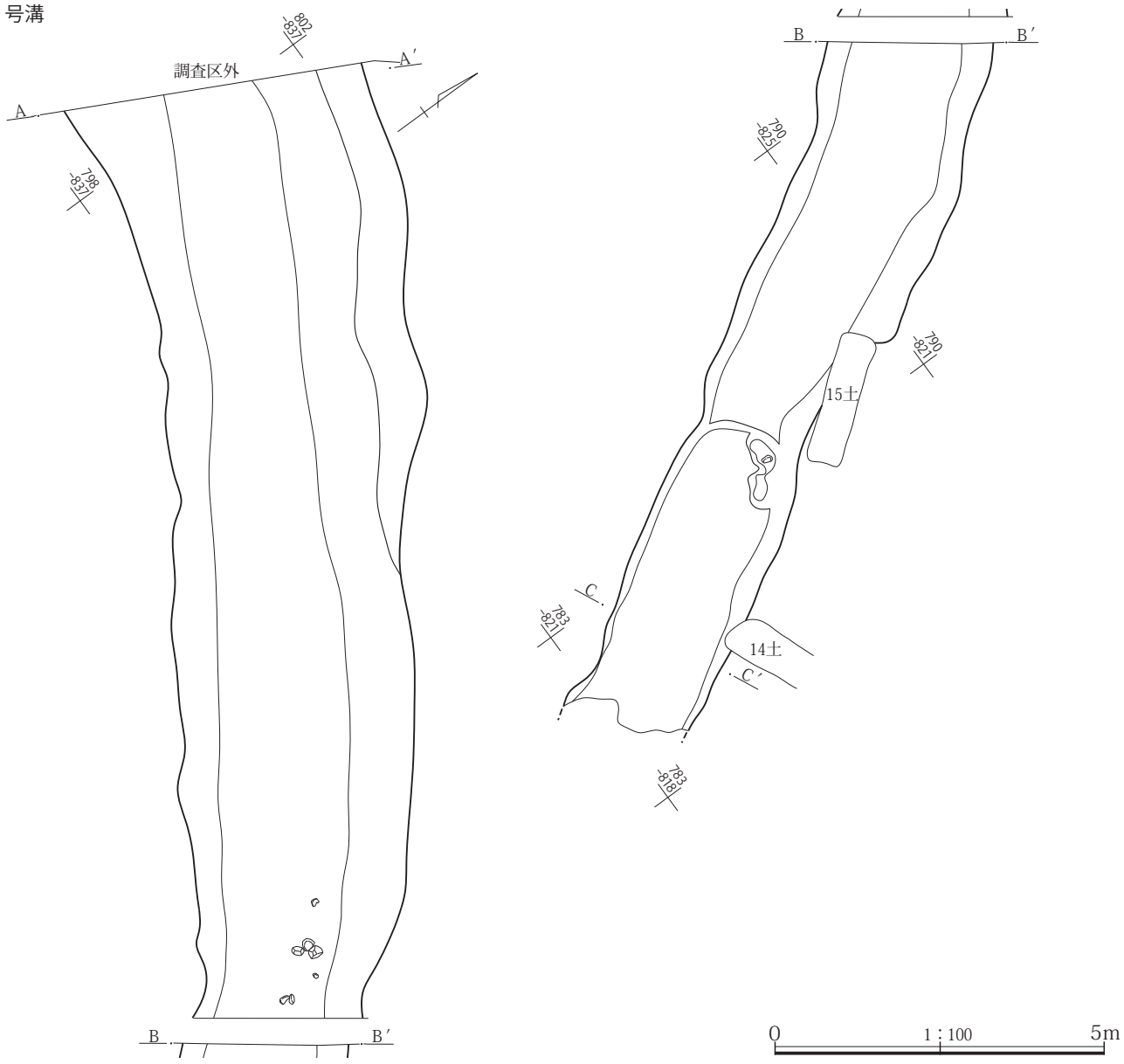
324号土坑
1　As-Ｂ混土とローム塊の混土が一括埋土となる。

0　1：40　1m

第59図　１・２面　Ｇ５区318～324号土坑

Ｆ区３面

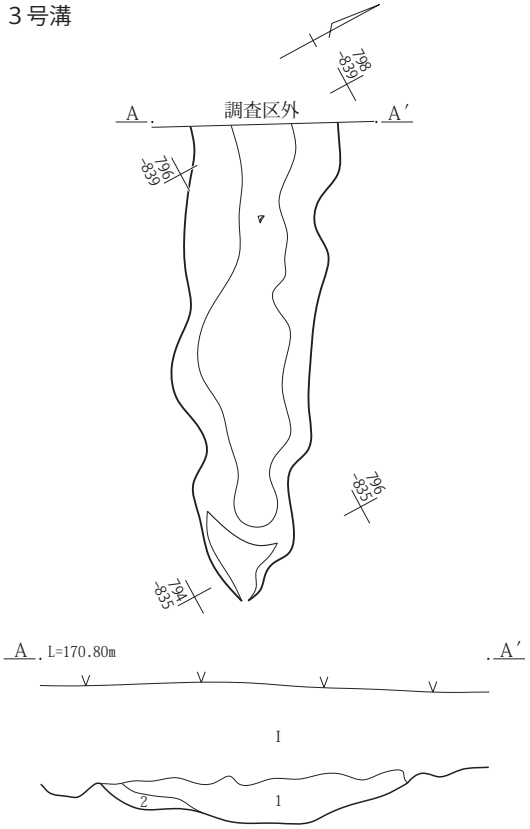
２号溝



２号溝Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒をやや多量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム微粒をやや多量、As-C粒・As-YP粒・ローム小塊・ローム粗粒～粒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒・As-YP粒を微量含む。
２号溝Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒をやや多量、As-C粗粒・ローム粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒・ローム粗粒～微粒をやや多量、As-C粗粒を微量、ローム塊を少量含む。
２号溝Ｃ－Ｃ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒をやや多量、As-C粗粒・ローム粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒・ローム粗粒～微粒をやや多量、ローム塊を少量、As-C粗粒を微量含む。

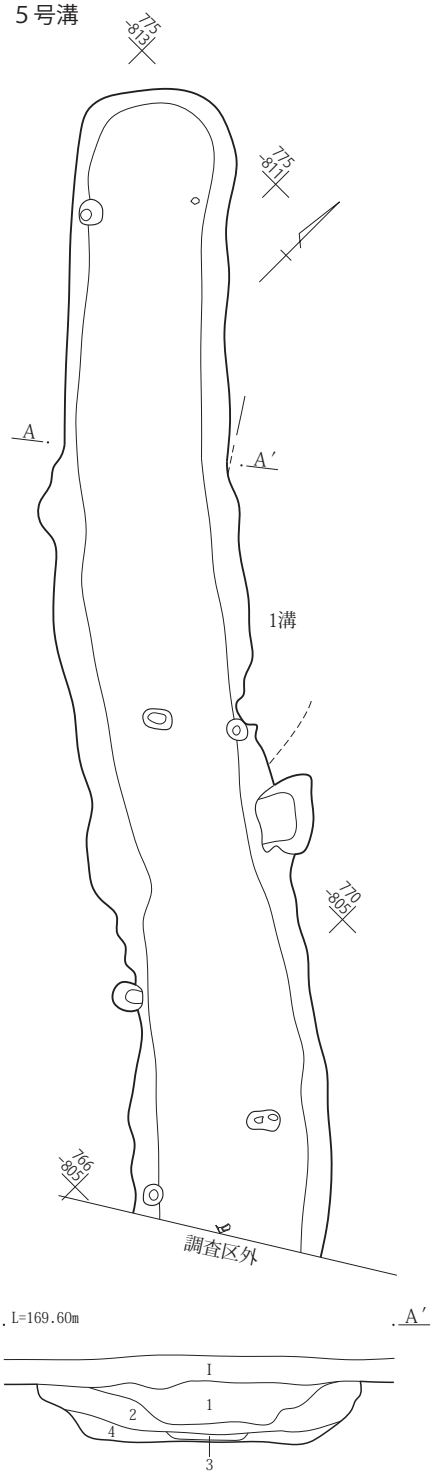
第60図　３面　Ｆ区２号溝

３号溝



３号溝
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒・ローム塊をやや多量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒を少量含む。

５号溝

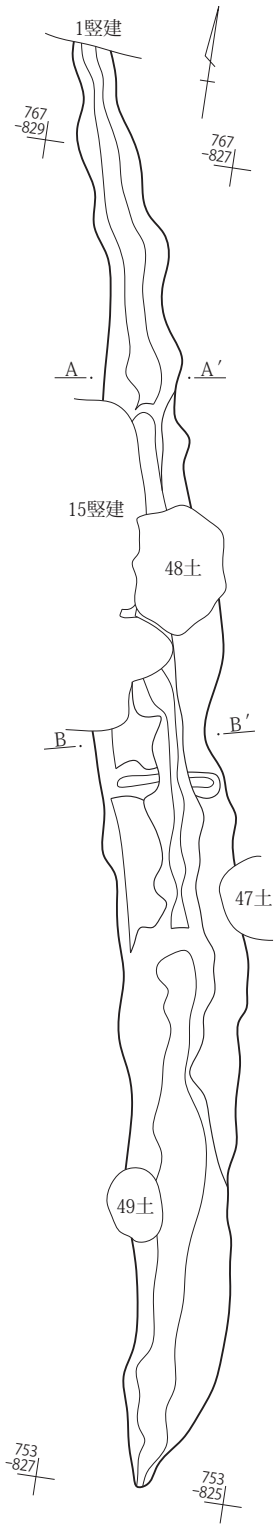


５号溝
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒・As-YP粒をやや多量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-YP粒を多量、As-C粒をやや多量、As-YP塊を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-YP粒を多量含む。
4　As-YP粒を主体とし、黒褐色土粒を少量含む。

0　1：80　2m
0　1：40　1m

第61図　３面　Ｆ区３・５号溝

４号溝



４号溝Ａ－Ａ’
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒・ローム粒をやや多量含む。

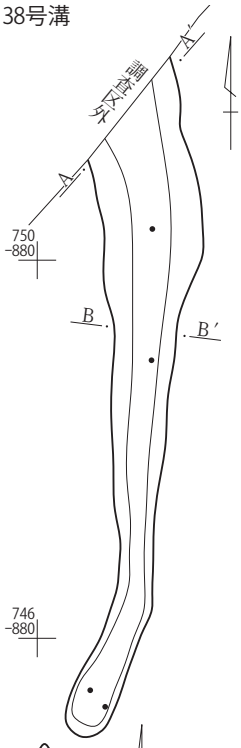
４号溝Ｂ－Ｂ’
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒・ローム粒をやや多量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒・ローム粒を少量含む。

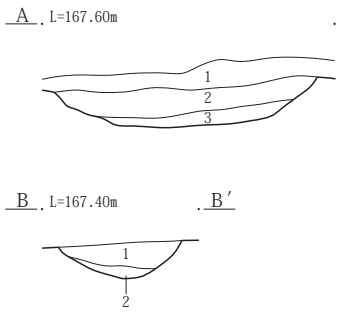
0　1：80　2m

0　1：40　1m

第62図　３面　Ｆ区４号溝

Ｇ１区３面　　38号溝

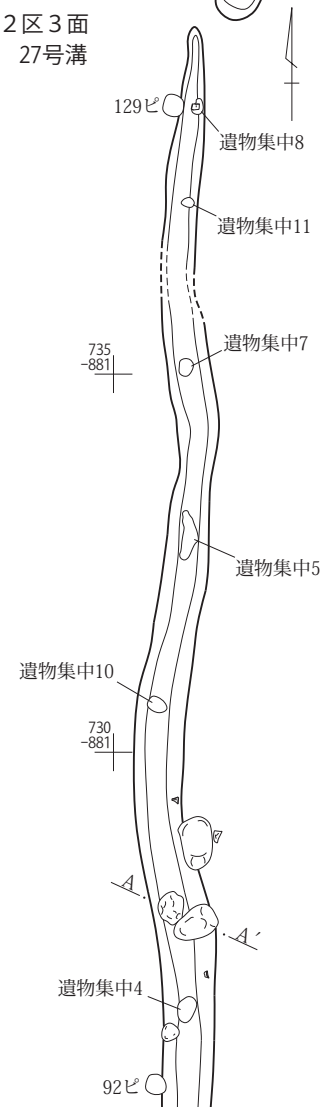


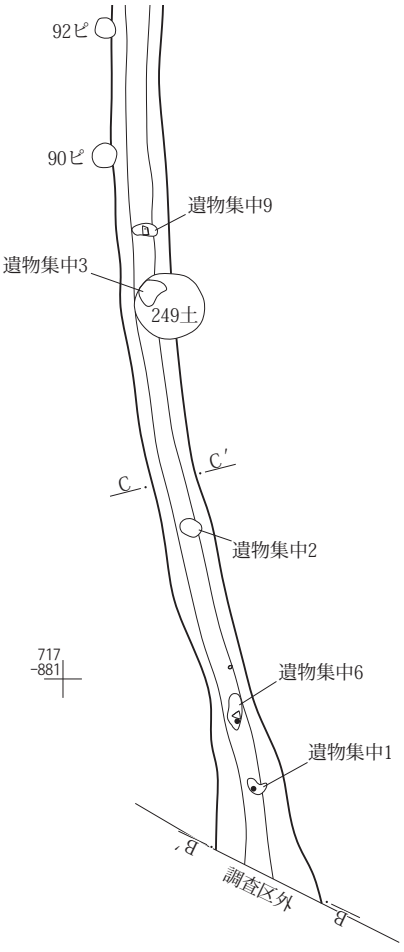


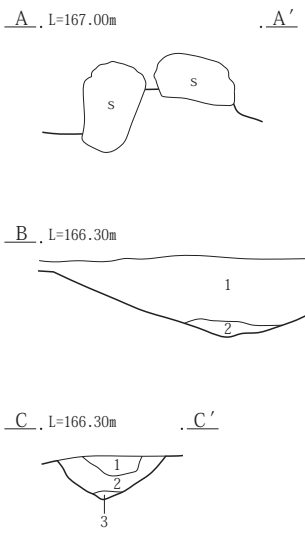
38号溝A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-Ｃ少量含む。しまり・粘性弱。圃場整備造成土
2　黒褐色土(10YR3/2)　明褐色細粒・にぶい黄橙色粒少量含む。しまりあり、粘性弱。
3　黒褐色土(10YR3/1)　砂少量、にぶい黄褐色土を含む。しまりややあり、粘性弱。

0　1：40　1m
0　1：80　2m

Ｇ２区３面
27号溝







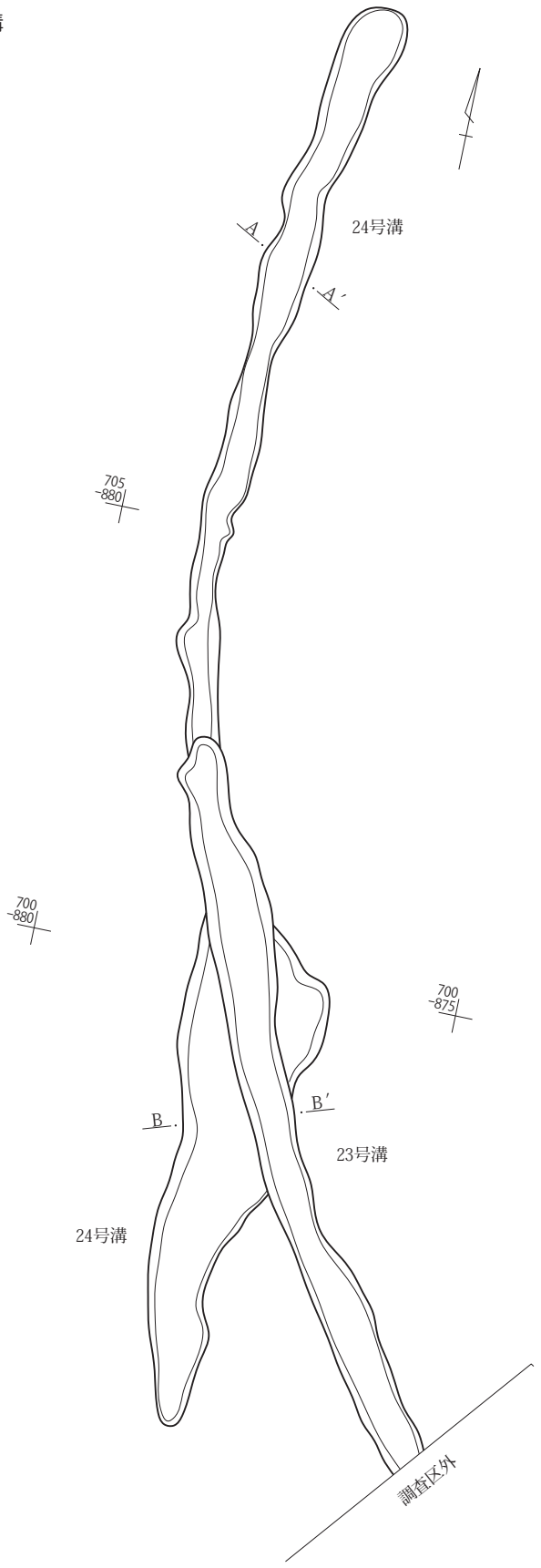
27号溝B－B′
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒・大粒のAs-Ｃ粒を多く含む。ローム粒を含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　砂礫を非常に多く、３㎝程の礫をわずか含む。
27号溝C－C′
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒を含む。ローム粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　砂礫を多く含む。

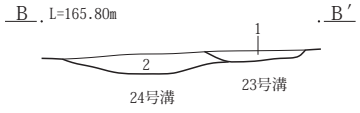
0　1：40　1m
0　1：100　5m

第63図　３面　Ｇ１区38号溝、Ｇ２区27号溝

Ｇ３区３面

23・24号溝





23・24号溝A-A′・B-B′

1　黒褐色土(10YR2/3)　As-C少量含む。しまり強、粘性弱。

2　にぶい黄褐色土(10YR4/2)　砂質土、1層よりAs-C多量含む。しまり強、粘性弱。

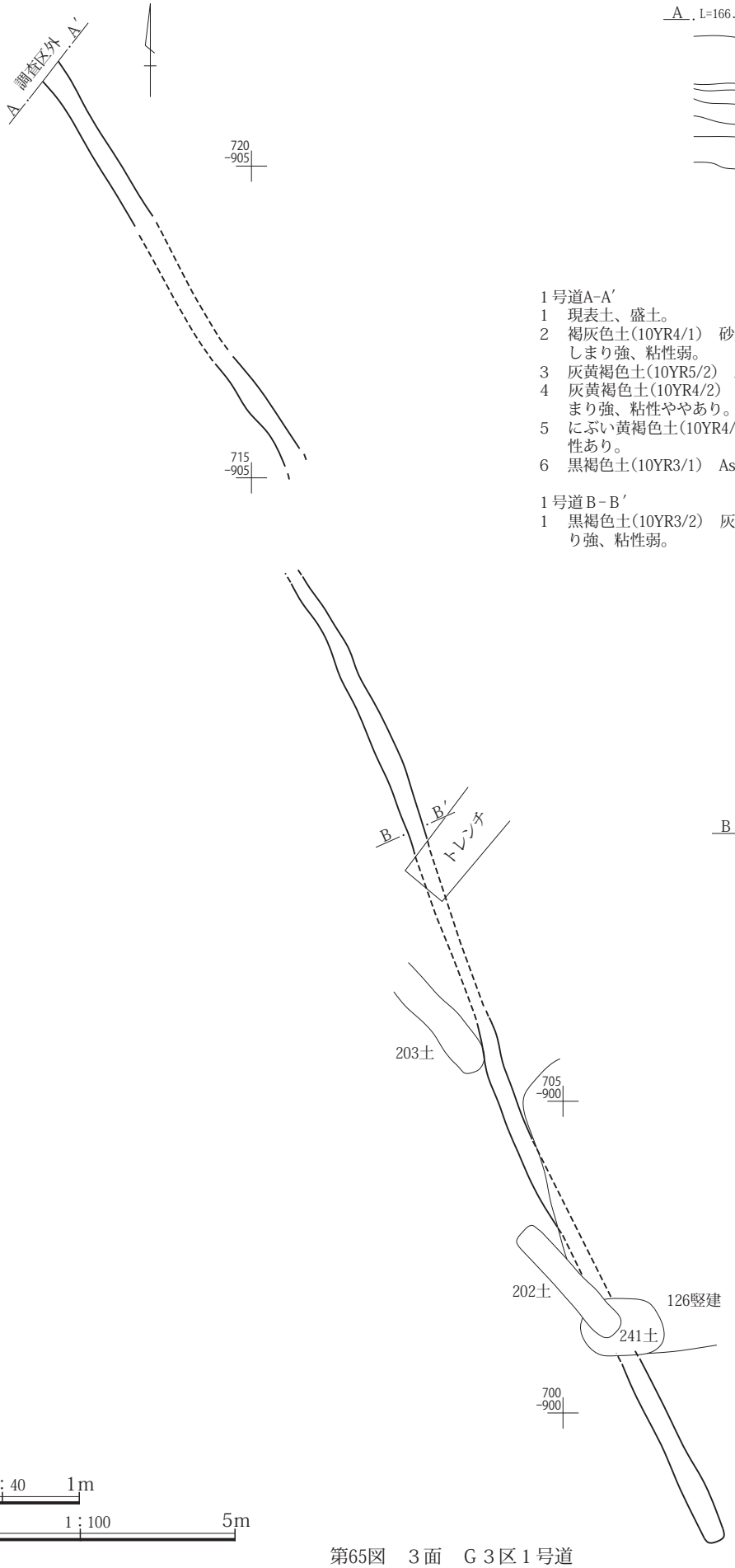
3　暗褐色土(10YR3/3)　砂質土・黄褐色土を含む。しまり強、粘性弱。

0　1：40　1m

0　1：80　2m

第64図　３面　Ｇ３区23・24号溝

１号道



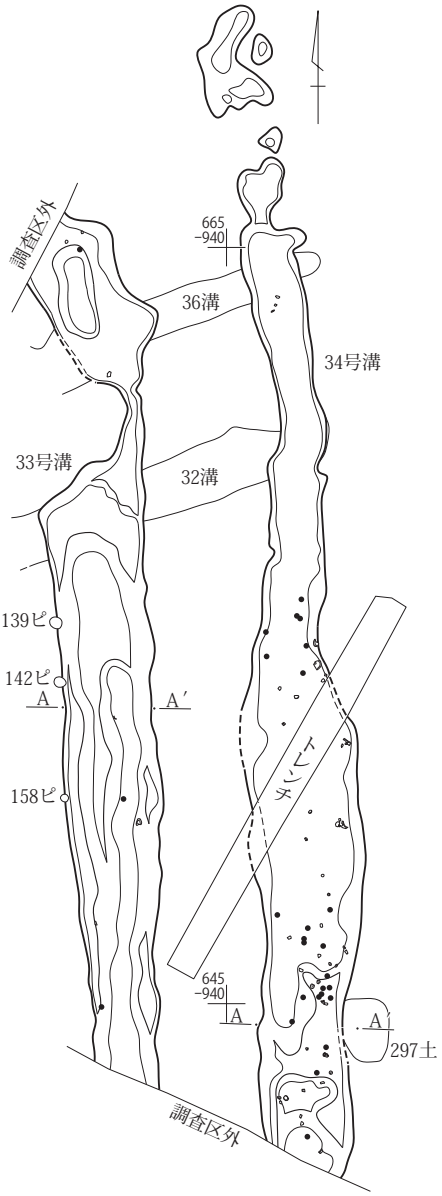
１号道A−A′
1　現表土、盛土。
2　褐灰色土(10YR4/1)　砂質土、水田による酸化鉄分多量含む。しまり強、粘性弱。
3　灰黄褐色土(10YR5/2)　As−Ｂ混土、しまりあり、粘性弱。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　As−Ｃ少量、ローム小塊を含む。しまり強、粘性ややあり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土(10YR3/1)　As−Ｃを含む。しまり・粘性あり。

１号道Ｂ−Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　灰白色粒少量、黄褐色土を含む。しまり強、粘性弱。

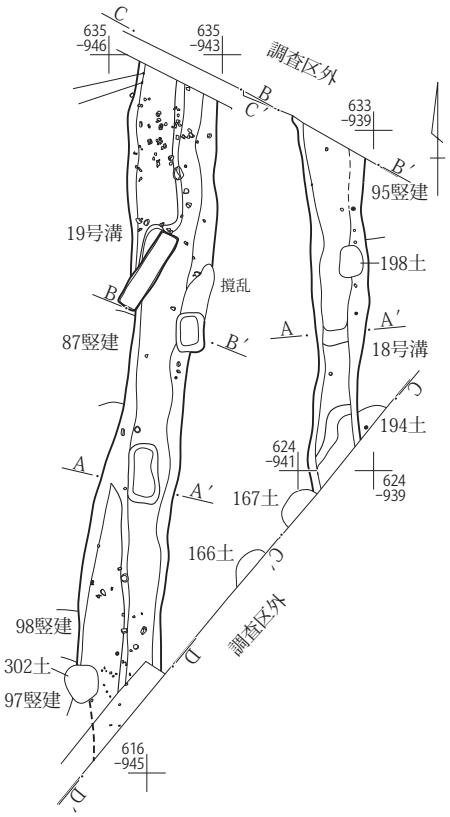
第65図　３面　Ｇ３区１号道

Ｇ５区３面

２号道

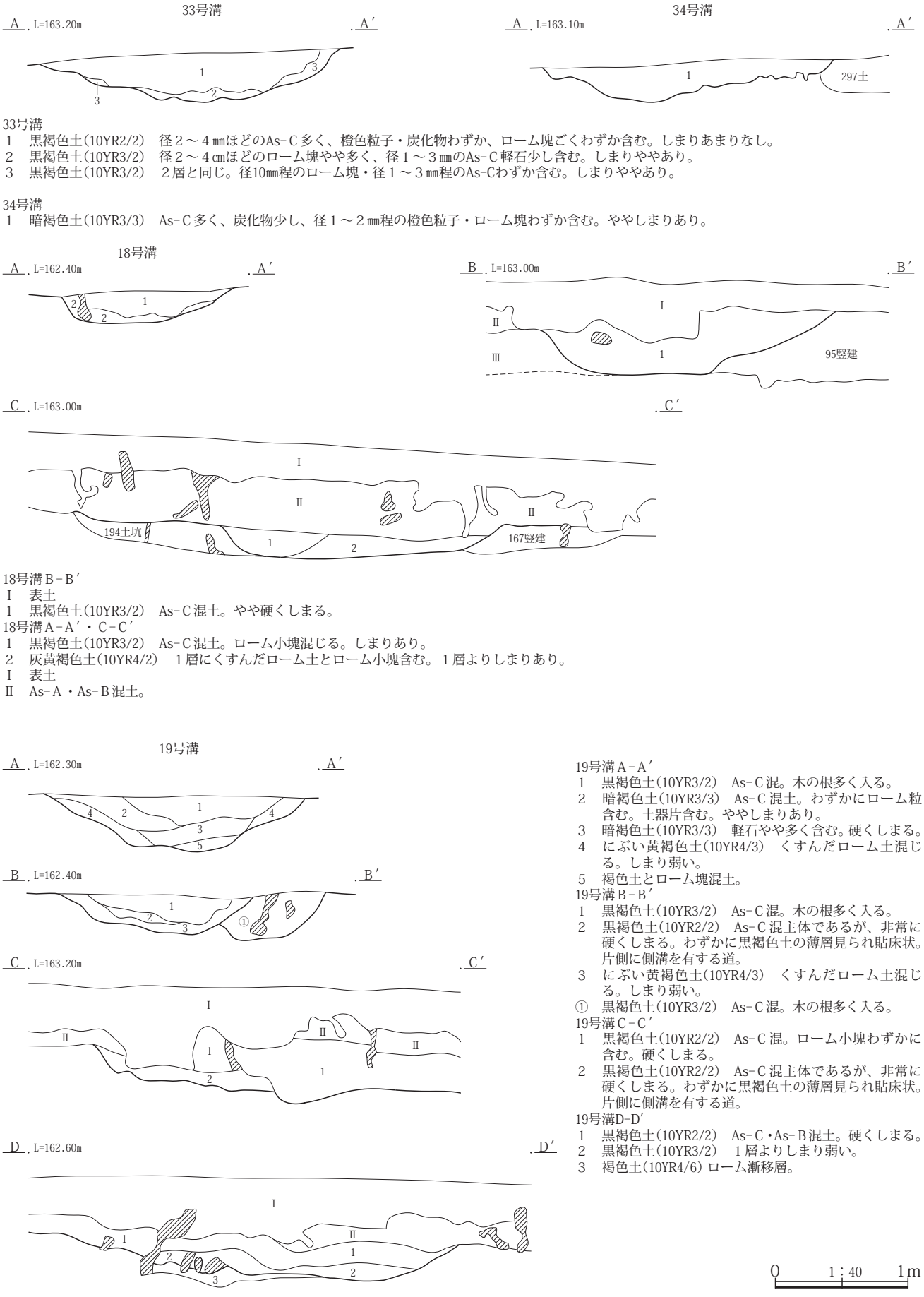


Ｈ区３面



0　1：200　5m

第66図　３面　Ｇ５・Ｈ区２号道（Ｇ５区33・34号溝，Ｈ区18・19号溝）



33号溝
1　黒褐色土(10YR2/2)　径２～４㎜ほどのAs-Ｃ多く、橙色粒子・炭化物わずか、ローム塊ごくわずか含む。しまりあまりなし。
2　黒褐色土(10YR3/2)　径２～４㎝ほどのローム塊やや多く、径１～３㎜のAs-Ｃ軽石少し含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　２層と同じ。径10㎜程のローム塊・径１～３㎜程のAs-Cわずか含む。しまりややあり。

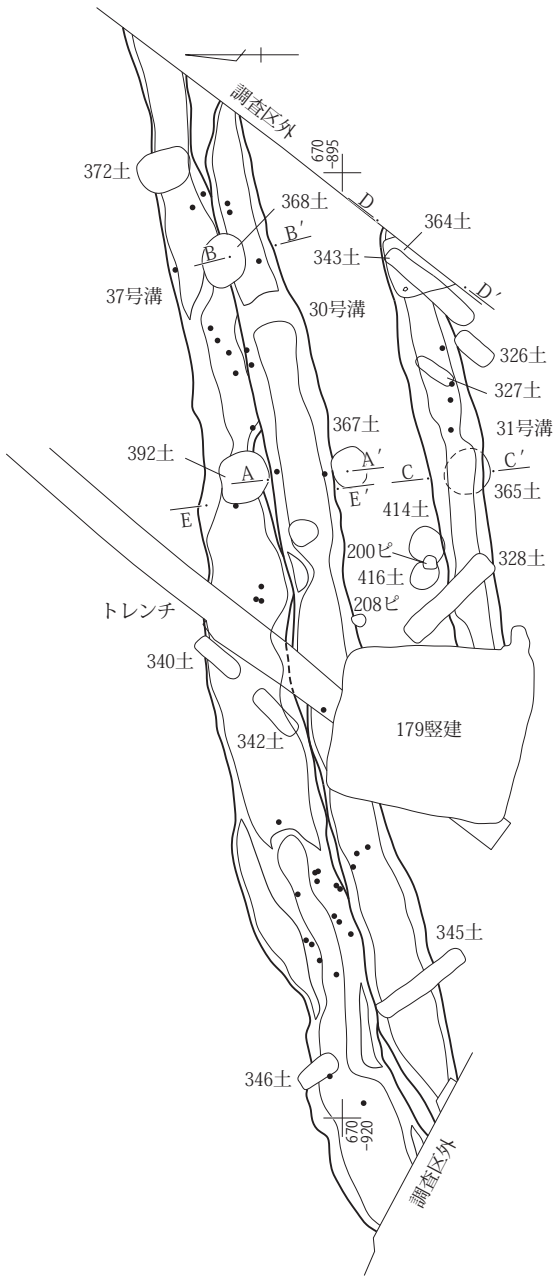
34号溝
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ多く、炭化物少し、径１～２㎜程の橙色粒子・ローム塊わずか含む。ややしまりあり。

18号溝Ｂ-Ｂ′
Ⅰ　表土
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土。やや硬くしまる。
18号溝Ａ-Ａ′・Ｃ-Ｃ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土。ローム小塊混じる。しまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　１層にくすんだローム土とローム小塊含む。１層よりしまりあり。
Ⅰ　表土
Ⅱ　As-Ａ・As-Ｂ混土。

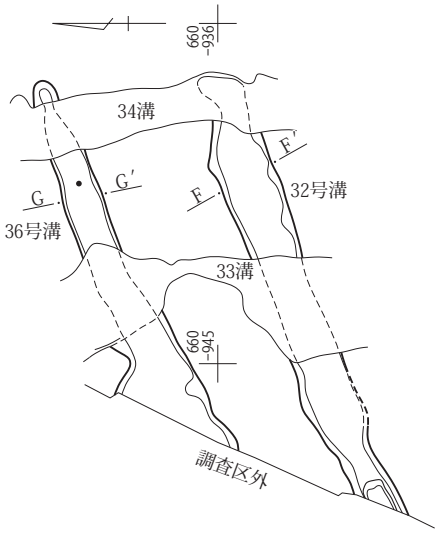
19号溝Ａ-Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混。木の根多く入る。
2　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ混土。わずかにローム粒含む。土器片含む。ややしまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　軽石やや多く含む。硬くしまる。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　くすんだローム土混じる。しまり弱い。
5　褐色土とローム塊混土。
19号溝Ｂ-Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混。木の根多く入る。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ混主体であるが、非常に硬くしまる。わずかに黒褐色土の薄層見られ貼床状。片側に側溝を有する道。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　くすんだローム土混じる。しまり弱い。
①　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混。木の根多く入る。
19号溝Ｃ-Ｃ′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ混。ローム小塊わずかに含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ混主体であるが、非常に硬くしまる。わずかに黒褐色土の薄層見られ貼床状。片側に側溝を有する道。
19号溝D-D′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ・As-Ｂ混土。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR3/2)　１層よりしまり弱い。
3　褐色土(10YR4/6) ローム漸移層。

第67図　３面　Ｇ５・Ｈ区２号道(Ｇ５区33・34号溝，Ｈ区18・19号溝)

Ｇ４区３面
３号道



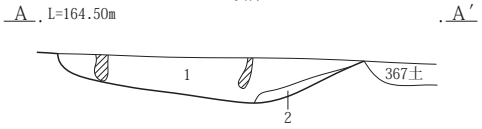
Ｇ５区３面
４号道



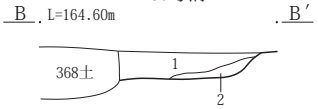
0　1：200　5m

第68図　３面　Ｇ４・Ｇ５区３・４号道（Ｇ４区30・31・37号溝、Ｇ５区32・36号溝）

30号溝

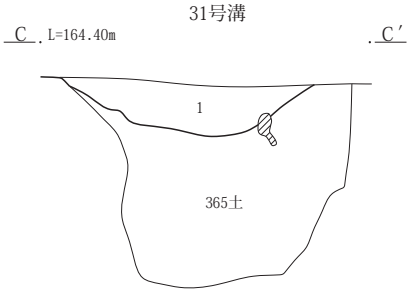


30号溝

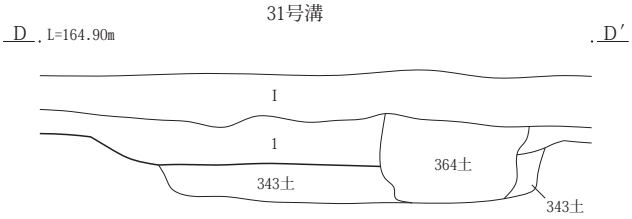


30号溝A－A′・B－B′
1　暗褐色(10YR3/3)　As－C混土。
2　1層にローム小塊含む。

31号溝

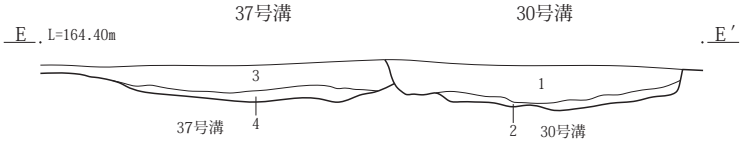


31号溝



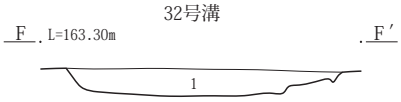
31号溝C－C′・D－D′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As－Cを多く含む。ザラついた層。

37号溝　30号溝



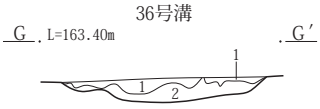
30・37号溝E－E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As－C少量、黄褐色粒若干含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊土少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)　As－C・黄橙色粒・焼土粒・炭化物粒若干含む。
4　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土・As－C少量含む。

32号溝



32号溝F－F′
1　黒褐色土(10YR2/2)　中粒のAs－Cやや多く、 橙色粒子・ローム塊わずか含む。硬くしまる。

36号溝

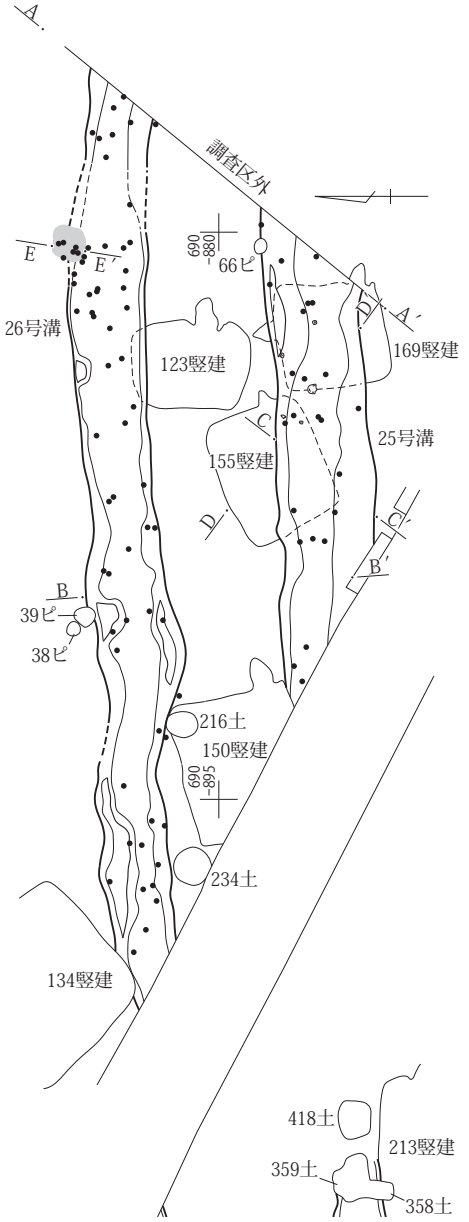


36号溝G－G′
1　黒褐色土(10YR3/1)　小～中粒のAs－C多く、炭化物・小粒の橙色粒子(微細土器片か)わずか含む。ややしまっている。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム塊やや多く、浅黄・灰白軽石わずか含む。しまっている。

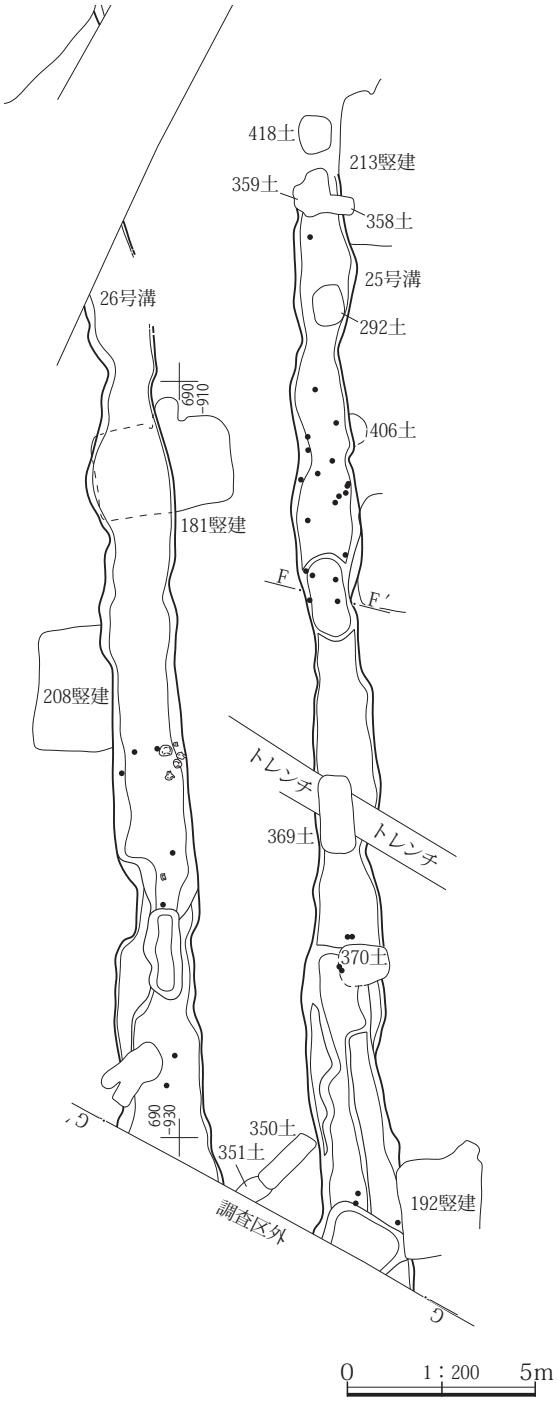
0　1：40　1m

第69図　３面　Ｇ４・Ｇ５区３・４号道(Ｇ４区30・31・37号溝、Ｇ５区32・36号溝)

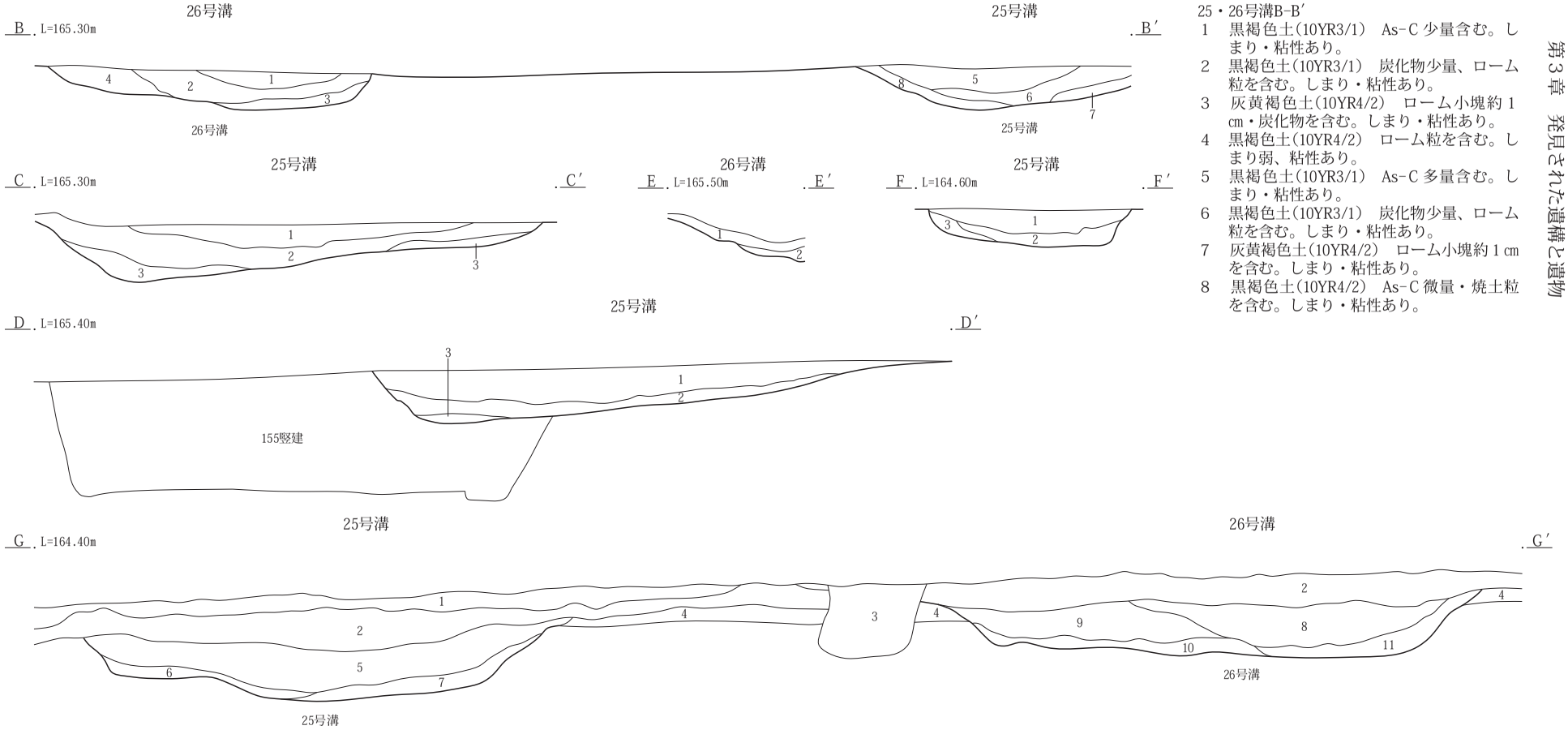
Ｇ３区３面
５号道



Ｇ４区３面



第70図　３面　Ｇ３・Ｇ４区５号道(25・26号溝)



25・26号溝B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C少量含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　炭化物少量、ローム粒を含む。しまり・粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊約１cm・炭化物を含む。しまり・粘性あり。
4　黒褐色土(10YR4/2)　ローム粒を含む。しまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/1)　As-C多量含む。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土(10YR3/1)　炭化物少量、ローム粒を含む。しまり・粘性あり。
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊約１cmを含む。しまり・粘性あり。
8　黒褐色土(10YR4/2)　As-C微量・焼土粒を含む。しまり・粘性あり。

25号溝C-C′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、焼土粒・黄橙色粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量、黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　やや砂質。As-C若干含む。しまりあまりなし。

25号溝D-D′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、焼土粒・黄橙色粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量、黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　やや砂質。As-C若干含む。しまりあまりなし。

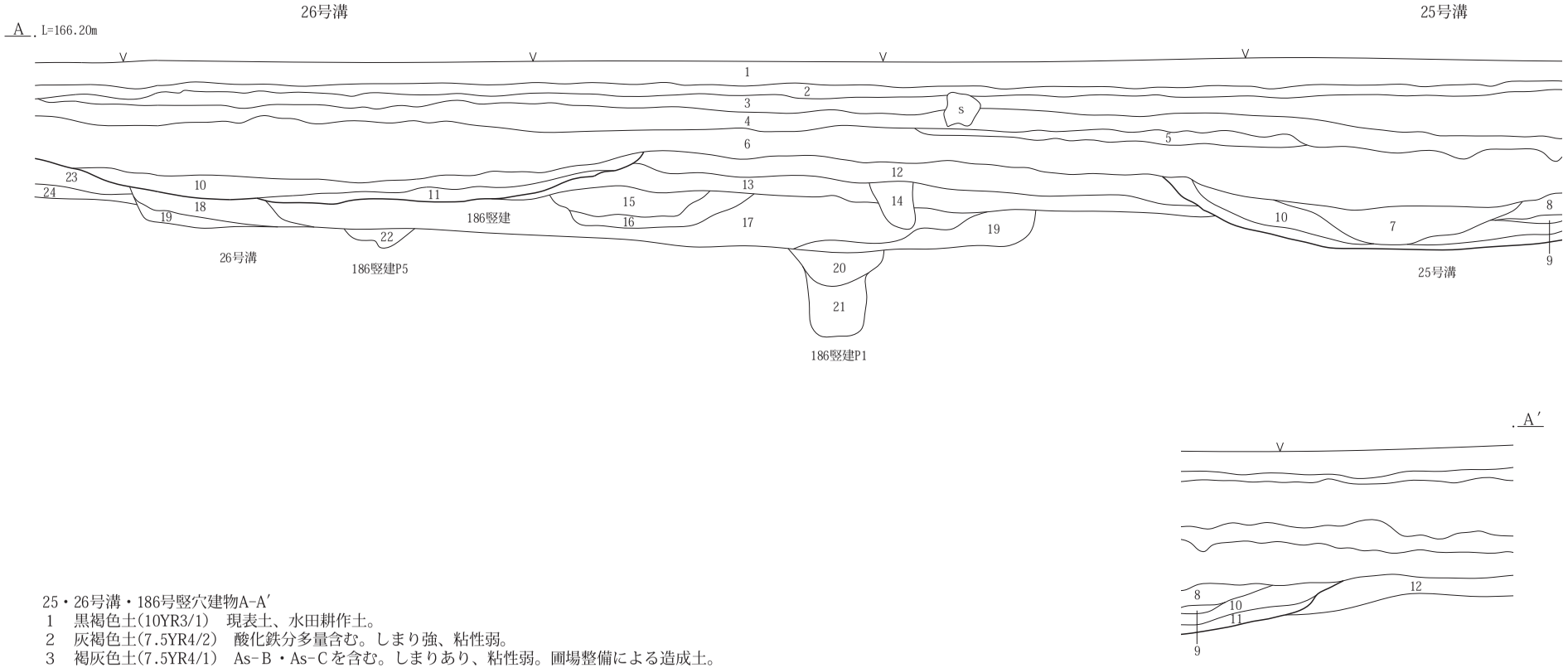
26号溝焼土E-E′
1　黒褐色土(5YR2/1)　焼土小塊・粒多量、遺物を含む。しまり弱、粘性あり。186竪建埋没土の流れ込みか。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C少量、焼土粒を含む。しまり強、粘性あり。

25号溝F-F′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、炭化物粒・黄橙色粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量、黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　黒褐色土40％程、As-C・黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。

G④西壁(25・26号溝)G-G′
1　褐灰色土(7.5YR4/1)　As-B多量、As-C・褐色土塊を含む。しまりあり、粘性弱。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-C多量、黄褐色土小塊約１cm・炭化物を含む。しまり・粘性あり。
3　褐灰色土(7.5YR4/1)　１層に類似、As-B主体、As-Cを含む。しまりあり、粘性弱。351号土坑埋没土。
4　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量含む。しまり・粘性あり。３面遺構確認面。
5　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、にぶい黄褐色土を含む。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約５cm塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量、ローム塊約５～10cmを含む。しまり弱、粘性あり。
8　黒褐色土(10YR3/2)　５層に類似、As-C均質に含む。しまり弱、粘性あり。
9　黒褐色土(2.5Y3/2)　色味は明るい、８層よりAs-C多量含む。しまりややあり、粘性あり。
10　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　７層に類似、しまり弱、粘性あり。流水の痕跡なし。
11　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒を含む。しまりやや弱、粘性あり。

0　1：40　1m

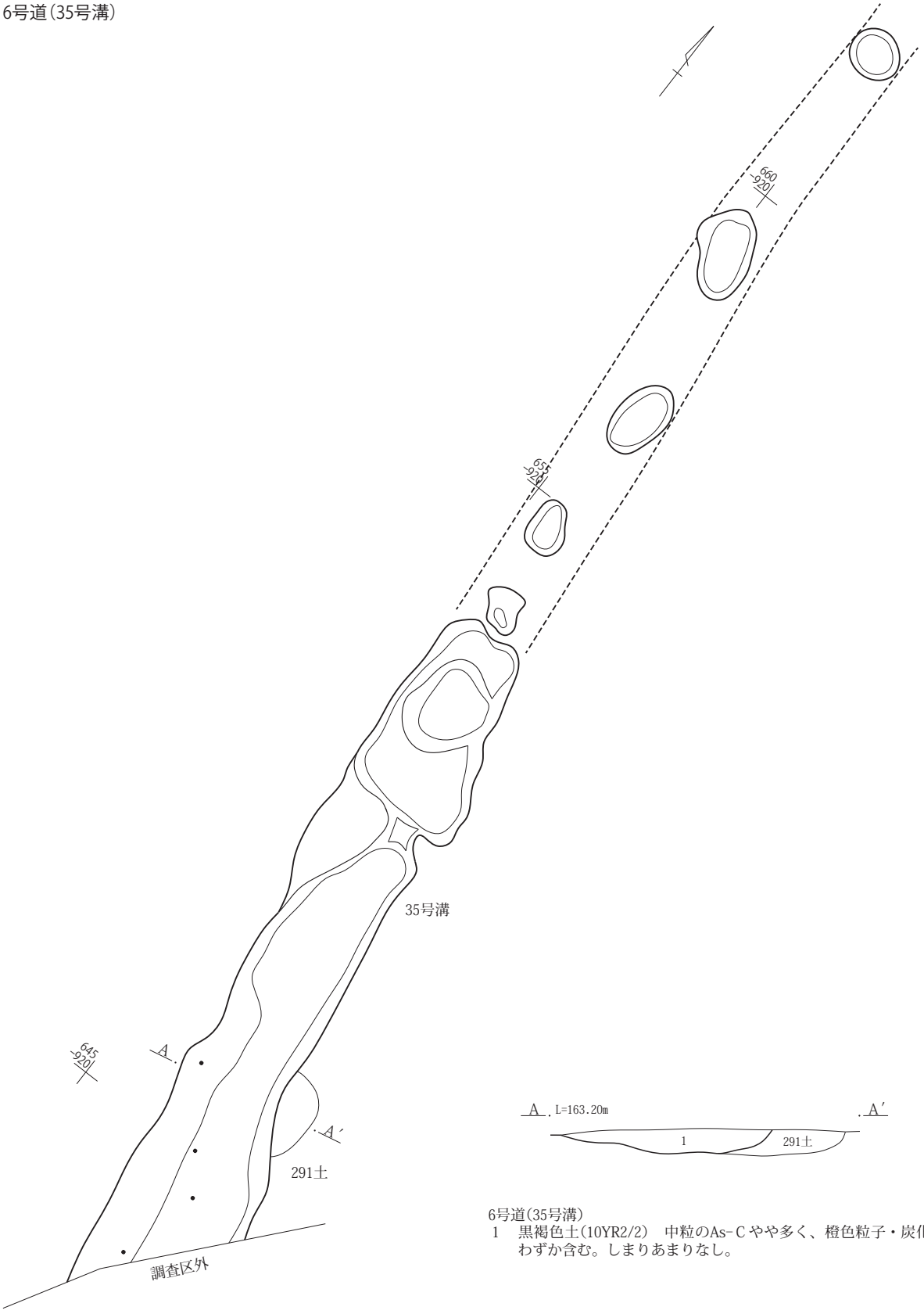
第71図　３面　Ｇ３・Ｇ４区５号道(25・26号溝)



25・26号溝・186号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/1)　現表土、水田耕作土。
2　灰褐色土(7.5YR4/2)　酸化鉄分多量含む。しまり強、粘性弱。
3　褐灰色土(7.5YR4/1)　As-B・As-Cを含む。しまりあり、粘性弱。圃場整備による造成土。
4　褐灰色土(10YR4/1)　As-B多量、にぶい黄橙色土小～大塊を含む。しまりややあり、粘性あり。
5　As-B
6　黒褐色土(10YR3/1)　As-Cを含む。しまり・粘性あり。
7　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・酸化鉄分少量含む。しまりやや弱、粘性あり。第７～９層は25溝埋没土。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒・にぶい黄橙色粒少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
9　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒多量含む。しまりややあり、粘性強。
10　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・粒・にぶい黄橙色粒少量含む。しまりやや弱、粘性あり。第10・11層は26溝埋没土。
11　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　焼土粒・ローム粒を含む。しまりやや弱、粘性あり。
12　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・にぶい黄橙色粒少量、小礫を含む。しまりややあり、粘性あり。
13　暗褐色土(10YR3/3)　にぶい黄橙色粒少量、黒褐色土・明褐色粒を含む。しまりやや弱、粘性あり。
14　黒褐色土(10YR3/2)　As-C上層に含む。しまり弱、粘性あり。ピットか
15　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　焼土小塊・粒多量、遺物を含む。しまり・粘性あり。第15～19層は186号竪建埋没土。
16　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　焼土小塊・粒多量、礫と遺物を含む。しまり・粘性あり。
17　黒褐色土(2.5Y3/1)　焼土小塊多量、灰白色粒・焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
18　暗灰色土(2.5Y4/2)　ローム約１cm塊・焼土約５mm塊少量含む。しまり・粘性あり。
19　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　にぶい黄橙色粒少量、ローム小塊・粒を含む。しまり・粘性あり。
20　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム約５～10cm塊多量、As-YP少量含む。しまり強、粘性あり。
21　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム約１cm塊多量、As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
22　灰黄褐色土(10YR5/2)　焼土粒微量、ローム小塊・灰白色粒を含む。しまり強、粘性あり。Ｐ５埋没土。
23　黒褐色土(10YR3/1)　As-C多量、ローム小塊少量含む。しまり・粘性あり。
24　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・粒少量、暗褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。

第72図　３面　Ｇ４区５号道(25・26号溝)

6号道(35号溝)



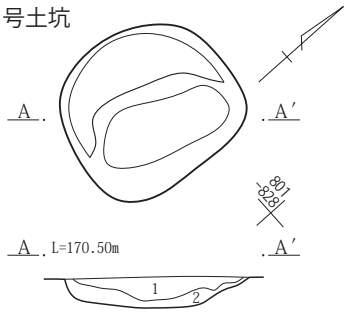
6号道(35号溝)
1　黒褐色土(10YR2/2)　中粒のAs-Cやや多く、橙色粒子・炭化物わずか含む。しまりあまりなし。

0　1：40　1m
0　1：80　2m

第73図　３面　Ｇ５区６号道(35号溝)

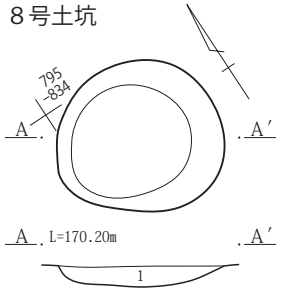
Ｆ区３面

７号土坑



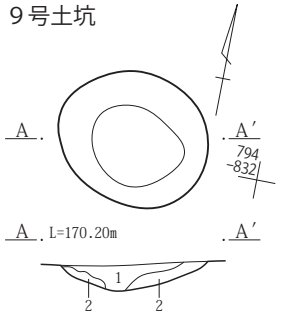
７号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色細粒・黄色粒を少量含む。粘性ややあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　白色細粒・黄色粒を微量含む。粘性あり。

８号土坑



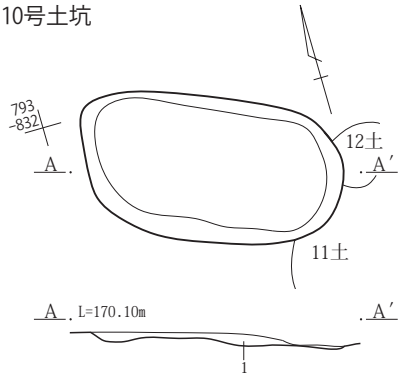
8号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色細粒をやや多量、黄色粒・黒褐色(10YR3/2)土塊を少量含む。

９号土坑



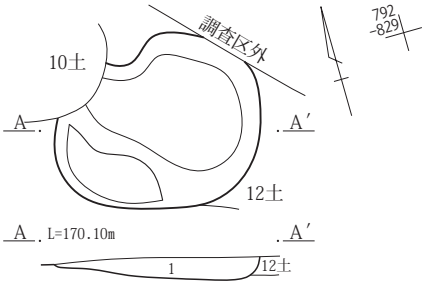
9号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色細粒をやや多量、黄色細粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　白色細粒・黄色細粒をやや多量含む。粘性あり。

10号土坑



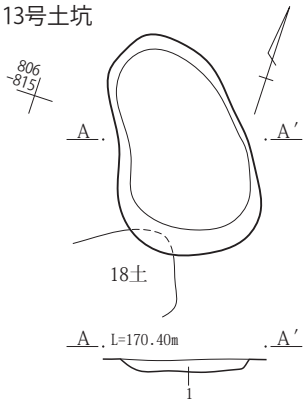
10号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色粒、黄色粒をやや多量含む。

11号土坑



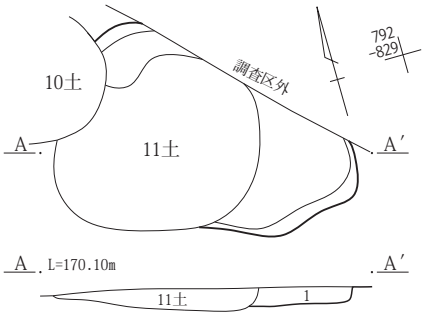
11号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色粒をやや多量含む。

13号土坑



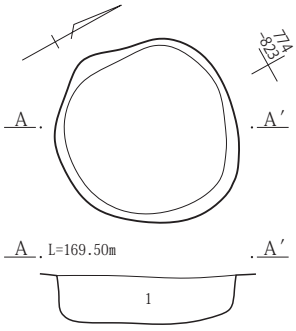
13号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色細粒をやや多量、黄色粒を少量含む。

12号土坑



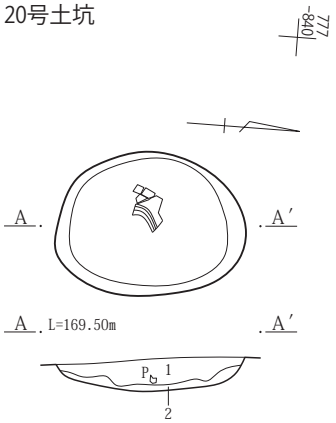
12号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色粗塊をやや多量、白色粒を少量含む。

16号土坑



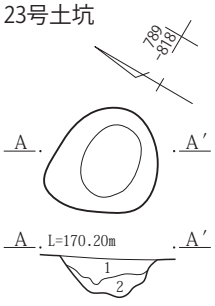
16号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　黄色粒をやや多量、白色細粒・赤色細粒・炭化物粒を少量含む。

20号土坑



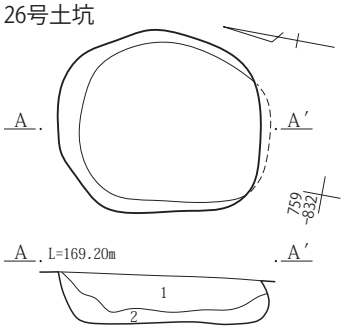
20号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色粒をやや多量、黄色粒を少量含む。砂質。
2　黒褐色土(10YR3/1)　白色粒・ローム小塊を少量含む。

23号土坑



23号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　白色細粒を多量、黄色粒をやや多量、ローム小塊を微量含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊をやや多量、白色細粒・黄色粒を少量含む。

26号土坑

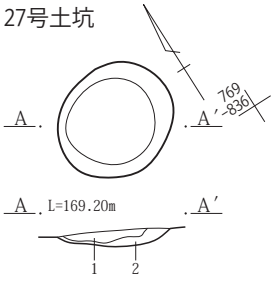


26号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒・As-C細粒・黄色粒をやや多量含む。粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒・ローム小塊を少量含む。粘性ややあり。

0　1：40　1m

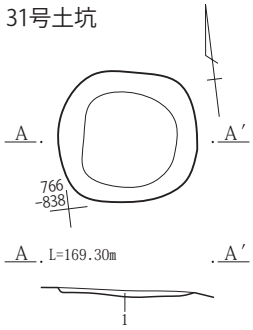
第74図　３面　Ｆ区７～13・16・20・23・26号土坑

27号土坑



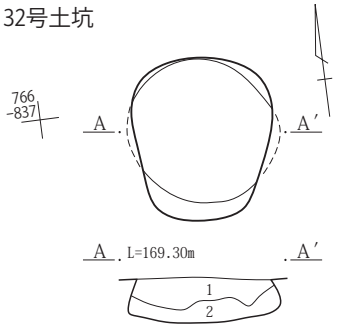
27号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒・黄色細粒・ローム小塊をやや多量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊を少量含む。

31号土坑



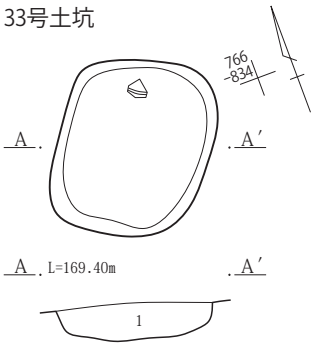
31号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粗粒・白色粒・黄色粒をやや多量、ローム塊を少量含む。

32号土坑



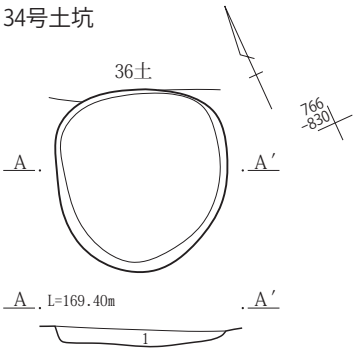
32号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色粒・黄色粒をやや多量、ローム塊を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粗塊を多量、白色粒・黄色粒・炭化物粒を少量含む。

33号土坑



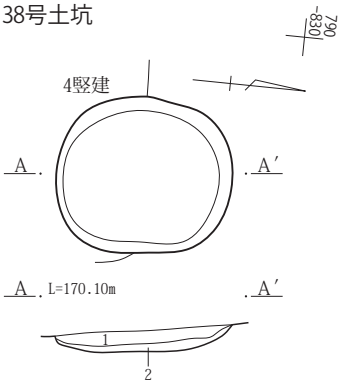
33号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-A粗粒・黄色粒をやや多量、白色細粒・ローム塊・炭化物粒を少量含む。

34号土坑



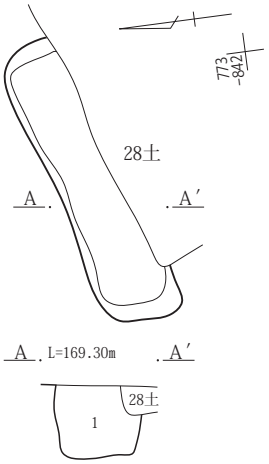
34号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-A粗粒・炭化物粒を少量、白色粒・黄色粒・ローム塊を少量含む。

38号土坑



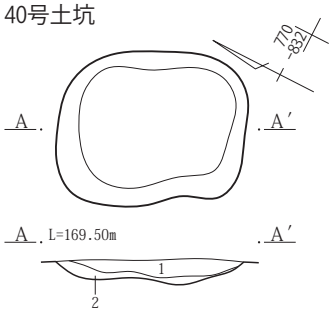
38号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色粒、黄色粒をやや多量、As-C粗粒・赤色粒・ローム塊を少量含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を多量、As-C粗粒・黄色粒を少量、含む。

39号土坑



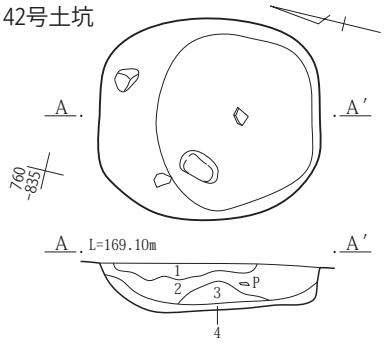
39号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粗粒・ローム塊・炭化物粒を少量、白色粒・黄色粒をやや多量含む。しまりあり。

40号土坑



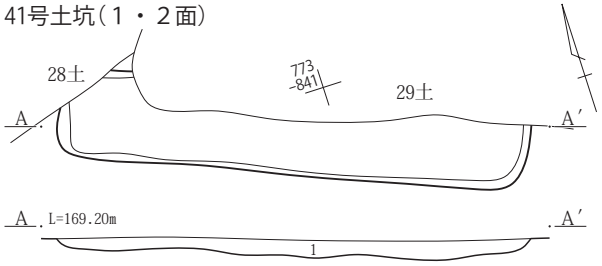
40号土坑(1、2面)
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粗粒・ローム塊を少量含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を多量、黄色粒をやや多量、As-C粗粒を少量含む。

42号土坑



42号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　黄色粒をやや多量、As-C粗粒を少量含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　黄色粒をやや多量、As-C粗粒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粗粒を少量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を多量含む。

41号土坑(１・２面)

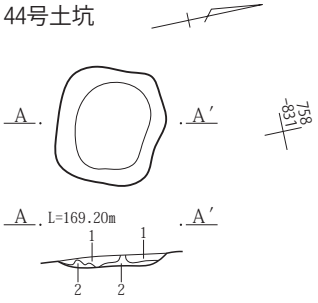


41号土坑(1・2面)
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊、白色粒、黄色細粒を少量含む。

0　1：40　1m

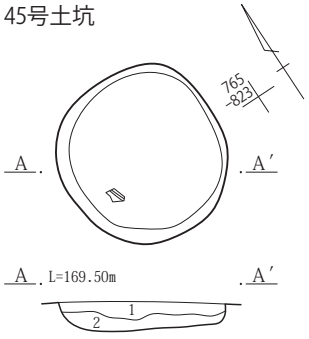
第75図　３面　F区27・31～34・38～42号土坑

44号土坑



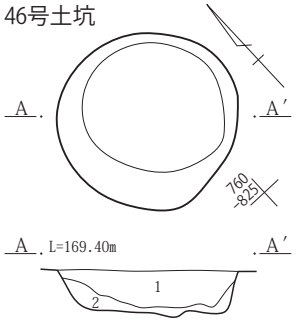
44号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色粒・黄色粒をやや多量含む。粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒を多量、As-A粒を少量含む。

45号土坑



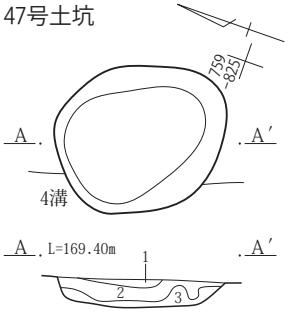
45号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色粒・黄色粒をやや多量含む。粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　白色粒・ローム塊少量含む。

46号土坑



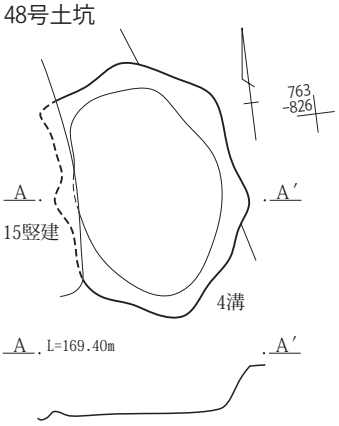
46号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色粒をやや多量、ローム小塊を少量含む。粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　白色粒をやや多量含む。砂質。

47号土坑

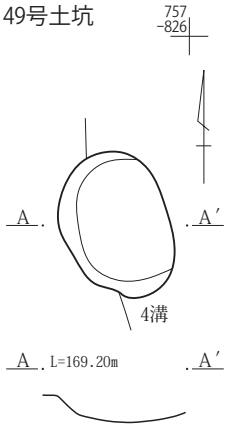


47号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色粒をやや多量、ローム小塊を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　白色粒・黄色粒をやや多量含む。粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黄色粒を少量含む。

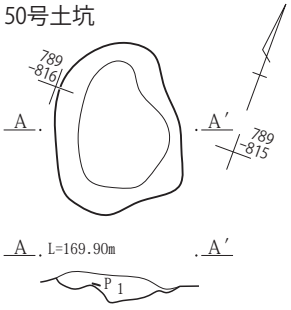
48号土坑



49号土坑

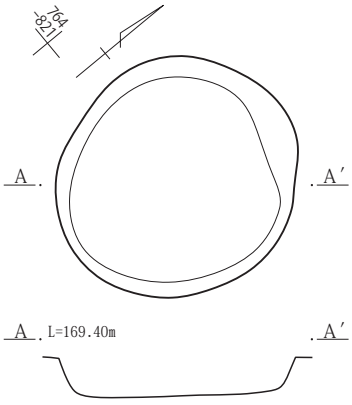


50号土坑

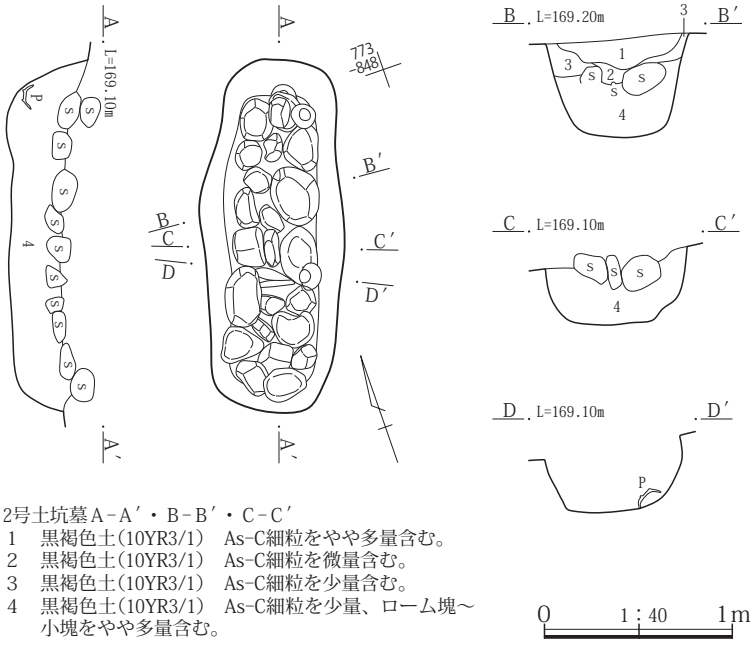


50号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　白色粒・ローム塊をやや多量含む。

61号土坑



２号土坑墓



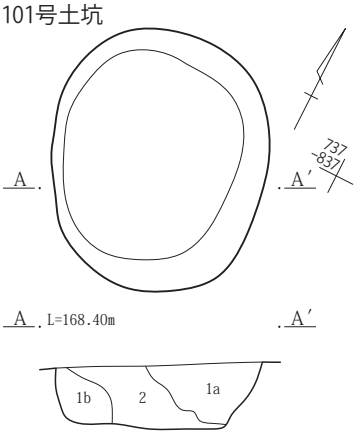
2号土坑墓A-A′・B-B′・C-C′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒をやや多量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を微量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を少量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を少量、ローム塊～小塊をやや多量含む。

0　1：40　1m

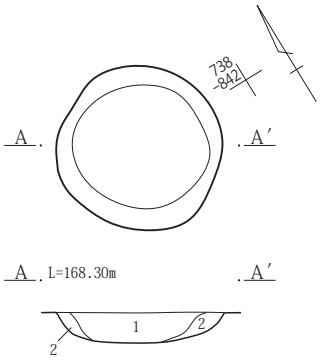
第76図　３面　F区44～50・61号土坑、２号土坑墓

Ｇ１区３面

101号土坑



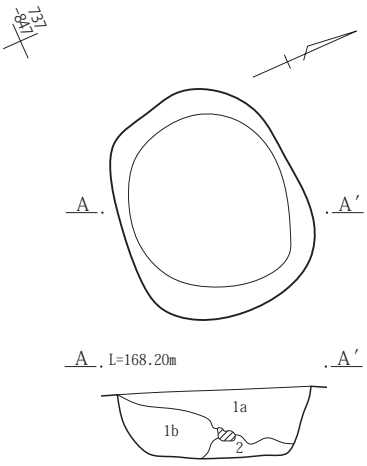
102号土坑



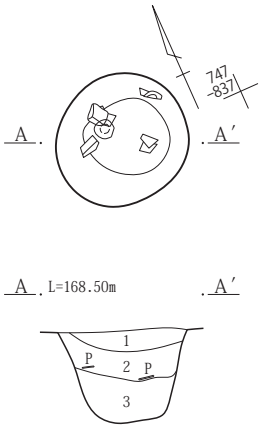
101号土坑
1a　暗褐色土(10YR3/4)　やや大粒のAs-Ｃ混じる。As-Ｃ混にわずかにローム小塊含む。
1b　1a層より軽石混入少なく、しまりあり。
２　1a層にローム中・小塊多く含む。

102号土坑
１　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ混土。やや大粒のAs-Ｃ含む。
２　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム土のくすんだ土にわずかに軽石含む。壁土の流れ込み。

103号土坑



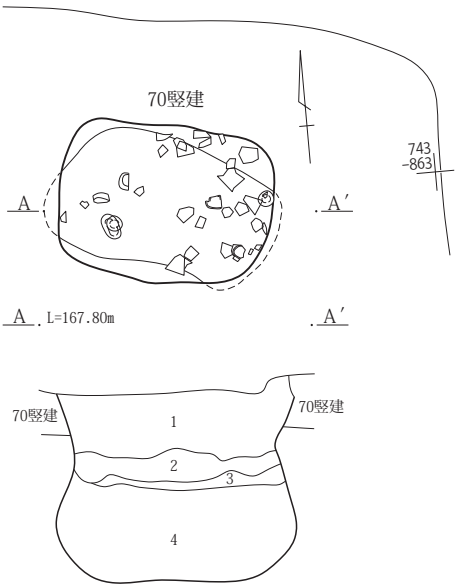
104号土坑



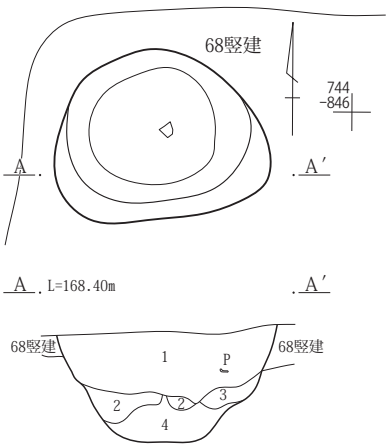
103号土坑
1a　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ混土に、ローム小塊わずかに含む。
1b　1a層よりローム塊多く混じる。
２　褐色土(10YR4/4)　ローム漸移層土に、ローム・As-Ｃ混土塊含む。

104号土坑
１　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土に、わずかにローム小塊含む。しまり弱い。
２　As-Ｃ混土にローム塊多量に含む。一括埋土。
３　ローム塊・As-YPを多量に含む。一括埋土。

106号土坑



109号土坑



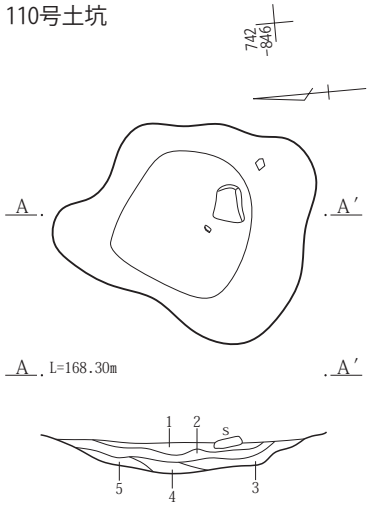
106号土坑
１　黒色土(10YR2/1)　１～５㎜程の礫多く、As-Ｃ粒・ローム塊・ローム粒ごくわずか含む。
２　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒わずか、１～２㎜程の礫・炭化粒をごくわずか含む。部分的にややしまりなし。
３　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土多く、ローム塊・ローム粒わずか含む。ややしまりなし。
４　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)混ざる。ローム粒・As-Ｃ粒多く、ローム塊わずか含む。

109号土坑
１　黒褐色土(10YR2/3)　１～３㎜程の礫・As-Ｃ粒、ローム粒わずか、ローム塊ごくわずか含む。
２　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒含む。ややしまりなし。
３　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土多く、ローム塊・ローム粒わずか含む。
４　褐色土(10YR4/6)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)が混ざる。３～５㎝のローム塊多く含む。

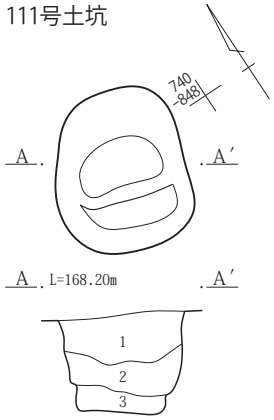
0　1：40　1m

第77図　３面　Ｇ１区101～104・106・109号土坑

110号土坑



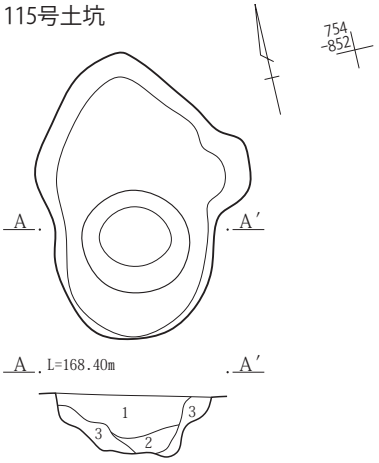
111号土坑



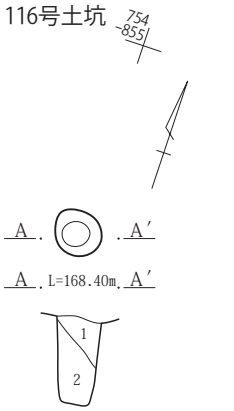
110号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　わずかに軽石含む。しまり弱い。粘性あり。
2　黒色土塊、暗褐色土塊、ローム小塊混土。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム塊含む。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　くすんだローム土に、ローム小塊含む。
5　黄褐色土(10YR5/6)　漸移層にローム塊含む。しまり・粘性あり。

111号土坑
1　にぶい黄褐色土にローム塊。褐色土塊含む。As-C混土混じり。一括埋土。
2　１層より黒色土を多く含む。ローム塊も多い。一括埋土。
3　にぶい黄褐色土、黒色土にローム塊混土。

115号土坑



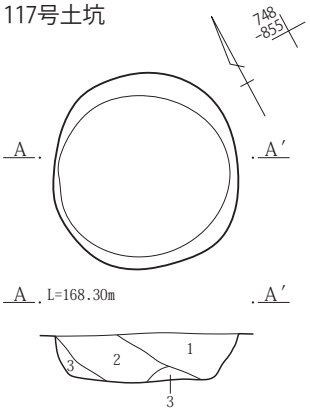
116号土坑



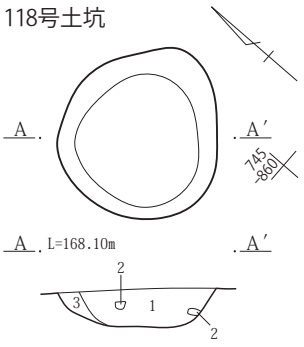
115号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒わずか含む。部分的にしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒わずか含む。部分的にしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒多く・ローム塊・ローム粒含む。As-C粒ごくわずか含む。

116号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒わずか含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土多く、ローム粒ごくわずか含む。

117号土坑



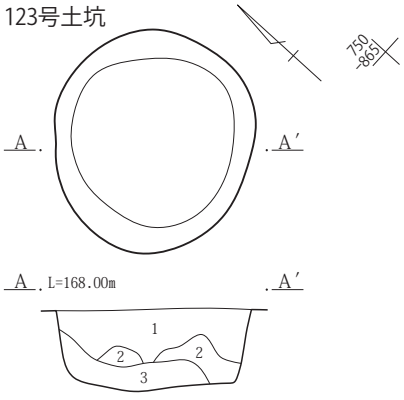
118号土坑



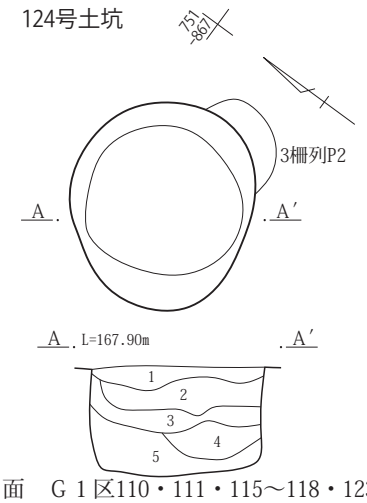
117号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　２～５㎜程の礫を多く、As-C粒わずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・As-C粒わずか、２～５㎜程の礫含む。一部ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土多く、２～３㎜程の礫ごくわずか含む。一部ややしまり。

118号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　２～５㎜程の礫含む。炭化粒ごくわずか含む。
2　褐色土(10YR4/4)　暗褐色土(10YR3/4)が混ざるローム土。ローム塊ごくわずか含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)やローム土混ざる。１～２㎜程の礫わずか含む。

123号土坑



124号土坑



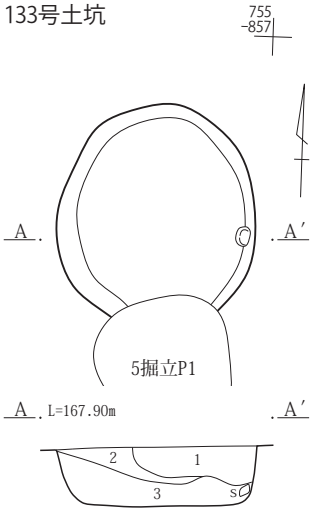
123号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　１～２㎜程の礫多く、ローム土・ローム塊・ローム粒わずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒わずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。ローム塊・ローム粒わずか含む。一部しまりなし。

124号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒多く含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　２～５㎝程のローム塊多く、ローム土含む。As-C粒わずか含む。一部ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒わずか含む。ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　１～４㎝程のローム塊多く、ローム土含む。ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒わずか含む。一部しまりなし。

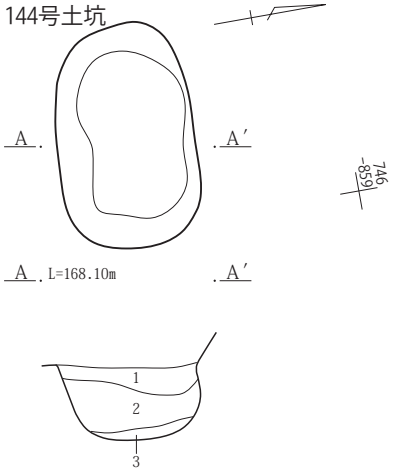
第78図　３面　Ｇ１区110・111・115～118・123・124号土坑

0　1：40　1m

133号土坑



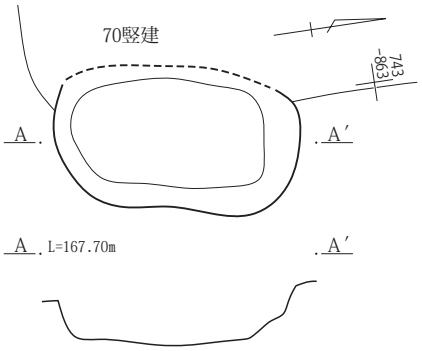
144号土坑



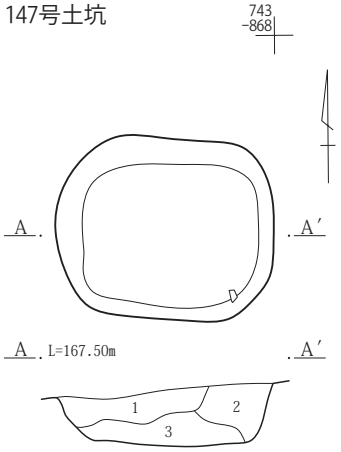
133号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　２～４㎜程のローム塊多く、ローム粒・As-C粒わずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。２～４㎜程の礫多く、ローム粒・As-C粒わずか、ローム塊ごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒多く、As-C粒わずか含む。

144号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・ローム粒わずかに含む。しまり弱い。粘性あり。
2　As-C混、くすんだローム土。硬質ローム塊混土。しまり弱い。
3　As-C混土にAs-YP。硬質ローム小塊含む。しまり弱い。

145号土坑

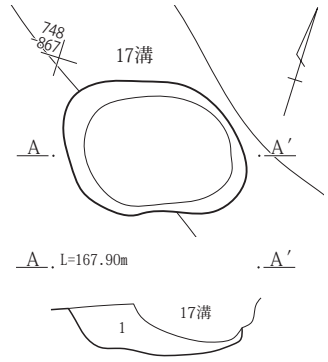


147号土坑



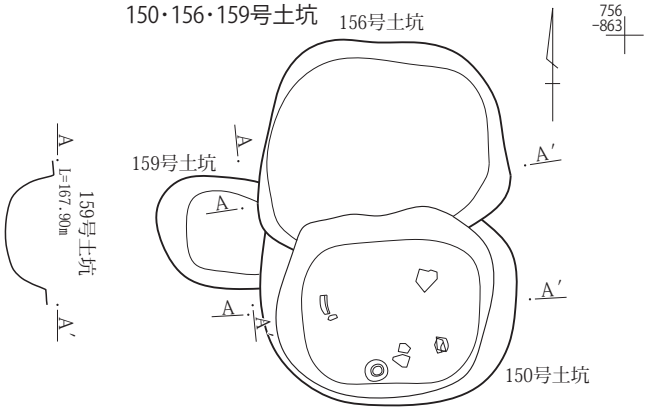
147号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。ローム塊・ローム粒わずか、炭化物ごくわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・２～４㎝程のローム塊含む。ローム粒多く、炭化粒わずか含む。ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。ローム塊多く、ローム粒わずか、炭化粒ごくわずか含む。ややしまりなし。

149号土坑

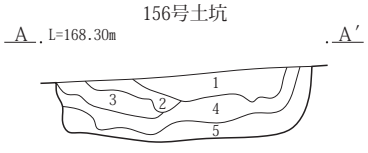


149号土坑
1　As-C混土にローム中・小塊混土。

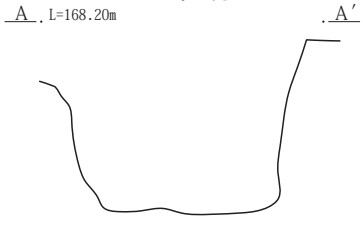
150・156・159号土坑



156号土坑



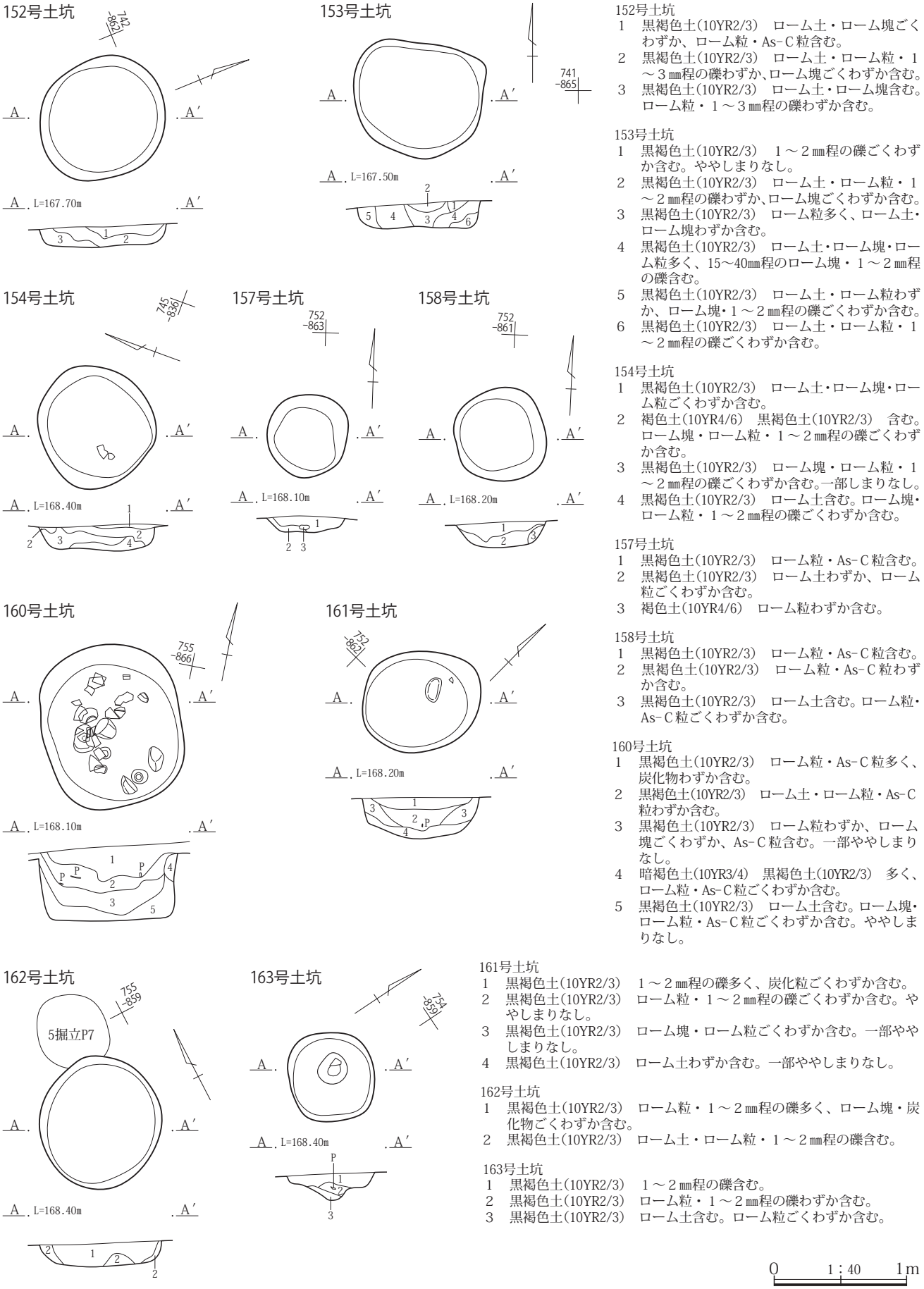
150号土坑



156号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒・２～７㎝のローム塊多く、As-C粒含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・As-C粒わずか、ローム塊・ローム粒含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒・As-C粒多く含む。1.5～５㎝程のローム塊含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒・As-C粒含む。炭化物ごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒わずか、ローム土・As-C粒ごくわずか含む。

0　1：40　1m

第79図　３面　Ｇ１区133・144・145・147・149・150・156・159号土坑



152号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊ごくわずか、ローム粒・As-C粒含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・１～３㎜程の礫わずか､ローム塊ごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊含む。ローム粒・１～３㎜程の礫わずか含む。

153号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　１～２㎜程の礫ごくわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・１～２㎜程の礫わずか､ローム塊ごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒多く、ローム土・ローム塊わずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒多く、15～40㎜程のローム塊・１～２㎜程の礫含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒わずか、ローム塊・１～２㎜程の礫ごくわずか含む。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・１～２㎜程の礫ごくわずか含む。

154号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒ごくわずか含む。
2　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)　含む。ローム塊・ローム粒・１～２㎜程の礫ごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒・１～２㎜程の礫ごくわずか含む。一部しまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。ローム塊・ローム粒・１～２㎜程の礫ごくわずか含む。

157号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土わずか、ローム粒ごくわずか含む。
3　褐色土(10YR4/6)　ローム粒わずか含む。

158号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒わずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。ローム粒・As-C粒ごくわずか含む。

160号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒多く、炭化物わずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・As-C粒わずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒わずか、ローム塊ごくわずか、As-C粒含む。一部ややしまりなし。
4　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)　多く、ローム粒・As-C粒ごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。ローム塊・ローム粒・As-C粒ごくわずか含む。ややしまりなし。

161号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　１～２㎜程の礫多く、炭化粒ごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・１～２㎜程の礫ごくわずか含む。ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒ごくわずか含む。一部ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土わずか含む。一部ややしまりなし。

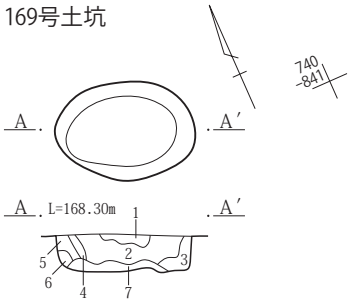
162号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・１～２㎜程の礫多く、ローム塊・炭化物ごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・１～２㎜程の礫含む。

163号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　１～２㎜程の礫含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・１～２㎜程の礫わずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。ローム粒ごくわずか含む。

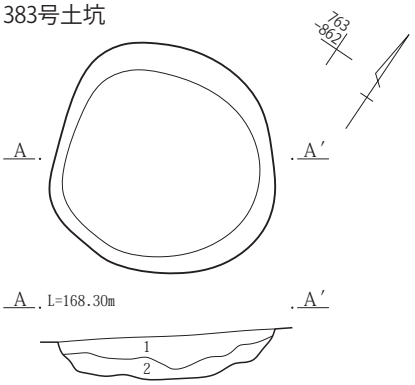
0　1：40　1m

第80図　３面　Ｇ１区152～154・157・158・160～163号土坑

169号土坑

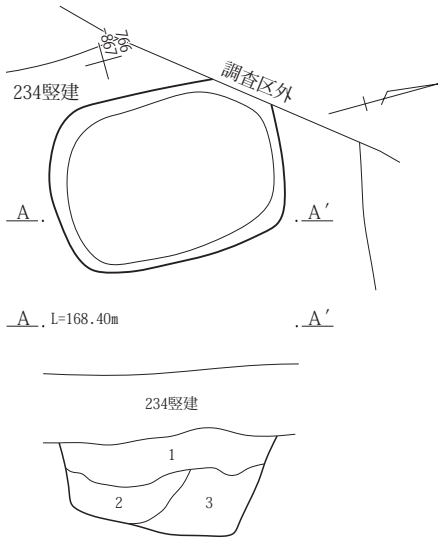


383号土坑

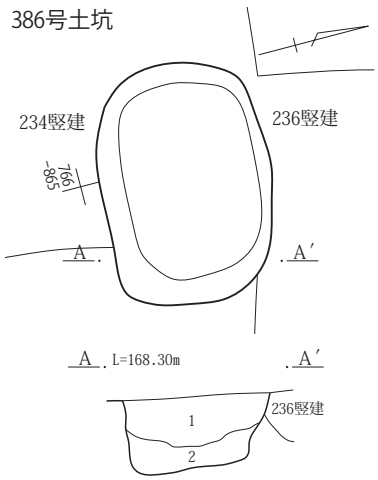


169号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土わずか、ローム粒・As-C粒・１～３㎜程の礫含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土わずか、ローム粒・As-C粒ごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒わずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒ごくわずか、ローム土含む。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒ごくわずか含む。
7　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム粒ごくわずか含む。ややしまりなし。

384号土坑



386号土坑

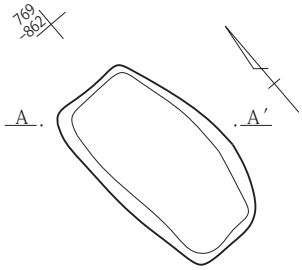


383号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒少量、褐色土を含む。しまり強、粘性あり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　褐色土小塊を含む。しまりややあり、粘性あり。

384号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約１㎝塊・にぶい黄橙色粒少量、しまり弱、粘性あり。
2　黒色土(10YR2/1)　小礫・褐色土小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒色土(10YR2/1)　色味は暗い。１層よりしまり弱、粘性あり。

386号土坑
1　黒褐色土(2.5Y3/1)　ローム約１～３㎝・As-C多量含む。しまりややあり、粘性あり。
2　黒褐色土(2.5Y3/2)　ローム粒を含む。しまり弱、粘性あり。

403号土坑

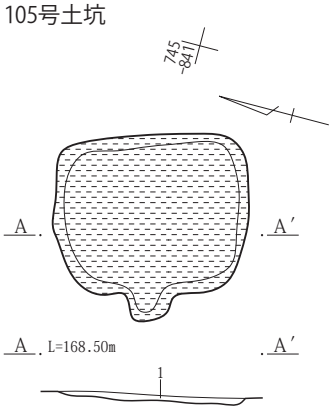


403号土坑SP．A-A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・焼土粒少量、ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C・にぶい黄橙色粒少量、ローム小～大塊・小礫・遺物を含む。しまり・粘性あり。

0　1：40　1m

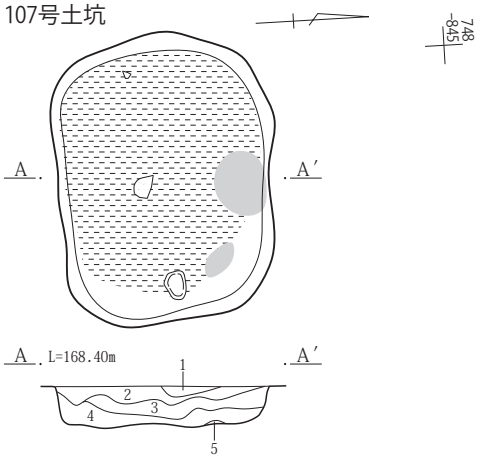
第81図　３面　Ｇ１区169・383・384・386・403号土坑

105号土坑



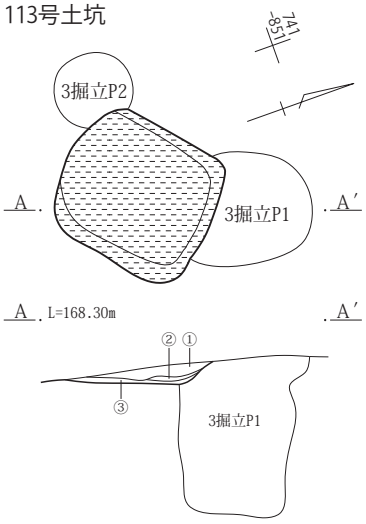
105号土坑
1　炭化物層 灰褐色土含む。

107号土坑



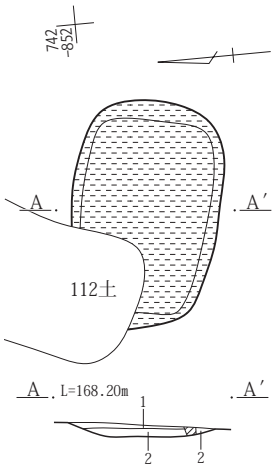
107号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒・炭化物わずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒わずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・ローム塊・ローム粒・炭化物多く含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　炭化物非常に多く、ローム土・ローム塊・ローム粒わずか含む。
5　赤褐色土(5YR4/8)　焼土。砂礫状のローム粒が混ざる。しまりあり。

113号土坑



113号土坑
①　褐灰色土(10YR5/4)　As-B混土。ローム粒・炭粒含む。
②　黒色炭化物層
③　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　くすんだローム土。

114号土坑



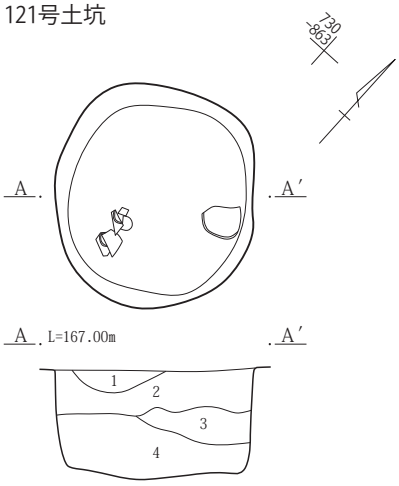
114号土坑
1　褐灰色土(10YR4/1)　As-C混にわずか炭粒含む。
2　黒色炭化物集中層。

0　1：40　1m

第82図　３面　G１区105・107・113・114号土坑(火葬遺構)

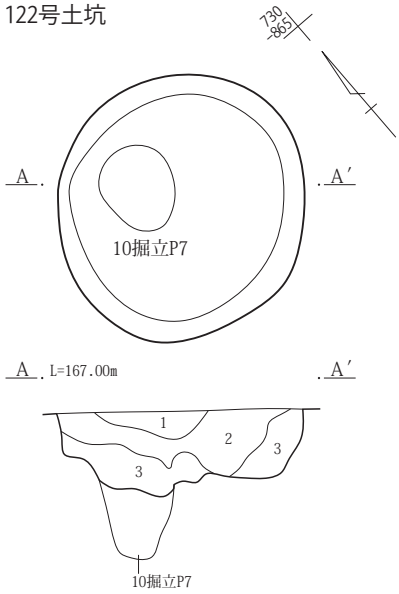
Ｇ２区３面

121号土坑



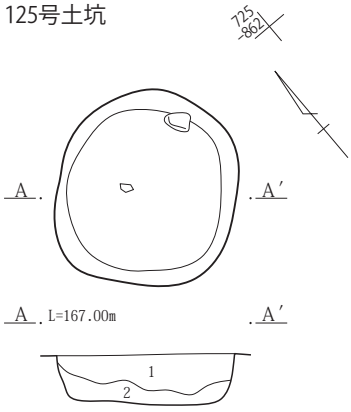
121号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒を非常に多く含む。As-Ｃ粒を多く含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をわずか含む。As-Ｃ粒をわずか含む。一部しまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を非常に多く、ローム塊をごくわずか含む。一部しまりなし。

122号土坑



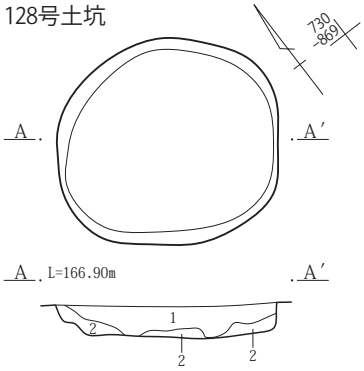
122号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊やローム粒を含む。４㎝程のローム塊をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊やローム粒を含む。炭化物をわずか含む
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を多く含む。２～５㎝程のローム塊を含む。炭化物をごくわずか含む。

125号土坑



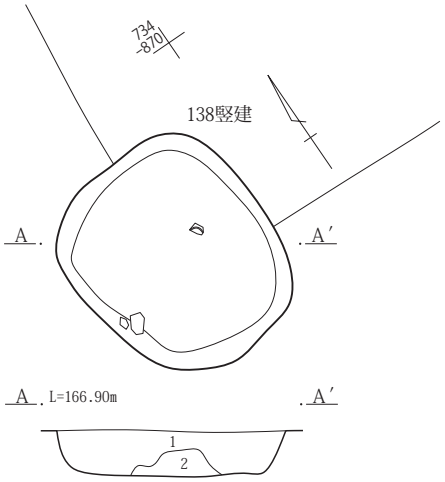
125号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒・As-Ｃ粒、炭化粒ごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊含む。ローム粒ごくわずか含む。

128号土坑



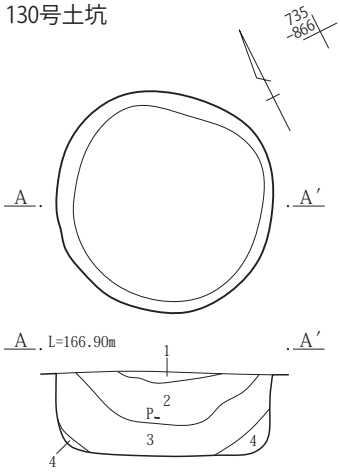
128号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒・15～40㎜程のローム塊含む。炭化物粒わずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。ローム塊・ローム粒わずか含む。

129号土坑



129号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒非常に多く、10～25㎜程のローム塊多く含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒、炭化粒ごくわずか含む。

130号土坑

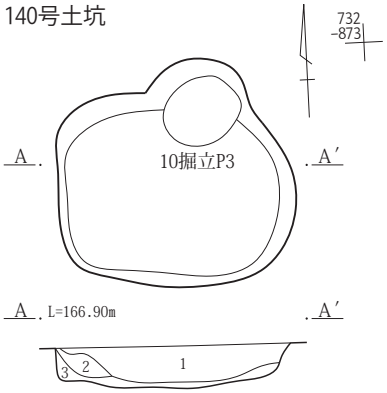


130号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒多く、ローム土含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒多く含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　炭化粒わずか、ローム塊ごくわずか、ローム粒含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒多く、ローム粒わずか含む。As-Ｃ粒塊状に含まれる部分あり。一部ややしまりなし。

0　1：40　1m

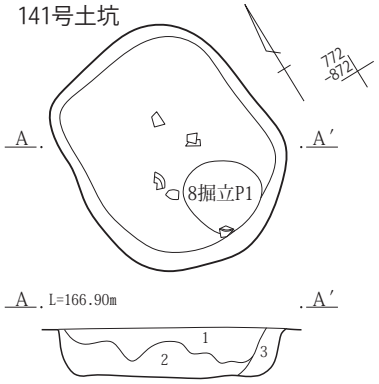
第83図　３面　Ｇ２区121・122・125・128～130号土坑

140号土坑



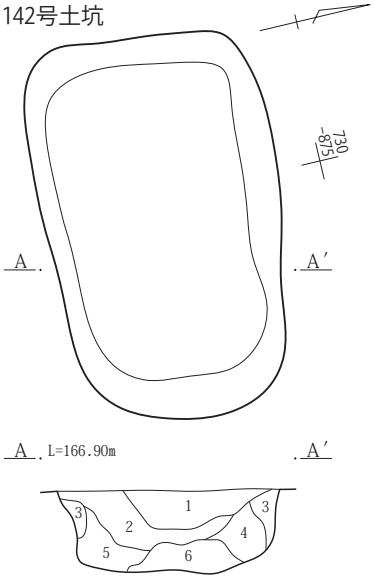
140号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒多く含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒わずか含む。ややしまりなし。

141号土坑



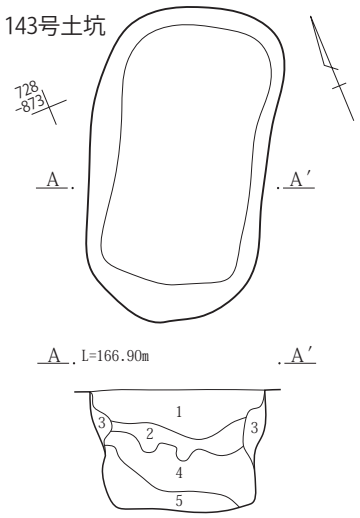
141号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　1～2㎜程の礫・ローム粒・As-C粒わずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。ローム塊多く、ローム粒わずか含む。一部ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土多く、ローム粒ごくわずか含む。ややしまりなし。

142号土坑



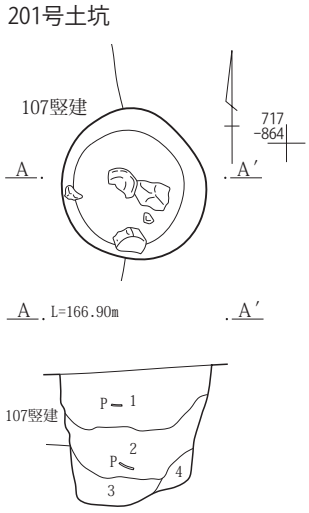
142号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　2～3㎜程の礫・ローム粒多く、ローム土・1～3㎝程のローム塊わずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　2～3㎜程の礫・ローム粒多く、ローム土わずか、炭化粒ごくわずか含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)含む。1～2㎜程の礫・ローム粒ごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土多く、ローム塊・ローム粒・炭化粒わずか、5㎝程のローム塊含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　1～2㎜程の礫・ローム粒含む。ローム塊ごくわずか含む。
6　黒褐色土(10YR2/3)　1～3㎝程のローム塊多く、ローム粒わずか含む。

143号土坑



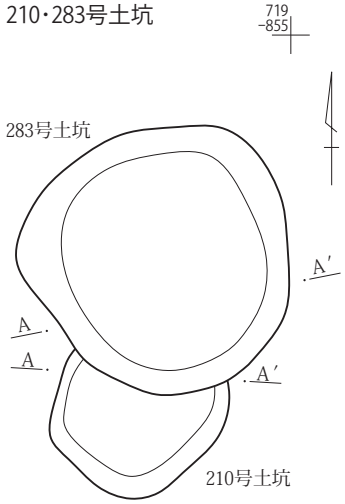
143号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒含む。3～5㎝程のローム塊・As-C粒わずか、炭化粒ごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。ローム塊・ローム粒・As-C粒多く、2～7㎝程のローム塊わずか含む。ややしまりなし。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土。ローム粒ごくわずか含む。
4　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)含む。ローム塊・ローム粒非常に多く、2～7㎝程のローム塊・As-C粒多く、炭化粒わずか含む。ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒・As-C粒含む。ややしまりなし。

201号土坑

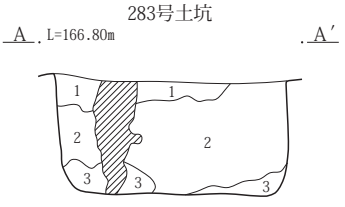


201号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒非常に多く、炭化粒多く含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土わずか、ローム塊ごくわずか、ローム粒・As-C粒含む。一部ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒ごくわずか含む。一部ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土多く含む。ややしまりなし。

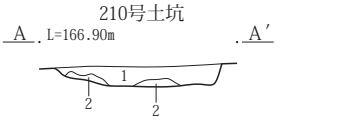
210・283号土坑



283号土坑



210号土坑



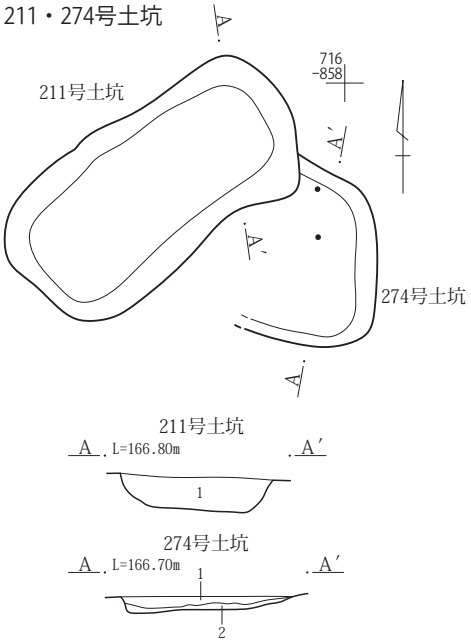
210号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土多く、ローム粒・As-C粒ごくわずか含む。

283号土坑
1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・As-C粒・As-YP粒・炭化粒ごくわずか含む。一部ややしまりなし。
2　褐色土(10YR4/6)　塊状で黒褐色土(10YR2/3)・ローム塊含む。ローム粒・As-YP粒非常に多く、大粒のローム粒多く、炭化物わずか、As-C粒ごくわずか含む。一部ややしまりなし。
3　褐色土(10YR4/6)　暗褐色土(10YR3/4)・ローム塊・大粒のローム粒・ローム粒・As-YP粒、炭化粒ごくわずか含む。一部ややしまりなし。

0　1：40　1m

第84図　３面　Ｇ２区140～143・201・210・283号土坑

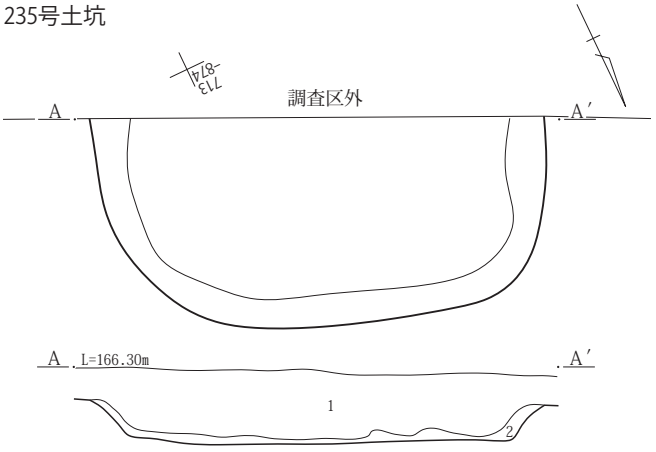
211・274号土坑



211号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒多く、ローム土含む。

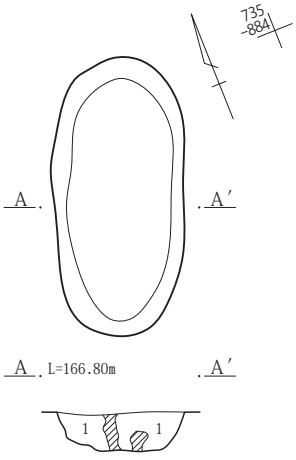
274号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒多く、ローム粒わずか含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)含む。As-Ｃ粒ごくわずか含む。

235号土坑



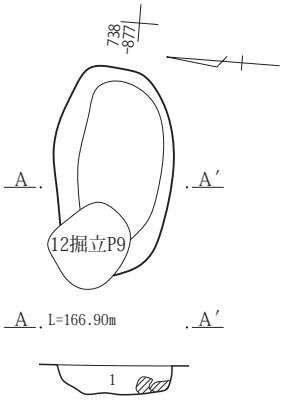
235号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・大粒のAs-Ｃ粒多く含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。ローム粒・As-Ｃ粒ごくわずか含む。

237号土坑



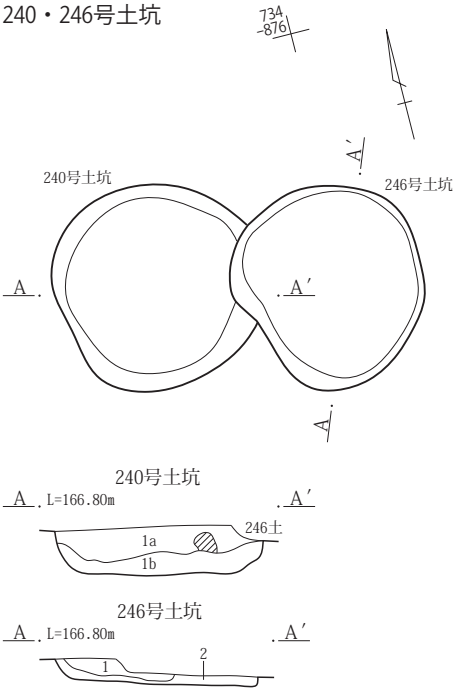
237号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土に褐色土塊わずかに含む。

238号土坑



238号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土に褐色土塊わずかに含む。

240・246号土坑



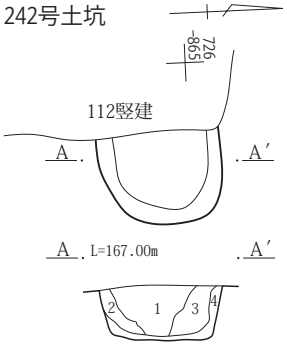
240号土坑
1a　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土。夾雑物少ない。
1b　1a層にローム小塊含む。

246号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒わずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土、ローム塊・大粒のローム粒・As-Ｃ粒含む。

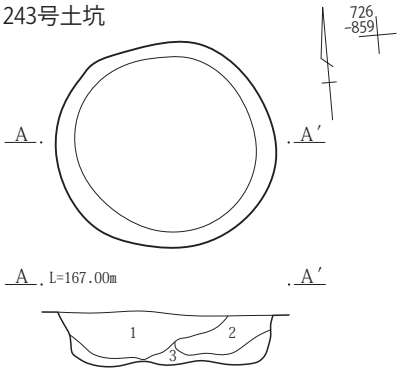
0　1：40　1m

第85図　３面　Ｇ２区211・235・237・238・240・246・274号土坑

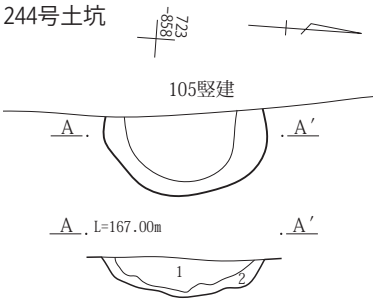
242号土坑



243号土坑



244号土坑

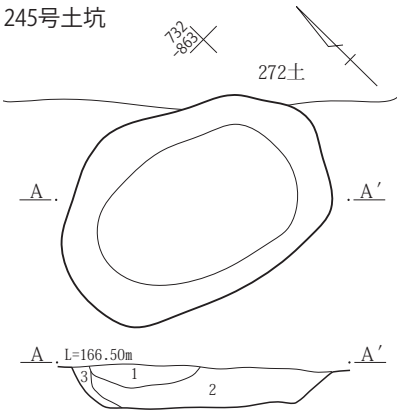


242号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒多く、ローム土わずか、ローム塊・ローム塊ごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒多く、ローム粒ごくわずか含む。一部ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土･As-C粒わずか、ローム粒ごくわずか含む。一部ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。As-C粒わずか、ローム粒･大粒のAs-C粒ごくわずか含む。

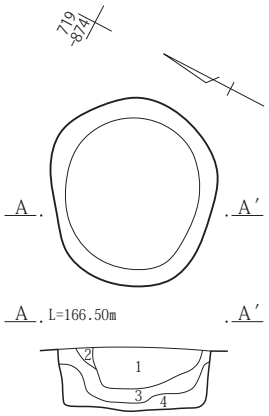
243号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒多く、ローム土含む。As-C粒わずか、炭化物ごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊含む。大粒のローム塊・ローム粒・As-C粒わずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒・As-C粒多く含む。

244号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒多く、ローム粒わずか、ローム塊ごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。As-C粒わずか、ローム粒ごくわずか含む。

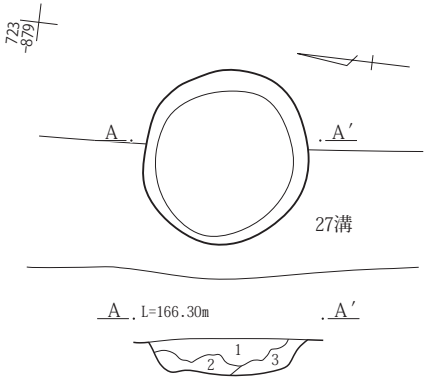
245号土坑



248号土坑



249号土坑

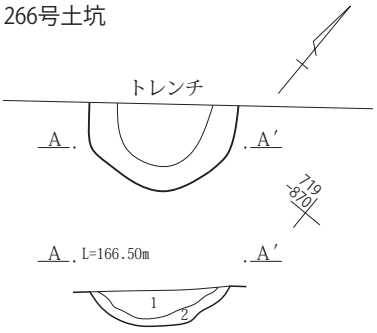


245号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土･ローム塊･ローム粒含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　大粒のローム粒非常に多く、ローム土・ローム塊多く含む。
3　褐色土(10YR4/6)　大粒のローム粒非常に多く、ローム塊ごくわずか、As-YP含む。

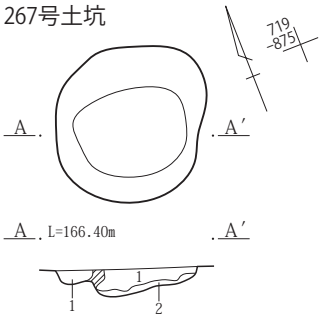
248号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒非常に多く、ローム土、ローム粒わずか含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土含む。As-C粒わずか、ローム粒ごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・As-C粒含む。炭化物わずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土多く、As-C粒含む。ローム塊わずか、ローム粒ごくわずか含む。

249号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒多く、ローム土・ローム粒・炭化粒ごくわずか含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土多く、ローム粒・As-C粒わずか含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・As-C粒多く、ローム粒わずか含む。

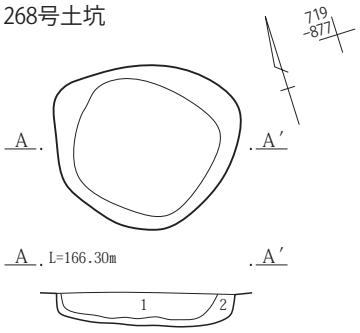
266号土坑



267号土坑



268号土坑



266号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒わずか、ローム粒ごくわずか含む。一部ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土わずか、大粒のローム粒・As-C粒ごくわずか含む。一部ややしまりなし。

267号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・大粒のAs-C粒ごくわずか含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土多く、黒褐色土(10YR2/3)含む。ローム粒・As-C粒ごくわずか含む。

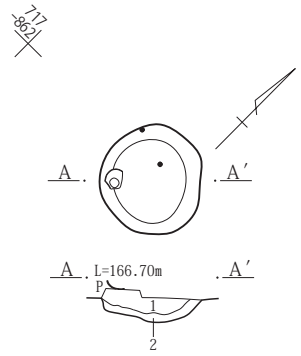
268号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒多く、ローム塊ごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土含む。ローム塊･ローム粒・As-C粒ごくわずか含む。

第86図　３面　Ｇ２区242～245・248・249・266～268号土坑

0　1：40　1m

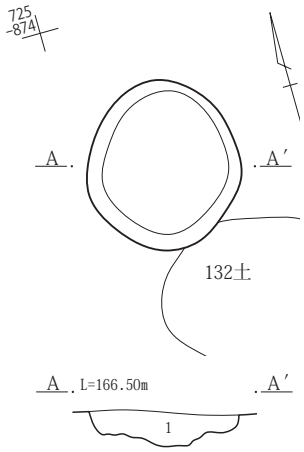
Ｇ２区３面

275号土坑



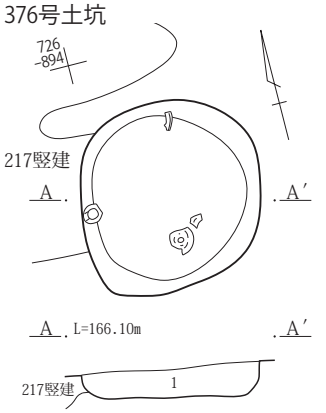
275号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒含む。ローム粒ごくわずか含む。一部ややしまりなし。
2　暗褐色土(10YR3/4)　As-Ｃ粒ごくわずか含む。一部ややしまりなし。

288号土坑



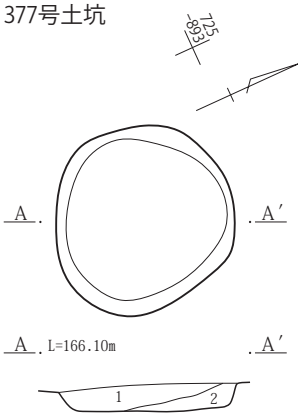
288号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ多量、にぶい黄褐色塊土・黄褐色粒少量含む。

376号土坑



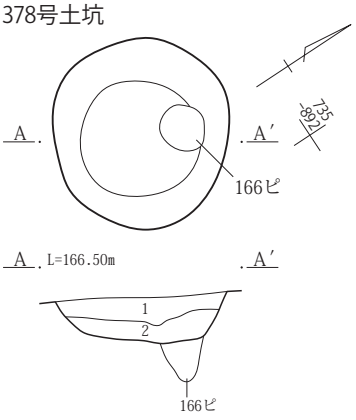
376号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・灰白色粒少量、小礫・遺物を含む。しまり弱、粘性あり。

377号土坑



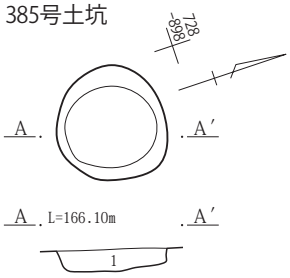
377号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ少量、ローム約５㎜～10㎝塊を含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-Ｃ少量含む。しまり弱、粘性あり。

378号土坑



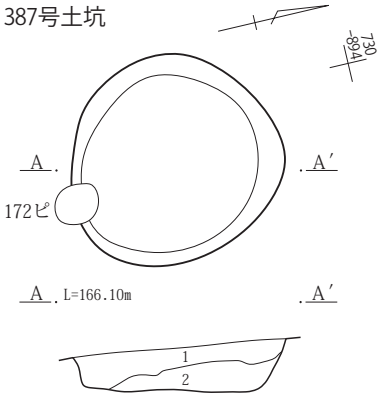
378号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-Ｃ少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　暗褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。

385号土坑



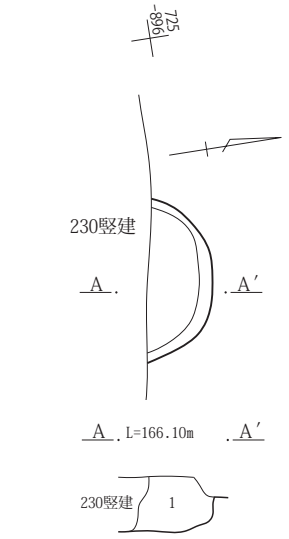
385号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒多量、As-Ｃ・灰白色粒少量含む。しまり・粘性あり。

387号土坑



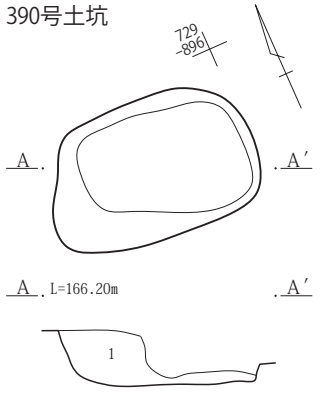
387号土坑A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ多量含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約１㎝塊多量、As-Ｃ少量含む。しまり弱、粘性あり。

388号土坑



388号土坑A-A′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約１㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。

390号土坑



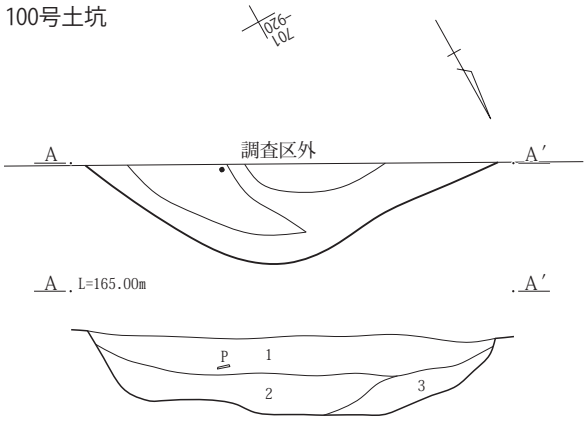
390号土坑A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約５㎜塊少量含む。しまり・粘性あり。

0　1：40　1m

第87図　３面　Ｇ２区275・288・376～378・385・387・388・390号土坑

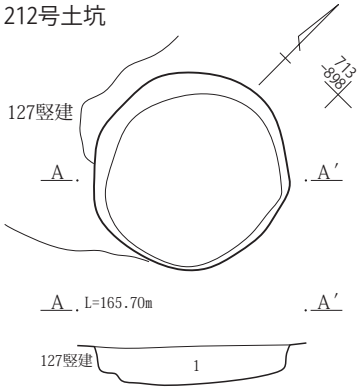
Ｇ３区３面

100号土坑



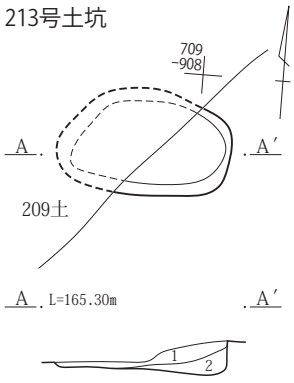
100号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ・にぶい黄橙色粒・炭化物・焼土粒少量、遺物を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-Ｃ・にぶい黄橙色粒少量含む。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。

212号土坑



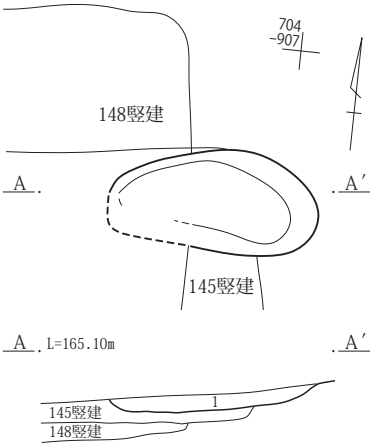
212号土坑
1　10YR3/2黒褐色土　As-Ｃ・焼土粒少量、炭化物粒・黄橙色粒若干含む。

213号土坑



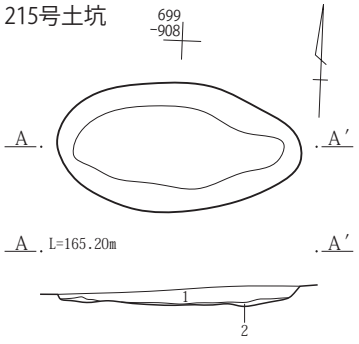
213号土坑
1　黒色土(10YR2/1)　炭化物小片主体、灰を含む。しまり・粘性弱。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒・焼土粒を含む。しまり弱、粘性あり。

214号土坑



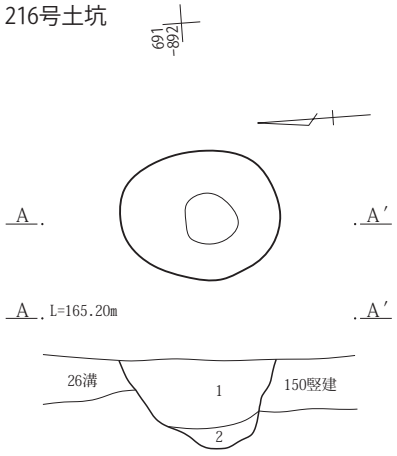
214号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　炭化物小片多量、As-Ｃを含む。しまりやや弱、粘性あり。

215号土坑



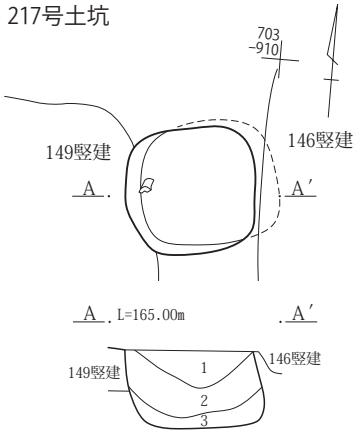
215号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ・炭化物粒多量、黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　黒褐色土10％程、As-Ｃ若干含む。

216号土坑



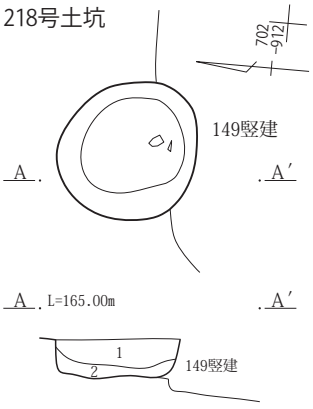
216号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ少量、黄橙色粒・炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色土30％程、As-Ｃ若干含む。しまりあまりなし。

217号土坑



217号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小～大塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。

218号土坑

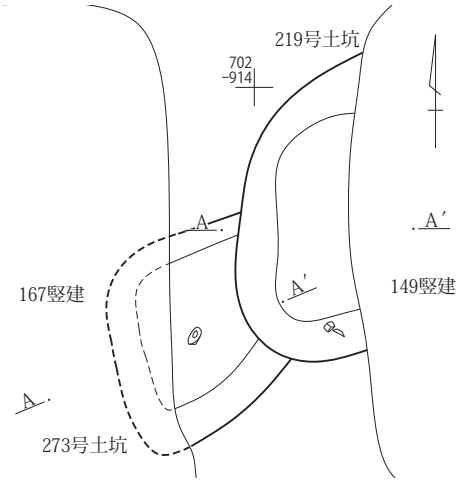


218号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-Ｃ少量、小礫を含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒を含む。しまり・粘性あり。

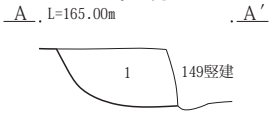
0　1：40　1m

第88図　３面　Ｇ３区100・212～218号土坑

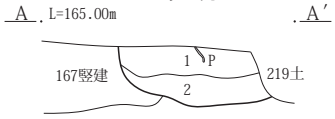
219・273号土坑



219号土坑



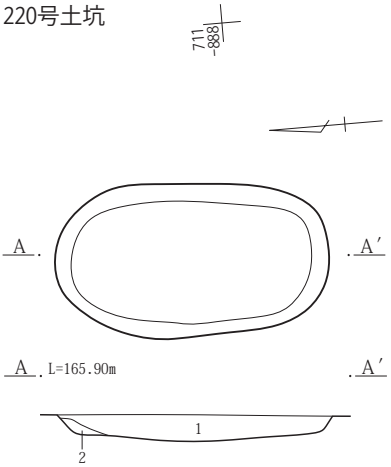
273号土坑



219号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C 多量、にぶい黄褐色小塊少量含む。しまり・粘性あり。

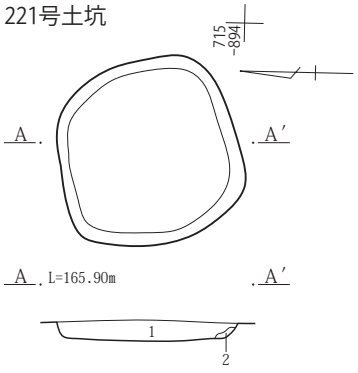
273号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 少量、炭化物粒・焼土粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土・As-C 少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。

220号土坑



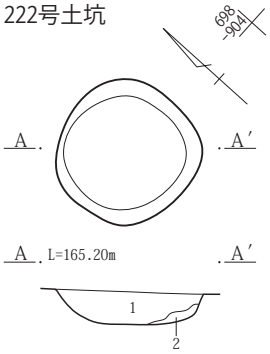
220号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 多量、黄褐色塊土少量、焼土粒若干含む。しまりややあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　As-C 若干、黒褐色土10%程含む。しまりあまりなし。

221号土坑



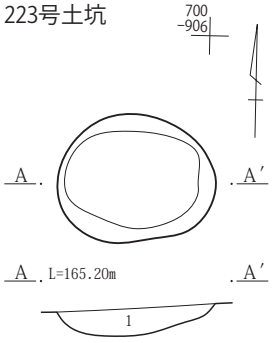
221号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・黄褐色粒・焼土粒少量含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 若干、黄褐色土10%程含む。しまりあまりなし。

222号土坑



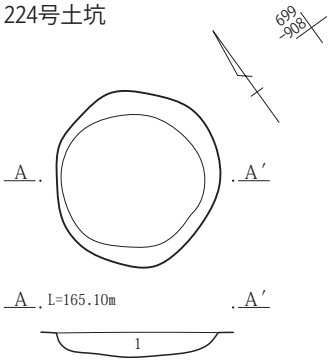
222号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 多量、黄褐色塊土・炭化物粒若干含む。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　黒褐色土30%程、As-C 若干含む。しまりあまりなし。

223号土坑



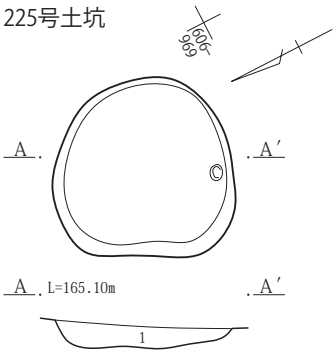
223号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 多量、黄褐色粒・炭化物粒若干含む。しまりあり。

224号土坑



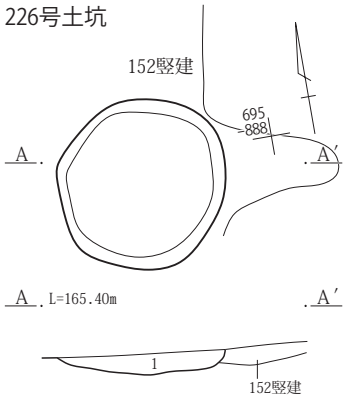
224号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 多量、黄褐色粒・炭化物粒若干含む。しまりあり。

225号土坑



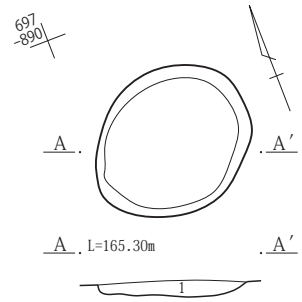
225号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C 多量、黄褐色粒少量、ローム塊含む。しまりややあり。

226号土坑



226号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C 少量、小礫を含む。しまり・粘性あり。

227号土坑

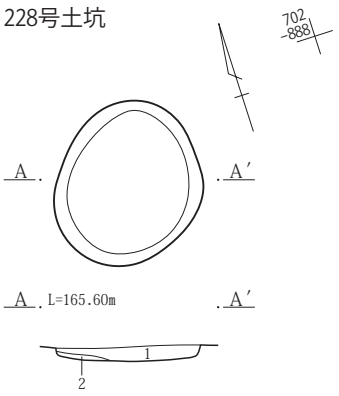


227号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊・にぶい黄橙小粒少量含む。しまり弱、粘性あり。

0　1：40　1m

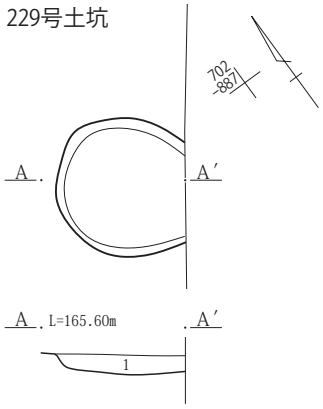
第89図　３面　Ｇ３区219～227・273号土坑

228号土坑



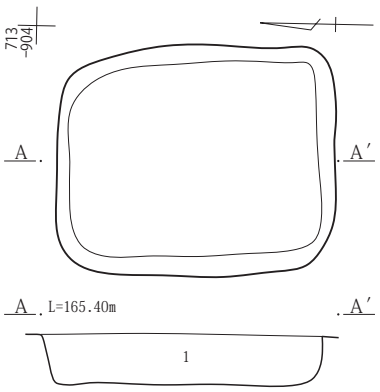
228号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、黄橙色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。
2　黄褐色土(10YR5/6)　黒褐色土10%程、As-C若干含む。しまりあまりなし。

229号土坑



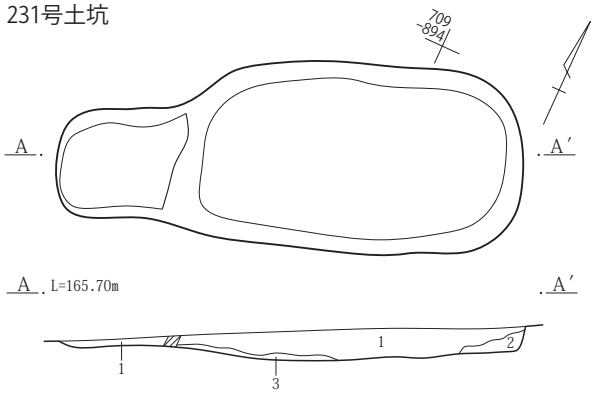
229号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・黄橙色粒少量含む。しまりあまりなし。

232号土坑



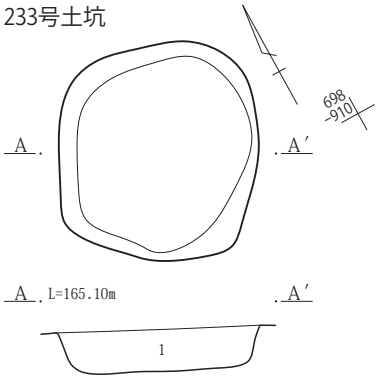
232号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄褐色塊土・As-C多量、にぶい黄褐色粒少量、焼土粒若干含む。しまりややあり。

231号土坑



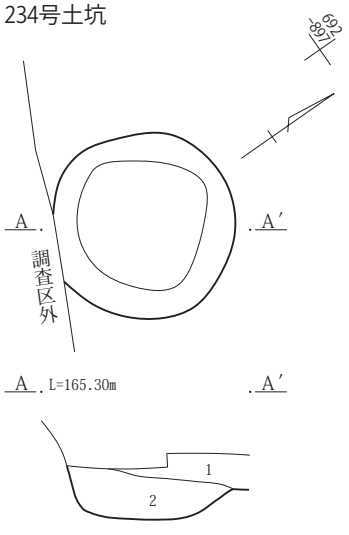
231号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、黄褐色塊土少量、黄橙色粒・炭化物粒若干。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色土30%程、As-C若干含む。しまりあまりなし。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　黒褐色土10%程、As-C若干含む。しまりややあり。

233号土坑



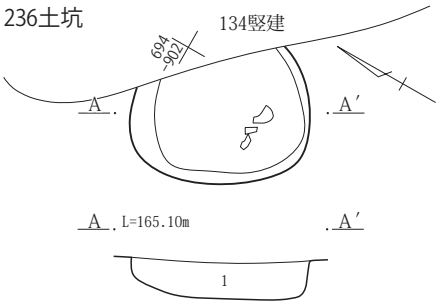
233号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄橙色粒少量、焼土粒・炭化物粒若干含む。しまりややあり。

234号土坑



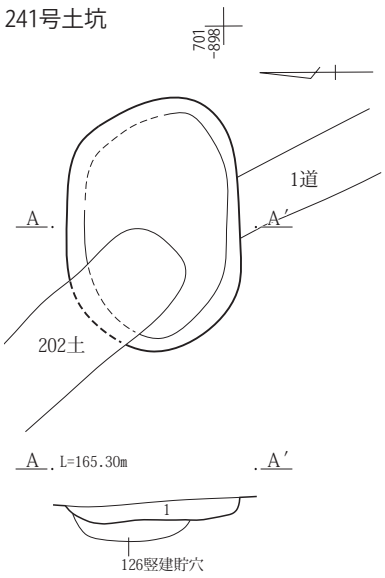
234号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、黄褐色塊土少量、炭化物粒若干含む。しまりややり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色塊土・にぶい黄褐色塊土・焼土粒若干含む。

236土坑



236号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊・粒少量、遺物を含む。しまりやや弱、粘性あり。

241号土坑

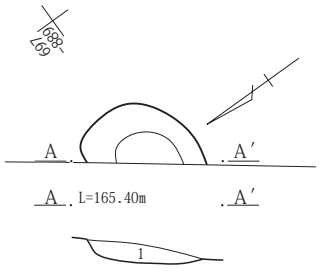


241号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒多量、焼土粒少量含む。しまり強、粘性あり。

0　1：40　1m

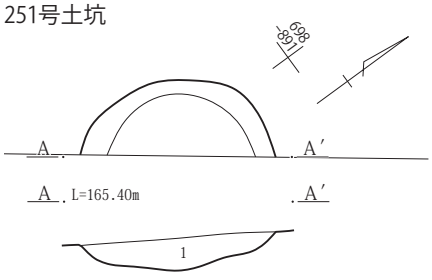
第90図　３面　Ｇ３区228・229・231～234・236・241号土坑

250号土坑



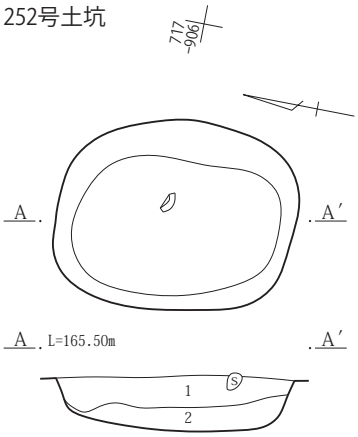
250号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C 少量含む。しまり・粘性あり。

251号土坑



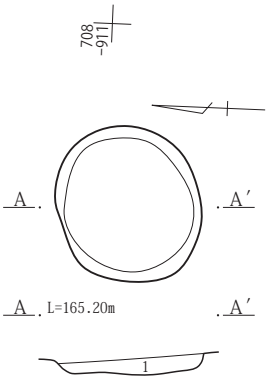
251号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C 少量含む。しまり・粘性あり。

252号土坑



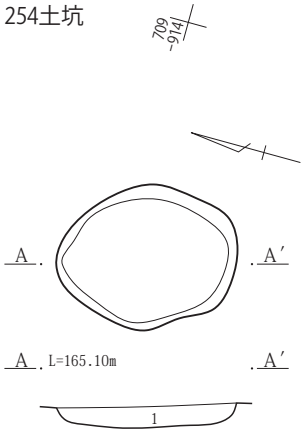
252号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C 多量、黄褐色塊土若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色粒・As-C 少量、ローム塊土若干含む。しまりややあり。

253号土坑



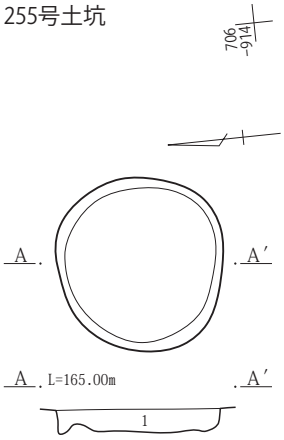
253号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C 少量、黄褐色粒・にぶいローム塊土若干含む。しまりややあり。

254土坑



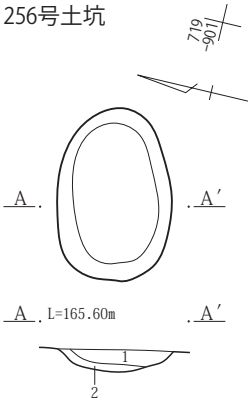
254号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C 少量、黄褐色粒若干含む。しまりややあり。

255号土坑



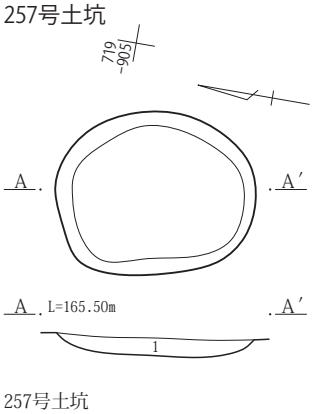
255号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒若干含む。しまりなし。

256号土坑



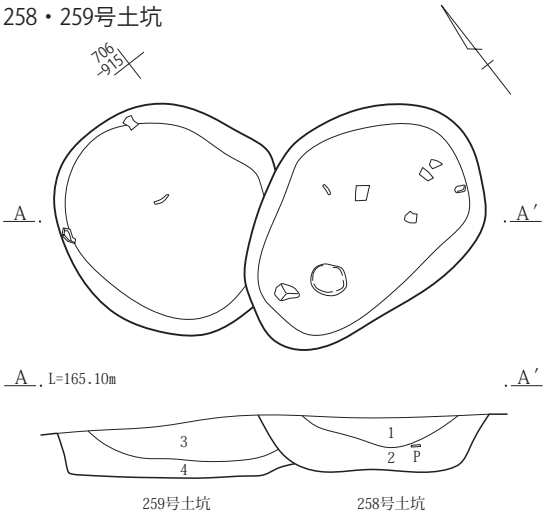
256号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 少量、黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊土多量、As-C 若干含む。しまりあまりなし。

257号土坑



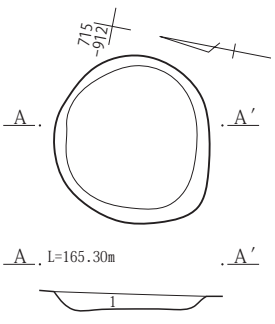
257号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C 少量、黄褐色粒・にぶいローム塊土若干含む。

258・259号土坑



258・259号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄橙色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　炭化物微量、ローム小塊・粒・遺物を含む。しまり弱、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　２層に類似、ローム小塊少量､炭化物を含む｡しまり弱､粘性あり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム大塊を含む。しまり・粘性あり。

260号土坑

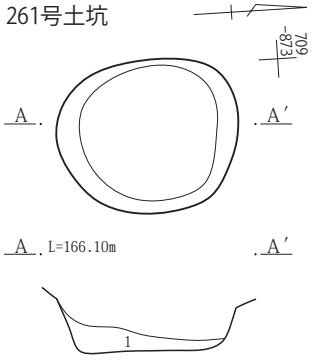


260号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C 多量、黄褐色粒若干含む。しまりややあり。

0　1：40　1m

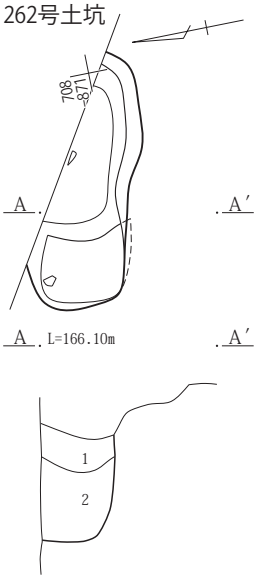
第91図　３面　Ｇ３区250～260号土坑

261号土坑



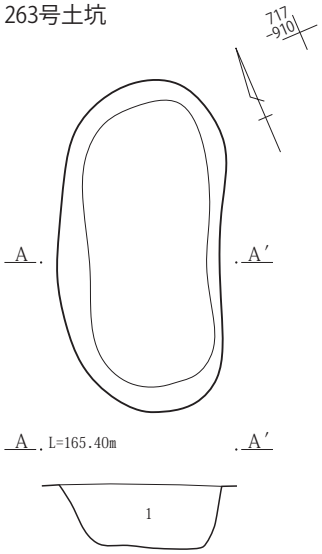
261号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊・粒多量含む。しまり・粘性あり。

262号土坑



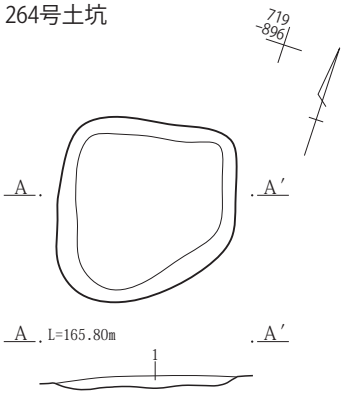
262号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・遺物を含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　ローム小塊多量含む。しまり弱、粘性あり。

263号土坑



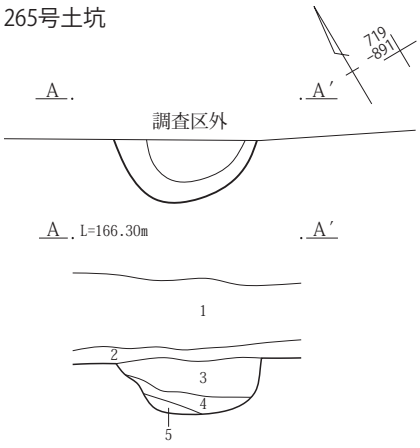
263号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・黄褐色塊土少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。

264号土坑



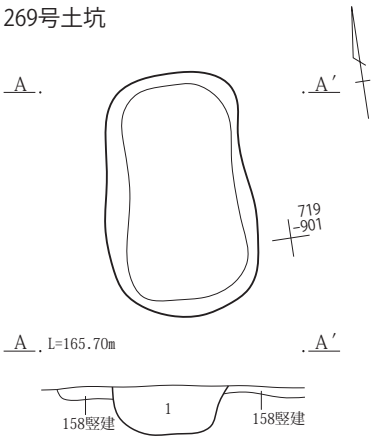
264号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・粒・灰白色軽石約５㎝少量含む。しまり・粘性あり。

265号土坑



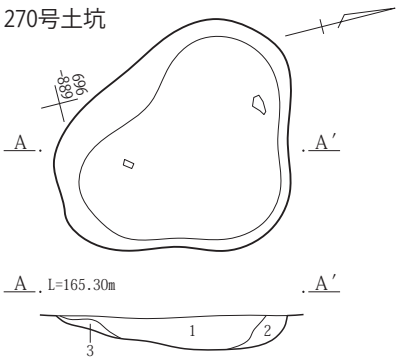
265号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-B混土、しまりあり、粘性なし。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C・ローム粒を含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒･炭化物少量、ローム小～大塊を含む。しまり強、粘性あり。
4　黒褐色土(10YR2/2)　３層よりローム小～大塊･粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。

269号土坑



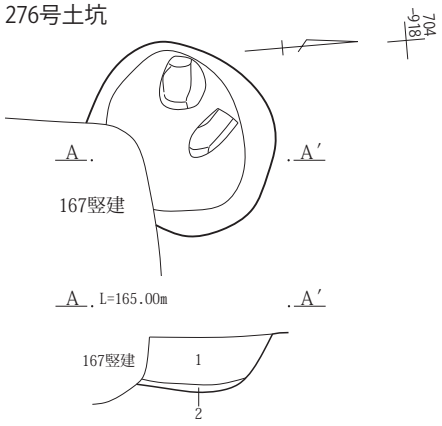
269号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色粒・黄褐色塊土多量、As-C少量含む。しまりややあり。

270号土坑



270号土坑SP. A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量､ローム小塊･遺物を含む。しまりあり､粘性なし。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約１㎝塊、明黄褐色土粒・にぶい黄橙色粒少量含む。しまり弱。粘性強。
3　黄褐色土(10YR5/6)　As-C少量、黒褐色土を含む。しまり・粘性あり。

276号土坑

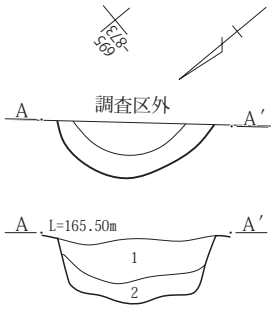


276号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量、黄褐色粒・焼土粒･炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・黄橙色粒若干含む。しまりややあり。

0　1：40　1m

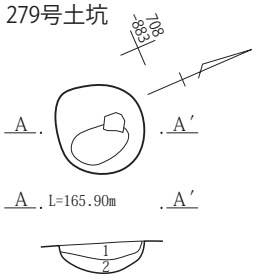
第92図　３面　Ｇ３区261～265・269・270・276号土坑

277号土坑



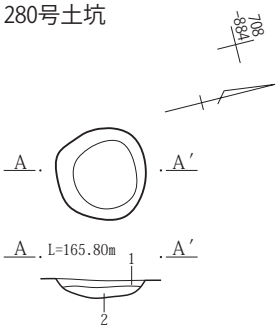
277号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C 少量、しまりややあり、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１㎝塊少量、しまりやや弱、粘性あり。

279号土坑



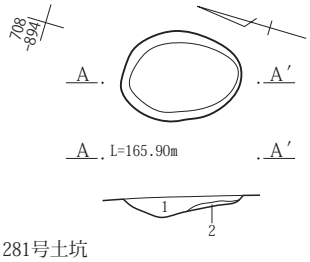
279号土坑
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-C 少量、ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　小礫を含む。しまりやや弱、粘性あり。

280号土坑



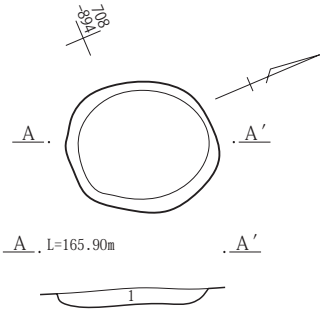
280号土坑
1　黒褐色土(75YR3/1)　As-C少量、ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。

281号土坑



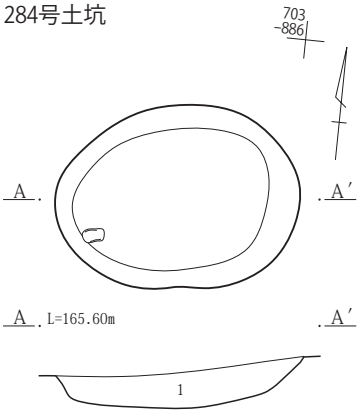
281号土坑
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-C 少量、ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・粒を含む。しまり・粘性あり。

282号土坑



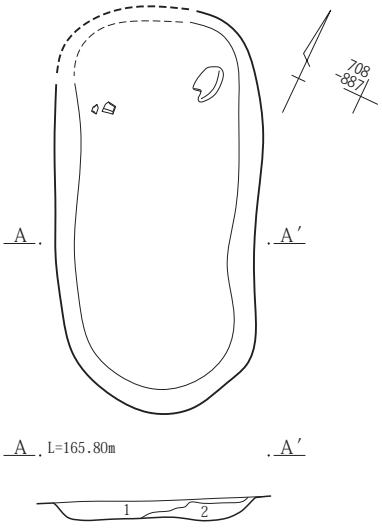
282号土坑
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-C 少量、ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。

284号土坑



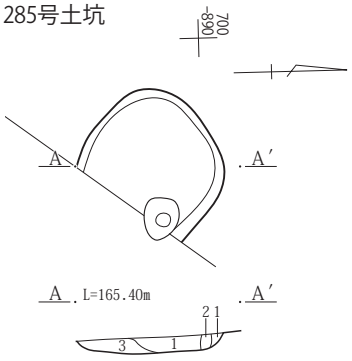
284号土坑SP. A-A′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C 多量、ローム小塊少量、小礫を含む。しまりややあり、粘性あり。

286号土坑



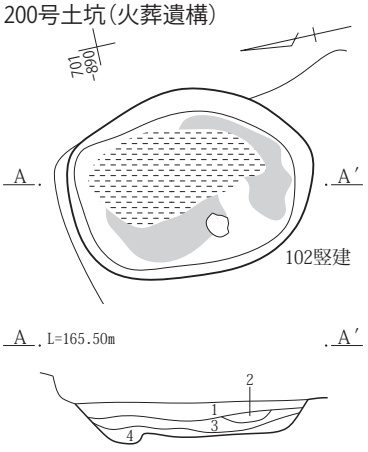
286号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　褐色土小塊多量含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/3)　にぶい黄橙色粒・明褐色粒少量含む。しまりやや弱、粘性あり。

285号土坑



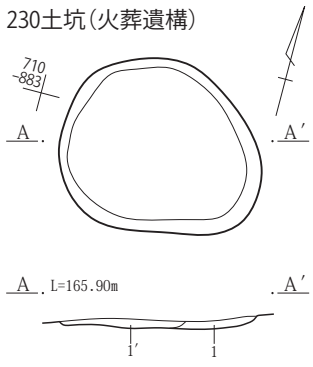
285号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　灰白色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊・粒多量含む。しまりややあり、粘性あり。
3　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊、しまり弱、粘性あり。

200号土坑(火葬遺構)



200号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　砂質土、焼土粒・炭化物多量含む。しまり・粘性弱。
2　黒褐色土(10YR3/1)　焼土小塊・粒・炭化物多量含む。しまり弱、粘性あり。
3　橙色土(7.5YR6/6)　焼土塊、しまりあり、粘性弱。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　しまり強、粘性あり。

230土坑(火葬遺構)



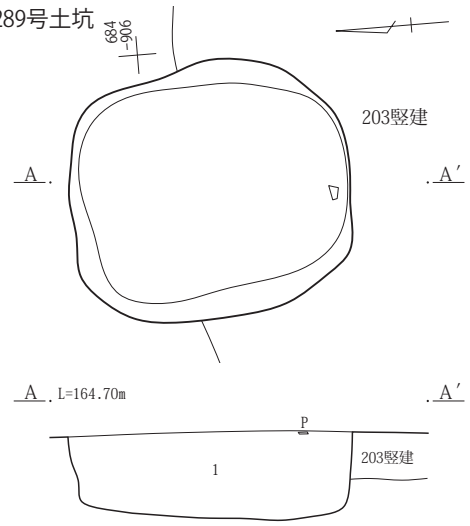
230号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 多量、炭化物粒少量、黄橙色粒若干含む。
1′　1層に炭化物粒を大量に含む。

0　1：40　1m

第93図　３面　G３区277・279～282・284～286号土坑、200・230号土坑(火葬遺構)

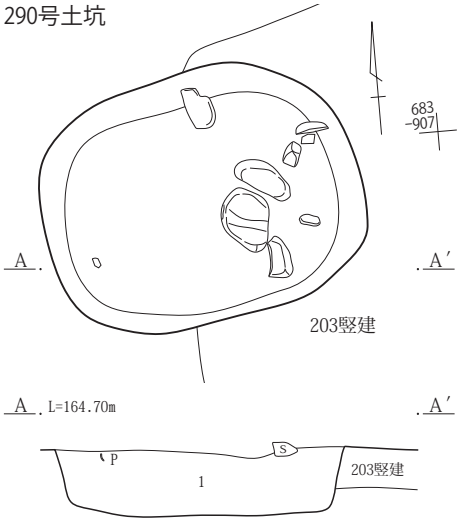
Ｇ４区３面

289号土坑



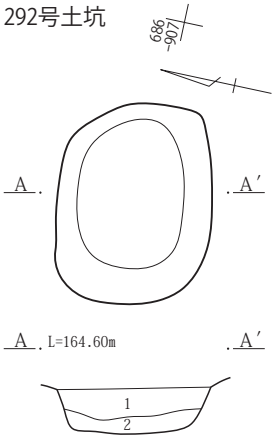
289号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　径１～10㎝程の黄褐色塊土多量、炭化物粒・As-Ｃ若干含む。しまりややあり。

290号土坑



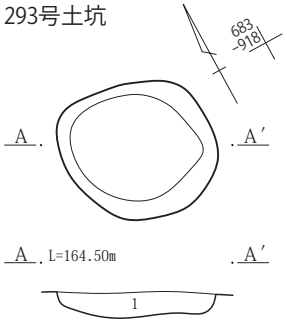
290号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　径１～５㎝程の黄褐色塊土多量、As-Ｃ少量含む。しまりあり。

292号土坑



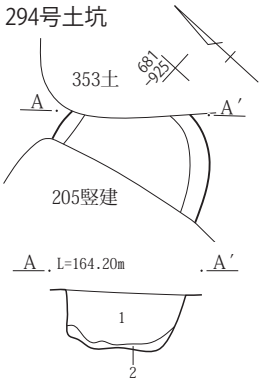
292号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　焼土塊土・As-YP粒・黄褐色塊土少量含む。しまりあまりなし。

293号土坑



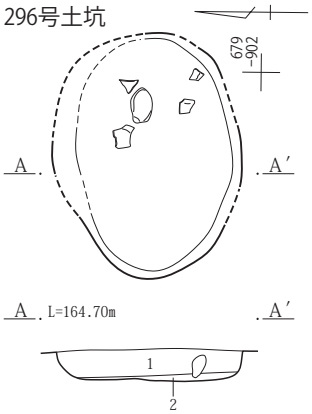
293号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ多量、黄褐色粒若干含む。しまりあり。

294号土坑



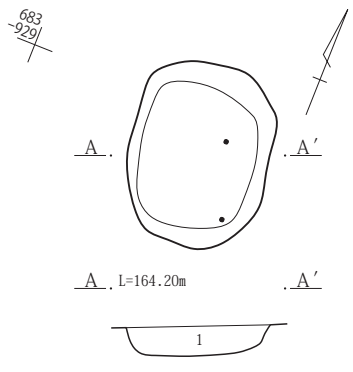
294号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ多量、黄褐色塊土少量、炭化物粒若干含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土少量含む。

296号土坑



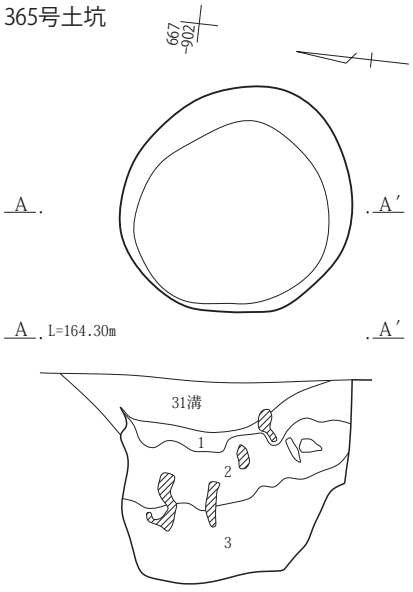
296号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ多量、黄褐色粒少量含む。
2　黒色土(10YR2/1)　炭化物粒・焼土粒多量、As-Ｃ少量含む。しまりあり。

298号土坑



298号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ多量、黄褐色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。

365号土坑

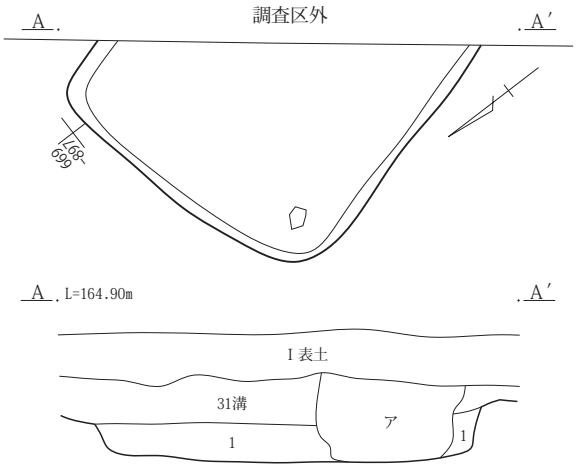


365号土坑
1　褐色土(10YR)　As-Ｃ含む。炭化物含む。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　硬質ローム塊、ローム塊、As-YP混じり、硬くしまる。
3　黄褐色土(10YR5/6)くすんだロームにAs-YPを多量に含む。ローム中・小塊含む。

0　1：40　1m

第94図　３面　Ｇ４区289・290・292～294・296・298・365号土坑

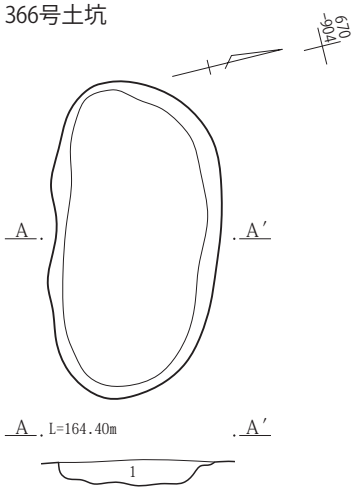
364号土坑



364号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C をやや多く、黄橙色粒若干含む。

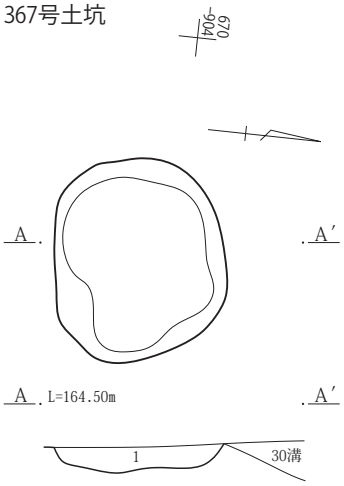
別土坑
ア　褐灰色土(10YR4/1)　As-C 極多量、ローム塊多量含む。しまり悪い。

366号土坑



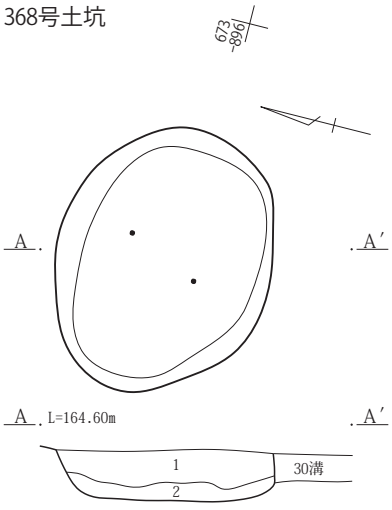
366号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C 混土。

367号土坑



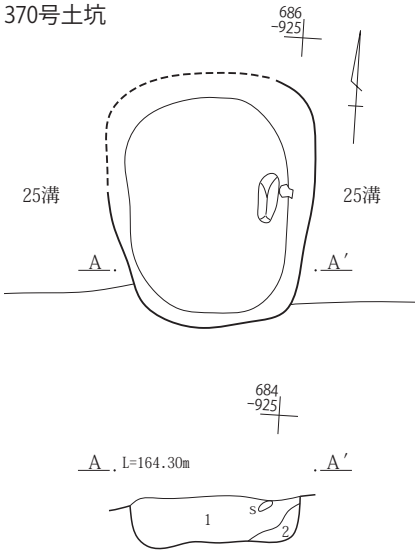
367号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C 混土。

368号土坑



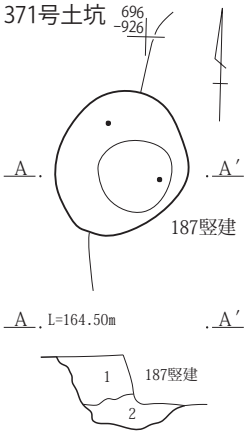
368号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒多量、黄褐色塊土若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　炭化物粒少量、As-C・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。

370号土坑



370号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C 多量、黄褐色粒若干含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　暗褐色土20%程含む。

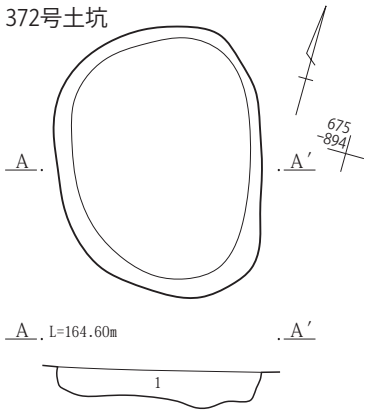
371号土坑



371号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 多量、黄褐色粒・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C 少量、炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。

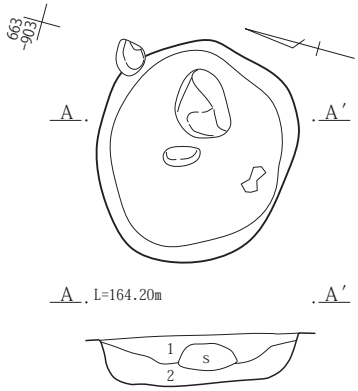
0　1：40　1m

372号土坑



372号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色土20%程、黄橙色粒少量、As-C 若干含む。しまりあまりなし。

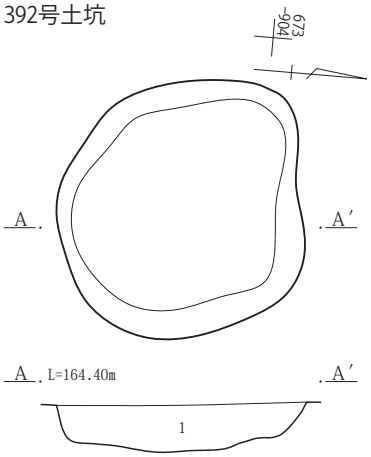
374号土坑



374号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 多量、黄褐色粒・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C 少量、炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。

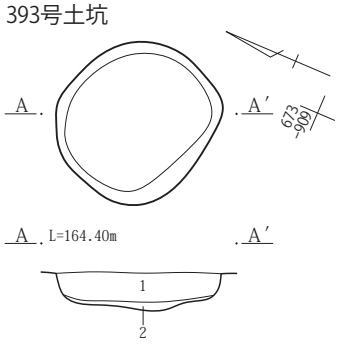
第95図　３面　G ４区364・366～368・370～372・374号土坑

392号土坑



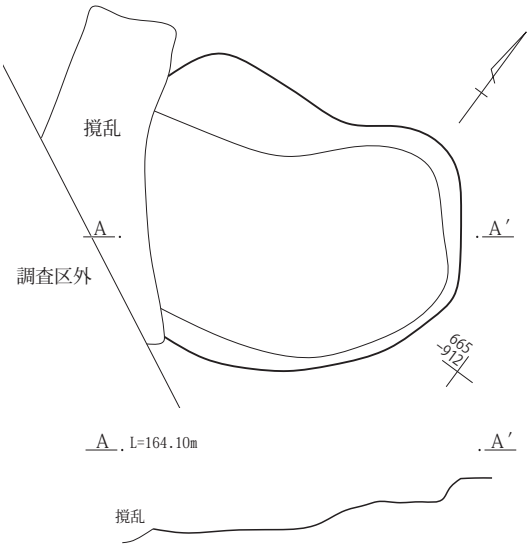
392号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊土少量、As-C・黄橙色粒若干含む。

393号土坑

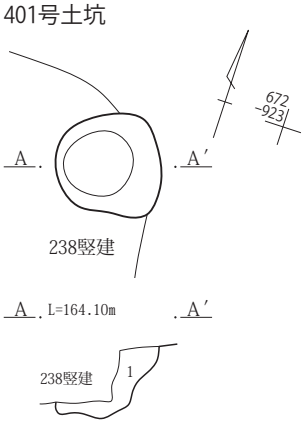


393号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄褐色粒少量含む。
2　黄褐色土(10YR5/6)　黒褐色土20%程、As-C若干含む。

394号土坑

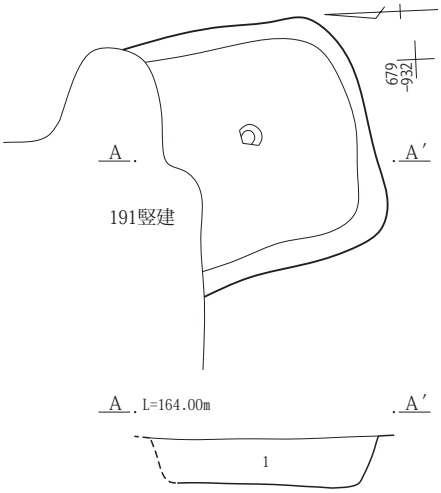


401号土坑



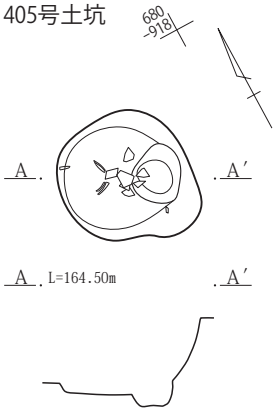
401号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、黄褐色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。

404号土坑

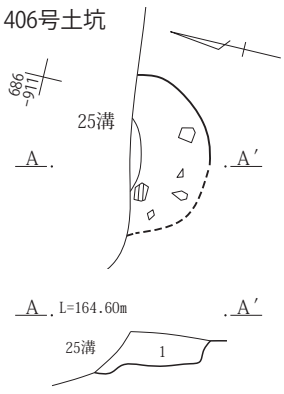


404号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄褐色塊土・黄褐色粒少量含む。

405号土坑

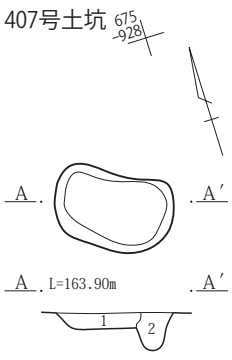


406号土坑



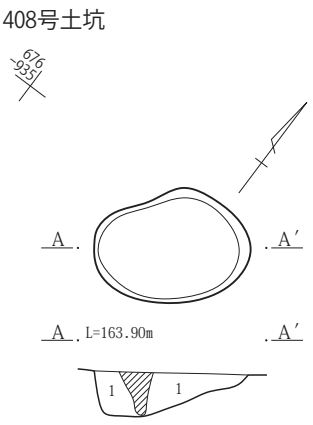
406号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄褐色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりあり。

407号土坑



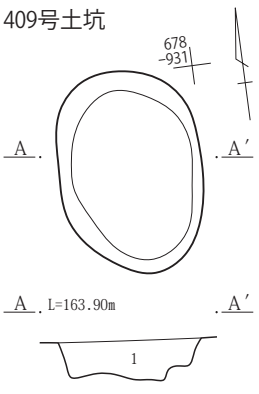
407号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、暗褐色土20%程含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒少量、As-C・焼土粒若干含む。

408号土坑



408号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒少量含む。

409号土坑

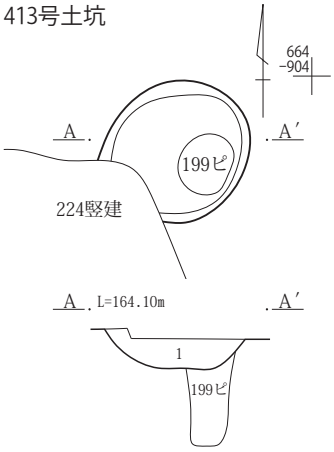


409号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　暗褐色土20%程、As-C・黄橙色粒若干含む。

0　1:40　1m

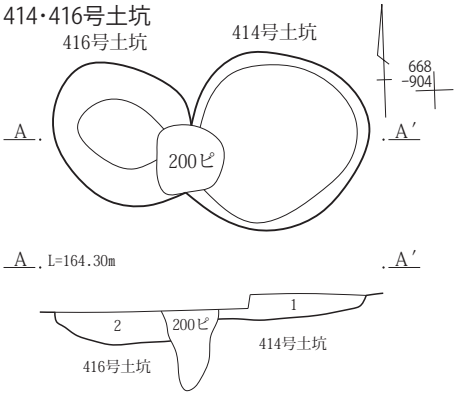
第96図　３面　G 4区392～394・401・404～409号土坑

413号土坑



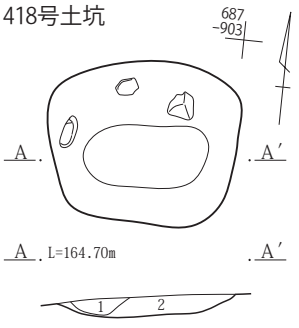
413号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒少量、As-C・黄褐色塊土若干。しまりややあり。

414・416号土坑



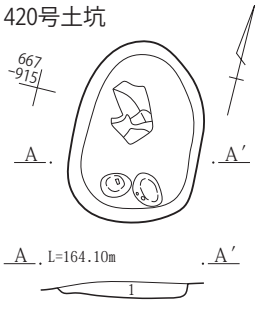
414号土坑・416号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、炭化物粒・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒・白色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。

418号土坑



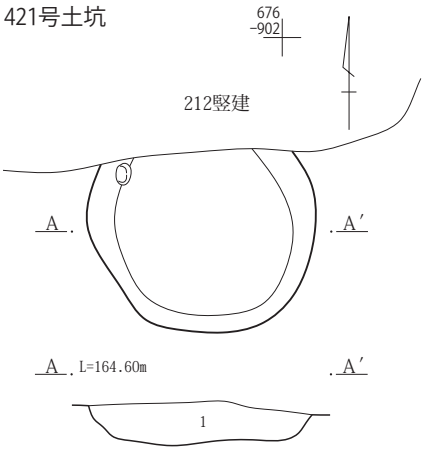
418号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒・As-C少量。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊土多量、As-C・炭化物粒若干。しまりややあり。

420号土坑



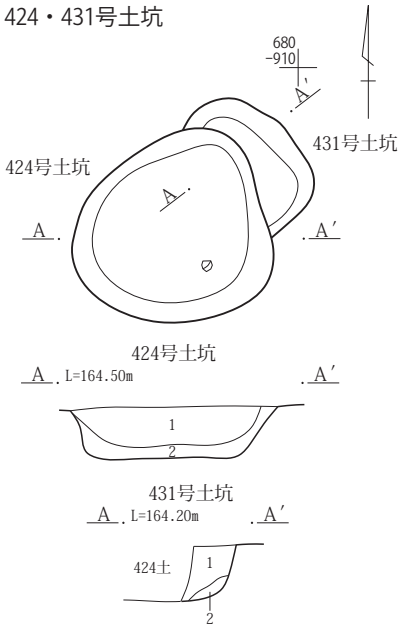
420号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊土・As-C少量含む。しまりややあり。

421号土坑



421号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄橙色粒多量含む。

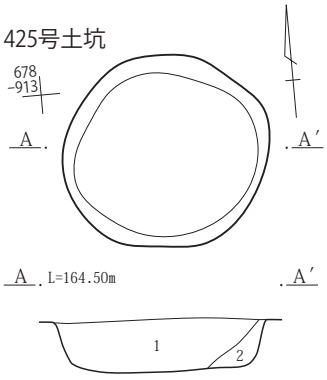
424・431号土坑



424号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄褐色粒少量含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒・黄褐色塊土若干含む。しまりややあり。

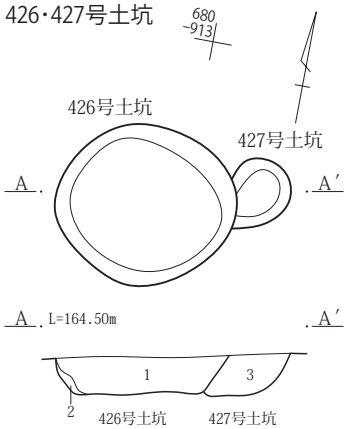
431号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量、黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C若干含む。しまりややあり。

425号土坑



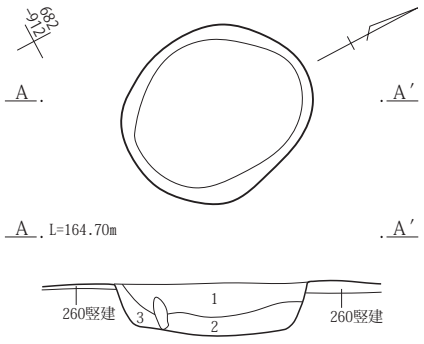
425号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄褐色粒・黄褐色塊土少量含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。

426・427号土坑



426号土坑・427号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄褐色粒・黄褐色塊土少量含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄橙色粒若干含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄褐色粒・黄褐色塊土少量、黄褐色土30%程含む。しまりややあり。

432号土坑



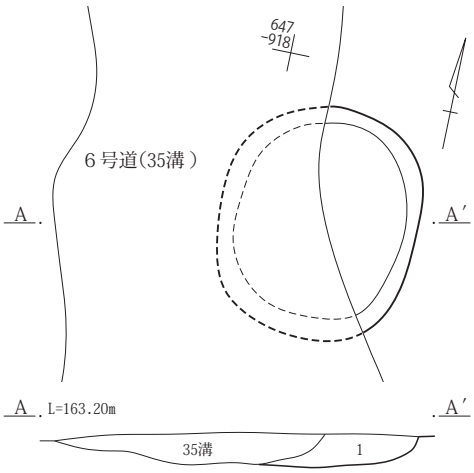
432号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量、黄褐色塊土・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒少量、As-C若干含む。しまりややあり。
3　褐色土(10YR4/4)　As-C少量、黄褐色粒若干含む。

0　1：40　1m

第97図　３面　Ｇ４区413・414・416・418・420・421・424～427・431・432号土坑

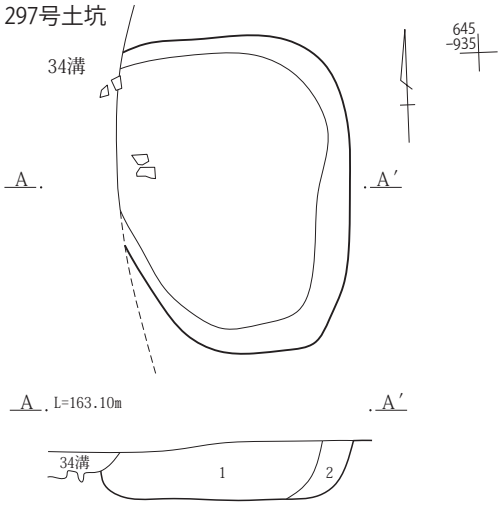
Ｇ５区３面

291号土坑



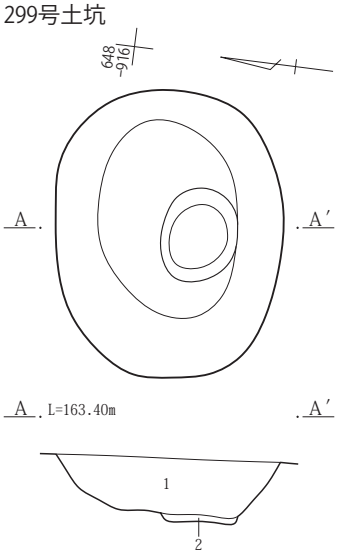
291号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　径２～７㎜程のAs-Ｃ軽石多い、径１～２㎝程のローム塊少し含む。しまりややあり。

297号土坑



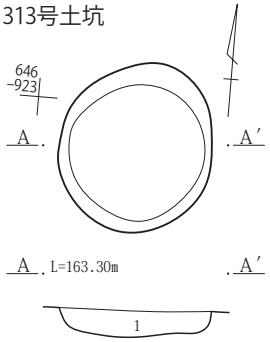
297号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ多く、炭化物・橙色粒子わずか、ローム塊ごくわずか含む。土器片含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　径１㎜程の浅黄色軽石・ローム塊わずか含む。径５～15㎜程の軽石もまれに含む。しまりあまりなし。

299号土坑



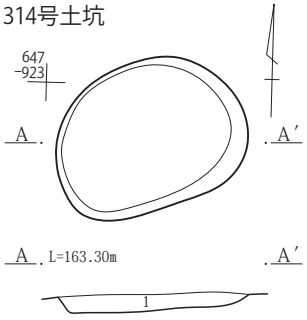
299号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　径１～４㎜ほどのAs-Ｃ多い。径１～２㎝程のローム塊やや多い。炭化物・土器片わずか含む。しまりあり。
2　黒色土(10YR2/1)　径１㎜未満の灰白粒子(軽石か)　わずか含む。しまりあり。

313号土坑



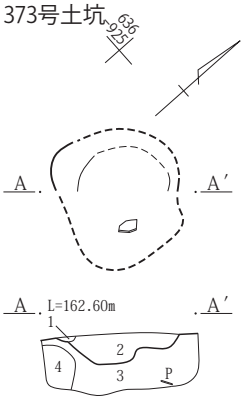
313号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　灰白灰が塊状にまとまって・径１～２㎜程の橙色粒子・径１～３㎜程の灰白・浅黄色軽石わずか、焼土は径10㎜程の塊も含む。　径５～10㎜程のローム塊少し含む。しまりあまりなし。

314号土坑



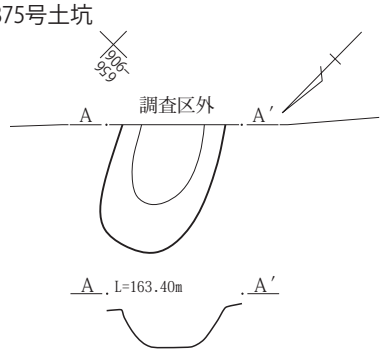
314号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　径３～５㎜程のローム塊わずか含む。径１～５㎜程の焼土粒・径１～３㎜程度の灰白・浅黄軽石少し含む。しまりややあり。

373号土坑

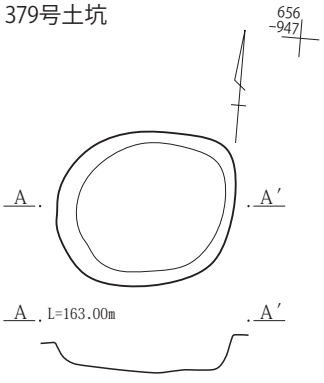


373号土坑
1　黒色土(10YR2/1)　ローム塊・焼土粒・径１㎜程の浅黄色粒子わずか含む。しまりほとんどなし。
2　黒褐色土(10YR2/2)　焼土(明赤褐色)・青灰色灰(5BG6/1)・粘土か(明黄褐色10YR6/6)が多量、下位に灰、上層に焼土(粘土)が多く含む。しまりあまりなし。
3　黒色土(10YR2/1～1.7/1)径１～５㎜程の黄褐・浅黄軽石わずか１～５㎜、ローム塊ごくわずか含む。しまり弱い。
4　黒褐色土(10YR3/1)　径１～４㎜程の浅黄軽石ごくわずか、砂粒少し含む。しまりややあり。

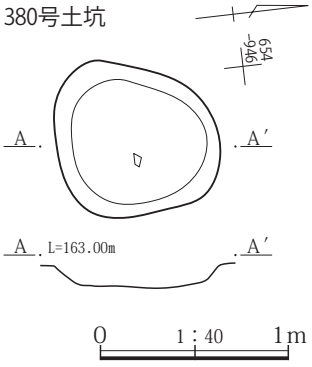
375号土坑



379号土坑

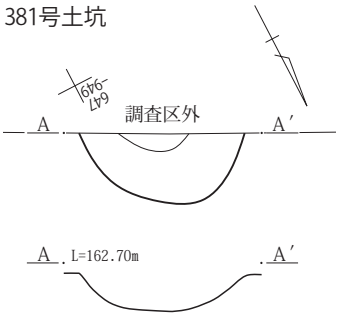


380号土坑

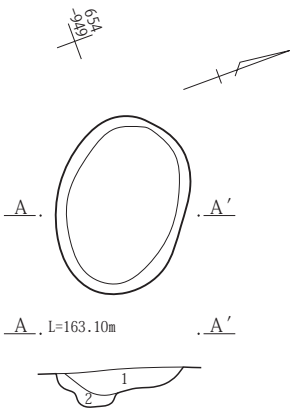


第98図　３面　Ｇ５区291・297・299・313・314・373・375・379・380号土坑

381号土坑

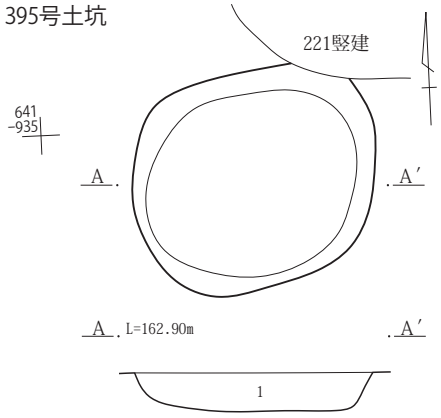


389号土坑



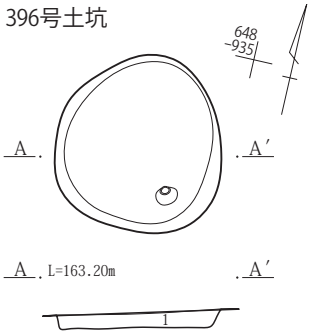
389号土坑
1　黒色土(10YR2/1)　径1～5㎜程のAs-C少し、ローム塊・径１㎜程度の橙色粒子・炭化物わずか含む。しまりややあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム塊少し、径２～４㎜程のAs-Cごくわずか、黒色土が塊状(斑状)に含む。

395号土坑



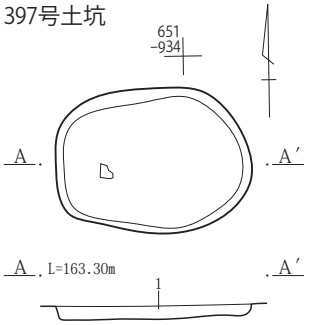
395号土坑
1　黒色土～黒褐色土(10YR2/1～2/2)　径１～３㎜程度のAs-C・径２～３㎜程の橙色粒子わずか、径５～10㎜程のローム塊ごくわずか含む。しまりややあり。

396号土坑



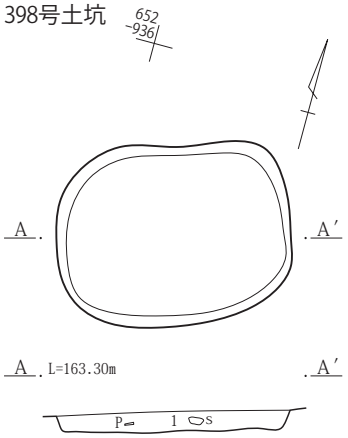
396号土坑
1　黒色土～黒褐色土(10YR2/1～2/2)　径１～３㎜程度のAs-C・径２～３㎜程の橙色粒子わずか、径５～10㎜程のローム塊ごくわずか含む。しまりややあり。

397号土坑



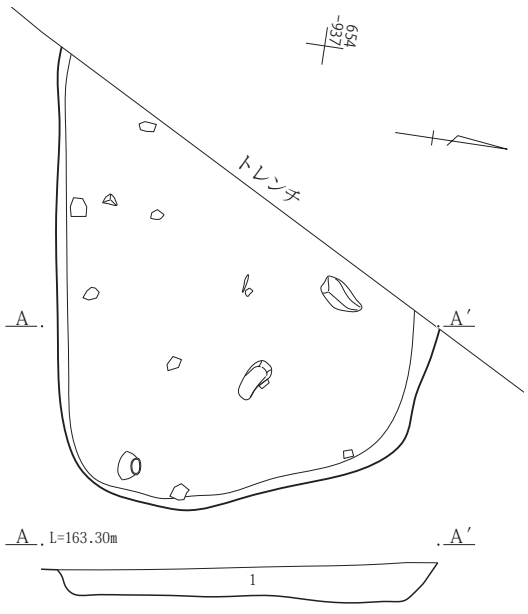
397号土坑
1　黒色土～黒褐色土(10YR2/1～2/2)　径１～３㎜程度のAs-C・径2～3㎜程の橙色粒子わずか、径５～10㎜程のローム塊ごくわずか含む。しまりややあり。

398号土坑



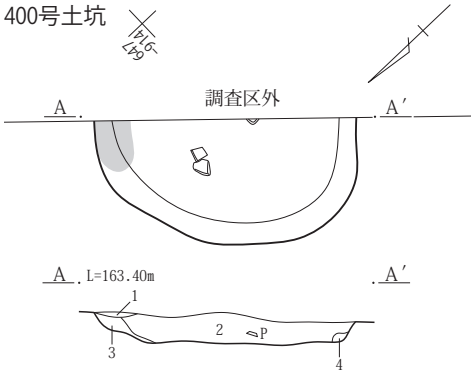
398号土坑
1　黒色土～黒褐色土(10YR2/1～2/2)　径１～３㎜程度のAs-C・径２～３㎜程の橙色粒子わずか、径５～10㎜程のローム塊ごくわずか含む。しまりややあり。

399号土坑



399号土坑
1　黒色土～黒褐色土(10YR2/1～2/2)　径１～３㎜程度のAs-C・径２～３㎜程の橙色粒子わずか、径５～10㎜程のローム塊ごくわずか含む。しまりややあり。

400号土坑

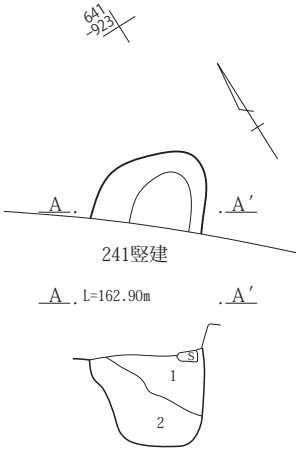


400号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊やや目立つ。径１～３㎜程の浅黄・黄褐色軽石・５～10㎜程の灰白軽石わずか含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　径２～４㎜程の灰白軽石・径５～10㎜程のローム塊わずか、土器片含む。しまりあまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/2)　２層と似る。黒色土が塊状・径１～10㎜程の焼土粒(塊)目立つ。
4　褐色土(10YR4/4)　径１～３㎜程の黄褐・浅黄軽石わずか、暗褐色土・黄褐色土が斑状に含む。

0　1：40　1m

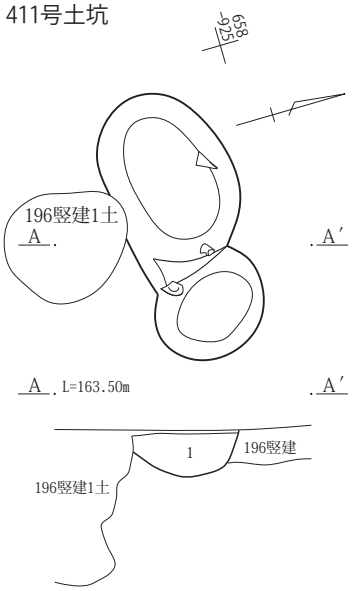
第99図　３面　Ｇ５区381・389・395～400号土坑

402号土坑



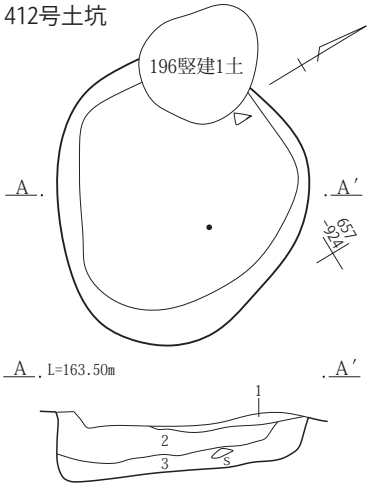
402号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム大塊･粒多量、焼土小塊少量含む。しまり･粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム中～大塊多量、As-YP・焼土粒少量、炭化物を含む。しまり弱、粘性あり。

411号土坑



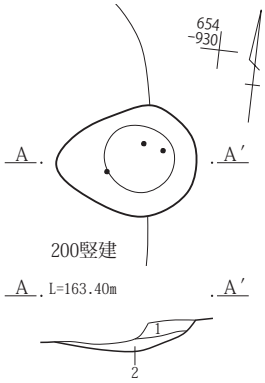
411号土坑
1　褐色土(10YR4/4)　焼土流少量、ローム小塊含む。しまり弱、粘性あり。

412号土坑



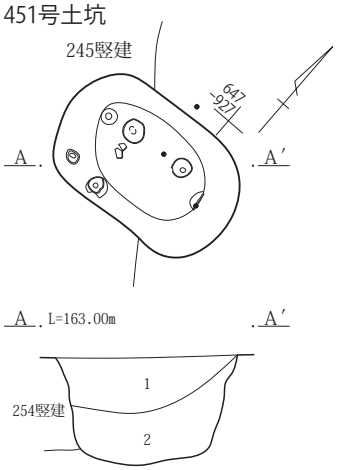
412号土坑
1　褐色土(10YR4/4)　ローム小～大塊多量含む。しまり強、粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム中塊・明褐色焼土小塊・灰白色粒少量含む。しまり強、粘性弱。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約小塊・灰白色粒少量含む。しまり強、粘性あり。

415号土坑



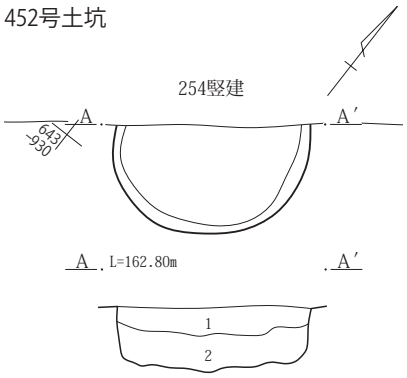
415号土坑
1　黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土約５㎜塊多量、灰白色粒少量、As-Ｃを含む。しまり強、粘性弱。
2　黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土粒・灰白色粒少量含む。しまり・粘性あり。

451号土坑



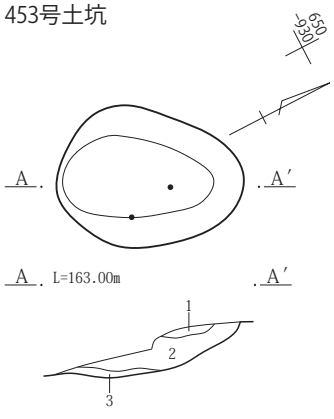
451号土坑A-A′
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　灰白色粒を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(7.5YR3/2)　灰白色粒・暗褐色土・遺物を含む。しまり・粘性あり。

452号土坑



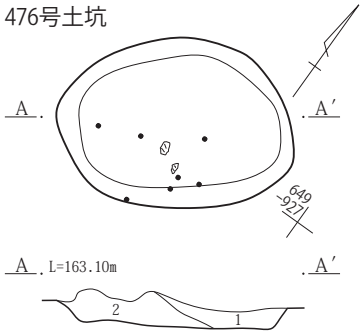
452号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　灰白色粒・As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム大塊・炭化物少量、灰白色粒微量含む。しまり・粘性あり。

453号土坑



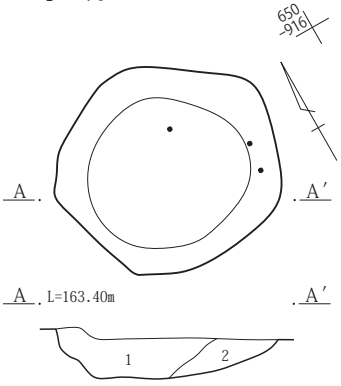
453号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム中～大塊多量、焼土小塊少量、炭化物を含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム中塊を含む。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊少量含む。しまり、粘性あり。

476号土坑



476号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　鉄滓多量、As-YP少量、ローム小～大塊を含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黄褐色土塊多量、灰白色粒・鉄滓少量含む。しまり弱、粘性あり。

477号土坑



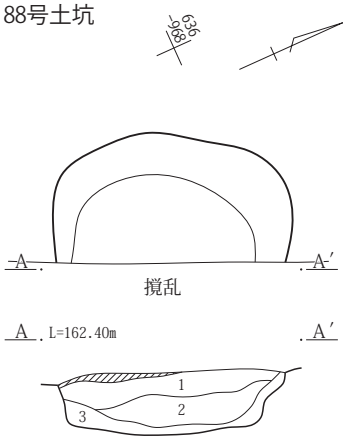
477号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム約1㎝塊・As-Ｃ少量、炭化物を含む。しまりややあり、粘性あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　灰白色粒・ローム粒少量、遺物を含む。しまり・粘性あり。

第100図　３面　Ｇ５区402・411・412・415・451～453・476・477号土坑

0　1：40　1m

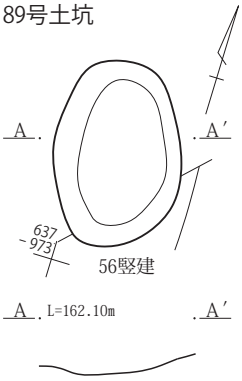
H区３面

88号土坑

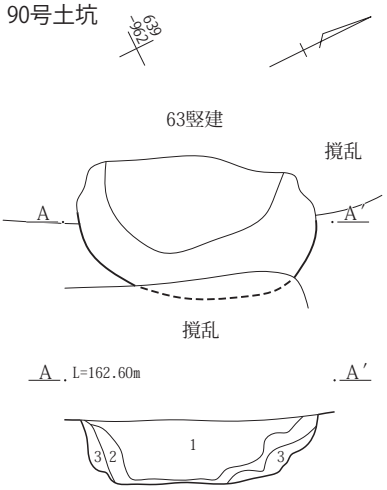


88号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊わずかに含む。As-C混土、しまり弱い。
2　１層よりしまり強く、ローム塊やや大粒。
3　As-C混土とローム小塊混土。

89号土坑

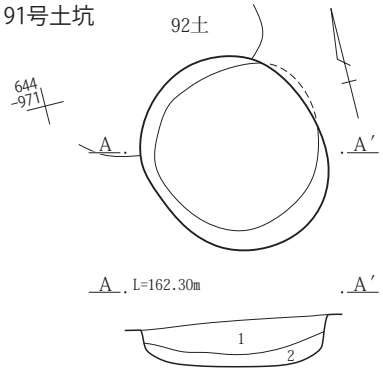


90号土坑



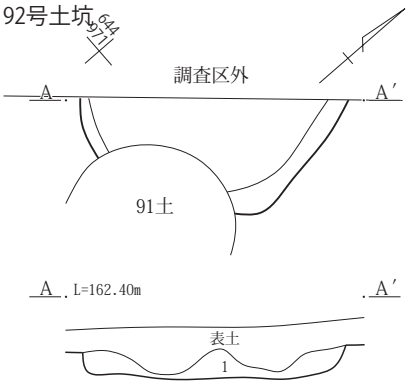
90号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊をまばら、５～15㎜程の炭化物をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　褐色(10YR4/6)のローム土を30％程、ローム塊もわずか含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　褐色(10YR4/6)のローム土を20％程・黒褐色土(10YR2/3)を15％程含む。

91号土坑



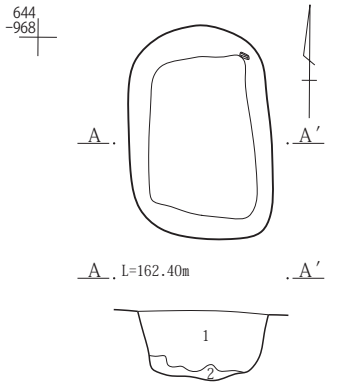
91号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土にローム小塊多量に含む。しまり弱い。
2　１層より黒色強く、しまりあり。

92号土坑



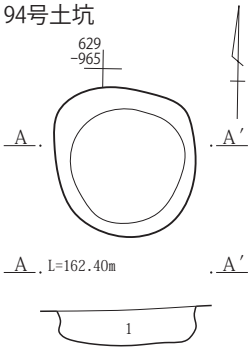
92号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土にローム小塊多量に含む。しまり弱い。

93号土坑



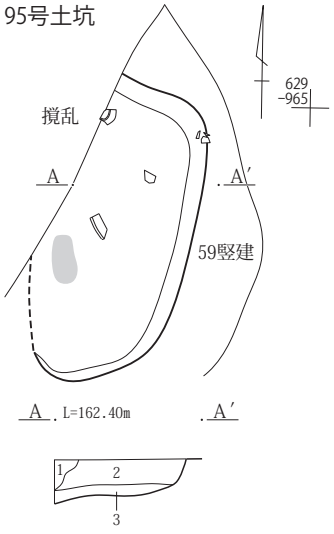
93号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土にローム小塊多量に含む。しまり弱い。
2　黒色土(10YR2/1)　炭化物多量、焼土含む。

94号土坑



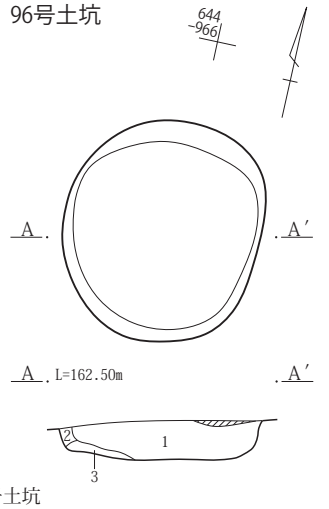
94号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　くすんだAs-C混土に、くすんだローム中、小塊混じる。

95号土坑



95号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　焼土塊と、わずかに焼土化した土混じる。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C混土にわずかにローム塊含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)　２層土にややローム塊含む。硬くしまる。

96号土坑

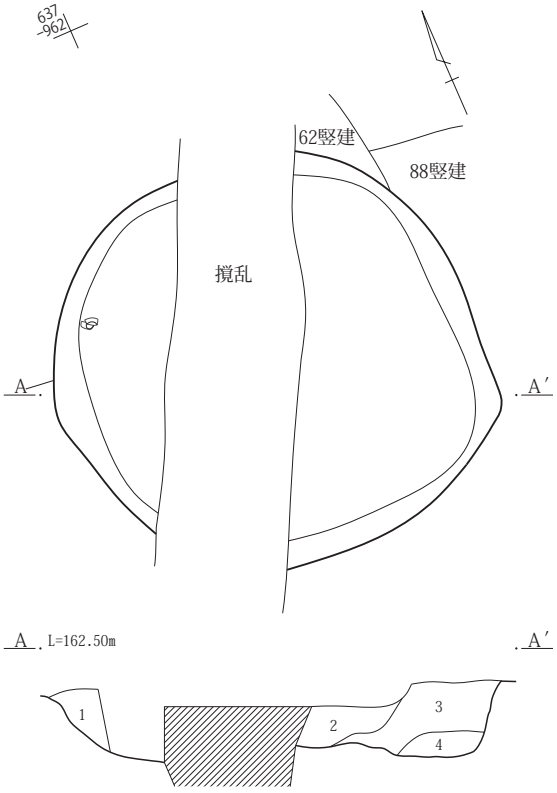


96号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2) As-C混土にローム小塊混じり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)わずかにローム塊含む。
3　くすんだローム土にローム塊混じり。

0　1：40　1m

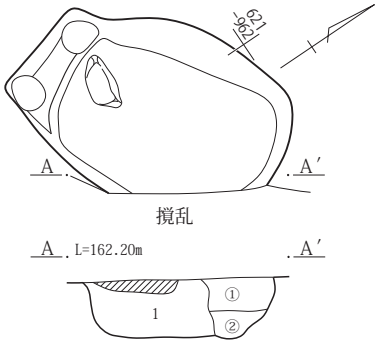
第101図　３面　H区88～96号土坑

98号土坑



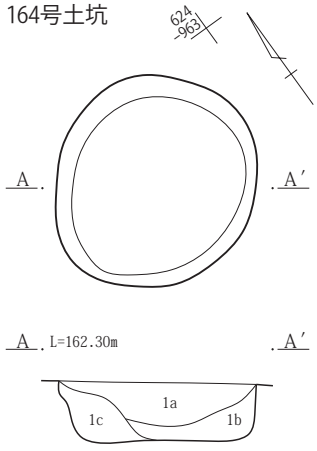
98号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・As-C粒をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C粒を含む。塊状の暗褐色土(10YR2/3)をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/2)　As-C粒を含む。
4　黒褐色土(10YR2/2)　ローム塊を、As-C粒ごくわずか含む。

99号土坑



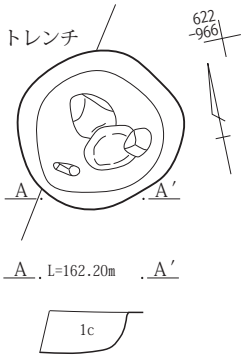
99号土坑
①　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土に、くすんだローム小塊含む。
②　黒褐色土(10YR3/3)　As-C黒のみ。
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土。夾雑物少ない。

164号土坑

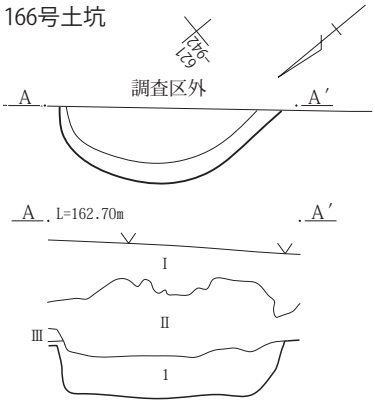


164号・165号土坑
1a　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊わずかに含む。As-C混土、しまり弱い。
1b　1a層よりしまり強く、ローム塊やや大粒。
1c　As-C混土とローム小塊混土。

165号土坑

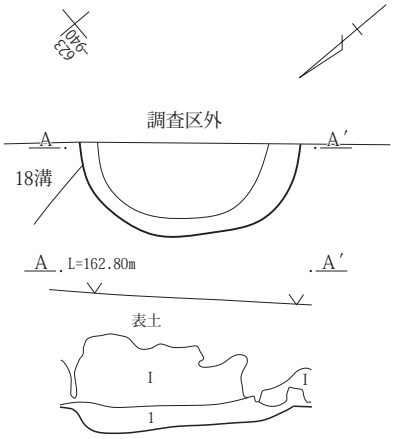


166号土坑

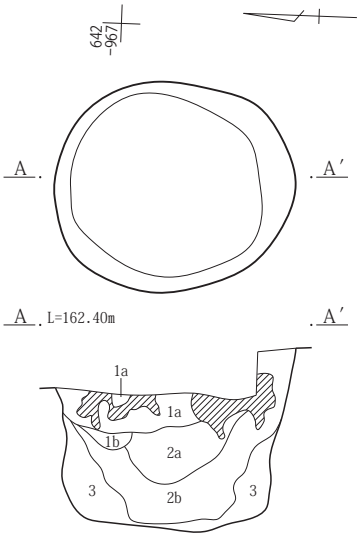


166号・167号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土。夾雑物少ない。

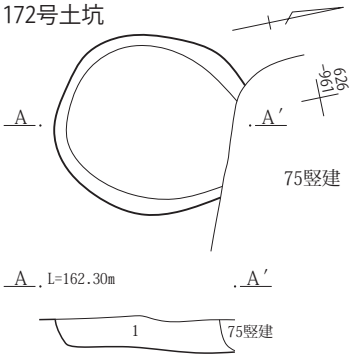
167号土坑



170号土坑



172号土坑



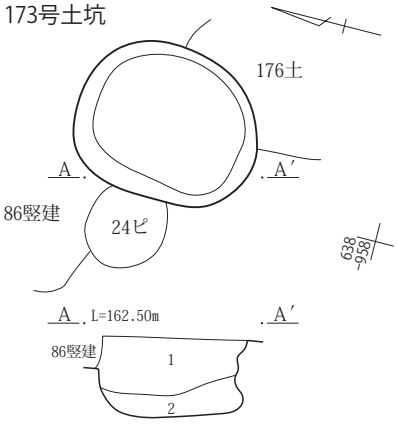
172号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土。夾雑物少ない。

170号土坑
1a　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土。褐色塊わずかに含む。しまりあり。
1b　1a層より褐色塊多く含む。
2a　黒褐色土(10YR3/1)　As-C混土にAs-YP粒混じる。褐色塊多く含む。
2b　2a層より褐色塊多く含む。
3　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　くすんだローム土にAs-C混土混じる。As-YP粒含む。

0　1：40　1m

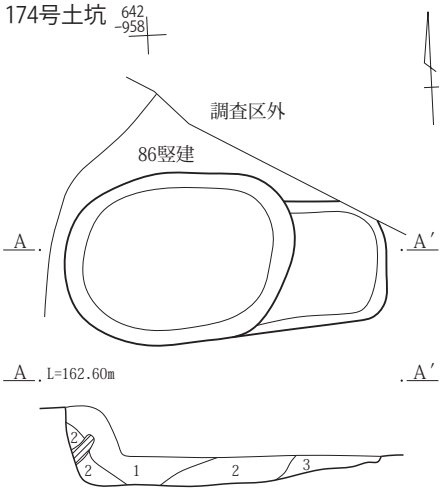
第102図　３面　H区98・99・164～167・170・172号土坑

173号土坑



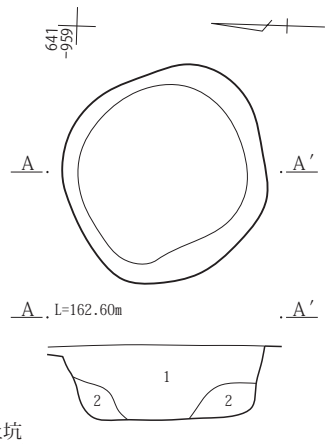
173号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 混土。夾雑物少ない。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 混土にローム粒含む。

174号土坑



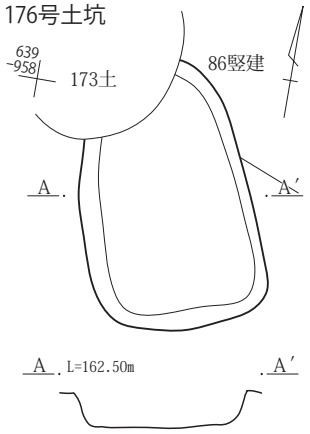
174号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土。夾雑物少ない。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土にローム小塊含む。
3　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土にローム粒含む。

175号土坑

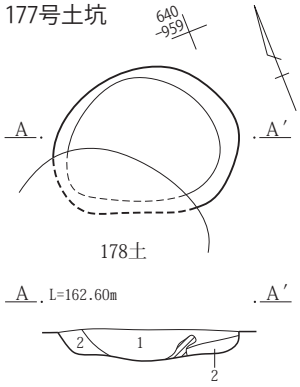


175号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 混土にローム塊混じり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 混土。夾雑物見られない。

176号土坑

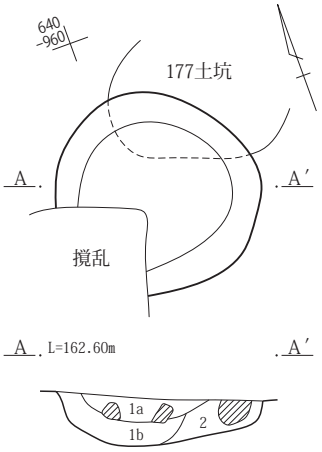


177号土坑



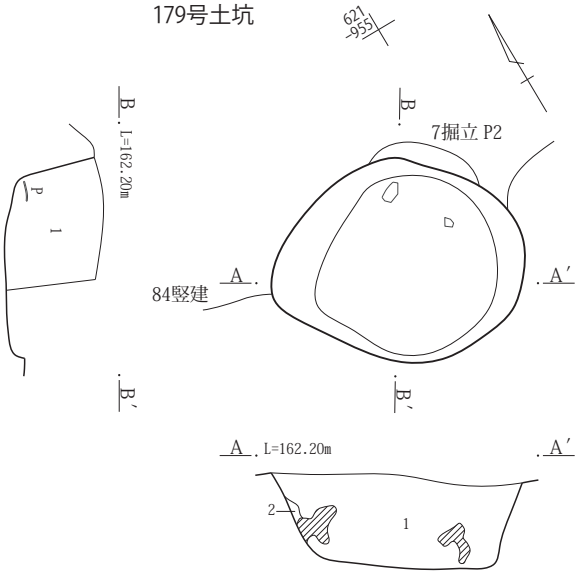
177号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土。
2　暗褐色土(10YR3/3)　As-Cをわずかに含む。くすんだローム土混じり。

178号土坑



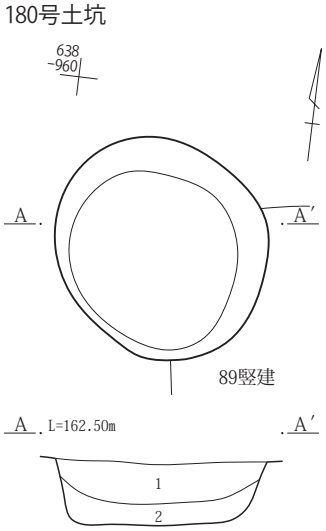
178号土坑
1a　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土、根による撹乱多く見られる。
1b　1a層よりしまりあり。ローム小塊わずかに含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　As-Cをわずかに含む。くすんだローム土混じり。

179号土坑



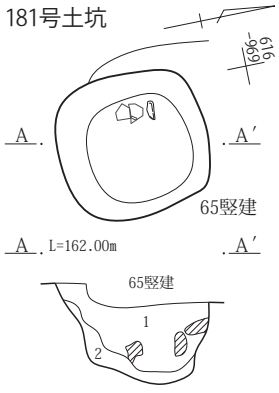
179号土坑Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土。やや大粒の軽石、くすんだ褐色土塊に見られる。しまりあり。
2　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　塊混土。焼土粒含む。

180号土坑



180号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 混土。夾雑物見られない。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 混土にわずかにローム粒含む。ややしまりあり。

181号土坑

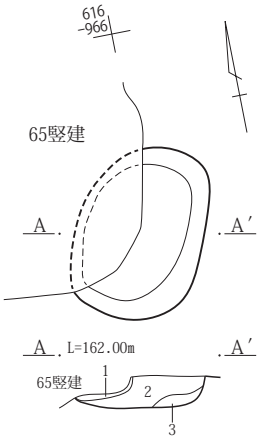


181号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　くすんだ褐色の円形塊多く含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊含む。しまり・粘性ややあり。土器片含む。

0　1：40　1m

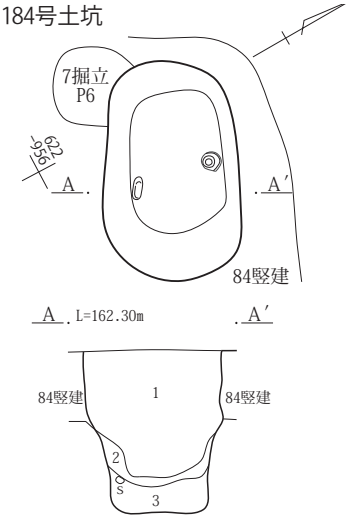
第103図　３面　H区173～181号土坑

183号土坑



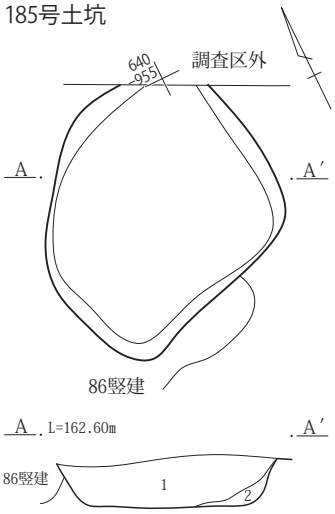
183号土坑
1　ローム塊・灰・焼土粒の混土。（65号竪建カマド崩落土）
2　暗褐色土(10YR3/4)　As-C混土にくすんだローム土含む。
3　くすんだローム土に暗褐色土混じる。壁崩落土。

184号土坑



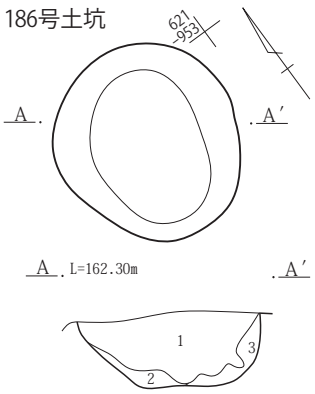
184号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混夾雑物少なく、ローム小塊含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　しまり弱い。
3　にぶい黄褐色土(10YR)　As-YP多く含む。くすんだローム土混土。しまり弱い。

185号土坑



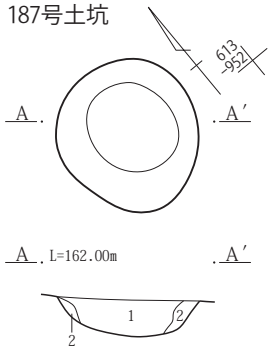
185号土坑
1　暗褐色土(10YR3/4)　As-C混土にローム塊わずかに含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　くすんだローム土にローム塊・褐色土の混土。

186号土坑



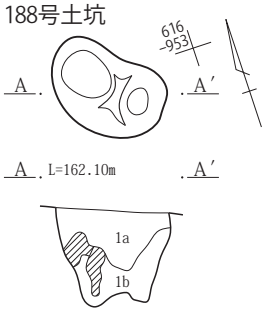
186号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土。やや大粒のローム小塊含む。
2　くすんだロームと硬質ローム塊混土。しまり弱い。
3　褐色土(10YR4/3)　しまり弱い。漸移層。

187号土坑



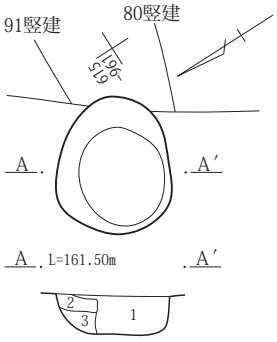
187号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土。夾雑物少ない。
2　褐色土(10YR4/6)　褐色土塊にAs-C混土塊混じり。

188号土坑



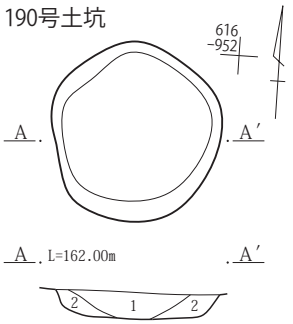
188号土坑
1a　暗褐色土(10YR3/3) As-C混土、しまりあり。木の根あり。
1b　1a層よりAs-C混土少なく、褐色土塊含む。

189号土坑



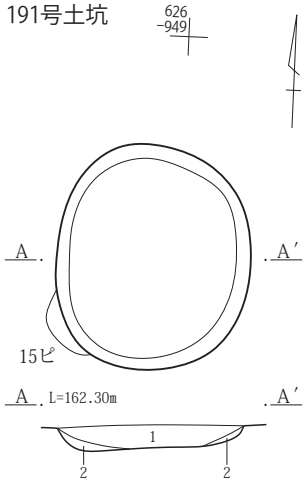
189号土坑
1　暗褐色土(10YR3/4)　しまり・粘性ややあり。土質均質。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ややシルト質。土質均質。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム塊含む。しまり・粘性あり。

190号土坑



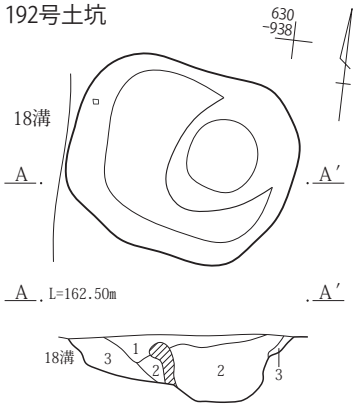
190号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土。木の根多く入る。
2　暗褐色土(10YR3/3)　わずかにAs-C含む。漸移層土主体。

191号土坑



191号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土。木の根多く入る。
2　暗褐色土(10YR3/3)　わずかにAs-C含む。漸移層土主体。

192号土坑

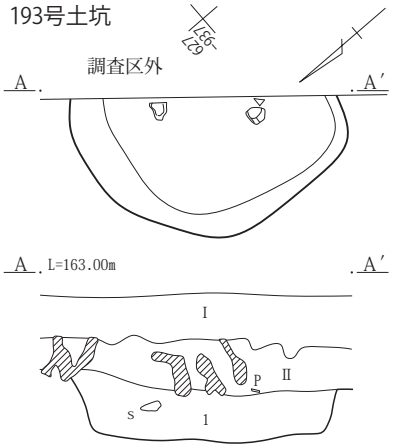


192号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C混。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　漸移層土主体。As-C混じり。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　漸移層土に硬質塊混じる。しまり弱い。

0　1：40　1m

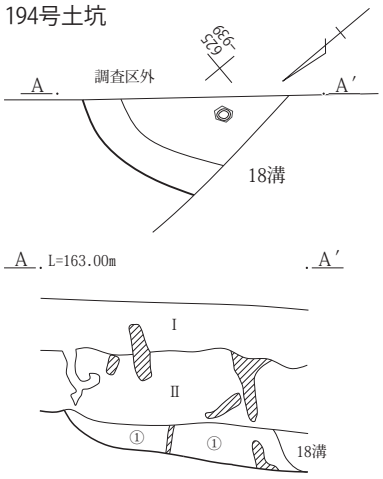
第104図　３面　H区183～192号土坑

193号土坑



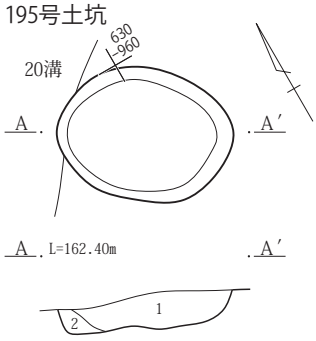
193号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混・褐色塊・硬質塊含む。

194号土坑



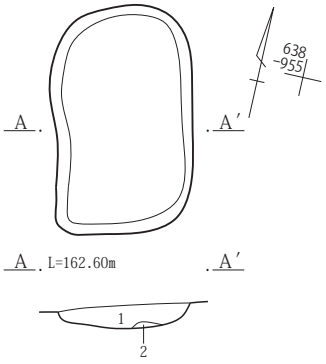
194号土坑
①　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土。わずかにローム粒含む。

195号土坑



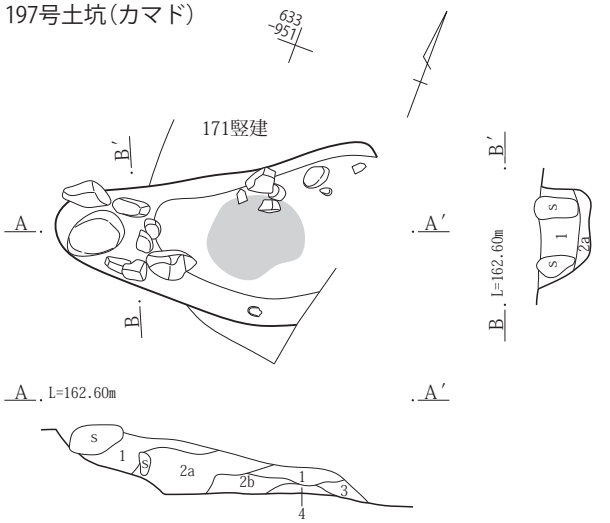
195号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混。褐色塊・硬質塊含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　くすんだローム土に硬質塊含む。

196号土坑



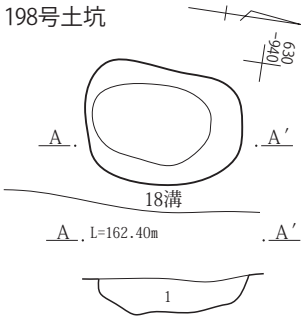
196号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混。褐色塊・硬質塊含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　くすんだローム土に硬質塊含む。

197号土坑(カマド)



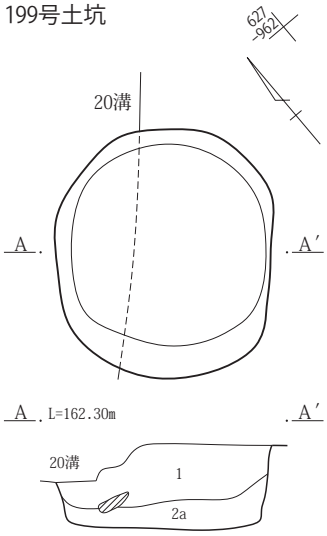
197号土坑A-A′・B-B′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊、細粒多く含む。
2a　褐色土(10YR4/4)　ローム小塊・焼土粒わずかに含む。
2b　2a層よりしまり・粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　わずかに軽石含む。しまり・粘性あり。
4　黒褐色土(10YR2/2)　炭・灰・焼土粒混土。

198号土坑



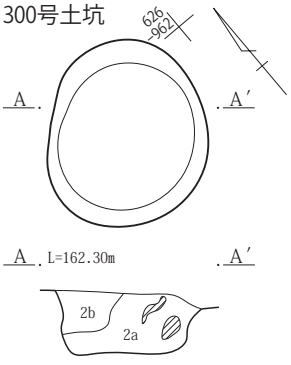
198号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　わずかにローム粒含む。しまり・粘性あり。土質均質。

199号土坑



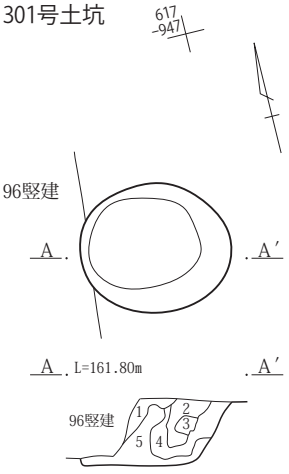
199号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土に褐色塊見られる。
2a　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　くすんだローム土にAs-C混・ローム小塊混じる。

300号土坑



300号土坑
2a　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　くすんだローム土にAs-C混・ローム小塊混じる。
2b　2a層よりローム塊少ない。

301号土坑

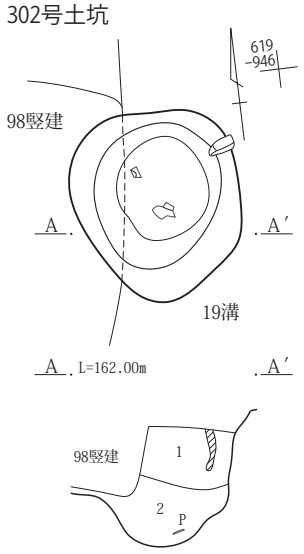


301号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土。根が多い。
2　ローム塊と黒色土塊混土。
3　黒色土(10YR2/1)　わずかにローム粒含む。
4　ローム土、ローム小塊と黒色土塊混土。
5　細粒のローム塊と黒色土塊混土。

0　1：40　1m

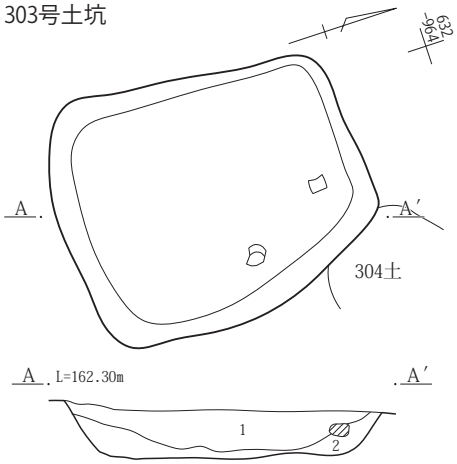
第105図　３面　H区193～199・300・301号土坑

302号土坑



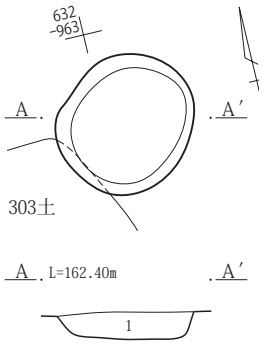
302号土坑
1　くすんだローム土にローム塊・硬質ローム小塊混土。木の根多い。
2　暗褐色土(10YR3/31)　わずかにローム細粒含む。しまり弱い。粘性ある。

303号土坑



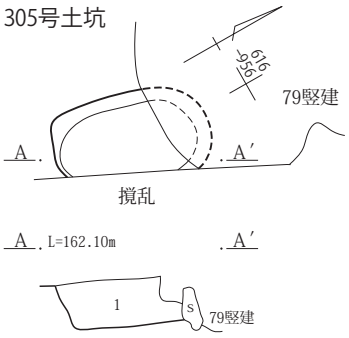
303号土坑
1　暗褐色土(10YR3/4)　As-C混に褐色土塊見られる。
2　暗褐色土(10YR3/4)　As-C少なく、硬質塊混じり。しまりやや弱い。

304号土坑



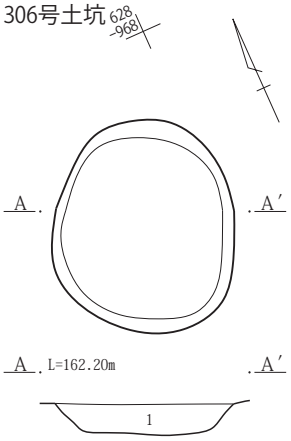
304号土坑
1　暗褐色土(10YR3/4)　As-C混。褐色土塊見られる。

305号土坑



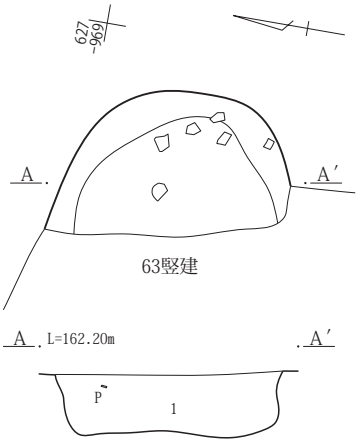
305号土坑
1　暗褐色土(10YR3/4)　軽石少ない。硬質塊含む。

306号土坑



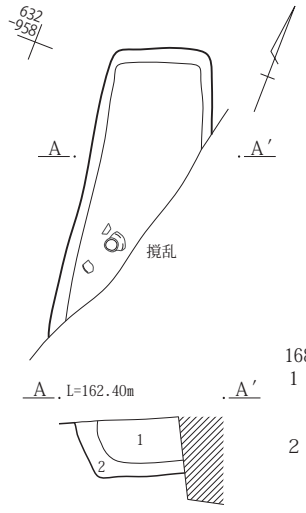
306号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混。しまりやや弱い。ローム小塊・褐色土塊・わずかに含む。

360号土坑



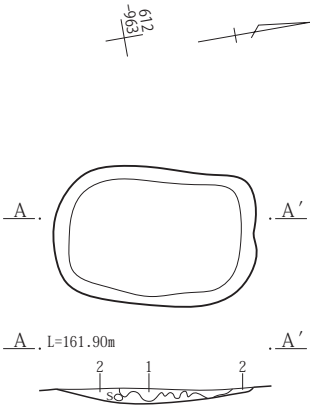
360号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土にローム小塊混じる。

168号土坑(土坑墓)



168号土坑
1　茶褐色土層。１㎜～１㎝大のAs-C・１～８㎜の黄褐色軽石・１～５㎜の赤褐色軽石を多く含む。炭化物を含む。
2　暗めの褐色土。１～２㎜のAs-Cごく少量含む。遺物(土器)を含む。遺構使用時の床面と思われる。

182号土坑(火葬遺構)

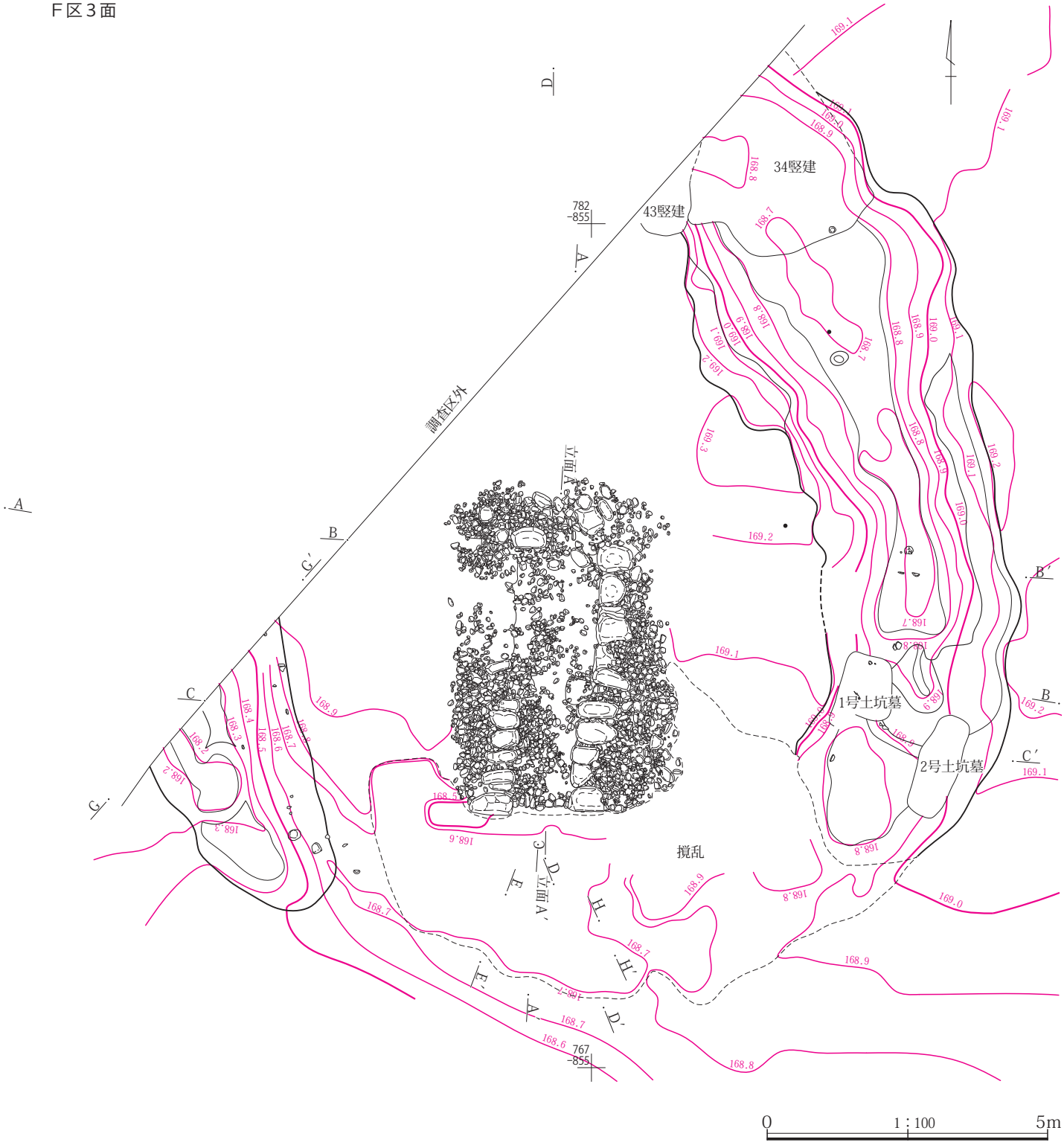


182号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　くすんだローム土にローム塊わずかに含む。
2　黒色土(10YR2/1)　炭化物層。焼土粒含む。

0　1：40　1m

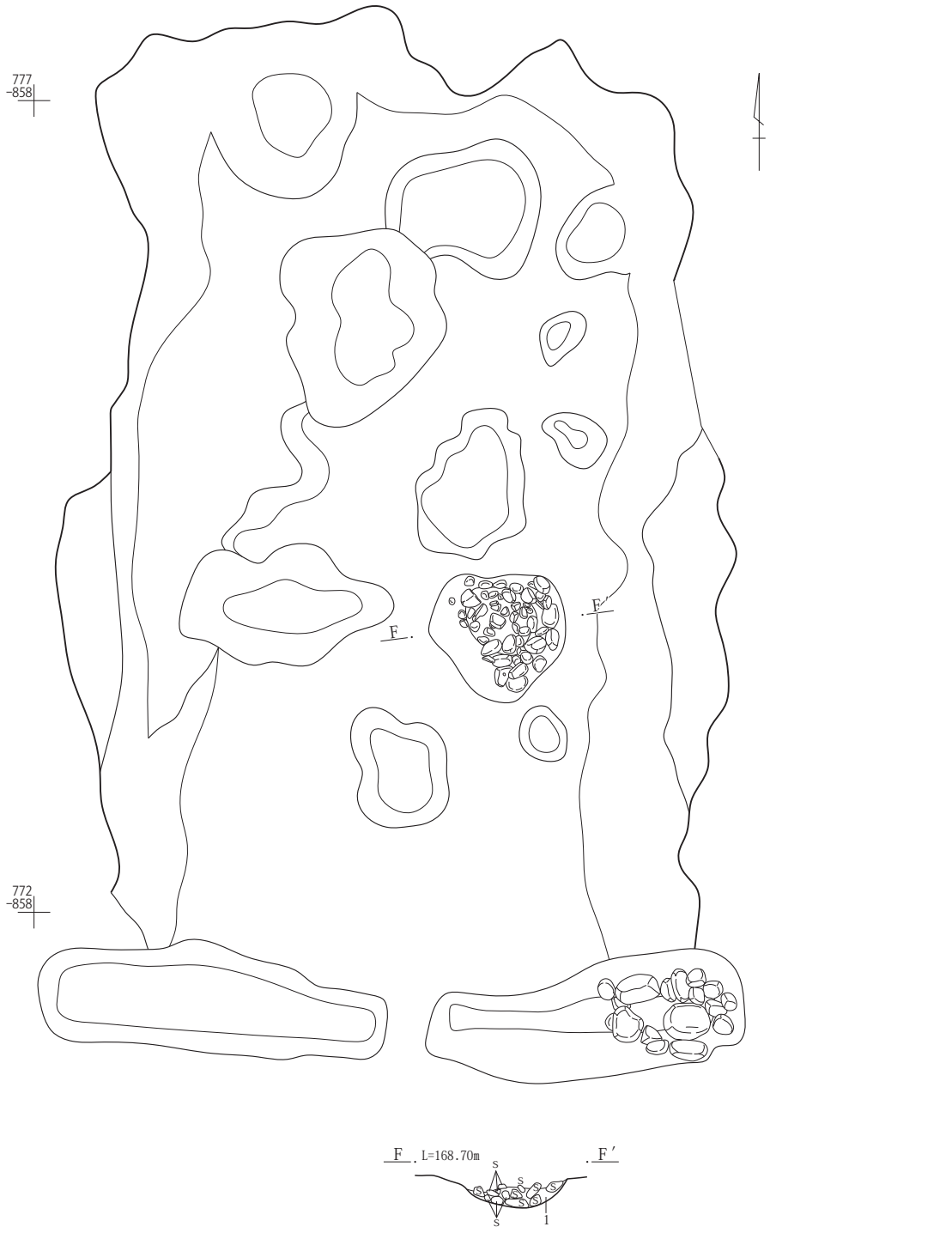
第106図　３面　H区302～306・360号土坑、168号土坑(土坑墓)、182号土坑(火葬遺構)

Ｆ区３面



第107図　３面　Ｆ区65号墳

第108図　３面　Ｆ区65号墳石室

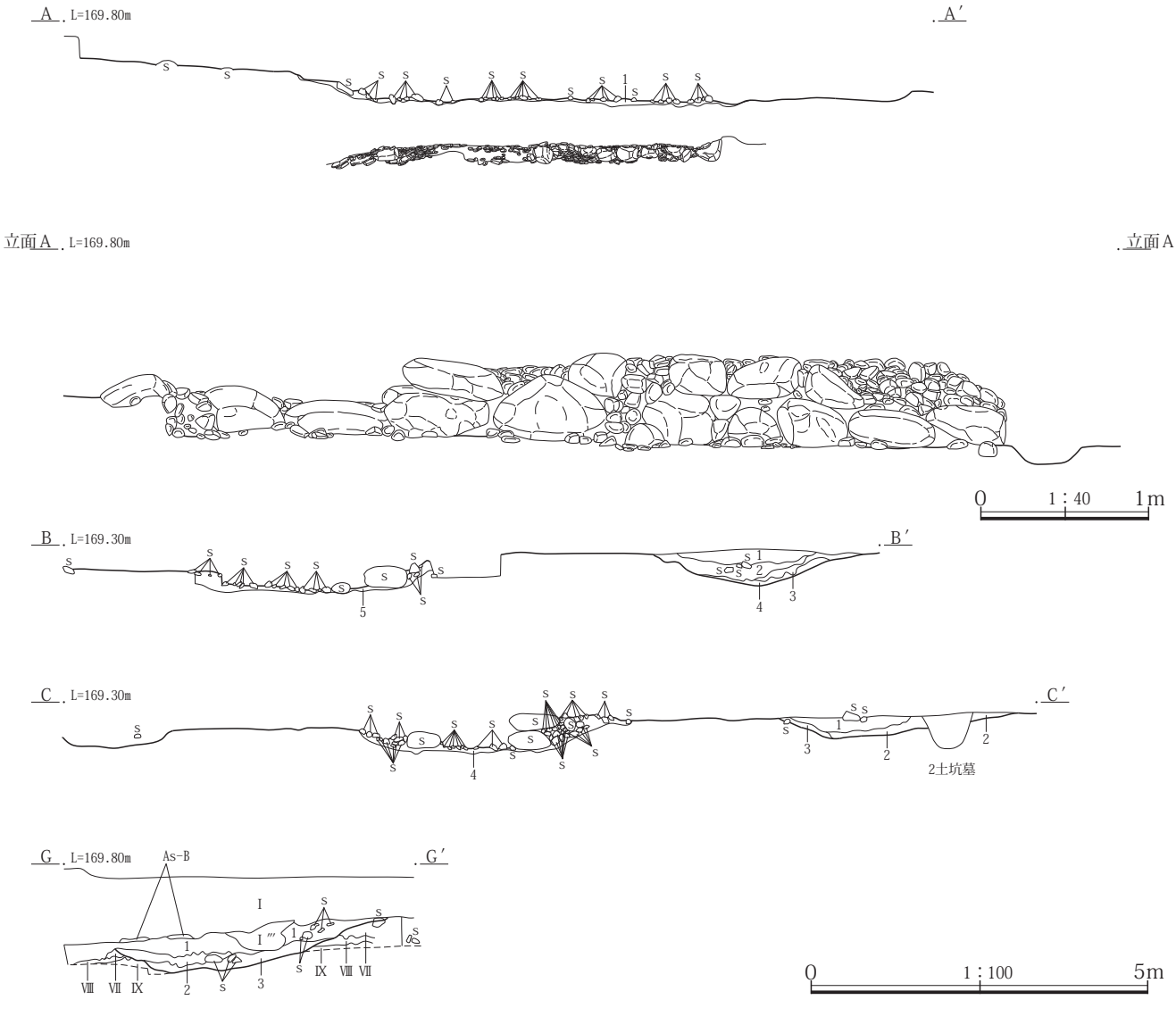


65号墳Ｆ－Ｆ′
1　黒褐色土10YR3/1　As-C細粒を少量含む。硬質。

0　1：40　1m

第109図　３面　Ｆ区65号墳石室掘り方

第110図　３面　Ｆ区65号墳石室掘り方合成図



65号墳A－A′
1　黒褐色土10YR3/1　As-C細粒を少量含む。硬質。

B－B′
1　黒褐色土10YR3/1　As-C粒をやや多量含む。
2　黒褐色土10YR3/1　As-C細粒を少量、ローム塊を微量含む。
3　黒褐色土10YR3/1　As-C細粒を少量含む。
4　黒褐色土10YR3/1　ローム塊を多量含む。
5　黒褐色土10YR3/1　As-C細粒を少量含む。硬質。

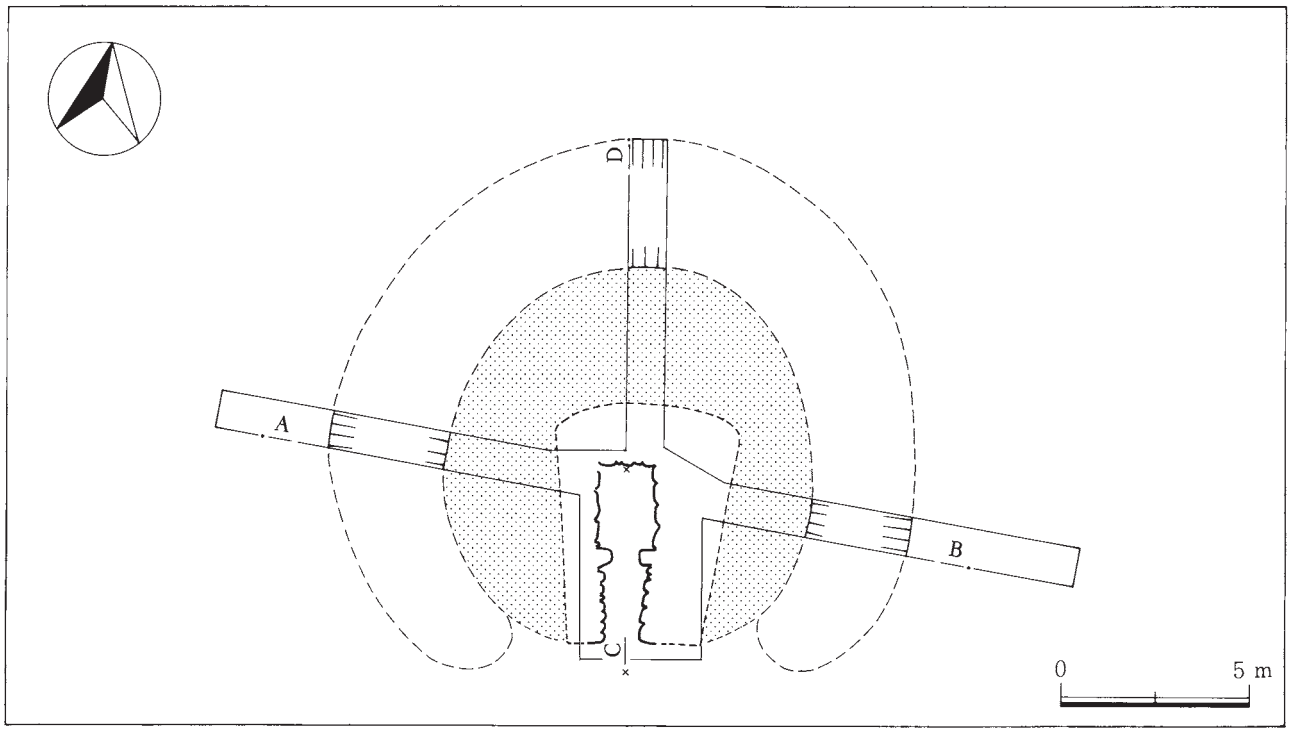
C－C′
1　黒褐色土10YR3/1　As-C細粒を少量、ローム塊を微量含む。
2　黒褐色土10YR3/1　As-C細粒を微量、ローム粗粒～粒を少量含む。
3　黒褐色土10YR3/1　As-C細粒、ローム粒を少量、ローム塊をやや多量含む。
4　黒褐色土10YR3/1　As-C細粒を少量含む。硬質。

D－D′
1　黒褐色土10YR3/1　As-C細粒を少量、ローム塊を微量含む。

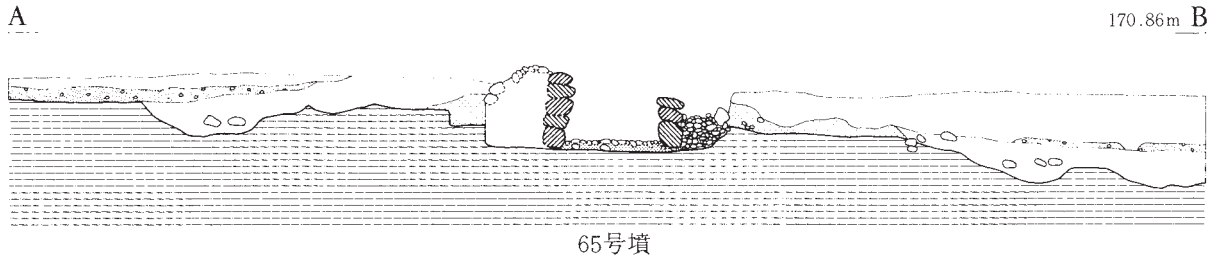
E－E′
1　黒褐色土10YR3/1　As-C粒をやや多量含む。

G－G′
1　黒褐色土10YR3/1　As-C粒をやや多量含む。
2　黒褐色土10YR3/1　As-C粒を少量含む。
3　黒褐色土10YR3/1　As-C粒を微量含む。

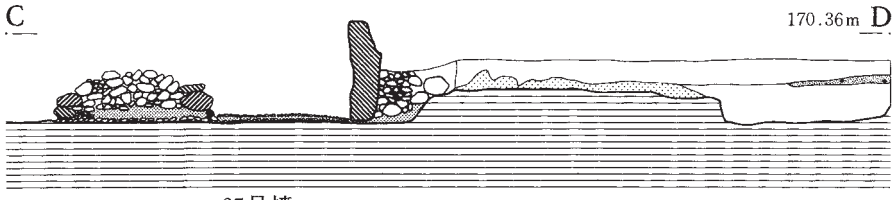
第111図　3面　F区65号墳石室断面



65号墳　墳丘図

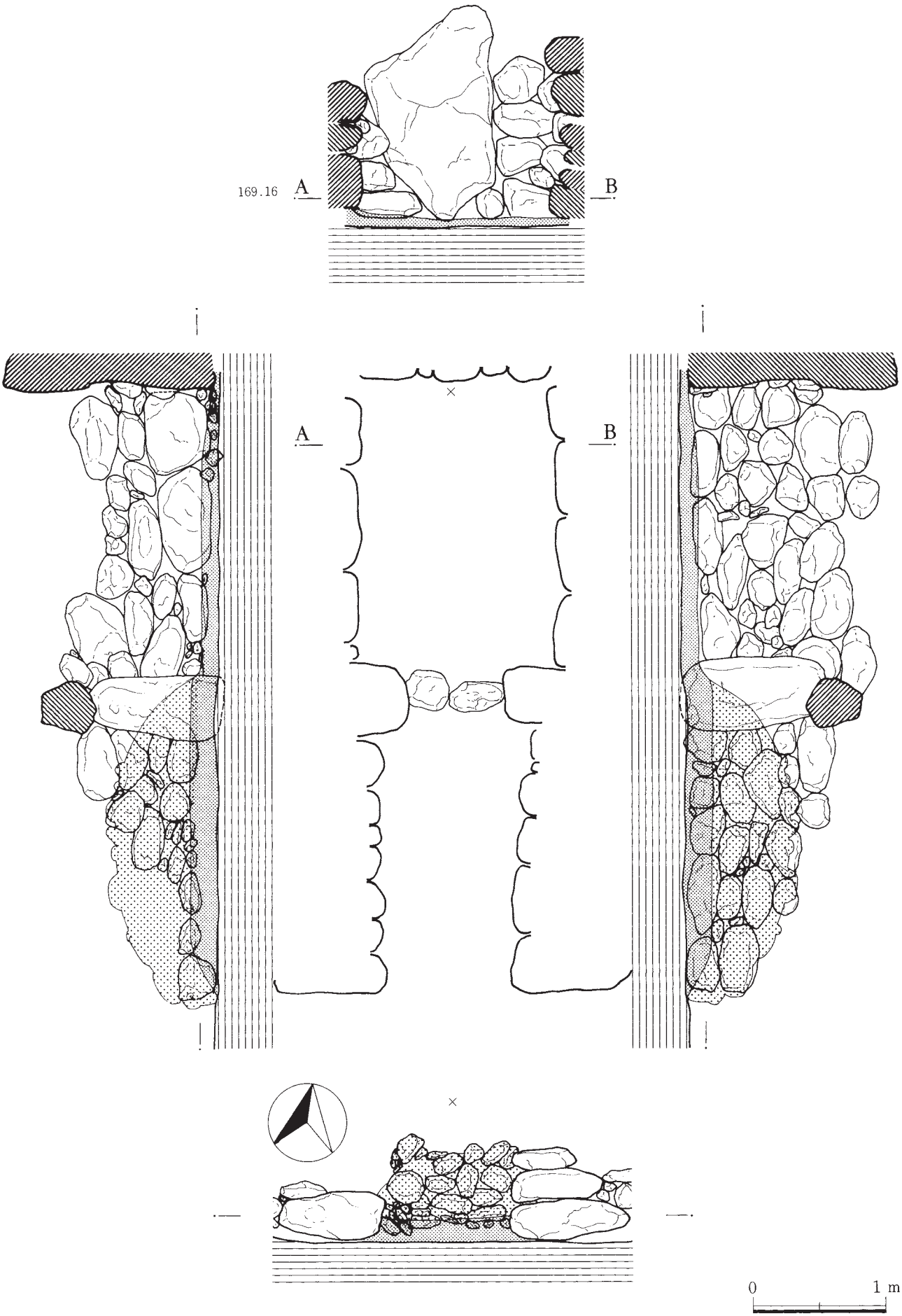


65号墳



65号墳

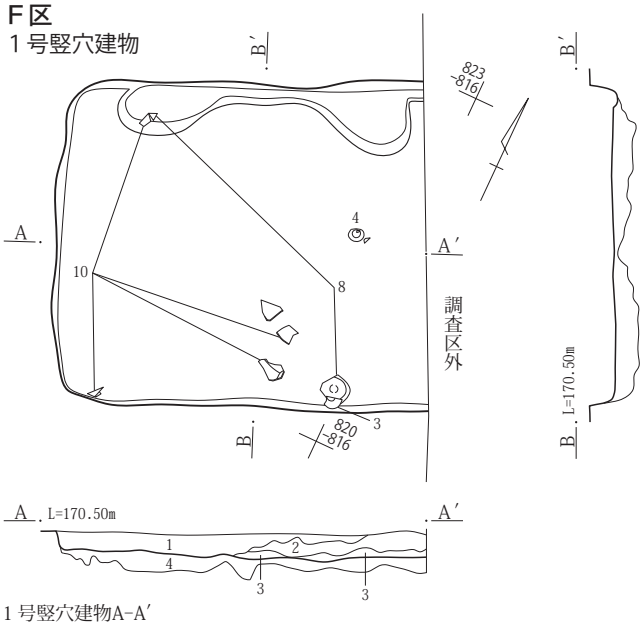
第112図　３面　Ｆ区65号墳墳丘断面図　（奥原古墳群　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団1983より）



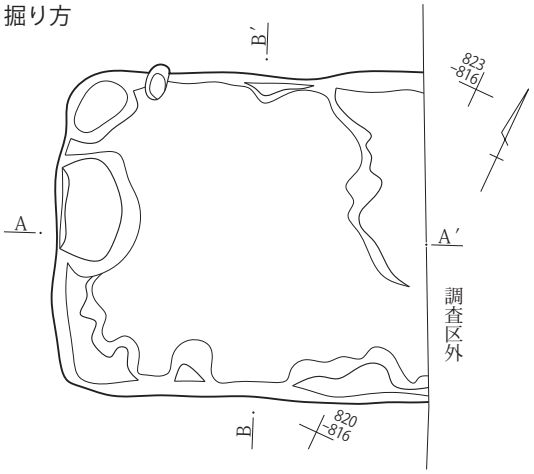
第113図　３面　Ｆ区65号墳石室断面図　（奥原古墳群　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1983より）

F区

１号竪穴建物

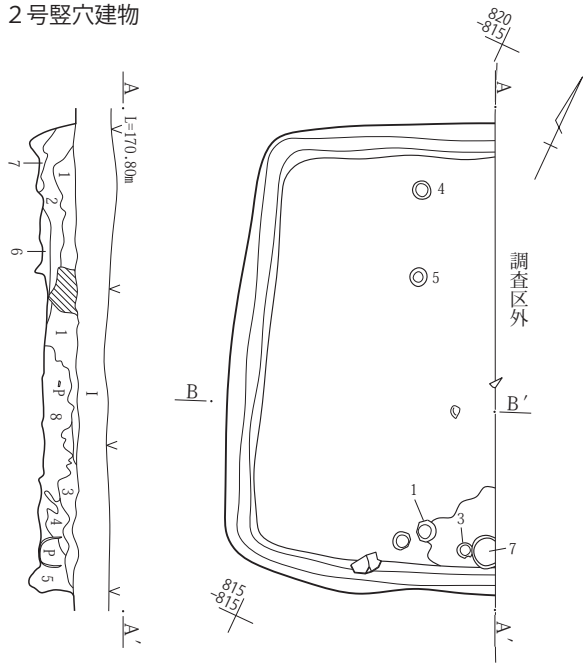


掘り方

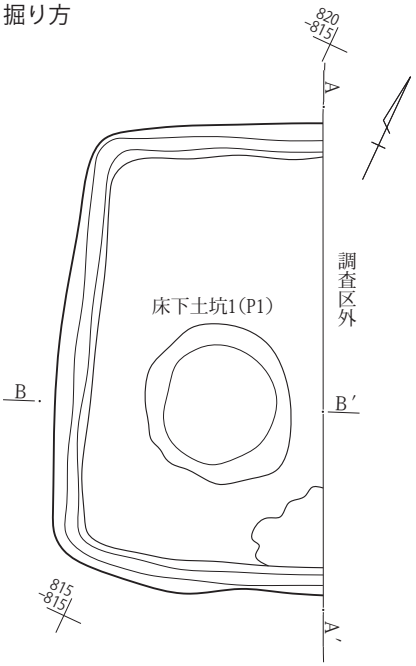


1 号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒、ローム小塊、ローム粒をやや多量、焼土小塊を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒をやや多量、ローム小塊を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒を少量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　As-YP粒、ローム塊を多量含む。

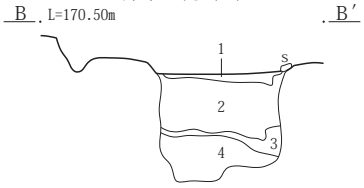
２号竪穴建物



掘り方



床下土坑1(P1)

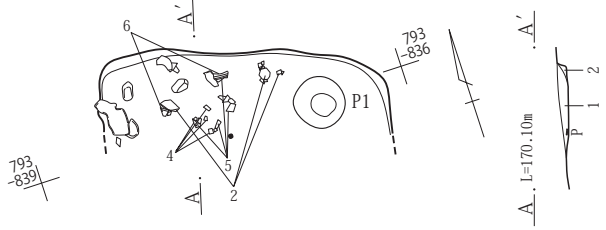


２号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒、ローム微粒をやや多量、ローム塊・焼土粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒を少量、炭化物粒をやや多量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒、焼土粒をやや多量、ローム塊を微量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、焼土粒を少量含む。
5　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粗粒を少量含む。
6　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊をやや多量、As-C細粒を少量含む。
7　黒褐色土(10YR3/1)　ローム～微粒を多量、As-C細粒を微量含む。
8　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を多量含む。
床下土坑１(Ｐ１)Ｂ-Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　炭化物粒を多量、ローム粗粒～微粒含む。
2　ローム粗塊を主体とし、As-YP塊、As-YP粒を多量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-YP粒、ローム粒を多量含む。
4　As-YP粒を主体とし、ローム塊を多量含む。

0　1：60　2m

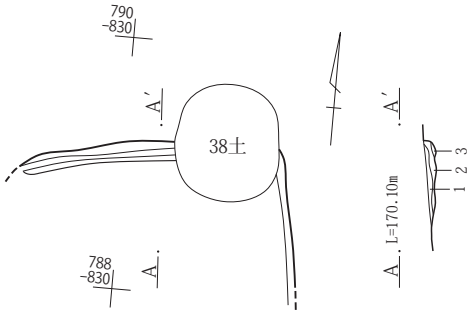
第114図　３面　Ｆ区１・２号竪穴建物

３号竪穴建物



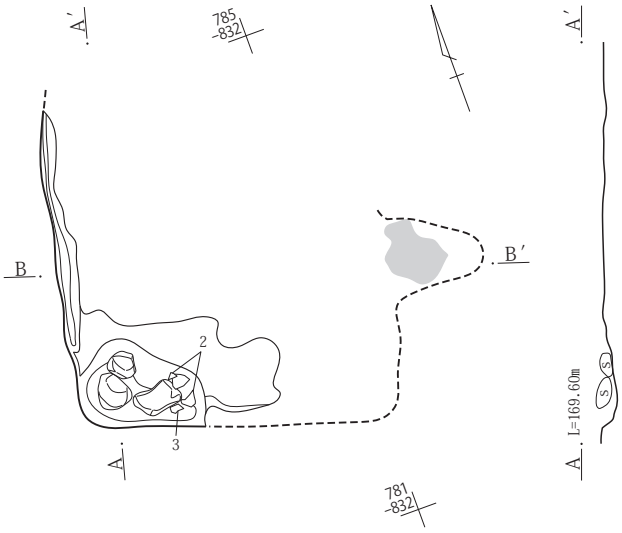
３号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　焼土粒を少量、As-C細粒をごく微量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒を少量含む。

４号竪穴建物

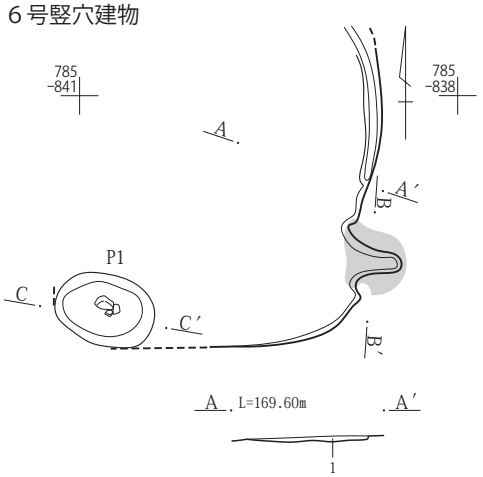


４号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒をやや多量、As-C細粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊をやや多量、As-C細粒を微量含む。

５号竪穴建物

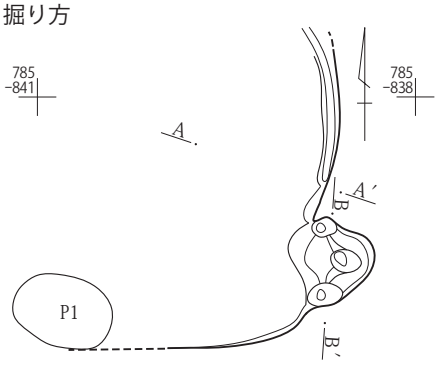


６号竪穴建物

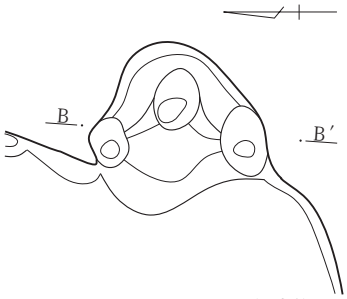


６号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を多量、焼土粒を少量含む。

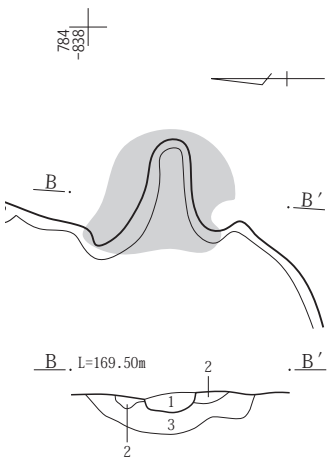
掘り方



カマド掘り方



カマド



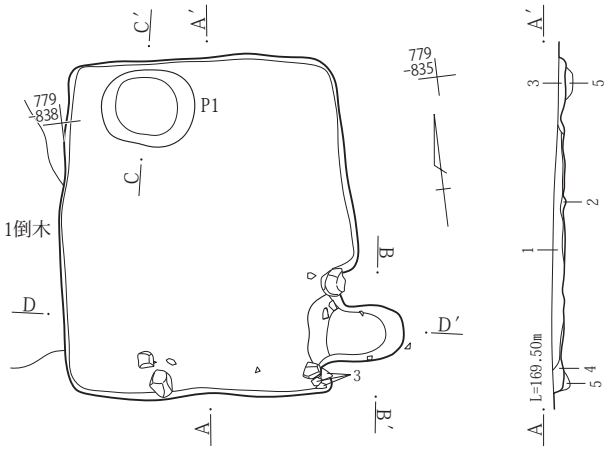
カマドＢ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム塊、ローム粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　焼土微粒をやや多量、焼土粒を少量含む。
3　焼土塊を主体とする。

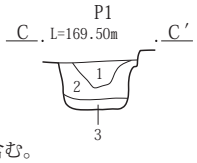
0　1：60　2m

0　1：30　1m

第115図　３面　Ｆ区３～６号竪穴建物

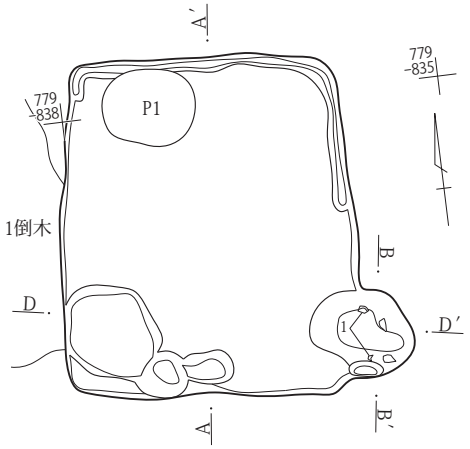
７号竪穴建物



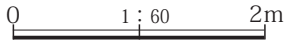


７号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒をやや多量、ローム粒を微量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒を少量、As-C微粒をごく微量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、As-YP粒を少量含む。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊をやや多量、As-C細粒を微量含む。

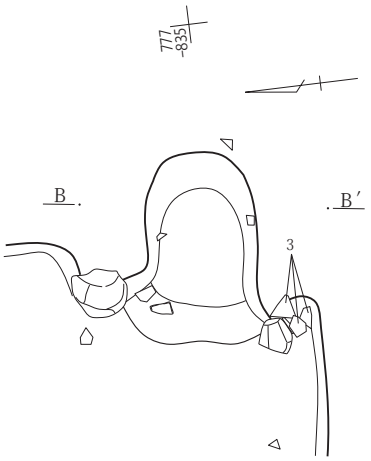
掘り方

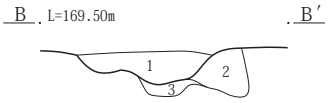


Ｐ１Ｃ－Ｃ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒、灰黄褐色土粗塊を微量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒、灰黄褐色土塊を微量含む。
3　ローム塊を主体とし、As-YP粒を多量含む。

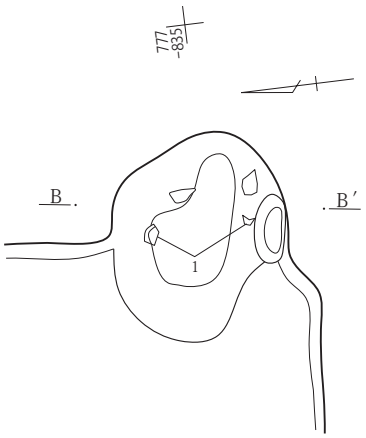


カマド

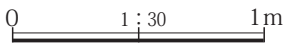




カマド掘り方

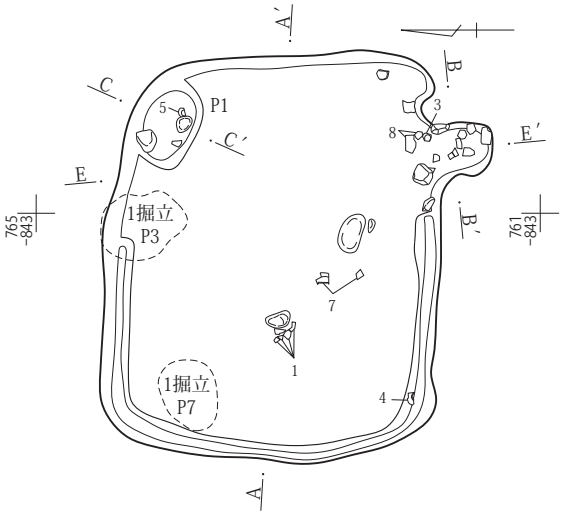


カマドＢ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粗粒、ローム塊をやや多量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒を多量、焼土粗粒をやや多量、As-C細粒・焼土塊を少量、ローム塊含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　焼土微粒を多量、As-C粒・ローム微量含む。

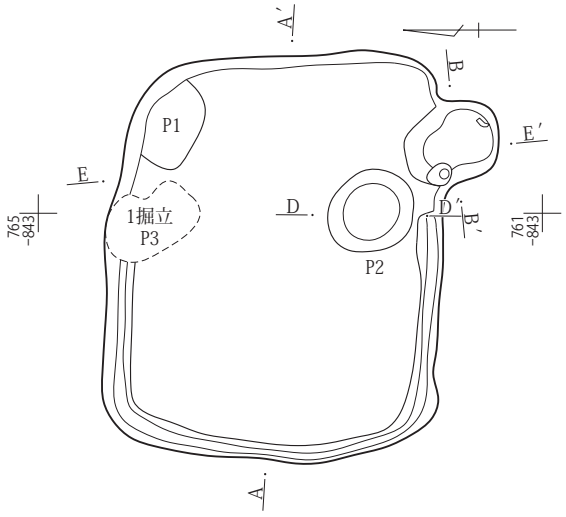


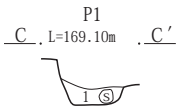
第116図　３面　Ｆ区７号竪穴建物

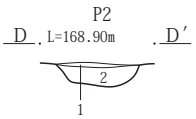
８号竪穴建物



掘り方



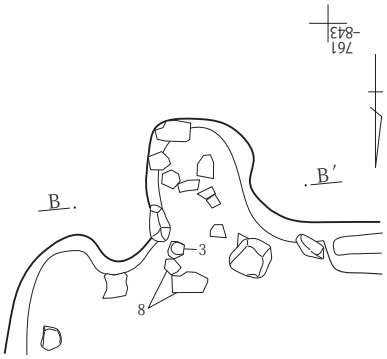




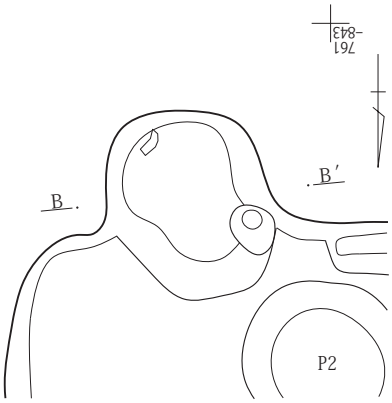
８号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｅ－Ｅ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊をやや多量、As-C細粒、ローム粗粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒を微量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を微量含む。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒をやや多量、ローム小塊を少量、As-C細粒をごく微量含む。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム塊・ローム粒を多量、焼土粒子少量含む。
Ｐ１Ｃ－Ｃ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒を少量含む。
Ｐ２Ｄ－Ｄ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊をやや多量、As-C細粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を非常に多量含む。

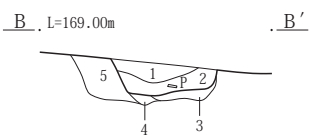
0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方



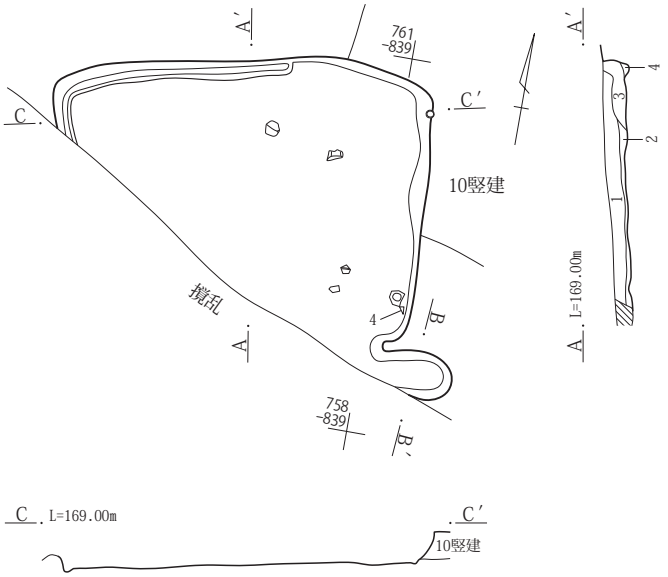


カマドＢ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒をやや多量、As-C細粒をごく微量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粗粒をやや多量、ローム粒を少量、As-C細粒を微量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム微粒を多量、ローム粒を少量含む。
4　にぶい赤褐色土(5YR4/4)　被熱酸化層。
5　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粗粒をやや多量、As-C細粒を微量含む。

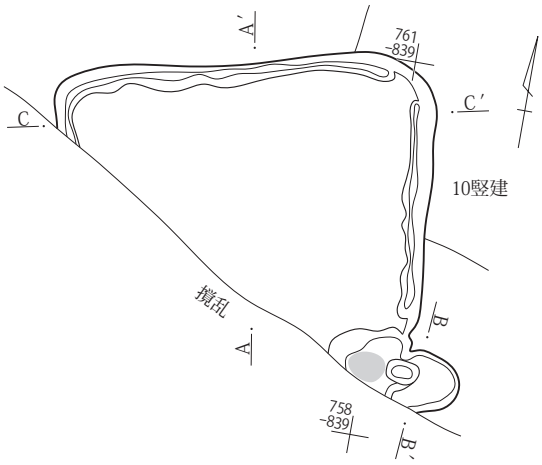
0　1：30　1m

第117図　３面　Ｆ区８号竪穴建物

９号竪穴建物



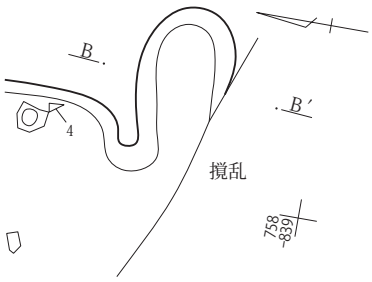
掘り方

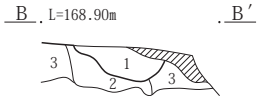


9号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒を少量、As-C細粒を微量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C微粒を少量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　灰黄褐色土粗粒をやや多量、As-C微粒を少量含む。

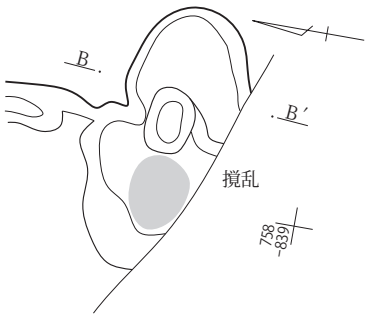
0　1：60　2m

カマド





カマド掘り方

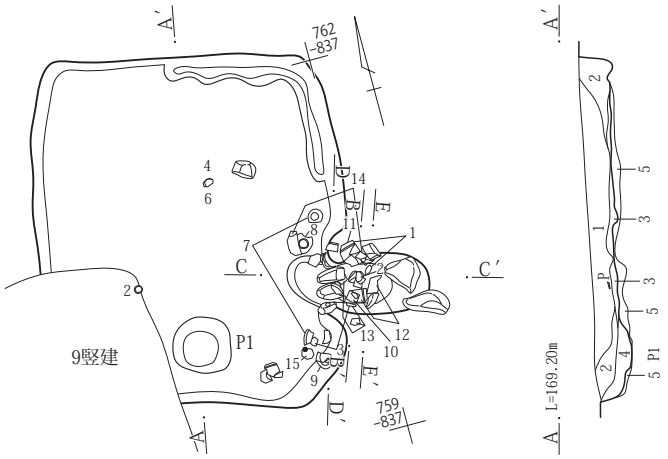


カマドＢ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒をやや多量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C微粒をやや多量、ローム粗粒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊、ローム粒をやや多量、ローム粗粒を少量、As-C細粒をごく微量含む。

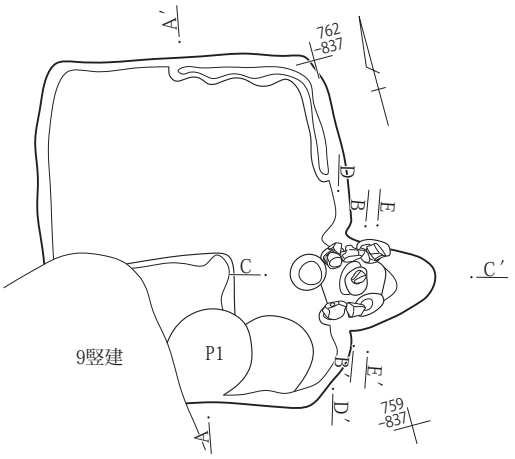
0　1：30　1m

第118図　３面　Ｆ区９号竪穴建物

10号竪穴建物



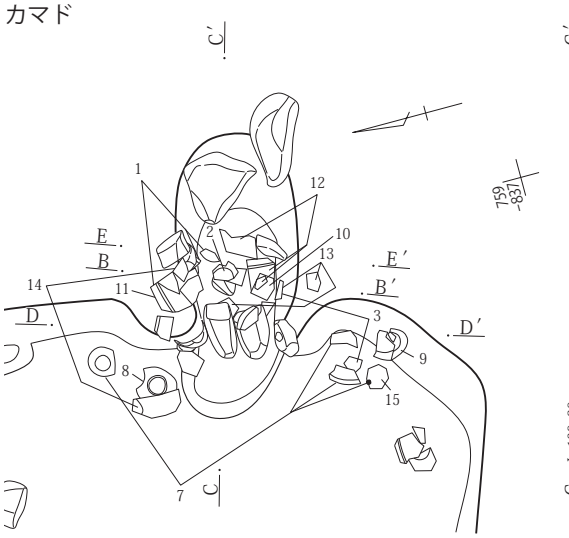
掘り方



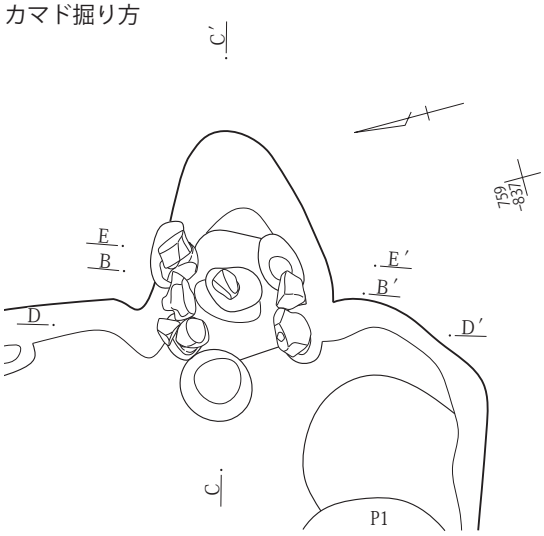
10号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒をやや多量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒を少量、As-C細粒を微量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム塊をやや多量、ローム粗塊を少量含む。
5　ローム塊を主体とする。

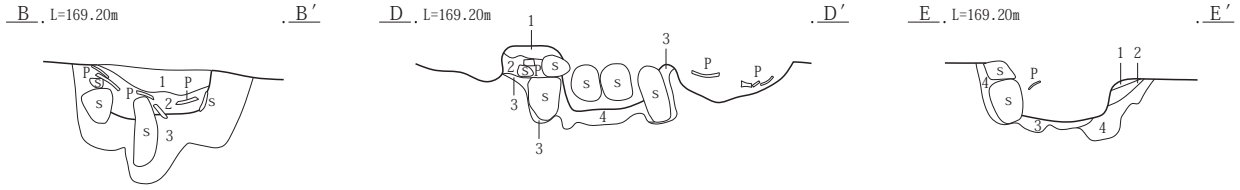
0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方





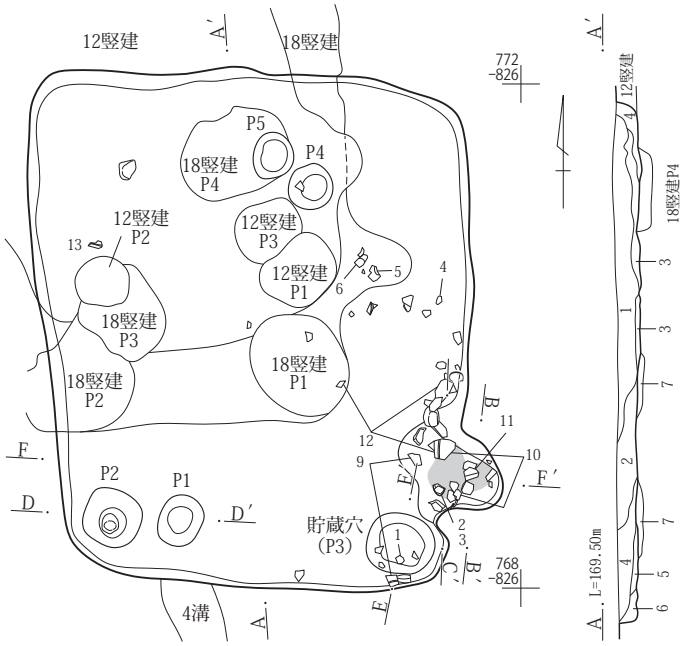
カマドＢ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム塊、焼土粒を少量含む。
2　ローム塊を主体とし、焼土粒を少量含む。
3　ローム塊を主体とし、焼土粗粒、炭化物粒をやや多量、焼土塊を少量含む。
カマドＣ－Ｃ′
1　ローム塊を主体とし、焼土粒を少量含む。
2　ローム塊を主体とし、焼土粗粒、炭化物粒をやや多量、焼土塊を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、焼土粗粒を少量含む。
カマドＤ－Ｄ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒、焼土粒を少量含む。
2　焼土塊を主体とする。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒、ローム塊をやや多量含む。
4　ローム塊を主体とし、焼土粗粒、炭化物粒をやや多量、焼土塊を少量含む。

カマドＥ－Ｅ′
1　焼土塊を主体とする。
2　にぶい赤褐色土(5YR4/4)　被熱酸化層。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、焼土粗粒を少量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム微粒を多量、As-C細粒を微量含む。

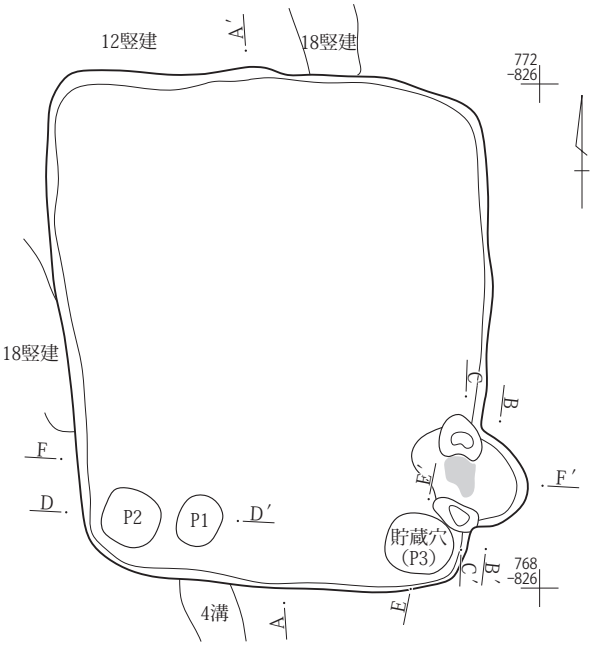
0　1：30　1m

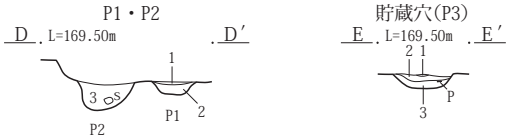
第119図　３面　Ｆ区10号竪穴建物

11号竪穴建物



掘り方





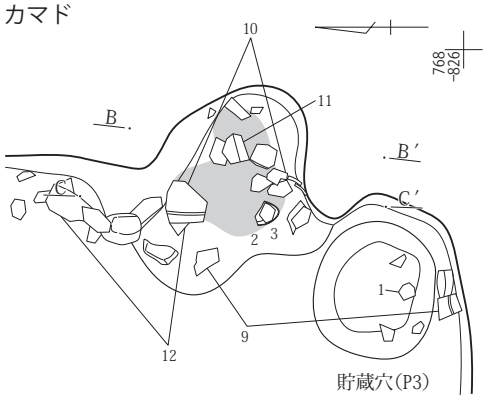
11号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒、ローム塊をやや多量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒をやや多量、ローム塊を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒、ローム小塊、ローム粗粒を少量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を少量含む。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を多量、As-C細粒をごく微量含む。
6　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を多量、焼土塊をやや多量、As-C細粒を微量含む。
7　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を非常に多量含む。

Ｐ１・Ｐ２Ｄ－Ｄ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　灰黄褐色土粗粒をやや多量、As-C細粒を微量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を非常に多量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粗粒をやや多量、ローム塊、ローム粒を少量、As-C細粒をごく微量含む。

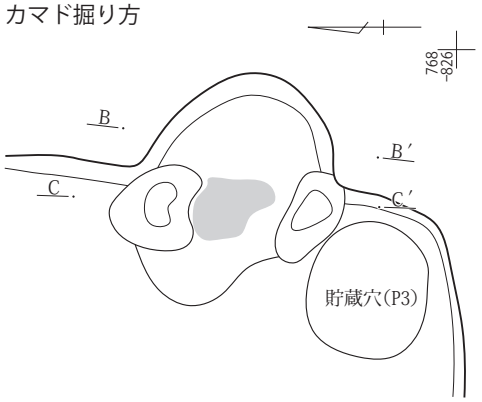
貯蔵穴(Ｐ３)Ｅ－Ｅ′
1　焼土塊。
2　ローム粒を主体とし、炭化物粒を多量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　灰黄褐色土小塊、炭化物粒を多量、As-C細粒を少量含む。

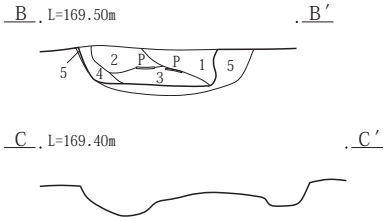
0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方



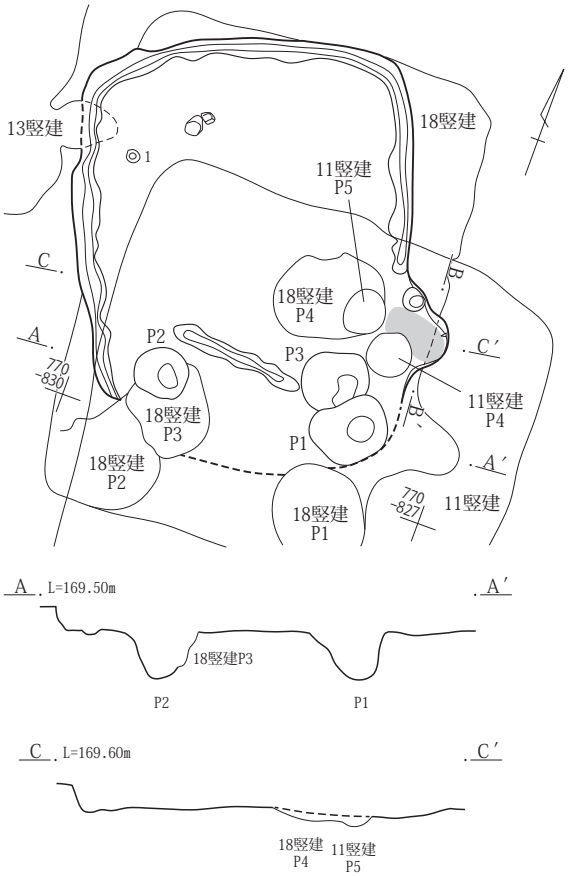


カマドＢ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　焼土塊をやや多量、As-C細粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　被熱ローム塊をやや多量、As-C細粒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粗粒をやや多量、As-C細粒をごく微量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム微粒をやや多量、炭化物粒を少量、As-C細粒を微量含む。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊をやや多量、焼土塊、炭化物粒を少量含む。

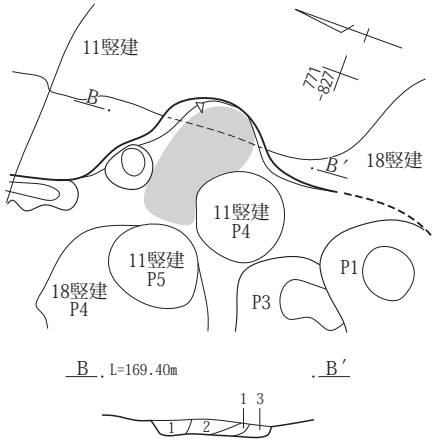
0　1：30　1m

第120図　３面　Ｆ区11号竪穴建物

12号竪穴建物



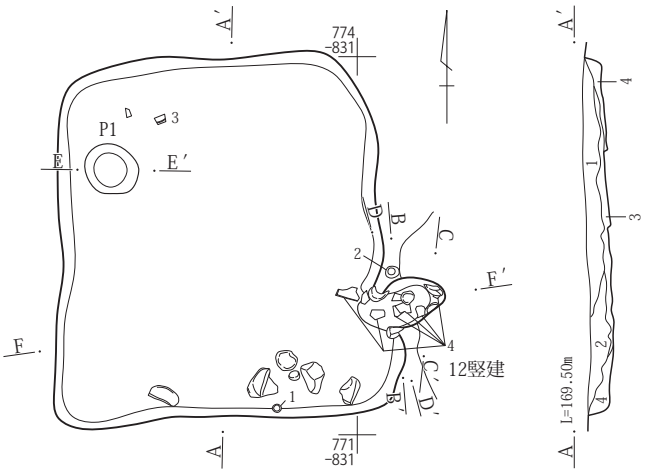
カマド



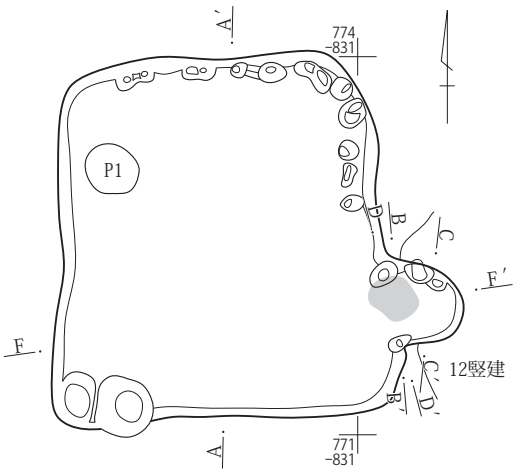
12号竪穴建物カマドＢ－Ｂ′
1　焼土塊を主体とする。
2　黒褐色土(10YR3/1)　焼土粒をやや多量、As-C細粒を微量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒を少量、As-C細粒を微量含む。

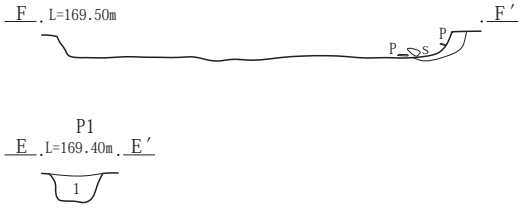
0　1：30　1m

13号竪穴建物



掘り方



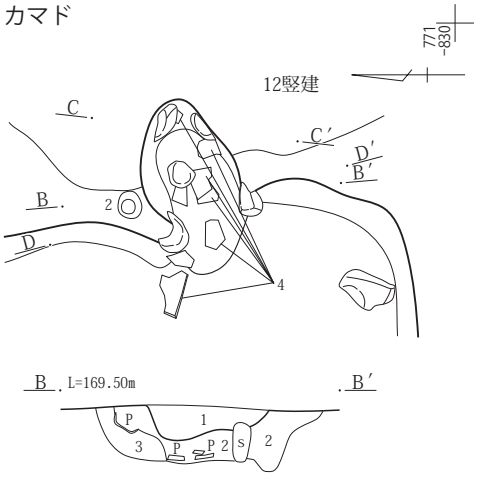


13号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒をやや多量、ローム塊、ローム粗粒～粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム塊をやや多量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム塊、ローム粗粒～粒を少量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム塊をやや多量、ローム粒を少量含む。
Ｐ１ Ｅ－Ｅ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、As-YP粒をやや多量、ローム塊を少量含む。

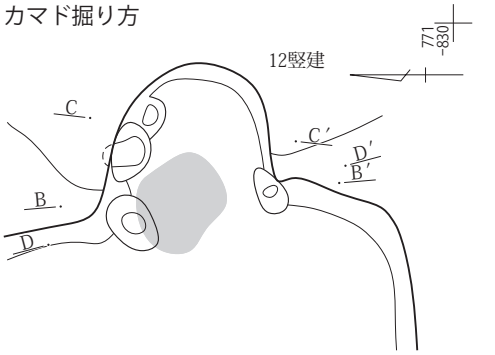
0　1：60　2m

第121図　３面　Ｆ区12・13号竪穴建物

カマド



カマド掘り方

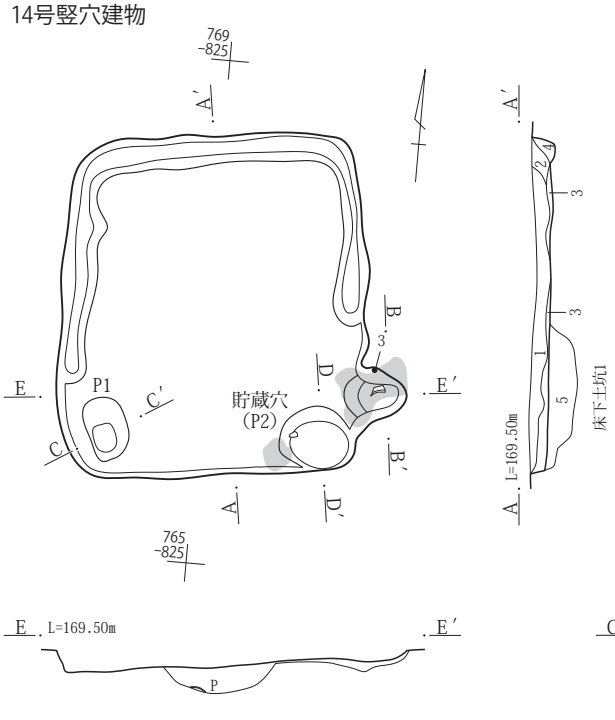


カマドＢ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒、As-C細粒、ローム小塊を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊をやや多量、As-C細粒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒をやや多量、As-C細粒を少量、ローム塊を微量含む。

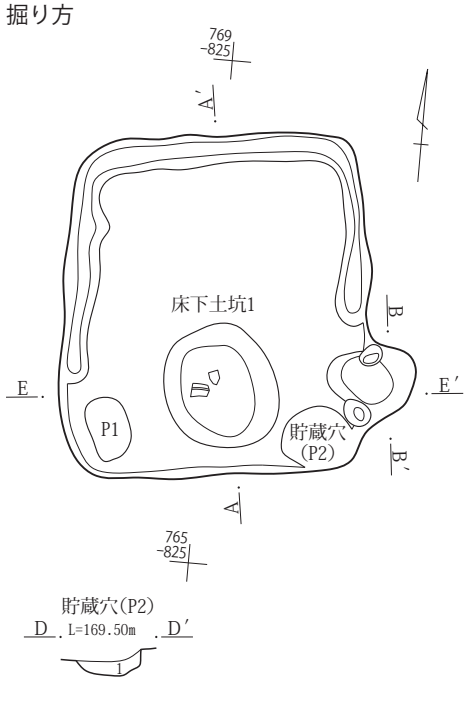
カマドＣ－Ｃ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒をやや多量、As-C細粒を少量、ローム塊を微量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊をやや多量、As-C細粒を少量含む。

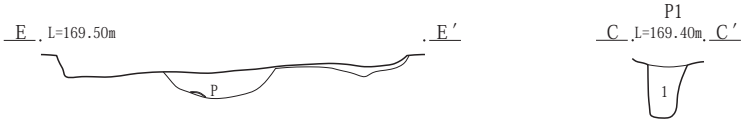
0　1：30　1m

14号竪穴建物



掘り方



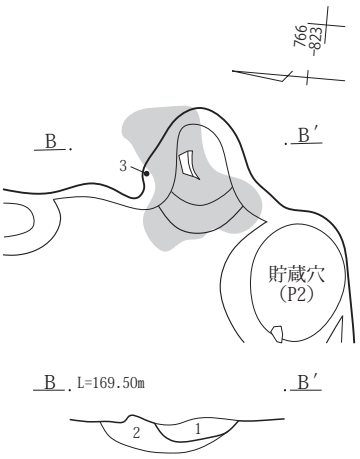


14号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒、ローム粒をやや多量、ローム塊、ローム粗粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粗粒をやや多量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒をやや多量、ローム粗粒を少量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊をやや多量、As-C細粒を少量含む。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を多量含む。
Ｐ１Ｃ－Ｃ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、灰黄褐色土小塊を少量含む。
貯蔵穴(Ｐ２)Ｄ－Ｄ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊、ローム粗塊を少量、As-C細粒を微量含む。

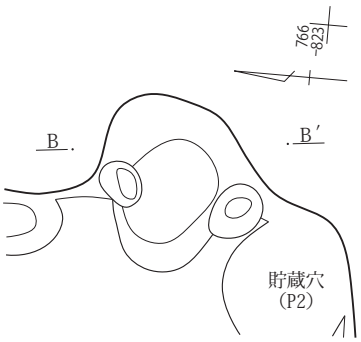
0　1：60　2m

第122図　３面　Ｆ区13・14号竪穴建物

カマド



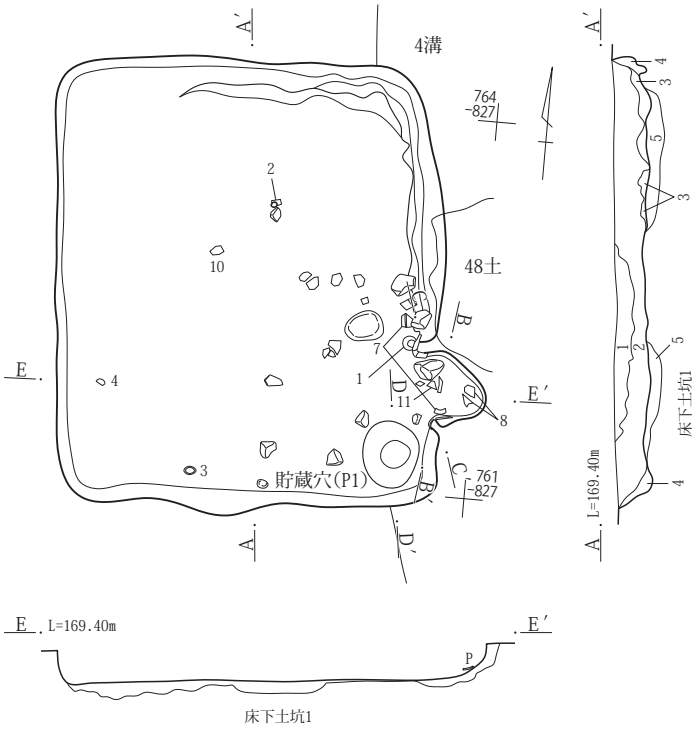
カマド掘り方



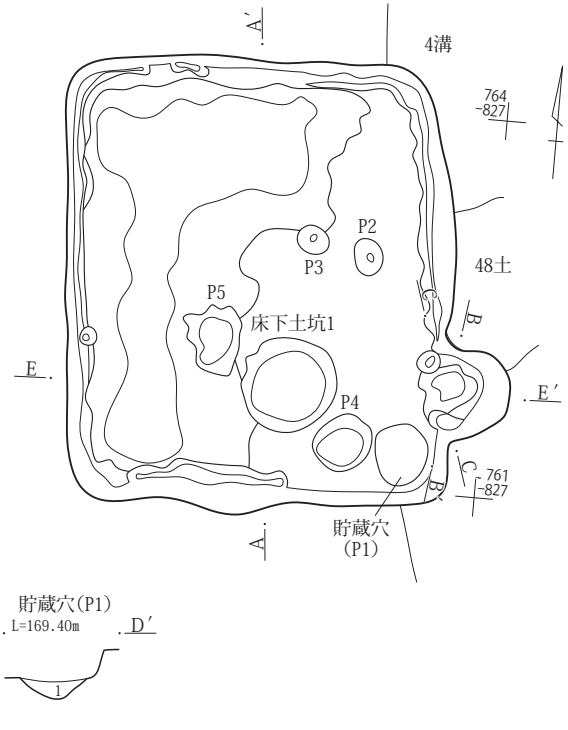
カマドＢ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　焼土粒を多量、焼土塊をやや多量、As-C細粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　焼土塊を非常に多量、ローム粒、焼土粒を多量含む。

0　1：30　1m

15号竪穴建物



掘り方

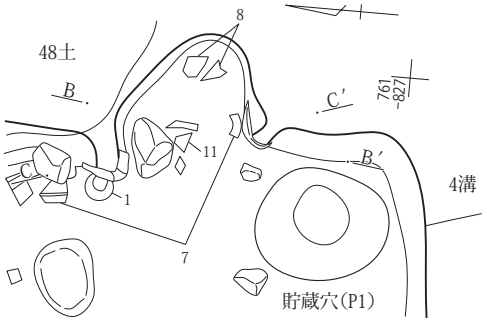


15号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒、灰黄褐色土粗粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊をやや多量、As-C粒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、灰黄褐色土粗粒を少量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　灰黄褐色土粗粒を少量、As-C細粒を微量含む。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を非常に多量含む。
貯蔵穴(Ｐ１)Ｄ－Ｄ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、焼土粒を少量、ローム粒を微量含む。

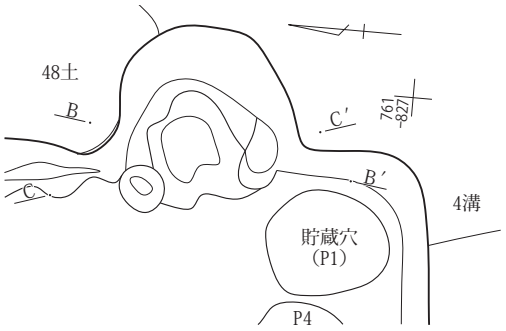
0　1：60　2m

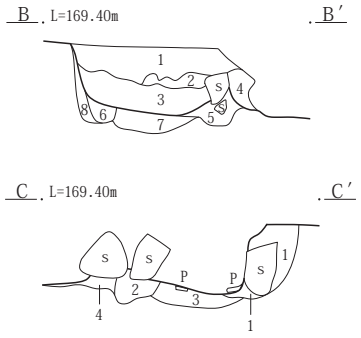
第123図　３面　Ｆ区14・15号竪穴建物

カマド



カマド掘り方



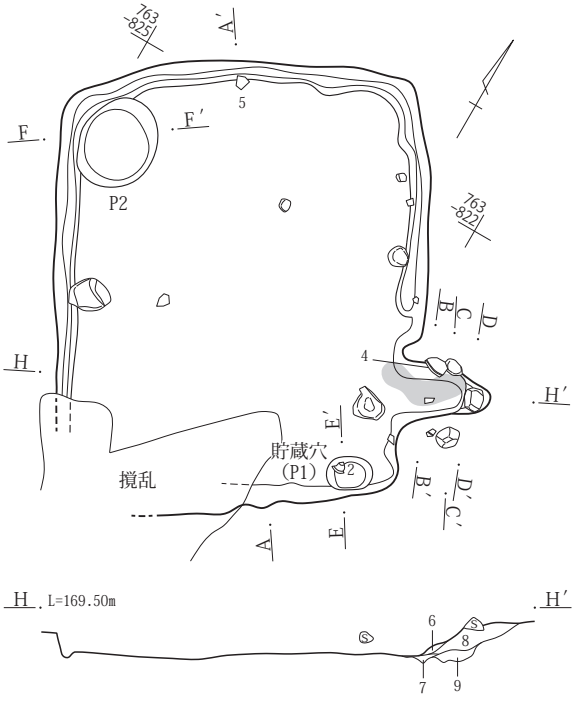


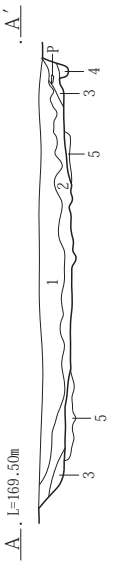
カマドB－B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒をやや多量、As-C粒を少量、焼土粒を微量含む。
2　ローム塊を主体とする。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊、ローム粒を少量、As-C細粒を微量含む。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を少量、As-C細粒を微量含む。
6　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊、焼土塊、焼土粒を少量、As-C細粒を微量含む。
7　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒をやや多量、As-C細粒をごく微量含む。
8　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒を少量含む。

カマドC－C′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を少量、As-C細粒を微量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊、焼土塊、焼土粒を少量、As-C細粒を微量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒をやや多量、As-C細粒をごく微量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒を少量含む。

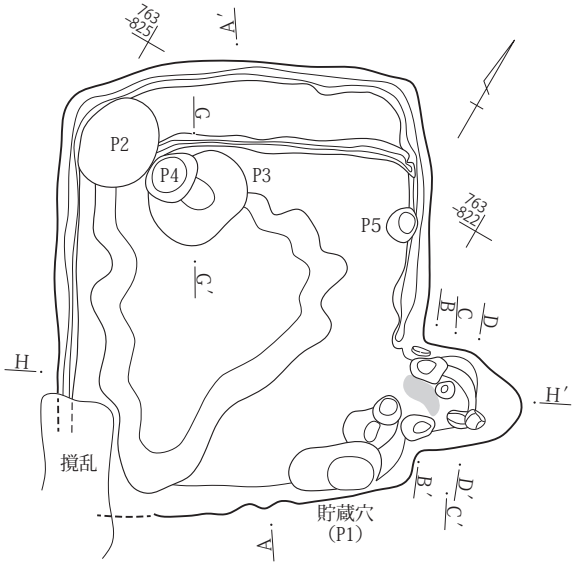
0　1：30　1m

16号竪穴建物





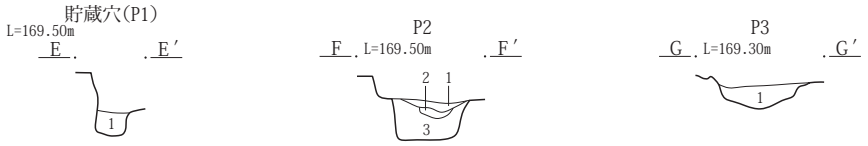
掘り方



15号竪穴建物A－A′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒、灰黄褐色土粗粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊をやや多量、As-C粒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、灰黄褐色土粗粒を少量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　灰黄褐色土粗粒を少量、As-C細粒を微量含む。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を非常に多量含む。
6　粒状焼土・被熱焼土化ローム土・黒褐色土(10YR3/1)の混土。
7　被熱酸化層。
8　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒少量、粗粒状焼土混入、塊状焼土含む。
9　黒褐色土(10YR3/1)　粗粒状焼土、塊状焼土少量の混土。

0　1：60　2m

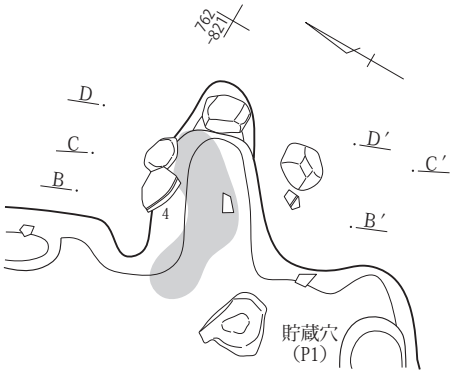
第124図　３面　F区15・16号竪穴建物

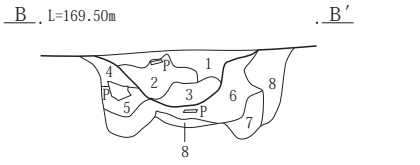


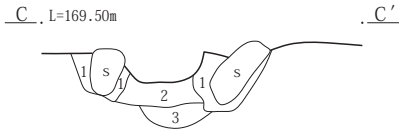
貯蔵穴(Ｐ１)Ｅ-Ｅ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、As-YP粒・ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。
Ｐ２Ｆ-Ｆ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒を微量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒～微粒をやや多量、ローム小塊を少量、As-C細粒を微量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、As-YP粒をやや多量、ローム小塊、ローム粒を少量含む。
Ｐ３Ｇ-Ｇ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム塊をやや多量、ローム粒を少量含む。

0　1：60　2m

カマド

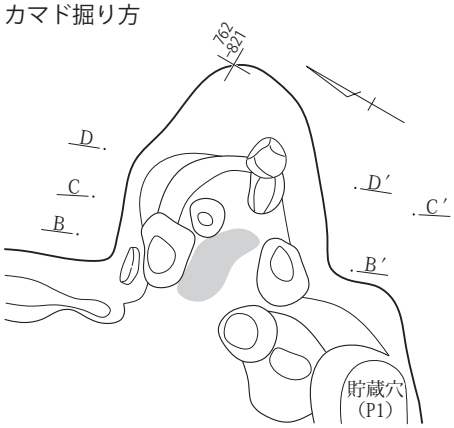


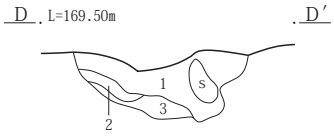




カマドＢ-Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒をやや多量、焼土粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊、ローム粗塊を多量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、焼土粒をやや多量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊、ローム粗塊を非常に多量含む。
5　焼土塊を主体とし、ローム粗塊をやや多量含む。
6　黒褐色土(10YR3/1)　焼土粒を多量含む。
7　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粗粒～粒を少量､As-C細粒を微量含む。
8　にぶい赤褐色土(5YR4/4)　被熱酸化層。

カマド掘り方



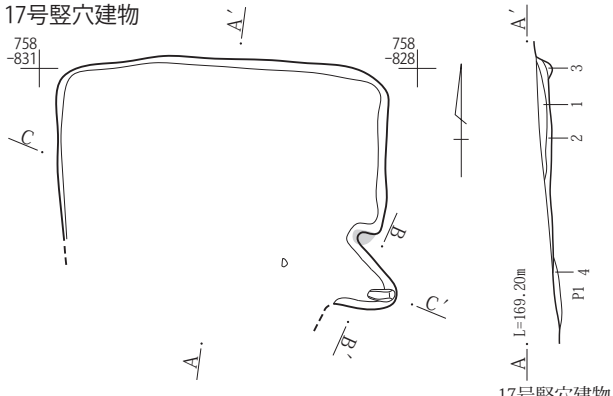


カマドＣ-Ｃ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム塊をやや多量、ローム粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　焼土塊・焼土粗粒をやや多量、As-C粒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　焼土塊、焼土粗粒を非常に多量含む。
カマドＤ-Ｄ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　焼土塊・焼土粗粒をやや多量、As-C粒を少量含む。
2　ローム塊を主体とする。
3　黒褐色土(10YR3/1　焼土塊、焼土粗粒を非常に多量含む。

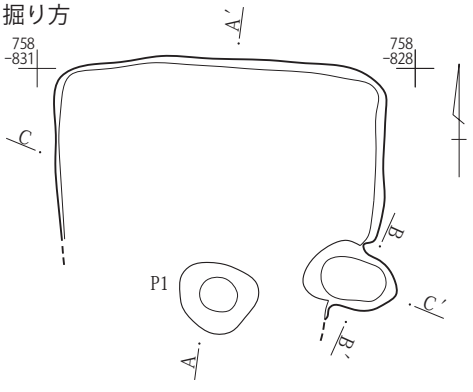
0　1：30　1m

第125図　３面　Ｆ区16号竪穴建物

17号竪穴建物



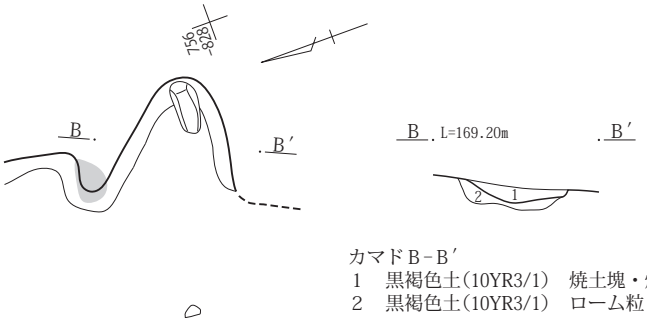
掘り方



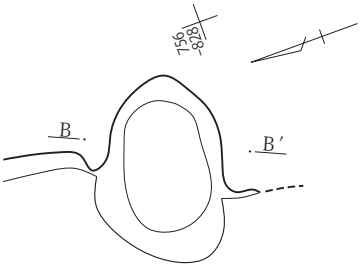
17号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C微粒を微量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒を少量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粗粒を少量含む。

0　1：60　2m

カマド



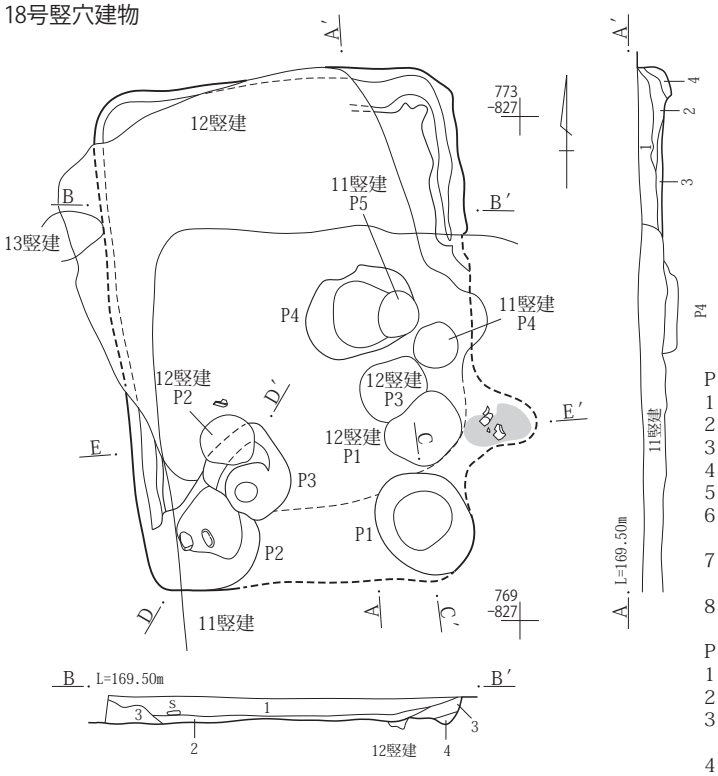
カマド掘り方



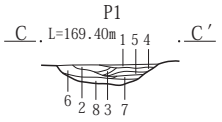
カマドＢ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　焼土塊・焼土粒をやや多量、As-C細粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒・焼土粒をやや多量、As-C細粒を微量含む。

0　1：30　1m

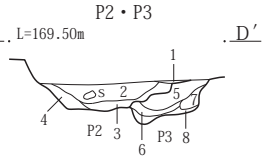
18号竪穴建物

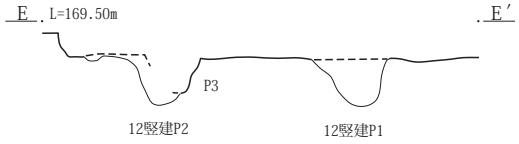


P1



P2・P3





18号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒をやや多量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒、ローム粒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒を少量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム塊をやや多量、As-YP粒を少量含む。

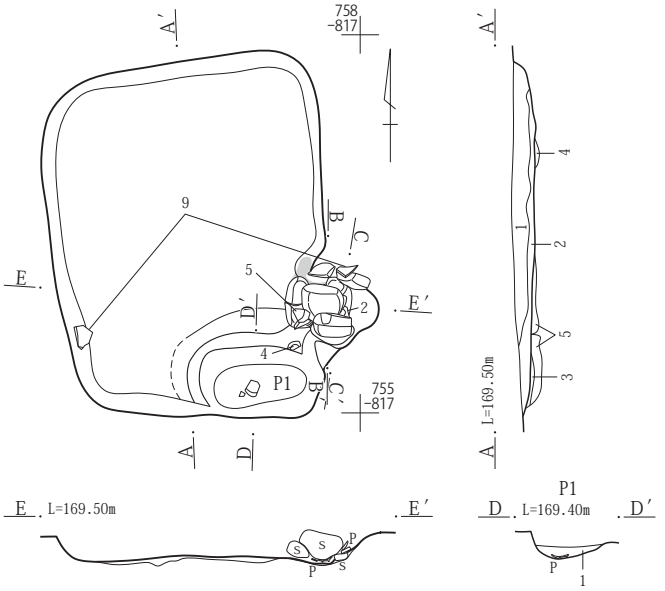
Ｐ１Ｃ－Ｃ'
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C微粒を微量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊、ローム粗粒、焼土塊を多量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム粒を少量含む。
4　ローム粗粒を主体とし、ローム小塊を多量含む。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を少量含む。
6　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒をやや多量、ローム粗粒を少量、As-C細粒を微量含む。
7　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒・ローム塊を少量、As-C細粒を微量含む。
8　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒・焼土塊・焼土粒を少量、As-C細粒を微量含む。

Ｐ２・Ｐ３Ｄ－Ｄ'
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C微粒を微量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒をやや多量、As-C細粒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊・ローム粒をやや多量、As-C細粒を微量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を微量含む。
5　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒をやや多量含む。
6　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒、ローム粒を少量含む。
7　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒を少量含む。
8　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒、ローム塊をやや多量、As-YP粒を少量含む。

0　1：60　2m

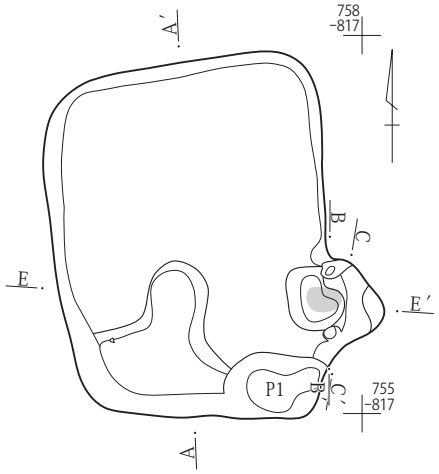
第126図　３面　Ｆ区17・18号竪穴建物

19号竪穴建物



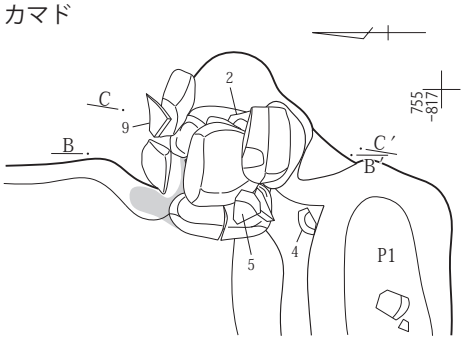
19号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒をやや多量、ローム塊、暗褐色土塊を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を少量、ローム塊を微量含む。
3　ローム塊を主体とする。貼床。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を非常に多量含む。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を多量含む。

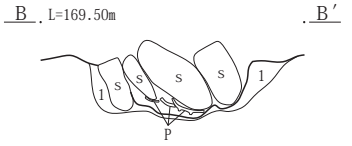
掘り方

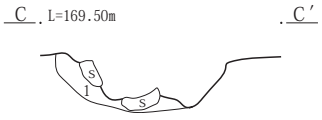


Ｐ１Ｄ－Ｄ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊、焼土粒少量、As-C細粒を微量含む。

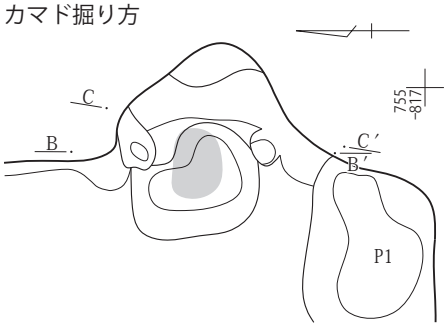
カマド



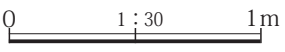




カマド掘り方

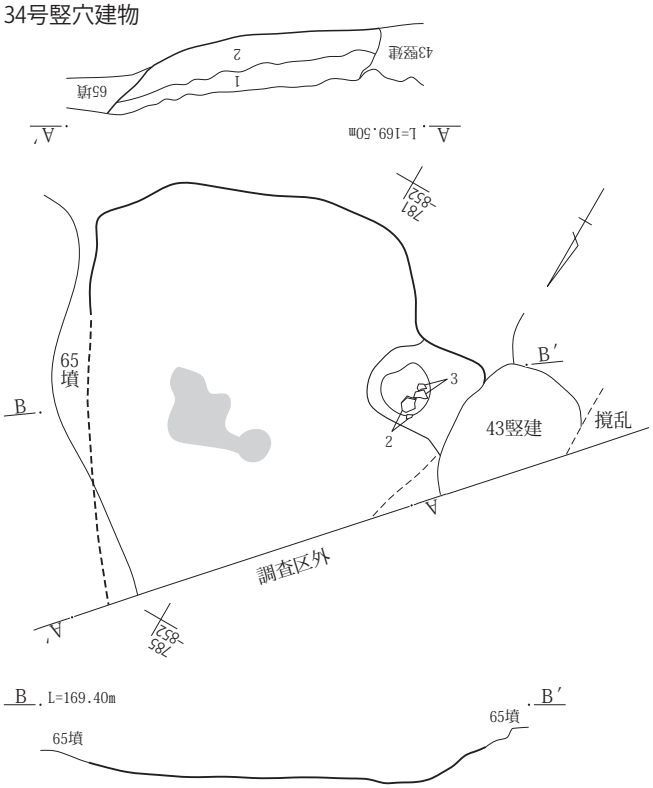


カマドＢ－Ｂ′・Ｃ－Ｃ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊、暗褐色土塊を多量含む。



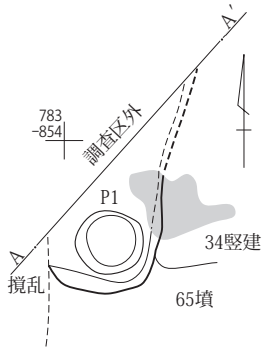
第127図　３面　Ｆ区19号竪穴建物

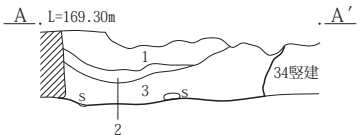
34号竪穴建物



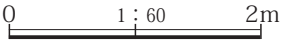
34号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒をやや多量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を少量、ローム塊を微量含む。

43号竪穴建物





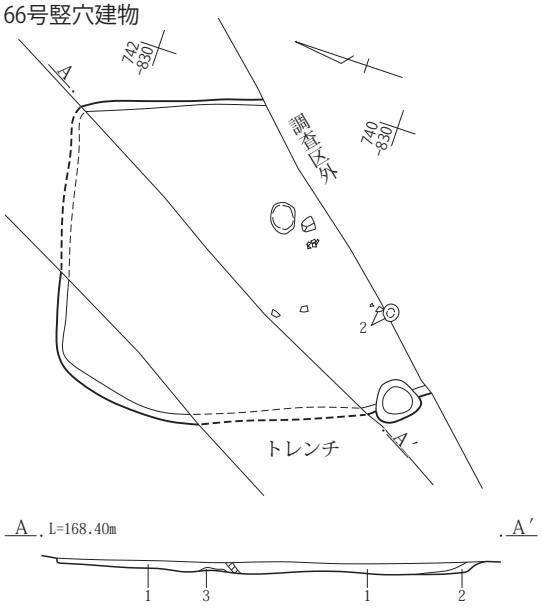
43号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-Cを少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒・ローム粒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒をやや多量含む。



第128図　３面　Ｆ区34・43号竪穴建物

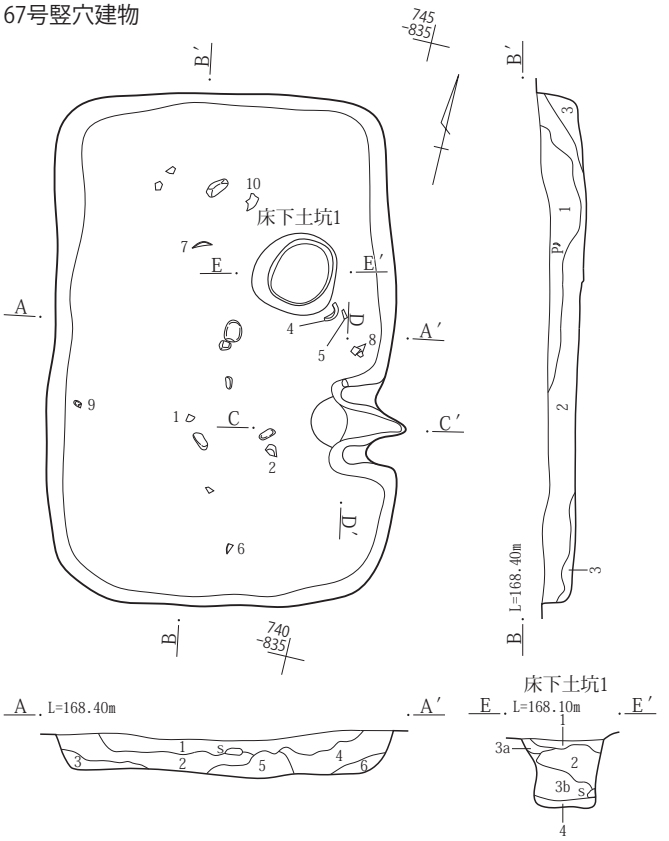
Ｇ１区

66号竪穴建物



66号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-Ｃ混にローム小塊含む。炭粒・焼土粒わずかに含む。
2　にぶい黄褐色土に、ローム塊を含む。
3　ローム塊主体、黒褐色土含む。

67号竪穴建物

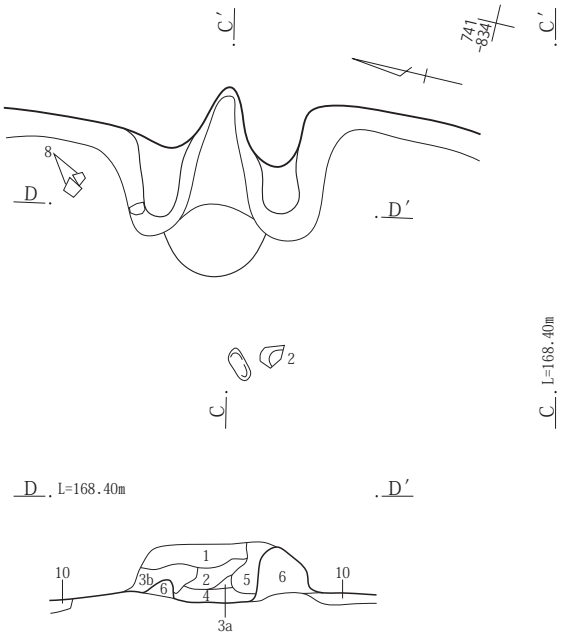


67号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　２～５㎜程の礫を多く、As-Ｃ粒・炭化物をわずか、10～２㎝程のローム塊をごくわずか含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　２～５㎜程の礫･ローム粒を多く、As-Ｃ粒をわずか、炭化粒をごくわずか含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・ローム塊を含む。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒を多く、ローム土・ローム塊をわずか、焼土塊・炭化粒をごくわずか含む。
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を多く、ローム粒を含む。ローム塊をわずか、炭化粒をごくわずか含む。
6　暗褐色土(10YR3/4)　焼土塊・灰を含む。ローム塊・ローム粒・炭化粒をわずか含む。

床下土坑１Ｅ-Ｅ′
1　ややしまった黒褐色土ローム小塊含む。
2　黒色土とローム塊、As-YP粒混じり。
3a　As-YP粒多量に含む黒色土。しまり強い。
3b　黒色土混じりのAs-YP層 しまり弱い。
4　１層に似る。

0　1：60　2m

カマド

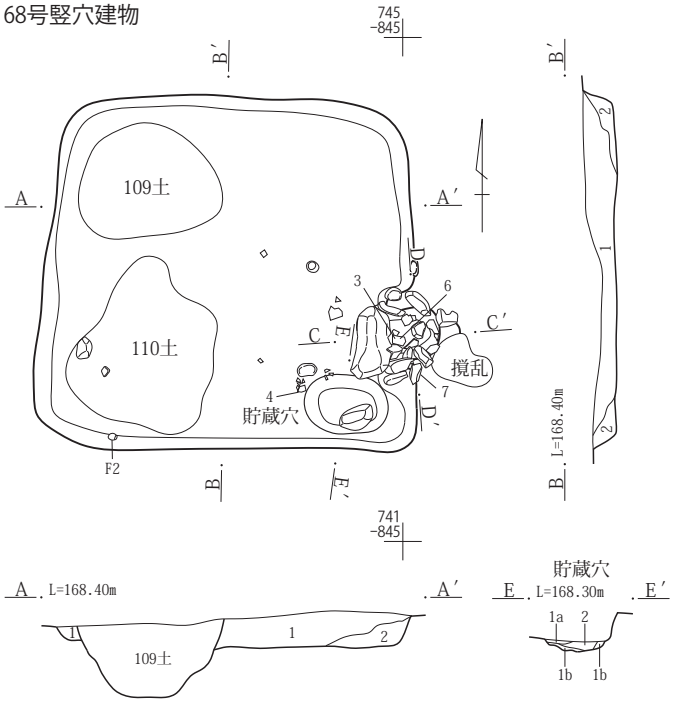


カマドＣ－Ｃ′・Ｄ-Ｄ′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　しまりあるAs-Ｃ混・ローム小塊含む。
2　As-Ｃ混土にローム塊多量に含む。
3a　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・炭粒含む。
3b　3a層より焼土、炭粒少ない。
4　焼土小塊、炭粒　青灰色灰混じり。
5　褐色土(10YR4/4)　しまり・粘性あり。
6　ローム塊と黒色塊混土、カマド芯材か。
7　ローム塊にくすんだ黄褐色土混じり。
8　にぶい黄褐色ローム主体。
9　にぶい黄褐色土にローム、焼土塊含む。粘性あり。
10　ローム塊と黒褐色土の混土。
11　ローム主体、わずかに黒褐色土混じる。

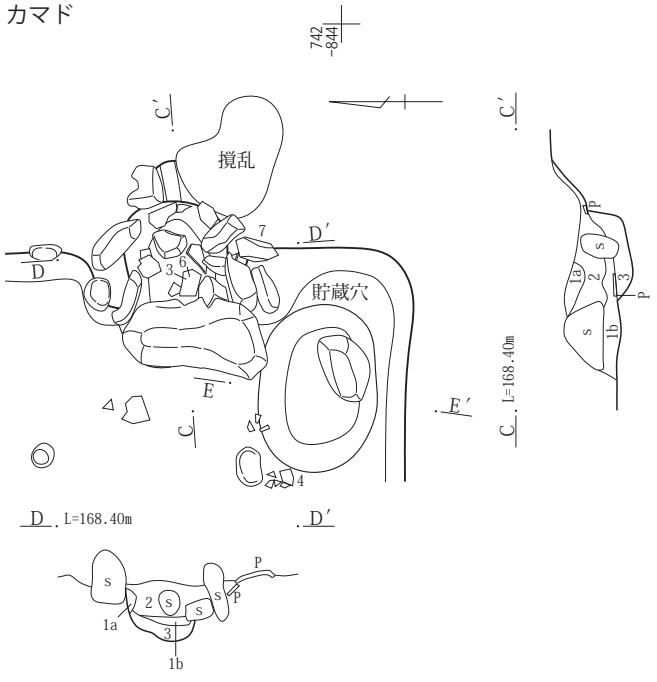
0　1：30　1m

第129図　３面　Ｇ１区66・67号竪穴建物

68号竪穴建物

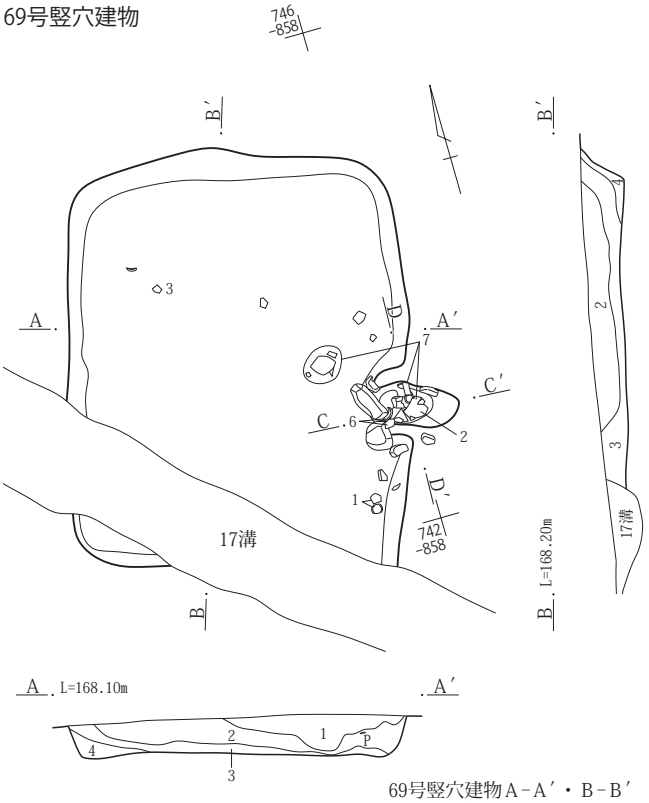


カマド

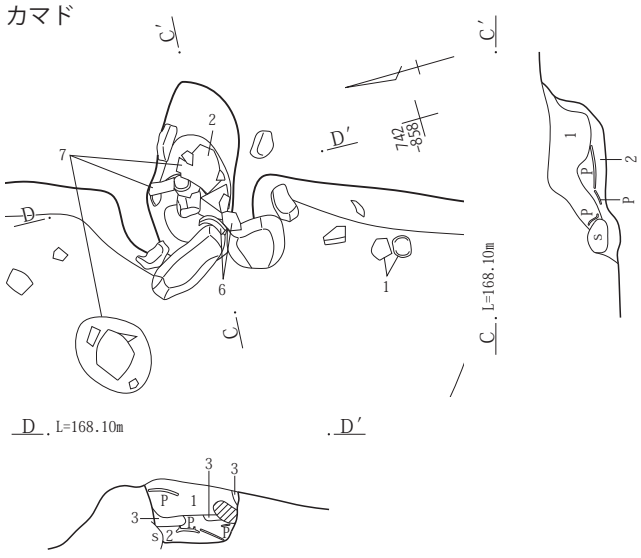


68号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　１～３㎜程の礫・As-Ｃ粒・ローム粒を多く、炭化粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・塊を含む。炭化粒をごくわずか含む。
カマドＣ－Ｃ′・Ｄ-Ｄ′
1a　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　くすんだローム土にAs-YPやや多く含む。
1b　1a層に焼土粒含む。ローム塊やや大きい。
2　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ混土にローム小塊わずかに含む。
3　にぶい褐色土(7.5YR5/4)　焼土塊、土器片混じり。
貯蔵穴E-E′
1a　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒・炭粒・ローム粒含む。
1b　1a層より炭粒、焼土粒少ない。
2　黄褐色ローム均一。焼土粒含む。粘性強い。

69号竪穴建物



カマド



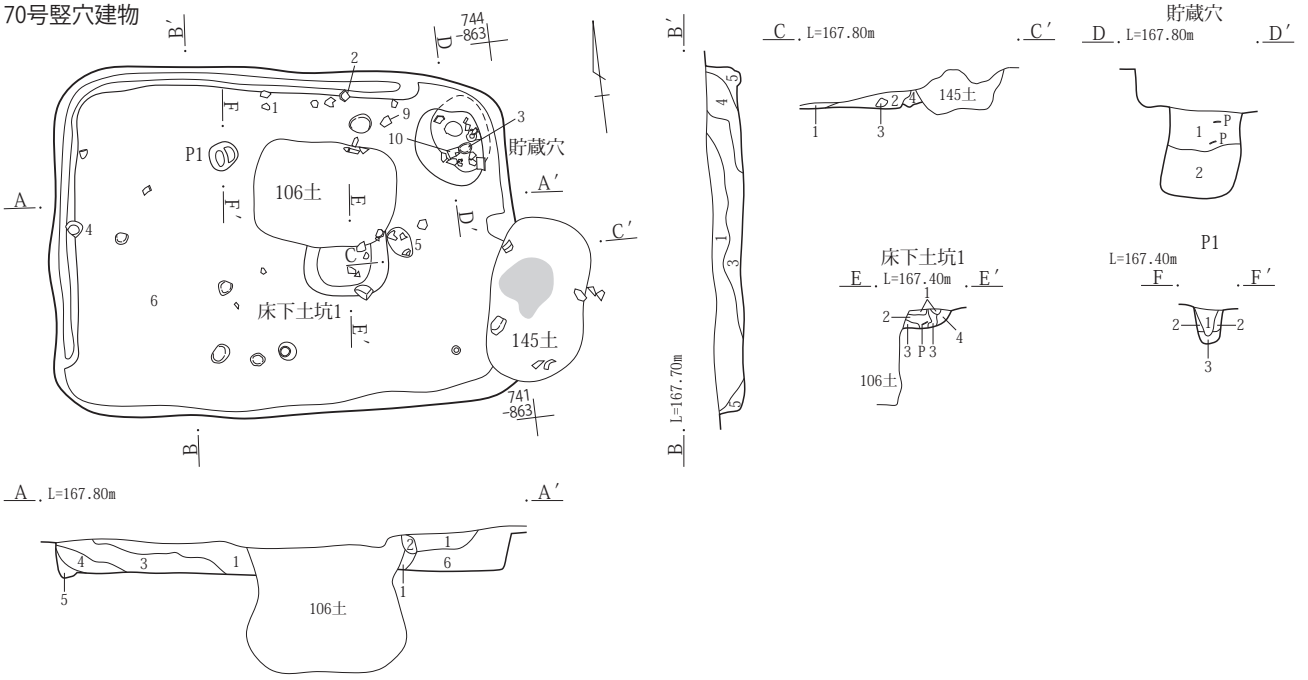
カマドＣ－Ｃ′・Ｄ-Ｄ′
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム土にAs-YP粒含む。
2　にぶい褐色土(7.5YR5/4)　土器片、焼土塊含む。しまり非常に弱い。
3　にぶい赤褐色土(5YR5/4)　焼土塊・同粒子を多く含む。

69号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　暗褐色土(10YR3/4)　１～２㎜程の礫・As-Ｃ粒を多く、ローム粒をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　１～２㎜程の礫・As-Ｃ粒を多く、炭化物・炭化粒を含む。ローム粒をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　１～２㎜程の礫・As-Ｃ粒・ローム粒・ローム塊・炭化物をわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊・ローム粒を含む。

0　1：60　2m

0　1：30　1m

第130図　３面　Ｇ１区68・69号竪穴建物

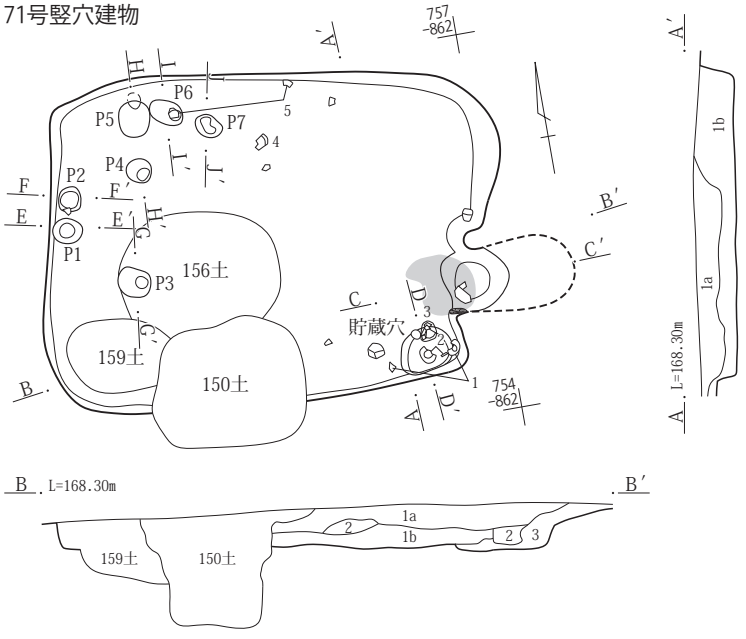


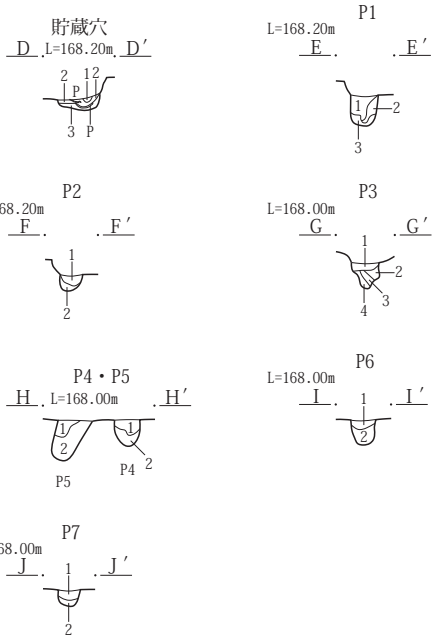
70号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
１　黒褐色土(10YR2/2)　１～２㎜程の礫・As-Ｃ粒含む。ローム塊をごくわずか含む。
２　黒褐色土(10YR2/2)　砂礫混じり　ややしまりなし。
３　黒褐色土(10YR2/2)　１～２㎜程の礫・As-Ｃ粒を多く、ローム土・塊を含む。
４　黒褐色土(10YR2/2)　ローム塊を含む。１～２㎜程の礫・As-Ｃ粒をわずか含む。
５　黒褐色土(10YR2/2)　ローム土・塊を含む。ローム粒をごくわずか含む。
６　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・粒を非常に多く、１～２㎜程の礫を多く、ローム土をわずか含む。
Ｃ－Ｃ′（カマド残骸か）
１　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を含む。ローム塊・粒をごくわずか含む。
２　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・塊・粒をわずか含む。
３　褐色土(10YR4/6)　ローム土・粒をわずか含む。
４　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土。暗褐色土(10YR3/4)が混ざる。ローム塊・粒をわずか含む。
貯蔵穴Ｄ-Ｄ′
１　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。ややしまりなし。
２　黒褐色土(10YR2/3)　黄褐色(10YR5/8)のローム土・塊・粒・５㎝～７㎝程のローム塊を含む。ややしまりなし。
床下土坑１Ｅ-Ｅ′
１　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・１～２㎜程の礫をわずか含む。
２　褐色土(10YR4/6)　ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。
３　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)・ローム塊・粒・As-Ｃ粒をわずか含む。ややしまりなし。
４　褐色土(10YR4/6)　ローム塊・粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
Ｐ１Ｆ-Ｆ′
１　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒・１～２㎜程の礫をわずか含む。
２　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・粒をわずか、As-Ｃ粒を塊状で含む。
３　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム塊・As-Ｃ粒を多く含む。

0　1：60　2m

第131図　３面　Ｇ１区70号竪穴建物

71号竪穴建物

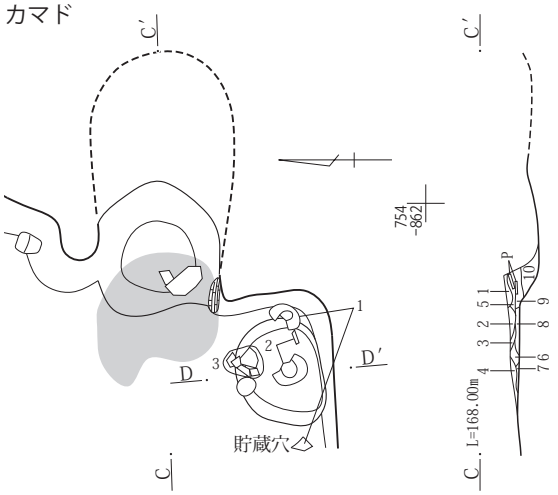




71号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1a　黒色土(10YR2/1)　As-Ｃ混土、わずかにローム小塊含む。硬くしまる。
1b　1a層よりしまり弱く、炭粒、焼土粒わずかに含む。
2　As-Ｃ混土にローム塊混じる。
3　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土にわずかにローム粒含む。
貯蔵穴D-D′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土わずか、ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をごくわずか含む。ややしまりなし。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・焼土粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
Ｐ１E-E′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム塊・粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
Ｐ２F-F′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く含む。一部ややしまりなし。
Ｐ３G-G′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土わずか、ローム塊・粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム塊・粒をわずか含む。ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をごくわずか含む。ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒を含む。ややしまりなし。
Ｐ４H-H′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く含む。一部ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
Ｐ５H-H′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊わずか、ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
Ｐ６I-I′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・塊・粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
Ｐ７J-J′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。

0　1：60　2m

カマド

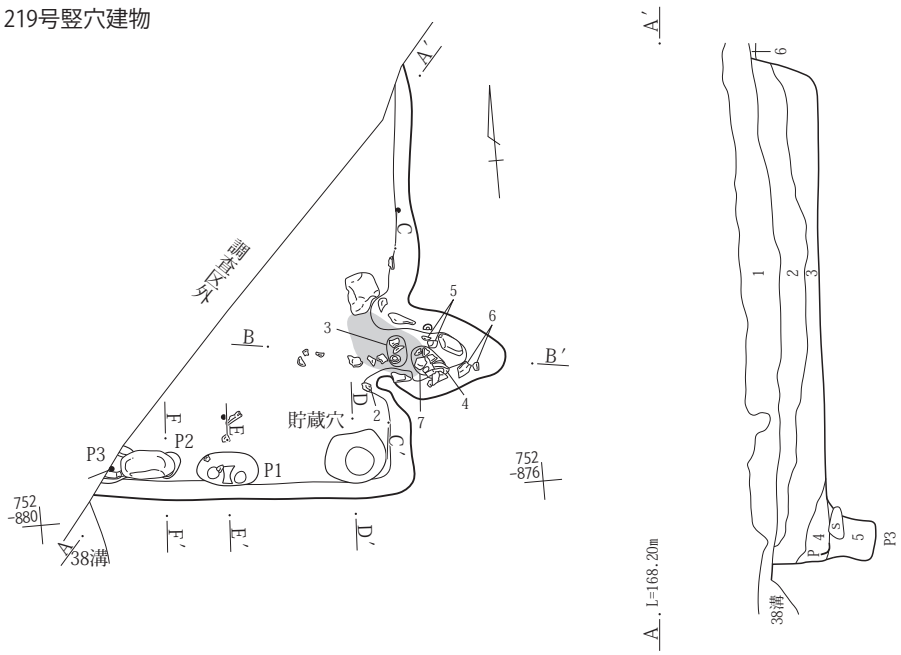


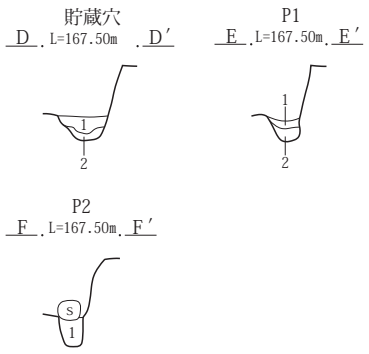
カマドC-C′
1　暗褐色土(10YR3/4)　焼土塊を非常に多く含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、焼土塊をわずか含む。ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　焼土塊をごくわずか含む。ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊をごくわずか含む。ややしまりなし。
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を非常に多く含む。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土わずか、焼土塊・ローム塊をごくわずか含む。
7　暗褐色土(10YR3/4)　焼土を非常に多く含む。
8　褐色土(10YR4/6)　しまりあり。
9　暗褐色土(10YR3/4)　焼土・焼土塊を含む。ややしまりなし。
10　暗褐色土(10YR3/4)　砂礫状の焼土を非常に多く含む。もろく崩れやすい。

0　1：30　1m

第132図　３面　Ｇ１区71号竪穴建物

219号竪穴建物



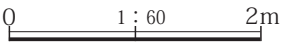


貯蔵穴D-D′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒を含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。

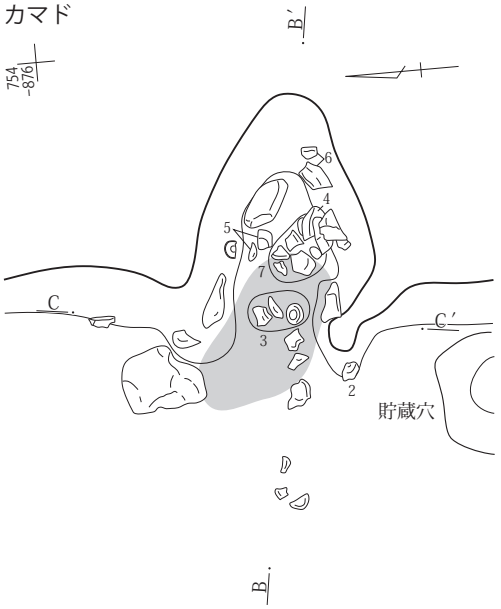
Ｐ１E-E′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊・粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小～大塊多量含む。しまり弱、粘性あり。

Ｐ２F-F′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　黒褐色土・ローム小～大塊を含む。しまり・粘性あり。

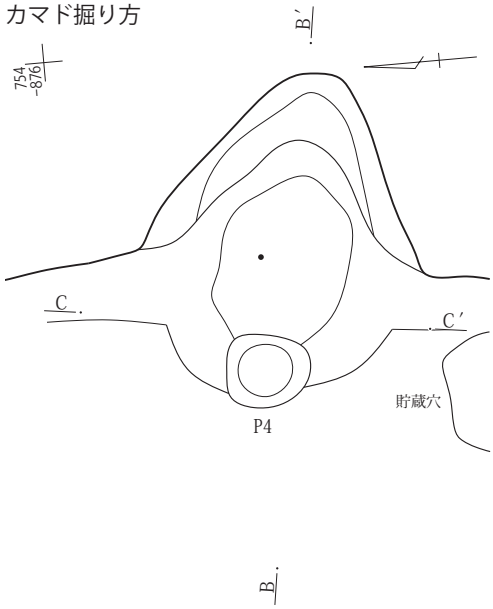
219 号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/1)　圃場整備造成土、As-Ｃを含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-Ｃ微量含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・ローム約５㎜塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　礫・褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。遺物を含む。Ｐ３埋没土。
6　黒褐色土(10YR3/1)　As-Ｃ・にぶい黄褐色土を含む。しまり・粘性あり。

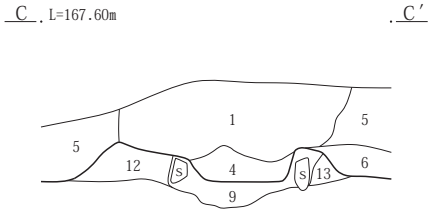


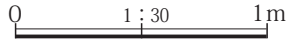
カマド



カマド掘り方



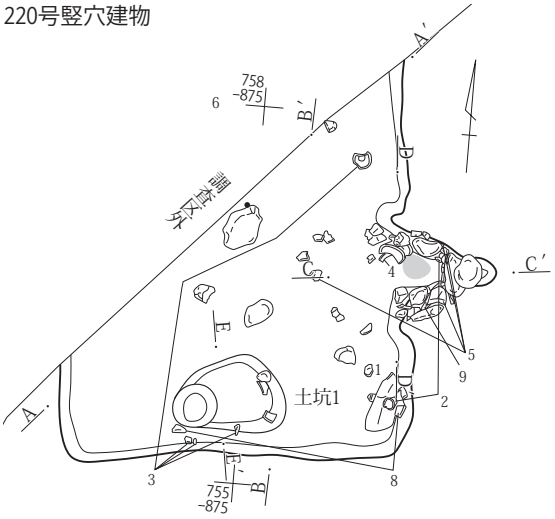




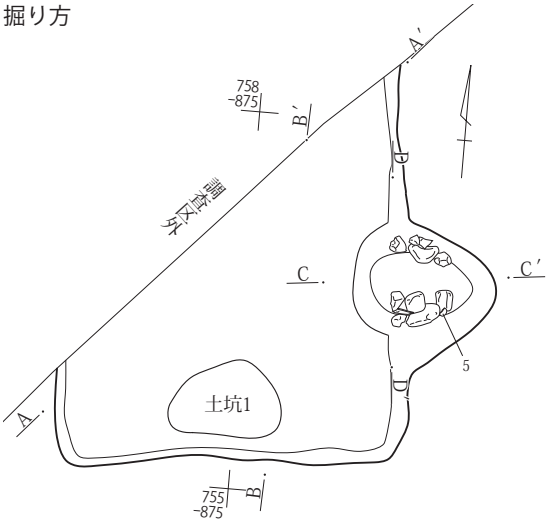
カマドB-B′・C-C′
1　黒褐色土(7.5YR3/2)　ローム約１㎝塊多量、焼土小塊少量含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小～大塊・焼土塊を含む。しまり・粘性あり。
4　灰褐色土(7.5YR4/2)　明黄褐色粘土・カマド構築土・焼土塊多量含む。しまりやや弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
6　暗褐色土(10YR3/4)　にぶい黄褐色粒少量含む。しまり・粘性あり。
7　黒褐色土(2.5Y3/1)　ローム粒多量、焼土約５㎜塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
8　黒褐色土(5YR2/1)　焼土塊を含む。しまり弱、粘性あり。
9　褐灰色土(5YR4/1)　焼土塊を含む。しまり・粘性あり。
10　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。10・11層はＰ４埋没土。
11　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP多量、ローム約５㎜塊少量含む。しまり・粘性あり。
12　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム塊多量、焼土小塊を含む。しまりややあり、粘性あり。
13　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　しまり・粘性あり。

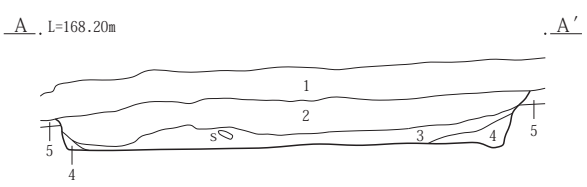
第133図　３面　Ｇ１区219号竪穴建物

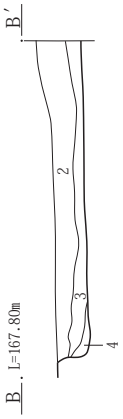
220号竪穴建物



掘り方





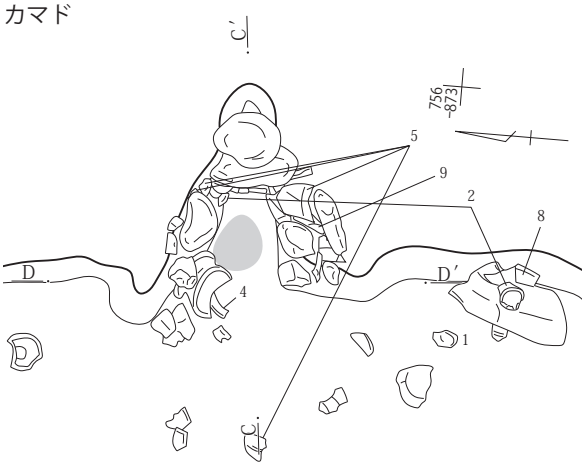


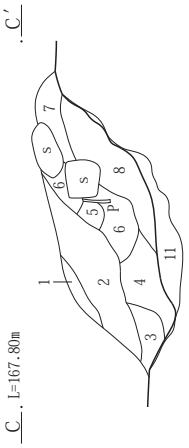
土坑１E-E′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土・ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。

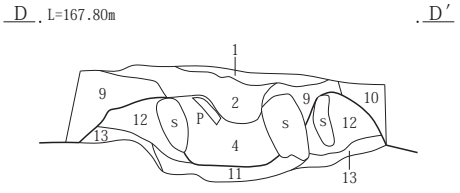
220号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　圃場整備造成土、As-Cを含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量で均質、しまり弱、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　褐色土小塊多量含む。しまりややあり、粘性あり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　黒褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/1)　As-C・にぶい黄褐色土を含む。しまり・粘性あり。

0　1：60　2m

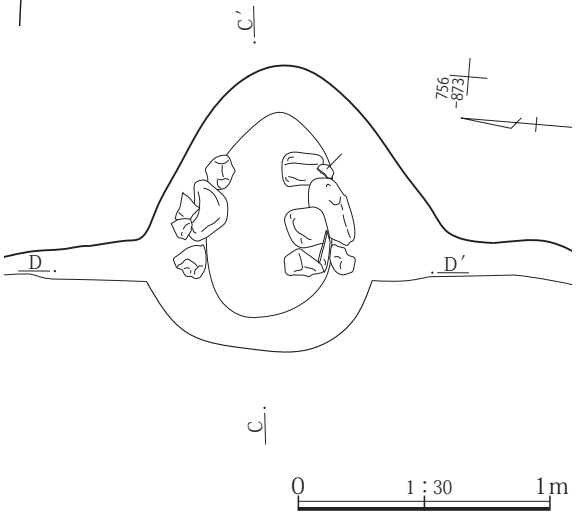
カマド







カマド掘り方

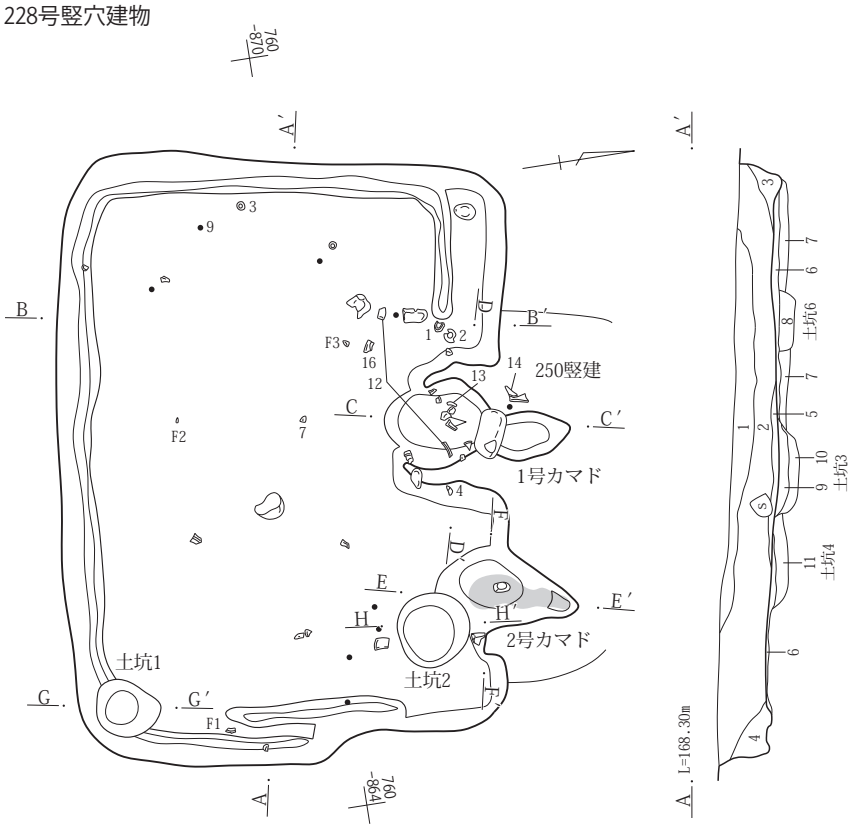


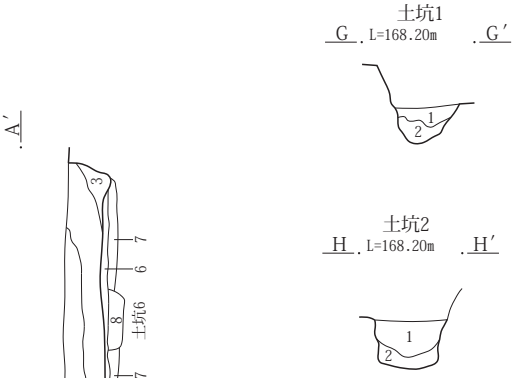
カマドC-C′・D-D′
1　黒色土(7.5YR2/1)　As-C少量、ローム塊を含む。しまり・粘性あり。
2　黒色土(7.5YR2/1)　As-C多量含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　暗褐色土(7.5YR3/3)　焼土粒多量、遺物を含む。しまり・粘性あり。
5　黒色土(7.5YR2/1)　２層に類似、ローム粒少量含む。しまり・粘性あり。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム塊多量、As-C少量含む。しまりややあり、粘性あり。
7　黒褐色土(10YR3/1)　As-C少量、礫・炭化物を含む。しまり弱、粘性あり。
8　黒色土(10YR2/1)　焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
9　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・As-YP少量、礫・ローム小塊を含む。しまりややあり、粘性あり。
10　黒褐色土(10YR3/1)　As-C少量含む。色味は暗い、しまり・粘性あり。
11　黒褐色土(7.5YR3/1)　やや砂質土、しまりあり、粘性弱。掘り方。
12　暗褐色土(10YR3/3)　灰白色粒少量、礫・ローム小塊・粒を含む。しまり・粘性あり。
13　灰黄褐色土(10YR4/2)　しまり・粘性あり。

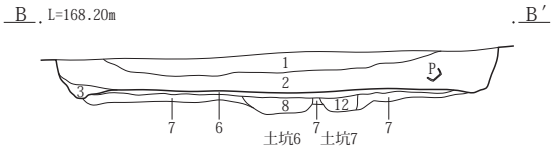
0　1：30　1m

第134図　３面　Ｇ１区220号竪穴建物

228号竪穴建物





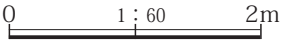


掘り方

228号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C 多量含む。焼土粒を含む。しまり強、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・ローム小塊少量、炭化物を含む。しまり弱、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム塊・粒・焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム小塊多量、遺物を含む。しまりややあり、粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　４層に類似、ローム粒を含む。しまり弱、粘性あり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・粒を含む。しまり強、粘性弱。
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒・As-YPを含む。しまり・粘性あり。
8　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。土坑６埋没土。
9　灰黄褐色土(10YR4/2)　炭化物を含む。しまりややあり、粘性あり。９・10層は土坑３埋没土。
10　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量、ローム約３～５㎝塊・炭化物を含む。しまりややあり、粘性あり。
11　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　10層に類似、ローム小塊多量、明黄褐色粒を含む。しまり・粘性あり。土坑４埋没土。
12　褐灰色土(10YR4/1)　砂質土、炭化物を含む。しまり弱、粘性弱。土坑７埋没土。

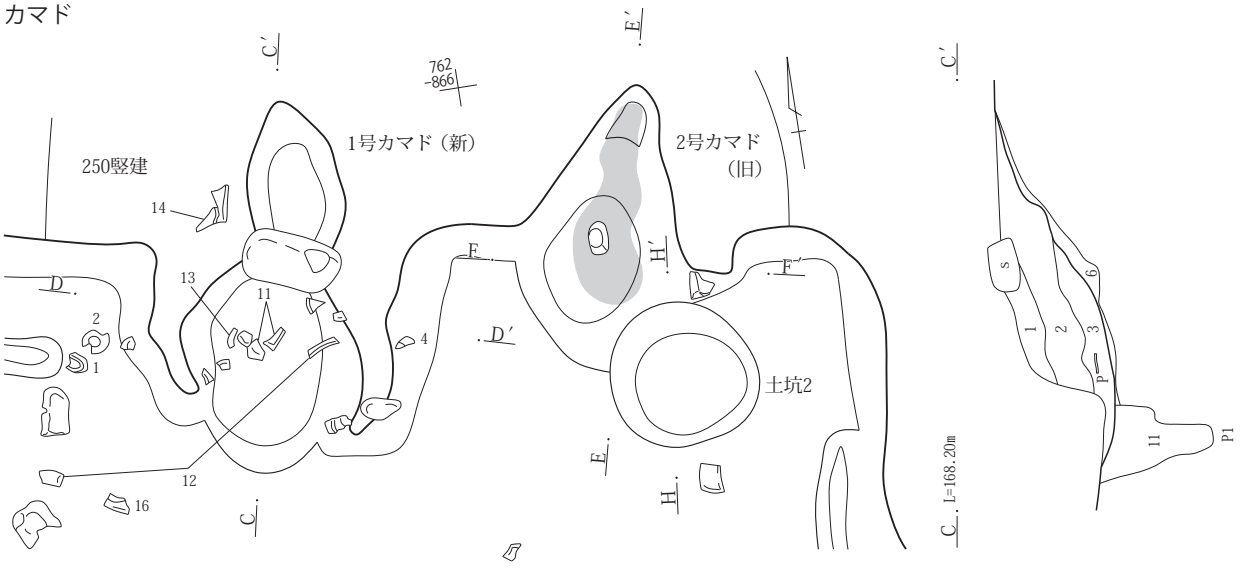
土坑１G-G′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム約５㎜塊・粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約１㎝塊多量含む。しまり弱、粘性あり。

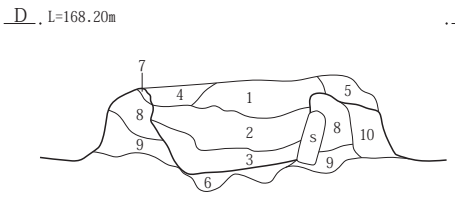
土坑２H-H′
1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・小礫・にぶい黄橙色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR2/2)　ローム粒多量、As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。



第135図　３面　Ｇ１区228号竪穴建物

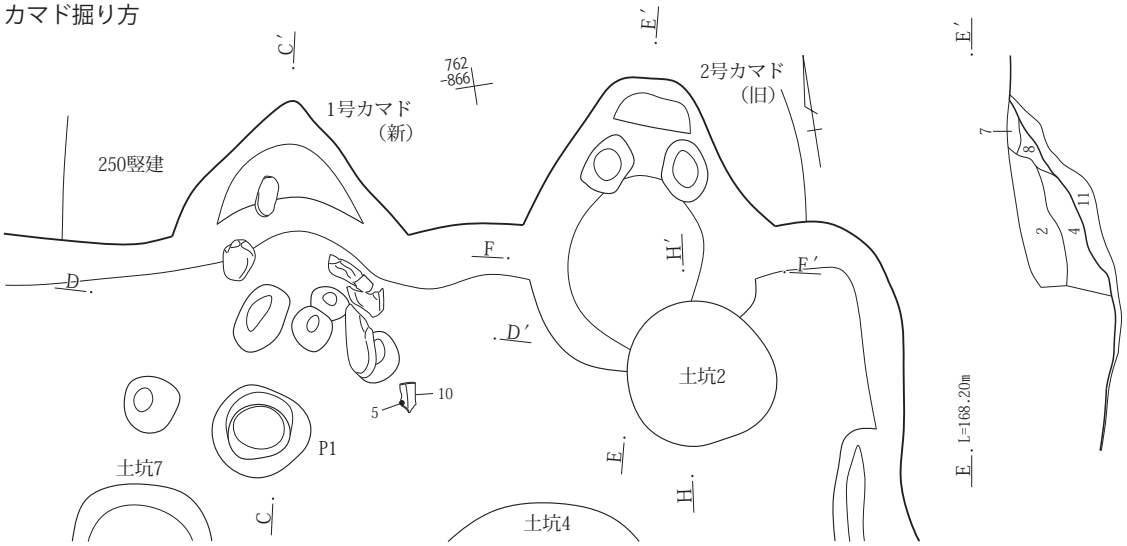
カマド

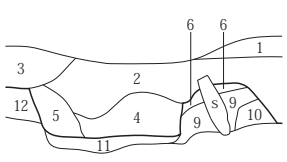




1号カマドC-C′・D-D′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-C多量、ローム粒を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-C少量、焼土粒を含む。しまり弱、粘性あり。
3　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　焼土塊主体、遺物を含む。しまり弱、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量含む。しまり強、粘性あり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　As-C・灰白色粒少量含む。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土(5YR3/1)　焼土粒少量、ローム小塊･粒を含む。やや砂質土、しまりややあり、粘性弱。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒・As-C多量含む。しまり・粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム大塊主体、As-Cを含む。しまり・粘性あり。
9　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-C多量、褐色土と黒褐色土を含む。しまり・粘性あり。
10　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒・にぶい黄橙色粒を含む。しまりややあり、粘性あり。
11　黒褐色土(10YR3/1)　焼土小塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。Ｐ１埋没土。

カマド掘り方



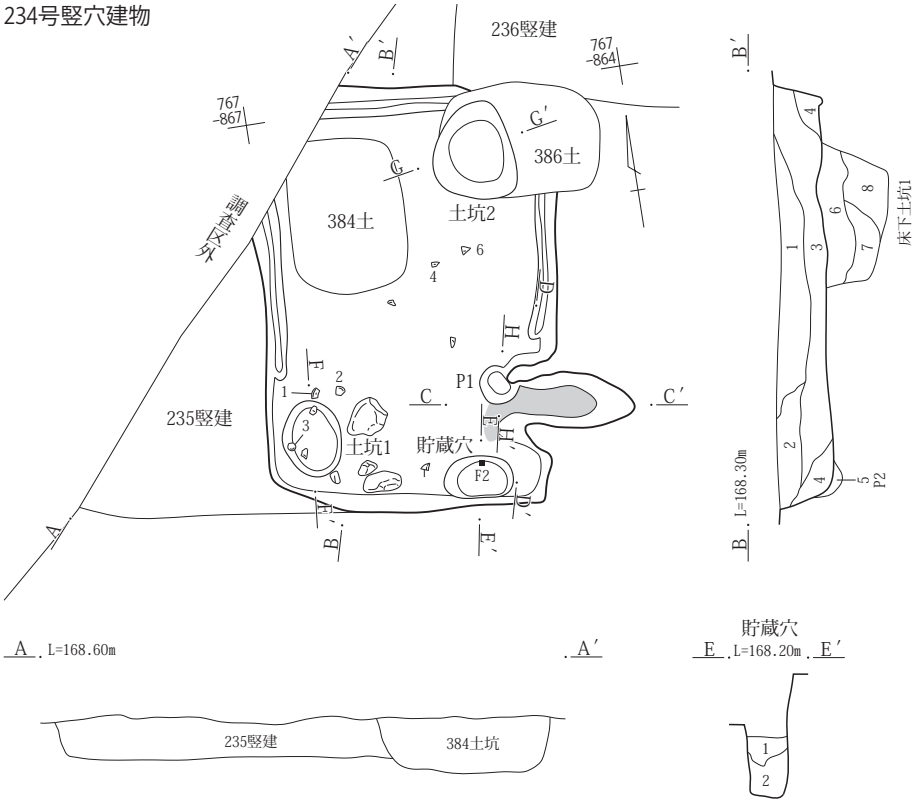


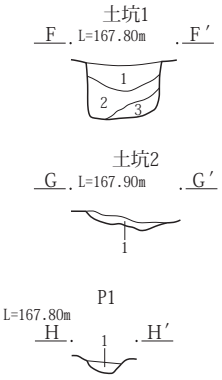
2号カマドE-E′・F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量、As-C少量含む。しまり強、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒・焼土粒多量、As-C少量含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性あり。
4　黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒・焼土小塊・粒多量含む。しまり・粘性あり。
5　暗褐色土(10YR4/3)　焼土粒・灰白色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
6　黒褐色土(10YR2/2)　明黄褐色ローム塊を含む。しまりややあり、粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　明黄褐色ローム塊主体、焼土小塊を含む。しまり・粘性あり。
8　黒褐色土(7.5YR3/1)　にぶい黄褐色土を含む。焼土粒多量、しまり・粘性あり。
9　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　明黄褐色ローム塊主体、しまり・粘性あり。
10　黒褐色土(10YR2/2)　ローム約１㎝塊を含む。しまり・粘性あり。
11　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒多量、黒色土を含む。しまり・粘性あり。
12　暗褐色土(10YR3/3)　黒褐色土・ローム粒を含む。しまり・粘性あり。

0　1：30　1m

第136図　３面　Ｇ１区228号竪穴建物

234号竪穴建物





貯蔵穴E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　暗褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。

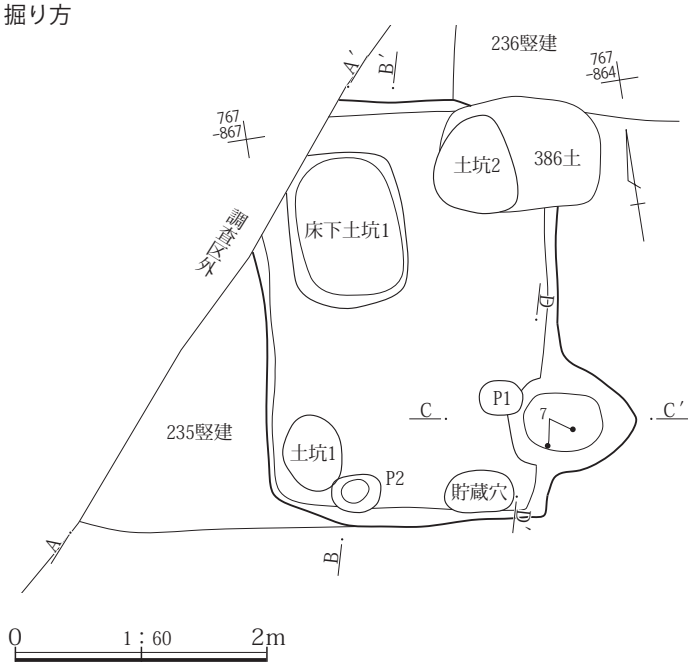
土坑１F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　にぶい黄橙色粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP少量含む。しまり・粘性あり。

土坑２G-G′
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　ローム約１cm塊少量､黒褐色土を含む｡しまり･粘性あり。

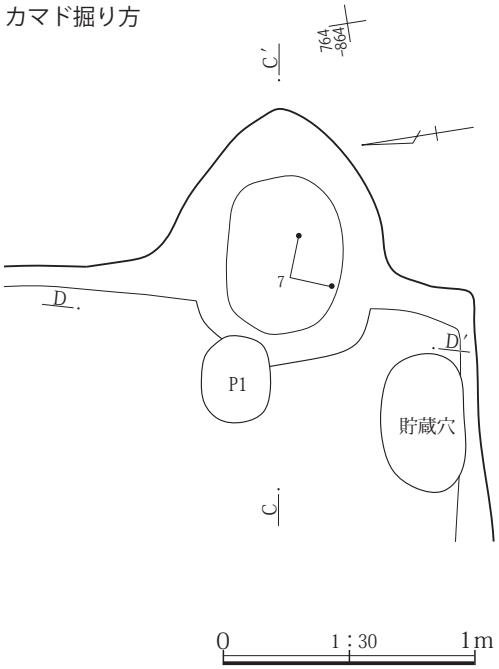
Ｐ１H-H′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP少量、ローム小塊を含む。しまり弱、粘性あり。

234号竪穴建物B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　黄褐色粒少量、As-Ｃを含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１～３cm塊・As-Ｃ少量含む。しまりややあり、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　砂質土、ローム小塊・粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ・黄褐色土少量含む。しまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄橙色粒少量、ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。Ｐ２埋没土。
6　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約１cm塊・にぶい黄橙色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
7　黒色土(10YR2/1)　小礫・褐色土小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
8　黒色土(10YR2/1)　色味は暗い、６層よりしまり弱、粘性あり。

掘り方

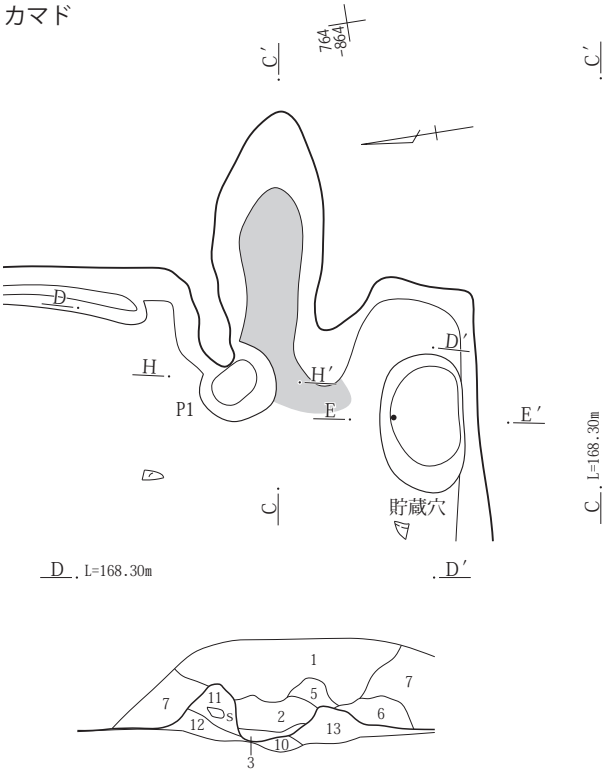


カマド掘り方



第137図　３面　Ｇ１区234号竪穴建物

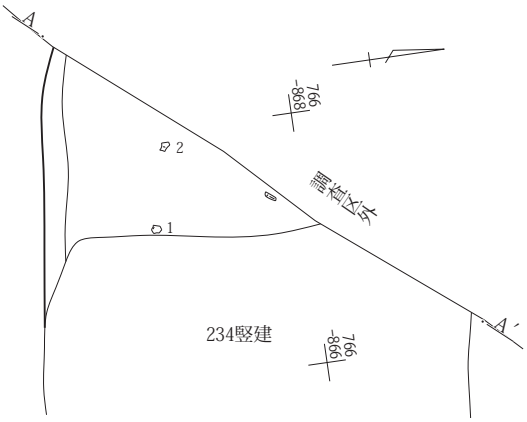
カマド

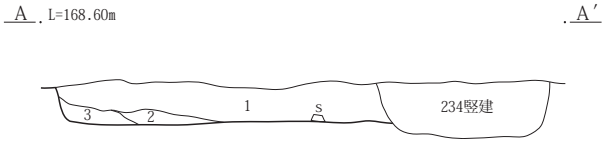


カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム約10㎝塊多量、As-YP・小礫を含む。しまり・粘性あり。
2　明黄褐色土(10YR6/6)　黒褐色土・焼土小塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　焼土粒多量、灰・炭化物を含む。しまりやや弱、粘性あり。
4　黒色土(7.5YR2/1)　As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(5YR3/1)　ローム約３～５㎝塊多量、にぶい黄褐色土小塊を含む。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土(5YR3/1)　明黄褐色ローム塊多量、焼土小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
7　黒褐色土(10YR3/2)　ローム大塊・As-YPを含む。しまり弱、粘性あり。
8　明黄褐色土(10YR6/6)　As-YP少量、黒褐色土を含む。しまり・粘性あり。
9　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土小塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
10　黒色土(7.5YR2/1)　焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
11　黒褐色土(7.5YR3/1)　明黄褐色ローム塊主体、礫を含む。しまり・粘性あり。
12　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約10cm塊少量含む。しまり・粘性あり。
13　黒褐色土(10YR3/1)　４層に類似、ローム小塊・粒・As-YP・焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。

0　1：30　1m

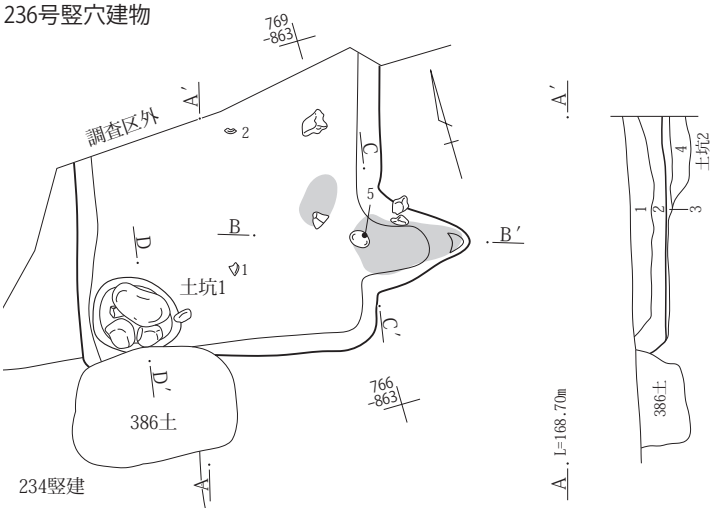
235号竪穴建物

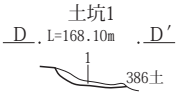




235号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄橙色粒少量、ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C多量、黄褐色土塊を含む。しまり強、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　しまりややあり、粘性あり。

236号竪穴建物





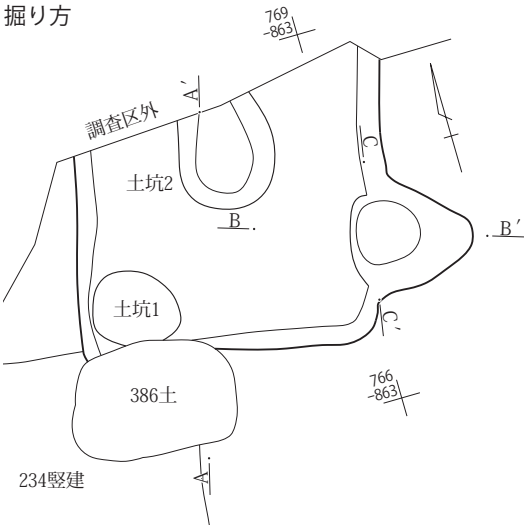
236号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、明褐色粒約５㎜・ローム塊・焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　褐色土小塊少量含む。しまりややあり、粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR5/2)　黒褐色土を含む。しまり強、粘性ややあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約１～３㎝塊多量含む。しまりやや弱、粘性あり。土坑２埋没土。

土坑１D-D′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　灰白色粒少量含む。上面に円礫あり、しまり弱、粘性あり。貯蔵穴か。

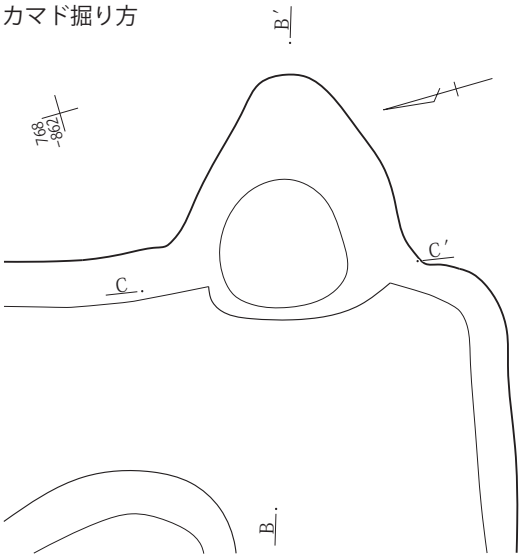
0　1：60　2m

第138図　３面　Ｇ１区234～236号竪穴建物

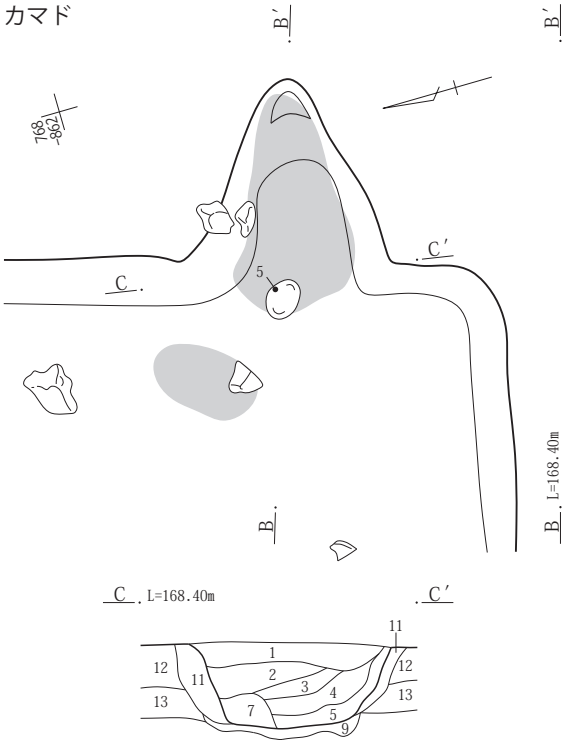
掘り方



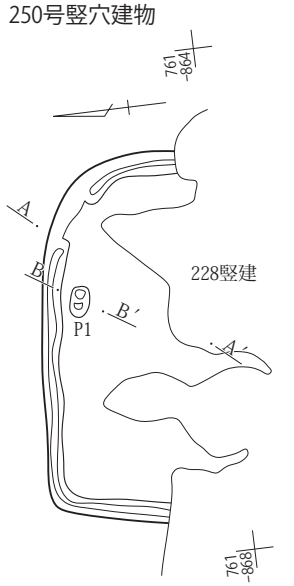
カマド掘り方

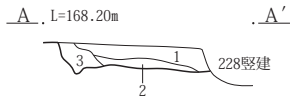


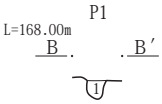
カマド



250号竪穴建物







カマドB-B′・C-C′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１㎝塊を含む。しまり強、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・ローム約５㎜～１㎝塊少量、礫を含む。しまり強、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量、焼土小塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土小塊・粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　焼土小塊約５㎜～１㎝・ローム小塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
6　明黄褐色土(10YR6/6)　にぶい黄褐色土を含む。しまり・粘性あり。
7　黒褐色土(5YR3/1)　焼土粒・ローム約５㎜～１㎝塊少量含む。しまりややあり、粘性あり。
8　にぶい黄橙色土(7.5YR6/4)　焼土小塊・粒・黄褐色粘質土多量含む。しまり・粘性あり。
9　黒褐色土(10YR3/1)　灰・炭化物・焼土粒を含む。しまり弱、粘性あり。
10　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
11　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
12　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄橙色粒・As-C少量含む。しまり・粘性あり。
13　灰黄褐色土(10YR4/2)　黒褐色土を含む。しまり・粘性あり。

250号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、にぶい黄橙色粒少量含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　褐色土約１～３㎝塊多量、にぶい黄橙色粒少量含む。しまり強、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　小礫・黄褐色土少量含む。しまり弱、粘性あり。

P１B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　明褐色粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。

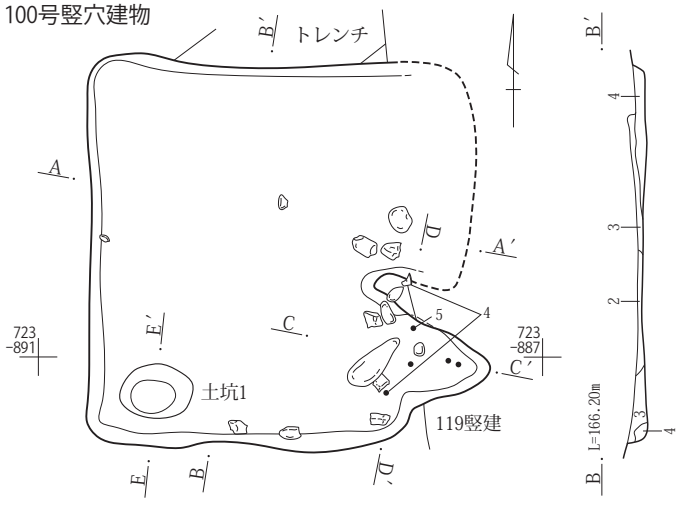
0　1：30　1m

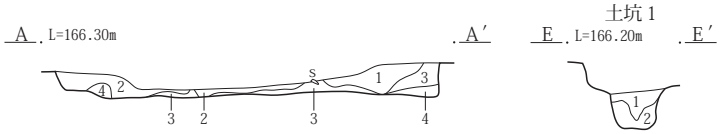
0　1：60　2m

第139図　３面　G１区236・250号竪穴建物

Ｇ２区

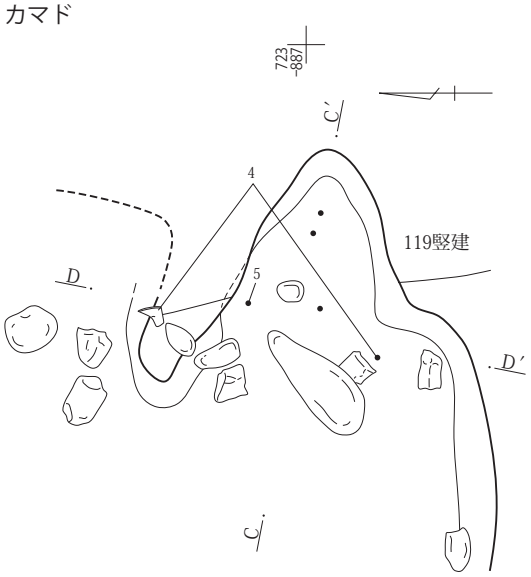
100号竪穴建物

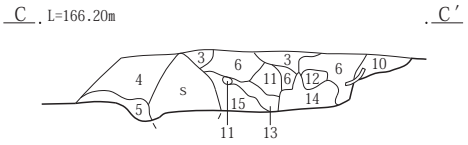


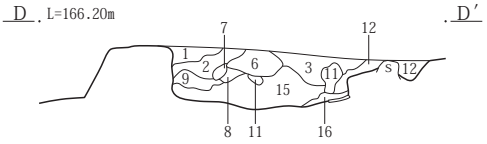


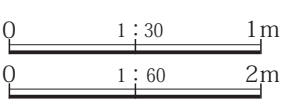
100号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒含む。一部ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く、ローム塊をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム塊・粒・As-Ｃ粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
カマドＣ－Ｃ′・Ｄ-Ｄ′
1　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)をわずか、ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
2　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)を多く、ローム粒・As-Ｃ粒を含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・As-Ｃ粒を含む。ローム塊をわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒を多く、大粒のローム塊・粒をわずか含む。
5　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)・As-Ｃ粒をわずか含む。
6　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土。焼土をわずか含む。
7　褐色土(10YR4/6)　塊状のローム土。
8　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)を多く、ローム粒・As-Ｃ粒・焼土粒をごくわず含む。
9　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)・焼土をわずか、ローム塊・粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
10　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・焼土粒を含む。ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
11　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・粒・As-Ｃ粒を含む。ローム土をわずか含む。ややしまりなし。
12　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
13　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を多く、ローム粒・As-Ｃ粒・炭化粒・焼土粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
14　赤褐色土(2.5YR4/8)　焼土。黒褐色土(10YR2/3)を含む。炭化粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
15　黒褐色土(10YR2/3)　大粒のローム塊を含む。ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、焼土塊をごくわずか含む。ややしまりなし。
16　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を多く、黒褐色土(10YR2/3)を含む。焼土をわずか含む。
土坑１E-E′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・同粒子をやや多く、As-Ｃをわずかに含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　ローム塊・同粒子をほとんど含まず、１層よりも黒味が強い。

カマド



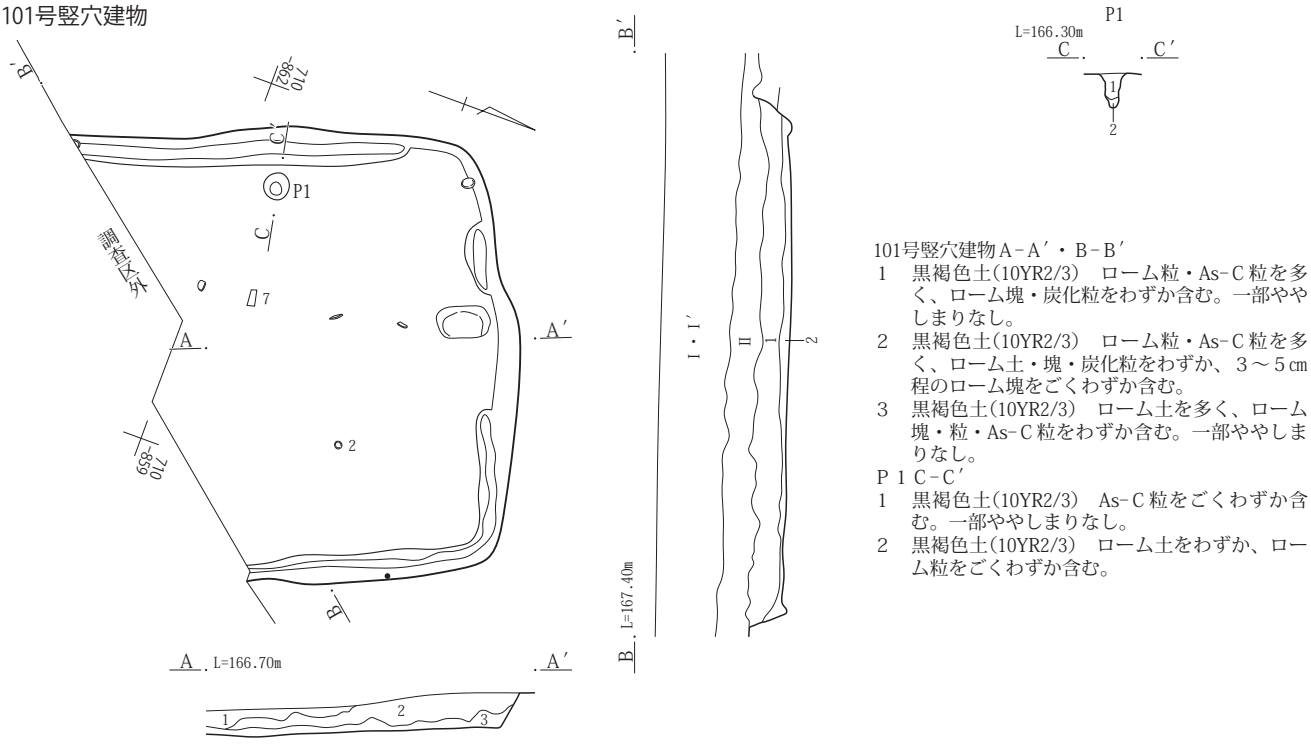






第140図　３面　Ｇ２区100号竪穴建物

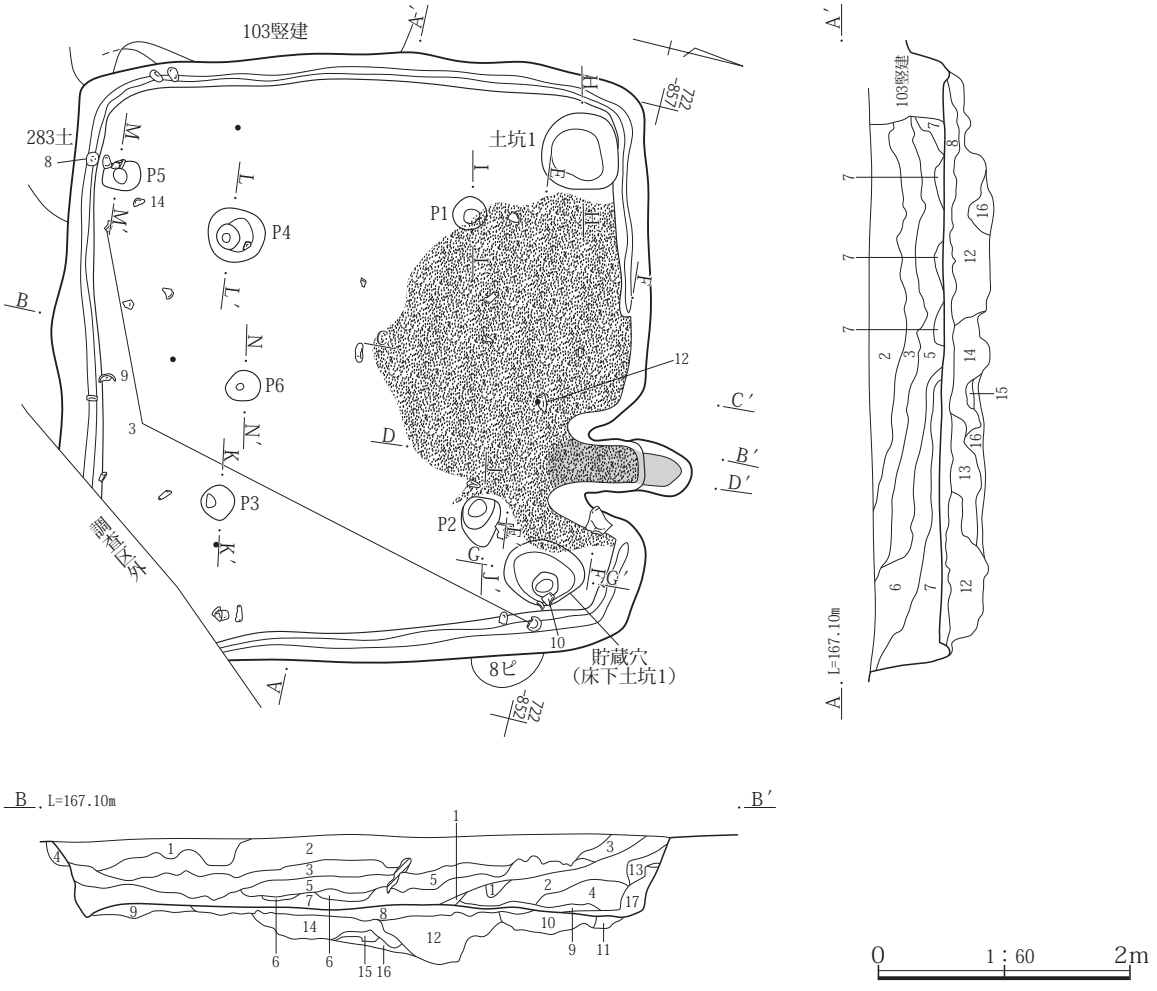
101号竪穴建物



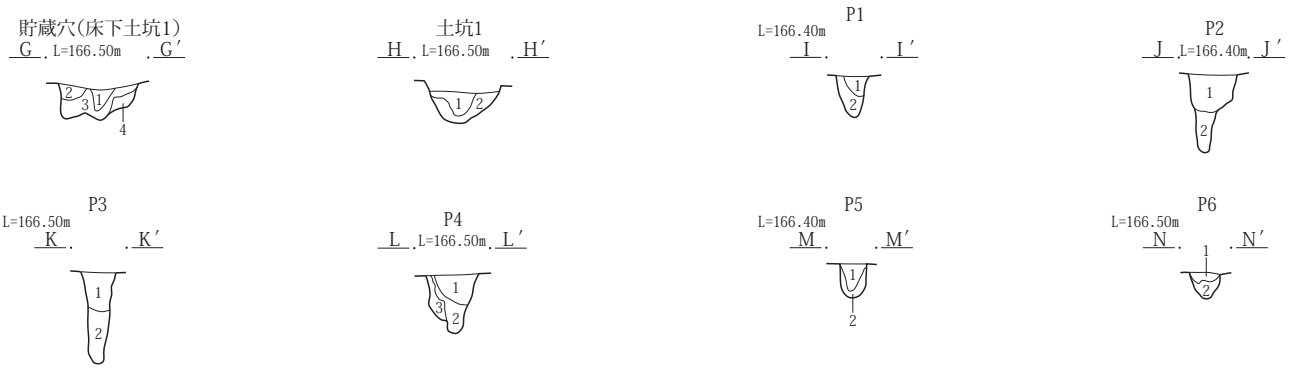
101号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く、ローム塊・炭化粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く、ローム土・塊・炭化粒をわずか、３～５㎝程のローム塊をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊・粒・As-Ｃ粒をわずか含む。一部ややしまりなし。

Ｐ１Ｃ－Ｃ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム粒をごくわずか含む。

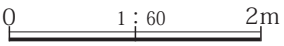
102号竪穴建物



第141図　３面　Ｇ２区101・102号竪穴建物

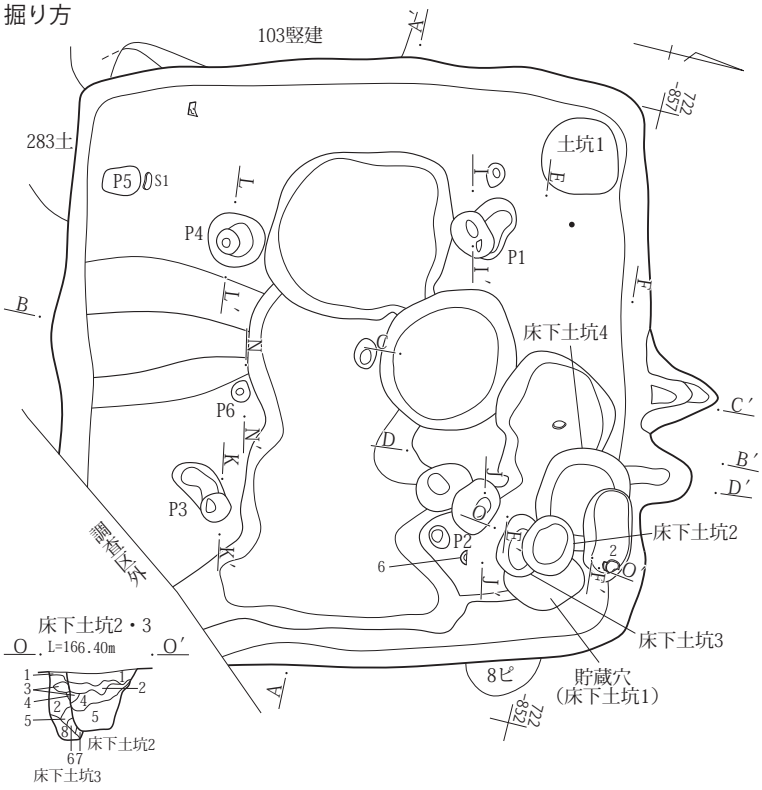


102号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く、ローム土をわずか、ローム塊・炭化物をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く、ローム塊をごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く、ローム土を含む。ローム塊をわずか含む。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く、ローム塊をわずか、炭化粒をごくわずか含む。
7　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・塊・粒・As-Ｃ粒を多く含む。一部ややしまりなし。
8　暗褐色土(10YR3/4)　大粒のローム粒・ローム粒・As-YP粒を多く、ローム塊・As-Ｃ粒を含む。
9　黒褐色土(10YR2/3)　大粒のローム粒・ローム粒を多く、ローム塊・As-YP粒を含む。
10　暗褐色土(10YR3/4)　焼土塊をわずか、ローム塊・炭化粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
11　褐色土(10YR4/6)　焼土塊をごくわずか含む。ややしまりなし。
12　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・As-YP粒を非常に多く、ローム塊・大粒のローム粒を多く、大粒のローム塊を含む。一部ややしまりなし。
13　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・As-YP粒を多く、大粒のローム塊・ローム塊・大粒のローム粒を含む。一部ややしまりなし
14　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・大粒のローム塊・ローム塊・大粒のローム粒・ローム粒を多く、塊状のAs-YP粒を含む。一部ややしまりなし。
15　暗褐色土(10YR3/4)　As-YP粒を非常に多く、ローム塊・粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
16　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)・ローム粒をわずか含む。
17　褐色土(10YR4/6)　焼土をわずか、ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
貯蔵穴(床下土坑１)G-G′
1　黒褐色土(10YR2/3)　大粒のローム粒・炭化粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・粒・大粒のローム粒を多く含む。一部ややしまりなし。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・塊・大粒のローム粒を多く、ローム粒を含む。一部ややしまりなし。
4　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土。ローム粒をごくわずか含む。
土坑１H-H′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を多く、ローム塊・As-Ｃ粒・焼土粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を多く、ローム塊を含む。ローム粒をわずか、As-Ｃ粒・焼土粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
Ｐ１I-I′
1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・粒を多く含む。一部ややしまりなし。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を含む。大粒のローム粒・ローム粒をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
Ｐ２J-J′
1　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)・ローム粒を多く、炭化粒・焼土粒をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒をわずか含む。
Ｐ３K-K′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒を多く、大粒のローム粒を含む。As-Ｃ粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
Ｐ４L-L′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・大粒のローム粒・ローム粒を多く、As-Ｃ粒をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・粒を含む。大粒のローム粒をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を多く、ローム土・大粒のローム粒を含む。ローム塊・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
Ｐ５M-M′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒やAs-Ｃ粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、大粒のローム粒・ローム粒を含む。As-Ｃ粒をごくわずか含む。
Ｐ６N-N′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を多く、As-Ｃ粒をごくわずか含む。
2　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム粒を多く、As-YP粒を一部に含む。一部ややしまりなし。



第142図　３面　Ｇ２区102号竪穴建物

掘り方

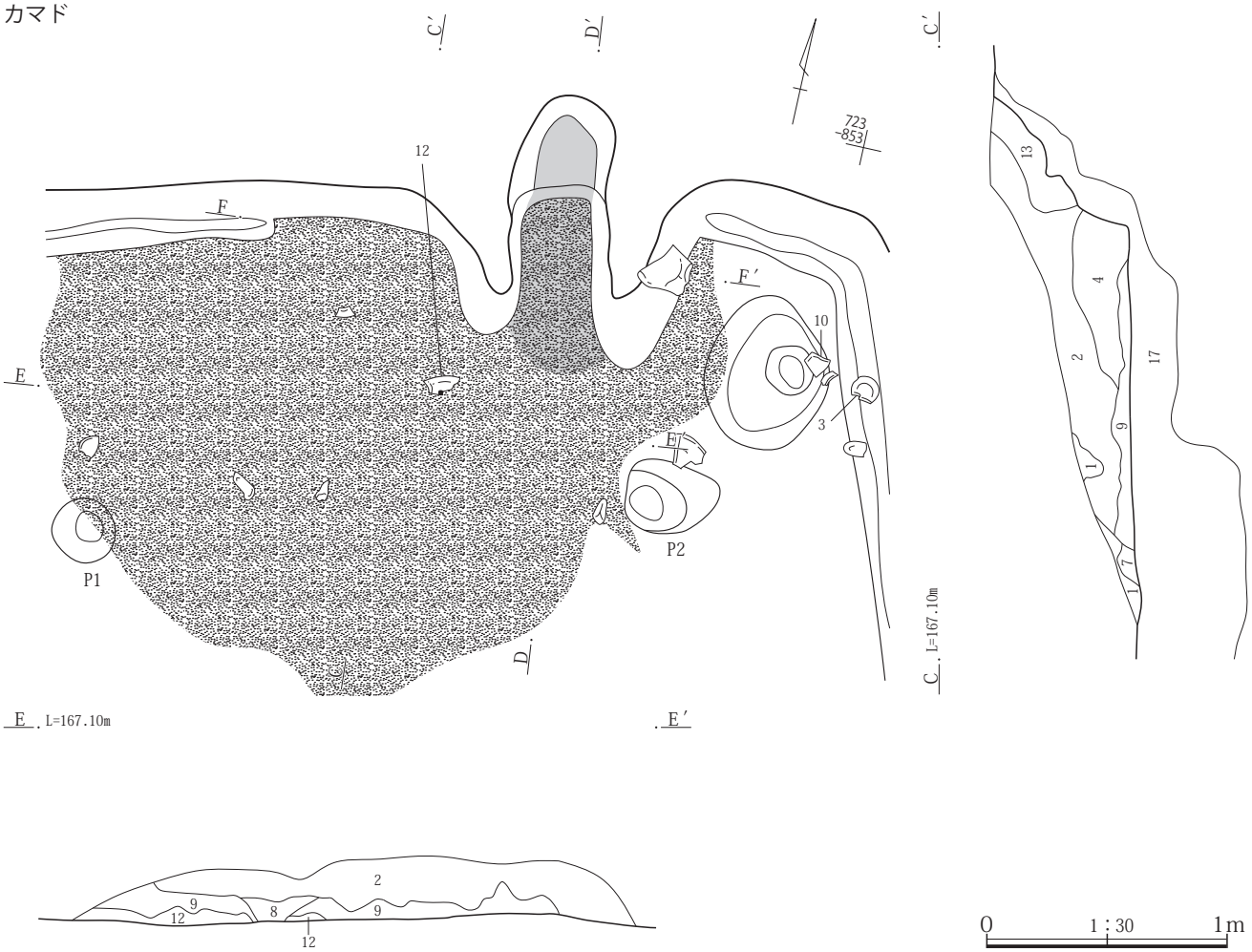


床下土坑２O-O′
1　褐色土(10YR4/6)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)をわずか、ローム粒・As-C粒・大粒のローム粒・As-C粒・焼土粒をごくわずか含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　大粒のローム塊を含む。ローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　As-YP粒をわずか含む。ややしまりなし。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土をわずか、ローム塊・粒・大粒のローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
5　褐色土(10YR4/6)　暗褐色土(10YR3/4)を含む。ローム粒・大粒のローム粒・炭化粒・焼土粒をごくわずか含む。ややしまりなし。

床下土坑３O-O′
1　褐色土(10YR4/6)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)をわずか、ローム粒・As-C粒、大粒のローム粒・As-C粒・焼土粒をごくわずか含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　大粒のローム塊を含む。ローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
3　褐色土(10YR4/6)　塊状のローム土。
4　黒褐色土(10YR2/3)　As-YP粒をわずか含む。ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・粒を含む。ややしまりなし。
7　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
8　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・塊・粒を含む。ややしまりなし。

0　1：60　2m

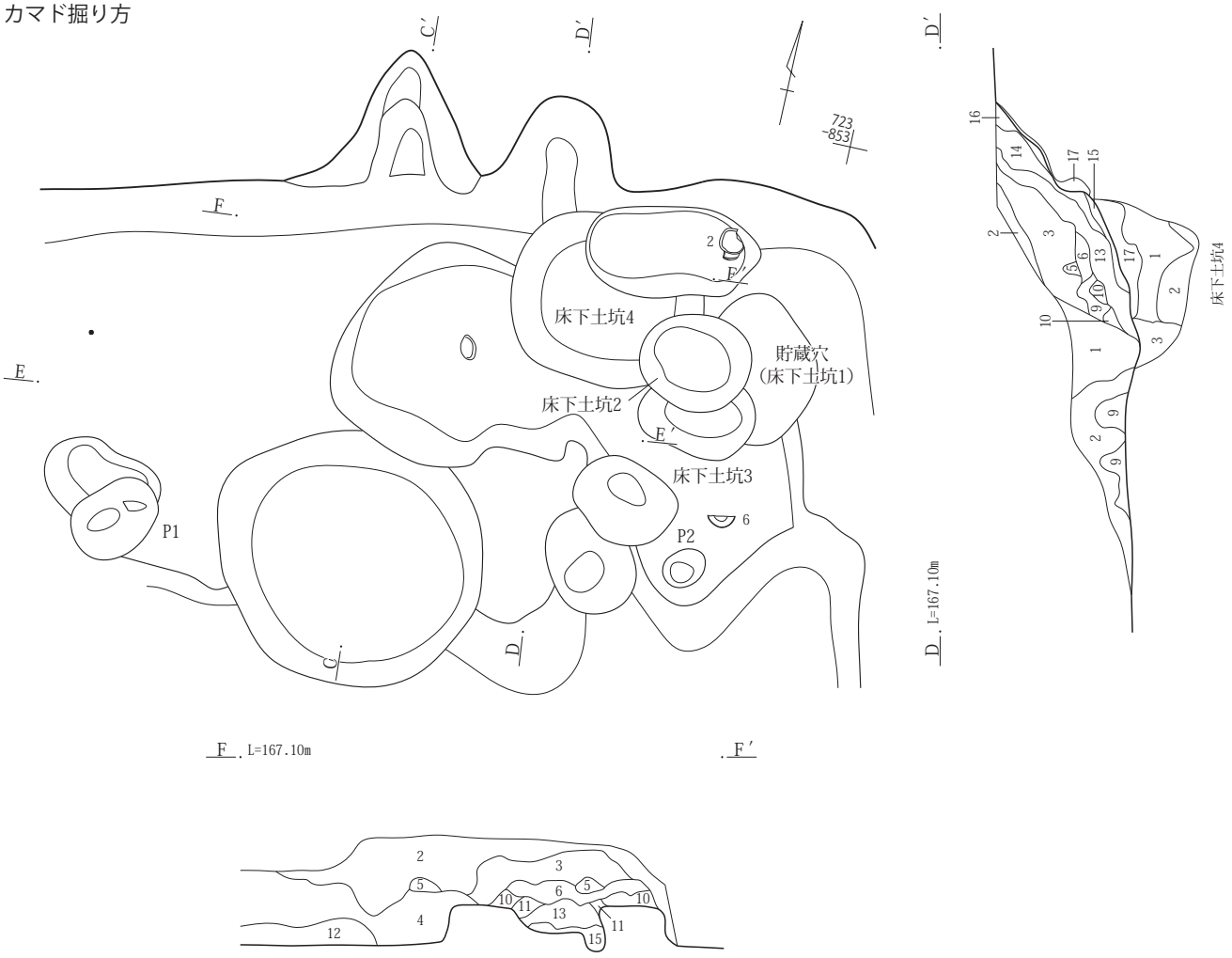
カマド



0　1：30　1m

第143図　３面　Ｇ２区102号竪穴建物

カマド掘り方



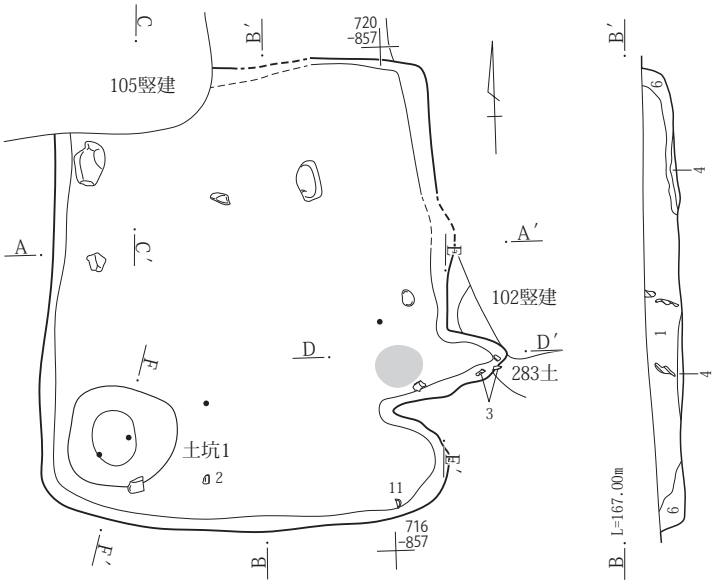
カマドC－C′・D－D′・E－E′・F－F′

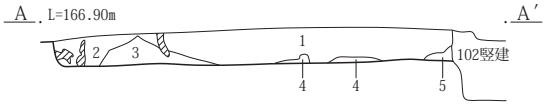
1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・As－C粒をわずか、ローム塊・焼土粒をごくわずか含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・As－C粒を非常に多く、ローム土・大粒のローム粒・As－C粒を多く、炭化粒・焼土粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
3　褐色土(10YR4/6)　As－C粒を含む。ローム粒をわずか含む。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・As－C粒を非常に多く、大粒のローム粒・As－C粒を多く、ローム土・焼土粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
5　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。As－C粒・焼土粒を多く、大粒のAs－C粒をわずか含む。
6　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。As－C粒を多く、大粒のAs－C粒をわずか、ローム粒・焼土粒をごくわずか含む。
7　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土　暗褐色土(10YR3/4)を含む。ローム粒やAs－C粒をごくわずか含む。
8　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・As－C粒を多く、焼土粒をわずか含む。
9　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－C粒を含む。ローム土・焼土粒をわずか、ローム塊・大粒のローム粒・As－C粒をごくわずか含む。
10　褐色土(10YR4/6)　暗褐色土(10YR3/4)をわずか、ローム粒・As－C粒・焼土粒をごくわずか含む。
11　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)・ローム塊・焼土をわずか、ローム粒・As－C粒・焼土粒をごくわずか含む。
12　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム粒・As－C粒をわずか、ローム塊・焼土粒をごくわずか含む。
13　褐色土(10YR4/6)　焼土を非常に多く、炭化物を多く、大粒のAs－C粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
14　褐色土(10YR4/6)　焼土を多く、炭化粒を含む。大粒のAs－C粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
15　褐色土(10YR4/6)　焼土・灰を多く、ローム粒・As－C粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
16　褐色土(10YR4/6)　焼土を多く、ローム粒・As－C粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
17　褐色土(10YR4/6)　焼土をわずか、ローム粒・As－C粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。

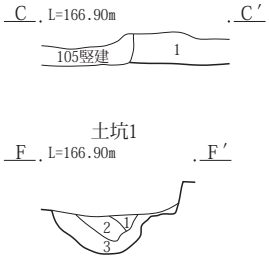
0　1：30　1m

第144図　３面　Ｇ２区102号竪穴建物

103号竪穴建物







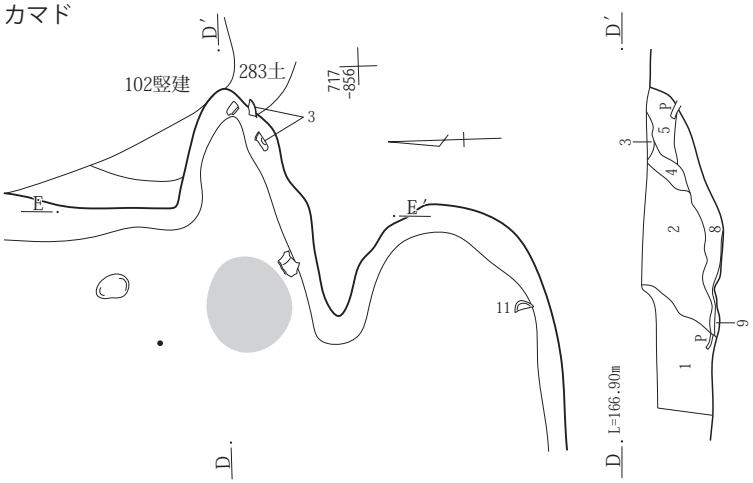
土坑１F–F′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As–C粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・粒・As–C粒を含む。ローム土をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・粒・As–C粒を含む。炭化粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。一部ややしまりなし。

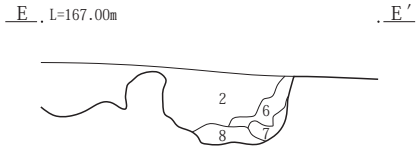
C–C′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As–C粒を多く、ローム塊をわずか含む。

103号竪穴建物A–A′・B–B′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As–C混、ローム中・小塊わずかに含む。ややしまりあり。根による撹乱あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　As–C混土主体、根による撹乱多く見られる。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊やや多く、わずかに炭粒含む。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊わずかに含む。硬くしまる。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　くすんだローム土と塊混じり、壁崩落土。
6　黒褐色土(10YR3/2)　As–C混夾雑物ない。

0　1：60　2m

カマド



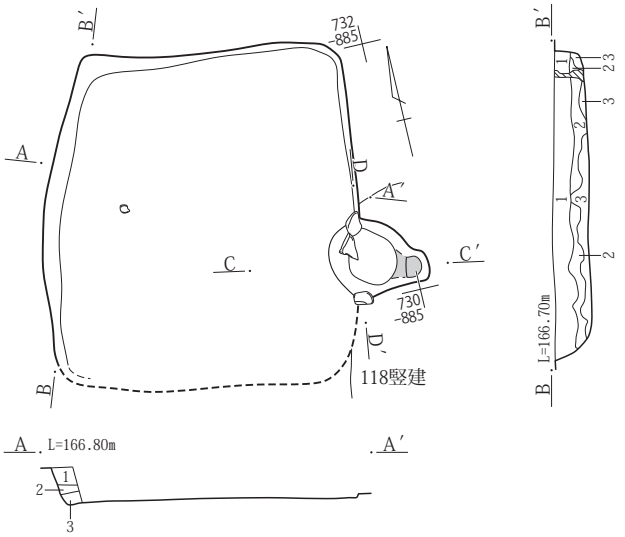


カマドD–D′・E–E′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As–C粒を多く、ローム塊をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As–C粒を多く、ローム土・大粒のローム塊を含む。
3　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム粒・As–C粒をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As–C粒・焼土粒をわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As–C粒を含む。ローム土をわずか含む。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・粒・As–C粒を含む。ローム塊をわずか含む。
7　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・塊・粒・As–C粒を多く含む。
8　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As–C粒・焼土をわずか含む。
9　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・焼土を多く、一部にAs–YPをわずか含む。

0　1：30　1m

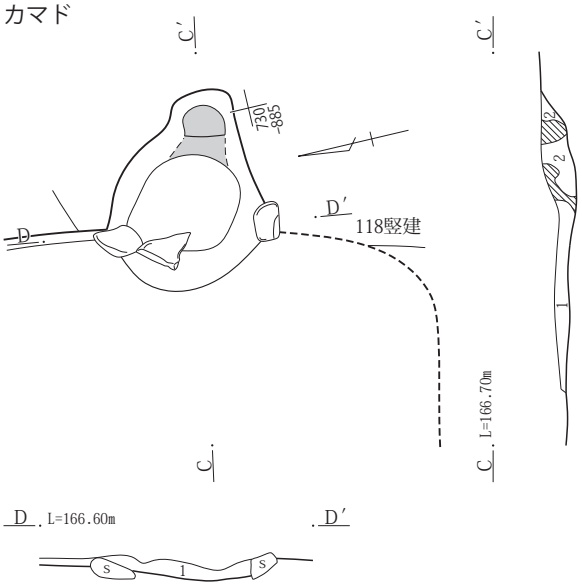
第145図　３面　Ｇ２区103号竪穴建物

104号竪穴建物



104号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－Ｃ粒を多く、大粒のAs－Ｃ粒を含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－Ｃ粒を含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒・As－Ｃ粒をわずか含む。

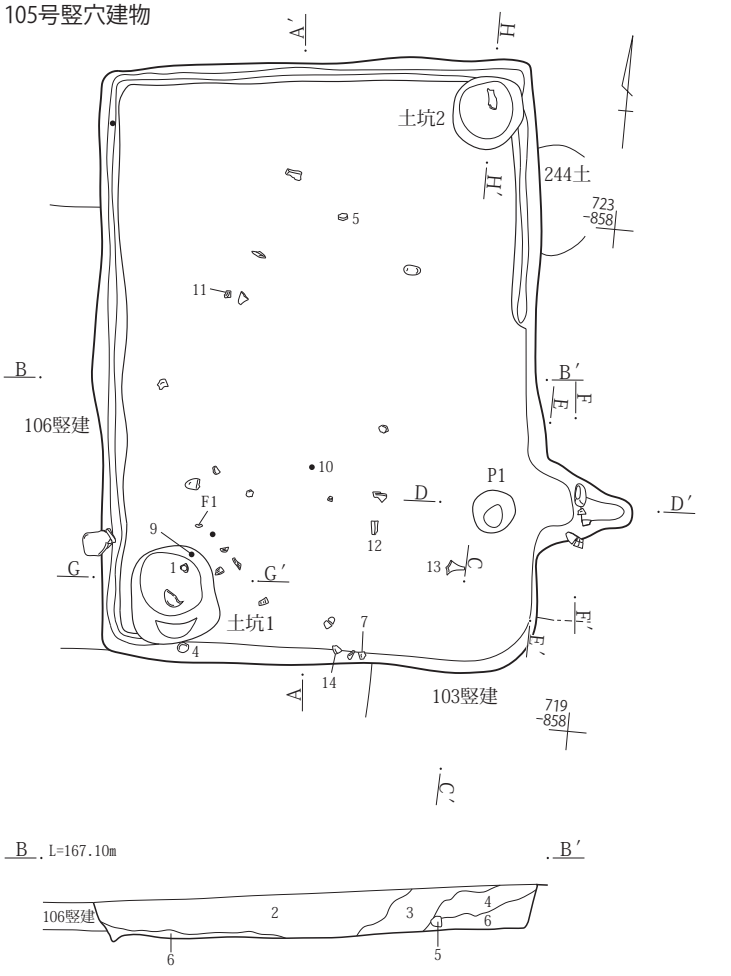
カマド



カマドＣ－Ｃ′・Ｄ-Ｄ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊含む。わずかに炭粒含む。
2　ローム小塊、焼土小塊、暗褐色土の混土。

0　1：30　1m

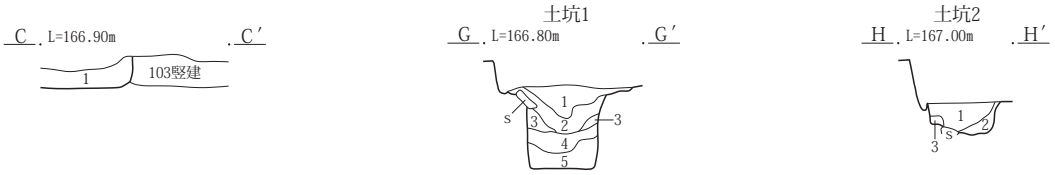
105号竪穴建物



105号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－Ｃ粒を非常に多く、ローム塊を多く、ローム土をわずか、炭化物をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－Ｃ粒を多く、ローム塊をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－Ｃ粒を非常に多く、ローム土・塊をわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－Ｃ粒を非常に多く、ローム土を多く、ローム塊をわずか含む。
5　黄褐色土(10YR5/8)　ローム塊・粒・As－Ｃ粒をわずか含む。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・粒・As－Ｃ粒を含む。ローム塊をわずか含む。
7　黒褐色土(10YR2/2)　炭化物を多く、As－Ｃ粒・一部に灰を含む。焼土粒をわずか、ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。

0　1：60　2m

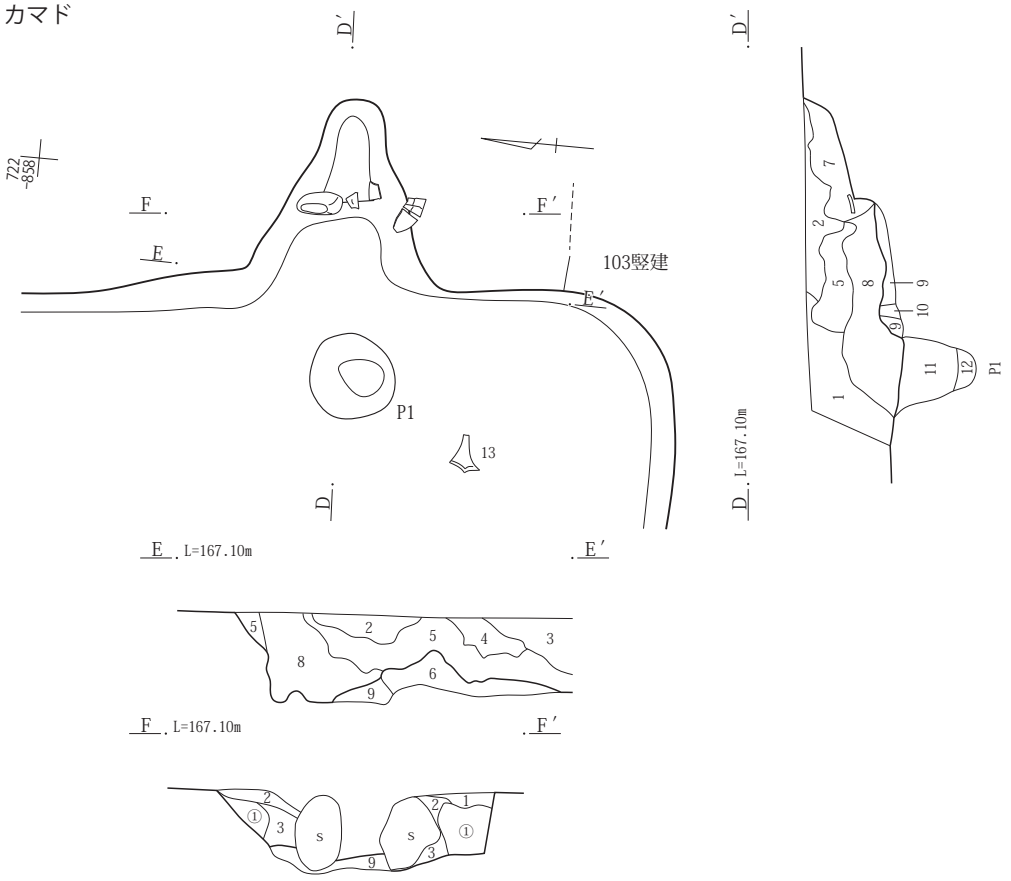
第146図　３面　Ｇ２区104・105号竪穴建物



C－C′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊を含む。ローム土・粒・As－C粒をわずか含む。
土坑１G－G′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・炭化物をわずか、ローム塊・As－C粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
2　黒色土(10YR2/1)　ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・大粒のローム塊をわずか含む。ややしまりなし。
4　黄褐色土(10YR5/8)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く含む。ややしまりなし。
土坑２H－H′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊を多く、ローム土・粒・As－C粒をわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－C粒をわずか含む。ややしまりなし。
3　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土の塊。ローム粒・As－C粒をわずか含む。

0　1：60　2m

カマド

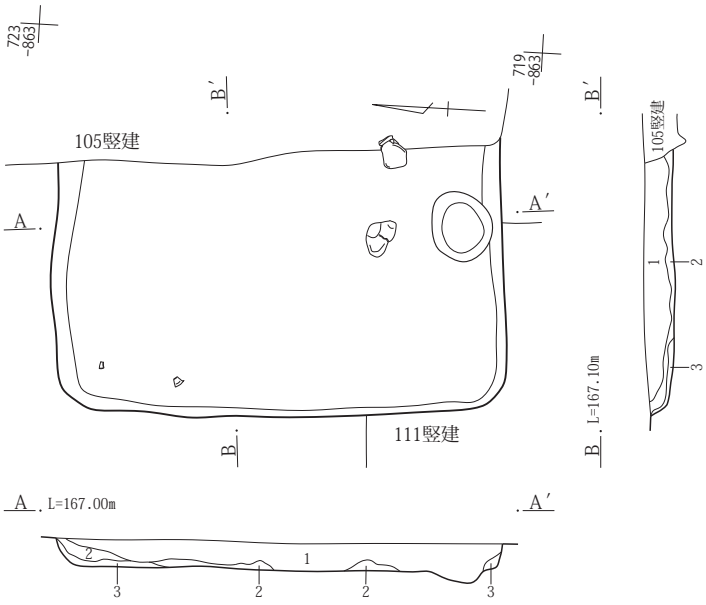


カマドD－D′・E－E′・F－F′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－C粒を多く、ローム塊を含む。ローム土をわずか、炭化物をごくわずか含む。
2　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)をわずか、As－C粒を含む。カマド天井部の崩落土か。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－C粒を含む。ローム塊をわずか含む。
4　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土を多く、ローム粒・As－C粒をわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As－C粒を含む。ローム塊をわずか、炭化粒をごくわずか含む。
6　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土。暗褐色土(10YR4/6)を含む。ローム粒・As－C粒をごくわずか含む。カマドの袖部分。
7　黒褐色土(10YR2/3)　焼土を非常に多く、ローム土・粒・As－C粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
8　黄褐色土(10YR5/8)　ローム塊・粒・As－C粒を含む。ローム土をわずか、炭化粒をごくわずか含む。
9　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As－C粒をごくわずか含む。
10　明黄褐色土(10YR6/8)　塊状のAs－YP。黒褐色土(10YR2/3)をわずか含む。
11　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を含む。炭化物をわずか、As－C粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
12　黒褐色土(10YR2/3)　As－YP粒を含む。ややしまりなし。
カマドF－F′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　くすんだローム土にローム小塊含む。
2　黄橙色ローム(10YR7/6)　灰黄褐色土小塊混じり。粘性強い。カマド構築粘土。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　漸移層。土にローム小塊含む。
①　暗褐色土(10YR3/3)　As－C混土にローム中・小塊混じり。

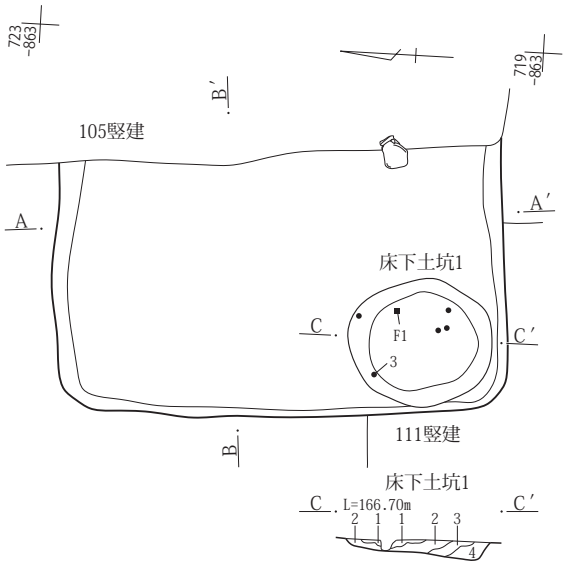
0　1：30　1m

第147図　３面　Ｇ２区105号竪穴建物

106号竪穴建物

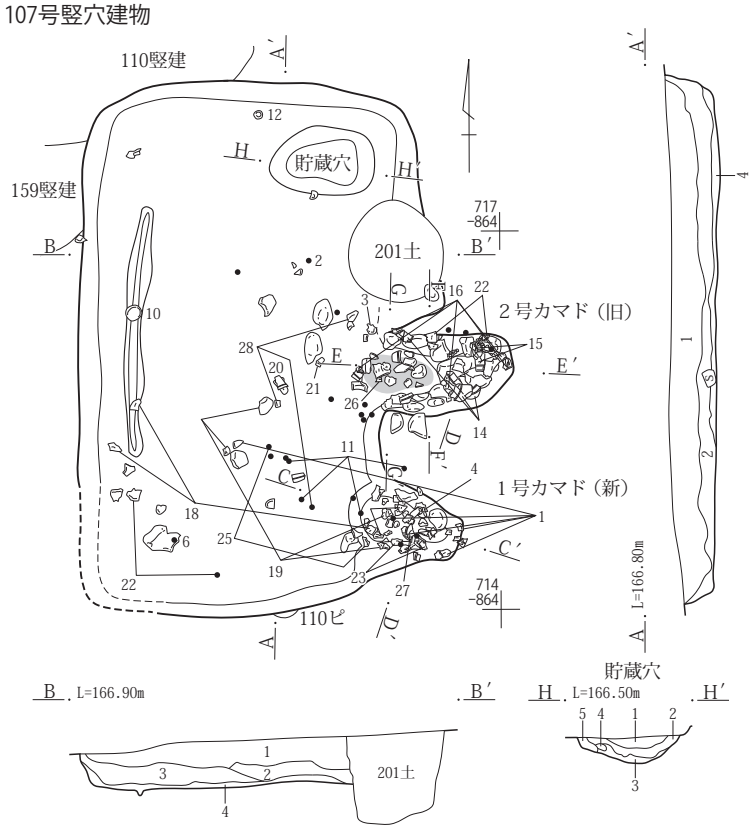


掘り方

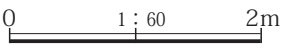


106号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒を非常に多く、ローム粒を含む。ローム塊をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・粒・As-Ｃ粒を含む。ローム塊をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。
床下土坑１Ｃ－Ｃ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム塊・粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を多く、ローム塊・大粒のローム粒・As-Ｃ粒をわずか、焼土塊・焼土粒をごくわずか含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を含む。ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、焼土粒をごくわずか含む。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を含む。黒褐色土(10YR2/3)・ローム塊・大粒のローム粒を含む。ローム粒をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか含む。

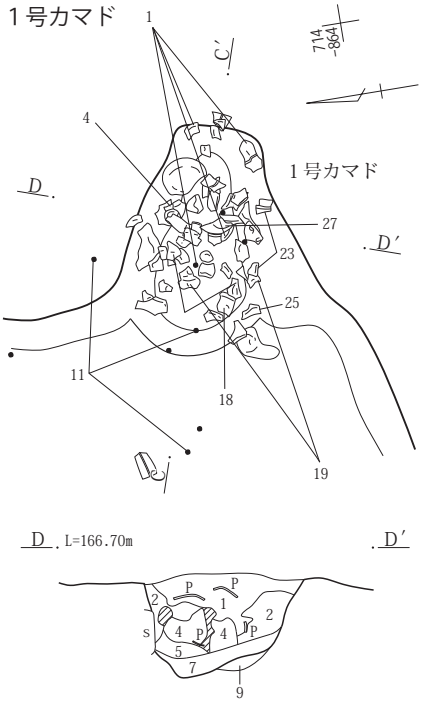
107号竪穴建物



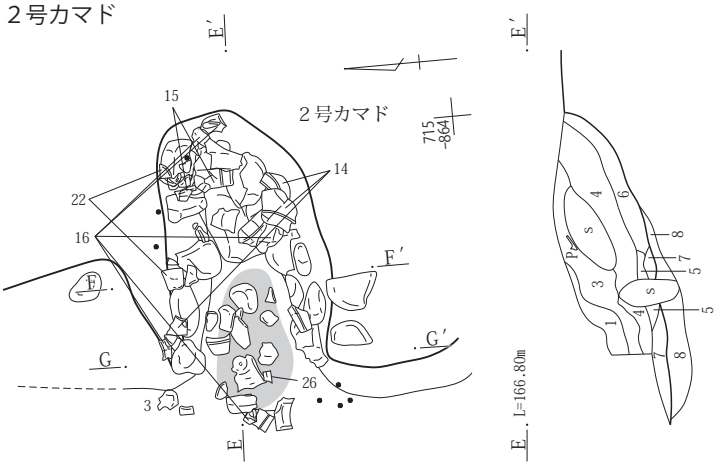
107号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を非常に多く含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く、ローム土をわずか、ローム塊をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く、ローム塊を含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・塊・粒・As-Ｃ粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
貯蔵穴Ｈ-Ｈ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・粒・As-Ｃ粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　灰を多く、ローム土・焼土をわずか、炭化物をごくわずか含む。ややしまりなし。
4　黄褐色土(10YR5/8)　塊状のローム土。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。



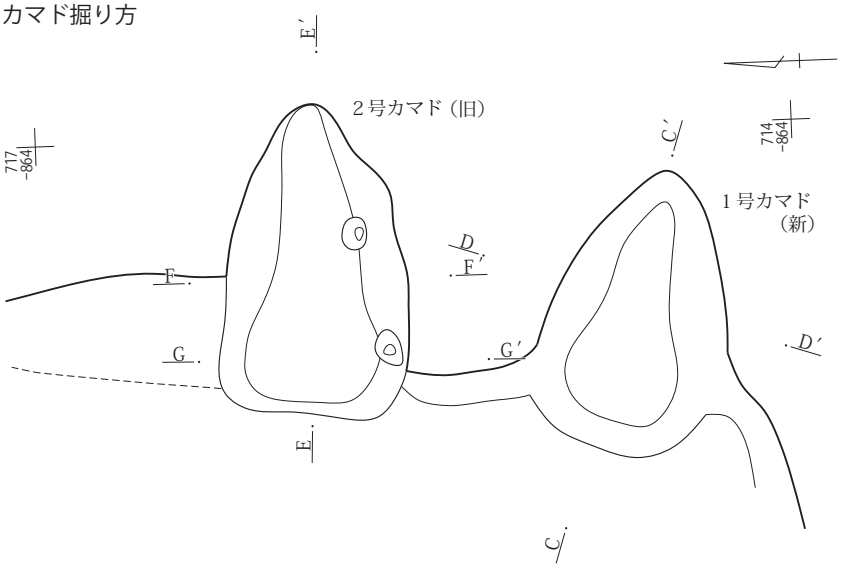
第148図　３面　Ｇ２区106・107号竪穴建物



1号カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を含む。ローム塊をわずか、炭化粒をごくわずか、土器片を含む。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム粒･As-C粒を含む。ローム塊をわずか含む。ややしまりなし。
3　暗褐色土(10YR3/4)　焼土粒をわずか、ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
4　明黄褐色土(10YR6/8)　ローム土。ローム粒・As-C粒・焼土粒をごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　炭化粒・焼土粒をわずか、ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・炭化粒・焼土粒を含む。ローム粒・As-C粒をわずか含む。
7　暗褐色土(10YR3/4)　土器片を多量、焼土を多く、ローム土を含む。炭化物をわずか、ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
8　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を含む。ローム粒・As-C粒・炭化粒・焼土粒をごくわずか含む。
9　暗褐色土(10YR3/4)　焼土粒をわずか、ローム粒・炭化粒をごくわずか含む。



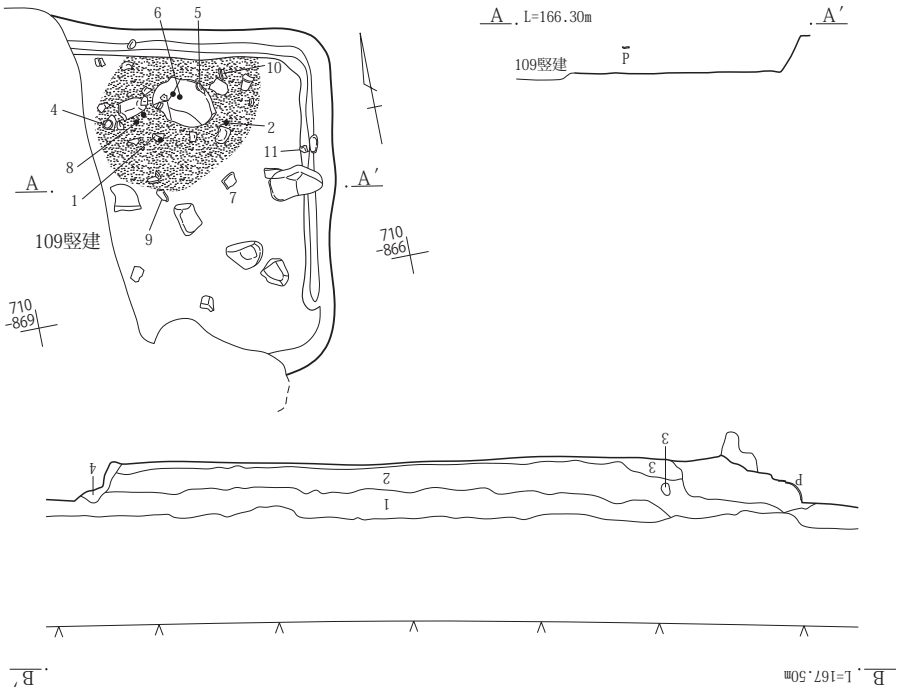
2号カマドE-E′・F-F′・G-G′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒・大粒のAs-C粒をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を含む。ローム土をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・粒・As-C粒を含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・大粒のAs-C粒を多く、ローム粒・As-C粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As-C粒をわずか、焼土粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
6　黒色土(10YR2/1)　ローム土・焼土粒をわずか、ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
7　黒褐色土(10YR2/3)　焼土粒を多く、ローム土をわずか、ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
8　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・焼土粒をわずか、ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。



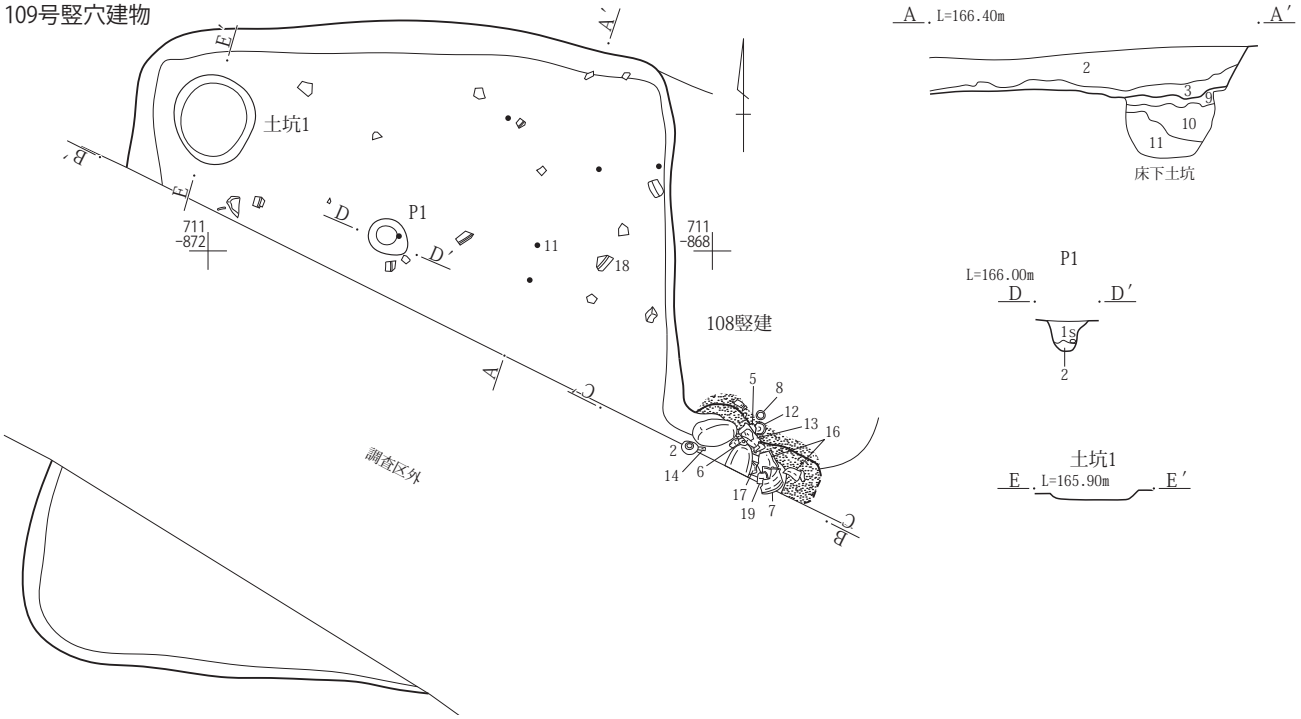
0　1：30　1m

第149図　３面　Ｇ２区107号竪穴建物

108号竪穴建物



109号竪穴建物

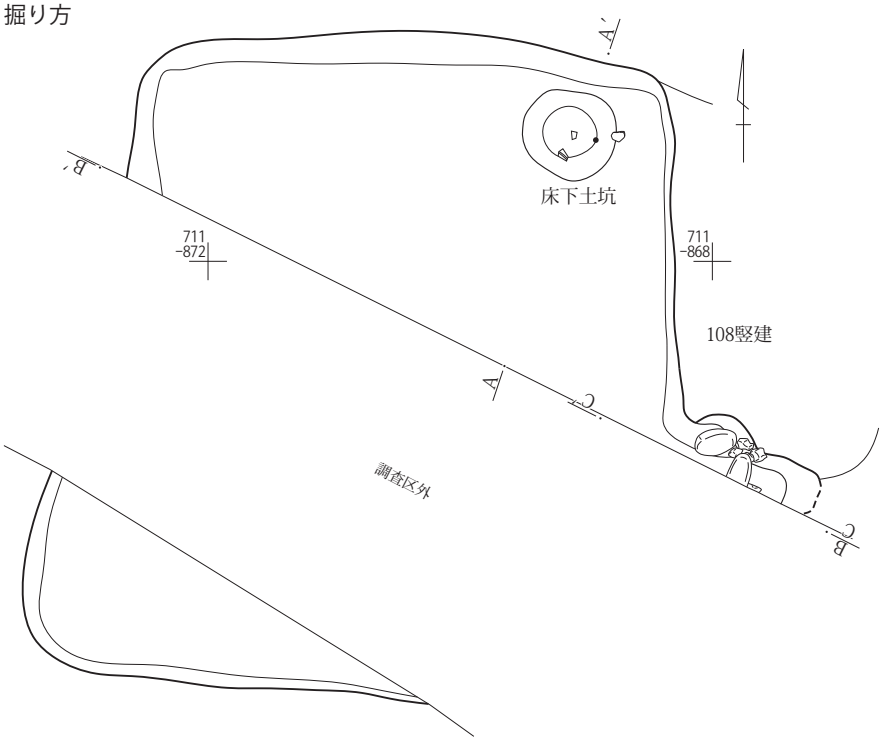


109号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－Ｃ粒を多く、炭化粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－Ｃ粒を多く、ローム塊・炭化粒をわずか、土器片を含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊をわずか、ローム粒・As－Ｃ粒をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As－Ｃ粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
9　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊を多く、ローム粒・As－Ｃ粒を含む。炭化物をわずか含む。ややしまりなし。
10　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・大粒のローム塊を多く、ローム粒・As－Ｃ粒・炭化物をわずか含む。ややしまりなし。
11　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム粒・As－Ｃ粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
Ｐ１Ｄ-Ｄ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－Ｃ粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒・As－Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。

0　1：60　2m

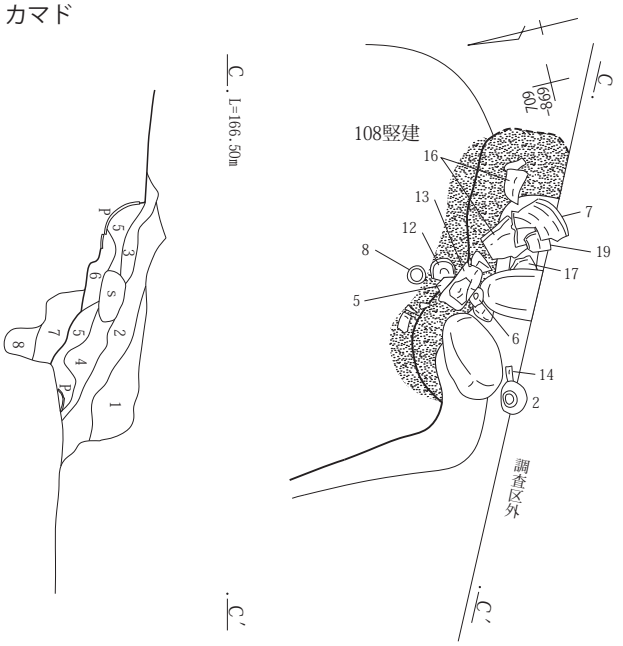
第150図　３面　Ｇ２区108・109号竪穴建物

掘り方

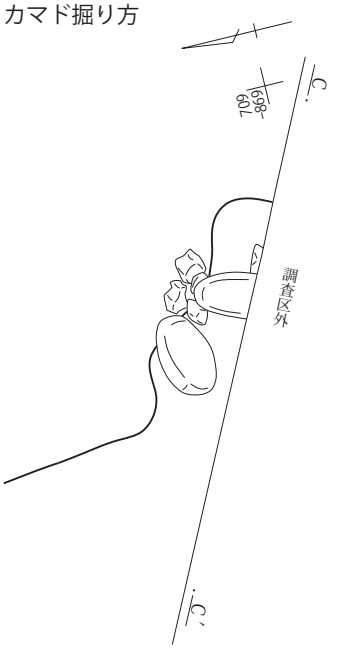


0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方

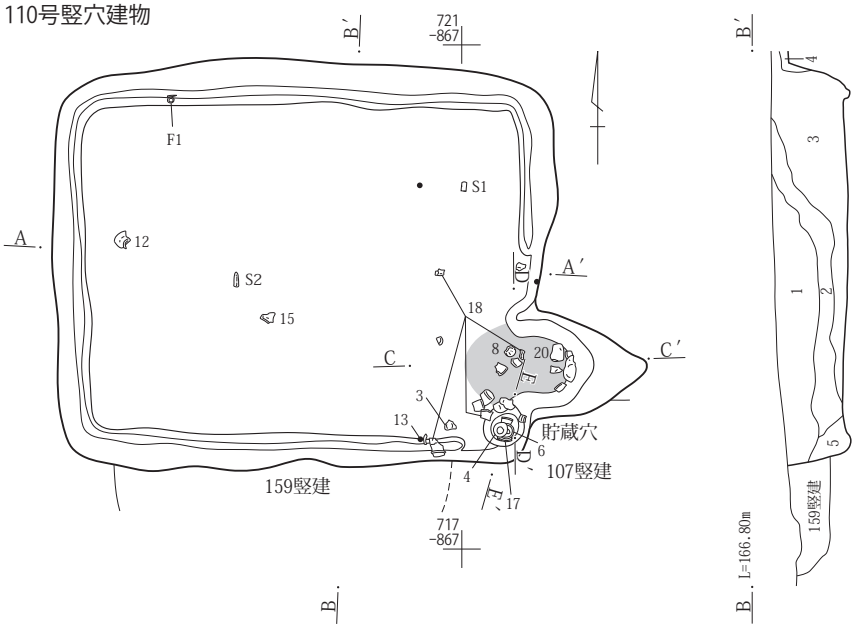


カマドＣ－Ｃ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を含む。ローム塊をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As-Ｃ粒・焼土塊をわずか、ローム塊をごくわずか含む。ややしまりなし。
3　褐色土(10YR4/6)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)を含む。焼土を多く、ローム粒をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒をわずか、焼土粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、焼土粒を含む。ローム塊・粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒・As-Ｃ粒・焼土粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
7　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)をわずか、焼土を多く、ローム粒・焼土粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
8　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)をわずか、焼土を非常に多く、ローム粒・焼土粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。

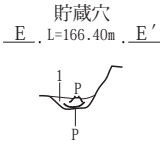
0　1：30　1m

第151図　３面　Ｇ２区109号竪穴建物

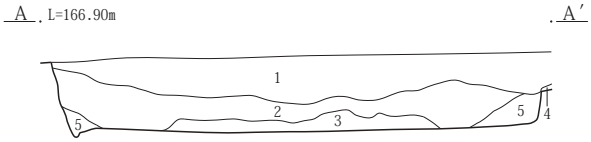
110号竪穴建物



貯蔵穴

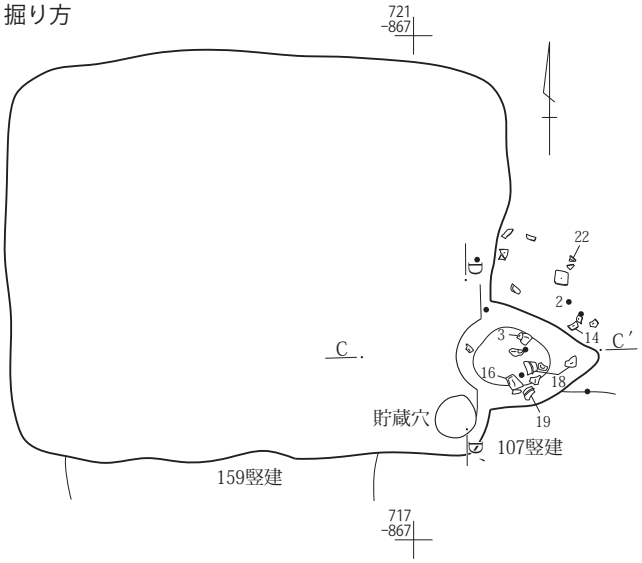


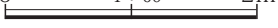
貯蔵穴E-E′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・塊状のAs-YP粒をごくわずか含む。



110号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を多く、ローム塊をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊を多く、大粒のローム塊・ローム粒・As-C粒を含む。ローム土・炭化粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を含む。ローム塊をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム塊をわずか、ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・塊・粒・As-C粒をわずか含む。一部ややしまりなし。

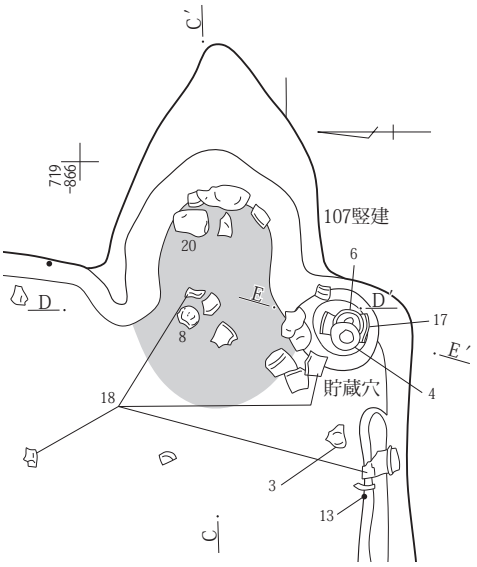
掘り方

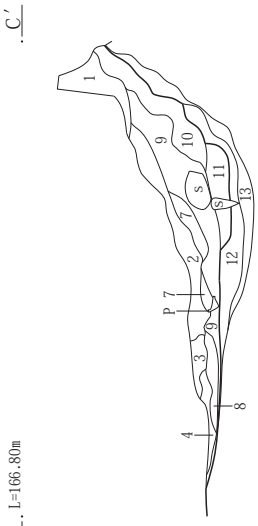




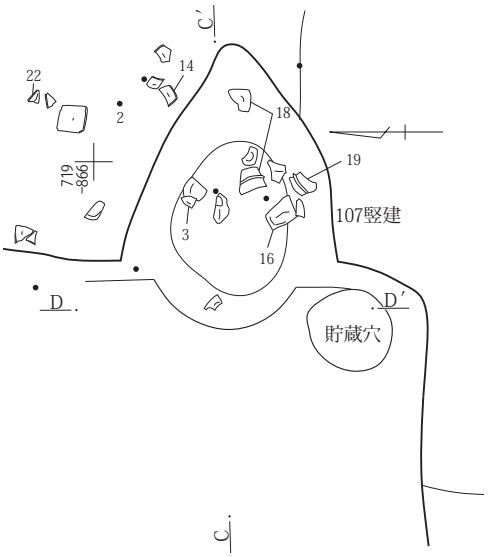
第152図　３面　Ｇ２区110号竪穴建物

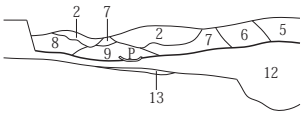
カマド



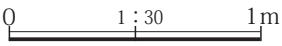


カマド掘り方



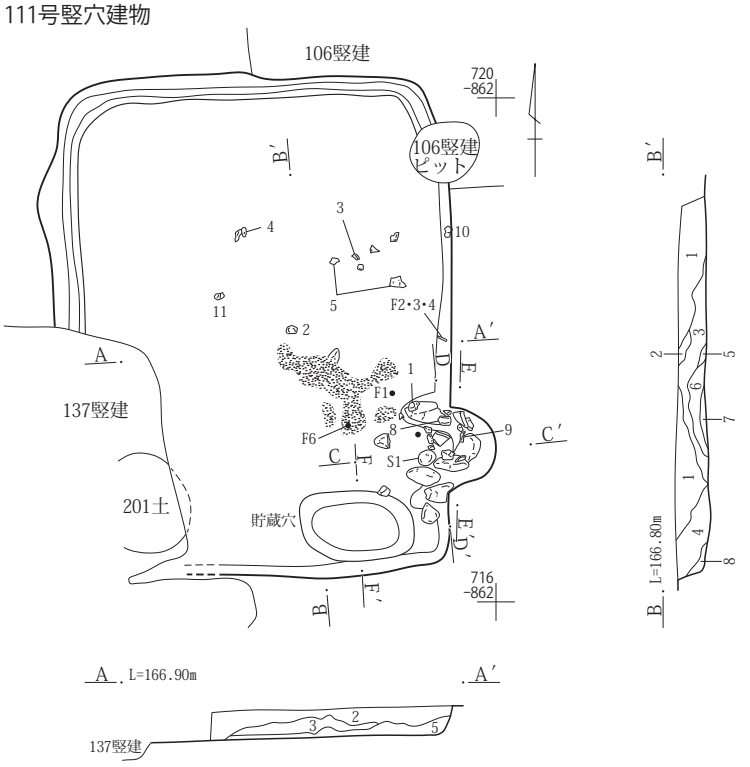


カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒・焼土粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
3　褐色土(10YR4/6)　ローム土を含む。ローム粒・焼土粒をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒・炭化粒をごくわずか含む。
5　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム粒・As-YP粒を多く、ローム塊をわずか含む。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
7　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊・ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
8　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を含む。ローム粒をわずか、ローム塊・As-C粒・焼土・焼土粒をごくわずか含む。
9　暗褐色土(10YR3/4)　焼土粒を非常に多く、炭化物・灰・土器片・ローム土を含む。ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
10　暗褐色土(10YR3/4)　塊状の焼土を含む。ローム塊をわずか、ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
11　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・焼土粒を含む。ローム粒・As-C粒をわずか含む。
12　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊をわずか、ローム粒・As-C粒・炭化粒・焼土粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
13　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・炭化粒・焼土粒をごくわずか含む。



第153図　３面　Ｇ２区110号竪穴建物

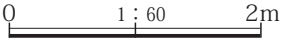
111号竪穴建物



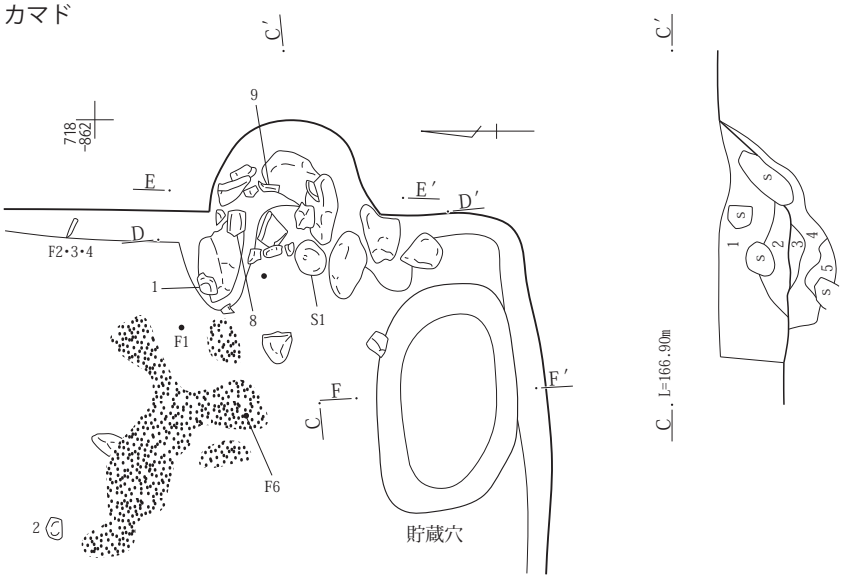
貯蔵穴

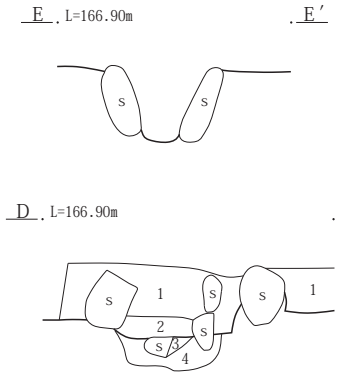
貯蔵穴F-F′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。

111号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒・大粒のAs-C粒を多く、ローム粒を含む。ローム塊をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を多く、ローム塊をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒・As-C粒・大粒のAs-C粒をわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を多く、ローム塊をごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒をわずか、ローム粒をごくわずか含む。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・粒・As-C粒を含む。焼土・焼土粒をわずか含む。
7　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒・焼土粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
8　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒を含む。ローム土・粒をわずか含む。

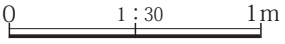


カマド



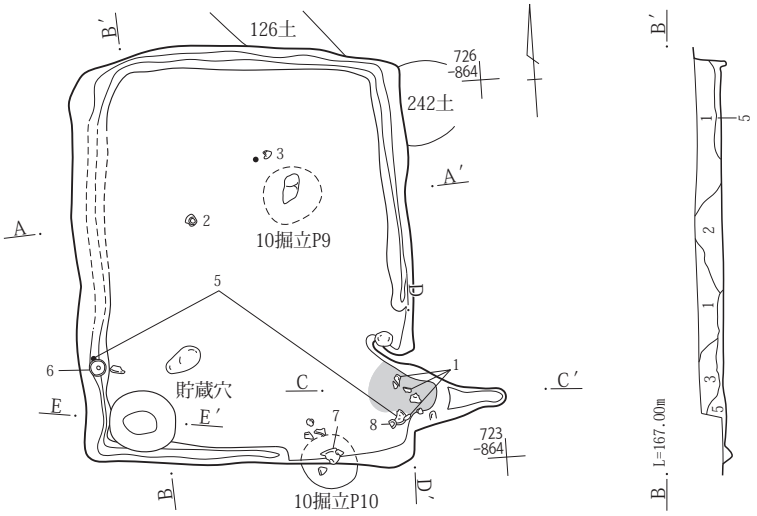


カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒を含む。ローム粒をわずか、炭化粒・焼土粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・粒・As-C粒をわずか、焼土粒をごくわずか含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　焼土･灰をわずか､焼土粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・As-C粒・炭化粒をごくわずか含む。
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・塊を含む。ローム粒をごくわずか含む。



第154図　３面　Ｇ２区111号竪穴建物

112号竪穴建物



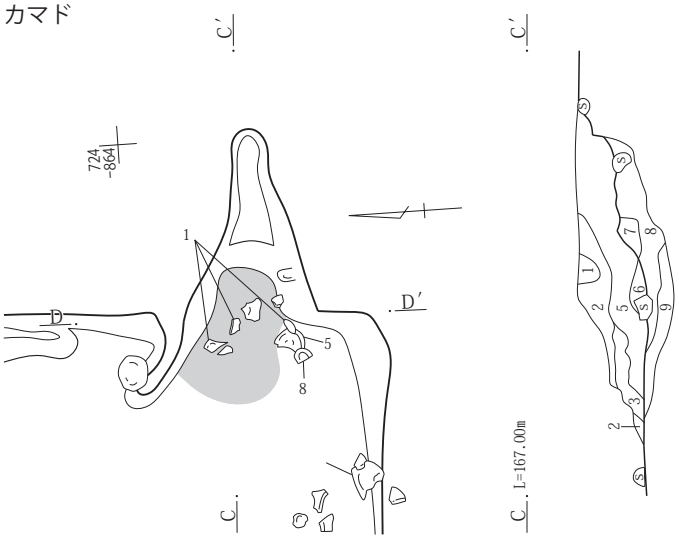
貯蔵穴

貯蔵穴E-E′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を含む。ローム塊をごくわずか含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を多く、ローム粒を含む。大粒のローム塊・ローム塊・As-C粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。

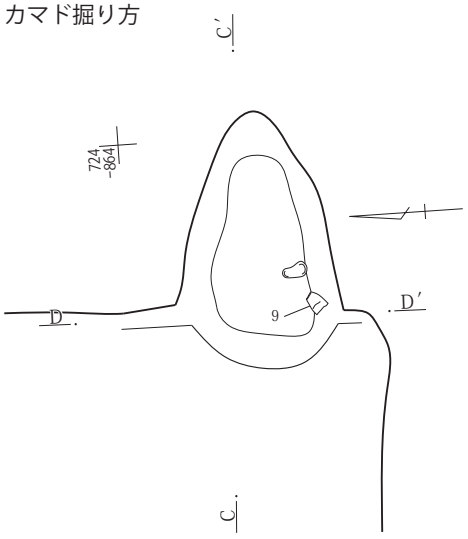
112号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を非常に多く、ローム塊をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒を非常に多く、ローム粒を多く含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒を非常に多く、ローム粒を多く、ローム塊・大粒のAs-C粒をわずか、大粒のローム塊をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒を非常に多く、ローム粒・大粒のAs-C粒を多く、ローム土・塊を含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊・粒・As-C粒を含む。

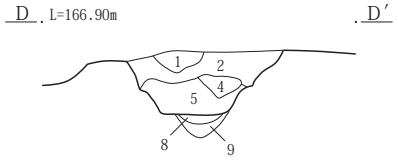
0　1：60　2m

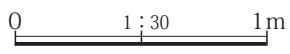
カマド



カマド掘り方



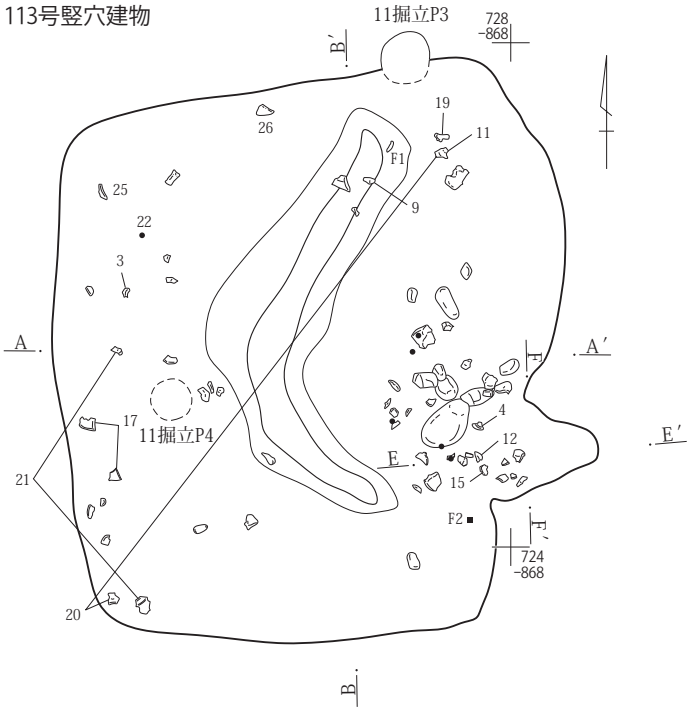




カマドC-C′・D-D′
1　褐色土(10YR4/6)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)をわずか、ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・粒・As-C粒をごくわずか含む。
3　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム粒・As-C粒・炭化粒・焼土粒をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・粒・As-C粒をわずか、炭化物をごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As-C粒をわずか、ローム塊・炭化粒・焼土粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/3)　焼土を含む。ローム土をわずか、炭化粒をごくわずか含む。
7　褐色土(10YR4/6)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
8　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・焼土・焼土粒を含む。炭化粒をわずか、ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
9　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、炭化物をわずか、ローム塊・粒をごくわずか含む。

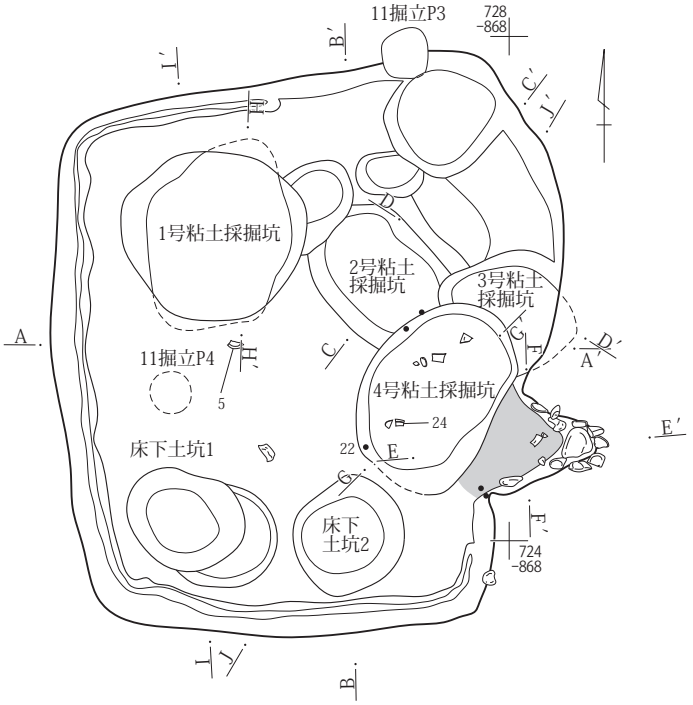
第155図　３面　Ｇ２区112号竪穴建物

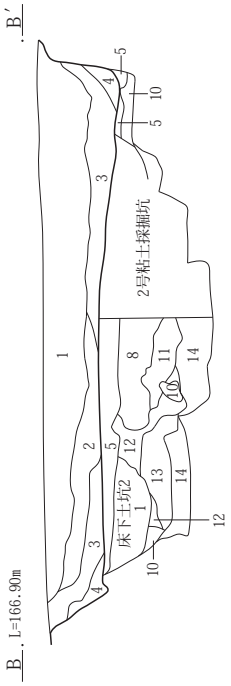
113号竪穴建物

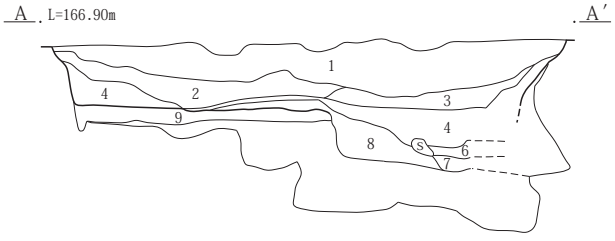


113号竪穴建物A－A′・B－B′

1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を多く、炭化粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を非常に多く、ローム土を含む。ローム塊をわずか、炭化粒をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を多く、ローム土・炭化粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As-C粒・As-YP粒・炭化粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　As-YP粒を含む。ローム土・粒・As-C粒・炭化粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
6　褐色土(10YR4/6)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)を含む。大粒のローム粒をわずか、As-C粒をごくわずか含む。
7　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒をわずか、ローム塊・大粒のローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
8　褐色土(10YR4/6)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)をわずか含む。As-YP粒を非常に多く、大粒のローム粒・ローム粒多く、ローム塊・炭化粒・焼土粒をわずか含む。
9　褐色土(10YR4/6)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム塊・粒を含む。As-YP粒をわずか含む。
10　明黄褐色土(10YR6/8)　塊状のAs-YP。
11　暗褐色土(10YR3/4)　大粒のローム塊・大粒のローム粒・As-YP粒を多く、ローム粒・As-C粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
12　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒・As-YP粒をわずか、大粒のローム粒をごくわずか含む。
13　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。As-YP粒を非常に多く、大粒のローム粒・ローム粒を多く、ローム塊を含む。大粒のローム塊をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
14　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・As-YP粒を多く、ローム粒を含む。炭化物・焼土粒をわずか、大粒のローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。



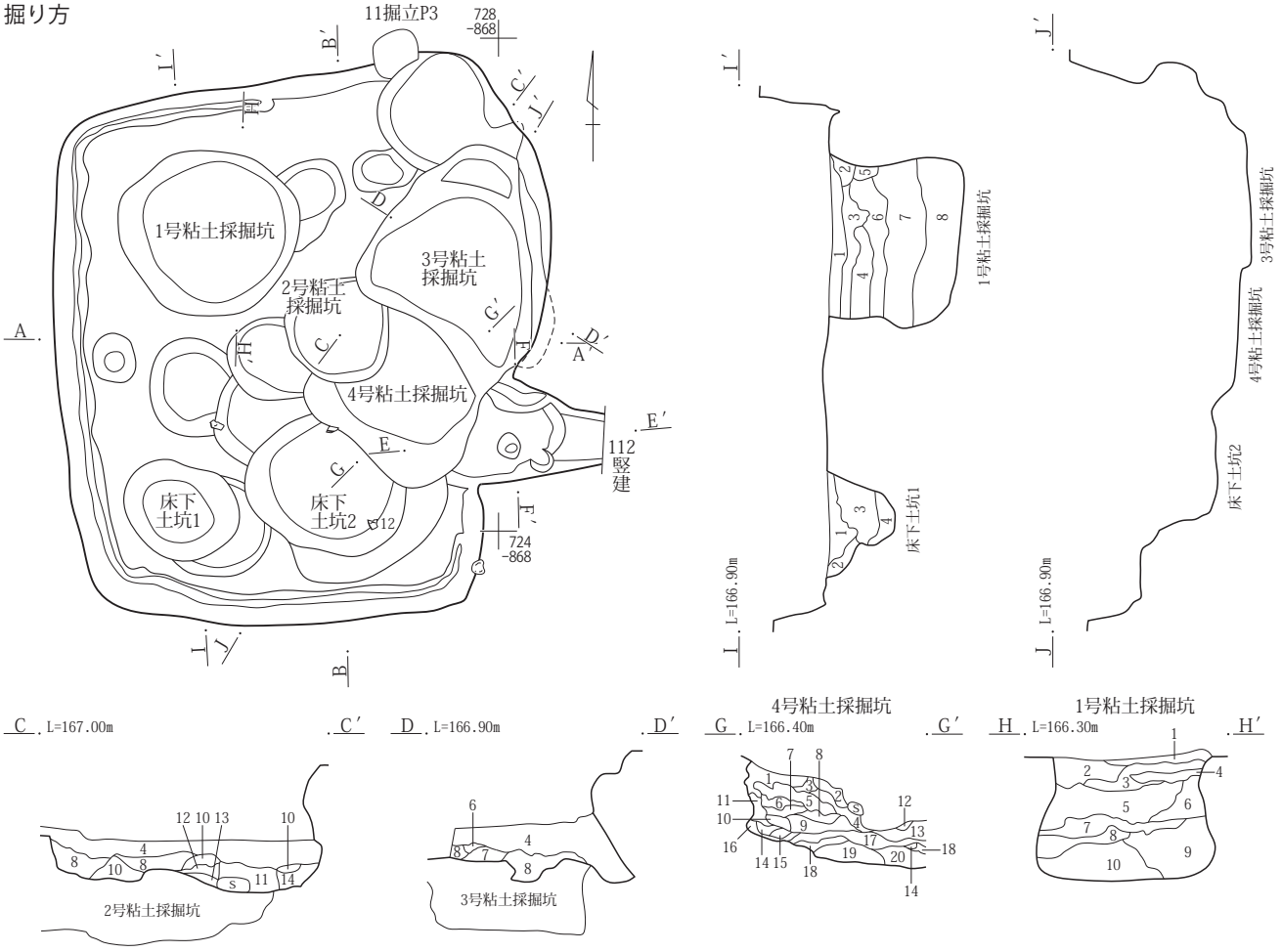




0　1：60　2m

第156図　３面　Ｇ２区113号竪穴建物

掘り方



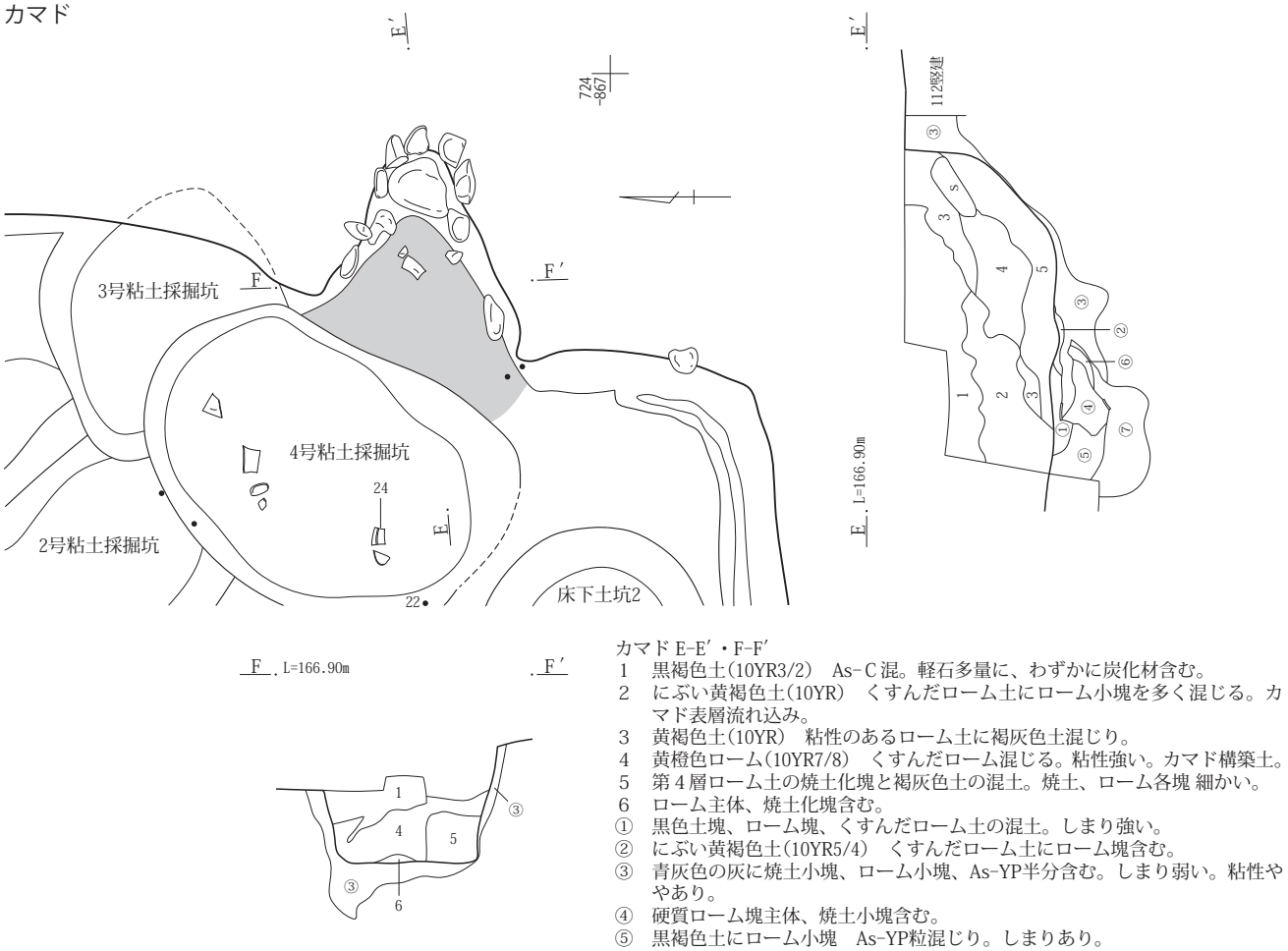
C-C′・D-D′
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As-Ｃ粒・As-YP粒・炭化粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
6　褐色土(10YR4/6)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)　を含む。大粒のローム粒をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか含む。
7　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、ローム塊・大粒のローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
8　褐色土(10YR4/6)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)をわずか含む。As-YP粒を非常に多く、大粒のローム粒・ローム粒多く、ローム塊・炭化粒・焼土粒をわずか含む。
10　明黄褐色土(10YR6/8)　塊状のAs-YP。
11　暗褐色土(10YR3/4)　大粒のローム塊・大粒のローム粒・As-YP粒を多く、ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
12　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒・As-YP粒をわずか、大粒のローム粒をごくわずか含む。
13　暗褐色土(10YR3/4)　砂礫状。As-Ｃ粒をわずか含む。ややしまりなし。
14　褐色土(10YR4/6)　ローム土。暗褐色土(10YR3/4)を含む。大粒のローム塊を非常に多く含む。
４号粘土採掘坑G-G′
1　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム粒・As-Ｃ粒を含む。ローム塊をわずか、As-YP粒をごくわずか含む。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒をわずか、As-YP粒をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、焼土粒をごくわずか含む。
4　暗褐色土(10YR3/4)　As-YP粒を含む。ローム粒・炭化物をごくわずか含む。ややしまりなし
5　黄褐色土(10YR5/8)　As-YP粒を非常に多く、ローム粒を多く、大粒のローム粒をわずか、ローム塊・焼土塊をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
6　褐色土(10YR4/4)　ローム塊・粒・As-YP粒を含む。一部ややしまりなし。
7　褐色土(10YR4/4)　黒褐色土(10YR2/3)・ローム塊を含む。大粒のローム粒・As-YP粒・焼土粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
8　暗褐色土(10YR3/4)　焼土・焼土塊・灰を含む。As-YP粒・炭化物をわずか含む。
9　黄褐色土(10YR5/8)　ローム粒・As-YP粒を多く、焼土塊・焼土粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
10　褐色土(10YR4/4)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム粒・焼土粒をわずか、ローム塊・As-YP粒・炭化物をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
11　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・As-YP粒を多く、ローム塊をわずか、炭化物・焼土粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
12　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-YP粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
13　明黄褐色土(10YR6/8)　ローム土。ローム粒・As-YP粒をわずか、大粒のローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
14　明黄褐色土(10YR6/8)　塊状にAs-YP粒を含む。
15　褐色土(10YR4/6)　ローム粒・As-YP粒をわずか、炭化粒・焼土粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
16　明黄褐色土(10YR6/8)　ローム土。ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。ややしまりなし。
17　黄褐色土(10YR5/8)　As-YP粒を含む。ローム粒・炭化粒・焼土をわずか含む。ややしまりなし。
18　明黄褐色土(10YR6/8)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)をわずか、ローム粒・As-YP粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
19　黄褐色土(10YR5/8)　ローム粒・As-YP粒・大粒のローム粒・炭化物をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
20　褐色土(10YR4/6)　ローム粒・As-YP粒を多く、ローム塊・大粒のローム粒をわずか、大粒のローム塊をごくわずか含む。一部ややしまりなし。

0　1：60　2m

第157図　３面　Ｇ２区113号竪穴建物

1号粘土採掘抗H-H′
1　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。大粒のローム粒・ローム粒を多く、As-C粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。大粒のローム粒・ローム粒を非常に多く、As-YP粒を多く、As-C粒をわずか、大粒のローム塊をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
3　黄褐色土(10YR5/8)　暗褐色土(10YR3/4)をわずか、ローム塊を含む。大粒のローム粒を非常に多く、As-YP粒を多く含む。一部ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・大粒のローム塊・ローム粒を含む。As-YP粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・大粒のローム塊・ローム塊を多く、大粒のローム粒・塊状のAs-YP粒を含む。一部ややしまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・大粒のローム粒を含む。ローム粒をわずか、As-YP粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
7　褐色土(10YR4/6)　暗褐色土(10YR3/4)を多く含む。As-YP粒を非常に多く、大粒のローム粒を多く、ローム塊をごくわずか含む。ややしまりなし。
8　黒色土(10YR2/1)　ローム塊・ローム粒・塊状のAs-YP粒を含む。ややしまりなし。
9　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊を含む。大粒のローム塊・塊状のAs-YP粒をわずか、大粒のローム粒・ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
10　黒褐色土(10YR2/3)　大粒のローム塊を非常に多く、塊状のAs-YP粒を多く、ローム土・塊を含む。ローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
床下土坑１I-I′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を多く含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒・As-C粒をわずか含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・ローム塊を多く、大粒のローム塊・ローム粒・As-C粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
1号粘土採掘抗I-I′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を含む。ローム塊・炭化粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を多く含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・ローム塊・ローム粒を多く、大粒のローム塊・As-C粒をわずか、炭化粒をごくわずか含む。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒を含む。ローム塊・As-C粒をわずか含む。
5　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)を含む。As-YP粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
6　暗褐色土(10YR3/4)　大粒のローム粒を多く、ローム塊をわずか、As-C粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
7　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒を多く、大粒のローム粒を含む。一部ややしまりなし。
8　黄褐色土(10YR5/8)　塊状のローム土。黒褐色土(10YR2/3)を含む。

カマド

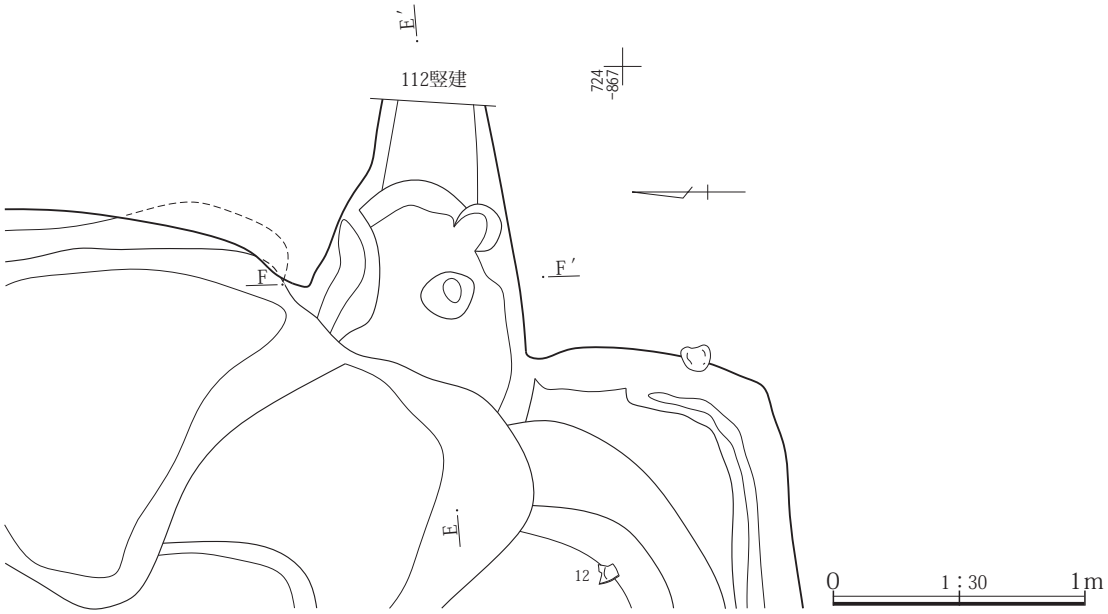


カマド E-E′・F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混。軽石多量に、わずかに炭化材含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR)　くすんだローム土にローム小塊を多く混じる。カマド表層流れ込み。
3　黄褐色土(10YR)　粘性のあるローム土に褐灰色土混じり。
4　黄橙色ローム(10YR7/8)　くすんだローム混じる。粘性強い。カマド構築土。
5　第４層ローム土の焼土化塊と褐灰色土の混土。焼土、ローム各塊 細かい。
6　ローム主体、焼土化塊含む。
①　黒色土塊、ローム塊、くすんだローム土の混土。しまり強い。
②　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　くすんだローム土にローム塊含む。
③　青灰色の灰に焼土小塊、ローム小塊、As-YP半分含む。しまり弱い。粘性ややあり。
④　硬質ローム塊主体、焼土小塊含む。
⑤　黒褐色土にローム小塊　As-YP粒混じり。しまりあり。
⑥　粘性の強いローム塊、焼土小塊、灰の混土。
⑦　硬質ローム塊混じり、As-YP粒多量に含む。

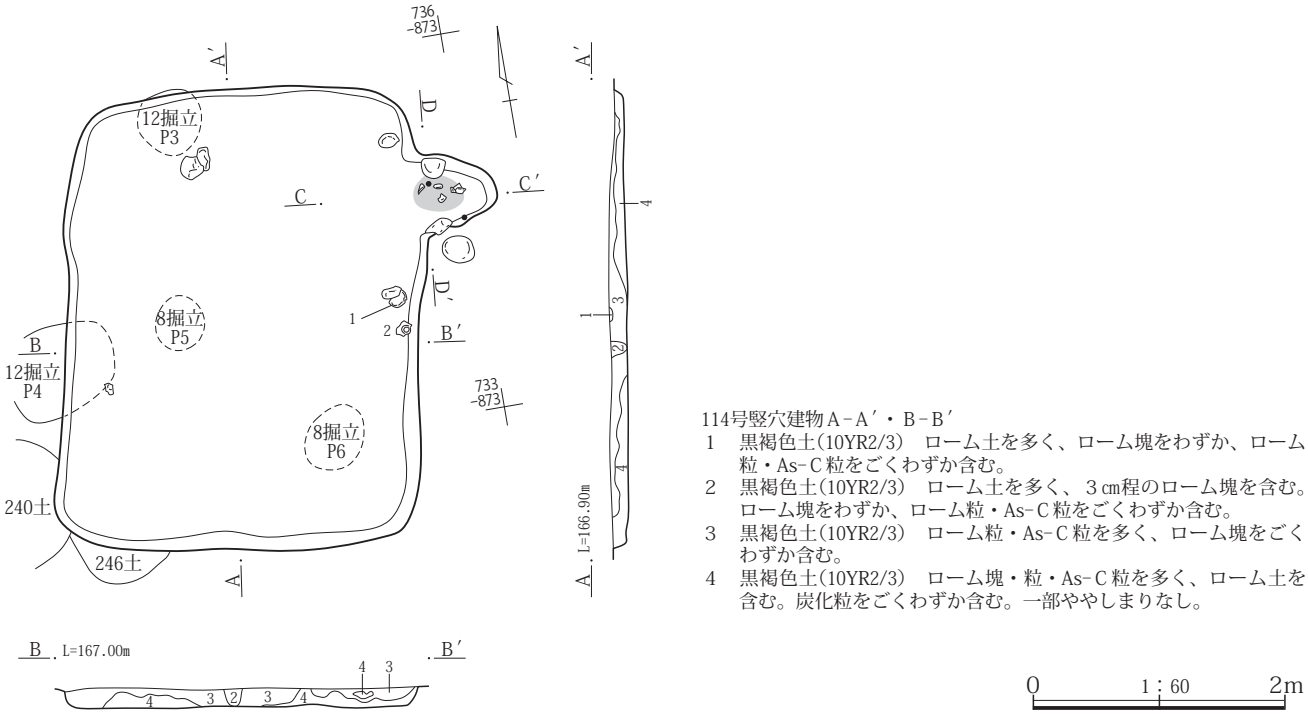
0　1：30　1m

第158図　３面　Ｇ２区113号竪穴建物

カマド掘り方



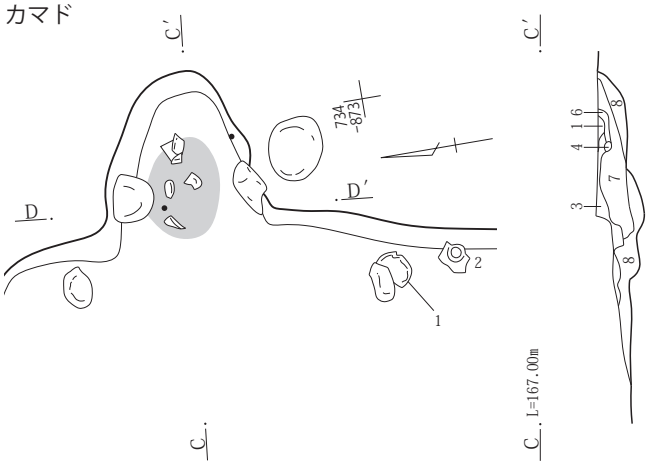
114号竪穴建物



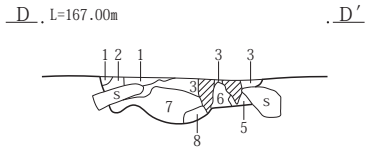
114号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊をわずか、ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、３㎝程のローム塊を含む。ローム塊をわずか、ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く、ローム塊をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・粒・As-Ｃ粒を多く、ローム土を含む。炭化粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。

第159図　３面　Ｇ２区113・114号竪穴建物

カマド

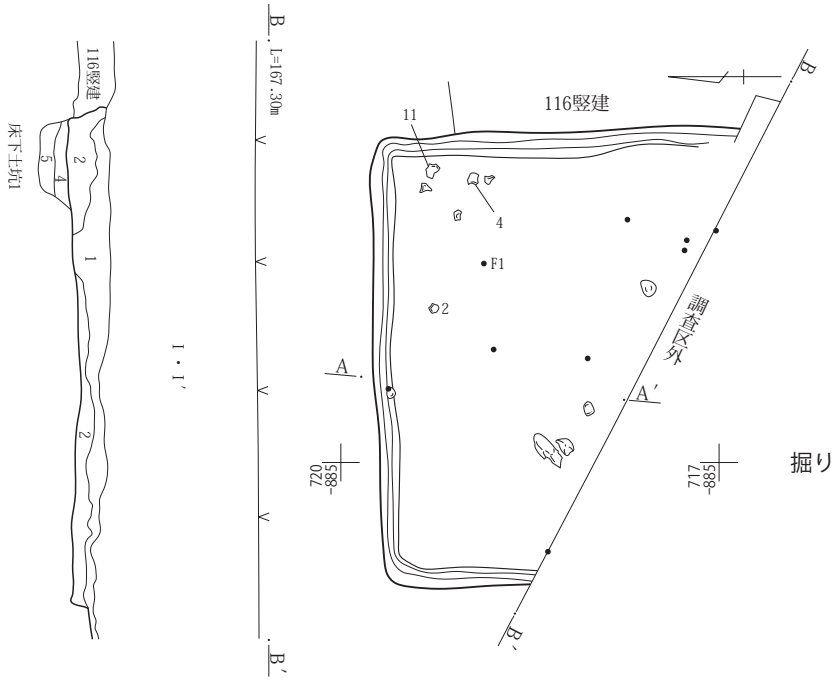


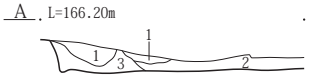
カマドC－C′・D-D′
1　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土。As－C粒をごくわずか含む。天井部の崩落土か。
2　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)をわずか、As－C粒をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－C粒をわずか、焼土粒をごくわずか含む。
4　褐色土(10YR4/6)　ローム粒・焼土粒をごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－C粒を含む。ローム土をわずか、焼土粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－C粒を含む。ローム土・焼土粒・炭化粒・灰をわずか含む。一部ややしまりなし。
7　黒褐色土(10YR2/3)　焼土を多く、ローム土をわずか、ローム粒をごくわずか含む。
8　黄褐色土(10YR5/8)　黒褐色土(10YR2/3)を多く、ローム塊・As－C粒をわずか、ローム粒・炭化粒をごくわずか含む。



0　1：30　1m

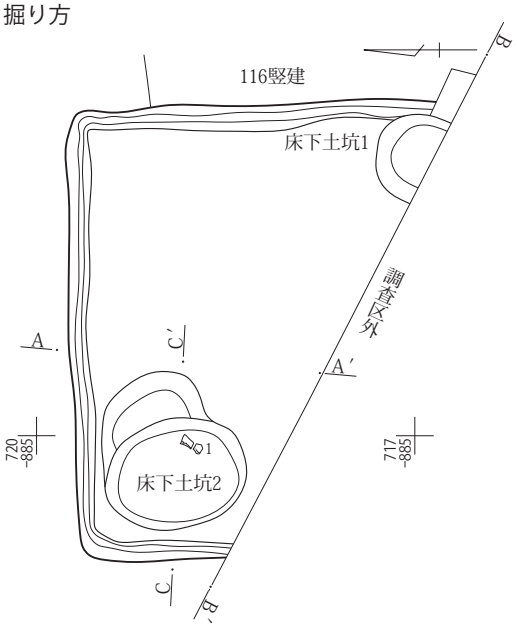
115号竪穴建物



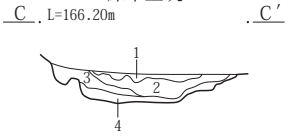


115号竪穴建物A－A′・B－B′
Ⅰ・1′　現表土・埋め土・旧耕作土　下層にAs-Bを斑状に含む。
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－C粒を多く、炭化粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。土器片を含む。一部ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－C粒を多く、ローム塊をわずか、炭化粒をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・塊を多く、ローム粒・As－C粒をわずか含む。ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・塊を多く、ローム粒・As－C粒・炭化粒をわずか含む。ややしまりなし。
5　黒色土(10YR2/1)　ローム土を含む。ややしまりなし。

掘り方



床下土坑2

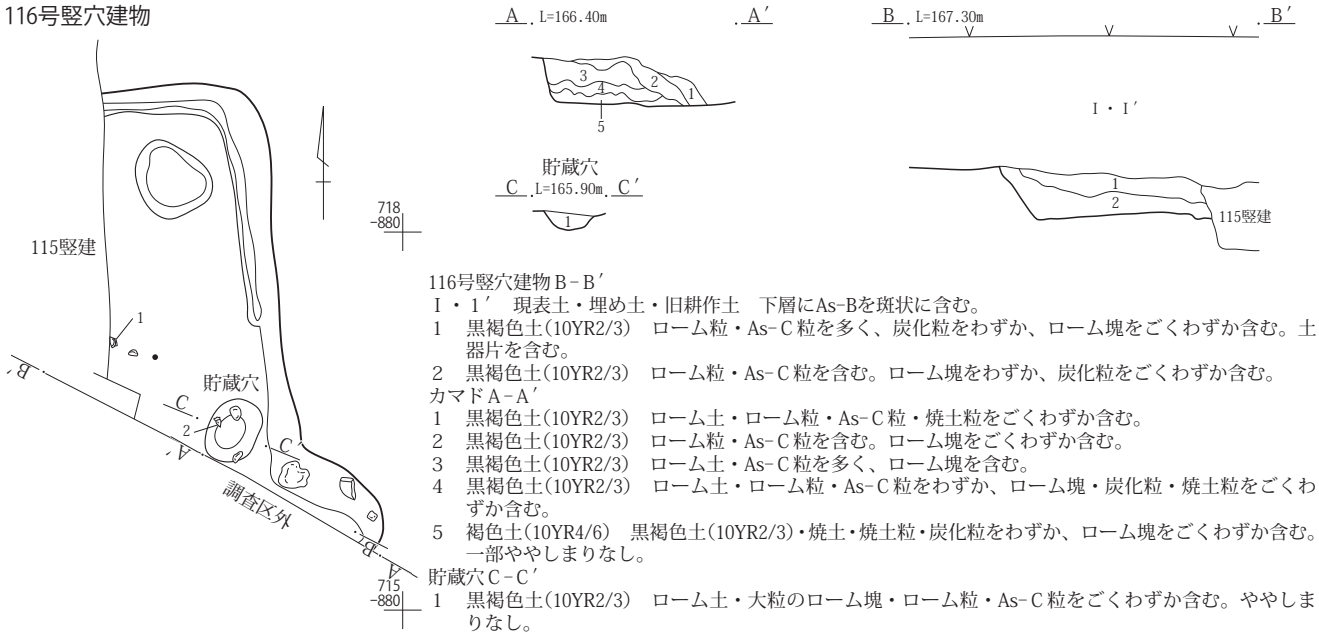


床下土坑２ C－C′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－C粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊を多く、ローム粒・As－C粒を含む。ローム土をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒・As－C粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
4　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム土・塊・粒を多く、As－C粒・As-YP粒を含む。ややしまりなし。

0　1：60　2m

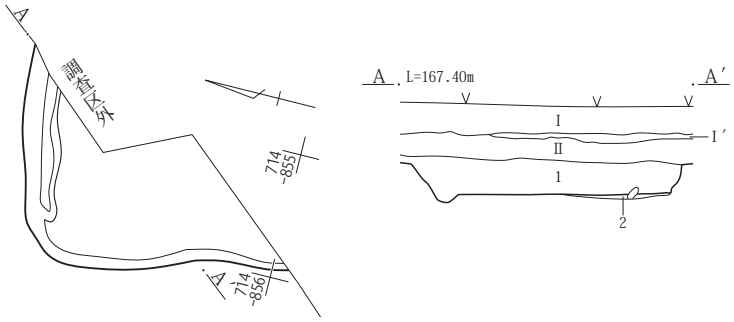
第160図　３面　Ｇ２区114・115号竪穴建物

116号竪穴建物



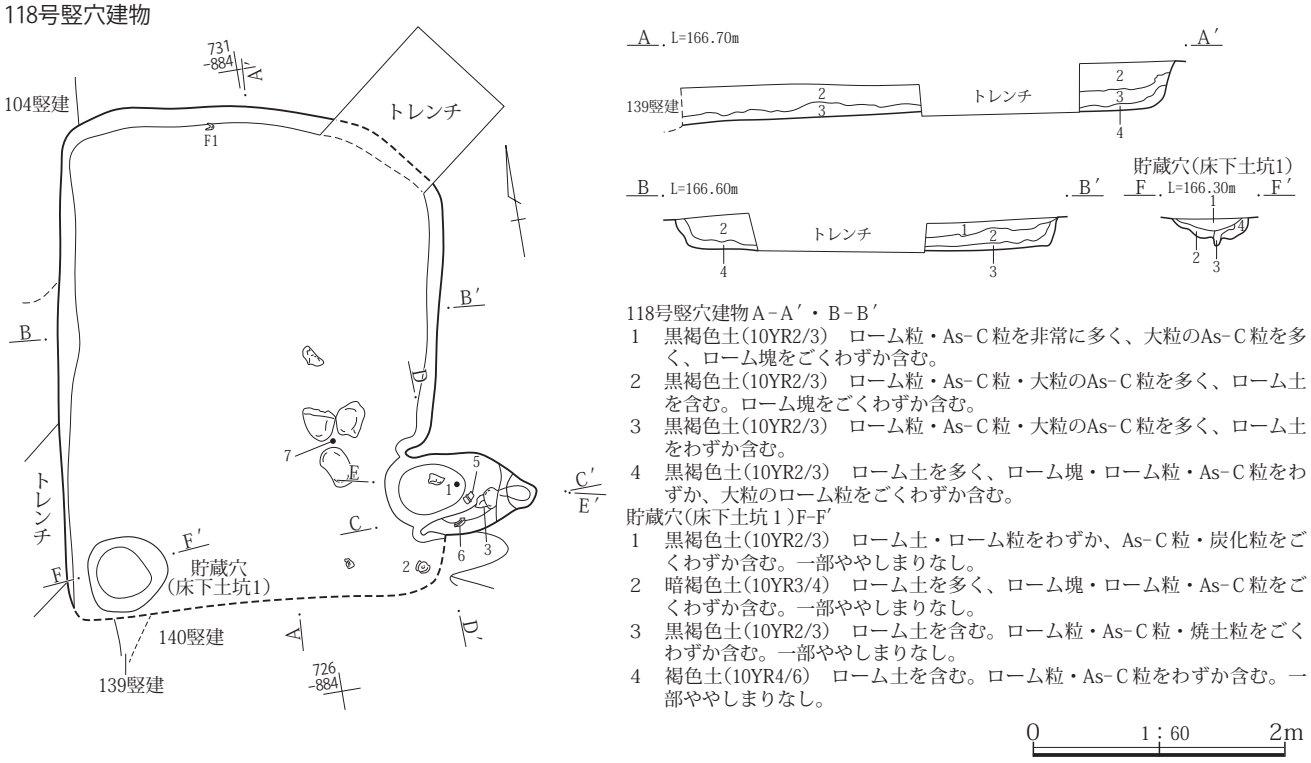
116号竪穴建物Ｂ－Ｂ′
Ⅰ・1′　現表土・埋め土・旧耕作土　下層にAs-Bを斑状に含む。
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く、炭化粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。土器片を含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を含む。ローム塊をわずか、炭化粒をごくわずか含む。
カマドＡ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・As-Ｃ粒・焼土粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を含む。ローム塊をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・As-Ｃ粒を多く、ローム塊を含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、ローム塊・炭化粒・焼土粒をごくわずか含む。
5　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)・焼土・焼土粒・炭化粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
貯蔵穴Ｃ－Ｃ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・大粒のローム塊・ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。ややしまりなし。

117号竪穴建物



117号竪穴建物Ａ－Ａ′
Ⅰ　表土
Ⅰ′　鉄分沈着
Ⅱ　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ混土。
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ混土、土質均一。
2　黒色塊、ローム塊。混土やや硬くしまる。貼床。

118号竪穴建物

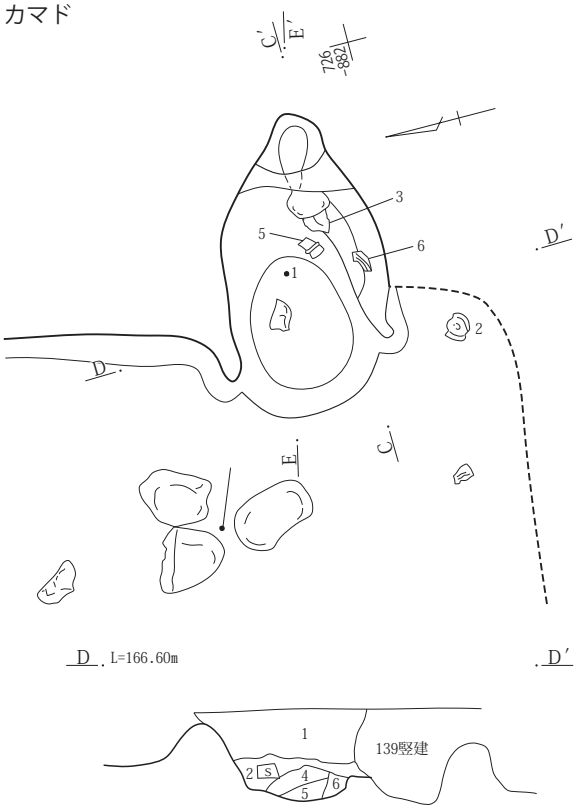


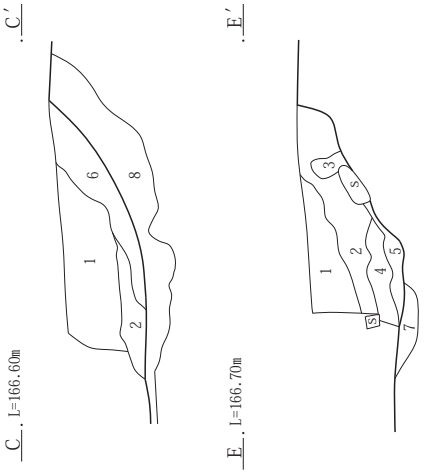
118号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を非常に多く、大粒のAs-Ｃ粒を多く、ローム塊をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒・大粒のAs-Ｃ粒を多く、ローム土を含む。ローム塊をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒・大粒のAs-Ｃ粒を多く、ローム土をわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊・ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、大粒のローム粒をごくわずか含む。
貯蔵穴(床下土坑１)Ｆ-Ｆ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒をわずか、As-Ｃ粒・炭化粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を多く、ローム塊・ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒・As-Ｃ粒・焼土粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
4　褐色土(10YR4/6)　ローム土を含む。ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。一部ややしまりなし。

0　1：60　2m

第161図　３面　Ｇ２区116～118号竪穴建物

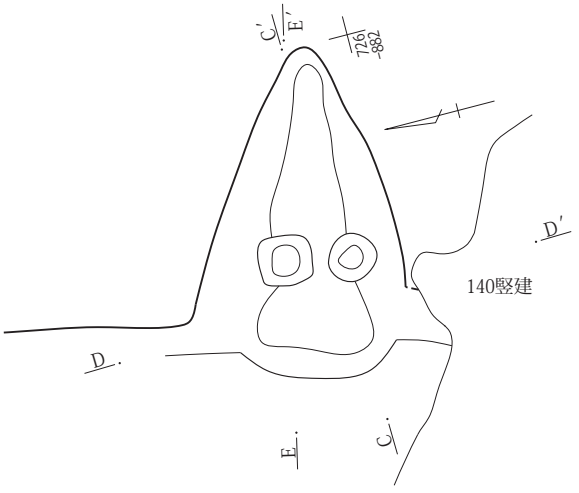
カマド





カマドC－C′・D－D′・E－E′
1　黒褐色土(10YR2/3)　As－C粒を多く、ローム粒を含む。ローム土・塊・大粒のローム塊をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒・As－C粒をわずか、焼土粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
3　褐色土(10YR4/6)　ローム土。ローム粒をわずか含む。
4　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土。As－C粒を含む。焼土粒をわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　焼土粒を多く、ローム土を含む。炭化粒をわずか、ローム粒・As－C粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム粒・As－C粒・炭化粒・焼土粒をごくわずか含む。
7　黒色土(10YR2/1)　ローム土をわずか、ローム塊・塊状の焼土・炭化粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
8　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム粒･As－C粒をごくわずか含む。

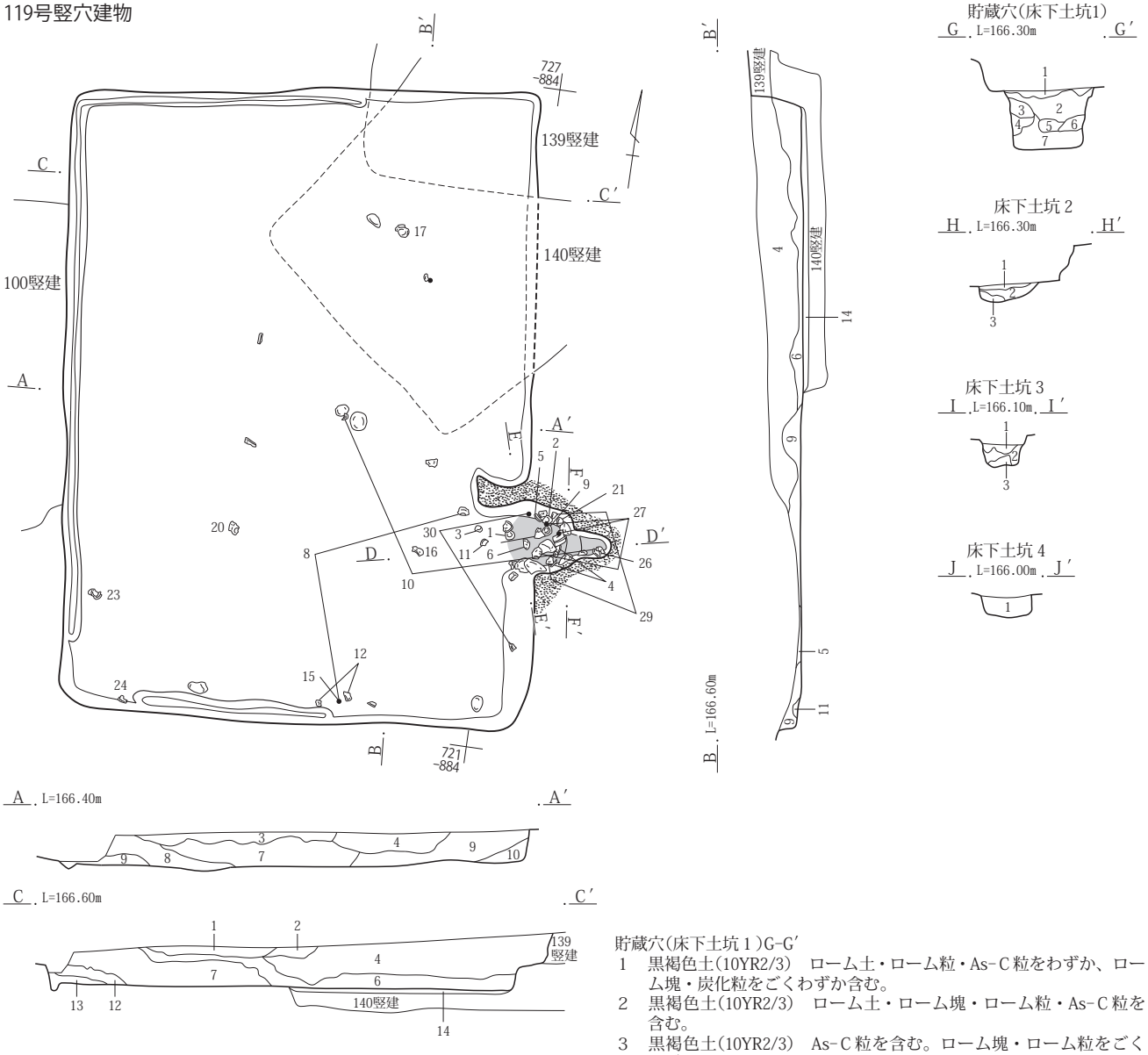
カマド掘り方



0　1：30　1m

第162図　３面　Ｇ２区118号竪穴建物

119号竪穴建物



119号竪穴建物Ａ-Ａ′・Ｂ-Ｂ′・Ｃ-Ｃ′

1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊を含む。ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊を含む。ローム粒･As-Ｃ粒をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く、ローム土・ローム塊をわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。炭化粒・焼土粒をわずか、ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を含む。大粒のローム塊をわずか含む。
7　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム塊・As-Ｃ粒を多く、ローム粒を含む。大粒のローム塊をわずか含む。
8　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)をわずか含む。ローム塊･ローム粒・As-Ｃ粒を多く含む。
9　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)を多く含む。ローム塊・ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、大粒のローム塊をごくわずか含む。
10　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒･As-Ｃ粒をわずか含む。ややしまりなし。
11　黒色土(10YR2/1)　炭化物を多く含む。ややしまりなし。
12　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒･As-Ｃ粒を含む。ローム塊をわずか含む。
13　暗褐色土(10YR3/4)　ローム塊をわずか、ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
14　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土。ローム塊を多く含む。(張床)

貯蔵穴(床下土坑１)G-G′

1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、ローム塊・炭化粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒・As-Ｃ粒を含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒を含む。ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒をわずか、大粒のローム塊・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒･As-Ｃ粒･炭化粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム塊・ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
7　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊を含む。ローム粒･As-Ｃ粒をわずか含む。一部ややしまりなし。

床下土坑２H-H′

1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、ローム塊・炭化粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を多く、ローム土･大粒のローム粒･As-Ｃ粒を含む。炭化粒をごくわずか含む。
3　黒色土(10YR2/1)　ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。

床下土坑３I-I′

1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒を多く、ローム塊・As-Ｃ粒をわずか含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土･ローム粒を多く、As-Ｃ粒をわずか、炭化粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
3　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)・大粒のローム塊を含む。ローム粒・As-Ｃ粒・As-YP粒をわずか含む。一部ややしまりなし。

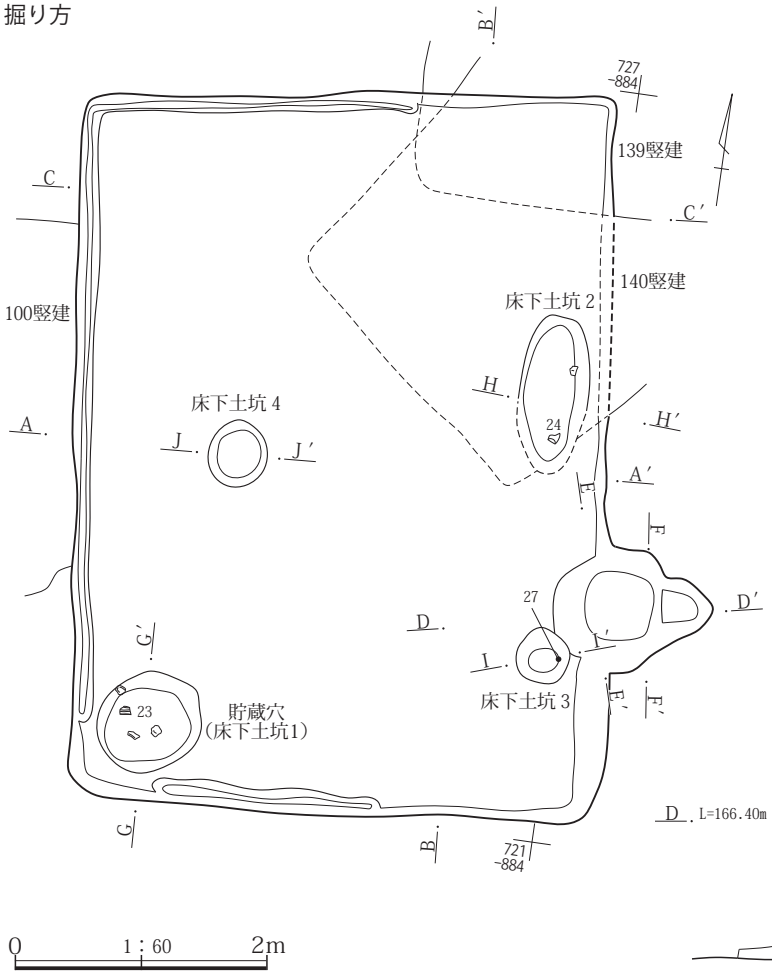
床下土坑４J-J′

1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を含む。ローム塊･As-Ｃ粒をわずか、大粒のローム塊・炭化粒をごくわずか含む。

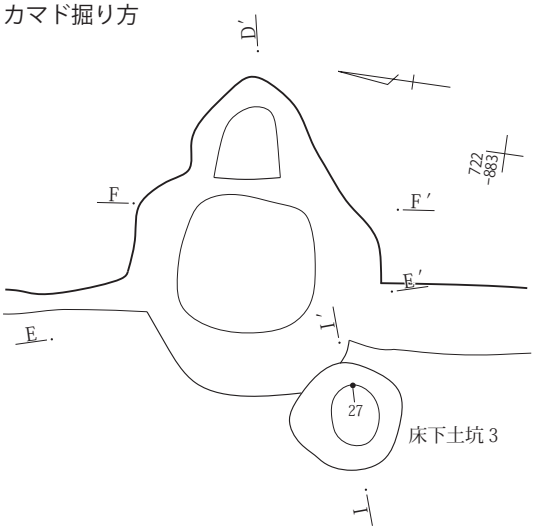
0　1：60　2m

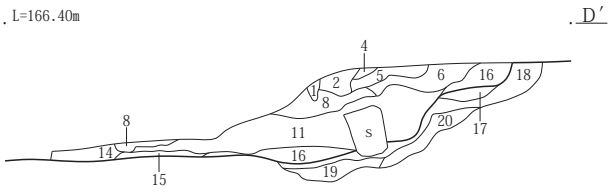
第163図　３面　Ｇ２区119号竪穴建物

掘り方

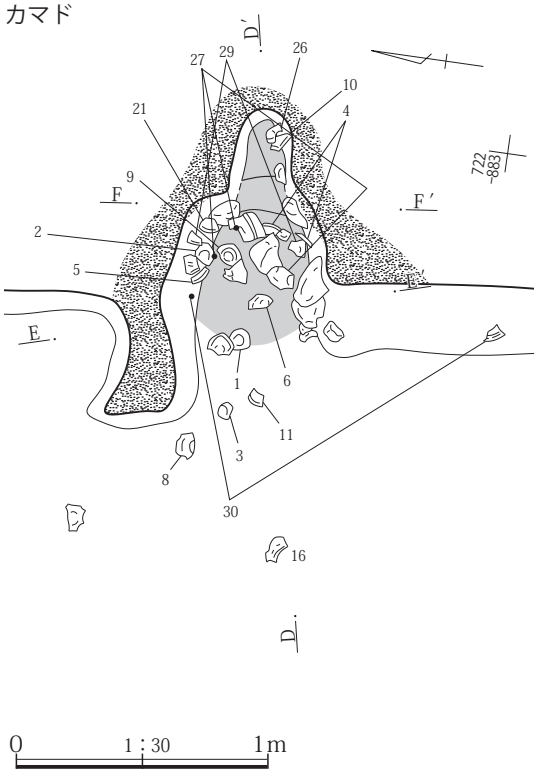


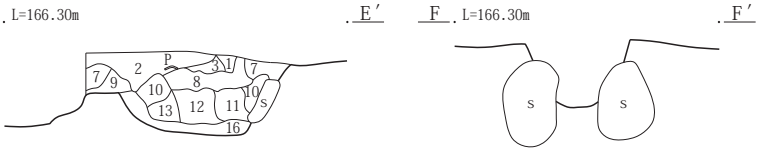
カマド掘り方





カマド



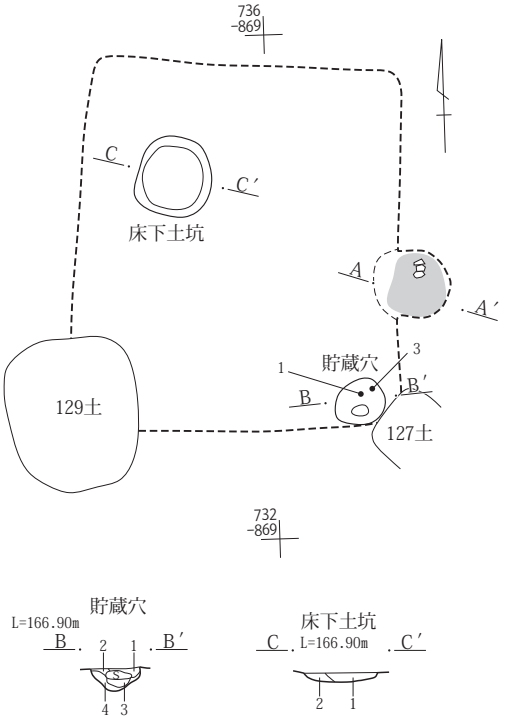


カマドD-D′・E-E′

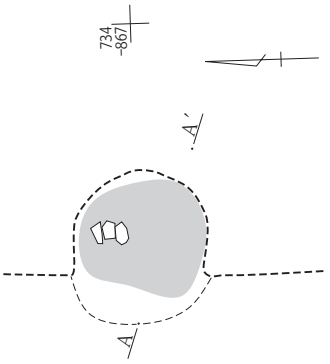
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を含む。ローム土をごくわずか含む。
4　黄褐色土(10YR5/8)　塊状のローム土。黒褐色土(10YR2/3)をわずか、As-C粒をごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・As-C粒を含む。
6　褐色土(10YR4/6)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)・As-C粒を含む。大粒のAs-C粒をわずか、焼土粒をごくわずか含む。
7　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒・As-C粒をわずか含む。
8　褐色土(10YR4/6)　ローム土。暗褐色土(10YR4/6)を含む。ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
9　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
10　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒・As-C粒をわずか含む。
11　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒をわずか、ローム塊・炭化粒や焼土粒をごくわずか含む。
12　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒・As-C粒をわずか、焼土粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
13　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
14　暗褐色土(10YR3/4)　ローム塊をごくわずか含む。
15　明黄褐色土(10YR6/8)　ローム土。
16　黒褐色土(10YR2/3)　焼土を多く、ローム土を含む。ローム粒・As-C粒をわずか、炭化粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
17　褐色土(10YR4/6)　ローム土。塊状の焼土を多く、ローム粒をごくわずか含む。
18　暗褐色土(10YR3/4)　焼土や焼土粒を多く、ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
19　赤褐色土(2.5YR4/8)　焼土。炭化物をわずか含む。一部ややしまりなし。
20　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を含む。焼土をわずか含む。砂礫状で崩れやすい。

第164図　３面　Ｇ２区119号竪穴建物

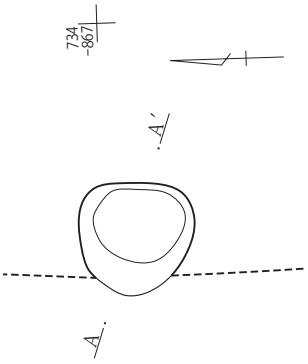
138号竪穴建物



カマド

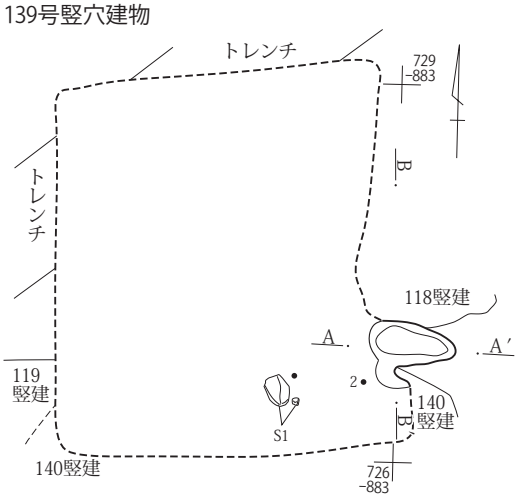


カマド掘り方

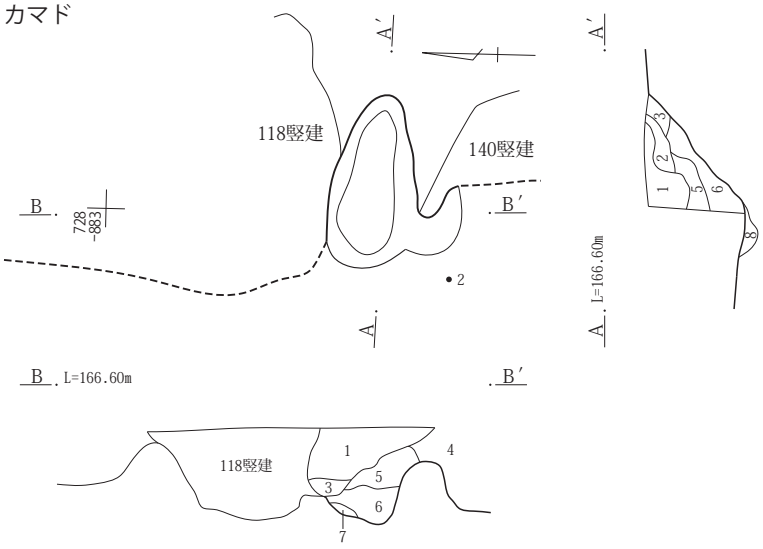


138号竪穴建物カマド(残骸)A－A′
1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・焼土粒を含む。焼土塊・炭化粒をごくわずか含む。
貯蔵穴B－B′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊を多く含む。ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を含む。As-YP粒をわずか含む。
4　明黄褐色土(10YR6/8)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。As-YP粒を非常に多く含む。一部ややしまりなし。
床下土坑C－C′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をわずか、As－C粒をごくわずか、ローム土・As-YP粒の混土が塊状に含まれる。
2　明黄褐色土(10YR6/8)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。As-YP粒を非常に多く含む。一部ややしまりなし。

139号竪穴建物



カマド



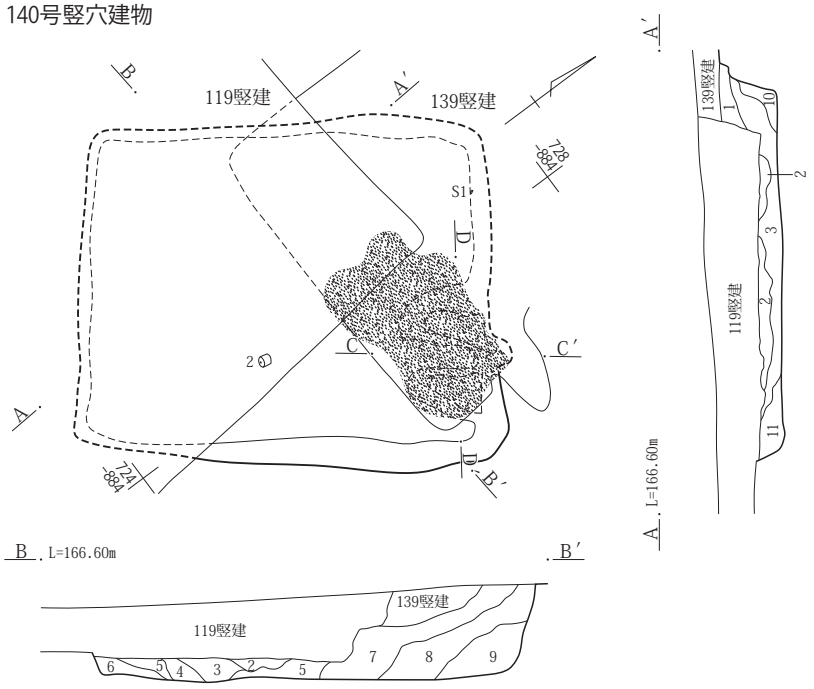
カマドA－A′・B－B′
1　黒褐色土(10YR2/3)　As－C粒を多く、ローム粒を含む。ローム土をわずか、ローム塊・炭化粒・焼土粒をごくわずか含む。
2　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土。As－C粒を含む。焼土粒をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・焼土粒を多く、ローム粒・As－C粒を含む。一部ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As－C粒を非常に多く、大粒のAs－C粒を多く、ローム土・ローム塊をわずか含む。
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を含む。ローム粒・As－C粒をわずか、ローム塊・焼土粒をごくわずか含む。
6　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を多く、焼土・焼土粒を含む。ローム粒・As－C粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
7　黄褐色土(10YR5/8)　焼土粒をわずか、ローム粒・As－C粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
8　褐色土(10YR4/6)　焼土や焼土粒をわずか、ローム土。ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。

0　1：60　2m

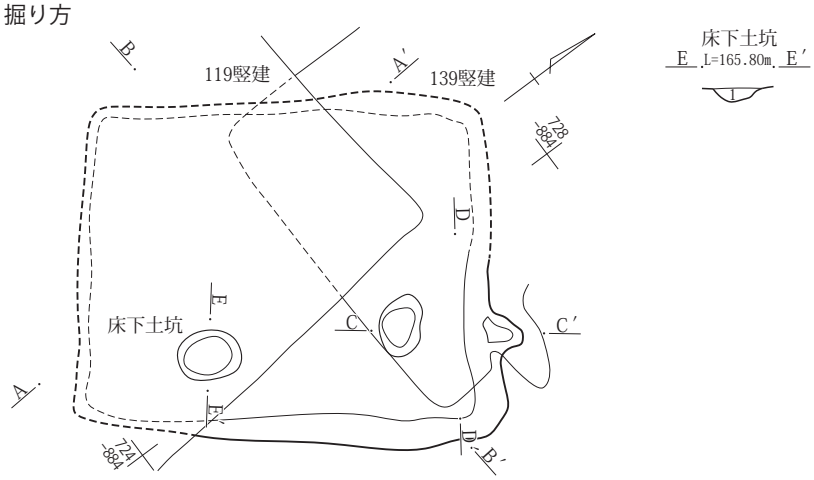
0　1：30　1m

第165図　３面　Ｇ２区138・139号竪穴建物

140号竪穴建物



掘り方

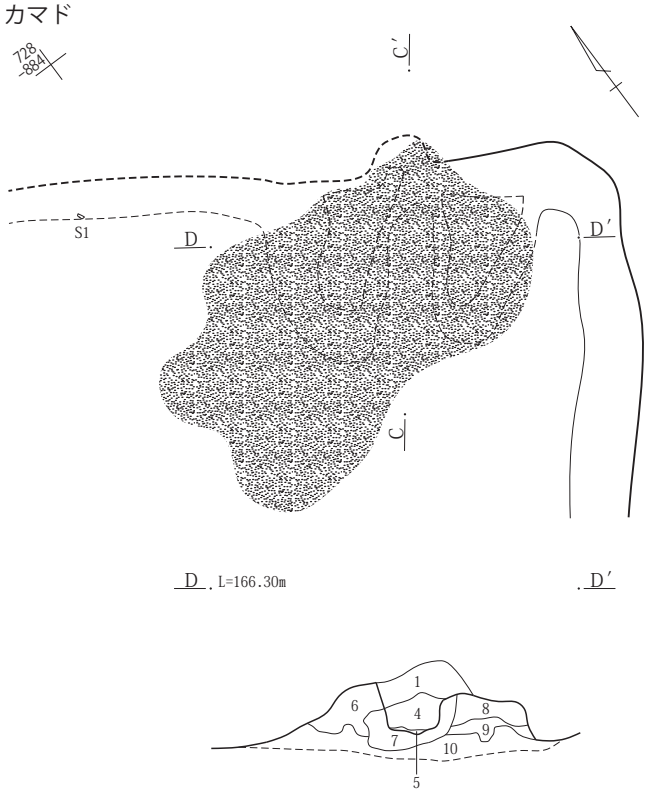


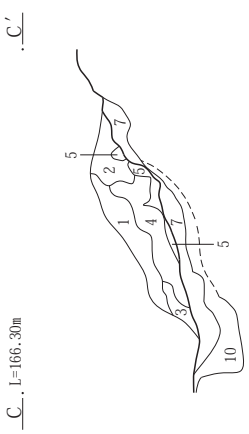
140号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒をわずか、ローム土・ローム粒・大粒のローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　大粒のローム塊を多く、ローム土・ローム塊を含む。As-Ｃ粒をわずか、ローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・大粒のローム粒・As-Ｃ粒を多く、ローム粒を含む。ローム土をわずか含む。一部ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　大粒のローム粒を非常に多く、ローム粒を多く、As-Ｃ粒を含む。ローム土をわずか含む。一部ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を含む。As-Ｃ粒をわずか、ローム塊・大粒のローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、As-YP粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
7　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く、ローム土・ローム塊をわずか、焼土粒をごくわずか含む。
8　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・As-Ｃ粒を多く、As-YP粒・焼土粒をわずか、炭化物をごくわずか含む。ややしまりなし。
9　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・大粒のローム粒・As-Ｃ粒を多く、As-YP粒を含む。ややしまりなし。
10　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・大粒のローム粒・As-YP粒を多く、As-Ｃ粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
11　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
床下土坑E-E′
1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒を多く、As-YP粒を含む。ローム塊をごくわずか含む。ややしまりなし。

0　1：60　2m

第166図　３面　Ｇ２区140号竪穴建物

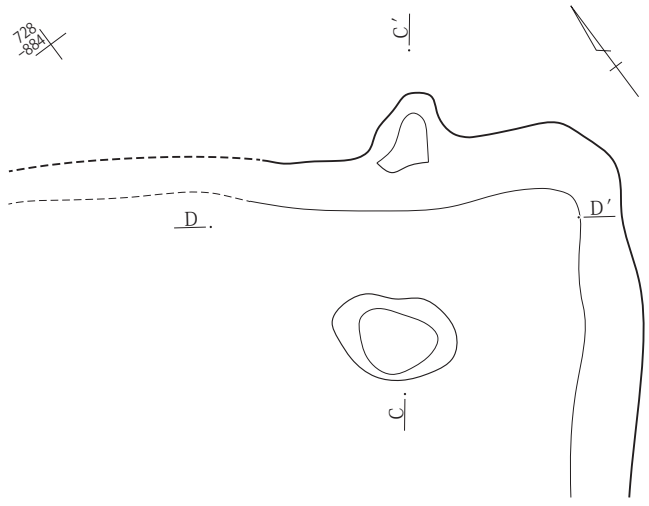
カマド

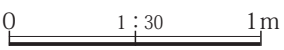




カマドC－C′・D－D′
1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム粒を多く、As－C粒・焼土粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
2　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土。ローム粒・As－C粒・大粒のAs－C粒・焼土をわずか、炭化粒・焼土粒をごくわずか含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を多く、ローム粒・焼土粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
4　褐色土(10YR4/6)　ローム土を多く、黒褐色土(10YR2/3)をわずか含む。焼土を多く、ローム粒・As－C粒・焼土塊をわずか、大粒のローム粒・As－C粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
5　暗褐色土(10YR3/4)　炭化粒・焼土粒を多く、炭化土・灰を含む。ローム粒・As－C粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
6　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・ローム粒を含む。ローム塊をわずか、炭化物・焼土粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
7　暗褐色土(10YR3/4)　焼土・焼土粒を多く、ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
8　褐色土(10YR4/6)　ローム土。ローム粒を含む。カマドの袖。
9　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒を含む。As－C粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
10　明黄褐色土(10YR6/8)　As－YP粒。

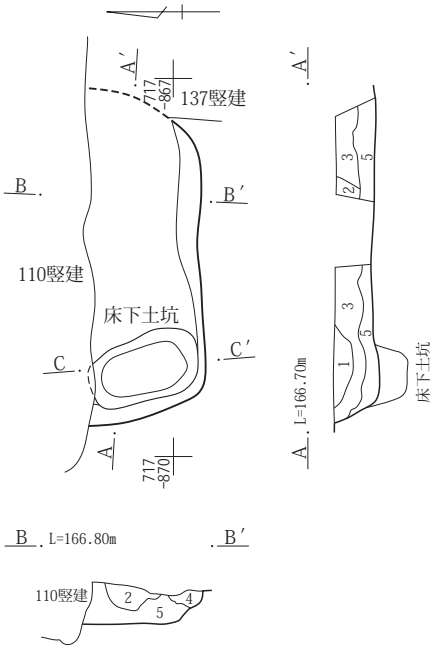
カマド掘り方





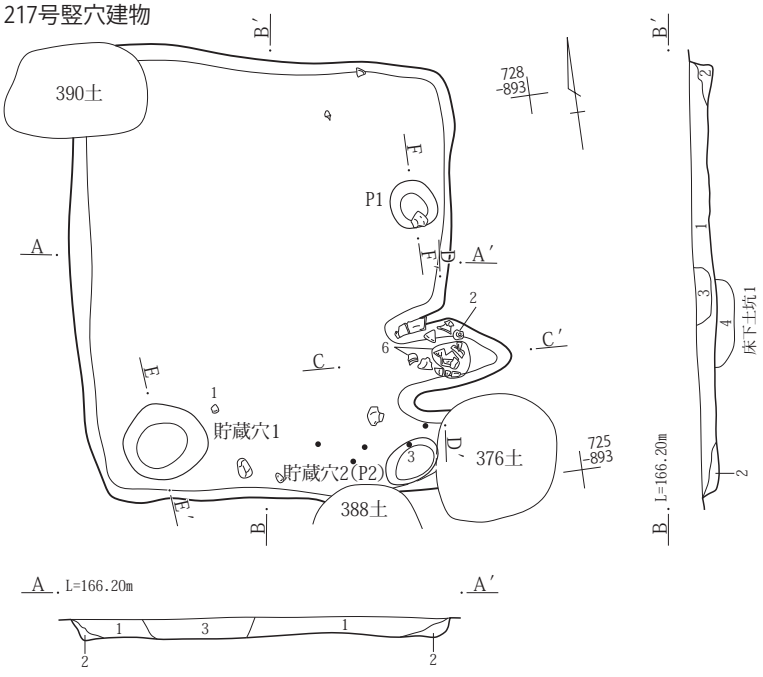
第167図　３面　Ｇ２区140号竪穴建物

159号竪穴建物



159号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒・As-C粒を非常に多く、ローム粒を多く、ローム土を含む。ローム塊をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を含む。ローム塊・As-C粒をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒を多く、ローム土・ローム粒を含む。ローム塊をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム塊をわずか、ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・ローム塊・ローム粒を多く、As-C粒をわずか含む。
床下土坑C-C′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒・As-C粒をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を多く、ローム土を含む。As-C粒をわずか含む。ややしまりなし。
3　褐色土(10YR4/6)　ローム塊・大粒のローム粒、ローム粒を多く含む。
4　黄褐色土(10YR5/8)

217号竪穴建物

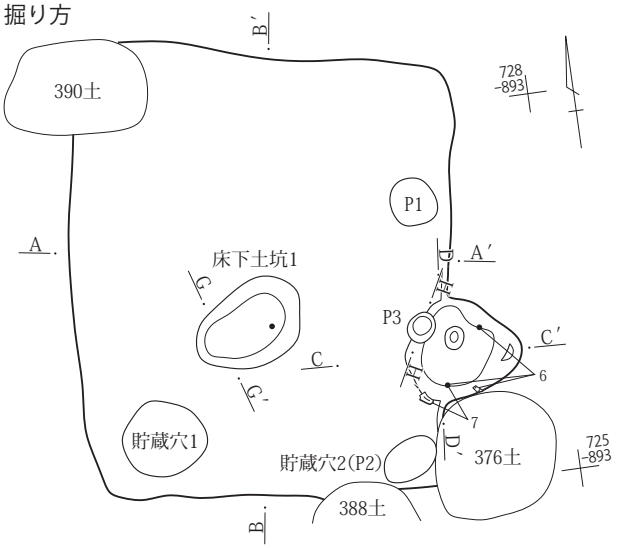


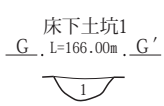
217号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１cm塊少量、褐色土小塊を含む。しまりややあり、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒・黒褐色土少量含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　砂質土、しまり弱、粘性弱。撹乱。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小～大塊多量、As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
貯蔵穴１E-E′
1　黒褐色土(10YR3/1)　黄褐色土少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　しまり弱、粘性強。
Ｐ１F-F′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒・にぶい黄褐色土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒少量含む。色味は明るい。１層よりしまり弱、粘性強。

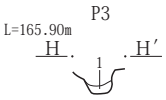
0　1：60　2m

第168図　３面　Ｇ２区159・217号竪穴建物

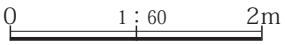
掘り方



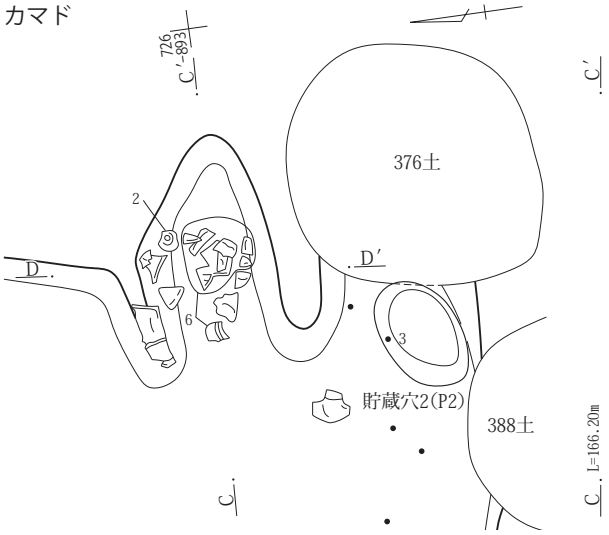




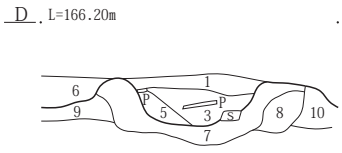
床下土坑１G-G′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小～大塊多量、As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
Ｐ３H-H′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約５㎜塊少量、炭化物を含む。しまり弱、粘性あり。



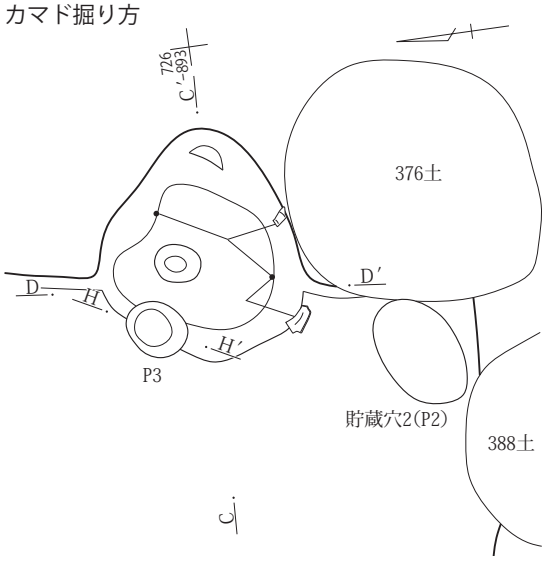
カマド

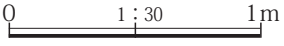


カマドC-C′・D-D′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-C・黄褐色土小塊少量含む。しまり強、粘性弱。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　明黄褐色土塊多量、炭化物を含む。しまり弱、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　焼土小塊・粒多量、にぶい黄橙色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　焼土約５㎜粒・灰白色粒少量含む。しまり・粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/1)　焼土粒・ローム粒少量含む。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量含む。しまり強、粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム小塊・粒多量、As-C少量含む。しまり・粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　焼土小塊約１㎝・ローム約１㎝塊少量、炭化物を含む。しまり・粘性あり。
9　褐色土(10YR4/4)　黒褐色土を含む。しまり・粘性あり。
10　黒褐色土(10YR2/2)　灰白色粒少量含む。しまり・粘性あり。



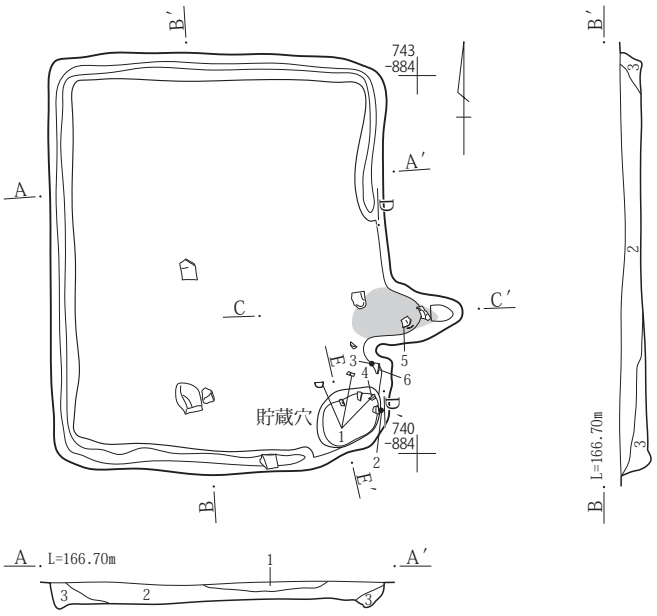
カマド掘り方



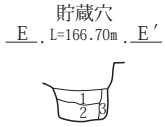


第169図　３面　Ｇ２区217号竪穴建物

218号竪穴建物



貯蔵穴

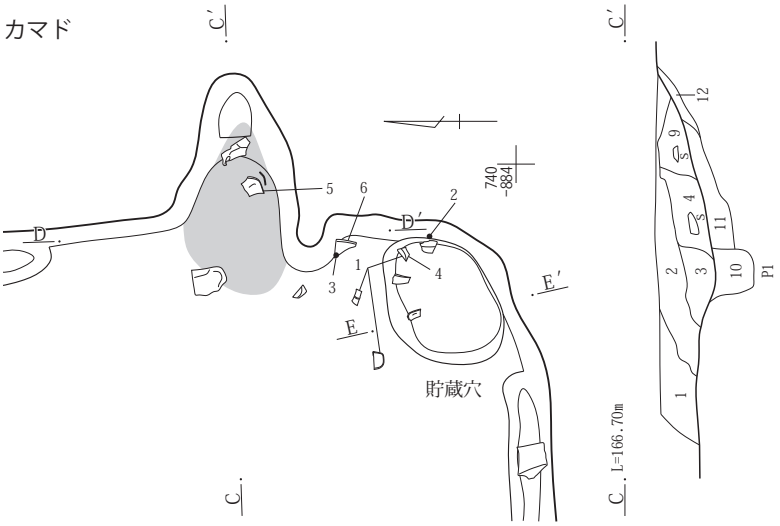


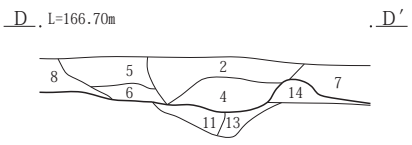
218号竪穴建物A-A′・B-B′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　にぶい黄橙色粒少量、ローム約３㎝塊を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量含む。しまり・粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約10㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。

貯蔵穴E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・粒多量、焼土粒少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒少量含む。しまり弱、粘性あり。

0　1：60　2m

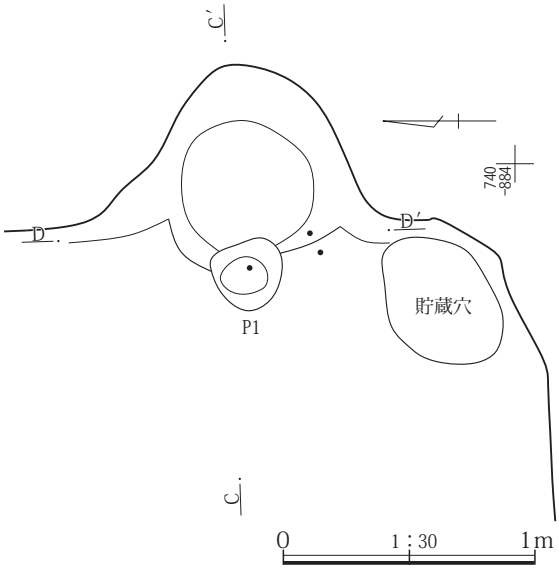
カマド





カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量含む。しまり強、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊多量、As-C少量含む。しまり・粘性あり。
3　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　焼土粒少量、小礫を含む。しまり弱、粘性あり。
4　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　明黄褐色ローム塊主体、カマド構築土の崩落、しまりやや弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/1)　As-C少量、褐色土小塊を含む。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
7　黒褐色土(10YR3/2)　２層に類似、ローム粒多量、礫を含む。しまり弱、粘性あり。
8　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色土を含む。しまり・粘性あり。
9　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　４層に類似、灰白色粒少量、明黄褐色ローム塊・礫を含む。しまり・粘性あり。
10　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土粒多量含む。しまり弱、粘性あり。Ｐ１埋没土。
11　明黄褐色土(10YR6/6)　ロームの焼土化、しまり強、粘性弱。
12　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒多量含む。しまり強、粘性あり。
13　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　焼土粒少量、ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
14　灰黄褐色土(10YR4/2)　明黄褐色土主体、焼土小塊を含む。しまり・粘性あり。

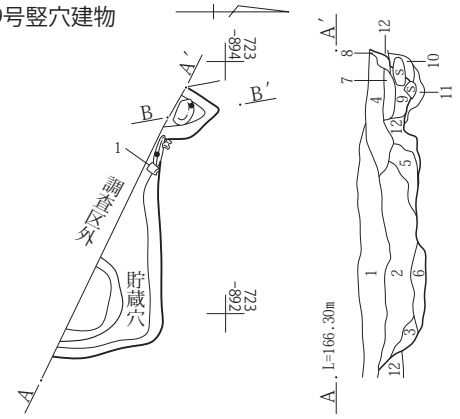
カマド掘り方



0　1：30　1m

第170図　３面　Ｇ２区218号竪穴建物

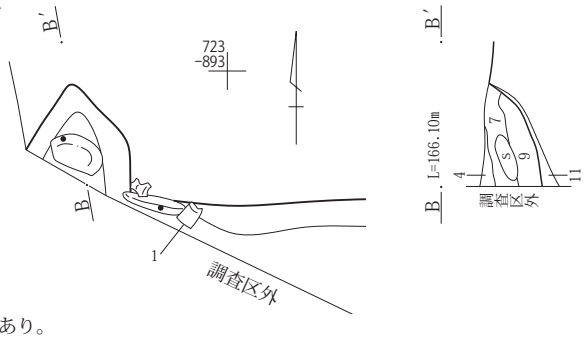
229号竪穴建物



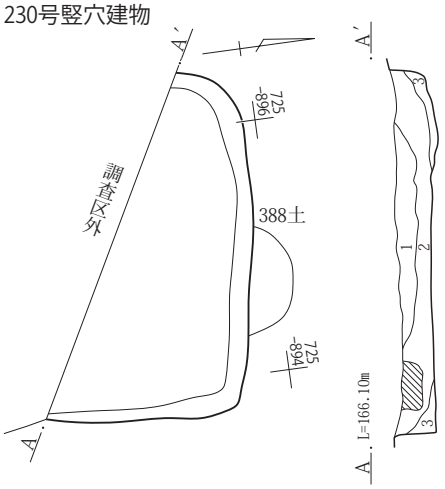
229号竪穴建物Ａ－Ａ′、カマドＢ－Ｂ′

1　黒褐色土(10YR2/2)　As－Ｃ多量、As－Ｂ・礫を含む。しまり・粘性弱。圃場整備造成土。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As－Ｃ多量、ローム約１㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒多量、As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　褐色土(10YR4/3)　焼土小塊・粒多量、炭化物を含む。しまり弱、粘性あり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　３層に類似､焼土粒微量､ローム約１㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。
6　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約３㎝塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約１㎝塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約５㎜塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
9　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム大塊主体、焼土粒少量、礫を含む。しまり弱、粘性あり。
10　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土小塊・粒少量、黒褐色土・小礫を含む。しまり・粘性あり。
11　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量、焼土粒を含む。しまり弱、粘性あり。
12　褐灰色土(7.5YR4/1)　焼土小塊・にぶい黄橙色粒多量、カマド構築材礫を含む。しまり・粘性あり。

カマド



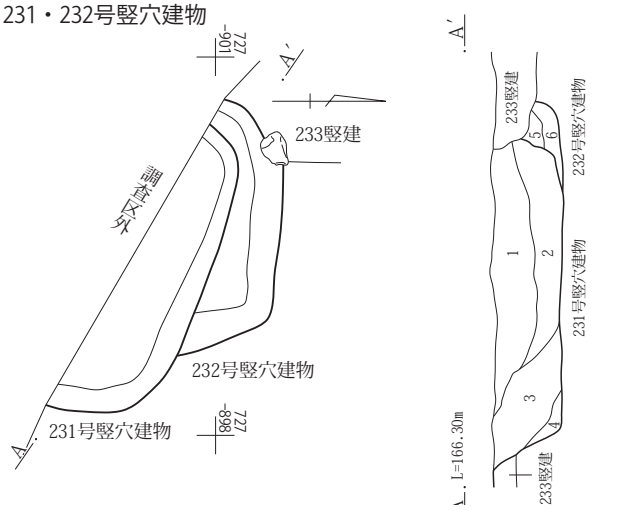
230号竪穴建物



230号竪穴建物A-A′

1　黒褐色土(10YR3/1)　As－Ｃ微量、ローム小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１㎝塊・灰白色粒少量含む。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム約５㎜塊・粒少量含む。しまり弱、粘性あり。

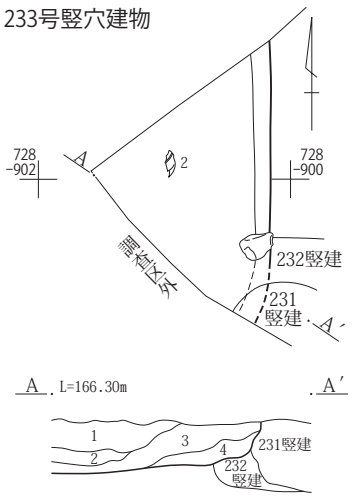
231・232号竪穴建物



231・232号竪穴建物A-A′

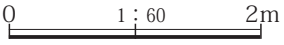
1　黒褐色土(10YR3/2)　As－Ｃ多量、ローム約１㎝塊・遺物・炭化物を含む。しまり強、粘性あり。１～４層は231号竪建埋没土。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１㎝塊少量含む。色味は暗い、しまり弱、粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１～３㎝塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
4　黒褐色土(10YR2/2)　暗褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土小塊多量、ローム小塊を含む。しまり弱、粘性あり。５・６層は232号竪建埋没土。
6　黒色土(7.5YR2/1)　焼土粒少量、ローム塊を含む。しまり・粘性あり。

233号竪穴建物



233号竪穴建物A-A′

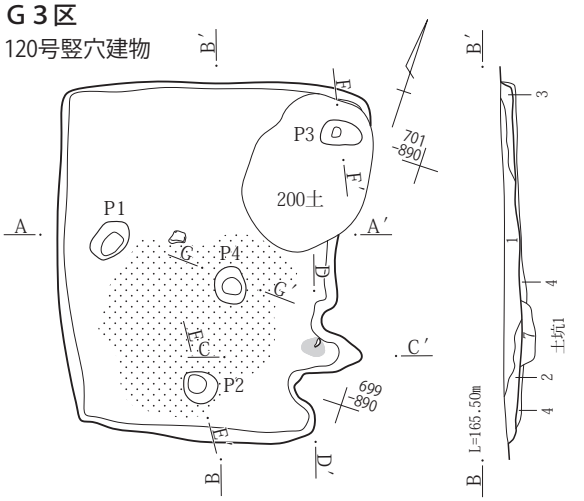
1　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約10㎝塊を含む。しまり強、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒少量、As－Ｃ微量含む。しまり・粘性あり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物微量、にぶい黄褐色土を含む。色味は暗い、しまり弱、粘性あり。

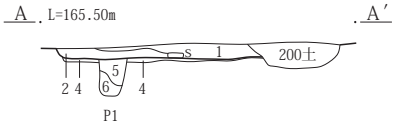


第171図　３面　Ｇ２区229～233号竪穴建物

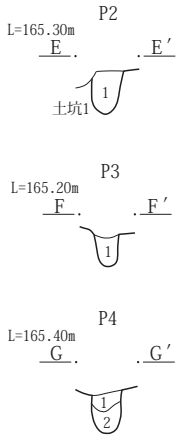
Ｇ３区

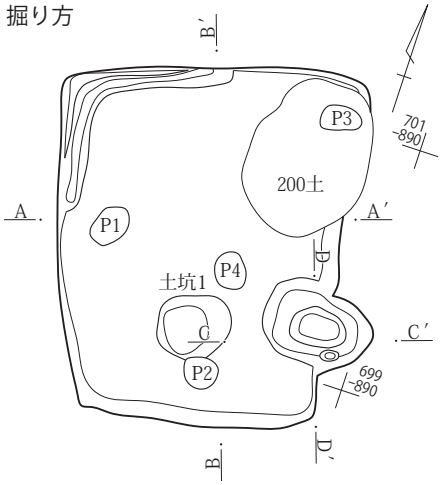
120号竪穴建物





120号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-Ｃ多量。褐色土小塊を含む。しまり･粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄褐色土・ローム小塊を含む。As-Ｃ少量含む。しまりややあり、粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ少量、褐色土を含む。しまりやや弱、粘性あり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊･粒多量、灰白色粒少量含む。しまり･粘性あり。





5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約１㎝塊を含む。しまり･粘性あり。５･６層はＰ１埋没土。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量含む。しまり・粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム大塊を含む。しまり・粘性あり。土坑１埋没土。

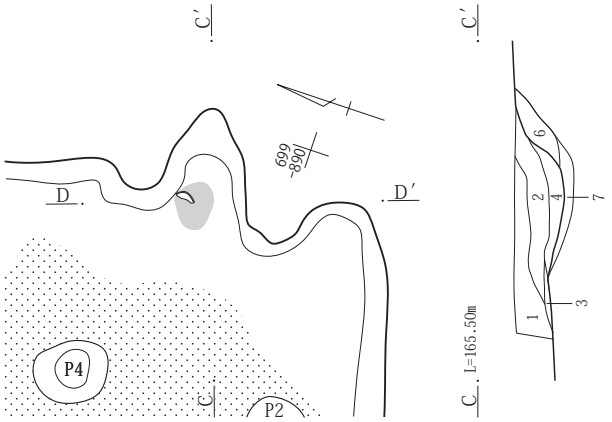
Ｐ２E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒上層に含む。灰白色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。

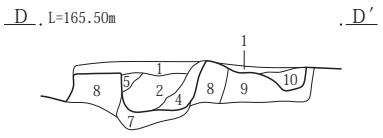
Ｐ３F-F′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。

Ｐ４G-G′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒少量含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量、As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。

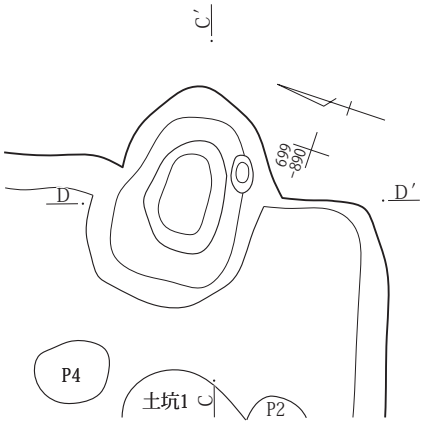
0　1：60　2m

カマド





カマド掘り方

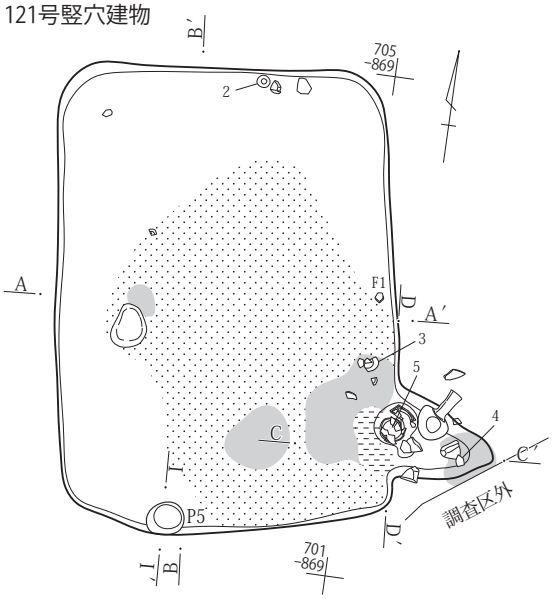


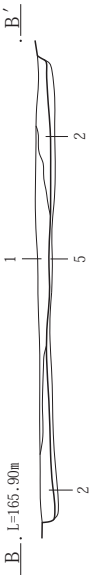
カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-Ｃ少量、褐色土小塊を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土粒少量、灰白色軽石約５㎜を含む。しまりややあり、粘性あり。
3　暗灰色土(N3/)　灰主体、黒褐色土少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(7.5YR5/3)　焼土小塊・焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(7.5YR5/3)　４層に類似、焼土粒多量、黒褐色土を含む。しまりあり、粘性弱。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土粒・にぶい黄橙色粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。
7　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊・粒多量、焼土小塊少量含む。しまり・粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム塊主体、カマド袖状残存部か、しまりあり、粘性弱。
9　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量、灰白色粒少量含む。しまり・粘性あり。
10　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　褐色土を含む。灰白色粒・ローム粒少量含む。しまり・粘性あり。

0　1：30　1m

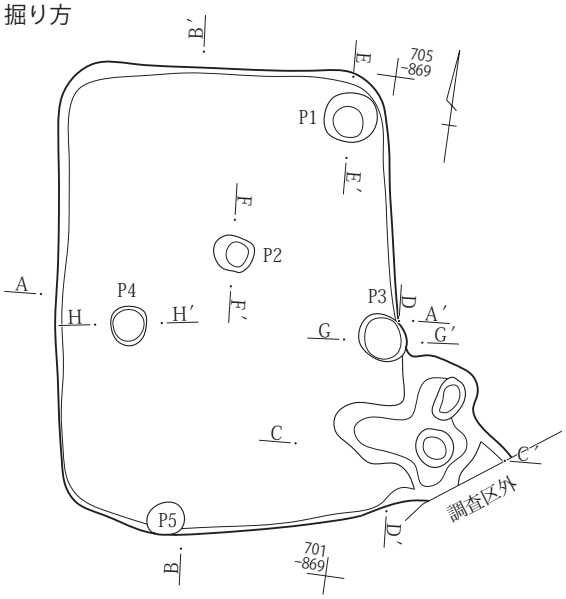
第172図　３面　Ｇ３区120号竪穴建物

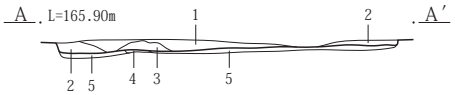
121号竪穴建物

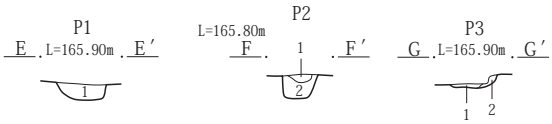


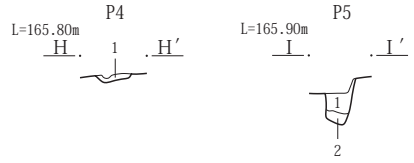


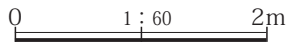
掘り方





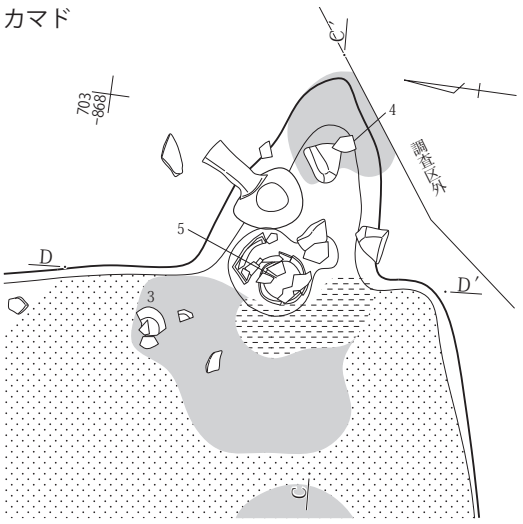


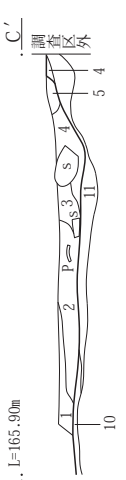


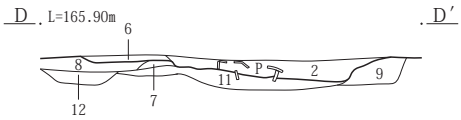


121号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C・褐色土小塊を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄褐色土を含む。As-C・焼土粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C・ローム小～大塊を含む。しまり・粘性あり。
4　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊、しまり・粘性あり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　黒褐色土を含む。ローム小塊・粒を含む。しまり・粘性あり。
P１E-E′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-YPを含む。焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
P２F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊約１㎝少量含む。しまり・粘性あり。
P３G-G′
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土小塊・粒・As-C少量含む。しまり・粘性あり。
2　褐色土(7.5YR4/3)　焼土小塊・粒を含む。しまり・粘性あり。
P４H-H′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-YPを含む。焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
P５I-I′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊約１㎝少量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/2)　しまり弱、粘性あり。

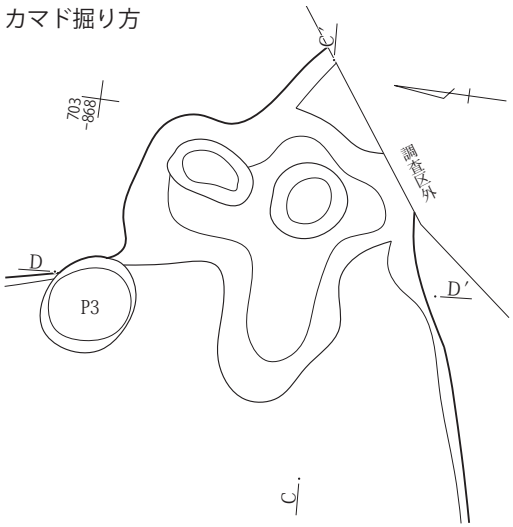
カマド

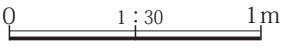






カマド掘り方

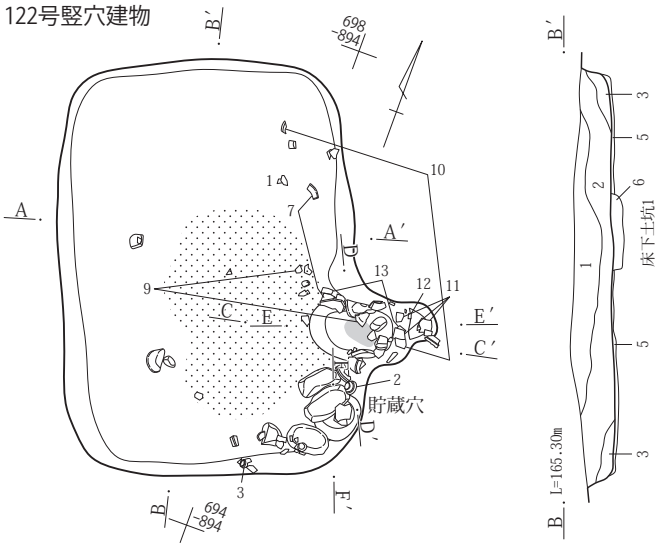




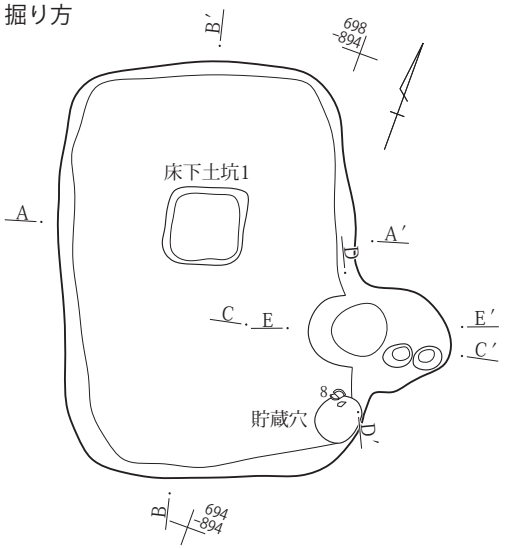
第173図　３面　Ｇ３区121号竪穴建物

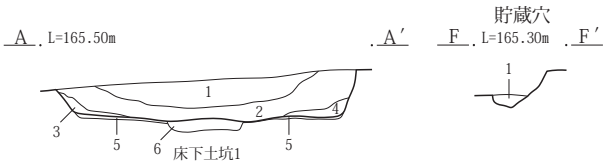
カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C・褐色土小塊を含む。しまりあり、粘性強。
2　黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土小塊・粒・灰白色粒少量含む。しまり強、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・粒多量、焼土小塊・粒少量含む。しまり・粘性あり。
4　褐色土(7.5YR4/3)　焼土小塊約５㎜多量、灰を含む。しまりややあり、粘性あり。
5　褐色土(7.5YR4/3)　焼土大塊主体、しまりあり、粘性ややあり。
6　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　焼土粒・灰白色粒少量含む。しまり強、粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　６層に類似、炭化物小片を含む。焼土粒微量含む。しまり強、粘性あり。
8　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄褐色土を含む。焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
9　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　黒褐色土少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
10　黒褐色土(10YR3/1)　As-C少量含む。硬化、粘性弱。
11　褐灰色土(5YR4/1)　焼土小塊・粒少量、ローム粒を含む。しまりややあり、粘性あり。
12　褐色土(10YR4/4)　焼土粒多量含む。しまり・粘性あり。

122号竪穴建物



掘り方

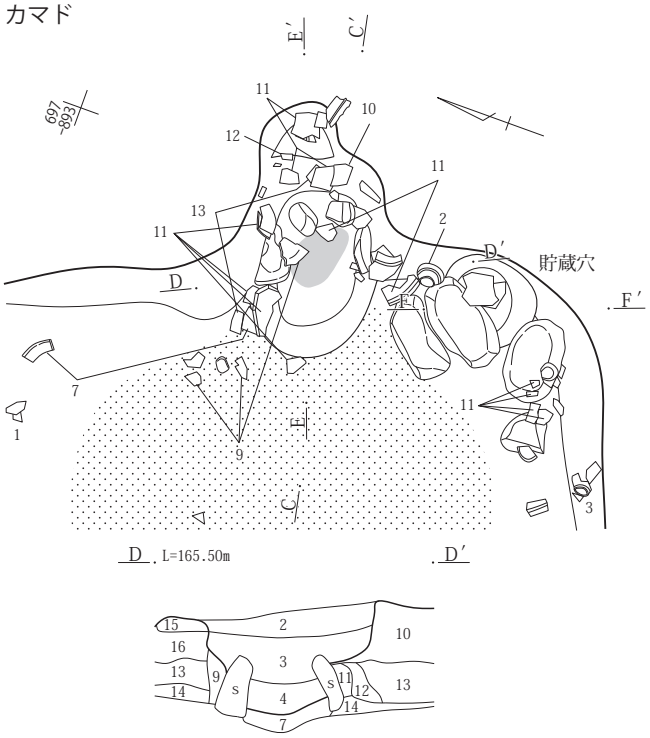


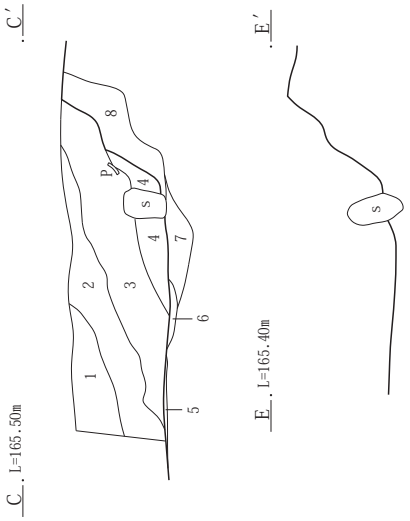


0　1：60　2m

122号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C、褐色土小塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小～大塊・炭化物小片を含む。しまり弱、粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小・粒を含む。しまり弱、粘性あり。
4　暗褐色土(10YR3/4)　焼土粒多量、炭化物小片を含む。しまり弱、粘性強。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小～大塊を含む。硬化、粘性ややあり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム大塊多量、にぶい黄橙色粒少量含む。しまり・粘性あり。
貯蔵穴F-F′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒を含む。黄褐色土粒を含む。しまり弱、粘性あり。

カマド

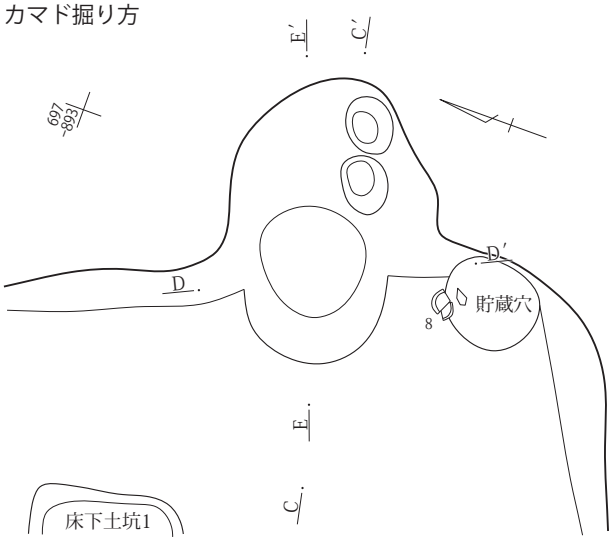




0　1：30　1m

第174図　３面　Ｇ３区122号竪穴建物

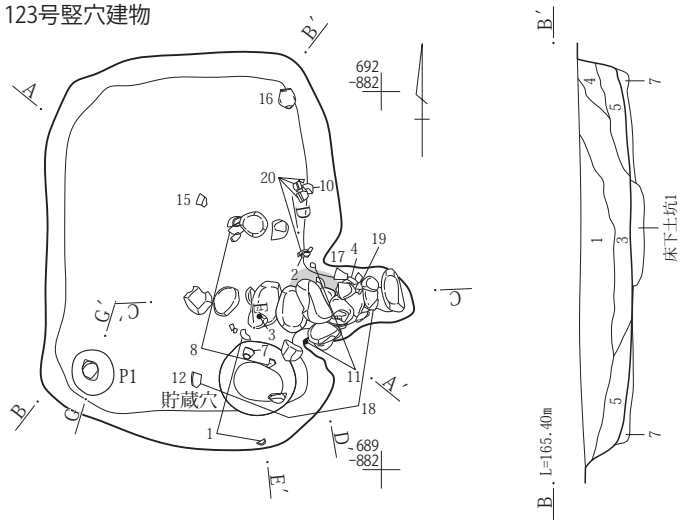
カマド掘り方



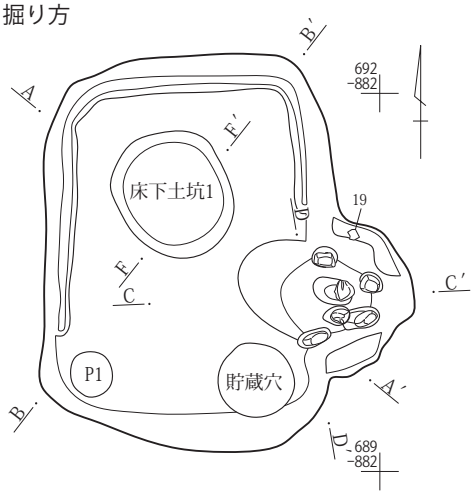
カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C・褐色土小塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小～大塊・炭化物小片・焼土粒を含む。しまり弱、粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム大塊を含む。焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　暗赤褐色土(5YR3/2)　焼土粒多量含む。しまり・粘性弱。
5　黒褐色土(10YR2/2)　灰白色粒少量含む。硬化、粘性弱。
6　黒褐色土(10YR2/2)　炭化物・焼土粒を含む。しまりやや弱、粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(7.5YR5/3)　砂質土、焼土粒少量含む。しまり・粘性弱。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　しまり・粘性あり。
9　黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土粒多量、焼土小塊を含む。礫埋土、しまり・粘性弱。
10　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、ローム小塊・粒を含む。しまり・粘性あり。
11　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム大塊主体、しまり弱、粘性あり。
12　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量、炭化物を含む。しまり・粘性あり。
13　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
14　黄褐色土(10YR5/6)　にぶい黄褐色土を含む。しまり・粘性あり。
15　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム小～大塊多量含む。カマド構築材、しまり弱、粘性あり。
16　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒を含む。ローム粒少量含む。しまり・粘性あり。

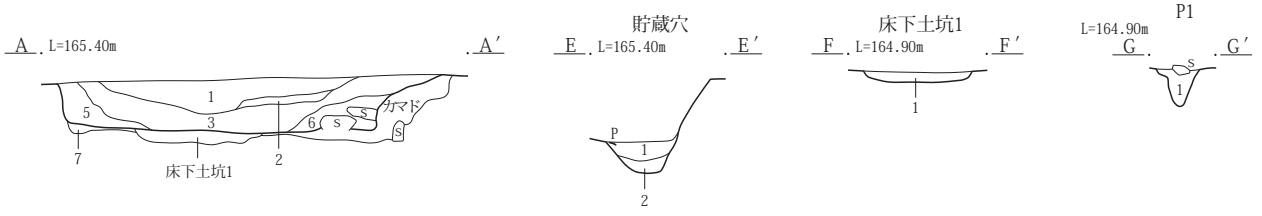
0　1：30　1m

123号竪穴建物



掘り方





123号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C・褐色土小塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊・粒を含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色土小～大塊・As-Cを含む。しまり弱、粘性あり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　褐色土大塊を含む。As-C少量含む。しまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR2/2)　炭化物小片少量、小礫約１㎝を含む。しまりやや弱、粘性強。
6　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム小塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。カマド構築材崩落土。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土塊を含む。しまり強、粘性あり。掘り方埋土。

貯蔵穴E-E′
1　黒褐色土(7.5YR3/2)　ローム小塊・焼土粒少量、炭化物微量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　ローム粒少量含む。しまり弱、粘性あり。

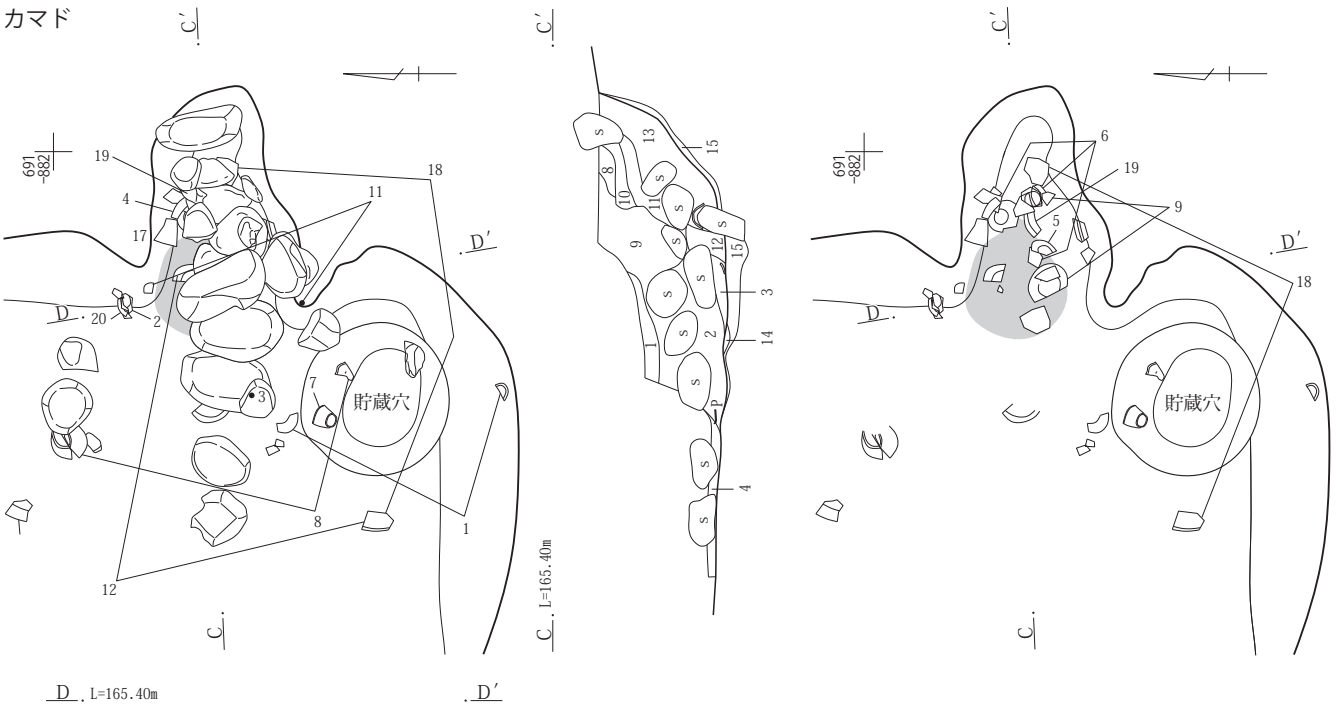
床下土坑１F-F′
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム大塊多量含む。しまり・粘性あり。

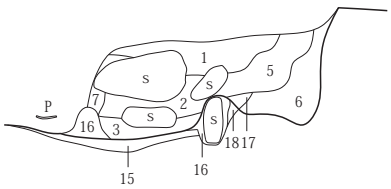
Ｐ１G-G′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒多量、ローム約３㎝塊・礫を含む。しまり弱、粘性あり。

0　1：60　2m

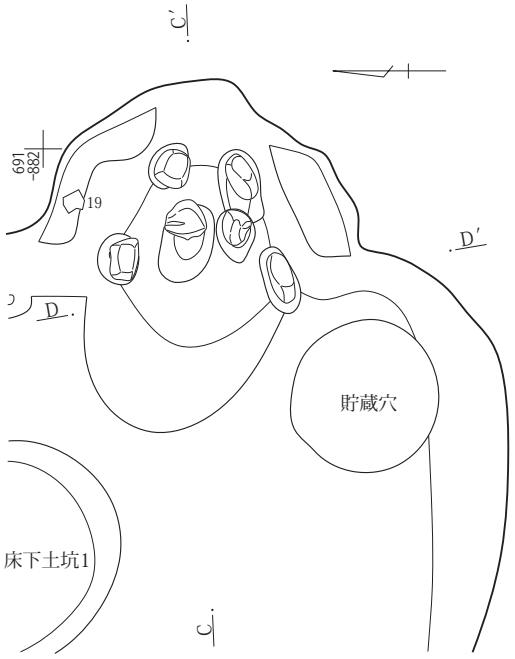
第175図　３面　Ｇ３区122・123号竪穴建物

カマド





カマド掘り方

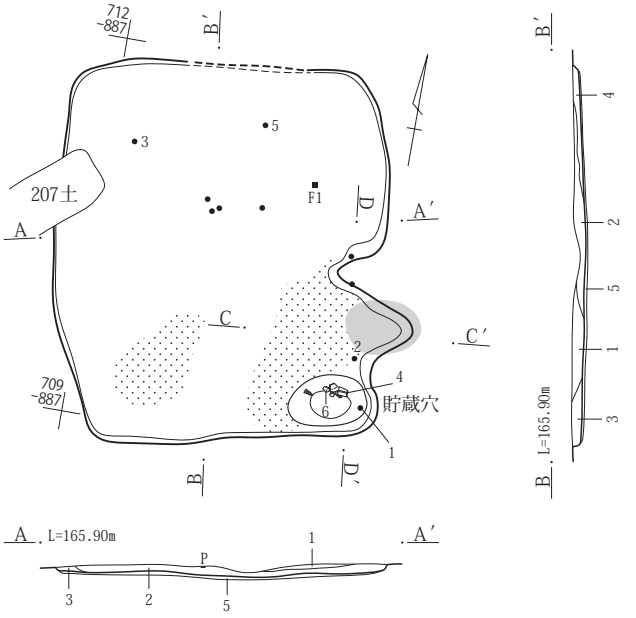


カマドC－C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As－C少量、ローム粒を含む。しまりややあり、粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊･粒多量､円礫を含む。しまりやや弱､粘性あり。
3　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土小塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム小塊･焼土粒少量、炭化物微量含む。しまり弱、粘性あり。
6　褐色土(10YR4/4)　しまり・粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒多量含む。しまり弱、粘性ややあり。
8　灰黄褐色土(10YR5/2)　ローム小塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
9　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小～大塊多量含む。しまり・粘性あり。
10　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量、焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
11　明黄褐色土(10YR7/6)　ローム塊主体、しまりあり、粘性強。
12　明黄褐色土(10YR7/6)　ローム塊、焼土塊、しまり弱、粘性あり。
13　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土粒・灰多量、遺物を含む。しまり弱、粘性ややあり。
14　黒褐色土(10YR2/2)　ローム小塊・ローム粒多量、灰を含む。しまり・粘性あり。
15　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土粒多量、焼土小塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
16　明黄褐色土(10YR6/6)　粘質土、ローム塊、しまり・粘性あり。
17　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム大塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
18　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　灰白色粒少量含む。しまり・粘性あり。

0　1：30　1m

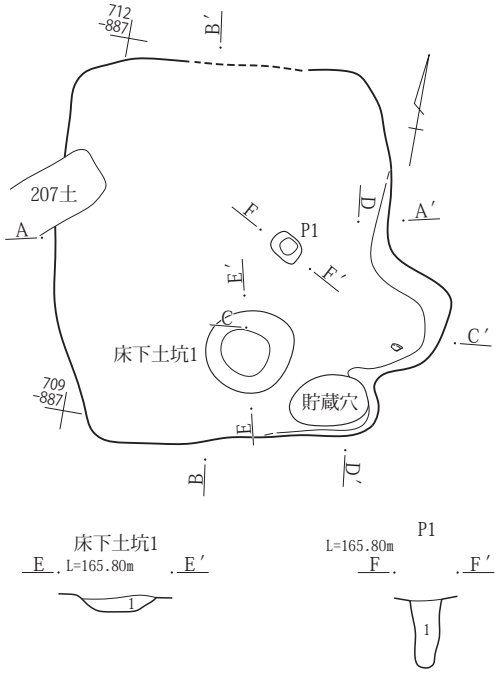
第176図　３面　Ｇ３区123号竪穴建物

124号竪穴建物



124号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ少量、暗褐色土を含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・粒多量含む。しまり強、粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　黒褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　２層に類似、ローム大塊・粒を含む。As-Ｃ少量、しまり強、粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　灰黄褐色土・ローム小～大塊を含む。しまり・粘性あり。

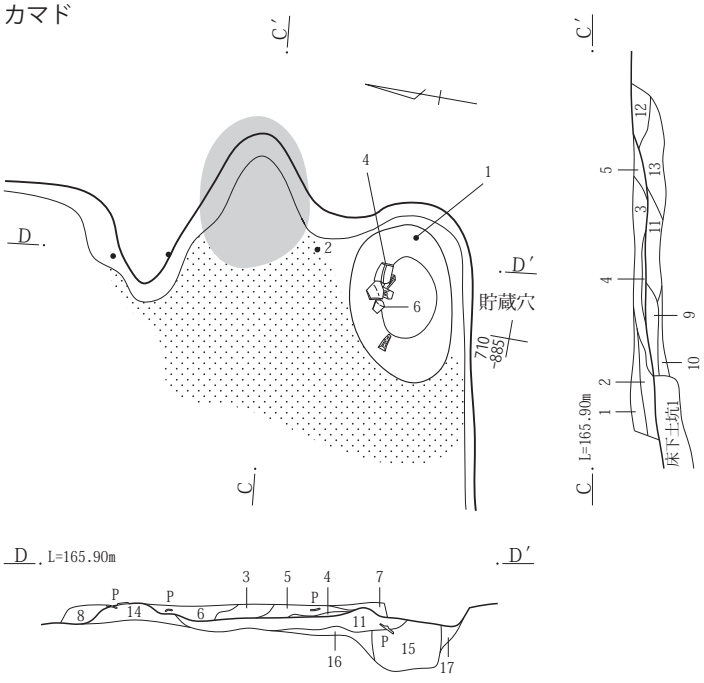
掘り方



床下土坑１E-E′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小～大塊･粒を含む。しまり･粘性あり。
Ｐ１F-F′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒多量、ローム小塊少量含む。しまり・粘性あり。

0　1：60　2m

カマド

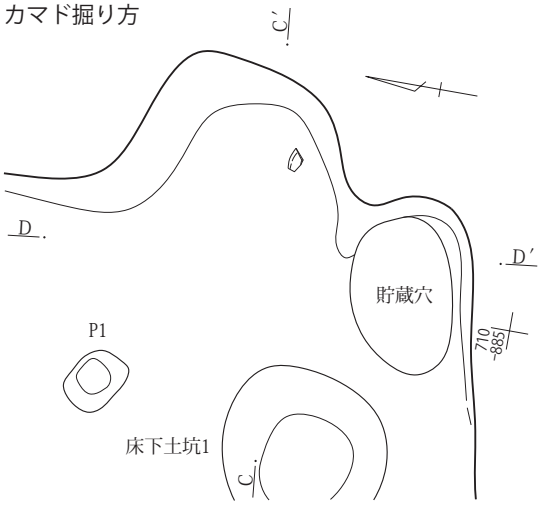


カマドＣ-Ｃ′・D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・ローム小塊・粒少量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土小塊を含む。炭化物・As-Ｃ少量含む。しまり・粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊・焼土小塊多量含む。しまりあり、粘性強。
4　黒褐色土(10YR3/2)　焼土小塊少量、灰を含む。しまりやや弱、粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　焼土粒多量、焼土小塊約５㎜少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
6　黒褐色土(10YR3/1)　灰白色粒少量、遺物を含む。しまり・粘性あり。
7　灰褐色土(5YR4/2)　焼土小塊・粒多量含む。しまり・粘性あり。
8　灰黄褐色土(10YR4/2)　黒褐色土・ローム小塊を含む。焼土粒少量含む。しまり弱、粘性なし。
9　黒褐色土(10YR3/2)　貼床、明黄褐色土を含む。硬化、粘性あり。
10　黒褐色土(10YR3/1)　暗褐色土・ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
11　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒を含む。しまりやや弱、粘性弱。
12　褐色土(7.5YR4/3)　明赤褐色焼土塊を含む。しまり・粘性あり。
13　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　３層に類似、明赤褐色焼土小塊・粒多量含む。しまり・粘性あり。
14　黒褐色土(10YR3/1)　ローム多量、黒色土を含む。焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
15　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒と炭多量、ローム大塊・遺物を含む。しまり弱、粘性あり。
16　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
17　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。

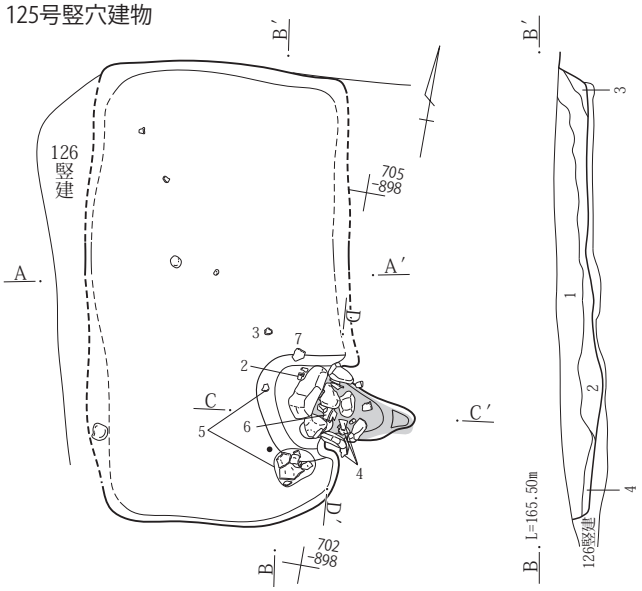
0　1：30　1m

第177図　３面　Ｇ３区124号竪穴建物

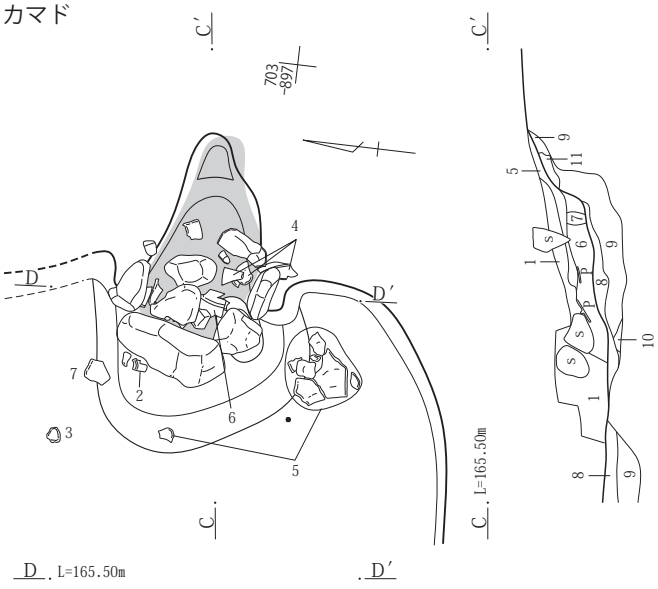
カマド掘り方

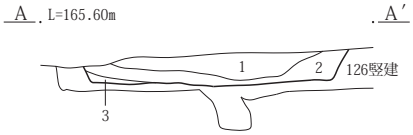


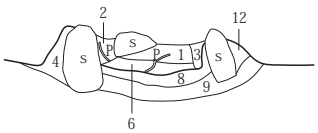
125号竪穴建物



カマド

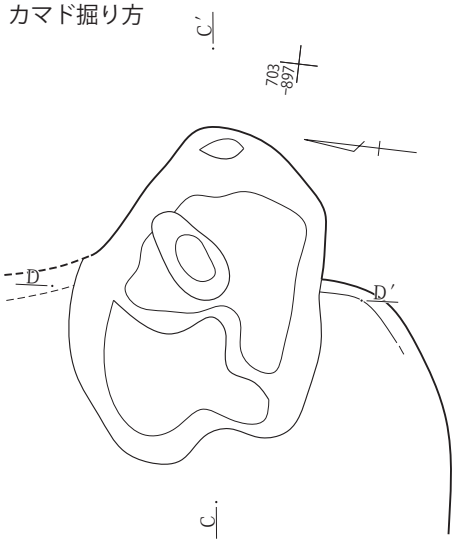






125号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C少量、ローム約10㎝塊を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊多量、炭化物・As-C微量を含む。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　As-C・小礫少量、褐色土を含む。しまりやや弱、粘性あり。
4　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒多量で均質、しまりややあり、粘性あり。
カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量､焼土粒･黄橙色粒少量､炭化物粒若干含む｡しまりややあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　焼土粒若干含む。(カマド天井部崩落土か)
3　暗褐色土(10YR3/4)　しまりあまりなし。
4　暗褐色土(10YR3/3)　As-C多量、焼土粒少量含む。
5　黒褐色土(10YR3/2)　焼土塊・焼土粒・As-C少量含む。
6　暗褐色土(10YR3/3)　As-C多量、焼土粒少量含む。
7　明褐色土(7.5YR5/6)　暗褐色土(10YR3/3)。焼土塊・焼土粒多量含む。
8　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・焼土塊多量、As-C・炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。
9　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・As-C・黄橙色粒若干含む。しまりあまりなし。
10　黄褐色土(10YR5/6)　As-C若干含む。しまりあり。(126号竪建貼床か)
11　橙色土(5YR6/8)　焼土。
12　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色塊土・As-C多量、焼土粒・炭化物粒若干含む。しまりあり。

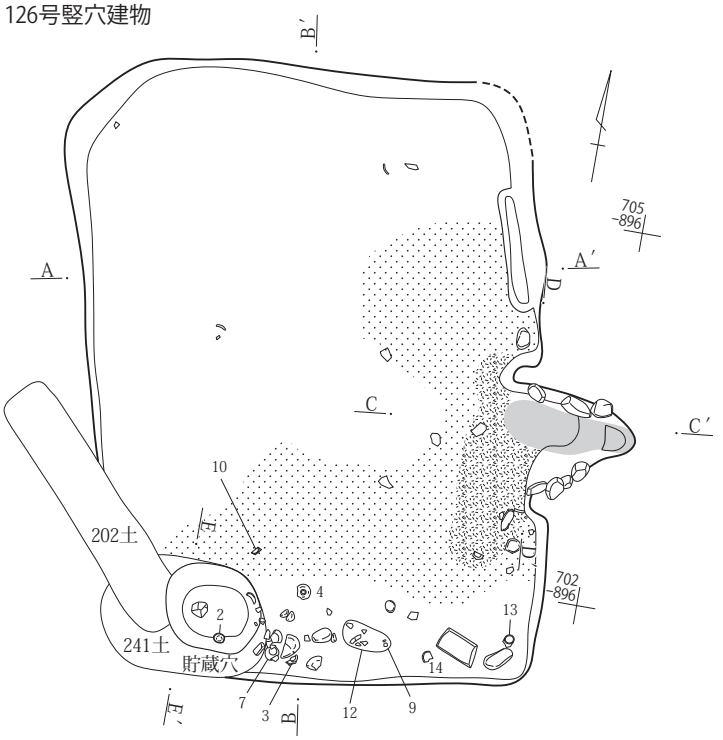
カマド掘り方

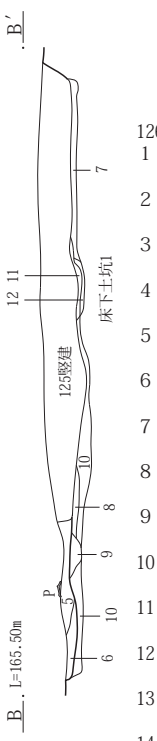


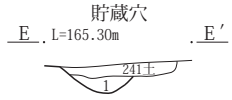
0　1:30　1m
0　1:60　2m

第178図　３面　Ｇ３区124・125号竪穴建物

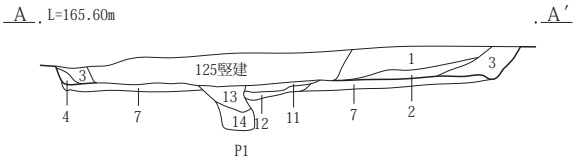
126号竪穴建物





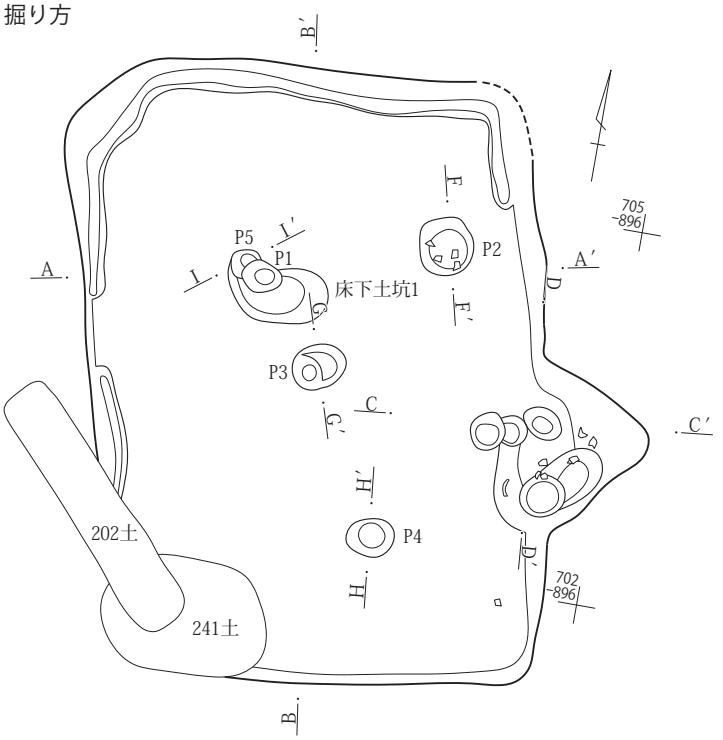


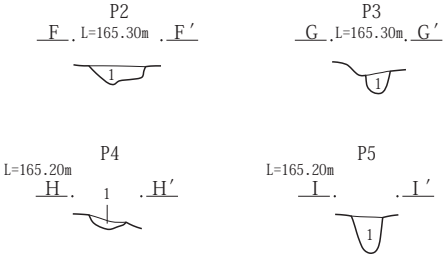
126号竪穴建物A－A′・B－B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As－C多量で均質、小礫を含む。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・As－C少量含む。遺物を含む。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　褐色土を含む。しまりやや弱、粘性あり。
4　暗褐色土(7.5YR3/3)　小礫・ローム粒を含む。しまりややあり、粘性あり。
5　黒褐色土(7.5YR3/2)　ローム小塊・粒下層に含む。焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　遺物を含む。しまり・粘性弱。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土を含む。しまり・粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒多量、ローム小塊・粒少量含む。しまり強、粘性あり。
9　暗褐色土(10YR3/3)　明黄褐色ローム塊帯状に含む。焼土粒多量含む。しまり・粘性あり。
10　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・粒を含む。しまり弱、粘性あり。
11　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を含む。しまり・粘性あり。
12　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム塊主体、しまり強、粘性あり。
13　黒褐色土(10YR2/2)　にぶい黄橙色粒少量、As-YP微量含む。しまり・粘性あり。
14　黒褐色土(10YR3/2)　灰・暗褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。



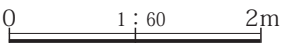
126号竪穴建物貯蔵穴E-E′
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒多量、にぶい黄橙色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。

掘り方



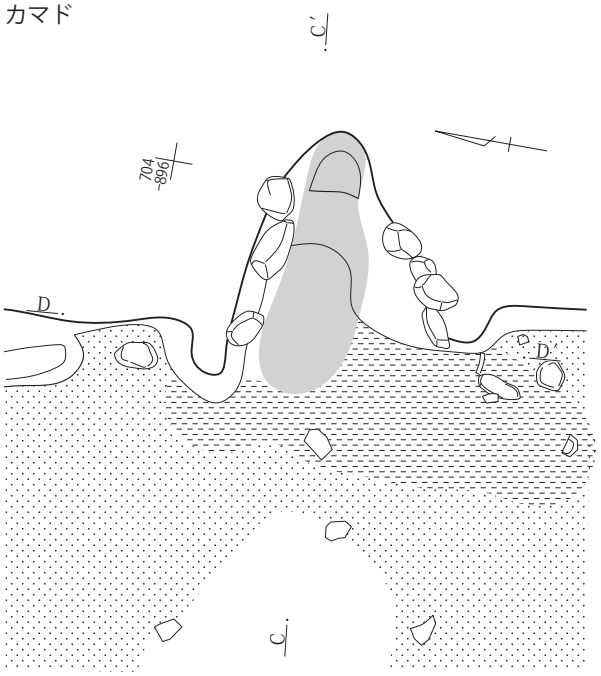


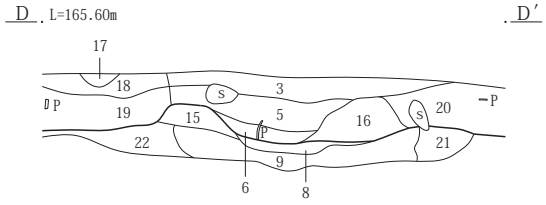
P２F-F′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量、As-YP少量含む。しまり強、粘性あり。
P３G-G′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量、As-YP少量、焼土粒と炭化物を含む。しまり強、粘性あり。
P４H-H′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・粒少量含む。しまり・粘性あり。
P５I-I′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム・As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。



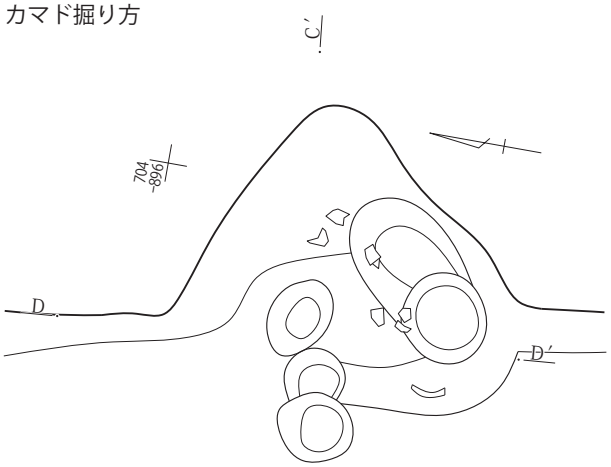
第179図　３面　Ｇ３区126号竪穴建物

カマド





カマド掘り方



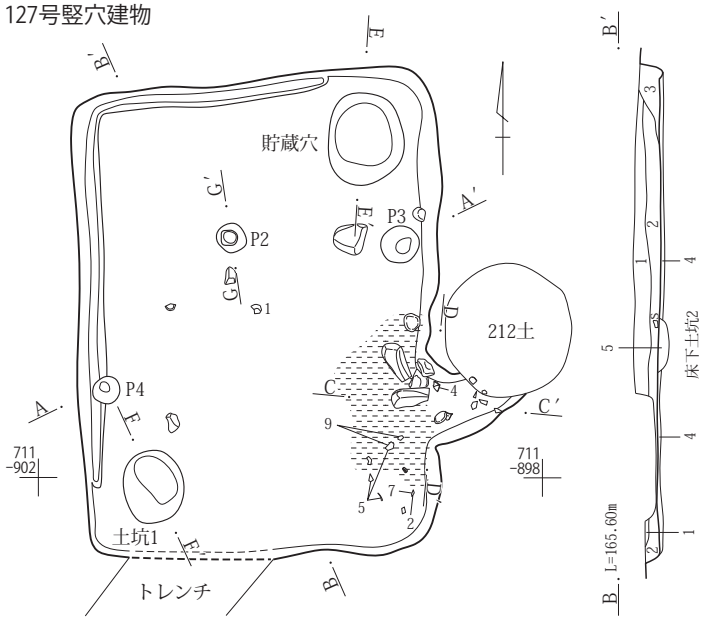
カマドC－C′・D-D′

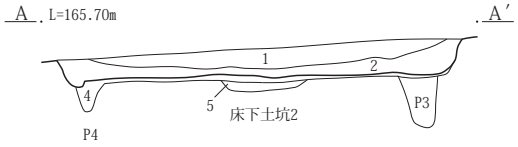
1　灰黄褐色土(10YR4/3)　明赤褐色焼土塊主体、しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・ローム粒を含む。にぶい黄橙色粒少量含む。しまり・粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C・ローム約１㎝塊・焼土粒・炭化物少量含む。しまり・粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　３層に類似、ローム小塊少量含む。しまり・粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C・灰白色粒・焼土小塊少量含む。ローム大塊を含む。しまり・粘性あり。
6　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　焼土粒多量含む。しまり・粘性あり。
7　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒多量含む。しまり・粘性あり。
8　灰褐色土(5YR4/2)　焼土小塊粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
9　褐灰色土(5YR4/1)　砂質土、焼土粒少量含む。しまり強、粘性なし。
10　黒褐色土(5YR3/1)　焼土粒少量含む。しまり強、粘性弱。
11　褐灰色土(7.5YR4/1)　ローム小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
12　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
13　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒を含む。しまり弱、粘性あり。
14　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄橙色粒少量含む。しまり強、粘性あり。
15　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・礫を含む。しまり強、粘性あり。
16　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　焼土小塊下層に多量、As-C少量含む。しまり・粘性あり。
17　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム塊主体、しまり・粘性あり。
18　黒褐色土(10YR3/1)　As-C少量、ローム粒を含む。しまり・粘性あり。
19　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム小～大塊・粒多量含む。しまりやや弱、粘性あり。
20　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・炭化物少量、礫を含む。しまりやや弱、粘性あり。
21　暗褐色土(10YR3/3)　焼土小塊を含む。炭化物を含む。しまり・粘性あり。
22　褐色土(10YR4/4)　しまり・粘性あり。

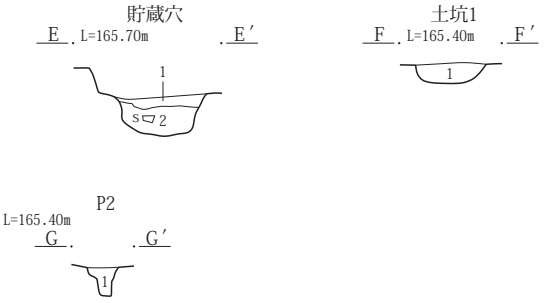
0　1：30　1m

第180図　３面　Ｇ３区126号竪穴建物

127号竪穴建物







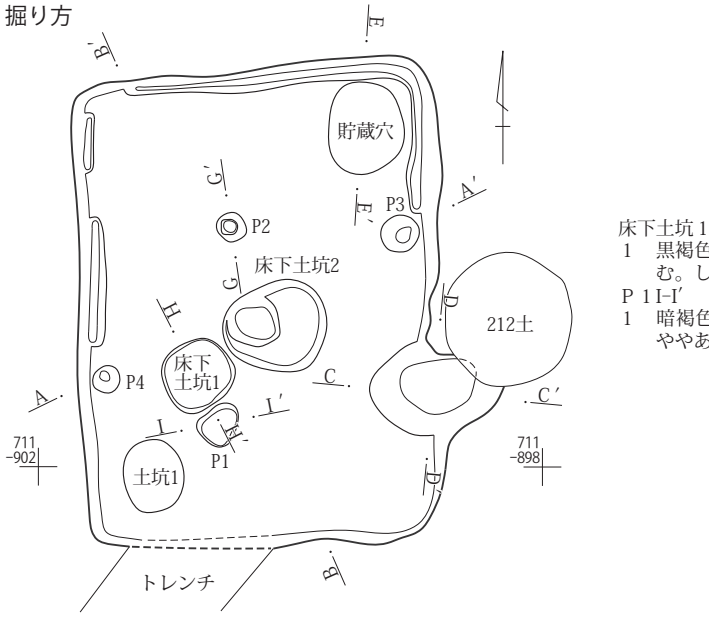
貯蔵穴 E-E′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C 少量、ローム塊土若干含む。しまりあまりなし。
2　黒褐色土(10YR3/2)　暗褐色土10％程・φ10cm程の礫含む。ローム粒・As-C 若干含む。しまりややあり。

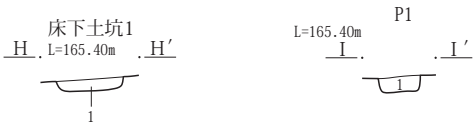
土坑１F-F′
1　黒褐色土(10YR2/3)　にぶい黄褐色塊土多量、炭化物粒少量、黄褐色粒若干含む。しまりややあり。

Ｐ２G-G′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C・黄褐色粒少量含む。しまりあまりなし。

127号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　褐色土小塊を含む。As-C 少量含む。しまりやや弱､粘性あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊約１～３㎝多量、小礫を含む。しまりややあり、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊約３～５㎝を含む。As-C 少量含む。しまり・粘性あり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土少量、炭化物粒・As-C 若干含む。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色塊土少量、炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。(床下土坑２)

掘り方





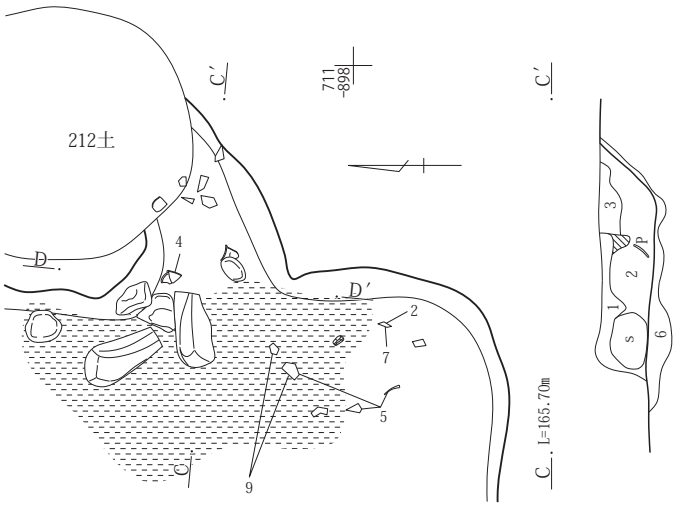
床下土坑１H-H′
1　黒褐色土(10YR2/3)　にぶい黄褐色塊土多量、炭化物粒少量、黄褐色粒若干含む。しまりややあり。

Ｐ１I-I′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C・黄褐色塊土若干、黒褐色土20％程含む。しまりややあり。

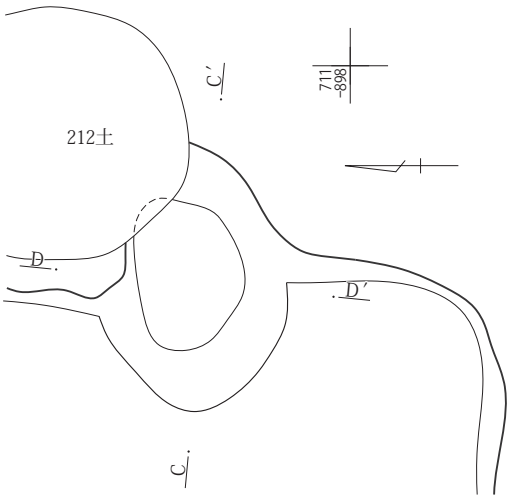
0　1：60　2m

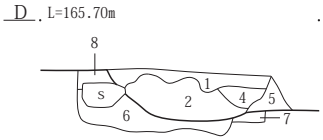
第181図　３面　Ｇ３区127号竪穴建物

カマド



カマド掘り方

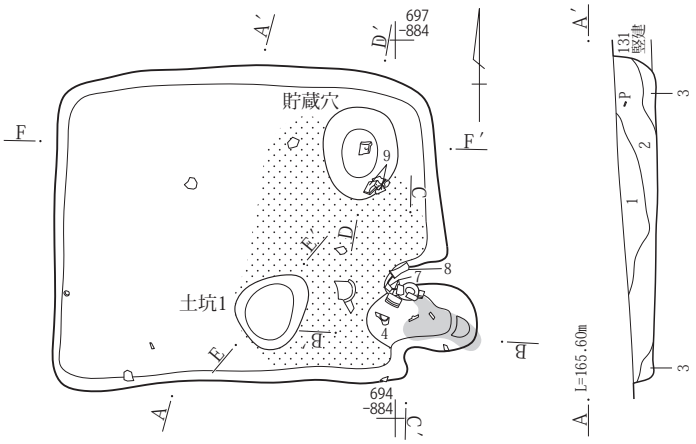




カマドC－C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、黄橙色粒若干含む。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　As-C・黄橙色粒少量、φ１～３㎝のローム塊土・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム塊土・As-C・黄橙色粒少量、焼土粒若干含む。しまりややあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　As-C・ローム粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
5　黒褐色土(10YR2/3)　やや砂質、炭化物粒・ローム粒若干含む。しまりあまりなし。
6　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物粒多量、焼土粒・As-C少量、暗褐色土10％程含む。しまりややあり。
7　黒褐色土(10YR2/3)　やや砂質、炭化物粒・ローム粒若干含む。しまりあまりなし。
8　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・As-C多量、炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。

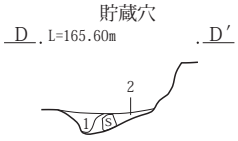
0　1：30　1m

128号竪穴建物

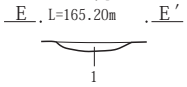


128竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小～大塊・粒を含む。As-C少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小～大塊・As-C・焼土小塊・炭化物少量、褐色土を含む。しまりやや弱、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊約１～３㎝を含む。As-C少量含む。しまりやや弱、粘性あり。

貯蔵穴



土坑1



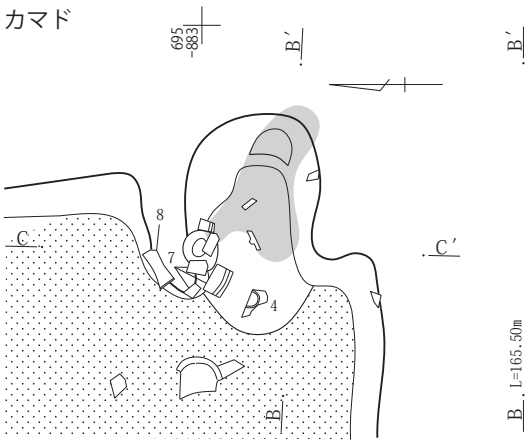
貯蔵穴D-D′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小～大塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。

土坑１E-E′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土含む。灰白色粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。

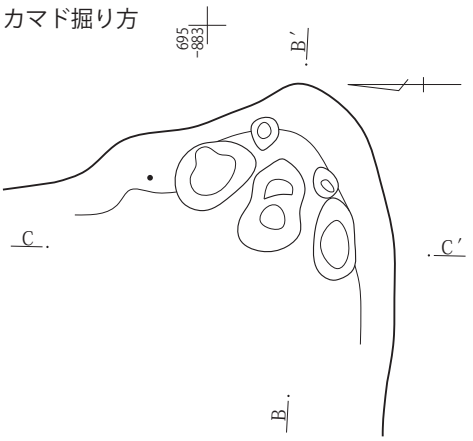
0　1：60　2m

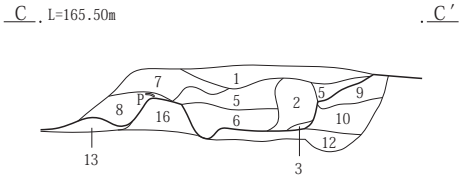
第182図　３面　Ｇ３区127・128号竪穴建物

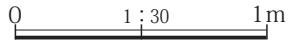
カマド



カマド掘り方

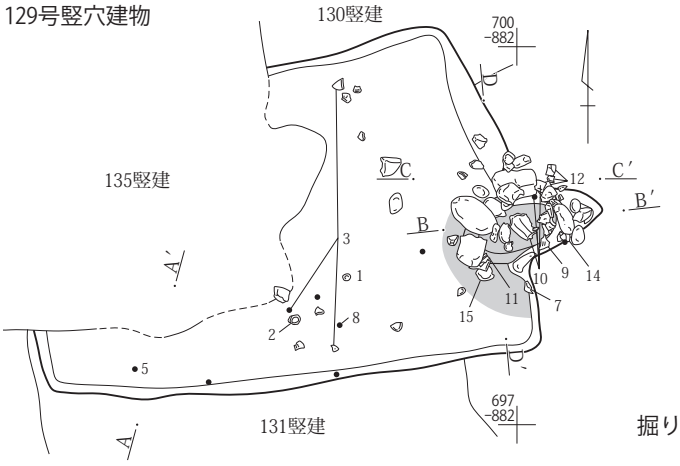




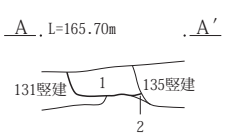


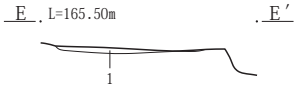
カマドB-B′・C-C′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、炭化物微量含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム大塊を含む。しまりややあり、粘性あり。カマド構築材か。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊・粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土粒少量、黒褐色土を含む。しまりやや弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小～大塊多量、炭化物小片を含む。しまりやや弱、粘性あり。
6　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊・粒・焼土粒少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
7　黒褐色土(2.5Y3/2)　にぶい黄褐色土小塊・炭化物を含む。色味は明るい、しまり強、粘性あり。
8　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、遺物を含む。しまり弱、粘性あり。
9　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量含む。しまりやや弱、粘性あり。
10　黒褐色土(10YR3/1)　小礫・にぶい黄褐色土を含む。しまり・粘性あり。
11　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土小塊・ローム粒多量含む。しまり・粘性あり。
12　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土粒少量、黒褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。
13　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊を含む。にぶい黄橙色粒少量含む。硬化、粘性弱。
14　褐色土(10YR4/4)　焼土粒少量、灰白色粒微量含む。しまり・粘性あり。
15　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム小塊多量含む。しまりやや弱、粘性あり。
16　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム小～大塊多量、As-C少量含む。しまり弱、粘性あり。

129号竪穴建物



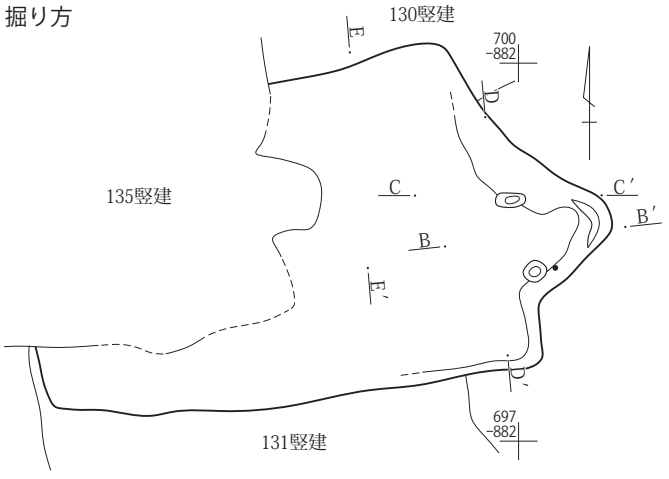
129号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C微量含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　色味は明るい、しまり強、粘性あり。

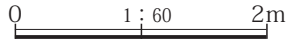




129号竪穴建物E-E′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土少量含む。しまり弱、粘性あり。掘り方。

掘り方

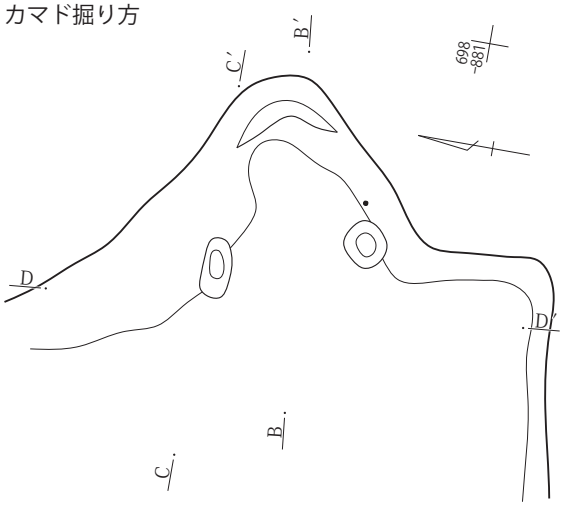




第183図　３面　Ｇ３区128・129号竪穴建物

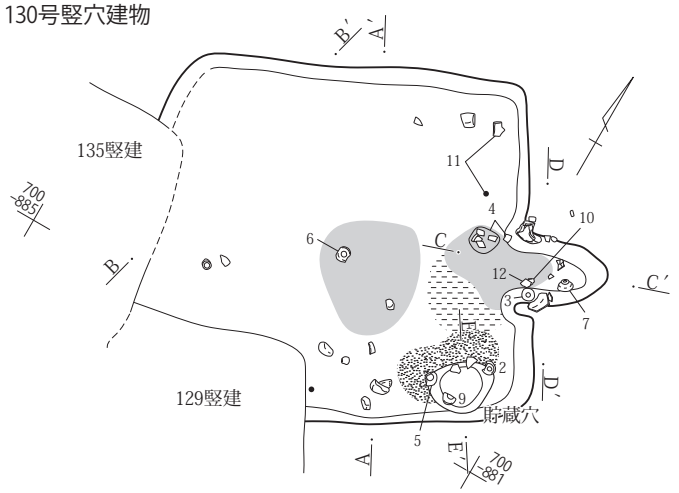
カマド

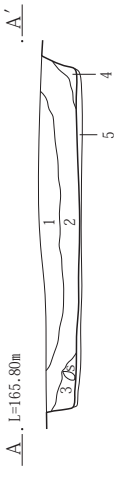
カマド掘り方



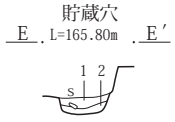
カマドB-B′・C-C′・D-D′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C少量、ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒少量、炭化物微量含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　カマド構築材礫多量、As-C・焼土小塊少量含む。しまり・粘性あり。
4　褐色土(7.5YR4/3)　焼土粒を含む。しまりやや弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・粒・焼土粒少量、礫を含む。しまり弱、粘性あり。
6　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・ローム粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
7　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄褐色土を含む。しまり・粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
9　黄褐色土(10YR5/6)　ローム大塊主体、しまり弱、粘性あり。
10　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒を含む。しまり・粘性あり。
11　黒黄褐色土(10YR3/1)　にぶい黄橙色粒多量、As-Cを含む。しまり・粘性あり。
12　暗褐色土(10YR3/3)　にぶい黄橙色粒多量含む。しまり・粘性あり。
13　褐色土(10YR4/4)　しまり・粘性あり。

130号竪穴建物

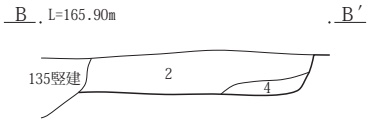




貯蔵穴



貯蔵穴E-E′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・粒多量、炭化物・小礫を含む。しまり弱、粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。

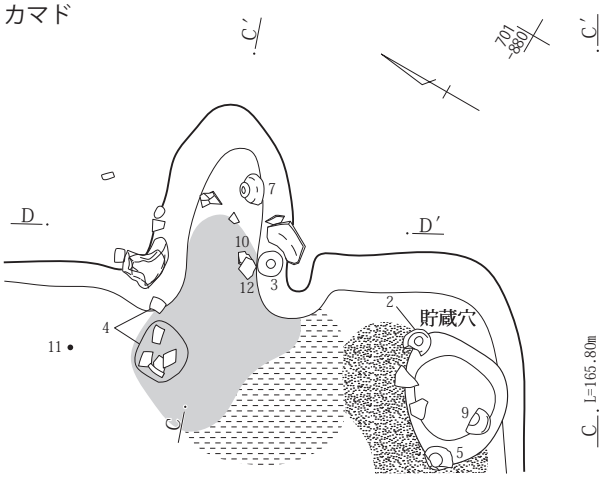


130号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C多量で均質、しまり強、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C少量、炭化物小片を含む。遺物を含む。しまりややあり、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　小礫を含む。ローム小塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・焼土粒多量、黒褐色土を含む。しまり強、粘性あり。掘り方。

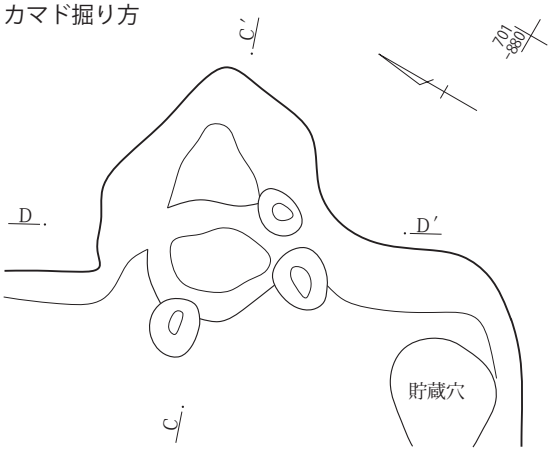
0　1：60　2m

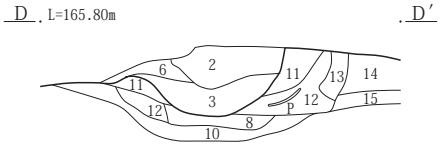
第184図　３面　Ｇ３区129・130号竪穴建物

カマド



カマド掘り方



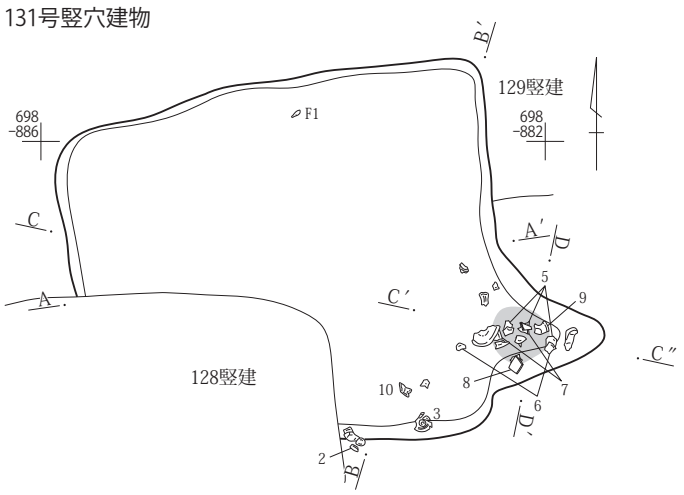


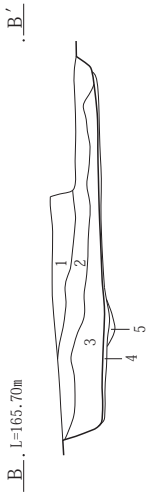
130号竪穴建物カマドC-C′・D-D′

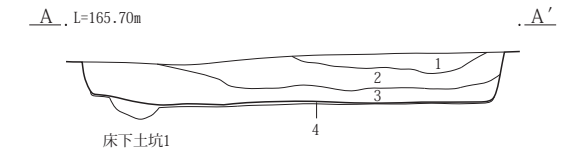
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　黄褐色土粒・焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/2)　As-C・焼土粒少量、ローム粒を含む。しまり・粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量・焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　明赤褐色土(5YR5/6)　焼土小塊主体、小礫を含む。しまり・粘性あり。
5　にぶい赤褐色土(5YR5/3)　焼土粒多量含む。しまり・粘性あり。
6　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　カマド構築材のローム塊主体、小礫を含む。しまり・粘性あり。
7　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物を含む。硬化、粘性あり。
8　黒褐色土(7.5YR3/1)　ローム小塊多量、焼土小塊・粒を含む。しまり・粘性あり。
9　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土粒多量、小礫を含む。しまり・粘性あり。
10　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　砂質土。ローム粒少量含む。しまりやや弱、粘性弱。
11　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１㎝小塊少量、礫を含む。しまり・粘性あり。
12　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム塊多量、焼土小塊を含む。しまり・粘性あり。
13　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
14　黒褐色土(10YR3/1)　As-Cを含む。しまり・粘性あり。
15　褐色土(10YR4/4)　しまり・粘性あり。

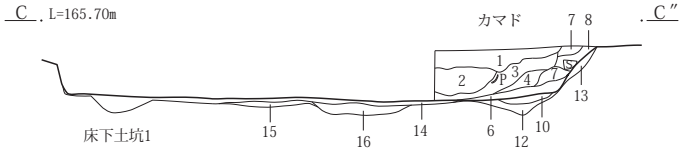
0　1：30　1m

131号竪穴建物









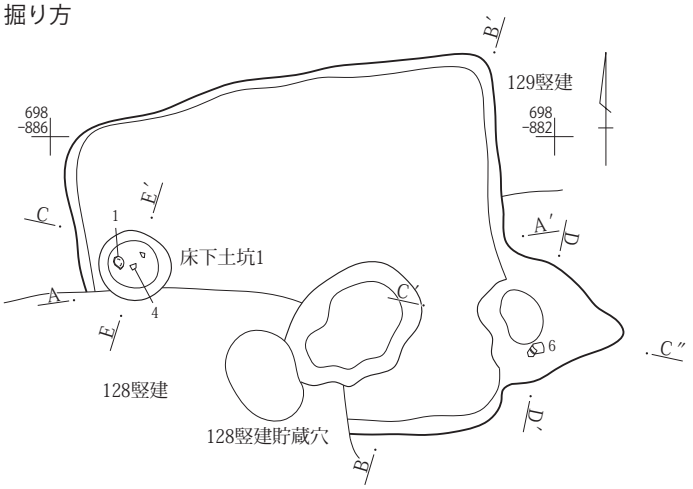
131号竪穴建物A-A′・B-B′・C-C′

1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C均質で多量、ローム小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小～大塊を含む。しまり・粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊多量、炭化物・焼土粒を含む。しまりややあり、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小～大塊多量含む。しまり強、粘性あり。床面。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
15　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム大塊多量含む。しまり・粘性あり。
16　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約３～５㎝塊・にぶい黄橙色粒多量含む。しまり・粘性あり。

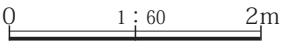
0　1：60　2m

第185図　３面　Ｇ３区130・131号竪穴建物

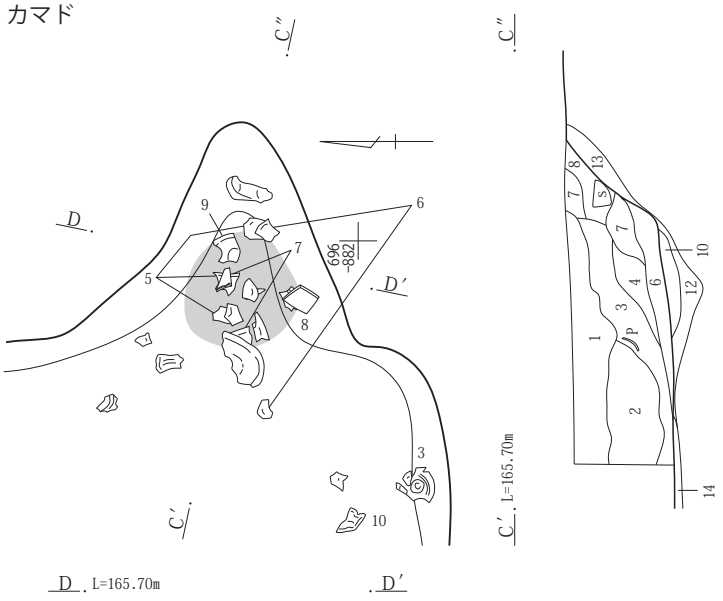
掘り方

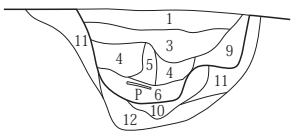


床下土坑１E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒・灰白色粒少量、遺物を含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約３～５㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。

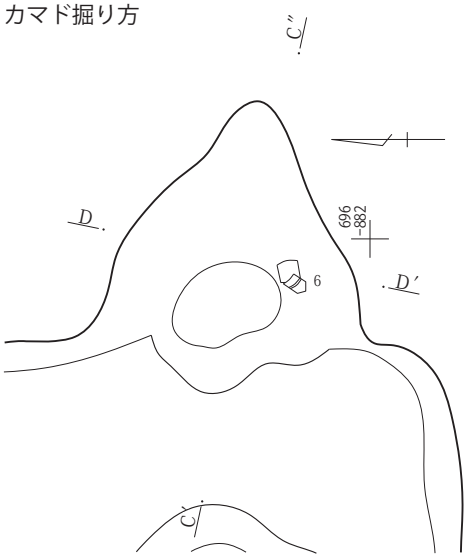


カマド

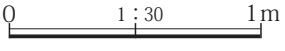




カマド掘り方

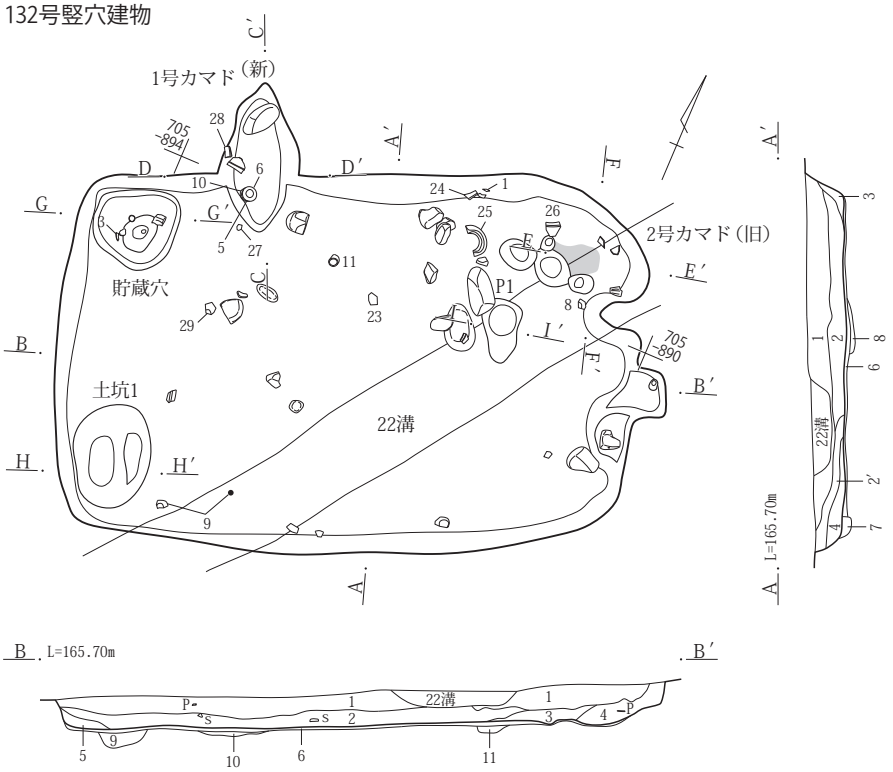


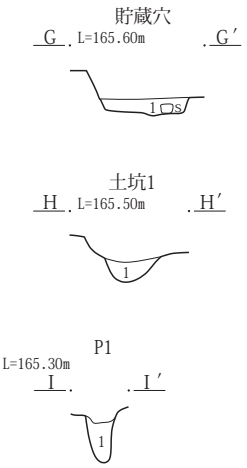
カマドC′-C″・D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・ローム小塊少量含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒・礫・焼土粒と炭化物を含む。しまりやや弱、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム塊主体、焼土小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　焼土粒・ローム小塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　灰白色粒・焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
6　明赤褐色土(7.5YR5/3)　ローム塊主体、焼土粒多量、遺物を含む。しまり・粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム大塊多量含む。しまり・粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム小～大塊・焼土粒多量、小礫を含む。しまり・粘性あリ。
9　黒褐色土(10YR3/1)　As-C少量、ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
10　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土小～大塊・粒を含む。しまりややあり、粘性あり。
11　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄褐色土塊を含む。ローム粒・にぶい橙色粒少量含む。しまり・粘性あり。
12　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄褐色土を含む。ローム小塊少量含む。しまり・粘性あり。
13　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１～３㎝塊・礫を含む。しまり・粘性あり。
14　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小～大塊多量含む。しまり強、粘性あり。床面。



第186図　３面　Ｇ３区131号竪穴建物

132号竪穴建物

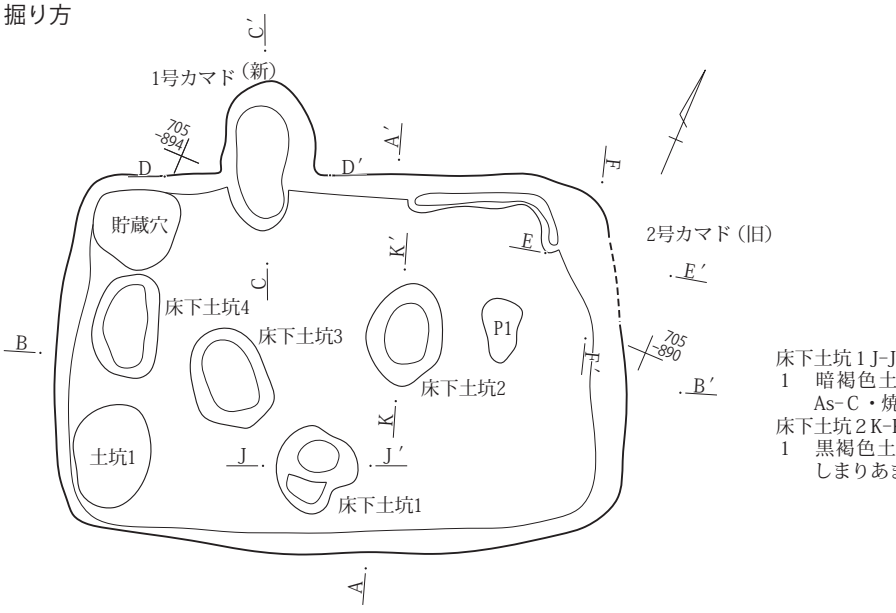


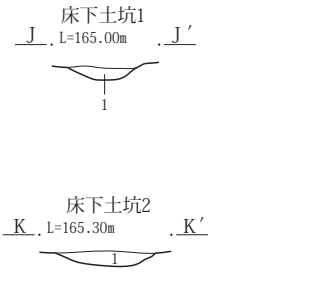


貯蔵穴 G-G′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・炭化物粒少量、As-C 若干含む。しまりややあり。
土坑１H-H′
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色粒・炭化物粒・黄褐色塊土若干含む。しまりややあり。
Ｐ１I-I′
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色粒・As-C・炭化物粒多量含む。しまりあり。

132号竪穴建物Ａ-Ａ′・Ｂ-Ｂ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　φ１～３㎝のAs-C 多量、黄褐色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 少量、黄褐色粒若干、焼土粒ごくわずか含む。しまりややあり。
2′　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物粒多量、As-C 少量、黄褐色粒若干、焼土粒ごくわずか含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色土30％程含む。As-C 若干含む。しまりあまりなし。
4　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 若干、明るい黄褐色土ごくわずか含む。しまりややあり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊・As-C 若干含む。しまりあまりなし。
6　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土多量、炭化物粒・As-C 若干含む。しまりあり。
7　にぶい黄褐色土(10YR3/4)　As-C・黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。
8　暗褐色土(10YR3/4)　黄褐色塊土多量、As-C 少量、黒褐色土10％程含む。しまりあり。
9　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色塊土・炭化物粒少量、As-C 若干含む。しまりややあり。
10　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 少量、黄褐色粒・炭化物粒若干含む。しまりあり。
11　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土若干含む。しまりややあり。

掘り方



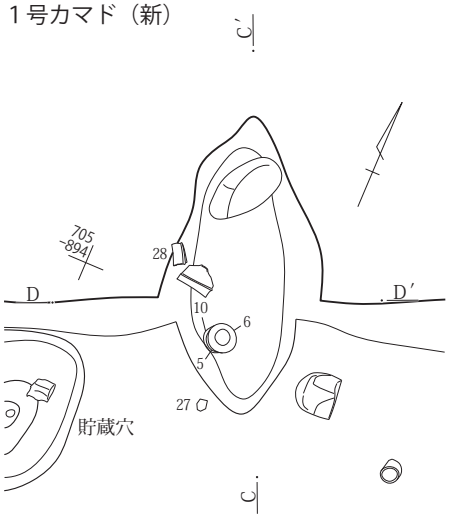


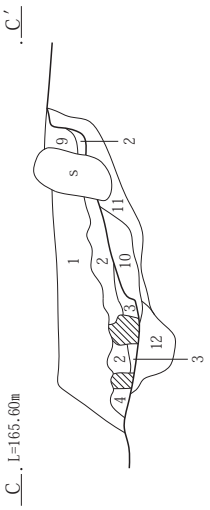
床下土坑１J-J′
1　暗褐色土(10YR3/4)　黄褐色塊土多量、炭化物粒少量、As-C・焼土粒若干含む。しまりややあり。
床下土坑２K-K′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 若干、黄褐色土40％程含む。しまりあまりなし。

0　1：60　2m

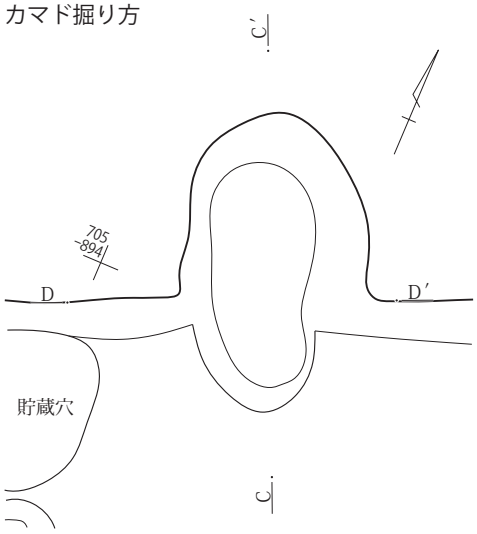
第187図　３面　Ｇ３区132号竪穴建物

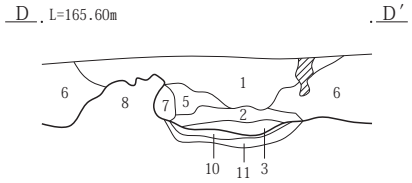
１号カマド（新）





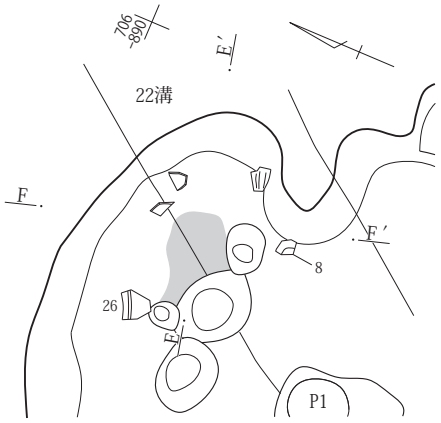
カマド掘り方

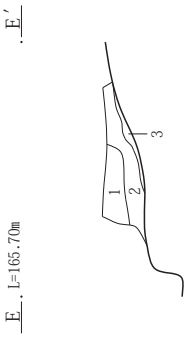




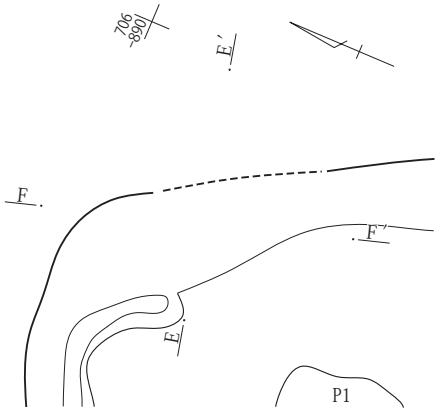
１号カマドＣ－Ｃ′・Ｄ-Ｄ′
1　黒褐色土（10YR3/2）　φ１～３㎜のAs-Ｃ多量、焼土粒･ローム塊若干含む。しまりあまりなし。
2　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒少量、As-Ｃ若干含む。しまりあまりなし。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-Ｃ・焼土粒若干含む。しまりあまりなし。
4　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ多量、炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。
5　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ多量、黄褐色塊少量、焼土粒・炭化物粒若干含む。
6　明褐色土(7.5YR5/6)　灰層、粒子細かい。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒少量、炭化物粒・焼土粒若干含む。
8　黄褐色土(10YR5/3にぶい)　As-Ｃ・焼土粒若干含む。しまりあまりなし。
9　にぶい黄褐色土(10YR3/4)　焼土粒少量、As-Ｃ・黄褐色粒若干含む。
10　暗褐色土(7.5YR2/4)　焼土塊・焼土粒・炭化物粒多量含む。しまりややあり。
11　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・As-Ｃ若干含む。しまりややあり。
12　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊土・焼土塊土少量含む。しまりあまりなし。

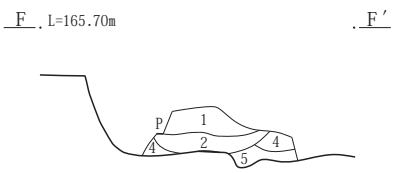
２号カマド（旧）





カマド掘り方



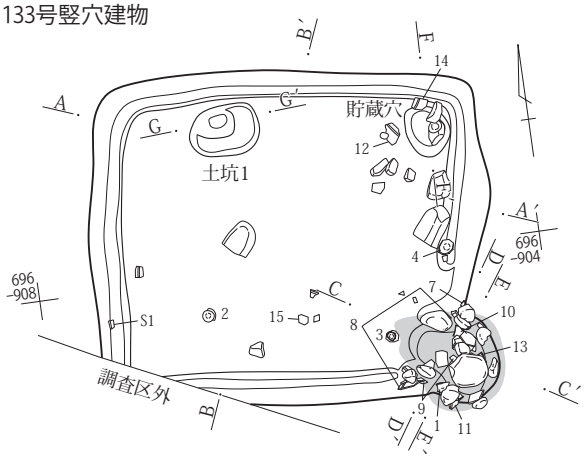


２号カマドE-E′・F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・焼土小塊・灰白色粒少量含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土小塊多量、灰白色粒少量、遺物を含む。しまりややあり、粘性あり。
3　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒微量含む。しまり弱、粘性あり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１～３㎝塊を含む。しまり・粘性あり。
5　黄褐色土(10YR5/6)　ローム小～大塊多量含む。地山焼土化。しまりやや弱、粘性弱。

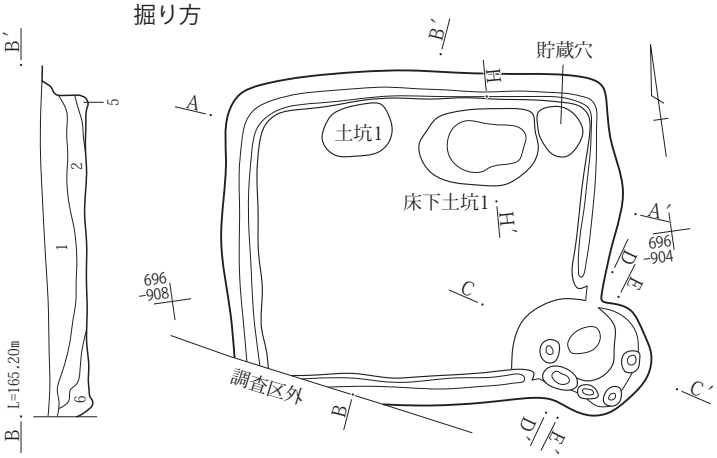
0　1：30　1m

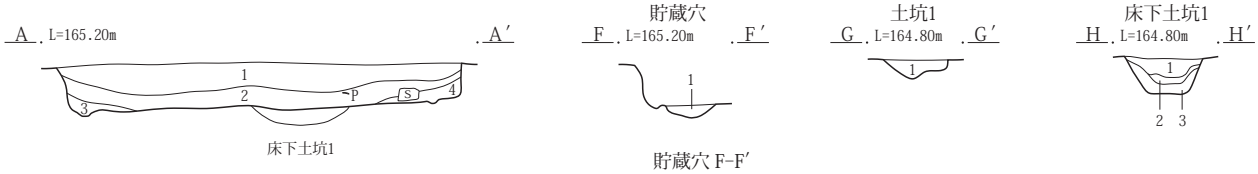
第188図　３面　Ｇ３区132号竪穴建物

133号竪穴建物



掘り方





133号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR2/3)　φ１～３㎝のAs-Ｃ多量、黄橙色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ・黄橙色粒少量。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　やや砂質、黄橙色粒若干含む。しまりあまりなし。
4　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色土30％程、As-Ｃ若干含む。しまりあまりなし。
5　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色土40％程含む。しまりあまりなし。
6　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色粒若干含む。しまりややあり。

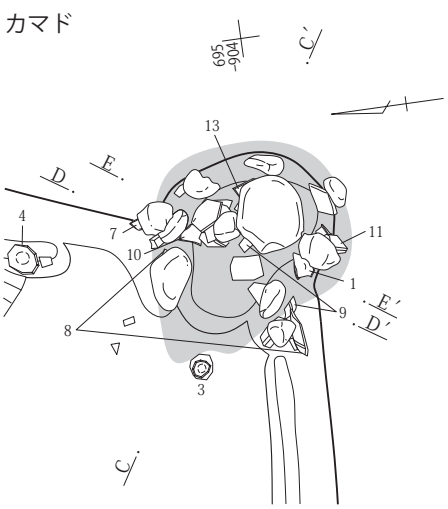
貯蔵穴 F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土・As-Ｃ・焼土粒若干含む。しまりあり。

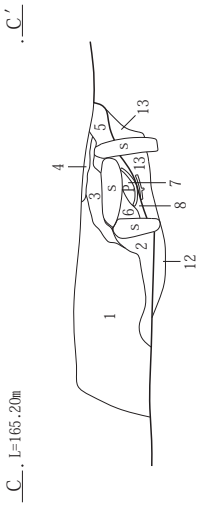
土坑１ G-G′
1　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色塊土少量含む。しまりややあり。

床下土坑１ H-H′
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土多量、As-Ｃ少量含む。しまりあり。
2　黄褐色土(10YR5/6)　粘土質、As-Ｃ少量含む。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土・炭化物粒・灰少量含む。しまりあまりなし。

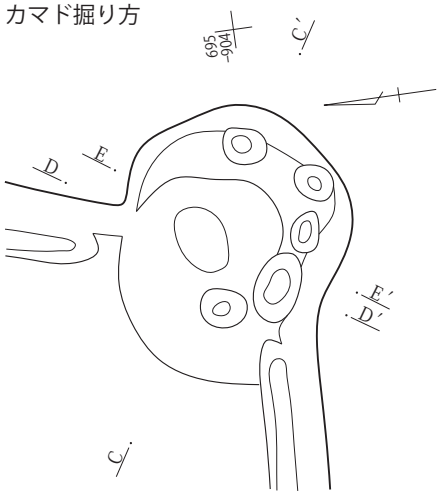
0　1：60　2m

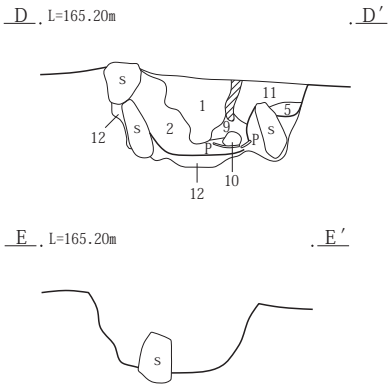
カマド





カマド掘り方



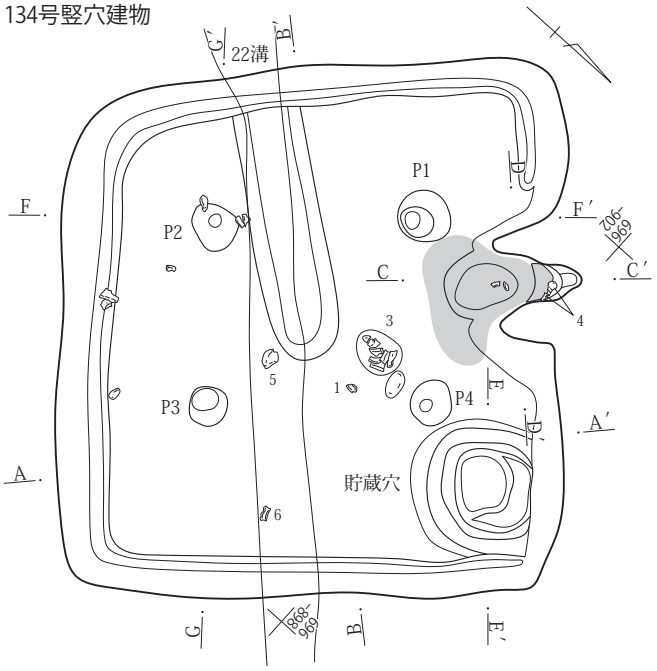


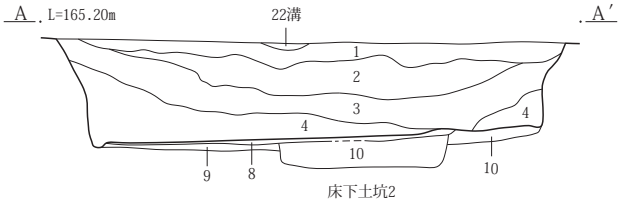
カマドＣ－Ｃ′・D-D′
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ多量、炭化物粒・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
2　褐色土(7.5YR4/3)　焼土粒少量、炭化物粒若干含む。
3　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ・黄褐色土粒・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
4　黒褐色土(10YR2/3)　砂質。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・黄橙色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりなし。
6　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ・焼土粒少量、炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。
7　黄褐色土(10YR5/6)　As-Ｃ若干含む。しまりあり。
8　明赤褐色土(5YR5/8)　焼土。しまりあり。
9　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土10％程、As-Ｃ・焼土粒若干含む。しまりややあり。
10　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊土・焼土塊土少量含む。しまりややあり。
11　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-Ｃ少量、焼土粒・黄橙色粒若干含む。しまりややあり。
12　暗褐色土(7.5YR2/4)　焼土粒・炭化物粒多量、黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
13　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒若干含む。しまりあまりなし。

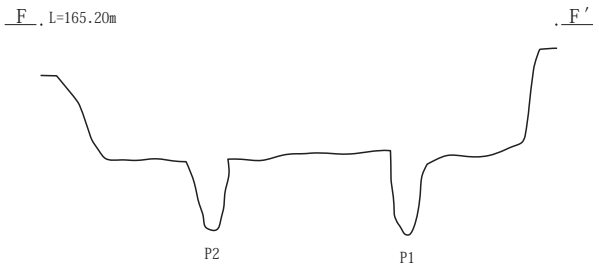
第189図　３面　Ｇ３区133号竪穴建物

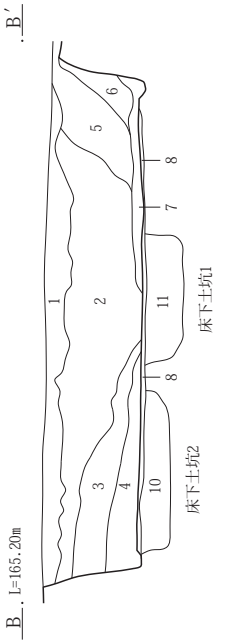
0　1：30　1m

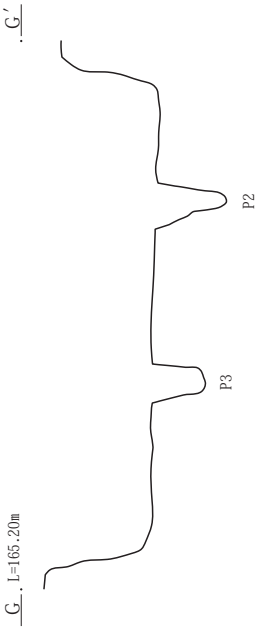
134号竪穴建物



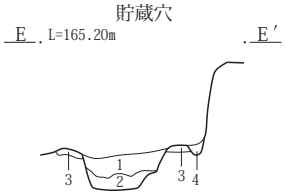




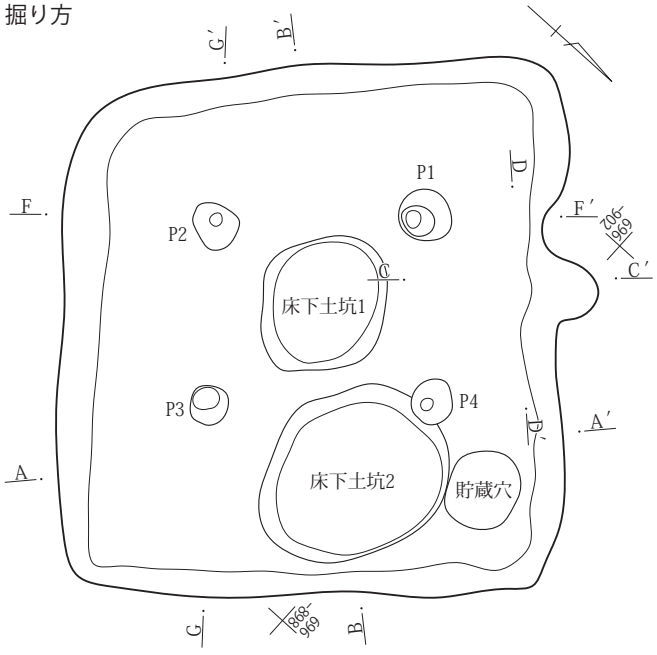




貯蔵穴



掘り方



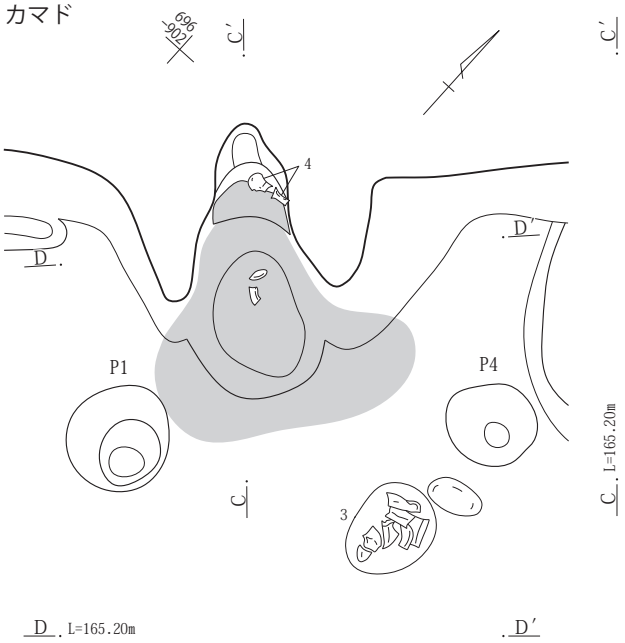
134号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量､黄橙色粒若干含む。しまりややあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　黒褐色土10％程、φ３～10㎝のローム塊・黄橙色粒多量、As-C若干含む。しまりあまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/2)　黄橙色粒多量、ローム塊若干含む。しまりややあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黄橙色粒大量、φ３～５㎝のローム塊若干含む。しまりあまりなし。
5　黒褐色土(10YR3/2)　黄橙色粒・As-C少量含む。しまりややあり。
6　暗褐色土(10YR3/3)　黄橙色粒若干含む。しまりあまりなし。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム塊多量含む。しまりあまりなし。
8　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP粒多量、黄褐色塊土少量。しまりあり。
9　黄褐色土(10YR5/6)　As-C若干含む。粘土質。しまりあり。
10　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP粒大量、φ１～３㎝程の黄褐色塊土少量含む。しまりややあり。
11　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-YP粒多量、φ５～10㎝程の黄褐色塊土少量含む。しまりややあり。

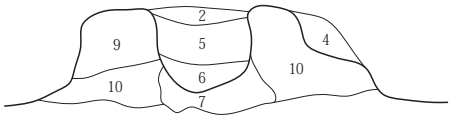
貯蔵穴 E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒・塊土多量、As-YP軽石少量含む。しまりあまりなし。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒・塊土・黄褐色軽石多量含む。しまりあまりなし。
3　黄褐色土(10YR5/6)　As-C若干含む。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP粒多量含む。しまりあまりなし。

0　1：60　2m

第190図　３面　Ｇ３区134号竪穴建物

カマド

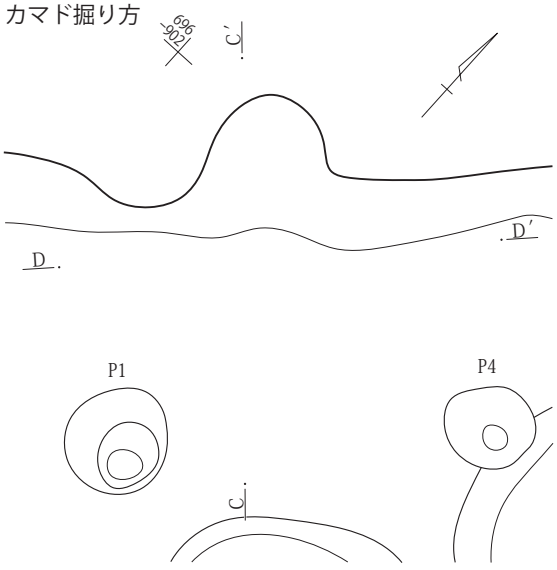


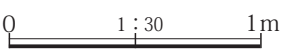


カマドＣ－Ｃ′・Ｄ-Ｄ′

1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ多量、黄橙色粒･ローム粒･塊土･焼土粒少量含む。しまりややあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　黄橙色粒多量、As-Ｃ少量含む。しまりあまりなし。
3　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ多量、黄褐色粒・焼土粒少量含む。しまりあまりなし。
4　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色土30％程、As-Ｃ多量、焼土粒・黄褐色粒少量含む。
5　黄褐色土(10YR5/6)　黒褐色土10％程、黄褐色粒・As-Ｃ・焼土粒少量含む。しまりあまりなし。
6　褐色土(10YR4/4)　焼土粒・焼土塊土多量、黄褐色粒少量含む。しまりあまりなし。
7　褐色～明褐色土(7.5YR4/6～7.5YR5/8)　焼土塊土・As-Ｃ・黄褐色粒多量含む。
8　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・As-Ｃ少量、炭化物粒若干含む。しまりあり。
9　にぶい黄褐色土(10YR3/4)　As-Ｃ多量、黒褐色土30％程、焼土粒若干含む。しまりあり。
10　黄褐色土(10YR5/6)　As-Ｃ・黄褐色粒少量含む。しまりややあり。

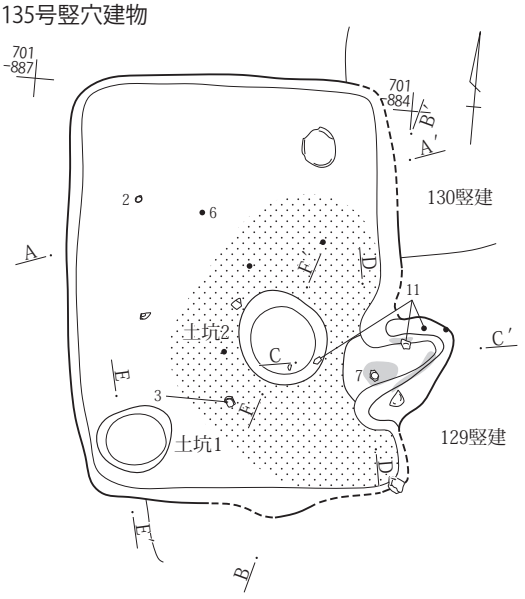
カマド掘り方

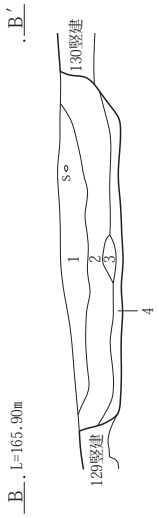


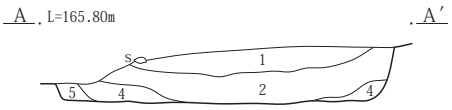


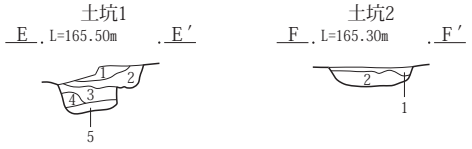
第191図　３面　Ｇ３区134号竪穴建物

135号竪穴建物









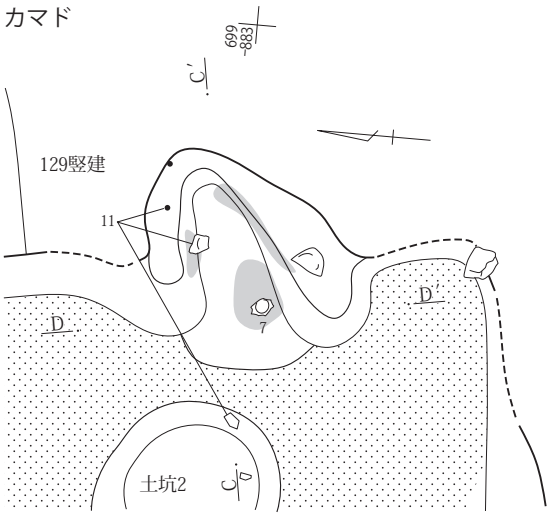
土坑１E-E′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C 少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄褐色粒少量、As-C 微量含む。しまり弱、粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒を含む。色味は暗い、しまり弱、粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。

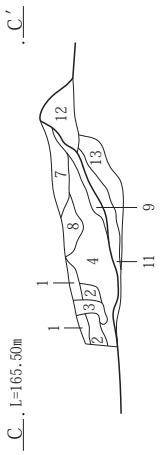
土坑２F-F′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊多量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム小塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。

135号竪穴建物Ａ-Ａ′・Ｂ-Ｂ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C 均質、ローム小塊・小礫・炭化物を含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊約１～３㎝多量、４層よりAs-C 少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム塊主体、しまりやや弱、粘性あり。カマド構築材崩落土。
4　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・ローム小塊・粒少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒を含む。As-C 微量含む。しまり・粘性あり。

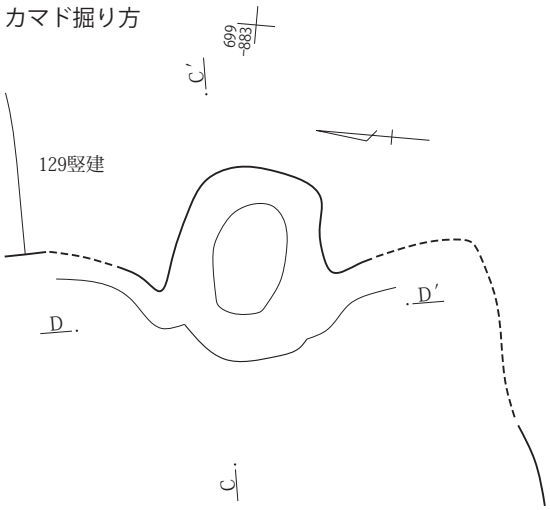
0　1：60　2m

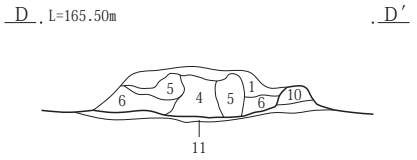
カマド





カマド掘り方



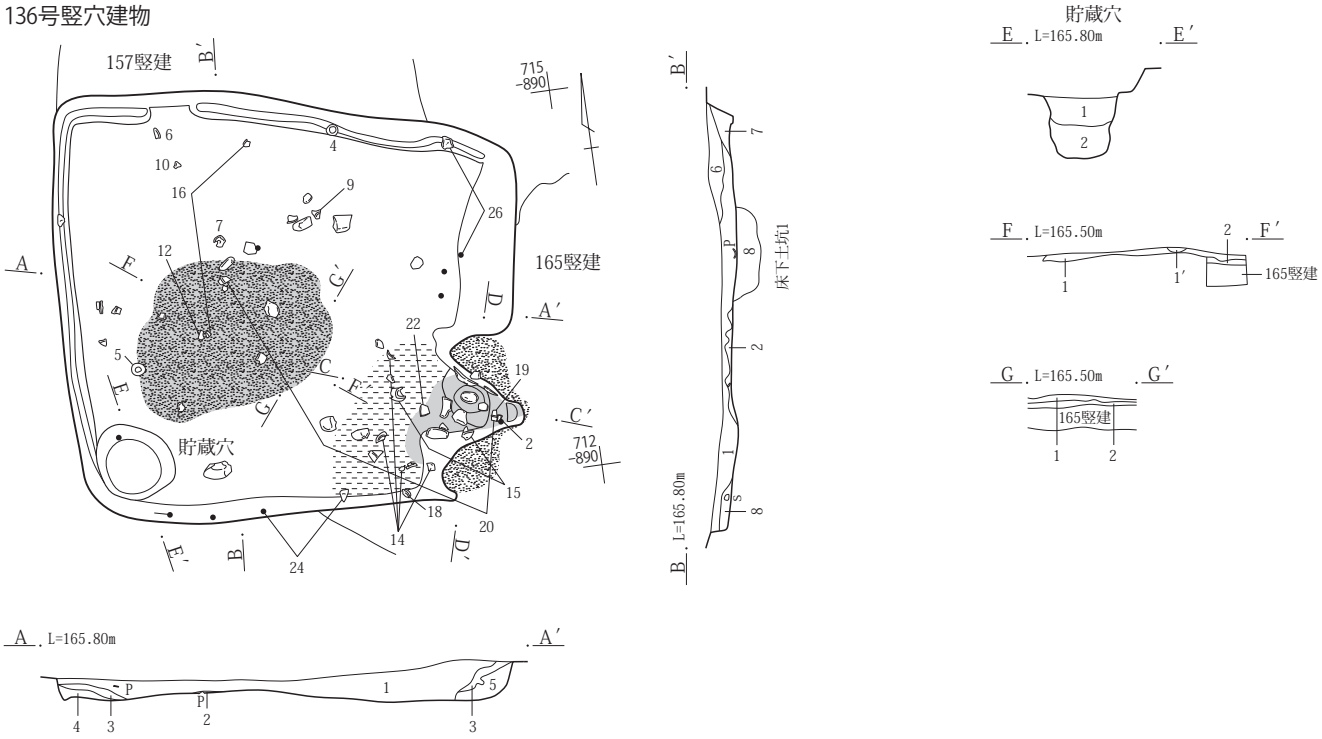


カマドＣ-Ｃ′・D-D′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒均質で多量含む。しまり・粘性あり。
2　明黄褐色土(10YR7/6)　ローム粒均質で多量、灰黄褐色土少量含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　しまり弱、粘性あり。根撹乱か。
4　明黄褐色土(10YR5/2)　ローム粒焼土小塊少量含む。しまり・粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム大塊主体、しまりあり、粘性強。カマド構築材崩落土
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約10㎝塊少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
7　暗褐色土(7.5YR3/3)　焼土小塊・灰白色軽石粒・ローム粒少量含む。しまり・粘性あり。
8　褐色土(7.5YR4/3)　ローム粒多量、焼土小塊少量、炭化物を含む。しまり・粘性あり。
9　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　ローム小塊多量、炭化物微量含む。しまり弱、粘性あり。
10　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小～大塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
11　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量含む。しまり・粘性あり。
12　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄橙色粒約５㎜～１㎝を含む。しまり・粘性あり。
13　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。

0　1：30　1m

第192図　３面　Ｇ３区135号竪穴建物

136号竪穴建物

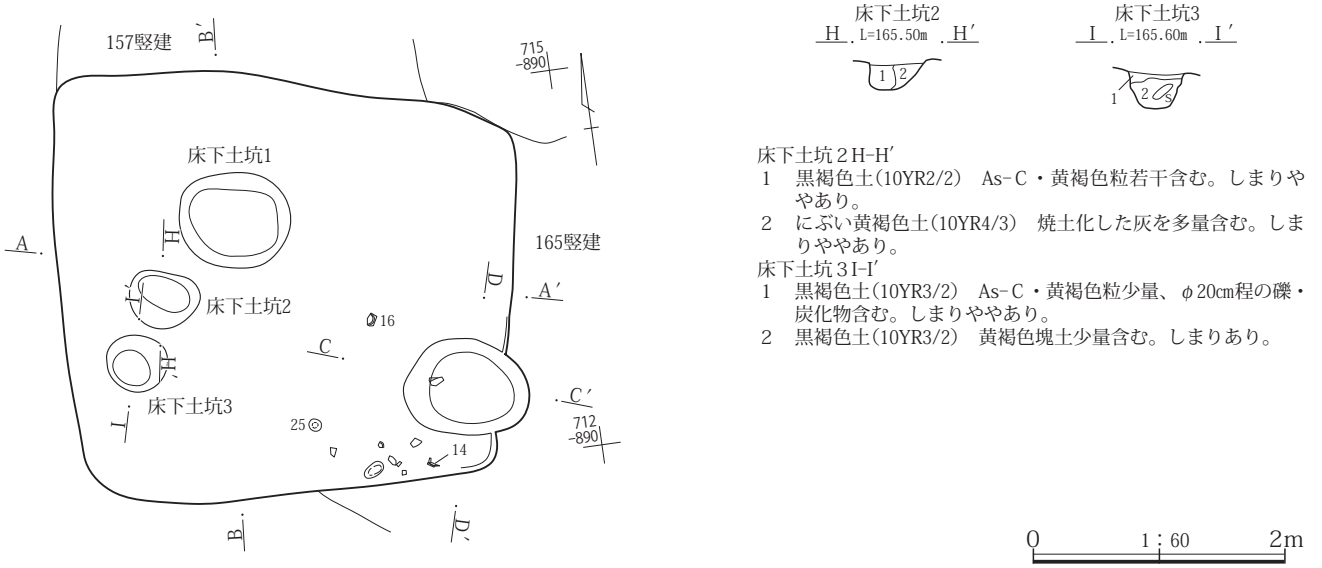


136号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、黄褐色粒少量、ローム塊土、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒少量、As-C・焼土粒若干含む。しまりややあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土40％程、As-C少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
5　黒褐色土(10YR2/3)　As-C多量、ローム粒少量含む。
6　黒褐色土(10YR2/3)　As-C多量、黄褐色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
7　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。
8　黒褐色土(10YR3/2)　φ５～10cm程の黄褐色塊土多量、As-YP粒少量、φ５cm程の亜角礫含む。しまりややあり。

貯蔵穴 E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色粒・As-C少量、焼土粒若干含む。しまりあまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒少量、10cm程のローム塊土含む。しまりあまりなし。

焼土・粘土・灰 F-F′・G-G′
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　焼土粒・炭化物粒少量、灰所々に含む。しまりあり。
1′　灰黄褐色土(10YR6/2)　灰層。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土・As-C多量含む。しまりあり。

掘り方

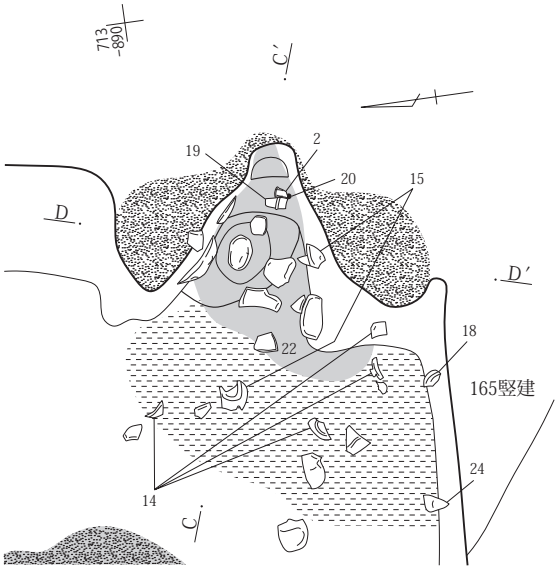


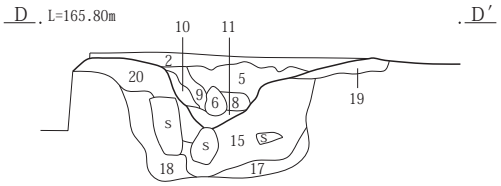
床下土坑２H-H′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土化した灰を多量含む。しまりややあり。

床下土坑３I-I′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・黄褐色粒少量、φ20cm程の礫・炭化物含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土少量含む。しまりあり。

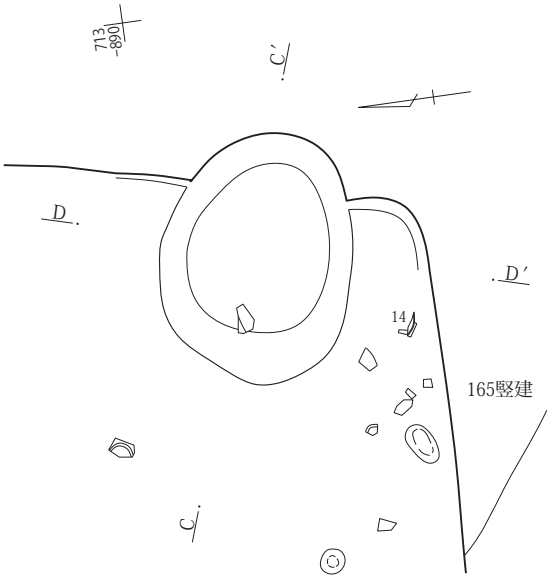
第193図　３面　Ｇ３区136号竪穴建物

カマド





カマド掘り方



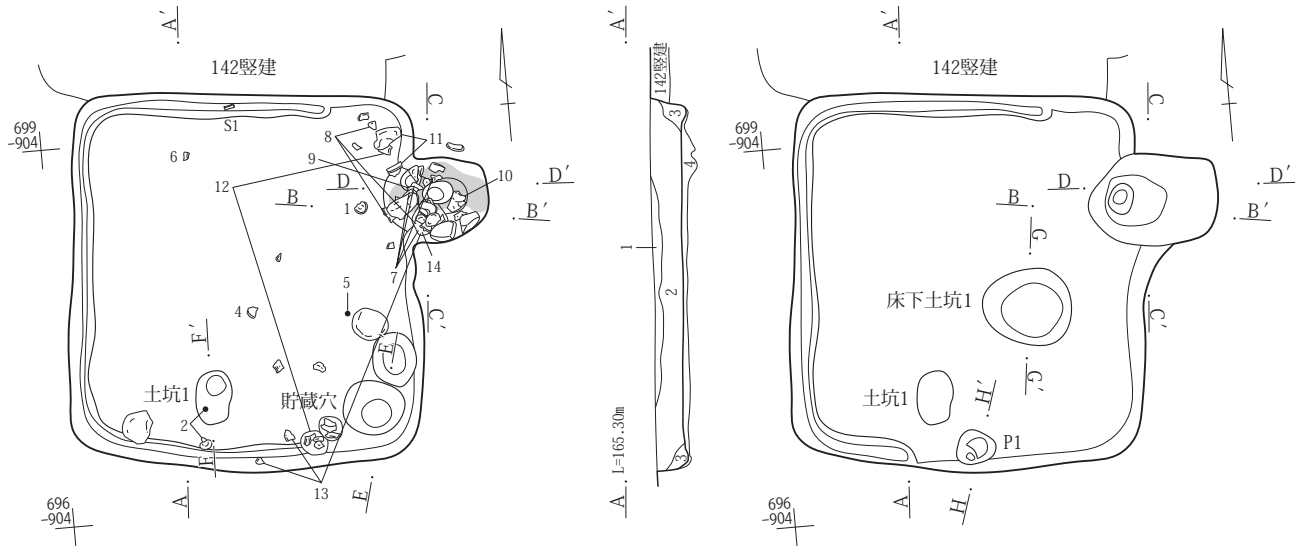
カマドＣ－Ｃ′・D-D′
1　黒褐色土(10YR3/1)　砂質、鉄分沈着あり、As-Ｃ少量含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ少量、焼土粒若干含む。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　ローム塊土・As-Ｃ少量、炭化物粒・焼土粒若干含む。しまりややあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム塊土多量、炭化物粒・As-Ｃ・焼土粒少量含む。しまりややあり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒・ローム塊少量含む。しまりあり。
6　黄褐色土(10YR5/6)　ローム塊土、焼土粒含む。しまりあり。
7　黒色土(10YR2/1)　ローム塊土･焼土粒･炭化物粒少量含む。しまりややあり。
8　黄褐色土(10YR5/6)　焼土粒多量、にぶい黄褐色土40％程、As-Ｃ若干含む。しまりややあり。
9　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ・黄橙色粒・焼土粒少量含む。しまりややあり。
10　黄褐色土(10YR5/6)　黒褐色土30％程、As-Ｃ・焼土粒若干含む。しまりややあり。
11　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・黄褐色粒多量、炭化物粒少量含む。しまりあまりなし。
12　にぶい黄褐色土(10YR3/4)　焼土粒多量、ローム塊土少量含む。しまりややあり。
13　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物粒多量、焼土塊・As-Ｃ・黄褐色塊土少量含む。しまりややあり。
14　明赤褐色土(5YR5/8)　焼土。しまりあり。
15　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒・黄褐色塊土多量、焼土粒少量、As-Ｃ若干含む。しまりややあり。
16　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・焼土塊土多量、炭化物粒・As-Ｃ少量、黄褐色塊土若干、黒褐色土10％程含む。
17　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒・焼土粒・As-Ｃ・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
18　黒褐色土(10YR2/2)　ローム塊土･ローム粒･As-Ｃ多量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
19　黄褐色土(10YR5/6)　As-Ｃ少量、炭化物粒若干含む。しまりあり。(粘土質の土が硬化している。)
20　黄褐色土(10YR5/6)　黒褐色土30％程、As-Ｃ少量、黄褐色粒・焼土粒若干含む。しまりあり。

0　1：30　1m

第194図　３面　Ｇ３区136号竪穴建物

141号竪穴建物

掘り方



貯蔵穴
E L=165.20m E′

土坑1
F L=165.00m F′

床下土坑1
G L=165.00m G′

P1
H L=165.20m H′

141号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・ローム小塊少量、灰白色軽石微量含む。しまり強、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１～３㎝塊・粒・As-C少量含む。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒多量で均質、しまり弱、粘性あり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小～大塊を含む。しまりややあり、粘性あり。掘り方。

貯蔵穴 E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、ローム粒若干、ローム塊土含む。

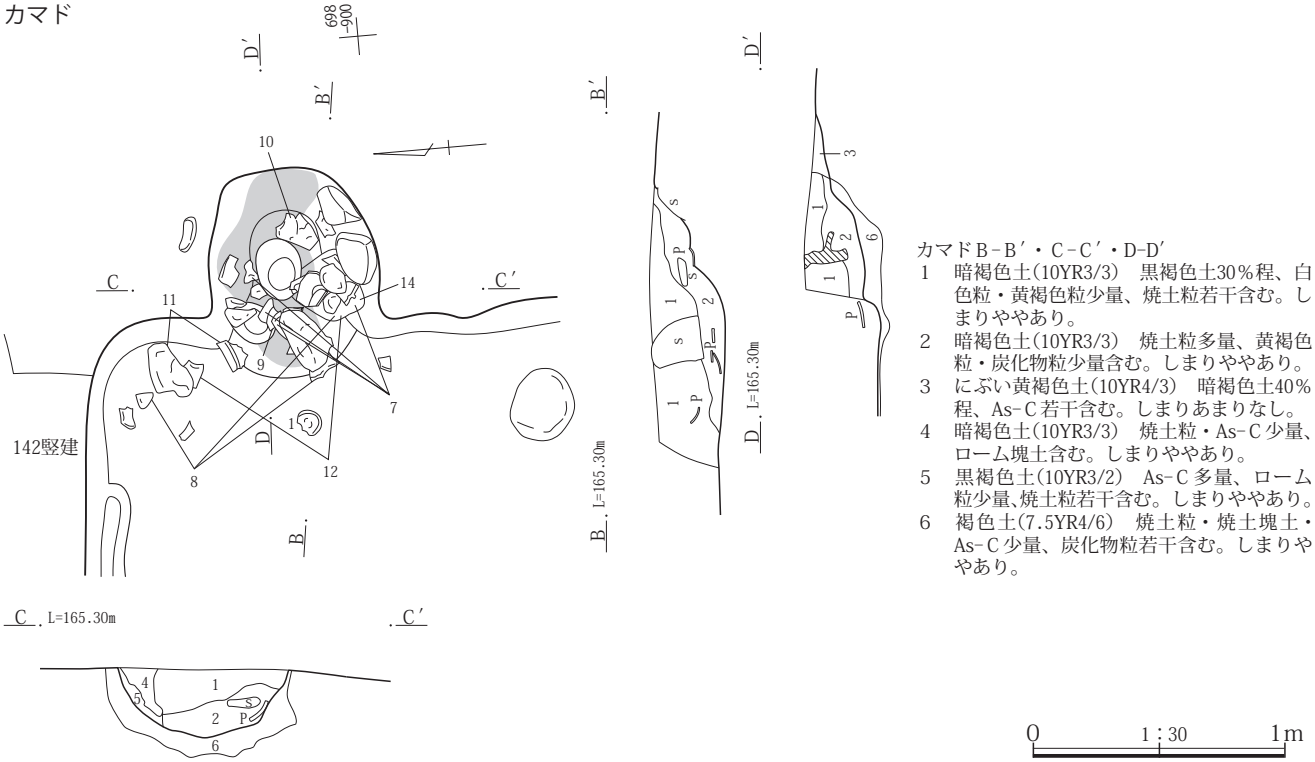
土坑１F-F′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約１㎝塊を含む。灰白色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を含む。しまり弱、粘性あり。

床下土坑１G-G′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒多量、ローム小塊少量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約３～５㎝多量、黄褐色土塊を含む。しまり・粘性あり。

Ｐ１H-H′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約１㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・粒を含む。しまり・粘性あり。

0　1：60　2m

カマド

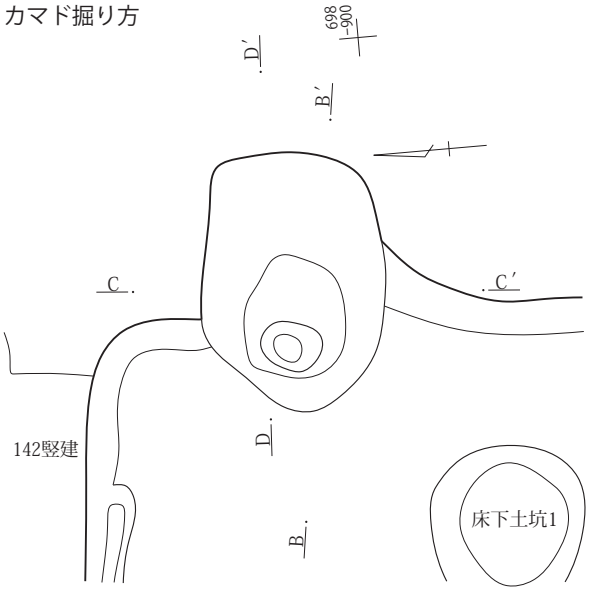


カマドB-B′・C-C′・D-D′
1　暗褐色土(10YR3/3)　黒褐色土30％程、白色粒・黄褐色粒少量、焼土粒若干含む。しまりややあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒多量、黄褐色粒・炭化物粒少量含む。しまりややあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　暗褐色土40％程、As-C若干含む。しまりあまりなし。
4　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・As-C少量、ローム塊土含む。しまりややあり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、ローム粒少量､焼土粒若干含む。しまりややあり。
6　褐色土(7.5YR4/6)　焼土粒・焼土塊土・As-C少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。

0　1：30　1m

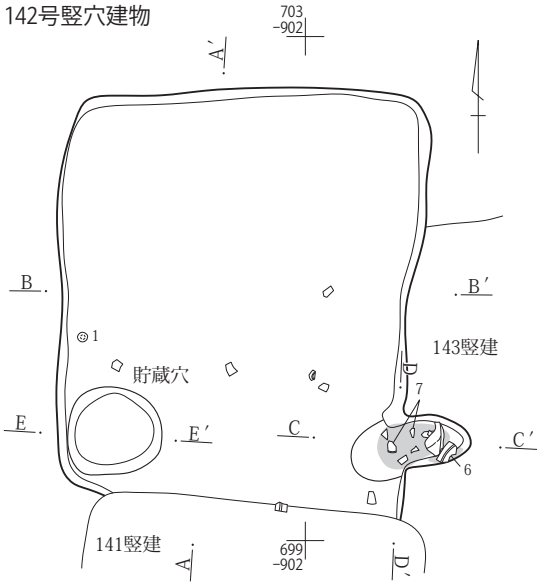
第195図　３面　Ｇ３区141号竪穴建物

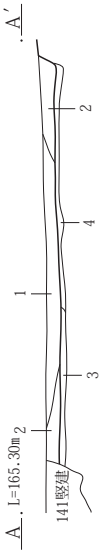
カマド掘り方



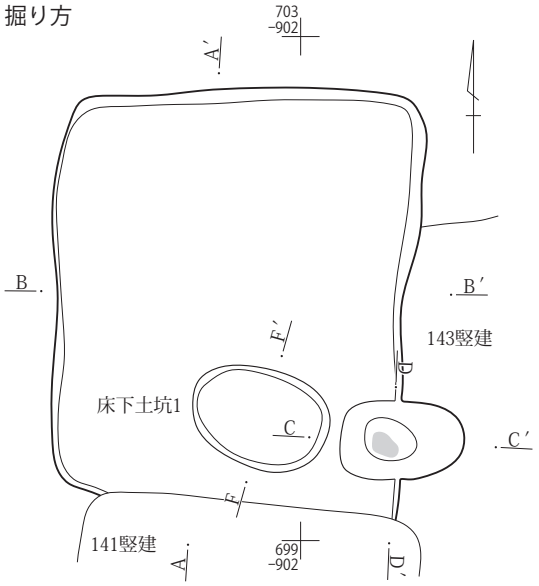
0　1：30　1m

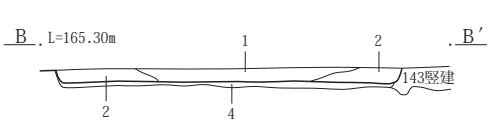
142号竪穴建物





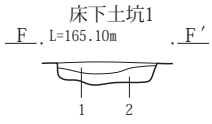
掘り方





貯蔵穴

床下土坑1

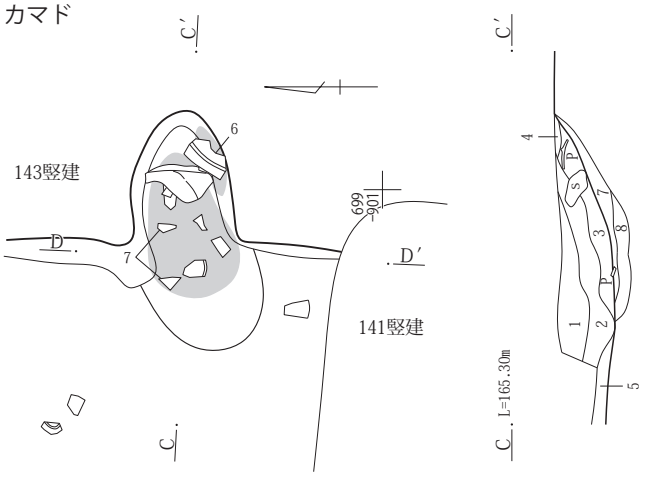


142号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C・ローム粒少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・粒多量、As-C微量含む。しまり弱、粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム塊帯状に含む。しまり強、粘性あり。掘り方。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム塊少量含む。しまり強、粘性あり。掘り方。
貯蔵穴E-E′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　灰白色粒少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性あり。
床下土坑１F-F′
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒多量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム大塊・小礫を含む。しまり強、粘性弱。

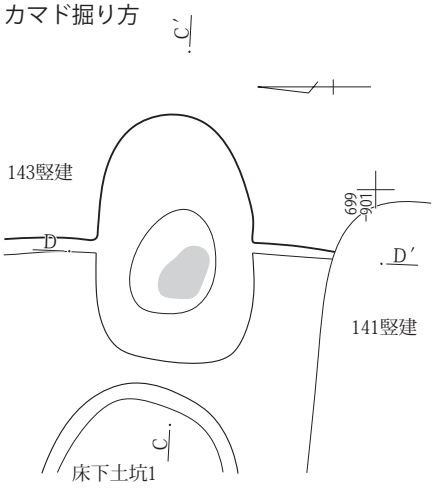
0　1：60　2m

第196図　３面　Ｇ３区141・142号竪穴建物

カマド



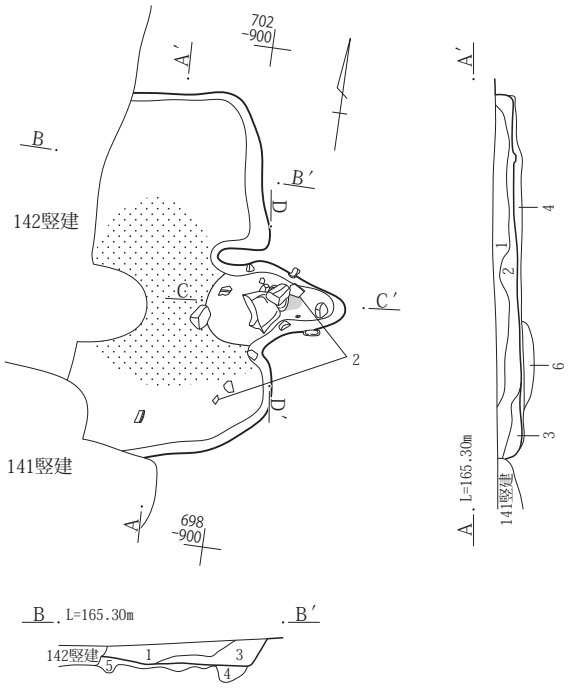
カマド掘り方



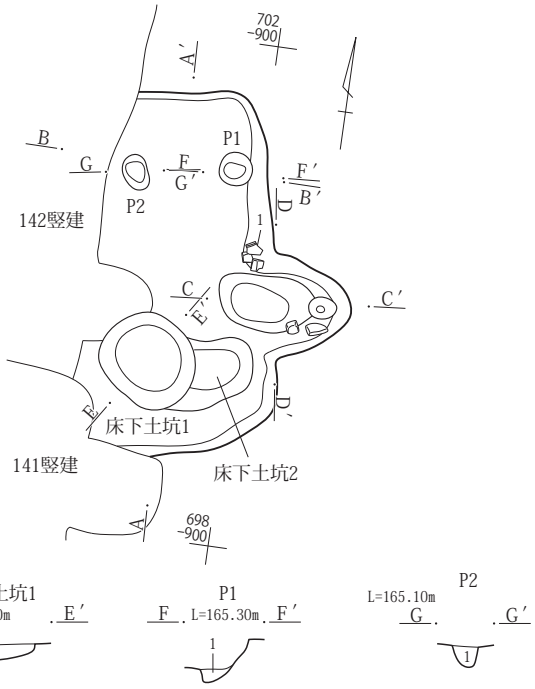
カマドC－C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒多量、小礫を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物と焼土粒微量含む。しまりやや弱、粘性あり。
3　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒多量、ローム小塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
4　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土多量含む。しまり・粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
6　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊・粒・にぶい黄橙色粒・小礫を含む。しまり・粘性あり。
7　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　砂質土、焼土大塊を含む。しまりやや弱、粘性弱。
8　黒褐色土(10YR3/1)　焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。

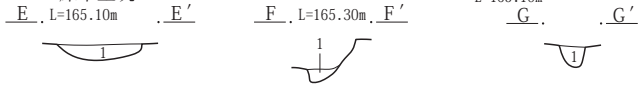
0　1：30　1m

143号竪穴建物



掘り方





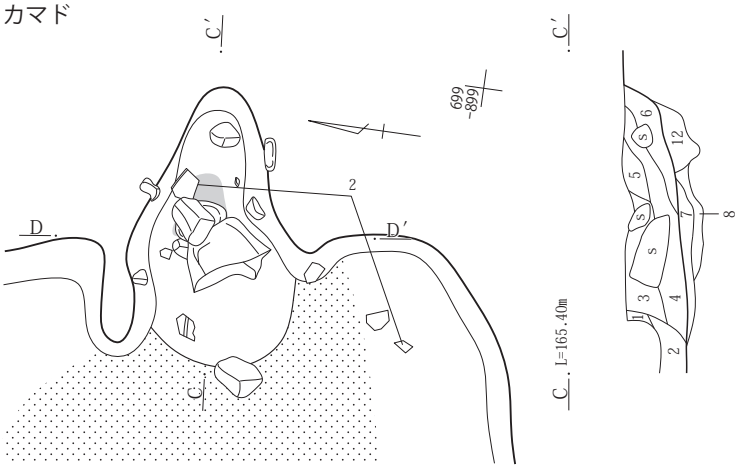
143号竪穴建物
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-C・焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１～３㎝多量、焼土小塊・炭化物を含む。しまりやや弱、粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒を含む。しまり弱、粘性あり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　黒色土を含む。しまりややあり、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１㎝塊多量、黄褐色土を含む。しまり強、粘性あり。床下土坑１埋没土。

床下土坑１E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１㎝塊多量、黄褐色土を含む。しまり強、粘性あり。
P１F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を含む。しまり弱、粘性あり。
P２G-G′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量、黒褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。

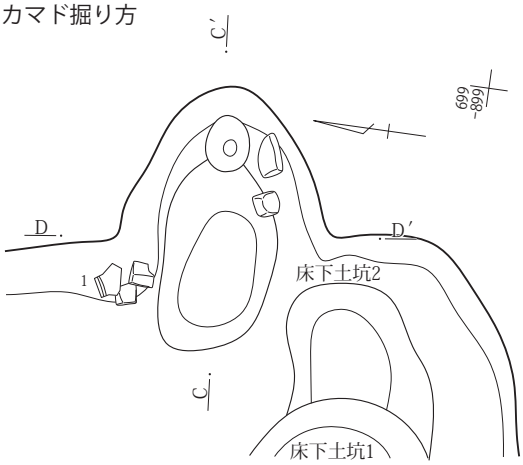
0　1：60　2m

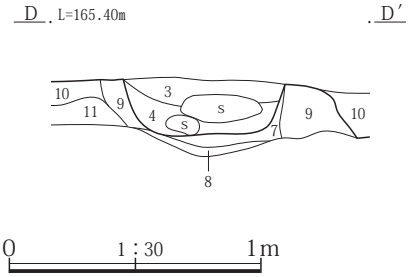
第197図　３面　Ｇ３区142・143号竪穴建物

カマド



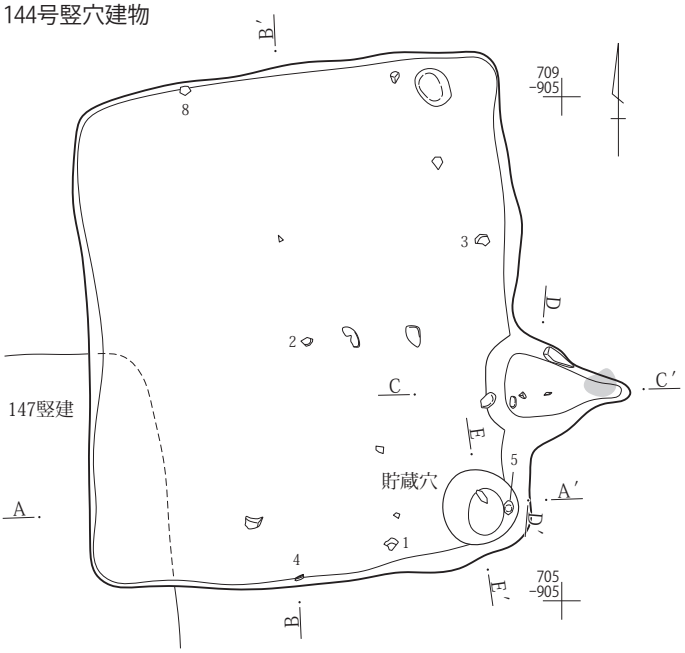
カマド掘り方

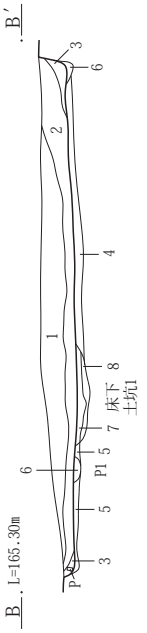




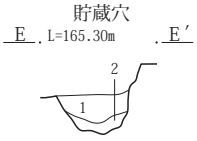
カマドC－C′・D－D′
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　As－C・焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１～３㎝多量、焼土小塊・炭化物を含む。しまりやや弱、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊多量、As－C・焼土粒少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　灰白色粒少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性弱。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム大塊多量含む。しまり・粘性あり。
6　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土小～大塊多量、灰と炭化物を含む。しまり弱、粘性あり。
7　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　やや砂質土、焼土粒少量含む。しまりやや弱、粘性弱。
8　灰黄褐色土(7.5YR5/2)　焼土粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
9　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊・粒多量、焼土粒を含む。しまり・粘性あり。
10　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
11　褐色土(10YR4/4)　ローム小塊・粒を含む。しまり弱、粘性あり。
12　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊少量含む。しまり強、粘性あり。

144号竪穴建物

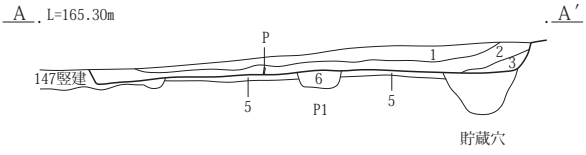




貯蔵穴



貯蔵穴E－E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１㎝塊・粒を含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒色土(10YR2/1)　ローム粒・炭化物を含む。しまり弱、粘性あり。

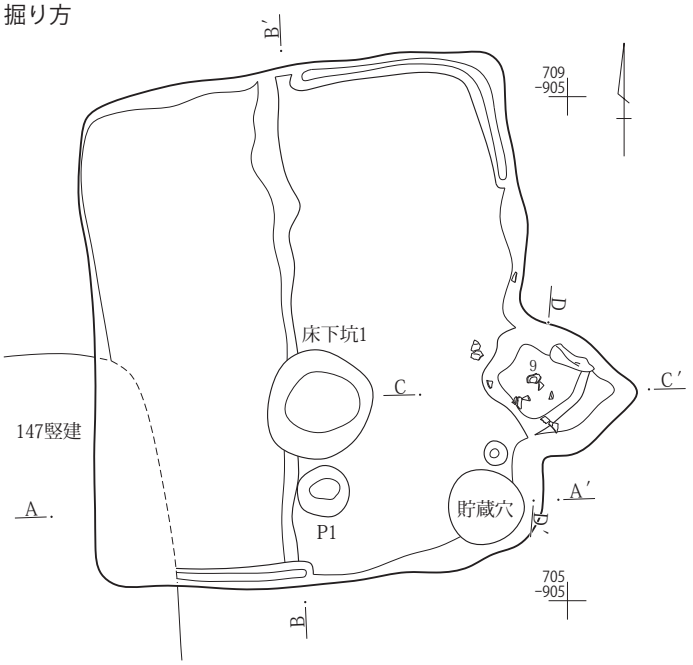


144号竪穴建物A－A′・B－B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As－C少量で均質、小礫約１㎝を含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量、ローム小塊・小礫少量、遺物を含む。しまりやや弱、粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊底面付近に多量含む。しまり・粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　にぶい黄橙色粒少量・黒褐色土塊を含む。しまり・粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
6　５層に近いが、５層よりもしまり悪い。
7　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
8　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約10㎝塊多量含む。しまり強、粘性あり。７・８層は床下土坑１埋没土。

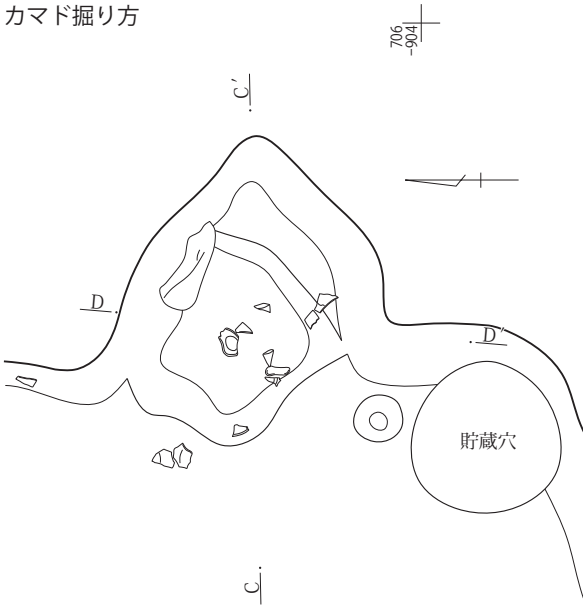
0　1：60　2m

第198図　３面　Ｇ３区143・144号竪穴建物

掘り方

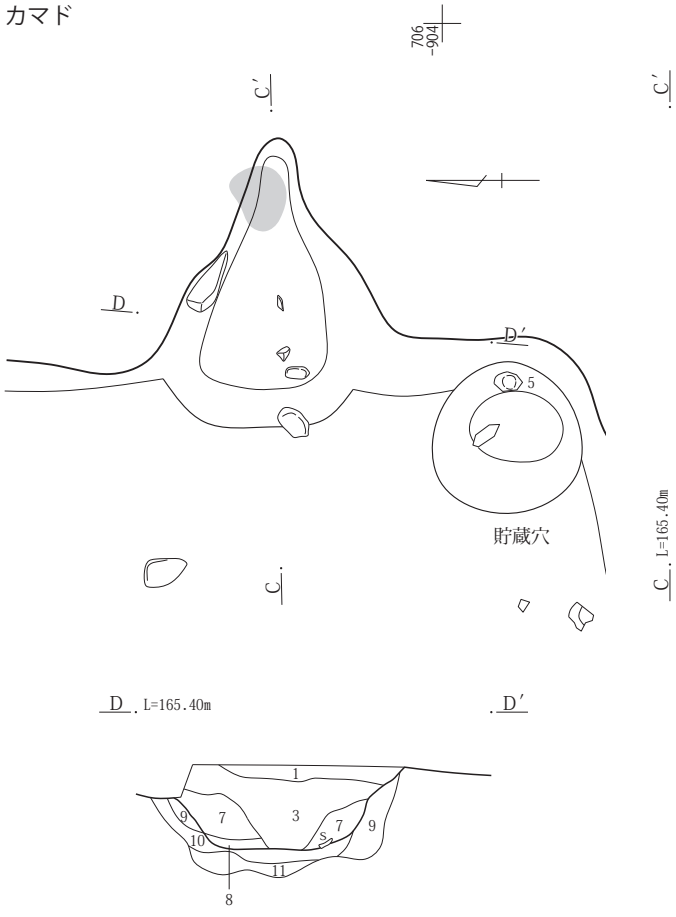


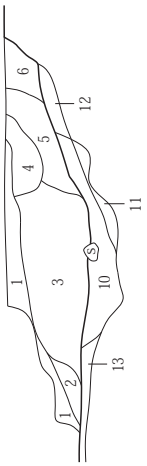
カマド掘り方



0　1：60　2m

カマド





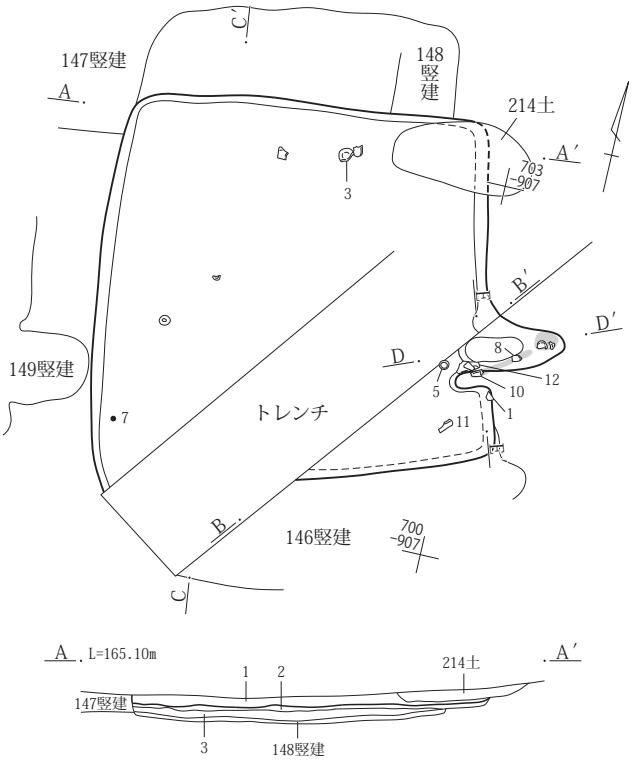
カマドC-C′・D-D′

1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・ローム粒少量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム塊約１～３㎝・焼土小塊少量含む。しまり・粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊約１～３㎝・ローム粒多量、焼土小塊少量含む。しまり・粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量、焼土下層に微量含む。しまり弱、粘性ややあり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム大塊・粒多量、黒色土を含む。しまり弱、粘性ややあり。
6　褐色土(7.5YR4/3)　焼土小塊・粒多量含む。しまり・粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小～大塊・粒を含む。しまり・粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム塊・粒・黒褐色土を含む。しまりややあり、粘性あり。
9　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム塊を含む。しまり弱、粘性あり。
10　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-YP・焼土小塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
11　明赤褐色土(2.5Y5/6)　地山の焼土化、しまりあり、粘性弱。
12　明黄褐色土(10YR6/6)　焼土小塊を含む。しまり・粘性あり。
13　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒少量含む。硬化、粘性弱。

0　1：30　1m

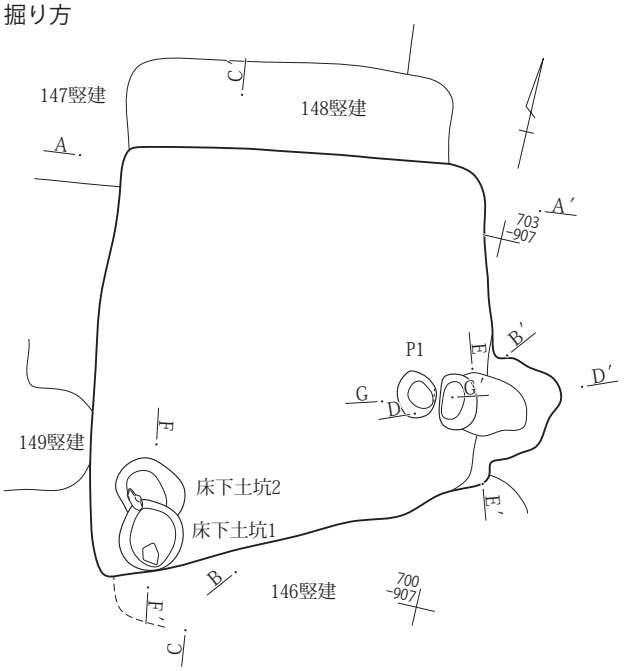
第199図　３面　Ｇ３区144号竪穴建物

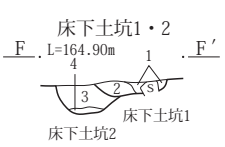
145号竪穴建物

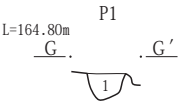


145号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C少量、遺物を含む。小礫約1㎝を含む。しまり強、粘性弱。
2　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄橙色粒・As-C少量含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄橙色粒多量含む。色味は明るい、しまり弱、粘性あり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム大塊を含む。しまりややあり、粘性あり。カマド構築材崩落土
5　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒を含む。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土(10YR2/2)　灰主体、炭化物を含む。しまり・粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊を含む。上面が床面で硬化、粘性弱。
8　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・粒を含む。しまりやや弱、粘性あり。
9　灰黄褐色土(10YR2/2)　ローム小～大塊多量、炭化物を含む。焼土粒微量、しまり・粘性あり。
10　灰黄褐色土(10YR2/2)　焼土小塊・粒少量含む。しまり・粘性あり。
C-C′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C少量・小礫約1㎝を含む。遺物を含む。しまり強、粘性弱。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊を含む。上面が床面で硬化、粘性弱。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・粒を含む。しまりやや弱、粘性あり。

掘り方





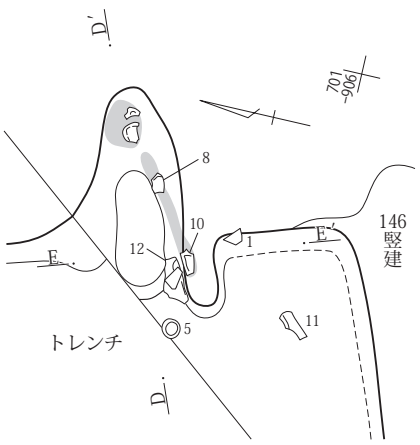


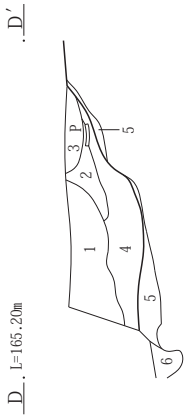
床下土坑１・２F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　小礫、遺物を含む。しまり弱、粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊・粒を含む。しまりややあり、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒を含む。しまり弱、粘性あり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量含む。しまり・粘性あり。
P１G-G′
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土粒少量、ローム粒を含む。しまりややあり、粘性あり。

0　1：60　2m

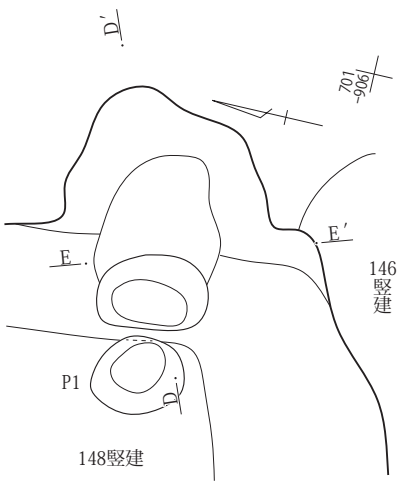
第200図　３面　Ｇ３区145号竪穴建物

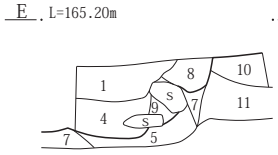
カマド





カマド掘り方

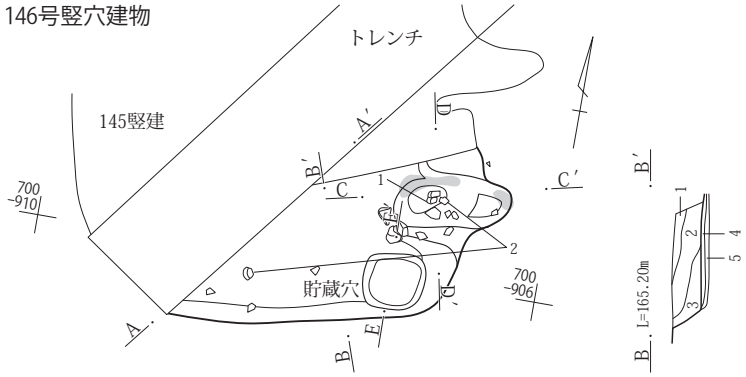




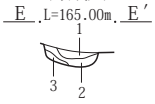
D–D′・E–E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒を含む。しまり・粘性あり。
2　褐灰色土(7.5YR4/1)　焼土粒多量、ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　焼土粒少量、遺物を含む。しまり・粘性あり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム大塊を含む。しまりややあり、粘性あり。カマド構築材崩落土。
5　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒多量含む。しまりややあり、粘性あり。
6　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土粒少量、ローム粒を含む。しまりややあり、粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム塊約１㎝、ローム粒多量含む。しまりやや弱、粘性あり。
8　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
9　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム大塊、焼土粒多量含む。しまり強、粘性あり。カマド構築材。
10　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。
11　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１㎝塊少量含む。しまり・粘性あり。

0　1：30　1m

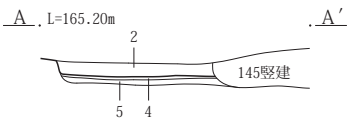
146号竪穴建物



貯蔵穴



貯蔵穴E–E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム小塊・粒多量、焼土小塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム大塊主体、焼土粒少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊を含む。しまりやや弱、粘性強。

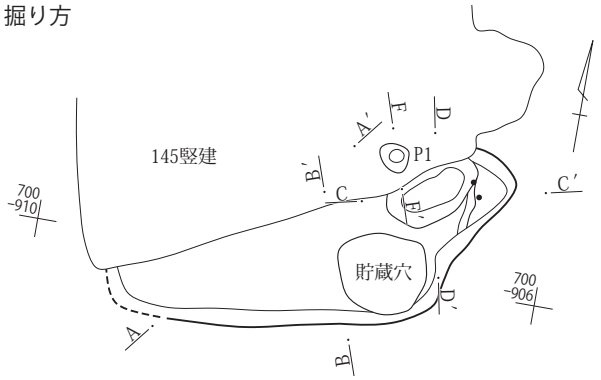


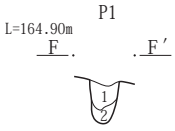
146号竪穴建物A–A′・B–B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、ローム粒を含む。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　にぶい黄橙色小粒約５㎜・炭化物少量、焼土粒微量含む。しまりややあり、粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・ローム粒少量、小礫を含む。しまり弱、粘性強。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊を含む。上面が床面で硬化、粘性弱。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　黒褐色土を含む。しまり強、粘性あり。

0　1：60　2m

第201図　３面　Ｇ３区145・146号竪穴建物

掘り方

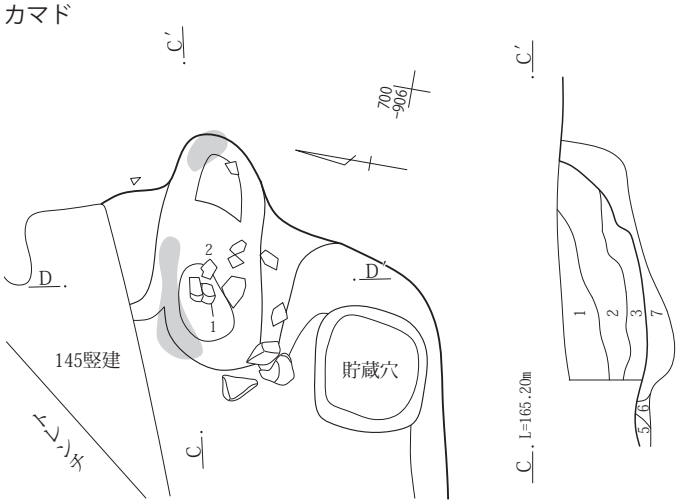


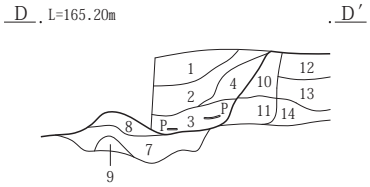


P１F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１㎝塊多量含む。色味は明るい、しまり・粘性あり。

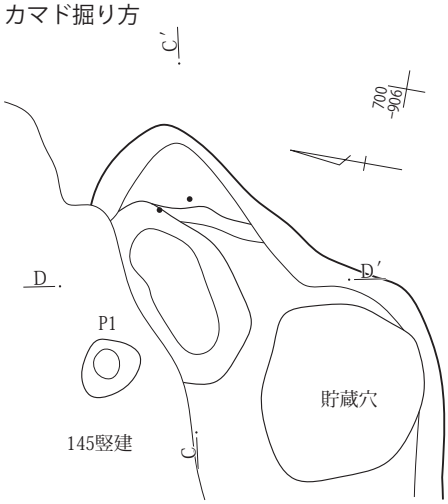
0　1：60　2m

カマド





カマド掘り方

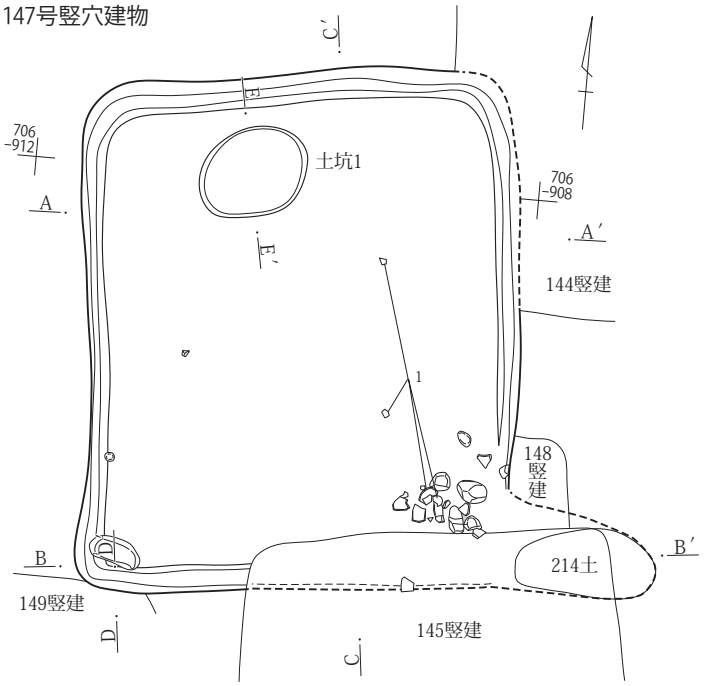


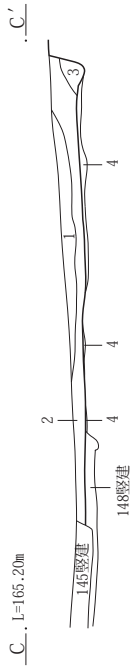
カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、ローム粒を含む。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　焼土小塊・粒・にぶい黄橙色小粒約５㎜少量含む。しまり・粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土小～大塊・灰を含む。しまり弱、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-C・焼土小塊少量、小礫を含む。しまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。
6　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒多量、焼土粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。
7　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊、しまり強、粘性あり。
8　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。
9　明赤褐色土(5YR5/6)　焼土塊、しまり強、粘性弱。
10　黒褐色土(10YR3/2)　灰白色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
11　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
12　黒褐色土(10YR3/2)　灰白色粒少量含む。しまり・粘性あり。
13　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄褐色土を含む。しまり・粘性あり。
14　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　しまりややあり、粘性あり。

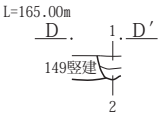
0　1：30　1m

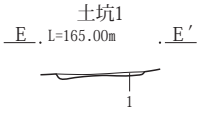
第202図　３面　Ｇ３区146号竪穴建物

147号竪穴建物



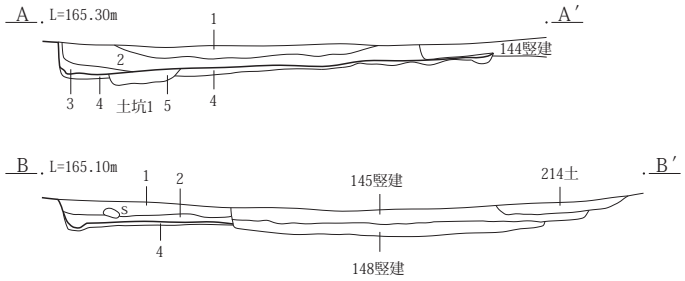






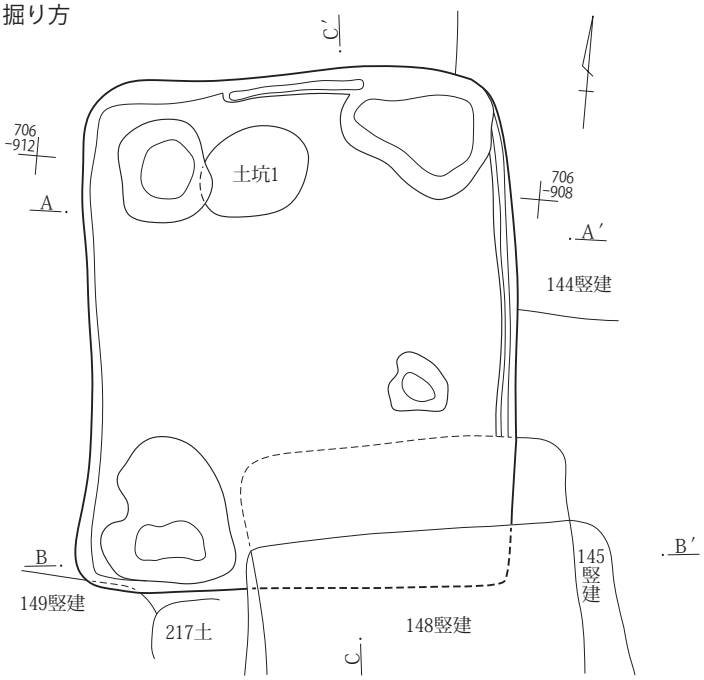
D-D′
1　黒褐色土(2.5Y3/2)　ローム小塊少量､As-C微量､大礫を含む。しまり・粘性あり。
2　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　ローム約１cm塊を含む。しまり・粘性あり。

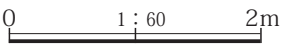
土坑１E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・粒を含む。しまり弱、粘性あり。



147号竪穴建物A-A′・-B-B′・C-C′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C少量含む。しまり強、粘性ややあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊粒・多量、炭化物を含む。しまり強、粘性あり。
3　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム大塊、壁崩落土、しまりややあり、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小～大塊多量含む。しまりやや弱、粘性あり。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量、ローム約１cm塊を含む。しまりややあり、粘性あり。掘り方。

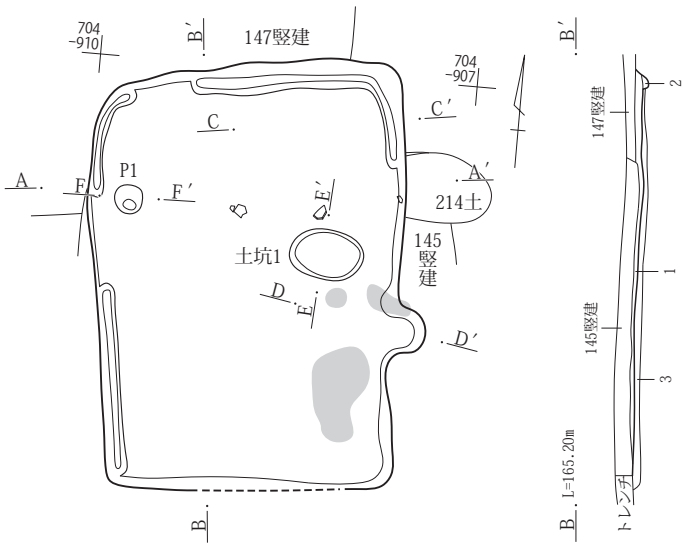
掘り方

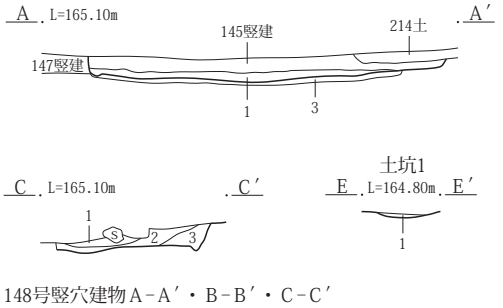




第203図　３面　Ｇ３区147号竪穴建物

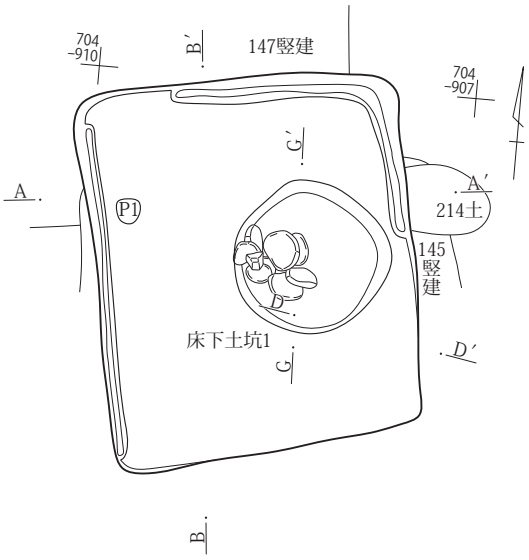
148号竪穴建物

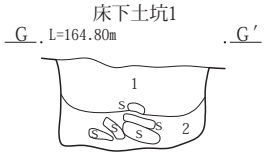




148号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′・Ｃ－Ｃ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒を含む。カマド構築材の礫か、しまりやや弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　ローム小～大塊を含む。焼土粒・As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
土坑１E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム約１㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。床下土坑１の上層。
Ｐ１F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・粒を含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊･粒多量含む。１層よりしまり弱､粘性あり。

掘り方

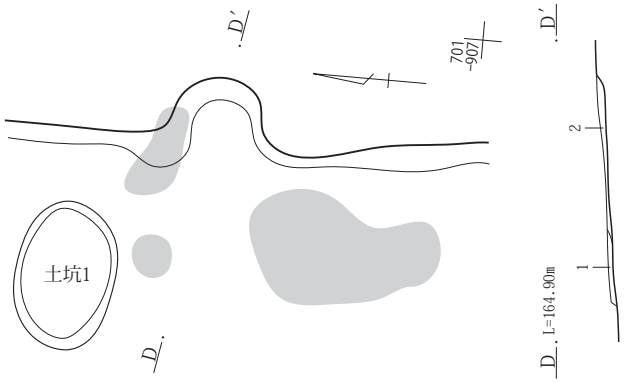




床下土坑１G-G′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・As-YP少量で均質、しまり強、粘性あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊・粒を含む。As-YP多量、焼土小塊を含む。しまり･粘性あり。

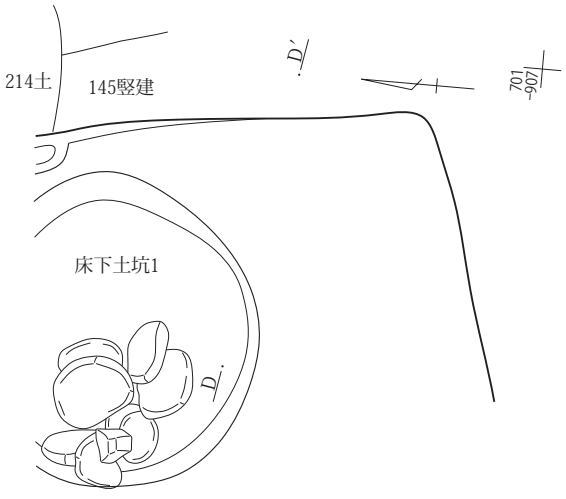
0　1：60　2m

カマド



カマドD-D′
1　暗赤褐色土(5YR3/2)　焼土小塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土小塊・ローム粒少量含む。しまり・粘性あり。

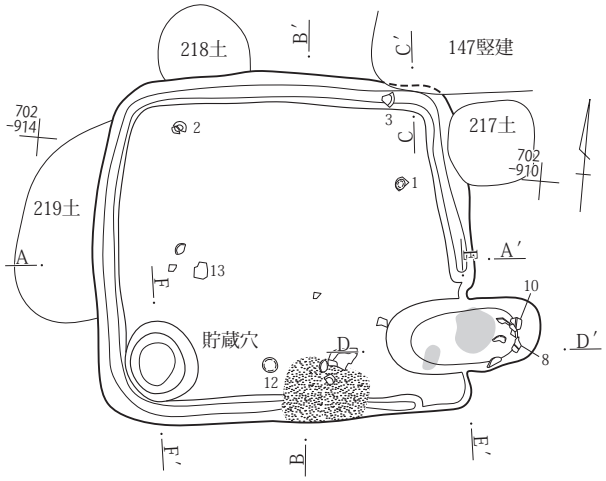
カマド掘り方

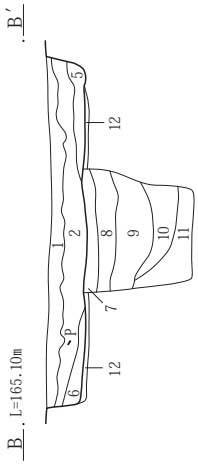


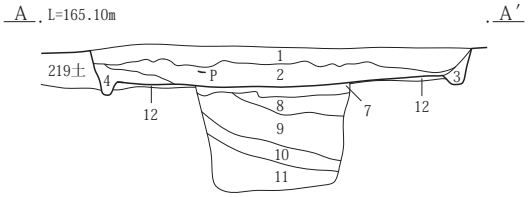
0　1：30　1m

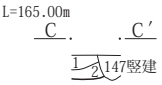
第204図　３面　Ｇ３区148号竪穴建物

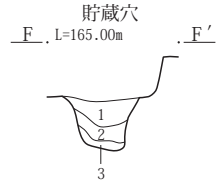
149号竪穴建物









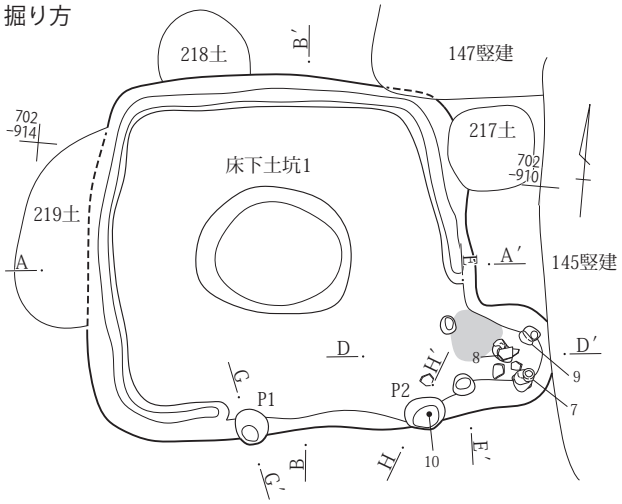


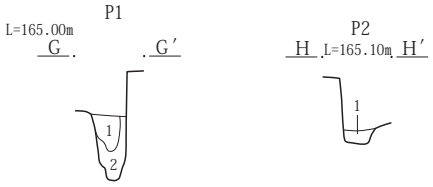
149号竪穴建物A-A′・-B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 多量、黄橙色粒・ローム塊土・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・ローム塊土少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・ローム粒若干含む。しまりややあり。
4　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・ローム粒少量含む。しまりややあり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・ローム粒若干含む。しまりあまりなし。
6　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・ローム粒若干含む。しまりややあり。
7　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒少量含む。しまりややあし。
8　As-YP軽石層。
9　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP軽石多量、黄褐色塊土少量含む。
10　As-YP軽石層。
11　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP軽石多量、黄褐色塊土少量含む。
12　褐灰色土(7.5YR4/1)　にぶい黄橙色粘質土多量含む。しまり弱、粘性強。

C-C′
1　黒褐色土(2.5Y3/1)　As-C 少量、ローム粒を含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　黒褐色土(2.5Y3/1)　As-C 微量、ローム小塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。

貯蔵穴F-F′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊・粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒多量含む。しまりややあり、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・粒多量含む。しまりややあり、粘性あり。

掘り方





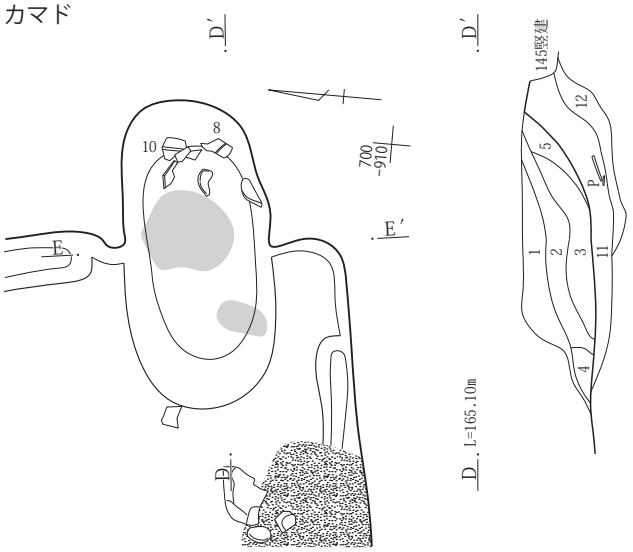
P 1 G-G′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム塊約１㎝少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。

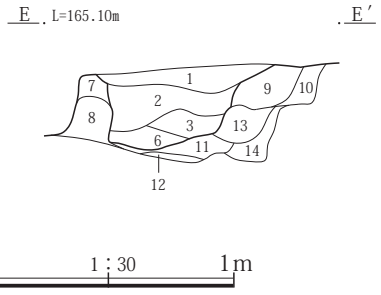
P 2 H-H′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C 多量、遺物を含む。ローム粒を含む。しまり弱、粘性あり。

0　1：60　2m

第205図　３面　Ｇ３区149号竪穴建物

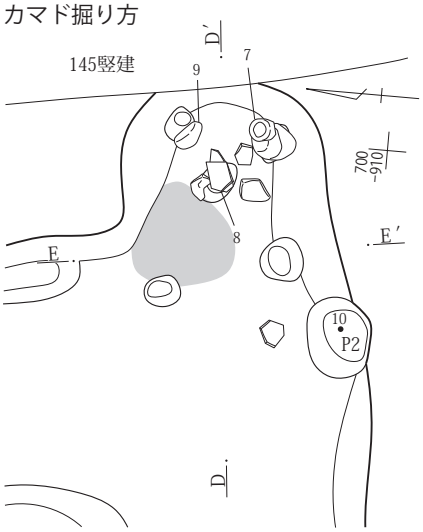
カマド





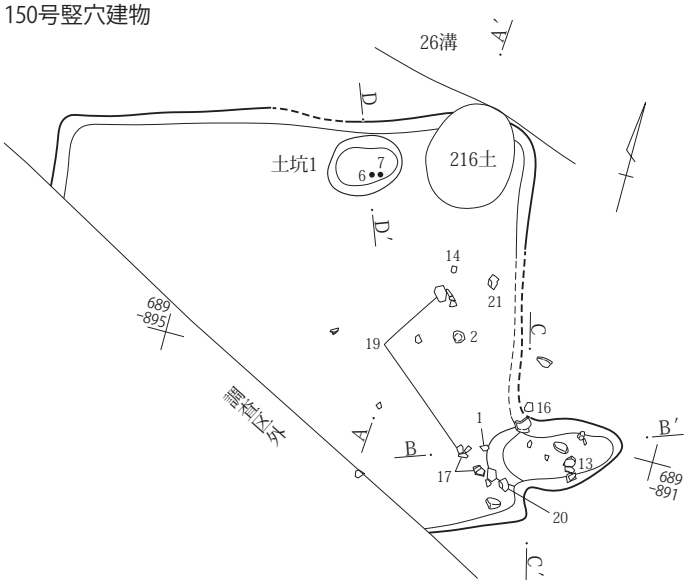
0　1：30　1m

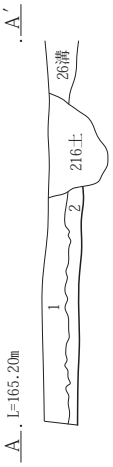
カマド掘り方

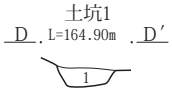


カマドD-D′・E-E′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C少量、ローム約1㎝塊・炭化物を含む。しまり強、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒多量、焼土粒・As-C少量含む。しまり・粘性あり。
3　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム小～大塊多量、焼土小塊・にぶい黄橙色粒を含む。しまり・粘性あり。
4　黄橙色土(10YR7/8)　ローム塊。しまり・粘性あり。カマド構築材崩落土
5　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒多量、焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土(7.5YR3/2)　ローム粒多量、焼土小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
7　黒褐色土(10YR2/1)　ローム粒・焼土粒少量、にぶい黄橙色粒を含む。しまり弱、粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　にぶい黄橙色粒多量、ローム小～大塊を含む。しまり弱、粘性あり。
9　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　7層に類似、色味は明るい、しまり・粘性あり。
10　褐色土(10YR4/4)　しまり・粘性あり。
11　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒・灰白色粒少量含む。しまり・粘性あり。
12　明赤褐色土(5YR5/6)　焼土塊。しまり・粘性あり。
13　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　ローム大塊多量含む。しまり・粘性あり。
14　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土約1㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。

150号竪穴建物







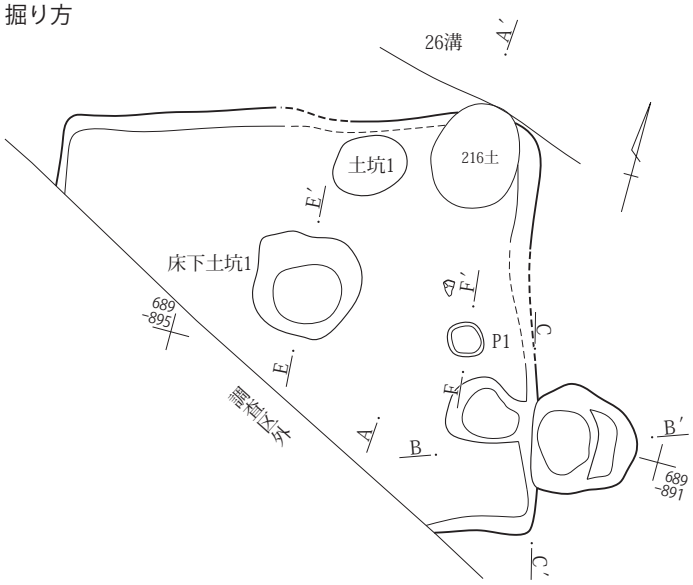
150号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、黄褐色粒・焼土粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色土20％程、焼土粒少量、As-C・炭化物粒若干含む。しまりややあり。

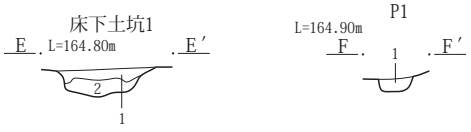
土坑1 D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、黄褐色粒若干含む。しまりややあり。

0　1：60　2m

第206図　３面　Ｇ３区149・150号竪穴建物

掘り方



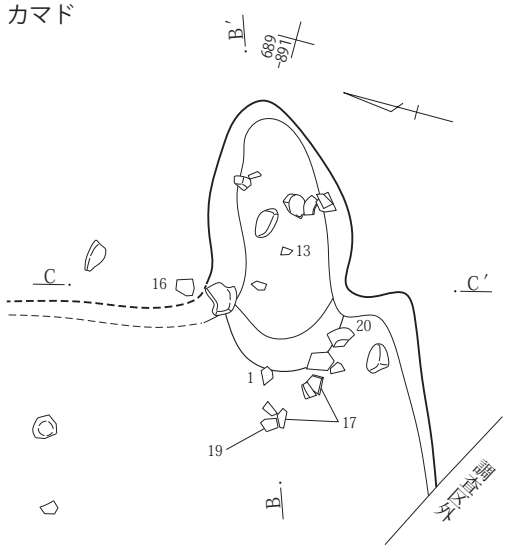


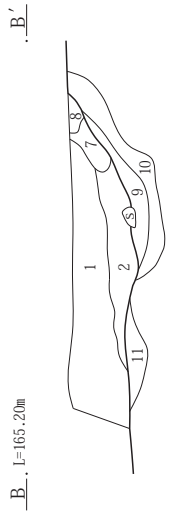
床下土坑１E-E′
1　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色塊土大量、黒褐色土10％程含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄褐色塊土多量含む。しまりややあり。

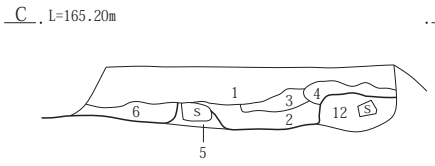
Ｐ１F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・炭化物粒多量含む。しまりあまりなし。

0　1：60　2m

カマド

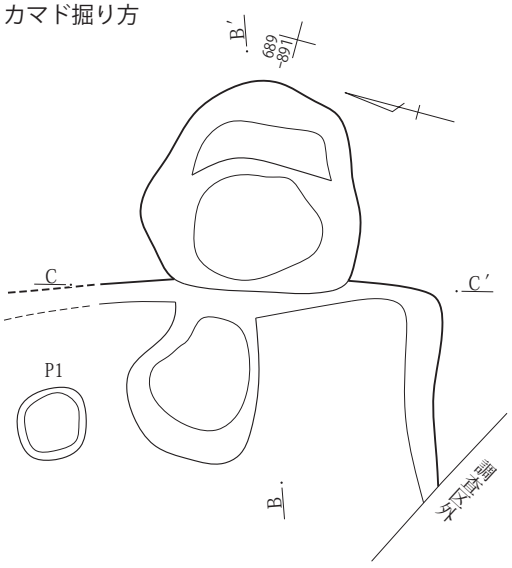






カマド B-B′・C-C′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・ローム粒少量､焼土粒･炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒多量、ローム粒少量含む。しまりあまりなし。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム塊土・粒少量、As-C・焼土粒・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
4　黄褐色土(10YR5/6)　As-C少量、炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。
5　黄褐色土(10YR5/6)　As-C少量、炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。
6　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色土20％程、焼土粒少量、As-C・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
7　黄褐色土(10YR5/6)　焼土粒・As-C若干含む。しまりややあり。
8　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒・焼土粒若干含む。しまりややあり。
9　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒多量、As-C・黄褐色土粒少量含む。しまりややあり。
10　暗褐色土(10YR3/3)　砂質、焼土粒・ローム粒若干含む。しまりややあり。
11　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒少量、As-C若干含む。しまりあり。
12　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土多量、焼土粒・炭化物粒・As-C少量含む。しまりややあり。

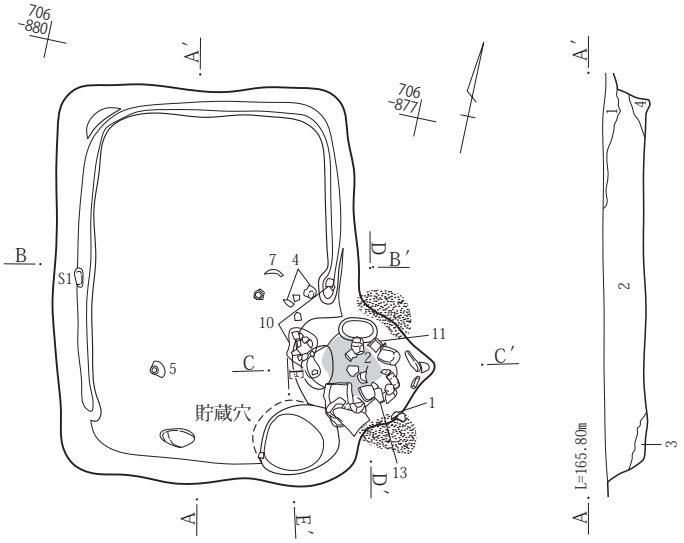
カマド掘り方



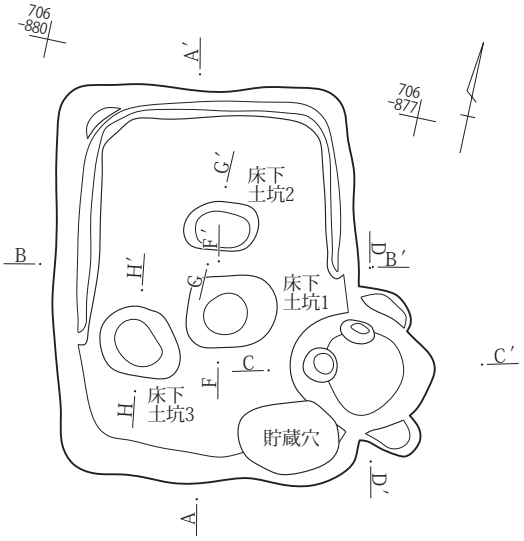
0　1：30　1m

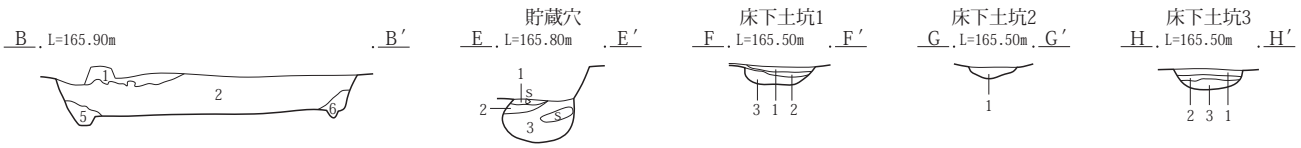
第207図　３面　Ｇ３区150号竪穴建物

151号竪穴建物



掘り方





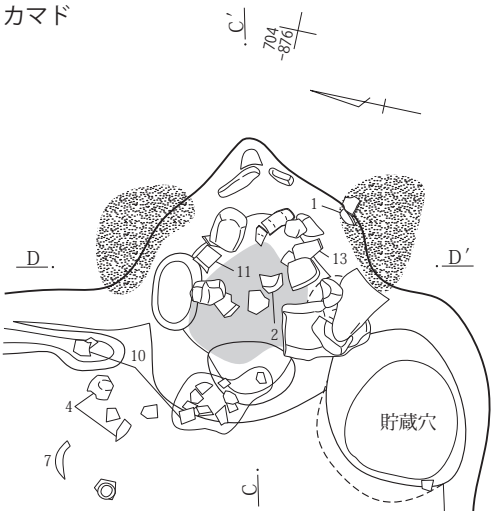
151号竪穴建物A-A′・-B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　砂質、ざらざらした砂を多く、As-C多量、黄褐色粒若干含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄橙色粒少量、焼土粒・ローム塊土若干含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・焼土粒・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。
5　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒少量、As-C若干含む。しまりあまりなし。
貯蔵穴 E-E′
1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・炭化物粒多量、黄褐色粒若干含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄橙色粒少量含む。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・黄橙色粒若干含む。しまりあまりなし。

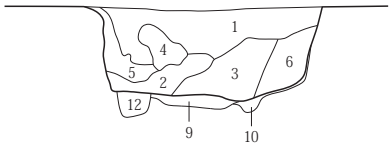
床下土坑1 F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　黄褐色塊土多量、黒褐色土10%程、炭化物粒・As-C若干含む。しまりあり。
3　黄褐色土(10YR5/6)　黒褐色土40%程、炭化物粒・焼土粒若干含む。しまりややあり。
床下土坑2 G-G′
1　暗褐色土(10YR3/4)　黄褐色塊土多量、炭化物粒・As-C少量含む。しまりあり。
床下土坑3 H-H′
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　黄褐色土塊土・炭化物粒少量、As-C・焼土粒若干含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C若干含む。しまりややあり。
3　黄褐色土(10YR5/6)　黄褐色塊土・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。

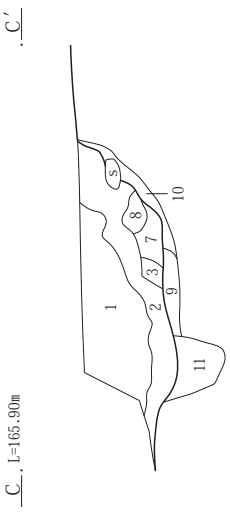
0　1：60　2m

第208図　３面　Ｇ３区151号竪穴建物

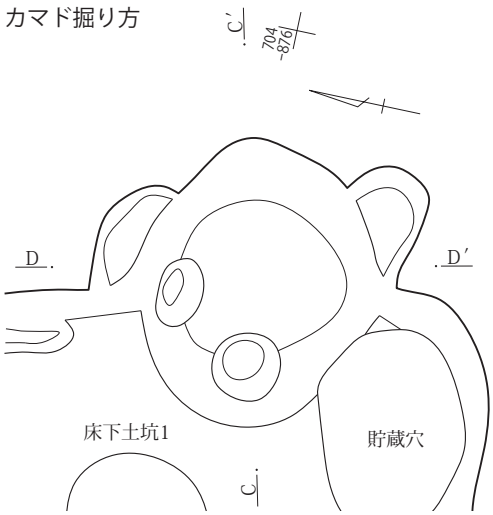
カマド





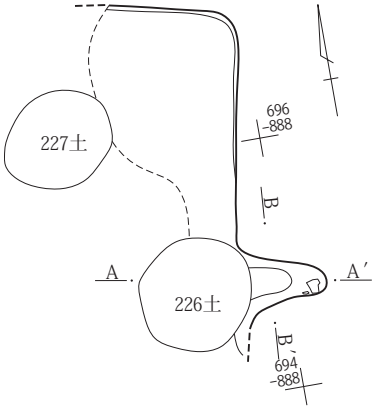


カマド掘り方

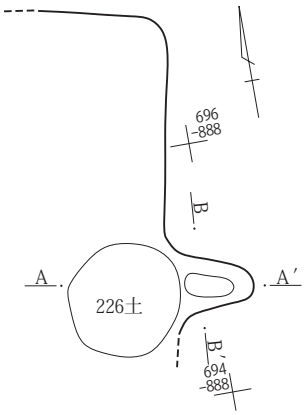


カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム塊・As-C多量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　焼土粒少量、ローム粒・As-C若干含む。しまりあまりなし。
3　黄褐色土(10YR5/6)　As-C・焼土粒若干含む。しまりややあり。
4　黄褐色塊土(10YR5/6)　黒褐色土10%程、As-C・焼土粒若干含む。しまりややあり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・ローム粒・ローム塊少量、As-C若干含む。しまりあまりなし。
6　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒少量、As-C・黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。
7　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・ローム塊少量、焼土粒・As-C若干含む。しまりややあり。
8　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・焼土粒若干含む。しまりあまりなし。
9　明赤褐色土(5YR5/8)　焼土、しまりあり。
10　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土少量、焼土粒若干含む。しまりややあり。
11　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒多量、黄褐色塊土少量含む。しまりあまりなし。
12　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物粒・焼土粒・黄褐色粒少量含む。しまりあまりなし。

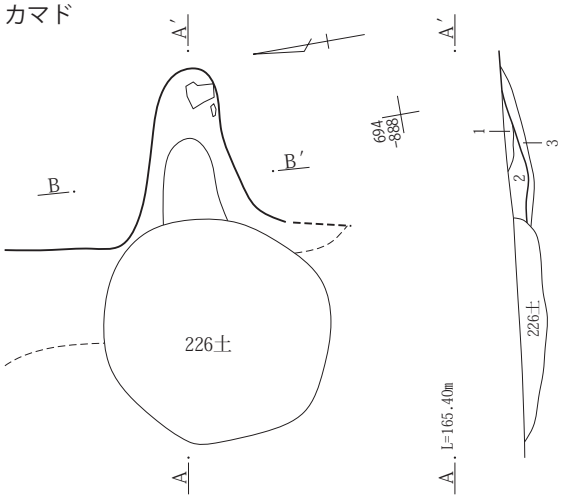
152号竪穴建物



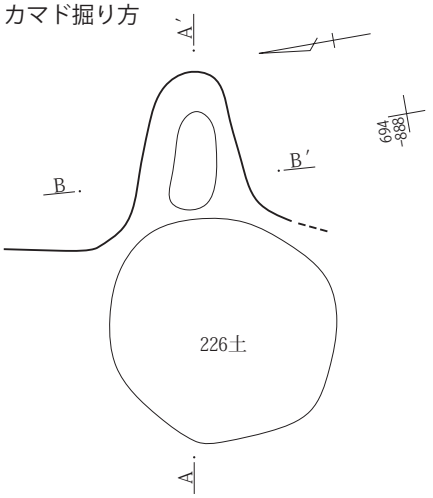
掘り方

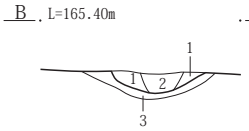


カマド



カマド掘り方



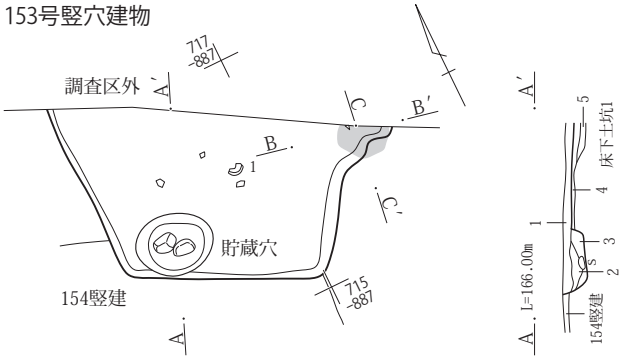


152号竪穴建物カマドA-A′・B-B′
1　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒多量、ローム小塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・焼土粒・炭化物を含む。しまり弱、粘性あり。
3　褐色土(10YR4/4)　ローム小塊・粒を含む。しまりやや弱、粘性あり。

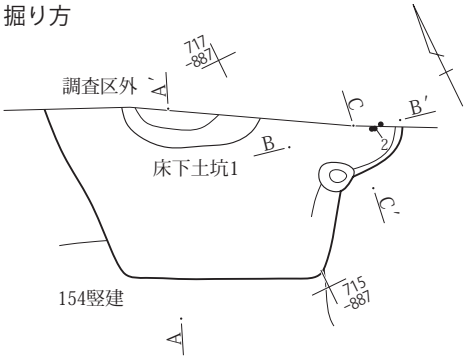
0　1：30　1m
0　1：60　2m

第209図　３面　Ｇ３区151・152号竪穴建物

153号竪穴建物



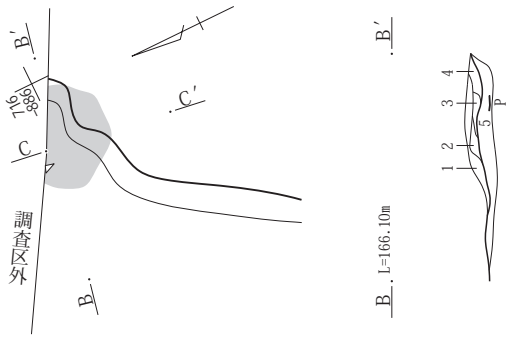
掘り方



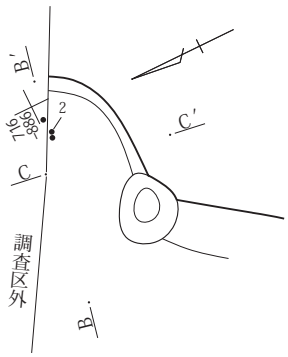
153号竪穴建物A-A′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/2)　As-C均質・ローム小塊少量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒を含む。しまり・粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒・円礫を含む。しまり弱、粘性あり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小～大塊多量含む。硬化、粘性弱。
5　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊少量、にぶい黄橙色粒を含む。しまり弱、粘性あり。

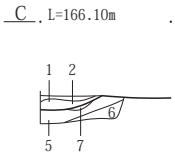
0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方



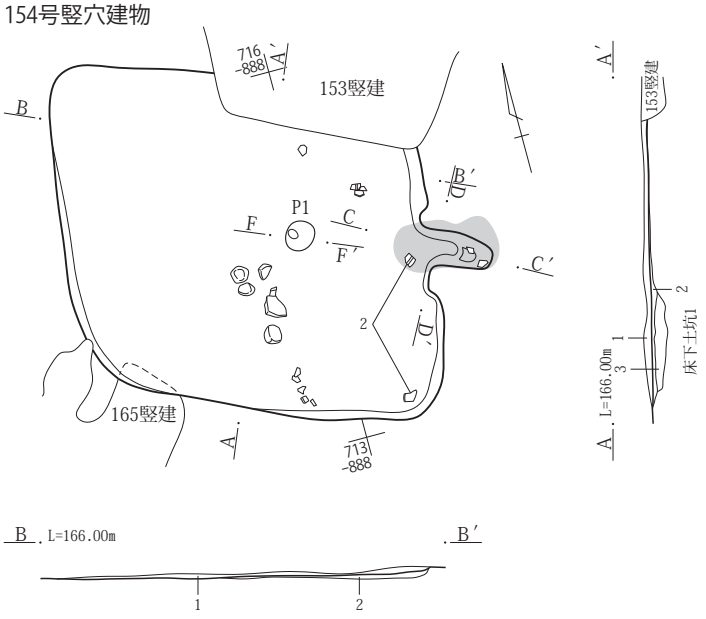


カマドB-B′・C-C′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土粒少量、ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
2　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊。しまり・粘性あり。
3　赤褐色土(2.5YR4/6)　焼土塊、しまりやや弱、粘性あり。
4　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土、焼土粒を含む。しまり弱、粘性ややあり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・粒多量、炭化物少量含む。しまり弱、粘性あり。
6　明黄褐色土(10YR6/6)　黒褐色土・焼土粒・炭化物少量含む。しまり・粘性あり。
7　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊。しまり強、粘性弱。

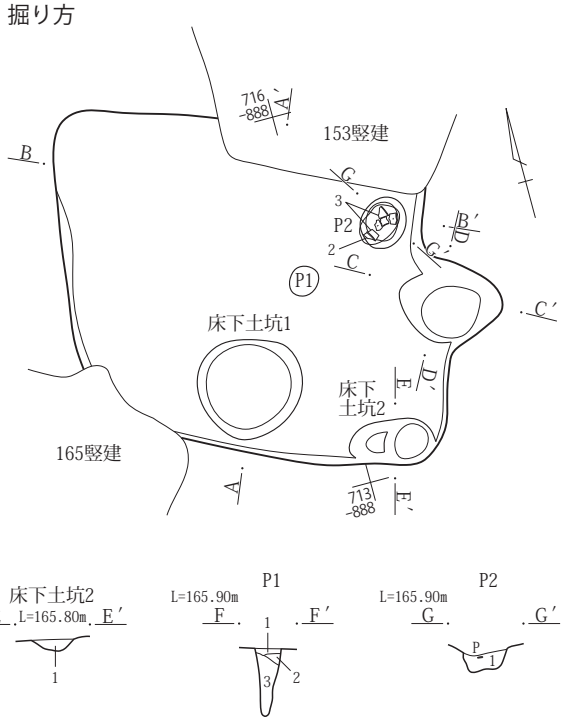
0　1：30　1m

第210図　３面　Ｇ３区153号竪穴建物

154号竪穴建物



掘り方



154号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、ローム粒を含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　1層に類似、灰白色粒少量、ローム小塊を含む。しまりややあり、粘性あり。掘り方。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒多量含む。しまりややあり、粘性あり。床下土坑1埋没土。

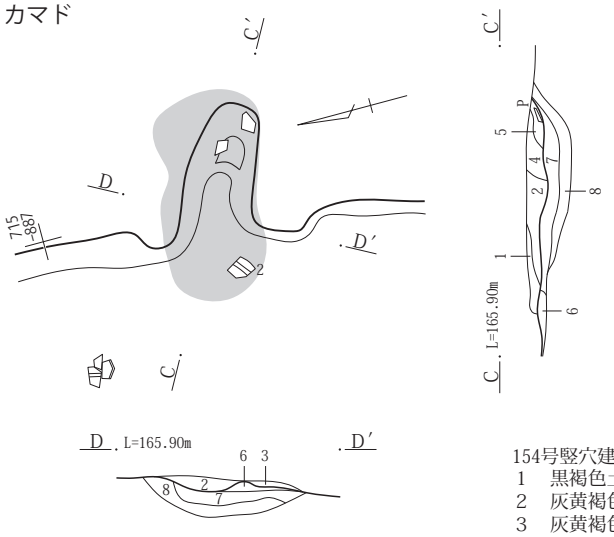
床下土坑2 E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　にぶい黄橙色粒少量、ローム粒を含む。しまりややあり、粘性あり。

P1 F-F′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム大塊主体、しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊多量含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒下層に含む。しまり・粘性あり。

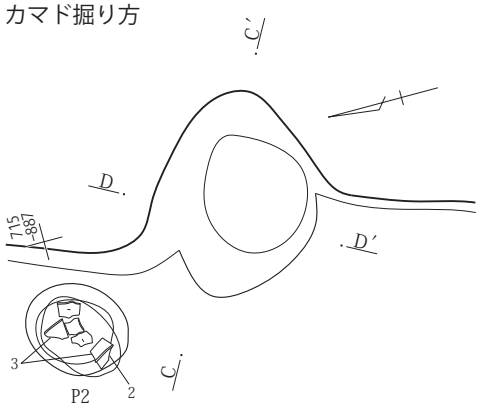
P2 G-G′
1　暗褐色土(10YR3/3)　にぶい黄橙色粒・炭化物を含む。遺物を含む。しまり強、粘性あり。

0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方

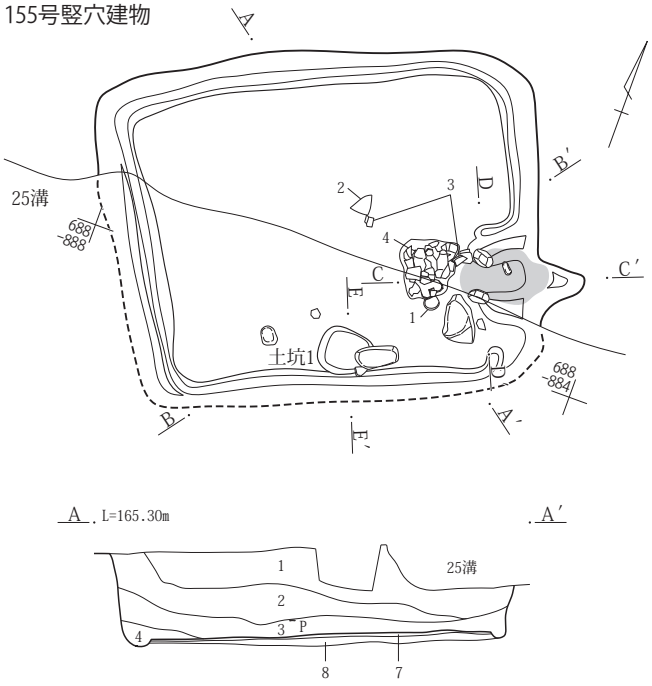


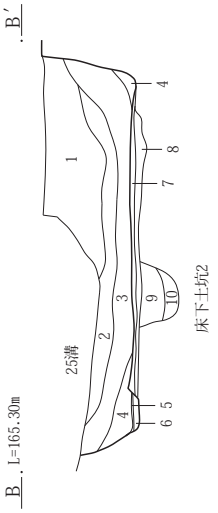
154号竪穴建物カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR4/1)　焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒・ローム粒多量、As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
3　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒多量、ローム塊を含む。しまり・粘性あり。
4　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒・ローム粒多量、炭化物・灰を含む。しまり・粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム小塊・粒多量含む。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土小塊少量、炭化物を含む。しまり・粘性弱。
8　黄褐色土(10YR5/6)　灰黄褐色土を含む。しまりやや弱、粘性あり。

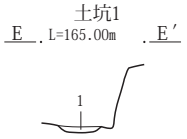
0　1：30　1m

第211図　３面　Ｇ３区154号竪穴建物

155号竪穴建物



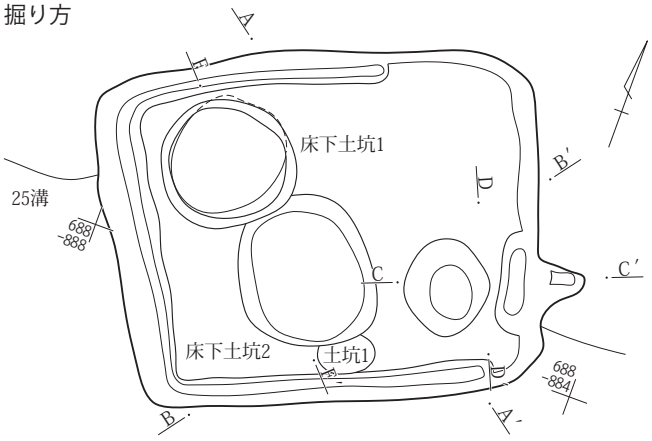


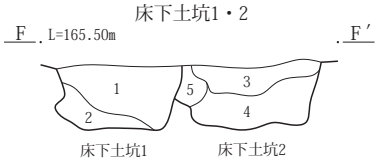


土坑１E-E′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊・粒多量含む。しまり弱、粘性強。

155号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量、As-C少量含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄橙色粒少量、暗褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量、ローム小塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　黒褐色土(10YR3/1)　２層に類似、にぶい黄橙色粒少量、ローム粒を含む。しまりややあり、粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム塊主体、しまり弱、粘性強。壁面崩落土。
6　黒褐色土(10YR3/2)　周溝埋没土、ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
7　黒褐色土(10YR3/2)　ローム大塊を含む。しまり強、粘性あり。
8　黒褐色土(10YR3/2)　ローム大塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
9　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　１層に類似、ローム約３～５㎝塊多量、黒褐色土少量含む。しまり・粘性ややあり。９・10層は床下土坑２埋没土。
10　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP少量、黒褐色土を含む。しまり強、粘性あり。

掘り方



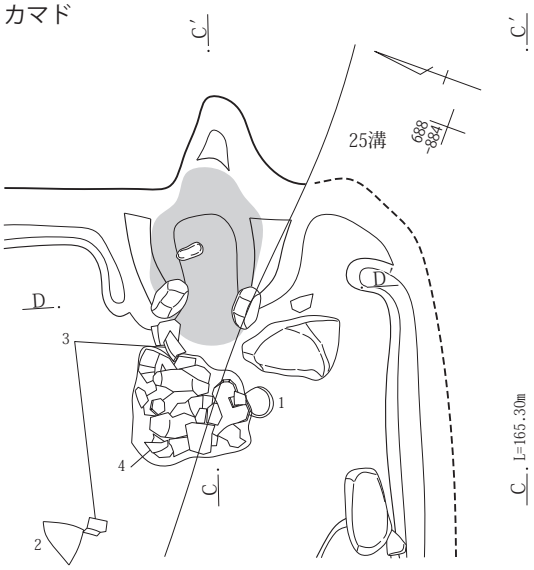


床下土坑１・２F-F′
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　As-YP主体、ローム大塊を含む。しまりあり、粘性なし。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　As-YP多量、黒褐色土・ローム大塊を含む。しまりあり、粘性ややあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　１層に類似、ローム約３～５㎝塊多量、黒褐色土少量含む。しまり・粘性ややあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP少量、黒褐色土を含む。しまり強、粘性あり。
5　明黄褐色土(10YR6/6)　As-YP多量含む。しまり弱、粘性あり。

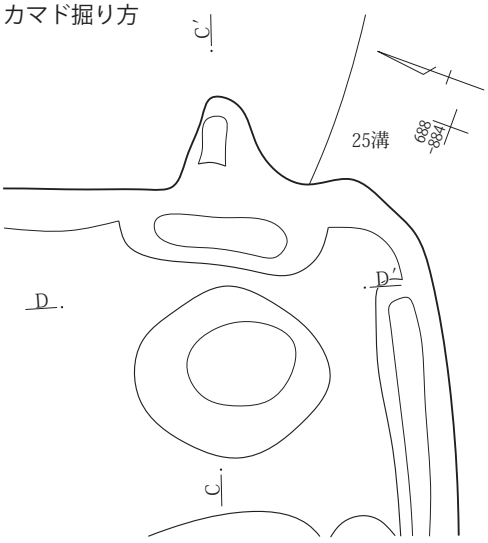
0　1：60　2m

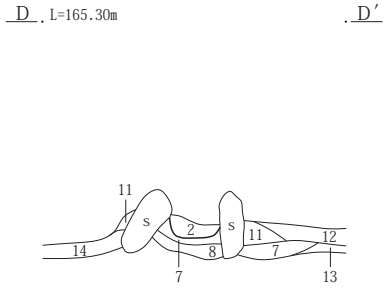
第212図　３面　Ｇ３区155号竪穴建物

カマド



カマド掘り方

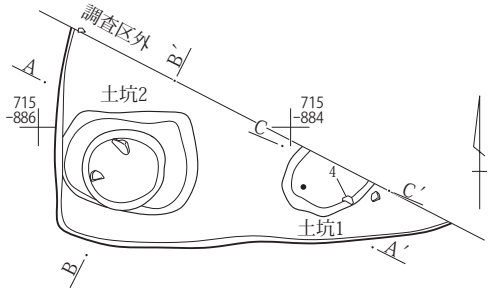


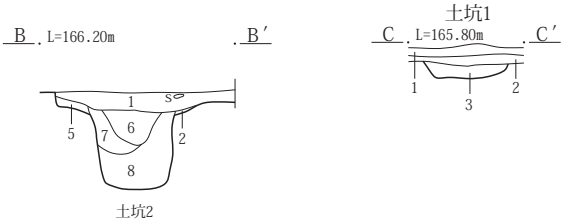


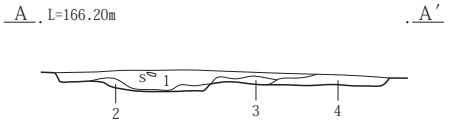
カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(5YR4/1)　焼土粒少量、小礫を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒多量含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量、暗褐色土を含む。しまり・粘性あり。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒多量、As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム小塊多量、焼土粒少量、黒色土を含む。しまりやや弱、粘性あり。
6　明黄褐色土(10YR6/6)　焼土小塊・粒少量、ローム小塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
7　黒褐色土(5YR3/1)　焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
8　黒褐色土(5YR2/1)　As-YP少量、焼土大塊を含む。しまり弱、粘性あり。
9　黒褐色土(7.5YR3/1)　ローム小塊多量、焼土粒少量、As-YPを含む。しまり弱、粘性あり。
10　明黄褐色土(10YR4/3)　ローム大塊、しまり・粘性あり。
11　黒褐色土(7.5YR3/1)　ローム小～大塊多量、炭化物を含む。しまり弱、粘性あり。
12　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小～大塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
13　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム塊多量含む。しまり・粘性あり。
14　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を含む。しまり・粘性あり。
15　黒褐色土(10YR3/2)　ローム大塊を含む。しまり強、粘性あり。
16　黒褐色土(10YR3/2)　ローム大塊・As-YP多量含む。しまり弱、粘性あり。

0　1：30　1m

156号竪穴建物





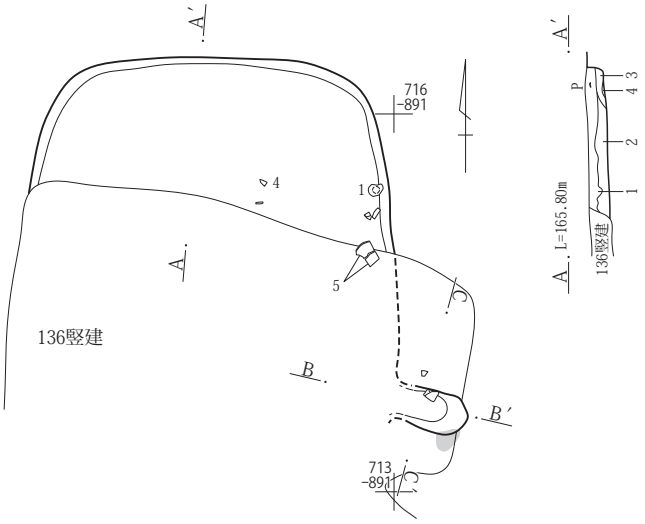


156号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒少量、ローム粒を含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小～大塊多量含む。しまり・粘性あり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒・炭化物・焼土粒を含む。しまり強、粘性あり。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒・炭化物を含む。しまり・粘性あり。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　色味は暗い、しまり弱、粘性あり。
8　灰黄褐色土(10YR4/2)　２層に類似、大礫を含む。しまり弱、粘性あり。
土坑１C-C′
1　暗褐色土(10YR3/3)　にぶい黄橙色粒少量、ローム粒を含む。しまりややあり、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム大塊・暗褐色土を含む。しまりややあり、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約１～３㎝塊・粒多量含む。しまりややあり、粘性あり。

0　1：60　2m

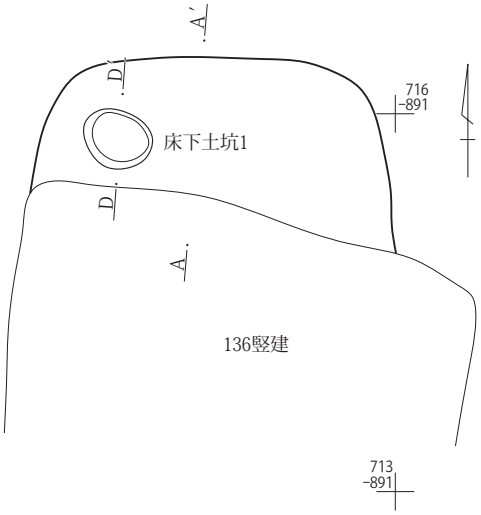
第213図　３面　Ｇ３区155・156号竪穴建物

157号竪穴建物



157号竪穴建物A−A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　白色粒多量、黄褐色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　白色粒・黄褐色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。
3　黒色土(10YR2/1)　２層に類似するが、やや黒味が強い。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量、白色粒及び焼土粒若干含む。しまりややあり。

掘り方

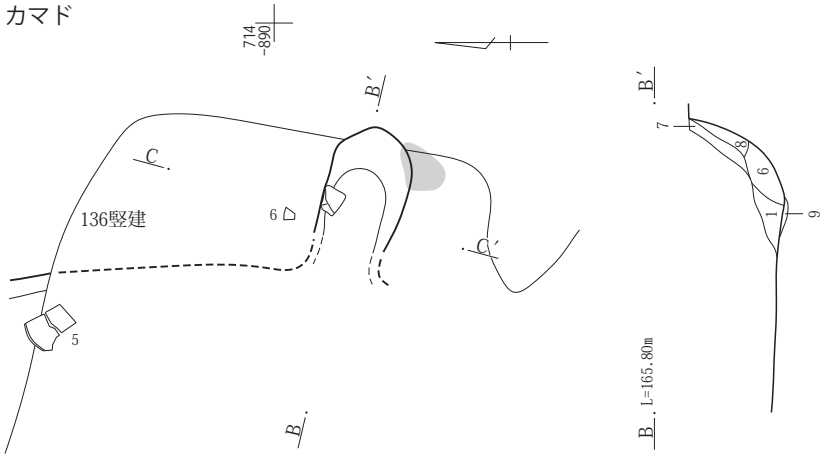


床下土坑1
D　L=165.70m　D′
1

床下土坑１D−D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土多量含む。しまりややあり。

0　1：60　2m

カマド



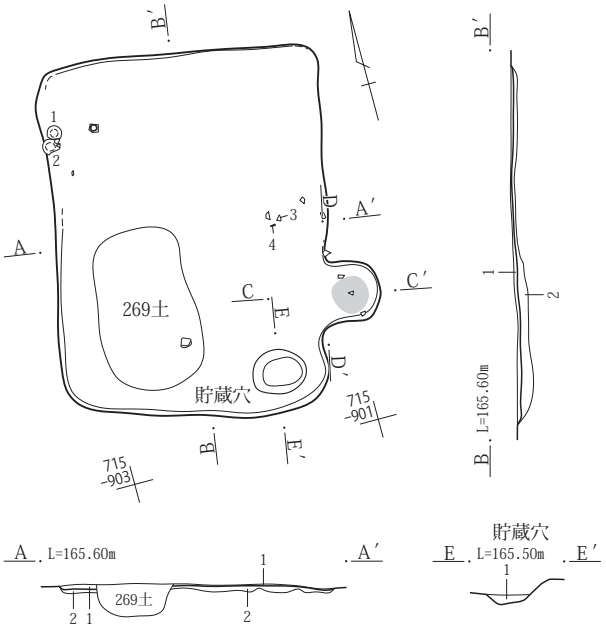
C　L=165.80m　C′

カマドB−B′・C−C′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒多量、焼土粒少量、炭化物粒若干。しまりあまりなし。
2　黄褐色土(10YR5/6)　黄褐色土塊土・As−C・焼土粒少量含む。しまりややあり、
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　黄褐色塊土・炭化物粒・As−C少量含む。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR2/2)　As−C・黄褐色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。
5　暗褐色土(10YR3/3)　As−C・黄褐色粒多量含む。しまりあまりなし。
6　黄褐色土(10YR5/6)　As−C若干、暗褐色土・黒褐色土20％程含む。しまりややあり。
7　黒褐色土(10YR3/2)　As−C少量、黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
8　黒褐色土(10YR2/2)　As−C多量含む。しまりややあり。
9　黄褐色土(10YR5/6)　しまりあり。
10　赤褐色土塊

0　1：30　1m

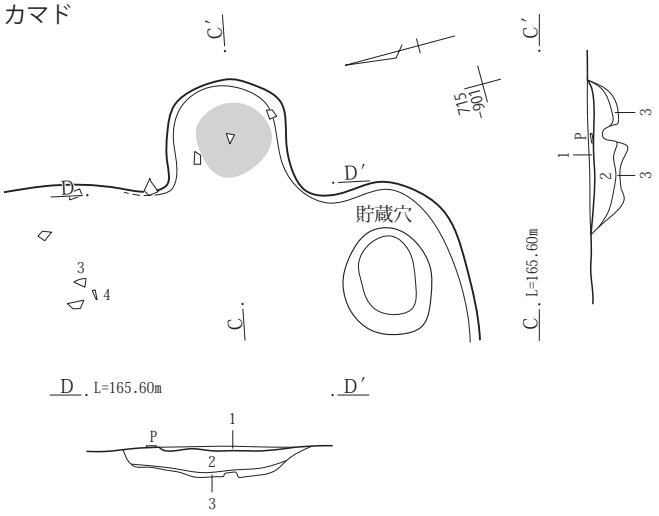
第214図　３面　Ｇ３区157号竪穴建物

158号竪穴建物



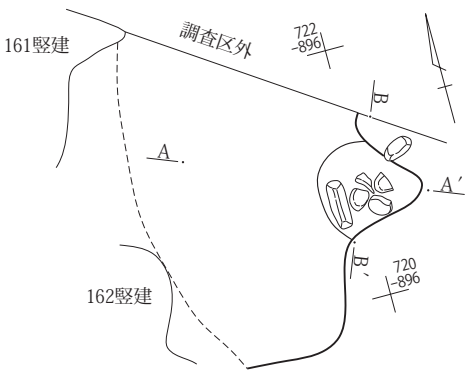
158号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、炭化物粒少量、黄褐色粒若干含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土多量、As-C少量含む。しまりややあり。

カマド

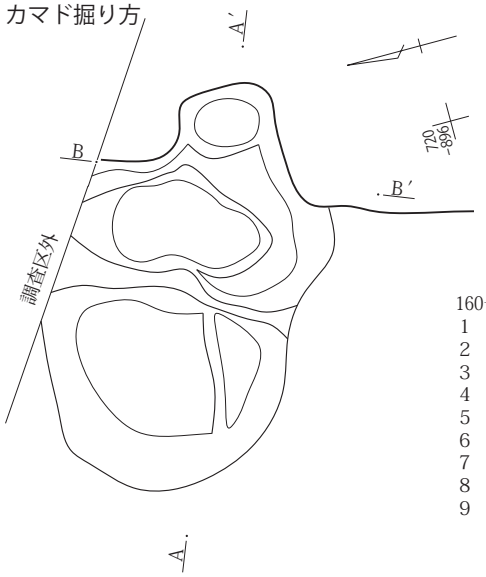


カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR2/2)　炭化物粒・As-C・焼土粒少量含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。
貯蔵穴E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土多量、As-C少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。

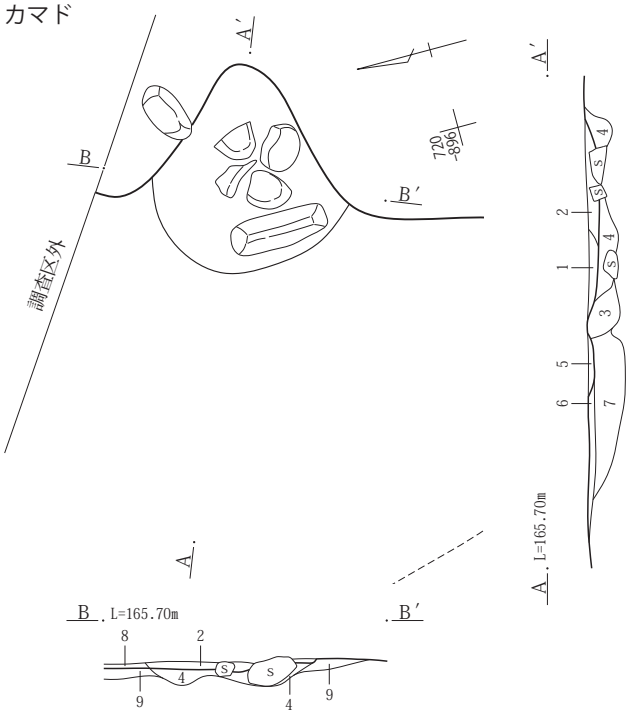
160号竪穴建物



カマド掘り方



カマド

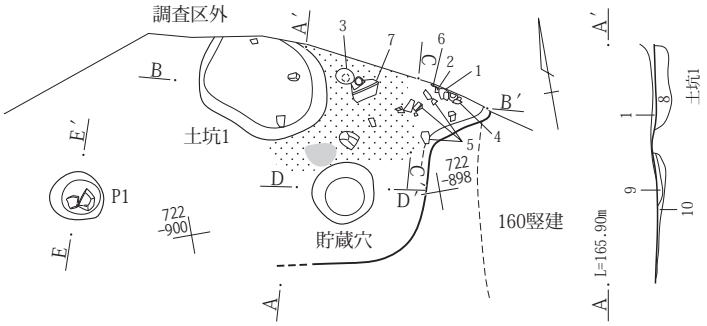


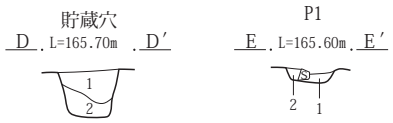
160号竪穴建物カマドA-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒少量、炭化物を含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小～大塊多量、焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　黒褐色土・As-YP・焼土小塊を含む。しまり・粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土・炭化物少量、As-YP・ローム小塊・粒を含む。しまり・粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒少量、ローム粒を含む。しまり弱、粘性あり。
6　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊、しまり強、粘性弱。上面が床面。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム大塊多量含む。しまり・粘性あり。
8　黒褐色土(10YR2/2)　ローム小塊多量、焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
9　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム約３㎝塊・粒多量含む。しまり・粘性あり。

0　1：30　1m
0　1：60　2m

第215図　３面　Ｇ３区158・160号竪穴建物

161号竪穴建物

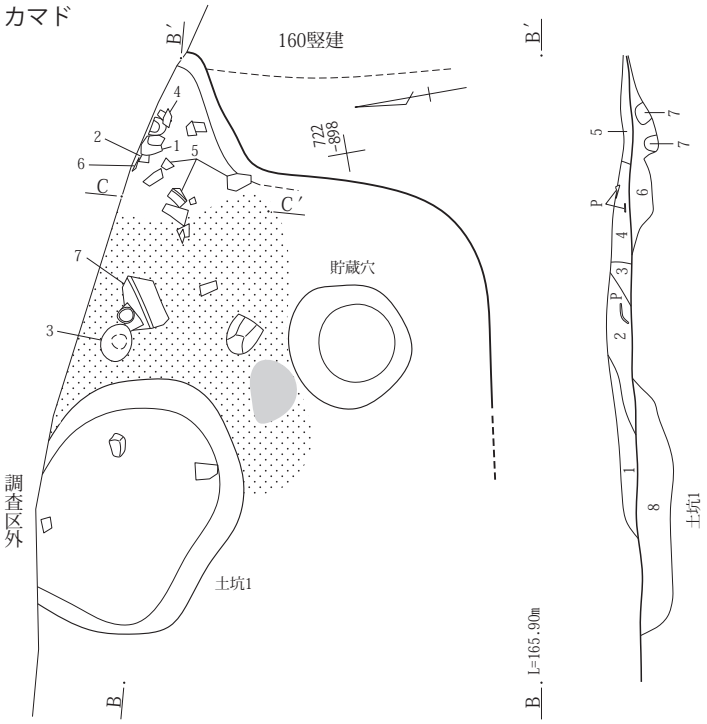




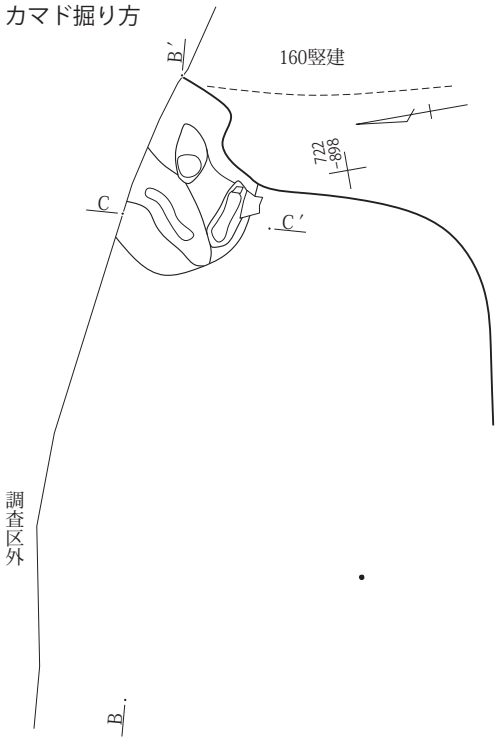
貯蔵穴D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量、焼土粒少量、ローム約５cm塊を含む。しまり強、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量含む。しまり強、粘性あり。

Ｐ１E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１cm塊多量含む。色味は明るい、しまり弱、粘性あり。

カマド

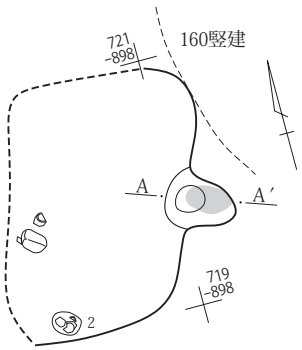


カマド掘り方

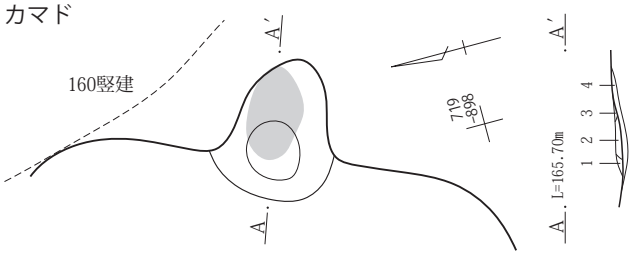


161号竪穴建物A-A′、カマドB-B′・C-C′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊・にぶい黄橙色粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-C・焼土粒少量、遺物を含む。しまり強、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・ローム小塊少量含む。しまり・粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊多量、焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　黒褐色砂質土多量、焼土小塊少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊多量、炭化物・焼土粒を含む。しまり・粘性あり。
7　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊、しまり強、粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム小～大塊多量、焼土粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。
9　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP多量含む。硬化、粘性弱。
10　黄褐色土(10YR5/6)　黒褐色土・炭化物を含む。しまり・粘性あり。

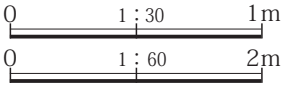
162号竪穴建物



カマド

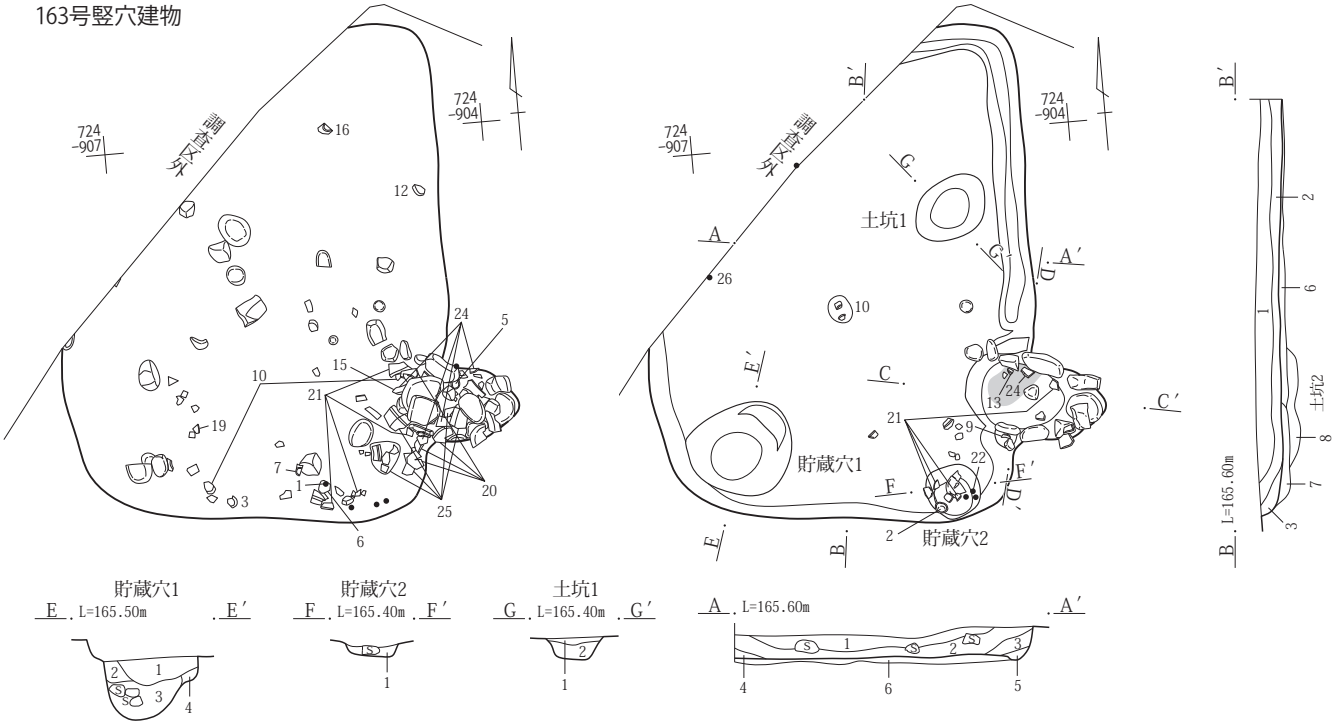


162号竪穴建物カマドA-A′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土粒少量、ローム粒を含む。しまり弱、粘性あり。
2　赤褐色土(5YR4/6)　焼土粒多量含む。しまり・粘性弱。
3　灰褐色土(7.5YR4/2)　ローム粒を含む。しまり・粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　焼土粒少量含む。しまりあり、粘性弱。



第216図　３面　Ｇ３区161・162号竪穴建物

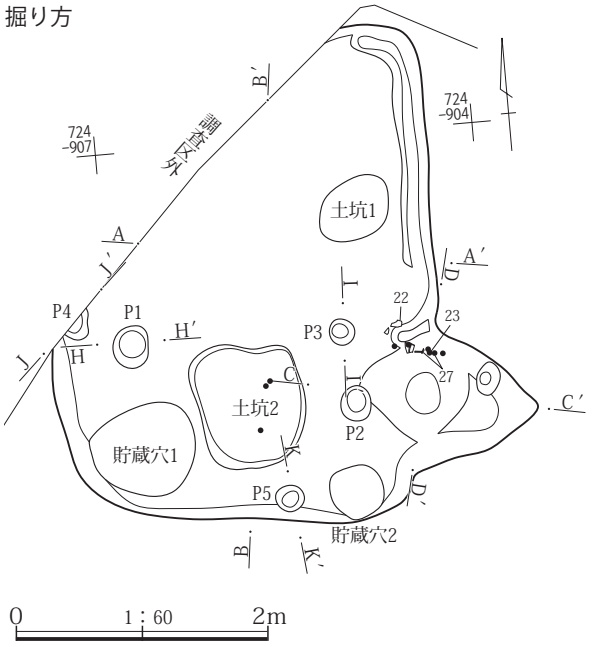
163号竪穴建物

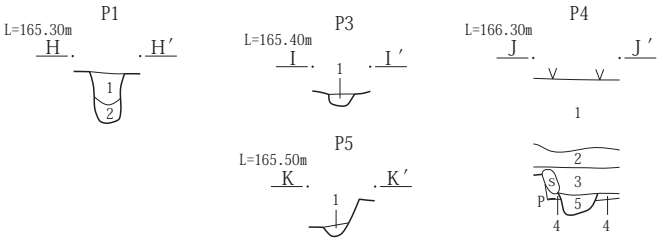


貯蔵穴１E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄橙色粒・焼土粒少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量、ローム小塊少量含む。しまり・粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　２層に類似、ローム粒多量、黒褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。
4　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土粒小～大礫少量含む。遺物を含む。しまり弱、粘性あり。
貯蔵穴２F-F′
1　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒・ローム小塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
土坑１G-G′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒多量、焼土粒微量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム約１～３㎝塊多量含む。しまり・粘性あり。

163号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄橙色粒少量、炭化物を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・焼土粒少量、にぶい黄橙色粒微量含む。しまり・粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・粒多量、焼土粒・にぶい黄橙色粒少量含む。しまり・粘性あり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　にぶい黄橙色粒・焼土粒少量、ローム粒を含む。しまり弱、粘性あり。
5　褐色土(10YR4/4)　にぶい黄橙色粒少量、ローム粒を含む。しまり弱、粘性あり。
6　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム小塊・灰黄褐色土を含む。しまり強、粘性あり。
7　黒褐色土(10YR2/2)　ローム小塊・焼土粒多量、灰白色粒を含む。しまり強、粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・粒多量、焼土粒を含む。しまりやや弱、粘性あり。土坑２埋没土

掘り方

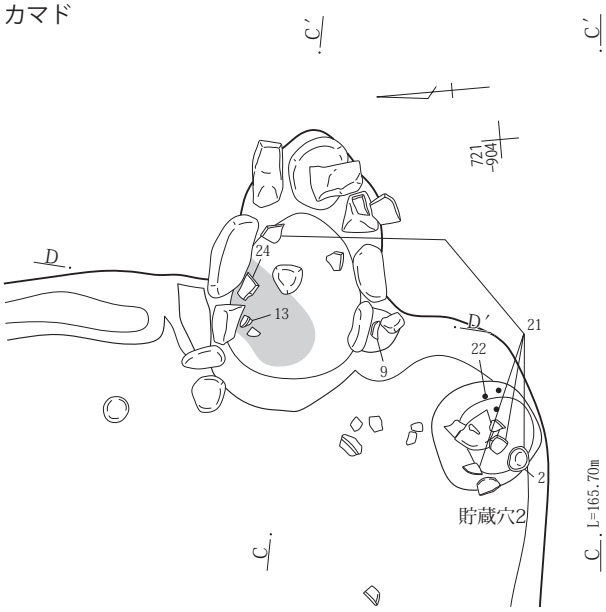


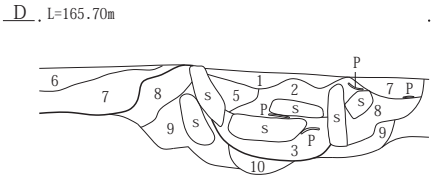


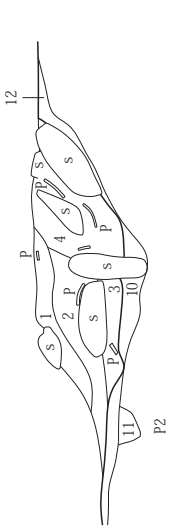
P１H-H′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約５㎜～１㎝塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
P３I-I′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
P４J-J′
1　現表土、造成土。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-Cを含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒・炭化物・礫を含む。しまり・粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム小塊・灰黄褐色土を含む。しまり強、粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約１㎝塊多量、焼土塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
P５K-K′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量､炭化物を含む。しまり･粘性あり。

第217図　３面　Ｇ３区163号竪穴建物

カマド



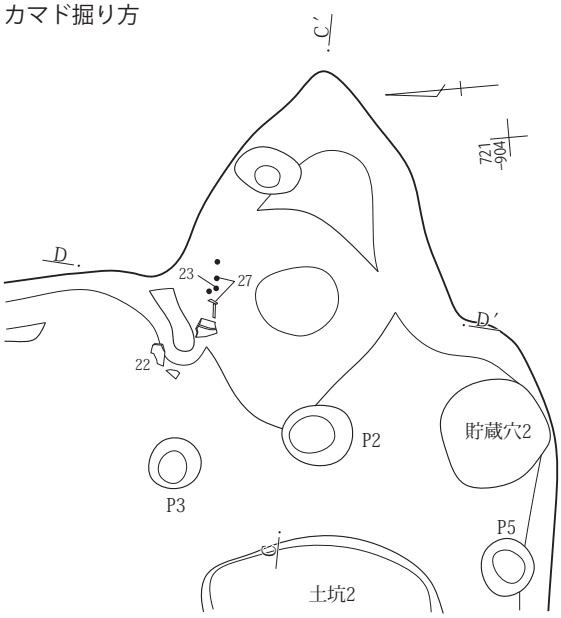


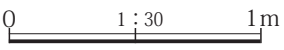


カマドC-C′・D-D′

1　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒・ローム小塊・焼土粒少量、礫を含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量、焼土小塊少量含む。しまり・粘性あり。
3　にぶい褐色土(7.5YR5/4)　焼土小～大塊を含む。しまり・粘性弱。
4　黄褐色土(10YR5/6)　ローム大塊多量、焼土粒少量、黒褐色土を含む。しまり強、粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・粒多量、焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒・焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊均質、ローム粒多量、黒褐色土を含む。しまりややあり、粘性強。
8　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
9　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　カマド袖部分構築材礫・遺物を含む。しまり強、粘性あり。
10　明黄褐色土(10YR6/6)　As-YP少量含む。しまり強、粘性弱。
11　褐色土(10YR4/4)　黒褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。Ｐ２覆土。
12　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・焼土粒少量含む。しまり強、粘性あり。

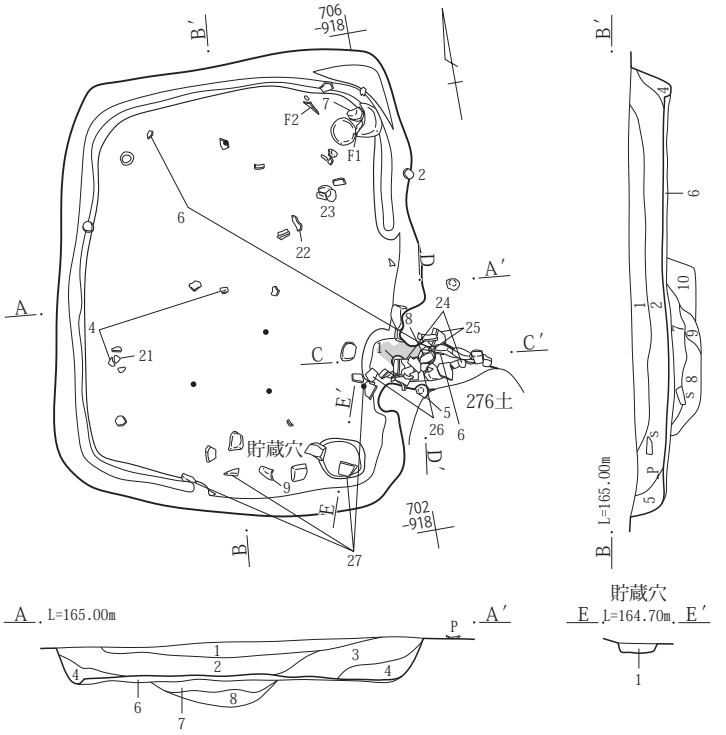
カマド掘り方



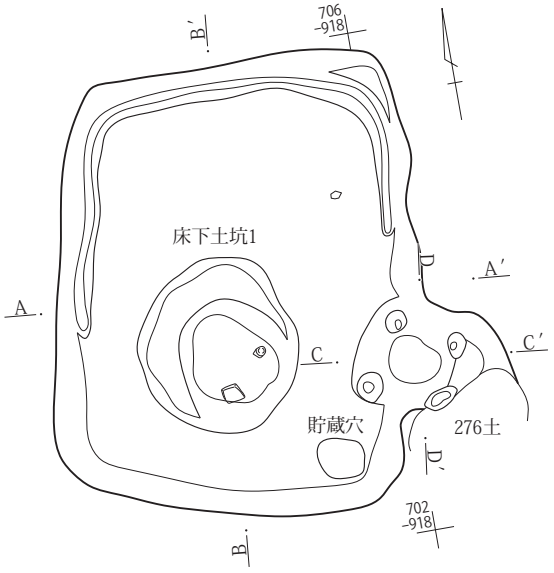


第218図　３面　Ｇ３区163号竪穴建物

164号竪穴建物



掘り方

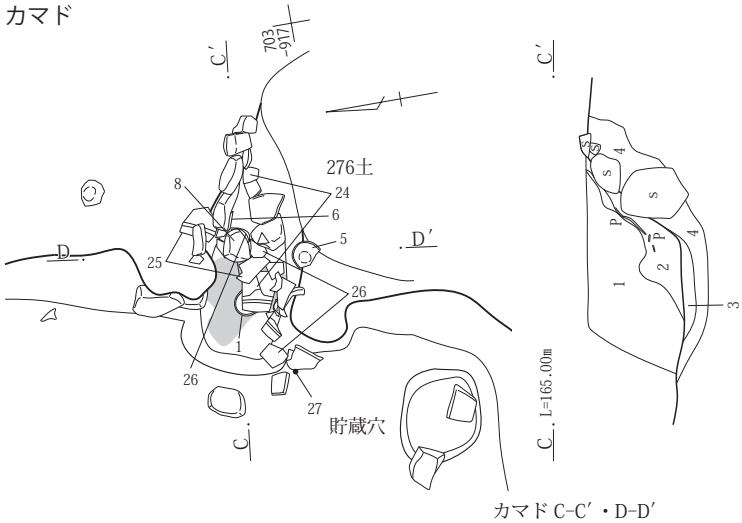


貯蔵穴 E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、黄橙色粒・炭化物粒若干含む。

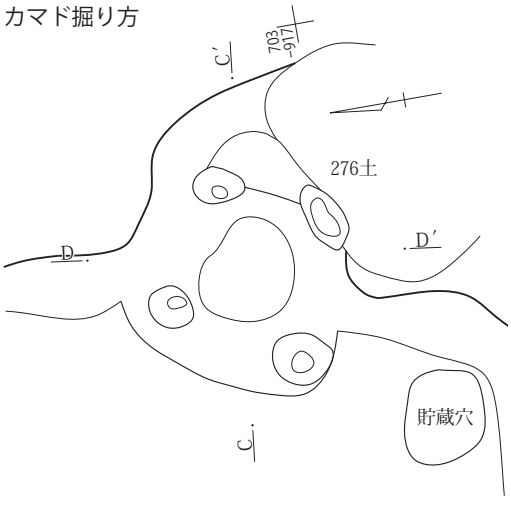
164号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C・焼土粒少量含む。しまり弱、粘性強。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量、炭化物少量、遺物を含む。しまり弱、粘性強。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒・にぶい黄橙色粒多量、焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒多量含む。しまりやや弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR2/2)　暗褐色土を含む。にぶい黄橙色粒均質、しまりあり、粘性強。
6　黒褐色土(10YR3/2)　２層に類似するが、２層よりもローム塊・粒が多く含まれる。しまり強い。
7　暗褐色土(10YR3/3)　ローム塊・粒を多量に含む。
8　暗褐色土(10YR3/3)　７層に類似するがやや明るい。
9　黒褐色土(10YR3/2)　６層よりやや明るく、ローム塊・粒はほとんど含まない。
10　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム塊・粒を極多量に含む。

0　1：60　2m

カマド



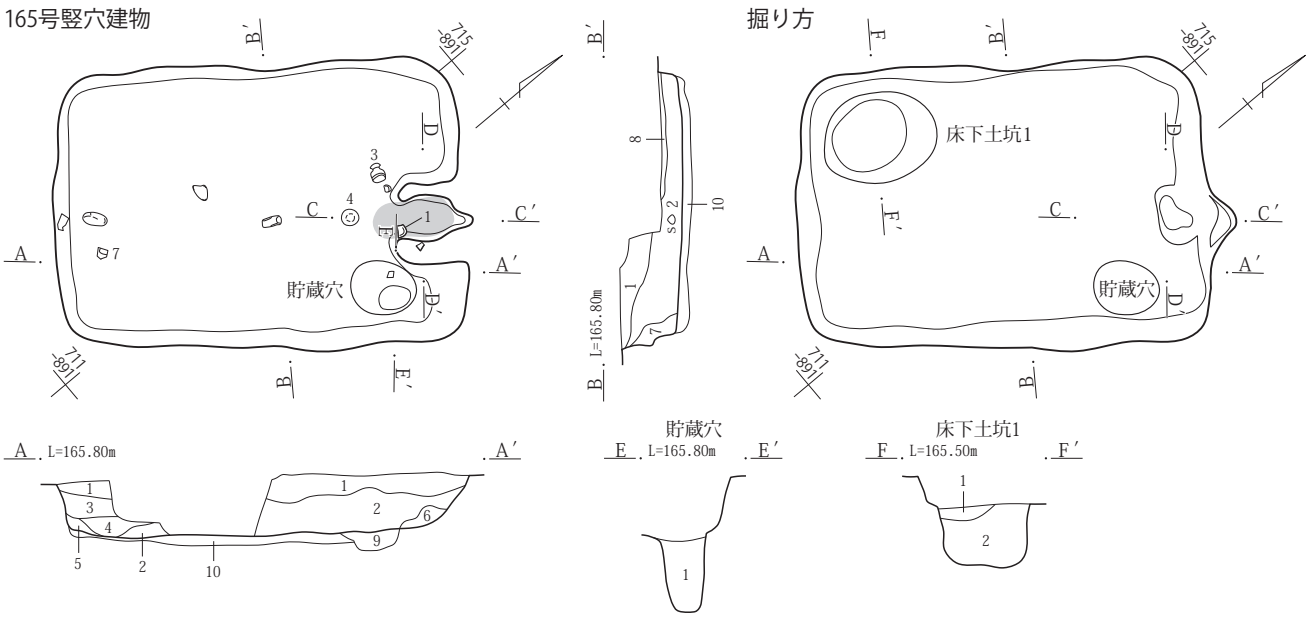
カマド掘り方



カマド C-C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒多量含む。しまりややあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　焼土粒少量、As-C・黄褐色粒若干含む。
3　明赤褐色土(7.5YR5/8)　さらさらしている、焼土。しまりあまりなし。
4　暗褐色土(10YR3/4)　As-C・黄褐色塊土若干含む。
5　黄褐色土～明赤褐色土(10YR5/6～7.5YR5/8)　As-C・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
6　黄褐色土(10YR5/6)　黄桃色粒・As-C若干含む。しまりあり。
7　漸移層。

0　1：30　1m

第219図　３面　Ｇ３区164号竪穴建物

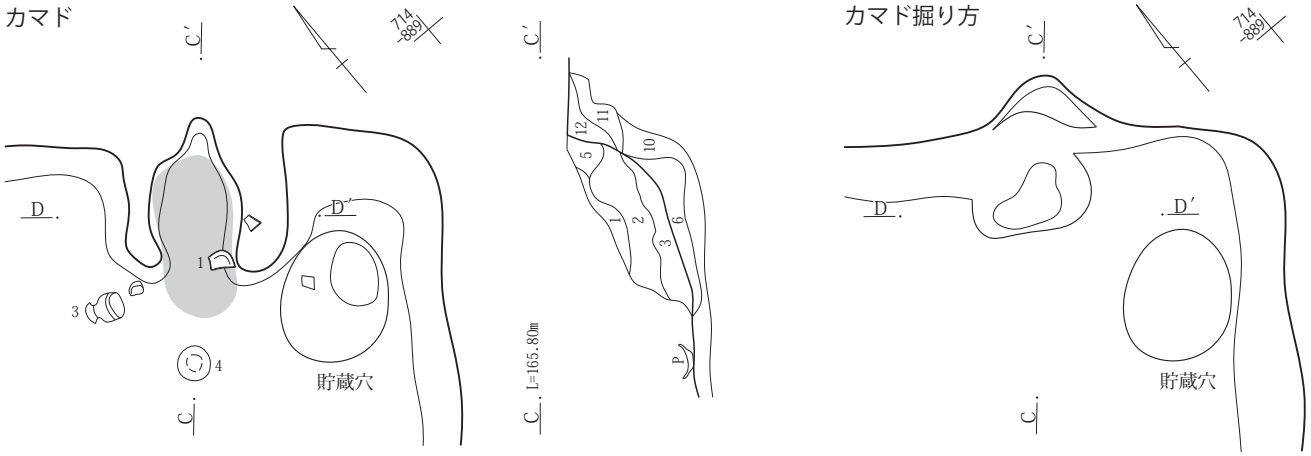


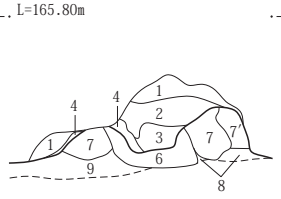
165号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄褐色粒少量含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・黄褐色塊土多量含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・焼土粒・炭化物粒少量含む。しまりややあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土・焼土粒・炭化物粒少量。As-C若干含む。しまりあまりなし。
5　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP粒若干含む。しまりあまりなし。
6　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色土40%程含む。しまりややあり。
7　暗褐色土(10YR3/3)　As-C若干含む。しまりややあり。
8　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・黄褐色塊土少量含む。しまりあり。
9　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒多量、As-C・黄褐色粒塊若干含む。しまりあまりなし。
10　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土多量、As-YP粒少量含む。しまりあり。

貯蔵穴 E-E′
1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒多量、炭化物粒少量、As-C若干含む。しまりあまりなし。

床下土坑1 F-F′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊土多量、As-YP粒少量、焼土粒若干含む。しまりあまりなし。
2　暗褐色土(10YR3/3)　As-YP粒大量、黄褐色塊土若干含む。しまりややあり。

0　1：60　2m



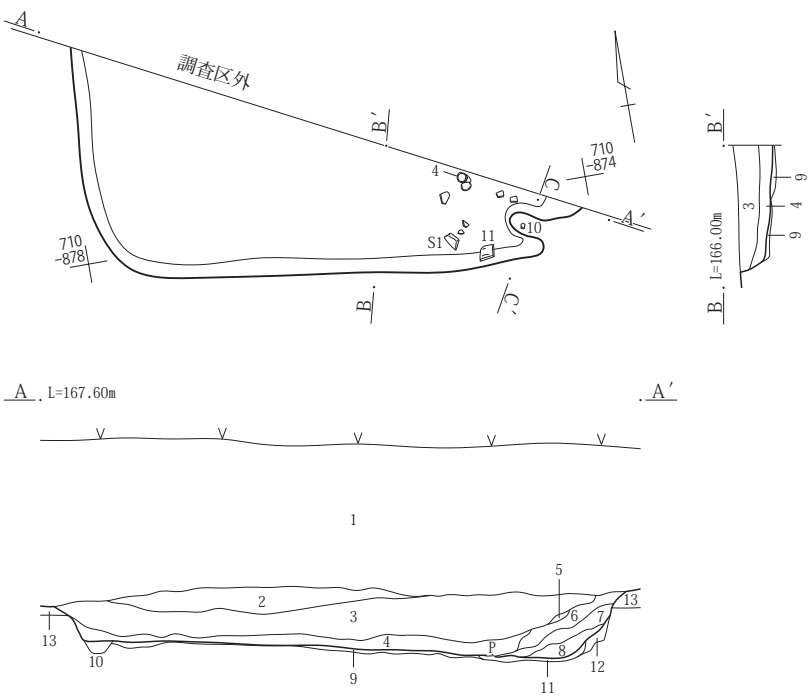


カマド C-C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・炭化物粒・黄褐色粒少量含む。しまりややあり。
2　黄褐色土(10YR5/6)　As-YP粒多量、暗褐色土20%程、焼土ごくわずか含む。しまりややあり。
3　褐色土(10YR4/6)　焼土粒大量、炭化物粒・As-YP粒少量含む。しまりややあり。
4　明赤褐色土(5YR5/8)　焼土層、炭化物粒・As-YP粒若干、灰もわずか含む。しまりややあり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・黄褐色粒少量、As-C・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
6　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒多量、炭化物粒・As-C少量、灰若干含む。しまりややあり。
7　黄褐色土(10YR5/6)　As-C・As-YP粒少量含む。しまりあり。
7′　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、黄褐色土30%程含む。しまりややあり。
8　黒色土(10YR2/1)　灰多量、As-YP粒若干含む。
9　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色塊土・As-YP粒多量含む。
10　褐色土(10YR4/4)　焼土粒多量、As-C・As-YP粒少量含む。
11　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・焼土塊少量、黄褐色塊土・As-C若干含む。
12　黄褐色土(10YR5/6)　黒褐色土40%程、As-C若干含む。しまりあり。

0　1：30　1m

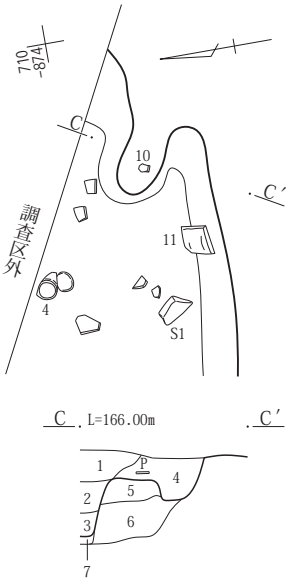
第220図　３面　Ｇ３区165号竪穴建物

166号竪穴建物



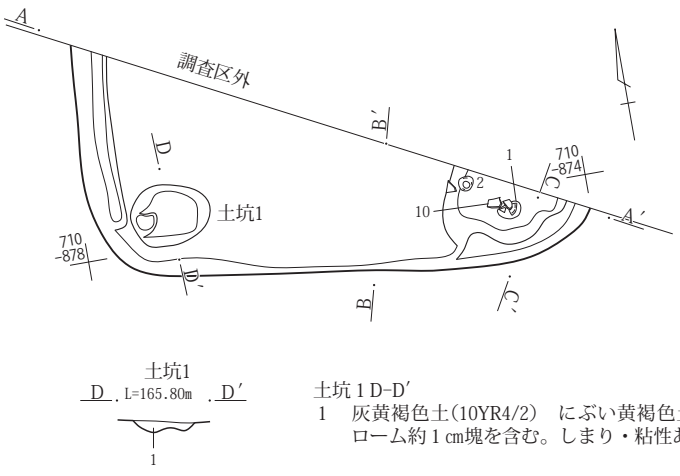
166号竪穴建物A-A′・B-B′
1　現表土、造成客土。
2　黒褐色土(10YR2/2)　ローム約１cm塊多量、As-C少量、炭化物を含む。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　As-C多量、ローム約１～３cm塊少量、焼土塊を含む。しまり・粘性あり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒少量、黒色土・ローム約１cm塊・粒を含む。しまり・粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土約１～３cm塊・ローム小塊・粒を含む。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１～３cm塊・焼土粒多量、小礫を含む。しまりやや弱、粘性あり。
7　黒褐色土(10YR3/2)　明黄褐色土大塊主体、焼土小塊少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
8　明黄褐色土(10YR6/6)　しまりやや弱、粘性強。カマド構築材崩落土。
9　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１～３cm塊多量含む。しまり強、粘性あり。
10　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム約１cm塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
11　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土小塊・粒・灰・炭多量含む。しまり弱、粘性ややあり。
12　褐灰色土(10YR5/1)　ローム小塊・粒多量含む。しまり・粘性あり。
13　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量含む。しまりややあり、粘性あり。

カマド



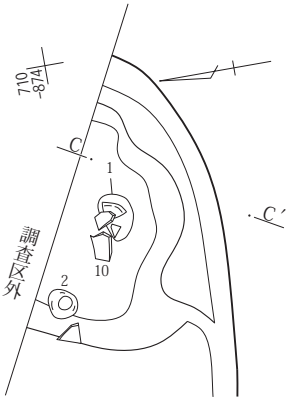
カマドC-C′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１～３cm塊・焼土粒多量、小礫を含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　明黄褐色土大塊主体、焼土小塊少量含む。しまりやや弱､粘性あり。
3　明黄褐色土(10YR6/6)　しまりやや弱、粘性強。カマド構築材崩落土。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム約１cm塊・遺物を含む。しまり・粘性あり。
5　黄灰色土(2.5Y4/1)　粘質土、ローム約１cm塊多量、小礫を含む。しまり・粘性あり。
6　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　ローム大塊主体、カマド袖部分構築材、しまりややあり、粘性あり。
7　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土小塊・粒・灰・炭多量含む。しまり弱、粘性ややあり。

掘り方



土坑１D-D′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　にぶい黄褐色土・黒褐色土を含む。ローム約１cm塊を含む。しまり・粘性あり。

カマド掘り方

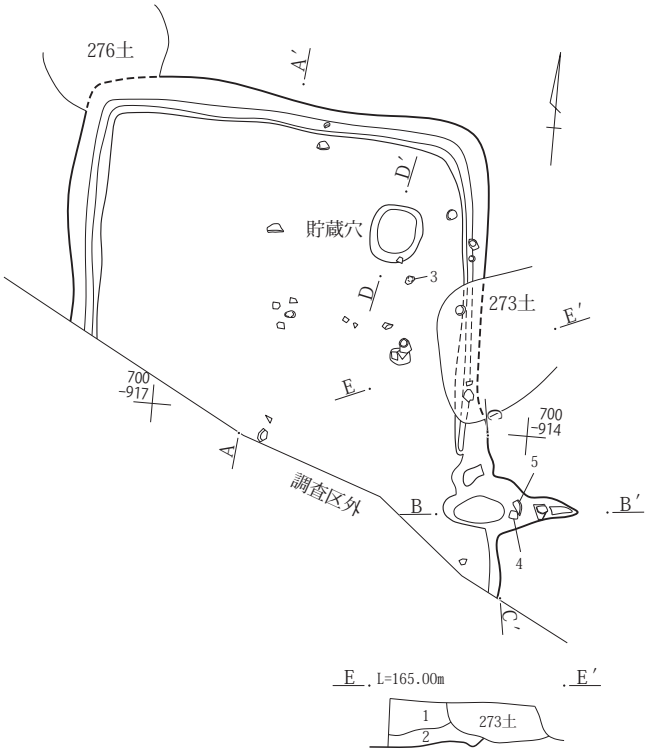


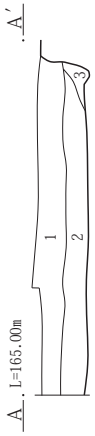
0　1：60　2m

0　1：30　1m

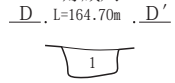
第221図　３面　Ｇ３区166号竪穴建物

167号竪穴建物



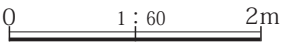


貯蔵穴

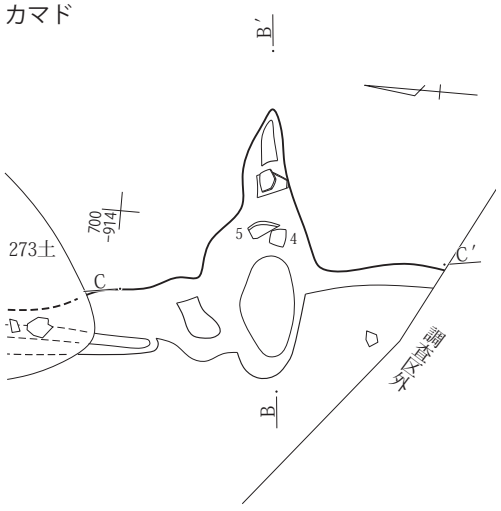


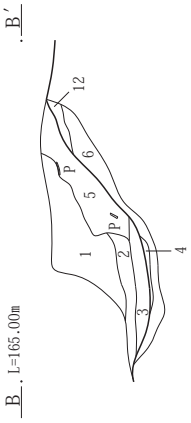
167号竪穴建物A-A′・E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄褐色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量、黄褐色土塊土・黄褐色粒・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　暗褐色土40％程、As-C・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。

貯蔵穴 D-D′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒若干含む。

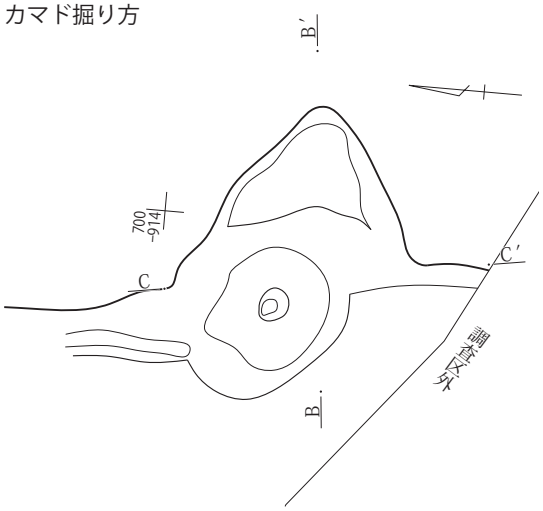


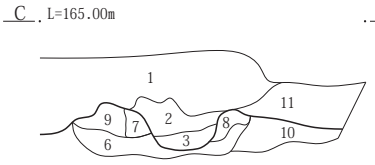
カマド



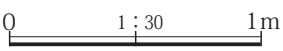


カマド掘り方



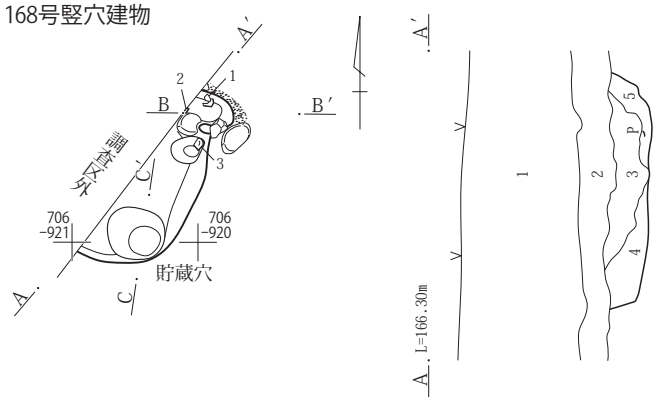


カマド B-B′・C-C′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量、黄橙色粒・焼土粒若干含む。しまりややあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色土30％程、As-C・炭化物粒・焼土粒若干含む。しまりややあり。
3　暗褐色土(7.5YR3/3)　灰混じり、焼土粒若干含む。しまりあまりなし。
4　明褐色土(7.5YR5/8)　焼土。しまりややあり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒少量、As-C・黄褐色土・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
6　暗褐色土(10YR3/3)　φ１～３㎝程の黄褐色塊土若干含む。しまりややあり。
7　黄褐色土(10Y5/6)　As-C若干含む。しまりあり。
8　黄褐色土(10Y5/6)　As-C若干、やや焼けた土を含む。しまりあり。
9　暗褐色土(10YR5/4)　黄褐色土20％程、黒褐色土10％程、As-C・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
10　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　しまりややあり。
11　暗褐色土(10YR3/3)　焼土塊土多量、炭化物粒少量含む。しまりややあり。
12　にぶい明赤褐色土(5YR5/4)　As-C少量含む。しまりややあり。

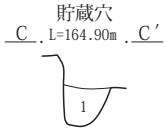


第222図　３面　Ｇ３区167号竪穴建物

168号竪穴建物



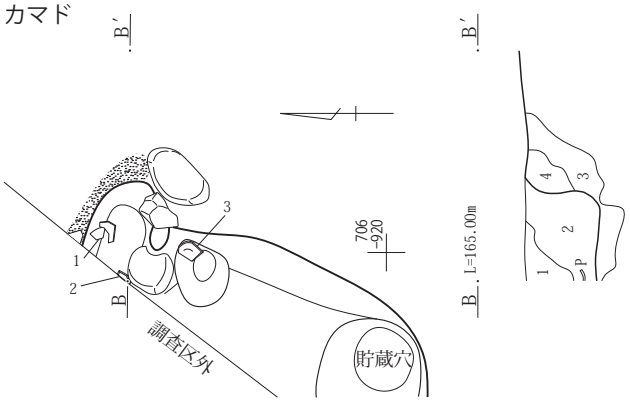
貯蔵穴



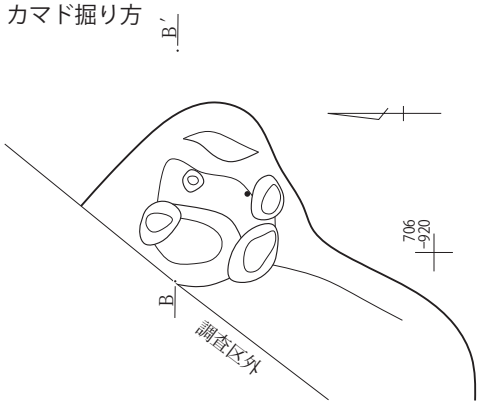
168号竪穴建物A-A′
1　表土・撹乱
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C混入黒褐色土。
3　黒色土(10YR2/1)　As-C多量、黄褐色粒少量、にぶい黄褐色塊土若干含む。
4　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・黄褐色粒少量含む。
5　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色塊土少量、黄褐色粒・焼土粒・炭化物粒若干含む。

貯蔵穴C-C′
1　黒色土(10YR2/1)　炭化物粒少量、As-C・黄橙色粒若干含む。しまりややあり。

カマド

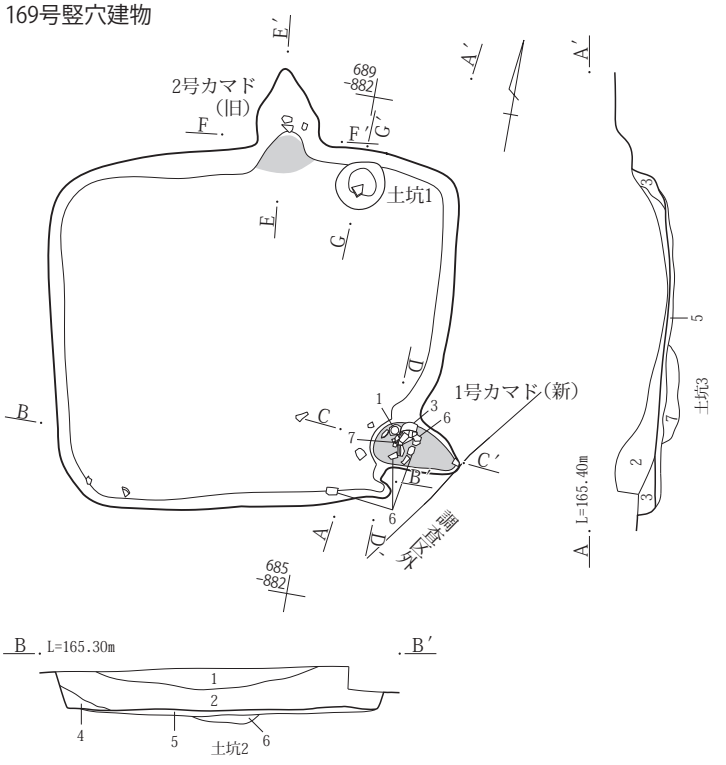


カマド掘り方

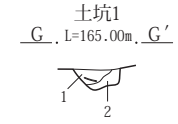


カマドB-B′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、焼土粒・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
2　黄褐色土(10YR5/6)　黒褐色土30%程、As-C若干含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒少量含む。しまりややあり。
4　黄褐色土(10YR5/6)　As-C・黄橙色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。

169号竪穴建物

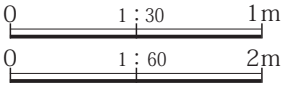


土坑1



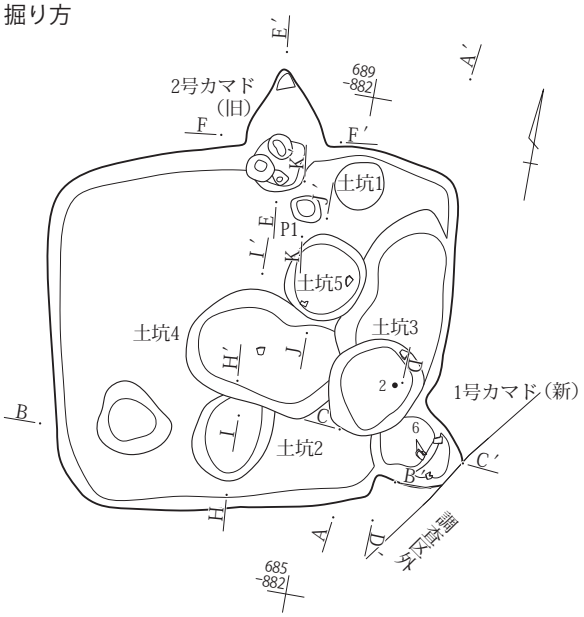
169号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量で均質、焼土小塊・粒を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、ローム小塊を含む。しまりややあり、粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒・灰白色粒少量、As-C微量含む。しまりややあり、粘性あり。
4　灰黄褐色土(10YR5/2)　ローム小塊・灰白色粒を含む。色味は明るい、しまりややあり、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小～大塊多量含む。しまり強、粘性あり。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　灰黄褐色土大塊・ローム大塊を含む。しまり強、粘性あり。土坑２埋没土。
7　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒少量、ローム塊約１～３㎝を含む。しまり弱、粘性あり。土坑３埋没土。

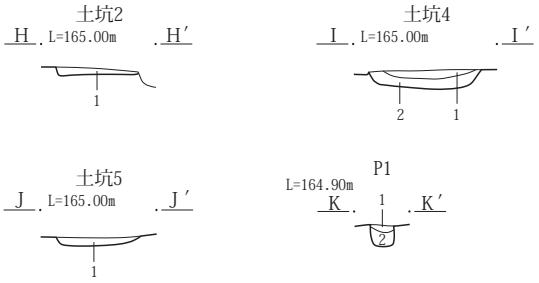
土坑１G-G′
1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土小塊約１㎝を含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土粒少量、遺物を含む。１層よりしまり弱、粘性あり。



第223図　３面　Ｇ３区168・169号竪穴建物

掘り方

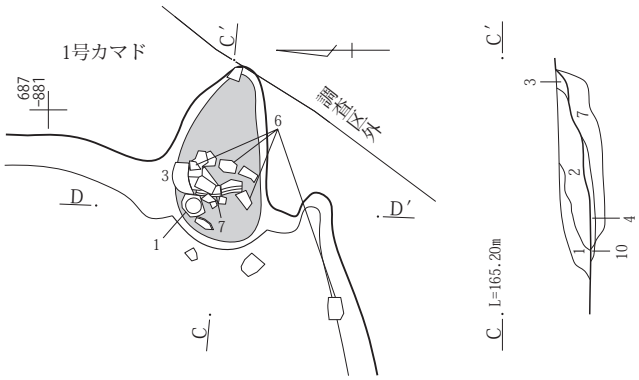




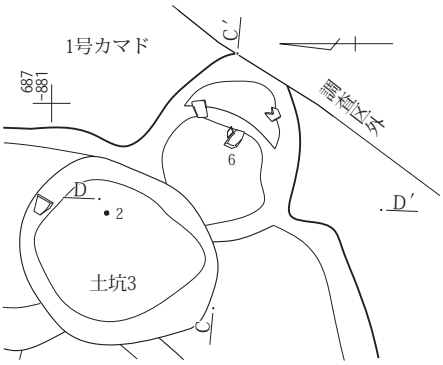
土坑２H-H′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　灰黄褐色土・ローム大塊を含む。しまり強、粘性あり。
土坑４I-I′
1　褐色土(10YR4/4)　にぶい黄橙色粒多量、焼土小塊少量含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP少量、炭化物・遺物を含む。しまりやや弱、粘性あり。
土坑５J-J′
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小～大塊下層・黒褐色土・遺物を含む。しまりやや弱、粘性あり。
Ｐ１K-K′
1　黒褐色土(7.5YR3/2)　明褐色粒多量、炭化物を含む。焼土粒少量含む。しまり強、粘性あり。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土粒多量含む。しまり弱、粘性あり。

0　1：60　2m

１号カマド（新）



カマド掘り方

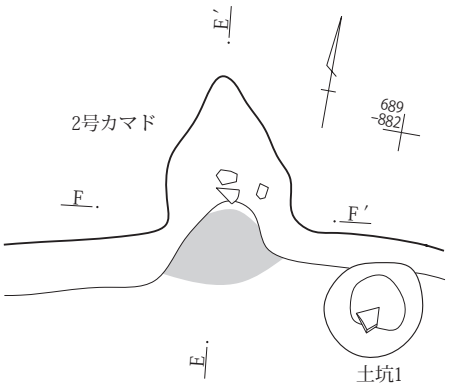


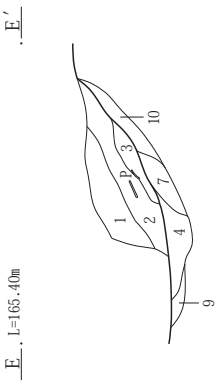
１号カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土小塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒多量、As-YP少量、灰微量、炭化物小片を含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　小礫を含む。しまり、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒を含む。しまり弱、粘性あり。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　にぶい黄橙色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
6　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ少量、黒褐色土を含む。しまりやや弱、粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量、焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
8　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
9　黒褐色土(10YR3/2)　暗褐色土を含む。しまり・粘性あり。
10　黒褐色土(10YR3/1)　焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。

0　1：30　1m

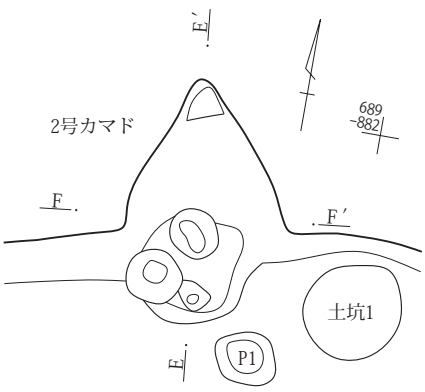
第224図　３面　Ｇ３区169号竪穴建物

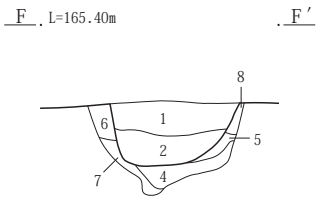
２号カマド（旧）





カマド掘り方

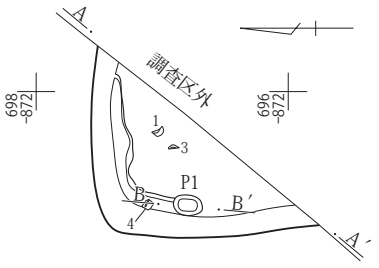


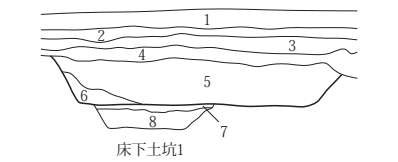


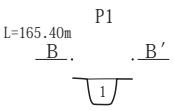
２号カマドE-E′・F-F′
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土小塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒多量、As-YP少量、灰微量、炭化物小片を含む。しまり弱、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　焼土粒少量、遺物を含む。しまりやや弱、粘性あり。
4　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
5　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　灰多量、焼土小塊少量含む。しまり弱、粘性強。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒多量含む。しまり・粘性あり。
8　暗褐色土(10YR3/3)　As-C・炭化物少量含む。しまり・粘性あり。
9　灰黄褐色土(10YR4/2)　やや砂質土、ローム粒少量含む。しまり・粘性弱。
10　褐色土(10YR4/4)　ローム粒多量含む。しまり・粘性あり。

0　1：30　1m

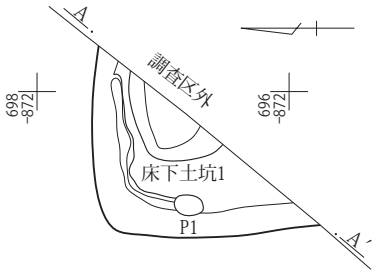
180号竪穴建物







掘り方



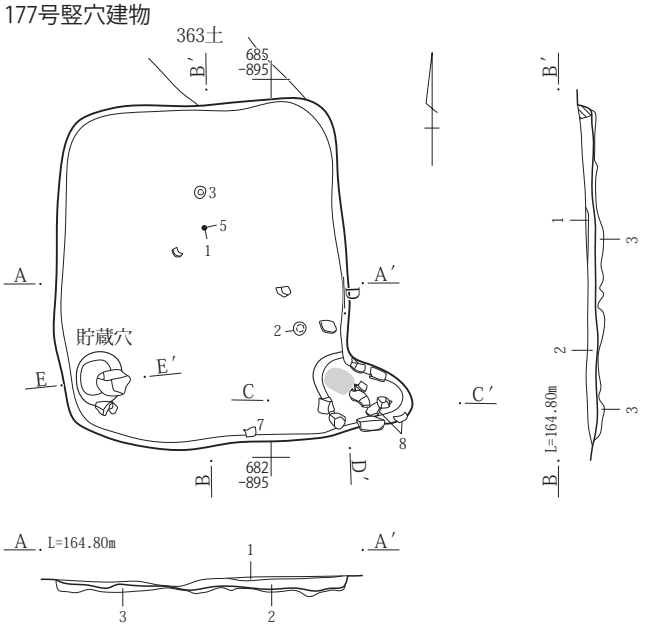
180号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/1)　現表土、水田耕作土。
2　灰褐色土(7.5YR4/2)　酸化鉄分多量含む。しまり強、粘性弱。
3　褐灰色土(7.5YR4/1)　圃場整備による造成土、As-B・As-Cを含む。しまりあり、粘性弱。
4　褐灰色土(10YR4/1)　As-B多量、にぶい黄橙色土小～大塊を含む。しまりややあり、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、炭化物粒少量、焼土粒・黄褐色粒若干含む。しまりあり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
7　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、黄褐色粒若干含む。しまりあり。
8　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色塊土多量、炭化物粒含む。しまりあまりなし。
P1 B-B′
1　黒褐色土(10YR2/2)　しまりあまりなし。

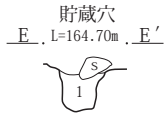
0　1：60　2m

第225図　３面　Ｇ３区169・180号竪穴建物

Ｇ４区

177号竪穴建物

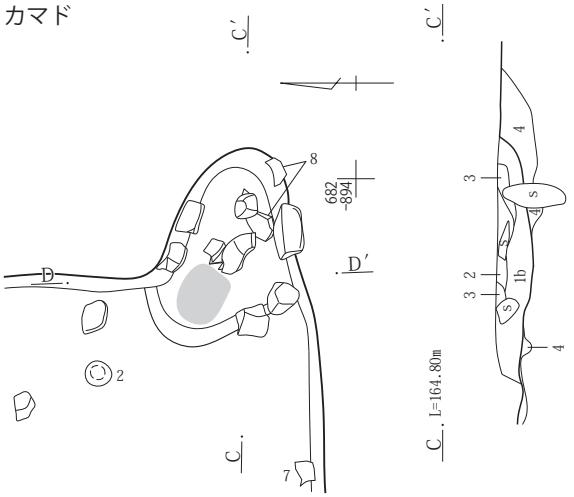




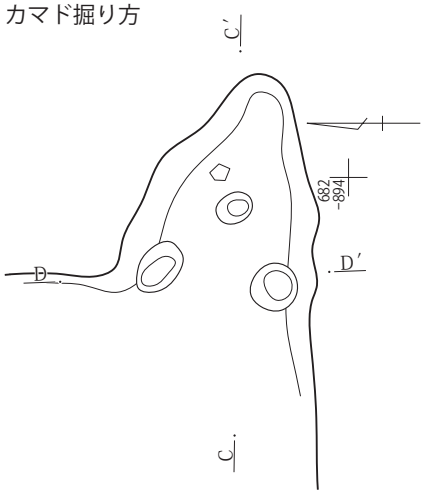
177号竪穴建物A-A′・B-B′
1　鉄分凝縮層　（水田床上）
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土。ローム小塊わずかに含む。
3　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒・As-Ｃ少量含む。しまりあり。
貯蔵穴E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム塊土・As-Ｃ・炭化物粒若干含む。しまりややあり。

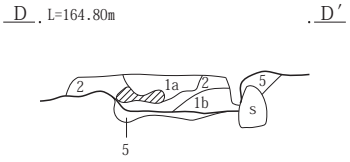
0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方



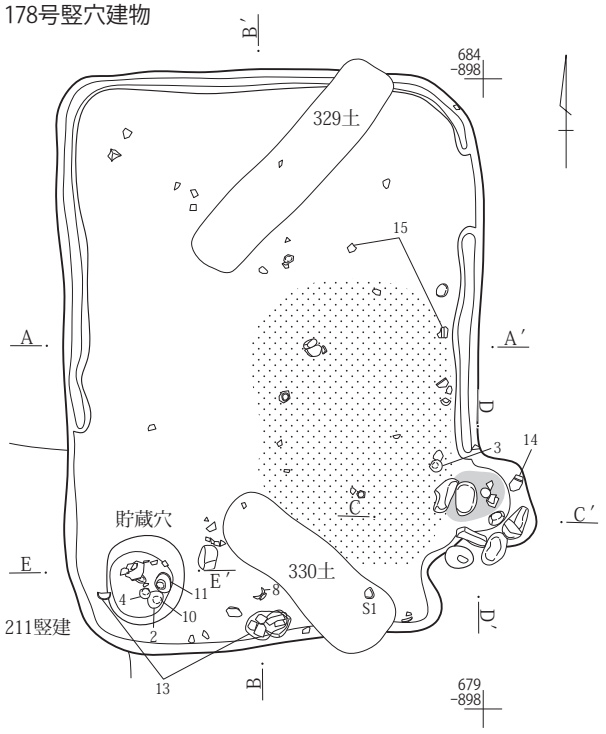


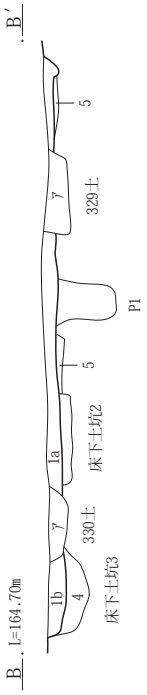
カマドC-C′・D-D′
1a　褐色土(10YR)　ローム小塊。焼土粒・炭粒含む。
1b　1a層よりローム小塊少ない。
2　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・炭粒をわずかに含み、As-Ｃ混土は見られない。
3　ローム小塊、焼土粒を多く含む。
4　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒・黄褐色粒少量。炭化物粒若干含む。しまりあり。
5　明褐色土(5YR5/8)　焼土。しまりあり。

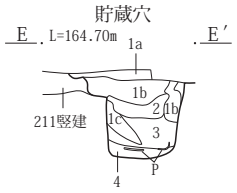
0　1：30　1m

第226図　３面　Ｇ４区177号竪穴建物

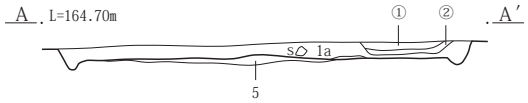
178号竪穴建物





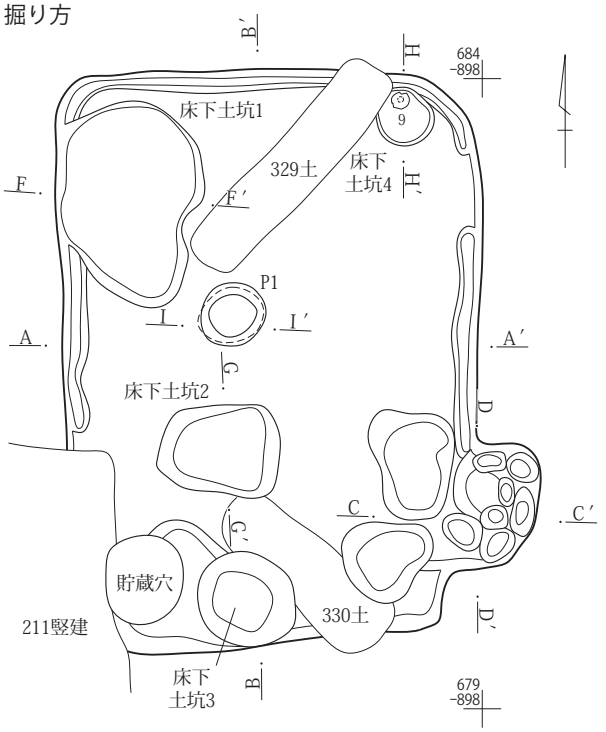


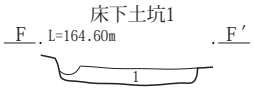
貯蔵穴E-E′
1a　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土わずかにローム小塊含む。
1b　1a層よりしまり弱い。
1c　1b層に似る。1b層よりややローム塊多く含む。
２　暗褐色土とローム塊混土。
３　灰黄褐色土(10YR4/2)　くすんだローム塊含む。土器混じり。
４　黒褐色土(10YR2/2)　わずかにローム小塊含む。やや粘性あり。

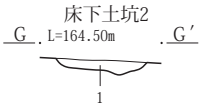


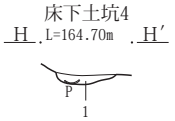
178号竪穴建物A-A′・B-B′
1a　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土ローム小塊わずかに含む。
1b　1a層にローム小塊含む。
①　暗褐色土(10YR3/3)　わずかに軽石含む。
②　①層に灰白シルト質土を多く含む。
ア　As-B混土にローム小塊褐色土小塊混じり砂壌土。(329・330土)
４　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP粒多量、黄褐色塊土少量含む。しまりあまりなし。
５　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　1a層よりも明るく、ローム塊を多量に含む。

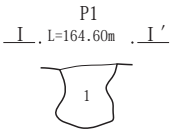
掘り方



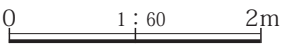






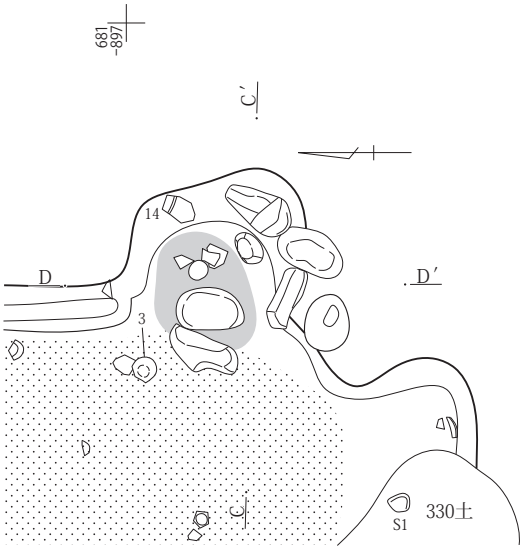


床下土坑１F-F′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒少量、炭化物粒・焼土粒若干含む。しまりあり。
床下土坑２G-G′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊土多量、As-C少量含む。しまりややあり。
床下土坑４H-H′
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色粒・As-C少量含む。しまりややあり。
Ｐ１I-I′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP粒多量、As-C・炭化物粒若干含む。しまりややあり。

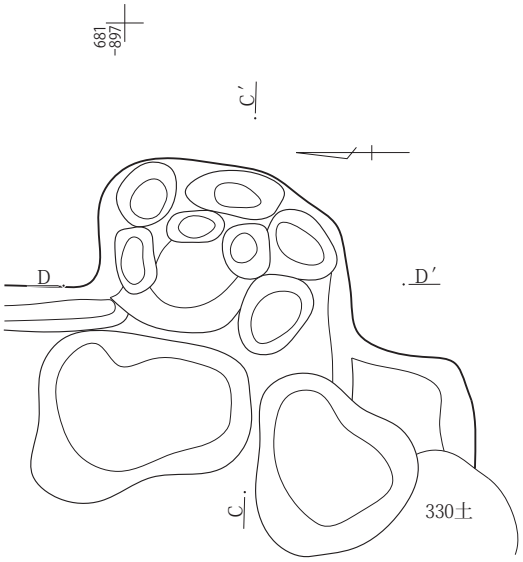


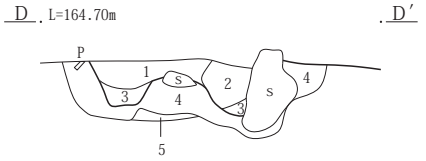
第227図　３面　Ｇ４区178号竪穴建物

カマド



カマド掘り方

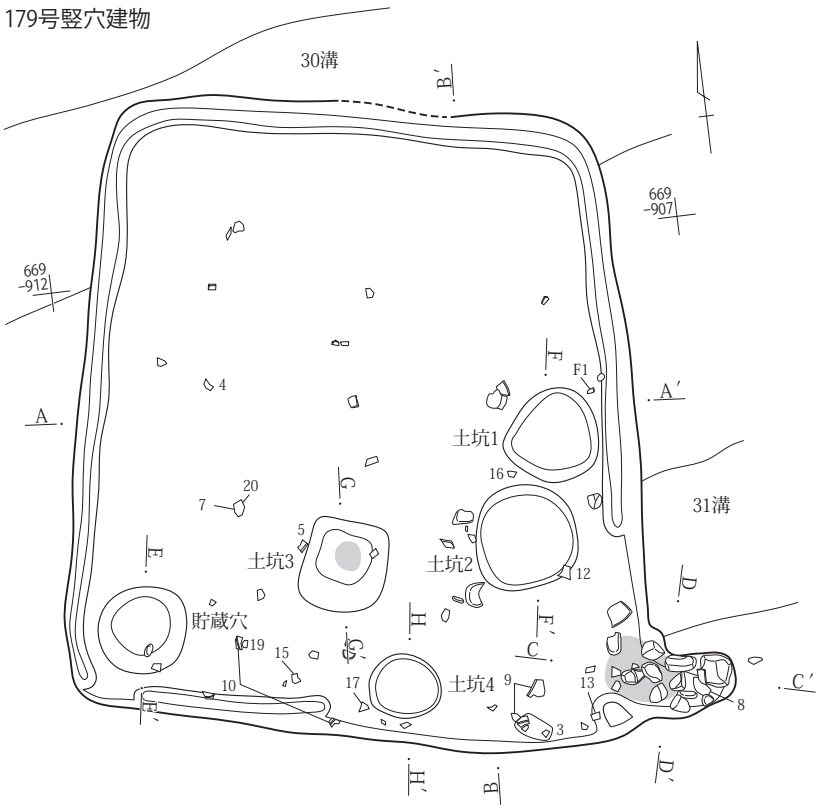


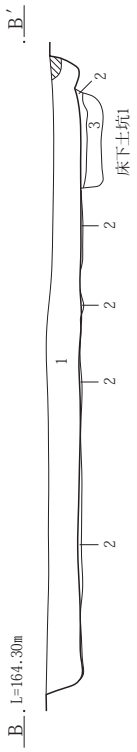


カマド
1　暗褐色土(10YR3/3)　わずかに焼土・炭粒含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒・ローム小塊含む。
3　黒色土(10YR2/1)　焼土粒・炭粒含む。灰層しまり弱い。
4　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒・As-C少量、焼土粒・炭化物粒若干含む。
5　焼土

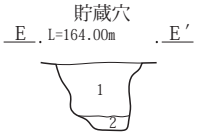
0　1：30　1m

179号竪穴建物

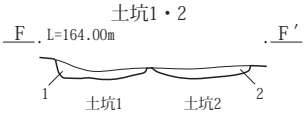




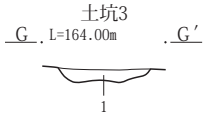
貯蔵穴



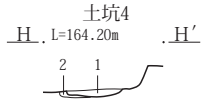
土坑1・2

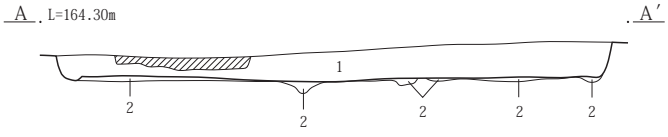


土坑3



土坑4





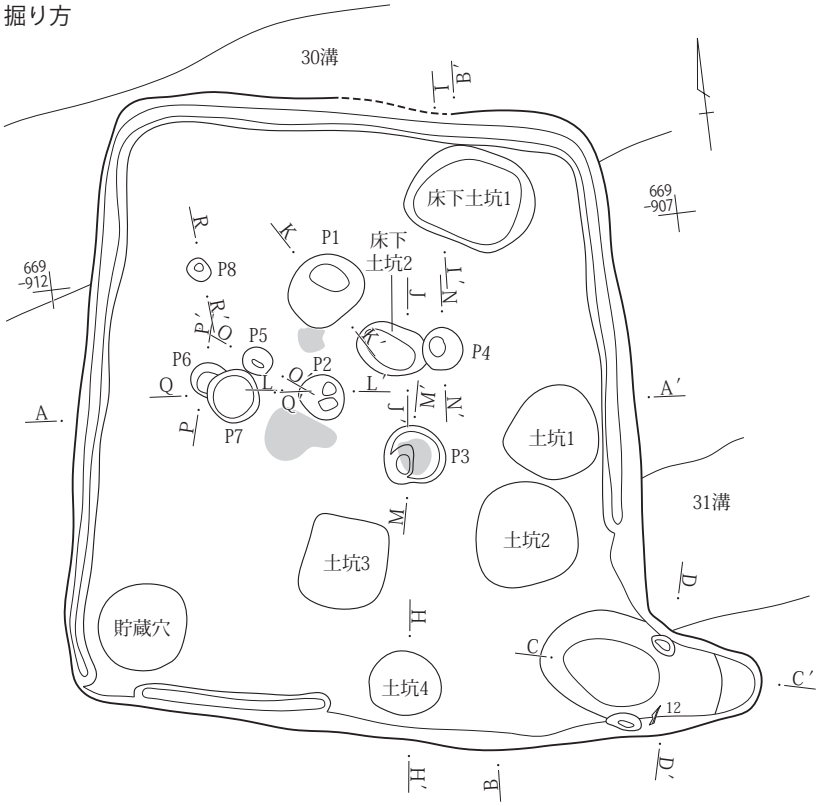
179号竪穴建物A-A′・B-B′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土・わずかにローム小塊含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土少量、As-C若干含む。
3　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色粒・黄褐色塊土少量、炭化物粒・As-C若干含む。

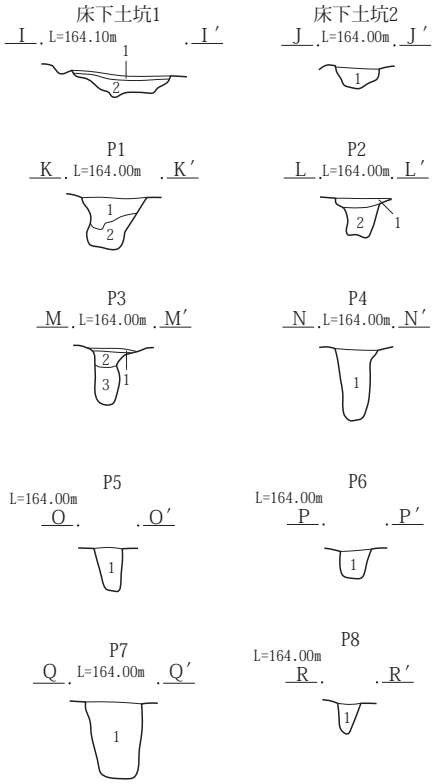
0　1：60　2m

第228図　３面　G４区178・179号竪穴建物

貯蔵穴E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　土質均質、わずかにローム粒含む。
2　１層黒褐色土にローム塊含む。ややしまりあり。
1・２号土坑F-F′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊・焼土粒少量、As-Ｃ若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒・As-Ｃ少量含む。しまりややあり。
３号土坑G-G′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土20％程、As-Ｃ・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
４号土坑H-H′
1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・As-Ｃ・黄褐色塊土少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　黄褐色土(10YR5/6)　しまりあり。貼土。

掘り方



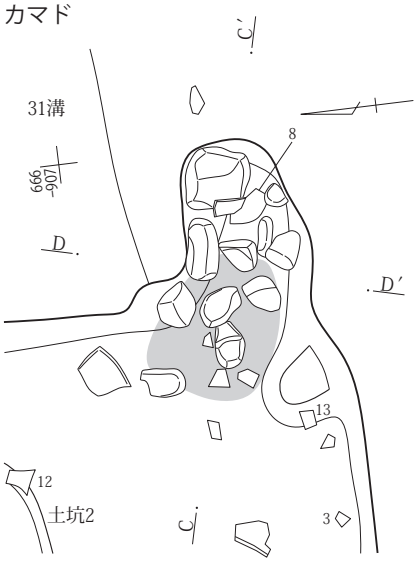


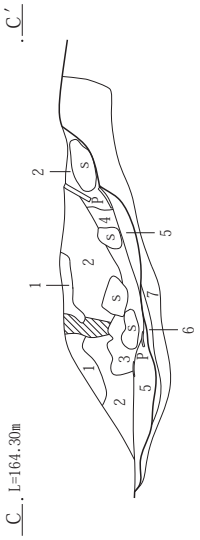
床下土坑１I-I′
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土少量、As-Ｃ若干含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色粒・黄褐色塊土少量、炭化物粒・As-Ｃ若干含む。
床下土坑２J-J′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP粒・黄褐色塊土少量含む。
Ｐ１K-K′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-YP粒・にぶい黄褐色土多量含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-YR粒・黄褐色塊土少量含む。
Ｐ２L-L′
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土少量、As-Ｃ若干含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　As-YP粒若干含む。
Ｐ３M-M′
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土少量、As-Ｃ若干含む。しまりややあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　焼土が多く混じる。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　にぶい黄褐色塊土若干含む。しまりややあり。
Ｐ４N-N′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊土・黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。
Ｐ５O-O′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ少量、黄褐色塊土若干含む。しまりややあり。
Ｐ６P-P′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ少量、黄褐色塊土若干含む。しまりややあり。
Ｐ７Q-Q′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ・黄褐色粒・焼土粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
Ｐ８R-R′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ少量、黄褐色塊土若干含む。しまりややあり。

0　1：60　2m

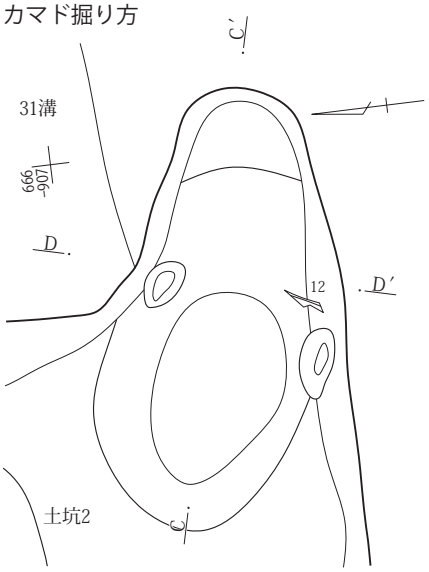
第229図　３面　Ｇ４区179号竪穴建物

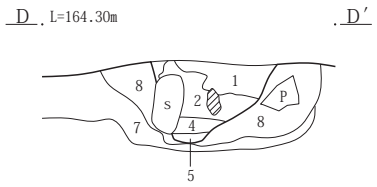
カマド





カマド掘り方

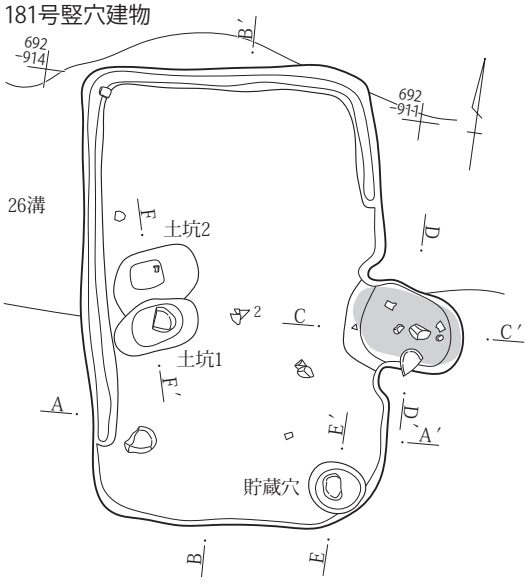


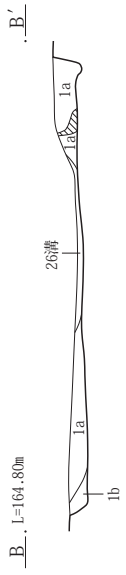


カマドC-C′・D-D′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土わずかに焼土粒含む。
2　灰黄褐色土(10YR)　細粒の焼土粒多くローム粒含む。
3　ローム塊主体、下部焼土化する。天井崩落土。
4　にぶい黄褐色土と焼土小塊、ローム小塊混土。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒少量、黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
6　明赤褐色土(5YR5/8)　焼土、さらさらしている。しまりややあり。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C少量、黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。
8　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊土・焼土粒・焼土塊土・As-C少量含む。

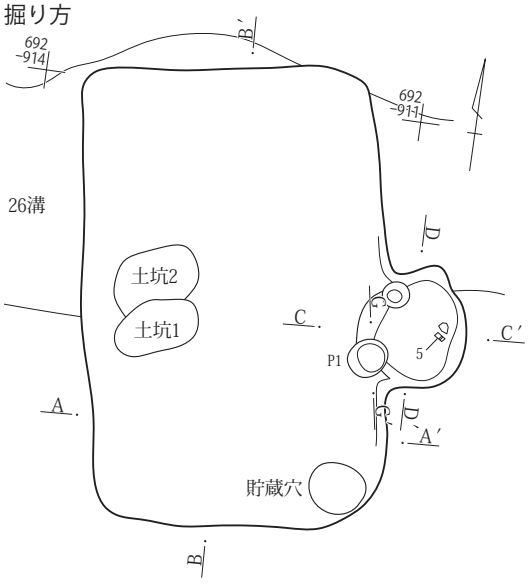
0　1：30　1m

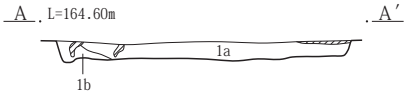
181号竪穴建物





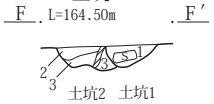
掘り方



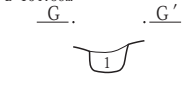


貯蔵穴

土坑1・2



P1

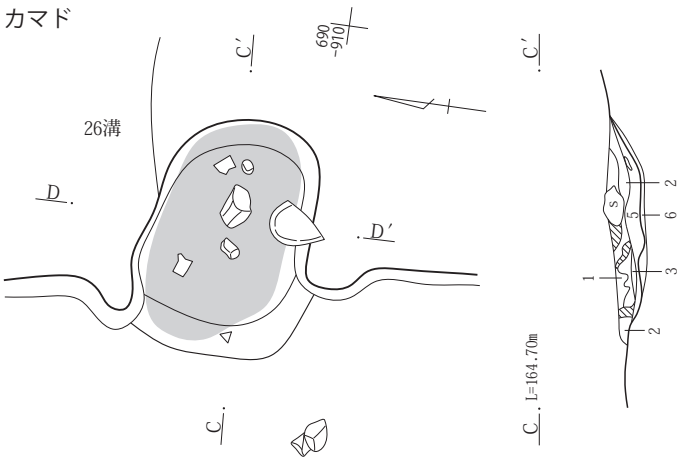


181号竪穴建物A-A′・B-B′
1a　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土わずかにローム小塊含む。
1b　1a層よりローム小塊少ない。
貯蔵穴E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　礫入り、ローム小塊わずかに含む。しまり弱い。
土坑１・２F-F′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質、As-C・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色小塊・As-C少量含む。しまりややあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黄褐色塊土多量、As-YP粒少量含む。しまりややあり。
P１G-G′
1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒少量、As-YP粒・炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。

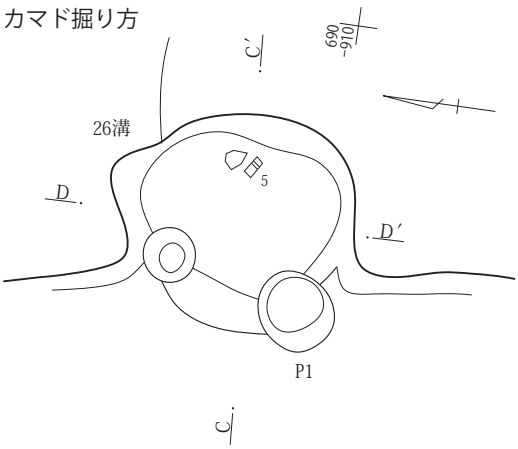
0　1：60　2m

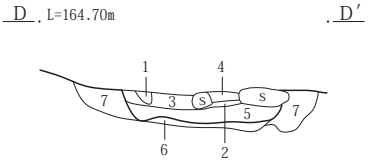
第230図　３面　Ｇ４区179・181号竪穴建物

カマド



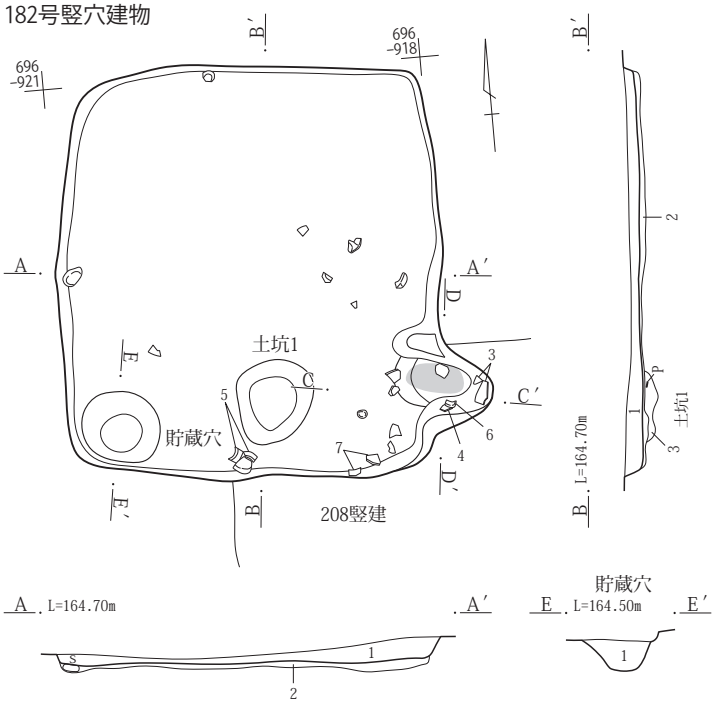
カマド掘り方





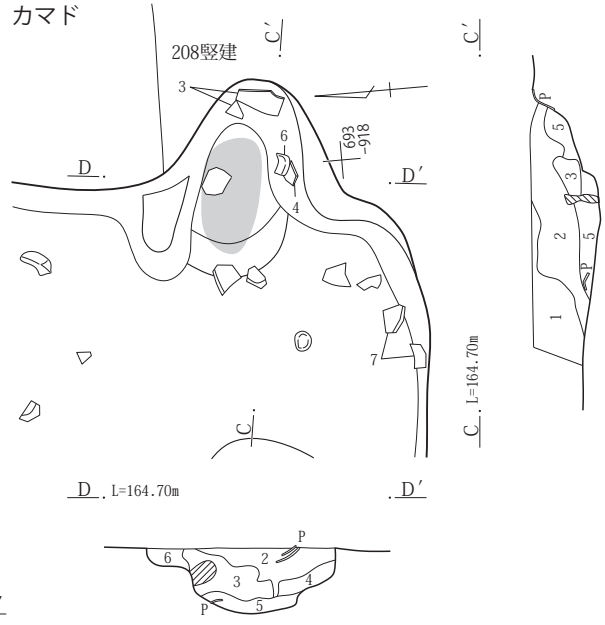
カマドC－C′・D－D′
1　暗褐色土とローム土、焼土粒混土。
2　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム土に焼土粒含む。
3　明黄褐色のローム主体、下部焼土化。天井崩落土。
4　黄橙色の灰層、焼土小塊混じる。しまり弱い。
5　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒多量、黄褐色土20％程、灰少量含む。しまりあり。
6　明赤褐色土(5YR5/8)　焼土。しまりあり。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土20％程、焼土粒・黄褐色塊土少量含む。しまりあまりなし。

182号竪穴建物



182号竪穴建物A－A′・B－B′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As－C混土わずかにローム粒含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As－C・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土・As－C若干含む。しまりややあり。
貯蔵穴E－E′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As－C混土ローム小塊わずかに含む。しまりあり。

カマド

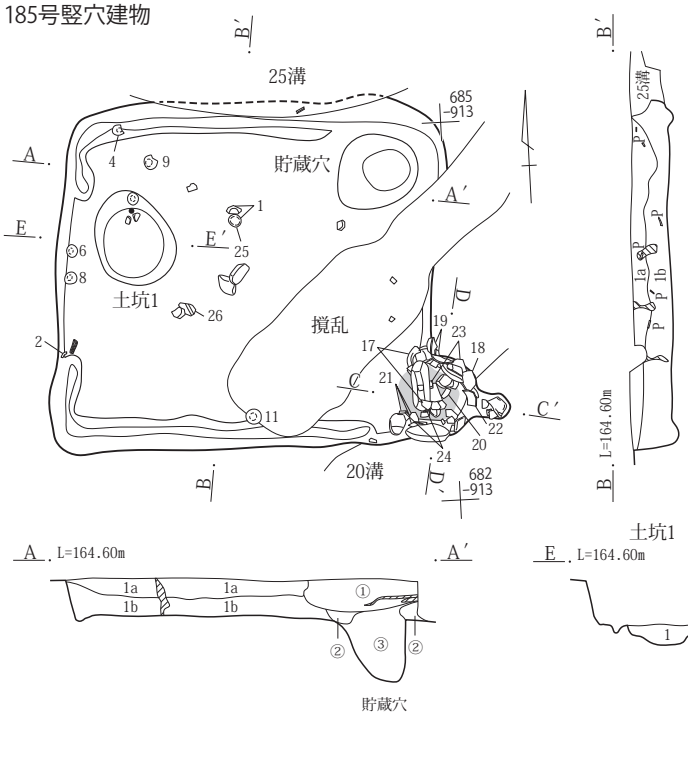


カマドC－C′・D－D′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As－C混土主体。ローム粒・炭粒わずかに含む。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　1層にくすんだローム土・ローム塊含む。わずかに焼土粒含む。
3　明黄褐色ローム主体、にぶい黄褐色土混じり。カマド構築土。
4　にぶい黄褐色土にローム粒含み、焼土粒多く含む。
5　褐色土、ローム小塊含む。焼土化している。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　2層よりもAs－Cが少なく、しまりあり。

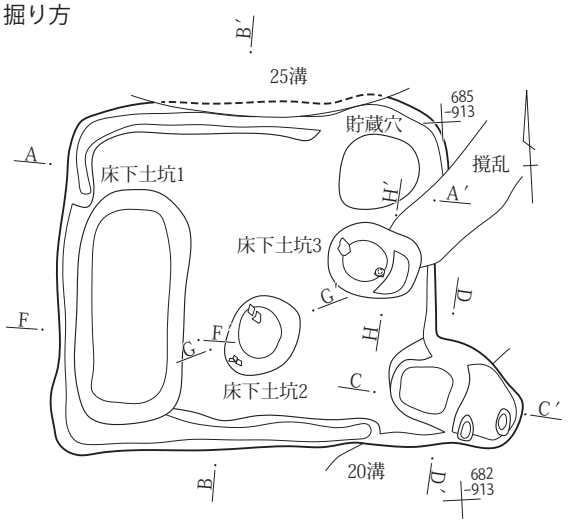
0　1：30　1m
0　1：60　2m

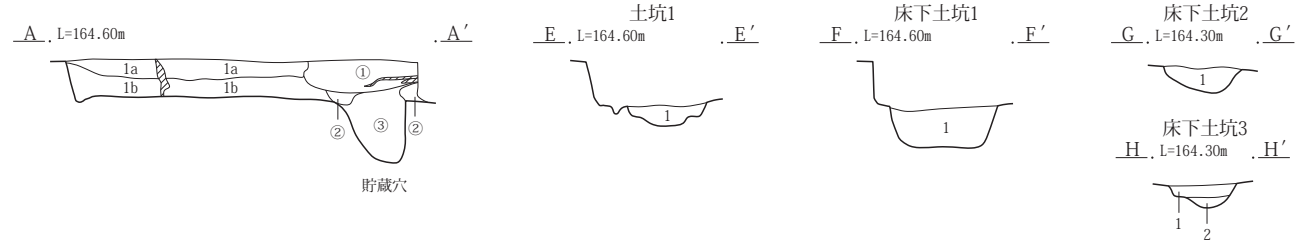
第231図　３面　Ｇ４区181・182号竪穴建物

185号竪穴建物



掘り方



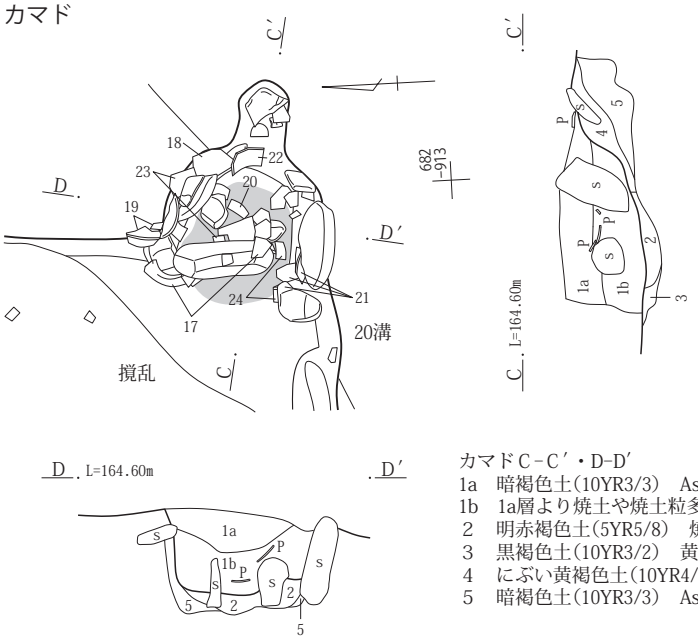


185号竪穴建物・貯蔵穴A-A′・B-B′
1a　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土主体 夾雑物少ない。
1b　1a層よりローム小塊多く含み、やや土色茶色。
①　As-A混土、砂壌土。
②　黒褐色土(10YR2/3)　As-C混土。
③　暗褐色土(10YR3/4)　As-C混土にローム小塊混じり、しまり弱い。
土坑1 E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・黄褐色塊土少量、灰若干含む。しまりややあり。

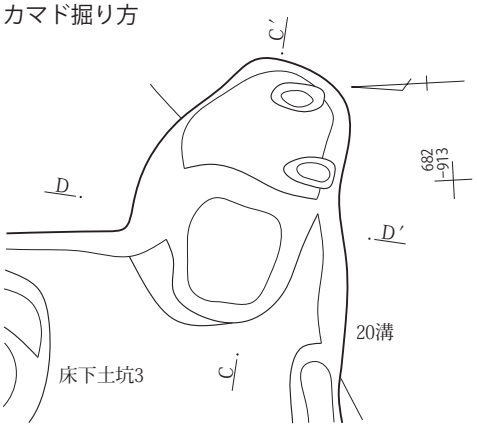
床下土坑1 F-F′
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　As-YP粒・黄褐色塊土多量含む。しまりあまりなし。
床下土坑2 G-G′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊土・As-YP粒少量含む。しまりあまりなし。
床下土坑3 H-H′
1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒少量、黄褐色塊土若干含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黄橙色粒少量、焼土粒若干含む。

0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方

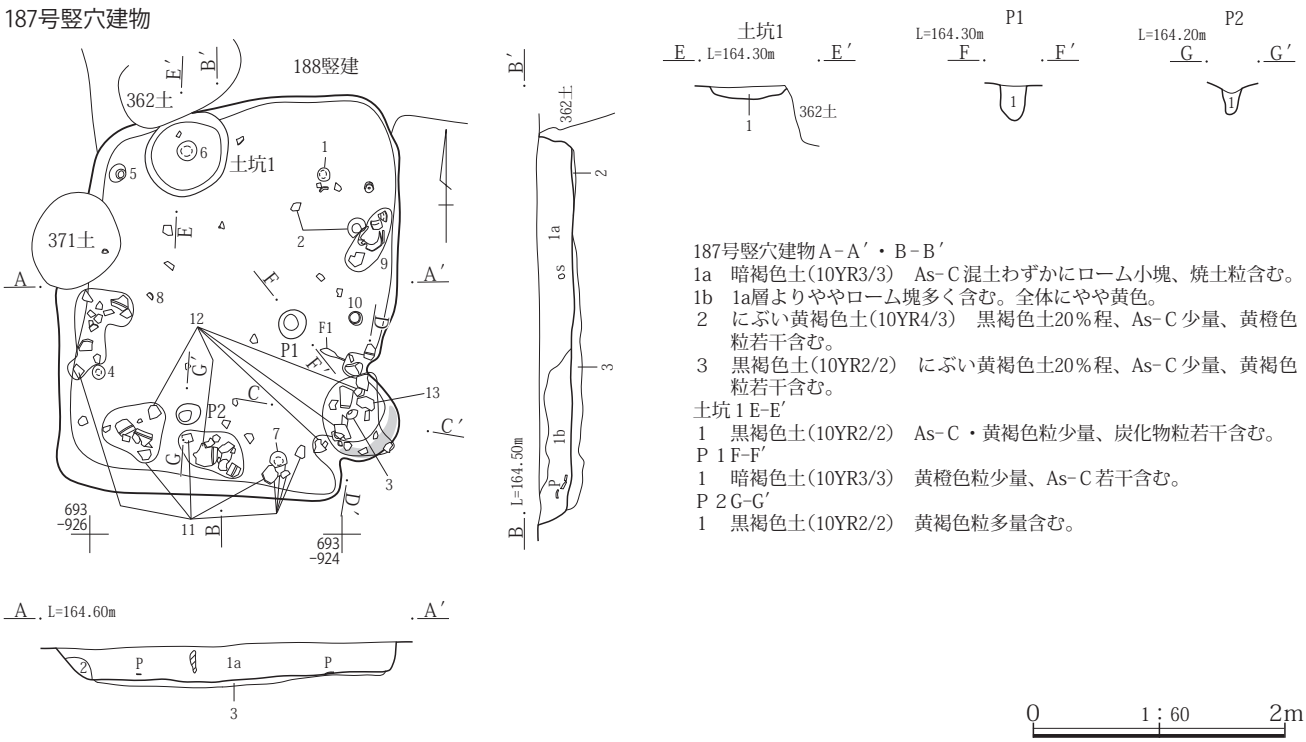


カマドC-C′・D-D′
1a　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土わずかにローム粒・焼土粒含む。
1b　1a層より焼土や焼土粒多く含む。
2　明赤褐色土(5YR5/8)　焼土。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土多量含む。しまりあまりなし。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒・黄褐色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　As-C・黄褐色塊土少量含む。しまりややあり。

0　1：30　1m

第232図　３面　G４区185号竪穴建物

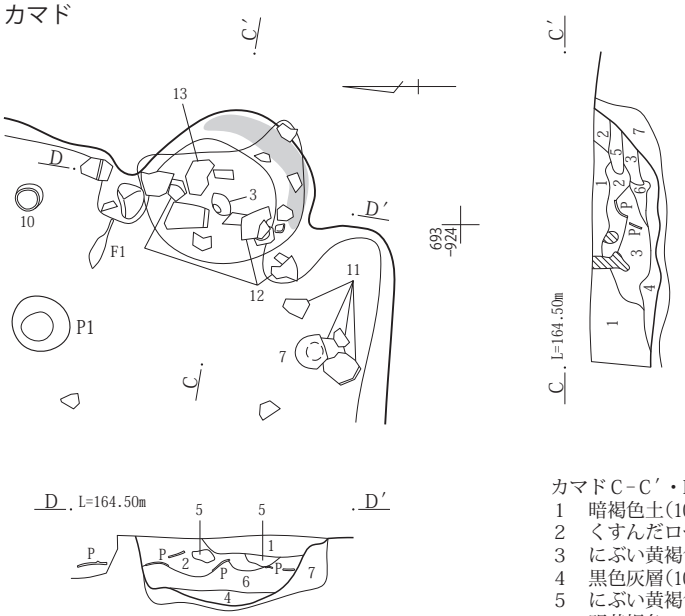
187号竪穴建物



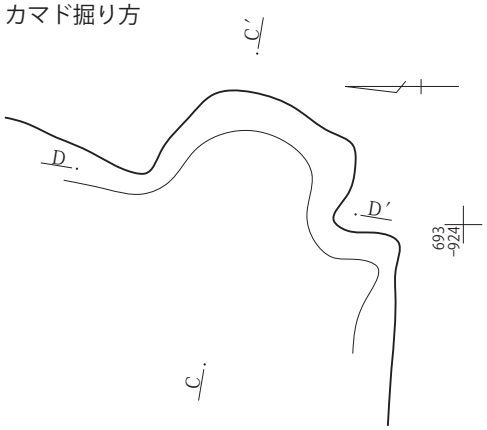
187号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1a　暗褐色土(10YR3/3)　As－Ｃ混土わずかにローム小塊、焼土粒含む。
1b　1a層よりややローム塊多く含む。全体にやや黄色。
２　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土20％程、As－Ｃ少量、黄橙色粒若干含む。
３　黒褐色土(10YR2/2)　にぶい黄褐色土20％程、As－Ｃ少量、黄褐色粒若干含む。
土坑１E－E′
１　黒褐色土(10YR2/2)　As－Ｃ・黄褐色粒少量、炭化物粒若干含む。
Ｐ１F－F′
１　暗褐色土(10YR3/3)　黄橙色粒少量、As－Ｃ若干含む。
Ｐ２G－G′
１　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒多量含む。

0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方

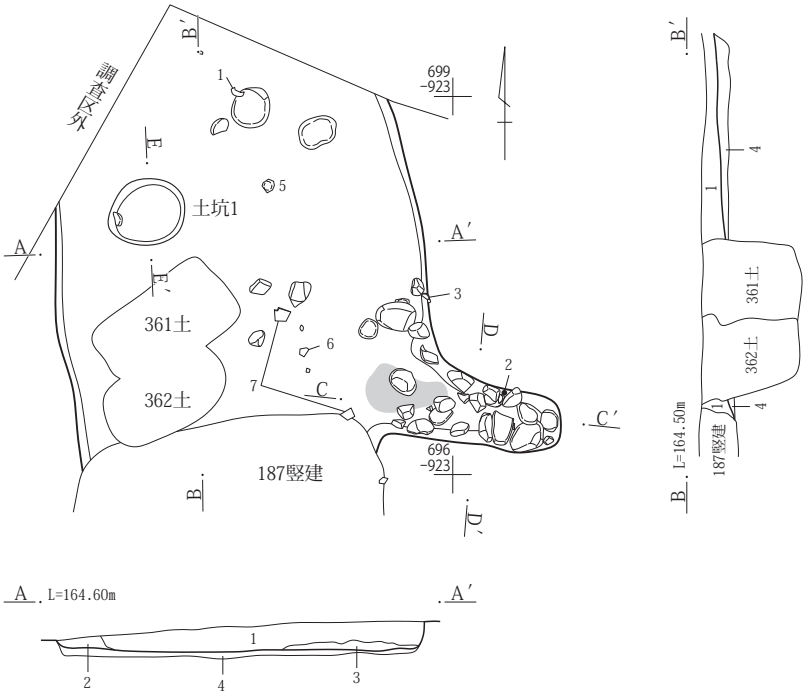


カマドＣ－Ｃ′・D－D′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As－Ｃ混土。
2　くすんだローム土とAs－Ｃ混土。焼土小塊混じり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　炭粒・焼土粒含む。くすんだローム小塊混じり。
4　黒色灰層(10YR2/1)　シルト質。
5　にぶい黄褐色土に焼土塊混じり。
6　明黄褐色ローム塊、わずかに焼土化。
7　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色粒・As－Ｃ少量、焼土粒若干含む。

0　1：30　1m

第233図　３面　Ｇ４区187号竪穴建物

188号竪穴建物



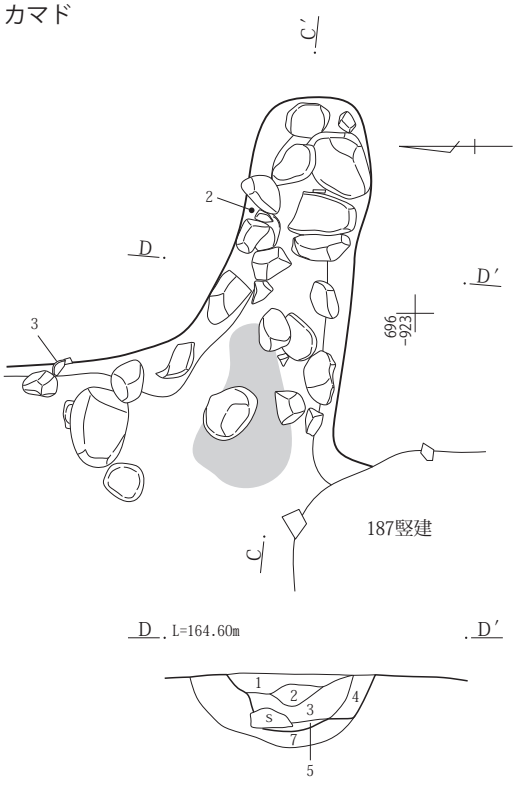
土坑1

188号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄褐色粒少量、炭化物粒・焼土粒若干含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C若干含む。しまりあまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒少量、にぶい黄褐色土10%程、As-C若干含む。しまりややあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土20%程、As-C少量、黄橙色粒若干含む。

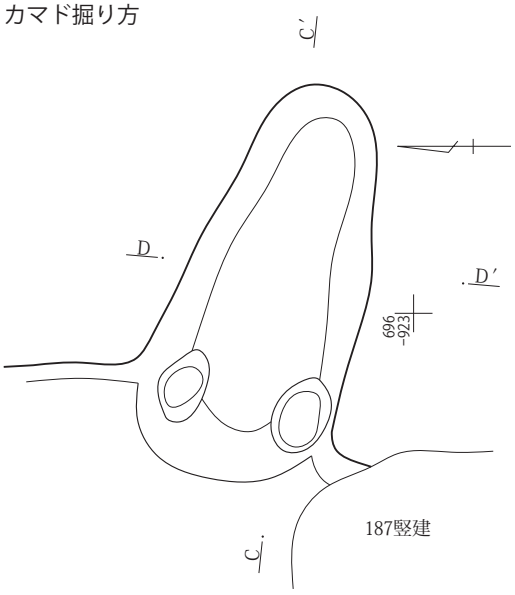
土坑1 E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄橙色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。

0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方

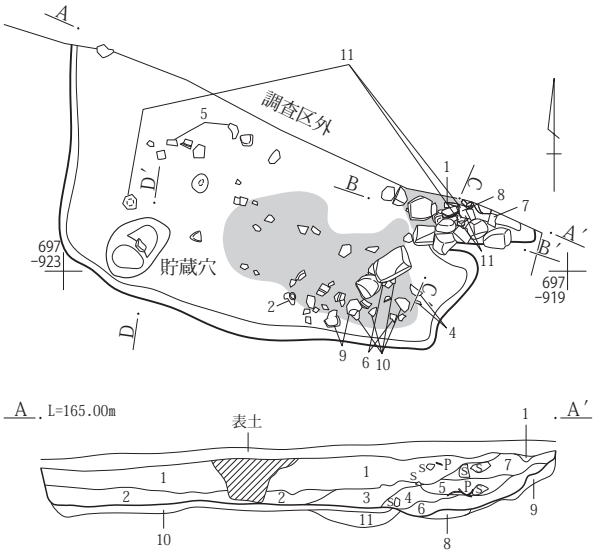


カマドC－C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR2/2)　φ1～3㎜程のAs-C大量、黄褐色粒若干含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム塊土多量、As-C・焼土粒・炭化物粒若干含む。
3　黄褐色土(10YR5/6)　黒褐色土20%程、As-C・焼土粒若干含む。
4　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、黄褐色粒・焼土粒若干含む。しまりややあり。
5　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒・黄橙色粒少量含む。しまりあり。
6　焼土
7　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒少量、As-C若干含む。

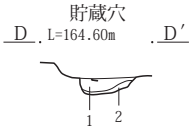
0　1：30　1m

第234図　３面　Ｇ４区188号竪穴建物

189号竪穴建物

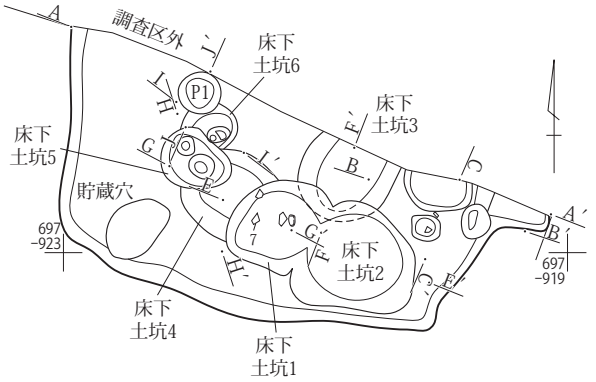


貯蔵穴

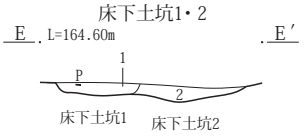


189号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As－C多量、炭化物粒・黄褐色粒少量、にぶい黄褐色塊土若干含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・炭化物粒・黄褐色粒少量、焼土粒若干含む。しまりややあり。
3　黄褐色土(10YR5/6)　黒褐色土20％程、As-C・焼土粒若干含む。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊土少量、As-C・焼土粒若干含む。
5　黄褐色土(10YR5/6)　焼土粒少量、As-C若干含む。
6　黒褐色土(10YR2/2)　焼土塊土多量、焼土粒少量、黄褐色粒若干含む。
7　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・黄褐色粒少量、As-C若干含む。
8　焼土
9　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒・焼土粒若干含む。しまりあまりなし。
10　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　As-C少量、黄褐色粒若干含む。
11　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒少量含む。しまりややあり。
貯蔵穴 D-D′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊土多量、As-C少量、炭化物粒若干含む。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C・黄褐色粒若干含む。しまりあり。

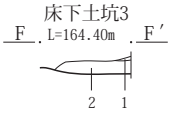
掘り方



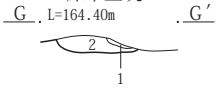
床下土坑1・2



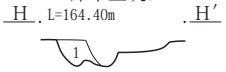
床下土坑3



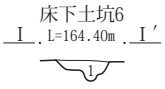
床下土坑4



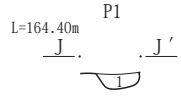
床下土坑5



床下土坑6



P1



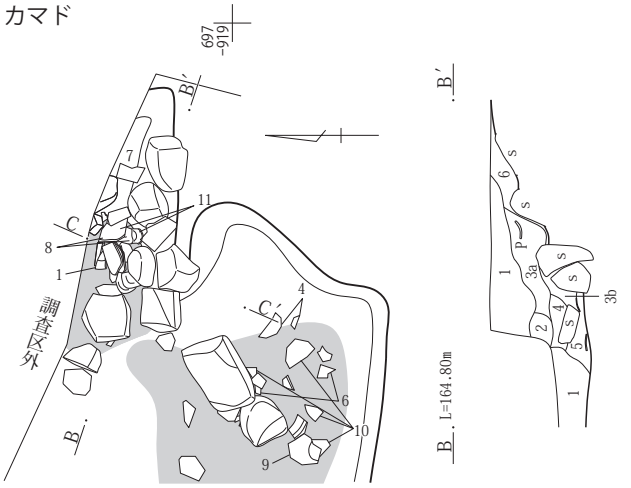
床下土坑１・２E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒・焼土粒若干含む
2　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・黄褐色粒多量、As-C少量、黄褐色塊土若干含む。
床下土坑３F-F′
1　(床)
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒少量含む。しまりややあり。
床下土坑４G-G′
1　黄褐色土(10YR5/6)　床下土坑１の貼土。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土少量、As-C・焼土粒若干含む。しまりややあり。

床下土坑５H-H′
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土多量、As-C少量、焼土粒・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
床下土坑６I-I′
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土多量、As-C少量、焼土粒・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
Ｐ１J-J′
1　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒多量、As-C・黄褐色粒少量含む。しまりややあり。

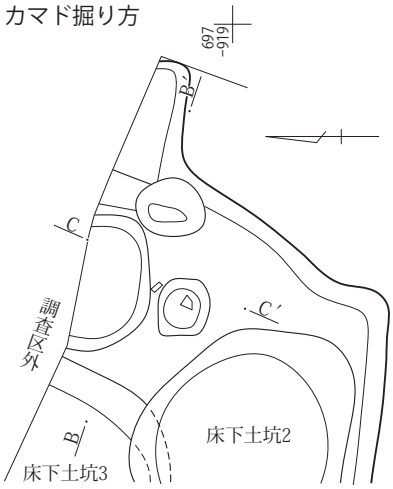
0　1：60　2m

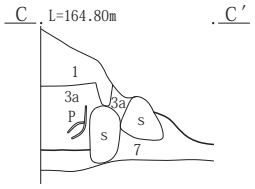
第235図　３面　Ｇ４区189号竪穴建物

カマド



カマド掘り方

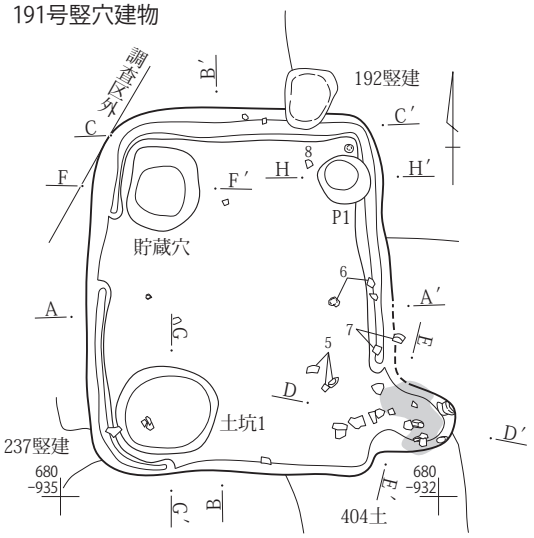


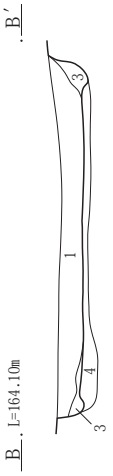


カマドB-B′・C-C′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土わずかにくすんだローム小塊、焼土粒含む。
2　くすんだ黄褐色土にローム小塊、やや多く混じる。
3a　明黄褐色ローム塊主体。焼土小塊含む。カマド構築土
3b　3a層よりローム塊含まず。やや焼土を含む黄褐色ローム。粘性あり。
4　１層に似る。
5　褐色土(10YR4/6)　3b層の塊、焼土粒わずかに含む。
6　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　焼土多量、黄褐色塊土少量、As-C若干含む。しまりあり。
7　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒多量、As-C若干含む。しまりあまりなし。

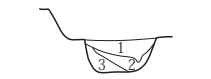
0　1：30　1m

191号竪穴建物



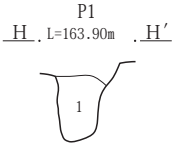


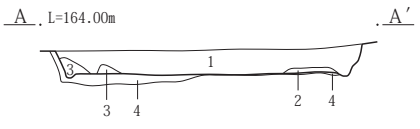
貯蔵穴

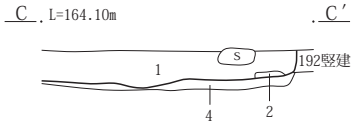


土坑1

P1





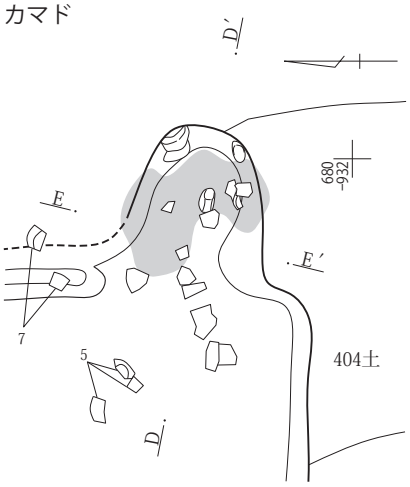


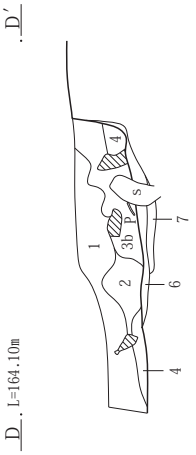
191号竪穴建物A-A′・B-B′・C-C′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土の均一土。
2　褐色土(10YR4/4)　漸移層土と暗褐色土の混土。しまり・粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　漸移層土に暗褐色土混じり。壁の崩落土。
4　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、黄褐色粒若干含む。
貯蔵穴F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土均一。しまり弱い。
2　くすんだローム。黒褐色土にローム。小塊混土。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊混じり。
土坑１G-G′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム塊土多量、黄褐色粒少量含む。しまりあまりなし。
Ｐ１H-H′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。

0　1：60　2m

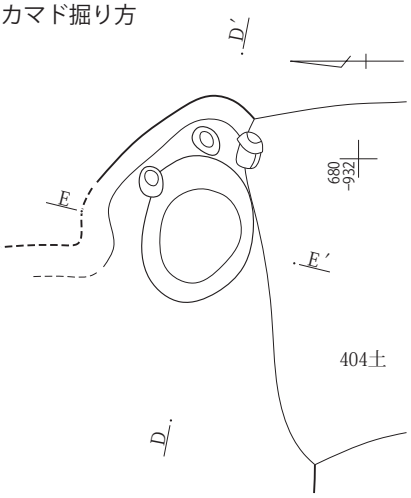
第236図　３面　Ｇ４区189・191号竪穴建物

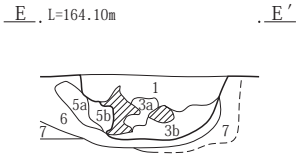
カマド





カマド掘り方

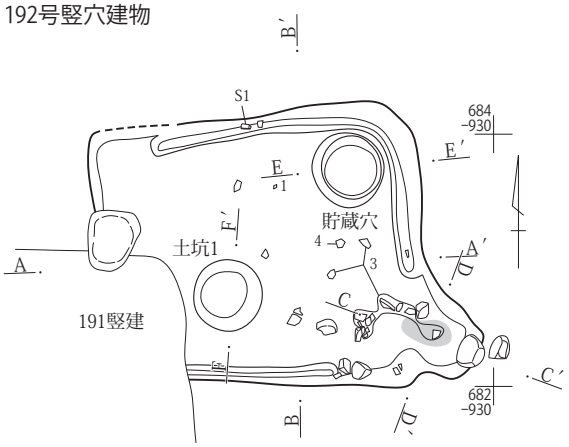


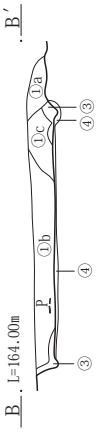


カマドC-C′・D-D′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土。わずかに炭粒含む。
2　灰黄褐色土にローム小塊混土。
3a　ローム塊とくすんだローム塊、焼土小塊混土。
3b　3a層よりローム・焼土小さい。
4　黒色灰層。シルト質。
5a　粘性強いローム土(カマド構築土)
5b　5a層の焼土化し赤褐色変色。
6　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・黄褐色粒・炭化物粒少量含む。しまりややあり。
7　明赤褐色土(5YR5/8)　焼土。しまりあり。

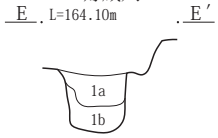
0　1：30　1m

192号竪穴建物

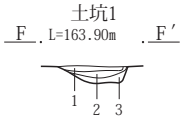


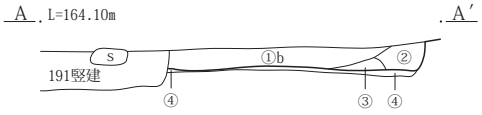


貯蔵穴



土坑1



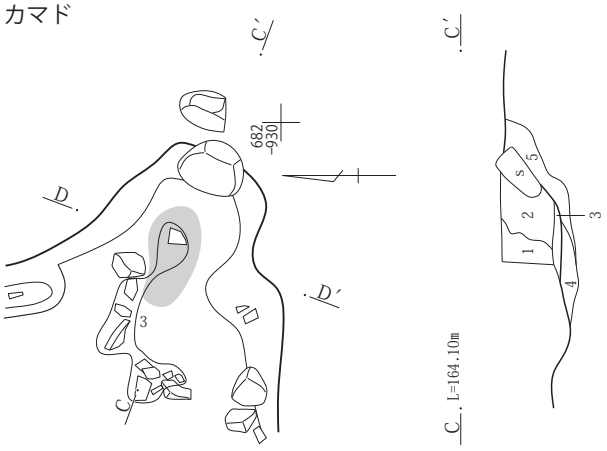


192号竪穴建物A-A′・B-B′
①a　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C混土にAs-YR混じりの黄色ローム塊わずかに含む。
①b　1a層にローム塊含まない。
①c　①b層より暗色。As-Cをやや多く含む。
②　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-C混土に硬質塊混じり。
③　As-YP混じりのローム塊混土。貼床か。
④　灰黄褐色土(10YR4/2)ローム小塊含む。しまり弱い。
貯蔵穴E-E′
1a　黒色土(10YR2/1)　As-C混主体。炭化物わずかに含む。しまり弱い。
1b　1a層に比べ軽石少ない。やや粘性あり。
土坑１F-F′
1　As-YP粒大量含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　ローム塊土多量含む。
3　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量含む。

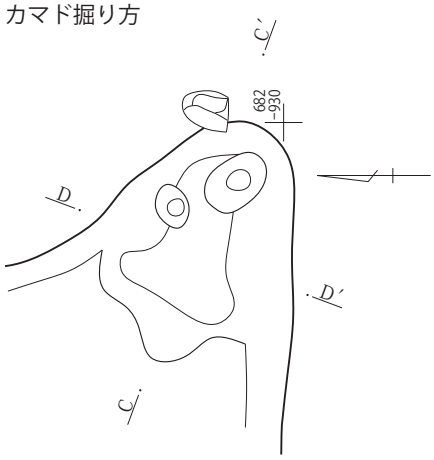
0　1：60　2m

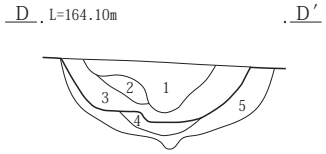
第237図　３面　Ｇ４区191・192号竪穴建物

カマド



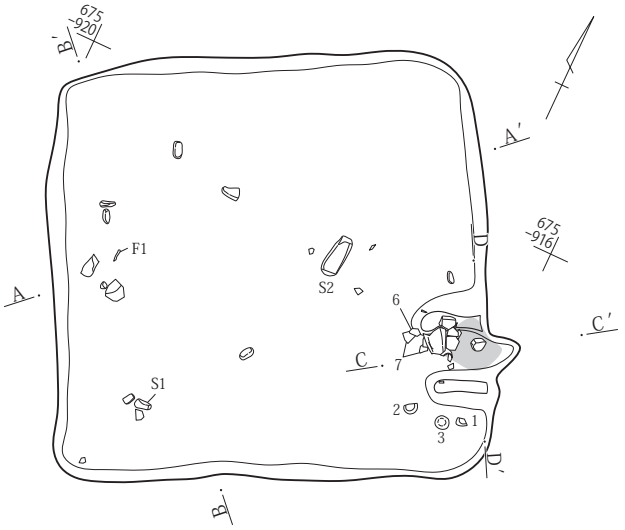
カマド掘り方

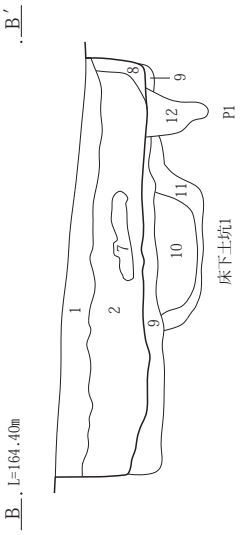


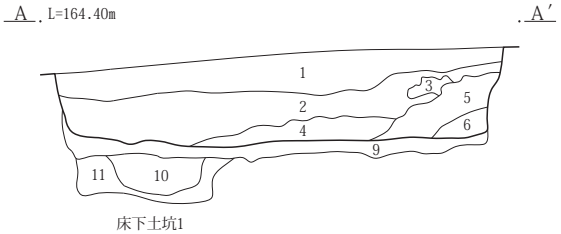


カマドC－C′・D-D′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　As－C混土にわずかローム粒・炭粒含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　1層よりローム及び小塊多く含む。
3　にぶい黄橙色土(10YR5/3)　くすんだローム主体。やや焼土化。焼土小塊含む。
4　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒・As-YP粒多量含む。しまりあまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒・As－C・黄褐色粒少量含む。しまりあまりなし。

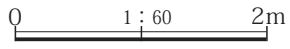
193号竪穴建物



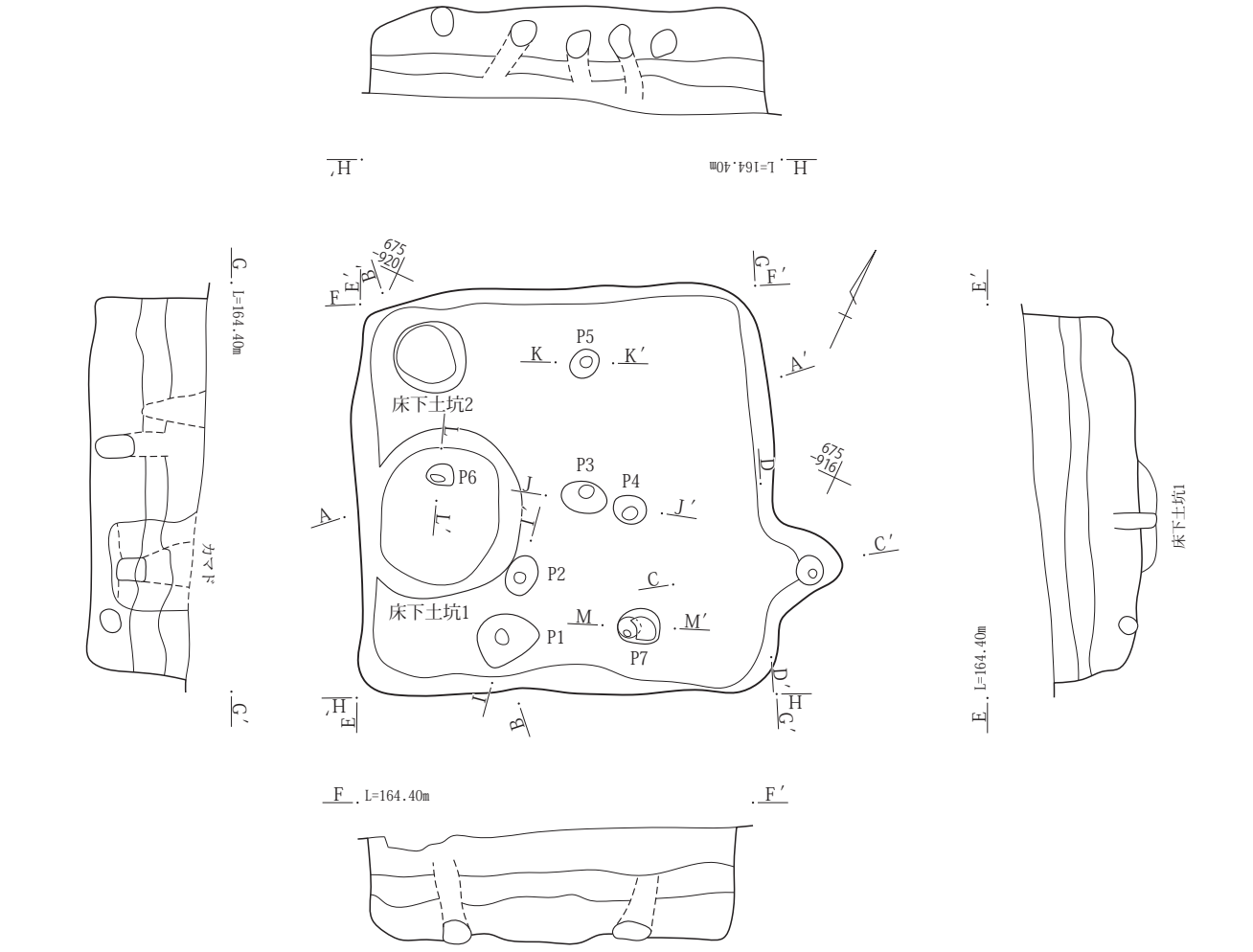


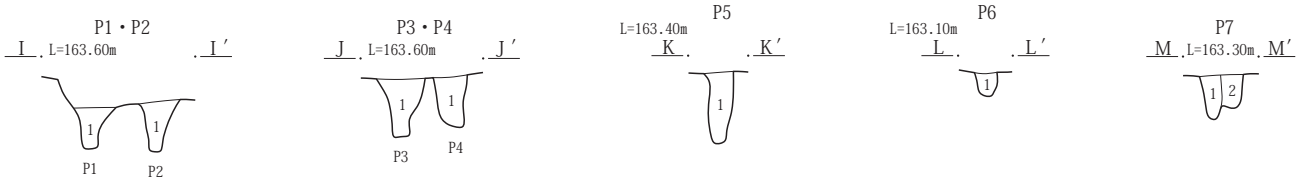


193号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As－C多量、黄橙色粒少量含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP軽石・粒多量、As－C少量含む。しまりややあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　黒褐色土30％程、As-YP軽石・As－C若干含む。しまりややあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　As-YP軽石・粒大量、焼土粒若干含む。しまりあまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/2)　As－C・黄褐色土若干含む。しまりあまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP軽石・粒多量、炭化物粒若干含む。しまりややり。
7　黒褐色土(10YR2/2)　暗褐色塊30％程、As-YP粒少量含む。しまりややあり。
8　黒褐色土(10YR3/2)　As-YR粒少量含む。しまりあまりなし。
9　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP粒多量含む。しまりあまりなし。
10　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP粒少量含む。しまりあまりなし。
11　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP粒・黄褐色塊土多量含む。しまりあまりなし。
12　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP粒少量含む。しまりあまりなし。



第238図　３面　Ｇ４区192・193号竪穴建物



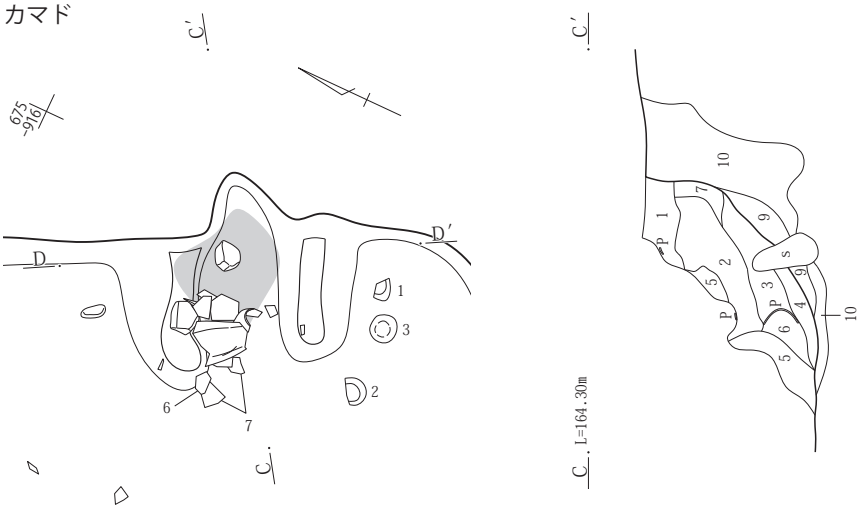


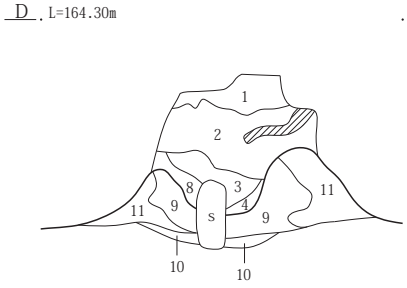
P１I-I′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒・As-YP軽石多量含む。
P２I-I′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒・As-YP軽石多量含む。
P３J-J′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP軽石少量含む。
P４J-J′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP粒少量含む。
P５K-K′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP粒多量、黄褐色塊土若干含む。
P６L-L′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒少量含む。しまりあまりなし。
P７M-M′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒少量含む。しまりあまりなし。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　しまりややあり。

0　1：60　2m

第239図　３面　Ｇ４区193号竪穴建物

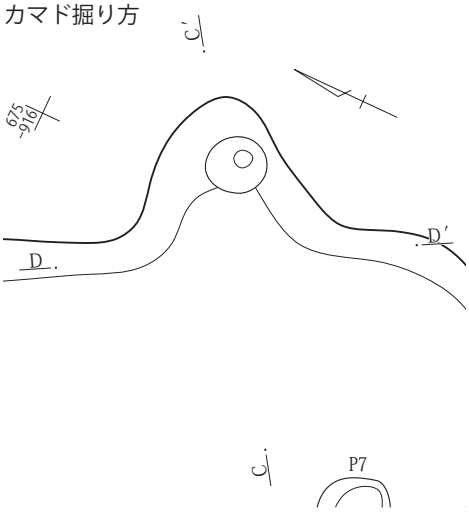
カマド





カマドＣ－Ｃ′・D-D′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ多量、黄褐色土若干含む。しまりややあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土20％程、As-YP軽石少量、焼土粒若干含む。しまりあまりなし。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒・塊・As-YP軽石少量、黄褐色塊土含む。しまりあまりなし。
4　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・焼土粒多量、As-YP軽石少量、灰ごくわずか含む。しまりあまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP軽石少量、黄褐色土若干含む。しまりややあり。
6　黒褐色土(10YR2/2)　暗褐色土30％程、As-YP粒・焼土塊若干含む。しまりあまりなし。
7　褐色土(10YR3/2)　As-YP粒少量、黄褐色塊若干含む。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP粒・焼土粒少量、にぶい黄褐色塊土若干含む。しまりあまりなし。
9　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒多量、焼土塊土・As-YP粒少量含む。しまりあまりなし。
10　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP粒・黄褐色粒少量含む。しまりあまりなし。
11　黄褐色土(10YR5/6)　As-Ｃ若干含む。しまりあまりなし。

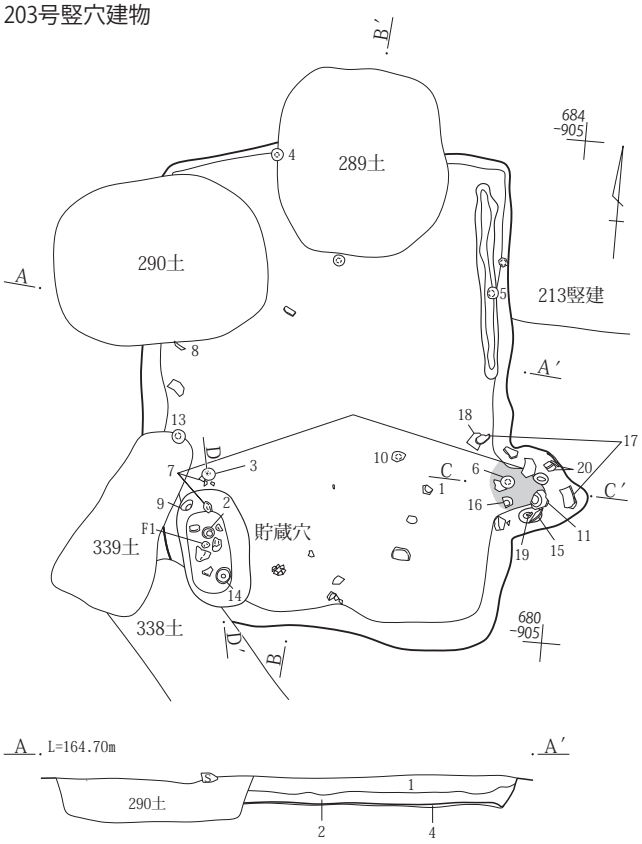
カマド掘り方

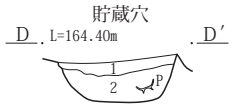


0　1：30　1m

第240図　３面　Ｇ４区193号竪穴建物

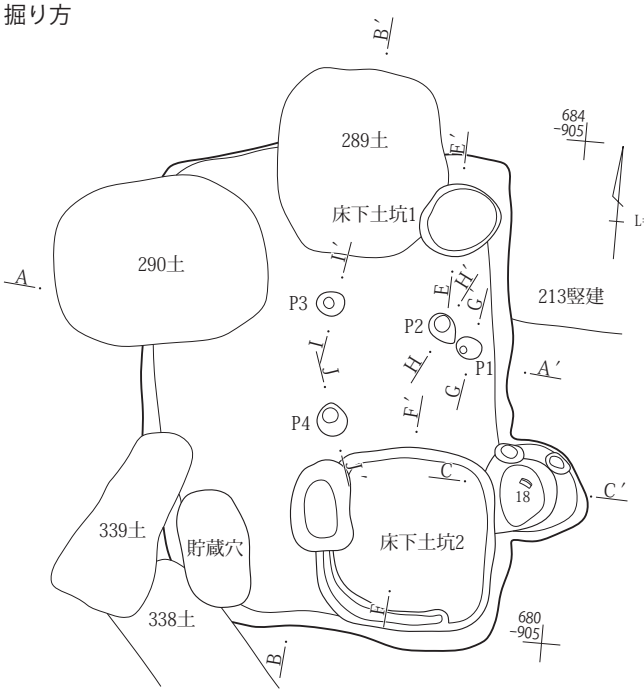
203号竪穴建物

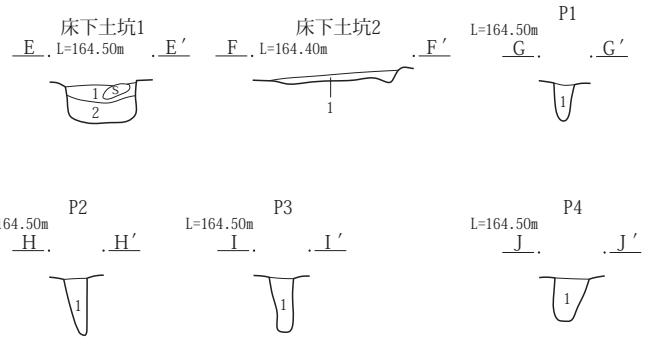




203号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄褐色粒・炭化物粒・焼土粒若干含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色粒・As-C少量、にぶい黄褐色塊土若干含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色土大量、As-C少量含む。しまりややあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土20％程、As-C少量、黄橙色粒若干含む。
5　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土少量、炭化物粒・As-C若干含む。しまりややあり。
6　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒少量含む。しまりややあり。
貯蔵穴１D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、黄褐色粒若干含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色塊土少量含む。

掘り方

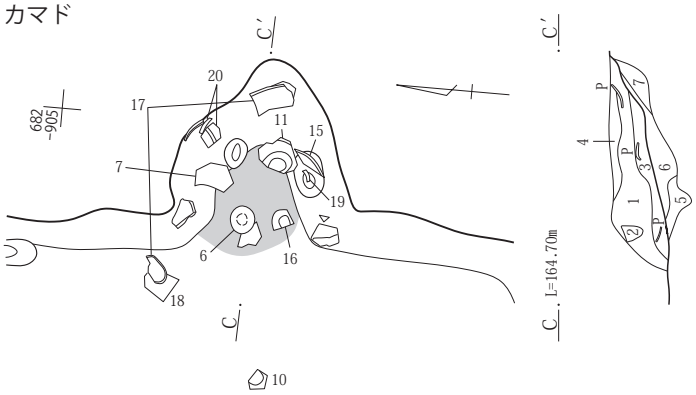




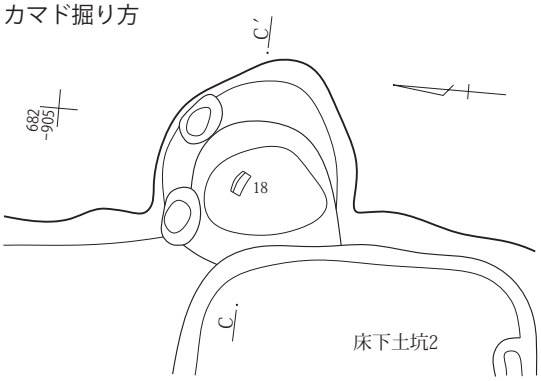
床下土坑１E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP粒・焼土粒・炭化物粒・As-C少量含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP粒多量、焼土粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
床下土坑２F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土少量、炭化物粒・As-C若干含む。しまりややあり。
Ｐ１G-G′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒少量含む。しまりややあり。
Ｐ２H-H′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒少量含む。しまりややあり。
Ｐ３I-I′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒少量含む。しまりややあり。
Ｐ４J-J′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒少量含む。しまりややあり。

第241図　３面　Ｇ４区203号竪穴建物

カマド



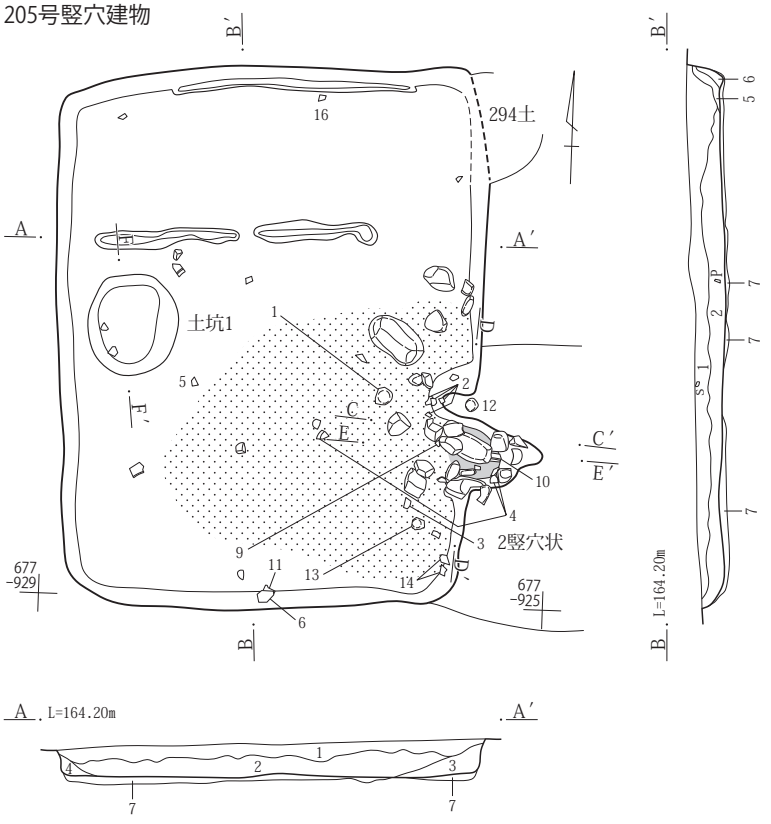
カマド掘り方

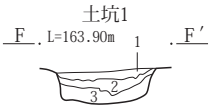


カマドＣ－Ｃ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As－Ｃ・黄褐色塊少量、炭化物粒若干含む。しまりあり。
2　黄褐色土(10YR5/6)　塊土。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　黄橙色粒・焼土粒若干含む。しまりややあり。(土器片など多く含む。)
4　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ・焼土粒少量含む。しまりややあり。
5　明赤褐色土(5YR5/8)　焼土。As-Ｃ少量含む。しまりあり。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒少量、As-Ｃ・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-Ｃ・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。

0　1：30　1m

205号竪穴建物





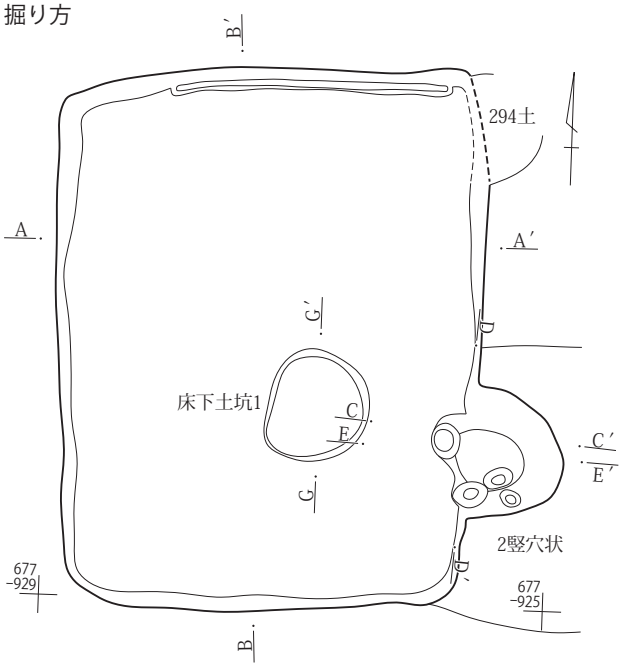
205号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As－Ｃ多量、黄褐色粒少量含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As－Ｃ・黄褐色塊土少量、黄橙色粒・焼土粒若干含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ・黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。
4　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ若干含む。しまりややあり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　暗褐色土10％程、As-Ｃ若干含む。しまりややあり。
6　にぶい黄褐色土10YR4/3)　As-Ｃ若干含む。しまりあまりなし。
7　黄褐色土(10YR5/6)　黒褐色土30％程、As-Ｃ少量、黄橙色粒若干含む。

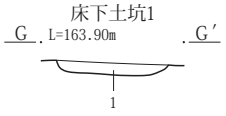
土坑１F-F′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ若干含む。しまりあまりなし。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黄褐色土塊少量、As-Ｃ若干含む。しまりややあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム塊土若干含む。しまりあまりなし。

0　1：60　2m

第242図　３面　Ｇ４区203・205号竪穴建物

掘り方

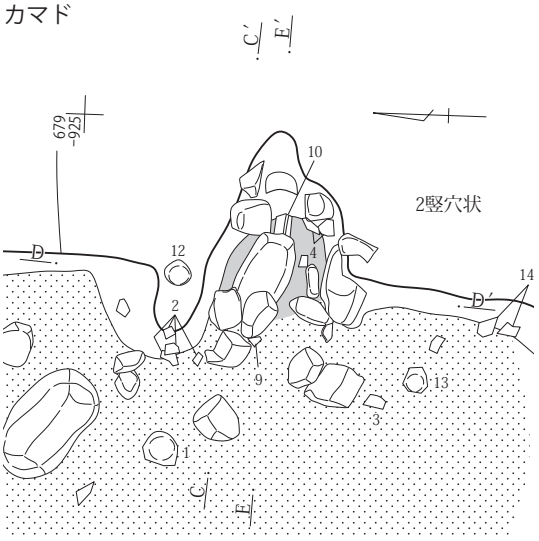


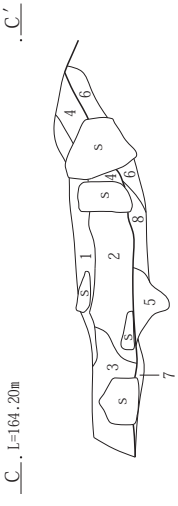


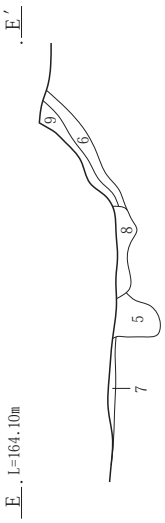
床下土坑１G-G′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土30％程、黄褐色粒少量含む。しまりあり。

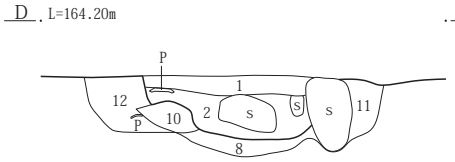
0　1：60　2m

カマド

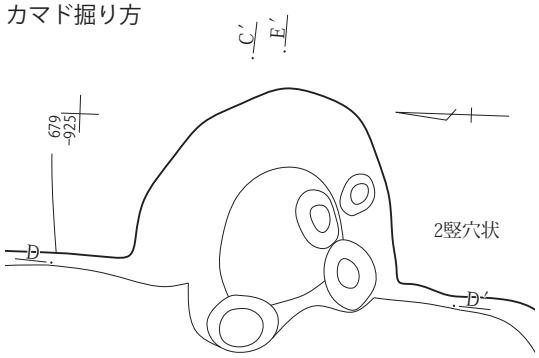








カマド掘り方

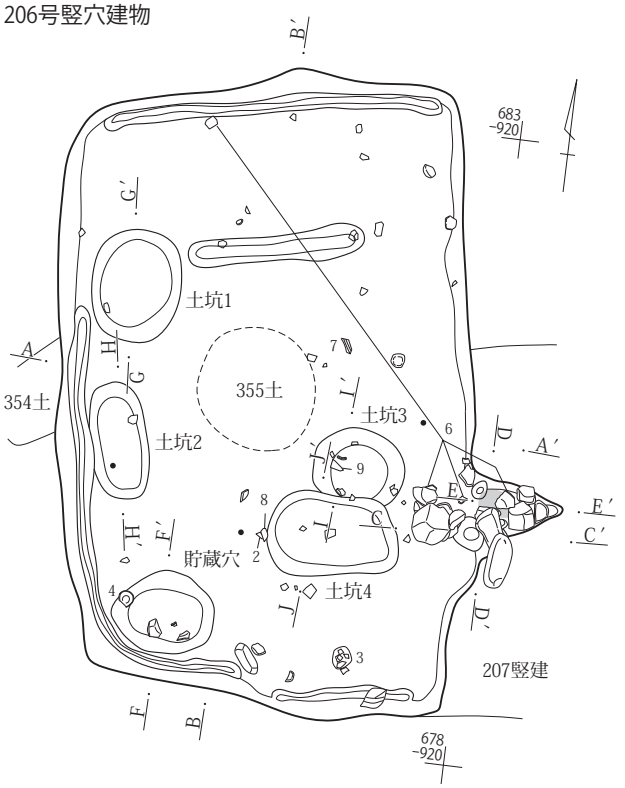


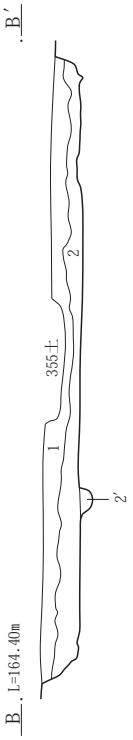
カマドC-C′・D-D′・E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒・黄橙色粒・As-C少量含む。しまりややあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　As-C少量、黄褐色粒・焼土粒・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒少量、黄褐色粒・As-C若干含む。しまりややあり。
5　黒褐色土(10YR2/2)　炭化物粒・黄褐色粒少量、焼土粒若干含む。しまりあまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒・黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。
7　黄褐色土(10YR5/6)　黒褐色土30％程、As-C少量、黄橙色粒若干含む。
8　明赤褐色土(5YR5/8)　焼土。さらさらしている。
9　にぶい赤褐色土(5YR5/4)　にぶく焼けた焼土。さらさらしている。
10　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒多量、黄褐色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。
11　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊土・炭化物粒少量含む。しまりややあり。
12　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・にぶい黄褐色土塊土少量、黄褐色土粒若干含む。しまりややあり。

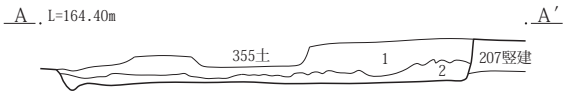
第243図　３面　Ｇ４区205号竪穴建物

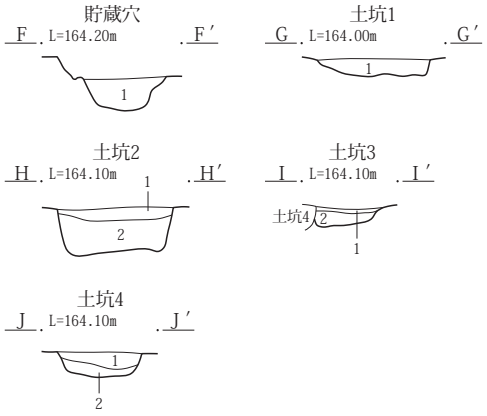
0　1：30　1m

206号竪穴建物





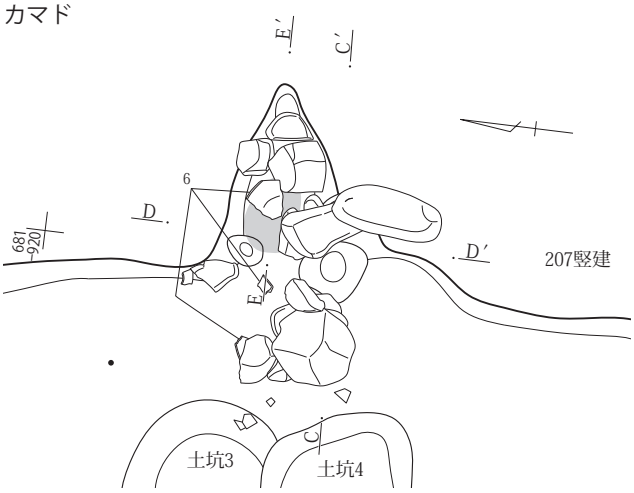


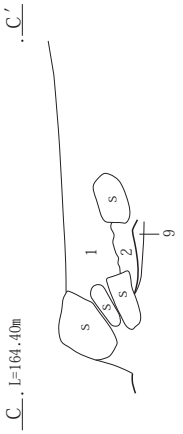


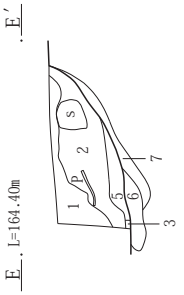
206号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、黄橙色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・黄褐色粒・黄褐色塊土少量、炭化物粒・焼土粒若干含む。しまりあり。
2′黒褐色土(10YR3/2)　2層に類似するが、2層よりしまり悪い。
貯蔵穴 F-F′
1　黒色土(10YR2/1)　As-C・黄褐色粒・炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。
土坑1 G-G′
1　黒褐色土(10YR2/2)　φ1～3㎝の黄褐色塊土・As-C・黄褐色粒少量含む。しまりややあり。
土坑2 H-H′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・黄褐色塊土少量含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量、黄褐色粒若干含む。
土坑3 I-I′
1　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色粒多量、As-C・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10R2/2)　黄褐色粒・As-C少量含む。しまりややあり。
土坑4 J-J′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・黄褐色塊土少量含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量、黄褐色粒若干含む。

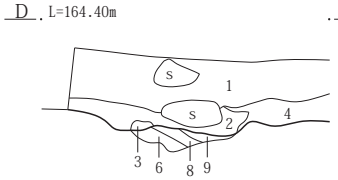
0　1：60　2m

カマド







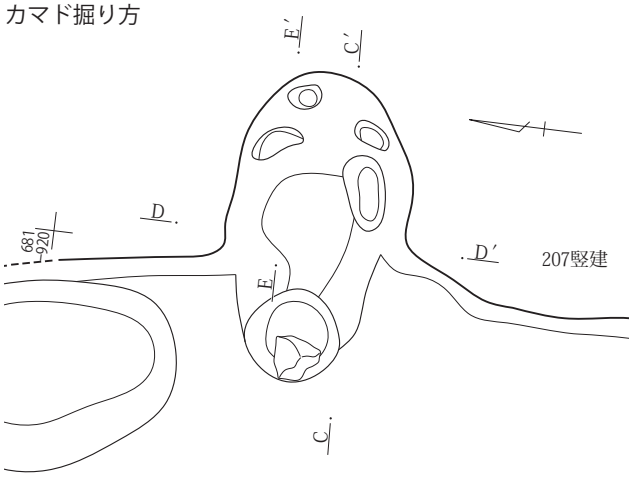


カマドC-C′・D-D′・E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒少量、炭化物粒・焼土粒若干含む。しまりややあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色粒・焼土粒少量、As-C若干含む。しまりややあり。
3　明赤褐色土(5YR5/8)　焼土。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒多量、As-C・焼土粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・As-C少量含む。しまりややあり。
6　明赤褐色土(5YR5/8)　焼土。さらさらしている。
7　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒・As-C少量、にぶい黄褐色土10％程含む。
8　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　にぶく焼けた焼土。
9　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒・As-C少量含む。

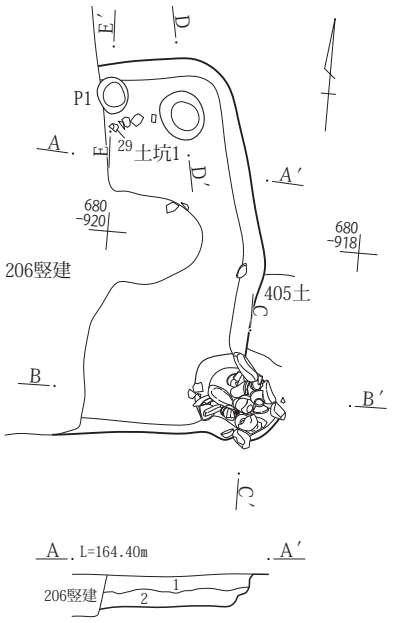
第244図　３面　G４区206号竪穴建物

0　1：30　1m

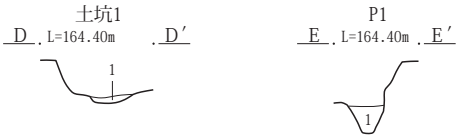
カマド掘り方



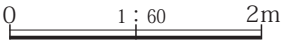
207号竪穴建物



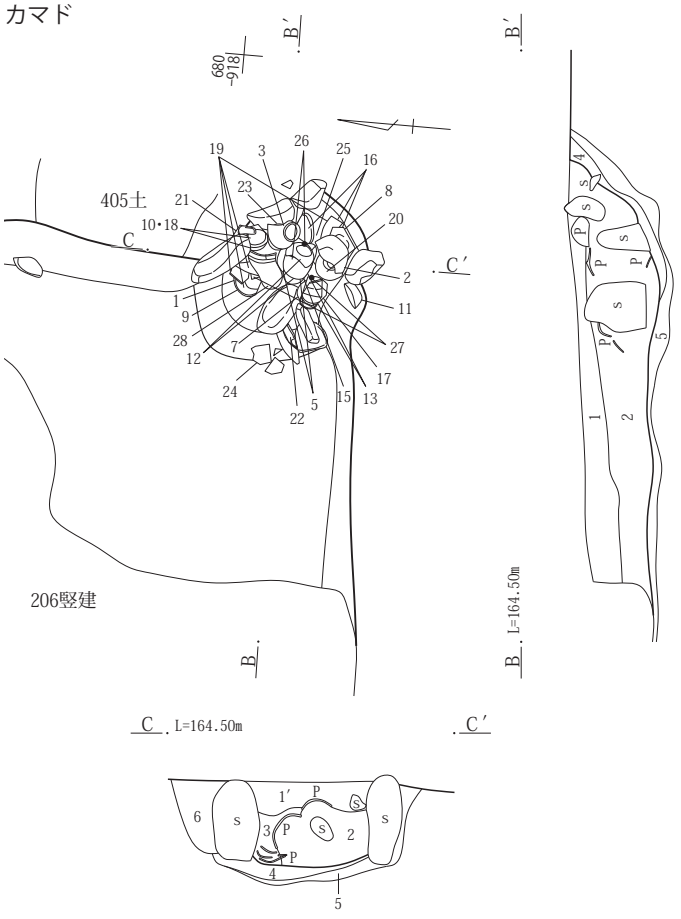
207号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　φ１～３㎝程のAs-Ｃ大量、黄褐色粒若干含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ・黄橙色粒・焼土粒少量含む。しまりややあり。



土坑１D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ・黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。
Ｐ１E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒少量、炭化物粒・As-Ｃ若干含む。しまりあまりなし。

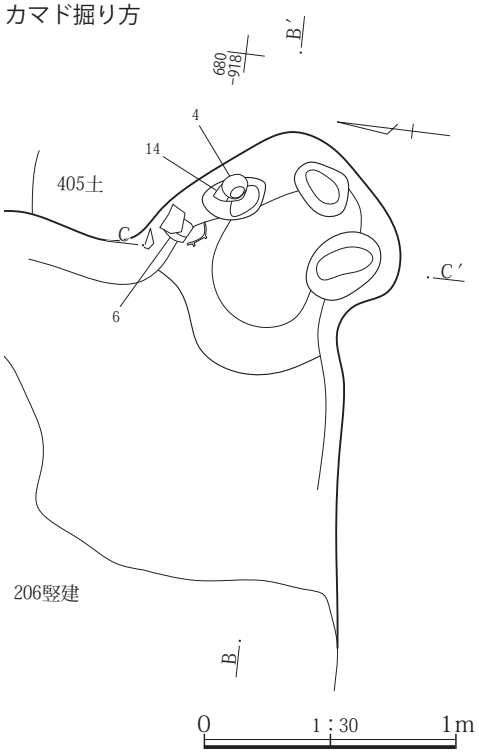


カマド



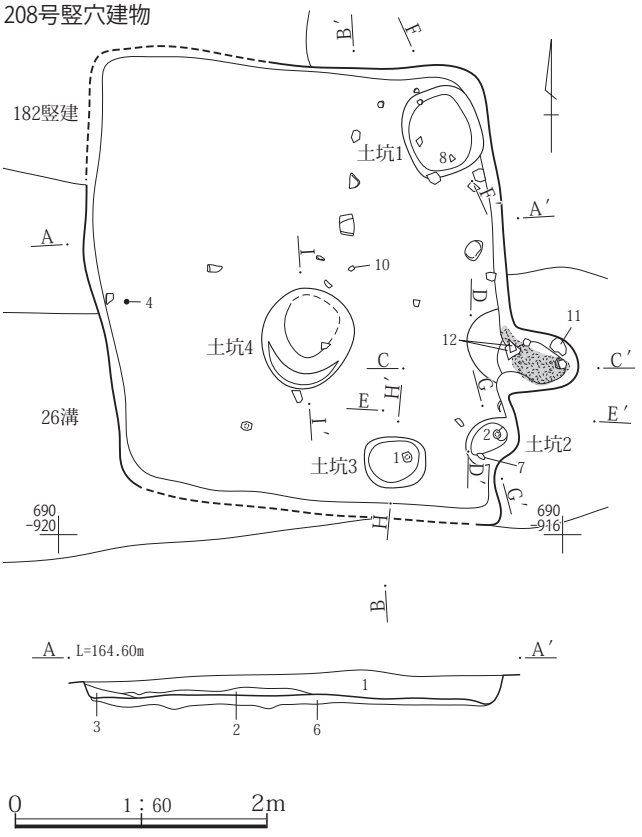
カマドＢ-Ｂ′・Ｃ-Ｃ′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ少量、黄橙色粒若干含む。しまりややあり。
1′黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ・焼土粒少量、黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ・焼土粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ少量、黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
4　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ・焼土粒少量含む。しまりややあり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-Ｃ・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
6　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ多量、黄褐色粒少量含む。しまりややあり。

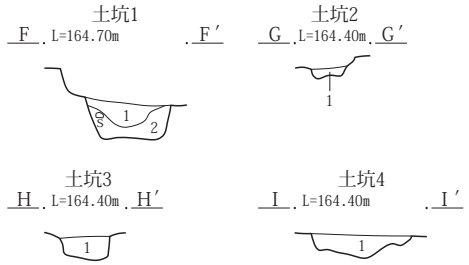
カマド掘り方



第245図　３面　Ｇ４区206・207号竪穴建物

208号竪穴建物





208号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C大量、黄橙色粒・炭化物粒・焼土粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、黄褐色塊土若干含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土少量、As-C若干含む。しまりややあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土・As-C少量、炭化物粒・焼土粒若干含む。しまりあまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・焼土粒少量含む。しまりややあり。
6　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、As-YP粒少量含む。しまりややあり。
7　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP粒多量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。

土坑１F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、焼土粒・黄褐色粒若干含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP粒多量含む。

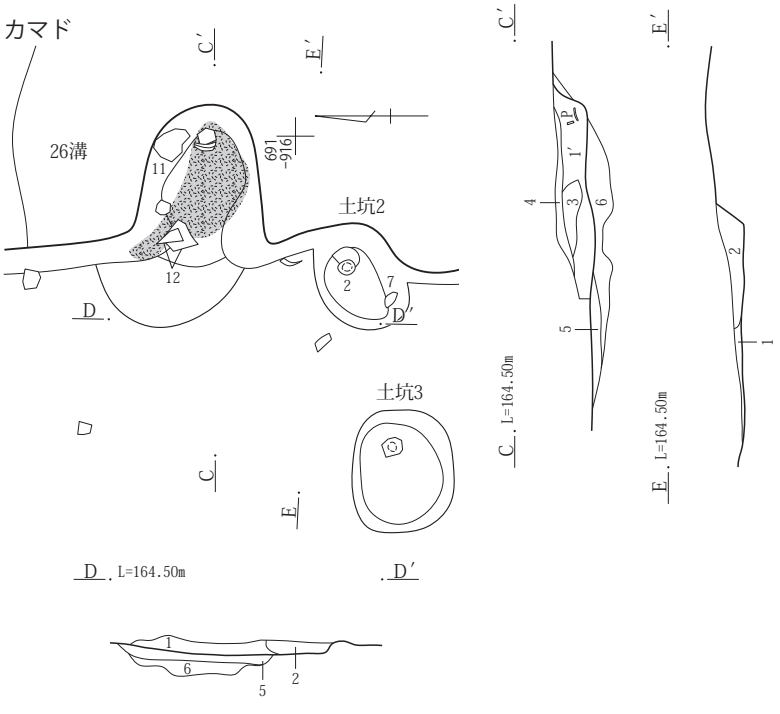
土坑２G-G′
1　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物粒・黄褐色粒・焼土粒少量、As-C若干含む。

土坑３H-H′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP粒・As-C少量、黄褐色土30%程含む。

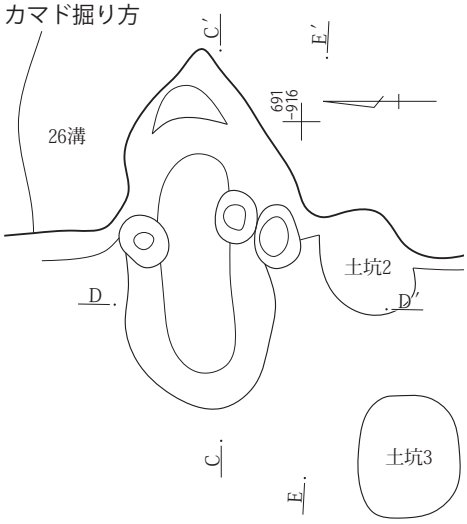
土坑４I-I′
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色塊土・青灰色軽石多量、As-C少量含む。

0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方

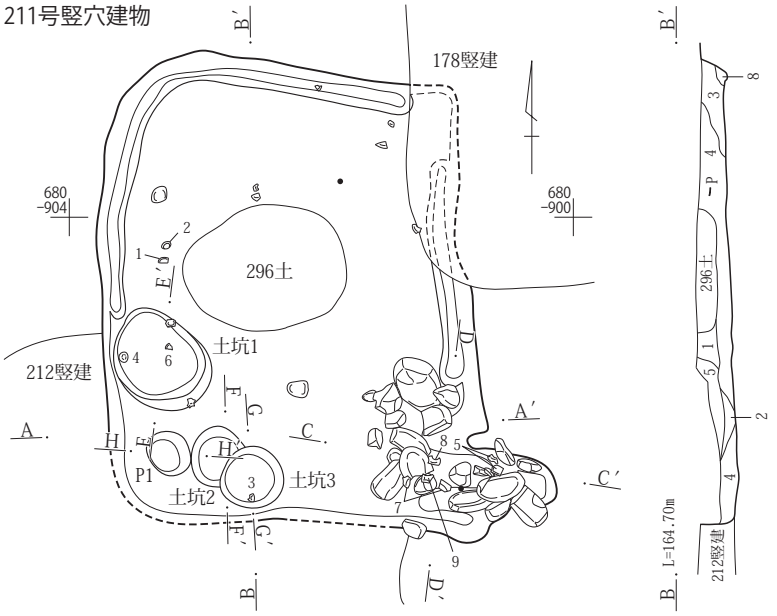


カマドC-C′・D-D′・E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒少量、As-C・黄褐色粒若干含む。
1′黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・灰少量、黄褐色粒若干含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　灰多量、As-C・炭化物粒少量含む。
3　黄褐色土(10YR5/6)　As-C若干含む。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒若干含む。しまりあり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、炭化物粒・焼土粒若干含む。しまりややあり。
6　明赤褐色土(5YR5/8)　焼土。しまりあり。

0　1：30　1m

第246図　３面　Ｇ４区208号竪穴建物

211号竪穴建物



土坑１E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP少量、ローム約１㎝塊を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP多量含む。しまり弱、粘性あり。

土坑２F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP少量含む。しまりややあり、粘性あり。

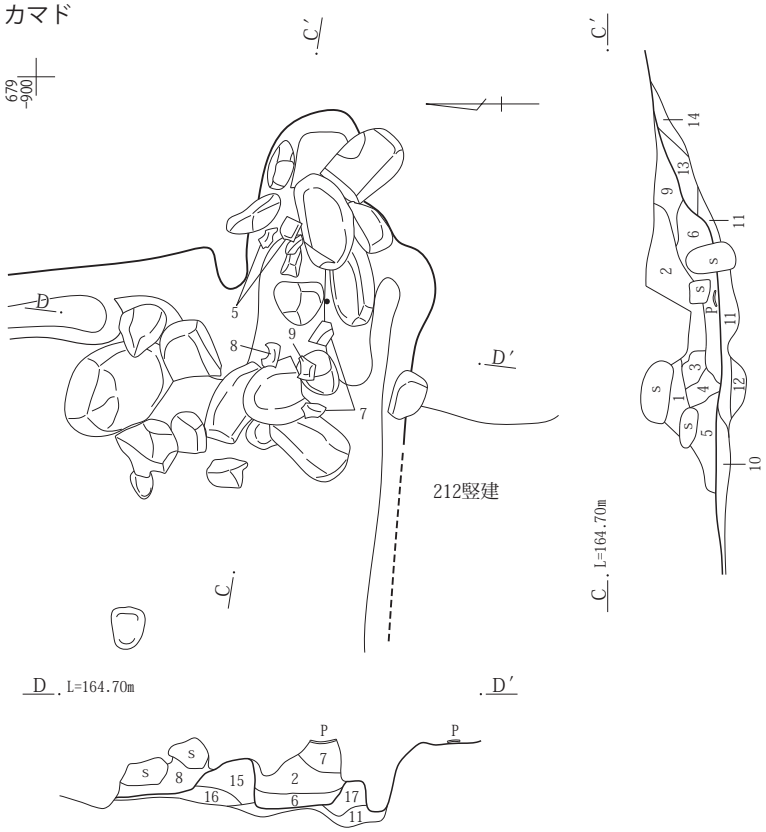
土坑３G-G′
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP少量、ローム大塊を含む。しまり強、粘性あり。

Ｐ１H-H′
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP・ローム粒少量含む。しまり弱、粘性あり。

211号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒黄褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ多量、ローム小塊を含む。しまり強、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒・炭化物・にぶい黄橙色粒少量含む。しまり・粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　明褐色粒約５㎜少量、As-Ｃを含む。しまり・粘性あり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ少量、遺物を含む。しまり・粘性あり。
5　褐灰色土(10YR4/1)　酸化鉄分を含む。しまり・粘性あり。
6　黒黄褐色土(10YR3/2)　１層に類似、As-Ｃ多量、小礫・炭化物を含む。しまり強、粘性あり。
7　暗褐色土(10YR3/3)　ローム約３～５㎝塊・カマド構築材礫・As-Ｃを含む。明褐色土粒・小塊を含む。しまり・粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊多量含む。しまり弱、粘性あり。

0　1：60　2m

カマド

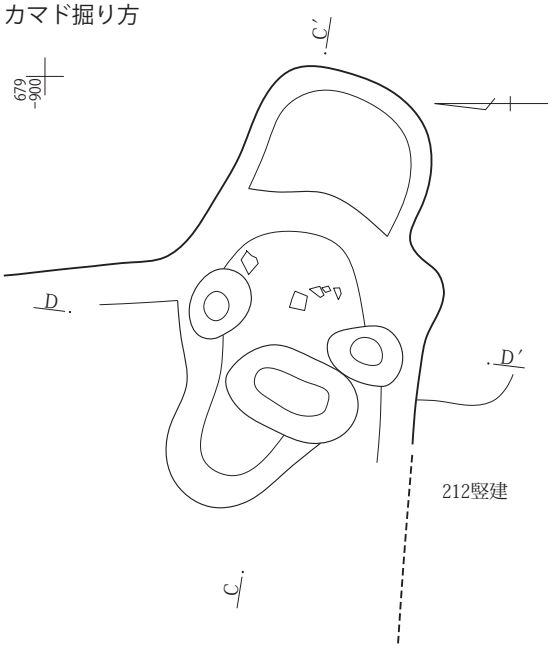


カマドＣ-Ｃ′・D-D′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１㎝塊少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム塊多量、焼土粒少量、黒褐色土塊を含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-Ｃ少量、褐色土小塊を含む。しまり強、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　明褐色土大塊主体、As-Ｃ少量含む。しまり・粘性あり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　焼土小塊・As-Ｃ少量含む。しまり強、粘性あり。
6　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　焼土粒多量、As-Ｃ少量、灰・炭化物を含む。しまり・粘性あり。
7　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ少量含む。しまり強、粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/2)　焼土粒少量、ローム約３～５㎝塊を含む。しまり強、粘性あり。
9　褐灰色土(10YR4/1)　灰白色粒少量、礫を含む。しまり強、粘性弱。
10　黄褐色土(2.5Y5/3)　ローム小塊・灰白色粒多量含む。しまり強、粘性あり。
11　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒・灰白色粒・焼土粒多量含む。しまり・粘性あり。
12　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム約３～５㎝塊多量、焼土約１㎝塊を含む。しまり・粘性あり。
13　暗褐色土(10YR3/3)　にぶい黄橙色粒多量、焼土粒少量含む。しまり強、粘性あり。
14　灰黄褐色土(10YR4/2)　灰白色粒少量含む。しまり強、粘性あり。
15　灰黄褐色土(10YR5/2)　ローム大塊主体、にぶい黄橙色粒少量含む。しまり強、粘性あり。
16　灰黄褐色土(10YR5/2)　15層に類似、ローム小塊少量含む。しまり・粘性あり。
17　灰黄褐色土(10YR5/2)　焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。

0　1：30　1m

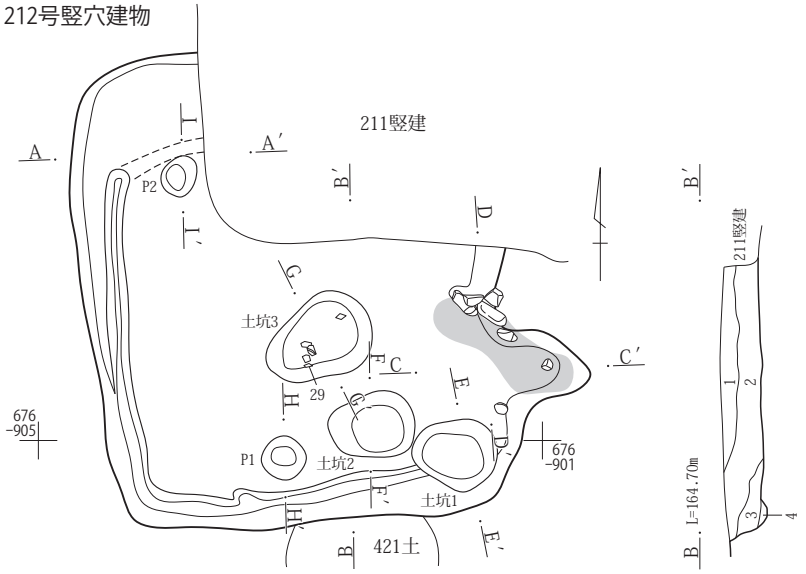
第247図　３面　Ｇ４区211号竪穴建物

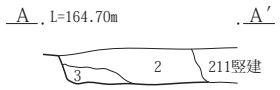
カマド掘り方



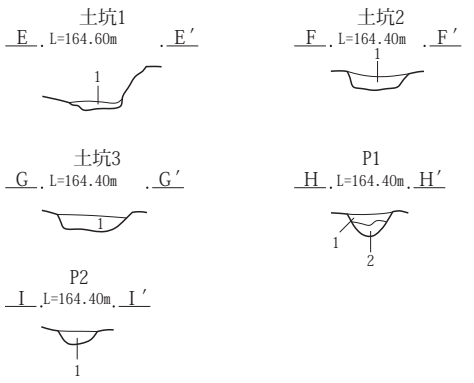
0　1：30　1m

212号竪穴建物





212号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量で均質。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム約１～３㎝塊・小礫を含む。しまり・粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・粒多量、As-Cを含む。しまり・粘性あり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　３層に類似、周溝埋没土、しまり弱、粘性あり。

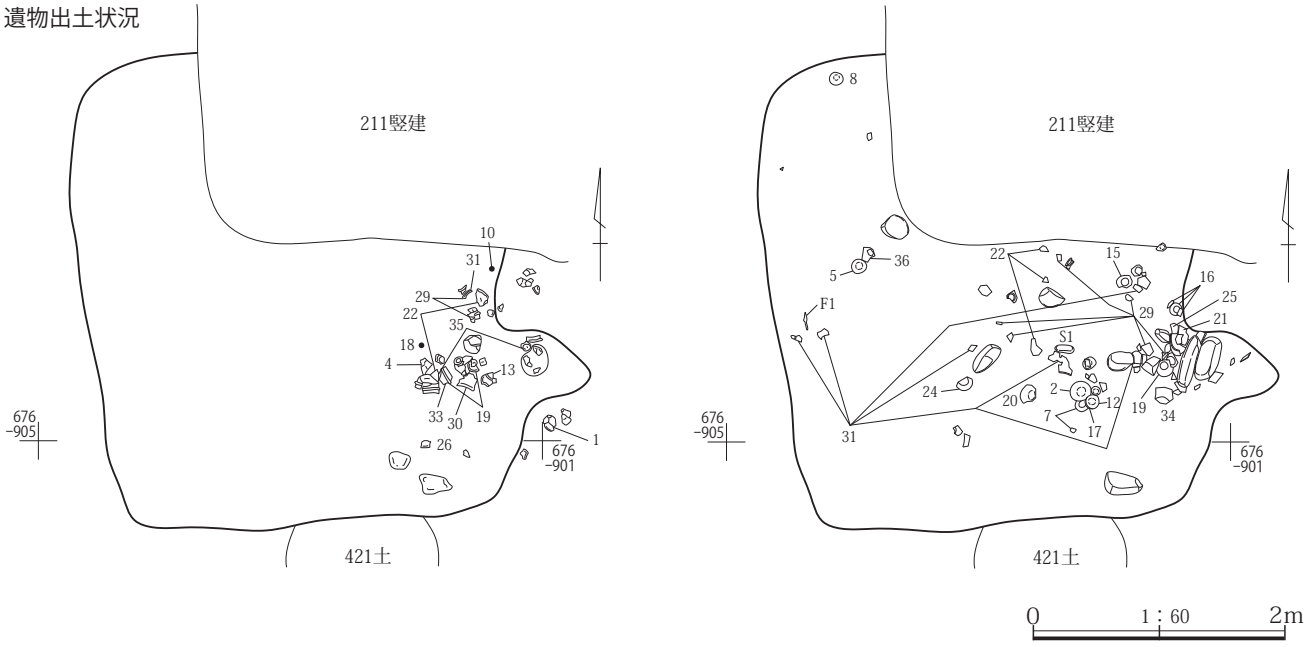


土坑１E-E′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄褐色土・灰白色粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。
土坑２F-F′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　小礫少量、ローム約３～５㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。
土坑３G-G′
1　黒褐色土(10YR3/2)　遺物多量、にぶい黄橙色粒・ローム小塊少量含む。しまり・粘性あり。
Ｐ１H-H′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄褐色土・灰白色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄褐色土・灰白色粒少量、ローム約３㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。
Ｐ２I-I′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　小礫少量、ローム約３～５㎝塊を含む。しまり・粘性あり。

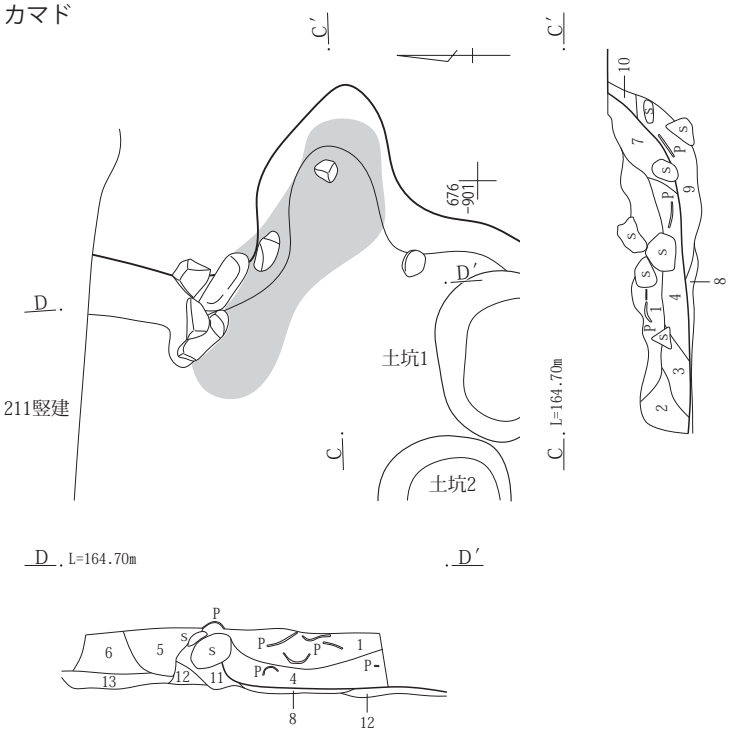
0　1：60　2m

第248図　３面　Ｇ４区211・212号竪穴建物

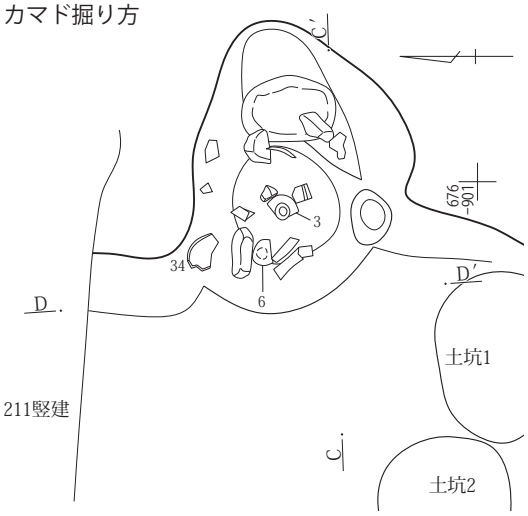
遺物出土状況



カマド



カマド掘り方

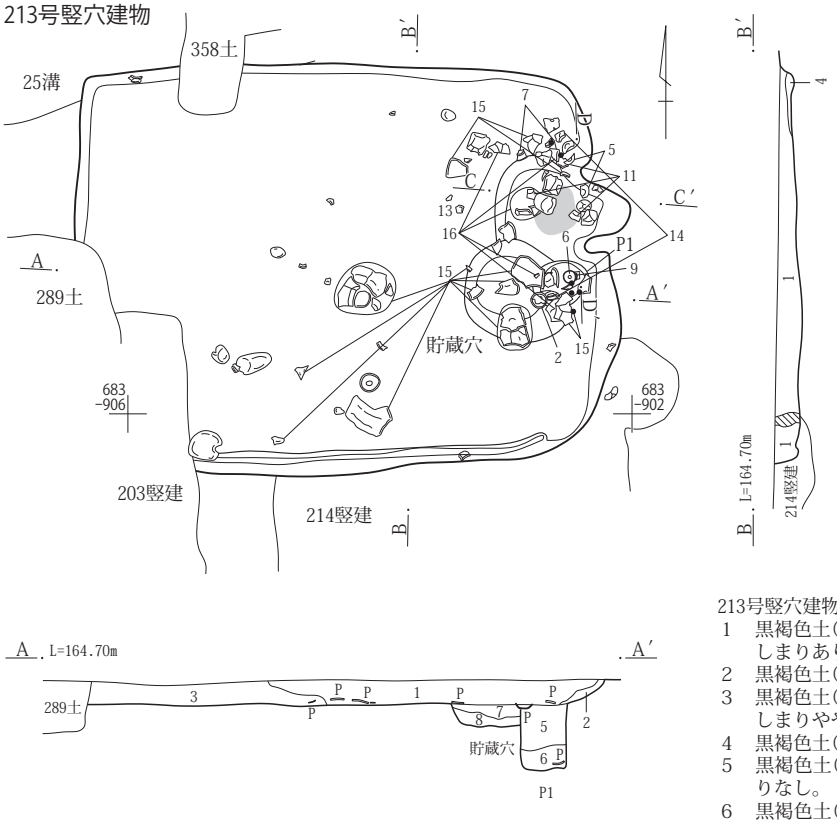


212号竪穴建物カマドC-C′・D-D′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土約１㎝塊多量、As-C少量含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約５㎜塊・As-C少量含む。しまり・粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土小塊・ローム粒少量含む。しまり・粘性あり。
4　褐色土(7.5YR4/3)　As-C少量、焼土約５㎜塊を含む。しまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(2.5Y3/2)　ローム小～大塊・焼土小塊・粒多量、黒色土を含む。しまりややあり、粘性あり。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C少量、ローム小塊・粒を含む。しまり・粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　焼土粒少量、ローム小～大塊を含む。しまり強、粘性あり。
8　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊・粒少量、焼土粒微量、炭化物を含む。しまり・粘性あり。
9　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土小塊多量、ローム塊帯状に含む。しまり弱、粘性あり。
10　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-C・焼土約５㎜塊少量含む。しまり強、粘性あり。
11　褐色土(7.5YR4/3)　焼土粒多量・礫を含む。しまり強、粘性あり。
12　黒褐色土(7.5YR3/1)　ローム小塊・灰白色粒を含む。しまり・粘性あり。
13　明黄褐色土(10YR7/6)　しまり強、粘性弱。

0　1：30　1m

第249図　３面　Ｇ４区212号竪穴建物

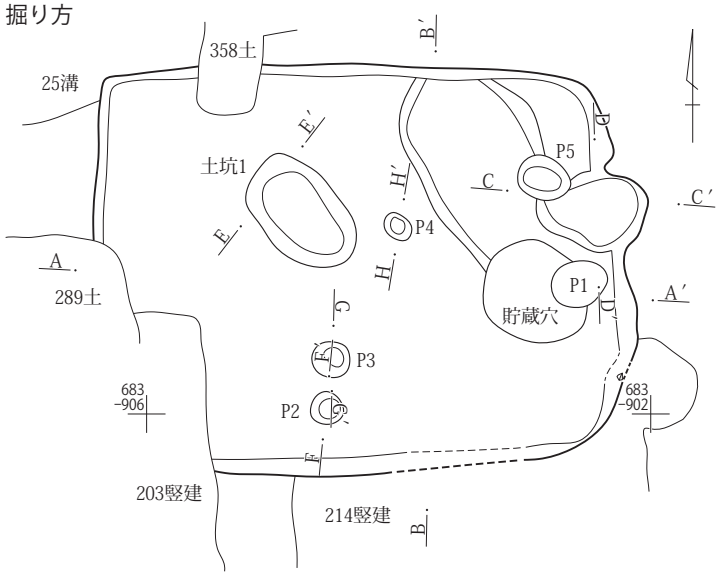
213号竪穴建物

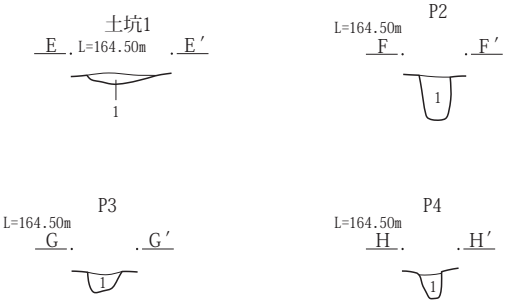


213号竪穴建物A-A′・B-B′

1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄褐色土少量、焼土粒若干含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色土若干含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・As-YP軽石少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
4　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色土塊土多量含む。しまりあまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒・炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒多量、黄橙色粒少量含む。しまりあまりなし。
7　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色粒少量、As-C・炭化物粒若干含む。しまりあまりなし。
8　黒褐色土(10YR3/2)　ローム塊土少量、As-YP粒若干含む。しまりややあり。

掘り方



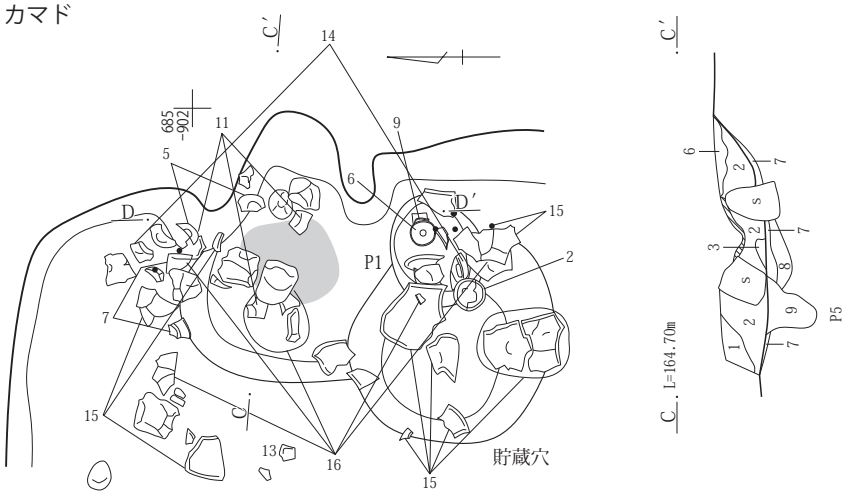


土坑１E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色土塊土多量、As-C・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
Ｐ２F-F′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色土少量、炭化物粒・As-C若干含む。しまりあまりなし。
Ｐ３G-G′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色土少量、炭化物粒・As-C若干含む。しまりあまりなし。
Ｐ４H-H′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色土少量、炭化物粒・As-C若干含む。しまりあまりなし。

0　1：60　2m

第250図　３面　Ｇ４区213号竪穴建物

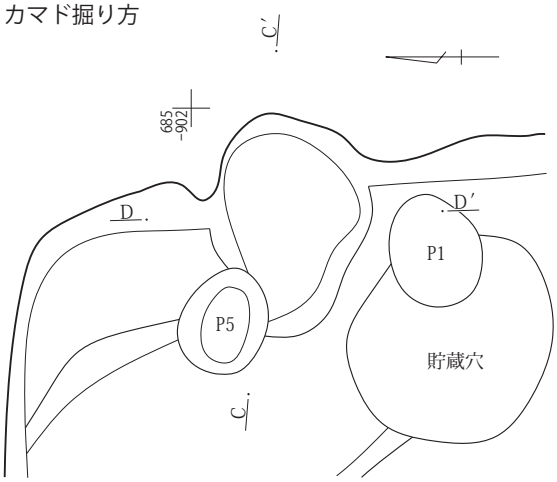
カマド



カマドＣ－Ｃ′・Ｄ－Ｄ′

1　暗褐色土(10YR3/3)　As－Ｃ・黄褐色粒少量含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・炭化物粒少量、As－Ｃ・黄褐色塊土若干含む。しまりあまりなし。
3　明赤褐色土(5YR5/8)　焼土。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒多量、黄褐色粒・As－Ｃ若干含む。しまりあまりなし。
5　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒若干含む。鉄分沈着あり。しまりあり。
6　暗褐色土(10YR3/3)　焼土塊土多量、炭化物粒・As－Ｃ若干含む。しまりあり。
7　明赤褐色土(5YR5/8)　焼土。さらさらしている。しまりあり。
8　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　As－Ｃ少量、暗褐色土10％程、黄褐色粒・焼土粒若干含む。しまりあり。
9　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒多量、As-YP粒少量含む。しまりあまりなし。(Ｐ５)
10　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物粒・焼土粒少量、黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。
11　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色塊土少量、焼土粒・炭化物粒若干含む。しまりややあり。

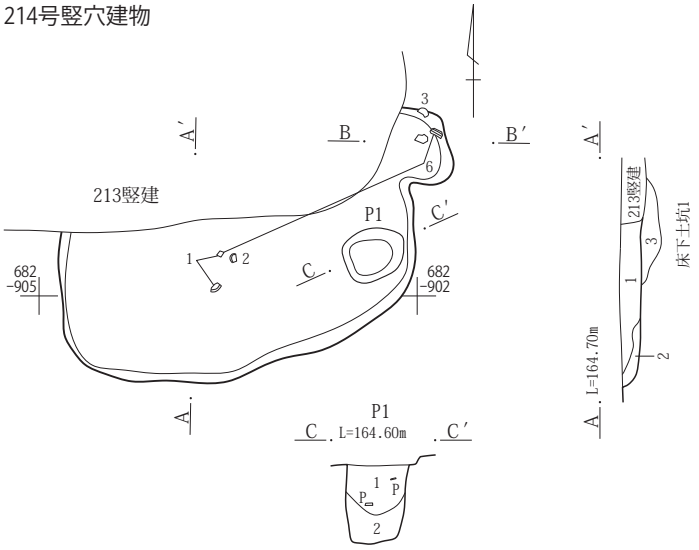
カマド掘り方



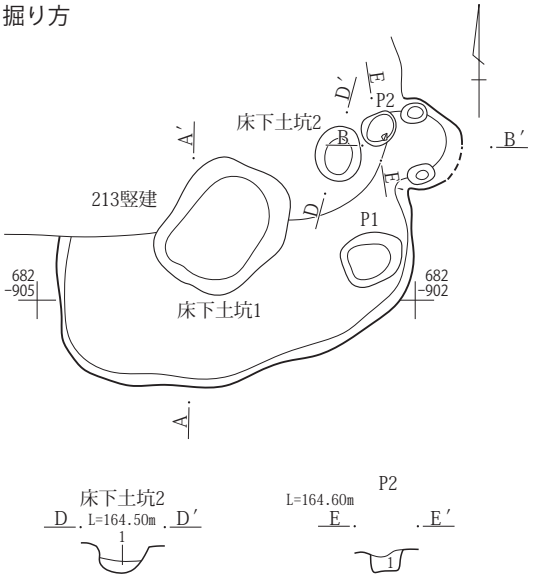
0　1：30　1m

第251図　３面　Ｇ４区213号竪穴建物

214号竪穴建物



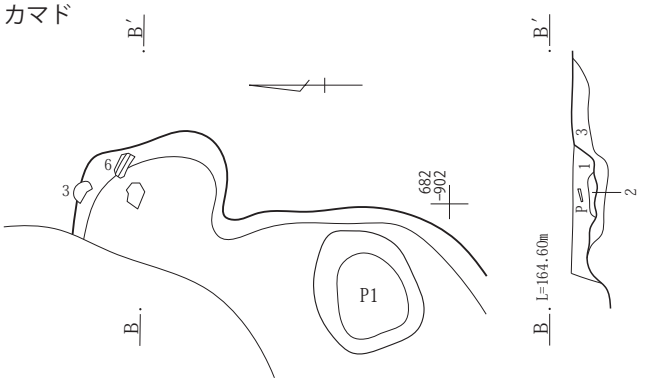
掘り方



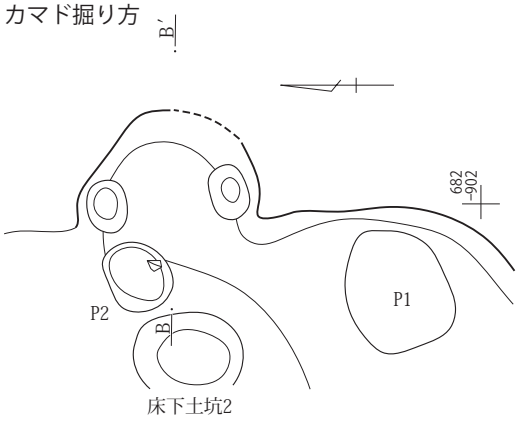
214号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　鉄分沈着あり。As-C大量、黄褐色粒・炭化物粒少量、焼土粒若干含む。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色粒少量、As-C若干含む。しまりややあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黄褐色塊土・As-C少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。

床下土坑２D-D′
1　黒褐色土(10YR2/2)　にぶい黄褐色塊土・黄褐色粒少量含む。
P１C-C′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒少量含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP粒少量、As-C若干含む。
P２E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒・As-YP粒少量含む。しまりあまりなし。

カマド

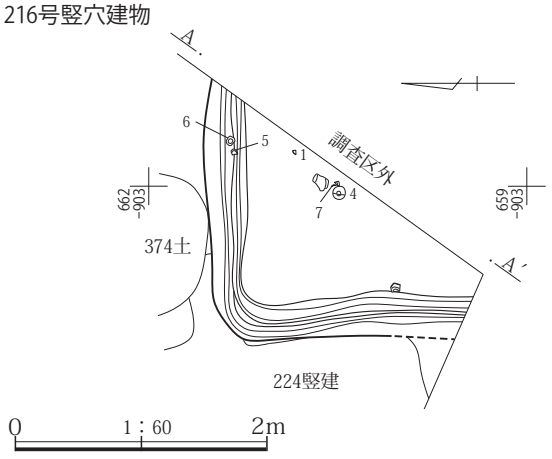


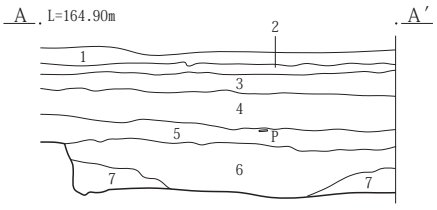
カマド掘り方



カマドB-B′
1　黒褐色土10YR3/2)　As-C少量、焼土粒・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
2　明赤褐色(5YR5/8)　焼土。さらさらしている。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　黄褐色粒少量、炭化物粒・As-C若干含む。

216号竪穴建物

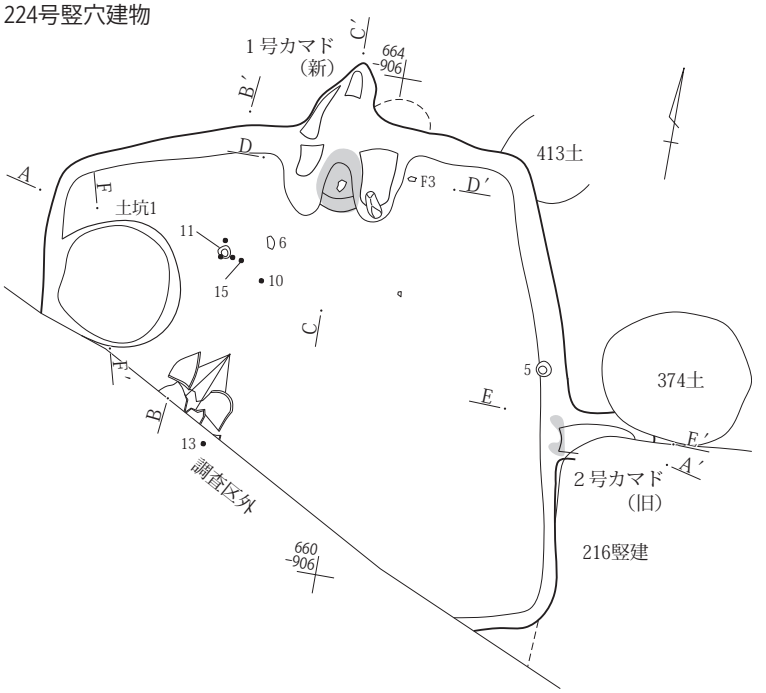


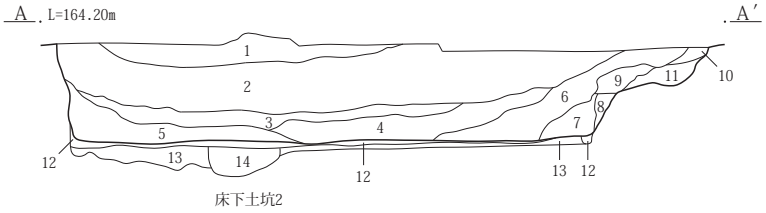


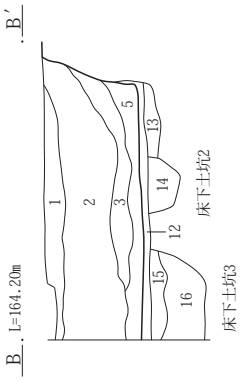
216号竪穴建物A-A′
1　現表土、耕作土
2　褐灰色土(10YR4/1)　酸化鉄分多量、As-Bを含む。しまりあり。粘性弱。
3　黒褐色土(10YR3/2)　As-B・As-C・にぶい黄褐色土を含む。しまりあり。粘性弱。
4　圃場整備による造成土、As-B・As-Cを含む。
5　黒褐色土(10YR2/2)　にぶい黄橙色粒・As-C少量、遺物を含む。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土(10YR2/2)　ローム約１㎝塊・炭化物多量、にぶい黄橙色粒少量、遺物を含む。しまり弱、粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約３～５㎝塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。

第252図　３面　G４区214・216号竪穴建物

224号竪穴建物



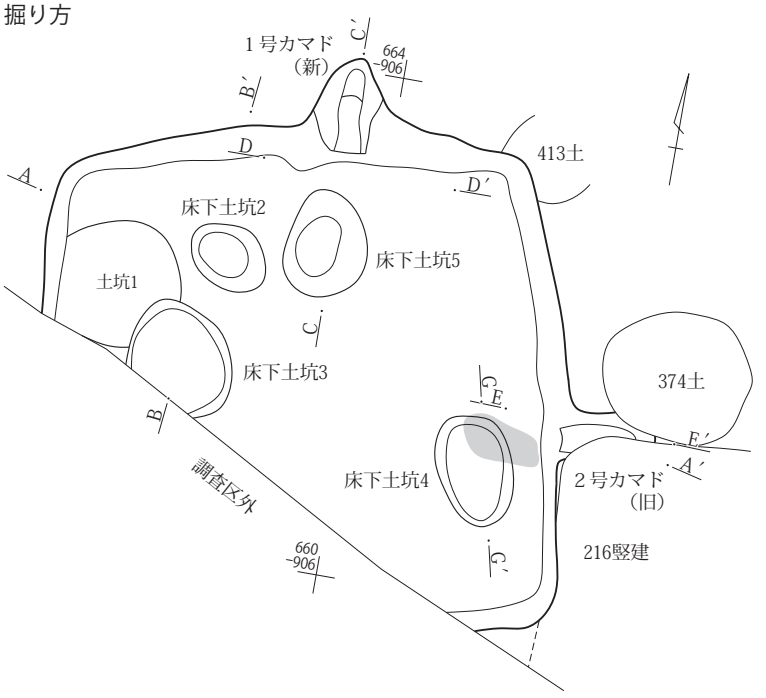


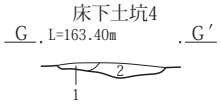


224号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量含む。しまり強､粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約５～15㎝塊・As-C多量含む。しまり・粘性あり。
3　黒色土(10YR2/1)　ローム小塊・粒含む。しまり弱、粘性あり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ローム約５～10㎝塊・焼土粒を含む。しまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒多量、ローム約３㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量、ローム小塊・As-C少量含む。しまり弱、粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土小塊少量、黒色土小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
8　明黄褐色土(10YR6/6)　地山の焼土化、しまり強、粘性弱。
9　灰褐色土(7.5YR4/2)　ローム粒多量、ローム約１㎝塊・焼土小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
10　黒褐色土(7.5YR3/2)　As-C微量含む。しまり・粘性あり。
11　明黄褐色土(10YR6/6)　焼土粒多量含む。しまり弱、粘性ややあり
12　黒褐色土(10YR3/1)　As-YP多量含む。しまり・粘性あり。上面が床面、掘り方
13　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土少量、As-YPを含む。しまり・粘性あり。
14　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-YP多量、ローム約５～10㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。
15　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　14層に類似、黒色土・ローム約５㎝塊多量、As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。
16　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　As-YP主体、ローム約３㎝塊多量含む。しまり弱、粘性あり。

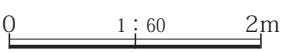
土坑１F-F′
1　黒色土(10YR2/1)　ローム小～大塊多量、As-YPを含む。しまり・粘性あり。

掘り方



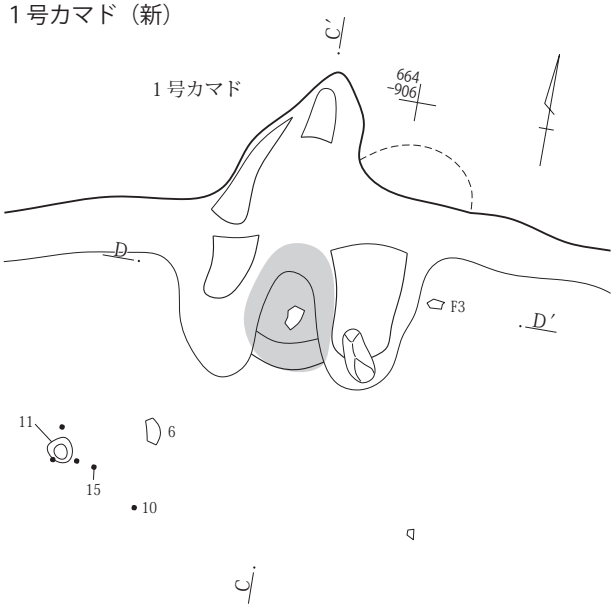


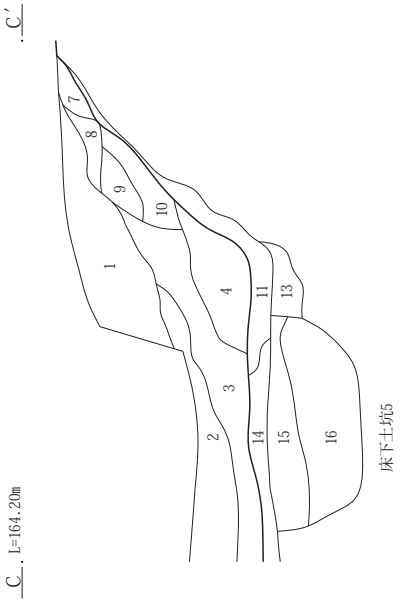
床下土坑４G-G′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　明赤褐色焼土大塊主体、黒褐色土・As-YPを含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP多量、黒褐色土大塊・焼土大塊を含む。しまり弱、粘性あり。

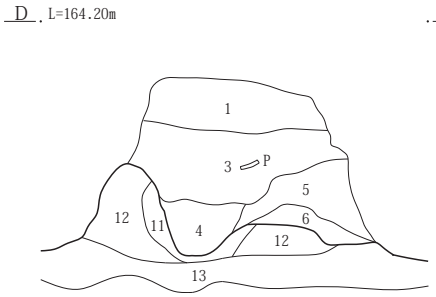


第253図　３面　G４区224号竪穴建物

１号カマド（新）



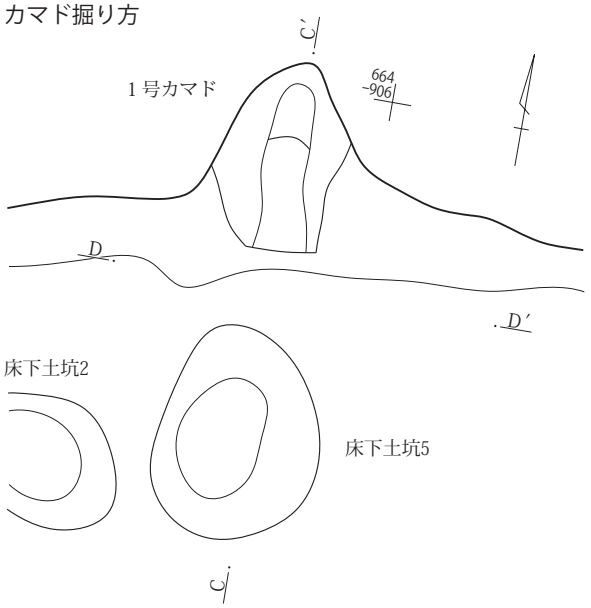




１号カマドC－C′・D－D′

1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約５～15㎝塊・As－C多量含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約１㎝塊少量、焼土小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
4　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土小塊多量、ローム約１㎝塊・遺物を含む。しまり弱、粘性あり。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１㎝塊・にぶい黄橙色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
6　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　焼土約１～３㎝塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
7　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒・As－C少量含む。しまり・粘性あり。
8　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊主体、As-YP少量、焼土塊を含む。しまり・粘性あり。
9　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量、As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
10　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒・ローム塊多量、As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。
11　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　焼土小塊・粒多量、褐灰色土を含む。しまりやや弱、粘性あり。
12　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊、しまり強、粘性弱。
13　黒色土(10YR2/1)　As－C・黄褐色土１～５㎝塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
14　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約１㎝塊多量、As－C少量、焼土小塊を含む。しまり強、粘性あり。
15　黒褐色土(10YR3/1)　As-YP・ローム小～大塊多量含む。しまり弱､粘性あり。
16　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-YP多量、ローム約１㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。

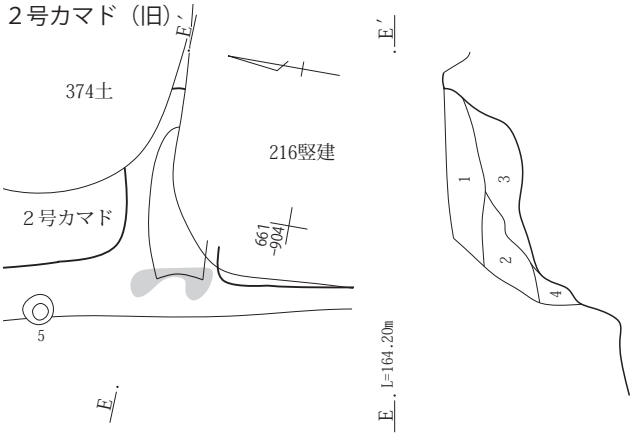
カマド掘り方



0　1：30　1m

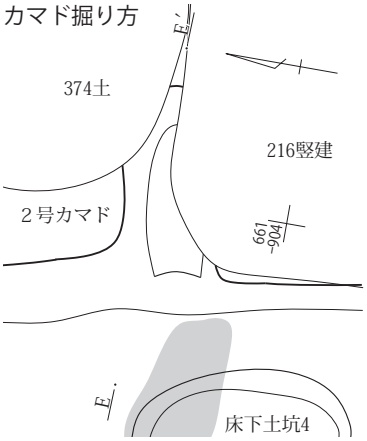
第254図　３面　Ｇ４区224号竪穴建物

２号カマド（旧）

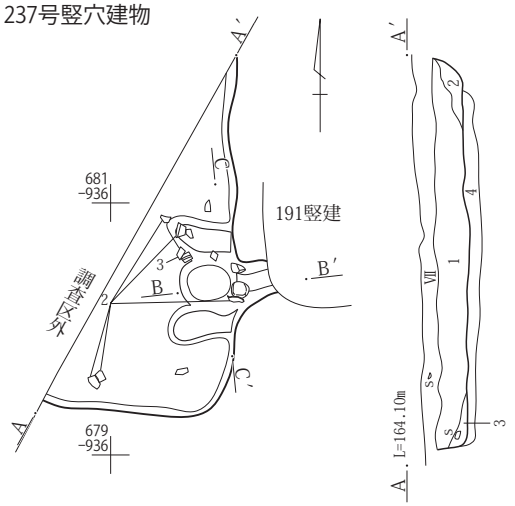


２号カマドE-E′
1　黒褐色土(7.5YR3/2)　As-C微量含む。しまり・粘性あり。
2　灰褐色土(7.5YR4/2)　ローム粒多量、ローム約１cm塊・焼土小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
3　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
4　明黄褐色土(10YR6/6)　地山の焼土化、しまり強、粘性弱。

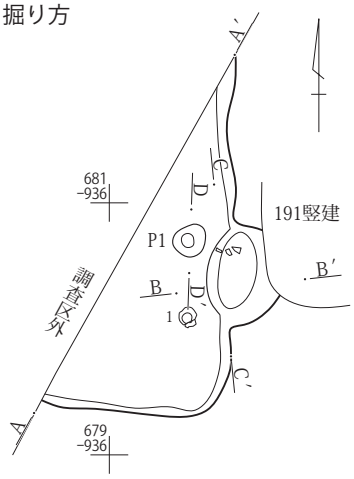
カマド掘り方



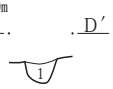
237号竪穴建物



掘り方



P1
L=163.70m

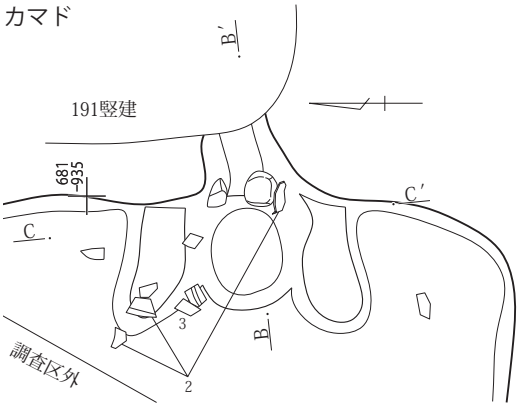


P１D-D′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒少量、黄褐色塊土若干含む。しまりあまりなし。

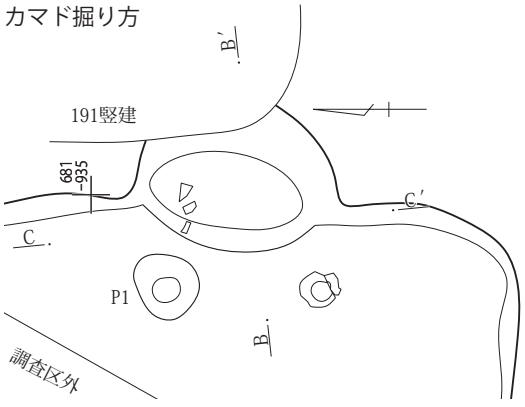
237号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄褐色粒少量、炭化物粒・焼土粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C若干含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。

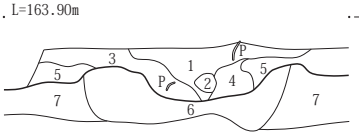
0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方



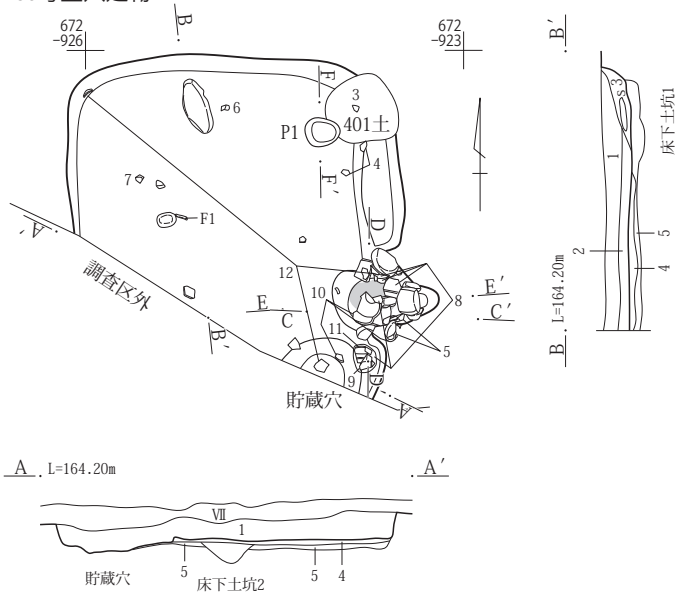


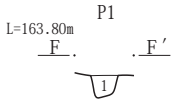
カマドB-B′・C-C′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・焼土粒多量、黄褐色粒・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒少量、黄褐色塊土若干含む。しまりあまりなし。
3　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒多量、As-C少量含む。しまりややあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。
5　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・黄褐色粒少量含む。しまりややあり。
6　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・黄褐色粒少量、炭化物粒・As-C若干含む。しまりあまりなし。
7　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量、黄褐色粒・炭化物粒若干含む。しまりあり。

0　1：30　1m

第255図　３面　Ｇ４区224・237号竪穴建物

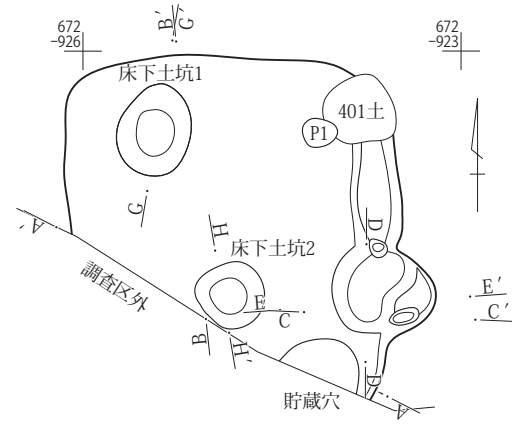
238号竪穴建物

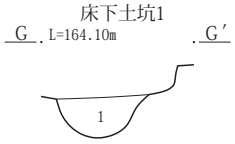


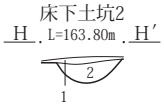


238号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄橙色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄橙色粒少量、黄褐色塊土・焼土粒若干含む。しまりややあり。
3　黒色土(10YR2/1)　As-C多量、黄橙色粒・焼土粒若干含む。しまりややあり。
4　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊土少量、黄褐色粒若干含む。しまりあり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土20％程、黄褐色土若干含む。しまりややあり。
P1 F-F′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒少量含む。

掘り方



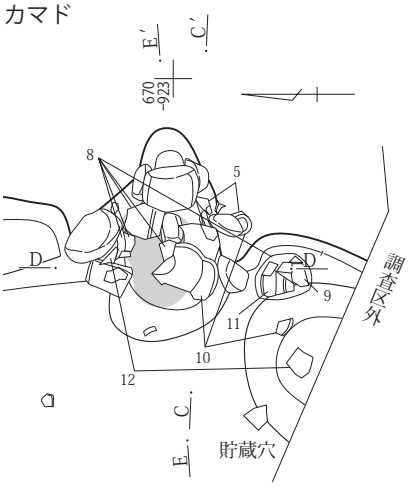


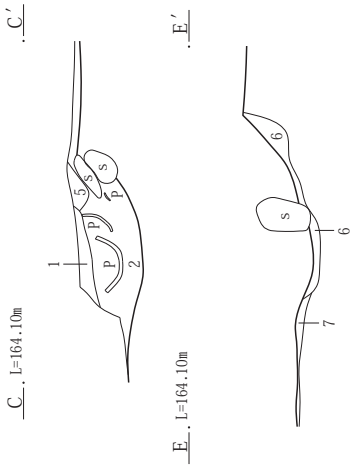


床下土坑１G-G′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒少量、焼土粒・炭化物粒・黄褐色塊土若干含む。しまりややあり。
床下土坑２H-H′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊土少量、黄褐色粒若干含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色塊土少量、As-C若干含む。しまりややあり。

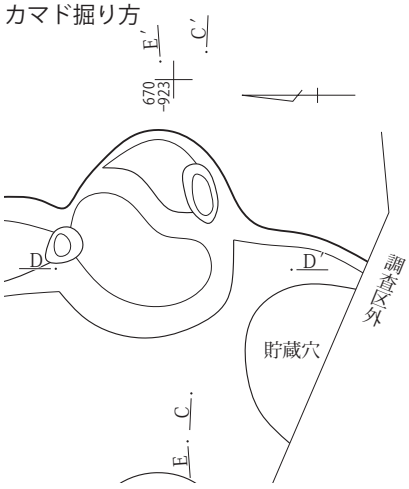
0　1：60　2m

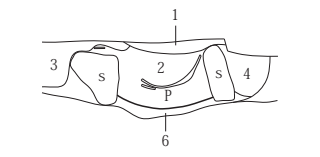
カマド





カマド掘り方



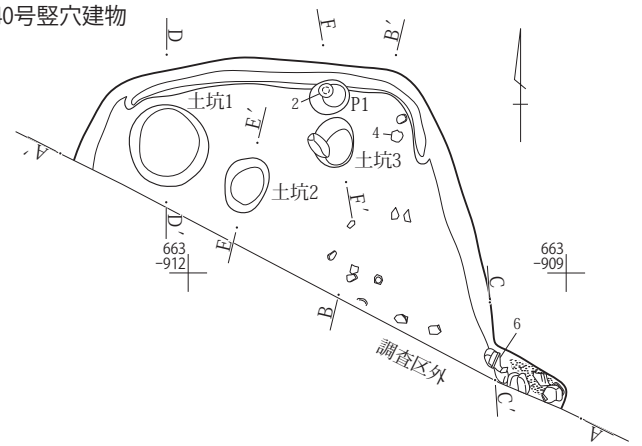


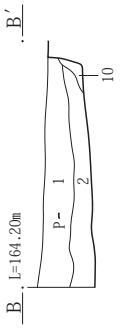
カマドC-C′・D-D′・E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　砂質、ざらざらしている、As-C若干含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄橙色粒少量、焼土粒若干含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。
4　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・焼土粒若干含む。しまりややあり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・黄褐色粒少量、As-C若干含む。しまりあまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒・黄褐色粒少量、As-C若干含む。しまりあまりなし。
7　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒・As-C少量含む。しまりあり。

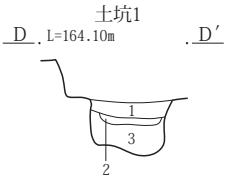
0　1：30　1m

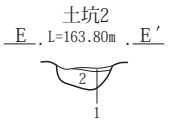
第256図　３面　Ｇ４区238号竪穴建物

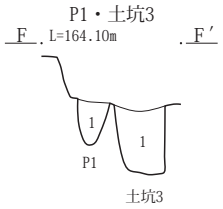
240号竪穴建物

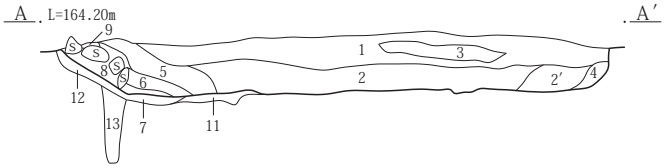












240号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒多量、黄褐色塊土・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　黄橙色粒少量、As-C・炭化物粒若干含む。しまりややあり。
2′　２層に含有物ほとんどない。
3　黄褐色塊土(10YR5/6)　しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　As-C若干含む。しまりあまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒多量、焼土粒･As-C少量、黄褐色塊土若干含む。しまりややあり。
6　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒・焼土粒少量含む。しまりややあり。
7　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒多量、黄褐色粒少量含む。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黄褐色粒少量、As-C・焼土粒若干含む。
9　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C・黄褐色粒少量、焼土粒若干含む。しまりあり。
10　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。
11　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒多量含む。
12　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色粒少量、As-C若干含む。
13　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒少量含む。しまりあまりなし。

土坑１D-D′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒若干含む。しまりあまりなし。
2　黄褐色土塊土(10YR5/6)　しまりあり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　黄橙色粒少量、黄褐色塊土若干含む。しまりあまりなし。

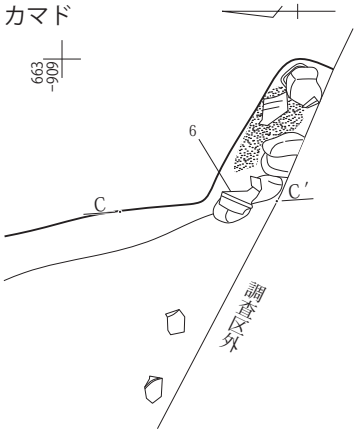
土坑２E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　焼土粒多量、炭化物粒少量含む。しまりあまりなし。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黄褐色塊土多量含む。

土坑３F-F′
1　黒褐色土10YR2/2)　As-YP粒多量、黄褐色塊少量、炭化物粒若干含む。しまりあり。

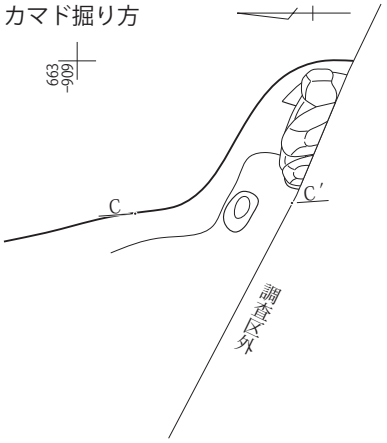
Ｐ１F-F′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-YP粒少量、黄褐色塊土若干含む。しまりあり。

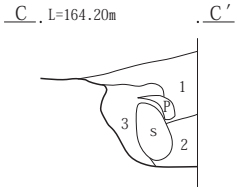
0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方



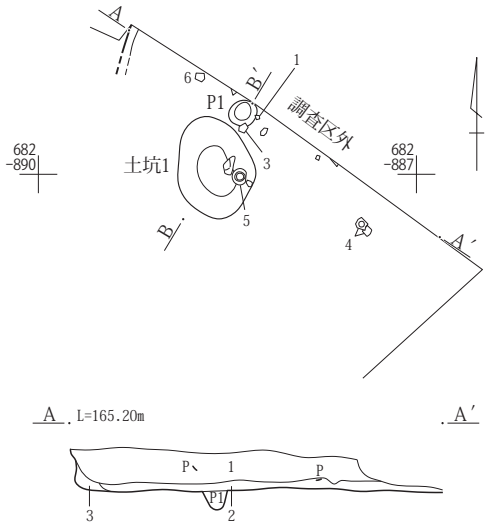


カマドC-C′
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒多量、焼土粒・As-C少量、黄褐色塊土若干含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色粒・焼土粒少量含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　黄褐色土20％程、焼土粒・炭化物粒若干含む。

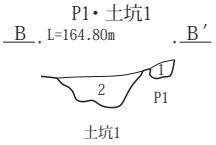
0　1：30　1m

第257図　３面　Ｇ４区240号竪穴建物

263号竪穴建物

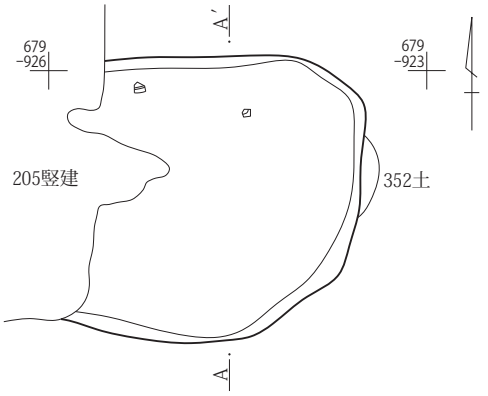


P1・土坑1

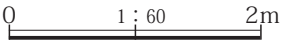


263号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄褐色粒少量、炭化物粒若干含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量、炭化物粒・焼土粒若干含む。しまりあり。
3　黄褐色土(10YR5/6)　As-C・黄橙色粒若干含む。しまりあり。
土坑１・Ｐ１B-B′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C少量含む。しまりあまりなし。(Ｐ１)
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄褐色塊土少量、炭化物粒若干含む。しまりややあり。

２号竪穴状遺構



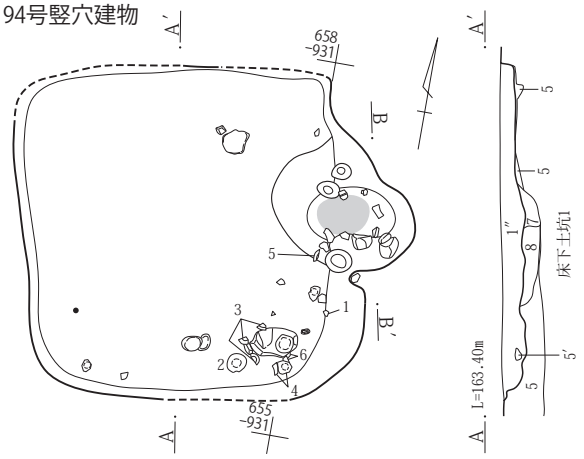
２号竪穴状遺構A-A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　にぶい黄褐色塊土多量、As-C少量含む。しまりややあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C・黄褐色粒若干含む。しまりややあり。



第258図　３面　Ｇ４区263号竪穴建物、２号竪穴状遺構

Ｇ５区

194号竪穴建物



194号竪穴建物および同カマドA-A′・B-B′

1　黒褐色土(10YR2/2)　径１～10㎜程の焼土粒・塊・１～３㎜程のローム粒やや多い。径１～５㎜程の灰白・黄褐色軽石・炭化物少し含む。土器片数点(橙色粒子も含む。しまりややあり。

1′　黒褐色土(10YR2/2)　１層と同様だが、焼土粒が多い。土色がやや黒っぽく見える。

1″　黒褐色土(10YR2/2)　焼土が入らない。

2　暗褐色土(10YR3/3)　径１～２㎜程の浅黄色粒子(軽石か)・径１～２㎜程の橙色粒子わずか含む。砂粒混入。しまりあまりない。

3　明黄褐色土(10YR6/6)　径１～４㎜程の浅黄・黄褐色軽石やや多い。(径５㎜程のものもわずか含む)。とても硬くしまっている　。

4　褐色土(10YR4/4)　ローム粒・軽石がやや多く見える部分。

5　黄褐色土(10YR5/6)　径1～3㎜程の浅黄･黄褐色軽石わずか。ロームと褐色土が混在。硬くしまっている。

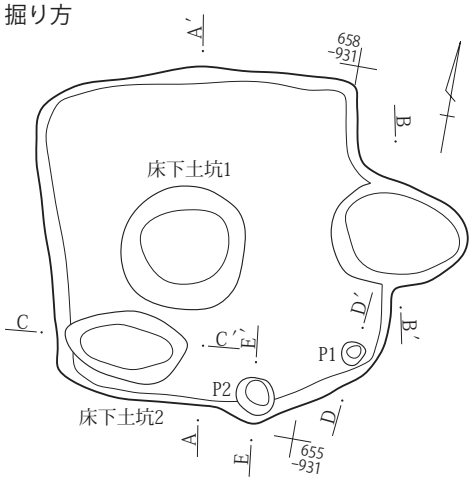
5′　５層の塊。

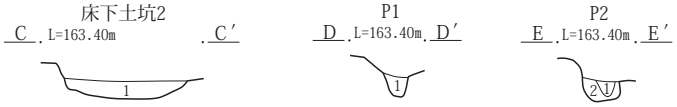
6　明黄褐色土(10YR7/6)　ローム。北側はAs-YP。とても硬くしまっている。

7　黒褐色土(10YR3/2)　ロームが多く混じる。径５～15㎜程のローム塊やや多く、灰白・黄褐色軽石ごくわずか含む。しまりあまりなし。

8　黒褐色土(10YR2/2)　ロームが多く混じる。径５～15㎜程のローム塊多く(40㎜程の塊も)、灰白・黄褐色軽石やや多く、橙色粒子わずか含む。しまりあまりなし。

掘り方





床下土坑２C-C′

1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１㎝塊・粒多量、黒褐色土を含む。しまり・粘性あり。

P１D-D′

1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。

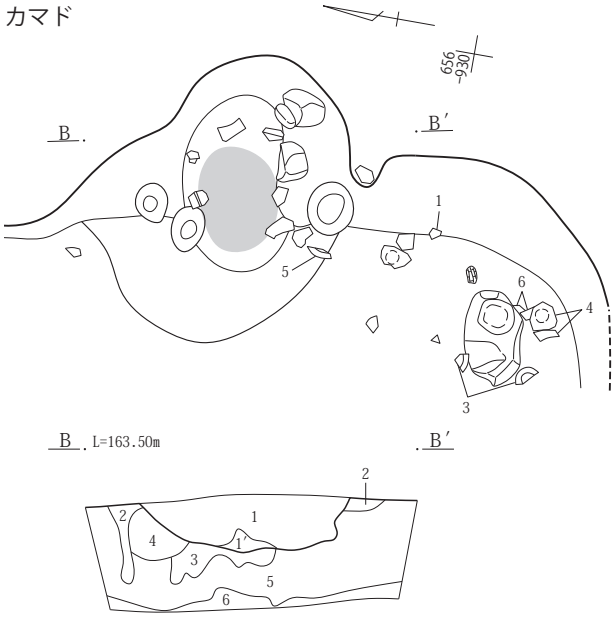
P２E-E′

1　黒褐色土(10YR3/1)　しまり強、粘性あり。

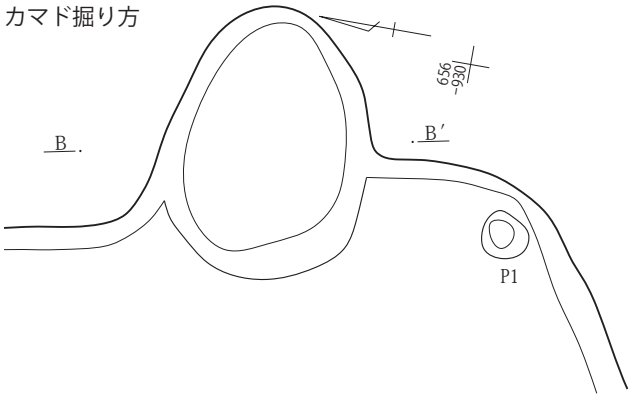
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。

0　1：60　2m

カマド



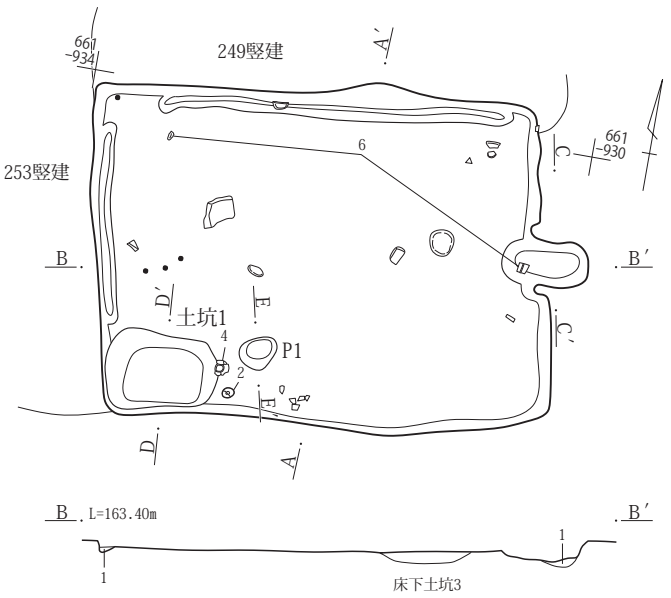
カマド掘り方

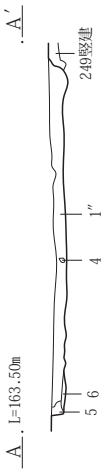


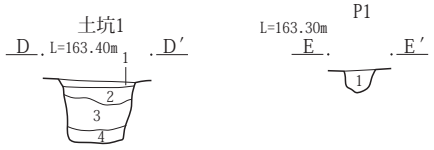
0　1：30　1m

第259図　３面　Ｇ５区194号竪穴建物

195号竪穴建物



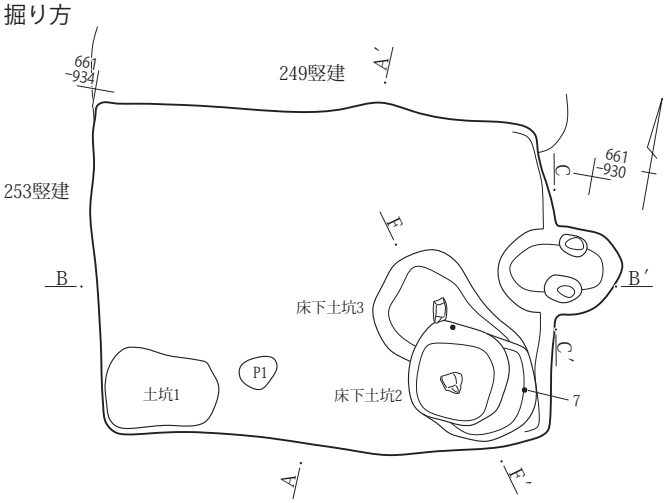


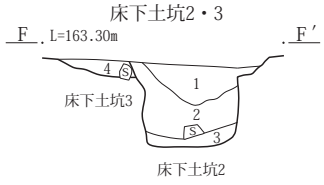


土坑１D-D′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-YP多量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約５㎝塊・As-YP多量含む。しまり強、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約10㎝以上塊多量、２層よりAs-YP少量含む。しまり強、粘性あり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約10㎝塊・As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。

Ｐ１E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。

掘り方

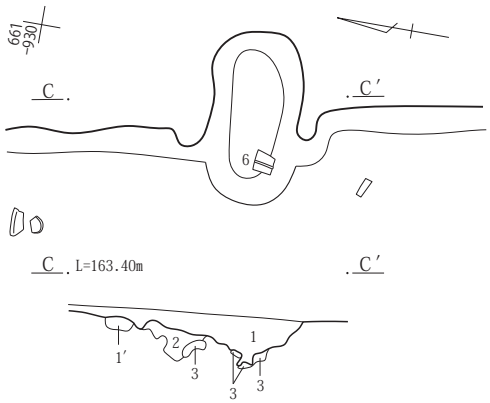




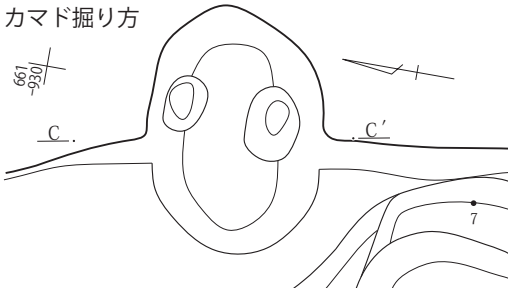
床下土坑２・３F-F′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム約１㎝塊・焼土粒・As-Ｃ少量含む。色味は暗い、しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒・ローム粒少量含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄褐色土小塊・As-YP多量、礫を含む。しまり弱、粘性ややあり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１㎝塊・焼土小塊少量含む。しまり・粘性あり。

0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方



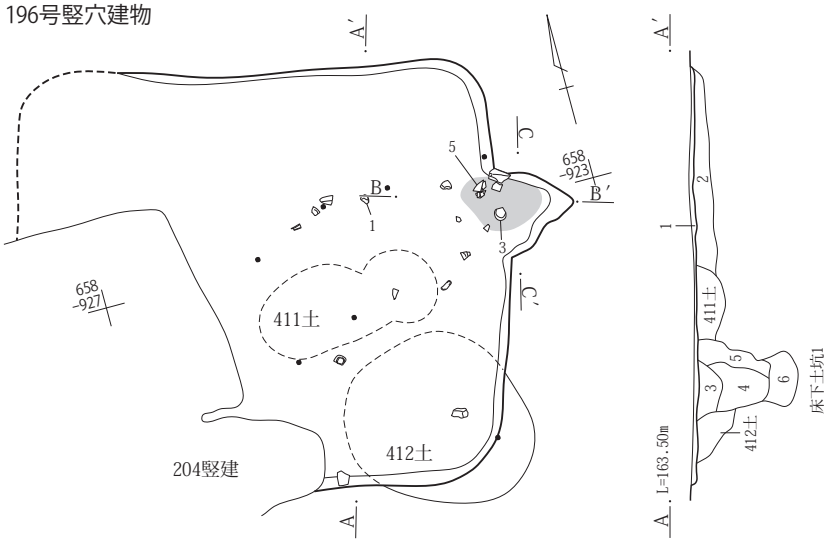
195号竪穴建物A-A′および同カマドC-C′
1　黒褐色土(10YR2/3)　径１～10㎜程の焼土粒塊・径1～5㎜程の灰白・黄褐色軽石・１～３㎜程のローム粒やや多く、炭化物少し含む。土器片数点(橙色粒子も含む)。しまりあまりなし。
1′　黒褐色土(10YR2/2)　１層と同様だが、焼土粒が多い。
1″　黒褐色土(10YR2/2)　焼土が入らない。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　径１～４㎜程の浅黄色軽石ごくわずか含む。しまりあり。
3　明黄褐色土(10YR6/6)　径１～４㎜程の浅黄・黄褐色軽石やや多く、(径５㎜程のものもわずか含む)　。とても硬くしまりあり。
4　黄褐色土(10YR5/6)　1″層に入る塊。
5　黒褐色土(10YR2/2)　径１～５㎜程の灰白・黄褐色軽石・炭化物少し、１～３㎜程のローム粒やや多く、土器片数点(橙色粒子も含む)含む。しまりあまりなし。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム混入多い。ロームは径10～30㎜の塊状のものを含む。とても硬くしまりあり。

B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。

0　1：30　1m

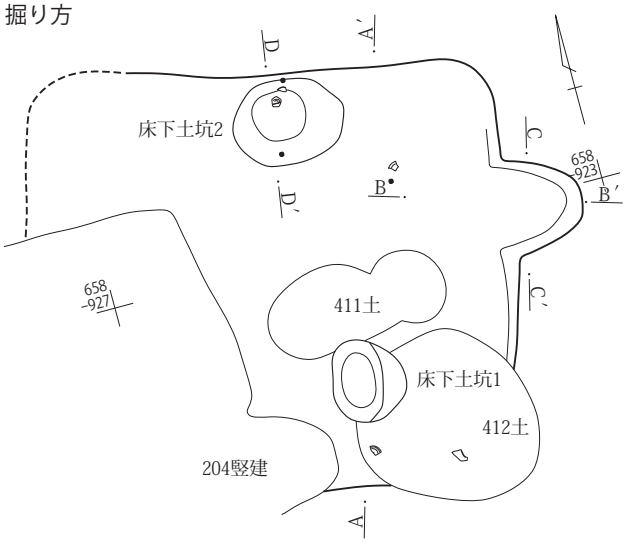
第260図　３面　Ｇ５区195号竪穴建物

196号竪穴建物



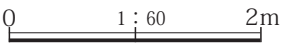
196号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・にぶい黄橙色粒少量含む。しまり強、粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１㎝塊多量、灰白色粒を含む。しまり・粘性あり。掘り方。
3　黒色土(10YR2/1)　As-Ｃ少量､小礫を含む。しまり・粘性あり。３～６層は床下土坑１埋没土
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約１㎝塊・As-YP少量含む。しまりややあり、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄褐色土大塊・As-YPを含む。しまり弱、粘性あり。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-YP多量、黒褐色土少量含む。しまり弱、粘性あり。

掘り方

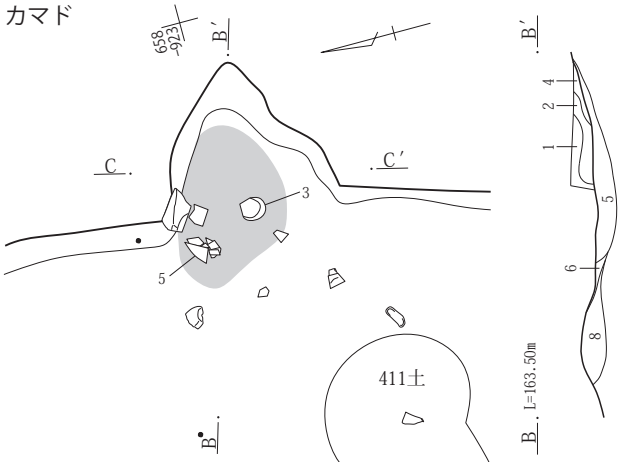


床下土坑2

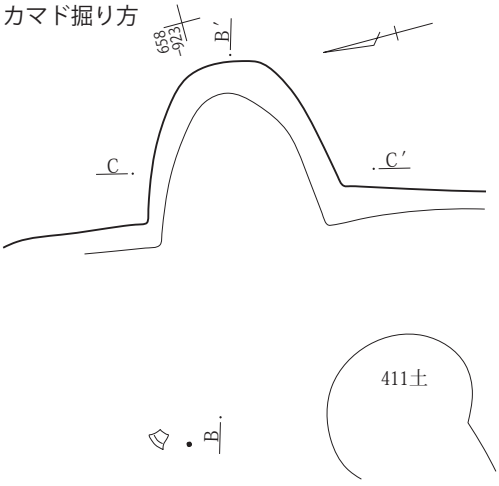
床下土坑２D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１～３㎝塊・As-Ｃ少量、にぶい黄褐色土小塊を含む。しまり・粘性あり。

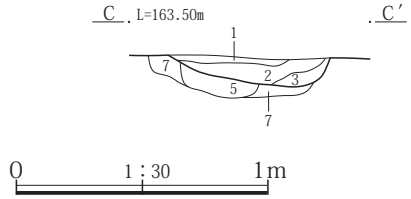


カマド



カマド掘り方

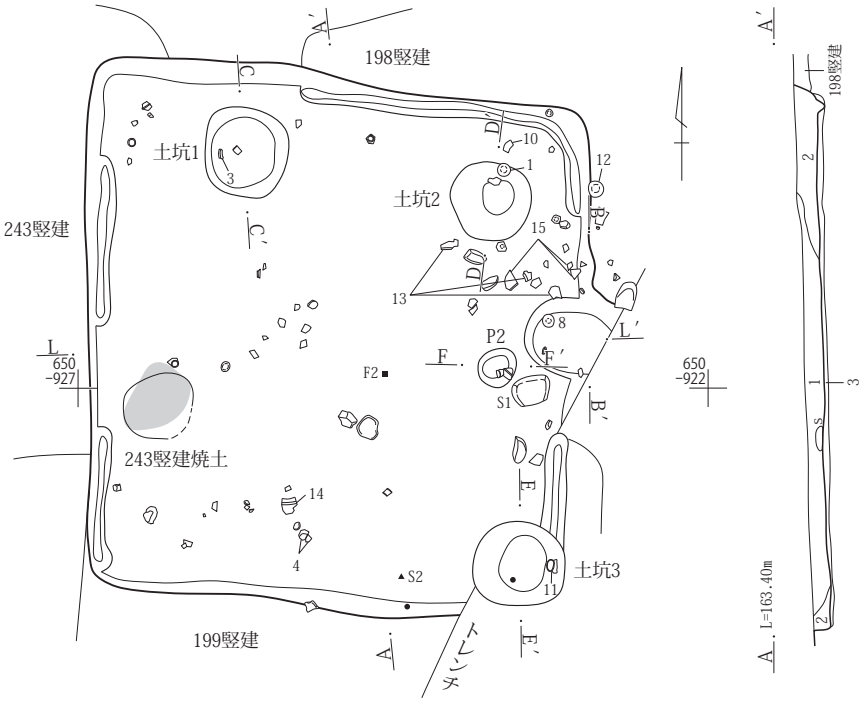


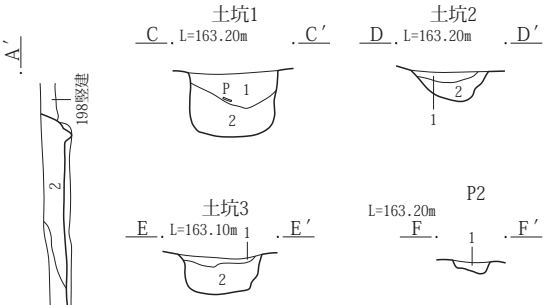


カマドB-B′・C-C′
1　にぶい黄褐色土(7.5YR6/3)　焼土粒多量、ローム粒・にぶい黄橙色粒少量含む。しまり強、粘性弱。
2　にぶい黄褐色土(7.5YR6/3)　焼土粒約５㎜塊多量含む。しまりあり、粘性弱。
3　暗灰黄色土(2.5YR5/2)　焼土約５㎜塊・灰白色粒少量含む。しまり・粘性あり。
4　暗灰黄色土(2.5YR5/2)　焼土小塊・灰白色粒少量、黒褐色土を含む。しまり・粘性あり。
5　橙色土(7.5YR6/6)　焼土主体、にぶい黄橙色粒少量含む。しまり強、粘性なし。
6　黄褐色土(2.5YR5/3)　焼土小塊・粒少量含む。しまり強、粘性なし。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　焼土小塊・にぶい黄橙色粒少量含む。しまり・粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　焼土小塊・灰白色粒少量含む。しまり強、粘性弱。

第261図　３面　Ｇ５区196号竪穴建物

197号竪穴建物





土坑１C-C′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 少量、炭化物微量、小礫・遺物を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP多量、ローム約１cm塊・遺物を含む。しまり・粘性あり。

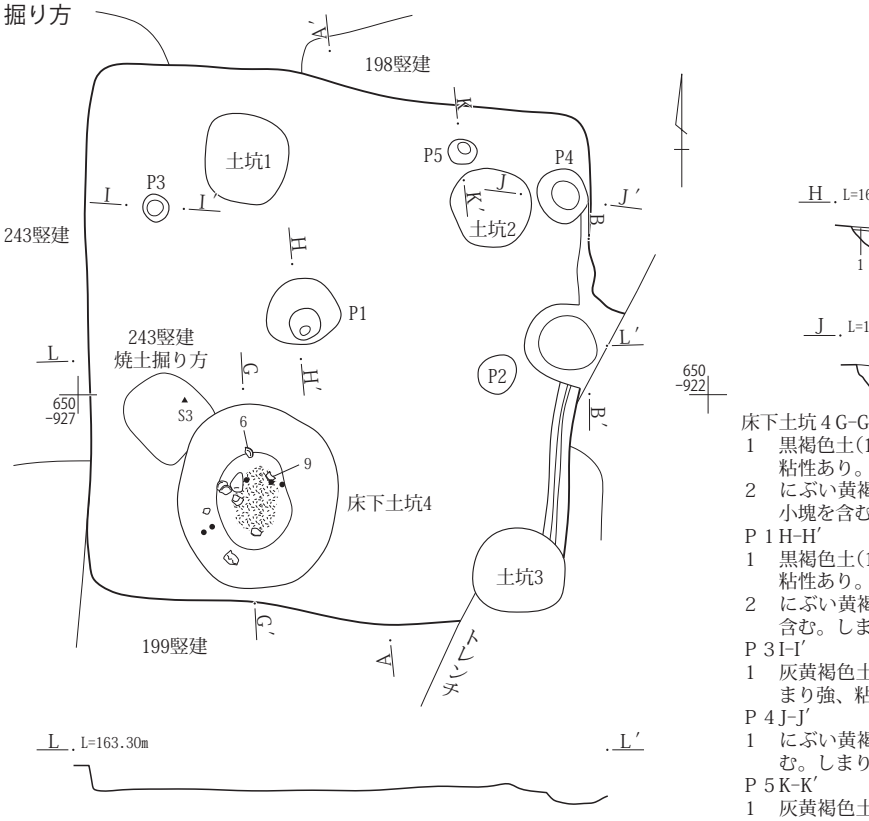
土坑２D-D′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約３cm塊少量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム約10cm塊多量、As-YPを含む。しまり弱、粘性あり。

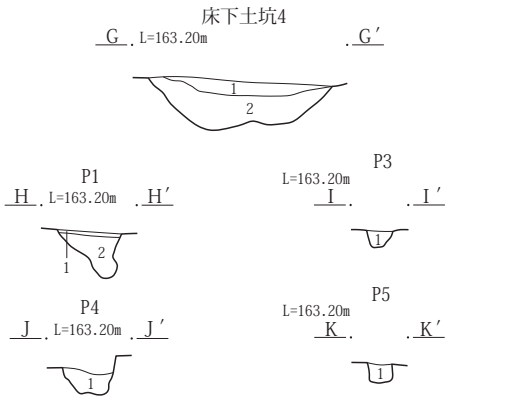
土坑３E-E′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C 少量含む。しまり強、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム小塊多量、As-YP少量含む。しまり・粘性あり。

Ｐ２F-F′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　にぶい黄橙色粒少量、ローム小塊を含む。しまり強、粘性あり。

197号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒少量、ローム約３～５cm塊を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C 多量、ローム粒を含む。しまり・粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊・粒多量含む。しまり強、粘性あり。掘り方。

掘り方





床下土坑４G-G′
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-YP少量、暗褐色土を含む。しまり強、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-YP上層・遺物多量、黒褐色土小塊を含む。しまり・粘性あり。

Ｐ１H-H′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・As-C 少量含む。しまり強、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約１～３cm塊・As-YP多量含む。しまり弱、粘性あり。

Ｐ３I-I′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量、灰白色粒少量含む。しまり強、粘性弱。

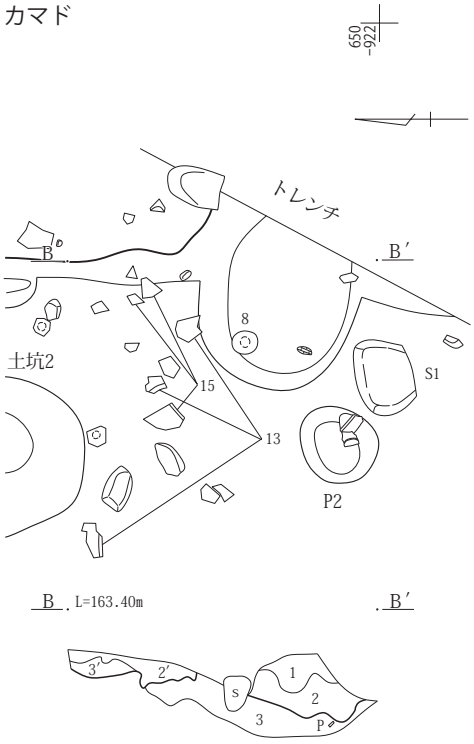
Ｐ４J-J′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約５cm塊多量、As-YPを含む。しまり・粘性弱。

Ｐ５K-K′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量、灰白色粒少量含む。しまり強、粘性弱。

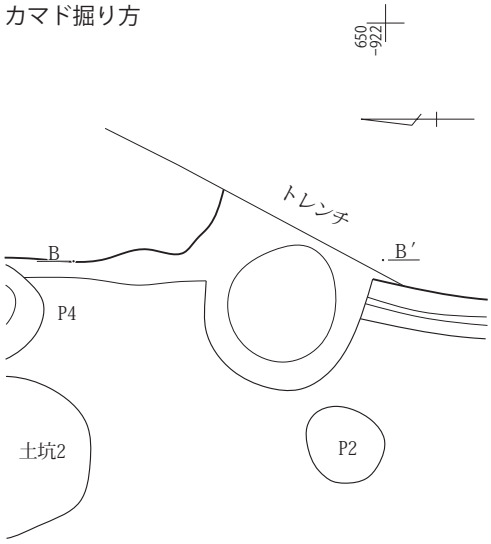
0　1：60　2m

第262図　３面　Ｇ５区197号竪穴建物

カマド



カマド掘り方

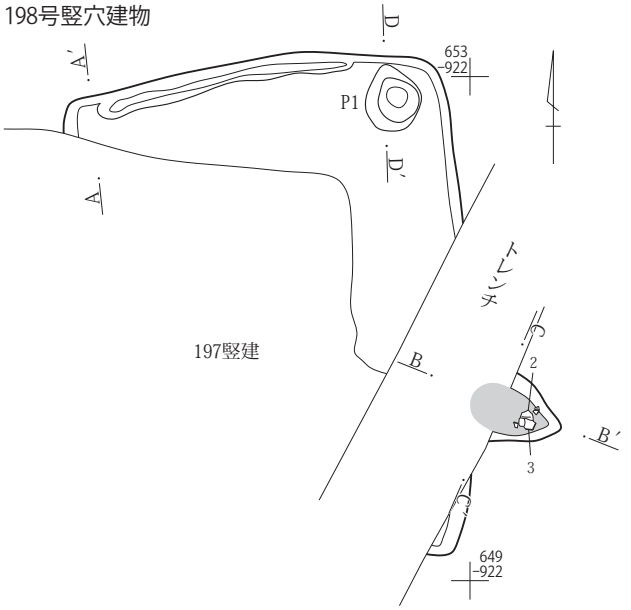


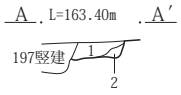
カマドB-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　径１～３㎜程の灰白・浅黄軽石やや多く、径１～４㎜程の橙色粒子少し・径１～５㎜程の焼土・炭化物少し・ロームが斑状に含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　径５～15㎜程のローム塊多く含む。明赤褐色焼土がやや多く、灰黄褐色灰径１～10㎜程の粒上のものも混じる。炭化物少し。黒褐色土が塊状に入る。ややしまっている。
2′黒褐色土(10YR3/2)　２層に比して、灰がやや少なく黒っぽく見える部分、粉状の焼土の混入も少ない。径１～５㎜の焼土粒が固まって分布している部分もある。
3　黒褐色土(10YR2/2)　径10～30㎜程のローム塊やや多く、径１㎜未満の浅黄色粒子(軽石か)わずか含む。焼土粒ほとんど含まない。しまっている。
3′黒褐色土(10YR2/2)　３層に類似。しまりがやや弱いか。

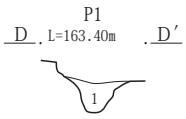
0　1：30　1m

第263図　３面　Ｇ５区197号竪穴建物

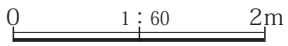
198号竪穴建物



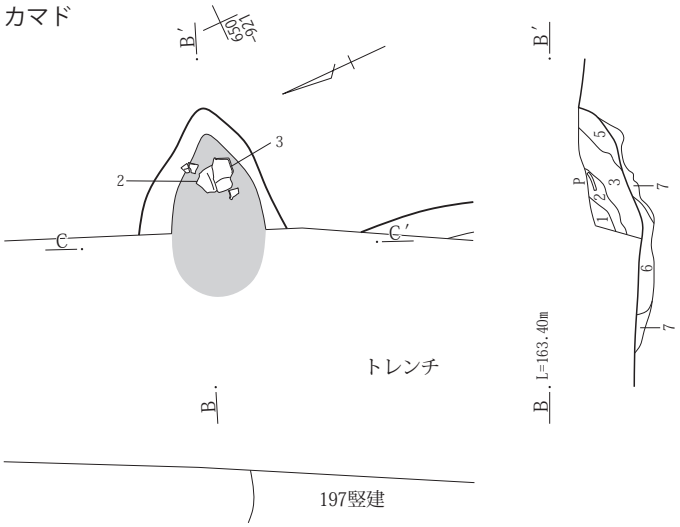




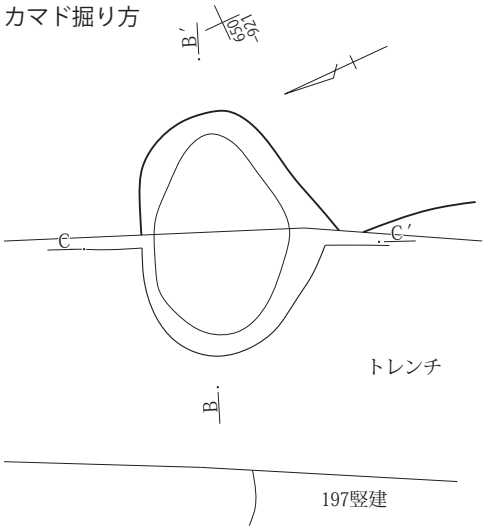
198号竪穴建物A-A′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-C 多量、ローム約１㎝塊を含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム塊主体、しまり・粘性あり。
P１D-D′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小～大塊多量含む。しまり弱、粘性あり。

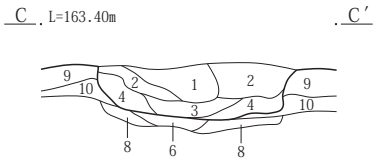


カマド

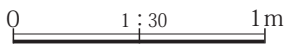


カマド掘り方



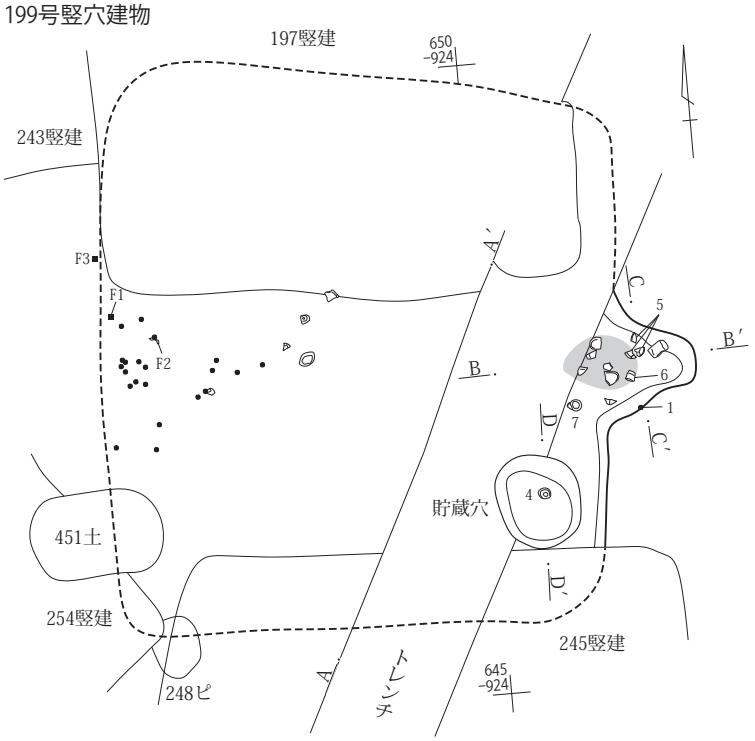


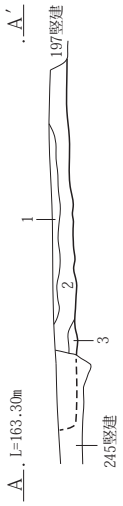
カマドB-B′・C-C′
1　灰黄褐色土(2.5Y5/3)　ローム大塊主体、炭化物少量、焼土小塊を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(2.5Y3/2)　ローム粒多量、ローム約１～５㎝塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
3　黄灰色土(2.5Y4/1)　焼土約１～３㎝塊・灰・炭化物を含む。しまり弱、粘性あり。
4　黄灰色土(2.5Y4/1)　焼土粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・炭化物を含む。しまり強、粘性あり。
6　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒多量含む。しまりややあり、粘性あり。
7　黒色土(7.5YR2/1)　焼土粒少量含む。しまり強、粘性あり。
8　灰黄褐色土(10YR4/2)　黒褐色土を含む。しまり・粘性あり。
9　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土小塊約５㎜・小礫少量含む。しまり・粘性あり。
10　黒褐色土(10YR3/2)　灰白色粒・As-C 少量含む。しまり・粘性あり。



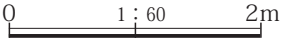
第264図　３面　Ｇ５区198号竪穴建物

199号竪穴建物

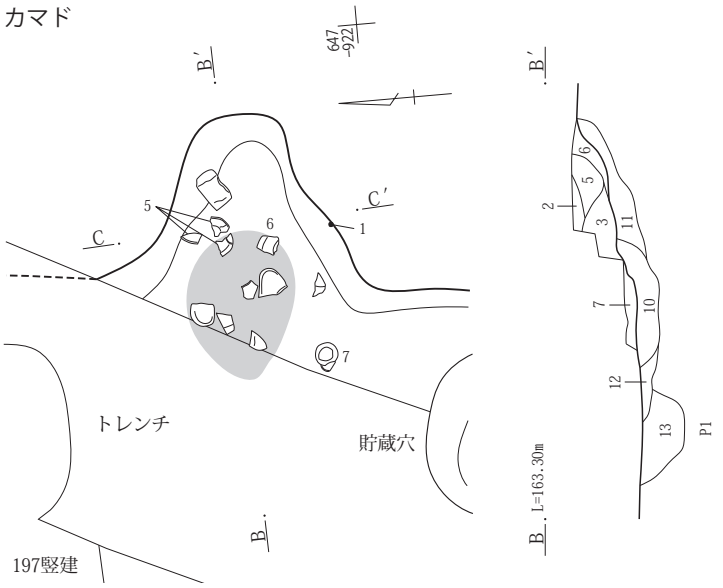




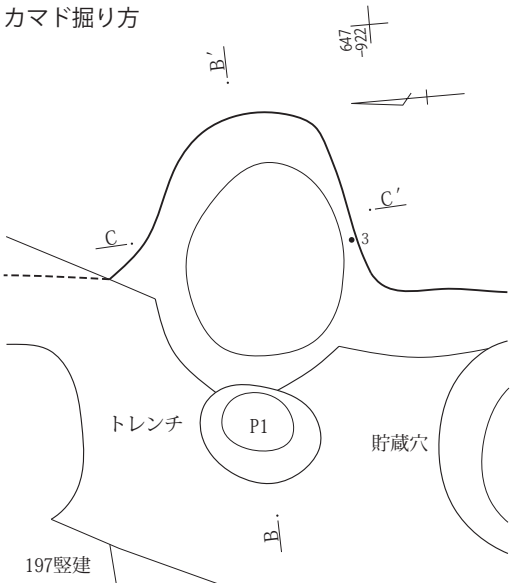
199号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/1)　焼土粒・にぶい黄橙色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　灰白色粒・焼土粒少量、遺物を含む。しまりややあり、粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量、灰白色粒少量含む。しまり弱､粘性あり。
貯蔵穴D-D′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量、ローム小塊少量含む。しまり･粘性あり。

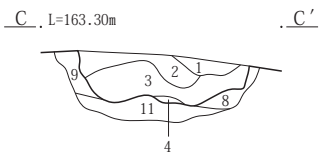


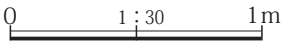
カマド



カマド掘り方



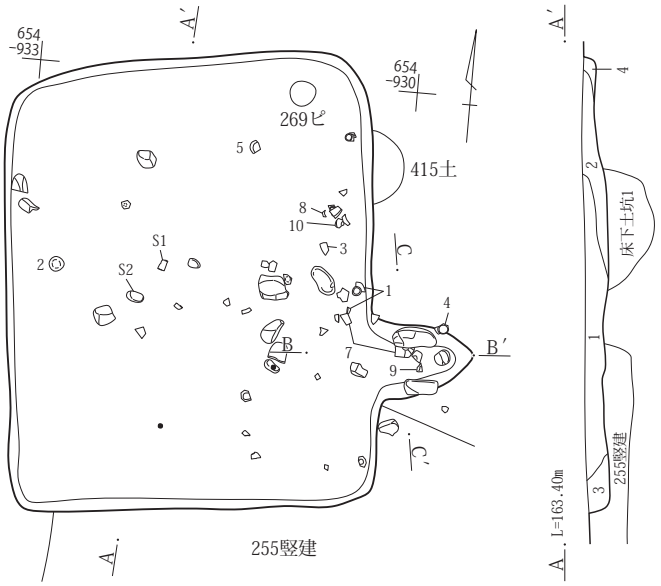




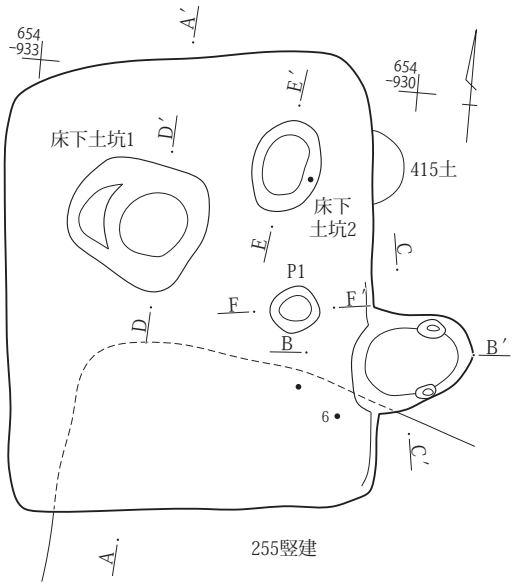
カマドB-B′・C-C′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒多量、As-C少量含む。しまり強、粘性弱。
2　黄褐色土(2.5Y5/3)　ローム約１㎝塊・As-C少量含む。しまり強、粘性弱。
3　黄褐色土(2.5Y5/3)　焼土約１～３㎝塊多量、遺物を含む。しまり・粘性あり。
4　明赤褐色土(2.5YR5/6)　焼土塊、しまり強、粘性なし。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土小塊・粒多量、黄褐色土塊を含む。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土(10YR3/1)　焼土粒微量、褐色土を含む。しまり・粘性あり。
7　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土小塊約１㎝少量、炭化物を含む。しまり・粘性あり。
8　灰黄褐色土(10YR5/2)　ローム塊を含む。ややザラつきあり、しまりあり、粘性弱。
9　灰黄褐色土(10YR4/2)　にぶい黄橙色粒少量含む。しまり・粘性あり。
10　にぶい赤褐色土(5YR4/3)　にぶい黄橙色粒･As-C少量、黒褐色土を含む。しまり強、粘性弱。
11　黒褐色土(2.5Y3/2)　As-C・焼土粒少量含む。しまり強、粘性弱。
12　黒褐色土(2.5Y3/2)　11層に類似、焼土粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
13　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約５～10㎝塊多量、焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。

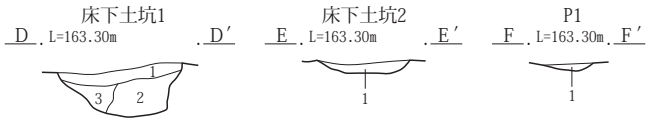
第265図　３面　Ｇ５区199号竪穴建物

200号竪穴建物



掘り方



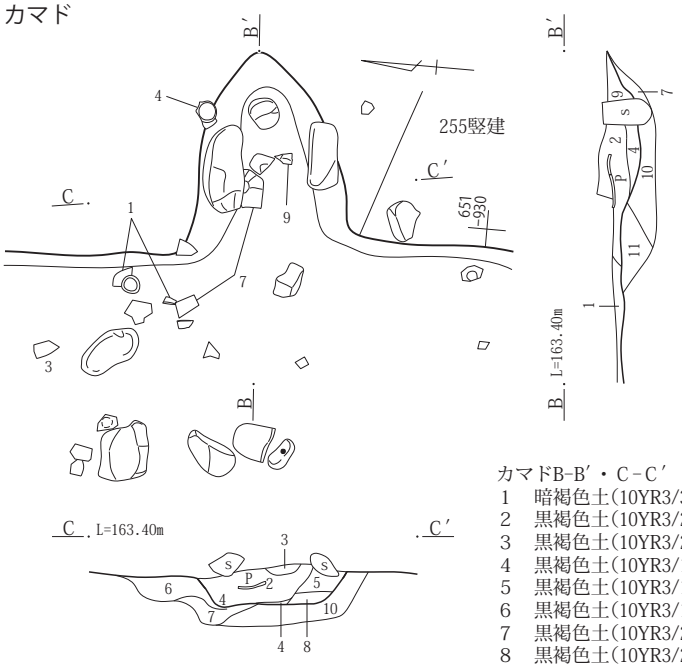


200号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・ローム約１㎝塊少量含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小～大塊・にぶい黄褐色土塊を含む。しまり強、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒多量、炭化物を含む。しまり・粘性あり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　褐色土多量、にぶい黄橙色粒を含む。しまり弱、粘性あり。
床下土坑１D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　灰白色粒少量含む。しまりあり、粘性弱。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１㎝塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒褐色土(2.5Y3/2)　ローム約３㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。

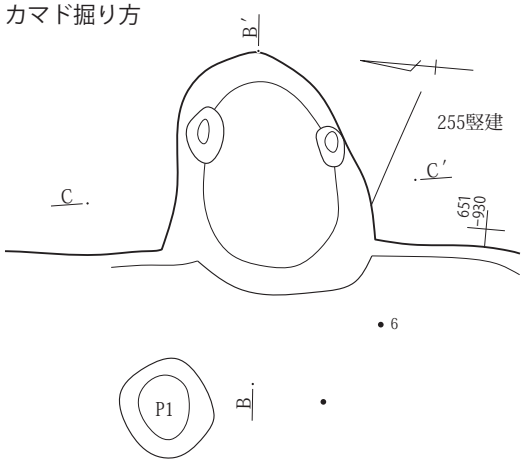
床下土坑２E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒多量、ローム約１㎝塊を含む。しまり強、粘性あり。
P１F-F′
1　黒褐色土(10YR3/1)　灰白色粒少量、暗褐色土を含む。しまり・粘性あり。

0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方

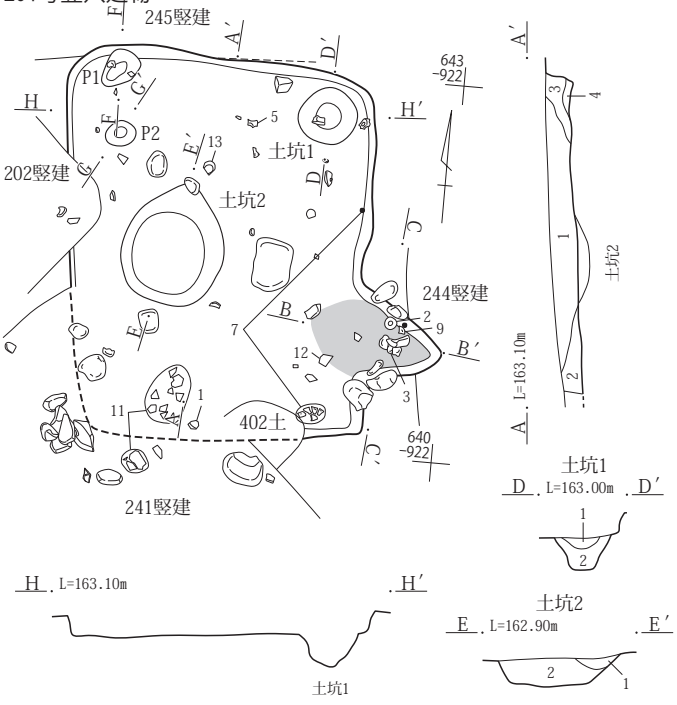


カマドB-B′・C-C′
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム約５㎜塊・灰白色粒少量含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム大塊多量、焼土塊を含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム塊主体、しまり弱、粘性あり。
4　黒褐色土(10YR3/1)　灰白色粒多量、焼土粒少量、遺物を含む。しまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/1)　焼土粒少量、As-Cを含む。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土(10YR3/1)　灰白色粒少量、褐色土小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
7　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・灰白色粒少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
8　黒褐色土(10YR3/2)　７層に類似、暗褐色土を含む。しまりやや弱、粘性あり。
9　黒褐色土(5YR3/1)　にぶい黄橙色粒少量、焼土粒微量含む。しまり弱、粘性あり。
10　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・粒多量含む。しまり・粘性あり。
11　黒色土(10YR2/1)　にぶい黄橙色粒多量含む。しまり強、粘性あり。

0　1：30　1m

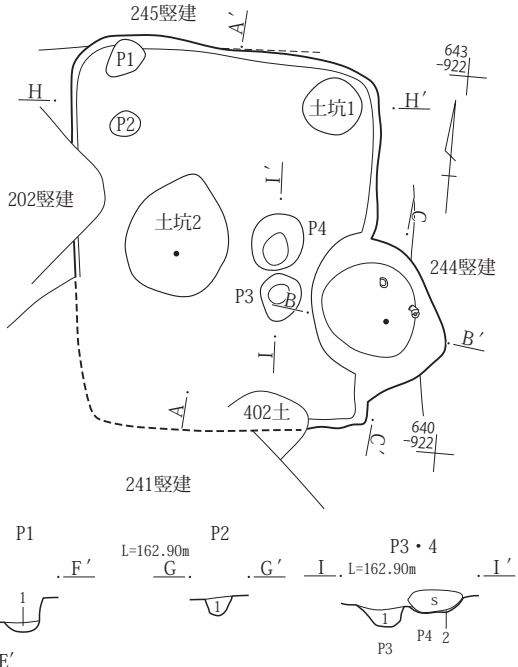
第266図　３面　Ｇ５区200号竪穴建物

201号竪穴建物



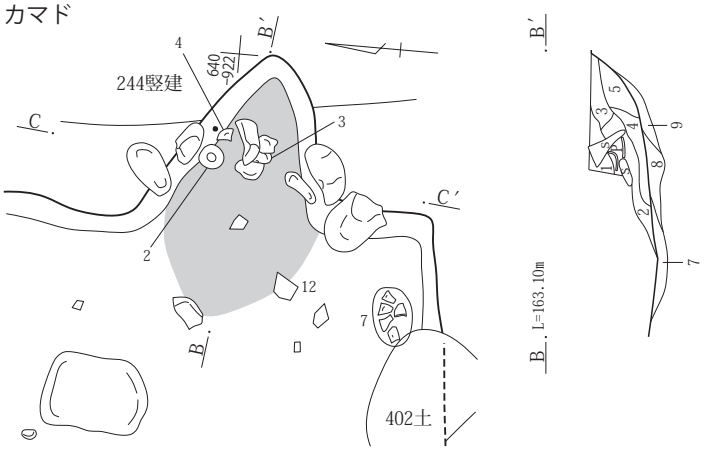
201号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量で均質、灰白色軽石少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C・明褐色粒少量含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約1㎝塊少量含む。しまり・粘性あり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約1㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
土坑1 D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　しまりややあり、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約1㎝塊・にぶい黄橙色粒少量、礫を含む。しまり弱、粘性あり。貯蔵穴か。

掘り方

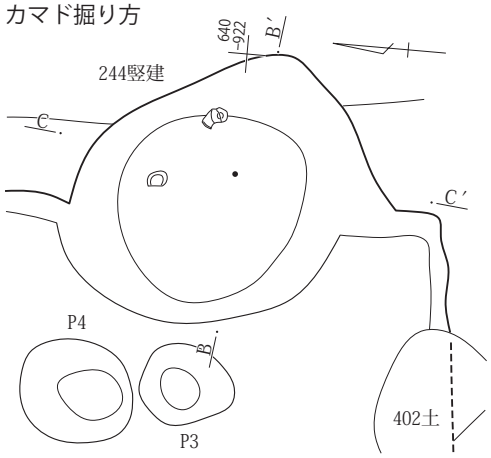


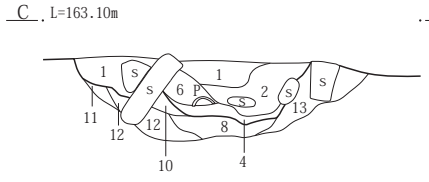
土坑2 E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約1㎝塊少量含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小～大塊多量、黒褐色土塊を含む。しまり・粘性あり。
P1 F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　灰白色粒・焼土粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。
P2 G-G′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒を含む。しまり弱、粘性あり。
P3・P4 I-I′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム大塊多量、黒褐色土を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小～大塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。礫設置のための整地土か。

カマド



カマド掘り方



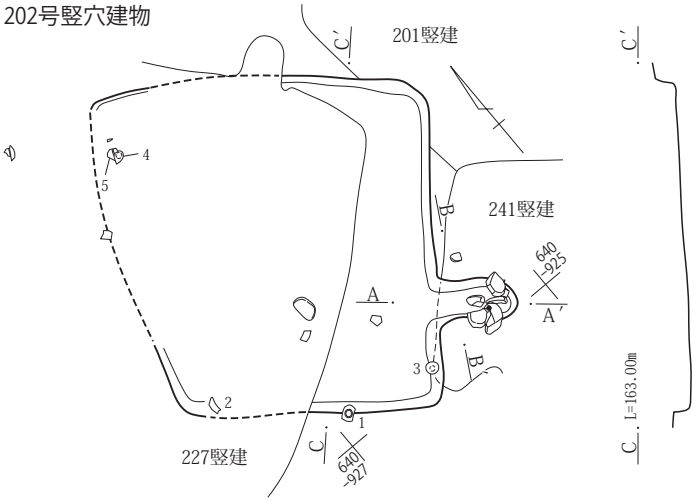


カマドB-B′・C-C′
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土粒少量、炭化物微量含む。しまり・粘性あり。
2　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土小塊多量含む。しまり・粘性弱。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　炭化物・にぶい黄橙色粒少量・焼土粒微量含む。しまり・粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(7.5YR5/3)　焼土塊主体、しまり強、粘性弱。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　にぶい黄橙色粒少量、焼土粒微量含む。しまり弱、粘性あり。
6　黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土約5㎜塊多量、遺物を含む。しまりややあり、粘性あり。
7　灰黄褐色土(7.5YR6/2)　ローム大塊・焼土粒を含む。しまりやや弱、粘性あり。
8　赤褐色土(5YR4/6)　焼土主体、遺物を含む。しまり強、粘性弱。
9　黒色土(10YR2/1)　焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
10　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒・ローム小塊多量含む。しまり強、粘性弱。
11　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土粒少量、ローム粒を含む。しまり弱、粘性あり。
12　明赤褐色土(5YR5/6)　焼土、灰白色粒少量、遺物を含む。しまり強、粘性弱。
13　黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土粒少量、カマド構築材礫を含む。しまりやや弱、粘性あり。

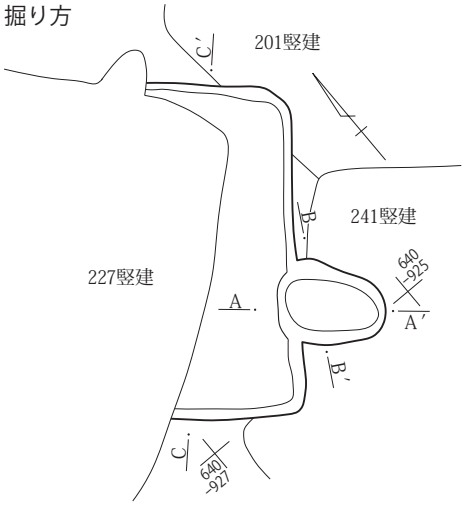
0　1：30　1m
0　1：60　2m

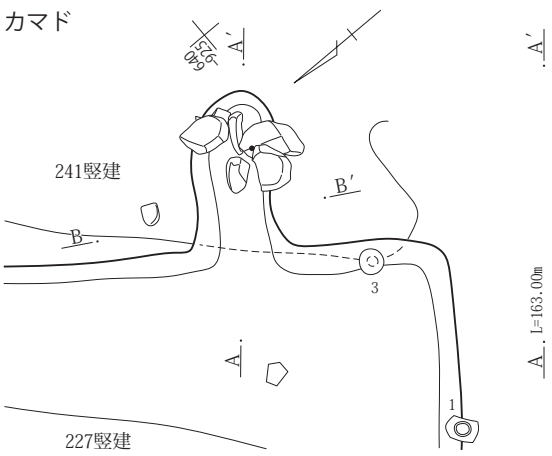
第267図　３面　Ｇ５区201号竪穴建物

202号竪穴建物



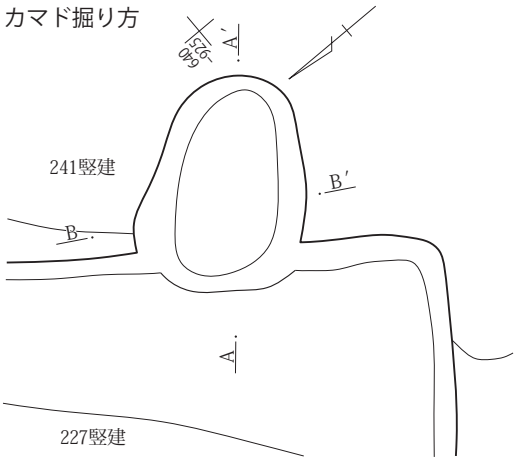
掘り方





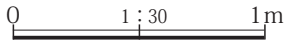
カマド

カマド掘り方



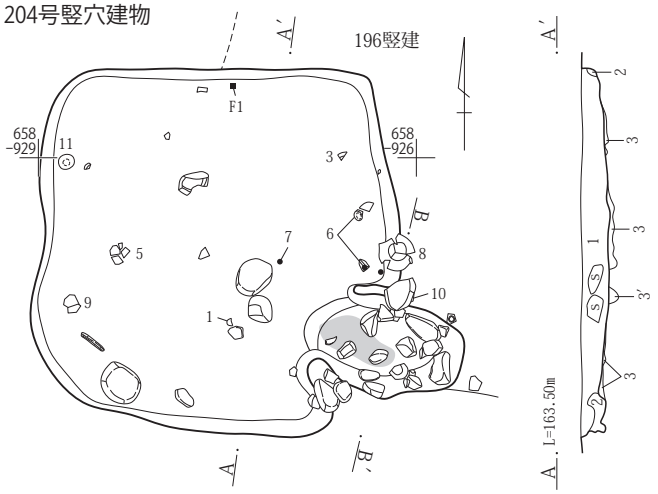
202号竪穴建物カマドA－A′・B－B′

1　黒褐色土(10YR3/1)　灰白色粒少量、焼土粒微量含む。色味は暗い、しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊を含む。しまり強、粘性あり。
3　黒褐色土(2.5Y3/2)　灰白色粒少量、焼土粒微量、ローム約１㎝塊を含む。しまり・粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒少量含む。しまり強、粘性あり。

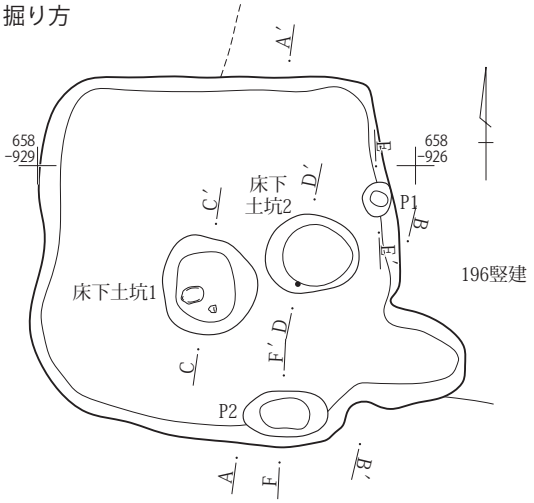


第268図　３面　Ｇ５区202号竪穴建物

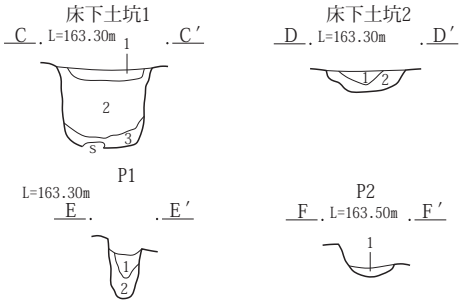
204号竪穴建物



掘り方



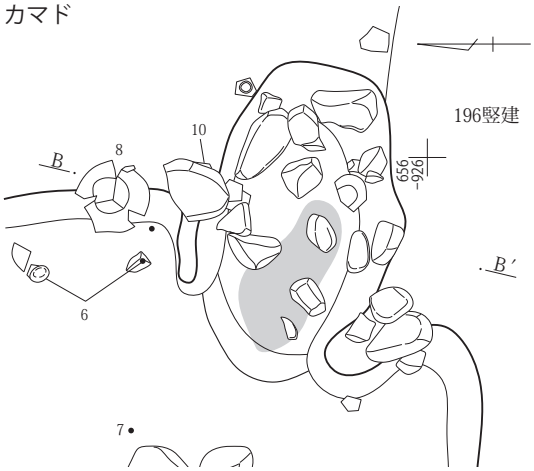
204号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　径１～３㎜程の灰白・浅黄軽石やや多く、焼土わずかに混入。橙色粒子・径2～10㎜程のローム塊・炭化物少し含む。ややしまっている。
2　暗褐色土(10YR3/4)　１層と似るがロームがやや多い。１層に比して焼土粒がやや多く含む。ややしまっている。
3　黒褐色土(10YR2/2)　径10～20㎜程のローム塊多い、径１㎜程のAs-Cわずか含む。しまっている。
3′黒褐色土(10YR2/2)　３層と同様だが、含まれるローム塊の粒が小さい。
床下土坑１C-C′
1　黒色土(7.5YR2/1)　焼土塊下層に多量、ローム約５㎜塊を含む。しまりややあり、粘性あり。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-C・小礫を含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR2/3)　As-YP多量含む。しまり弱、粘性あり。
床下土坑２D-D′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約１㎝塊多量含む。しまり強、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約５㎜～１㎝塊少量、遺物を含む。しまり弱、粘性あり。
P１E-E′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-Cを含む。１層よりしまり弱､粘性あり。



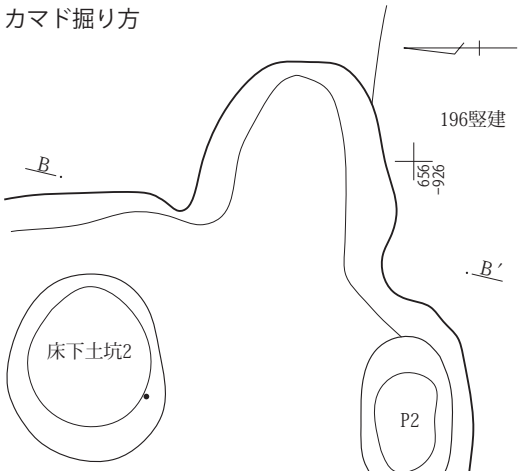
P２F-F′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土粒少量、ローム約３㎝塊を含む。しまり・粘性あり。

0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方

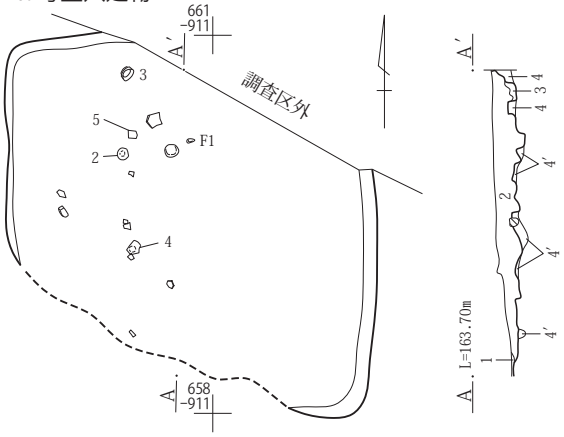


カマドB-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　径１～３㎜程の灰白・黄褐色軽石・橙色粒子・径１～５㎜程の焼土粒わずかに混入。径２～５㎜程のローム粒わずか、径１～３㎜程の炭化物ごくわずか含む。ややしまっている。
2　黒褐色土(10YR3/1)　粉末状のロームまたは灰が混じって白っぽく見える層。径１～10㎜程の焼土粒やや多く、径10～30㎜程のローム塊・径１～３㎜程の灰白・黄褐色軽石・径１～３㎜程の炭化物少し含む。しまりややあり。
3　暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)　径１～４㎜程の黄褐・灰白・橙色軽石少し含む。硬くしまっている。
4　黄褐色土(2.5Y3/3)　明赤褐色土(5YR5/6)に焼けた部分。

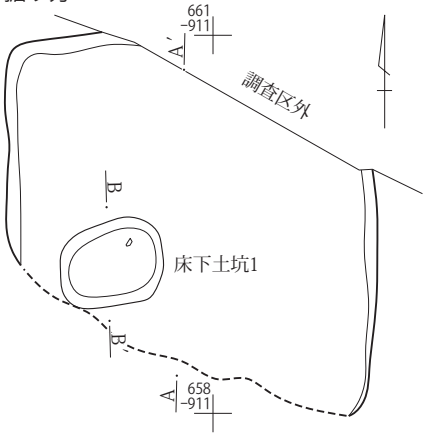
0　1：30　1m

第269図　３面　Ｇ５区204号竪穴建物

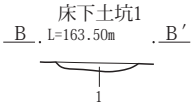
209号竪穴建物



掘り方

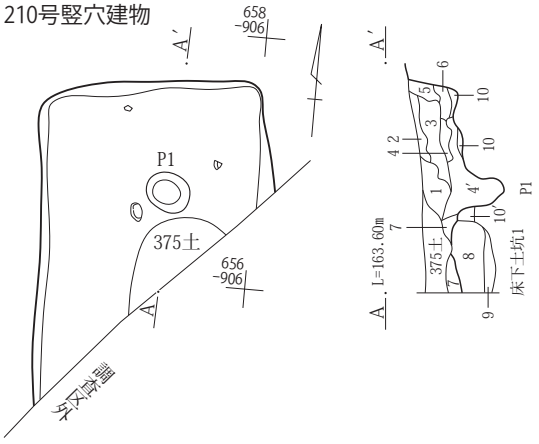


床下土坑1

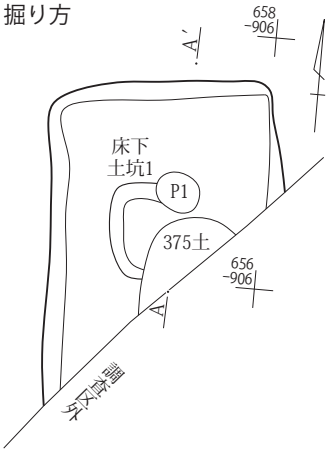


209号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・炭化物・黒色土塊・灰白色軽石等が乱雑に入る。しまりなし。
2　暗褐色土(10YR3/3)　径１～７㎜程の浅黄・As-Ｃ軽石、径１～２㎝程のローム塊・炭化物少し含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　径１～４㎜程の黄褐・橙・浅黄色軽石多い。径２～３㎜程のローム粒少し含む。砂粒混入(ザラザラ)。しまりあまりなし。
4　暗褐色土(10YR3/4)　径２～５㎜程の橙・浅黄色軽石やや多く、径１～３㎝程の大き目のローム塊、炭化物わずかに含む。
4′暗褐色土(10YR3/4)　径１～５㎜程の浅黄・As-YPが非常に多い部分。層上部がしまっている。
床下土坑１Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ多量、遺物を含む。しまり・粘性あり。

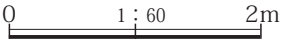
210号竪穴建物



掘り方

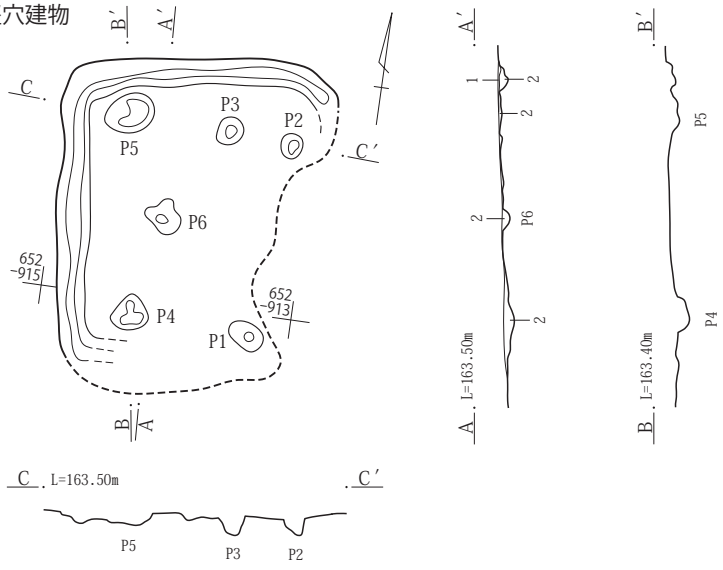


210号竪穴建物A-A′
1　黒色土(10YR2/1)　径５～30㎜程のローム塊が多く見られる部分がある。焼土粒・橙色粒子・黄褐・As-YPわずかに見られる。　しまりあまりなし。
2　黒褐色土(10YR3/2)　径１～４㎜程の黄・黄褐色軽石・径１～５㎜程のローム粒わずか含む。しまり弱い。
3　黒色土(10YR2/1)　径２～４㎜程のローム粒斑状・小土器片・黄・黄褐色軽石・炭化物わずか含む。しまりとても弱い。
4　黒褐色土～黒色土(10YR3/2～2/1)　多量のAs-YPが入る。ローム塊も多く、炭化物わずか含む。しまりあまりなし。
4′黒色土(10YR2/1)　黒色土の割合が多く黒っぽく見える。しまりややあり。
5　黒褐色土(10YR3/1)　径１㎜程の黄褐・浅黄色粒子・径１～２㎜程の炭化物粒ごくわずか含む。硬くしまっている。
6　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐・橙・As-YPやや多く含む。硬くしまっている
7　褐色土(10YR4/4)　浅黄・黄褐色軽石・径５～15㎜程のローム塊とても多い。橙色粒子わずかに見られる。黒色土が塊状に入る。しまっている。
8　暗褐色土(10YR3/3)　径５～20㎜程のローム塊が多く見られる。径２～５㎜程の黄褐・As-YP多く見られる。黒色土が塊状に入る　炭化物少し見られる　しまりややあり。
9　褐色土(10YR4/4)　ローム塊が多く(漸移層のよう)、径１㎜未満の黄褐色軽石ごくわずか含む。
10　灰白～明黄褐色軽石(10YR8/2～7/6)　As-YPと見られる軽石径２～４㎜程のものが主。
10′にぶい黄橙色土(10YR6/4)　ローム。



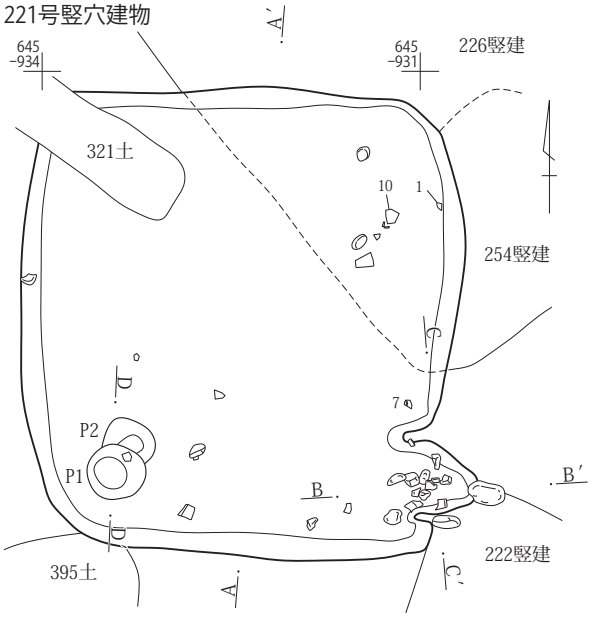
第270図　３面　Ｇ５区209・210号竪穴建物

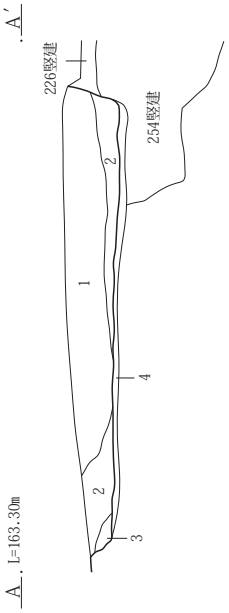
215号竪穴建物

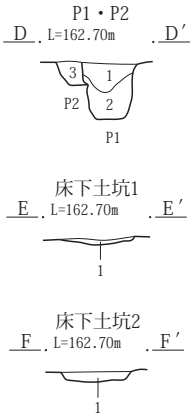


215号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　径２～４㎜ほどの灰白・浅黄色軽石多く､炭化物わずか含む｡ややしまっている。
2　黒褐色土(10YR2/2)　径１～３㎜程の灰白軽石少し見られる。径５～20㎜程のローム塊やや少し目立つ。硬くしまっている。

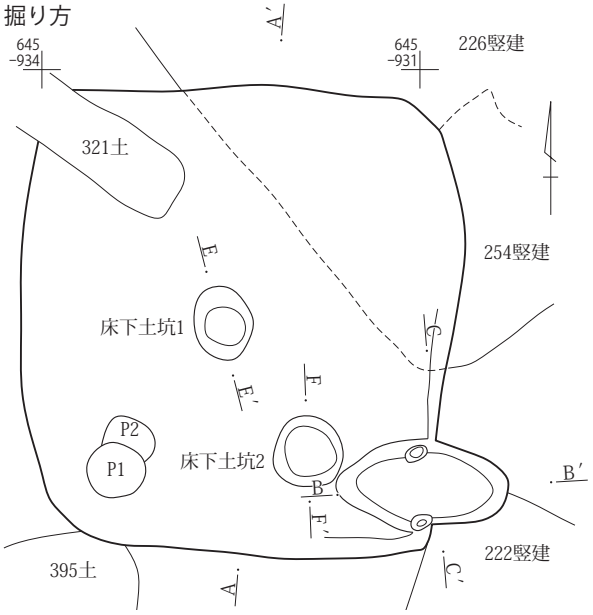
221号竪穴建物



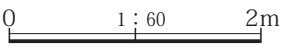




掘り方

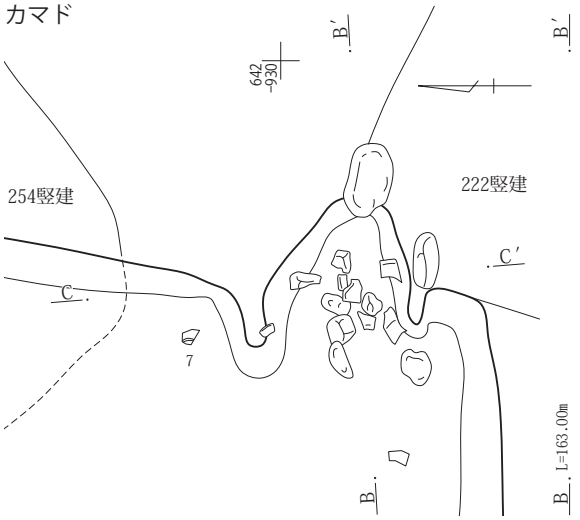


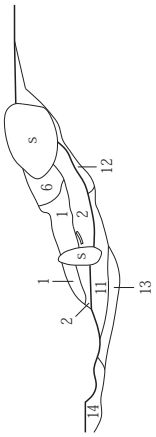
221号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-Ｃ多量で均質、しまり強、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　１層よりAs-Ｃ・ローム約５㎜～１㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量、ローム約１㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊縞状に含む。しまり強、粘性あり。掘り方。
Ｐ１・Ｐ２D-D′
1　黒褐色土(7.5YR2/2)　にぶい黄橙色粒･明褐色粒少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-YP・ローム粒少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　灰白色粒・にぶい黄橙色粒少量含む。しまり・粘性あり。
床下土坑１E-E′
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土粒多量、炭化物を含む。しまり強、粘性弱。
床下土坑２F-F′
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　ローム小塊多量、にぶい黄橙色粒を含む。しまり・粘性あり。



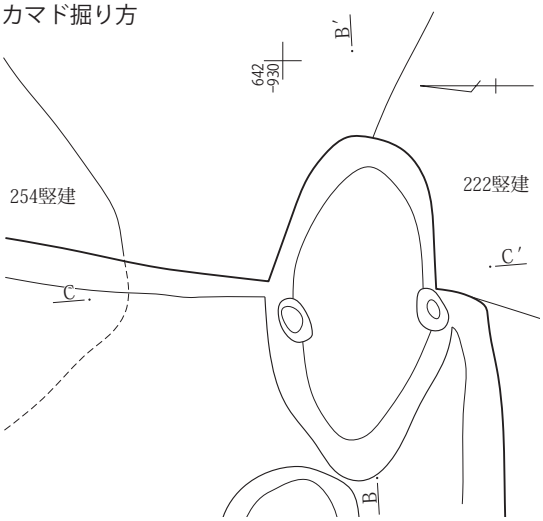
第271図　３面　Ｇ５区215・221号竪穴建物

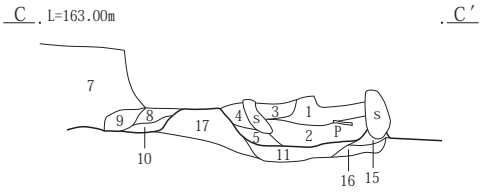
カマド





カマド掘り方

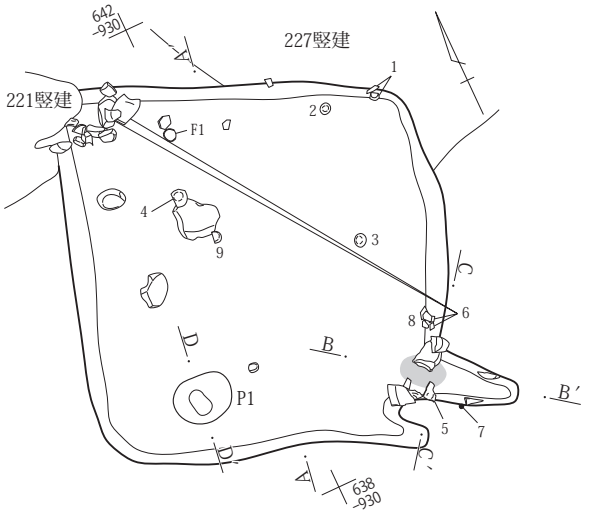


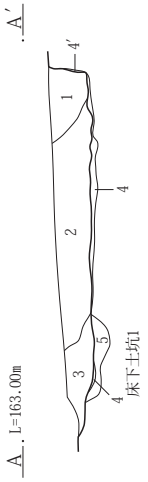


221号竪穴建物カマドB－B′・C－C′
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　灰白色粒少量、小礫・焼土約５㎜を含む。しまり弱、粘性あり。
2　黄灰色土(2.5Y4/1)　灰・遺物・礫を含む。しまり弱、粘性あり。
3　灰褐色土(7.5YR4/2)　ローム粒多量、焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　黒褐色土(7.5YR3/1)　ローム小塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
5　黄灰色土(2.5Y4/1)　２層に類似､焼土粒多量含む。しまり弱､粘性あり。
6　明黄褐色土(10YR76/6)　ローム主体、灰白色粒少量、焼土粒微量含む。しまり強、粘性弱。
7　黒褐色土(10YR2/2)　As－C多量､焼土粒少量含む。しまり弱､粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量含む。しまり・粘性あり。
9　黒褐色土(10YR5/3)　ローム大塊を含む。しまり・粘性あり。
10　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量含む。しまり・粘性あり。
11　褐灰色土(7.5YR4/1)　砂質土、焼土粒・ローム粒少量含む。しまり・粘性弱。
12　黒褐色土(7.5YR3/1)　にぶい黄橙色粒少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
13　にぶい褐色土(7.5YR5/3)　As-YP・焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
14　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
15　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土粒・ローム粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
16　にぶい黄褐色土(7.5YR5/3)　焼土粒少量含む。しまり強、粘性弱。
17　黄褐色土(10YR5/6)　灰白色粒・にぶい黄橙色粒少量、黒褐色土を含む。しまり強、粘性弱。

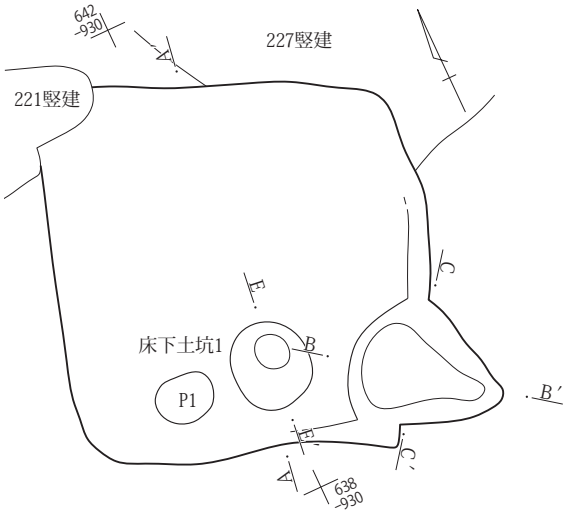
0　1：30　1m

222号竪穴建物





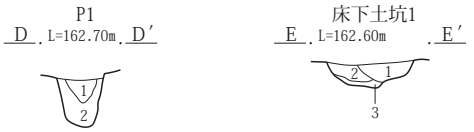
掘り方



222号竪穴建物A－A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　径１㎝程のローム塊・径１～２㎜程の黄褐色軽石わずか含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　径１～３㎜程の灰白・浅黄色軽石やや多く、径３～15㎜程のローム塊・炭化物少し含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　径１～４㎝程のローム塊(ぼんやりとした斑状)少し、径１～３㎜程の浅黄色軽石わずか含む。
4　黒色土(10YR2/1)　径１㎜程の灰白・浅黄色軽石わずか、塊状や層状にローム含む。とても硬くしまっている。
4′　黒褐色土(10YR3/2)　軽石がやや少なく見える。ローム塊の入り具合が４層と同じ。とても硬くしまっている。
5　暗褐色土(10YR3/3)　径５～15㎜程のローム塊多い。焼土粒やや多く、軽石と見られる粒子がほとんど含まない。しまりややあり。

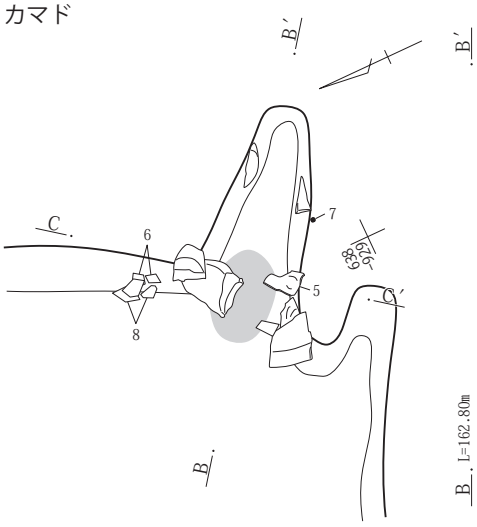
0　1：60　2m

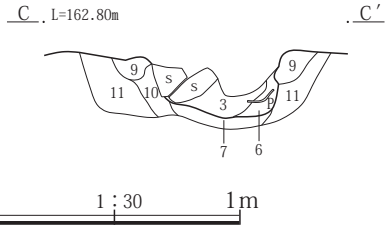
第272図　３面　Ｇ５区221・222号竪穴建物



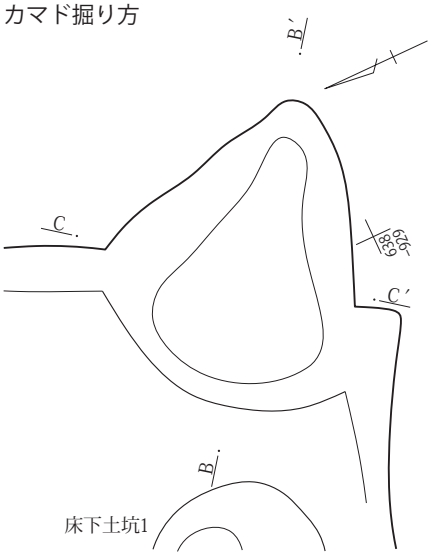
P１D-D′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒・にぶい黄橙色粒・炭化物少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(2.5Y3/1)　As-YP・ローム粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
床下土坑１E-E′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム大塊多量、焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒色土(10YR2/1)　ローム約５㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。

カマド



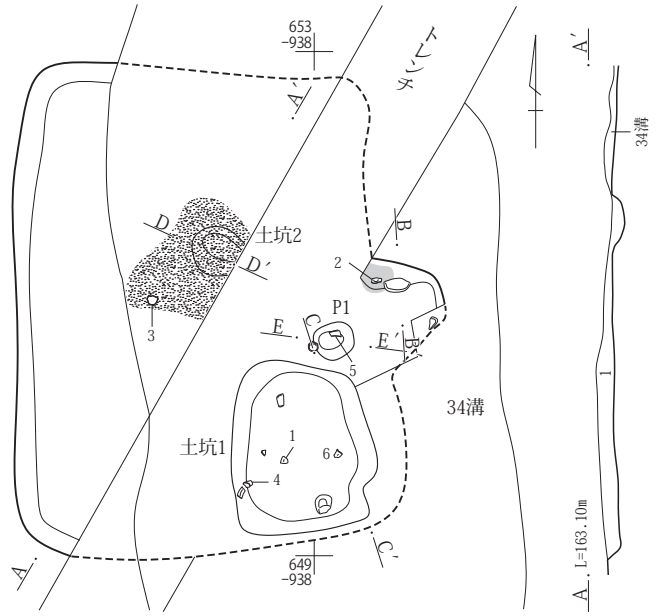


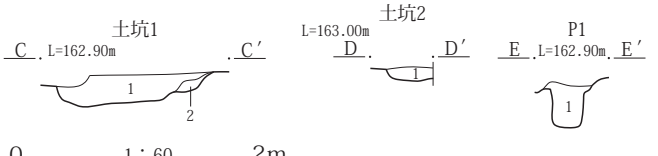
カマド掘り方

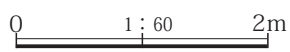


カマドB-B′・C-C′
1　灰褐色土(7.5YR4/2)　ローム粒多量、焼土粒微量含む。しまり弱、粘性あり。
2　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊主体、焼土粒少量、黒褐色土を含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土粒少量、ローム小塊・灰を含む。しまり弱、粘性あり。
4　灰褐色土(7.5YR4/2)　ローム粒・焼土粒少量含む。色味は暗い。しまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土粒多量、ローム小塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
6　黒褐色土(5YR2/1)　焼土約５㎜塊多量、灰を含む。しまり弱、粘性あり。
7　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土小塊・粒を含む。しまり弱、粘性あり。
8　黒褐色土(7.5YR3/1)　灰白色粒少量、灰黄褐色土を含む。しまり・粘性あり。
9　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊、焼土粒少量、しまり強、粘性弱。
10　黒褐色土(2.5Y3/1)　灰白色粒少量、黄灰色土を含む。しまり強、粘性あり。
11　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土約５㎜塊多量含む。しまり・粘性あり。

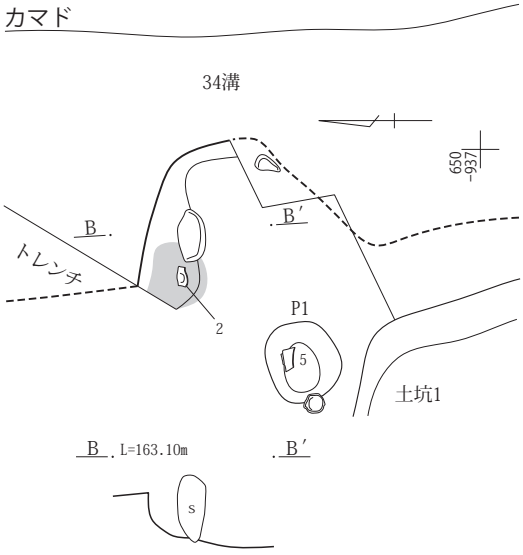
223号竪穴建物



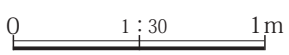




カマド

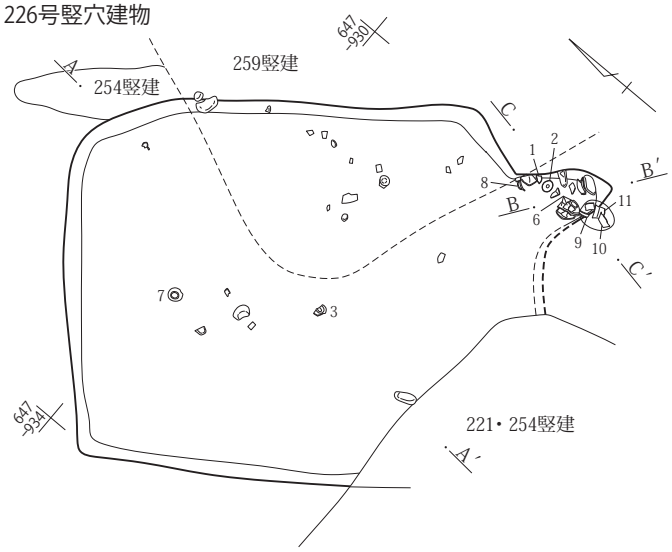


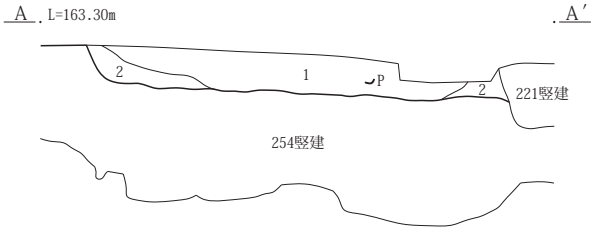
223号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄褐色粒少量、炭化物粒若干含む。
土坑１C-C′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C多量、黄橙色粒少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、黄橙色粒若干含む。
土坑２D-D′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄橙色粒少量含む。
P１E-E′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP粒多量、As-C・黄橙色粒若干含む。



第273図　３面　Ｇ５区222・223号竪穴建物

226号竪穴建物

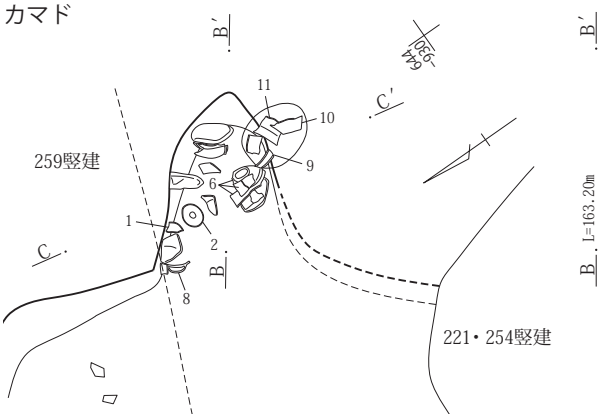


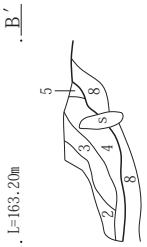


226号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C・ローム約１㎝塊・明褐色粒少量、遺物を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒少量、As-C微量含む。しまり・粘性あり。

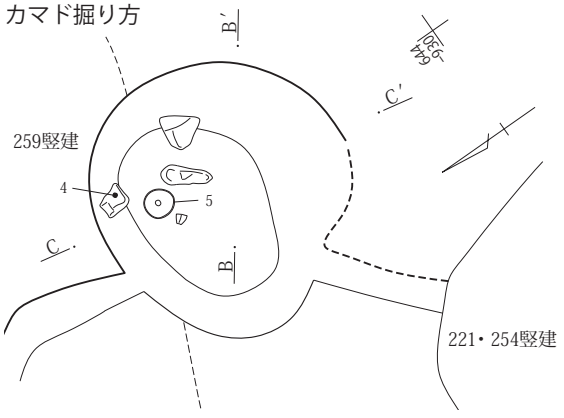
0　1：60　2m

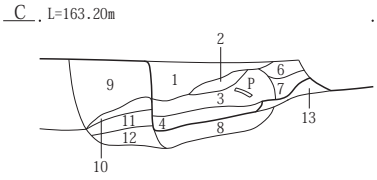
カマド





カマド掘り方



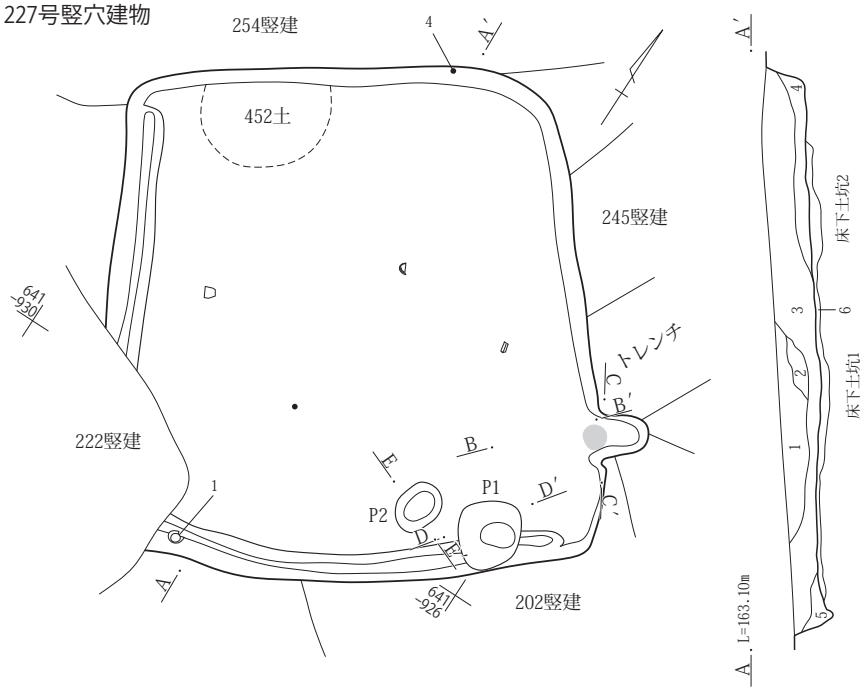


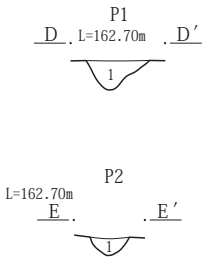
カマドB-B′・C-C′
1　黒褐色土(7.5YR4/2)　As-C・小礫を含む。しまり弱、粘性あり。
2　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　にぶい黄橙色粒少量、焼土粒微量、遺物を含む。しまり・粘性あり。
3　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　焼土約５㎜塊少量、炭化物を含む。しまり・粘性あり。
4　褐灰色土(7.5YR4/1)　焼土小塊多量含む。しまり弱、粘性ややあり
5　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
6　褐色土(7.5YR4/3)　灰白色粒少量、焼土大塊を含む。しまり弱、粘性あり。
7　黒褐色土(7.5YR4/2)　As-C粒少量含む。しまり・粘性あり。
8　褐灰色土(5YR4/1)　焼土粒・灰白色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
9　黒褐色土(10YR3/1)　As-C・焼土粒少量、灰白色軽石を含む。しまり強、粘性あり。
10　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊主体、カマド構築材崩落土、灰黄褐色土を含む。しまりあり、粘性弱。
11　灰黄褐色土(10YR5/3)　ローム塊多量、焼土塊少量、灰を含む。しまり弱、粘性あり。
12　褐灰色土(5YR4/1)　焼土小塊多量、黒色土を含む。しまり弱、粘性あり。
13　黄灰色土(2.5Y4/1)　にぶい黄橙色粒少量含む。しまり・粘性あり。

0　1：30　1m

第274図　３面　Ｇ５区226号竪穴建物

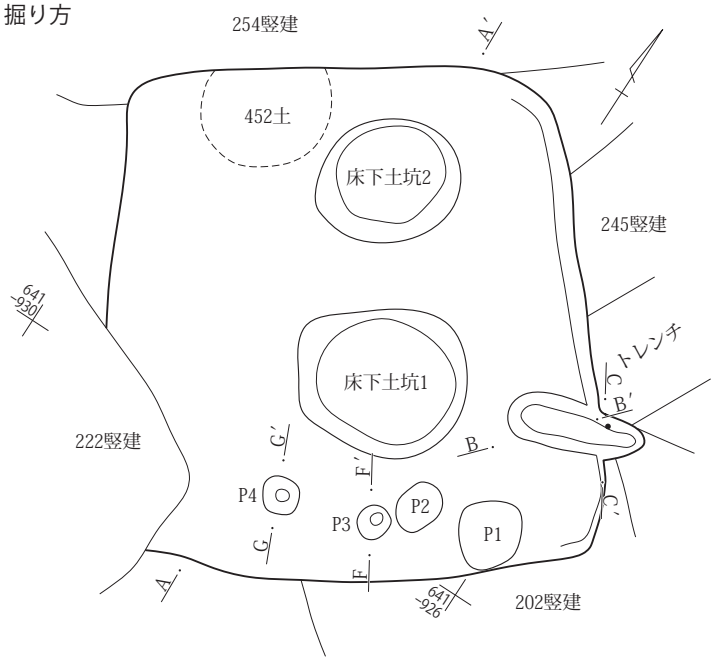
227号竪穴建物

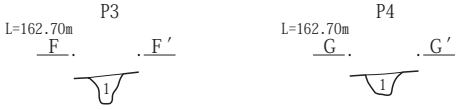




227号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量で均質、しまり強、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C少量、ローム約５～10㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・小礫・ローム約１㎝塊少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　灰白色粒少量、ローム約３～５㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
6　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム小塊少量、灰黄褐色土を含む。しまり・粘性あり。掘り方。

掘り方



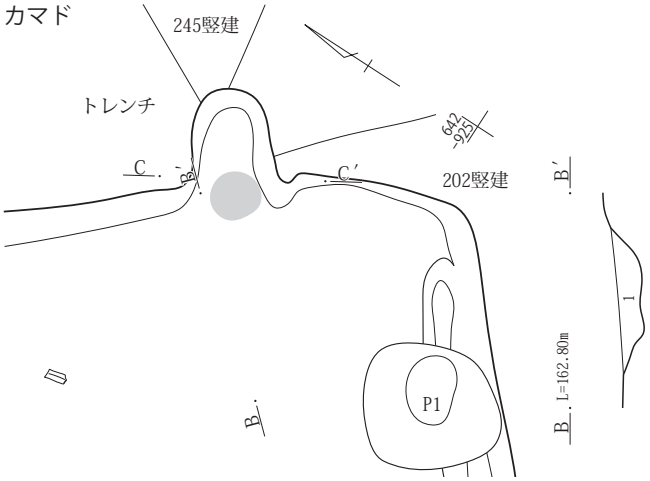


Ｐ１～Ｐ４D-D′～G-G′
1　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄褐色土・As-YP多量含む。しまり弱、粘性あり。

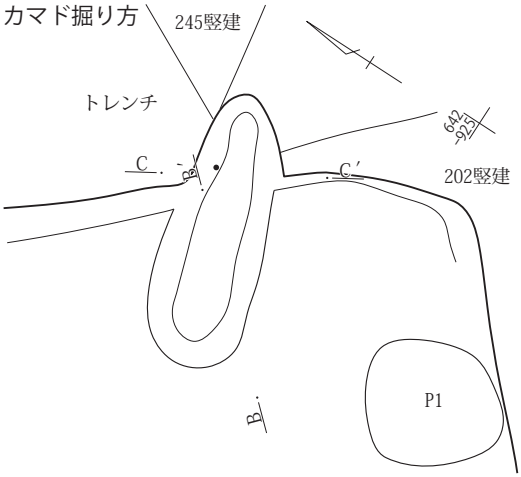
0　1：60　2m

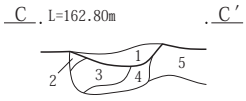
第275図　３面　Ｇ５区227号竪穴建物

カマド



カマド掘り方

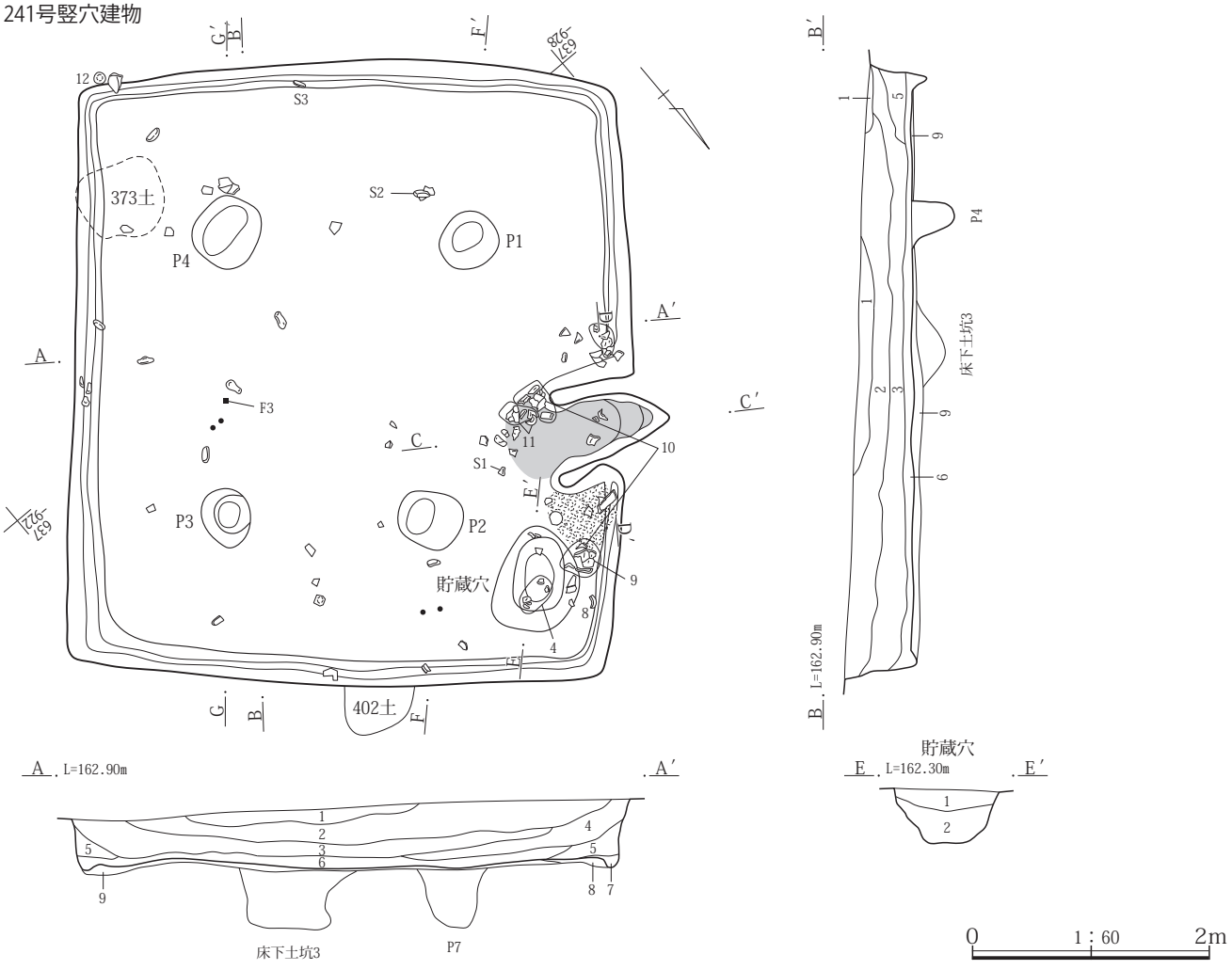




カマドB－B′・C－C′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒多量含む。しまりあり、粘性弱。
2　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊、しまり強、粘性弱。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　灰・焼土塊多量、ローム小塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム小塊多量、As-YP少量、黒褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。
5　明黄褐色土(10YR6/6)　焼土粒少量含む。しまり強、粘性あり。

0　1：30　1m

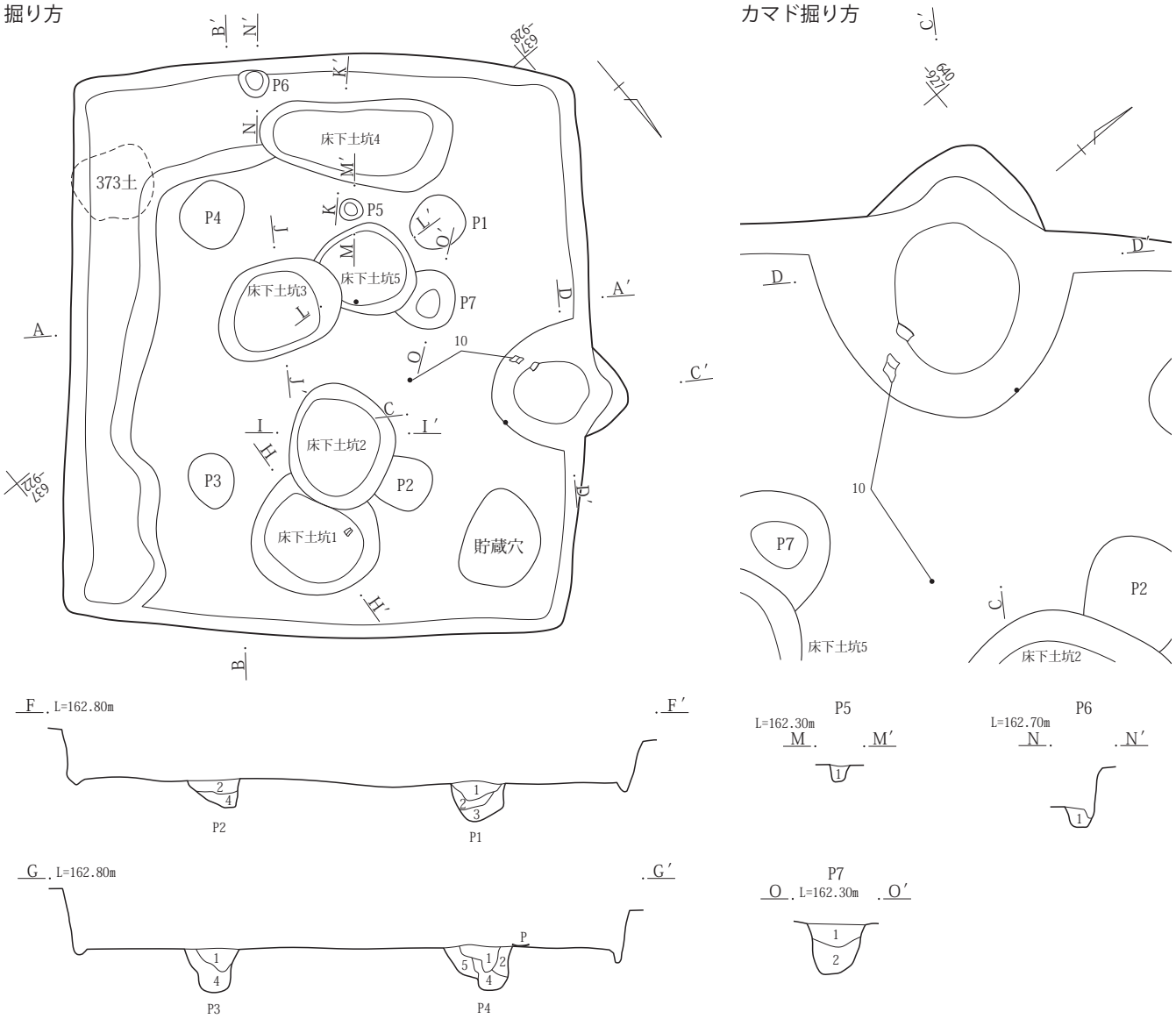
241号竪穴建物



0　1：60　2m

第276図　３面　Ｇ５区227・241号竪穴建物

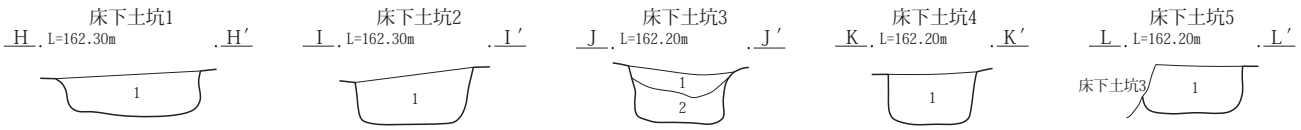
241号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C・灰白色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C・ローム約３～５㎝塊多量、焼土粒少量、小礫・炭化物を含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約10㎝塊多量、As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP・焼土約１㎝塊多量、ローム大塊を含む。しまりややあり、粘性あり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒多量、As-YP・焼土粒少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP・ローム小塊・粒多量含む。しまりややあり、粘性あり。
7　黄褐色土(10YR5/6)　ローム約１㎝塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
8　にぶい褐色土(7.5YR6/3)　粘質土、しまり弱、粘性強。
9　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-YP多量含む。黒褐色土塊を含む。しまり・粘性あり。
貯蔵穴E-E′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-YP・ローム約３～５㎝塊少量、遺物を含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒色土(10YR2/1)　As-YP多量含む。しまりやや弱、粘性あり。



P１～４F-F′・G-G′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-YP少量、ローム約10㎝塊を含む。しまりややあり、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP多量、黒褐色土・ローム約３～５㎝塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土少量、ローム約10㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量、ローム約10㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。
P５M-M′
1　黒色土(10YR2/1)　As-YP少量、しまり弱、粘性あり。
P６N-N′
1　黒色土(10YR2/1)　As-YP・ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
P７O-O′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-YP少量、ローム約５㎝塊を含む。しまり強、粘性弱。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP少量含む。しまり・粘性弱。

0　1：30　1m
0　1：60　2m

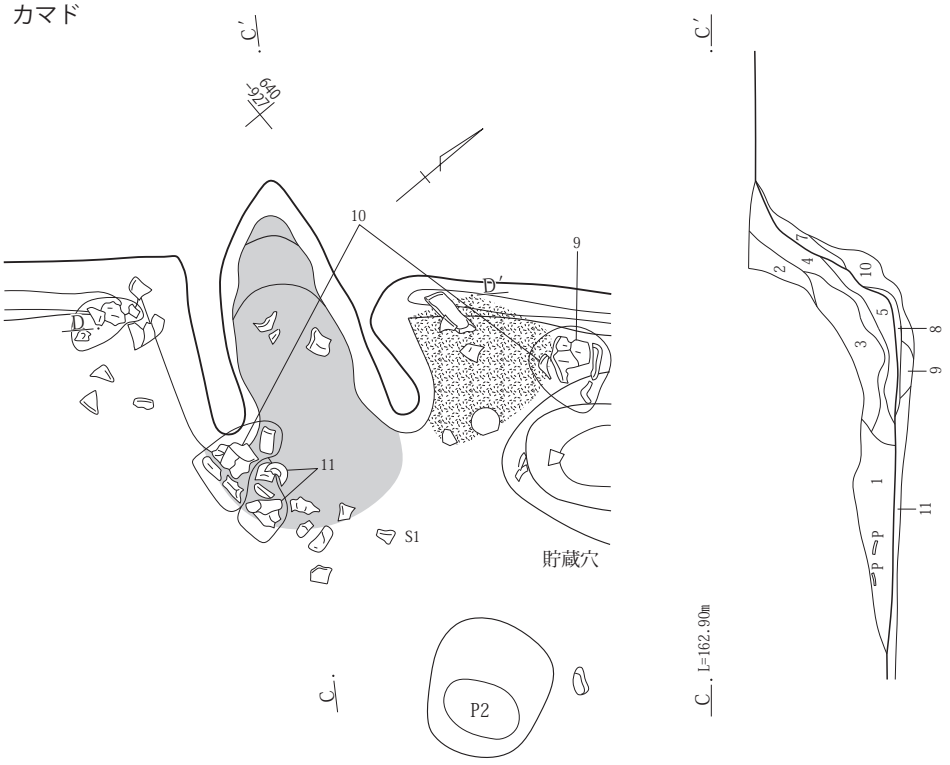
第277図　３面　Ｇ５区241号竪穴建物

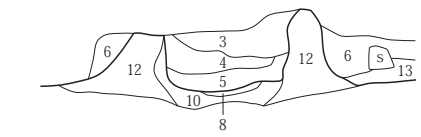


床下土坑１H-H′
1　黒褐色土(7.5YR3/2)　ローム約３～５㎝塊・As-YP・焼土粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
床下土坑２I-I′
1　黒褐色土(7.5YR3/2)　As-YP・ローム約１～５㎝塊多量、黒色土を含む。しまり弱、粘性あり。
床下土坑３J-J′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約３～５㎝塊・As-YP多量含む。しまり弱、粘性強。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-YP主体、黒褐色土多量含む。しまりあり、粘性弱。
床下土坑４K-K′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約３～５㎝塊・As-YP多量で均質、黒褐色土を含む。しまりあり、粘性弱。
床下土坑５L-L′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP均質で多量、ローム約３～５㎝塊少量含む。しまり弱。

0　1：60　2m

カマド



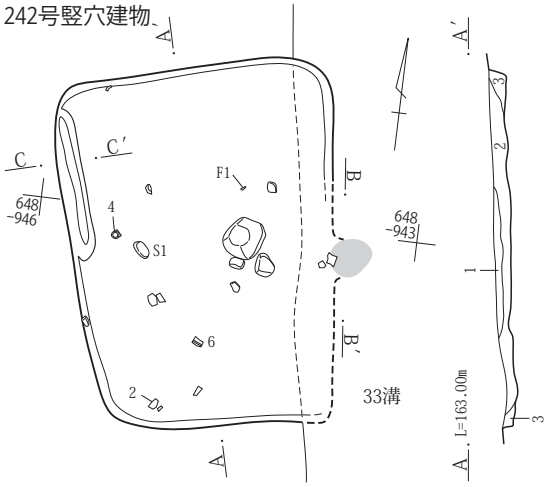


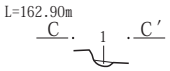
カマドC-C′・D-D′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊・粒多量、焼土小塊少量、炭化物・遺物を含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-C・焼土粒・ローム約１㎝塊少量含む。しまり・粘性あり。
3　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊主体、黒褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　炭・灰・焼土粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
5　褐灰色土(7.5YR4/1)　焼土約１㎝塊・灰多量、炭少量含む。しまり弱、粘性あり。
6　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約１㎝塊多量、焼土約１㎝塊少量、礫を含む。しまり弱、粘性あり。
7　にぶい褐色土(7.5YR5/3)　焼土塊多量、As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。
8　褐灰色土(7.5YR5/2)　灰多量、焼土・炭化物少量含む。しまり弱、粘性あり。
9　灰白色土(10YR7/1)　焼土少量含む。しまり弱、粘性あり。
10　灰褐色土(5YR4/2)　焼土小～大塊多量、炭化物少量、黒色土を含む。しまり弱、粘性あり。
11　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒少量、黒色土・にぶい褐色土を含む。しまり弱、粘性強。
12　明黄褐色土(10YR6/6)　As-YP多量、黒色土を含む。しまり強、粘性弱。袖状残存部。
13　黒色土(10YR2/1)　灰・焼土塊・粒多量、ローム塊・粒を含む。しまり弱、粘性あり。

0　1：30　1m

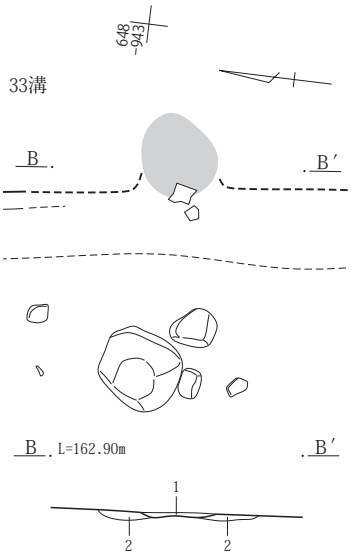
第278図　３面　Ｇ５区241号竪穴建物

242号竪穴建物

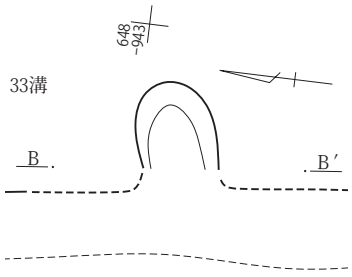




カマド



カマド掘り方

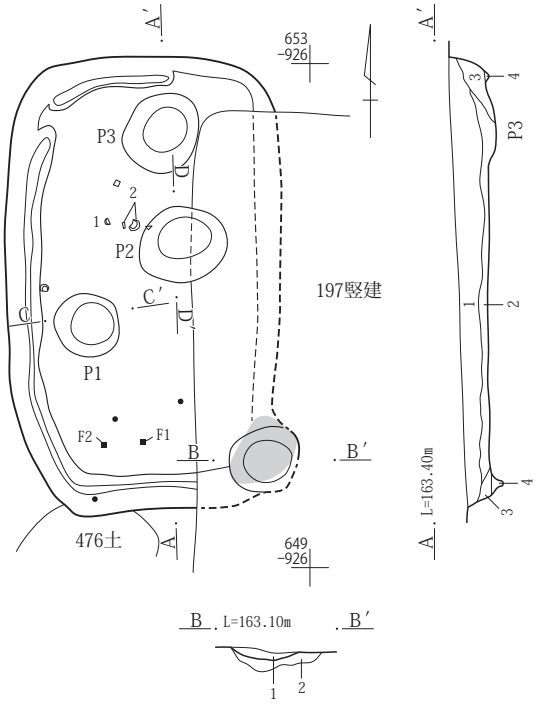


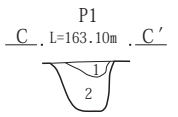
カマドB-B′
1　にぶい赤褐色土(5YR5/4)　焼土塊・黒色土を含む。しまりあり、粘性弱。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　灰白色粒・As-C少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性あり。

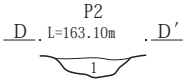
242号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C少量、炭化物と焼土粒微量、遺物を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、ローム約１㎝塊少量含む。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒・As-C少量含む。しまり・粘性あり。
周溝C-C′
1　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄橙色粒少量、暗褐色土を含む。しまりやや弱、粘性あり。

0　1：30　1m

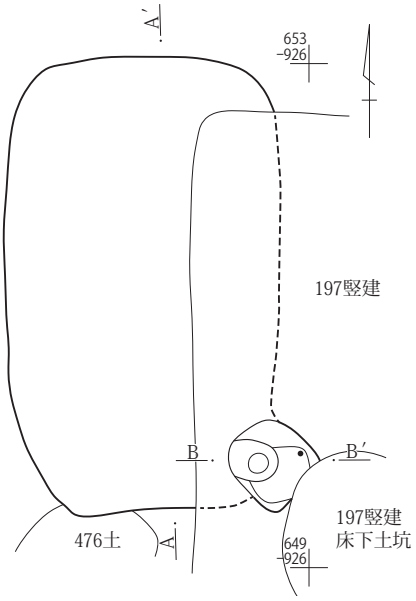
243号竪穴建物







掘り方

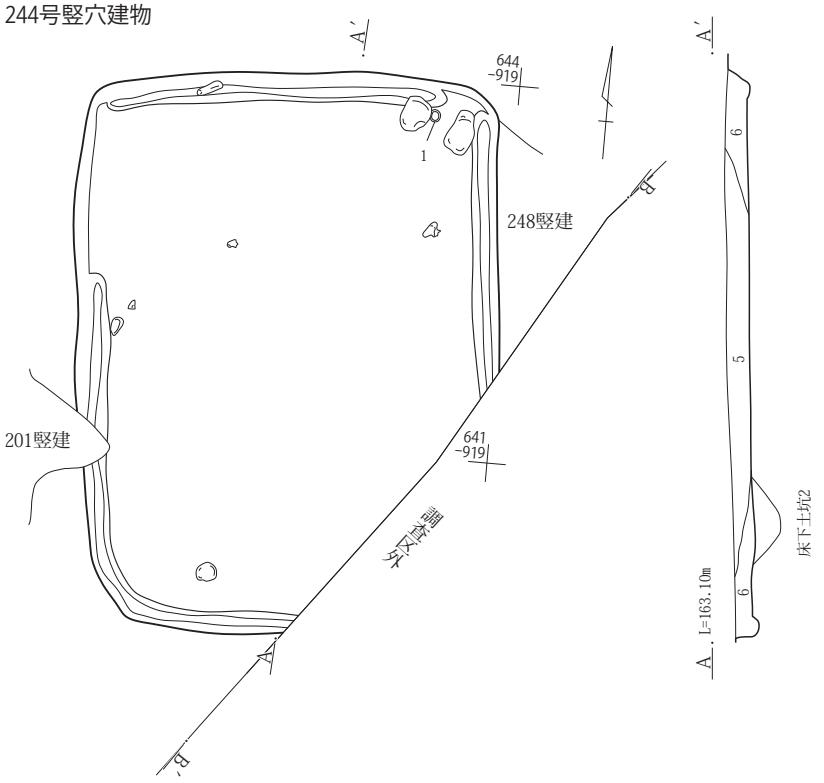


243号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、炭化物・遺物を含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１㎝塊少量、炭化物を含む。しまり・粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　にぶい黄橙色粒多量、ローム小塊・粒を含む。しまり弱、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。周溝埋没土。
B-B′
1　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土約１～３㎝塊多量、灰少量、小礫・黒褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。カマドか。
2　黄灰色土(2.5Y4/1)　ローム約５～10㎝塊多量、黒色土を含む。しまり強、粘性あり。カマド掘り方か。
Ｐ１Ｃ-Ｃ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒少量含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１～３㎝塊・As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。
Ｐ２Ｄ-Ｄ′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１～３㎝塊・As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。

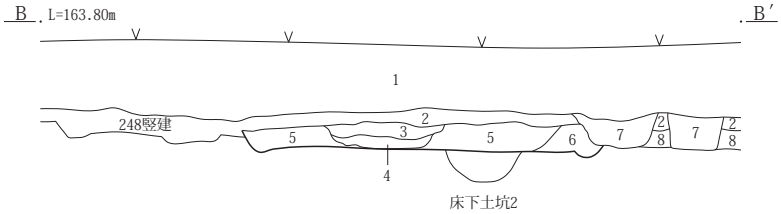
0　1：60　2m

第279図　３面　Ｇ５区242・243号竪穴建物

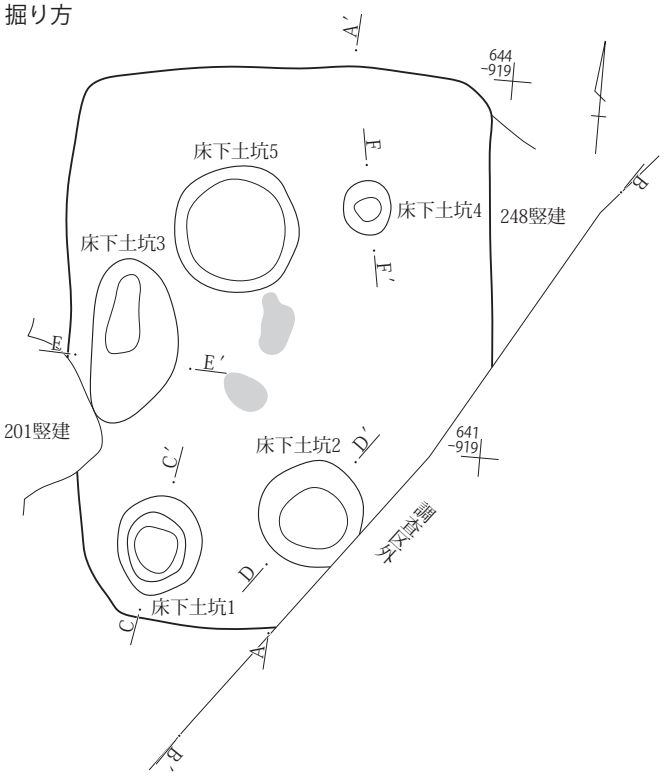
244号竪穴建物

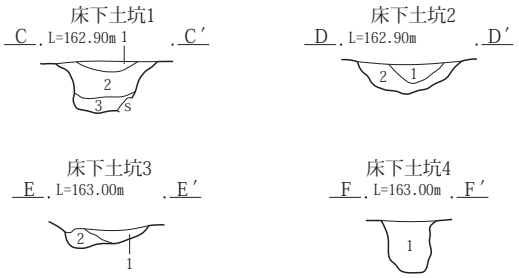


244号竪穴建物A-A′・B-B′
1　現表土、耕作土
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・にぶい黄橙色粒少量、As-C微量含む。しまり強、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　ローム約１㎝塊・焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
4　黒褐色土(10YR2/2)　焼土約１㎝塊少量含む。しまり・粘性あり。カマドか。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約１㎝塊・にぶい黄橙色粒少量含む。しまり・粘性あり。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量、ローム約１㎝塊少量含む。しまり・粘性あり。
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約１㎝塊・粒少量含む。しまり弱、粘性あり。ピット或いは土坑か。
8　明黄褐色土(10YR6/6)　ソフトローム(地山)

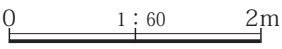


掘り方



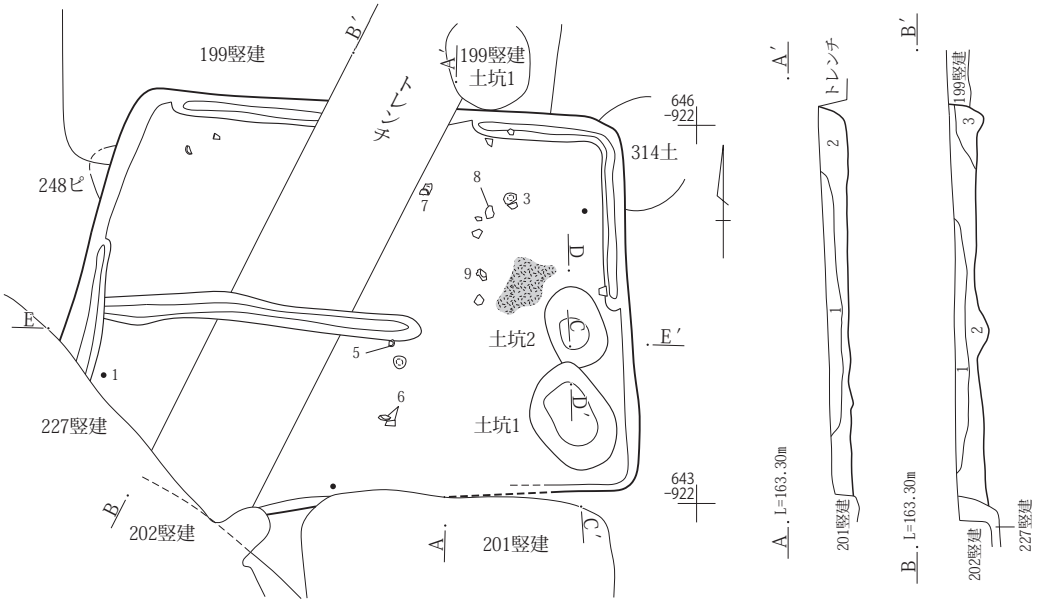


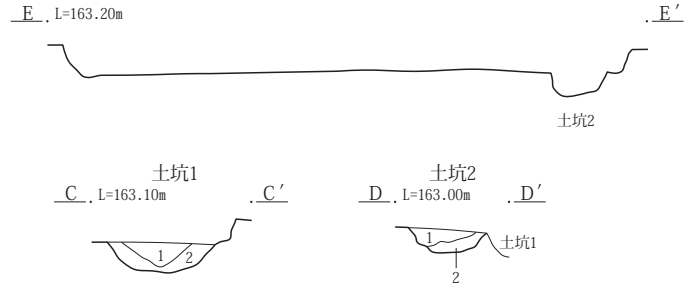
床下土坑１C-C′
1　黒褐色土(10YR3/1)　灰白色粒・焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約１㎝塊・明褐色粒少量含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-YP多量含む。しまり弱、粘性あり。
床下土坑２D-D′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量、ローム約１～３㎝塊少量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約10㎝以上塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
床下土坑３E-E′
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム塊主体、焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒少量、ローム約５㎝塊を含む。しまり・粘性あり。
床下土坑４F-F′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP多量含む。しまり強、粘性弱。



第280図　３面　Ｇ５区244号竪穴建物

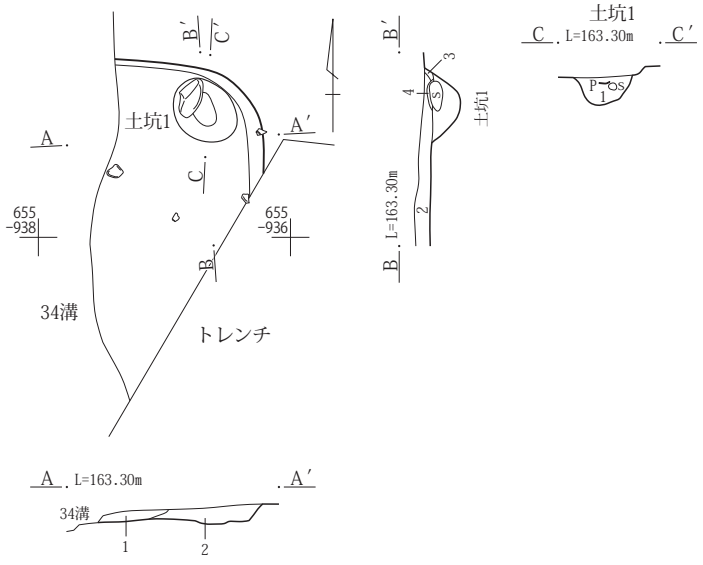
245号竪穴建物





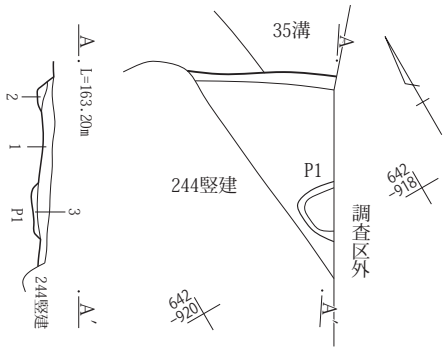
245号竪穴建物A－A′・B－B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊約１㎝・にぶい黄橙色粒少量、炭化物を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒多量、ローム約５㎜～１㎝塊・粒少量含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約３～５㎝塊を含む。礫を含む。しまりややあり、粘性あり。
土坑１
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約１㎝塊少量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
土坑２
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒多量、As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム約３㎝塊・As－C多量含む。しまり強、粘性弱。

247号竪穴建物



247号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄橙色粒少量含む。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・黄橙色粒・焼土粒少量含む。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR3/4)　As-C少量、黄橙色粒若干、暗褐色土10％程含む。
4　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量含む。
土坑１C－C′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量、黄橙色粒・焼土粒若干含む。しまりややあり。

248号竪穴建物

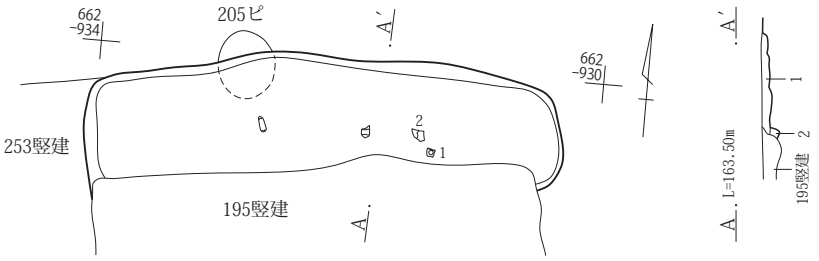


248号竪穴建物A-A′
1　現表土、耕作土
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・にぶい黄橙色粒少量、As-C微量含む。しまり強、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　ローム約１㎝塊・焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。

0　1：60　2m

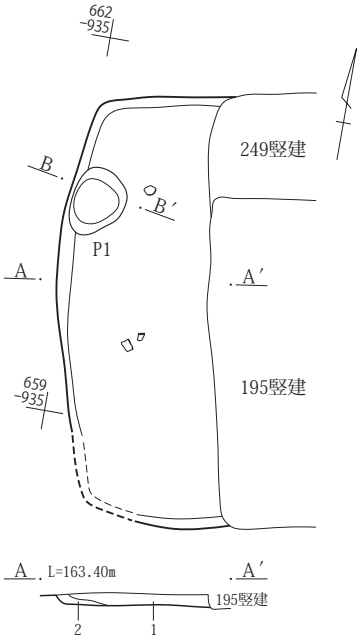
第281図　３面　Ｇ５区245・247・248号竪穴建物

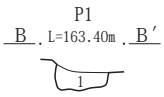
249号竪穴建物



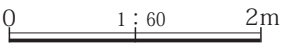
249号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム少し混入。径１～３㎜程の黄褐色粒子(ローム粒)やや多く、径２～４㎜程の浅黄色軽石少し多い。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　ローム混入多い　ロームは径１～３㎝の塊状のものを含む。とても硬くしまっている。

253号竪穴建物



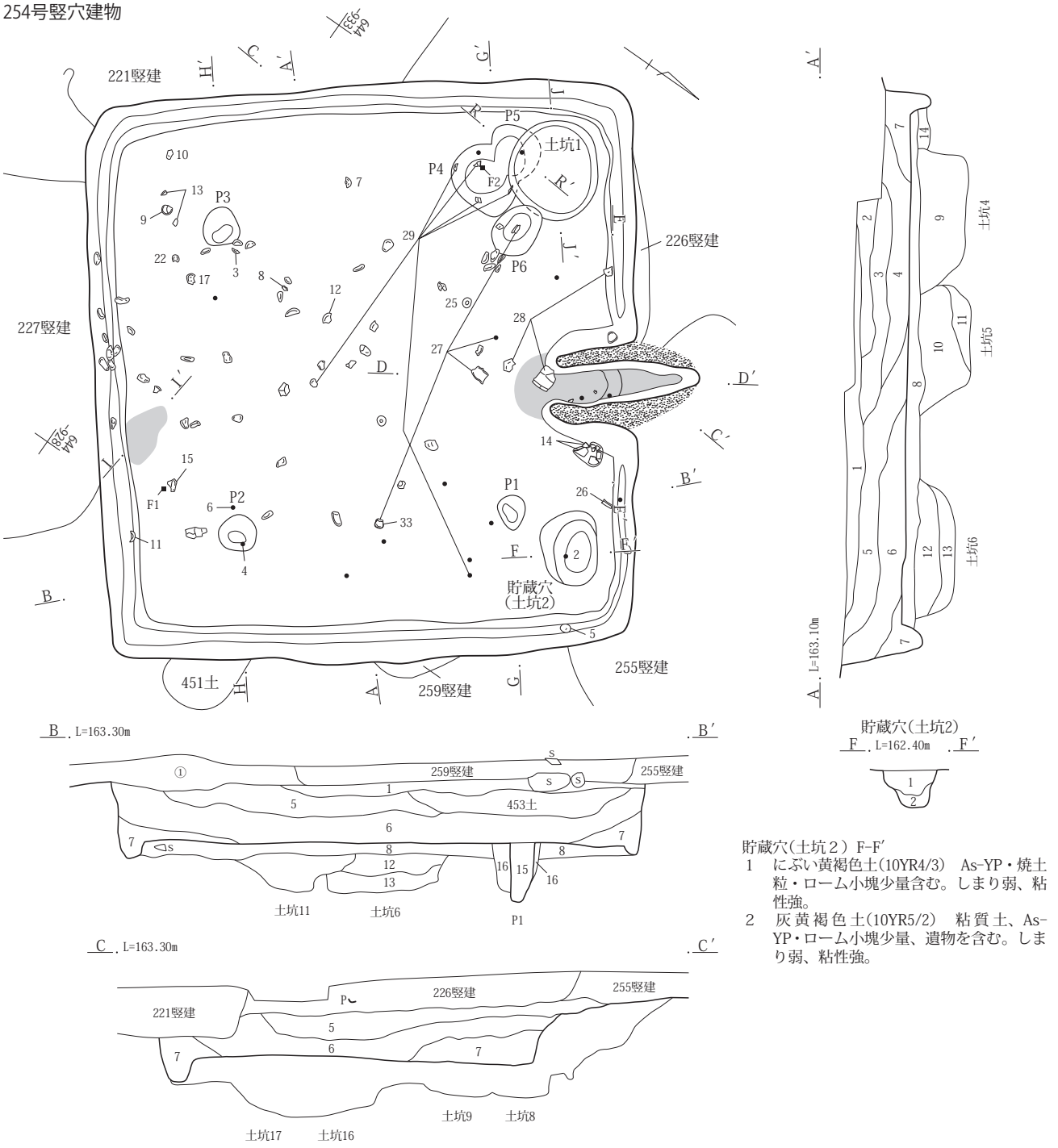


253号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ多量、にぶい黄褐色土・黒色土を含む。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒多量、黄褐色土塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
Ｐ１Ｂ-Ｂ′
1　にぶい褐色土(75YR6/4)　焼土塊主体、炭化物を含む。しまり弱、粘性あり。



第282図　３面　Ｇ５区249・253号竪穴建物

254号竪穴建物



254号竪穴建物A-A′・B-B′・C-C′

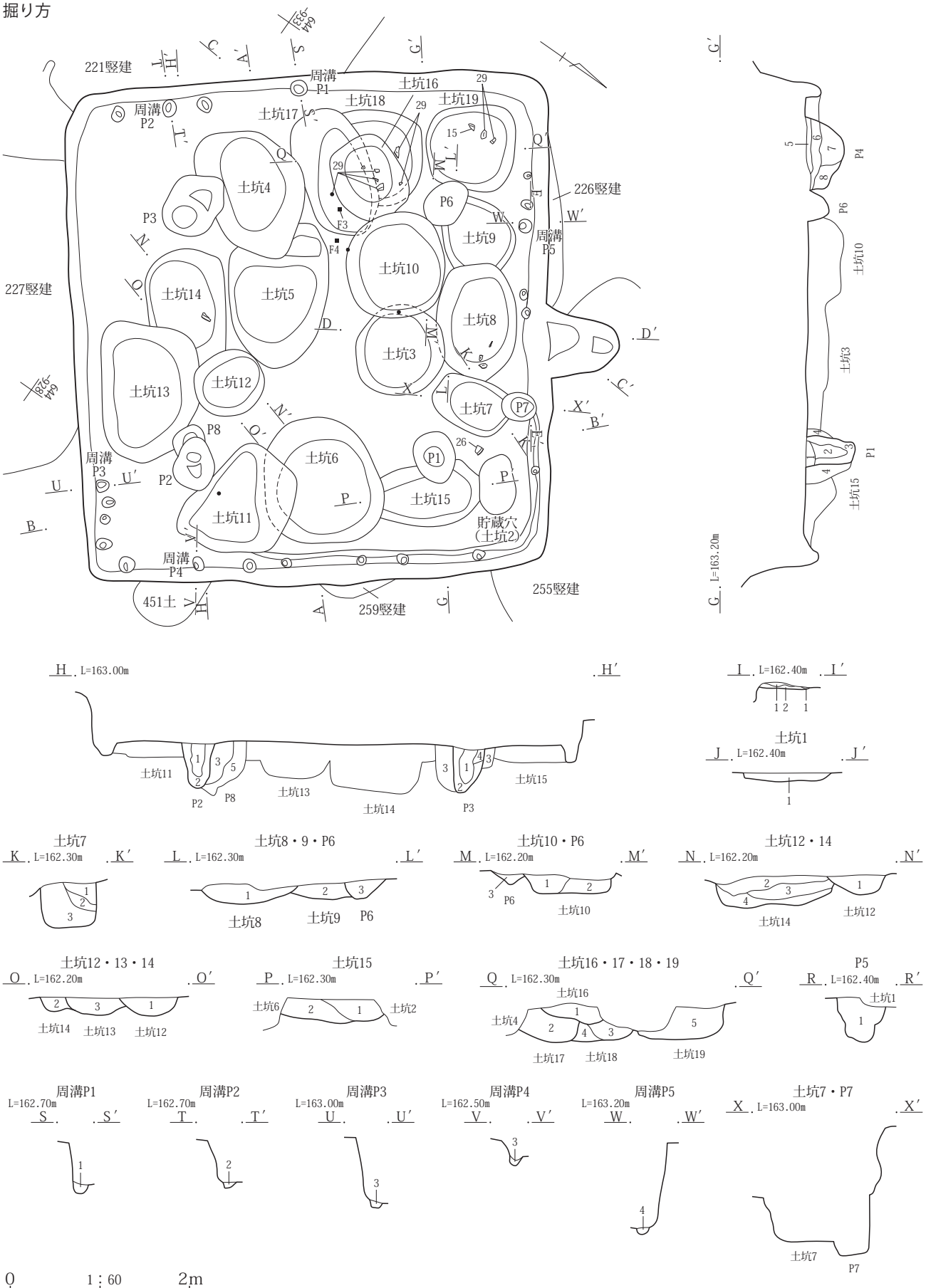
① 黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量含む。しまり・粘性あり。
1 黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、炭化物と焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土(10YR3/1)　As-C・As-YP少量・灰白色粒少量、焼土粒微量、ローム小塊縞状に含む。しまり・粘性あり。
3 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒多量、As-YP少量、遺物を含む。しまりややあり、粘性あり。
4 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒・As-YP多量含む。しまり弱、粘性あり。
5 にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約５㎝塊・As-YP・炭化物多量含む。しまりやや弱、粘性あり。
6 黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土小塊・粒多量、炭化物微量含む。しまりやや弱、粘性あり。
7 黒褐色土(10YR3/2)　As-YP多量、炭化物少量含む。しまり弱、粘性あり。
8 にぶい黄褐色土(10YR5/4)　As-YP・ローム約10～30㎝塊多量、黒褐色土小塊を含む。しまり・粘性あり。掘り方。
9 にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-YP多量で均質、ローム約５～10㎝塊・黒色土を含む。しまり・粘性あり。
10 にぶい黄褐色土(10YR5/3)　黒色土小塊・ローム約１㎝塊多量含む。As-YP均質、しまり・粘性あり。
11 黒褐色土(10YR2/2)　ローム約10㎝以上塊多量、As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
12 灰黄褐色土(10YR4/2)　As-YP多量、ローム約５㎝塊少量、黒色土小塊を含む。しまり弱、粘性あり。
13 灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約３～５㎝塊多量、黒色土塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
14 黒褐色土(10YR2/2)　As-YP・ローム小塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
15 黒褐色土(10YR2/2)　As-YP少量、ローム大塊を含む。しまり弱、粘性あり。
16 にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約１～３㎝塊多量、As-YP・焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。

貯蔵穴(土坑２) F-F′
1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP・焼土粒・ローム小塊少量含む。しまり弱、粘性強。
2 灰黄褐色土(10YR5/2)　粘質土、As-YP・ローム小塊少量、遺物を含む。しまり弱、粘性強。

第283図　３面　Ｇ５区254号竪穴建物

0　1：60　2m

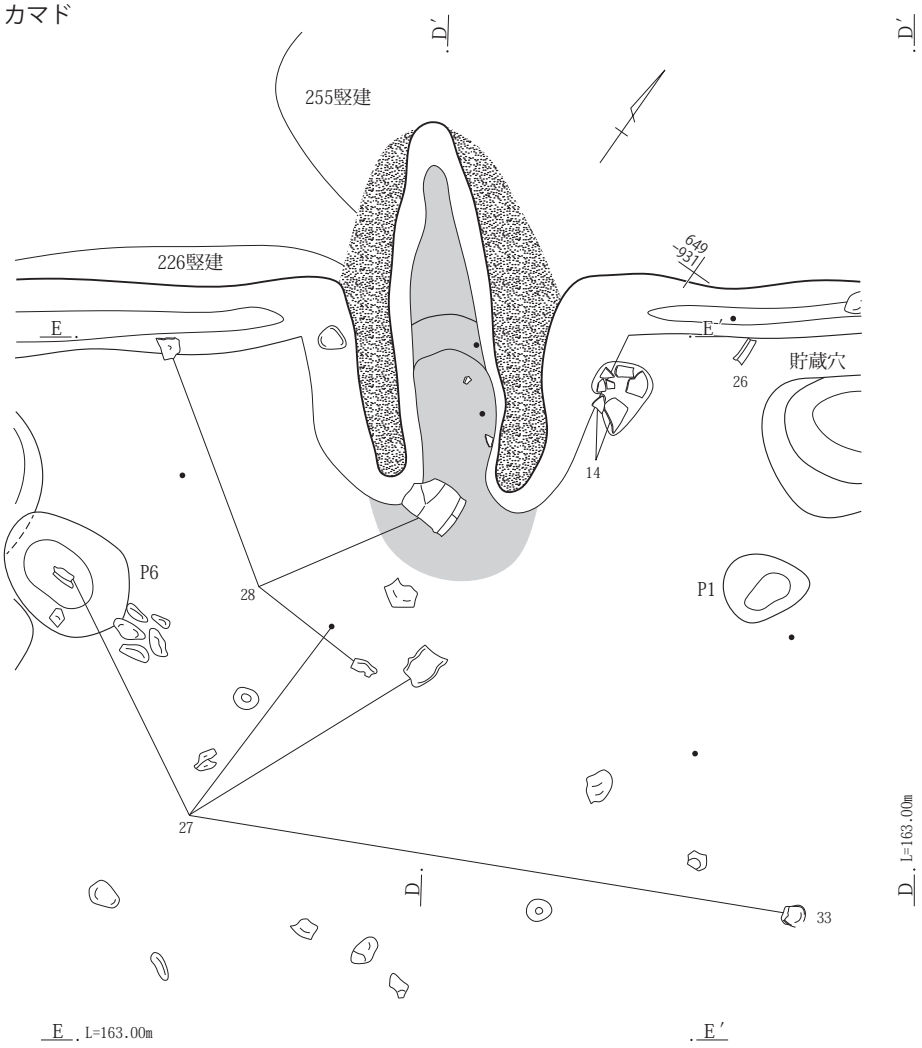
掘り方

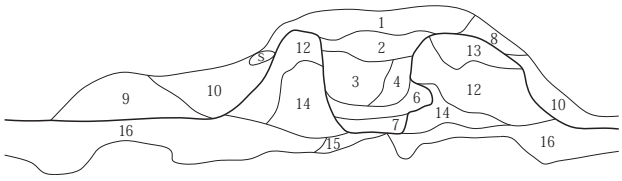


第284図　３面　Ｇ５区254号竪穴建物

Ｐ１・Ｐ４G-G′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム小塊・As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP少量、ローム大塊を含む。しまり弱、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約１～３㎝塊多量、As-YP・焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
5　黒色土(10YR2/1)　焼土粒・炭化物少量含む。しまり・粘性あり。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP少量、黒色土小塊を含む。色味は暗い、しまり・粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-YP多量、焼土小塊少量含む。しまり・粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　７層に類似、焼土約１㎝塊・As-YP少量、黒褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。
Ｐ２・Ｐ３・Ｐ８H-H′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-YP・炭化物少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP少量、ローム大塊を含む。しまり弱、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-YP多量含む。しまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR2/2)　ローム小塊・As-YP少量含む。しまり弱・粘性あり。
I-I′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP・焼土粒・ローム小塊少量含む。しまり弱、粘性強。
2　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘質土、As-YP・ローム小塊少量、遺物を含む。しまり弱、粘性強。
土坑１J-J′
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　ローム小塊・粒・As-YP・炭化物少量、褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。
土坑７K-K′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　炭化物・灰多量含む。しまり弱、粘性あり。
2　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土多量含む。しまり弱、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム大塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
土坑８・９・Ｐ６L-L′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量、As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP多量含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約５㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
土坑10・Ｐ６M-M′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP多量、ローム粒少量含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約10㎝以上塊多量含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約５㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
土坑12・14N-N′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP多量、黒褐色土・焼土塊を含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP多量、明褐色粒を含む。しまり・粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-YP多量で均質、しまりややあり、粘性あり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム大塊主体、As-YP多量含む。しまり弱、粘性あり。
土坑12～14O-O′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP多量、黒褐色土・焼土塊を含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム大塊多量、As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP多量、明褐色粒を含む。しまり・粘性あり。
土坑15P-P′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP多量、ローム約10㎝塊少量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP多量、ローム約１㎝塊少量、炭化物を含む。しまり・粘性あり。
土坑16～19Q-Q′
1　褐色土(10YR4/3)　As-YP・黒褐色土少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-YP多量で均質、ローム約１～３㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒褐色土(7.5YR3/1)　ローム約５～10㎝塊・As-YP多量、焼土小塊・粒を含む。しまり弱、粘性あり。
4　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-YP少量含む。３層よりしまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(7.5YR3/1)　ローム約１㎝塊上層に多量、As-YP多量で均質、焼土約10㎝塊少量含む。しまり・粘性あり。
Ｐ５R-R′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊・粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
周溝Ｐ１～Ｐ５S-S′～W-W′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP多量含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP少量、ローム小塊を含む。しまり・粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP少量、炭化物・黒褐色土を含む。しまり・粘性あり。

カマド



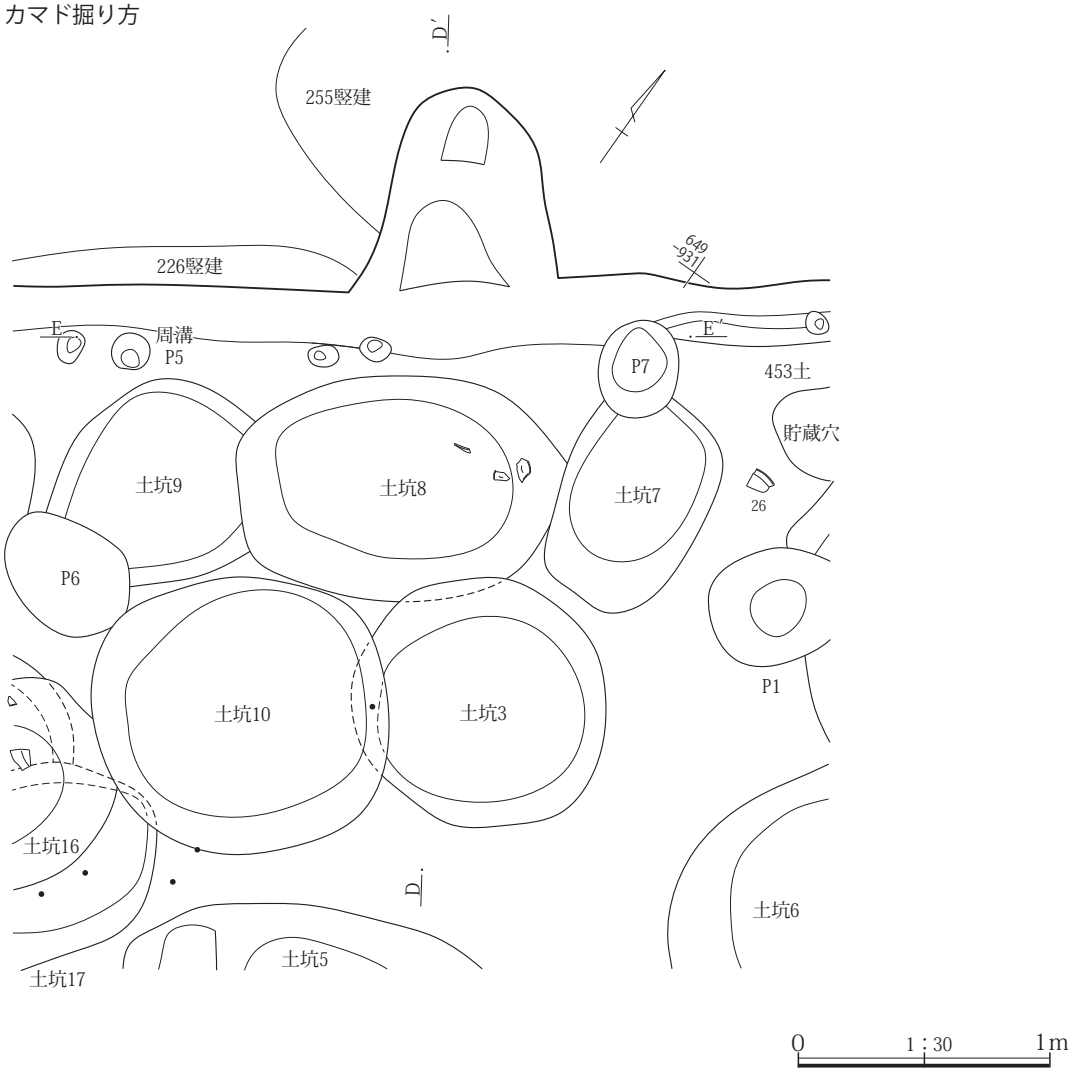


カマドD-D′・E-E′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約３～５㎝塊多量、As-YP・焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊主体、黒褐色土・As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒多量、灰を含む。しまり弱、粘性あり。
4　黄褐色土(2.5YR5/3)　ローム塊・粒多量、にぶい黄橙色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/1)　明赤褐色焼土塊・As-YPを含む。しまり強、粘性弱。
6　にぶい褐色土(7.5YR6/3)　焼土小塊・粒多量、As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。
7　にぶい黄褐色土(2.5Y6/3)　焼土塊・As-YP少量、黒褐色土を含む。しまり・粘性あり。
8　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒多量、ローム約５㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
9　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量、As-YP・炭化物・焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
10　黒褐色土(10YR3/1)　１層に類似、炭化物と焼土小塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
11　灰赤褐色土(2.5YR4/2)　焼土主体、As-YPを含む。しまり・粘性あり。
12　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　As-YPを含む。しまり強、粘性弱。カマド構築粘土。
13　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP・ローム小塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
14　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　12層と同、カマド構築粘土、粘土の焼土化、しまりあり、粘性弱。
15　明黄褐色土(10YR7/6)　しまり強、粘性弱。
16　にぶい黄褐色土(10YR4/2)　黒色土と暗褐色土の混土、As-YP多量含む。しまり弱、粘性あり。
17　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊・焼土小塊・粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
18　黒色土(10YR2/1)　As-YP少量、ローム約５㎝塊・灰褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。
19　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約５～10㎝塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
20　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-YP多量、ローム約１～３㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
21　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム塊・As-YP少量含む。しまり強、粘性あり。
22　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１㎝塊・As-YP多量含む。しまり強、粘性あり。

0　1：30　1m

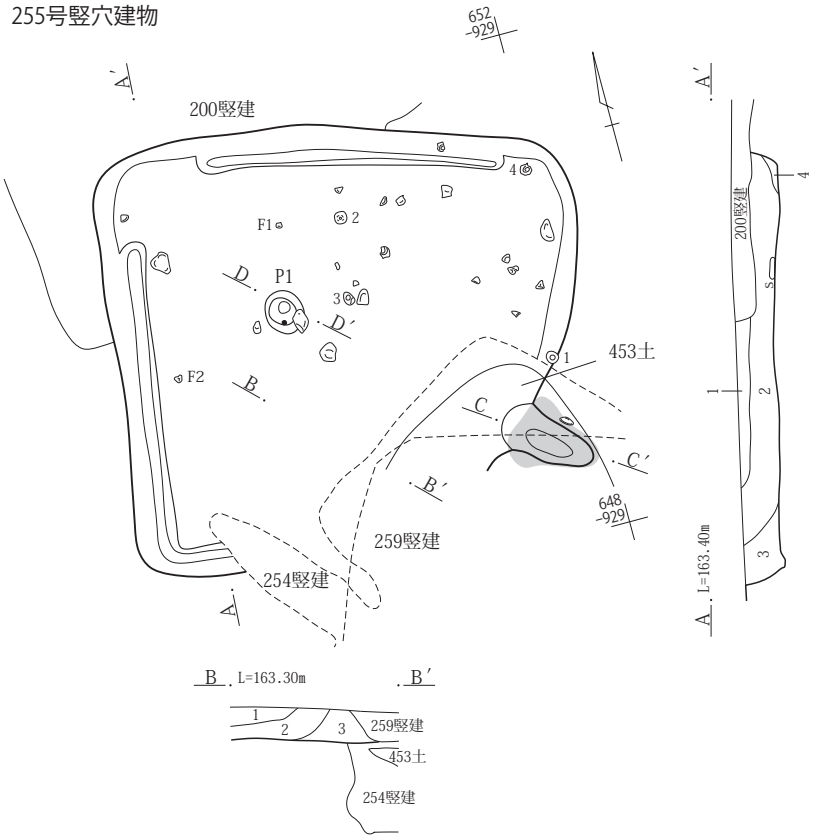
第285図　３面　Ｇ５区254号竪穴建物

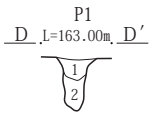
カマド掘り方



第286図　３面　Ｇ５区254号竪穴建物

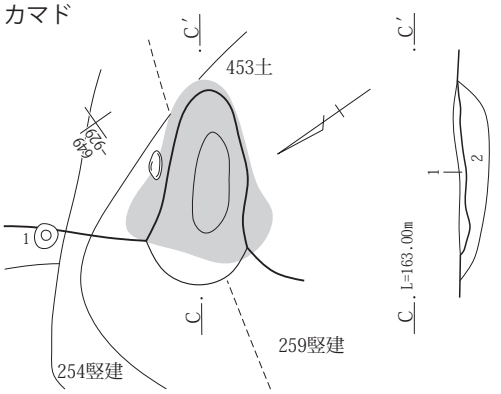
255号竪穴建物



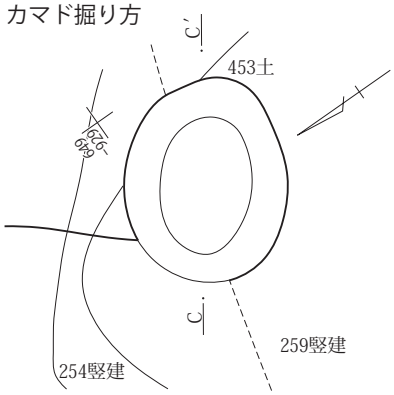


255号竪穴建物A－A′・B－B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄橙色粒・明褐色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C少量含む。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム約１㎝塊・As-C少量含む。しまり強、粘性あり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒多量、As-C少量含む。しまり弱、粘性あり。
P１D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒少量、As-YPを含む。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム約３～５㎝塊・As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。

カマド



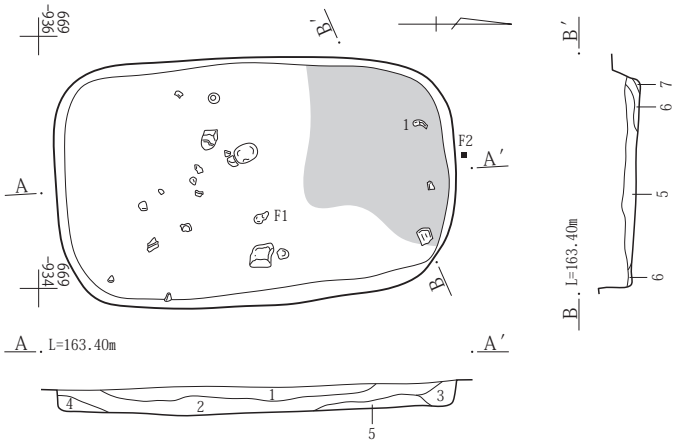
カマド掘り方



カマドC－C′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土小塊・粒少量、ローム小塊・粒を含む。しまり弱、粘性あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　As-YP多量、ローム約１㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。

0　1：30　1m

256号竪穴建物

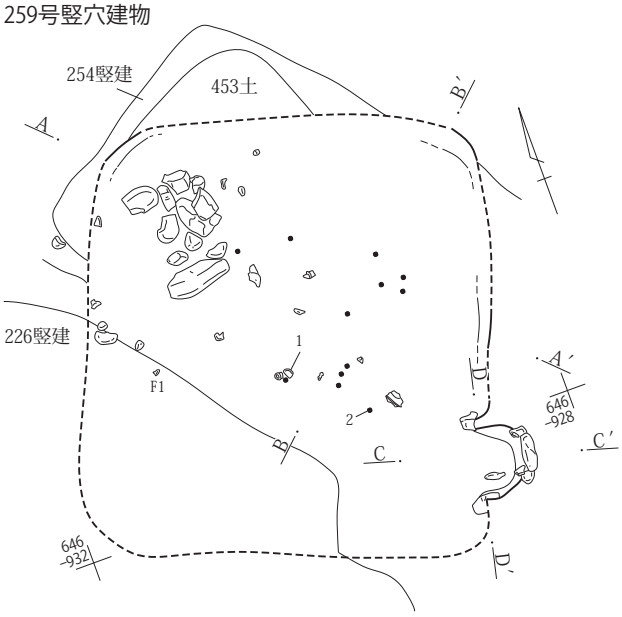


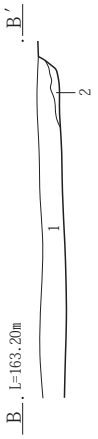
256号竪穴建物A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・ローム小～大塊多量、焼土粒少量、炭化物を含む。しまり強、粘性弱。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-C・ローム約１㎝塊少量、遺物を含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　橙色焼土粒多量､As-C少量含む。しまり弱、粘性あり。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム小塊少量含む。しまりやや弱、粘性あり。
5　橙色土(5YR6/6)　焼土主体、褐灰色土を含む。しまり･粘性あり。
6　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土粒・As-YP少量含む。しまり弱、粘性あり。
7　黒褐色土(7.5YR2/2)　As-C少量含む。２層よりしまり弱、粘性あり。

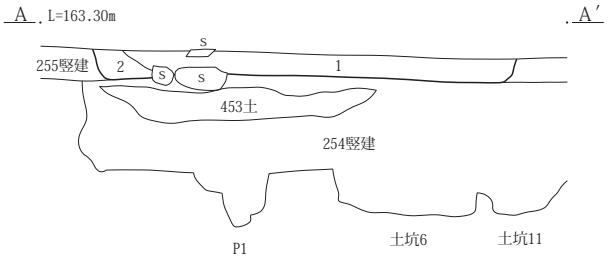
0　1：60　2m

第287図　３面　Ｇ５区255・256号竪穴建物

259号竪穴建物



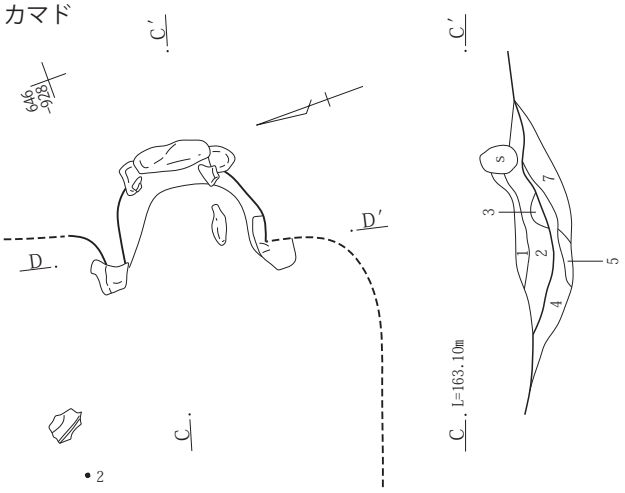




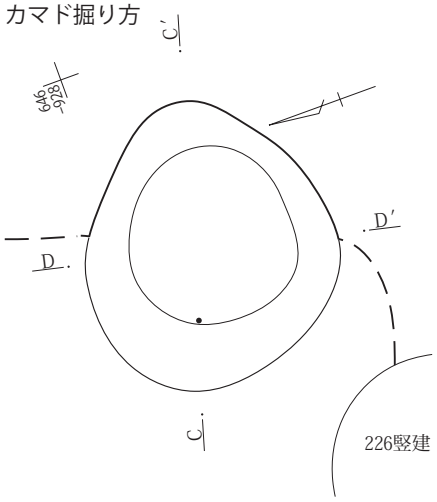
259号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、明褐色粒・焼土粒少量、遺物を含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-C・ローム約1㎝塊・粒少量含む。しまり・粘性あり。

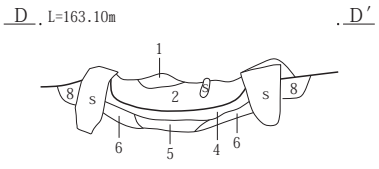
0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方





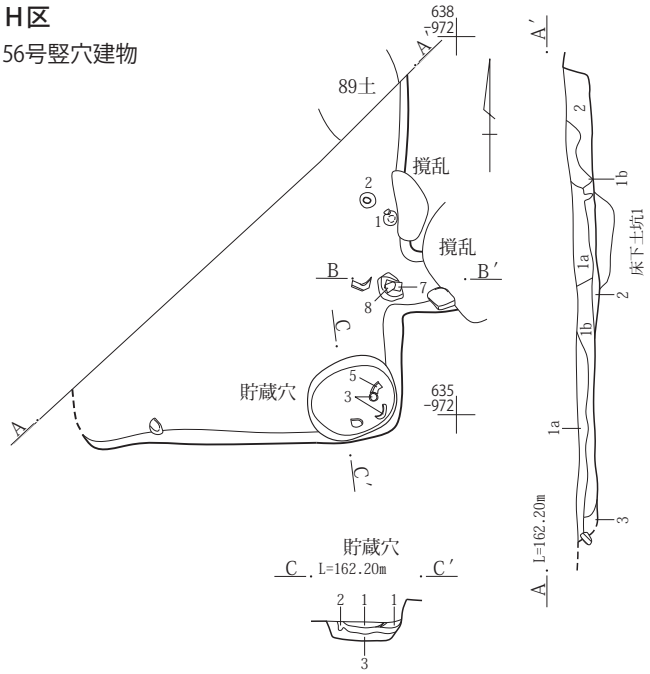
カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(2.5Y3/1)　ローム小塊・粒多量、炭化物微量含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(2.5Y3/1)　As-YP・焼土小塊少量、灰を含む。しまりややあり、粘性あり。
3　明黄褐色土(10YR6/6)　焼土粒を含む。しまりあり、粘性弱。
4　黒褐色土(7.5YR3/1)　にぶい黄橙色粒少量、焼土粒微量含む。しまり弱、粘性あり。
5　褐灰色土(7.5YR4/1)　焼土塊・ローム小～大塊を含む。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土(10YR3/1)　焼土粒少量、礫を含む。しまり弱、粘性あり。
7　黒褐色土(10YR3/2)　焼土大塊・As-C少量含む。しまり弱、粘性あり。
8　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム塊を含む。しまり強、粘性あり。

0　1：30　1m

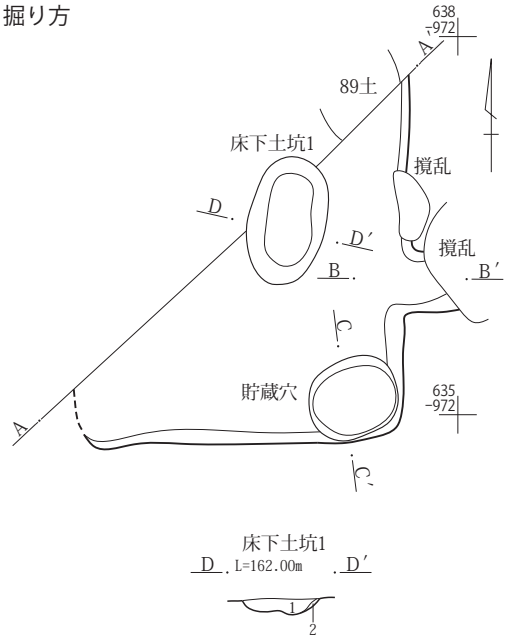
第288図　３面　Ｇ５区259号竪穴建物

H区

56号竪穴建物



掘り方

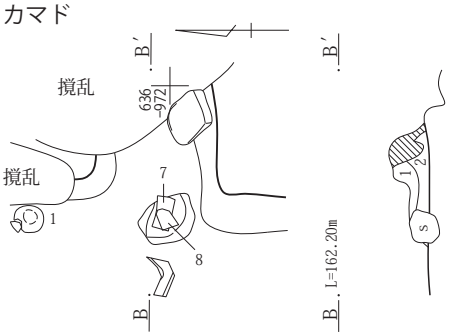


56号竪穴建物Ａ－Ａ′
1a　暗褐色土(10YR3/3)　As－Ｃ混土の耕作によりやや撹拌されしまり弱い。
1b　くすんだローム小塊とAs－Ｃ混土の混土。
２　黒褐色土(10YR3/2)　わずかにAs－Ｃ含む。しまりあり。
３　くすんだローム土にAs－Ｃ混土とローム小塊含む。壁崩落土。
貯蔵穴Ｃ－Ｃ′
１　黒褐色土(10YR3/2)　ローム塊・焼土粒わずかに含む。しまり弱い。
２　くすんだローム土に焼土塊、黄白色の塊混土。
３　暗褐色土(10YR3/3)　くすんだローム土に黒褐色土で塊混じる。焼土粒・黄白小塊含む。

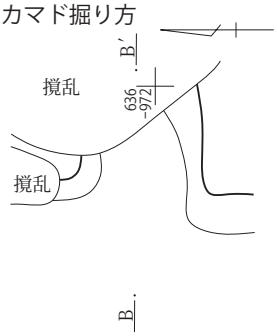
床下土坑１D-D′
１　黄褐色土と硬質ローム塊の混土。
２　明黄褐色ローム塊を貼り込む。

0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方

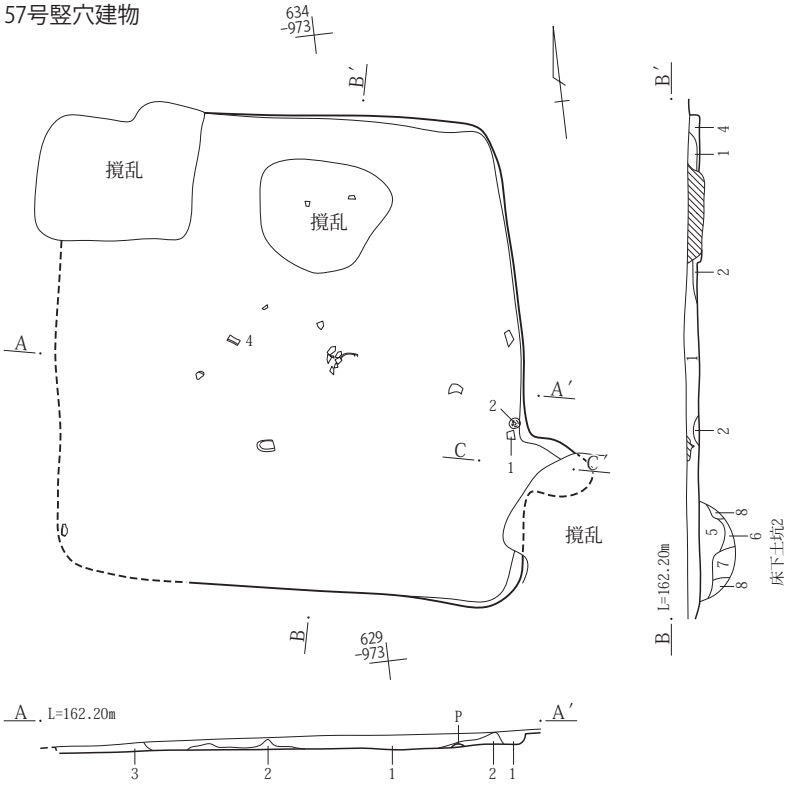


カマドＢ－Ｂ′
１　暗褐色土(10YR3/3)　くすんだAs－Ｃ混。焼土粒わずかに含む。しまり弱い。
２　黒褐色土(10YR3/1)　焼土化したローム塊含む。焼土粒・炭粒わずかに含む。

0　1：30　1m

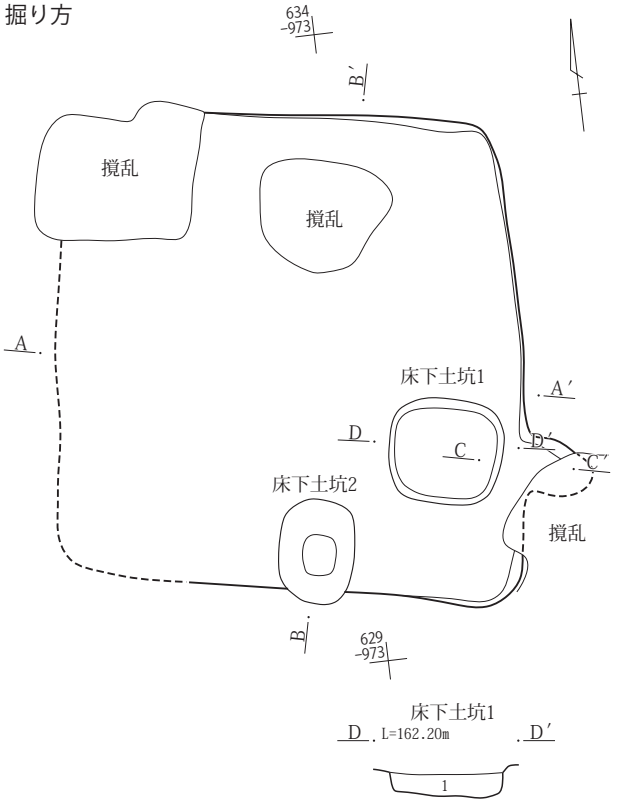
第289図　３面　H区56号竪穴建物

57号竪穴建物



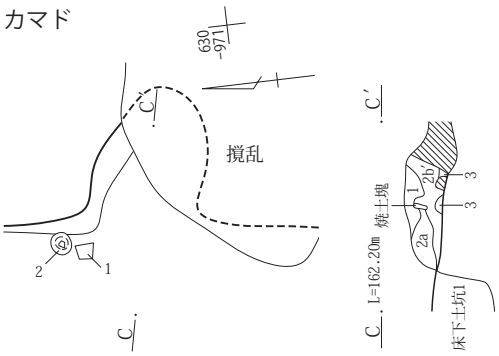
57号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　くすんだローム塊を含む。淡いAs-Ｃ混土。しまり弱い。
2　黄褐色土(10YR5/8)　ローム漸移層土にくすんだAs-Ｃ混土含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)　黒色塊・ローム塊・As-Ｃ混土小塊含む。
4　黄褐色土(10YR5/6)　くすんだAs-Ｃ混土。
5　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ混土にくすんだローム塊含む。
6　黒褐色土(10YR3/2)　わずかにＡs-C混土、くすんだローム塊含む。しまりあり。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　くすんだローム塊、As-Ｃ混土をわずかに含む。
8　黄褐色漸移層。

掘り方



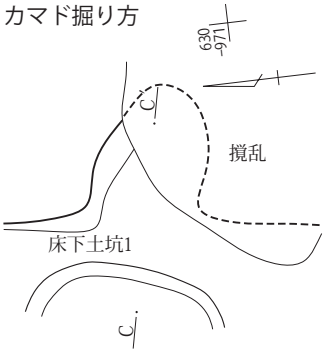
床下土坑１D-D′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ混土にくすんだローム塊混土。

カマド



カマドＣ－Ｃ′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　くすんだAs-Ｃ混土、ローム小塊混じる。
2a　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-Ｃ混土にローム小塊焼土粒混じる。
2b　2aより焼土塊大きい。くすんだローム土混じる。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム漸移層。

カマド掘り方

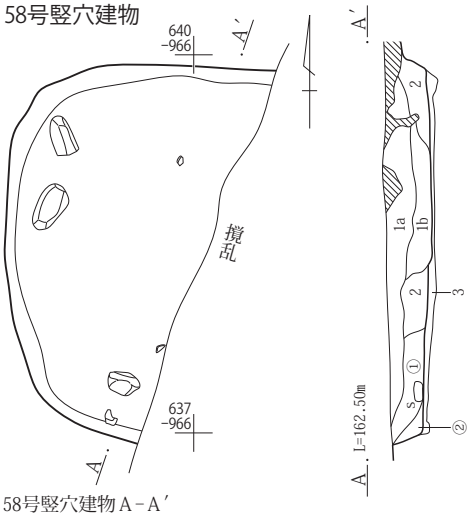


0　1：60　2m

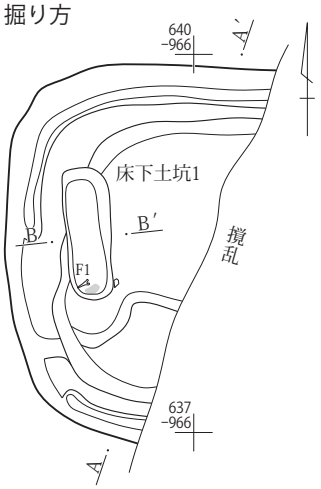
0　1：30　1m

第290図　３面　Ｈ区57号竪穴建物

58号竪穴建物



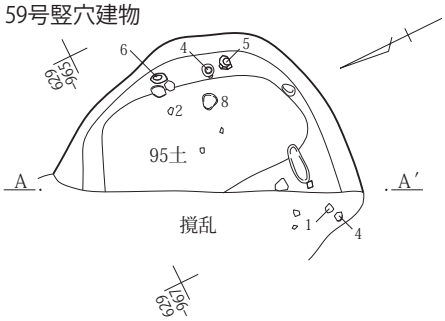
掘り方

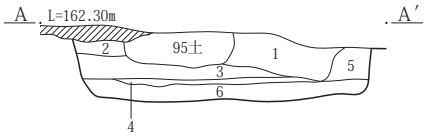


床下土坑１Ｂ－Ｂ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒わずかに含む。しまり弱い。
2　黒褐色土とローム土の混土しまりあり。
3　２層よりローム少ない。しまり弱い。

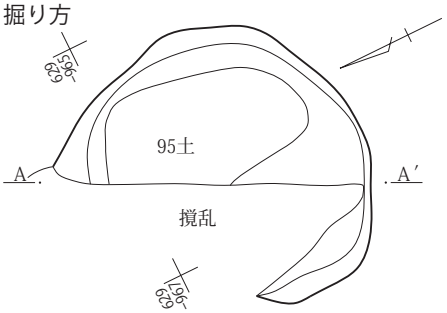
58号竪穴建物Ａ－Ａ′
1a　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土、ローム小塊わずかに含む。しまり弱い。
1b　1a層よりしまり強い。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土、ローム小塊混じる。
3　黒色土(10YR2/1)　炭化物わずかに含む。しまり強い。
①　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ混土にローム中小塊混じり。
②　暗褐色土①層よりローム塊多く含む。壁崩落土。

59号竪穴建物



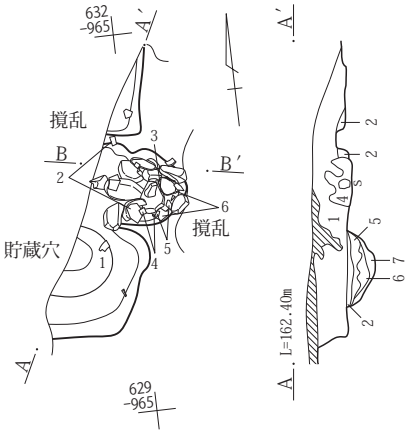


掘り方

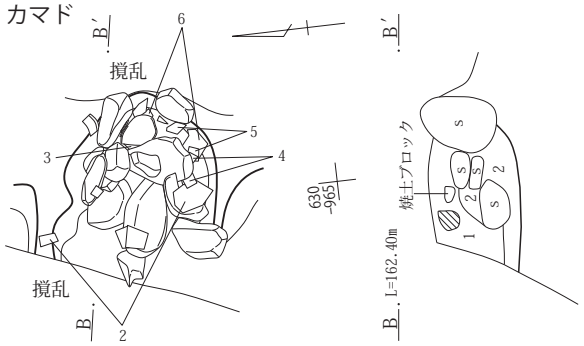


59号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　くすんだ焼土化したローム土とAs-Ｃ混土の混土層、焼土塊含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土にくすんだローム塊含む。
3　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ混土にくすんだローム塊混じる。
4a　暗褐色土 くすんだローム土とローム小塊、As-Ｃ混土混じる。しまり弱い。
4b　暗褐色土 4a層よりしまり強い。
5　灰褐色土(7.5YR5/2)　灰色に変色したローム塊。
6　暗褐色土(10YR3/4)　くすんだローム土とAs-Ｃ混土にローム塊含む。しまりあり。

60号竪穴建物



カマド



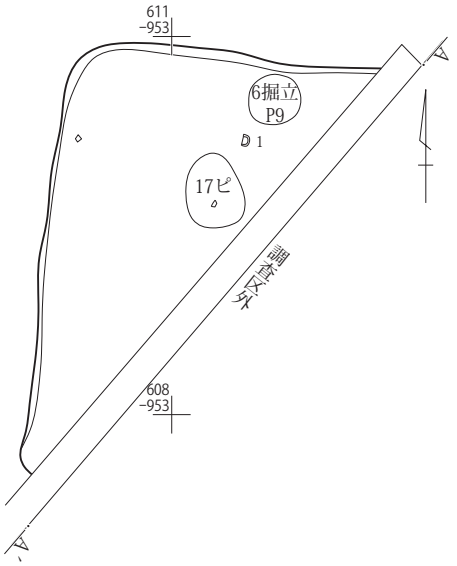
60号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　暗褐色土(10YR3/4)　As-Ｃ混土にくすんだローム塊含む。焼土粒わずかに含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・炭粒わずかに含む。しまり強い。(貼床か)。
3　ローム塊主体で、焼土粒わずかに含む。褐色土まじり。(カマド構築土の崩落)
4　くすんだローム土にローム塊含む。礫が動きしまり弱い。
5　明黄褐色土(10YR6/6)　漸移層土主体で、ローム小塊、暗褐色土混土。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊　わずかに含む。
7　明黄褐色ローム土を貼り込んだと考えられる。しまり・粘性あり。

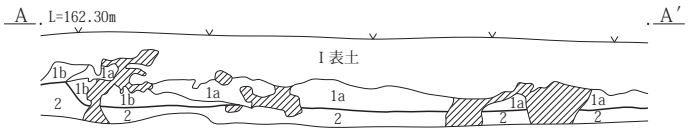
カマドＢ－Ｂ′
1　褐色土(10YR)　くすんだAs-Ｃ混土に焼土小塊含む。
2　天井崩落　焼土塊。

0　1：30　1m
0　1：60　2m

第291図　３面　H区58～60号竪穴建物

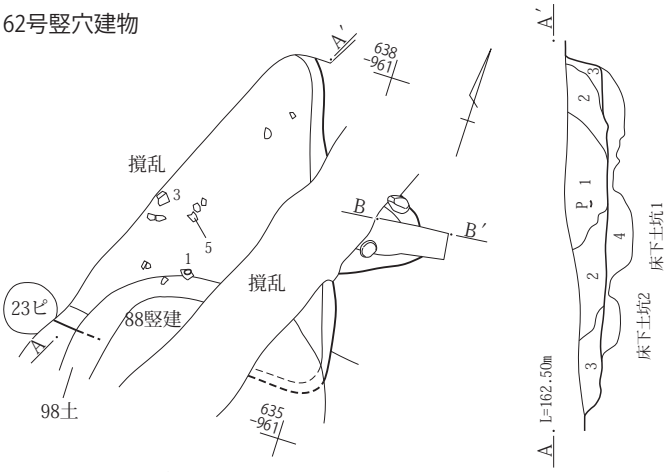
61号竪穴建物



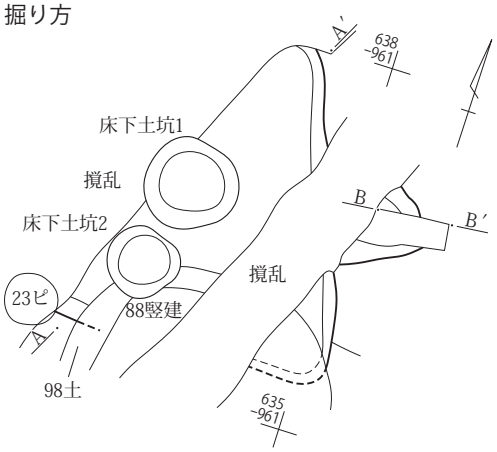


61号竪穴建物Ａ－Ａ′
1a　黒褐色土(10YR3/2) As-Ｃ混土。根による撹乱多く見られる。土器片含む。
1b　1a層よりAs-Ｃ少ない。
2　暗褐色土とくすんだローム土の混土。

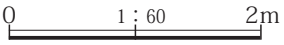
62号竪穴建物



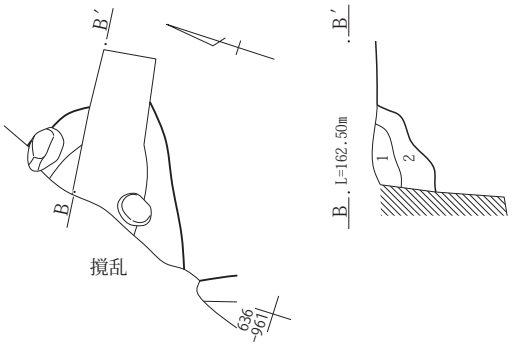
掘り方



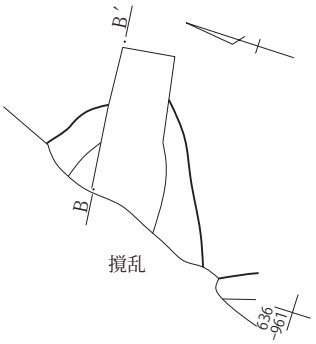
62号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR2/2)　暗褐色土(10YR3/4)・炭化物をわずか、５～10㎜程の礫・As-Ｃ粒を多く含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　３～５㎜程の礫・As-Ｃ粒を多く、ローム塊をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/2)　３～５㎜程の礫を多く、As-Ｃ粒・ローム塊・ローム粒をわずか含む。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・塊を多く、焼土・灰を塊状でまばらに含む。



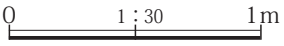
カマド



カマド掘り方

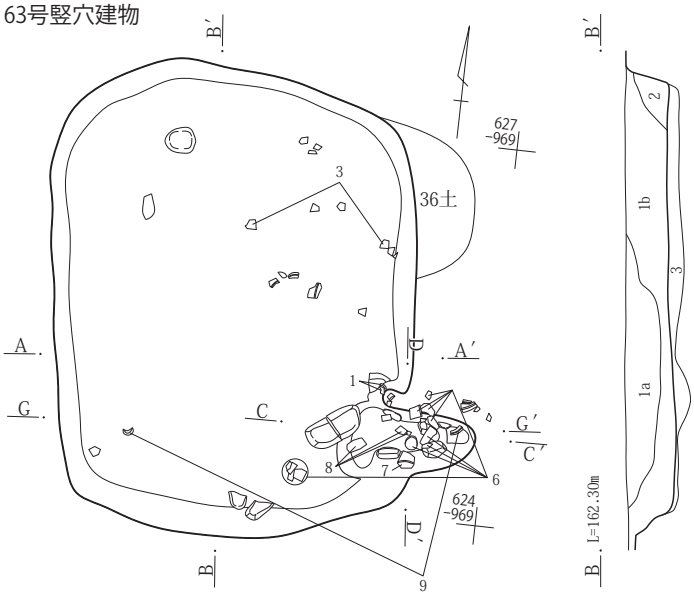


カマド(煙道)B-B′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒・As-Ｃ粒を含む。焼土粒をわずか含む。
2　暗褐色土(10YR2/3)　灰を一部に含む。焼土粒・ローム粒をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか、焼土・灰の混合物を塊状でまばらに含む。

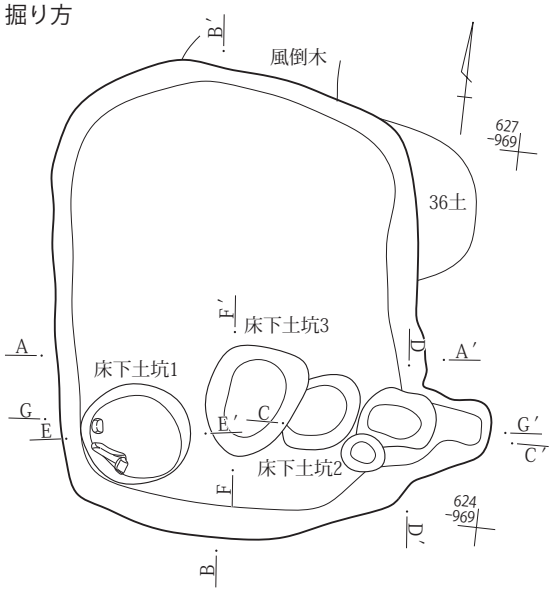


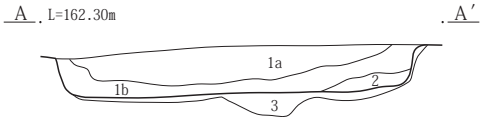
第292図　３面　H区61・62号竪穴建物

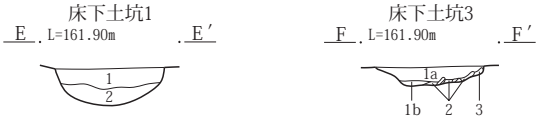
63号竪穴建物

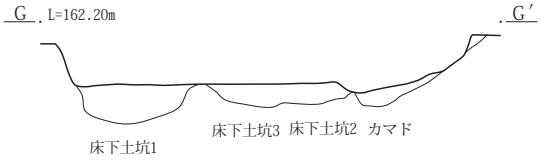


掘り方





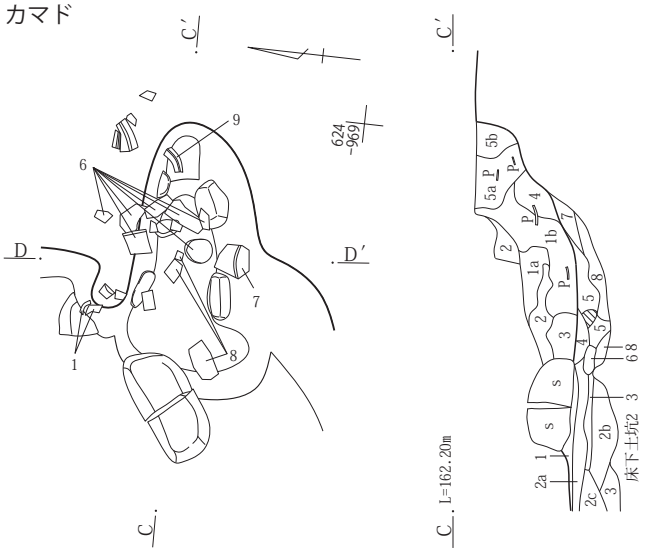


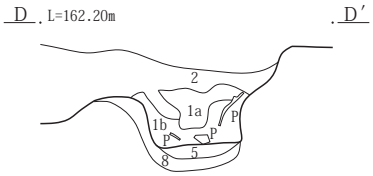


63号竪穴建物Ａ-Ａ′・Ｂ-Ｂ′
1a　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土、くすんだローム小中塊まだらに含む。
1b　1a層よりローム塊多く、焼土・炭粒わずかに含む。
2　ローム塊を多量に含む。やや粘性あり。カマド構築土の崩落。
3　暗褐色土と黒色土とロームの混土。上層はやや硬くしまる。(貼床)
床下土坑１E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　５㎜程のロームを含み､やや硬化。
2　１層よりややローム塊大粒で、しまり弱い。
床下土坑３F-F′
1a　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊多く、焼土小塊わずかに含む。硬くしまる。
1b　1a層よりローム塊細粒。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　くすんだローム土とローム中塊混土。
3　粘性のあるロームを貼り込む。

0　1：60　2m

カマド



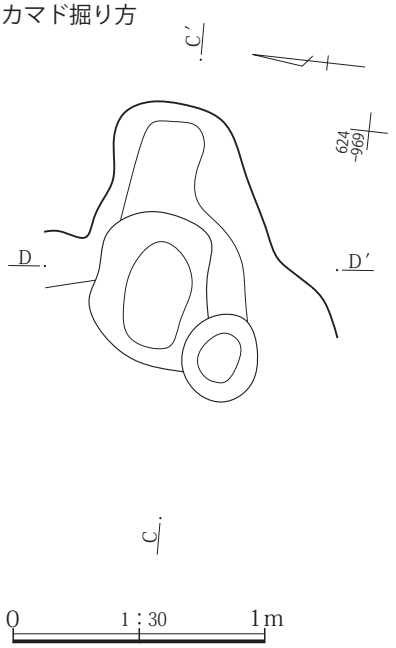


カマドＣ-Ｃ′・Ｄ-Ｄ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　５㎜程のロームをはさみ硬化、貼床。
1a　くずしたローム土にローム塊混じり。
1b　1a層よりローム塊、焼土粒多く含む。
2　にぶい黄褐色土にローム塊 焼土粒含む。
2a　くすんだ黄褐色土にローム小塊、焼土小塊、炭粒の痕土 硬くしまる。
2b　2a層より ややローム塊大粒、2a層よりしまり弱い。
2c　2a層よりしまり弱く、ローム、焼土粒少ない。
3　明黄色ローム塊。粘性あり。
4　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　焼土塊、土器片混じりくすんだローム土。
5　明赤褐色の焼土、焼土塊混土、未焼土化ローム塊含む。
5a　褐色土(10YR4/4)　くすんだローム土に、焼土粒わずかに含む。土器片含む。
5b　5a層よりローム小塊少なく、わずかに焼土粒含む。
6　４層に焼土小塊、ローム小塊混じり。
7　４層に似るが暗色、しまり弱い。
8　くすんだローム土に硬質ローム塊含む。

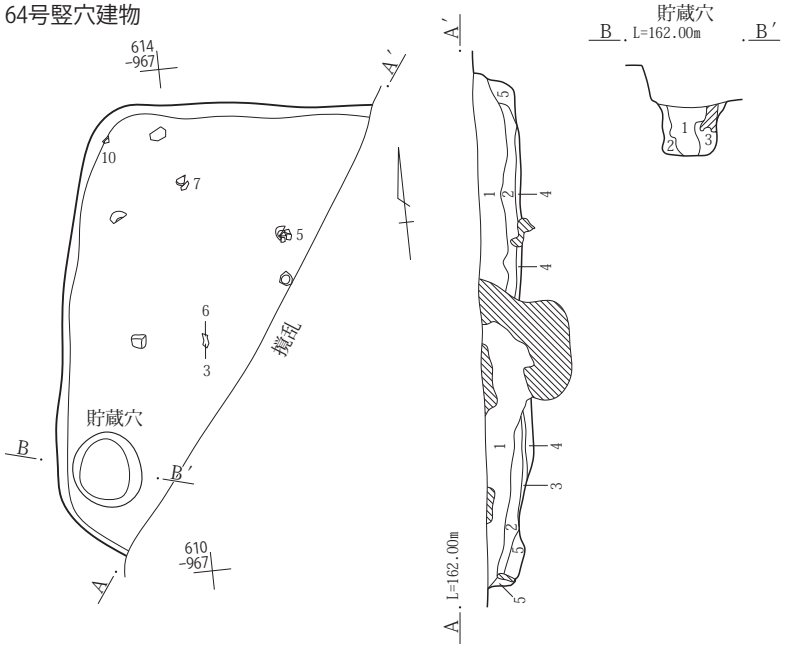
0　1：30　1m

第293図　３面　Ｈ区63号竪穴建物

カマド掘り方



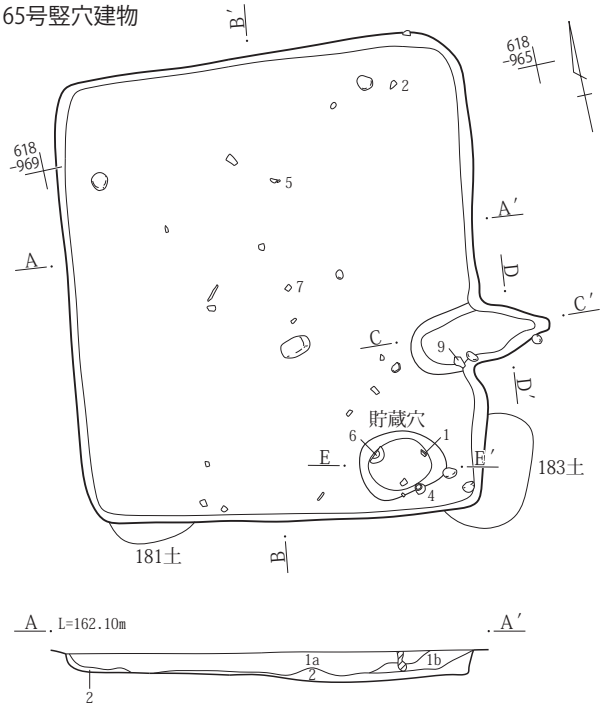
64号竪穴建物



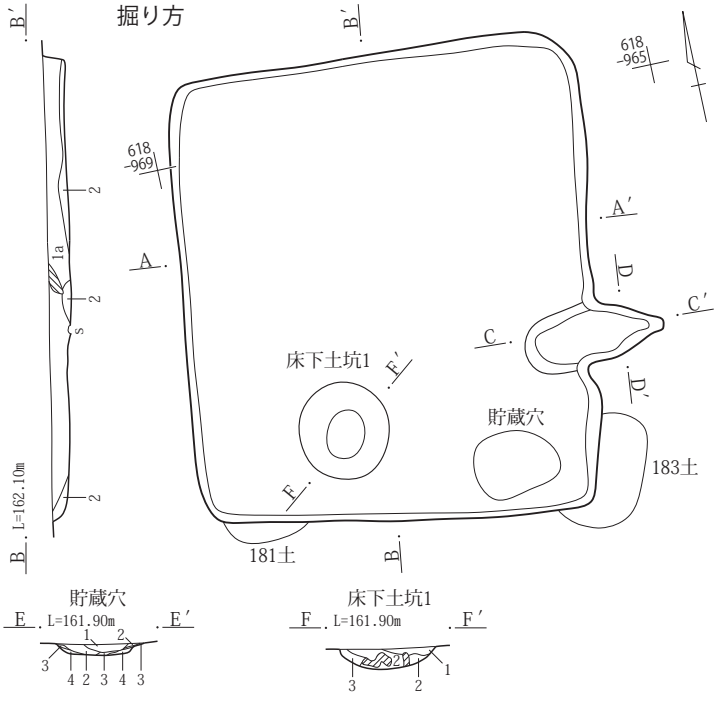
64号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/2)　As－Ｃ混土に、くすんだローム塊混じる。
2　黒色土(10YR2/1)　くすんだローム塊含む。軽石・焼土粒わずかに含む。
3　ローム主体で黒色土互層に入る。貼床、硬くしまる。
4　くすんだロームと黒色土の混土。ややしまりあり。
5　４層に似る。しまりやや弱い。壁の崩落土か。

貯蔵穴Ｂ－Ｂ′
1　褐色の塊土に暗褐色土混じる。しまり非常に弱い。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム塊含む。しまり弱い。
3　黒褐色土と暗褐色土の混土。しまり弱い。

65号竪穴建物



掘り方



65号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1a　暗褐色土(10YR3/3)　As－Ｃ混土に褐色土・黒褐色土に見られる。
1b　1a層より軽石粒少ない。
2　褐色土(10YR)　As－Ｃ混土をわずかに含む。

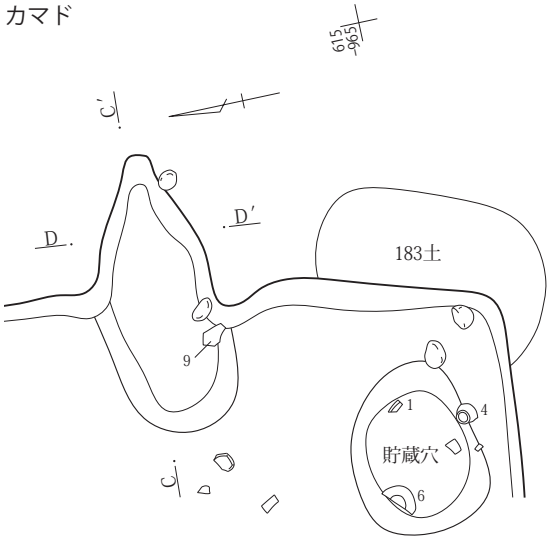
貯蔵穴E－E′
1　灰黄褐色土に焼土粒、ローム粒混じる。
2　灰黄褐色土とローム塊混土。
3　黄色ローム　粘性あり。底面に貼り込む。
4　１層に似るが、焼土含まない。しまりあり。

床下土坑１Ｆ－Ｆ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　硬くしまったAs－Ｃ混土にローム小塊混じる。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　くすんだローム土にローム小塊含む。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　くすんだロームと褐色土の混土。

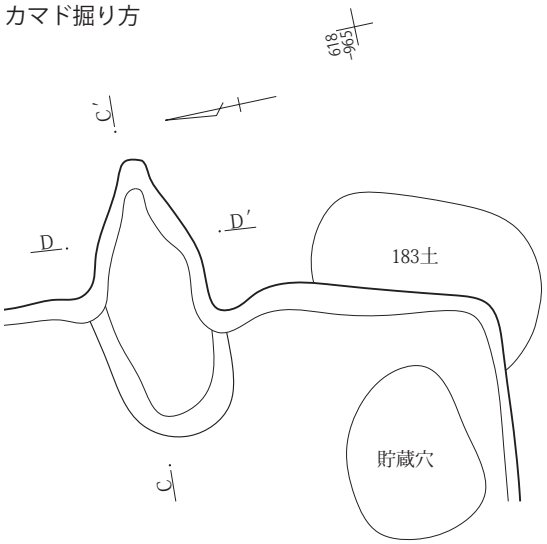
0　1：60　2m

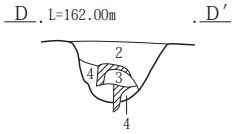
第294図　３面　Ｈ区63～65号竪穴建物

カマド



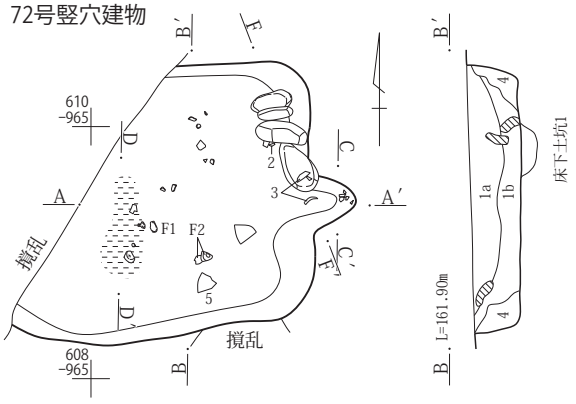
カマド掘り方



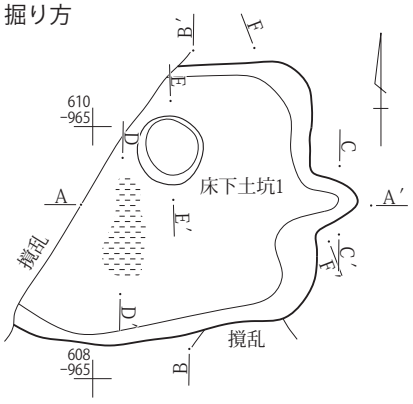


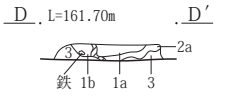
カマドC-C′・D-D′
1　にぶい黄褐色土に、ローム塊に含む。
2　明黄色ローム土のくすんだ層。
3　焼土小塊　ローム小塊混土。
4　焼土、灰を含む。しまり弱い。灰層。
5　黄褐色土に硬質ローム塊含む。しまり弱い。

72号竪穴建物

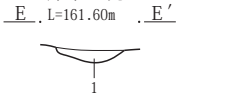


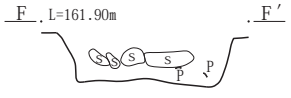
掘り方

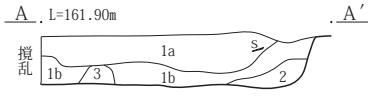




床下土坑1

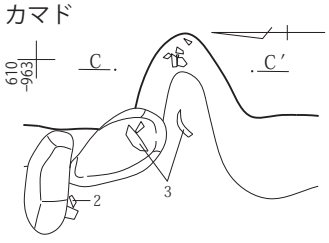




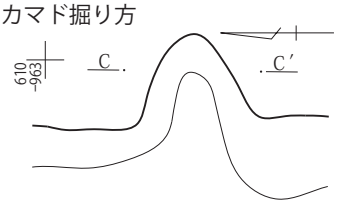


72号竪穴建物A-A′・B-B′・D-D′
1a　暗褐色土(10YR)　As-C混土に褐色土と黒褐色土が見られる。
1b　1a層より軽石少ない。粘性あり。
2　褐色土(10YR)　しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物混じり。しまり強い。
4　褐色土(10YR)　壁の褐色土の混土。
床下土坑１E-E′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土にローム小塊混じる。

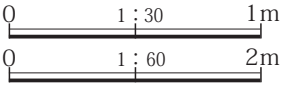
カマド



カマド掘り方

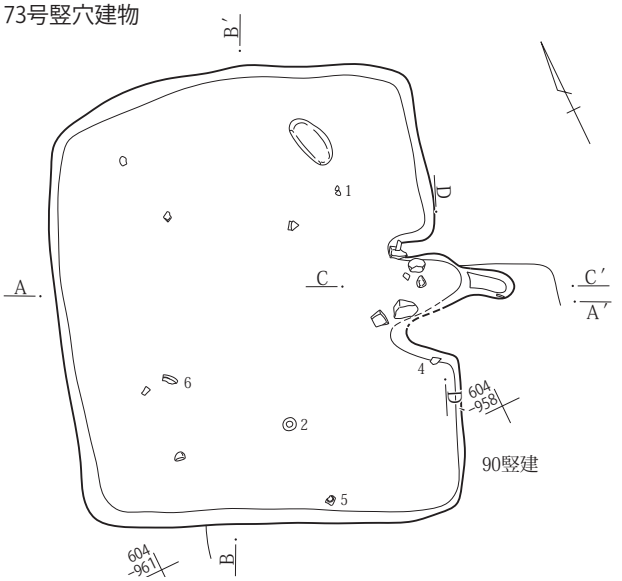


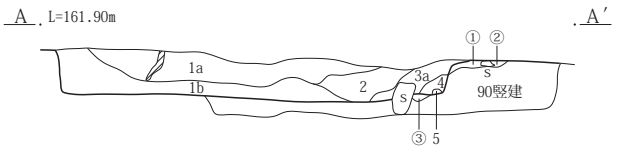
カマドC-C′
1　褐色土(10YR3/4)　As-C混土、わずかに炭化物、土器片含む。
2　褐色土(10YR3/4)　1層に粘土粒わずかに含む。



第295図　３面　H区65・72号竪穴建物

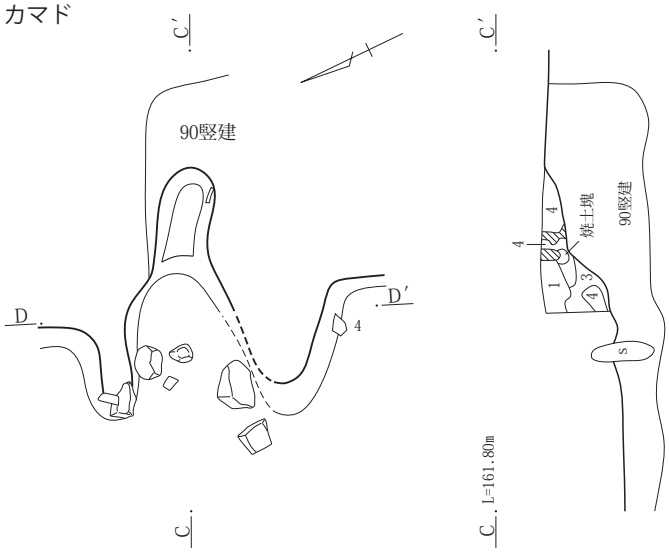
73号竪穴建物

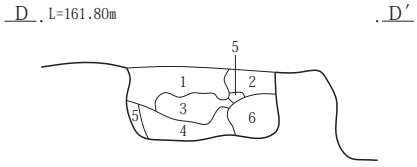




73号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1a　暗褐色土(10YR)　As-Ｃ混土に褐色と黒褐色が見られる。
1b　1a層より軽石少ない。粘性あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　くすんだローム塊含む。軽石含まない。
3a　くすんだ黄褐色土にローム塊混じり、焼土少塊含む。
4　にぶい黄褐色土と焼土塊混土 しまり弱い。
5　焼土塊多量に含む。くすんだ赤褐色土混じり。しまり弱い。
①　黄色ローム塊主体、暗褐色土含む。
②　①層に焼土塊わずかに含む。
③　灰褐色土と焼土塊混土。

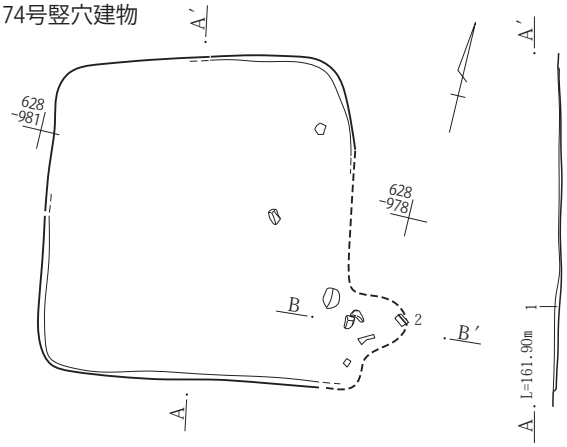
カマド





カマドＣ－Ｃ′・Ｄ-Ｄ′
1　くすんだ黄褐色土にローム塊混じる。焼土小塊含む。
2　粘性のあるローム塊とくすんだローム土混土。
3　にぶい黄褐色土と焼土塊混土 しまり弱い。
4　焼土塊多量に含む。くすんだ赤褐色土混じり。しまり弱い。
5　焼土層
6　暗褐色土(10YR3/3)　単一的。袖か。

74号竪穴建物

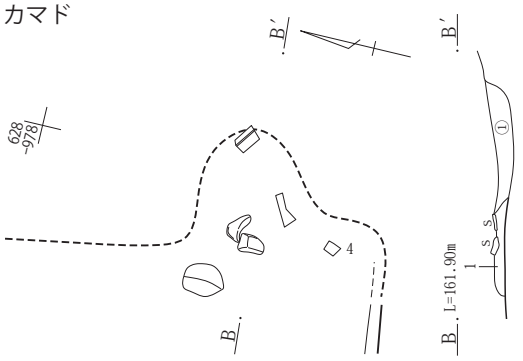


74号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ混土にわずかにローム小塊含む。

0　1：30　1m
0　1：60　2m

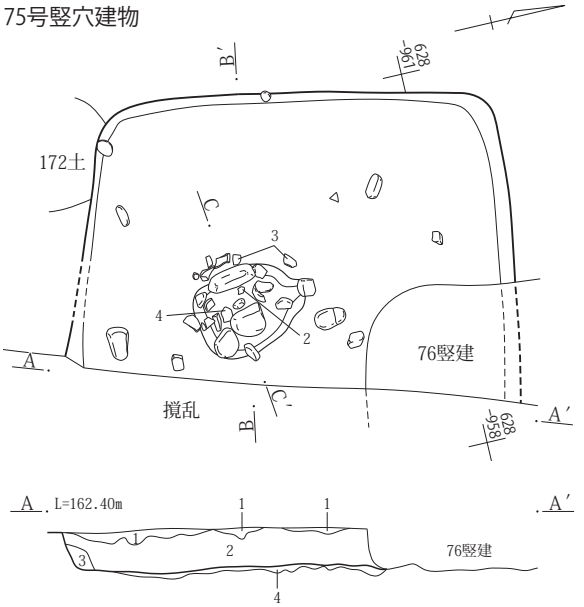
第296図　３面　Ｈ区73・74号竪穴建物

カマド



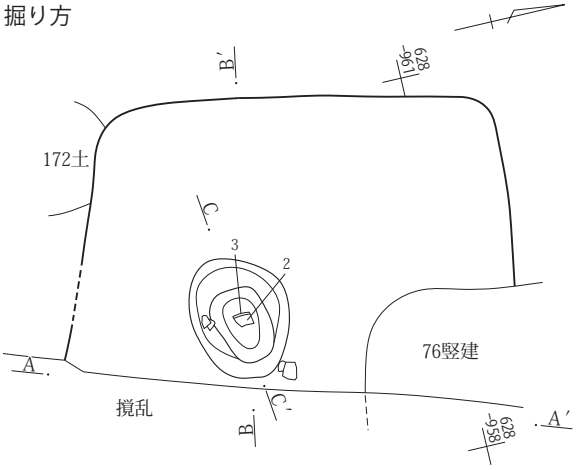
カマドB－B′
1　暗褐色土(10YR3/4)　As－C混土にわずかに焼土粒含む。
①　褐色土(10YR4/4)　As-B混土。

75号竪穴建物



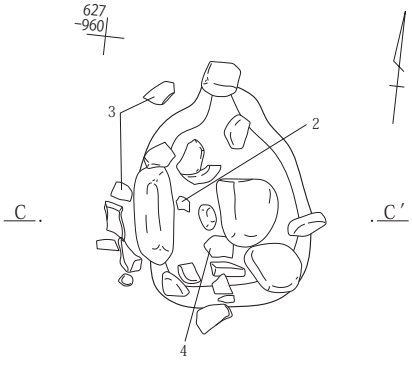
75号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　灰色味を帯びた褐色土層　２～３㎝大のローム塊を含む。φ３～５㎜の灰色軽石をまばらに含む。
2　茶褐色土層　１㎜～１㎝大の白色軽石、１～８㎜の黄褐色軽石、１～５㎜の赤褐色軽石を多く含む。炭化物を含む。
3　黄色を帯びた褐色土　軽石をまばらに含む。遺構埋没時の流れ込みの土と思われる。
4　暗めの褐色土　１～２㎜の白色軽石をごく少量含む。遺物(土器)を含む。遺構使用時の床面と思われる。

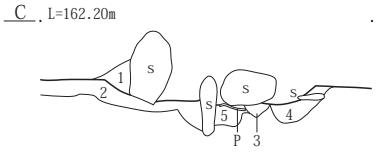
掘り方



Ｂ－Ｂ′
1　灰黄褐色土(10YR6/2)　As－C少量、ローム塊含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As－C混、しまり強い。
3　褐色土(10YR4/4)　As－C混とくすんだローム混じり。(壁崩落)
4　黄褐色土(10YR5/6)　くすんだローム土のやや硬化した面。(貼床)

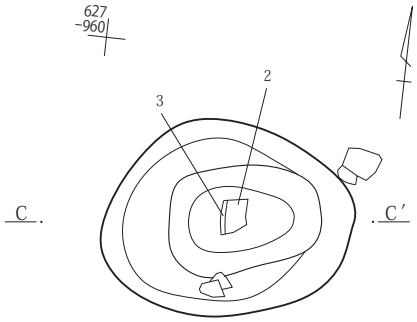
カマド状遺構（別竪穴建物）

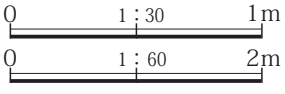




カマドC－C′
1　ローム塊と多量に混じる暗褐色土。
2　褐色土(10YR4/4)　焼土粒、炭粒含む。
3　赤褐色焼土塊。
4　にぶい黄色細砂。
5　褐色土と４層塊混土、焼土粒含む。

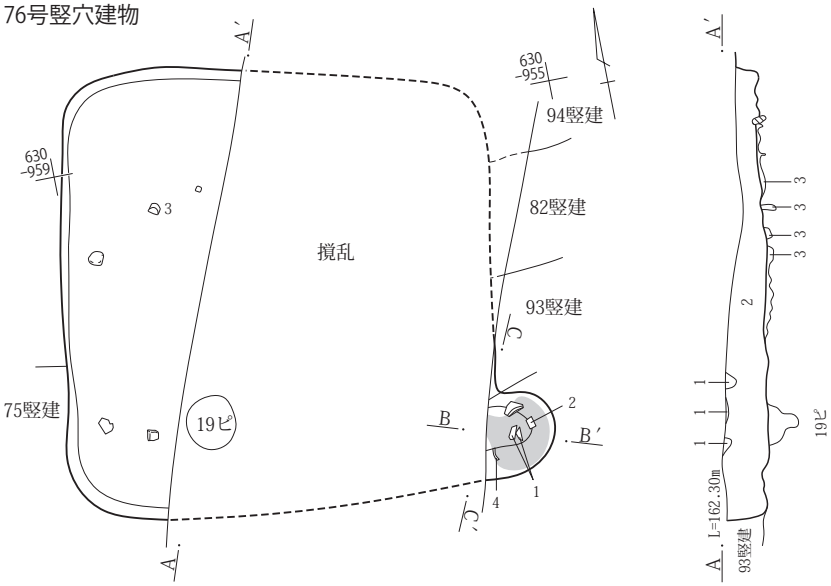
カマド状遺構掘り方



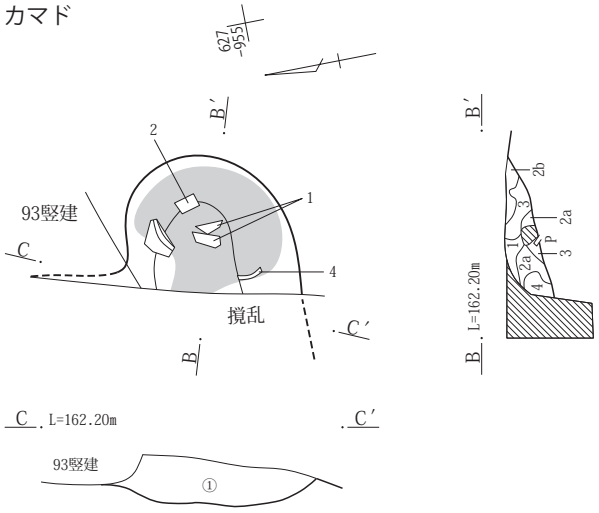


第297図　３面　H区74・75号竪穴建物

76号竪穴建物



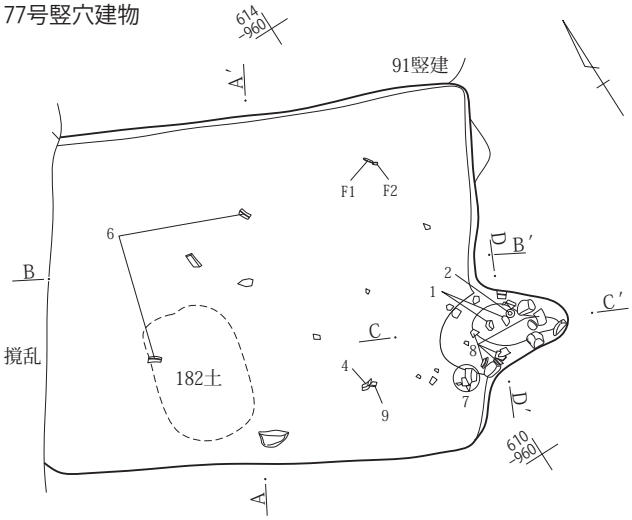
カマド

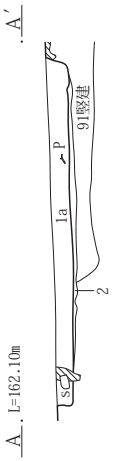


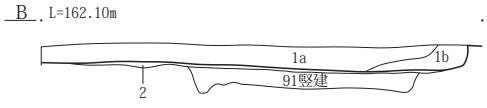
76号竪穴建物A-A′
1　灰色味を帯びた褐色土層。２～３㎝大のローム塊を含む。φ３～５㎜の灰色軽石をまばらに含む。
2　１～２㎜の赤色軽石を含む。
3　暗めの褐色土。１～２㎜の白色軽石をごく少量含む。遺物(土器)を含む。遺構使用時の床面と思われる。

カマドB-B′・C-C′
1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒わずかに含む。
2a　黄褐色土(10YR5/6)　くすんだローム土に焼土粒含む。しまり弱い。
2b　2a層より粘性強く、下部が焼土化。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　2a層より焼土塊多く含む。黒色土小塊含む。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　くすんだロームにローム小塊含む。
①　くすんだローム。焼土塊混じり。カマド崩落土。

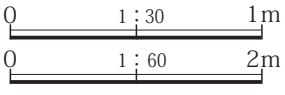
77号竪穴建物





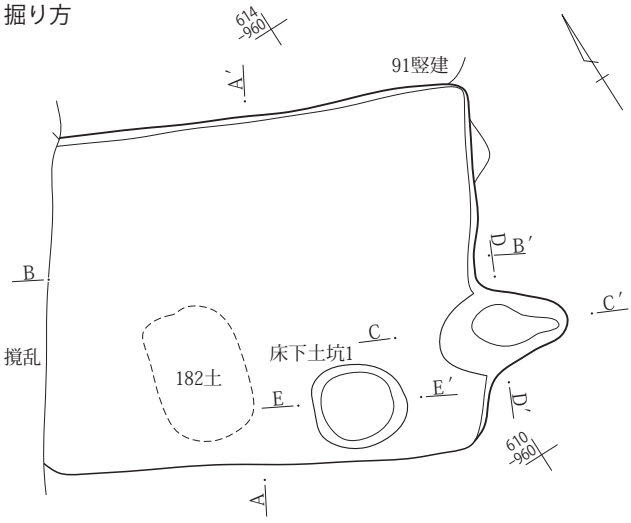


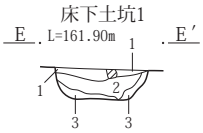
77号竪穴建物A-A′・B-B′
1a　暗褐色土(10YR)　As-C混土に褐色土・黒褐色土が見られる。
1b　1a層よりAs-C少ない。
2　褐色土(10YR)　しまり・粘性弱い。



第298図　３面　H区76・77号竪穴建物

掘り方

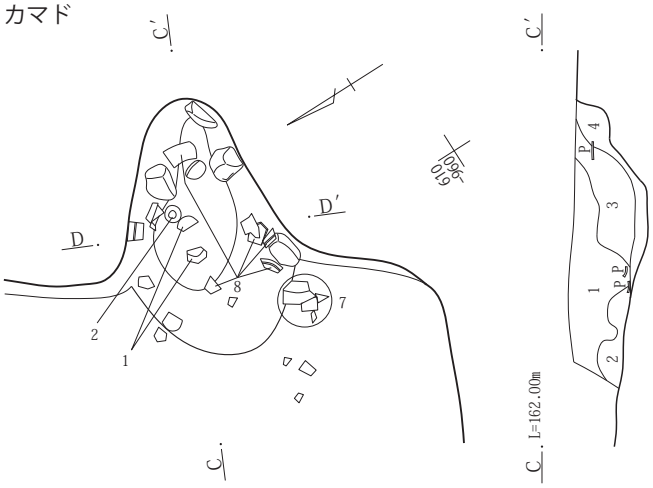




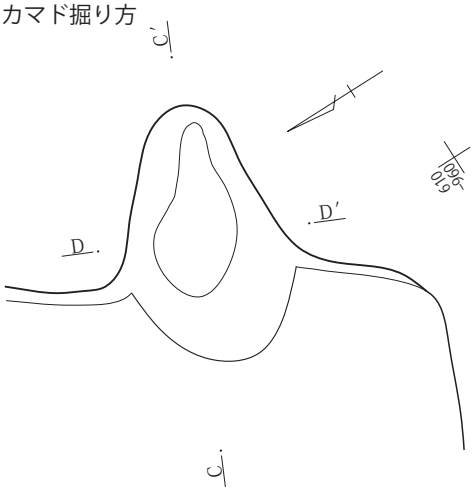
床下土坑1E-E′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　やや硬くしまる、貼床。
2　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土、くすんだ褐色塊含む。
3　暗赤褐土と褐色土の混土、両端しまり弱く、中央しまりあり。

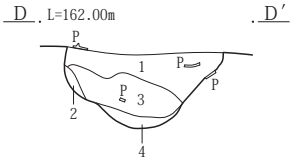
0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方



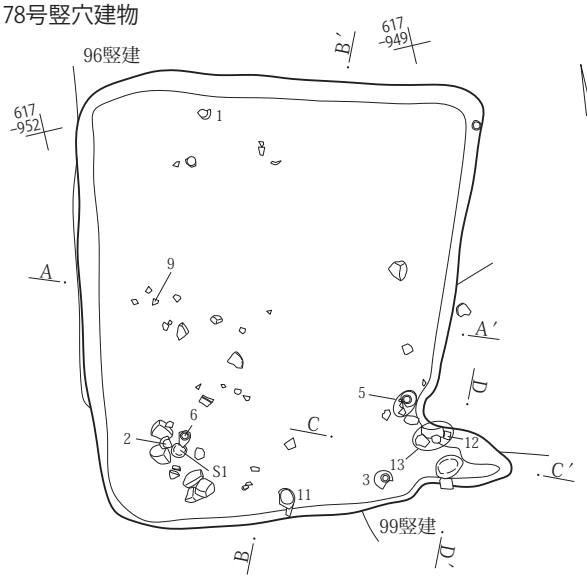


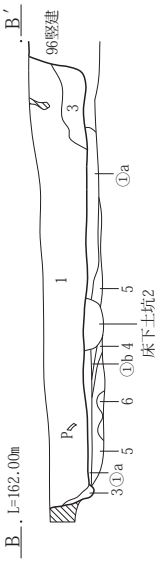
カマドC-C′・D-D′
1　暗褐色土(10YR3/3)　1a層に炭粒、焼土わずかに含む。
2　くすんだローム土にローム塊含む。
3　黄褐色ロームに焼土粒含む。(天井崩落土)
4　暗赤褐色のしまりの弱い土に焼土小塊含む。

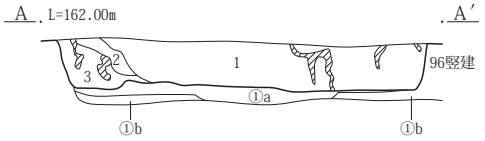
0　1：30　1m

第299図　３面　H区77号竪穴建物

78号竪穴建物

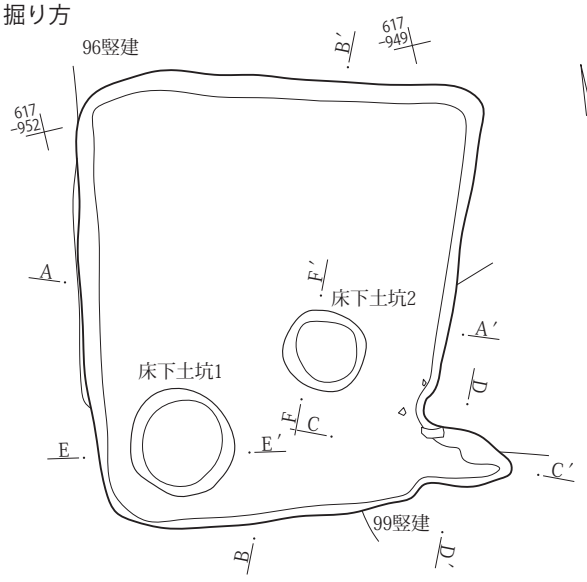


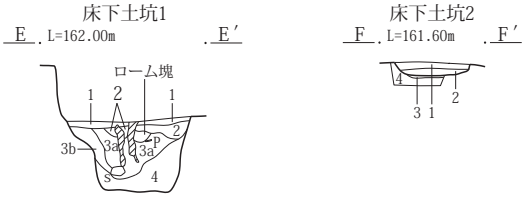




78号竪穴建物 A－A′・B－B′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As－C混土にローム小塊含む。しまりあり。
2　１層にローム塊多く含む。
3　褐色土(10YR4/4)　As－C混土と褐色土の混土。ローム塊含む。しまり・粘性あり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　①b層に似るが、ローム塊多く含む。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　くすんだローム土に暗褐色土をわずかに含む。しまりあり。
6　褐色土とローム塊混土。
①a 暗褐色土(10YR3/3)　わずかにローム粒含む。しまりあり。
①b ①ａ層よりローム小塊多く含む。硬くしまる。

掘り方



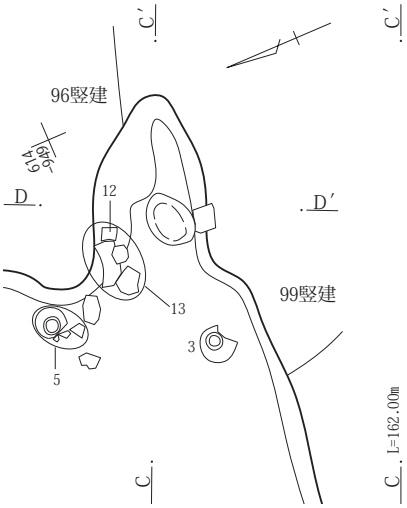


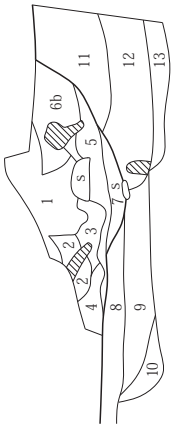
床下土坑1E－E′
1　暗褐色土(10YR3/3)　しまり・粘性あり。やや硬くしまる貼床。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒含む。粘性ややあり。
3a　褐色土(10YR4/4)　ローム小塊わずかに含む。粘性強い。
3b　3a層より夾雑物少なく粘性強い。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム中・小塊多く、As-YP含む。しまり・粘性弱い。
床下土坑2 F－F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　硬くしまる貼床。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム細粒、小塊含む。硬くしまる。
3　薄く貼られたロームと褐灰色土。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊含む。硬くしまる。

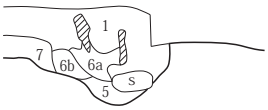
0　1：60　2m

第300図　３面　H区78号竪穴建物

カマド

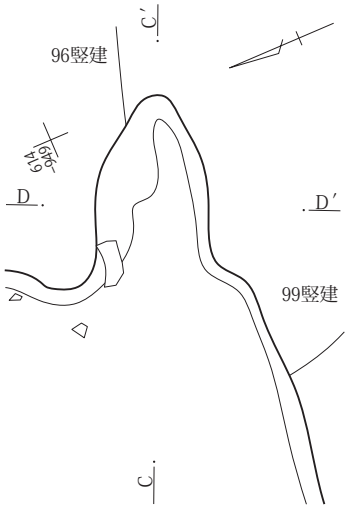


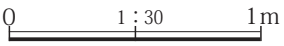




カマドC-C′・D-D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒・焼土粒わずかに含む。しまり・粘性あり。
2　ローム塊、ローム土の混土、焼土塊含む。(構築土)
3　橙色土　しまり弱く土質均質。
4　灰黄褐色土　ローム塊わずかに含む。
5　灰赤色土(2.5YR6/2)　焼土小塊、灰混じり。しまり弱い。
6a　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊多く、わずかに焼土粒含む。
6b　6a層よりローム小塊多く含む。
7　褐色土(7.5YR4/4)　焼土粒混じる。しまり弱い。灰面下部。
8　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊含む。硬くしまる。
9　ローム中・小塊混じり硬くしまる。
10　黒褐色土(10YR3/1)　ローム小塊含む。しまり弱い。粘性ややあり。
11　黒褐色土(10YR2/2)　As-C混、わずかにローム粒含む。
12　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊混じる。しまりあり。
13　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒含む。しまり弱い。粘性ややあり。

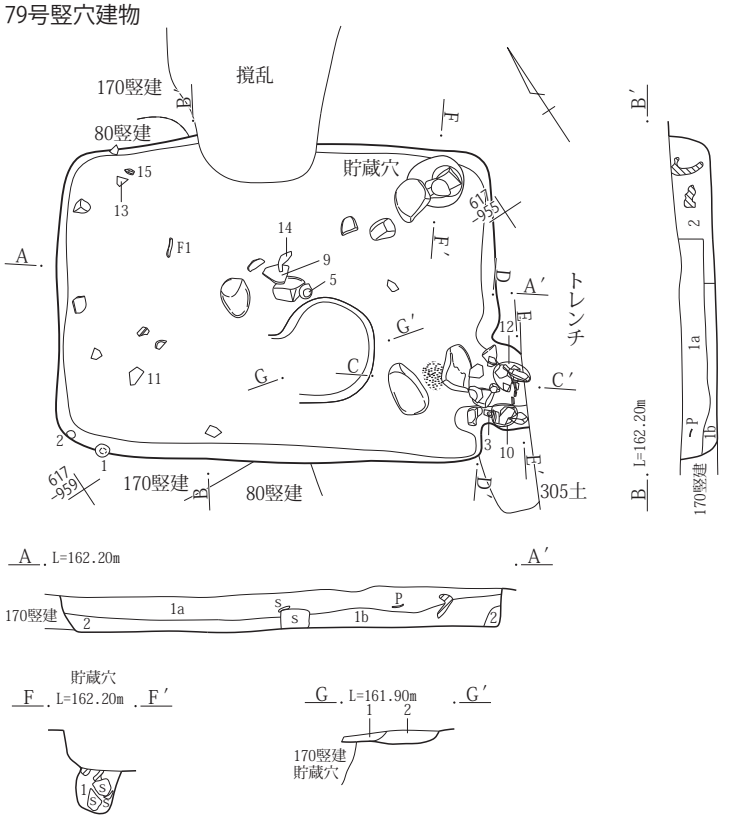
カマド掘り方





第301図　３面　H区78号竪穴建物

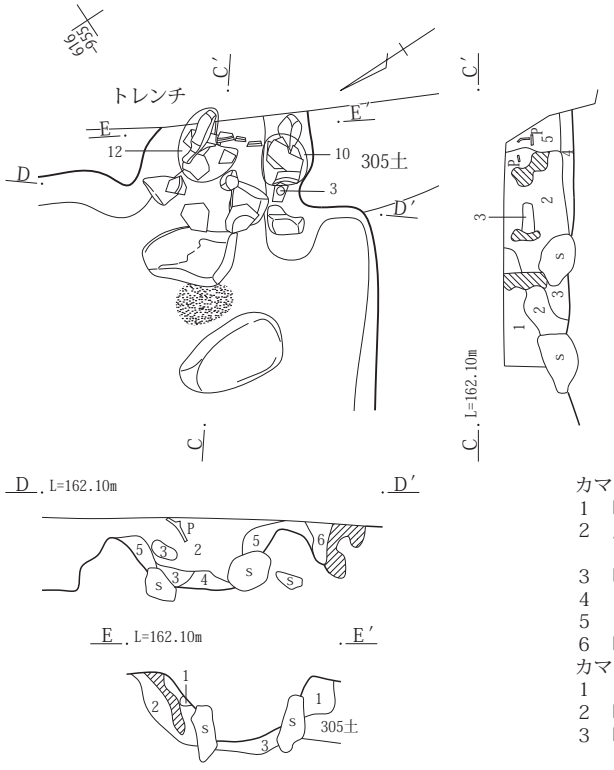
79号竪穴建物



79号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1a　暗褐色土(10YR3/2)　As－Ｃ混土、夾雑物少ない。
1b　1a層より軽石粒少なく、わずかにローム小塊含む。しまり・粘性あり。
２　褐色土(10YR4/6)　ローム漸移層崩落土。
貯蔵穴F－F′
１　暗褐色土(10YR3/3)　As－Ｃ混土、わずかにローム粒含む。
G－G′
１　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As－Ｃ混土にローム土含む。
２　As－Ｃ混土にローム塊混じる。硬くしまる。

0　1：60　2m

カマド

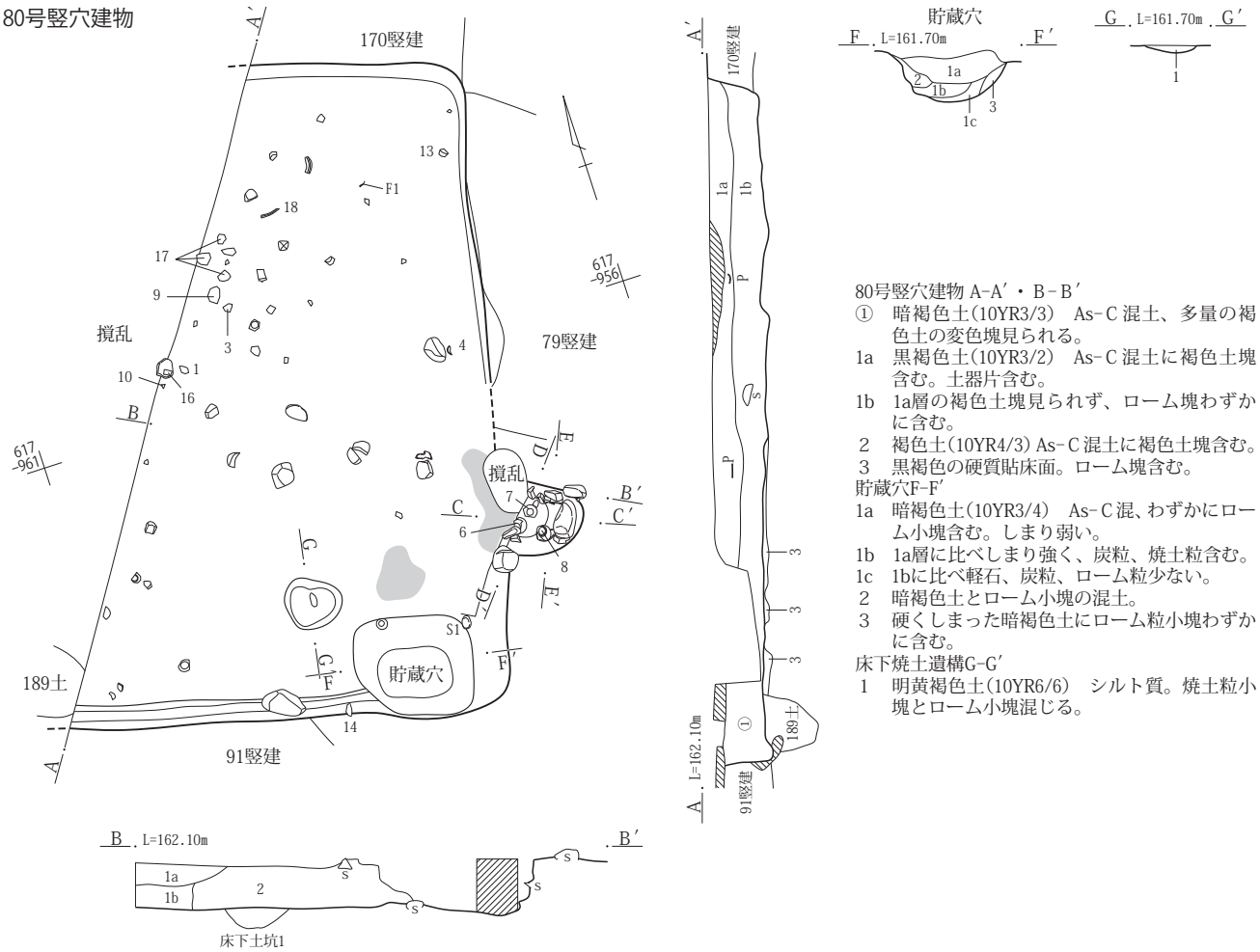


カマドＣ－Ｃ′・D－D′
１　暗褐色土(10YR3/2)　As－Ｃ混土、夾雑物少ない。
２　灰黄褐色土(10YR4/3)　シルト質、ローム小塊含む。ローム土少量混じる。
３　明黄褐色ローム(10YR7/6)　カマド構築材、わずかに褐色土含む。
４　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　シルト質土で わずかに焼土化。
５　ローム塊と灰黄褐色土塊混土。
６　暗褐色土(10YR3/3)　土質均質。粘性あり。
カマドE-E′
１　ローム塊に暗褐色土混じり。
２　暗褐色土(10YR3/2)　ローム塊含む。
３　暗褐色土(10YR3/4)　焼土粒含む。

0　1：30　1m

第302図　３面　Ｈ区79号竪穴建物

80号竪穴建物

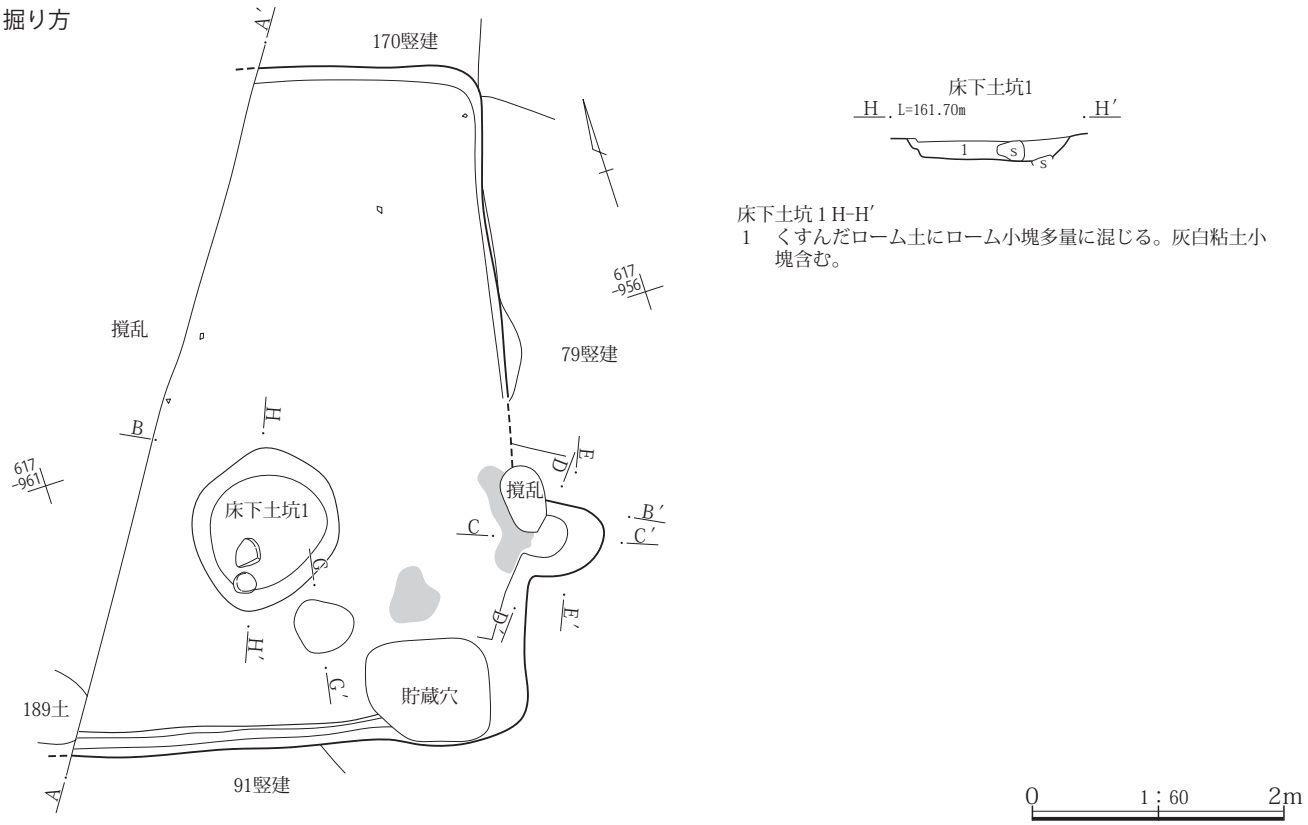


80号竪穴建物 A-A′・B-B′
① 暗褐色土(10YR3/3) As-C混土、多量の褐色土の変色塊見られる。
1a 黒褐色土(10YR3/2) As-C混土に褐色土塊含む。土器片含む。
1b 1a層の褐色土塊見られず、ローム塊わずかに含む。
2 褐色土(10YR4/3) As-C混土に褐色土塊含む。
3 黒褐色の硬質貼床面。ローム塊含む。

貯蔵穴F-F′
1a 暗褐色土(10YR3/4) As-C混、わずかにローム小塊含む。しまり弱い。
1b 1a層に比べしまり強く、炭粒、焼土粒含む。
1c 1bに比べ軽石、炭粒、ローム粒少ない。
2 暗褐色土とローム小塊の混土。
3 硬くしまった暗褐色土にローム粒小塊わずかに含む。

床下焼土遺構G-G′
1 明黄褐色土(10YR6/6) シルト質。焼土粒小塊とローム小塊混じる。

掘り方

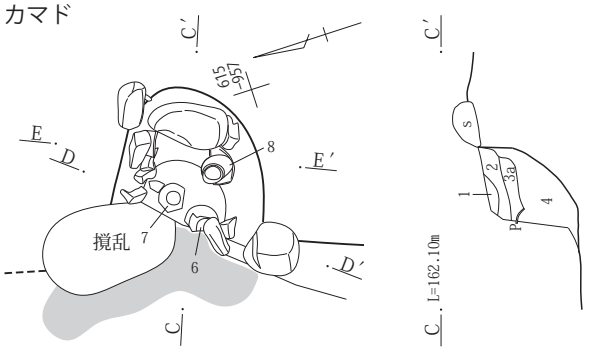


床下土坑1 H-H′
1 くすんだローム土にローム小塊多量に混じる。灰白粘土小塊含む。

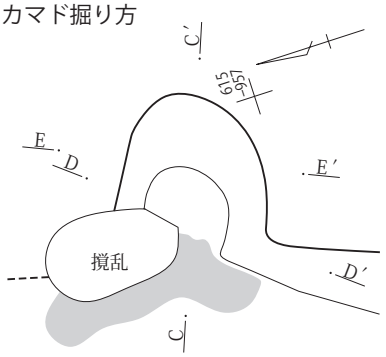
0 1：60 2m

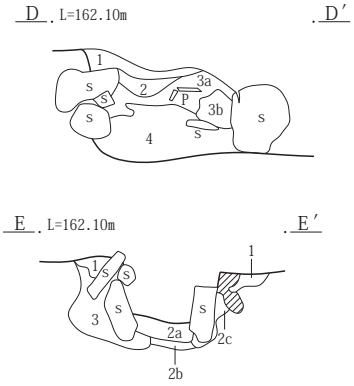
第303図　３面　H区80号竪穴建物

カマド



カマド掘り方

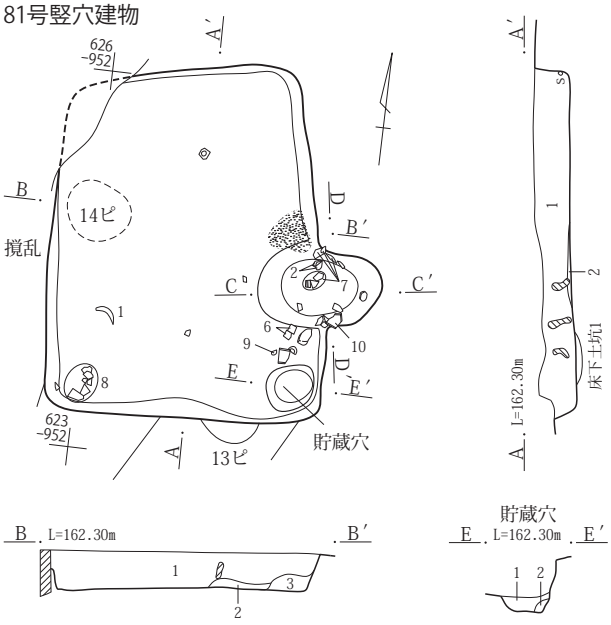




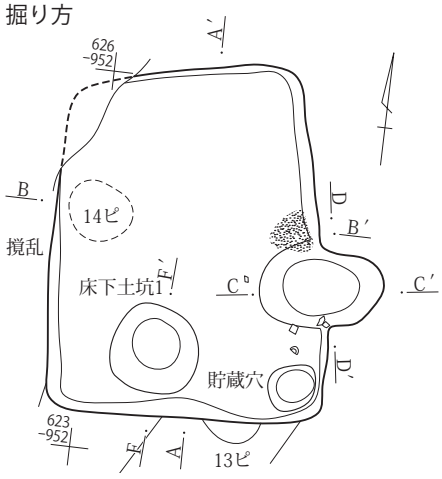
カマドC－C′・D－D′
1　にぶい黄褐色土にくすんだローム塊含む。
2　くすんだローム土主体、褐灰色土塊含む。
3a　くすんだローム土に焼土塊含む。
3b　くすんだローム土。
4　明赤褐色土(5YR5/8)　ややシルト質の焼土化した層。焼土小塊含む。しまり弱い。
カマドE－E′
1　ローム塊混土（カマド構築材）
2a　褐色土(10YR4/4)　全体に焼土化した土。焼土粒含む。しまり弱い。
2b　2a層より焼土粒少ない。
2c　2a層より焼土小塊多く、ローム粒含む。礫の加熱の影響か。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　漸移層にローム塊混じり、ややシルト質。

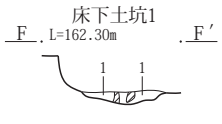
0　1：30　1m

81号竪穴建物



掘り方





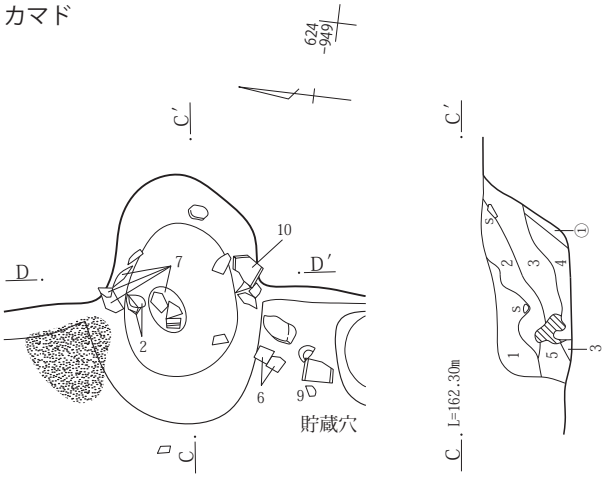
81号竪穴建物 A－A′・B－B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As－C混。わずかにくすんだローム塊含む。木の根撹乱多い。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊含む。しまりややあり。
3　明黄褐色粘質土　カマド構築材崩落。
貯蔵穴E－E′
1　黒色土(10YR2/1)　わずかに炭粒含む。粘性あり。
2　暗褐色土とローム塊混土。

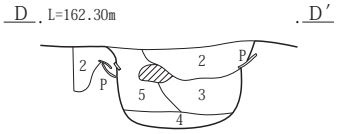
床下土坑１F－F′
1　褐灰色土(10YR4/1)　ローム小塊混じり、薄層で粘質ローム底面に貼り込む。硬くしまる。

0　1：60　2m

第304図　３面　H区80・81号竪穴建物

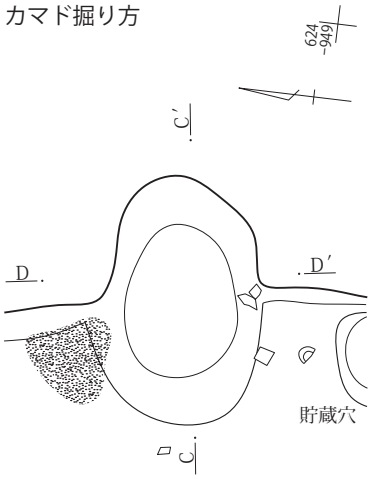
カマド



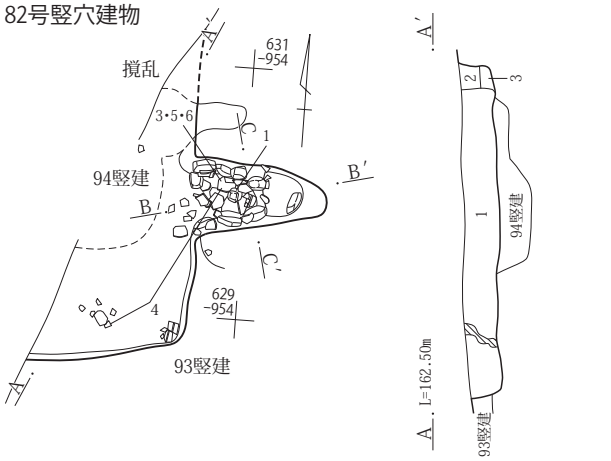


カマド
① くすんだローム、焼土塊混じり、カマド崩落土。
1 黒褐色土(10YR3/2) As-C混。硬くしまる。
2 暗褐色土(10YR3/3) As-C混土にローム土小塊含む。
3 黒褐色土(10YR3/2) 焼土細粒含む。粘性あり。
4 黒色土焼土塊、炭を多く含む。しまり・粘性あり。(灰層)?
5 にぶい黄褐色土(10YR) ローム小塊多く含む。くすんだローム土と暗褐色土の混土。

カマド掘り方

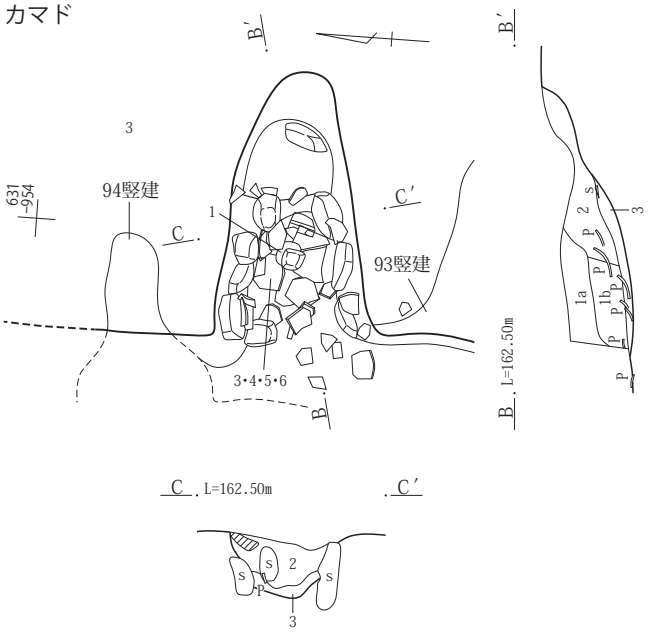


82号竪穴建物



82号竪穴建物A-A′
1 黒褐色土(10YR3/2) As-C混土、ややしまりあり。粘性あり。
2 くすんだロームに硬質ローム塊含む。
3 2層に焼土粒含む。

カマド



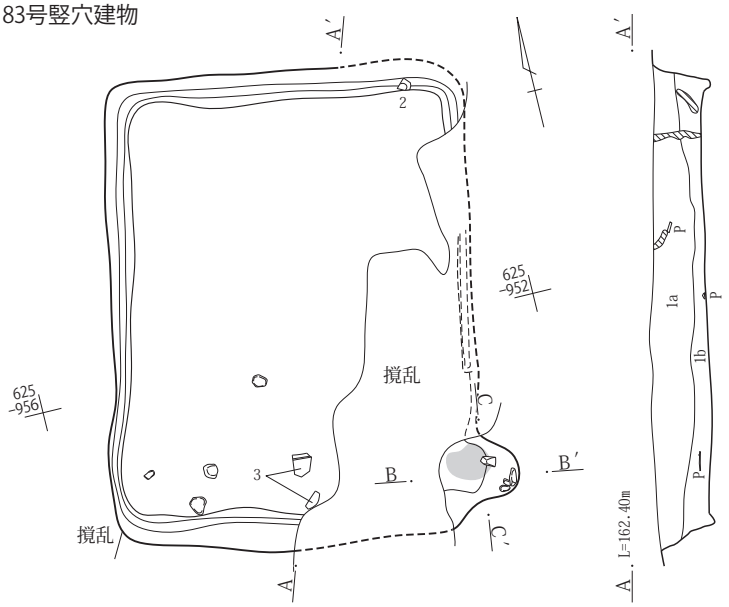
カマドB-B′・C-C′
1a 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C混土に、くすんだローム土わずかに含む。
1b 1a層に焼土粒わずかに含む。
2 にぶい黄橙色土(10YR6/3) くすんだローム土。やや赤色に変色。しまり弱い。(天井崩落土)
3 焼土塊、ローム塊 黄橙色のしまり弱い(灰層)混じり。

0 1:60 2m

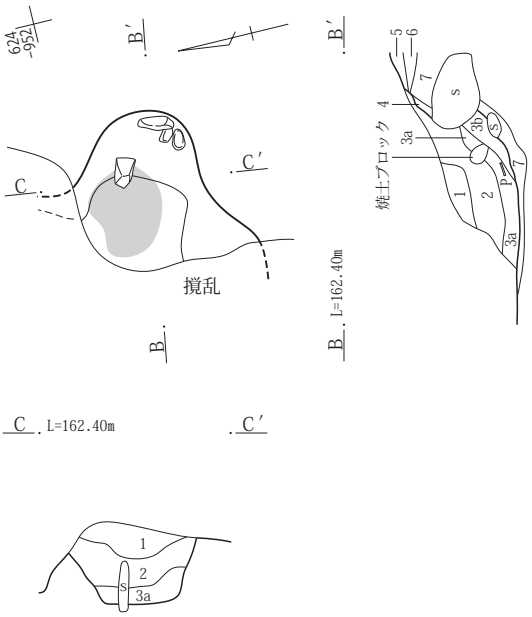
0 1:30 1m

第305図 ３面 H区81・82号竪穴建物

83号竪穴建物



カマド

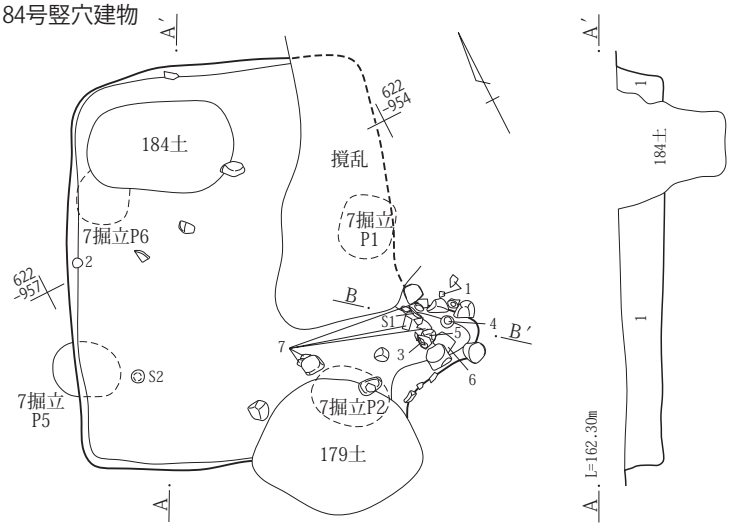


83号竪穴建物Ａ－Ａ′
1a　黒色土(10YR2/2)　As－Ｃ混土、雑物少なく、しまりあり。
1b　1a層より軽石少なく、しまり・粘性あり。

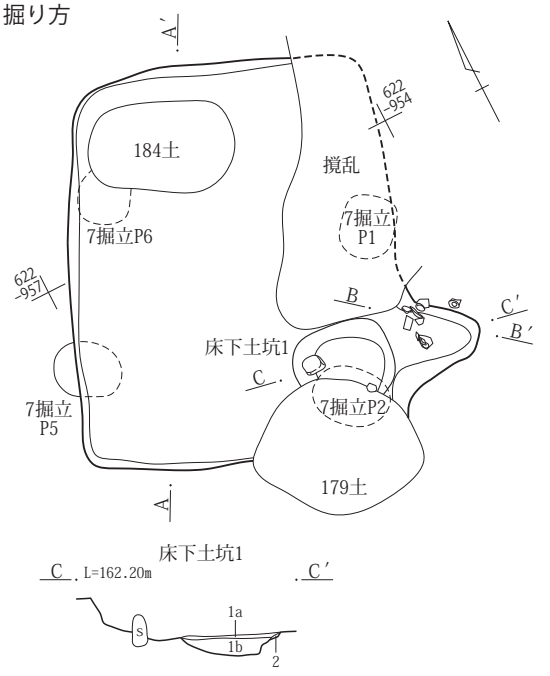
カマドＢ－Ｂ′・Ｃ－Ｃ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As－Ｃ混土にくすんだローム土含む。
2　くすんだローム土にローム小塊まじり、焼土粒、黒色土塊わずかに含む。
3a　焼土小塊を多量に含む。しまり弱い灰赤色土。(灰層か)。
3b　3a層より焼土塊少ない。
4　ローム塊主体、褐色土小塊含む。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　As－Ｃ混土にローム土含む。
6　ローム塊とAs－Ｃ混土の混土。
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム土と褐色土混じる。

0　1：30　1m

84号竪穴建物



掘り方

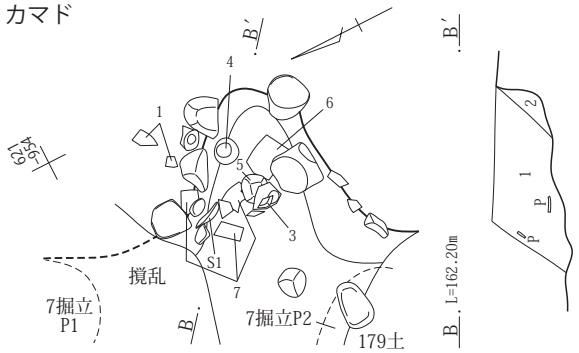


84号竪穴建物 Ａ－Ａ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As－Ｃ混、夾雑物なく、くすんだ褐色土塊入る。
床下土坑１Ｃ－Ｃ′
1a　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊わずかに含む。硬くしまる。貼床。
1b　黒褐色土(10YR3/2)　1a層よりややしまり弱い。ローム小塊斑に含む。
2　黄色粘質ローム(土坑底面に薄く貼る)

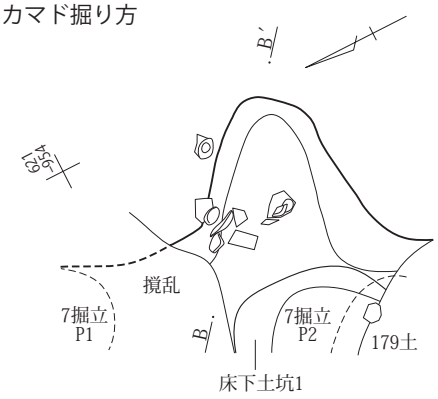
0　1：60　2m

第306図　３面　Ｈ区83・84号竪穴建物

カマド



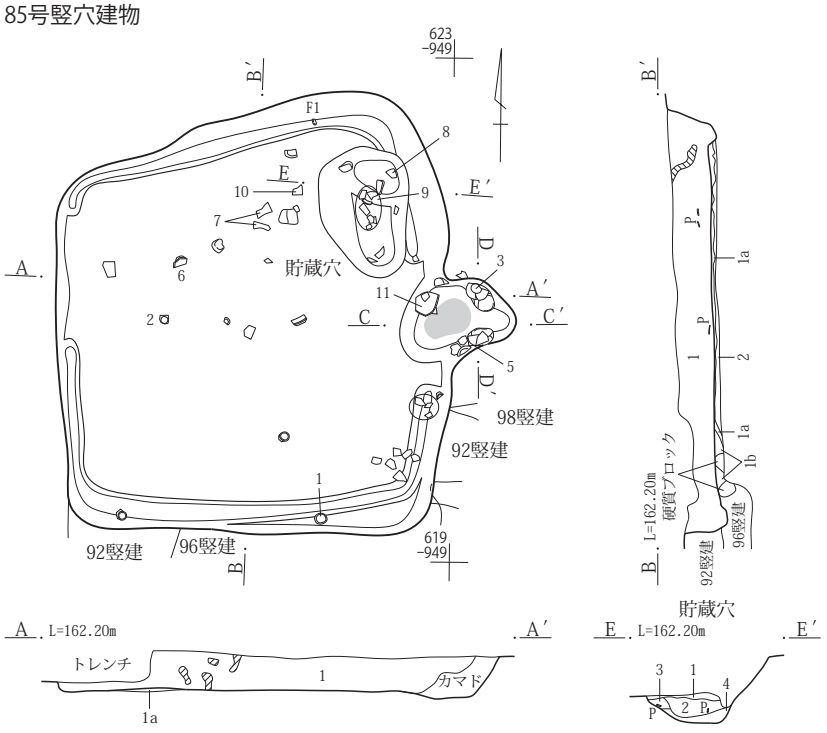
カマド掘り方



カマドB－B′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As－C混、わずかに焼土粒含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)

0　1：30　1m

85号竪穴建物

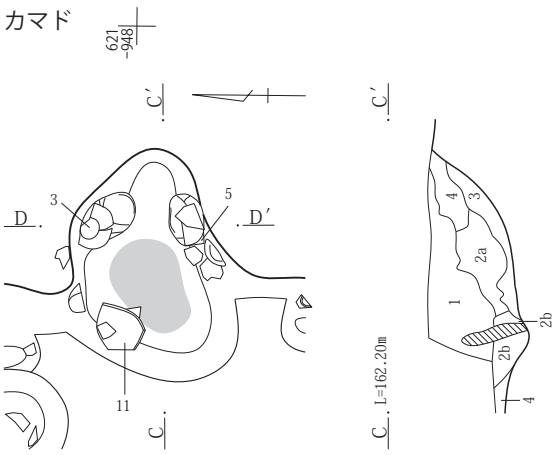


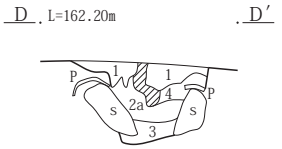
85号竪穴建物 A－A′・B－B′
1　黒褐色土(10YR2/2)　As－C混土。しまり・粘性あり。木の根多く入る。
1a　暗褐色土黒色土塊混土、硬くしまる。貼床。
1b　1aに比べしまり弱いが、粘性あり。
2　にぶい黄褐色ローム土に硬質ローム塊含む。
貯蔵穴E－E′
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒を含む。しまり強い。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム小塊、暗褐色土小塊、焼土粒の混土。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　わずかにローム粒含む。しまりあり。
4　黄褐色土(10YR5/6)　くすんだローム土、ローム小塊混じり、わずかに焼土粒含む。

0　1：60　2m

第307図　３面　H区84・85号竪穴建物

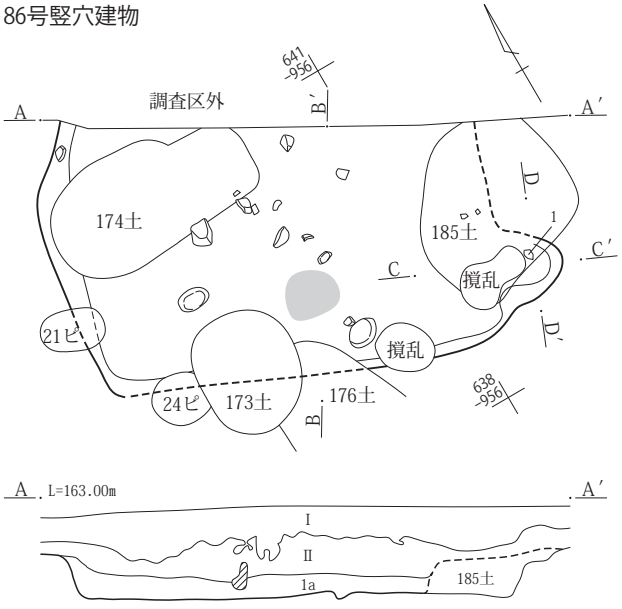
カマド





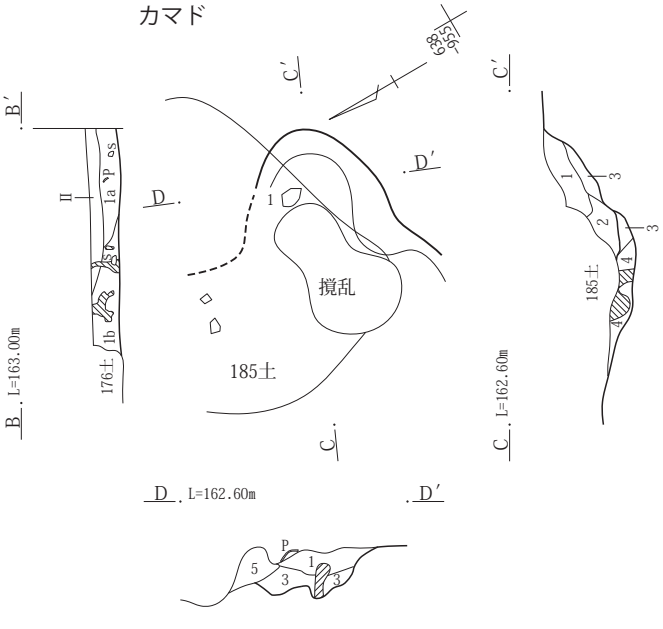
カマドC－C′・D－D′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As－C混、木の根多く含む。
2a　くすんだローム土にローム小塊多く混じる。
2b　2a層よりローム土少なく、しまりあり。
3　橙色焼土塊主体。
4　黄橙色ローム。

86号竪穴建物



86号竪穴建物A－A′・B－B′
1a　黒褐色土(10YR3/2) As－C混土に、わずかにローム小塊含む。
1b　1a層より軽石粒少ない、しまり強い。

カマド



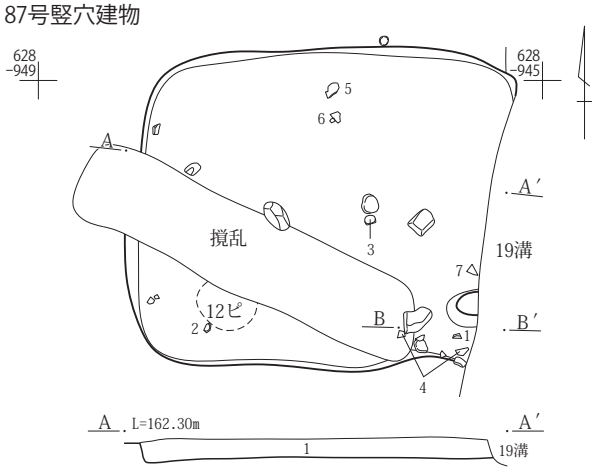
カマドC－C′・D－D′
1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・ローム粒含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒・ローム粒わずかに含む。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/3)　わずかにローム含む。
4　くすんだローム土。
5　粘性の強いローム塊、カマド構築土。

0　1：60　2m

0　1：30　1m

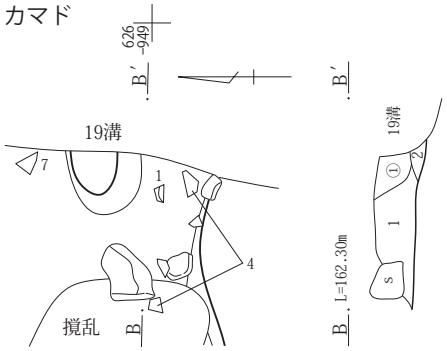
第308図　３面　H区85・86号竪穴建物

87号竪穴建物



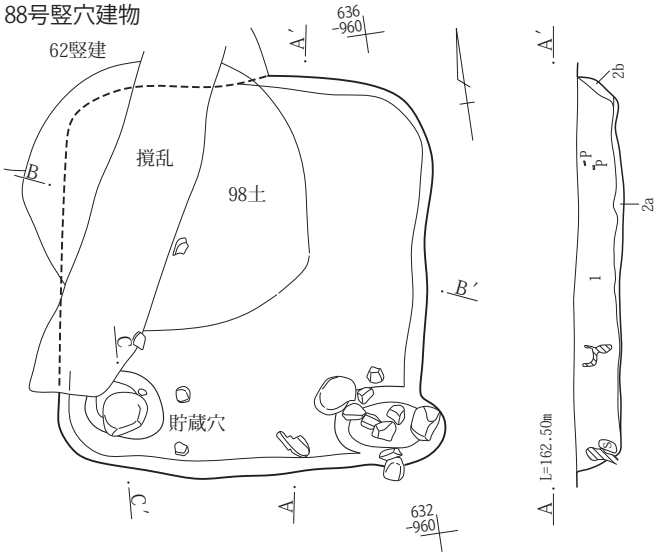
87号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As－Ｃ混土、夾雑物少ない、木の根多く見られる。

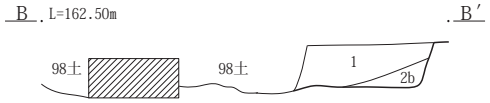
カマド



カマドＢ－Ｂ′
①　黒褐色土(10YR3/1)　As－Ｃ混土、１よりもしまりは弱い。19溝埋没土。
1　黒褐色土(10YR3/2)　As－Ｃ混土、ややしまりあり。
2　くすんだローム土に焼土小塊含む。

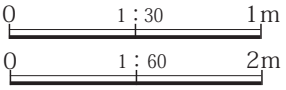
88号竪穴建物





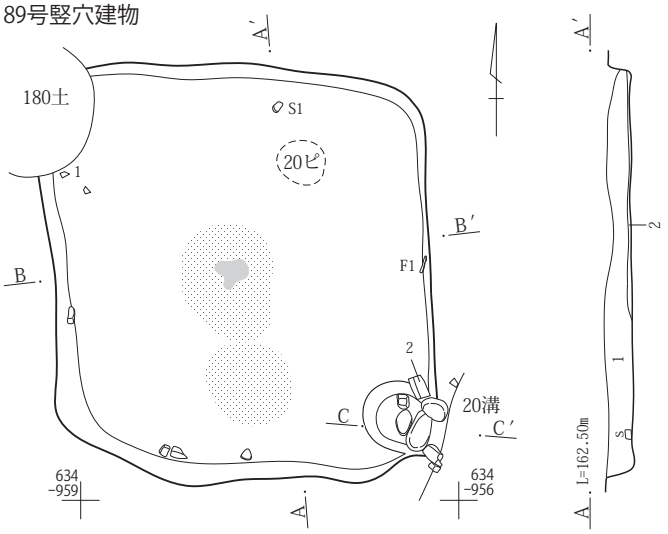
貯蔵穴

88号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As－Ｃ混土、軽石大粒、しまりあり。根による撹乱多い。
2a　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　くすんだローム土に褐色土混じり、しまりあり。貼床か。
2b　2a層よりローム塊なく、しまり弱い。(壁崩落土)
貯蔵穴Ｃ－Ｃ′
1　暗褐色土810YR3/3)　わずかに軽石とローム小塊含む。

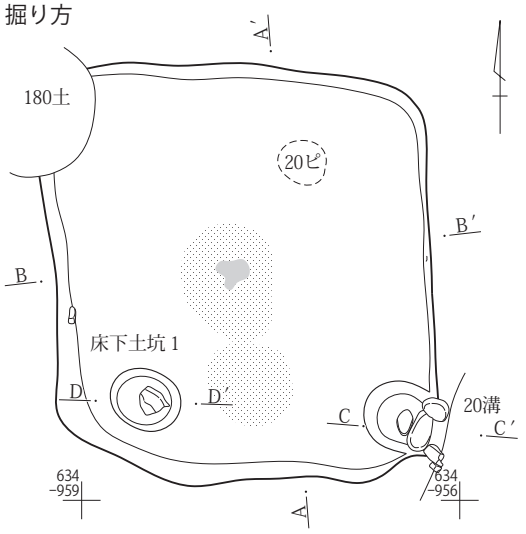


第309図　３面　Ｈ区87・88号竪穴建物

89号竪穴建物



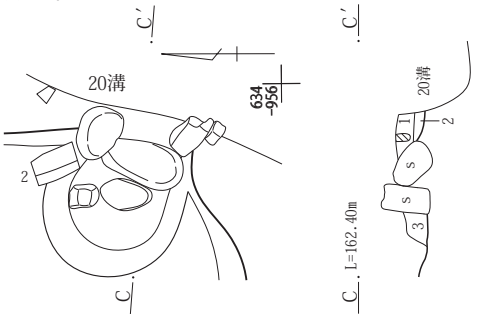
掘り方



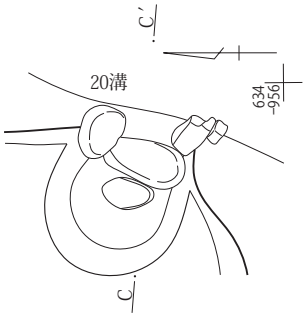
89号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
１　黒褐色土(10YR3/2)　As－Ｃ混、木の根多い。
２　暗褐色土(10YR3/3)　ローム漸移層土とAs－Ｃ混土。
床下土坑１Ｄ-Ｄ′
1a　黒色土(10YR2/1) As－Ｃ混、わずかにローム粒含む。しまり弱い。
1b　1a層よりローム小塊多く含む。

0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方

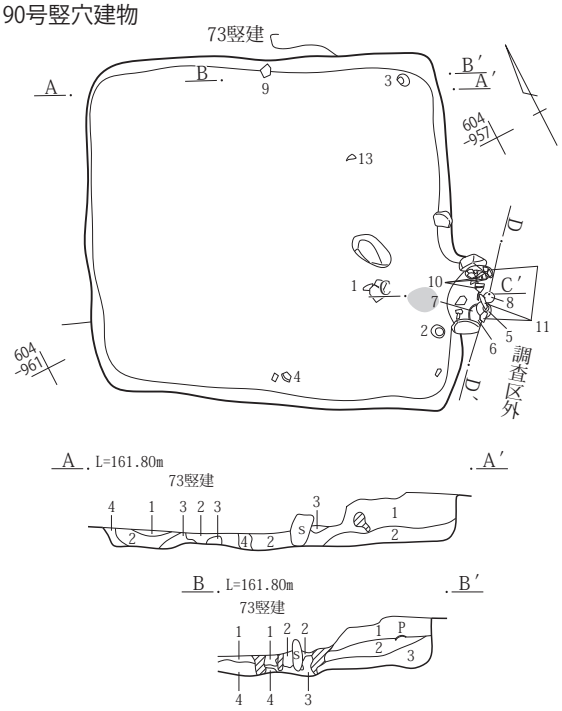


カマドＣ－Ｃ′
１　黄色ローム塊主体、暗褐色土わずかに含む。
２　にぶい赤褐色土(5YR5/3)　焼土小塊含む。しまり弱い。(灰層)
３　暗褐色土(10YR3/3)　As－Ｃ混。しまりあり。

0　1：30　1m

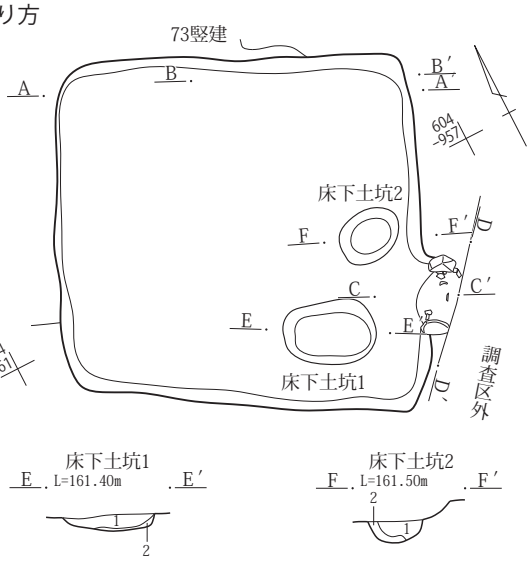
第310図　３面　Ｈ区89号竪穴建物

90号竪穴建物



90号竪穴建物Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　根による撹乱多く、褐色土塊に含む。
2　くすんだローム土と褐色土の混土、硬質ローム塊含む。しまり弱い。
3　硬化したくすんだローム土。
4　にぶい黄褐色の硬質ローム塊。

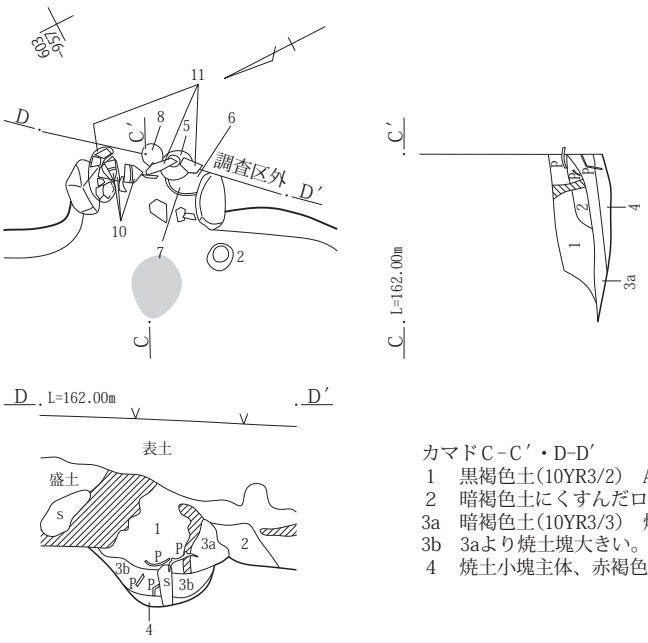
掘り方



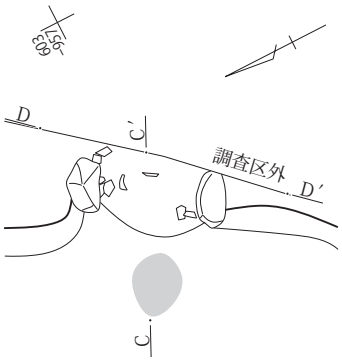
床下土坑１E-E′
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム塊混じり、硬くしまる。上面硬化。
2　褐色土(10YR)　くすんだローム土と硬質ローム塊混じる。
床下土坑２F-F′
1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土細粒多く含む。ローム、硬質ローム小塊含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム塊含む。しまり・粘性あり。

0　1：60　2m

カマド



カマド掘り方

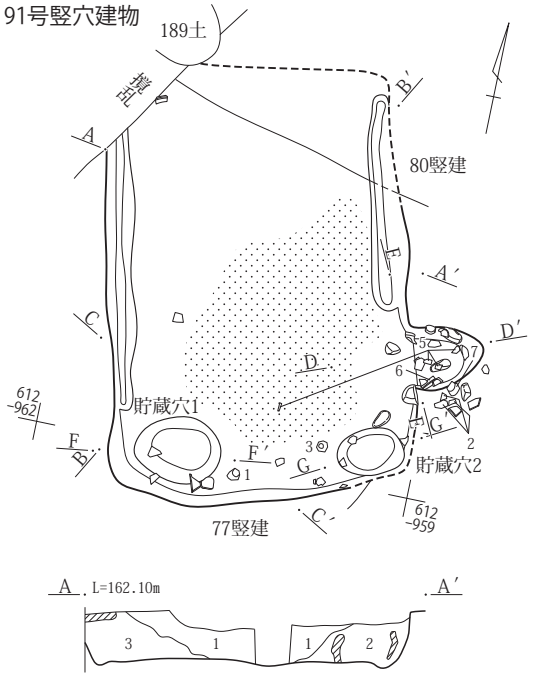


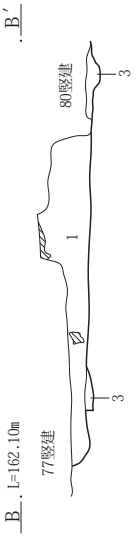
カマドＣ－Ｃ′・Ｄ－Ｄ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｂ・Ｃ混土。わずかに焼土粒含む。しまりあり。
2　暗褐色土にくすんだローム塊混じる。カマド構築土。
3a　暗褐色土(10YR3/3)　焼土小塊多く含む。
3b　3aより焼土塊大きい。
4　焼土小塊主体、赤褐色土、灰含む。しまり弱い。

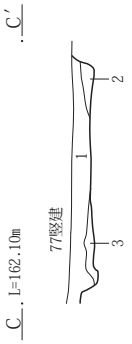
0　1：30　1m

第311図　３面　Ｈ区90号竪穴建物

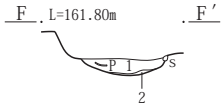
91号竪穴建物







貯蔵穴1



貯蔵穴2

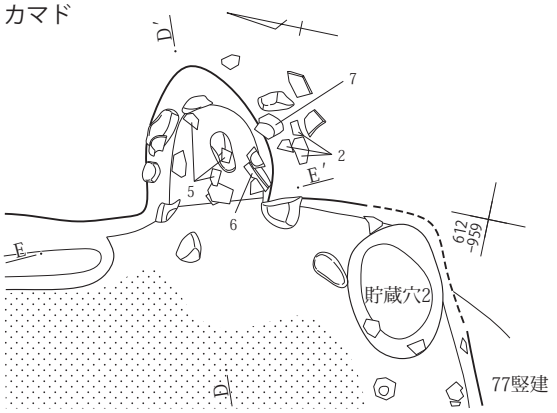
貯蔵穴１F-F′
1　暗褐色土(10YR3/3)　土器片、ローム粒わずかに含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　くすんだローム土に１層土混じる。
貯蔵穴２G-G′
1　にぶい黄褐色土(10YR)　灰白粘土粒、褐色土塊、ローム塊混土。
2　褐色土とローム土の塊混土。

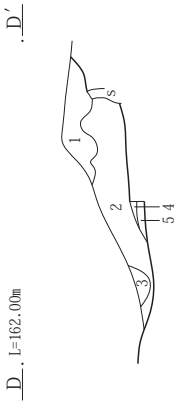
91号竪穴建物 A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土に、変色褐色土塊わずかに含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　１層に似るが、褐色土塊やや少なく、軽石も少ない。灰白粘土塊わずかに含む。
3　暗褐色土(10YR3/3)　軽石少なく、褐色土塊わずかに見られる。しまり強い。

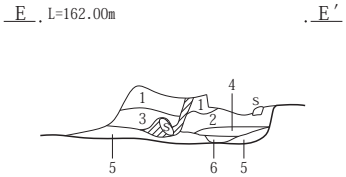
B-B′・C-C′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土に褐色塊斑に入る。硬質ローム塊わずかに含む。
2　硬質ローム塊多く含み、灰白色粘土塊含む。
3　褐色土(10YR4/4)　やや暗色、ローム漸移層に硬質ローム塊混じり。

0　1：60　2m

カマド





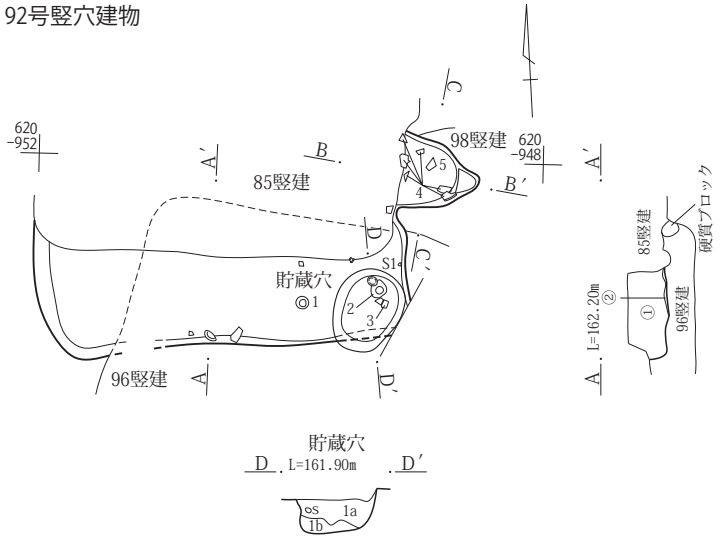


カマドD-D′・E-E′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土に、灰白粘土小塊含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　灰黄褐色土に灰白粒土小塊混じり。
3　灰白粘土塊主体、カマド構築材。
4　黒色土(10YR2/1)　黒色灰に焼土粒含む。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ややシルト質、焼土粒含む。
6　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　灰白粘土の焼土化塊。

0　1：30　1m

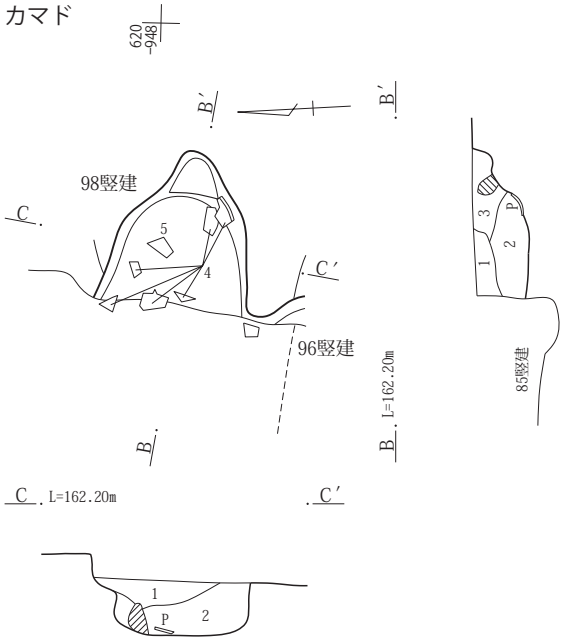
第312図　３面　H区91号竪穴建物

92号竪穴建物



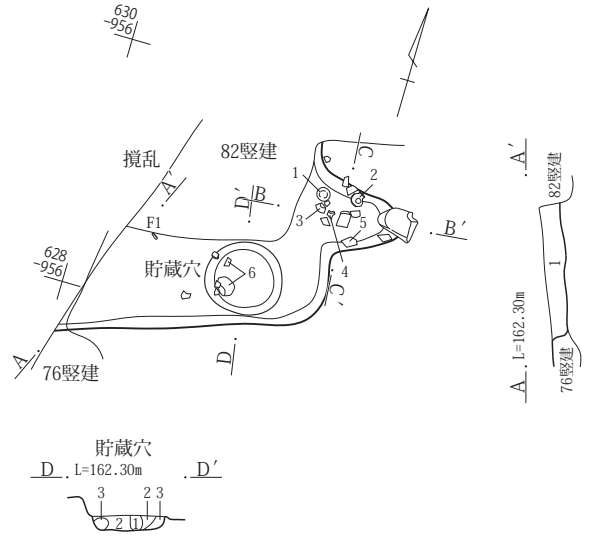
92号竪穴建物Ａ－Ａ′
①　黒褐色土(10YR3/2)　As－Ｃ混土、土質均質しまりあり。
②　黒褐色土に黄色の細かい線あり、硬くしまり貼床。
貯蔵穴D－D′
1a　黒褐色土(10YR3/2)　しまりやや弱い。粘性あり。
1b　1a層より粘性、わずかにローム小塊含む。しまりあり。

カマド



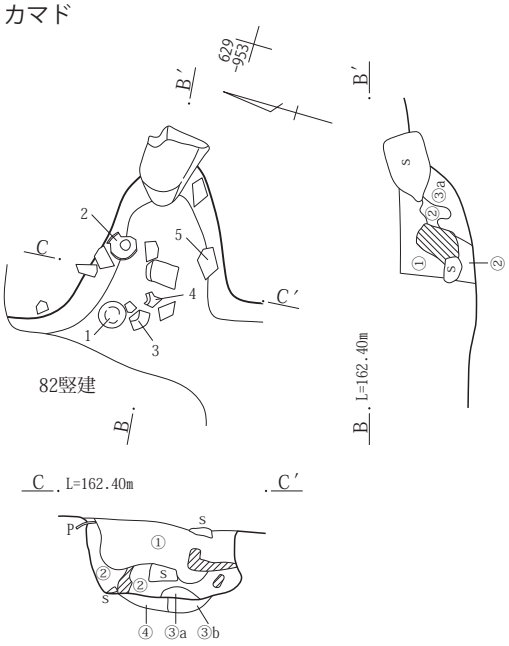
カマドＢ－Ｂ′・Ｃ－Ｃ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊多く、焼土粒含む。
2　くすんだローム土にローム小塊多量に含む。一括埋土。
3　黒褐色土にローム小塊含む。

93号竪穴建物



93号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As－Ｃ混土にローム粒、焼土粒含む。しまりあり。
貯蔵穴D－D′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　しまり・粘性あり。
3　１層に似るが、硬質ローム塊多く含む。(壁崩落)

カマド

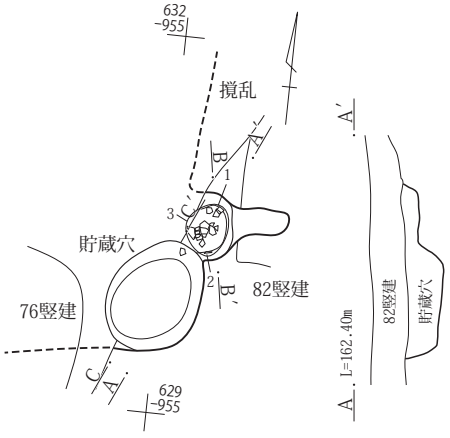


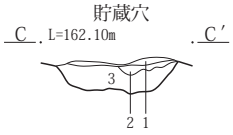
カマドＢ－Ｂ′・Ｃ－Ｃ′
①　黒褐色土(10YR3/2)　As－Ｃ混、ローム小塊含む。
②　にぶい黄褐色土(10YR)　ローム小塊、焼土小塊混土、粘性ややあり。
③a しまり弱い にぶい赤褐色土。(灰層か)。
③b ③ａ層より暗色　フカフカしている。
④　焼土層 硬くしまり、地山硬質ロームの焼土化。

0　1：30　1m
0　1：60　2m

第313図　３面　Ｈ区92・93号竪穴建物

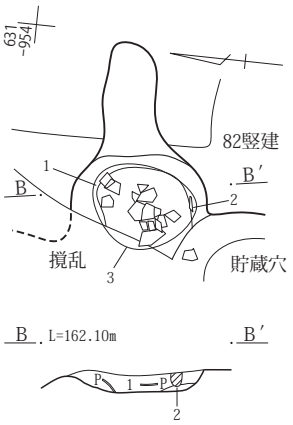
94号竪穴建物





94号竪穴建物貯蔵穴Ｃ－Ｃ′
1　ローム小塊、焼土小塊を多く含む。 硬くしまる。貼床 。
2　黒色土と暗褐色土の混土、しまり・粘性あり。
3　くすんだローム土に硬質ローム塊混じる。

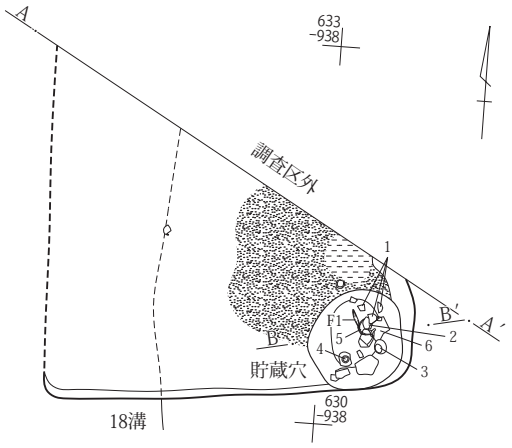
カマド

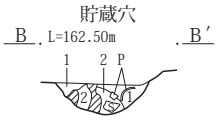


カマドＢ－Ｂ′
1　暗褐色土に焼土小塊粒を含む。
2　赤褐色の焼土塊主体。

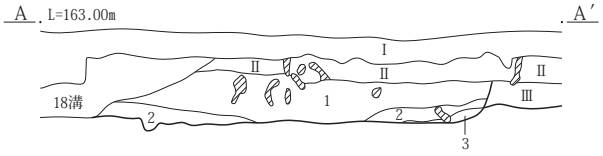
0　1：30　1m

95号竪穴建物





貯蔵穴Ｂ－Ｂ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム細粒を多く、焼土粒わずかに含む。しまり弱い。
2　黒褐色土にローム小塊に入る。ややしまりあり。

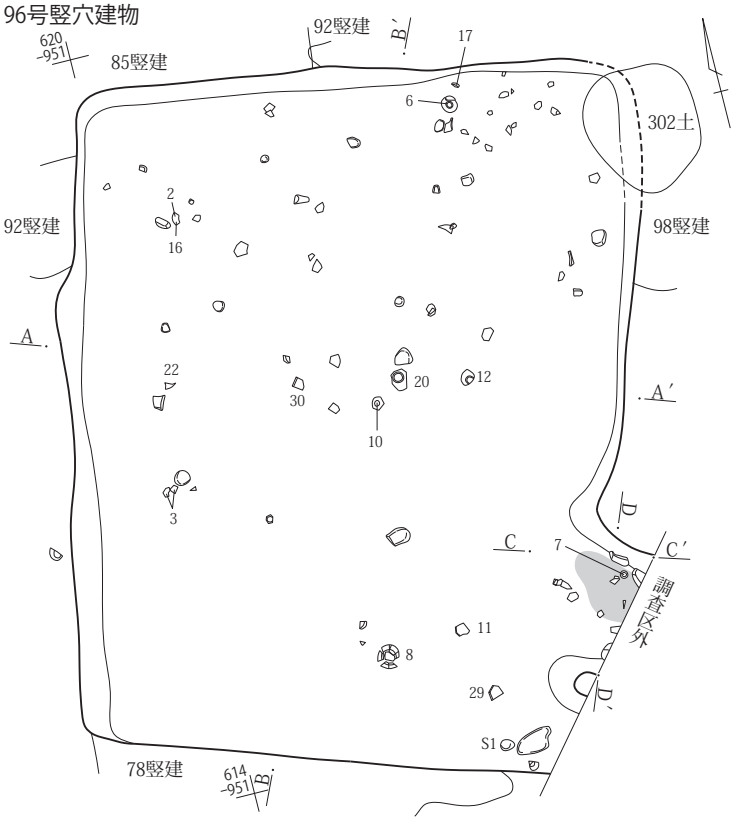


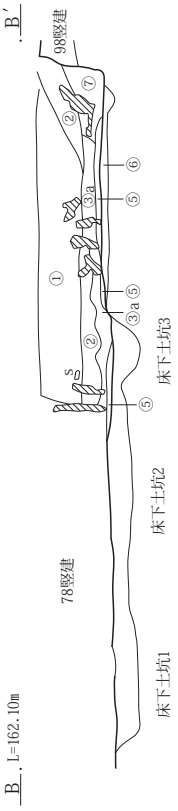
95号竪穴建物Ａ－Ａ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C極多量、ローム小塊をやや多く含み、18号溝よりもやや明るい。
2　暗褐色土(10YR2/3)　ローム塊を斑に多く含む。しまりは良い。
3　暗褐色土(10YR2/3)　焼土粒子及び焼土塊を含み､若干赤みを帯びる。

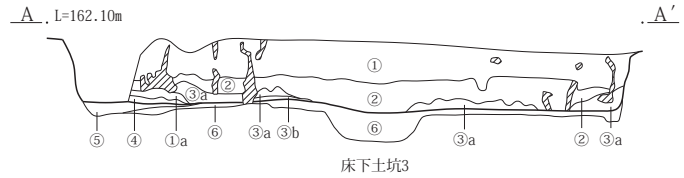
0　1：60　2m

第314図　３面　Ｈ区94・95号竪穴建物

96号竪穴建物

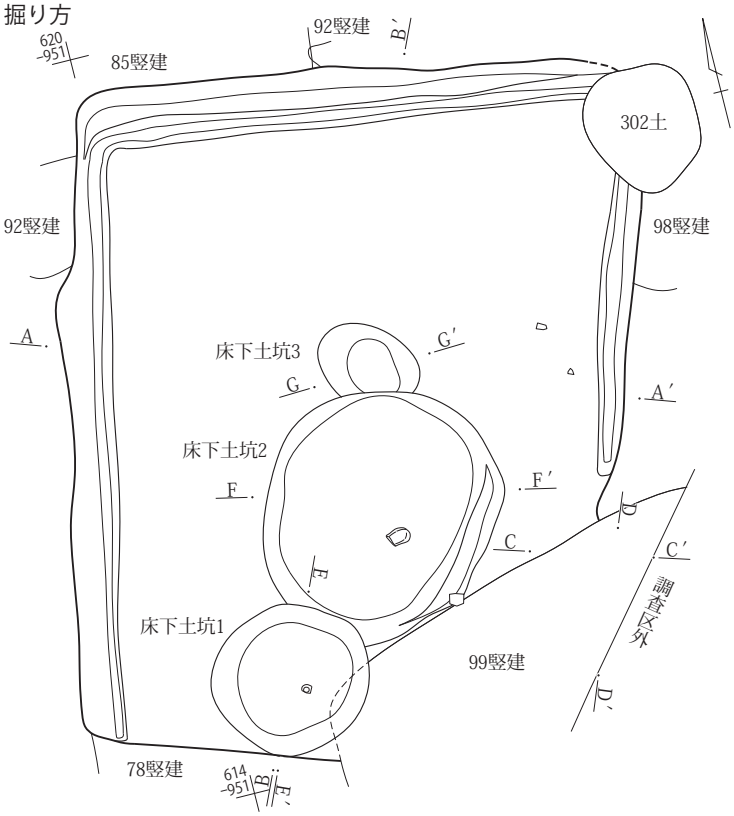


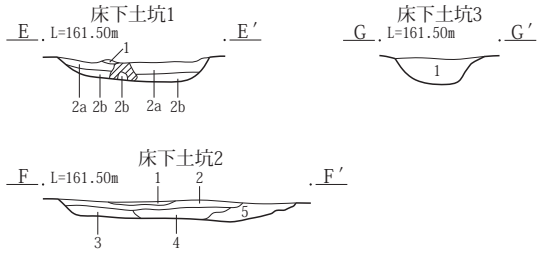




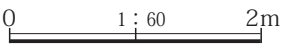
96・97・98号竪穴建物A-A′・B-B′
① 暗褐色土(10YR3/3) As-C混土根の侵入多く、わずかにローム小塊含む。
①a ①層に類似するが、全体に灰白色土を薄く含む。
② 褐色土(10YR4/4) As-C混土にローム中小塊多く混じる。ややしまりあり。
③a 灰黄褐色土(10YR6/2) 灰白粘土と暗褐色土が混じり合いシルト化、灰白粘土小塊炭粒をわずかに含む。
③b 灰白色粘土の塊多く含む。粘性あり。シルク質。
④ 灰黄褐色土(10YR5/2) わずかに炭化物含む。粘性・しまりあり。
⑤ 灰黄褐色土(10YR5/2) 4層にローム小塊、くすんだローム土含む。硬くしまる。貼床。
⑥ 褐色土とローム塊混土。
⑦ 黒褐色土(10YR3/2) ローム小・塊・褐色土塊含む。

掘り方



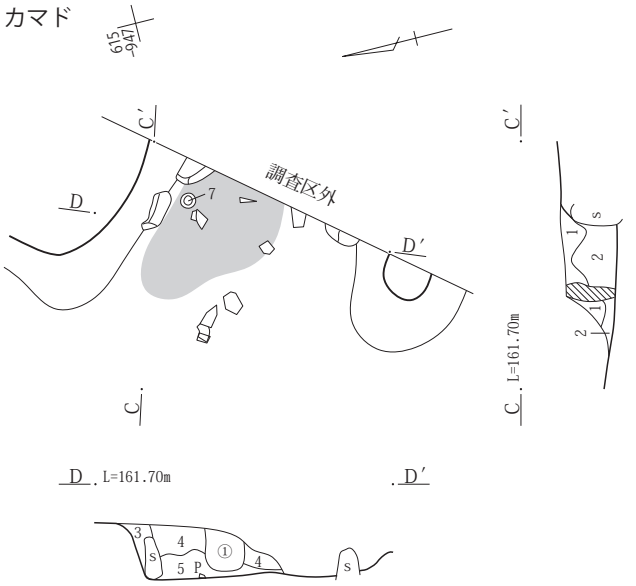


床下土坑１E-E′
1 ローム塊主体、As-C混土混じり。
2a 暗褐色土(10YR3/3) As-C混土にローム小塊含む。ややしまりあり。
2b 2a層に硬質ローム塊混じる。
床下土坑２F-F′
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム小塊含む。硬くしまる。
2 暗褐色土にローム塊とAs-YP粒がクランチ状に入る。非常に硬くしまる。貼床。
3 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊混じる。しまりあり。
4 灰黄褐色土(10YR5/2) 硬質小塊、ローム塊混じる。しまりあり。
5 灰黄褐色土 ローム中小塊、硬質塊の混土、硬くしまる。
床下土坑３G-G′
1 ローム塊を多量に含む。くすんだ黄褐色土、硬くしまる。一括埋土。



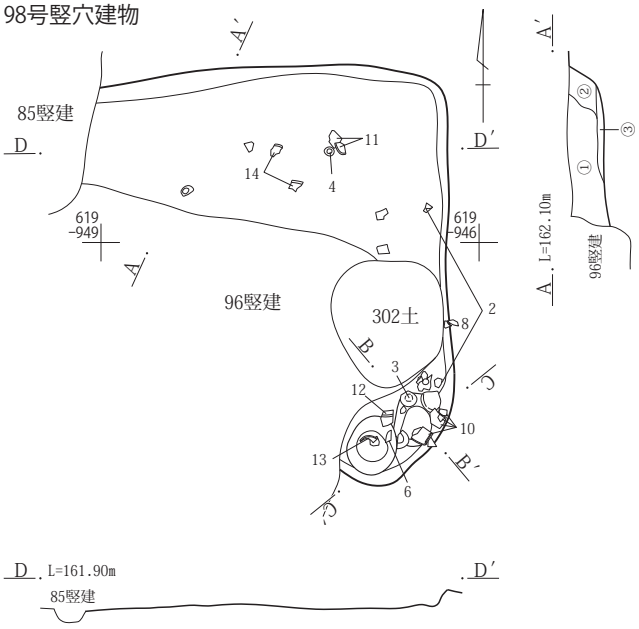
第315図　３面　H区96号竪穴建物

カマド



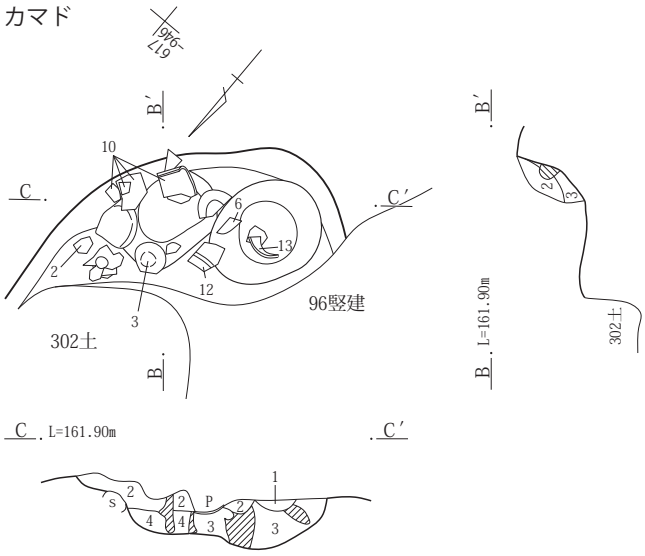
カマドC－C′・D-D′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As－C混土にローム塊含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム細粒を多く、わずかにローム小塊・焼土小塊含む。
3　明黄褐色ローム。
4　くすんだローム土にローム塊混じる。天井崩落土。
5　焼土層、ロームの焼土化した層。

98号竪穴建物



98号竪穴建物Ａ－Ａ′
①　黒色土(10YR2/1)　As－C混。土質均質。夾雑ない。
②　暗褐色土(10YR3/3)　As－C少なく、ローム小塊わずかに含む。
③　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊わずかに含む。やや硬くしまる。

カマド

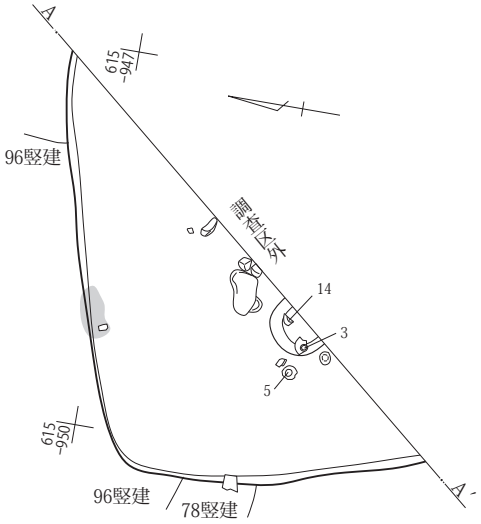


カマドB－B′・C－C′
1　ローム塊混土。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As－C混土。木の根多い。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム土・小塊含む。わずかに焼土粒・炭含む。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム小塊、焼土小塊含む。炭粒みられる。

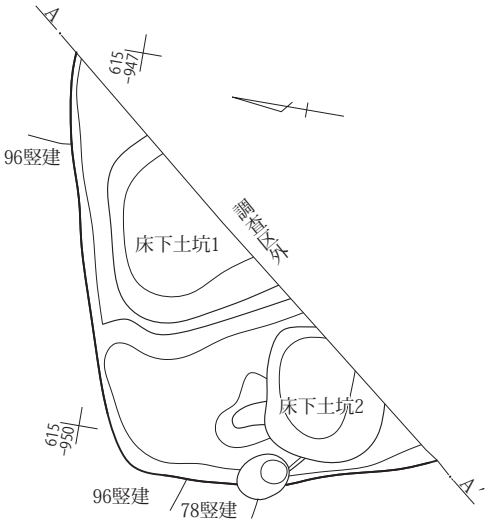
0　1：30　1m
0　1：60　2m

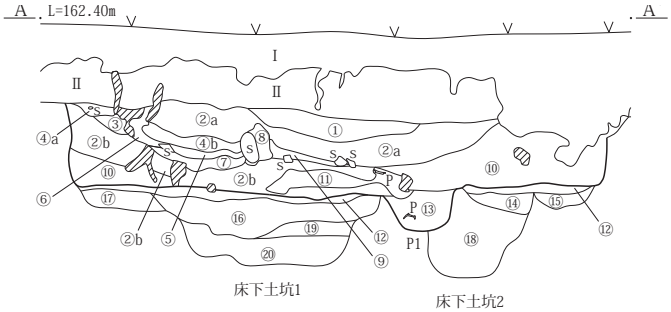
第316図　３面　H区96・98号竪穴建物

99号竪穴建物



掘り方



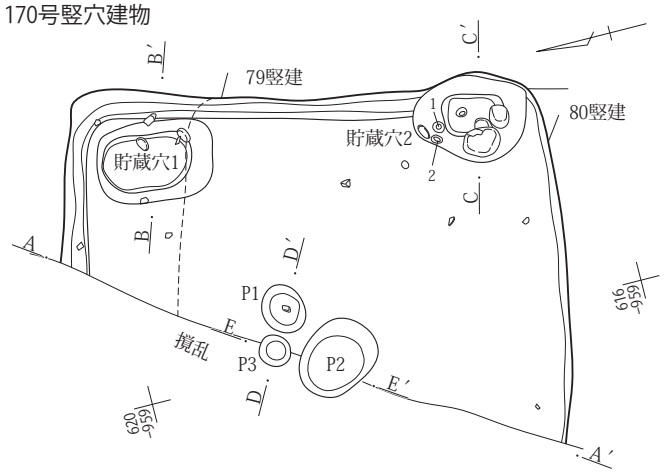


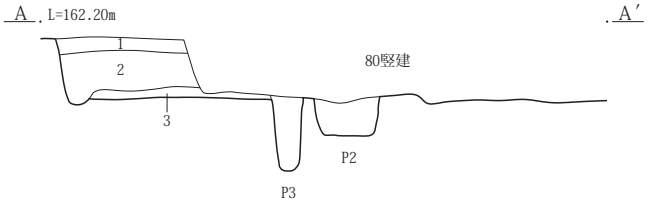
99号竪穴建物Ａ－Ａ′
① 黒褐色土(10YR3/2) As-C混土。わずかに炭粒・焼土粒含む。
②a 暗褐色土(10YR3/4) As-C混土にローム塊含む。炭粒・焼土粒わずかに含む。
②b ②a層よりやや焼土小塊、多く含む。
③ 黒色土(10YR2/1) わずかにAs-Cと焼土粒含む。
④a 黒褐色土 ローム塊を多量に含む。
④b ④a層に焼土塊、くすんだローム土混じり。
⑤ 焼土内塊と灰白色灰の混土。しまり弱く、ぼそぼそした層。
⑥ くすんだ赤褐色土でロームの焼土化した層。
⑦ 赤褐色焼土層。焼けが強い。シルト化。
⑧ にぶい黄褐色土 ローム塊、焼土粒を含む。(カマド礫 裏込め土)
⑨ 暗褐色土に青灰色灰と炭粒、焼土粒含む。かき出した灰層。
⑩ 暗褐色土(10YR3/3) わずかにAs-C含む。しまり弱く、粘性あり。
⑪ 暗褐色土とローム塊混土。
⑫ 焼土塊、ローム小塊。As-YP混じり。しまりやや強い。(粘床)
⑬ 黒色土(10YR2/2) わずかにローム小塊含む。しまり弱い。
⑭ 暗褐色土(10YR3/4) 焼土粒・ローム小塊・As-YP粒含む。
⑮ 黒褐色土(10YR3/2) ローム小塊混じり。しまり・粘性あり。
⑯ ローム小塊、As-YP。黒褐色土小塊混土。
⑰ 黒褐色土 ローム塊多く含む。
⑲ As-YP主体。ローム塊、黒色土わずかに含む。
⑳ 黄褐色の汚れたAs-YP層。

0 1：60 2m

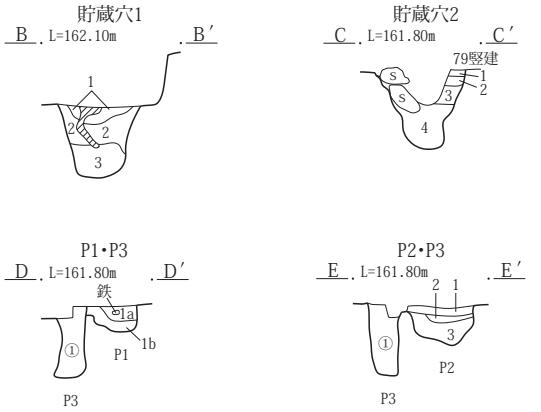
第317図 ３面 H区99号竪穴建物

170号竪穴建物



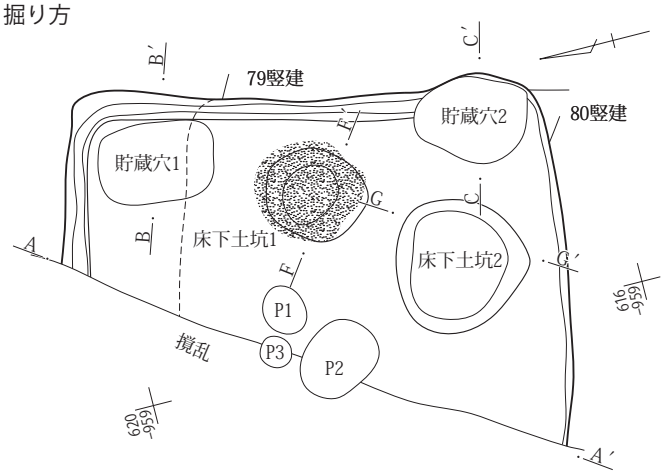


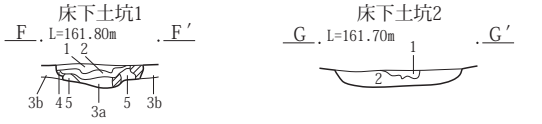
170号竪穴建物A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土に褐色土塊多く含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土。夾雑物少ない。
3　褐色土(10YR4/4)　ローム小塊。黒色土小塊の混土。硬くしまる。貼床。



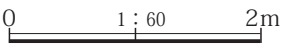
貯蔵穴１B-B′
1　暗褐色土(10YR3/4)　As-Cわずかに含む。土質均質しまり弱い。
2　ローム中・小塊多く含む。焼土粒・炭粒含む。
3　黒褐色土(10YR2/2)　わずかにローム粒含み、しまり弱い。土質均質。
貯蔵穴２C-C′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　1層にローム塊混じる。硬くしまる。
2　暗褐色土塊As-C混。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム土混じりのAs-C混土にローム中・小塊混じる。
4　黒褐色土(10YR3/2)　わずかにローム小塊含む。しまり弱い。
Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３D-D′・E-E′
1a　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　くすんだローム土に焼土粒わずかに含む。
1b　1a層より明るく、ローム細粒多く含む。
①　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-C混。わずかにローム粒含む。
1　灰白色粘土、ローム小塊焼土粒の混土。しまり強い貼床。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　わずかにローム粒、焼土粒含む。
3　にぶい黄褐色土にローム小塊多量に含む。

掘り方



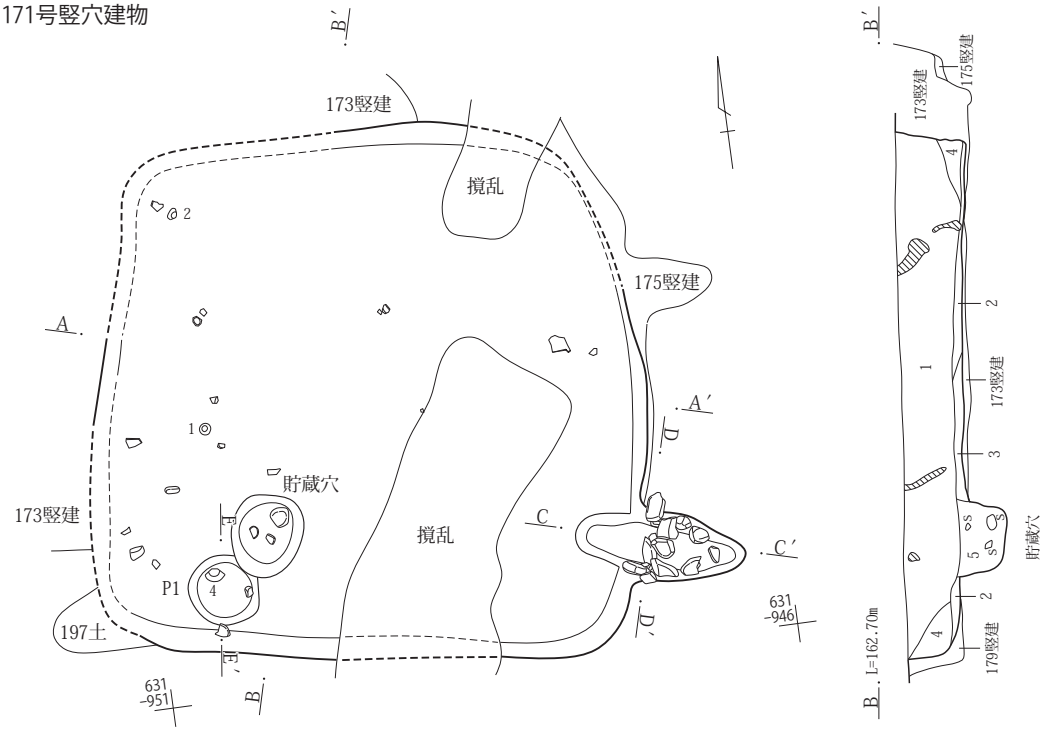


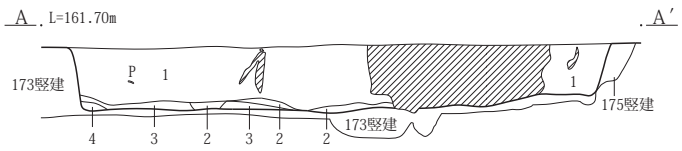
床下土坑１F-F′
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊含む。しまりあり。
2　くすんだローム土に焼土粒、ローム小塊混じり。
3a　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　くすんだローム土と暗褐色土の混土。
3b　3a層よりやや暗色土多く含む。
4　ローム塊、粘性あり。
5　明黄褐色ロームややシルト質で硬い。
床下土坑２G-G′
1　ローム塊主体。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊多く混じる。しまりあり。

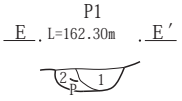


第318図　３面　H区170号竪穴建物

171号竪穴建物



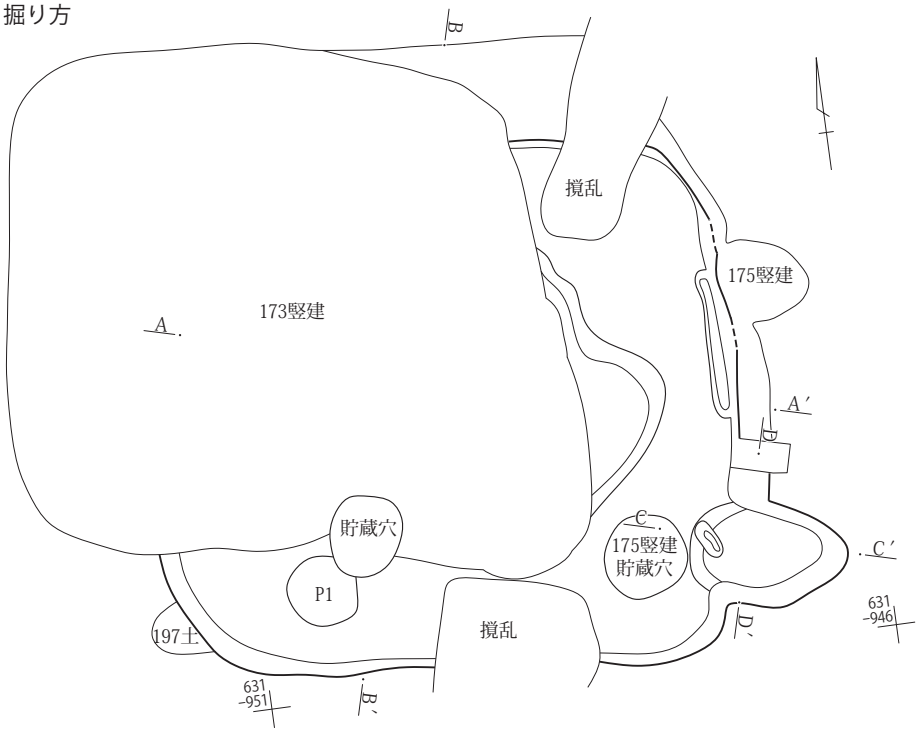


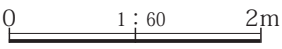


171号竪穴建物A-A′・B-B′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混。焼土粒含む。しまりあり。
2　黒褐色土とローム土が互層　硬くしまる。
3　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・炭粒わずかに含む。やや硬くしまる。
4　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土、やや黒色が強い。
5　黒褐色土(10YR3/2)　礫混入。しまり弱い。

P１E-E′
1　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄褐色土塊少量、しまり弱、粘性あり
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量、遺物を含む。しまり・粘性あり。

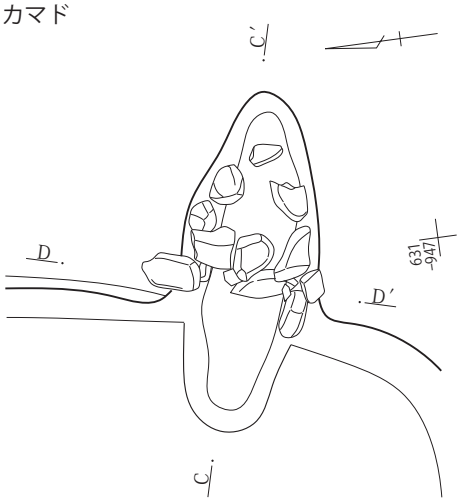
掘り方



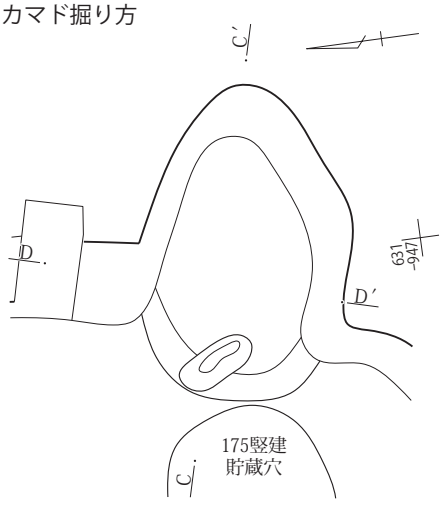


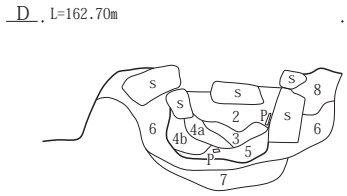
第319図　３面　H区171号竪穴建物

カマド



カマド掘り方

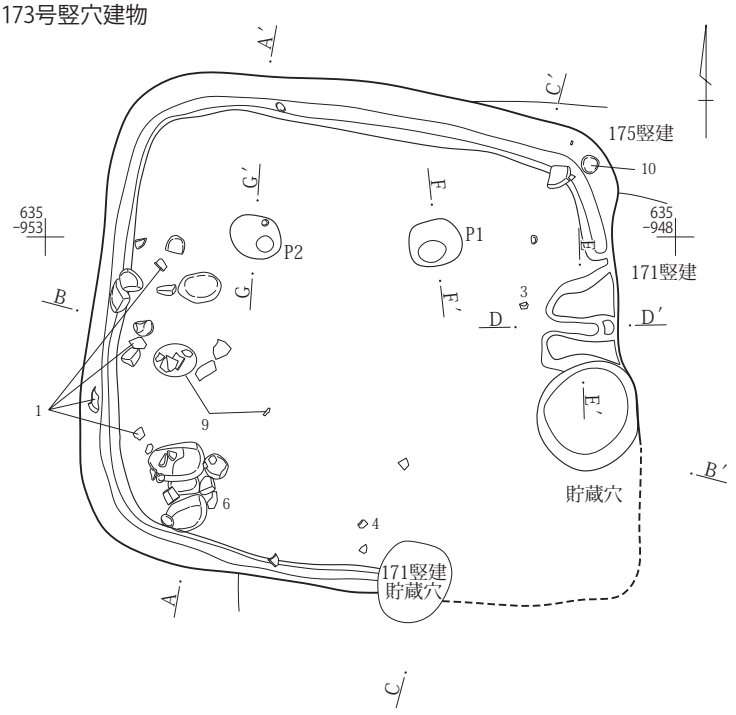


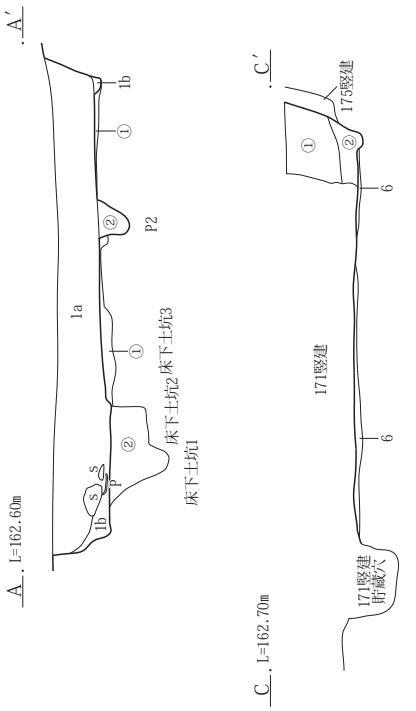


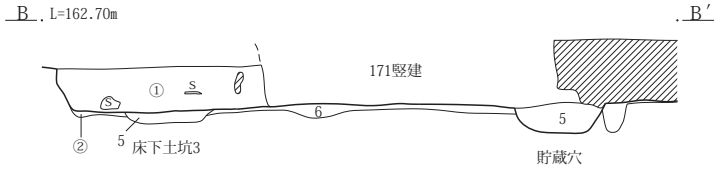
カマドC-C′・D-D′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混土、木の根多く入る。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム塊やや多く含む。わずかに焼土粒含む。
3　明黄褐色ローム主体、灰黄褐色土混じり。カマド構築材。
4a　暗褐色土(7.5YR3/3)　焼土粒を多く含む。しまり弱い。(灰層か)。
4b　4a層よりローム小塊含む。
5　褐色土(10YR4/4)　焼土粒混じり、しまり弱い。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小～大塊を含む、にぶい黄橙色粒少量、焼土粒を含む、しまり・粘性あり。
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒少量、炭化物と焼土粒少量、締りややあり、粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム小塊多量、As-YP多量、しまり・粘性あり。

0　1：30　1m

173号竪穴建物



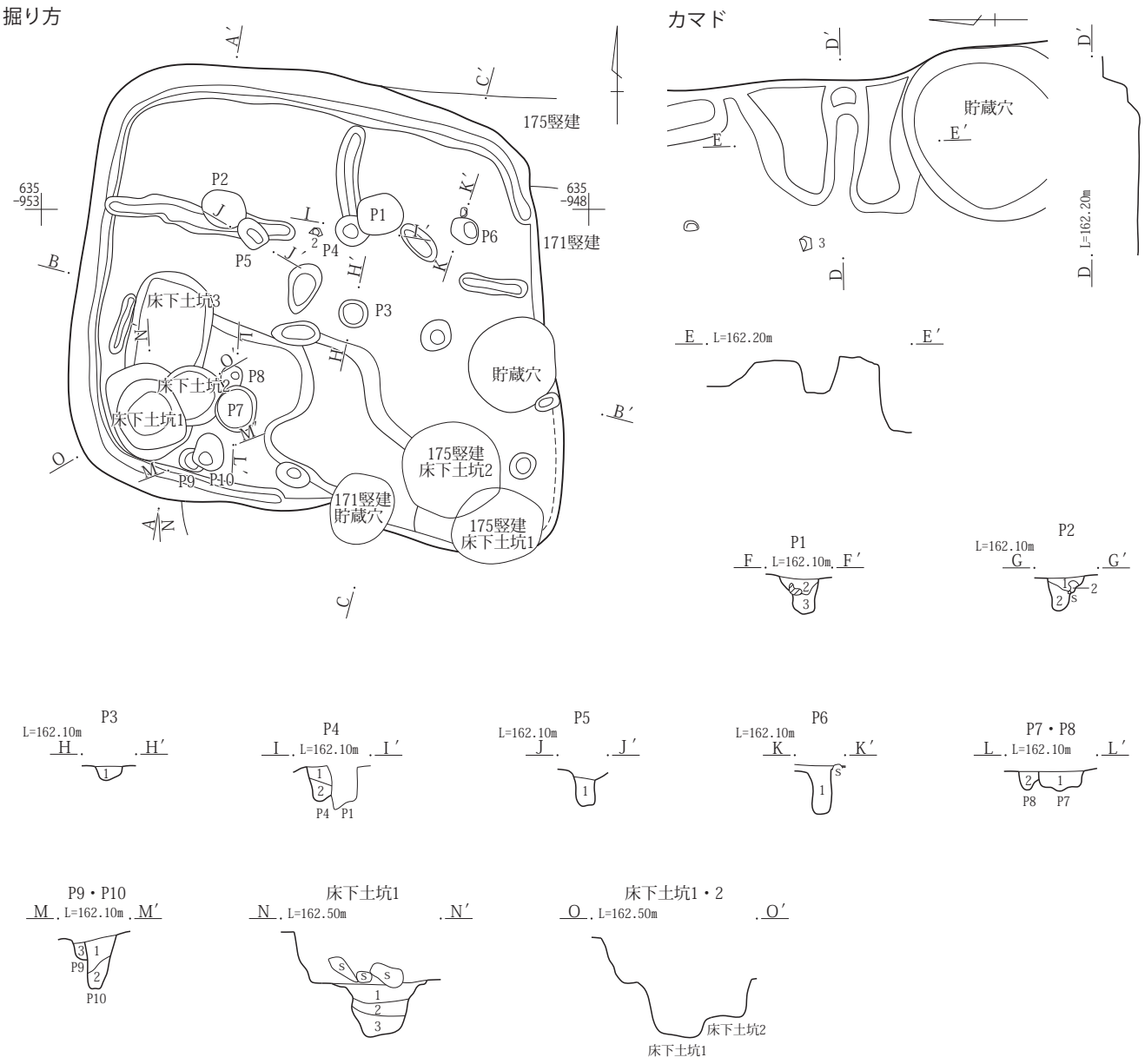




0　1：60　2m

173号竪穴建物A-A′・B-B′・C-C′
1a　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混土。わずかにローム小塊含む。土質均質。
1b　暗褐色土(10YR3/3)　As-Cを1a層よりもやや少なく、ローム小塊を少量含む。1a層よりもややしまりは悪い。
①　暗褐色土(10YR3/3) As-C混土であるがやや軽石少ない。
②　黒褐色土(10YR3/2)　①層より黒色味強く、ローム塊含む。粘性・しまりあり。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約１～３㎝塊多量、締り弱、粘性あり、掘り方埋没土。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊～大塊・粒多量、しまり・粘性あり。

第320図　３面　H区171・173号竪穴建物

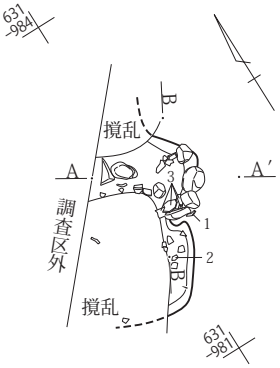


Ｐ１F-F′
2　１層上にローム塊多量に含む。しまり弱い。
3　ローム塊をわずかに含む。暗褐色土。しまり弱い。
Ｐ２G-G′
1　暗褐色土(10YR3/3)　軽石・ローム粒を含む。しまり弱い、粘性あり。
2　１層上にローム塊多量に含む。しまり弱い。
Ｐ３H-H′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　約５㎜のローム小塊・灰白色粒少量含む。しまり強、粘性あり。
Ｐ４I-I′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-YP・約１㎝のローム小塊多量含む。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　褐色土大塊を含む。しまり・粘性あり。
Ｐ５J-J′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-YP多量、ローム約５㎜塊・灰白色粒少量含む。しまり強、粘性あり。
Ｐ６K-K′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-YP多量、ローム約５㎜塊・灰白色粒少量含む。しまり強、粘性あり。
Ｐ７・８L-L′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム約３㎝塊少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土を含む。しまり・粘性あり。
Ｐ９・10M-M′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム約３㎝塊を含む。しまり弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒多量、As-YPを含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　１層に類似、ローム粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
床下土坑１N-N′
1　暗褐色土(10YR3/3)　土質均質。しまり弱い、粘性あり。
2　暗赤褐色土(5YR3/3)　焼土塊。炭化物含む。暗褐色土の焼土化したような土質であるが、灰層が見られず、その場で焼いたようではない。
3　暗褐色土(10YR3/3)　軽石はあまり含まず、ローム小塊含む。しまりやや弱、粘性あり。

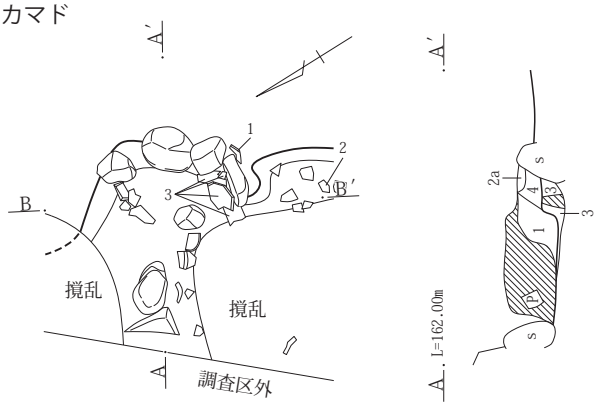
0　1：60　2m

第321図　３面　H区173号竪穴建物

174号竪穴建物



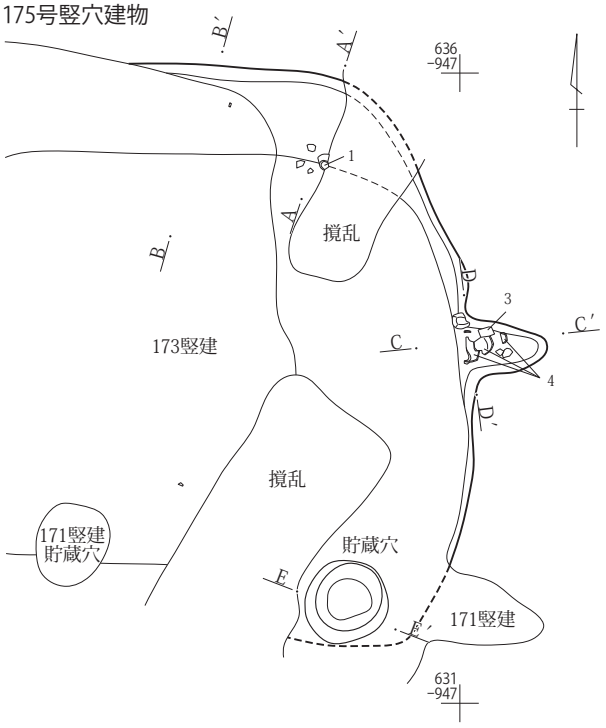
カマド



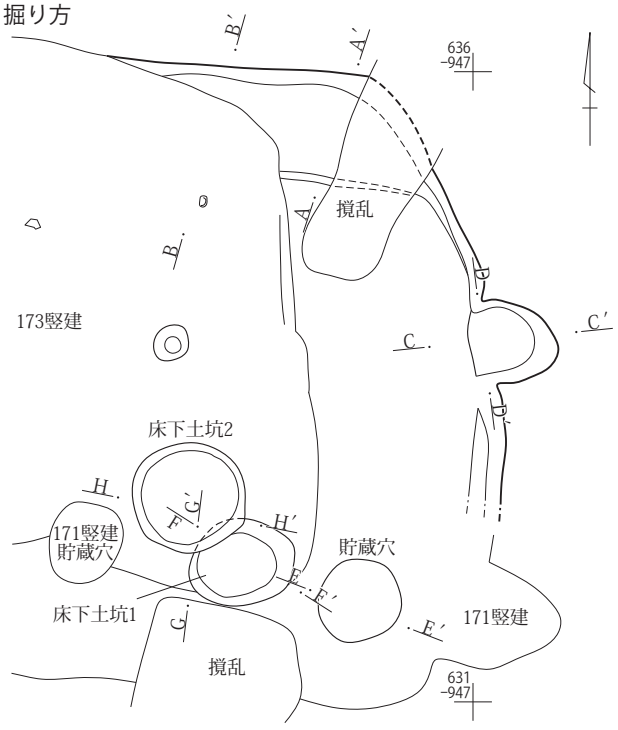
174号竪穴建物カマドA－A′・B－B′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊、黒褐色土塊混土。
2a　明黄褐色の粘性の強いローム土。下部、焼土化。カマド構築土。
2b　2a層の塊、焼土塊、にぶい黄褐色土の混土。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒・ローム粒含む。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒・ローム粒わずかに含む。

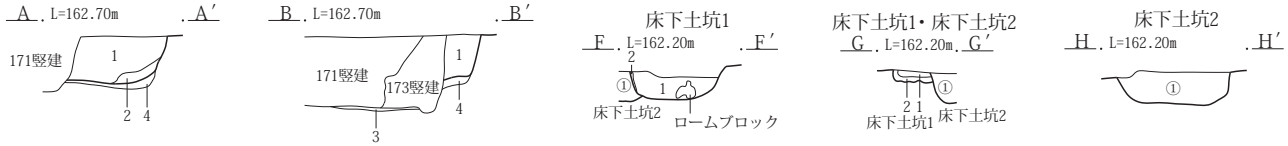
0　1：30　1m

175号竪穴建物

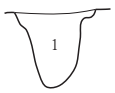


掘り方





貯蔵穴
E. L=162.30m



175号竪穴建物A-A′・B-B′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混、わずかに焼土粒・炭粒含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　漸移層塊とAs-C混土混じり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム小塊～大塊・粒多量、しまり・粘性あり。
4　黒褐色土(10YR2/2)　暗褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。

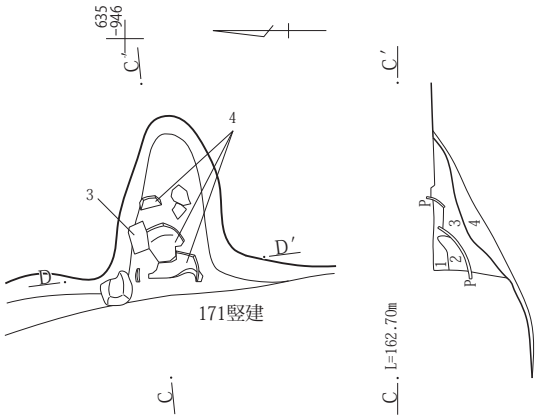
貯蔵穴E-E′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As-C混。わずかに焼土粒・炭粒含む。

床下土坑１・２F-F′・G-G′・H-H′
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　焼土、ローム小塊含む。粘性あり。
2　くすんだローム塊に粘性のあるローム土塊含む。
①　暗褐色土(10YR3/3)　ローム小塊を多く、焼土粒・炭粒含む。しまり・粘性あり。

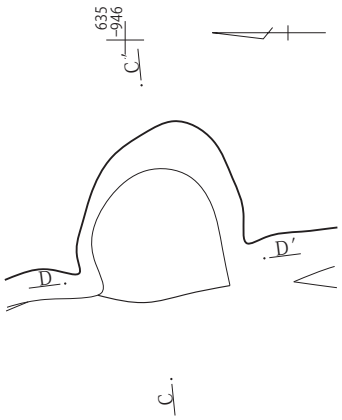
0　1：60　2m

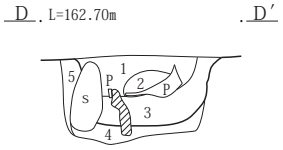
第322図　３面　H区174・175号竪穴建物

カマド



カマド掘り方

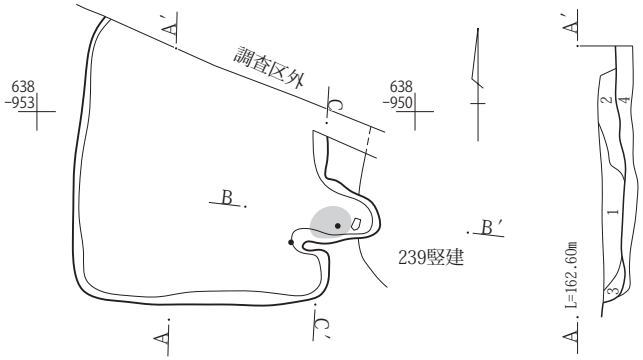




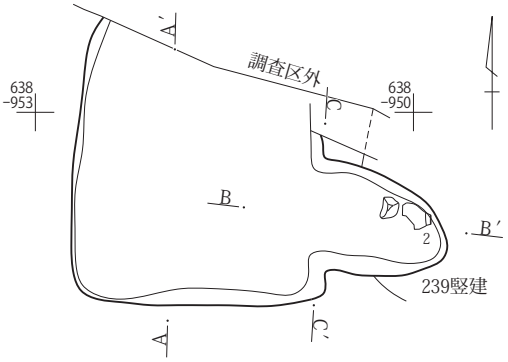
カマドC－C′・D－D′
1　暗褐色土(10YR3/3)　As－C混に土器片含む。
2　くすんだローム土にAs－C混土わずかに含む。やや焼土化。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　漸移層にAs－C混土含む。
4　暗褐色土(10YR3/3)　にぶい黄橙色粒少量、褐色土を含む。しまり・粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄橙色粒・As－C少量含む。しまり強、粘性あり。

0　1：30　1m

225号竪穴建物



掘り方

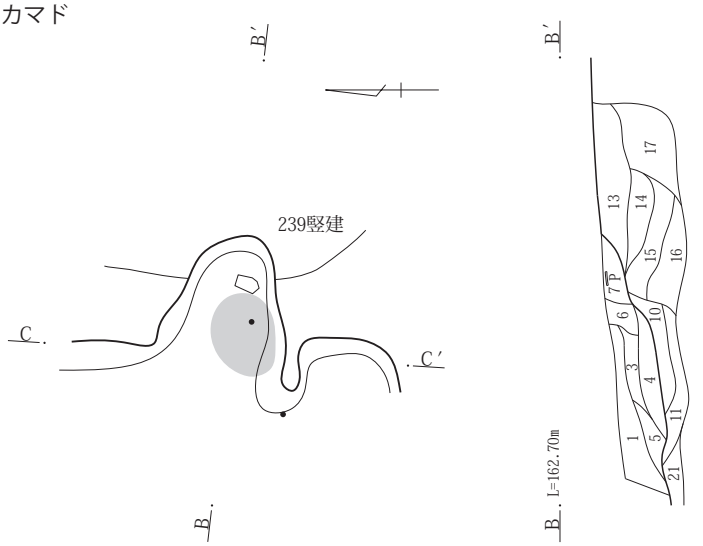


225号竪穴建物A－A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As－C少量、灰黄褐色土塊を含む。しまり強、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　しまり弱、粘性強。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小～大塊・黒褐色土を含む。しまり強、粘性あり。掘り方。

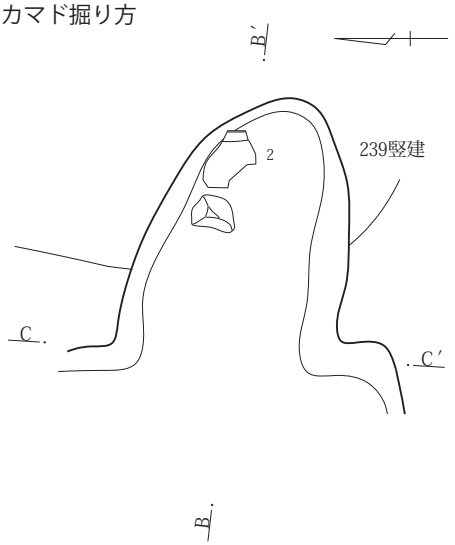
0　1：60　2m

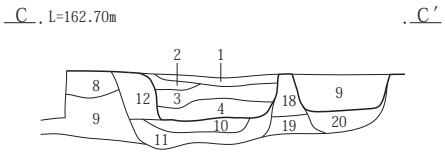
第323図　３面　H区175・225号竪穴建物

カマド



カマド掘り方

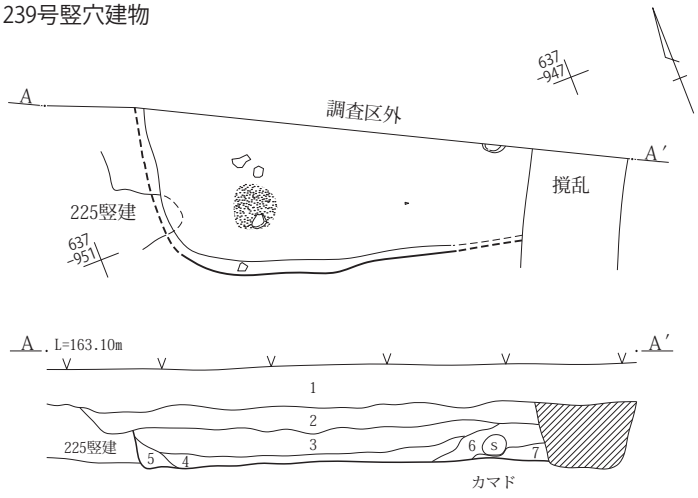




カマドB-B′・C-C′
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　ローム約１㎝塊多量、As-C少量含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約１㎝塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　焼土小塊・粒を含む。しまり弱、粘性あり。
4　褐色土(7.5YR4/3)　焼土小塊・粒多量含む。しまり弱、粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/6)　焼土粒微量、ローム小～大塊を含む。しまり強、粘性あり。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム塊主体、焼土粒多量含む。しまり・粘性あり。
7　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒少量、炭化物微量、遺物を含む。しまり・粘性あり。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　２層に類似、ローム小塊少量含む。しまり・粘性あり。
9　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒・にぶい黄橙色粒・灰白色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
10　黒褐色土(10YR3/2)　As-C多量、焼土粒・遺物を含む。しまり弱、粘性あり。
11　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
12　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄褐色土を含む。しまり・粘性あり。
13　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小塊・炭化物を含む。しまりややあり、粘性あり。
14　灰黄褐色土(7.5YR4/2)　灰白色粒少量、ローム約１㎝塊・焼土粒を含む。しまりややあり、粘性あり。
15　灰黄褐色土(5YR4/2)　焼土小塊約１㎝多量、ローム小塊・As-Cを含む。しまりややあり、粘性あり。
16　黒褐色土(10YR3/1)　焼土小塊・炭化物と灰を含む。しまりややあり、粘性あり。
17　黒褐色土(10YR3/1)　焼土粒少量、炭化物を含む。しまり弱、粘性あり。
18　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黄褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。
19　灰黄褐色土(10YR5/2)　にぶい黄橙色粒少量含む。しまり強、粘性あり。
20　黒褐色土(10YR3/2)　９層に類似、にぶい黄橙色粒少量含む。しまり・粘性あり。
21　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム小～大塊・黒褐色土を含む。しまり強、粘性あり。

0　1：30　1m

239号竪穴建物

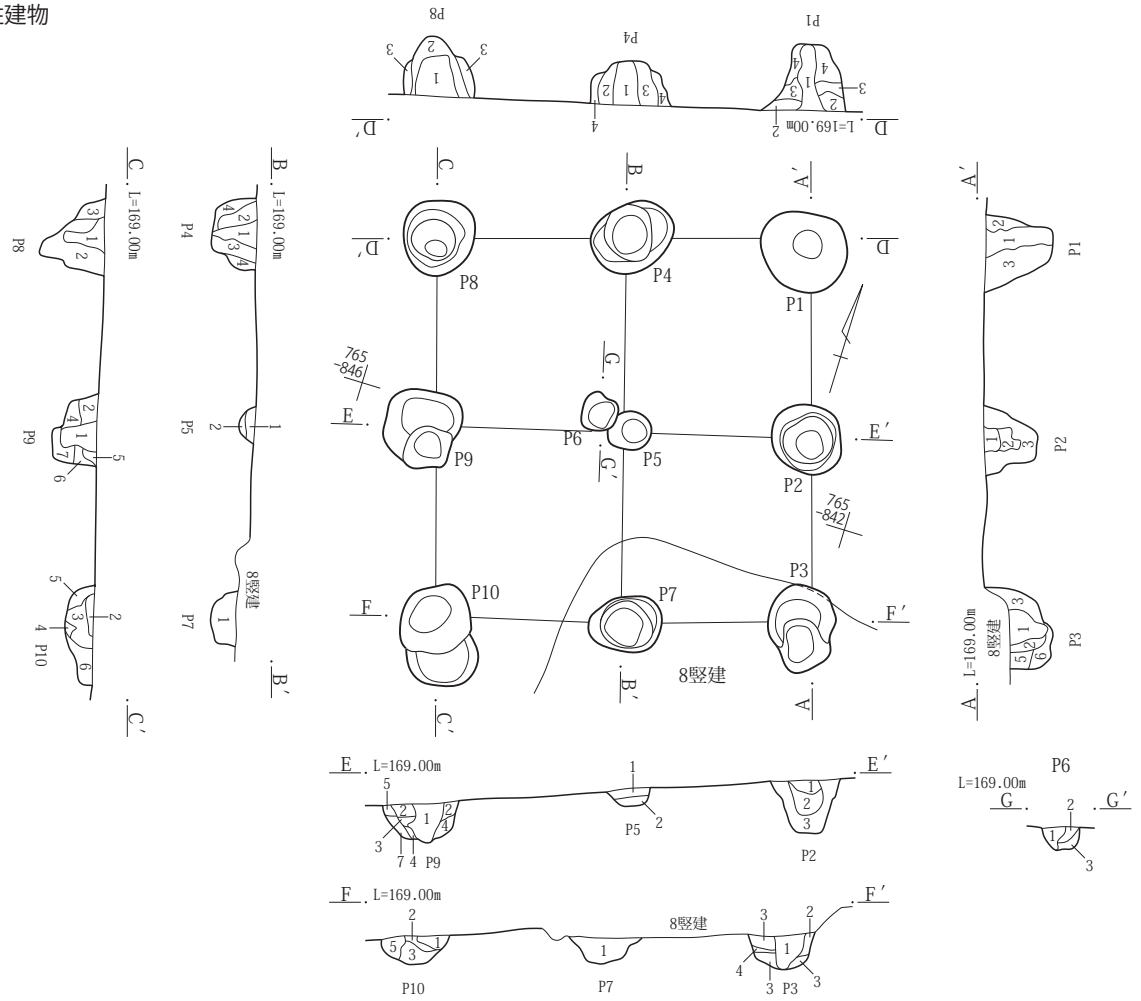


239号竪穴建物A-A′
1　表土　As-B多量。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C・明褐色粒・炭化物多量含む。しまり弱、粘性あり。圃場整備造成土。
3　黒褐色土(10YR3/1)　焼土小塊約５㎜・ローム約１㎝塊少量含む。しまり強、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約１～３㎝塊少量、焼土小塊微量含む。しまり弱、粘性あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム約３㎝塊多量含む。しまり弱、粘性あり。
6　褐色土(75YR4/3)　焼土大塊・礫を含む。しまり弱、粘性あり。
7　灰褐色土(75YR4/2)　焼土塊少量含む。しまり・粘性あり。

0　1：60　2m

第324図　３面　H区225・239号竪穴建物

１号掘立柱建物



１号掘立柱建物Ｐ１
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒･ローム小塊･ローム粒を少量含む。柱痕。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-C細粒・ローム粒を少量含む。
3　黒褐色土(7.5YR3/1)　ローム塊・暗褐色土塊を多量含む。
4　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-C細粒を微量、ローム粒を少量含む。

Ｐ２
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C微粒を微量含む。柱痕。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-C細粒を微量、暗褐色土塊を少量含む。柱痕。
3　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-C細粒・ローム塊・ローム粗粒を少量含む。

Ｐ３
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を少量、暗褐色土粗粒をやや多量含む。柱痕。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒・ローム粗粒～粒を少量、As-YP粒をやや多量含む。柱痕。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒・ローム粗粒を少量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を多量含む。
5　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒・ローム粗粒～粒・暗褐色土粗粒を少量含む。
6　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒・As-YP粒・ローム小塊・ローム粒・暗褐色土粗粒を少量含む。

Ｐ４
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒・ローム粗粒を少量、ローム塊を微量含む。柱痕。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を少量、暗褐色土塊をやや多量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒・ローム塊を少量、暗褐色土塊をやや多量含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊・暗褐色土塊を多量含む。

Ｐ５
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒をやや多量、ローム粒を少量含む。硬質。

Ｐ６
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を少量含む。柱痕。
2　黒褐色土(10YR3/1)　暗褐色土塊を非常に多量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を微量、ローム粒を少量含む。柱痕。

Ｐ７
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒・As-YP粒・ローム塊・ローム粒を少量含む。

Ｐ８
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を微量、ローム粒を少量、暗褐色土塊をやや多量含む。柱痕。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を微量、暗褐色土塊を多量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を微量、ローム小塊、暗褐色土塊を多量含む。

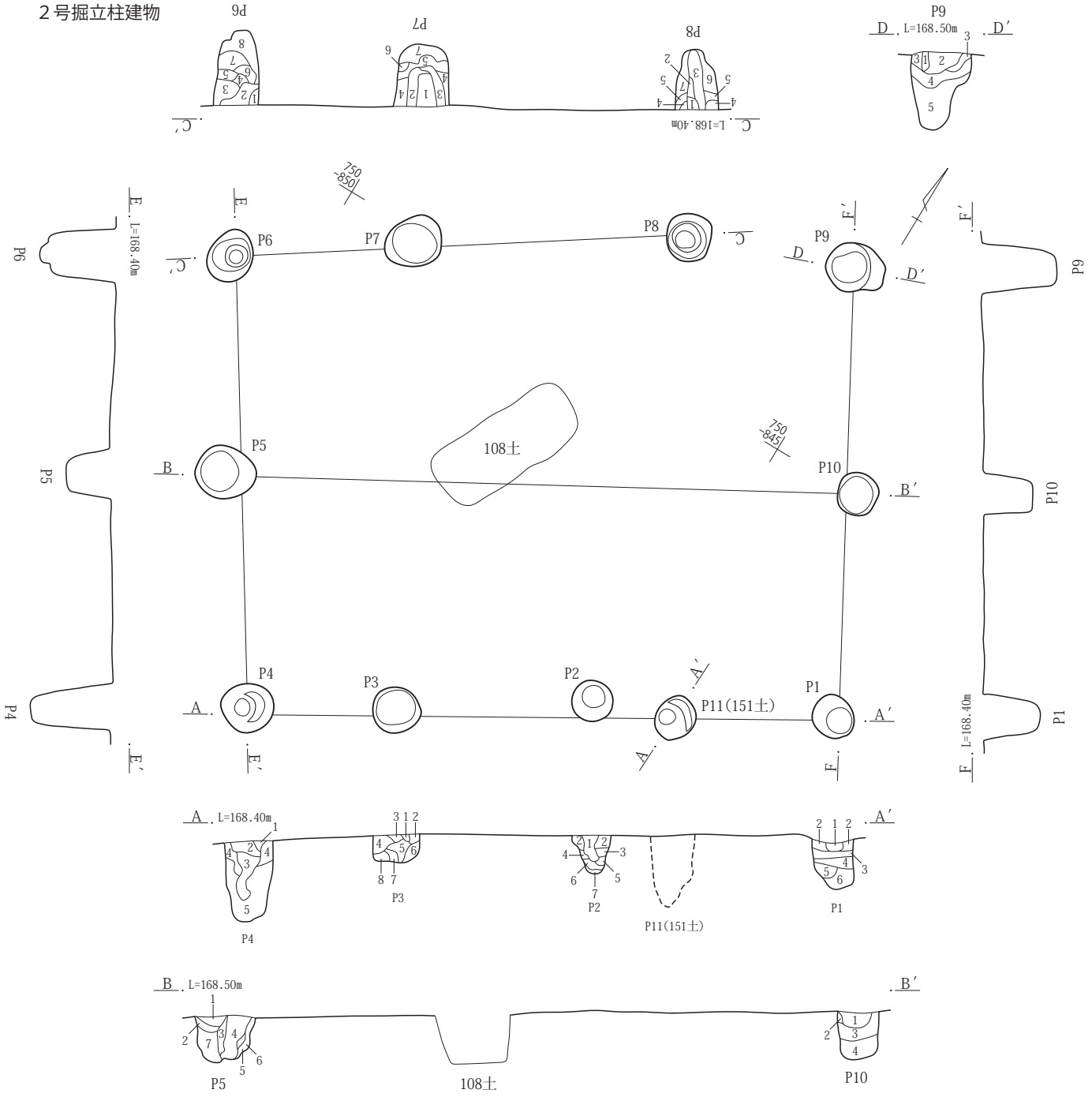
Ｐ９
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒・暗褐色土塊をやや多量、ローム粒を少量含む。柱痕。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を微量、暗褐色土粒を少量含む。
3　暗褐色土塊を主体とする。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊を多量含む。
5　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒・ローム粗粒を微量含む。
6　黒褐色土(10YR3/1)　暗褐色土塊を多量含む。
7　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒をごく微量、ローム塊をやや多量、ローム粒を少量含む。

Ｐ10
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を少量、暗褐色土塊をやや多量含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム塊を多量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1　As-C細粒・ローム粒を少量、暗褐色土粗粒をやや多量含む。
4　ローム塊を主体とする。
5　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を少量、ローム塊をやや多量含む。
6　黒褐色土(10YR3/1)　As-C細粒を少量、ローム小塊をやや多量含む。

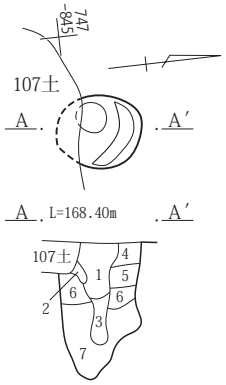
0　1：60　2m

第325図　３面　Ｆ区１号掘立柱建物

２号掘立柱建物



P11(151号土坑)



151号土坑

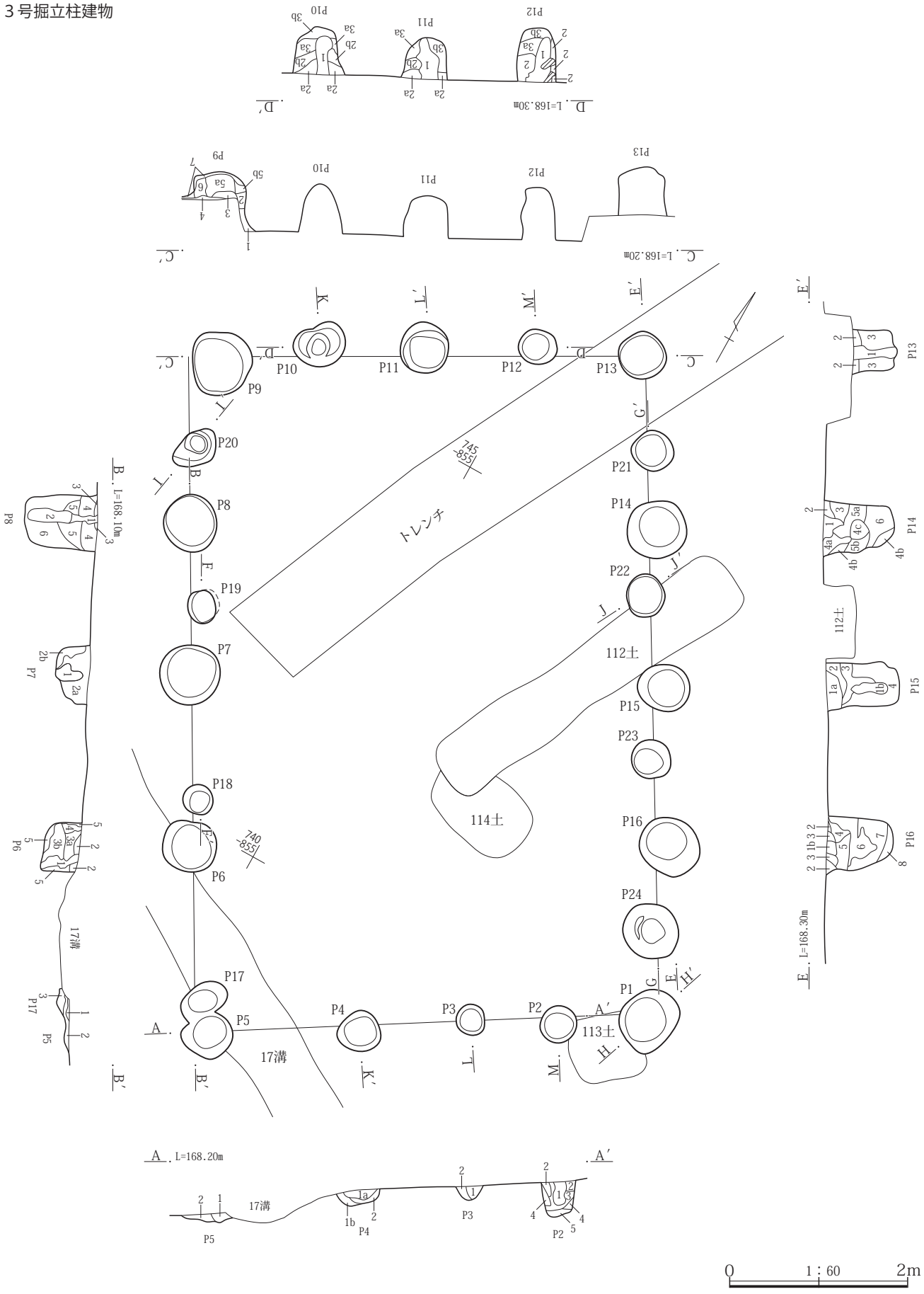
1　黄褐色土(10YR5/8)　黒褐色土(10YR2/3)　・ローム粒含む。一部しまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土多く、ローム粒ごくわずか含む。ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土わずか、ローム塊・ローム粒ごくわずか含む。ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒ごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒多く、ローム土わずか、ローム塊ごくわずか含む。一部ややしまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒ごくわずか含む。一部ややしまりなし。
7　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒ごくわずか含む。ややしまりなし。

0　1：40　1m

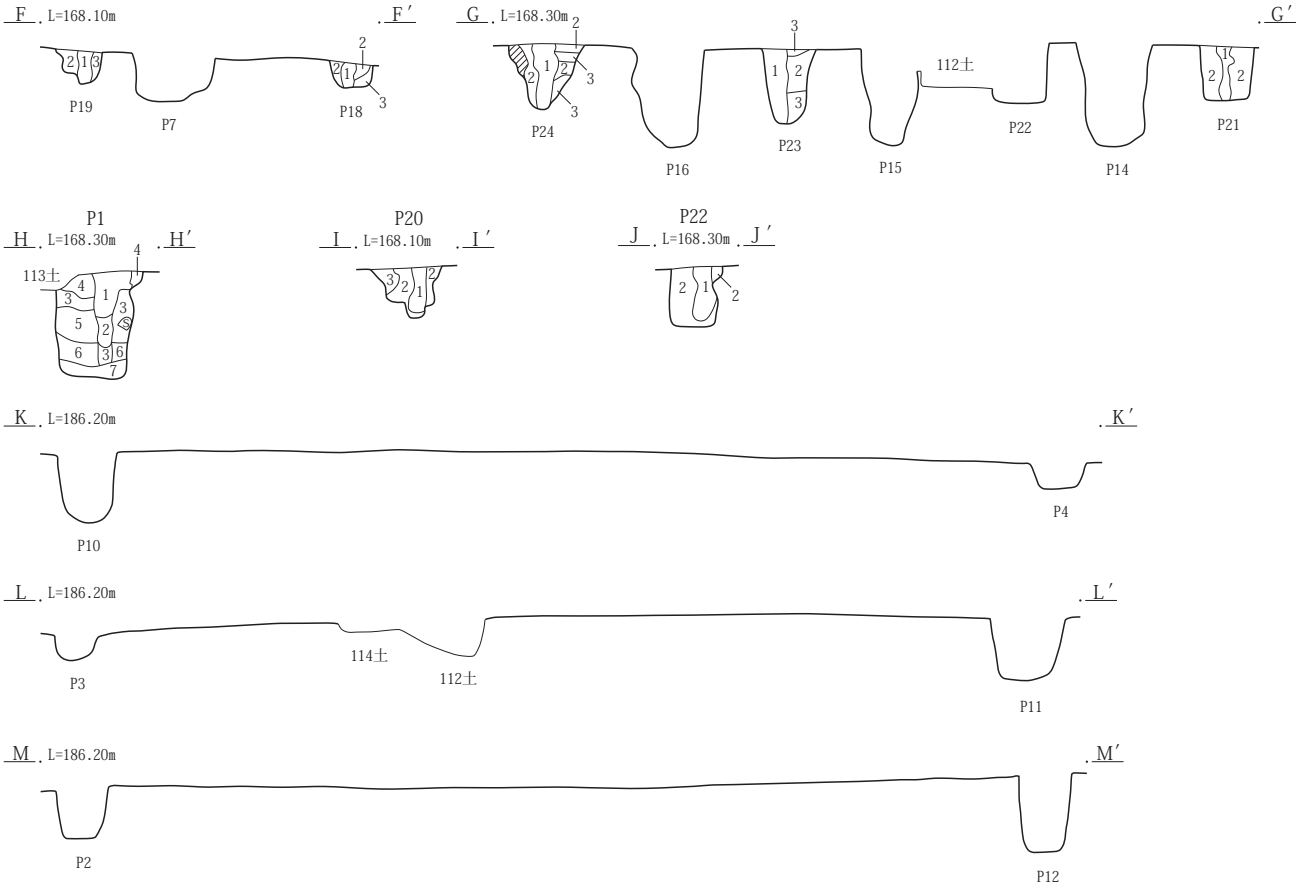
第326図　３面　Ｇ１区２号掘立柱建物

２号掘立柱建物　Ｐ１
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を非常に多く、ローム塊・ローム粒をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をわずか、ローム土をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をわずか、ローム土・ローム塊をごくわずか含む。ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊をわずか、ローム土・ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
Ｐ２
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を非常に多く・ローム塊・ローム粒を多く含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒を含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか・ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
7　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒を非常に多く含む。
Ｐ３
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)　をごくわずか、ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　１～２㎜程の礫をごくわずか含む。
5　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)・ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。
6　黒褐色土(10YR2/3)　１～２㎜程の礫をごくわずか含む。
7　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒をごくわずか含む。
8　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・ローム粒をごくわずか含む。
Ｐ４
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。
2　黄褐色土(10YR5/8)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム粒をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒を多く含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
Ｐ５
1　黒褐色土(10YR2/3)　２～５㎜程の礫をごくわずか含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。
4　黄褐色土(10YR5/8)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム塊・ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊・ローム粒をわずか含む。
7　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒をごくわずか含む。
Ｐ６
1　黒褐色土(10YR2/3)　２～３㎜程の礫をわずか含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム粒・As-Ｃ粒を多く含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土(10YR2/3)を多く、ローム粒・As-Ｃ粒を含む。
4　黄褐色土(10YR5/8)　黒褐色土(10YR2/3)をわずか、ローム粒をごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊をわずか含む。ややしまりなし。
6　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を含む。ローム塊・ローム粒をわずか含む。
7　黄褐色土(10YR5/8)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)を含む。
8　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊をわずか含む。ややしまりなし。
Ｐ７
1　黒褐色土(10YR2/3)　１～２㎜程の礫・ローム土・ローム塊・ローム粒をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊・ローム粒をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　２～４㎝程のローム塊を多く、ローム塊・ローム粒を含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒をわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
6　黄褐色土(10YR5/8)　ローム粒をごくわずか含む。
7　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土(10YR2/3)を多く、ローム塊・ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。ややしまりなし。
Ｐ８
1　黄褐色土(10YR5/8)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム粒をごくわずか含む。
2　黄褐色土(10YR5/8)　黒褐色土(10YR2/3)を多く、ローム粒をわずか含む。
3　黄褐色土(10YR5/8)　黒褐色土(10YR2/3)を含む。１～２㎜程の礫・ローム粒をわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム粒をごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊・ローム粒を含む。
6　黒褐色土(10YR2/3)　20～40㎜程のローム塊を含む。ローム土をわずか含む。
7　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。
２Ｐ９
1　黄褐色土(10YR5/8)　黒褐色土(10YR2/3)を多く、１～２㎜程の礫を含む。As-Ｃ粒をごくわずか含む。
2　黄褐色土(10YR5/8)　黒褐色土(10YR2/3)をごくわずか、１～２㎜程の礫・As-Ｃ粒を含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　１～２㎜程の礫・ローム粒やAs-Ｃ粒を含む。ローム塊をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒を多く、ローム塊をわずか含む。一部ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒を多く、15～30㎜程のローム塊を含む。ローム土をわずか含む。一部ややしまりなし。
Ｐ10
1　黄褐色土(10YR5/8)　黒褐色土(10YR2/3)・ローム粒を多く含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く、ローム塊をわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を非常に多く、As-Ｃ粒を多く、ローム塊をわずか含む。一部ややしまりなし。

３号掘立柱建物



第327図　３面　Ｇ１区３号掘立柱建物



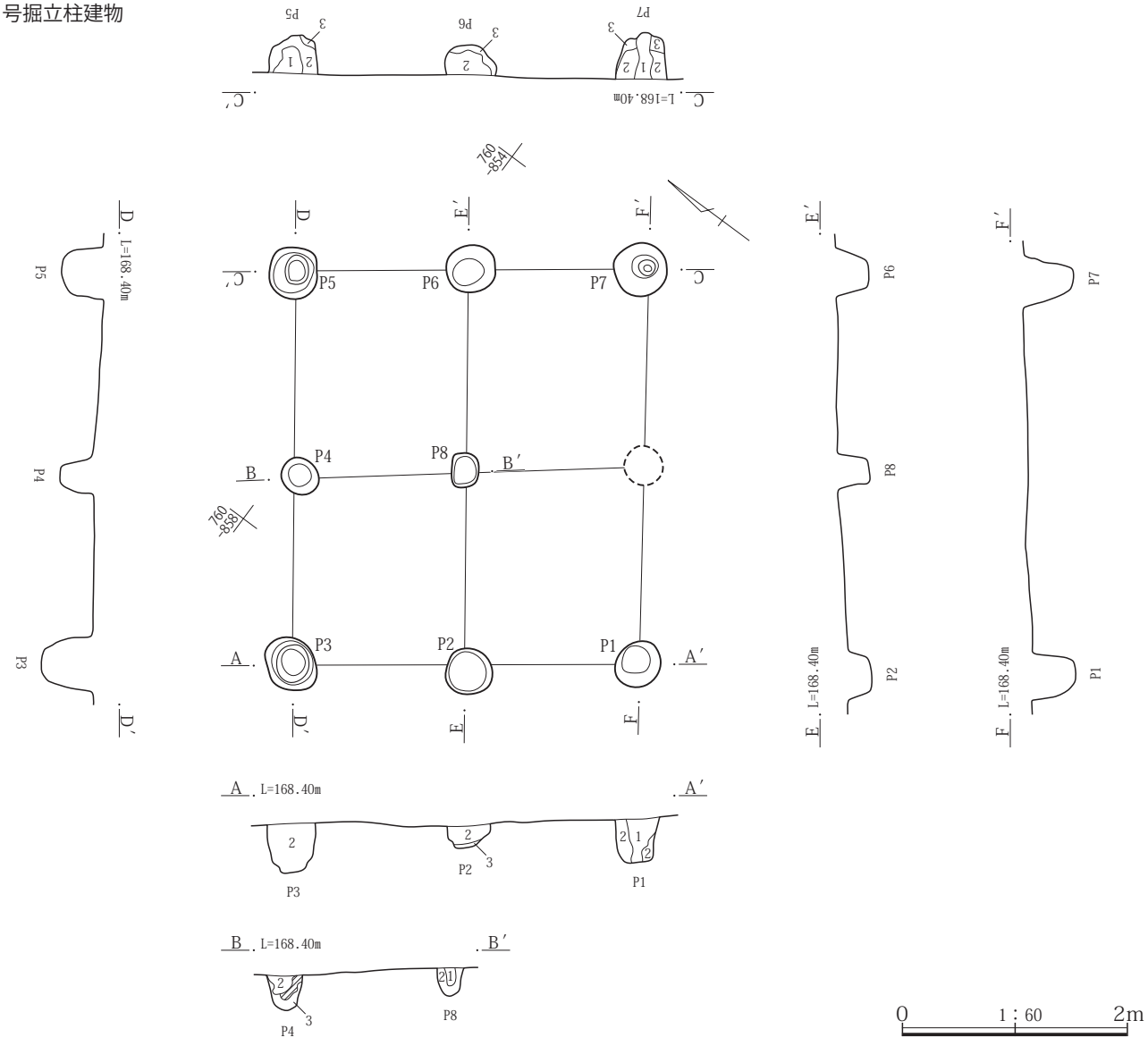
３号掘立柱建物Ｐ１
1　にぶい黄褐色土にローム小塊含む。しまり弱い。(柱痕)
2　ローム主体、しまり弱い。(柱痕)
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊含む。ややしまり・粘性あり。
4　ローム塊、褐色土、黒褐色土の混土。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　ローム塊含む。しまりあり。
6　黒褐色土と暗褐色土塊の混土。
7　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊多く含む。しまり・粘性強い。
Ｐ２
1　くすんだローム土にローム塊、黒色土塊混じりしまり弱い。(柱痕)
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　くすんだローム土にわずかに黒色土含む。
3　黒色土にローム塊。くすんだローム土の混土。
4　にぶい黄褐色土主体。わずかにローム粒含む。
5　くすんだローム土に、ローム混土。
Ｐ３
1　くすんだローム土にAs-Ｃ混土混じり　しまり弱い。
2　くすんだローム土を含む。暗褐色土混土。
Ｐ４
1a　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土とくすんだローム土混土。
1b　1a層よりAs-Ｃ混土少ない。
2　ローム塊
Ｐ５・Ｐ17
1　灰黄褐色土 As-Ａ混土を含む。
2　黒色土にローム小塊軽石。As-Ｃを少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム小塊を２層よりも多く含む。As-Ｃはほとんど含まない。
Ｐ６
1　黄色ローム土主体。暗褐色土塊含む。
2　にぶい黄褐色土、くすんだローム土と黒褐色土の混土。しまりあり。
3a　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒、軽石粒含む。しまりあり。
3b　3a層よりローム粒少ない。
4　にぶい黄褐色土。くすんだローム土主体。黒褐色土。As-Ｃ混わずかに含む。(壁崩落土)
5　硬質ローム多く含む。くすんだローム土混じり。
Ｐ７
1　灰黄褐色土にローム小塊。しまり弱い。(柱痕)
2a　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒・くすんだローム塊含む。しまりあり。
2b　2a層より軽石・ローム粒少ない。
Ｐ８
1　にぶい黄褐色土にローム小塊含む。しまり弱い。(柱痕)
2　ローム主体、しまり弱い。(柱痕)
3　にぶい黄褐色土(10YR)　くすんだローム土に暗褐色土を含む。しまり強い。
4　ローム塊・褐色土・黒褐色土の混土。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　ローム塊含む。しまりあり。
6　黒褐色土と暗褐色土塊の混土。
Ｐ９
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-Ｃ混土とくすんだ黄褐色土混土。
2　暗褐色土(10YR3/3)　くすんだローム土にローム粒わずかに含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混。わずかにローム粒含む。
4　くすんだロームに硬質ローム塊混じる。(69号竪建掘り方フク土)
5a　くすんだローム土にAs-Ｃ混土。硬質ローム塊混土。
5b　5a層より、硬質ローム塊少ない。
6　くすんだローム土にローム塊多量に含む。
7　黒色土(10YR2/1)　わずかにローム小塊含む。やや粘性あり。
Ｐ10
1　くすんだローム土にローム塊・As-Ｃ混わずかに含む。
2a　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土にローム土含む。しまり強い。
2b　2a層よりローム少ない。しまり弱い。
3a　暗褐色土(10YR3/4)　わずかにローム粒・As-Ｃ混塊含む。
3b　3a層よりAs-Ｃ混少ない。しまりあり。
Ｐ11
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒含む。しまり弱い。(柱痕)
2a　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒・小塊含む。しまりあり。
2b　2a層よりローム少ない。
3a　暗褐色土(10YR3/4)わずかにローム粒・As-Ｃ混塊含む。
3b　3a層よりAs-Ｃ混少ない。しまりあり。
Ｐ12
1　くすんだローム土にローム小塊、褐色土含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混にローム小塊含む。ややしまりあり。
3a　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒、黒色小塊含む。
3b　3a層にローム塊含む。しまり・粘性あり。
Ｐ13
1　くすんだローム土にローム塊混土。

0　1：60　2m

第328図　３面　Ｇ１区３号掘立柱建物

2　As-C混土に、くすんだローム土混じる。
3　くすんだローム土にローム塊含む。
P14
1　くすんだローム土にローム小塊、褐色土塊混じる。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黒色土小塊含む。As-C混土。
3　くすんだローム土と黒色土塊混土。
4a　灰黄褐色土(10YR5/2)　くすんだローム土に暗褐色土わずかに含む。
4b　4a層より暗褐色土少ない。しまり弱く壁崩落土。
4c　4a層よりしまり弱い(柱痕)
5a　黒色土にローム塊・くすんだローム土の混土。しまり弱い。
5b　5a層より、くすんだローム土を多く含む。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)くすんだローム土に硬質ローム塊・暗褐色土塊含む。
P15
1a　くすんだローム土にローム小塊、黒褐色土塊混土。
1b　1aよりもしまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム小塊、黒色土小塊含む。しまり弱い。
3　黒色土にくすんだローム土を含む。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　くすんだローム土主体、硬質ローム塊含む。
P16
1b　1a層よりローム土多く含む。
2　にぶいローム土とローム小塊含む。
3　くすんだロームに黒色土とローム塊混じる。ややしまりあり。
4　灰黄褐色土(10YR5/2)　ローム小塊をやや多く含む。
5　褐灰色土(10YR4/2)　4層より暗く、ローム小塊も少ない。
6　黒褐色土(10YR3/1)　5層より暗く、ローム小塊はほとんど含まない。
7　黒褐色土(10YR3/1)　6層とほぼ同じだが、ローム塊を少量含む。
8　黒褐色土(10YR3/1)　ローム塊をわずか、As-YP少量含む。
P18
1　くすんだローム土にローム塊。黒色土塊混じる。しまり弱い。(柱痕)
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　くすんだローム土にわずかに黒色土含む。
3　黒色土にローム塊、くすんだローム土の混土。
P19
1　くすんだローム土にローム塊。黒色土塊混じる。しまり弱い。(柱痕)
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　くすんだローム土にわずかに黒色土含む。
3　黒色土にローム塊。くすんだローム土の混土。
P20
1　くすんだローム土にローム塊。黒色土塊混じる。しまり弱い。(柱痕)
2　黒色土にローム塊。くすんだローム土の混土。
3　にぶい黄褐色土主体。わずかにローム粒含む。
P21
1　くすんだローム土にローム塊混土。
2　As-C混土に、くすんだローム土混じる。
P22
1　くすんだローム土にローム塊混土。
2　As-C混土に、くすんだローム土混じる。
P23
1　くすんだローム土にローム塊混土。
2　As-C混土に、くすんだローム土混じる。
3　くすんだローム土にローム塊含む。
P24
1　くすんだローム土にローム塊混土。
2　As-C混土に、くすんだローム土混じる。
3　くすんだローム土にローム塊含む。

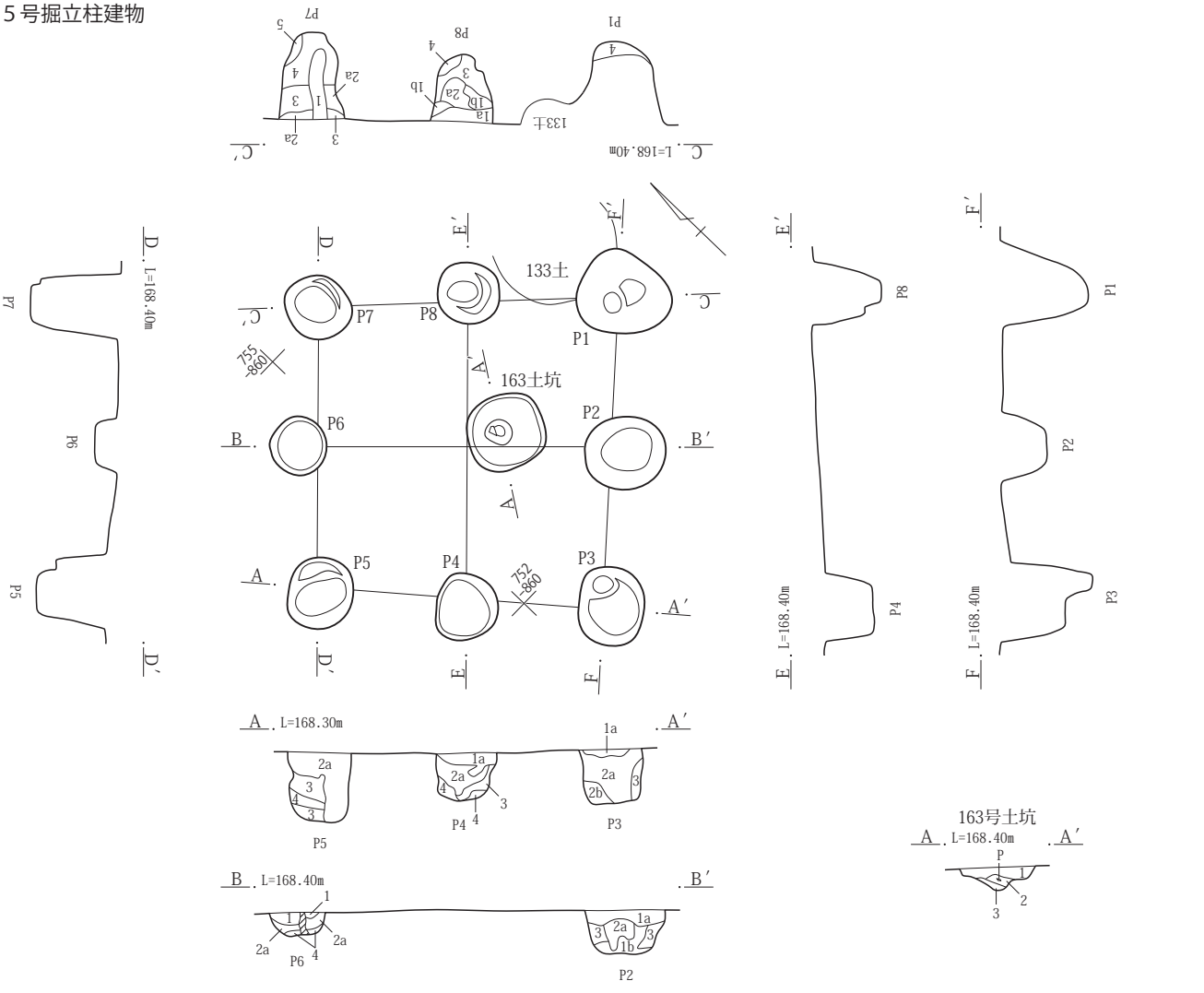
４号掘立柱建物



第329図　３面　Ｇ１区４号掘立柱建物

４号掘立柱建物Ｐ１
1　黒褐色土(10YR2/1)　As-Ｃ混土主体。ローム小塊わずかに含む。(柱痕)
2　黒色土(10YR2/1)　As-Ｃ混土主体。ローム小塊わずかに含む。
Ｐ２
2　黒色土(10YR2/1)　As-Ｃ混土主体。ローム小塊わずかに含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　くすんだロームにローム小塊。As-Ｃ混土混じる。
Ｐ３
2　黒色土(10YR2/1)　As-Ｃ混土主体、ローム小塊わずかに含む。
Ｐ４
2　黒色土(10YR2/1)　As-Ｃ混土主体、ローム小塊わずかに含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　くすんだロームにローム小塊。As-Ｃ混土混じる。
Ｐ５
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-Ｃ混土にローム小塊多く含む。しまり弱い。柱痕。
2　黒色土(10YR2/1)　As-Ｃ混土主体、ローム小塊わずかに含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　くすんだロームにローム小塊。As-Ｃ混土混じる。
Ｐ６
2　黒色土(10YR2/1)　As-Ｃ混土主体、ローム小塊わずかに含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　くすんだロームにローム小塊、As-Ｃ混土混じる。
Ｐ７
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-Ｃ混土にローム小塊多く含む。しまり弱い。柱痕。
2　黒色土(10YR2/1)　As-Ｃ混土主体、ローム小塊わずかに含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　くすんだロームにローム小塊。As-Ｃ混土混じる。
Ｐ８
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-Ｃ混土にローム小塊多く含む。しまり弱い。柱痕。
2　黒色土(10YR2/1)　As-Ｃ混土主体、ローム小塊わずかに含む。

５号掘立柱建物



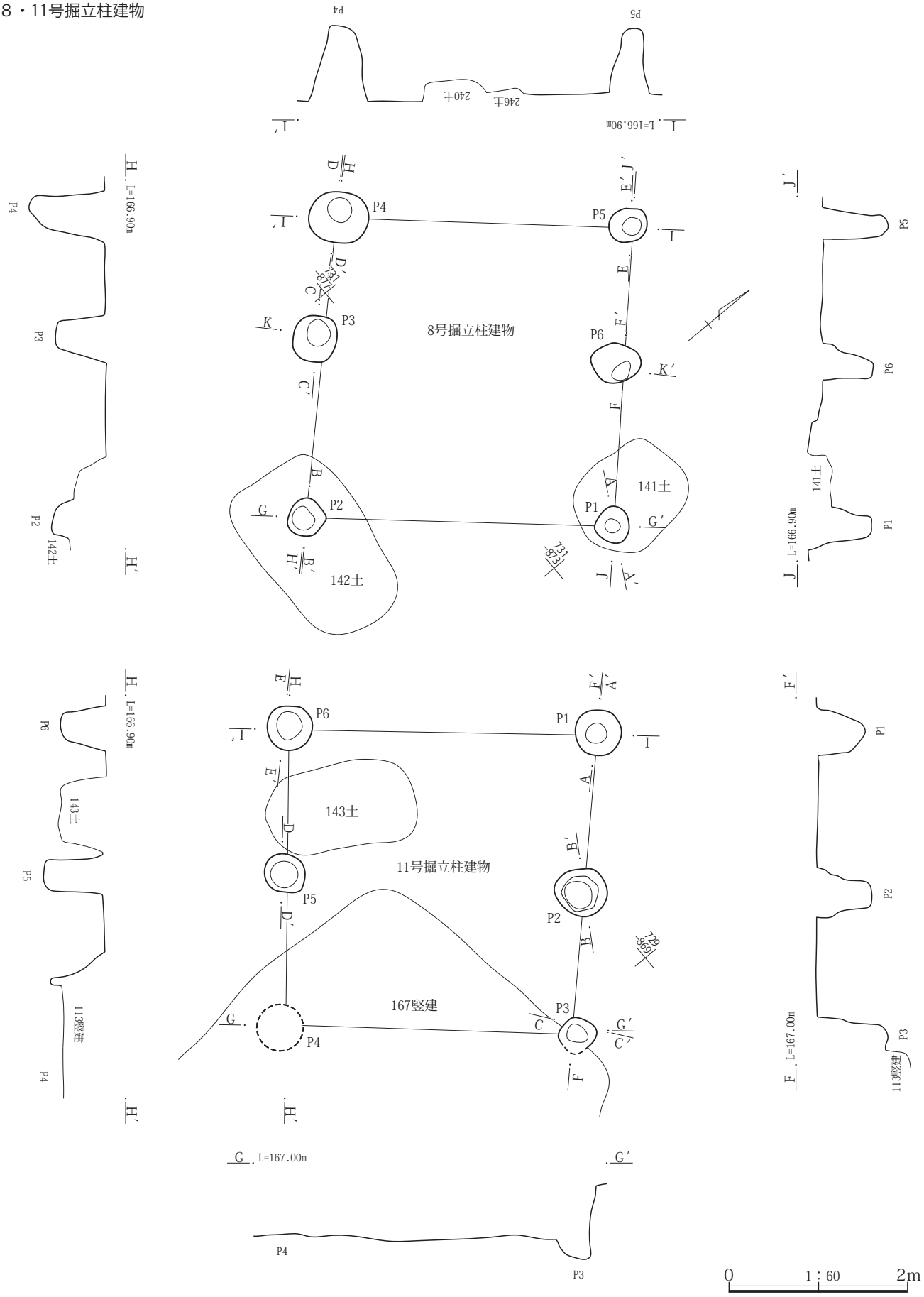
５号掘立柱建物Ｐ１～Ｐ８
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-Ｃ混土。ローム塊含む。しまり弱い。柱痕。
1a　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-Ｃ混土にローム粒わずかに含む。しまりあり。
1b　1aよりしまり弱くローム塊含む。
2a　黒色土(10YR2/1)　As-Ｃ混土にローム小塊含む。しまりあり。
2b　2a層よりしまり弱くローム塊含む。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-Ｃ混土含む。くすんだローム土、ローム塊含む。
4　ローム塊とくすんだローム土の混土。
5　As-Ｃ混土混じりのAs-YP主体層。

163号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　1～2㎜程の礫を含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒や1～2㎜程の礫をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒をごくわずか含む。

第330図　３面　Ｇ１区５号掘立柱建物

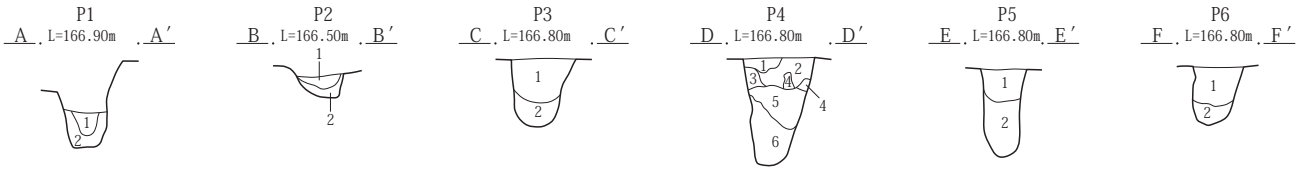
0　1：60　2m

８・11号掘立柱建物

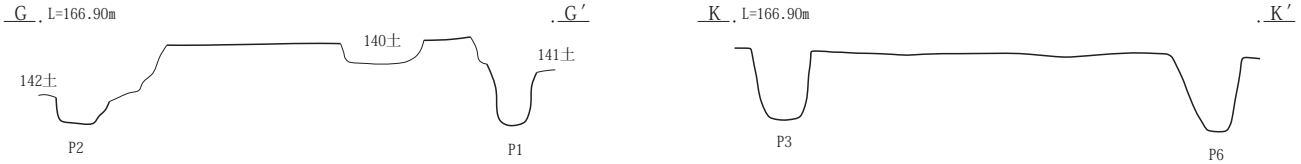


第331図　３面　Ｇ２区８・11号掘立柱建物

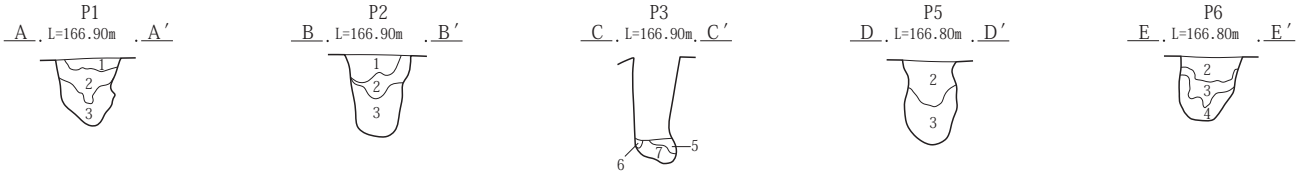
８号掘立柱建物



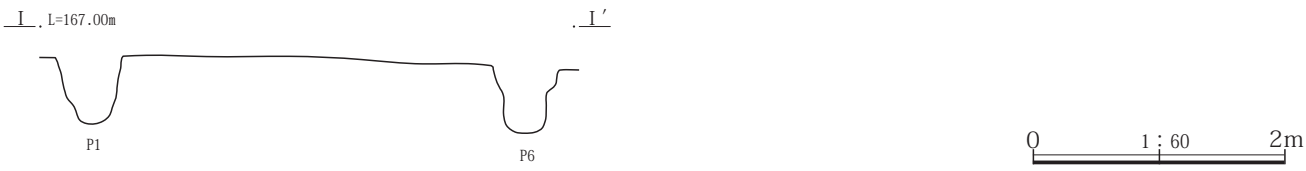
８号掘立柱建物Ｐ１
1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-YP粒を多く、大粒のローム塊をごくわずか含む。
Ｐ２
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒を含む。ローム粒をわずか、大粒のAs-Ｃ粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を多く、ローム土・As-YP粒を含む。大粒のローム塊をわずか含む。
Ｐ３
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒を多く、ローム土を含む。ローム粒をわずか含む。
2　黒色土(10YR2/1)　As-Ｃ粒をわずか、ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。
Ｐ４
1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒を多く、ローム塊をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか含む。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム土。ローム粒を非常に多く、ローム塊を多く、大粒のローム塊をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土・黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム塊・大粒のローム塊をわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒を多く、As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム粒やAs-Ｃ粒をごくわずか含む。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、ローム塊・大粒のローム粒・大粒のAs-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
Ｐ５
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒を多く、ローム土を含む。ローム粒・大粒のAs-Ｃ粒をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
Ｐ６
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒を多く、ローム土を含む。ローム粒・大粒のAs-Ｃ粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒をわずか、ローム粒をごくわずか含む。



11号掘立柱建物

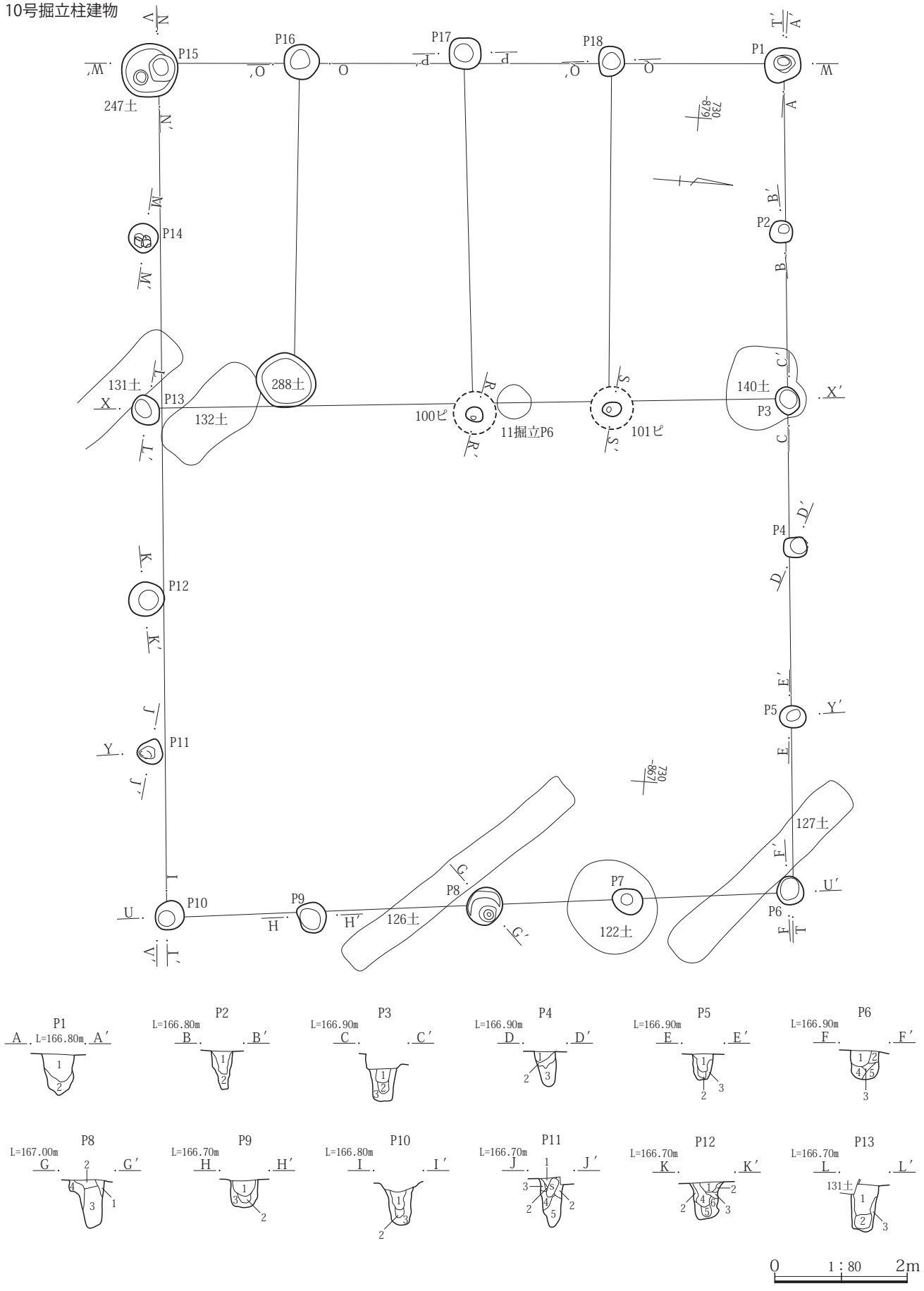


11号掘立柱建物　Ｐ１・Ｐ３・Ｐ５・Ｐ６
1a　黒褐色土にくすんだローム土とローム小塊。As-YP粒混じる。
2　暗褐色土(10YR3/3)　As-Ｃ混土。夾雑物少ない。しまり弱い。
3　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土。As-YP粒含む。しまり非常に弱い。
4　褐色土 漸移層にローム塊。As-YP粒含む。しまり・粘性弱い。
5　黒褐色土にAs-YP粒含む。
6　黒色土塊。
7　くすんだローム土にローム小塊・As-YPを多量に混じる。ややしまりあり。
Ｐ２
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ少量、小礫少量、にぶい黄褐色土小塊を含む、しまり・粘性あり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　ローム約１㎝塊・As-Ｃ少量、しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒少量、灰白色粒微量、しまり弱、粘性あり。

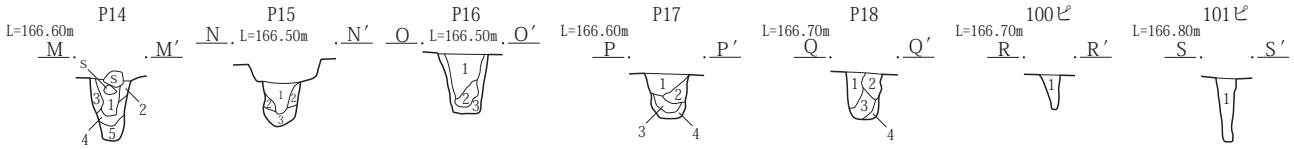


第332図　３面　Ｇ２区８・11号掘立柱建物

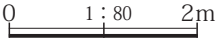
10号掘立柱建物



第333図　３面　Ｇ２区10号掘立柱建物

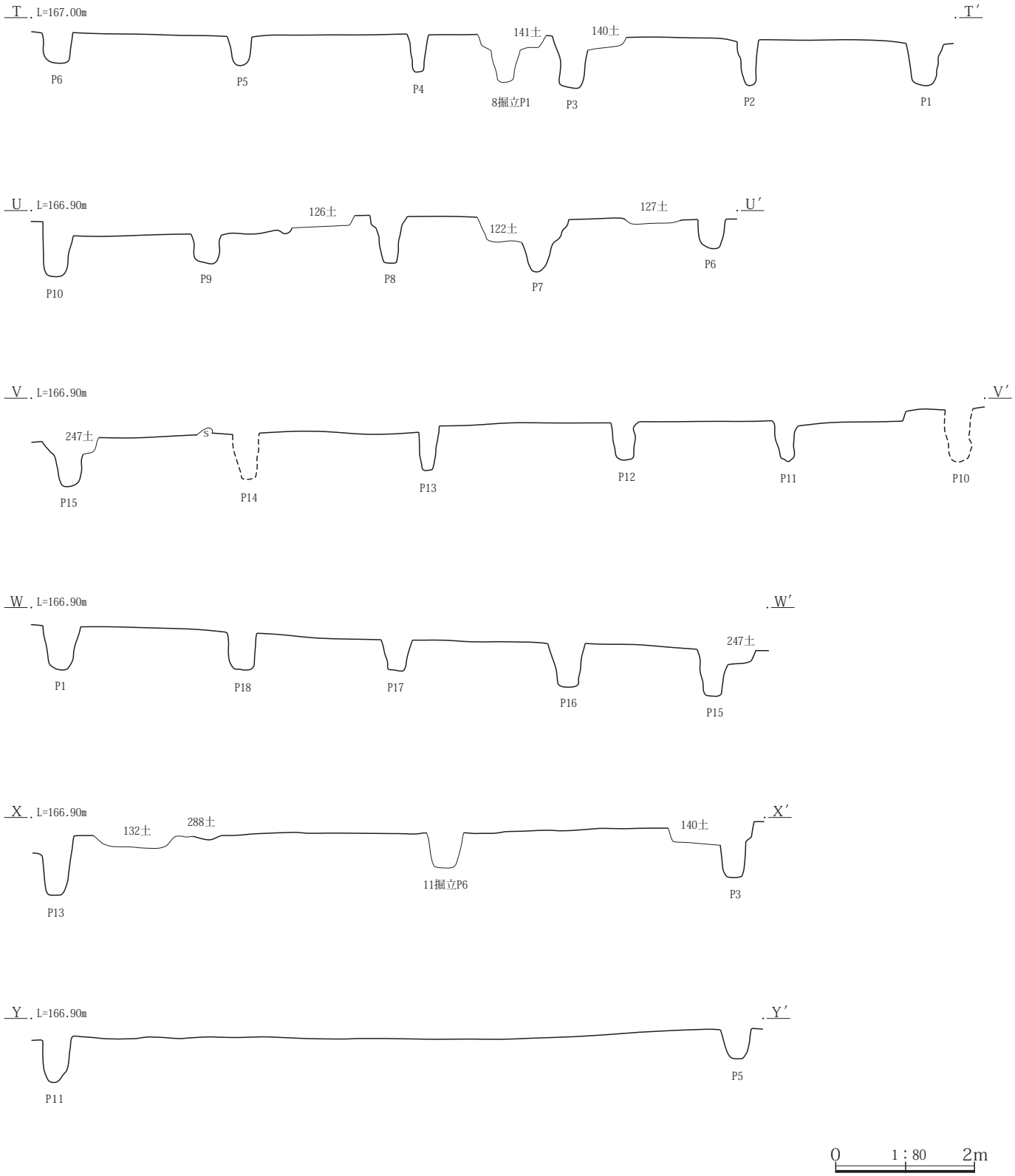


10号掘立柱建物Ｐ１
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒を含む。ローム粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
Ｐ２
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒をわずか、ローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム塊・ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
Ｐ３
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒をわずか、ローム塊・As-Ｃ粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を含む。As-Ｃ粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を多く、ローム土を含む。As-Ｃ粒をごくわずか含む。
Ｐ４
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊を含む。ややしまりなし。
Ｐ５
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を多く、ローム塊・炭化粒を含む。ローム土をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・As-YP粒をわずか、ローム塊・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
Ｐ６
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を非常に多く、ローム土を多く、ローム塊をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒をわずか、As-Ｃ粒・As-YP粒をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　塊状のAs-YP粒を非常に多く含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をごくわずか、As-YP粒を一部に含む。一部ややしまりなし。
Ｐ７(122号土坑内)
Ｐ８
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム塊をごくわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊を含む。ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
Ｐ９
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を非常に多く、ローム土を多く、ローム塊をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をごくわずか、As-YP粒を一部に含む。一部ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　大粒のローム粒・ローム粒を多く、As-Ｃ粒をわずか含む。
Ｐ10
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒をわずか、ローム塊・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
Ｐ11
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、大粒のローム粒・As-Ｃ粒・炭化粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、ローム塊・大粒のローム粒・As-Ｃ粒・炭化粒をごくわずか含む。
3　褐色土(10YR4/6)　ローム土。ローム塊・ローム粒をわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒をわずか、ローム塊・As-Ｃ粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒を多く、As-YP粒をわずか、ローム塊・As-Ｃ粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
Ｐ12
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒を非常に多く、ローム土を含む。ローム粒をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒を非常に多く、ローム土を多く、As-Ｃ粒をわずか、ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。
3　褐色土(10YR4/6)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)を含む。ローム塊・ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒を非常に多く、ローム土を含む。ローム粒をわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒をわずか、ローム塊・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
Ｐ13
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を多く、ローム土を含む。ローム塊をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　大粒のローム塊を多く、ローム粒を含む。As-Ｃ粒をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を多く、ローム土・ローム塊を含む。As-Ｃ粒をわずか含む。一部ややしまりなし。
Ｐ14
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、ローム土・大粒のローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、大粒のローム粒をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊を多く、ローム土を含む。ローム粒をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか含む。
Ｐ15
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒を含む。ローム粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム塊・ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　大粒のローム粒をわずか、炭化物をごくわずか含む。
Ｐ16
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒を含む。ローム土・ローム塊をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As-Ｃ粒・大粒のローム粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
Ｐ17
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-Ｃ粒を含む。ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒を含む。As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊をわずか、ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒・As-Ｃ粒をごくわずか含む。



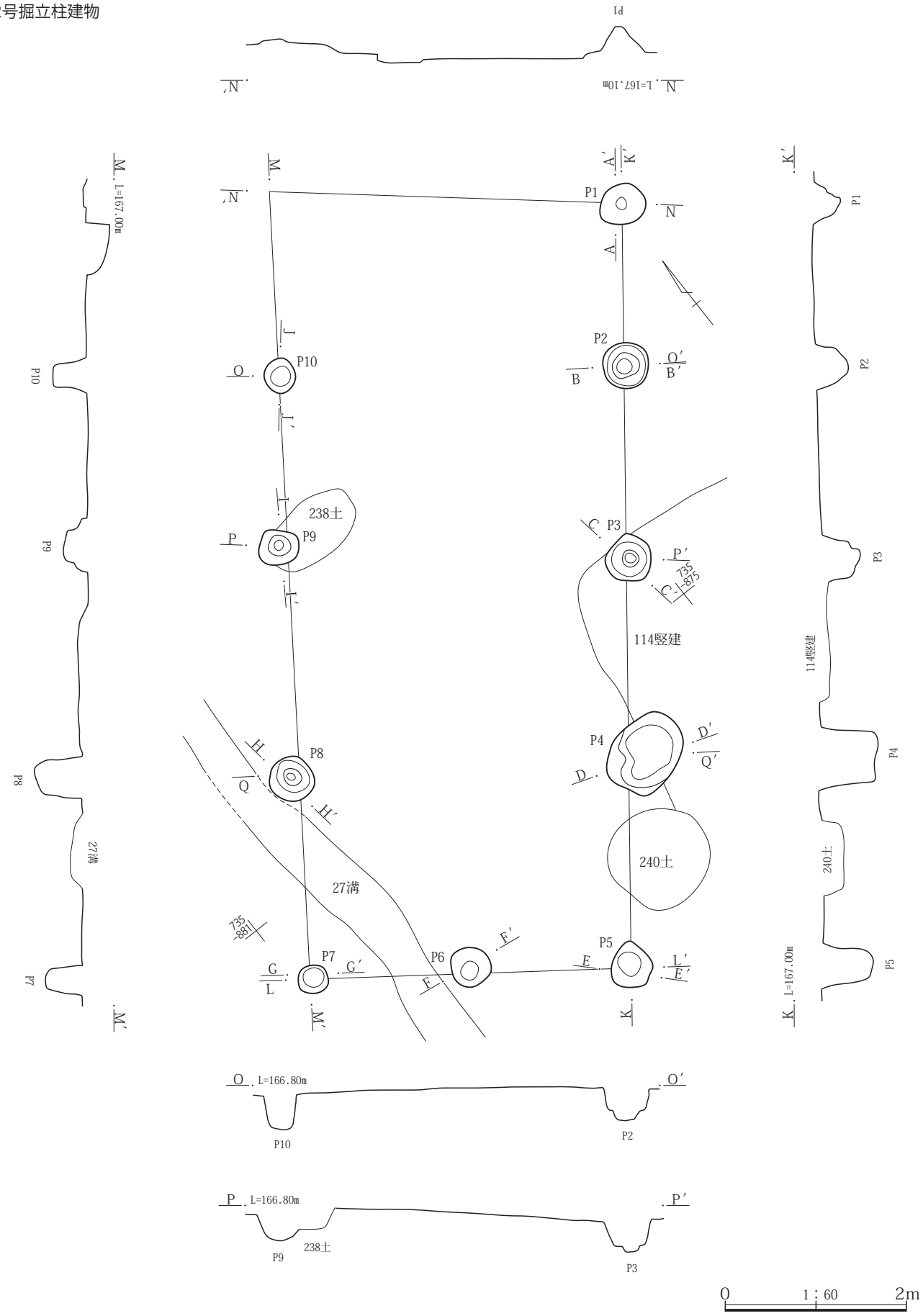
第334図　３面　Ｇ２区10号掘立柱建物

P18
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム塊・ローム粒を多く、As-Ｃ粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を多く、ローム土を含む。As-Ｃ粒をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒をわずか、As-Ｃ粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
100ピ
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ少量、ローム小塊・暗褐色土を含む。しまり弱、粘性あり。
101ピ
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量、As-Ｃ少量、暗褐色土を含む。しまり・粘性あり。

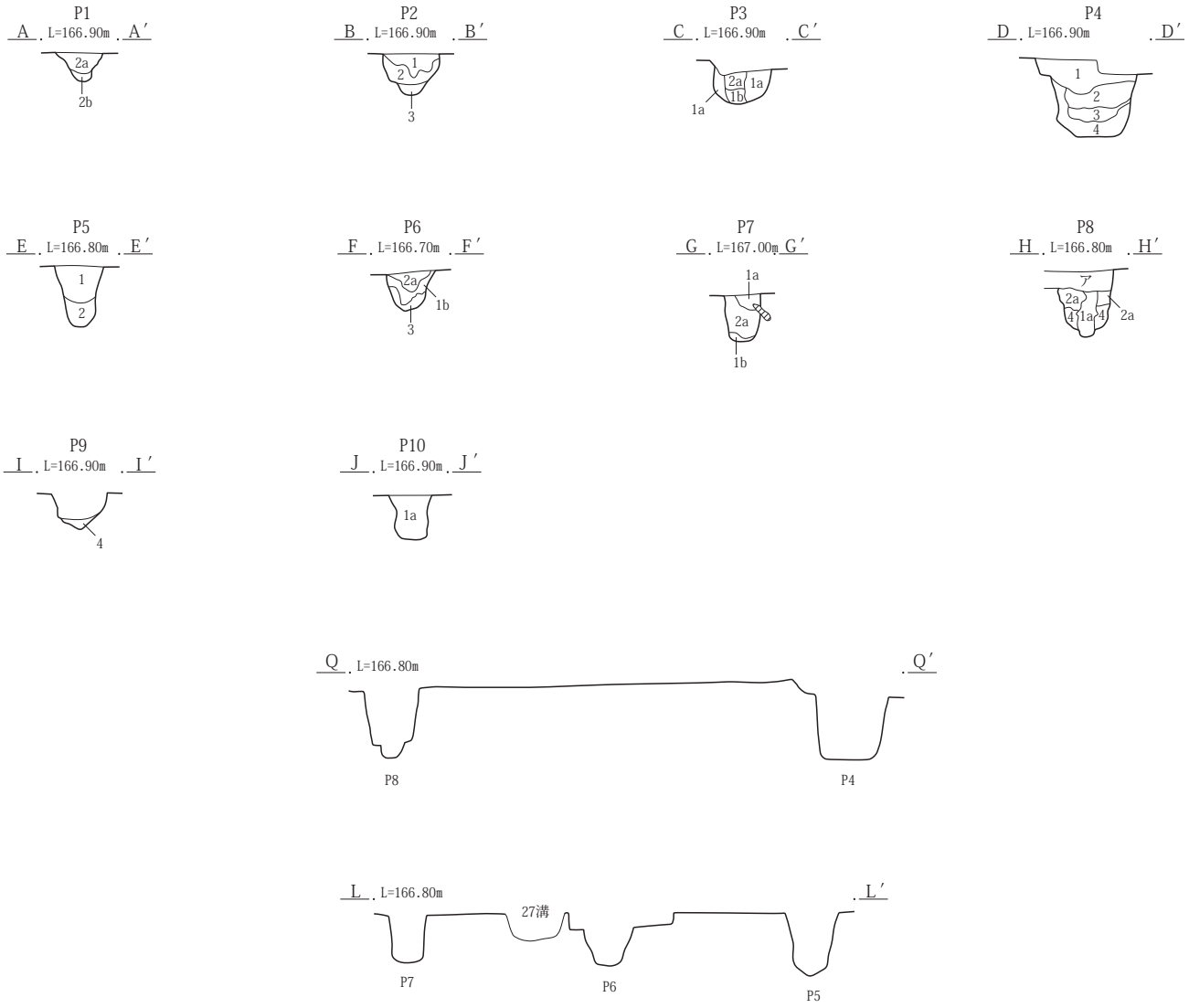


第335図　３面　Ｇ２区10号掘立柱建物

12号掘立柱建物



第336図　３面　Ｇ２区12号掘立柱建物



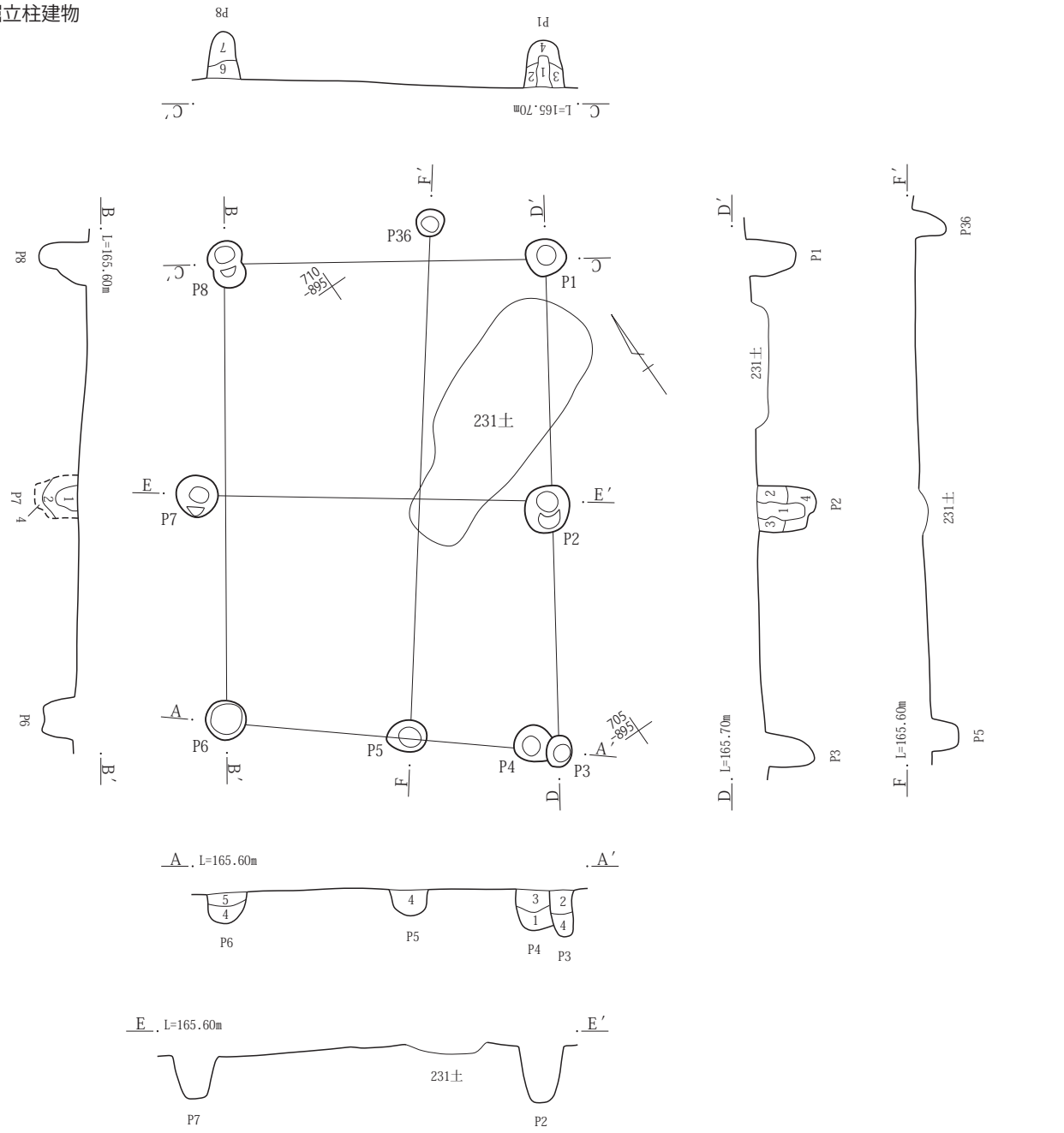
12号掘立柱建物Ｐ１・Ｐ３・Ｐ６～Ｐ10
ア　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-Ｃ混土にローム小塊含む。
1a　黒色土(10YR2/1)　As-Ｃ混土、夾雑ない。
1b　1a層がしまった層。
2a　暗褐色土(10YR3/3)　わずかに褐色土小塊含む。
2b　1a層にローム小塊含む。
3　暗褐色土にローム小塊混じり。
4　黒褐色土と褐色土の混土にローム小塊含む。
Ｐ２・Ｐ４
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混・As-YP粒混じる。
2　１層にローム小塊。As-YP粒多く含む。
3　黒褐色土にローム中塊混じる。
4　黒色土(10YR2/1)　しまり弱い。土質均質。

Ｐ５
1　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ多量、にぶい黄褐色土小塊を上層に含む。ローム約１㎝塊を含む。しまりあり、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム約１㎝塊少量、しまりあり、粘性あり。

0　1：60　2m

第337図　３面　Ｇ２区12号掘立柱建物

９号掘立柱建物

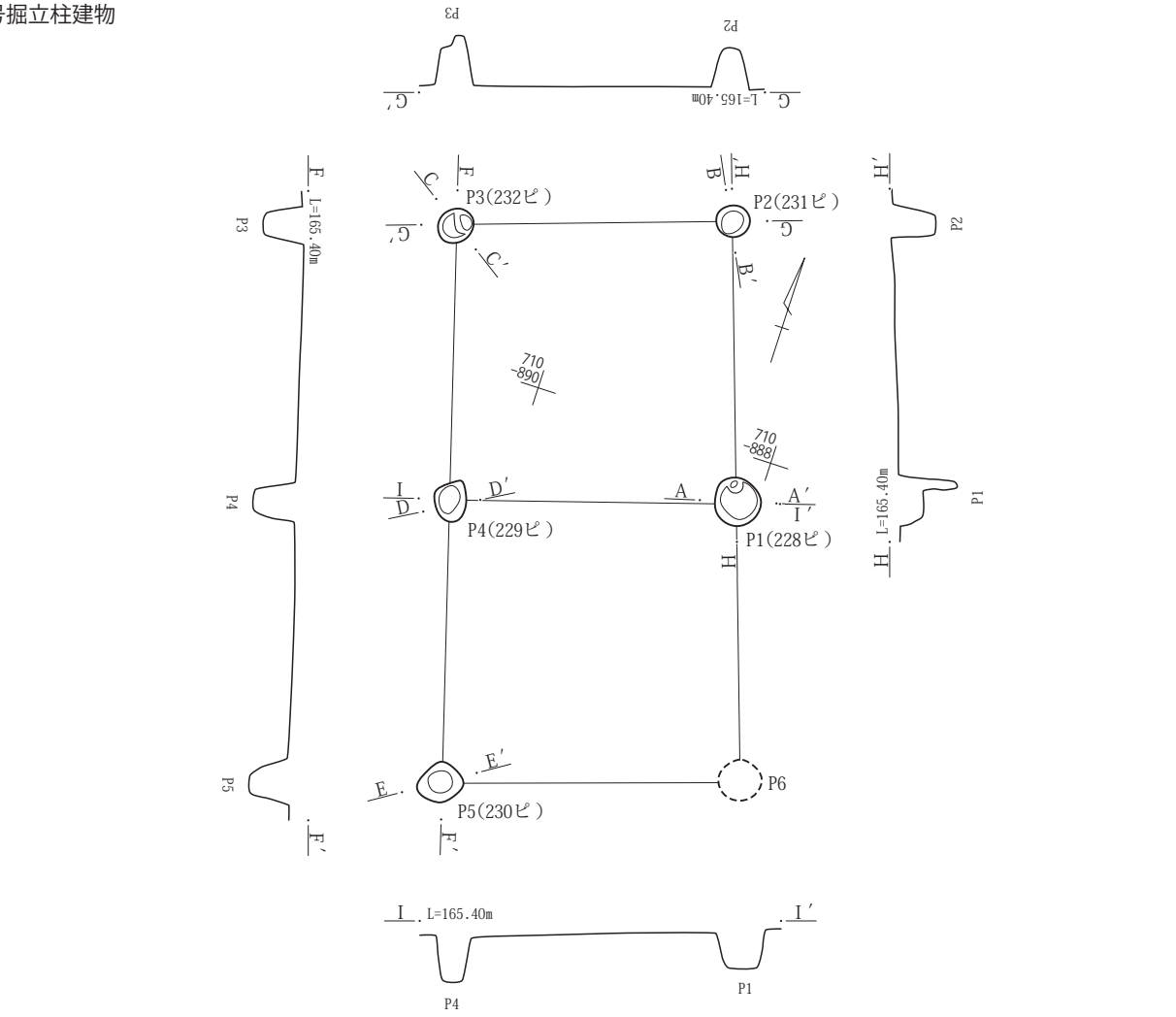


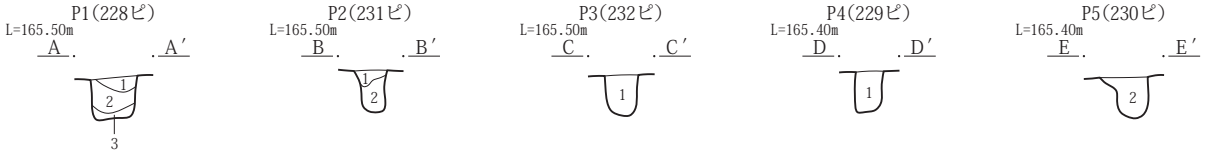
９号掘立柱建物　Ｐ１～Ｐ８
1　黒褐色土(10YR3/1)　上層にローム塊を含む。しまりやや弱、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム大塊を含む。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　灰白色粒少量含む。しまり・粘性あり。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒を含む。しまり弱、粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3/1)　As-Ｃ少量含む。しまり・粘性あり。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒多量、にぶい黄橙色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
7　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒多量含む。しまり弱、粘性あり。

0　1：60　2m

第338図　３面　Ｇ３区９号掘立柱建物

13号掘立柱建物



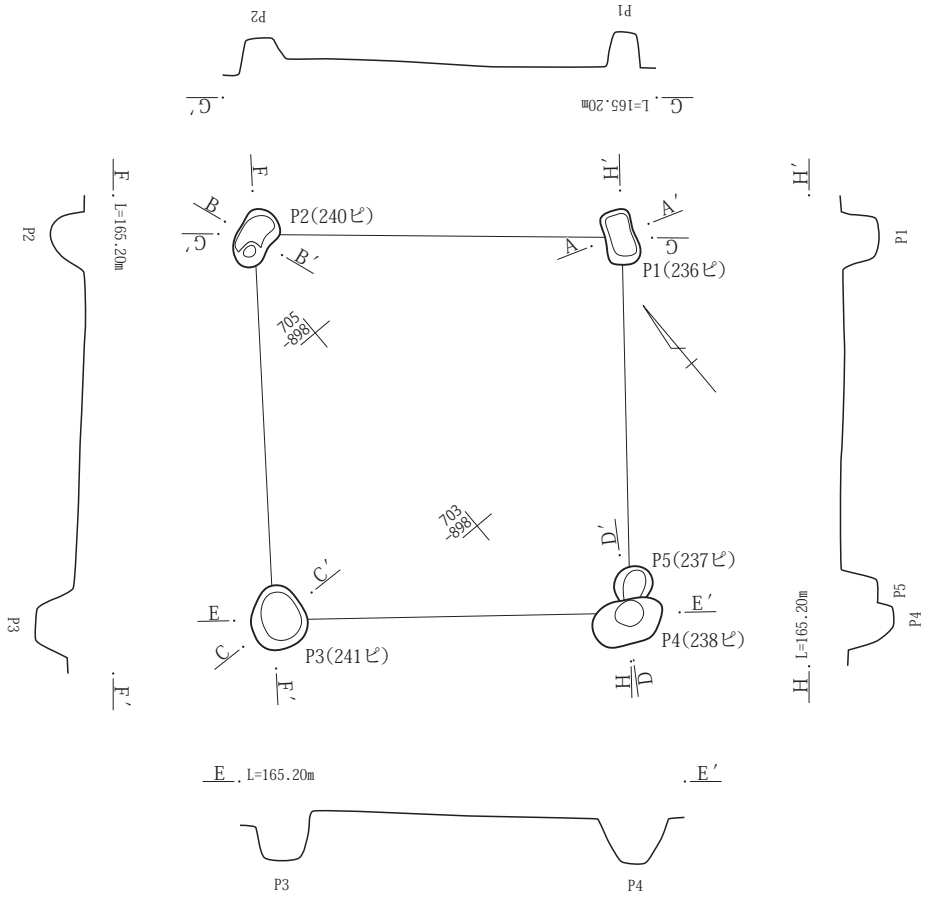


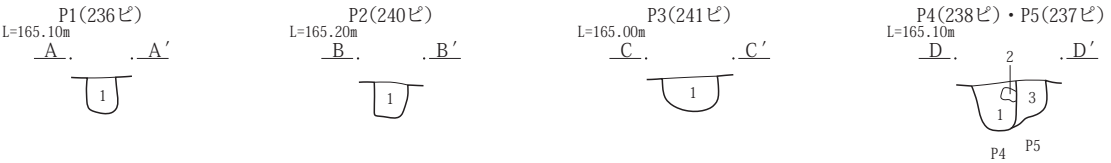
13号掘立柱建物Ｐ１(228ピ)
1　黒褐色土(10YR2/2)　灰白色粒・As-YP・明褐色粒少量含む。しまり・粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-YP少量、ローム約１㎝塊を含む。しまり強、粘性あり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　明褐色粒少量、ローム粒を含む。しまり強、粘性あり。
Ｐ２(231ピ)
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量、As-YP少量、炭化物・焼土粒微量含む。しまり弱、粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約１㎝塊・As-YP多量含む。しまりあり、粘性あり。
Ｐ３(232ピ)
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量、As-YP・明褐色粒少量含む。しまり弱、粘性あり。
Ｐ４(229ピ)
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-YP多量、ローム小塊を含む。しまり強、粘性あり。
Ｐ５(230ピ)
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-YP・灰白色粒多量含む。しまりやや弱、粘性あり。

0　1：60　2m

第339図　３面　Ｇ３区13号掘立柱建物

14号掘立柱建物



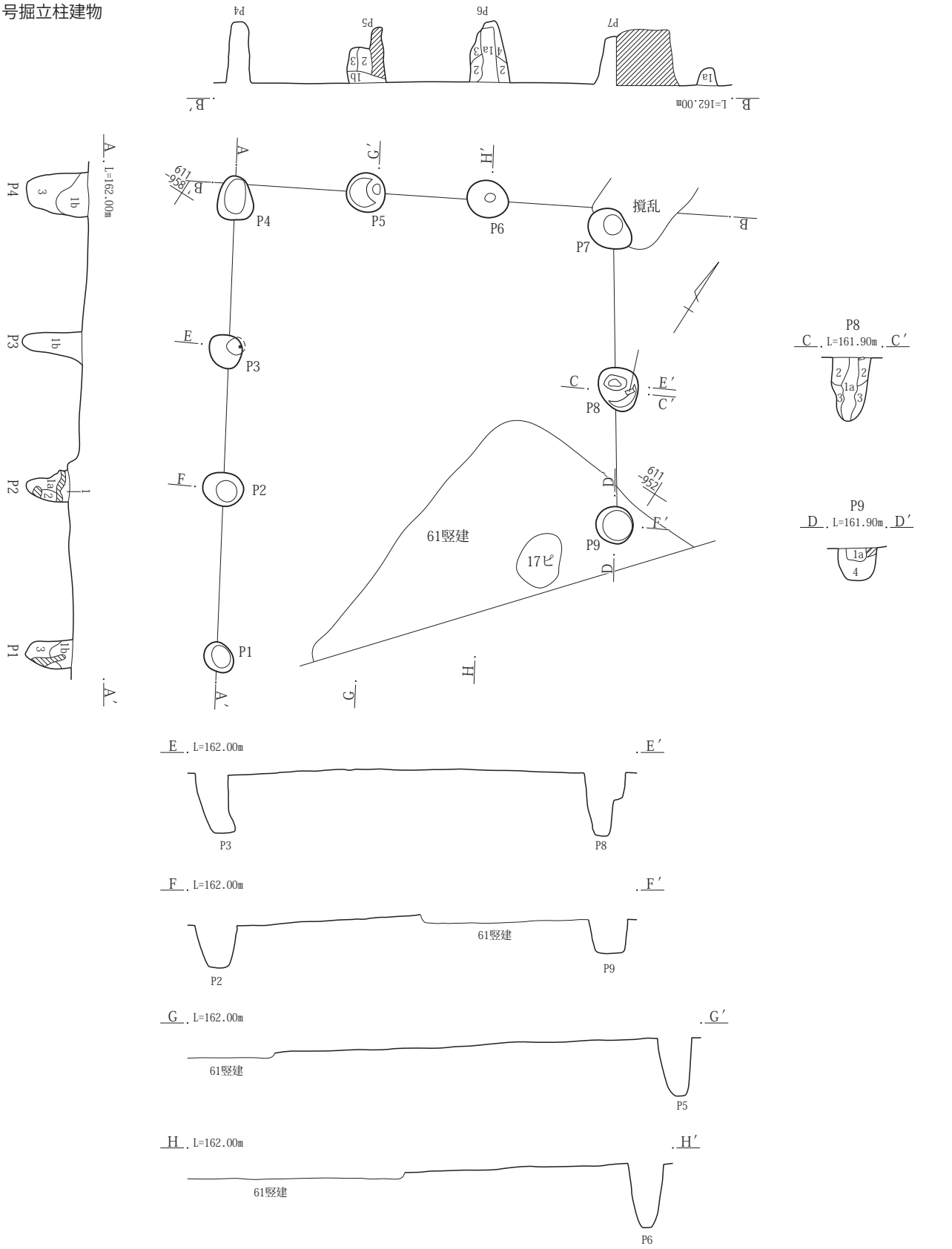


14号掘立柱建物Ｐ１(236ピ)
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-Ｃ多量、黄橙色粒少量、黄褐色塊土若干含む。しまりあり。
Ｐ２(240ピ)
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP粒・黄橙色粒・As-Ｃ少量、黄褐色塊土若干含む。しまりあり。
Ｐ３(241ピ)
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP粒・As-Ｃ多量含む。しまりあり。
Ｐ４(238ピ)・Ｐ５(237ピ)
1　黒褐色土(10YR2/2)　As-YP粒少量、As-Ｃ若干含む。しまりややあり。
2　黄褐色土(10YR5/6)　黄褐色塊土・As-YP粒少量含む。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　As-YP粒大量含む。しまりあり。

0　1：60　2m

第340図　３面　Ｇ３区14号掘立柱建物

６号掘立柱建物

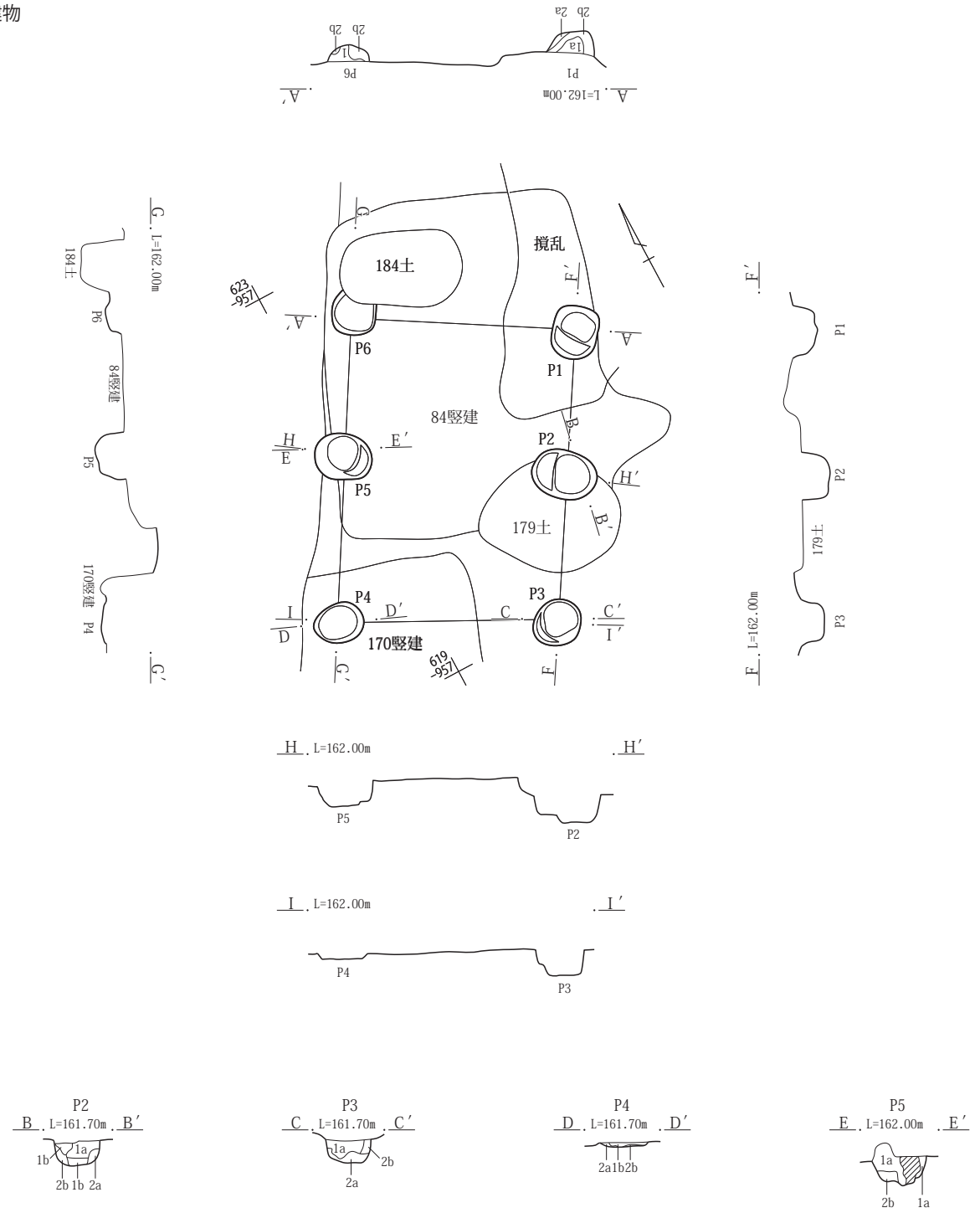


６号掘立柱建物Ｐ１～Ｐ６・Ｐ８・Ｐ９（７は撹乱重複）
1a　黒褐色土(10YR3/2)　As-C混。夾雑物なく しまり弱い。柱痕。
1b　1a層よりしまり強く、わずかにローム小塊含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　わずかにローム塊含む。しまり強い。
3　褐色土(10YR4/3)　ローム塊やや多く含む。しまり弱い。
4　褐色土(10YR4/3)　わずかにローム塊含む。しまり・粘性あり。

0　1：60　2m

第341図　３面　H区６号掘立柱建物

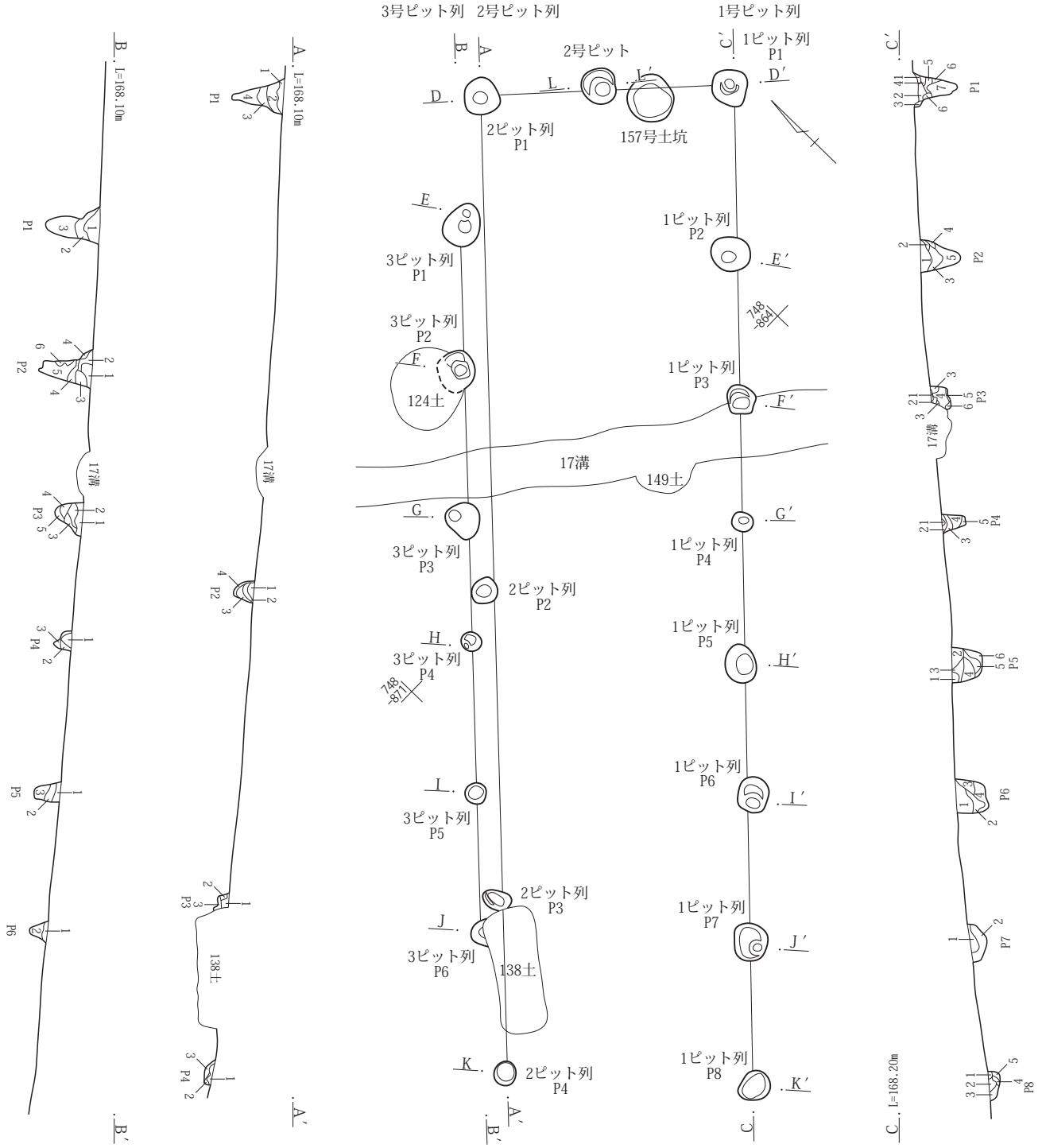
７号掘立柱建物



７号掘立柱建物　Ｐ１～Ｐ６
1a　黒褐色土(10YR3/2)　As-Ｃ混土。わずかにローム小塊含む。しまり弱い。柱痕。
1b　1a層が硬くしめられる。
2a　くすんだ褐色土にローム塊混じり。
2b　2a層よりローム塊小さく、量も少ない。

0　1：60　2m

第342図　３面　H区７号掘立柱建物



1号ピット列Ｐ１
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒・１～２㎜程の礫をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒・１～２㎜程の礫をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・１～２㎜程の礫をごくわずか含む。ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　４㎝程のローム塊を含む。ややしまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
7　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をごくわずか含む。ややしまりなし。

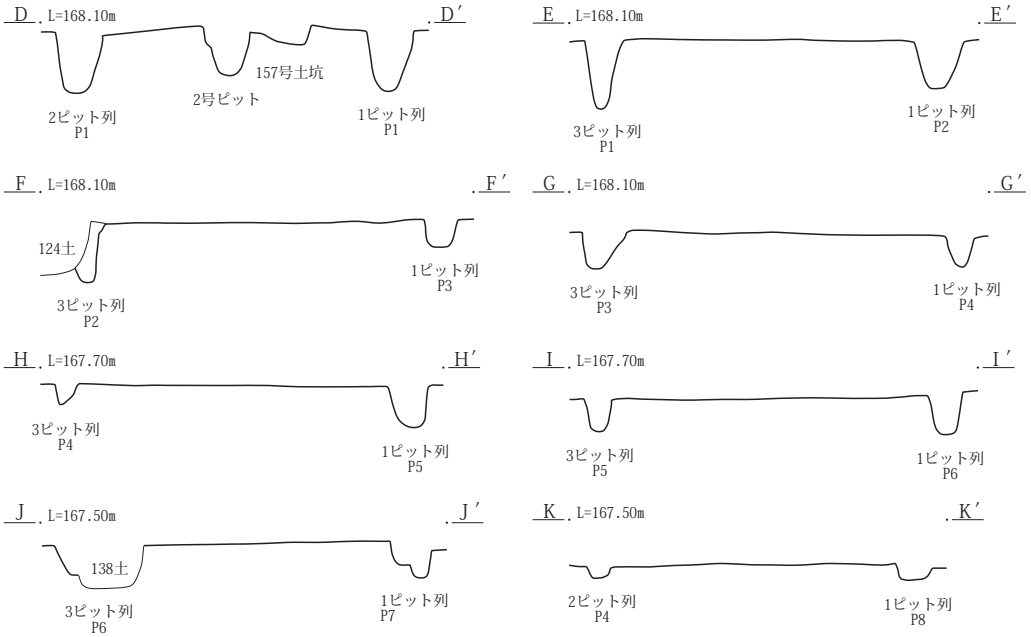
Ｐ２
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-Ｃ粒・１～２㎜程の礫をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・As-Ｃ粒をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をごくわずか含む。ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム粒をごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。

Ｐ３
1　黒褐色土(10YR2/3)　しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　１～２㎜程の礫をごくわずか含む。ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/2)　ローム土・ローム粒をごくわずか含む。１～２㎜程の礫を含む。
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム土を多く含む。ややしまりなし。
6　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒・１～２㎜程の礫をわずか、ローム塊をごくわずか含む。ややしまりなし。

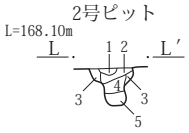
Ｐ４
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・As-Ｃ粒を多く含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム粒をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム塊・ローム粒をわずか含む。ややしまりなし。

0　1：80　2m

第343図　３面　Ｇ１区１～３号ピット列



２号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊やローム粒を多く含む。ローム土・As-C粒をわずかに含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を含む　１～２㎜の粗砂を含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む　ローム粒・As-C粒を極わずかに含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒・As-C粒を極わずかに含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒・As-C粒を極わずかに含む。ややしまりなし。



１号ピット列Ｐ５
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒をごくわずか含む。砂礫状だがあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒・１～２㎜程の礫をわずか、ローム土をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊を含む。ローム土・２～４㎝程のローム塊をわずか含む。ややしまりなし。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を含む。ややしまりなし。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊をわずか含む。

Ｐ６
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒・１～２㎜程の礫を含む。ローム塊をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊を含む。ローム土をわずか、ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。

Ｐ７
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。

Ｐ８
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を非常に多く、ローム粒をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム塊・ローム粒・１～２㎜程の礫をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　５㎝程のローム塊を含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。

２ピット列Ｐ１
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒・１～２㎜程の礫を多く含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒・１～２㎜程の礫をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒・１～２㎜程の礫をごくわずか含む。ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム塊をごくわずか含む。ややしまりなし。

Ｐ２
1　黒褐色土(10YR2/3)　As-C粒や１～２㎜程の礫を含む。ローム粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。ややしまりなし。

Ｐ３
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を含む。一部ややしまりなし。

Ｐ４
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒を含む。ローム土をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。

３号ピット列Ｐ１
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒・１～２㎜程の礫を含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・As-C粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。

Ｐ２
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒を含む。ローム土・ローム塊をわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム粒・３～５㎜程の礫をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒をわずか、ローム塊をごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊を含む。ローム粒をわずか含む。ややしまりなし。
6　褐色土(10YR4/4)　塊状のローム土。黒褐色土(10YR3/1)　を含む。ややしまりなし。

Ｐ３
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土・ローム粒・As-C粒を含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒・As-C粒をわずか含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒をごくわずか含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム粒をごくわずか含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム塊・ローム粒をわずか含む。

Ｐ４
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土をわずか、ローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム土を多く、ローム粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。

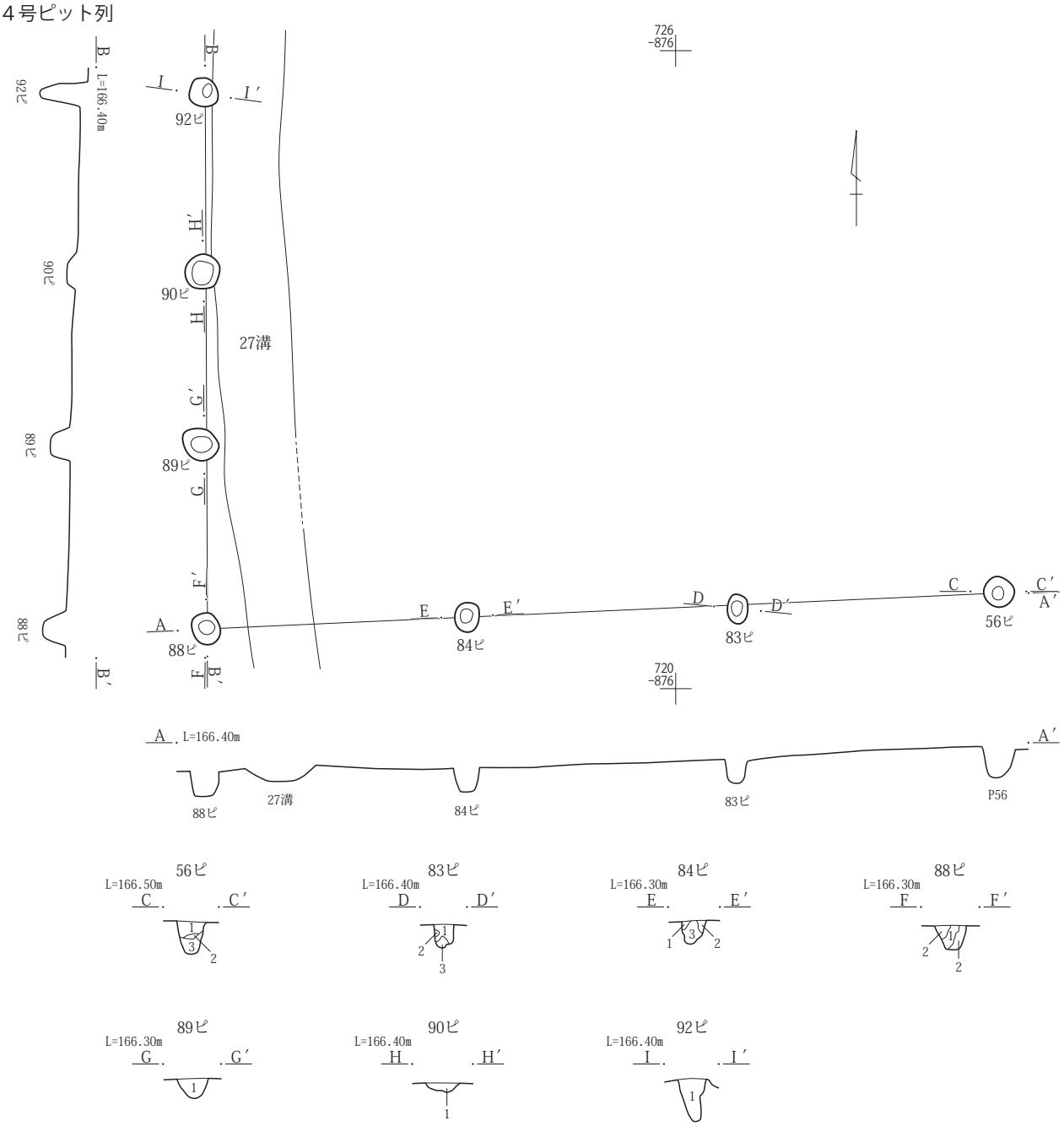
Ｐ５
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒・１～２㎜程の礫をごくわずか含む。ややしまりなし。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。ややしまりなし。
3　褐色土(10YR4/6)　ローム土。黒褐色土(10YR2/3)をわずか含む。ややしまりなし。

Ｐ６
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒・As-C粒・１～２㎜程の礫をわずか、ローム土をごくわずか含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　10～25㎜程のローム塊を含む。ローム粒・As-C粒をごくわずか含む。

0　1：80　2m

第344図　３面　Ｇ１区１～３号ピット列

４号ピット列



４号ピット列56号ピット
1　黒褐色土(10YR 2/3)　ローム塊・ローム粒をごくわずか含む。　As-C粒を含む。
2　暗褐色土(10YR 3/4)　As-C粒をごくわずか含む。
3　暗褐色土(10YR 3/4)　ローム塊を多く含む。ローム粒をごくわずか含む。As-C粒を含む。

83号ピット
1　黒褐色土(10YR 2/3)　ローム粒やAs-C粒をごくわずか含む。
2　暗褐色土(10YR 3/4)　ローム土をわずか含む。ローム粒やAs-C粒をごくわずか含む。ややしまりなし
3　暗褐色土(10YR 3/4)　ローム土を含む。ローム塊・ローム粒、As-C粒をごくわずか含む。一部ややしまりなし。

84号ピット
1　暗褐色土(10YR 3/4)　ローム土を含む　ローム粒やAs-C粒をごくわずか含む
2　暗褐色土(10YR 3/4)　ローム土を含む　ローム塊をごくわずか含むローム粒やAs-C粒をごくわずか含む　一部ややしまりなし
3　黒褐色土(10YR 2/3)　ローム粒やAs-C粒をごくわずか含む　一部ややしまりなし。

88号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量、As-C少量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-YP・ローム粒多量含む。しまりやや弱、粘性弱。

89号ピット
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒多量、As-C・ローム小～大塊少量含む。しまり弱、粘性あり。

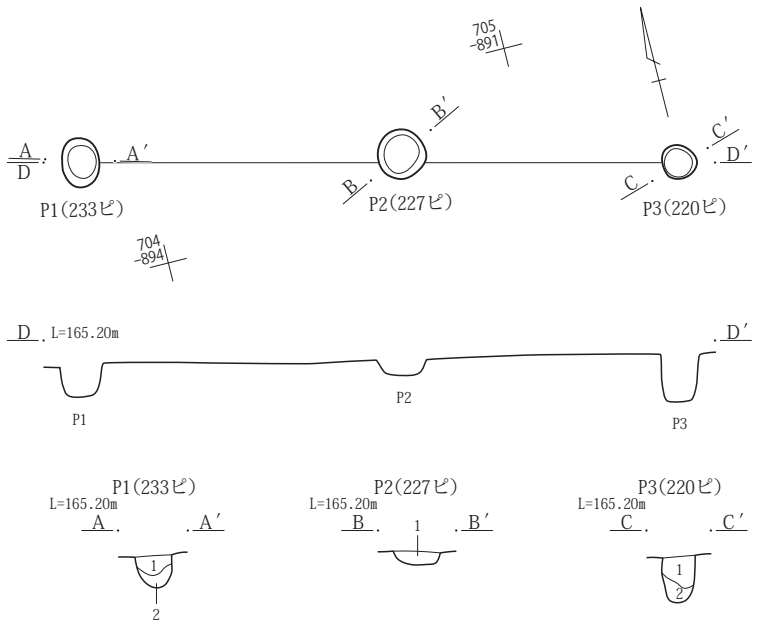
90号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量、As-C少量含む。しまり・粘性あり。

92号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量、As-C少量含む。しまり弱、粘性あり。

0　1：60　2m

第345図　３面　Ｇ２区４号ピット列

５号ピット列



５号ピット列Ｐ１(233ピ)
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒多量、As-YP少量、炭化物・焼土粒微量含む。しまり強、粘性弱。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム約１㎝塊・As-YP多量含む。しまり強、粘性弱。
Ｐ２(227ピ)
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-YP・灰白色粒多量含む。しまりやや弱、粘性あり。
Ｐ３(220ピ)
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　As-YP少量含む。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　明褐色粒少量、ローム粒を含む。しまり強、粘性あり。

0　1：60　2m

第346図　３面　Ｇ３区５号ピット列

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第723集

本郷鶴楽遺跡　－第１分冊・本文編１－

西毛広域幹線道路（高崎西工区）社会資本総合整備事業に伴う
埋　蔵　文　化　財　発　掘　調　査　報　告　書

令和５（2023）年３月15日　印刷
令和５（2023）年３月20日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話（0279）52-2511（代表）
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／上武印刷株式会社

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第723集

本郷鶴楽遺跡

西毛広域幹線道路（高崎西工区）社会資本総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

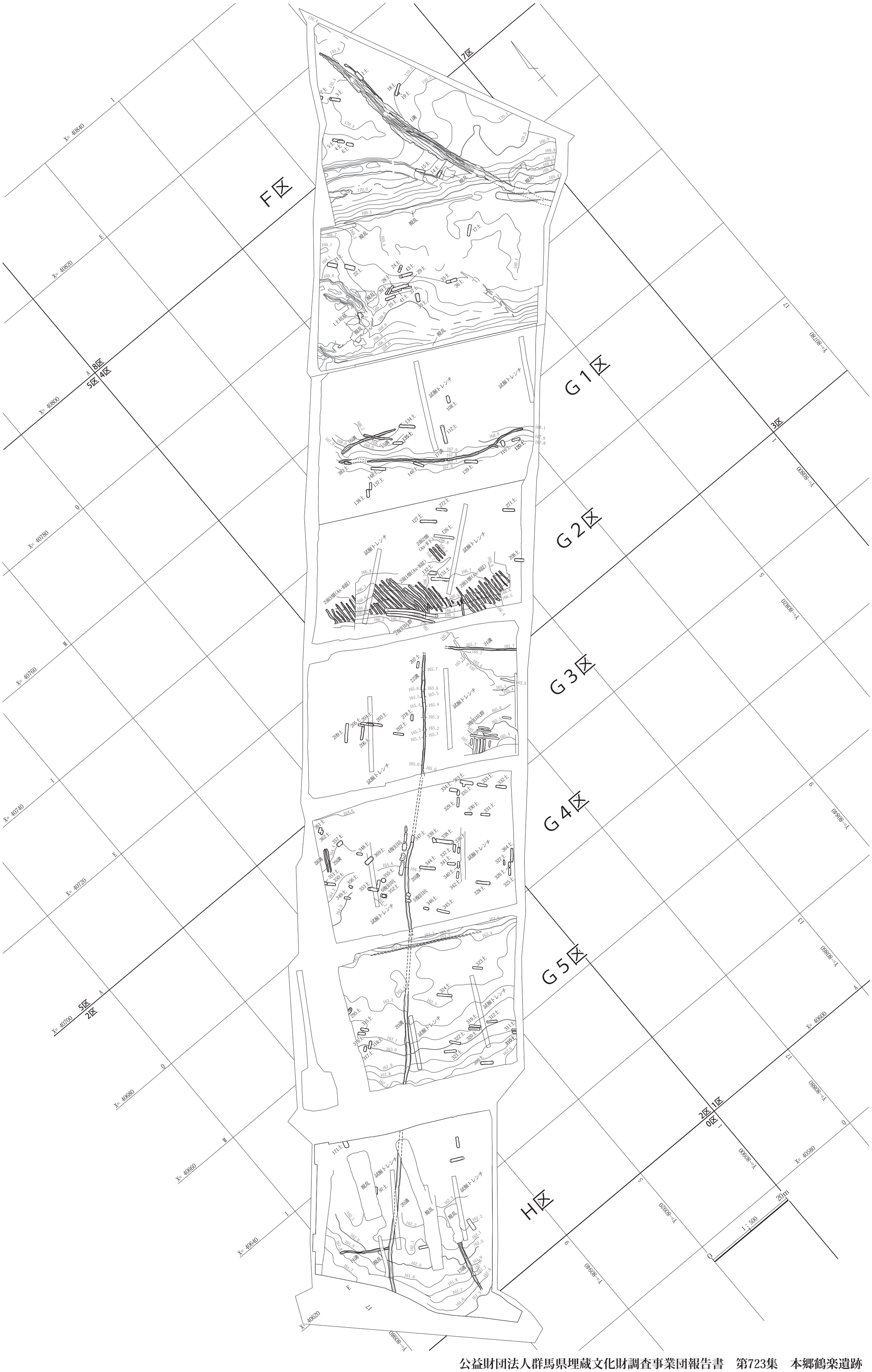
付図

1　1・2面（中近世～古代末）全体図　1/500
2　3面（古代～古墳時代）全体図　1/500
3　4面（縄文時代）全体図　1/500

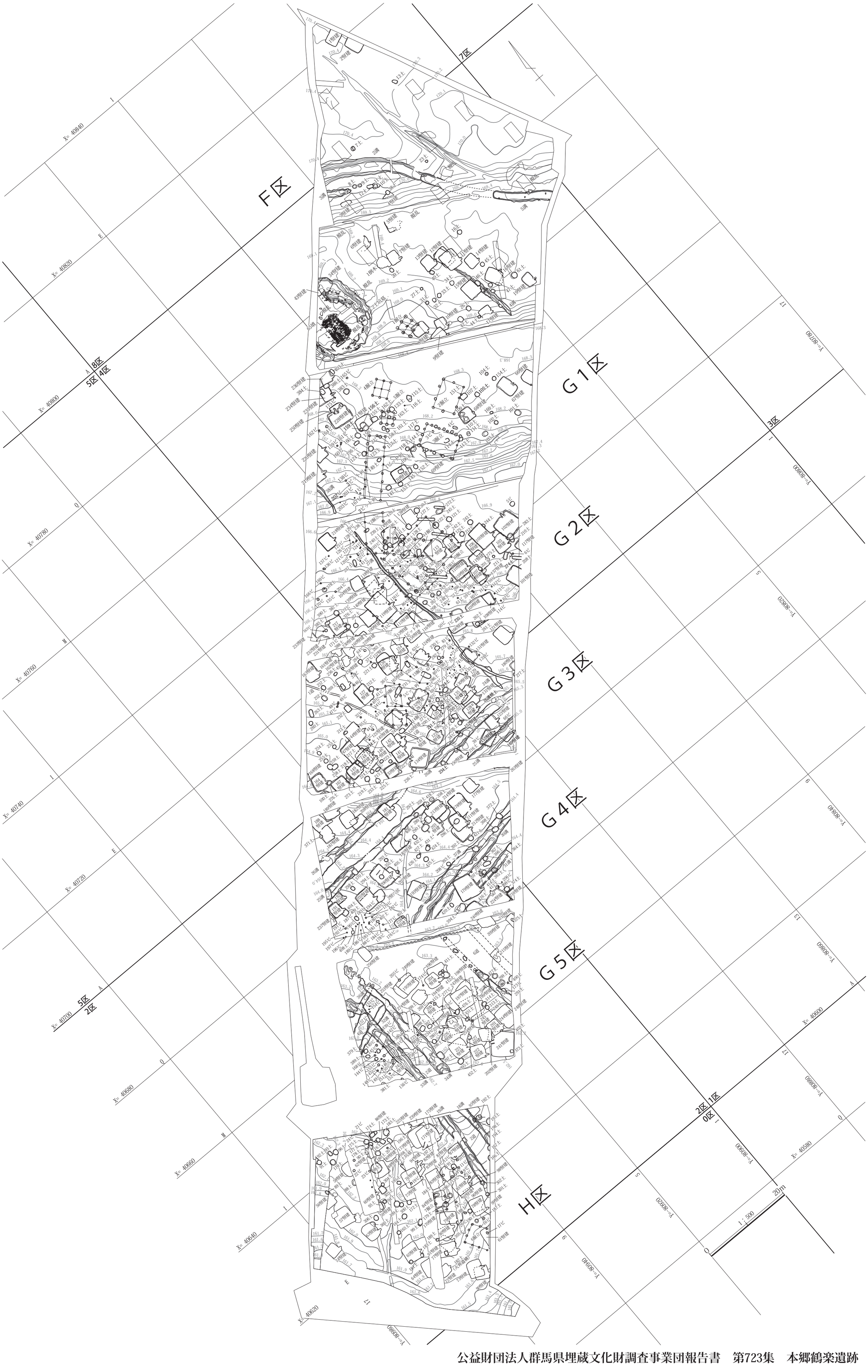
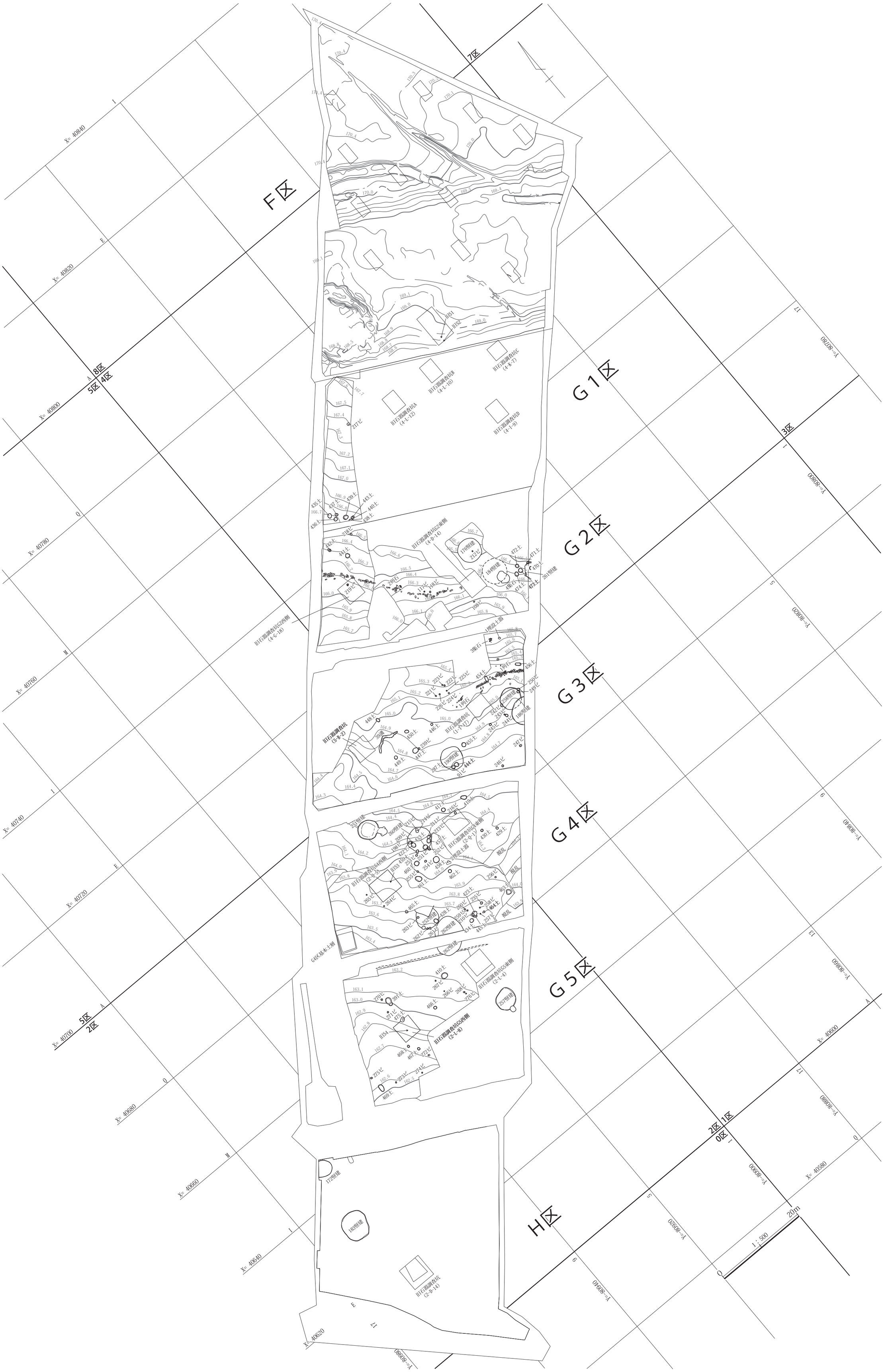
2023

群馬県高崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

付図１　１・２面（中近世～古代末）全体図　1:500


F区
G1区
G2区
G3区
G4区
G5区
H区
7区
8区
4区
5区
3区
2区
1区
0区
X= 40840
X= 40820
X= 40800
X= 40780
X= 40760
X= 40740
X= 40720
X= 40700
X= 40680
X= 40660
X= 40640
X= 40620
Y= 80780
Y= 80800
Y= 80820
Y= 80840
Y= 80860
Y= 80880
Y= 80900
Y= 80920
Y= 80940
Y= 80960
X= 40600
X= 40580
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
1:500
20m
1溝
2溝
3溝
4溝
5溝
6溝
7溝
8溝
9溝
10溝
11溝
12溝
13溝
14溝
15溝
16溝
17溝
18溝
19溝
20溝
21溝
22溝
23溝
24溝
25溝
26溝
27溝
28溝
29溝
1土坑墓
2面2畑（As-B下F）
2面3畑（As-B混）
2面4畑（As-B混）
2面5畑（As-B混）
2面6畑（As-B混）
2面7畑（As-B混）
2面8畑（As-B混）
2面9畑（As-B混）
2面10畑（As-B混）
2面11畑（As-B混）
2面12畑（As-B混）
2面13畑（As-B混）
2面14畑（As-B混）
2面15畑（As-B混）
2面16畑（As-B混）
2面17畑（As-B混）
2面18畑（As-B混）
2面19畑（As-B混）
2面20畑（As-B混）
2面21畑（As-B混）
2面22畑（As-B混）
2面23畑（As-B混）
2面24畑（As-B混）
2面25畑（As-B混）
2面26畑（As-B混）
2面27畑（As-B混）
2面28畑（As-B混）
2面29畑（As-B混）
2面30畑（As-B混）
2面31畑（As-B混）
2面32畑（As-B混）
2面33畑（As-B混）
2面34畑（As-B混）
2面35畑（As-B混）
2面36畑（As-B混）
2面37畑（As-B混）
2面38畑（As-B混）
2面39畑（As-B混）
2面40畑（As-B混）
2面41畑（As-B混）
2面42畑（As-B混）

付図２　３面（古代～古墳時代）全体図　1:500



付図３　４面（縄文時代）全体図　1:500